

IBM® DB2 Universal Database™



メッセージ・リファレンス 第 1 巻

バージョン 8.2

IBM® DB2 Universal Database™



メッセージ・リファレンス 第 1 巻

バージョン 8.2

ご注意！

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： GC09-4840-01
IBM® DB2 Universal Database™
Message Reference, Volume 1
Version 8.2

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1993 - 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

第 1 章 メッセージの概要	1
メッセージ構造	1
メッセージ・ヘルプの呼び出し	1
その他の DB2 メッセージ	3
その他のメッセージ・ソース	3
第 2 章 ADM メッセージ	5
第 3 章 AMI メッセージ	35
第 4 章 レプリケーション・メッセージ	37
第 5 章 CCA メッセージ	183
第 6 章 CLI メッセージ	193
第 7 章 DBA メッセージ	205
第 8 章 DBI メッセージ	273
第 9 章 DBT メッセージ	325
第 10 章 DB2 メッセージ	337
第 11 章 DLFM メッセージ	375
第 12 章 DQP メッセージ	395
第 13 章 DWC メッセージ	415
第 14 章 GSE メッセージ	531
第 15 章 ICC メッセージ	583
第 16 章 MQL メッセージ	607
第 17 章 SAT メッセージ	611
第 18 章 SPM メッセージ	621
第 19 章 XML Extender のメッセージ	637
付録 A. SPM プロトコル違反レコード	653
Resync プロトコル違反レコード	653
Syncpoint プロトコル違反レコード	653
XLN プロトコル違反レコード	654
付録 B. DB2 Universal Database 技術 情報	655
DB2 資料とヘルプ	655
DB2 資料の更新	655
DB2 インフォメーション・センター	656
DB2 インフォメーション・センターのインストー ル・シナリオ	658
DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 イ ンフォメーション・センターのインストール (UNIX)	660
DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 イ ンフォメーション・センターのインストール (Windows)	663
DB2 インフォメーション・センターの呼び出し	666
コンピューターまたはイントラネット・サーバーへ の DB2 インフォメーション・センターの更新イン ストール	667
DB2 インフォメーション・センターにおける特定 の言語でのトピックの表示	668
DB2 PDF 資料および印刷された資料	669
DB2 の基本情報	669
管理情報	670
アプリケーション開発情報	671
ビジネス・インテリジェンス情報	672
DB2 Connect 情報	672
入門情報	672
チュートリアル情報	673
オプション・コンポーネント情報	673
リリース・ノート	674
PDF ファイルからの DB2 資料の印刷方法	675
DB2 の印刷資料の注文方法	676
DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを 呼び出す	677
コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼 び出す	678
コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを呼 び出す	679
DB2 チュートリアル	679
DB2 トラブルシューティング情報	680
アクセス支援	681
キーボードによる入力およびナビゲーション	681
アクセスしやすい表示	682
支援テクノロジーとの互換性	682
アクセスしやすい資料	682
ドット 10 進シンタックス・ダイアグラム	683
DB2 Universal Database 製品の共通基準認証	685
付録 C. 特記事項	687
商標	689
索引	691
IBM と連絡をとる	693

製品情報 693

第 1 章 メッセージの概要

本書では、DB2 がインストールされたオペレーティング・システムの機能を理解していることが前提となっています。以下の章に記載されている情報を使用すれば、エラーや問題を識別し、適切なリカバリー処置を行って問題を解決することができます。さらに、この情報を使用すると、メッセージが生成され記録される場所を理解することができます。

メッセージ構造

メッセージ・ヘルプはメッセージの原因を説明するとともに、メッセージに対応して行う必要がある処置があれば、それを説明します。

メッセージ ID は、3 文字のメッセージ接頭部と、それに続く 4 桁または 5 桁のメッセージ番号と、それに続く 1 文字の接尾部から成り立っています。たとえば、*SQL1042C* です。メッセージ接頭部のリストについては、『メッセージ・ヘルプの呼び出し』 および 3 ページの『その他の DB2 メッセージ』を参照してください。1 文字の接尾部は、エラー・メッセージの重大度を示します。

一般に、*C* で終わるメッセージ ID は重大メッセージです。*E* で終わるものは緊急メッセージです。*N* で終わるメッセージ ID はエラー・メッセージ、*W* で終わるものは警告メッセージ、そして *I* は通知メッセージを示しています。

ADM メッセージでは、*C* で終わるメッセージ ID は重大メッセージです。*E* で終わるものは緊急メッセージです。*W* で終わるメッセージ ID は重要メッセージで、*I* は通知メッセージを示しています。

SQL メッセージでは、*N* で終わるメッセージ ID はエラー・メッセージです。*W* で終わるメッセージ ID は、警告または通知メッセージです。*C* で終わるメッセージ ID は、重大なシステム・エラーを示しています。

メッセージ・ヘルプの呼び出し

以下の DB2 メッセージは、コマンド行プロセッサからアクセスできます。

接頭部 記述

AMI	MQ Application Messaging Interface で生成されるメッセージ
ASN	DB2 レプリケーションで生成されるメッセージ
CCA	クライアント構成アシスタントで生成されるメッセージ
CLI	コール・レベル・インターフェースで生成されるメッセージ
DBA	データベース管理ツールで生成されるメッセージ
DBI	インストールおよび構成で生成されるメッセージ
DBT	データベース・ツールで生成されるメッセージ
DWC	データウェアハウス・センターで生成されるメッセージ

- DB2** コマンド行プロセッサで生成されるメッセージ
- DLFM** データ・リンク・ファイル・マネージャーで生成されるメッセージ
- DQP** Query Patroller で生成されるメッセージ
- GSE** DB2 Spatial Extender で生成されるメッセージ
- ICC** インフォメーション・カタログ・センターで生成されるメッセージ
- MLQ** MQ Listener で生成されるメッセージ
- SAT** サテライト環境で生成されるメッセージ
- SPM** 同期点マネージャーで生成されるメッセージ
- SQL** 警告やエラー状態が検出されたときにデータベース・マネージャーで生成されるメッセージ

メッセージ・ヘルプを呼び出すには、コマンド行プロセッサを開き、次のように入力します。

? XXXnnnnn

SQLSTATE 値に関連したメッセージ・テキストは、次のコマンドを実行して検索できます。

? nnnnn

または

? nn

ここで、*nnnnn* は 5 桁の SQLSTATE (英数字) のことで、*nn* は 2 桁の SQLSTATE クラス・コード (SQLSTATE 値の最初の 2 桁) です。

注: **db2** コマンドのパラメーターとして受け入れられるメッセージ ID は、大文字小文字の区別がありません。

そのため、以下のコマンドの結果は同じになります。

- ? SQL0000N
- ? sql0000
- ? SQL0000w

UNIX ベースのシステムのコマンド行でメッセージ・ヘルプを呼び出すには、次のように入力します。

db2 "? XXXnnnnn"

ここで、*XXX* は有効なメッセージ接尾部、*nnnnn* は有効なメッセージ番号を示します。

ご使用の画面に対しメッセージ・テキストが長すぎる場合は、次のコマンドを使用します (UNIX ベース・システムおよび「more」をサポートしている他のシステムの場合)。

db2 "? XXXnnnnn" | more

その他の DB2 メッセージ

DB2 コンポーネントの中には、オンラインで使用不可であるメッセージや本書で解説されていないメッセージを戻すものもあります。メッセージ接頭部の中には、以下が入っていることがあります。

ADM 多くの DB2 コンポーネントで生成されるメッセージ。これらのメッセージは管理通知ログ・ファイルに書き込まれ、システム管理者に追加情報を提供するためのものです。

注: ADM メッセージは参照用として使用可能ですが、オンラインでは利用できません。

AUD DB2 監査機能で生成されるメッセージ。

DIA 多くの DB2 コンポーネントで生成される診断メッセージ。これらのメッセージは、db2diag.log という診断ログ・ファイルに書き込まれ、ユーザーや DB2 サービス担当者がエラーを調査する際に、追加情報を提供することが目的です。

GOV DB2 管理プログラム・ユーティリティーで生成されるメッセージ。

ほとんどの場合、これらのメッセージから警告やエラーの原因を判別するのに十分な情報が得られます。メッセージを生成したコマンドやユーティリティーに関する詳細な情報は、該当するコマンドやユーティリティーに関して文書化されている適切な資料を参照してください。

その他のメッセージ・ソース

システムで他のプログラムを実行している場合は、本書で解説されていない接頭部が付いたメッセージを受け取ることがあります。

それらのメッセージについては、該当するプログラム製品の情報を参照してください。

第 2 章 ADM メッセージ

このセクションには、管理通知 (ADM) メッセージが記載されています。メッセージは番号順にリストされています。

ADM0001C 重大なエラーが発生しました。管理通知ログを検証し、必要に応じて IBM サポートに連絡してください。

ADM0500E DB2 サービスにはコマンドを完了するのに必要な権限がありません。ユーザー・アカウントが DB2 サービスに関連している場合、ユーザー・アカウントにローカル・システムでの正しいアクセス権があり、ユーザー認証およびグループ列挙のドメイン・セキュリティー・データベースにアクセスしていることを確認してください。

ADM0501C スタック・オーバーフロー例外が発生しました。DB2 インスタンスは異常終了しました。この問題を解決するには、次のように `db2hdr` ユーティリティーを使って `db2syscs.exe` のデフォルトのスタック・サイズを増やしてみてください：
`db2hdr¥sqllib¥bin ¥db2syscs.exe /s: <stackreserve>[,<stackcommit>]` デフォルトのスタック・サイズを増やすと、仮想メモリー・スペースが消費され、同時接続の最大数が減る可能性があります。さらにサポートが必要な場合には、IBM サポート担当者に連絡してください。

ADM0502C DB2 インスタンスは異常終了しました。この問題を解決するには、**AGENT_STACK_SZ** DBM 構成パラメーターを増やしてください。さらにサポートが必要な場合には、IBM サポート担当者に連絡してください。

ADM0503C 予期しない内部処理エラーが発生しました。「このインスタンスに関連するすべての DB2 処理がシャットダウンされています。」診断情報が記録されました。さらにサポートが必要な場合には、IBM サポート担当者に連絡してください。

ADM0504C 予期しない内部処理エラーが発生しました。このインスタンスに関連するすべての DB2 処理が保留されています。診断情報が記録されました。さらにサポートが必要な場合には、IBM サポート担当者に連絡してください。

ADM0505E DB2 がオペレーティング・システムから **SIGDANGER** シグナルを受信しました。このシグナルは、システムでページング・スペースが不足していることを示しています。ページング・スペースが少なくなり過ぎると、オペレーティング・システムは強制的にユーザー処理を終了します。システム管理者に連絡して、ページング・スペースを増やしてもらってください。

ADM0506I DB2 は自動的に、*parameter* カーネル・パラメーターを *originalValue* から推奨値 *recommendedValue* に更新しました。

ADM0507W DB2 は自動的に、*parameter* カーネル・パラメーターを推奨値 *recommendedValue* に更新できませんでした。手操作でこのカーネル・パラメーターを更新してください。

ADM0508E DB2 は、Java インタープリター・ライブラリー *libraryPath* をロードできませんでした。このエラーは、通常、オペレーティング・システムの制限によって発生します。ソリューションについては、IBM DB2 資料を参照してください。この問題が続く場合は、IBM サポートに連絡してください。

ADM1010I 表 *tableName* で調整が開始されました。

ADM1011I 表 *tableName* の調整は、正常に完了しました。

ADM1012W 表 *tableName* の調整が失敗しました。この表はデータ・リンク調整不可 (DRNP) 状態になります。

ADM1013W 表 *tableName* の調整は、稼働中の **Data Links Manager (DLM)** では成功し、停止されていた **DLM** ではペンディングになっています。この表はデータ・リンク調整ペンディング (DRP) 状態になります。

ADM1014E 表 *tableName* の調整が失敗しました。

ADM1022W データ・リンク列のメタデータ情報が **DB2 Data Links Manager** *serverName* がありません。

ADM1023W **Data Links Manager** *serverName* で調整処理がペンディングになっています。

ADM1024W **Data Links Manager** *serverName* で調整処理が完了しました。

ADM1500W **DB2** はログ・ファイル *filename* を見つけられません。

ADM1510W ログ・ファイル *fileName* にアクセス中、ファイル共用違反が発生しました。別の処理でこのファイルが使用されている可能性があります。**DB2** は後でこのファイルの削除を試行します。

ADM1511W ログ・ファイル *filename* の削除中に、エラー *error* が発生しました。**DB2** は後でこのファイルの削除を試行します。

ADM1512E ログ・ファイル *filename* の削除中に、エラー *error* が発生しました。ユーザーは、手動でこのファイルを削除する必要があります。

ADM1513W ログ・ファイル *fileName* は削除されています。

ADM1514W ログ・ファイル *fileName* は、もはや存在しません。

ADM1530E クラッシュ・リカバリーが開始されました。

ADM1531E クラッシュ・リカバリーが正常に完了しました。

ADM1532E クラッシュ・リカバリーが失敗しました。**SQLCODE** *SQLCODE*。

ADM1533W データベースがリカバリーされました。ただし、1 つ以上の表スペースがオフラインになっています。

ADM1540W 認証 ID *auth_id* で実行しているアプリケーション・ハンドル *appl_handle* およびアプリケーション ID *appl_id* によるアプリケーション *appl_name* が、ログ・スペースをさらに使用しているため、データベース構成パラメーター **MAX_LOG** (現行値 *MAX_LOG_value*) が使用できます。**COMMIT**、**ROLLBACK** または **FORCE APPLICATION** を実行して、このアプリケーションを終了してください。

ADM1541W 認証 ID *auth_id* で実行しているアプリケーション・ハンドル *appl_handle* およびアプリケーション ID *appl_id* によるアプリケーション *appl_name* が、データベース構成パラメーター **NUM_LOG_SPAN** に違反している (現行値 *NUM_LOG_SPAN_value*) ため、データベースへの接続を強制的に切断されました。作業単位はロールバックされます。

ADM1542W 認証 ID *auth_id* で実行しているアプリケーション・ハンドル *appl_handle* およびアプリケーション ID *appl_id* によるアプリケーション *appl_name* が、データベース構成パラメーター **MAX_LOG** に違反している (現行値 *MAX_LOG_value*) ため、データベースへの接続を強制的に切断されます。作業単位はロールバックされます。

ADM1550W アクティブ・ログ・スペースが **LOGPRIMARY DB** 構成パラメーターを超えています。ログ・ファイルをアーカイブから検索する必要がある場合、**ROLLBACK** に時間がかかる可能性があります。

ADM1551W DB2 は、アーカイブからアクティブ・ログ・ファイル *fileName* を検索しています。これにより、遅延が生じる可能性があります。

ADM1552E DB2 は、アクティブ・ログ・ファイル *filename* をオープンできません。この原因として、ログ・ファイルをアーカイブから検索する際に起きた問題が考えられます。DB2 は、5 分おきに再試行します。

ADM1600W メモリー不足のため並列リカバリーを使用可能にできませんが、リカバリーは進行中です。今後のリカバリーでは、*blockSize* で、DBHEAP または UTIL_HEAP_SZ 構成パラメーターを増やしてください。

ADM1601W データベースに対してロールフォワードの他の要求が出されました。ただし、現行のロールフォワードの呼び出しでは、前回の呼び出しのようにログまでは読み取りを行っていません。LSN *LSN* のログ・レコードが含まれたログ・ファイルは、データベース LOGPATH または OVERFLOW LOG PATH にありませんでした。すべてのログ・ファイルがデータベースの LOGPATH または OVERFLOW LOG PATH で使用可能であることを確認し、ROLLFORWARD コマンドを再発行してください。データベースは、ロールフォワード・ペンディング状態のままです。

ADM1602W ロールフォワード・リカバリーが開始されました。

ADM1603I DB2 はデータベース・ロールフォワード・リカバリーの順方向フェーズを呼び出しています。

ADM1604I DB2 は表スペース・ロールフォワード・リカバリーの順方向フェーズを呼び出しています。

ADM1605I DB2 はデータベース・ロールフォワード・リカバリーの逆方向フェーズを呼び出しています。

ADM1606I DB2 は表スペース・ロールフォワード・リカバリーの逆方向フェーズを呼び出しています。

ADM1607I DB2 はデータベース・ロールフォワード・リカバリーの完了フェーズを呼び出しています。

ADM1608I DB2 は表スペース・ロールフォワード・リカバリーの完了フェーズを呼び出しています。

ADM1609W DB2 はデータベース・ロールフォワード・リカバリーを取り消しています。

ADM1610W DB2 は表スペース・ロールフォワード・リカバリーを取り消しています。

ADM1611W ロールフォワード・リカバリー・フェーズが完了しました。

ADM1612W データベース・アクティビティーの量が多いため、オンライン表スペース・ロールフォワード・リカバリーを完了できませんでした。データベース・アクティビティーを減らすか、MAXAPPLS 構成パラメーターを増やすか、オフラインで表スペースのロールフォワードを実行してください。

ADM1613W 表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) は、以前に *timestampRFWD* で、*timestampPIT* に、ロールフォワードされました。

ADM1614W 表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) は、リストア・ペンディング状態になりました。残りの表スペースは、ログの終わりまでロールフォワードされました。

ADM1615W 表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) はまだアクティブ・トランザクションによって使用されているため、**DB2** はこの表スペースをロールフォワードできません。アプリケーション・ハンドルは *appHandle* です。
COMMIT、**ROLLBACK**、または **FORCE APPLICATION** によりこのアプリケーションを終了してください。

ADM1616E **DB2** はリカバリー中、**ID** *tablespaceID* を持つ、指定されたドロップ表に一致する、ドロップ表のログ・レコードを検出できませんでした。

ADM1617W 最後のロールフォワードに含まれていた表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) は、まだ完了していません。この表スペースは、このロールフォワードに指定された表スペース・リストに含まれていませんでした。この表スペースはリストア・ペンディング状態になりました。

ADM1618W データベースのロールフォワード中、**DB2** は表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) をリカバリーできません。表スペースは、ロールフォワード・ペンディング状態に置かれています。回復するには、データベースのロールフォワードが完了した後に、表スペースのロールフォワードを実行してください。

ADM1619W ロールフォワードは、ここで停止できません。ログ・ファイル *logFilename* の **LSN** *rollforwardLSN* にロールフォワードします。

ADM1700W **DB2** はバックアップ・イメージによって指定されたログ・パスを使用できません。デフォルト・パスに切り替えます。

ADM1701W **LOGRETAIN DB** 構成パラメーターが **CAPTURE** に設定されているため、**USEREXIT DB** 構成パラメーターを使用可能にできません。

ADM1800E **DB2** は、ログ *logNumber* が古いログ・パスでアーカイブされたことを確認できませんでした。データベースを確実にリカバリーできるように、データベースのバックアップを取ってください。

ADM1801W **DB2** は、ロー・デバイス上の **2GB** を超えるファイル・ストレージにアクセスできませんでした。そのため、ロギングには **2GB** のファイル・ストレージだけが使用されます。

ADM1802W ロー・デバイスを使ってロギングしている間に **LOGFILSIZ DB** 構成パラメーターが変更されたため、データベースはオフライン・バックアップ・ペンディング状態に置かれました。

ADM1803W ロー・デバイス *path* にログ・ファイルのための十分なスペースが残っていません。実際のデバイス・サイズは *actualDevice* **4K** ページです。デバイスの最小必須サイズは *minimumDevice* **4K** ページです。

ADM1804W ロー・デバイスが小さ過ぎるため、アクティブ・ログ・スペースをサポートできません。 *actualDeviceSize* **4K** ページが使用可能ですが、 *minimumDeviceSize* **4K** ページが必要です。もっと大きなデバイスを使用するか、**LOGPRIMARY** と **LOGFILSIZ DB** 構成パラメーター、またはそのいずれかを減らしてください。

ADM1805E ロー・デバイスがすでに他の場所でログまたは表スペース・コンテナーとして使用されているため、**DB2** は **NEWLOGPATH DB** 構成パラメーターを使用できません。

ADM1806E **NEWLOGPATH DB** 構成パラメーター *newLogPath* を使用できないため、**DB2** は現在のログ・パスの使用を継続します。

ADM1807E **NEWLOGPATH** と **MIRRORLOGPATH** の新しい **DB** 構成パラメーター値が同じですが、これは許可されません。この 2 つのパラメーターには必ず異なる値を指定してください。

ADM1810E **MIRRORLOGPATH DB** 構成パラメータの新しい値は無効であるか、使用できません。**DB2** はこの新しい値を無視します。新しいパスの値が有効であることを確認してください。

ADM1811E **DB2** はデフォルトのログ・パス *logpath* に切り替えます。

ADM1812E **MIRRORPATH DB** 構成パラメータ *newMirrorPath* の新しい値は使用できません。**DB2** は、既存のミラー・パス *defaultMirrorPath* の使用を継続します。

ADM1813E 現在のミラー・パス *currentMirrorPath* は無効です。

ADM1814E 現在のログ・パス *currentLogPath* は無効です。

ADM1815E **DB2** が *logFilePath* からログ・ファイルを削除しようとしているときにエラーが発生しました。

ADM1817E **DB2** は、データベース *DBName* の *dirPath* からログ・ファイル *logFilename* をアーカイブしているときに、ユーザー出口プログラムを実行できませんでした。エラー・コードは *returnCode*。ユーザー出口プログラムを手動で実行して、検査してください。

ADM1818E ユーザー出口プログラムからエラーを受け取りました。**DB2** は、5 分間このデータベースに対してユーザー出口プログラムを呼び出しません。

ADM1819C 古いログをロー・デバイス上でアーカイブ中にエラーが発生したため、**DB2** は新しいログ・ファイル・サイズに切り替えられませんでした。その結果、このデータベースにアクセスできません。

ADM1820W **USEREXIT** を使用可能にする場合、**DB** 構成パラメータ **LOGRETAIN** を **CAPTURE** に設定してさらに **USEREXIT** をオンにすることはできません。このため、**USEREXIT** が使用不可になっています。

ADM1821E ログ・パスはデフォルト値にリセットされました。

ADM1822W アクティブ・ログがダーティー・ページによって保留されています。これはエラーではありませんが、データベース・パフォーマンスに影響する可能性があります。可能であれば、データベースの作業ロードを減らしてください。この問題が続く場合は、**SOFTMAX** を減らして **NUM_IOCLEANERS DB** 構成パラメータを増やすか、そのいずれかを実行してください。

ADM1823E アクティブ・ログがフルになっており、アプリケーション・ハンドル *handle* によって保留されています。**COMMIT**、**ROLLBACK** または **FORCE APPLICATION** を実行して、このアプリケーションを終了してください。

ADM1824W **DB2** は、ログ・ファイル *filename* を削除できません。ユーザーは、手動でこのログ・ファイルを削除する必要があります。

ADM1825W ユーザー出口の問題のため、**DB2** は次のログ・ファイルを作成できません。

ADM1826E ロギング用に使用しているディスクがいっぱいのため、**DB2** は継続できません。

ADM1827E ロギング用のスペースがロー・デバイスに残っていません。ユーザーは、データベースのオフライン・バックアップを作成する必要があります。

ADM1828C **DB2** は、5 分後にこのログ・ファイルの作成を試行します。

ADM1829E アクティブ・ログがフルになっており、未確定トランザクションによって保留されています。 **LIST INDOUBT TRANSACTION WITH PROMPTING** コマンドを使用して、未確定トランザクションを解決してください。

ADM1830E アクティブ・ログ・パスはデフォルト値に設定されています。

ADM1831E ログ・ファイル *logFilename* をデータベース *DBName* の *dirPath* に検索しているときに、**DB2** はユーザー出口プログラムを実行できませんでした。エラー・コードは *returnCode*。ユーザー出口プログラムを手動で実行して、検査してください。

ADM1832E **DB2** は、データベース *DBName* の *dirPath* からログ・ファイル *logFilename* をアーカイブしているときに、ユーザー出口プログラムを検出できませんでした。エラー・コードは *returnCode*。

ADM1833E データベース *DBName* の *dirPath* から *logFilename* をアーカイブしているときに、ユーザー出口プログラムがエラーを戻しました。エラー・コードは *returnCode*。

ADM1834E データベース *DBName* の *dirPath* にログ・ファイル *logFilename* を検索しているときに、**DB2** はユーザー出口プログラムを検出できませんでした。エラー・コードは *returnCode*。

ADM1835E ログ・ファイル *logFilename* をデータベース *DBName* の *dirPath* に検索しているときに、ユーザー出口プログラムがエラーを戻しました。エラー・コードは *returnCode*。

ADM1836W *tablespaceName* (**ID** *tablespaceName*) にある表 *tableID* (**ID** *tableID*) は、データ・リンク調整ペンディング (**DRP**) 状態です。

ADM1837W *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) 上の表 *tableName* (**ID** *tableID*) はデータ・リンク調整不可 (**DRNP**) 状態です。

ADM1838W アプリケーションは、未確定トランザクションによって掛けられたロックを待機中です。これにより、アプリケーションは無限に待機します。 **LIST INDOUBT TRANSACTION** コマンドを使って未確定トランザクションを調査し、解決してください。

ADM1839W **DB2** がパス *logPath1* にあるログ・ファイル *logFile* にログ・データを書き込み中に、エラーが発生しました。このログ・ファイルは、まだログ・パス *logPath2* にあります。**DB2** は、この後のログ・ファイルについて、両方のパスの使用を試行します。その間に、エラーが発生した、指定されたログ・パスをチェックして、それが存在しており、アクセス可能であることを確認してください。また、ファイル・システムに使用可能なスペースがあることもチェックしてください。

ADM1840W ログ・パス *logPath* のエラーは解決されました。**DB2** は、このパスにログ・ファイルを書き込みます。

ADM1841W **DB2** は、ログ *logNumber* のアーカイブを試行中、このログを見つけられませんでした。リカバリー中にこの欠落しているログ・ファイルが必要な場合は、既存のリカバリー・ストラテジーが機能しない可能性があります。このデータベースがリカバリー可能であることを確認するために、データベースのバックアップが必要です。ただし、**First Active Log file (LOGHEAD) DB** 構成パラメーターの後に取られたバックアップは現在、上記に指定されたログを超えています。ここで、**First Active Log file (LOGHEAD)** を上に移動するためにデータベースを非アクティブ化して、バックアップを取ることができます。

ADM2000E イベント・モニター *eventMonitor* は入力エラーを検出したため、非活動化されました。

ADM2001W **MAXFILES** と **MAXFILESIZE CREATE EVENT MONITOR** パラメーターの限度に達したため、イベント・モニター *eventMonitor* は非活動化されました。

ADM2002E ターゲット・パイプからの読み取り処理が切断されたときに、イベント・モニター *eventMonitor* は非活動化されました。

ADM2003W アクティブ・モニターの数の限度にすでに達しているため、イベント・モニター *eventMonitor* はアクティブ化されませんでした。

ADM2004E データベース・モニター・ヒープに十分なストレージ・スペースがなかったため、イベント・モニター *eventMonitor* は活動化されませんでした。この問題を解決するには、**MON_HEAP_SZ DBM** 構成パラメーターを増やし、インスタンスを再始動してください。

ADM2005W データベース・モニター・ヒープが使い尽くされています。**MON_HEAP_SZ DBM** 構成パラメーターを増やし、インスタンスを再始動してください。

ADM2006W データベース・モニター・ヒープが使い尽くされています。ステートメント・エレメントを信頼できない可能性があります。**MON_HEAP_SZ DBM** 構成パラメーターを増やし、インスタンスを再始動してください。

ADM2007W **PCTDEACTIVE** 限度に達したため、イベント・モニターは非活動化されました。イベント・モニターを再度活動化するには、表スペースのサイズを増やすか、**PCTDEACTIVE** しきい値を増やしてください。

ADM2009C イベント・モニター *eventMonitor* が表 *tableName* (**ID tableID**) で、列名 *colName* が無効であることを検出しました。

ADM2010C イベント・モニター *eventMonitor* が表 *tableName* (**ID tableID**) で、列 *colName* が許可されないことを検出しました。

ADM2011C イベント・モニター *eventMonitor* が表 *tableName* (**ID tableID**) で、列 *colName* が無効な *dataType* データ・タイプを持っていることを検出しました。

ADM2012C 表 *tableName* (**ID tableID**) で、行サイズがページ・サイズよりも大きくなっています。

ADM2013C イベント・モニター *eventMonitor* が表 *tableName* (**ID tableID**) で、列 *colName* が誤りであることを検出しました。1 列目は、**PARTITION_KEY** でなければなりません。

ADM2014W イベント・モニター *eventMonitor* が、表 *tableName* (**ID tableID**) で、列 *colName* のサイズがデフォルト・サイズの *defaultColumnSize* よりも小さいことを検出しました。そのため、内容はユーザーの指定したサイズで切り捨てられます。

ADM2015W リモート・ターゲット・ノードから受け取った **SQLCODE** は、*SQLCODE* です。

ADM2016W 表 *tableName* (**ID tableID**) が見つかりません。

ADM2500E データベース・サーバー
DRDAApplicationServer で重大なエラーが発生し、これにより処理の継続が不可能になりました。ダンプが生成されています。リモート・サーバーが **DB2 UDB for OS/390, zOS** の場合は、コンソール・ログにこのエラーに関する情報がないか確認してください。リモート・サーバーが **DB2 UDB for iSeries** の場合は、通常、エラーを判別するためには、サーバー・ジョブのジョブ・ログまたは **FFDC (First Failure Data Capture)** スプール・ファイル、あるいはその両方が必要です。リモート・サーバーが **DB2 UDB for Unix/Windows** の場合は、リモート・データベース・サーバーの管理ログをチェックして、このエラーに関連した情報がないか確認してください。

ADM2501C データベース・サーバーでデータ・タイプについて受信したデータの量が、予想されていた量と一致しませんでした。ダンプが生成されています。リモート・サーバーが **DB2 UDB for OS/390, zOS** の場合は、コンソール・ログにこのエラーに関する情報がないか確認してください。リモート・サーバーが **DB2 UDB for iSeries** の場合は、通常、エラーを判別するためには、サーバー・ジョブのジョブ・ログまたは **FFDC (First Failure Data Capture)** スプール・ファイル、あるいはその両方が必要です。リモート・サーバーが **DB2 UDB for Unix/Windows** の場合は、リモート・データベース・サーバーの管理ログをチェックして、このエラーに関連した情報がないか確認してください。

ADM2502C リモート・データベース・サーバーがエラーを検出しました。リモート・サーバーが **DB2 UDB for OS/390, zOS** の場合は、コンソール・ログにこのエラーに関する情報がないか確認してください。リモート・サーバーが **DB2 UDB for iSeries** の場合は、通常、エラーを判別するためには、サーバー・ジョブのジョブ・ログまたは **FFDC (First Failure Data Capture)** スプール・ファイル、あるいはその両方が必要です。リモート・サーバーが **DB2 UDB for Unix/Windows** の場合は、リモート・データベース・サーバーの管理ログをチェックして、このエラーに関連した情報がないか確認してください。

ADM2503C データ・ストリーム構文解析エラーが検出されました。ダンプが生成されています。

ADM2504C **LOB** データ・タイプは、このデータベース・サーバーではサポートされていません。**APAR** 修正が必要です。このデータベース・サーバーが **DB2 for OS/390 v6** および **v7** の場合は、**APAR** の修正 **PQ50016** と **PQ50017** を適用してください。データベース・サーバーが **DB2 for iSeries** の場合は、**V5.1** よりも前のリリースはサポートされていません。**DB2 for iSeries v5.1** の場合、**APAR 9A00531** の **PTF** を適用する必要があります。データベース・サーバーが **DB2 for VM** および **VSE** の場合は、**IBM** お客様サポートまでご連絡ください。

ADM2505E **DB2** がシスプレックス・サポートの使用を試行中、**SNA** アドレス *SNAAddress* にあるデータベース・サーバーへの接続を確立できませんでした。これは、不明の **cpic** シンボリック宛先名 *destName* が原因です。**SNA** 構成をチェックして、ネットワーク・サポート担当者に確認するか、**DB2 Connect** サーバーでシスプレックスのサポートを使用不可にしてください。

ADM2506W アプリケーションが据え置き SET ステートメントの発行を試行中、サーバーが非ゼロ **sqlcode** を戻しました。 **sqlcode** は **SQLCODE**。ご使用のアプリケーションをチェックし、据え置き SET ステートメントを確認してください。

ADM2507I 製品シングニチャーの違反のために、クライアント転送は失敗しました。 オリジナル製品のシングニチャー: *product signature*。以下の製品シングニチャーでやり直してください。 *product signature*。

ADM2508I クライアント転送は正常に完了しました。ホスト名/IP アドレスは以下のとおりです。 *hostname/IP address*。また、サービス名/ポート番号は以下のとおりです。 *service name/port number*。

ADM2509I データベース接続は正常に完了しました。接続先のホスト名/IP アドレスは以下のとおりです。 *hostname/IP address*。また、サービス名/ポート番号は以下のとおりです。 *service name/port number*。

ADM3000C **db2nodes.cfg** ファイルの *lineNumber* 行目にあるネットワーク・ホスト項目 *networkHostEntry* を解決できません。

ADM3001C **DB2** は、中間ソケット・ディレクトリ *socketDirectory* を作成できません。このパスの許可をチェックしてください。

ADM3003C ノード *node* は **FCM** が始動されたときには存在していましたが、現在は **db2nodes.cfg** に存在しません。これは、通信障害を示している可能性があります。

ADM3006C ノード *node* への接続の確立を試行中に、再試行限度に達しました。 **DB2** は、ノード・リカバリーを開始します。

ADM3008C ノード *node* との接続が、予期せずに切断されました。 **DB2** は、ノード・リカバリーを開始します。

ADM3019C ノード *node1* とノード *node2* との間のリンクが壊れています。 ご使用のスイッチとケーブルをチェックしてください。

ADM3020C **FCM** バッファの数が小さすぎます。これは、**DB2** エージェント間の通信に影響を与え、ランタイム・エラーを引き起こします。 このメッセージが何度も表示される場合は、**FCM_NUM_BUFFERS DBM** 構成パラメーターを調整してください。

ADM3021W このノードで **VI** が使用可能になっていません。

ADM3500W データベース・パーティション上のグループ **ID** は一致しません。パーティション・データベースでは、各パーティションごとに同一の一連のユーザーとグループが定義されていなければなりません。定義が同じでないと、パーティションが異なれば異なるアクションを実行する許可がユーザーに与えられる可能性があります。すべてのパーティションを通して一貫性のあるユーザーとグループの定義をお勧めします。

ADM4000W カタログ・キャッシュのオーバーフロー条件が発生しました。エラーではありませんが、これはカタログ・キャッシュが構成されている最大サイズを超えていることを示しています。この状態が続く場合は、**CATALOGCACHE_SZ DB** 構成パラメーターを調整してください。

ADM4001I ビュー *viewName* の再生成中に障害が発生しました。

ADM4002W イベント・モニターのターゲット表 *targetTableName* (表スキーマ *tableSchema*) はすでに存在します。

ADM4500W パッケージ・キャッシュのオーバーフロー条件が発生しました。エラーではありませんが、これはパッケージ・キャッシュが構成されている最大サイズを超えていることを示しています。この状態が続く場合は、**PCKCACHESZ DB** 構成パラメーターを調整してください。

ADM5500W DB2 は、ロック・エスカレーションを実行しています。現在保留されているロックの合計数は *locksHeld* で、保留するロックのターゲット数は *targetNumber* です。

ADM5501I DB2 は、ロック・エスカレーションを実行しています。現在保留されているロックの合計数は *locksHeld* で、保留するロックのターゲット数は *targetNumber* です。現在実行されているステートメントは *currentStatement* です。

ADM5502W ロック・インテント *lockIntent* に対する、表 *tableName* での *numLocks* ロックのエスカレーションは成功しました。

ADM5503E ロック・インテント *lockIntent* に対する、表 *tableName* での *numLocks* ロックのエスカレーションは失敗しました。
SQLCODE は *SQLCODE*。

ADM5510E 表スペース *tableSpace* (**ID** *tableSpace*) がいっぱいです。この表スペースの内部オブジェクト表には、これ以上スペースがありません。

ADM5511E 表 *tableName* のオブジェクト *object* が、可能な最大サイズに達しました。

ADM5520E この移行パスはサポートされていません。

ADM5521C 表 *tableName* は欠落しているか、または切り捨てられ、移行されませんでした。データベースの移行は継続されますが、この表はアクセス不能になります。

ADM5530W **NOT LOGGED INITIALLY** を使用した表 *tableName* の **COMMIT** 処理が開始されています。この表の表スペースのバックアップを取ることをお勧めします。

ADM5540W 表 *tablename* の *count* 個の索引の索引再ビルドを開始しています。

ADM5541W 表 *tablename* の **ID** *value* を使った索引を再ビルドしています。

ADM5542W 表 *tablename* の索引の索引再ビルドは正常に完了しました。

ADM5543E 表 *tablename* の索引の索引再ビルドは失敗しました。**SQLCODE** は *SQLCODE*。

ADM5550C 表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) が、ロールフォワード・セットから除去されています。**SQLCODE** は *SQLCODE*。

ADM5560C データ表スペース *dataTablespaceName* (**ID** *dataTablespaceID*) と長形式表スペース *LongTablespaceName* (**ID** *dataTablespaceID*) の両方が一緒にロールフォワードされていないかぎり、**DB2** は表の再編成を再実行できません。この両方の表スペースが一緒にロールフォワードされていることを確認するか、再編成の再実行が必要ないように、再編成後に取られたバックアップ・イメージをリストアしてください。

ADM5561C データ表スペース *dataTablespaceName* (**ID** *dataTablespaceID*) と長形式表スペース *longTablespaceName* (**ID** *dataTablespaceID*) の両方が同じポイント・イン・タイムにないかぎり、**DB2** は表の再編成を再実行できません。両方の表スペースのバックアップが、表の再編成より前のものである(そのため、再実行できる)か、表編成の後のもの(そのため、再実行が必要ない)であることを確認してください。

ADM5562C データ表スペース *dataTablespaceName* (**ID** *dataTablespaceID*) と索引表スペース *indexTablespaceName* (**ID** *dataTablespaceID*) が一緒にロールフォワードされていないかぎり、**DB2** は表のインプレース再編成を取り消しません。両方の表スペースが一緒にロールフォワードされていることを確認してください。

ADM5570W 使用不可の表 *tableName* にアクセスしようとした。この表はドロップする必要があります。

ADM5571W DB2 は、表 *tableName* のマーキング・オブジェクト *object* を使用不可にしています。この表は、ドロップする必要があります。

ADM5572I 表 *tableName* の索引は無効とマーク付けされており、再ビルドが必要です。DB2 は自動的にこの表の索引を再ビルドします。その結果、再ビルド中、およびこの再ビルドの行われる作業単位中は、超排他 Z 表ロックが掛けられます。

ADM5580W 表スペース ID *tablespaceID* は存在していないか、リカバリー中の表スペースのセットにありません。リカバリーは継続されますが、この表スペース、またはこの表スペースにある表/オブジェクトのフィルター操作は無視されます。

ADM5581W DB2 は、ID *tablespaceID*、オブジェクト ID *object-ID* を持つ表スペースを正常にフィルター操作しました。

ADM5582C 表スペース ID *tablespaceID*、object ID *objectID* をフィルター操作しようとして、内部エラー *error* が発生しました。

ADM5583W 1 つの Data Links Manager に割り当てられている合計時間の 16.7 時間を超えました。

ADM5590E SQLCODE -2219 理由コード *reasonCode* のため、*tableName* に対する、指定された INPLACE 表の再編成アクションはこのノードでは実行できません。

ADM6001I パスの名前変更構成ファイル *configFile* に定義された規則を基に、コンテナが名前変更されました。コンテナ *oldName* は、*newName* に名前変更されました。

ADM6002E 無効な長さのコンテナ・パスが指定されました。指定されたパスは *containerName* でした。文書を参照して、SQLCODE -297 を確認してください。

ADM6003I コンテナは、パスの名前変更構成ファイル *configFile* に定義されている規則による影響を受けなかったため、名前変更されませんでした。名前は、*contname* のままです。

ADM6004I DB2_AWE レジストリー変数の解析中にエラーが発生しました。バッファ・プール *bpID*、物理サイズ *physicalSize*、およびウィンドウ・サイズ *windowSize* が正であること、および数値だけが含まれていることを確認してください。

ADM6005I バッファ・プール *bpID* が現在アクティブでないため、このバッファ・プール用に AWE を使用可能にすることができません。このバッファ・プール用に AWE を使用可能にするには、現在このバッファ・プールが存在している必要があります。SQL ステートメント 'select bufferpoolid from syscat.bufferpools' を発行することによって、既存のバッファ・プール ID を照会することができます。データベース・パーティションが複数個存在する場合は、バッファ・プールが現在のパーティションに存在していなければなりません。

ADM6012W DB2_HI_PRI_PREFETCH_AUTHID と DB2_LO_PRI_PREFETCH_AUTHID レジストリー変数 *maxAuthIds* の両方に指定できる許可 ID の結合最大数を超えました。このレジストリー変数の片方または両方から許可 ID を除去して、この許可 ID の指定数より多い数が指定されていないようにしてください。加えた変更は、インスタンスの再始動までは有効化されません。

ADM6013W **DB2_HI_PRI_PREFETCH_AUTHID** と **DB2_LO_PR_PREFETCH_AUTHID** レジストリー変数の片方または両方で許可 ID *authId* が複数回指定されました。その結果、この許可 ID に最高優先順位が選択されました。この動作が望ましくなければ、レジストリー変数内で重複した許可 ID が決して生じないように、レジストリー変数を適切に設定する必要があります。加えた変更は、インスタンスの再始動までは有効化されません。

ADM6014W **EXTENDED STORAGE** がデータベースで使用可能になっていますが、それを使用するバッファー・プールが構成されていません。**EXTENDED STORAGE** 用のメモリーは、割り振られません。将来、それを使用するようにバッファー・プールを構成する可能性がある場合は、このメッセージを無視するようお勧めします。**EXTENDED STORAGE** は、**NUM_ESTORE_SEGS** データベース構成パラメーターを変更することにより、使用不可にできます。

ADM6015W データベースに対して **EXTENDED STORAGE** は使用不可になっていますが、1 つ以上のバッファー・プールがそれを使用するよう構成されています。**EXTENDED STORAGE** を将来使用可能にする可能性がある場合は、このメッセージを無視するようお勧めします。**EXTENDED STORAGE** は、**NUM_ESTORE_SEGS** データベース・パラメーターを変更することにより、使用可能にできます。

ADM6016W **EXTENDED STORAGE** はデータベースに対して使用可能になっていますが、このプラットフォームではサポートされていません。これらの設定は無視され、**EXTENDED STORAGE** 用のメモリーは割り振られません。**EXTENDED STORAGE** は、**NUM_ESTORE_SEGS** データベース構成パラメーターを変更することにより、使用不可にできます。

ADM6017E 表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) がいっぱいです。コンテナ *contPath* (ID *containerID*) で検出されました。基のファイル・システムがいっぱいであるか、このファイル・システムに許可されている最大スペース使用量に達しました。また、最大ファイル・サイズに関連するユーザー限度があって、その限度に達している可能性もあります。

ADM6018I *directory-path* でファイル・システムをアンマウントします。

ADM6019E バッファー・プール *bpname* (ID *bpid*) のすべてのページが使用中です。文書を参照して、**SQLCODE -1218** を確認してください。

ADM6020I マウントされているファイル・システムを *contPath* で使用するために残します。

ADM6021I 複数ページのファイルの割り振りは、現在は使用できません。使用不可にしても、効果はありません。

ADM6022W 一時表の非同期ドロップが失敗しました。この表と関連したリソースは、次回データベースが始動されるまで解放されません。この理由により、データベースを再始動することをお勧めします。また、**IBM** お客様サポートに連絡して、この障害の理由を判別することをお勧めします。

ADM6023I 表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) は、状態 **0xtablespaceState** です。この表スペースにアクセスできません。文書を参照して、**SQLCODE -290** を確認してください。

ADM6024C 未解決の **WRITE SUSPEND** の結果として、表スペースをオンラインにできないため、データベースを再始動できません。データベースを再始動するには、**RESTART DATABASE** コマンドに **WRITE RESUME** を指定してください。

ADM6025I 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) は、状態 **Oxstate** です。 *operation* は不可能です。 文書を参照して、**SQLCODE -290** を確認してください。

ADM6026W 現行のトランザクションは、失敗が許可されない作業を行おうとしています。ただし、この作業は、**AWE** ウィンドウ領域がいっぱいであるために、完了することができません。さらにフリー・ページを検出しようとはしますが、将来、この状態はバッファ・プール *bpname* (**ID** *bpid*) のウィンドウ領域を増やすことで回避できるようになります。

ADM6027E **AWE** 初期化障害のため、**AWE** はバッファ・プール *bpname* (**ID** *bpid*) に使用されていません。**AWE** がオペレーティング・システム上で、**DB2** で使用するために正しく構成されていることを確認してください。

ADM6028W レジストリー変数設定 *regvarstr* は、メモリ不足条件により、このレジストリー変数設定の処理が許可されなかったため無視されました。

ADM6029W 指定された設定が無効だったため、レジストリー変数設定 (*regvarstr*) は無視されました。

ADM6030W **DB2_AWE** (*regvarstr*) のレジストリー変数設定が無効なため、**AWE** はバッファ・プール **ID** *bpid* に使用されていません。レジストリー変数に指定されたこのバッファ・プールまたはそのサイズのパラメーターが無効です。

ADM6031W **EXTENDED STORAGE** は、バッファ・プール *bpname* (**ID** *bpid*) で使用するように構成されましたが、**AWE** がデータベースで使用可能になっているため、この構成は無視されます。**EXTENDED STORAGE** を使用不可にし、このバッファ・プールを使用しないよう構成してください。

ADM6032W ブロック・ベースになるよう構成されているバッファ・プール *bpname* (**ID** *bpid*) は、指定されたバッファ・プールに対して **AWE** が使用されているため、ブロック・ベースになりません。

ADM6033E **AWE** の初期化に失敗しました。**AWE** 設定は無視されます。**AWE** がオペレーティング・システム上で、**DB2** で使用するために正しく構成されていることを確認してください。バッファ・プールは、カタログに定義されているサイズを使用します。

ADM6034W **EXTENDED STORAGE** は、バッファ・プール *bpname* (**ID** *bpid*) で使用するように構成されましたが、**DB2_OVERRIDE_BPF** レジストリー変数が設定されているため、この構成は無視されます。このレジストリー変数は、**IBM** サポートの指示の下でのみ使用します。

ADM6035W レジストリー変数 **DB2NTNOCACHE** が設定されていないため、散在データ読み取りを使用できませんでした。**DB2NTNOCACHE** レジストリー変数を設定して、散在データ読み取りを使用可能にしてください。

ADM6036W **EXTENDED STORAGE** が複数のページ・サイズに使用されています。パフォーマンスが最適でない可能性があります。**EXTENDED STORAGE** の使用については、**DB2** の資料を参照してください。

ADM6037W コンテナ *path* は、サイズが *userBytes* **KB** のデバイス上に、サイズが *userBytes* **KB** になるように作成されました。余分なストレージが無駄になります。**ALTER TABLESPACE** を使用して、無駄になったスペースを使用するようにコンテナを拡張することができます。

ADM6038E コンテナ *path* は表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) に存在しないため、このコンテナに対して操作を実行できません。文書を参照して、**SQLCODE -298** を確認してください。

ADM6039E 表スペース *tsname* (ID *tsid*) に対して、無効なストライプ・セット *sset* が **ALTER TABLESPACE** に指定されました。表スペースの最大ストライプ・セットは *maxsset* です。

ADM6040E コンテナ *contpath* に無効なコンテナ・サイズが指定されました。使用するよう指定されたページ数が大き過ぎます。文書を参照して、**SQLCODE -1422** を確認してください。

ADM6041E **REGULAR** または **USER TEMPORARY** 表スペースのサイズは *maxPages* ページを超えられないため、表スペース *tsname* (ID *tsid*) に対する操作が失敗しました。文書を参照して、**SQLCODE -1139** を確認してください。

ADM6042E **LONG** または **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースのサイズは **2 TB** を超えられないため、表スペース *tsname* (ID *tsid*) に対する操作が失敗しました。

ADM6043W レジストリー変数 **DB2_NO_MPFA_FOR_NEW_DB** は、無効値 (*regVarVal*) に設定されています。その結果、新たに作成したデータベースでは、複数ページのファイル割り振りが使用可能になります。それが所定通りの結果でなければ、**DB2_NO_MPFA_FOR_NEW_DB** レジストリー変数を **YES** に設定して、データベースを再作成してください。新たに作成したすべてのデータベースで複数ページ・ファイルの割り振りを使用不可にするには、**DB2_NO_MPFA_FOR_NEW_DB** レジストリー変数を **YES** に設定します。

ADM6044E **DMS** 表スペース *tsname* (ID *tsid*) がいっぱいです。新規コンテナを追加するか、**ALTER TABLESPACE SQL** ステートメントを使って既存のコンテナを変更することにより、表スペースにさらにスペースを追加することができます。

ADM6045I **WRITE RESUME** オプションが発行されたため、**WRITE_SUSPEND** 状態が表スペース *tsname* (ID *tsstate*) から除去されました。

ADM6046I 複数のファイルの割り振りは、すでに使用可能になっています。再度使用可能にしても、効果はありません。

ADM6047W 表スペース *tsname* (ID *tsid*) は **DROP_PENDING** 状態です。表スペースは、**OFFLINE** 状態になります。表スペース状態は、**0xstate** です。この表スペースは使用できないので、ドロップしてください。

ADM6048I 表スペース *tsname* (ID *tsid*) は以前は **OFFLINE** でしたが、**ONLINE** になりました。表スペース状態は、**0xstate** です。

ADM6049E 1 つ以上の表スペースをオンラインにできないため、データベースを再始動できません。データベースを再始動するには、"**DROP PENDING TABLESPACES**" オプションを **RESTART DATABASE** コマンドに指定してください。警告! 表スペースをドロップ・ペンディング状態にすると、その表スペースへはアクセスできなくなります。その後その表スペースが存在する間ずっと、その表スペースの内容はアクセス不能となり、その表スペースに許可される唯一の操作は、"**DROP TABLESPACE**" だけとなります。この表スペースを元の状態に戻す方法はありません。このアクションの結果、データが失われる可能性があるということをよく考える必要があります。処理を実行する前に、**DB2** 資料を参照し、必要であれば **IBM** お客様サポートまで連絡してください。 **DROP PENDING TABLESPACES** リストに指定する表スペースは次の通りです: *tsnames*。

ADM6050W	バッファー・プール <i>bpname</i> (ID <i>bpid</i>) に対する ALTER BUFFERPOOL ステートメントは成功しましたが、メモリー不足のため即時実行することはできませんでした。この変更は、次回データベースを始動したときに有効になります。文書を参照して、 SQLCODE 20189 を確認してください。	ADM6056I	プリフェッチ・キュー・フルを検出しました。この結果、プリフェッチ要求はキューに入らず、パフォーマンスは最適にはなりません。プリフェッチャー構成パラメーター (NUM_IOSERVERS 、 PREFETCHSIZE) と各表スペースのコンテナの数の指定を検討してください。
ADM6051E	RESTART DATABASE (クラッシュ・リカバリー) 中に、 REORG 障害が発生しました。関連した表が DROP_PENDING 状態の表スペースにあるため、索引の再作成は失敗します。この障害を回避するには、 INDEXREC データベース構成パラメーターを " ACCESS " に設定して、 RESTART DATABASE が完了するまで、索引の再作成を遅らせてください。	ADM6057I	プリフェッチ・キュー・フルを検出しました。エージェントはキューでスペースが解放されるのを待機するため、パフォーマンスは最適になりません。プリフェッチャー構成パラメーター (NUM_IOSERVERS 、 PREFETCHSIZE) と各表スペースのコンテナの数の指定を検討してください。
ADM6052E	ALTER TABLESPACE のコンテナ <i>conpath</i> に対して無効なサイズが指定されました。使用するよう指定されたページ数が小さ過ぎます。文書を参照して、 SQLCODE -1422 を確認してください。	ADM6058I	表スペース <i>tsname</i> (ID <i>tsid</i>) の再平衡化が開始されました。
ADM6053W	データベース共有メモリーに十分な空きメモリーがないため、バッファー・プール <i>bpname</i> (ID <i>bpid</i>) に対する CREATE BUFFERPOOL ステートメントは、即時実行できませんでした。このバッファー・プールは、次回データベースを再始動したときに作成されます。文書を参照して、 SQLCODE 20189 を確認してください。	ADM6059I	表スペース <i>tsname</i> (ID <i>tsid</i>) の再平衡化が再始動されました。
ADM6054I	DB2DART は、現在アクセス不能な表スペース <i>tsname</i> (ID <i>tsid</i>) を検出しました。 DB2DART は診断ユーティリティーなので、この表スペースに対する操作を継続します。	ADM6060I	表スペース <i>tsname</i> (ID <i>tsid</i>) に対して再平衡化ユーティリティーは正常に開始されましたが、メモリー不足の状態のためにこのユーティリティーの実行をスロットルする機能は使用できなくなっています。インスタンスを再始動すると、このメモリーの問題が解決される可能性があり、スロットルが使用できるようになります。
ADM6055I	ページ <i>pagenum</i> が表スペース <i>tsname</i> (ID <i>tsid</i>) から要求されましたが、この表スペースで現在進行中の再平衡化によりまだスペースが使用可能になっていないため、このページはまだ使用できません。要求者は、このページが使用可能になるまで待機します。	ADM6061I	表スペース <i>tsname</i> (ID <i>tsid</i>) の再平衡化が停止されます。この再平衡化によって最後に移動されたエクステン트는、 <i>lastext</i> でした。
		ADM6062I	表スペース <i>tsname</i> (ID <i>tsid</i>) の再平衡化が完了しました。
		ADM6063I	表スペース <i>tsname</i> (ID <i>tsid</i>) の再平衡化が休止されました。
		ADM6064I	ロールフォワードは、表スペース <i>tsname</i> (ID <i>tsid</i>) の再平衡化が完了するのを待機しています。

ADM6065I **OFFLINE** 状態を表スペース *tsname* (ID *tsid*) から除去しようとしたますが、この表スペースはオフラインではありませんでした。このコマンドは無視されます。表スペース状態は、**0xtsstate** です。

ADM6066I **OFFLINE** 状態を表スペース *tsname* (ID *tsid*) から除去しようとしたますが、このアクションが失敗したため、表スペースはこの状態のままになります。表スペース状態は、**0xtsstate** です。文書を参照して、**SQLCODE -293** を確認してください。

ADM6067W バッファースペース ID *bpid* に対して指定された **AWE** *win/phys* サイズは、最小の許可可能サイズに達していません。サイズは、最小許可可能サイズである *newsiz*e に引き上げられました。

ADM6068I バッファースペース *bpname* (ID *bpid*) は **AWE** を使用しています。物理サイズは *physize* です。ウィンドウ・サイズは *windowSize* です。

ADM6069W バッファースペース *bpname* (ID *bpid*) は、**NUMBLOCKPAGES** 値 *oldNumBlockPages* を持っていますが、この値はこのサイズのバッファースペースでサポートされている最大値を超えています。このバッファースペースの現在の活動化について、バッファースペースの **NUMBLOCKPAGES** 値は、*newNumBlockPages* に引き下げられました。 **NUMBLOCKPAGES** の値を永久に変更するには、**ALTER BUFFERPOOL SQL** ステートメントを使用します。

ADM6070W バッファースペース *bpname* (ID *bpid*) は、**NUMBLOCKPAGES** 値 *numBlockPages* を持っています。この値は、**NUMBLOCKPAGES** に対して許可されている最小値 (**BLOCKSIZE** *blockSize*) に達していません。その結果、このバッファースペースは現在の活動化については、ブロック・ペースになりません。 **NUMBLOCKPAGES** の値を永久に変更するには、**ALTER BUFFERPOOL SQL** ステートメントを使用します。

ADM6071I バッファースペース *bpname* (ID *bpid*) で、並行して許可される最大ピン・ページ数に達しました。その結果、パフォーマンスが最適にならない可能性があります。 **SORTHEAP** データベース構成パラメーターを増やすことにより、今後この状態が発生する可能性を減らすことができます。

ADM6072W バッファースペース *bpname* (ID *bpid*) から一時ページを書き出しているときに、ディスクがいっぱいの状態を検出しました。必要なページがすべてディスクに書き込まれるまで、バッファースペースのサイズを小さくすることはできません。管理通知ログのこの前のメッセージに、ディスクがいっぱいの状態に関する詳細情報がないか確認してください。 **DB2** は、ディスクがいっぱいの状態が解決されるまで、引き続きディスクへのこのページの書き込みを再試行します。

ADM6073W 表スペース *tsname* (ID *tsid*) は、バッファースペース ID *ondiskBP* を使用するよう構成されていますが、このバッファースペースは現在アクティブ化されていません。一時的に、表スペースはバッファースペース ID *RTBP* を使用します。非アクティブのバッファースペースは、必要なメモリーが使用可能であれば、次回データベースを始動したときに使用可能になるはずですが。

ADM6074I 表スペース *tsname* (ID *tsid*) を **WRITE_SUSPEND** 状態にしようとしたますが、この表スペースはすでに **WRITE_SUSPEND** 状態です。

ADM6075W 表スペース *tsname* (ID *tsid*) は、**WRITE_SUSPEND** 状態になりました。この表スペースのすべての入出力は、**WRITE RESUME** が発行されるまで中断されます。

ADM6076W 表スペース *tsname* (ID *tsid*) は以前に **WRITE_SUSPEND** 状態でしたが、現在はその状態ではありません。この表スペースへの書き込み入出力は再開されました。

ADM6077I 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) を **WRITE_SUSPEND** 状態から除去しようとしたが、この表スペースは **WRITE_SUSPEND** 状態ではありませんでした。この場合、**WRITE RESUME** を指定しても何の効果もありません。

ADM6078W 次の表スペースは、**DROP_PENDING** 状態にするよう **RESTART DATABASE** コマンドに指定されました: *tsnames*。

ADM6079E 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) は **ROLLFORWARD_IN_PROGRESS** 状態でしたが、アクセスできなくなりました。この表スペースはオフラインにされて、**RESTORE_PENDING** 状態に置かれました。

ADM6080E 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) は、**OFFLINE** にされ、**ROLLFORWARD_PENDING** 状態です。表スペース状態は、**0x*tsstate*** です。

ADM6081W 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) は **OFFLINE** 状態で、アクセスできません。表スペース状態は、**0x*tsstate*** です。文書を参照して、**SQLCODE -293** を確認してください。

ADM6082W 現行のトランザクションは、失敗が許可されない作業を行おうとしています。ただし、この作業は、バッファ・プールに使用可能なフリー・ページがないために完了することができません。さらにフリー・ページを検出しようとはしますが、将来、この状態はバッファ・プール *bpname* (**ID** *bpid*) のサイズを増やすことで回避できるようになります。

ADM6083E 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) に対する表スペース変更操作の再実行中にエラーが発生しました。このエラーはトランザクションの余りをやり直す間、一時的に無視されます。変更操作が最終的にロールバックすると、エラーは廃棄されます。ただし、操作がコミットされると、このエラーは戻され、表スペースに対するリカバリーを停止します。

ADM6084E 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) に対する変更操作をコミットしようとしたが、直前のエラーによって、この試みを行うことができませんでした。リカバリーを再試行する前に、オリジナルのエラーを解決してください。

ADM6085I バッファ・プール・ハッシュ・バケットのサイズ変更中に、メモリー不足状態が発生しました。この状態の結果、パフォーマンスが最適にならない可能性があります。データベースをシャットダウンして再始動してください。バッファ・プールを、最適のサイズのハッシュ表によって開始することができます。

ADM6086W 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) に対して、ファントム静止状態の取得およびリセットを行おうとしたが、コマンドから正常に戻っても、この状態が変わりませんでした。現行ユーザーの許可 **ID** が、静止プログラムの許可 **ID** に一致しません。これらは、ファントム静止プログラムを正常に取得し、リセットするためには同一でなければなりません。表スペースのスナップショットを取って正しい静止プログラムの許可 **ID** を決定し、その **ID** を使用して **quiesce reset** コマンドをやり直してください。

ADM6087I 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) の静止状態をリセットしようとしたが、表スペースが現在静止状態ではありません。

ADM6088W メモリー不足状態のため、現行エージェントは表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) をモニターすることができません。その結果、モニター出力を信頼できない可能性があります。 **DBHEAP** 構成パラメーターを増やして、この問題が将来発生しないようにしてください。

ADM6089I 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) に対して再平衡化ユーティリティは正常に開始されましたが、メモリー不足の状態のために進捗モニター・サービスは使用できなくなっています。インスタンスを再始動すると、このメモリー問題が解決される可能性があります。進捗モニター・サービスが使用可能になることがあります。

ADM6500W データ・リンク・ファイル・サーバー *fileServer* の接続が失敗しました。サーバーは、ブロックされています。

ADM6501W データ・リンク・ファイル・サーバー *fileServer* の接続が再始動に失敗しました。

ADM6502W データ・リンク・ファイル・サーバー *fileServer* の接続が失敗しました。

ADM6510W データ・リンク・ファイル・サーバー *fileServer* は、登録されていません。

ADM6511W データ・リンク・ファイル・サーバー *fileServer* はアクティブではありません。

ADM6512W **DB2** は、データ・リンク構成ファイルから読み取れません。

ADM6513W **DB2** は、データ・リンク構成ファイル *fileName* を作成できません。

ADM6514W **DB2** がデータ・リンク構成ファイルに書き込み中、エラーが発生しました。

ADM6515W **DB2** がデータ・リンク構成ファイルをクローズ中、エラーが発生しました。

ADM6516W **DB2** は、データ・リンク構成ファイル *fileName* をオープンできません。

ADM6517W 既存の **Data Links Manager** (*typeOfServers*) と異なるタイプの **Data Links Manager** に追加しようとしたか、または 2 つ目の **DFS Data Links Manager** を追加しようとした。1 つのデータベースの **Data Links Manager** はすべて同じタイプでなければならず、また **DFS** のタイプの 1 つの **Data Links Manager** しか追加できません。

ADM7000W 無効な **SEARCH** ディスカバリー・プロトコル *fileName* が **DISCOVER_COMM** レジストリー変数に指定されました。

ADM7001E **DB2** 関数 **sqlinstancepath** が失敗しました。インスタンス・パスは設定されませんでした。UNIX をご使用の場合は、**DB2INSTANCE** レジストリー変数をチェックしてください。Windows をご使用の場合は、**DB2INSTANCE**、**DB2PATH**、および **DB2INSTPROF** レジストリー変数をチェックしてください。

ADM7004E 無効値 (*value*) が **DB2COMM** レジストリー変数に指定されました。

ADM7005W **DISCOVER** モードが **SEARCH** に設定されました。ただし、**DISCOVER_COMM** レジストリー変数は、どのプロトコルでも構成されていません。

ADM7006E **SVCENAME DBM** 構成パラメーターが構成されていません。**TCP/IP** サービス・ファイルに定義されているサービス名を使って、**SVCENAME** 構成パラメーターを更新してください。

ADM7007E **SVCENAME DBM** 構成パラメーター *socketAddress* は、ポートまたはサービス名で構成されていません。サービス名で構成されている場合は、サービス名をポート番号にマップするために **TCP/IP** サービス・ファイルが使用されます。このフィールドに指定されたポートは、別の処理で使用されています。ポートを使用している処理を削除するか、別のポートを使って、この問題を解決してください。

ADM7008W **DB2TCPCONNMGRS** レジストリー可変値 *userValue* は無効です。有効値は 1 から 8 です。デフォルト **DB2TCPCONNMGRS** 値の *defaultValue* が使用されます。

ADM7009E *protocolTCPIP* プロトコル・サポートでエラーが検出されました。原因として、エージェントの最大数を越えたことが考えられます。

ADM7011E 同期点マネージャーは、このマシンにインストールされている **Microsoft SNA** サーバーのバージョンをサポートしていません。最小要件は、**Microsoft SNA** サーバー **V4 Service Pack 3** です。

ADM7500W インスタンスの静止が要求されました。

ADM7501W インスタンスの静止が正常に完了しました。

ADM7502E インスタンスの静止が失敗しました。**SQLCODE** は *SQLCODE* です。

ADM7503W インスタンスの非静止要求は正常に完了しました。

ADM7504W インスタンスの非静止が要求されました。

ADM7505E インスタンスの非静止要求が失敗しました。**SQLCODE** は *SQLCODE* です。

ADM7506W データベースの静止が要求されました。

ADM7507W データベースの静止要求が正常に完了しました。

ADM7508E データベースの静止要求が失敗しました。**SQLCODE** は *SQLCODE* です。

ADM7509W データベースの非静止要求が正常に完了しました。

ADM7510W データベースの非静止が要求されました。

ADM7511E データベースの非静止要求が失敗しました。**SQLCODE** は *SQLCODE* です。

ADM7512E トランザクションの再同期エラーが発生しました。**IBM** お客様サポートに連絡してください。

ADM7513W データベース・マネージャーが開始されました。

ADM7514W データベース・マネージャーが停止されました。

ADM7515W ディレクトリー・キャッシング・サポートなしでコンセントレーターが使用可能にされていますが、この結果、パフォーマンスが悪くなる可能性があります。この問題を訂正するには、データベース・マネージャー構成でディレクトリー・キャッシングを使用可能にしてください。

説明: ディレクトリー・キャッシングは比較的オーバーヘッドの低い機能であり、エンジンにおいてデフォルトで使用可能になります。ユーザーがこの機能を使用不可にする必要のある理由はあまりありません。特にコンセントレーター構成でディレクトリー・キャッシングをオフにすることは要注意です。これは、コンセントレーターのボトルネックであるディスクパッチャー処理は、新しい接続が行われる度にディスクに行く必要がある可能性があるためです。

ユーザーの処置: ディレクトリー・キャッシングを使用可能にするか、非コンセントレーター構成で実行してください。

ADM7516W **MAX_CONNECTIONS** 構成パラメーターが *maxConnectionsValue* に設定されていますが、ハードウェア制限により、最大 *actualValue* の接続数がサポートされません。**NUM_DB** データベース構成パラメーターを減らすことにより、この限界を増やすことができます。

説明: 非スレッド型 (UNIX) プラットフォームでは、コンセントレーターのスケラビリティは、個々の処理に使用可能なファイル記述子の最大数によって束縛されています。別のオペレーティング・システムでは、このパラメーターでさまざまなレベルの柔軟性が許可されており、それにより各オペレーティング・システムは、サポートされる最大接続数について異なる物理限界を持ちます。定義されている範囲の **MAX_CONNECTIONS** (1..64000) がサポートされますが、サポートされない場合は、実行時にデフォルト値が使用されます。

さらに、**NUM_DB** DB 構成パラメーターはファイル記述子の割り振り方法に影響を与えます。この構成パラメーターを減らすと、ファイル記述子が解放され、それによりサポート可能な接続数に対する制限が増えます。

ユーザーの処置: 可能な場合、**NUM_DB** DB 構成パラメーターを下げ、接続数に対する物理限界を増やしてください。まだ警告が表示される場合は、警告に指定されている物理限度に対する **MAX_CONNECTIONS** パ

ラメーターを下げてください。

ADM7517W コンセントレーターが使用可能になっている場合、データベース *databaseName* における、1 つのアプリケーション・グループ当たりの最大アプリケーション数は、*maxApp* に制限されます。この問題を訂正するには、**APPGROUP_MEM_SZ** 構成パラメーターの値を減らしてください。

ADM7518C *dbName* は、不正とマークされています。

ADM7519W DB2 は、エージェントを割り振れませんでした。SQLCODE は *SQLCODE* です。

ADM7520E ノード *nodeNum* で、アンマウントされたファイル・システムのマウントが失敗しました。移行の前に、手動で再マウントする必要があります。 *errorFile* をチェックして、移行を再試行する前にファイル・システムを再マウントしてください。

ADM7521E ノード *nodeNum* で、マウントされたファイル・システムのアンマウントが失敗しました。アンマウントされているファイル・システムを再マウントして、データベースの移行を再試行してください。

ADM7522E ノード *nodeNum* で、アンマウントされているファイル・システムを新しいマウント・ポイントに再マウントしようとして失敗しました。データベースの移行を再始動する必要があります。

ADM7523E DB2 は、アプリケーション・グループ・メモリー・セットを割り振れませんでした。これにより、データベースの活動化が失敗します。**APPGROUP_MEM_SZ** DB 構成パラメーターを減らし、再試行してください。

ADM8000C バックアップが終了しました。戻された SQLCODE は *SQLCODE* です。

ADM8001W TRACKMOD DB 構成パラメーターが使用可能になっていないため、このデータベースでは増分バックアップが使用可能になっていません。

ADM8002W このバックアップと関連したログがロー・デバイス上で上書きされているため、このバックアップ・イメージをロールフォワードに使用できません。もっと新しいバックアップ・イメージを使用してください。

ADM8003C リストアが終了しました。戻された SQLCODE は *SQLCODE* です。

ADM8004W TRACKMOD 構成パラメーターが使用可能になっていないため、増分バックアップは、この表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) に対して使用可能になっていません。

ADM8005W 増分バックアップは表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) に対して使用可能になっていませんでした。この表スペースの非増分バックアップが必要です。

ADM8006W DB2 は、指定されたリストア・バッファ・サイズ *restoreBufferSize* 4K ページを使用できません。リストア・バッファ・サイズは、バックアップ・バッファ・サイズ *backupBufferSize* 4K ページの倍数でなければなりません。リストア操作は、デフォルトのバッファ・サイズを使って継続されます。

ADM8007W DB2 は、複数の同時増分リストアを実行できません。

ADM8008W DB2 は、リストア中にすべての表スペースのオンライン再編成状態ファイルの検索または削除、あるいはそのいずれかを実行できませんでした。このファイルを除去するには、手操作による介入が必要かもしれません。

ADM8009W リストア中に、表スペース *tableName* (**ID** *tablespaceID*) のオンライン再編成状態ファイルを検索または削除、あるいはその両方を実行できませんでした。このファイルを除去するには、手操作による介入が必要かもしれません。

ADM8010E バックアップ処理において、要求されたログ・ファイル *logfileName* を、バックアップ・イメージに含めるためにコピーできませんでした。バックアップは異常終了しました。

ADM8500W データ破壊の可能性があるため、**DB2** は履歴ファイルからの読み取りに失敗しました。このファイルが存在しており、破壊されていないことを確認してください。

ADM8501W ディスクがいっぱいのため、**DB2** は履歴ファイルへの書き込みに失敗しました。

ADM8502W 履歴ファイルは破壊されています。このファイルで、リカバリー不能エラーが検出されました。既存ファイルは削除され、バックアップが作成されました。この問題の原因を判別したい場合は、**IBM** お客様サポートまで連絡してください。それ以外の場合は、これ以上のアクションは必要ありません。

ADM8503W **DB2** は操作 *operation* の履歴項目を記録できませんでした。

ADM9000W ソートのマージ中に、プリフェッチは使用不可にされました。パフォーマンスは最適でない可能性があります。このメッセージが繰り返し表示される場合は、**TEMPORARY** 表スペース *tableName* (**ID** *tablespaceID*) のバッファー・プール・サイズを増やすか、ソート・スピルのエクステントを減らすために **SORTHEAP DB** 構成パラメーターの値を増やしてください。

ADM9500W オンライン索引作成/再編成中に、表 *tableName* (**ID** *tableID*) と表スペース *tableName* (**ID** *tablespaceID*) で発生した並行更新の数が多過ぎます。そのため、オンライン索引作成/再編成を完了するためにより長い時間がかかります。**UTIL_HEAP_SZ DB** 構成パラメーターを増加してみてください。

ADM9501W 表 *tableName* (**ID** *tableID*) と表スペース *tableName* (**ID** *tablespaceID*) に対するオンライン索引の再編成を開始します。

ADM9502W 表 *tableName* (**ID** *tableID*) と表スペース *tableName* (**ID** *tablespaceID*) に対するオンライン索引再編成を終了します。

ADM9503W 表 *tableName* (**ID** *tableID*) と表スペース *tableName* (**ID** *tablespaceID*) の索引 **ID** *indexID* に対するオンライン索引再編成を先行します。

ADM9504W このノードにおける、表 *tableName* (**ID** *tableID*) と表スペース *tableName* (**ID** *tablespaceID*) に対するオンライン索引再編成は失敗しました。**SQLCODE** *SQLCODE*、理由コード *reasonCode*。この問題を解決するには、失敗したノードで **REORG INDEXES** コマンドを再サブミットしてください。

ADM9505W 索引が再ビルドするようマークされているため、表 *tableName* (**ID** *tableID*) と表スペース *tableName* (**ID** *tablespaceID*) に対するオンライン索引再編成はオフライン・モードに切り替えられました。これらの索引は、索引の作成や再作成をロールフォワード中に、再ビルドするようマークされた可能性があります。その場合は、**INDEXREC** データベース・マネージャー構成パラメーターを **RESTART** に設定してみてください。これにより、ロールフォワード中に再ビルドするようマークされている索引は、**RESTART DATABASE** 処理中に再ビルドされます。

ADM9506W HADR は使用可能ですが、表スペース *tablespace-name* (表スペース ID: *tablespace-id*) 内の表 *table-name* (表オブジェクト ID: *object-id*) に対する索引の作成、再作成、または再編成でのフル・ロギングは使用不可になっています。ユーザーがその使用不可を明示的に要求したからです。したがって、この表で索引ビルド操作を行っても、HADR を使用する 2 次データベース・サーバー上でそれがただちにリカバリーされることはありません。HADR のテークオーバー・プロセスの終了時点か、または HADR テークオーバーの後で基礎を成す表へのアクセス時点に、2 次データベース・サーバー上の索引は暗黙で再作成されます。これが所定通りの動作でなければ、索引の作成、再作成、または REORG の実行の前に、表でのフル・ロギングを使用可能にしてください。

ADM9507W HADR を使用可能にする場合は、HADR の 1 次および 2 次の両方のデータベース・サーバーで、データベース構成パラメーター **LOGINDEXBUILD** をオンに設定するようお勧めします。そうしないと、現在または将来の HADR 1 次データベース・サーバーでの索引の作成、再作成、または再編成をログ記録できなくなる可能性があります。HADR を使用する 2 次データベース・サーバーでは、1 次データベース・サーバーで完全にはログ記録されていない索引の作成、再作成、または再編成はリカバリーされなくなります。リカバリーできない索引には無効のマークが付けられ、HADR のテークオーバー・プロセスの終了時点か、または HADR テークオーバーの後で基礎を成す表へのアクセス時点に、暗黙で再ビルドされます。これが所定通りの動作でなければ、索引のビルド操作の実行の前に、フル・ロギングを使用可能にするか、またはこの構成パラメーターのデフォルト設定を使用します。

ADM9508W HADR を使用可能にする場合、データベースまたはデータベース・マネージャー構成パラメーター **INDEXREC** を **RESTART** または **ACCESS** に設定して、索引の作成、再作成、または再編成の再実行を使用可能にすることをお勧めします。そうしないと、HADR を使用する 2 次データベース・サーバー上では、1 次データベース・サーバーで完全にログ記録されていない索引の作成、再作成、または再編成はリカバリーされなくなります。リカバリーできない索引には無効のマークが付けられ、HADR のテークオーバー・プロセスの終了時点か、または HADR テークオーバーの後で基礎を成す表へのアクセス時点に、暗黙で再ビルドされます。これが思惑通りの動作でなければ、索引のビルド操作の実行の前に、**INDEXREC** を更新するか、またはこの構成パラメーターのデフォルト設定を使用します。

ADM9509W HADR を開始する前に、データベース構成パラメーター **LOGINDEXBUILD** をオンに設定するようお勧めします。そうしないと、現在または将来の 1 次データベース・サーバーでの索引の作成、再作成、または再編成を、HADR を使用する現在または将来の 2 次データベース・サーバー上ではリカバリーできなくなることがあります。リカバリーできない索引には無効のマークが付けられ、HADR のテークオーバー・プロセスの終了時点か、または HADR テークオーバーの後で基礎を成す表へのアクセス時点に、暗黙で再ビルドされます。これが思惑通りの動作でなければ、データベース構成パラメーター **LOGINDEXBUILD** をオンに更新します。

ADM9510W エラー (**sqlcode** *sqlcode*) が発生したため、索引の再作成処理を完了できませんでした。処理終了時に再作成されなかった無効な索引は、表の初回アクセス時に再作成されます。この索引再作成処理は、データベースの明示的または暗黙的な再始動時に呼び出されたか、または HADR テークオーバーの終了時に呼び出されました。

ADM10000W Java 例外を検出しました。Java スタック・トレースバックは、**db2diag.log** に書き込まれました。

ADM10500E ヘルス・インディケーター
Health-Indicator-Short-Description
(*Health-Indicator-Short-Name*) は、
Monitored-Object-Type
Monitored-Object-Name について、値
Health-Indicator-Value を持つ
Threshold-Bound-Name アラームしきい値
Threshold-Bound-Value を違反しました。
計算: *Formula-String* =
Formula-with-Values =
Health-Indicator-Value。履歴 (タイム・ス
タンプ、値、公式):
Health-Indicator-History-List

説明: ヘルス・モニターは、このヘルス・インディケーターのアラームしきい値が違反であったためアラートを生成しました。この状態は、データベース・パフォーマンスの低下や操作の中断を引き起こす可能性があるため、即時にアドレッシングする必要があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのツールを使って推奨値を獲得するか、場合によってはアクションを実行して、このアラートを解決することができます。

ヘルス・センター:

コントロール・センター・ツールがインストールされている場合は、次のいずれかの方法でこのツールを立ち上げることができます。

- Windows のメニューを開始する
- コントロール・センター・ツールバー
- コマンド行に "db2hc" と入力する

ヘルス・インディケーターの記述、推奨アクション、およびアクションに影響を与えるツールへのリンクが提供されます。

Web ヘルス・センター:

Web ベースのツールがインストールされている場合は、Web 管理者により提供されている URL を使って Web ブラウザーから立ち上げることができます。

ヘルス・インディケーターの記述、推奨アクション、およびアクションに影響を与えるツールへのいくつかのリンクが提供されます。

コマンド行プロセッサ (CLP):

以下のコマンドを実行することにより、CLP からヘルス・インディケーターの記述と推奨アクションを得ることができます。

- GET RECOMMENDATIONS FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*
- GET DESCRIPTION FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*

ADM10501W ヘルス・インディケーター
Health-Indicator-Short-Description
(*Health-Indicator-Short-Name*) は、
Monitored-Object-Type
Monitored-Object-Name について、値
Health-Indicator-Value を持つ
Threshold-Bound-Name 警告しきい値
Threshold-Bound-Value を違反しました。
計算: *Formula-String* =
Formula-with-Values =
Health-Indicator-Value。履歴 (タイム・ス
タンプ、値、公式):
Health-Indicator-History-List

説明: ヘルス・モニターは、このヘルス・インディケーターの警告しきい値が違反であったためアラートを生成しました。必ずしも即座に注意が必要な状態ではありませんが、この状態が次第に悪化した場合、データベース・パフォーマンスの低下や操作の中断につながる可能性があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのツールを使って推奨値を獲得するか、場合によってはアクションを実行して、このアラートを解決することができます。

ヘルス・センター:

コントロール・センター・ツールがインストールされている場合は、次のいずれかの方法でこのツールを立ち上げることができます。

- Windows のメニューを開始する
- コントロール・センター・ツールバー
- コマンド行に "db2hc" と入力する

ヘルス・インディケーターの記述、推奨アクション、およびアクションに影響を与えるツールへのリンクが提供されます。

Web ヘルス・センター:

Web ベースのツールがインストールされている場合は、Web 管理者により提供されている URL を使って Web ブラウザーから立ち上げることができます。

ヘルス・インディケーターの記述、推奨アクション、およびアクションに影響を与えるツールへのいくつかのリンクが提供されます。

コマンド行プロセッサ (CLP):

以下のコマンドを実行することにより、CLP からヘルス・インディケーターの記述と推奨アクションを得ることができます。

- GET RECOMMENDATIONS FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*
- GET DESCRIPTION FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*

ADM10502W ヘルス・インディケーター

Health-Indicator-Short-Description
(*Health-Indicator-Short-Name*) は、
Monitored-Object-Type
Monitored-Object-Name について、状態
Health-Indicator-Value です。

説明: ヘルス・モニターは、このヘルス・インディケーターの状態値が通常でないためアラートを生成しました。これは必ずしも即座に注意が必要な状態ではありませんが、その時点でそれに対して指定された操作が実行されたデータベースの予期された状態と優先するワークロードに依存します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのツールを使って推奨値を獲得するか、場合によってはアクションを実行して、このアラートを解決することができます。

ヘルス・センター:

コントロール・センター・ツールがインストールされている場合は、次のいずれかの方法でこのツールを立ち上げることができます。

- Windows のメニューを開始する
- コントロール・センター・ツールバー
- コマンド行に "db2hc" と入力する

ヘルス・インディケーターの記述、推奨アクション、およびアクションに影響を与えるツールへのリンクが提供されます。

Web ヘルス・センター:

Web ベースのツールがインストールされている場合は、Web 管理者により提供されている URL を使って Web ブラウザーから立ち上げることができます。

ヘルス・インディケーターの記述、推奨アクション、およびアクションに影響を与えるツールへのいくつかのリンクが提供されます。

コマンド行プロセッサ (CLP):

以下のコマンドを実行することにより、CLP からヘルス・インディケーターの記述と推奨アクションを得ることができます。

- GET RECOMMENDATIONS FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*
- GET DESCRIPTION FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*

ADM10503I ヘルス・モニターは、システム *System-Name* 上で、*Alert-Action-Type* *Alert-Action-Name* を実行しているときに、アラート・アクションを開始しました。これは、ヘルス・インディケーター *Health-Indicator-Short-Description* (*Health-Indicator-Short-Name*) が、*Monitored-Object-Type* *Monitored-Object-Name* に対して、*Alert-State* アラート状態であるためです。

説明: ヘルス・モニターは、ヘルス・インディケーターがこのアラート状態の場合にこのアクションを開始するよう構成されました。このメッセージは、このアクションが実際に開始されたことを示しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

ADM10504E ヘルス・モニターは、*Alert-Action-Type* *Alert-Action-Name* をシステム *System-Name* で実行中、ヘルス・インディケーター *Health-Indicator-Short-Description* (*Health-Indicator-Short-Name*) が *Monitored-Object-Type* *Monitored-Object-Name* に対して *Alert-State* アラート状態になったときに、アラート・アクションの開始に失敗しました。 **sqlcode** は **SQLCODE** です。

説明: ヘルス・モニターは、ヘルス・インディケーターがこのアラート状態の場合にこのアクションを開始するよう構成されていますが、アクションを実行するために API を呼び出したときにこの **SQLCODE** を受け取りました。アラート・アクションは開始されませんでした。

ユーザーの処置: この失敗の詳細については、基本障害保守ログ (DB2DIAG.LOG) をチェックしてください。

ADM10505E DB2 サービスがヘルス・モニターの実行に必要な権限を持っていません。 ヘルス・モニターは、シャットダウンされました。 サービスがローカル・システム・アカウント (**SYSTEM**) を使ってログオンするよう構成されている場合は、特定のユーザー・アカウントを使ってログオンするよう変更する必要があります。 特定のユーザー・アカウントを使ってログオンするよう構成されている場合は、そのユーザー・アカウントが有効である、この **DB2** サービスを実行するためのアクセス権を持っていることを確認する必要があります。 ログオン構成を訂正した後は、**DB2** サービスを再始動してヘルス・モニターを開始する必要があります。

ADM10506E SMTP サーバー (smtp_server) DB2 Administration Server 構成パラメーターが設定されていないため、ヘルス・モニターはアラート通知を送信できません。 有効な **SMTP** サーバーの名前で **smtp_server** 構成パラメーターを更新してください。

説明: ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、SMTP サーバー DAS 構成パラメーターに SMTP サーバー名が指定されていないため、送信できませんでした。

ユーザーの処置: 有効な SMTP サーバーの名前で **smtp_server** 構成パラメーターを更新してください。

ADM10507E SMTP サーバー DB2 Administration Server 構成パラメーター (smtp_server) に指定されたサーバー SMTP-Server-Name が SMTP サーバーではないように思われるため、ヘルス・モニターはアラート通知を送信できませんでした。 有効な **SMTP** サーバー名が **DB2 Administration Server** 構成に指定されていることを確認してください。

説明: ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、DB2 Administration Server 構成に指定されたサーバーが SMTP サーバー機能を持っていないため、通知を送信できませんでした。

ユーザーの処置: 有効な SMTP サーバー名が DB2 Administration Server 構成の **smtp_server** パラメーターに指定されていることを確認してください。

ADM10508E Notification-List が含まれているヘルス通知リストに無効な受信者が指定されたため、ヘルス・モニターはアラート通知を送信できませんでした。 有効なアドレスで、連絡先レコードを更新してください。

説明: ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、ヘルス通知リストに指定された 1 つ以上の連絡先アドレスが無効なため、通知を送信できませんでした。

ユーザーの処置: ヘルス通知に指定された連絡先のレコードをチェックし、無効な受信者アドレスを更新してください。

ADM10509E アラート通知は、アドレス Sender-Address を持つ無効な送信者によって送信されたため、ヘルス・モニターはその通知を送信できませんでした。 SMTP サーバー構成を確認してください。すべての設定が正しい場合は、**DB2** サポートまで連絡してください。

説明: ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、送信者のアドレスが SMTP サーバーにより受け入れ不可としてリジェクトされたため、通知を送信できませんでした。送信者のアドレスのフォーマットは <instance name>@<host> で、この場合の 'instance' は 'host' 上で実行されています。

ユーザーの処置: SMTP サーバー構成を確認してください。すべての設定が正しい場合は、DB2 サポートまで連絡してください。

ADM10510E SMTP サーバーが次のエラーを発行したため、ヘルス・モニターはアラート通知を送信できませんでした: SMTP_ERROR。 戻されたエラー・コードの情報については、**SMTP** サーバーの資料をチェックしてください。問題が解決されない場合は、**DB2** サポートに連絡してください。

説明: ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、SMTP サーバーがエラーを検出したため、通知を送信できませんでした。

ユーザーの処置: 戻されたエラー・コードの情報については、SMTP サーバーの資料をチェックしてください。問題が解決されない場合は、DB2 サポートに連絡してください。

ADM10511E SMTP サーバーとの通信エラーにより、ヘルス・モニターはアラート通知を送信できませんでした。この失敗の詳細については、基本障害保守ログ (**DB2DIAG.LOG**) をチェックしてください。

説明: ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、SMTP サーバーに到達しようとして通信エラーが発生したため、通知を送信できませんでした。

ユーザーの処置: この失敗の詳細については、基本障害保守ログ (**DB2DIAG.LOG**) をチェックしてください。

ADM10512W ヘルス・インディケーター
Health-Indicator-Short-Description
(*Health-Indicator-Short-Name*) は、
Monitored-Object-Type
Monitored-Object-Name について、状態
Health-Indicator-Value です。コレクション
(オブジェクト名、タイム・スタンプ、
値、詳細): *Collection*。

ADM11000E DB2 は、**FENCED** ルーチン通信で使用するメモリー・セグメントの作成、またはこのメモリーへのアタッチができません。インスタンスで使用するデータベース共有メモリーの量を減らし、やり直してください。

ADM11001E DB2 は **FENCED** ルーチンの実行用に、メモリー・セグメントを作成することができませんでした。これは、**DB2_FMP_COMM_HEAPSZ** レジストリー変数を使用して指定されました。

ADM11002E db2fmp 処理との通信で使用可能なメモリーが十分ではありません。
DB2_FMP_COMM_HEAPSZ レジストリー変数を使用して、**FENCED** ルーチンで使用可能な共有メモリーの量を増やしてください。

ADM11003E DB2 は **FENCED** ルーチンとの通信に使用するメモリー・セグメントを作成できませんでした。**DB2** を再始動する場合、再始動前のインスタンスに、アクティブな **db2fmp** 処理がないことを確認してください。再始動しない場合は、**DB2_FMP_COMM_HEAPSZ** レジストリー変数から値を調整するか、またはデータベース・マネージャー構成で **ASLHEAPSZ** の値を減らしてください。

ADM11500W MQListener がメッセージを生成しました。メッセージ・コード = *MQL-msgcode*。メッセージに関する情報については、資料を参照してください。

ADM12000C DB2START 処理は失敗しました。有効な製品ライセンスが見つかりませんでした。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切にインストールされているかどうか、お確かめください。ライセンス・センターまたは **db2licm** コマンド行ユーティリティを使ってこのライセンスをインストールすることができます。ライセンス・ファイルは、ライセンス製品 **CD** に入っています。

ADM12001C DB2 接続処理は失敗しました。有効な製品ライセンスが見つかりませんでした。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切にインストールされているかどうか、お確かめください。ライセンス・センターまたは **db2licm** コマンド行ユーティリティを使ってこのライセンスをインストールすることができます。ライセンス・ファイルは、ライセンス製品 **CD** に入っています。

ADM12002C 接続処理は失敗しました。有効製品ライセンスが見つかりませんでした。ホストまたは **iSeries** データベース・サーバーへのアクセス時には、ライセンス交付を受けた **DB2 Connect** 製品または **DB2** コネクト・サーバー・サポートのコンポーネントがインストール済みであることを確認してください。**DB2** コネクト・サーバー・サポートのコンポーネントは、**DB2 Enterprise Edition** に付属しています。

ADM12006E この製品 *product-name* には、有効なライセンス・キーがインストールされていません。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切にインストールされているかどうか、お確かめください。ライセンス・センターまたは **db2licm** コマンド行ユーティリティを使ってこのライセンスをインストールすることができます。ライセンス・ファイルは、ライセンス製品 **CD** に入っています。ライセンス・キーがインストールされていない場合でも、評価期間の *num-days* 日間はこの製品が使用できます。評価期間製品を使用された場合、**try_LA** ファイルの **IBM** ご使用条件に同意されたものとみなされます。このファイルは次のディレクトリーにあります：
directory

ADM12007E 製品 *product-name* の評価期間はあと *num-days* 日残っています。評価版のご使用条件については、**try_LA** ファイルの **IBM** ご使用条件を参照してください。このファイルは次のディレクトリーにあります：*directory*。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切にインストールされているかどうか、お確かめください。ライセンス・センターまたは **db2licm** コマンド行ユーティリティを使ってこのライセンスをインストールすることができます。ライセンス・ファイルは、ライセンス製品 **CD** に入っています。

ADM12008C この製品 *product-name* には有効なライセンス・キーがインストールされていません。評価期間の期限はきれています。この製品に固有な関数は使用可能ではありません。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切にインストールされているかどうか、お確かめください。ライセンス・センターまたは **db2licm** コマンド行ユーティリティを使ってこのライセンスをインストールすることができます。ライセンス・ファイルは、ライセンス製品 **CD** に入っています。

ADM12009E **DB2 Workgroup** 製品の並行ユーザー数が、*entitlement* のライセンスに規定された数を超えています。並行ユーザー数は *user-count* です。IBM 担当員または認定販売店からさらに別のユーザー別ライセンスを購入し、ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティを使用してライセンスを更新してください。ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。**db2licm** ユーティリティの詳細については、「**DB2** コマンド・リファレンス」を参照してください。

ADM12010E **DB2 Connect** 製品の並行ユーザー数が、*entitlement* のライセンスに規定された数を超えています。並行ユーザー数は *user-count* です。IBM 担当員または認定販売店からさらに別のユーザー別ライセンスを購入し、ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティを使用してライセンスを更新してください。ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。**db2licm** ユーティリティの詳細については、「**DB2** コマンド・リファレンス」を参照してください。

ADM12011C 1 つ以上のデータベース・パーティションに、*product-name* 製品に対して有効な **DB2** ライセンス・キーがインストールされていません。ライセンス・センターまたは **db2licm** コマンド行ユーティリティを使って、有効なライセンス・キーを各物理パーティションにインストールしてください。

ADM12012E DB2 Enterprise 製品の並行ユーザー数が、*entitlement*のライセンスに規定された数を超えています。並行ユーザー数は *user-count* です。IBM 担当員または認定販売店からさらに別のユーザー別ライセンスを購入し、ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティを使用してライセンスを更新してください。ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。**db2licm** ユーティリティの詳細については、「DB2 コマンド・リファレンス」を参照してください。

ADM12013E DB2 Connect 製品の並行接続数が、*entitlement* のライセンスに規定された数を超えています。データベース接続数は *num-connections* です。

ADM12014C 使用している **DB2 Connect** 製品のバージョンが **TCP/IP** プロトコルを指定して使用するようにライセンスされていません。**TCP/IP** を使用できるように、**DB2 Connect** 製品の全関数をアップグレードしてください。

ADM12015C 使用している **DB2 Connect** 製品のバージョンが同一トランザクションにある複数のデータベースをアップグレードするようにライセンスされていません。同一トランザクション内の複数のデータベースを更新できるよう、**DB2 Connect** 製品を完全機能にアップグレードしてください。

ADM12016E ユーザー *user* は、製品 *product-name* の登録済みユーザーと定義されていません。ライセンス・センターを使って、登録済みユーザー・リストを更新してください。

ADM12017E このマシンのプロセッサ数は、製品 *product-name* に規定されたライセンス数 *entitlement* を超えています。このマシンのプロセッサ数は *num-cpu* です。IBM 担当員または認定販売店からプロセッサ・ライセンスをさらに購入し、ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティを使用してライセンスを更新してください。プロセッサを基にしたライセンス更新については、ご使用プラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。**db2licm** ユーティリティの詳細については、「DB2 コマンド・リファレンス」を参照してください。

ADM12018E この製品の並行ユーザー数は、ライセンスに規定された数 *entitlement* を超えています。並行ユーザー数は *user-count* です。IBM 担当員または認定販売店からさらに別のユーザー別ライセンスを購入し、ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティを使用してライセンスを更新してください。プロセッサを基にしたライセンス更新については、ご使用プラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。**db2licm** ユーティリティの詳細については、「DB2 コマンド・リファレンス」を参照してください。

ADM12020E コネクター数が、*entitlement* の規定内容を超えました。現在のコネクター数は *num-connectors* です。IBM 担当員または認定販売店からさらに別のコネクター別ライセンスを購入し、ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティを使用してライセンスを更新してください。ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。**db2licm** ユーティリティの詳細については、「DB2 コマンド・リファレンス」を参照してください。

ADM12022E データベース・パーティション・ライセンスなしで、データベース・パーティション・フィーチャーが使用されていることが **DB2** で検出されました。 **IBM** 担当員または認定販売店からさらに別のデータベース・パーティション用ライセンスを購入し、ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティーを使用してライセンスを更新してください。ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。 **db2licm** ユーティリティーの詳細については、「**DB2** コマンド・リファレンス」を参照してください。

ADM12023E *product-name* 製品の並行ユーザー数が、ライセンス要綱 *entitlement* に規定された数を超えています。並行ユーザー数は *user-count* です。 **IBM** 担当員または認定販売店からさらに別のユーザー別ライセンスを購入し、ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティーを使用してライセンスを更新してください。ユーザー別ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。 **db2licm** ユーティリティーの詳細については、「**DB2** コマンド・リファレンス」を参照してください。

ADM12024E 要求された機能に対して有効なライセンス・キーが見つかりません。
product_name 製品の現行ライセンス・キーでは、要求した機能を実行できません。 **IBM** 担当員または認定販売店からこの機能用のライセンス・キーを購入し、ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティーを使用してライセンスを更新してください。ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。 **db2licm** ユーティリティーの詳細については、「**DB2** コマンド・リファレンス」を参照してください。

ADM12500E 1 次データベースに対して **HADR** スタンバイ・データベースを整合化することができません。スタンバイ・データベースのログ・ストリームは、1 次データベースのものとは互換性がありません。このデータベースをスタンバイとして使用するには、1 次データベースのバックアップ・イメージまたは分割ミラーから作成し直さなければなりません。

ADM12501E 1 次とスタンバイのデータベースで、オペレーティング・システムが一致していないので、**HADR** の 1 次対スタンバイの接続を確立できません。1 次またはスタンバイ・データベースを別のホストに移動するか、または一方のホストのオペレーティング・システムをアップグレードして、もう一方のホストに一致するようにします。

ADM12502E 1 次とスタンバイのデータベースで、**DB2** のバージョンが一致していないので、**HADR** の 1 次対スタンバイの接続を確立できません。**HADR** 1 次または **HADR** スタンバイのデータベース上で **DB2** ソフトウェアを同じリリースにアップグレードして、相互に一致するようにします。

ADM12503E 1 次とスタンバイのデータベースで、**DB2** ビット・レベル (32 ビット対 64 ビット) が一致していないので、**HADR** の 1 次対スタンバイの接続を確立できません。1 次またはスタンバイ・データベースのビット・レベルを変更して、相互に一致するようにしてください。

ADM12504E 1 次とスタンバイのデータベースで、**DB2** インスタンス名が一致していないので、**HADR** の 1 次対スタンバイの接続を確立できません。**HADR_REMOTE_INST** 構成パラメータを訂正してください。

ADM12505E データベース名が一致していないので、**HADR** の 1 次対スタンバイの接続を確立できません。データベース名を訂正して、**HADR** の 1 次と **HADR** スタンバイ間で一致するようにしてください。

ADM12506E 1 次とスタンバイのデータベースは、同一のデータベースを起点としていないので、HADR の 1 次対スタンバイの接続を確立できません。1 次データベースのバックアップ・イメージまたは分割ミラーからスタンバイを作成し直してください。

ADM12507E HADR 構成パラメーターが一致していないので、HADR の 1 次対スタンバイの接続を確立できません。HADR の 1 次またはスタンバイ上で構成パラメーター **HADR_TIMEOUT** および **HADR_SYNCMODE** を変更して、これらのパラメーターが相互のシステム値に一致するようにしてから、**HADR_LOCAL_HOST** と **HADR_REMOTE_HOST** がローカル・マシンとリモート・マシンのホスト名に必ず一致するようにします。

ADM13000E プラグイン *plugin-name* は、エラー・メッセージ *error-message* とともに、エラー・コード *error-code* を **GSS (Generic Security Service) API** *GSS-API-name* から受信しました。

ADM13001E プラグイン *plugin-name* は、エラー・メッセージ *error-message* とともに、エラー・コード *error-code* を **DB2 セキュリティー・プラグイン API** *GSS-API-name* から受信しました。

ADM13002E プラグイン *plugin-name* をアンロードできませんでした。これ以上のアクションは不要です。

ADM13003E *plugin-name* で使用されているプリンシパル名 *principal-name* が無効です。プリンシパル名が有効なものであり、セキュリティー・プラグインの認識する形式であることを確認してください。

ADM13004E プラグイン *plugin-name* が無効です。有効なプラグイン名を指定してください。

ADM13005E プラグイン *plugin-name* をロードできませんでした。このプラグインが存在していて、そのディレクトリーの位置とファイル・アクセス許可が有効であることを確認してください。

ADM13006E プラグイン *plugin-name* で予期しないエラーが検出されました。IBM サポートに連絡してください。

第 3 章 AMI メッセージ

AMI0016E メモリー不足です。

説明: 要求された操作を完了するために使用できる十分なメモリーがありません。

ユーザーの処置: 十分なメモリーが割り振られており、Message Query (MQ)、MQ Application Messaging Interface (AMI)、および DB2 プログラムで使用可能であることを確認してください。

AMI0018E サービスが見つかりません。

説明: 指定されたサービスが見つかりません。要求は完了していません。サービスは以下のいずれかであると思われる。

- sender
- receiver
- distribution list
- publisher
- subscriber

ユーザーの処置: 使用した Application Messaging Interface (AMI) リポジトリ・ファイルに、サービス定義が含まれていることを確認してください。

AMI0019E メッセージが見つかりません。

説明: 指定されたメッセージが見つかりません。要求は完了していません。

ユーザーの処置: メッセージが使用可能なことを確認してください。

AMI0020E ポリシーが見つかりません。

説明: 指定されたポリシーが見つかりません。要求は完了していません。

ユーザーの処置: 使用した Application Messaging Interface (AMI) リポジトリ・ファイルに、ポリシー定義が含まれていることを確認してください。

AMI0035E 使用できるメッセージがありません。

説明: 指定された待ち時間後の受信要求に対して、使用できるメッセージがありません。これは、ターゲット・キューが空の場合に発生します。

ユーザーの処置: メッセージがターゲット・キューにあることを確認してください。

AMI0049E トランスポート・エラー。

説明: 基礎 (MQSeries) メッセージ・トランスポート層がエラーを報告しています。指定された AMI オブジェクトに対する GetLastError 要求から戻る 2 次理由コードにより、メッセージ・トランスポートの理由コードを取得することができます。詳細については、

「*Application Messaging Interface*」の『Common causes of problems』を参照してください。

ユーザーの処置: Application Messaging Interface (AMI) サービスまたはポリシーが参照している基礎 MQ オブジェクト (システム・キュー、ユーザー・キューなど) を作成していることを確認してください。これらのオブジェクト名は、大文字と小文字の区別があることに注意してください。q1 という名前のキューは Q1 とは別のキューです。キューの属性がメッセージのハンドルに十分であることも確認してください。たとえば、MAXMSGL がメッセージ・サイズのハンドルに十分な大きさであることを確認してください。Publish または Subscribe 関数が失敗した場合、MQ メッセージ・ブローカーが開始済みであるかどうか確認してください。

AMI0109E ユーザーには許可がありません。

説明: ユーザーには指定された要求を実行できる基礎トランスポート層による許可がありません。

ユーザーの処置: UDF のユーザーに、該当する権限があるかどうか確認してください。これは、通常ユーザー ID はグループ mqm のメンバーでなければならないということです。

AMI0110E トランスポートが使用できません。

説明: 基礎トランスポート層は使用できません。

ユーザーの処置: キュー・マネージャーが実行中であることを確認してください。

AMI0402E ホスト・ファイルが見つかりません。

説明: 指定された名前のローカル・ホスト・ファイルが見つかりません。

ユーザーの処置: ファイル amthost.xml が存在し、正しいディレクトリーにあることを確認してください。

AMI0405E ポリシーがリポジトリにありません。

説明: リポジトリにない定義名を使用してポリシーを作成しました。ポリシーは、デフォルト値を使用して作成されています。

ユーザーの処置: Application Messaging Interface (AMI) ポリシーが、リポジトリ・ファイルに定義されていることを確認してください。

AMI0406E センダーがリポジトリにありません。

説明: リポジトリにない定義名を使用してセンサーを作成しました。送信側は、デフォルト値を使用して作成されています。

ユーザーの処置: Application Messaging Interface (AMI) センダー・サービスが、リポジトリ・ファイルに定義されていることを確認してください。

AMI0407E レシーバーがリポジトリにありません。

説明: リポジトリにない定義名を使用してレシーバーを作成しました。レシーバーは、デフォルト値を使用して作成されています。

ユーザーの処置: Application Messaging Interface (AMI) レシーバー・サービスが、リポジトリ・ファイルに定義されていることを確認してください。

AMI0409E パブリッシャーがリポジトリにありません。

説明: リポジトリにない定義名を使用してパブリッシャーを作成しました。パブリッシャーは、デフォルト値を使用して作成されています。

ユーザーの処置: Application Messaging Interface (AMI) パブリッシャー・サービスが、リポジトリ・ファイルに定義されていることを確認してください。

AMI0410E サブスクライバーがリポジトリにありません。

説明: リポジトリにない定義名を使用してサブスクライバーを作成しました。サブスクライバーは、デフォルト値を使用して作成されています。

ユーザーの処置: Application Messaging Interface (AMI) サブスクライバー・サービスが、リポジトリ・ファイルに定義されていることを確認してください。

AMI0416E リポジトリ・エラーです。

説明: リポジトリの初期化またはアクセス時にエラーが戻りました。これは、以下の理由のいずれかで発生する可能性があります。

- リポジトリ XML ファイル (たとえば、amt.xml) に無効なデータが含まれています。
- DTD ファイル (*.dtd) が見つからないか、無効なデータが含まれています。
- リポジトリを初期化するために必要なファイルが見つかりません。これらのファイルは、通常ディレクトリ intFiles およびディレクトリ・ロケールにあります。

ユーザーの処置: これは、通常 XML 構文解析プログラム・エラーの結果です。正しい amt.dtd ファイルを使用して amt.xml ファイルと合致しているか確認してください。

AMI0418E リポジトリが見つかりません。

説明: リポジトリ・ファイルが見つかりません。

ユーザーの処置: リポジトリ・ファイルがデフォルト・ロケーションまたは環境変数 AMT_DATA_PATH で指定されているパスにあることを確認してください。

AMI0419E トランSPORT・ライブラリー・エラーです。

説明: トランSPORT・ライブラリーのロード中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: MQSeries および AMI ライブラリーが正しくインストールされていることを確認してください。このソフトウェアの正常インストールを確認するために使用される、MQ および AMI と共に出荷されているサンプル・プログラムがあります。

AMI0424E DTD ファイルが見つかりません。

説明: AMI dtd ファイル (amt.dtd) が、XML リポジトリ・ファイル amt.xml と同じディレクトリで見つかりません。

ユーザーの処置: ファイル amt.dtd がリポジトリ・ファイル amt.xml のあるディレクトリにあるかどうか確認してください。環境変数 AMT_DATA_PATH でロケーションを定義することができます。

第 4 章 レプリケーション・メッセージ

このセクションには、DB2 for iSeries を除く、すべてのデータベース管理システム上のレプリケーション・プログラムに対して DB2 レプリケーションが発行するメッセージが含まれています。メッセージは番号順にリストされています。

ASN0004E CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは、トレースを開始できませんでした。戻りコードは *return_code* です。理由コードは、*reason_code* です。

説明: START TRACE DB2 コマンドが発行されたとき、またはキャプチャー・プログラムが DB2 ログを読み取ったときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: メッセージの DB2 コード・セクション、およびご使用のオペレーティング・システム上の DB2 データベース・マネージャーのコード資料を参照して適切な理由コードを見つけてください。詳しくは、次のいずれかの管理文書 - 「START TRACE DB2 エラーの呼び出しアタッチメント機能 (CAF)」、または「DB2 ログ読み取りエラーのインストールメンテーション機能インターフェース (IFI)」を参照するか、DBA に連絡してください。CAF または IFI がメッセージを発した場合は、それもシステムのディスプレイ・コンソールに表示されます。

ASN0005E CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムが、DB2 ログの読み取り中に、エラーを検出しました。ログのシーケンス番号は *lsn*、**SQLCODE** は *sql_return_code*、理由コードは *reason_code* です。

説明: キャプチャー・プログラムが DB2 ログを読み取ったときに、エラーが発生しました。SQL エラーがある可能性があります。

- DB2 レプリケーションの場合、*sqlcode* 値は非同期読み取りログ API 用です。
- キャプチャー (VSE 版) の場合、*sqlcode* は VSE/VSAM GET マクロ用です。
- キャプチャー (VM 版) の場合、*sqlcode* は Diagnose X'A4' 用です。

ユーザーの処置: 適切な理由コードについては、以下の指示に従って、メッセージの DB2 コード・セクション、およびご使用のオペレーティング・システムの DB2 データベース・マネージャーのコード資料を参照してください。

- キャプチャー・プログラム (z/OS 版) については、ご使用のオペレーティング・システム上の DB2 データベース・マネージャーの管理資料の中の「インストールメンテーション機能インターフェース (IFI)」の項を参照してするか、または DBA に連絡してください。
- キャプチャー (VSE 版) については、「VSE/VSAM コマンドおよびマクロ」、「VSE/ESA システム・マクロ・リファレンス」および「VSE/ESA V2R3 メッセージおよびコード・マニュアル」を参照してください。
- VM/ESA の場合、詳しくは、「VM/ESA Programming Services」を参照してください。
- キャプチャー (Linux、Windows、および UNIX 版) については、DB2 Universal Database のアクティブおよびアーカイブ・データベース・ログ管理資料を参照するか、または IBM ソフトウェア・サポートまでご連絡ください。

ASN0006E CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは、予期しない不明ログ・バリエーションのログ・エラーを検出しました。

説明: キャプチャー・プログラムが DB2 ログ・レコードを処理中に、予期しないログ・エラーが発生し、次のいずれのインターフェースによっても報告されませんでした。

- キャプチャー・プログラム (z/OS 版) 用インストールメンテーション機能インターフェース (IFI)
 - キャプチャー・プログラム用非同期ログ読み取り API
- キャプチャー・プログラムは、どのタイプの SQL 更新がこのログ・レコードと関連付けられているのかを判断できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN0008I CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムが停止されました。

説明: キャプチャー・プログラムが停止しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0009E CAPTURE *capture_schema*. 登録済みソース表 *src_owner.src_table* には DATA CAPTURE CHANGES 属性がありません。

説明: 登録を初期化しようとして、キャプチャー・プログラムは、誤って定義されたソース表を検出しました。ソース表の DATA CAPTURE CHANGES 属性が設定されていない場合、キャプチャー・プログラムはそのソース表と関連付けられたログ・レコードを処理できません。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対してサブスクリプション・セットの最初の CAPSTART シグナルを受信したときに発行されます。このエラーが CAPSTART シグナルの処理中に発生した場合、キャプチャー・プログラムはその登録を活動化しません。このエラーが (ウォーム・スタートまたはキャプチャーの REINIT コマンドから) の再初期化中に発生した場合は、キャプチャー・プログラムはその登録を「停止」状態に置き、アプライ・プログラムが関連するサブスクリプション・セットと再同期化する前にその登録の修正が必要であることを示します。

ユーザーの処置:

1. ソース表を変更して、データ・キャプチャー変更をオンにしてください。例:
 - `alter table regress.table3 data capture changes`
2. キャプチャー・プログラムによって登録が非活動化された (状態 = 停止済み) 場合、登録を更新して状態を非アクティブに設定します。
3. レプリケーション・センターを使って、このソース表から複製するすべてのサブスクリプション・セットに対してフル・リフレッシュを実行するよう、アプライ・プログラムに強制します。

ASN0011E CAPTURE *capture_schema*. 圧縮ログ・レコードの作成に使用された DB2 圧縮ディクショナリーが現在存在していないため、キャプチャー・プログラムのログの読み取りは失敗しました。読み取れなかったログ・レコードは、登録済みソース表 *src_owner.src_table* のものです。理由コードは、*reason_code* です。

説明: キャプチャー・プログラムは、DB2 ログ読み取り IFI からゼロ以外の応答コードを受信しました。応答コードは、対応する DB2 表スペースのコンプレッション・ディクショナリーが使用できないため、ログ・レコードのデータを処理できないことを示しています。

このソース表を含む圧縮表スペースは、おそらく KEEPDICTIONARY オプションなしで実行された REORG ユーティリティによって再編成されました。残りの圧縮されたログ・レコードを読み取れないため、キャプチャー・プログラムはこの登録を非活動化する必要があります。この登録を非活動化するか、除去しない限り、キャプチャー・プログラムは続行できません。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: 圧縮表スペースの制限事項、およびアプライ・プログラムによる非活動化された登録とそれに対応するフル・リフレッシュの詳細については、「レプリケーション環境の保守」の章を参照してください。

ASN0013E CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムが、変更データ (CD) 表に定義されていない列を要求しました。表名は *table_name*。

説明: 変更データ表の必須列が定義されていません。

ユーザーの処置: 変更データ表の定義が正しいか確認してください。詳しくは、「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

ASN0019E CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラム・ライブラリーが、許可プログラム機能 (APF) に対して許可されていません。

説明: キャプチャー・プログラムは開始できません。

ユーザーの処置: APF に対するキャプチャー・リンク・ライブラリーを許可して、キャプチャー・プログラムを再始動してください。

ASN0020I **CAPTURE** *capture_schema*. **Netview** 総称アラート・インターフェースの障害。
Netview 戻りコードは *return_code* です。

説明: プログラム・インターフェースが失敗したため、プログラムにより Netview に Network Major Vector Transport (NMVT) を送信できませんでした。これは、2 次情報メッセージです。

ユーザーの処置: インターフェース・エラーを判別するための戻りコードの記述については、Netview プログラミング資料を参照してください。キャプチャー・プログラムのアラートは、エラーが発生するまでシステム・サービス・コントロール・ポイント (SSCP) によって受信されません。

ASN0021I **CAPTURE** *capture_schema*. **Netview** のプログラム間インターフェースを使用できません。**Netview** 戻りコードは *return_code* です。

説明: Netview が使用できません。これは、2 次情報メッセージです。

ユーザーの処置: Netview の問題を判別するための戻りコードの記述については、Netview プログラミング資料を参照してください。たとえば、サブシステムが開始されていない可能性があります。

ASN0023I **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムが再初期化され、*number* 登録に対する変更をキャプチャーしています。*Stopped_number* 登録は停止状態です。*Inactive_number* 登録は非アクティブ状態です。

説明: キャプチャー・プログラムに REINIT コマンドが発行されました。これによって、キャプチャー・プログラムはすべての登録に関する全内部制御情報のリフレッシュを試行しました。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムがすべての登録に対する変更をキャプチャーしている場合、アクションは不要です。それ以外の場合、前述のエラー・メッセージを調べて障害の原因を判別し、提案されているユーザー応答に従って、障害の発生している登録の定義を修正してください。登録を修正したら、キャプチャー・プログラムに REINIT コマンドを再発行します。

ASN0028I **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムが、オペレーター・コマンドにより中断されました。

説明: オペレーター・コマンドがキャプチャー・プログラムを中断したため、プログラムは待機状態になりました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0029I **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムが、オペレーター・コマンドにより再開されました。

説明: オペレーター・コマンドが中断状態からキャプチャー・プログラムを再開し、キャプチャー・プログラムが実行を続けました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0031E **CAPTURE** *capture_schema*. プログラム・パラメーター表 **IBMSNAP_CAPPARMS** は、1 つの行しか持てません。

説明: キャプチャー・プログラム・パラメーター表が正しく定義されていないか、または無効な行で更新されました。

ユーザーの処置: IBMSNAP_CAPPARMS 表に 1 行しかないことを確認してください。追加情報については、「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」の表構造の文書を参照してください。

ASN0035E **CAPTURE** *capture_schema*. 表 **IBMSNAP_REGISTER** でサポートされないアーキテクチャー・レベルの行が検出されました。無効な行は **CD** 表 *cd_owner.cd_table* を指定しており、アーキテクチャー・レベルは *arch_level* です。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、登録定義に無効なアーキテクチャー・レベルが含まれていることを発見しました。バージョン 8 のキャプチャー・プログラムは、バージョン 8 のアーキテクチャー・レベルの登録だけを使用できます。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: 「DB2 レプリケーション・ガイドお

よびリファレンス」を参照して、登録表の ARCH_LEVEL 列の必須値をチェックしてください。ソース・サーバーにある登録表の値が正しいか確認してください。値が正しくない場合、登録のアーキテクチャー・レベルの値を更新し、互換バージョンのレプリケーション・センターとキャプチャー・プログラムを使用してください。

ASN0049I **CAPTURE** *capture_schema*.
SIGNAL_SUBTYPE *CAPSTOP* の行が、
表 **IBMSNAP_SIGNAL** に挿入されました。

説明: キャプチャー・プログラムは、データのキャプチャーを停止するためのシグナルを受信しました。キャプチャー・プログラムは、現在実行中の作業をコミットして終了します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0055E **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは、表 *table_name* にサポートされない **SQLTYPE** を持つ列 *column_name* を検出しました。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、登録定義にサポートされない SQL タイプ (抽象タイプなど) が含まれていることを発見しました。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルを受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: この登録を削除してください。DB2 レプリケーションではサポートできません。

ASN0057E **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは、*operation* 上で、ファイル *filename* に対するエラー *errno* を検出しました。

説明: キャプチャー・プログラムがファイルを処理中に、エラーが発生しました。キャプチャー・プログラムは終了します。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムが、すべての必須パスとファイルに対して正しいアクセスとセキュリティ許可を持っていることを確認してください。また、システムに使用可能なスペースが十分にあるかどうかを確認してください。このメッセージが製品障害によって発行されたと思われる場合は、IBM ソフトウェア・サポートまでご連絡ください。

ASN0058W **CAPTURE** *capture_schema*.
IBMSNAP_SIGNAL 表の **CAPSTART** 行にある **MAP_ID** *mapid* は、
IBMSNAP_PRUNCNTL 表の中のどの項目とも対応しません。

説明: CAPSTART シグナルによって指定されている MAP_ID が、IBMSNAP_PRUNCNTL 表の MAP_ID 列のどの現行値とも一致しません。サブスクリプション・セットが削除されているか、ユーザーが CAPSTART シグナルを正しく挿入していない可能性があります。

ユーザーの処置: この CAPSTART がユーザーによって発行された場合は、シグナル表挿入用の MAP_ID が正しいことを確認して、再度発行してください。この CAPSTART シグナルがアプライ・プログラムによって発行された場合は、サブスクリプション・セットがまだ存在していることを確認してください。

ASN0059W **CAPTURE** *capture_schema*.
IBMSNAP_PRUNCNTL 表の
SYNCHPOINT フィールドが、**MAP_ID**
map_id を持つサブスクリプションの
CAPSTART に対してゼロではありません。

説明: アプライ・プログラムがキャプチャー・プログラムに対してフル・リフレッシュのシグナルを送ると、アプライ・プログラムは IBMSNAP_SIGNAL 表に CAPSTART シグナルの行を挿入します。同時に、IBMSNAP_PRUNCNTL 表の SYNCHPOINT 列が 16 進数のゼロに設定されます。するとキャプチャー・プログラムは、次のようにして、キャプチャー・プログラムが CAPSTART シグナルを受信したことを確認する応答をアプライ・プログラムに送信します。キャプチャー・プログラムは、IBMSNAP_PRUNCNTL 表の SYNCHPOINT 列の値を、CAPSTART ログ・レコードに対応するログ・シーケンスの番号に設定します。アプライ・プログラムが SYNCHPOINT 列の値を 16 進ゼロに設定したため、アプライ・プログラムは、非ゼロの値がキャプチャー・プログラムによって挿入されているかどうかをチェックします。キャプチャー・プログラムは、値が 16 進ゼロでなかった場合でも、SYNCHPOINT の値を更新します。ただし、SYNCHPOINT の値が 16 進ゼロでない場合、キャプチャー・プログラムはこの警告を発行して、検出された値が予期したものでなかったことを示します。

この警告は、ユーザーが APPLY CAPSTART シグナルを自分で発行し、アプライ・プログラムのアクションを完全にシミュレートしない場合に発行されることがあります。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0060E CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムが内部エラー *error_code* を検出しました。

説明: キャプチャー・プログラムで予期しないエラーが起きました。キャプチャー・プログラムは終了します。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN0061E CAPTURE *capture_schema*. 無効な登録が検出されました。ソース表 *source_owner.source_table* は、システム・カタログ表に存在しません。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、登録に指定されているソース表がソース・システム・カタログに存在しないことを発見しました。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、または無効な登録を含むサブスクリプション・セットに対して最初の CAPSTART シグナルが発行されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。キャプチャー・コントロール表 IBMSNAP_REGISTER の中の列 *source_owner* と *source_table* が正しく指定されていないか、ソース表がドロップされて、現在存在していない可能性があります。

ユーザーの処置: 登録がエラーの場合は、列 *source_owner* と *source_table* の値を訂正してください。ソース表がもはや存在していない場合は、その登録は現在は無効なので除去できます。

ASN0062E CAPTURE *capture_schema*. 無効な登録が検出されました。CD 表 *phys_change_owner.phys_change_table* が、システム・カタログ表に存在しません。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、登録に指定されている CD 表がソース・システム・カタログ表に存在しないことを発見しました。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。キャプチャー・コントロール表 IBMSNAP_REGISTER の列 *phys_change_owner* と *phys_change_table* の値が正しく指定されていないか、または CD 表がドロップされており、もはや存在していない可能性があります。

ユーザーの処置: 登録がエラーの場合は、列 *phys_change_owner* と *phys_change_table* の値を訂正してください。CD 表がもはや存在していない場合は、その登録は現在は無効なので除去することができます。

ASN0063E CAPTURE *capture_schema*. **MAP_ID** *mapid* を持つサブスクリプションと関連付けられたソース表 *source_owner.source_table* は、システム・カタログ表に存在しません。キャプチャー・プログラムは、このサブスクリプションに対する変更のキャプチャーを開始できませんでした。

説明: キャプチャー・プログラムはサブスクリプションの CAPSTART シグナルへの応答を試行して、そのサブスクリプションに対応するソース表がソース・システム・カタログ表に存在しないことを発見しました。このメッセージは、無効なサブスクリプションに対する最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。キャプチャー・コントロール表 IBMSNAP_PRUNCNTL の列 *source_owner* と *source_table* の値が正しく指定されていないか、ソース表がドロップされて、もはや存在しない可能性があります。

ユーザーの処置: サブスクリプションがエラーの場合は、列 *source_owner* と *source_table* の値を訂正してください。ソース表がもはや存在しない場合は、そのサブスクリプションはもはや有効ではないため、除去することができます。

ASN0064E CAPTURE *capture_schema*. この登録は、**MAP_ID** *mapid* を持つ関連したサブスクリプションに対して無効です。キャプチャー・プログラムは、このサブスクリプションに対する変更データのキャプチャーを開始できません。

説明: キャプチャー・プログラムは特定のサブスクリプションと関連付けられた登録の初期化を試行して、登録に 1 つ以上の無効な列値が含まれていることを検出しました。このエラー・メッセージは、この登録に対して、サブスクリプションに対する最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。キャプチャー・コントロール表 IBMSNAP_REGISTER の列 *phys_change_owner* と *phys_change_table* の値が正しく指定されていないか、または CD 表がドロップされており、もはや存在していない可能性があります。

ユーザーの処置: 登録がエラーの場合は、列

phys_change_owner と *phys_change_table* の値を訂正してください。この登録をもはや必要ない場合は、除去することができます。

ASN0065E CAPTURE *capture_schema*. 無効な登録が検出されました。ソース表 *source_owner.source_table* は、ローカル物理表ではありません。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行し、この登録のソース表がローカル物理表でなく、ソースとして使用され、ニックネームで呼び出される、DB2 以外のリレーショナル・サーバー上にあることを発見しました。DB2 以外のリレーショナル・サーバーがソースとして使用された場合、各サーバーのデータはトリガー・プログラムを介してキャプチャーされます。各ソース表は、その DB2 以外のリレーショナル・サーバー上に作成された独自の登録表になければなりません。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはサブスクリプションに対して、この登録に対する最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。この登録は DB2 データベースの IBMSNAP_REGISTER 表に誤って作成されています。

ユーザーの処置: この登録は、正しい、DB2 以外のリレーショナル・サーバーに再作成して、有効化する必要があります。

ASN0066E CAPTURE *capture_schema*. 無効な登録が検出されました。CD 表 *phys_change_owner.phys_change_table* は、ローカル物理表ではありません。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、サブスクリプションに対応するその登録の CD 表が、ソースとして使用される DB2 以外のリレーショナル・データベースのニックネームであることを発見しました。このメッセージは、この登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: DB2 以外のリレーショナル・ソースは、トリガー・プログラムを介してキャプチャーされ、DB2 以外のリレーショナル・ソース・システムにある独自の登録表になければなりません。そのようなソースの CCD 表は、DB2 以外のリレーショナル・ソース・システムにも作成されます。何らかの理由により、DB2 以外のリレーショナル・ソース表登録が、誤って DB2 データベースの登録表に登録されました。この登録は、正しい、DB2 以外のリレーショナル・サーバーに再作成する必要があります。

ASN0067E CAPTURE *capture_schema*. **MAP_ID** *map_id* を持つサブスクリプションと関連付けられたビュー登録が、表 **IBMSNAP_REGISTER** に見つかりませんでした。キャプチャー・プログラムは、このサブスクリプションに対する変更データのキャプチャーを開始できませんでした。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、このサブスクリプションに対応するビュー登録が存在しないことを発見しました。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されません。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。キャプチャー・コントロール表 **IBMSNAP_REGISTER** または **IBMSNAP_PRUNCNTL** の中の列 *source_owner*、*source_table*、および *source_view_qual* が、正しく指定されていない可能性があります。そのため、一致が見つからなかったか、または登録がドロップされており、もはや存在しません。

ユーザーの処置: サブスクリプションまたは登録がエラーの場合は、列 *source_owner*、*source_table*、および *source_view_qual* の値を訂正してください。登録がもはや存在しない場合は、そのサブスクリプションは無効なので、除去することができます。

ASN0068E CAPTURE *capture_schema*. **INSERT** ステートメントが **CD** 表 *phys_chg_owner.phys_chg_tbl* には長過ぎます。

説明: CD 表の列数が多過ぎるため、SQL INSERT ステートメントが、キャプチャー・プログラムのコーディングの限界である 32K を超えています。

ユーザーの処置: この表のすべての列が登録で定義されている場合に、ターゲットではそれらの列のサブセットしか必要でないときは、その登録の列数を削減してください。または、その表を 2 つの登録に分割して、それぞれの登録に、表列の異なるサブセットを入れてください。

ASN0069E CAPTURE *capture_schema*. **CD** 表 *phys_chg_owner.phys_chg_tbl* への挿入中に、**SQLCODE** *sqlcode* が戻されました。この **CD** 表は、ドロップされたように見えます。

説明: キャプチャー・プログラムが CD 表に行を挿入しようとしたのですが、DB2 がその CD がもはや存在し

ないことを示す SQLCODE を戻しました。この CD 表が誤ってドロップされたか、登録全体がドロップされた可能性があります。IBMSNAP_REGISTER 表にこの CD を参照する行がまだ存在する場合、キャプチャー・プログラムは CD_OLD_SYNCHPOINT 列の値を NULL に設定してこれらの登録を非活動化し、この CD 表の変更のキャプチャーを試行しません。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: CD 表がもはや存在しておらず、必要でない場合は、その登録はもはや無効なので除去してください。登録を除去する前に、非活動化することをお勧めします。この CD 表を使用する登録と関連付けられたサブスクリプション・セットも、非活動化してください。さらにこれらのサブスクリプション・セットを活動化して、正常に実行できるように、関連付けられたサブスクリプション・セットのメンバーを除去してください。

ASN0070E CAPTURE capture_schema. CD 表
phys_chg_owner.phys_chg_tbl の列名 *column_name* の組み合わせと、この登録に対する表 IBMSNAP_REGISTER の BEFORE_IMG_PREFIX *before_img_prefix* の値は、ソース表の中の複数の列名と一致します。登録定義の中のあいまいさは、キャプチャー・プログラムによって解決できません。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、この登録に対する CD 表内の列があいまいであることを発見しました。この列は、1 つのソース列の変更前イメージを参照している可能性もあり、また別のソース列の変更後イメージを参照している可能性もあります。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: IBMSNAP_REGISTER 表で、BEFORE_IMG_PREFIX 列の現行値を、このあいまいさの生まれない文字値に変更してください。

ASN0071E CAPTURE capture_schema. CD 表
phys_chg_owner.phys_chg_tbl にある列 *column_name* のデータ・タイプ属性は、対応するソース列のデータ・タイプ属性と非互換です。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、この登録に対する CD 表内の列がそれに対応するソース列と非互換であることを発見しました。この

メッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: この登録について、CD 表を訂正してください。

ASN0072E CAPTURE capture_schema. CD 表
phys_chg_owner.phys_chg_tbl の変更前イメージ列 *column_name* は NULL 値を許可する必要があります。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、この登録に対する CD 表内の変更前イメージ列が NULL 値を受け入れるよう定義されていないことを発見しました。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: この登録について、CD 表を訂正してください。

ASN0073E CAPTURE capture_schema. CAPSTOP シグナル上の CD 表を記述する指定
input_in は無効です。

説明: キャプチャー・プログラムは、CAPSTOP シグナルに指定された INPUT_IN 値が *phys_change_owner.phys_change_table* の有効なフォーマットになっていないことを発見しました。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはない、このシグナルに対して何のアクションも行われません。

ユーザーの処置: INPUT_IN の値が、非活動化したい登録と関連付けられた CD 表の名前と一致することを確認してください。IBMSNAP_SIGNAL 表に新規行を挿入してください。

ASN0074E CAPTURE capture_schema. IBMSNAP_REGISTER 表に、CAPSTOP シグナルに指定されている
src_owner.src_table に対応する行がありません。

説明: キャプチャー・プログラムは、CAPSTOP シグナルに指定された INPUT_IN 値が無効なフォーマットであり、*source_owner.source_table* の値に一致するものが登録表に存在しないことを発見しました。このエラー

によってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: INPUT_IN の値を訂正して、再度シグナルを挿入してください。

ASN0075W CAPTURE *capture_schema*. **CAPSTOP** シグナルの INPUT_IN、*src_owner.src_table* に対応する登録が、変更を取り込んでいませんでした。アクションは行われません。

説明: キャプチャー・プログラムは、CAPSTOP シグナルに指定された INPUT_IN 値は有効なフォーマットであり、登録表の中の *source_owner.source_table* の値と一致するが、この登録がすでに非活動化されていることを発見しました。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することではなく、またキャプチャー・プログラムはこのシグナルに対して何のアクションも行いません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0076I CAPTURE *capture_schema*. キャプチャーは、**CAPSTOP** シグナルに回答して、ソース表 *source_owner.source_table* に対する変更のキャプチャーを停止しました。

説明: キャプチャー・プログラムは、CAPSTOP シグナルに指定された登録を正常に非活動化しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0077E CAPTURE *capture_schema*. **MAP_ID** *mapid* を持つ **IBMSNAP_PRUNCNTL** 表の **PHYS_CHANGE_OWNER** と **PHYS_CHANGE_TABLE** 列に指定された値が **NULL** であるか、**IBMSNAP_REGISTER** 表の有効な行と一致しません。

説明: キャプチャー・プログラムは登録を初期化していて、サブスクリプションに対する **IBMSNAP_PRUNCNTL** 表の中の **PHYS_CHANGE_OWNER** と **PHYS_CHANGE_TABLE** の列値が、**IBMSNAP_REGISTER** 表の登録行と一致できないことを検出しました。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の **CAPSTART** シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: このサブスクリプションに対する **IBMSNAP_PRUNCNTL** 表の値を訂正してください。このサブスクリプションがレプリケーション・センターを使って作成された場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、管理問題の可能性のあることを報告してください。

ASN0078E CAPTURE *capture_schema*. **CD** 表 *phys_owner.phys_table* の変更前イメージ列 *column name* は、この登録に対して **CD** 表の中に対応する変更後イメージを持っていません。登録は無効です。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、**CD** 表内の登録の変更前イメージ列がそれに対応する変更後イメージを持っていないことを発見しました。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対してサブスクリプションの最初の **CAPSTART** シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: 変更前イメージ列が、それに対応する変更後イメージ列も **CD** 表に組み込まれる場合のみ、組み込まれることを確認して、この登録について **CD** 表を訂正してください。

ASN0079E CAPTURE *capture_schema*. **CD** 表 *phys_chg_owner.phys_chg_tbl* と関連する登録について **IBMSNAP_REGISTER** 表を更新中に、**SQLCODE** *sqlcode* が戻されました。これらの行は、削除されている可能性があります。

説明: キャプチャー・プログラムは、指定された **CD** 表に対してデータがキャプチャーされたことを示すために **IBMSNAP_REGISTER** 表を更新しようとしたのですが、**DB2** がその行がもはや存在しないことを示す **SQLCODE** を戻しました。この登録は、ドロップされている可能性があります。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: 登録がドロップされている場合、この登録に対してこれ以上のアクションは必要ありません。登録をドロップする場合は、最初にその登録を非活動化することをお勧めします。**IBMSNAP_REGISTER** 表の中のこの行が誤って削除された場合は、関連付けられた **CD** 表をドロップして、登録を再作成してください。この登録と関連付けられているサブスクリプション・セットは、すべて非活動化してください。登録をドロップする必要がある場合は、これらのサブスクリプション・セットを活動化して、正常に実行できるように、関連付けられたサブスクリプション・セット・メンバーを除去してください。登録が再作成されると、関連する

サブスクリプション・セットについてフル・リフレッシュを実行するよう示すシグナルがアプライ・プログラムに送信されます。

ASN0080E CAPTURE *capture_schema*. **CD** 表
phys_chg_owner.phys_chg_tbl で表スペース
が**いっぱい**の状態が検出されました。この
表は、ソース表 *source_owner.source_table*
の登録と関連付けられています。

説明: キャプチャー・プログラムは、指定された CD 表への挿入を処理しようとしたのですが、表スペースが**いっぱい**の状態のため、挿入を処理できませんでした。通常、この状態は、CD 表スペースへのスペース割り振りが十分でなかったり、枝取りの頻度が低かったり、または枝取りの効果的に行われていないことなどが原因で発生します。このエラーにより、キャプチャー・プログラムは終了します。

ユーザーの処置: 以下のステップに従って、表スペースが**いっぱい**の状態が発生した原因を判別してください。

1. 通常の処理条件を実行するのに十分な表スペースがこの CD 表に割り振られていることを確認します。
2. キャプチャーのコントロール表のストレージ要件を減らすために、枝取りが適切な頻度で行われていることを確認します。
3. 通常の枝取り処理を実行するのに十分な頻度でアプライ・プログラムが実行されていることを確認します。
4. 通常の枝取りに必要な追加ステップを実行せずに、長期間サブスクリプション・セットが非活動化されていることを確認します。

追加情報については、「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

ASN0082W CAPTURE *capture_schema*. **キャプチャー・プログラム** が、**CD** 表
phys_chg_owner.phys_chg_tbl の中で、列
column_name を検出しましたが、この列
の長さ *CD_column_length* は、対応するソ
ース表 *source_owner.source_table* の長さ
src_column_length にある、対応する列の
長さよりも短くなっています。

説明: 登録の初期化中、キャプチャー・プログラムは、登録定義が、ソース表の中の対応する列の長さよりも短い列の長さを持つ列を CD 表に含んでいることを発見しました。この登録定義は許可されますが、キャプチャーされたソース表のデータが、定義された CD 表列の中に収まらない可能性があることを知らせる警告メッセージが表示されます。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの

登録に対してサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。登録は、正常に初期化されます。

ユーザーの処置: 登録をこの方法で定義しなければならない特別な理由がある場合 (たとえば、変更されたデータの長さが決して、CD 表の列の長さよりも長くなることはないことが確実な場合) を除き、ソース表と CD 表のデータ定義が完全に一致するように、登録を定義してください。

ASN0083E CAPTURE *capture_schema*. **CD** 表
phys_chg_owner.phys_chg_tbl への挿入を処
理しようとしたときに、**SQLCODE**
sqlcode が戻されました。**CD** 表列
column_name は短過ぎるため、ソース表
source_owner.source_table の中の対応する
列からキャプチャーされたデータを入れる
ことができません。登録は、キャプチャー
・プログラムにより停止されました。

説明: キャプチャー・プログラムは CD 表への挿入を処理しようとして、ソース表の中の対応する列の長さよりも短い列が CD 表に含まれていることを示す、DB2 からの **SQLCODE** を検出しました。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありませんが、この登録は停止状態に置かれます。

ユーザーの処置: この登録定義を再評価してください。ソース表の列と CD 表の列の長さが一致するように登録を変更するか、CD 表にトリガーを追加してデータを切り捨ててください。

ASN0084E CAPTURE *capture_schema*. ソース表
source_owner.source_table と **CD** 表
phys_chg_owner.phys_chg_tbl の登録が、**キャプチャー・プログラム**により停止されま
した。

説明: このエラー・メッセージは、キャプチャー・プログラムにより登録が停止状態に置かれる (STATE 列が **IBMSNAP_REGISTER** 表の中で 'S' の値に設定される) と必ず表示されます。このアクションの理由は、1 つ以上の前述のメッセージで説明されています。

ユーザーの処置: 前述のエラー・メッセージを調べて障害の原因を判別し、提案されているユーザー応答に従って、障害の発生している登録の定義を修正してください。登録定義の修理が終わったら、手動で **IBMSNAP_REGISTER** 表の中の STATE 列の値を 'I' に設定して、アプライ・プログラムにより登録が再度使用できることを示す必要があります。

ASN0100I CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムの初期化が成功しました。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0101W CAPTURE *capture_schema*. 既存データが古過ぎるため、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタートは失敗しました。コールド・スタートが試行されます。

説明: 変更データ表のデータが古過ぎます。コールド・スタートが実行されます。

ユーザーの処置: 「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」の中にあるキャプチャー・プログラムの操作に関する資料を参照してください。

ASN0102W CAPTURE *capture_schema*. ウォーム・スタート情報が十分でないため、キャプチャー・プログラムはコールド・スタートに切り替えます。

説明: 再始動情報の検索中に、問題が発生しました。再始動表のデータは無効です。コールド・スタートが実行されます。

- DB2 Universal Database に対して、DB2 がログを読み取り中、ウォーム・スタートをしようとして、非同期ログ読み取り API エラーが発生しました。
- z/OS に対して、DB2 がログを読み取っている間、ウォーム・スタート中に、Instrumentation Facility Information (IFI) エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」の中にあるキャプチャー・プログラムの操作に関する資料を参照してください。

ASN0104I CAPTURE *capture_schema*. **MAP_ID** *mapid* を持つ **CAPSTART** シグナルへの応答で、ソース表 *source_owner.source_table* に対し、ログ・シーケンス番号 *log_sequence_number* から開始されるログで検出された変更について、変更のキャプチャーが開始されました。

説明: キャプチャー・プログラムは、正常に CAPSTART シグナルを処理しました。これが特定のソース表と関連付けられた最初の CAPSTART シグナルの場合、このメッセージはキャプチャー・プログラムが現在、ソース表への更新をキャプチャー中であることを示します。これが、変更がすでにキャプチャー中の表に

対する CAPSTART シグナルである場合は、このメッセージは、キャプチャー・プログラムがシグナルを受信し、アプライ・プログラムが入力 MAP_ID 値と関連付けられたサブスクリプション・セットの変更の受信を開始できるように、必要な処理を実行したことを示しています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0105I CAPTURE *capture_schema*. *n* 行は、表 *table_owner.table_name* から *timestamp* に枝取りされました。

説明: キャプチャー・プログラムは、CD、UOW、TRACE、MONITOR、または SIGNAL 表からレコードを枝取りしました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0109I CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは正常に初期化され、*number* 登録に対するデータの変更をキャプチャー中です。 *Stopped_number* 登録は停止状態です。 *Inactive_number* 登録は非アクティブ状態です。

説明: このメッセージは、キャプチャー・プログラムが登録項目の再初期化を完了したときに表示されます。再初期化は、ウォーム・スタート中、CAPSTART シグナルの処理中、またはキャプチャーの REINIT コマンドに応答して行われます。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムがすべての登録に対する変更を取り込んでいる場合、アクションは不要です。それ以外の場合、前述のエラー・メッセージを調べて障害の原因を判別し、提案されているユーザー応答に従って、障害の発生している登録の定義を修正してください。登録の定義を修正したら、reinit パラメーターを指定して asncmd コマンドを発行してください。

ASN0111I CAPTURE *capture_schema*. 枝取り循環は、*timestamp* に開始されました。

説明: このメッセージは、各枝取り循環の開始時に発行されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0112I CAPTURE *capture_schema*. 枝取り循環が、*timestamp* に終了しました。

説明: このメッセージは、各枝取り循環の終了時に発行されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0113W CAPTURE *capture_schema*. あと 24 時間で、枝取り保存限界に到達します。

説明: この警告メッセージは、IBMSNAP_UOW 表の値が、保存限界の枝取りが翌日発生する可能性があることを示しているときに発行されます。

ユーザーの処置: なぜ通常の枝取りが行われていないのか、その理由を確認してください。通常これは、何日もの間、1 つ以上のアプライ・プログラムが実行されていないために、CD および UOW 表が効率的に枝取りできないために発生します。もう 1 つの原因としては、IBMSNAP_PRUNE_SET 表にある、対応する同期点の値を除去またはリセットせずに、サブスクリプション・セットを除去または非活動化したことが考えられます。レプリケーション・アナライザー・ツールを使って、この状況の詳細な分析を得ることができます。

ASN0114E CAPTURE *capture_schema*. *table_owner.table_name* の枝取り中に、枝取りが SQL コード *sqlcode* で失敗しました。

説明: このエラー・メッセージは、予期しない SQL エラー・コードで枝取りが失敗したときに発行されます。枝取りは終了し、次のインターバルまたはコマンド呼び出し時に再度試行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: SQL コードが一時エラーを示している場合は、アクションは必要ありません。そうでない場合は、DB2 メッセージおよびコード・リファレンスの中の、SQL エラーに対するアクションを行ってください。

ASN0121E CAPTURE *capture_schema*. 既存データが古過ぎるため、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタートは失敗しました。キャプチャー・プログラムは終了します。

説明: *lag_limit* パラメーターは、キャプチャー・プログラムが DB2 ログのレコード処理で遅延可能な時間を分単位で表します。キャプチャーは、ユーザー指定の *lag_limit* により許可されたものより古いトランザクションを処理するので、ウォーム・スタートはできません。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムのログ読み取りが遅れる原因を調べます。ラグ限界パラメーターを実用しないテスト環境の場合は、ラグ限界を高く設定し、キャプチャー・プログラムを再起動してください。また、テスト環境下のソース表のデータが非常に少ない場合は、キャプチャー・プログラムをコールド・スタートし、ターゲット表の全データを完全にリフレッシュしてください。

ASN0122E CAPTURE *capture_schema*. 再始動情報または DB2 ログの読み取り中に、エラーが発生しました。キャプチャー・プログラムは終了します。

説明: 再始動情報の検索中に、問題が発生しました。再始動表のデータが無効であるか、z/OS の場合は、再始動中にログを読み取っているときにインストゥルメンテーション機能インターフェース (IFI) エラーが発生しました。エラーが解決されたら、ウォーム・スタート・オプションを使って再始動できます。

ユーザーの処置: キャプチャーが IBMSNAP_RESTART から再始動情報を検索できない原因を調べます。問題の原因については、前のメッセージを参考にしてください。可能な場合は問題を訂正し、キャプチャーをウォームで再始動します。問題を訂正できない場合は、キャプチャーをコールドで再始動してください。

ASN0123I CAPTURE *capture_schema*. プログラムの終了時、正常にキャプチャーされたログ・レコードの一番高いログ・シーケンス番号は *max_commitseq* で、まだコミットされていないレコードの一番低いログ・シーケンス番号は *min_inflightseq* です。

説明: キャプチャー・プログラムは終了し、監査目的でその時点の再始動表の値を記録します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0133I CAPTURE *capture_schema*. AUTOSTOP 機能が指定されているため、キャプチャー・プログラムはアクティブ・ログの終わりに達したので終了します。

説明: ユーザー・オプション AUTOSTOP で要求されているように、キャプチャー・プログラムはアクティブ・ログの終わりに達したときに終了しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0142E CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは、モニター表 **IBMSNAP_CAPMON** に対して挿入操作を実行できません。SQL コードは *sqlcode* です。このインターバルのモニター情報は、スキップされます。

説明: このエラー・メッセージは、予期しない SQL コードでモニター・スレッドが失敗したときに発行されます。このインターバルのモニター関数はスキップされ、次のインターバルのときにプログラムは再試行します。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: SQL コードが一時エラーを示している場合は、アクションは必要ありません。そうでない場合は、DB2 メッセージおよびコード・リファレンスの中の、SQL エラーに対するアクションを行ってください。

ASN0143W CAPTURE *capture_schema*. プログラムは、ソース・データベース *src_db_name* がリストア、またはロールフォワードされたことを検出しました。キャプチャー・プログラムは、ウォーム・スタートからコールド・スタートに切り替えました。

説明: キャプチャー・プログラムは、WARMMSA または WARMMSI の開始モードで開始されました。キャプチャー・プログラムはウォーム・スタートを試行したとき、DB2 ログ読み取り API から、ソース・データベースがリストアまたはロールフォワードされ、ログ・シーケンス番号が再利用されたことを示す戻りコードを受信しました。ソース・データベースの状態とキャプチャーされたデータの整合性が、もはや取れていません。キャプチャー・プログラムは、コールド・スタートに切り替えました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0144E CAPTURE *capture_schema*. プログラムは、ソース・データベース *src_db_name* がリストア、またはロールフォワードされたことを検出しました。整合性をリストアするために、コールド・スタートをお勧めします。

説明: キャプチャー・プログラムは、WARMNS または WARMMSI の開始モードで開始されました。キャプチャー・プログラムはウォーム・スタートを試行したとき、DB2 ログ読み取り API から、ソース・データベースがリストアまたはロールフォワードされ、ログ・シーケンス番号が再利用されたことを示す戻りコードを受信しま

した。ソース・データベースの状態とキャプチャーされたデータの整合性が、もはや取れていません。キャプチャー・プログラムは終了され、コールド・スタートへの切り替えは自動的に行いません。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムのウォーム・スタートを実行しても安全だという確信がある場合は、キャプチャー・プログラムを再始動してください。2 度目の試行では終了されません。キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート後、キャプチャーされたデータが整合するかどうかについて確信が持てない場合は、キャプチャー・プログラムのコールド・スタートを実行することをお勧めします。

ASN0180W CAPTURE *capture_schema*. 表 **IBMSNAP_SIGNAL** は、キャプチャーが要求している **EBCDIC** 表ではありません。このシグナルは処理されました。

説明: キャプチャー・プログラムは、**IBMSNAP_SIGNAL** 表が **EBCDIC** 表として定義されていないことを検出しました。シグナルを **EBCDIC** に変換して正しく処理するために、追加処理が必要です。追加処理により、若干の性能低下が起きます。

ユーザーの処置: なるべく早く、以下のステップを実行してください。

1. キャプチャー・プログラムを停止します。
2. **IBMSNAP_SIGNAL** 表をドロップし、**EBCDIC** エンコードで再作成します。
3. キャプチャー・プログラムを再始動します。

ASN0181W CAPTURE *capture_schema*. タイム・スタンプ *signal_time* を持つシグナルの行は、もはや **IBMSNAP_SIGNAL** 表に存在しません。このシグナルは処理されました。

説明: キャプチャー・プログラムはシグナルからの要求を処理しましたが、**SIGNAL_STATE** および **SIGNAL_LSN** を更新できませんでした。そのため、シグナルの発行者はキャプチャー・プログラムがシグナルを受信したことを判別できません。

ユーザーの処置: 別のプロセスがキャプチャー・プログラムからのシグナルの更新を待機しているかどうかを判別し、必要に応じて、シグナルを再送信してください。

ASN0182W CAPTURE *capture_schema*. タイム・スタンプ *signal_time* を持つシグナルの行は、もはや **IBMSNAP_SIGNAL** 表に存在せず、この表は **EBCDIC** ではありません。シグナルは、キャプチャーより無視されます。

説明: キャプチャー・プログラムが **EBCDIC** でエンコードされていないシグナルを受信したために、初期化に障害が発生しました。キャプチャー・プログラムは、**IBMSNAP_SIGNAL** 表の行がもはや存在しないため、シグナルを **EBCDIC** に変換できませんでした。キャプチャー・プログラムは、どのシグナルが送信されて、無視されたのかを判別できません。

ユーザーの処置: どのシグナルが送信されたかを判別して、そのシグナルを再送信してください。

なるべく早く、以下のステップを実行してください。

1. キャプチャー・プログラムを停止します。
2. **IBMSNAP_SIGNAL** 表をドロップし、**EBCDIC** エンコードで再作成します。
3. キャプチャー・プログラムを再始動します。

ASN0183E CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは、**IBMSNAP_PARTITIONINFO** 表と **DB2** パーティション情報の間の不整合を検出しました。

説明: このエラー・メッセージは、以下の理由により発生したと思われます:

- 新規データベース・パーティションがデータベースに追加された。
- **IBMSNAP_PARTITIONINFO** コントロール表が破壊された。

ユーザーの処置: 新規パーティションが追加される場合は、キャプチャー・プログラムを **add_partition=Y** オプションで再起動してください。

IBMSNAP_PARTITIONINFO コントロール表が破壊されている場合は、キャプチャー・プログラムをコールド・スタートするか、または **IBM** ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN0184I CAPTURE *capture_schema*. ログ・シーケンス番号 *log_sequence_number* から始まるログにある変更に対して、キャプチャー・プログラムをパーティション *partition_num* で開始しました。

説明: 新規パーティションが **ADD_PARTITION** オプションを使用して追加されました。キャプチャー・プロ

ラムがそのパーティションの処理を開始しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0185I CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは必要なファイルを検出できなかったため、コントロール表 *control_table* および関連する索引 *index* をキャプチャー・プログラム・サーバーに作成しました。

説明: キャプチャー・プログラムは指定したコントロール表を必要としています。キャプチャー・プログラムがコントロール表を発見できない場合は、適当なキャプチャー・コントロール・サーバー上にコントロール表と関連索引を作成します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0186W CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムはソース・データベース *database* をパーティション *partition_ID* で検出できません。キャプチャー・プログラムは、このパーティションに対するログを処理できません。

説明: このパーティションは、ソース・データベースに認識されていません。キャプチャー・プログラムは、ソース・データベースに認識されているパーティションからのデータのみをキャプチャーします。

ユーザーの処置: データベースにパーティションを追加して、**ADD_PARTITION=Y** オプションを使用してキャプチャー・プログラムを再始動してください。パーティションが必要ない場合、除去してください。

ASN0187W CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは、以前 **DB2** で識別されたパーティション *partition_id* を検出できません。

説明: キャプチャー・プログラムは、以前 **DB2** で識別されたパーティションを検出できません。このパーティションは、マルチパーティション・ソース・サーバーの一部でなくなりました。

ユーザーの処置: 欠落しているパーティションが適切に除去されていることを確認してください。これ以上のアクションは不要です。

ASN0188I **CAPTURE** *capture_schema*. *n* 行が表 *src_owner.table* から *timestamp* に、保存限度の枝取りのために整理されました。

説明: キャプチャー・プログラムは、CD、UOW、TRACE、MONITOR、または SIGNAL 表から保存限度の枝取りのためにレコードを整理しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0189I **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは、登録済み表 *src_owner.table* でエラーが発生し、エラー時登録を停止するように構成されているため終了します。

説明: 登録は、STOP_ON_ERROR = Y です。キャプチャー・プログラムは、この直前のメッセージで示されたエラーのため終了します。

ユーザーの処置: 次のアクション (片方ないしは両方) を取り、キャプチャー・プログラムを再始動してください:

- 直前のメッセージで示されたエラーを訂正してください。
- レジスター (IBMSNAP_REGISTER) 表で、STOP_ON_ERROR=N に設定してください。

ASN0190I **CAPTURE** *capture_schema*. ソース表 *src_owner.table* の登録がエラーのために非活動化されました。キャプチャー・プログラムは終了しませんでした。

説明: キャプチャー・プログラムはこの直前のメッセージで示されたエラーのために、指定されたソース表の登録を非活動化しました。キャプチャー・プログラムは終了しませんでした。登録が STOP_ON_ERROR = N であるために稼働し続けます。

ユーザーの処置: 登録 (IBMSNAP_REGISTER) 表の STATE 列で確認される、このソース表に対するエラーを訂正し、登録を再活動化してください。登録を再活動化すると、フル・リフレッシュが実行されます。

フル・リフレッシュを今後回避するためには、STOP_ON_ERROR を Y に設定してエラーが発生した場合にキャプチャー・プログラムを終了するようにしてください。

ASN0500E *pgmname* : *program_qualifier* : パラメーター名 *parameter_name* に対して行われたパラメーター入力 *input_value* が無効です。

説明: プログラムまたはコマンド・プログラムが、指定された入力パラメーターで呼び出されましたが、そのパラメーターは無効です。このメッセージは、エラーを報告しているプログラムの名前を、パラメーター名と無効なパラメーター値と一緒に示しています。

ユーザーの処置: 有効な呼び出しパラメーターに関する資料をチェックして入力を訂正し、タスクまたはコマンドを再サブミットしてください。

ASN0501E *pgmname* : *program_qualifier* : パラメーター名 *parameter_name* に対して指定された値 *input_value* が正しいデータ・タイプではありません。

説明: プログラムまたはコマンド・プログラムが、関連データ・タイプを指定した入力値で呼び出されましたが、そのデータ・タイプは無効です。このメッセージは、エラーを報告しているプログラムの名前、誤った入力値、およびこの入力値が指定されたパラメーターの名前を示しています。

ユーザーの処置: パラメーター入力に正しいデータ・タイプが含まれるように呼び出しを訂正して、再サブミットしてください。

ASN0502E *pgmname* : *program_qualifier* : パラメーター名 *parameter_name* に対して指定された、長さ *invalid_string_length* の値 *input_value* は、ストリングの許容最大長 *allowed_string_length* より長くなっています。

説明: プログラムまたはコマンド・プログラムが、無効なストリング長を指定した入力値を使用して呼び出されました。このメッセージは、エラーを報告しているプログラムの名前、どの入力値が誤りか、およびこの入力値がどのパラメーターに対して指定されたかを示しています。

ユーザーの処置: パラメーター入力に正しいストリングの長さが含まれるように呼び出しを訂正して、再サブミットしてください。

ASN0503E *pgmname* : *program_qualifier* : パラメーター名 *parameter_name* に対して指定された整数値 *input_value* が、このパラメーターでサポートされている範囲外です。

説明: プログラムまたはコマンド・プログラムが、サポートされる範囲外の入力値を指定して呼び出されまし

た。このメッセージは、エラーを報告しているプログラムの名前、どの入力値が誤りか、およびこの入力値がどのパラメーターに対して指定されたかを示しています。

ユーザーの処置: パラメーター入力に正しい範囲値が含まれるように呼び出しを訂正して、再サブミットしてください。

ASN0504E *pgmname : program_qualifier* : プログラムが呼び出しパラメーター *incorrect_input* を認識できませんでした。

説明: プログラムまたはコマンド・プログラムが、指定されたパラメーターまたはコマンドで呼び出されましたが、そのパラメーターまたはコマンドは無効です。このメッセージは、どのプログラムがこのメッセージを発行したかと、認識されない呼び出し入力を示していません。

ユーザーの処置: 有効な入力パラメーターに関する資料をチェックして入力を訂正し、タスクまたはコマンドを再サブミットしてください。

ASN0505E *pgmname : program_qualifier* : プログラムが **IPC** キーを取得または設定できませんでした。

説明: プログラムまたはコマンド・プログラムは、コマンドの処理に必要な処理間通信を初期化できませんでした。このエラーにより、失敗したプログラムは終了します。

ユーザーの処置: 失敗したプログラムまたはコマンドを再試行してください。問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN0506E *pgmname : program_qualifier* : コマンドは処理されませんでした。*pgmname* プログラムはダウンしていると見なされます。

説明: ターゲット DB2 プログラムが実行されていないか、誤ったパラメーター値を入力した (たとえば、サーバー名、スキーマ、または修飾子のつづりを誤った) ために、コマンドが処理されませんでした。

ユーザーの処置: パラメーター値が正しく、実行中の DB2 レプリケーション・プログラムを識別していることを確認してください。コマンドを再発行してください。問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN0507E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、レプリケーション通信メッセージ・キューを作成できませんでした。

説明: プログラムまたはコマンドが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドを再発行してください。問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN0508E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、レプリケーション通信メッセージ・キューにメッセージを送信できませんでした。

説明: プログラムまたはコマンドが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドを再発行してください。問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN0509E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、誤ったメッセージ・バージョンのため、受信したメッセージを処理できませんでした。

説明: プログラムまたはコマンドが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドを再発行してください。問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN0510E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、応答メッセージの待機中にタイムアウトを検出しました。

説明: コマンド・プログラムが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドを再発行してください。問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN0511E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、不明メッセージ関数のため、受信したメッセージを処理できませんでした。

説明: プログラムが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドを再発行してください。問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN0512E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、そのレプリケーション通信メッセージ・キューから読み取れませんでした。

説明: プログラムが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドを再発行してください。問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN0513E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、*msg_file* という名前のメッセージ・ファイルをオープンできませんでした。

説明: プログラムが使用するこのメッセージ・ファイルが正しくインストールされていないか、または言語環境変数が正しく設定されていません。

ユーザーの処置: インストールと構成について、資料を参照してください。

ASN0514E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、ログ・ファイル *log_file* をオープンできませんでした。

説明: プログラムが、そのプログラム自身のメッセージ・ログのファイルをオープンしようとしたときに内部エラーが発生し、そのために異常終了しました。この問題は、そのファイルが誤って削除されたか、またはこの処理と関連付けられたユーザー ID がそのファイルをオープンするのに十分な権限を持っていなかったために発生した可能性があります。

ユーザーの処置: 処理ユーザー ID に、十分な権限が提供されていることを確認してください。ファイルが誤って削除されている場合は、プログラムを再始動して、新しいログ・ファイルを作成してください。

ASN0515E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、ログ・ファイルをクローズできませんでした。

説明: プログラムは、そのプログラム自身のメッセージ・ログとして使用されているファイルをクローズしようとしている間に、エラーを検出しました。このファイルは、プログラムが終了を試行する前に、誤って削除されている可能性があります。最終終了メッセージは、発行されない可能性があります。

ユーザーの処置: ファイルが誤って削除されている場合は、プログラムを再始動して、新しいログ・ファイルを作成してください。

ASN0516E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、メッセージ・カタログをクローズできませんでした。

説明: プログラムは、メッセージ・カタログ・ファイルをクローズしようとしている間に、内部エラーを検出しました。このファイルは、プログラムが終了を試行する前に、誤って削除されている可能性があります。最終終了メッセージは、発行されない可能性があります。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルが削除されている場合は、再インストールする必要があります。

ASN0517E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、そのレプリケーション通信メッセージ・キューからの読み取り機能を回復しました。

説明: プログラムは、直前の失敗後、コマンドの処理に必要な、メッセージ・キューからの読み取り機能を再初期化することができました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0518E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、複数のコマンドを受け入れません。

説明: コマンド・プログラムが、複数のコマンドを指定して呼び出されました。各コマンド呼び出しは、単一の入力コマンドを使い、他の必須コマンド入力と一緒に実行される必要があります。注: CHGPparms コマンドは、1 つの CHGPparms コマンドの呼び出しで、複数のパラメーターの変更を許可します。

ユーザーの処置: 無効なコマンド入力を訂正し、コマンドを再サブミットしてください。

ASN0519E *pgmname : program_qualifier :*
CHGPARMS パラメーター
parameter_name に対して指定されたパラ
メーター入力 *parameter_value* が無効で
す。

説明: CHGPARMS コマンドが、誤ったパラメーター入
力で呼び出されました。

ユーザーの処置: コマンド入力を訂正し、コマンドを再
サブミットしてください。

ASN0520I *pgmname : program_qualifier : STATUS*
コマンド応答: *thread_type* スレッドは
status_condition 状態にあります。

説明: **status** コマンドに応答して、コマンドを受け取
ったプログラムと関連するそれぞれのスレッドごとにこ
れらのメッセージの 1 つが発行され、スレッドの現在
の状態を提供します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクシ
ョンは必要ありません。

ASN0521I *pgmname : program_qualifier :*
QRYPARMS コマンド応答:
parameter_name は、方式 *method* によっ
て *parameter_value* に設定されました。

説明: **QRYPARMS** コマンドに応答して、それぞれの
プログラム・パラメーターごとにメッセージが発行され
ます。このメッセージは、パラメーターごとにパラメ
ーターの名前と現在の設定、およびそのパラメーターの
値を設定するためにユーザーが使用した方式 (デフォルト
による、IBMSNAP_CAPPARMS 表を変更する、始動
オプションによる、または CHGPARMS コマンドを使用
する) を示します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクシ
ョンは必要ありません。

ASN0522I *pgmname : program_qualifier : プログラム*
は *command_type* コマンドを受信しまし
た。

説明: プログラムは、処理するコマンドを受信しまし
た。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクシ
ョンは必要ありません。

ASN0523I *pgmname : program_qualifier :*
CHGPARMS コマンド応答:
parameter_name は *parameter_value* に設
定されました。

説明: **CHGPARMS** コマンドに応答して、変更された
それぞれのプログラム・パラメーターごとにこれらのメ
ッセージの 1 つが発行されます。各パラメーターごと
に、メッセージはそのパラメーターの新規値を提供しま
す。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクシ
ョンは必要ありません。

ASN0524E *pgmname : program_qualifier : プログラム*
の必須パラメーター *parameter_name* が指
定されていません。

説明: プログラムまたはコマンド・プログラムが、いず
れかの必須パラメーターを指定せずに呼び出されまし
た。欠落しているパラメーターが *capture_server* また
は *control_server* の場合、プログラムまたはコマンド
は、可能な場合、DB2DBDFT 環境変数設定を介して暗
黙的なデータベース名へのアクセスも試行しましたが、
これも成功しませんでした。

ユーザーの処置: 適切なパラメーターとそれに対応する
入力値が含まれるように、呼び出しを訂正してくださ
い。

ASN0525E *pgmname : program_qualifier : プログラム*
は、その外部通信メッセージ・キューから
読み取れませんでした。

説明: プログラムまたはコマンド・プログラムは、コマ
ンドの処理に必要な、外部通信メッセージ・キューから
の読み取り機能を初期化できませんでした。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドを再試行し、問題が
解決されないようであれば、IBM ソフトウェア・サポ
ートまで連絡してください。

ASN0526E *pgmname : program_qualifier : プログラム*
は、コマンド入力なしで呼び出されまし
た。

説明: コマンド・プログラムが、処理するコマンドなし
で呼び出されました。コマンド処理は実行されませ
ん。

ユーザーの処置: 必須入力をすべて指定して、コマンド
を再サブミットしてください。

ASN0527E *pgmname* : *program_qualifier* : プログラムは、**CHGPARMS** コマンド入力なしで呼び出されました。

説明: コマンド・プログラムが、CHGPARMS コマンドで呼び出されましたが、処理するコマンド入力がありませんでした。コマンド処理は実行されません。

ユーザーの処置: 必須入力をすべて指定して、コマンドを再サブミットしてください。

ASN0528E *pgmname* : *program_qualifier* : 必要なコントロール表 *tableowner.tablename* が存在しないため、プログラムは終了します。

説明: キャプチャーまたはアプライ・プログラムが、必要なキャプチャー・コントロール表に対して SQL 操作を実行しようとした。プログラムは、DB2 から *not found* 戻りコードを受信しました。この戻りコードは、移行が完了していない場合や、必要なキャプチャー・コントロール表が誤って環境からドロップされた場合に発生します。

ユーザーの処置: 欠落しているコントロール表の名前については、メッセージ・テキストを参照してください。この問題に対する訂正アクションは、どの表が欠落しているかによって異なります。たとえば、この表が **IBMSNAP_PRUNE_LOCK** であれば、単にこの表を再作成して、キャプチャー・プログラムを再始動できます。しかし、この表が **IBMSNAP_RESTART** で、正しい表の内容をリストアできない場合は、表を再作成して、キャプチャー・プログラムをコールド・スタートする必要があります。

ASN0529I *pgmname* : *program_qualifier* : *parameter_name* の値は、始動時に方式 *method* によって *parameter_value* に設定されました。

説明: プログラムが開始され、指定された始動オプションとパラメーター表の既存の内容の組み合わせに基づいて、プログラム・パラメーターが初期化されました。パラメーターは、デフォルトによる、パラメーター表を変更する、または始動オプションによる、のいずれかの方式で設定されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0530E *pgmname* : *program_qualifier* : プログラムは、データベース *database_name* にユーザー ID *user_id* で接続できませんでした。**SQLCODE** は *sql_code*。

説明: プログラムが次のいずれかの関数を発行したときに、エラーが発生しました。

- DB2 for VSE および VM への CONNECT 関数
- DB2 呼び出しアタッチメント関数 (CAF) への CONNECT 関数
- DB2 UDB への暗黙的接続

ユーザーの処置: ご使用オペレーティング・システム上の DB2 データベース・マネージャー用のメッセージとコード資料の DB2 コードで、該当する理由コードを参照してください。

DB2 for z/OS エラーの場合は、管理ガイドの中で、呼び出しアタッチメント機能について解説しているセクションを参照してください。質問や診断については、DBA にお問い合わせください。

DB2 UDB for UNIX のもとでプログラムを実行している場合、LIBPATH 環境変数がプログラムの始動時と同じ環境に設定されていることを確認してください。追加情報については、「DB2 レプリケーション・ガイド およびリファレンス」のレプリケーション用の設定に関する資料を参照してください。

ASN0531E *pgmname* : *program_qualifier* : プログラムは、プランをオープンできませんでした。**SQL** 戻りコードは *return_code*、理由コードは *reason_code*、サブシステム名は *DB2_subsystem*、およびプラン名は *plan_name*。

説明: プログラムがプラン、**ASNLPLAN** をオープンしようとしたときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 適切な理由コードを見つけるには、ご使用オペレーティング・システムの DB2 データベース・マネージャーの、メッセージとコード資料の中の DB2 コードを参照してください。管理ガイドの中で呼び出しアタッチメント機能について解説しているセクションを参照してください。

ASN0532E *pgmname* : *program_qualifier* : **DB2** リリース *release_number* はサポートされていません。

説明: プログラムは、この DB2 のリリースをサポートしていません。

ユーザーの処置: 適切な DB2 のリリースでプログラムを実行してください。

ASN0533E *pgmname : program_qualifier : DB2* は、異常終了しました。

説明: DB2 は、プログラムがまだアクティブの間に終了しました。

z/OS、VSE/ESA、または VM/ESA に対して、DB2 はプログラムがまだアクティブの間に終了し、ユーザーは NOTERM 呼び出しパラメーターを指定しませんでした。

ユーザーの処置: DB2 を開始して、プログラムを開始してください。

ASN0534E *pgmname : program_qualifier : DB2 database* は、*state* 状態のため、使用できません。

説明: DB2 は、プログラムがまだアクティブの間に終了しました。データベースは、UNDETERMINED、TERMINATED、QUIESCED、ROLLWARD、または ACTIVE のいずれかの状態にあります。

ユーザーの処置: DB2 を開始し、次にプログラムを開始してください。

ASN0535E *pgmname : program_qualifier : プログラム* は、データベース *db_server* から切断できませんでした。戻りコードは *return_code*、理由コードは *reason_code*。

説明: DB2 への接続を終了する間、プログラムは呼び出しアタッチメント機能 (CAF) からエラー・コードを受信しました。

ユーザーの処置: プログラムを再始動してください。

ASN0536E *pgmname : program_qualifier : インスタンス名* を取得中に、エラーが戻されました。**SQLCODE** は *sqlcode*。

説明: DB2 Universal Database の SQLEGENS API がエラーを戻しました。

ユーザーの処置: エラーを判別するために「DB2 Universal Database API リファレンス」で SQLEGENS API の詳細情報を参照するか、または IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN0537E *pgmname : program_qualifier : プログラム* は、データベース *database_name* に接続できませんでした。戻りコードは *return_code*、理由コードは *reason_code*。

説明: プログラムが次のいずれかの関数を発行したときに、エラーが発生しました。

- DB2 for VSE および VM への CONNECT 関数
- DB2 呼び出しアタッチメント関数 (CAF) への CONNECT 関数
- DB2 UDB への暗黙的接続

ユーザーの処置: ご使用オペレーティング・システム上の DB2 データベース・マネージャー用のメッセージとコード資料の DB2 コードで、該当する理由コードを参照してください。

DB2 for z/OS エラーの場合は、管理ガイドの中で、呼び出しアタッチメント機能について解説しているセクションを参照してください。質問や診断については、DBA にお問い合わせください。

DB2 UDB for UNIX のもとでプログラムを実行している場合、LIBPATH 環境変数がプログラムの始動時と同じ環境に設定されていることを確認してください。追加情報については、「DB2 レプリケーション・ガイド およびリファレンス」のレプリケーション用の設定に関する資料を参照してください。

ASN0538I *pgmname : program_qualifier : プログラム* は、**DB2** が立ち上がるのを待機中です。

説明: プログラムを最初に始動したときに DB2 がまだその時点で開始されていない場合、プログラムは DB2 が始動されるまで待機します。DB2 の開始後、キャプチャー・プログラムは接続を行って、変更のキャプチャーを開始します。

キャプチャーの呼び出しパラメーターに NOTERM オプションが指定されており、DB2 が順調に停止される場合、キャプチャー・プログラムはそれが始動されるのを待機します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0539E *pgmname : program_qualifier : データベースまたはサブシステム database_server_name* は、**LOGRETAIN=RECOVERY** で構成されている必要があります。

説明: キャプチャー・プログラムはコールドまたはウォーム・スタートを実行しようとしたが、ログ読み取りインターフェースがキャプチャー・プログラムによって使用されるように、ソース・データベースが正しく定義されていませんでした。データベース構成パラメーター LOGRETAIN に対して受け入れられる設定は、RECOVERY (または ON としても知られる) です。

ユーザーの処置: コマンドでデータベース構成を更新して、LOGRETAIN パラメーターの設定を変更してください。このパラメーターを RECOVERY (または ON)

に設定する場合は、このデータベースを任意のアプリケーションと一緒に使用する前に **backup** コマンドを使用してデータベースをバックアップする必要があることに注意してください。

ASN0540E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、ファイル *path_filename* から、パッケージ *pkg_name* に対する自動バインド操作を正常に実行できませんでした。
SQLSTATE *sqlstate* が戻されました。

説明: プログラムの実行には、バインドまたは再バインドが必要なことを検出しました。プログラムは自動バインドを試行しましたが、自動バインドは成功しませんでした。プログラムは初期化に失敗しました。

ユーザーの処置: 対応するデータベース・メッセージをチェックし、自動バインドの失敗の原因に関する追加の詳細情報がないか確認してください。失敗の原因としては、許可の失敗、コントロール表の欠落や誤り、またはバインド・ファイルがプログラムと一致していないことが考えられます。状態を訂正して、プログラムを再始動してください。

ASN0541E *pgmname : program_qualifier* : プログラム・パラメーター表 *parms_table* の列 *column_name* に対して、誤った値 *column_value* が指定されました。

説明: このメッセージは、IBMSNAP_CAPPARMS 表の妥当性検査でパラメーター値の設定の 1 つが無効であることが発見された場合、キャプチャー・プログラムの初期化中に発行されます。キャプチャー・プログラムは、このエラーにより終了します。

ユーザーの処置: この表で使用できる許可値について、資料をチェックしてください。値を訂正して、キャプチャー・プログラムを再始動してください。

ASN0542E *pgmname : program_qualifier* : ロック・タイムアウトまたはデッドロック再試行の最大数に達しました。

説明: プログラムが内部で、タイムアウトまたはデッドロック状態を複数回試行しました。永続的なロック状態を受け取るプログラム・タスクが重要なもの (ワーカー・スレッドなど) である場合、プログラムは終了します。プログラム・タスクが、枝取りやモニターなど、重要なものでない場合、タスクは後で再試行され、プログラムはアクティブな状態のままとなります。

ユーザーの処置: 対応するデータベース・メッセージをチェックし、ロック競合の原因に関する追加の詳細情報がないか確認してください。このエラーがユーザーによって保持されたロックなど、ユーザー・エラーである

場合は、状態を訂正してください。この状態が解説されないようであれば、IBM ソフトウェア・サポートまで連絡してください。

ASN0543E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、オブジェクト *object* のための *bytes_number* バイトのストレージを獲得できません。

説明: プログラムは、必要なメモリー内のストレージ構造のメモリーを獲得できません。プログラムは終了します。

ユーザーの処置: このプログラムに対するメモリー使用量を増やして、プログラムを再始動してください。

ASN0544E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、すでにアクティブです。

説明: 1 つの DB2 サブシステムまたはデータベースに対して複数のキャプチャー・プログラムを開始しようとしてしました。

ユーザーの処置: スキーマまたは修飾子が正しく指定されていることを確認してください。

- DB2 for z/OS サブシステムの場合、データ共有グループのメンバーであるすべてのサブシステムに対して、キャプチャー・プログラムの 1 つのインスタンスだけを実行するか、または 1 つのスタンドアロン・システム上で、キャプチャー・プログラムの 1 つだけのインスタンスを実行します。ユニーク・リソース名違反を判別するには、ENQ リソースを表示してください。
- その他の DB2 データベース・プラットフォームの場合は、所定のスキーマを使用して、1 つのデータベースごとに 1 つのキャプチャー・プログラムだけを実行します。

ASN0545E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、始動パラメーター **PWDFILE** で開始されましたが、パスワード・ファイル *password_file* が見つかりませんでした。

説明: プログラムがパスワード・ファイルを見つけられません。ユーザーは、PWDFILE パラメーターを介してパスワード・ファイル名を指定します。ユーザーがパス始動パラメーターを指定した場合、パスワード・ファイルはその指定されたディレクトリーにあるはずですが。ユーザーがパス始動パラメーターを指定していない場合、パスワード・ファイルは、プログラムが実行されている現行ディレクトリーにあるはずですが。

ユーザーの処置: パスワード・ファイル名が正しく指定

されており、正しいディレクトリーに置かれていることを確認してください。

ASN0546W *pgmname : program_qualifier* : 自動再始動マネージャーに対するプログラム呼び出しが失敗しました。呼び出された **IXCARM** マクロは *arm_call*、戻りコードは *return_code*、理由コードは *reason_code*。

説明: キャプチャーまたはアプライ・プログラムが、自動再始動マネージャー (ARM) に接続できないか、接続を切断できない、または作動可能状況指示を受信できません。メッセージは、失敗した呼び出しと、ARM からプログラムに戻された戻りコードまたは理由コードを表示しています。プログラムは終了しませんが、ARM 処理を続行できません。

ユーザーの処置: この失敗の原因について、自動再始動マネージャーの資料をチェックしてください。

ASN0547I *pgmname : program_qualifier* : 渡された置換変数の数 *nbr_vars* は、メッセージ番号 *msg_nbr* のテキストの中のトークンの数 *nbr_tokens* と一致しません。

説明: プログラム・コードとプログラム・メッセージ・ファイルが一致しません。プログラムとメッセージ・ファイル・カタログのリリース・レベルが一致しません。

ユーザーの処置: プログラム・メッセージ・ファイルが、適切なファイル許可設定で、正しくインストールされていることを確認してください。

ASN0548I *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、オペレーター停止コマンドを受信しました。

説明: この通知メッセージは、プログラムに対して停止コマンドが発行されたことを示しています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN0552E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、**SQL** エラーを検出しました。サーバー名は *server_name*。**SQL** 要求は *sql_request*。表名は *table_name*。**SQLCODE** は *sqlcode*。**SQLSTATE** は *sqlstate*。**SQLERRMC** は *sql_tokens*。**SQLERRP** は *error_module*。

説明: キャプチャー、アプライ、モニターのいずれかのプログラムが EXEC SQL ステートメントまたは CLI 呼び出しを発行したときに、ゼロ以外の **SQLCODE** が戻されました。この **SQLCODE** が戻された原因とし

て、スペース不足状態などの調査が必要な DB2 上の問題か、DB2 がアプリケーションで使用できないことが考えられます。このメッセージの後には、この **SQLCODE** が検出されたときに実行されていたレプリケーションに関する情報を示す、第 2 のメッセージが発行される場合があります。

ユーザーの処置: この **SQLCODE** の説明と DB2 で実行する必要がある修正アクションについては、ご使用のオペレーティング・システムの DB2 データベース・マネージャーのメッセージとコードの資料を参照してください。レプリケーションがこのメッセージの直後に他のメッセージを発行した場合、そのメッセージの説明とユーザー応答を参照してください。

ASN0553E *pgmname : program_qualifier* : *num_tokens* 置換フィールド *sub_tokens* を含むメッセージ番号 *msg_number* で内部エラー *error_number* が発生しました。

説明: *error number* は 10 進数の内部エラー番号で、以下のように定義されます。

- 1 インスタンスが無効です
- 2 アクセス否認
- 3 ファイルがありません
- 4 メッセージがありません
- 5 ロケールが無効です
- 6 システム・エラー
- 7 メモリー不足

msg_number は、プログラムが発行しようとしていたメッセージです。*num_tokens* は、このメッセージに提供される置換トークン (*pgmname* と *program_qualifier* トークンは含みません) の数です。*sub_tokens* は、エラーが発生したメッセージの置換トークンで、コンマで区切られます。

ユーザーの処置: 示されたエラー・コードに基づいて可能な修正アクションを実行してください。たとえば、メッセージ・ファイルが見つからなかった場合やアクセスできなかった場合、ファイル名を示すメッセージ ASN0513 も参照してください。正しい許可を持つメッセージ・ファイルが存在することを確認してください。エラー・コード 4 が出された場合、メッセージ・ファイルが古い可能性があります。

ASN0554E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、サーバー *server_name* で DB2 ログがいっぱいの状態を検出しました。

説明: プログラムは挿入または更新の処理を試行しましたが、DB2 トランザクション・ログがいっぱいのため、DB2 によって拒否されました。プログラムは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・ファイルが入っているファイル・システム上のスペース残量をチェックしてください。データベースの構成ファイルの最大ログ・サイズを拡大することを考慮してください。

ASN0555W *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、APF 許可されていないために自動リソース・マネージャー (ARM) に登録できません。

説明: キャプチャー、アプライ、またはモニターのいずれかのプログラムは、プログラム・ライブラリーが APF 許可されていないため、自動リソース・マネージャーのサービスを使用するための登録ができません。

ユーザーの処置: キャプチャー、アプライ、またはモニターのいずれかのプログラムを自動リソース・マネージャーに登録する場合は、プログラム・ライブラリーを APF 用に許可し、プログラムを再始動してください。

ASN0556E *pgmname : program_qualifier* : 無効な登録が検出されました。CD 表 *phys_chg_owner.phys_chg_tbl* は、基本表 *source_owner.source_table* に一致する列を持っていません。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、CD 表がソース表と一致する列を持っていないことを発見しました。この登録に対して何もキャプチャーできないため、無効であると考えられます。この登録の登録 (IBMSNAP_REGISTER) 表の STOP_ON_ERROR 列が N に設定されている場合、この登録は非アクティブ状態のままとなります。そうでない場合は、キャプチャー・プログラムが停止します。

ユーザーの処置: CD 表に、この登録のソース表と一致する列が少なくとも 1 つあることを確認してください。

ASN0557E *pgmname : program_qualifier* : ソース表 *source_owner.source_table* を持つ、*owner.table* の列 *column_name* の値 *column_value* は無効です。

説明: キャプチャー・プログラムが登録の初期化を試行し、その登録 (IBMSNAP_REGISTER) 表で、列に無効な値を検出しました。

ユーザーの処置: エラーになっている列の値を訂正してください。エラーの列の有効値については、登録表の説明を参照してください。

ASN0558E *pgmname : program_qualifier* : パラメーター表 *parameter_table* は、プログラム修飾子 *program_qualifier* に対応する 1 行だけを持つことができます。

説明: プログラム・パラメーター表が正しく定義されなかったか、無効な行を使って更新されました。

ユーザーの処置: *program_qualifier* に対応する行が、パラメーター表に 1 行しか存在しないことを確認してください。パラメーター表が、そのプログラム修飾子に対するユニーク索引を持っていることを確認してください。追加情報については、パラメーター表の説明を参照してください。

ASN0559W *pgm_name : program_qualifier* : ジョブを CPU 時間制限 *xx* 秒で開始しました。プログラムは、時間制限が切れた時点で終了します。

説明: z/OS 専用です。ジョブを CPU 時間制限 *xx* 秒で開始しました。プログラムは、時間制限が切れた時点で終了します。

ユーザーの処置: プログラムの実行を続行するには、現行ジョブを取り消してください。新規のジョブ制限として、NOLIMIT または 1440 を指定して、ジョブを再サブミットしてください。

ASN0560E *pgm_name : program_qualifier* : プログラムは *db_object object_name* をデータベース *db_name* に作成できません。

説明: プログラムはデータベースにデータベース・オブジェクトを作成できません。データベース・オブジェクトは、サーバー・コントロール表と同じオブジェクトの表スペースに作成されています。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージに関連する SQL エラー・コードを確認して、適切なアクションを取ってください。

ASN0561W *pgmname:program_qualifier*: プログラムのアプリケーションのコード・ページ *application_code_page* が、データベース *database* のコード・ページ *database_code_page* と同じではありません。

説明: OS/400 のみ。キャプチャー・プログラムのアプリケーションのコード・ページがデータをキャプチャーするデータベースのコード・ページと互換性がありません。キャプチャー・プログラムがデータを CD 表に挿入する時に、データの破壊または予期しないエラーが発生することになります。

ユーザーの処置: コード・ページに互換性がある場合には、アクションは不要です。互換性がない場合、キャプチャー・プログラムを停止し、アプリケーションのコード・ページをデータベースのコード・ページに変更してからキャプチャー・プログラムを再始動してください。

ASN0562E *pgmname:program_qualifier*: プログラムが既に稼動中かどうか確認中にエラーが発生しました。戻りコードは *return_code*。エラー・メッセージは *error_message*。操作は *operation*。

説明: プログラムがすでに稼動中かどうか確認中にエラーが発生しました。以下は、有効な戻りコードの値です。

- 1 Windows で、セマフォの作成中にプログラムがエラーを検出しました。
- 2 UNIX では、HOME 環境変数が見つかりませんでした。
- 3 **mkdir** コマンドが、HOME/sqllib ディレクトリーの作成中に失敗しました。
- 4 **mkdir** コマンドが、HOME/sqllib/dpropr ディレクトリーの作成中に失敗しました。
- 5 **fgets** 操作が pid ファイルからの行の読み取りに失敗しました。
- 6 **ps** コマンドが失敗しました。
- 7 grp ファイルの除去中にエラーが発生しました。
- 8 grp ファイルの読み取り中にエラーが発生しました。
- 9 pid ファイルのオープン中にエラーが発生しました。
- 10 pid ファイルに対する **fput** コマンドがエラーを出して終了しました。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、以下のオプションを指定して応答してください。

- 1 これは Windows の内部エラーです。Windows の解説書を参照してください。
- 2 UNIX では、HOME 環境変数が正しい値に設定されていることを確認してください。
- 3-10 HOME パスでディレクトリーおよびファイルを作成する正しい許可があるかどうか確認してください。

ASN0563W *pgmname:program_qualifier*: パラメーター *parameter-1* は、パラメーター *parameter-2* と互換性がありません。 *parameter-1* パラメーターは無視されます。

説明: プログラムは、コマンドあるいはパラメーター表で指定された両方のパラメーターで開始しました。これらのパラメーターに互換性はありません。プログラムが開始済みで実行を継続した場合、1 つのパラメーターが無視されます。

ユーザーの処置: 次回プログラムを開始するときは、プログラムが使用するパラメーターだけを指定してください。

ASN0564I *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、コントロール表 *control_table_name* 上で *sql_request* 操作を行って、スキーマ、所有者、および表の長い名前をサポートすることができませんでした。サーバー名は、*server_name*。SQLCODE は *sqlcode*。SQLSTATE は *sqlstate*。SQLERRMC は *sql_token*。SQLERRP は *module_name*。

説明: キャプチャー、アプライ、またはモニター・コントロール表は、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステム上で定義されます。コントロール表には、スキーマ、所有者、および表の長い名前をサポートしない列も含まれます。プログラムは、スキーマ、所有者、および表の長い名前をサポートするようにコントロール表を変換しようとしたましたが、その操作は成功しませんでした。レプリケーション・プログラムは実行を続行します。

ユーザーの処置: DB2 for z/OS の「メッセージおよびコード」資料を参照し、SQLCODE の説明および、DB2 で取るべき可能性のある訂正アクションの情報を調べてください。SQLCODE が -551 である場合には、以下のいずれかを行ってください。

- キャプチャー、アプライ、またはモニター・プログラムを開始するユーザー ID に対し、コントロール表での ALTER 特権を付与します。
- AASNSAMP member(ASN2M2V8) を実行し、すべてのレプリケーション・コントロール表がスキーマ、所有者、および表の長い名前をサポートするように、ALTER を実行します。

ASN0565E *program_name : program_identifier* : プログラムは統計を表 *table_name* 中に挿入できません。SQL 戻りコードは *sqlcode* です。このインターバルのデータはスキップされ、次のインターバルに組み込まれません。

説明: プログラムは活動に関する統計を保守しますが、予期しない SQL コードのためにこのデータを表に保管できませんでした。プログラムは、次のインターバルにデータの挿入を再試行します。

ユーザーの処置: SQL 戻りコードが一時エラーを示している場合は、アクションは不要です。そうでない場合は、DB2 メッセージおよびコード・リファレンスの中の、SQL エラーに対するアクションを行ってください。

ASN0566E *program_name : program_identifier* : 表 *table_name* の枝取りが、SQL 戻りコード *sqlcode* で失敗しました。

説明: 枝取りが予期しない SQL エラー・コードで失敗しました。このエラーによってプログラムが終了することはありません。次の枝取りのインターバルか、プログラムの再始動時に、プログラムは表の枝取りを再試行します。

ユーザーの処置: SQL 戻りコードが一時エラーを示している場合は、アクションは必要ありません。そうでない場合は、DB2 メッセージおよびコード・リファレンスの中の、SQL エラーに対するアクションを行ってください。

ASN0567I *program_name : program_identifier* : *number* 行が表 *table_name* から整理されました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN0568E *program_name : program_identifier* : 文字データをコード・ページ *code_page* から変換する際に、ICU エラーが発生しました。ICU 関数は *function_name* で、CCSID *CCSID* のコンバーターを使用しています。ICU 戻りコードは、*return_code* です。予期していた ICU バージョンは *version_number* です。詳細: *details*。

説明: 非互換バージョンの ICU (International Components for Unicode) が検出されました。ICU 関数は ICU API 名です。この API から戻りコードが戻されました。ICU 操作に関する詳細は、Q キャプチャー・プログラムに備えられています。

ユーザーの処置: ICU のバージョンが正しいことを確認し、プログラムの再始動を試行してください。

ASN0569E *program_name : program_identifier* : このプログラムが内部エラー *error_code* を検出しました。

説明: プログラムで予期しないエラーが発生しました。プログラムは終了します。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN0571E *program_name : program_identifier* : パラメーター表 *table_name* が空か複数の行が含まれているので、プログラムを開始できません。

説明: プログラム・パラメーター表の行数は 1 行でなければなりません。

ユーザーの処置: プログラムを開始する前に、レプリケーション管理ツールを使用し、パラメーター表の内容を再定義して、1 行だけ含まれるようにしてください。

ASN0572I *program_name : program_identifier* : プログラムは正常に初期化されました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN0573I *program_name : program_identifier* : プログラムが停止されました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN0574E *program_name : program_identifier :*
WebSphere MQ キュー・マネージャー
queue_manager_name が使用できないか、
開始されませんでした。プログラムは終了
します。

説明: プログラムを WebSphere MQ キュー・マネージャーに接続できません。このエラーにより、プログラムは終了します。

ユーザーの処置: プログラムを実行する前に、WebSphere MQ キュー・マネージャーが正常に開始されていることを確認してください。

ASN0575E *program_name : program_identifier :* プロ
グラムが、キュー *queue_name* で
WebSphere MQ コマンド *command* を発
行した際に、**WebSphere MQ** エラー
reason_code を検出しました。

説明: プログラムが WebSphere MQ コマンドを発行した際に、ゼロ以外の WebSphere MQ 理由コードが戻されました。この理由コードは、WebSphere MQ の問題(ストレージを WebSphere MQ オブジェクト用に使用できないなど)があるか、または WebSphere MQ を使用できないことを示しています。

ERROR_ACTION 値は、このエラーによるプログラムの動作を判別します。Q キャプチャー・プログラムの値は IBMQREP_SENDQUEUES 表に保管されます。Q Apply プログラムの値は IBMQREP_TARGETS 表に保管されます。

ユーザーの処置: この WebSphere MQ 理由コードの説明と、行う必要のあるアクションに関する情報は、「WebSphere MQ Application Programming Reference」中の理由コードの資料を参照してください。

ASN0576E *program_name : program_identifier :* プロ
グラムは **WebSphere MQ** キュー
queue_name にアクセスできません。

説明: コントロール表中にキューが存在しないか、または指定が誤っています。プログラムは、このエラーの結果として終了します。

ユーザーの処置: キュー名がコントロール表中で正しく指定されていることと、アプリケーション・プログラムにアクセスできることを確認してください。キューが存在しない場合は作成してください。

ASN0580E *program_name : program_identifier :* 製品
product_name のライセンスが見つかりま
せませんでした。

説明: プログラムはライセンスなしで実行できないので終了しました。

ユーザーの処置: プログラムのライセンスをインストールするか、IBM 担当員に連絡してください。

ASN0777I *pgmname : program_qualifier :* 追加情報
message_text、理由コード: *rc1*、*rc2*、
rc3。

説明: このメッセージの追加情報は、情報メッセージ・テキストを表示します。理由コードは、このメッセージ・テキストに関連する戻りコードの補足情報を示します。通知コード・フィールドが適用できない場合、"*" (アスタリスク) が表示されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0888E *pgmname : program_qualifier :* EEE エラ
ー条件 *message_text*、エラー・コード:
rc1、*rc2*、*rc3*。

説明: このメッセージの EEE エラー条件とは、示されたプログラムの中で発生し、示された修飾子(表示されている場合)が付いた、EEE 特定のエラーの記述です。エラー・コードは、このメッセージ・テキストに関連する補足情報を示します。エラー・コード・フィールドが適用できない場合、"*" (アスタリスク) が表示されます。

ユーザーの処置: EEE エラー条件の情報と、示されたエラー・コードの情報を参考にして、エラーの原因を判別してください。エラーを解決できない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN0999E *pgmname : program_qualifier :* エラー条件
message_text、エラー・コード: *rc1*、*rc2*、
rc3。

説明: このメッセージのエラー条件とは、示されたプログラムの中で発生し、示された修飾子(表示されている場合)が付いた、エラーの記述です。エラー・コードは、このメッセージ・テキストに関連する補足情報を示します。エラー・コード・フィールドが適用できない場合、"*" (アスタリスク) が表示されます。

ユーザーの処置: エラー条件の情報と、示されたエラー・コードの情報を参考にして、エラーの原因を判別してください。エラーを解決できない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN1001E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、SQL エラーを検出しました。**ERRCODE** は、*error_code*。**SQLSTATE** は、*sqlstate*。**SQLCODE** は、*sqlcode*。**SQLERRM** は、*sqlerrm*。**SQLERRP** は、*sqlerrp*。サーバー名は、*server_name*。表名は、*table_name*。

説明: SQL ステートメントの実行中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: SQL エラー・コードの説明については、ご使用のデータベース・メッセージ・リファレンスを参照してください。

ASN1002E **APPLY** *apply_qualifier*。 *table_name* をロックできませんでした。**ERRCODE** は *error_code*、**SQLSTATE** は *sqlstate*、**SQLCODE** は *sqlcode*、**SQLERRM** は *sqlerrm*、**SQLERRP** は *sqlerrp*、サーバー名は *server_name*、表名は *table_name*

説明: アプライ・プログラムは、表をロックできませんでした。

ユーザーの処置: ご使用のデータベース・メッセージ・リファレンスを参照してください。

ASN1003E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、サーバー *server* に接続できませんでした。

説明: アプライ・プログラムがデータベースへの接続を試みましたが、失敗の戻りコードを受信しました。アプライ・プログラムがデータベースに接続できなかったのには、さまざまな原因が考えられます。たとえば、データベースが停止中であったり、データベースにアクセスしているユーザーの数が多過ぎると、アプライ・プログラムは失敗の戻りコードを受信します。

ユーザーの処置: DB2 の「メッセージおよびコード」の資料で (アプライ・メッセージ・ログから) **SQLCODE** を探し、接続が失敗した理由を調べます。ユーザー ID とパスワードの保管については、「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」のレプリケーション用の設定に関する資料を参照してください。

SQL エラー・コードの説明については、ご使用のデータベース・メッセージ・リファレンスを参照してください。

ASN1006E **APPLY** *apply_qualifier*。製品登録モジュールが予期しない内容を持っています。

説明: DB2 レプリケーションの登録モジュール (ASNAPR61) の内容が、DB2 のこのバージョンに予期されないものです。正しい登録モジュールを提供するまで、これ以上製品をご使用いただけません。

ユーザーの処置: DB2 がエラーなしでインストールされたことを確認してください。エラーが発生している場合は、訂正してから再試行してください。

DB2 がエラーでインストールされており、機能登録モジュール (ASNAPR61) に正しくアクセスしている場合は、IBM ソフトウェア・サポートまでご連絡ください。

ASN1008E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ修飾子 *qualifier* と、セット名 *set_name* を持つサブスクリプション・セットが、正しく定義されていません。**ERRCODE** は、*error_code*。

説明: サブスクリプション・セットが、正しく定義されていません。

ユーザーの処置: サブスクリプション・セット表の中の **WHOS_ON_FIRST** 列が正しく指定されていることを確認してください。

ASN1009E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ修飾子 *qualifier* にサブスクリプション・セットが定義されていません。

説明: アプライ修飾子 *qualifier* にサブスクリプション・セットが定義されていません。

ユーザーの処置: アプライ修飾子 *qualifier* には、少なくとも 1 つのサブスクリプション・セットを定義してください。

ASN1010E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、次のエラーにより、行 *row* を監査証跡表に挿入できませんでした。エラー・コード: *error_code*。

説明: これは、監査証跡表が **IBMSNAP_APPLYTRAIL** 表と同じ構造で設定されていないことを示す SQL 戻りコードです。

ユーザーの処置: 「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」と、ご使用のデータベースの SQL マニュアルの中の表構造の資料を参照してください。

ASN1011E APPLY *apply_qualifier*. コピー要求に、非互換のソース属性とターゲット属性があります。 **SQL code is *error_code*.**

説明: これは、ターゲット表の属性がソース表の属性と互換性を持っていないければいけないことを示す SQL コードです。

ユーザーの処置: ソース属性とターゲット属性の互換性については、登録表の SOURCE_STRUCTURE 列を参照してください。

ASN1012E APPLY *apply_qualifier*. ソース表の構造が無効です。エラー・コードは、***error_code*** です。

説明: これは、登録表の中のソース表構造が、登録表の中の SOURCE_STRUCTURE 列に応じて設定されていないことを示す SQL 戻りコードです。

ユーザーの処置: IBMSNAP_REGISTER 表で使用される有効な SOURCE_STRUCTURE 列値については、「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」の表構造の資料を参照してください。

ASN1013E APPLY *apply_qualifier*. ターゲット表の構造が無効です。エラー・コードは、***error_code*** です。

説明: サブスクリプション・ターゲット・メンバー表の中のターゲット表の構造が無効です。

ユーザーの処置: 有効なターゲット表の構造については、「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」の表構造の資料を参照してください。

ASN1014E APPLY *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは変更データ表を見つけられなかったため、コピー要求のソースを見つけられませんでした。エラー・コードは、***error_code*** です。

説明: アプライ・プログラムが登録表に変更データ表名を見つけられなかったか、ソース表が正しく登録されていなかったため、変更データ表が登録表に正しく定義されませんでした。

ユーザーの処置: 「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」の表構造の資料を参照し、変更データ表が登録表の中で正しく定義されていることを確認してください。

ASN1015I APPLY *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、サーバー *server_name* のキャプチャー・プログラムがグローバル SYNCETIME を進めるのを待機中です。キャプチャー・プログラムが実行中であることを確認してください。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムが実行中であることを確認してください。

ASN1016I APPLY *apply_qualifier*. コピーのリフレッシュは、使用不可になっています。エラー・コードは、***error_code*** です。

説明: フル・リフレッシュを試行中、アプライ・プログラムが、登録表の中で、オンに設定された DISABLE_REFRESH 列を検出しました。

ユーザーの処置: DISABLE_REFRESH 列をオフにするか、アプライ・プログラムをバイパスして、手動でリフレッシュを実行してください。

ASN1017E APPLY *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、ターゲット列名を見つけられませんでした。エラー・コードは、***error_code***。

説明: アプライ・プログラムは、サブスクリプション列表の中で列を見つけられませんでした。

ユーザーの処置: サブスクリプション・セットとサブスクリプション・セット・メンバーを再定義してください。詳しくは、「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」のレプリケーション用の設定に関する資料を参照してください。

ASN1018I APPLY *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、サブスクリプション・セット *set_name(whos_on_first).(set_number /total_sets)* を処理中です。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN1019E APPLY *apply_qualifier*. ターゲット表には、キー欄がありません。エラー・コードは、***error_code***。

説明: アプライ・プログラムは、ユニーク索引または主キーを必要とする列のいずれかでキー欄の名前を見つけられません。

ユーザーの処置: サブスクリプション・セットと subscription-set メンバーを再定義してください。詳しくは、「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」のレプリケーション用の設定に関する資料を参照してください。

ASN1020E APPLY apply_qualifier. アプライ・プログラムは、ストレージ・ブロックを予約できませんでした。エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムは、必須 (メモリー) ストレージを獲得できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN1021E APPLY apply_qualifier. アプライ・プログラムは、作業ファイル *filename* を読み取れません。エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムは、システム・エラーのため、作業ファイルを読み取れません。

ユーザーの処置: 問題の原因がスペース不足によるものか判別し、システム管理者に連絡して必要なものを入手してください。

ASN1022E APPLY apply_qualifier. アプライ・プログラムは、作業ファイル *filename* に書き込めません。エラー・コードは、*error_code*。

説明: ユーザーが 1 つまたはすべてのファイルに対して適切なアクセス権限を持っていないか、ターゲット・ファイルへの書き込み後、十分なスペースが残っていません。

ユーザーの処置: 問題の原因がアクセス権限の不足、またはスペース不足によるものか判別し、システム管理者に連絡して必要なものを入手してください。

ASN1023E APPLY apply_qualifier. アプライ・プログラムは、作業ファイル *filename* をオープンできません。エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムは、作業ファイルをオープンできません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN1024E APPLY apply_qualifier. アプライ・プログラムは、作業ファイル *filename* をクローズできません。エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムは、作業ファイルをクローズできません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN1025I APPLY apply_qualifier. アプライ・プログラムは、サブスクリプション・セット *set_name(whos_on_first)* の処理を完了しました。戻りコードは *return_code* です。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN1026I APPLY apply_qualifier. アプライ・プログラムは、バインド試行中にエラーを検出しました。SQLSTATE は *sqlstate*、SQLCODE は *sqlcode*。

説明: バインドの実行中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ご使用のデータベース・メッセージ・リファレンスを参照してください。

ASN1027E APPLY apply_qualifier. 指定されているラージ・オブジェクト (LOB) 列の数が多過ぎます。エラー・コードは、*error_code*。

説明: サブスクリプション・セット・メンバーに指定されているラージ・オブジェクト (BLOB、CLOB、または DBCLOB) 列の数が多過ぎます。許可される最大列数は 10 です。

ユーザーの処置: 余分なラージ・オブジェクト列をサブスクリプション・セット・メンバーから除去してください。

ASN1028I APPLY apply_qualifier. キー欄の変更前イメージ列が見つかりません。エラー・コードは、*error_code*。

説明: TARGET_KEY_CHG=Y が指定されているメンバー用に設定されたサブスクリプションが誤っています。

ユーザーの処置: それぞれのキー欄 (IS_KEY=Y) ごとに、IBMSNAP_SUBS_COLS 表に変更前イメージ列が組み込まれている必要があります。組み込まれている変

更前イメージ列は、col_type=B (ユーザーによって指定)、または col_type=P (レプリケーションによって指定) のどちらでもかまいません。サブスクリプションを手動で設定した場合は、ユーザー自身で問題を訂正する必要があります。レプリケーション・センターかレプリケーション・コマンドを使用してサブスクリプションを設定した場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN1029E **APPLY** *apply_qualifier*. **whos_on_first** 値 *whos_on_first* を持つ、*set_name* という名前のサブスクリプション・セットの SQL ステートメントが正常に実行されませんでした。ステートメントは、**SQLCODE** *sqlcode* および **SQLSTATE** *sqlstate* で失敗しました。アプライ・プログラムの内部エラー・コードは、*error_code*。

説明: ユーザー指定の SQL ステートメントが、正常に実行されませんでした。

ユーザーの処置: 詳しくは、IBMSNAP_APPLYTRAIL 表の中で該当する情報と、ご使用のデータベースの SQL 資料を参照してください。

ASN1031E **APPLY** *apply_qualifier*. SQL ステートメントが空です。エラー・コードは、*error_code* です。

説明: SQL ステートメントが空ストリングです。

ユーザーの処置: 実行する SQL ステートメントを指定してください。

ASN1032E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムのログ・ファイルをオープンできません。エラー・コードは *error_code*、戻りコードは *return_code*。

説明: アプライ・プログラムが、ログ・ファイルをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: 戻りコードの詳細については、ご使用の特定オペレーティング・システムの問題判別について説明している資料を参照してください。

ASN1033E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、アプライ・ログ・ファイルに書き込めませんでした。エラー・コードは *error_code*、戻りコードは *return_code*。

説明: アプライ・プログラムは、ログ・ファイルに書き込めませんでした。

ユーザーの処置: 戻りコードの詳細については、ご使用の特定オペレーティング・システムの問題判別について説明している資料を参照してください。

ASN1034I **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムの初期化が成功しました。

説明: このメッセージは、アプライ処理の初期化の成功時に発行されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1035E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、サブスクリプション列表にアクセスできませんでした。エラー・コードは、*error_code*。 **SQLSTATE** は、*sqlstate*。 **SQLCODE** は、*sqlcode*。 **SQLERRM** は、*sqlerrm*。 **SQLERRP** は、*sqlerrp*。 サーバー名は、*server_name*。 表名は、*table_name*。

説明: SQL ステートメントの実行中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: SQL については、ご使用のデータベース・メッセージ・リファレンスを参照してください。

ASN1036E **APPLY** *apply_qualifier*. 式 *expression* の列タイプ *col_type* が無効です。エラー・コードは *error_code*。

説明: サブスクリプション列表の中の COL_TYPE 列の値が無効です。

ユーザーの処置: 値を A、B、C、D、F、L、または R に変更してください。

ASN1038E **APPLY** *apply_qualifier*. サブスクリプション列表に、列名または式が指定されていません。

説明: コピー・ステートメントの列名または式を指定する必要があります。

ユーザーの処置: サブスクリプション定義の要件については、「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」のレプリケーション用の設定に関する資料を参照してください。

ASN1039E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラム・プラン、*plan_name* をオープンできませんでした。エラー・コードは *error_code* です。戻りコードは *return_code*。理由コードは *reason_code*。

説明: アプライ・プログラム・プランをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: アプライ (z/OS 版) ・プログラム・ディレクトリーを参照してください。

ASN1040E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、z/OS エラーを検出しました。エラー・コードは *error_code*、戻りコードは *return_code*。

説明: z/OS システム操作の実行に失敗しました。

ユーザーの処置: z/OS システム・ライブラリー情報を参照してください。

ASN1041I **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、サブシステム名: *subsystem* を使って開始されました。

説明: このメッセージは、示されたサブシステム名を使用してアプライ・プログラムが開始したことを通知しています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1042W **APPLY** *apply_qualifier*. 呼び出しパラメーターの数が多過ぎます。

説明: アプライ・プログラムを呼び出すときに指定されたパラメーターの数が、許可される最大数を超過しています。

ユーザーの処置: 呼び出しパラメーターの適切な数については、ご使用のオペレーティング・システムのキャプチャーとアプライの章を参照してください。

ASN1043E **APPLY** *apply_qualifier*. このアプライ・プログラム修飾子 *qualifier* で実行されているアプライ・インスタンスが、すでに 1 つあります。エラー・コードは *error_code*、理由コードは *reason_code*。

説明: 検査試行が失敗しました。

ユーザーの処置: このサブシステムまたはデータベース上で、このユーザー ID を使って実行され、示されたアプライ修飾子が付いているアプライ・プログラムのインスタンスが 1 つしかないことを確認してください。

ASN1044I **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、*number* 分と *number* 秒の間、非アクティブになります。

説明: アプライ・プログラムは非アクティブです。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1045I **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、データベース *database* を使って開始されました。

説明: このメッセージは、どのデータベースからアプライ・プログラムが実行されているかを知らせるためのものです。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1047I **APPLY** *apply_qualifier*. 指定された列の数が多過ぎます。エラー・コードは、*error_code* です。

説明: サブスクリプションのメンバーに指定された列の数が多過ぎます。

ユーザーの処置: ユーザーは、サブスクリプションのメンバーに指定された列の数を削減する必要があります。サポートされている最大列数は、すべての列名の全長によって決定されます。列名の長さが短いほど、指定できる列数は多くなります。

ASN1048E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ循環の実行に失敗しました。詳しくは、アプライ・トレール表を参照してください。*text*

説明: アプライ循環が失敗しました。メッセージの中で、*text* は、*target_server*、*target_owner*、*target_table*、*stmt_number*、および *cntl_server* を識別します。

ユーザーの処置: 監査証跡表の中の APPERRM フィールドをチェックして、アプライ循環の失敗の理由を判別してください。

ASN1049E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、システム・エラーを検出しました。エラー・コードは、*error_code*。戻りコードは *return_code*。

説明: システム操作の実行に失敗しました。

ユーザーの処置: ご使用のオペレーティング・システムのシステム・ライブラリー情報を参照してください。

ASN1050E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、ターゲット表の更新中に無効な操作を検出しました。エラー・コードは、*error_code* です。適用しようとしている操作は、*operation* です。

説明: ソース表から取り出された行の命令フィールドが無効です。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN1051E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、ソース *source* 表とターゲット表との間にギャップを検出しました。エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムは、アプライ・プログラムが変更データをコピーする前に、キャプチャー・プログラムがそのデータを逸失したことを検出しました。たとえば、キャプチャー・プログラムがコールド・スタートされたか、保存限界の枝取りが発生した可能性があります。

ユーザーの処置: コントロール表をチェックして、なぜギャップが存在するのかを判別してください。コントロール表情報をリセットして定義を実行する前に、データ保全性を保持するための適切なアクションを行ってください。

ASN1052E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、**ASNLOAD** プログラムを見つけられませんでした。

説明: アプライ・プログラムは、現行ディレクトリーで **ASNLOAD** プログラムを見つけられませんでした。

ユーザーの処置: **ASNLOAD** が、アプライ・プログラムを呼び出しているディレクトリーにあることを確認してください。

ASN1053E **APPLY** *apply_qualifier*. **ASNLOAD** 出口ルーチンの実行に失敗しました。戻りコードは、*return_code* です。

説明: **ASNLOAD** 出口ルーチンはエラーを検出し、そのエラー情報をアプライ・プログラムに戻しました。以下は、有効な戻りコードの値です。

98

予期しないエラーが発生しました (**ASNLOAD** 出口ルーチンが予期しないエラーが発生して失敗しました。処理は実行されません)。

99

DB2 **pwdfile** キーワードが提供されました - パスワード・ファイルが見つかりません (**pwdfile** パラメーターは渡されましたが、パスワード・ファイルが見つかりませんでした。これはエラーであり、接続またはその他のいずれの処理も行われません)。

100

user/using 句を使った **DB2** 接続が失敗しました。 **pwdfile** が見つかりました (**user/using** 句を使った接続は、暗号化されたアプライ・パスワード・ファイルにある値を使って行われました。この **DB2** サーバーに対する、パスワード・ファイルとユーザー ID/パスワードの組み合わせは見つかりましたが、接続は失敗しました)。

101

user/using 句なしの **DB2** 接続が失敗しました - **pwdfile** は見つかりません (パスワード・ファイルが提供されていないため、**user/using** 句なしで接続が行われました。接続は失敗しました)。

102

user/using 句なしの **DB2** 接続が失敗しました - **pwdfile** が見つかりましたが、項目がありません (**DB2** サーバーの **pwdfile** にサーバー項目が見つからないため、**user/using** 句なしで接続が行われました。接続は失敗しました)。

103

user/using 句なしの **DB2** 接続が失敗しました - **asnload.ini** からの **uid/pwd** が使用されました (**asnload.ini** ファイルの中の値を使用して、**user/using** 句を使った接続が行われました。 **DB2** サーバーに対するファイルとユーザー ID/パスワードの組み合わせは見つかりましたが、接続に失敗しました)。

104

user/using 句なしの **DB2** 接続が失敗しました - **asnload.ini** が見つかりませんでした (**asnload.ini** ファイルが見つからなかったため、**user/using** 句なしの接続が行われました。接続は失敗しました)。

105

user/using 句なしの **DB2** 接続が失敗しました - サーバーの **uid/pwd** が見つかりません (**user/using** 句なしの接続が行われました。 **asnload.ini** ファイルは見つかりましたが、ユーザー ID とパスワードの組み合わせが提供されていません。接続は失敗しました)。

106

ユーザーが **LOADX_TYPE = 2** 指定しましたが、ユーザー・コードが提供されていません (表 **ASN.IBMSNAP_SUBS_MEMBR** の **LOADX_TYPE** の値

がユーザーによって 2 の値に設定されました。これはユーザーが ASNLOAD 出口ルーチンにカスタム・コードを提供することを示しています。しかし、このコードは見つからず、アプライ・プログラムが 2 の LOADX_TYPE 値を渡したときに、ASNLOAD 出口ルーチンが失敗しました。)

107

DB2 インポート・ユーティリティが失敗しました (インポート・ユーティリティの実行に失敗しました。このユーティリティによって戻された SQL コードが、理由コードとして渡されます)。

108

DB2 エクスポート・ユーティリティが失敗しました (エクスポート・ユーティリティの実行に失敗しました。このユーティリティによって戻された SQL コードが、理由コードとして渡されます)。

109

DB2 ロード・ユーティリティが失敗しました (ロード・ユーティリティの実行に失敗しました。このユーティリティによって戻された SQL コードが、理由コードとして渡されます)。

110

DB2 ロード・ユーティリティが失敗しました - クロスロードとして呼び出されました (ロード・ユーティリティの実行に失敗しました。ロード・ユーティリティは、カーソル・オプションからのロードを使って呼び出されました。このユーティリティによって戻された SQL コードが、理由コードとして渡されます)。

111

ユーザーが LOADX_TYPE を無効な値に設定しました (ASNLOAD 出口ルーチンは、ユーザーによって設定された LOADX_TYPE 値で呼び出されました。LOADX_TYPE 値はこの環境には無効なため、ASNLOAD 出口ルーチンは失敗しました)。

112

LOADX_TYPE 3 には、選択のためのニックネームが必要です (ASNLOAD 出口ルーチンが失敗しました。ASNLOAD 出口ルーチンは、ユーザーによって設定された LOADX_TYPE 値で呼び出されました。ニックネームがリモート DB2 ソース表用に作成されて、ASN.IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表に保管されているのでない限り、LOADX_TYPE 値はこの環境に無効です)。

113

LOADX_TYPE 4 は、ターゲット表と非互換です (ASNLOAD 出口ルーチンが失敗しました。ASNLOAD 出口ルーチンが、ユーザーによって設定された

LOADX_TYPE で呼び出されました。DB2 Linux/UNIX/Windows ロード・ユーティリティによってターゲット表を保守できないため、LOADX_TYPE 値はこの環境には無効です)。

114

LOADX_TYPE 5 は、ターゲット表と非互換です (ASNLOAD 出口ルーチンが失敗しました。ASNLOAD 出口ルーチンが、ユーザーによって設定された LOADX_TYPE で呼び出されました。DB2 インポート・ユーティリティによってターゲット表を保守できないため、LOADX_TYPE 値はこの環境には無効です)。

115

ASNDLCOPY 出口ルーチンが失敗しました (サブスクリプション・セット・メンバーに DATALINK 列があったために、ASNLOAD 出口ルーチンが ASNDLCOPY 出口ルーチンを呼び出しました。ASNDLCOPY 出口ルーチンが失敗したため、このサブスクリプション・セット・メンバーをロードする処理も失敗しました)。

ユーザーの処置: 戻りコードとそれに対応する説明をチェックしてください (上記)。ASNLOAD メッセージ・ファイルと、DB2 ユーティリティによって生成されたメッセージ・ファイルで、追加情報をチェックしてください。

ASN1054E APPLY *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、IBMSNAP_REGISTER または IBMSNAP_PRUNCNTL 表の中に、ソース所有者 *src_ownr*、ソース表 *src_tbl*、およびソース・ビュー修飾子 *src_view_qual* に対する、セット名 *set_name* を持つサブスクリプション・セット・メンバーに対応する行を検出できませんでした。

説明: ソース表登録が誤りか、完了していません。

ユーザーの処置: 登録をドロップして、再定義してください。

ASN1055E APPLY *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、ソース所有者 *src_ownr*、ソース表 *src_tbl*、ソース・ビュー修飾子 *src_view_qual*、ターゲット所有者 *tgt_ownr*、およびターゲット表 *tgt_tbl* に対する整理制御情報を見つけられません。

説明: ソース表登録が正しくありません。

ユーザーの処置: サブスクリプションをドロップして、再実行してください。

ASN1056E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、ユーザー ID/パスワードがないため、サーバーに接続できませんでした。エラー・コードは、*error_code* です。

説明: アプライ・プログラムは、サーバーに接続するためのパスワードとユーザー ID を検出できませんでした。

ユーザーの処置: アプライ・プログラムのパスワード・ファイルが存在することを確認してください。アプライ・プログラムのパスワード・ファイルは、アプライ・プログラムの開始ディレクトリーと同じ場所にあります。DB2 Universal Database Satellite Edition を使用している場合は、パスワードとユーザー ID がクライアント・システムに定義されていることを確認してください。

ASN1057E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、アプライ・パスワード・ファイルのパスワードを読み取れませんでした。エラー・コードは、*error_code* です。

説明: アプライ・プログラムは、パスワードを検出できませんでした。

ユーザーの処置: AUTHENTICATION=SERVER スキームを使用したい場合は、ご使用のオペレーティング・システムのキャプチャーとアプライの章の中のアプライ・プログラム・セクションに記述されているように、パスワードを指定する必要があります。

ASN1058E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、パスワード・ファイルをクローズできませんでした。エラー・コードは、*error_code* です。

説明: アプライ・プログラムは、パスワード・ファイルをクローズできませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN1059E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、パスワード・ファイルの *line* 行目で、無効な構文を検出しました。エラー・コードは、*error_code* です。

説明: アプライ・プログラムは、パスワード・ファイルの中の 1 行を認識できませんでした。

ユーザーの処置: パスワード・ファイルの中の構文エラーを訂正してください。ご使用のオペレーティング・システムのキャプチャーとアプライの章の中のアプライ・プログラム・セクションを参照してください。

ASN1060E **APPLY** *apply_qualifier*. 一時作業ファイルの動的割り振りに失敗しました。エラー・コードは、*error_code* です。

説明: 動的割り振り中に、システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN1061E **APPLY** *apply_qualifier*. 示されたキーワード・パラメーターが無効です。エラー・コードは、*error_code* です。

説明: 無効な呼び出しパラメーターが指定され、アプライ・プログラムによって無視されました。

ユーザーの処置: 呼び出しパラメーターを訂正してください。ご使用のオペレーティング・システムのキャプチャーとアプライの章の中のアプライ・プログラム・セクションを参照してください。

ASN1062W **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、このサブスクリプション・セット・メンバーのフル・リフレッシュの実行には **SELECT** および **INSERT** ステートメントを使用する必要があります。次の情報はこのサブスクリプション・セット・メンバーに関連するものです。セット名は *set_name*、ソース所有者は *source_owner*、ソース表は *source_table*、ソース・ビュー修飾子は *source_view_qual*、ターゲット所有者は *target_owner*、およびターゲット表は *target_table*。

説明: ASNLOAD 出口ルーチンがユーザー指定の LOADX_TYPE 値を検出できず、このサブスクリプション・セット・メンバーを処理するために使用できるユーティリティがありません。そのため、ASNLOAD 出口ルーチンは、アプライ・プログラムにフル・リフレッシュのコントロールを渡します。ASNLOAD 出口ルーチンは、一部のターゲット表タイプ (Sybase や MS SQL サーバーのターゲット表など) を現在サポートしておらず、処理できません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。ただし、ASNLOAD 出口ルーチンによる不必要な処理を避けるために、これらのサブスクリプション・セット・メンバーに対して、LOADX_TYPE の値を 1 に設定することができます。

ASN1063E APPLY *apply_qualifier*. サブスクリプション・セットは、**200** を超えるメンバーを持つことはできません。エラー・コードは、*error_code*。

説明: サブスクリプションの数が、最大許可数の 200 を超えています。

ユーザーの処置: 余分なメンバーをサブスクリプション・セットから除去してください。

ASN1064W APPLY *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、サブスクリプション・セット *set_name* に対してフル・リフレッシュを実行できません。これは、このソースに対してキャプチャー・プログラムがまだコールド・スタートされていないためです。

説明: アプライ・プログラムはこのサブスクリプション・セットに対し、フル・リフレッシュを試行できません。これは、このソースに対してキャプチャー・プログラムが今までにコールド・スタートされたことがなく、アプライ・プログラムによって挿入される CAPSTART シグナルの処理準備ができていないためです。

ユーザーの処置: このソースに対して、キャプチャー・プログラムを開始してください。

ASN1065E APPLY *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、ソース表の登録が停止しているものがあるため、サブスクリプション・セット *set_name* のデータを処理できません。

説明: アプライ・プログラムは、IBMSNAP_REGISTER 表に 'S' の状態の登録は少なくとも 1 つあるため、このサブスクリプション・セットのデータを処理できません。

キャプチャー・プログラムは、ユーザー介入の必要な問題が登録にある場合、その登録を停止状態にします。エラー情報については、IBMSNAP_REGISTER 表の STATE_INFO 列を参照してください。その登録についてキャプチャーされたデータの健全性に問題が生じている可能性があるため、アプライ・プログラムはフル・リフレッシュを実行する必要があります。この問題は、登録済みソース表がデータ・キャプチャーなしで変更されたことがない場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: エラー・メッセージからの情報を使って、停止された登録を修正してください。登録を再び活動化してください。登録を再活動化する場合には、アプライ・プログラムがリフレッシュを実行します。

ASN1066E APPLY *apply_qualifier*. 内部アプライ・プログラム・エラーが発生しました。エラー・コードは、*error_code* です。

説明: 内部アプライ・プログラム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN1067E APPLY *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、更新の矛盾を検出し、拒否されたトランザクションを補正しました。詳しくは、作業単位表を参照してください。エラー・コードは、*error_code*。

説明: 複数のアプリケーションが別々のロケーションから、1 つの表の中の同じ行を更新しました。一部のトランザクションが拒否されて、補正されました。

ユーザーの処置: 詳しくは、「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

ASN1068E APPLY *apply_qualifier*. 制約違反のため、アプライ・プログラムはサブスクリプションを非活動化しました。エラー・コードは、*error_code* です。

説明: ソース表からターゲット表にデータをコピー中、制約違反が検出されました。アプライ・プログラムは終了され、サブスクリプションが非活動化されました。

ユーザーの処置: 制約エラーを訂正して、サブスクリプションを再度活動化してください。

ASN1070E APPLY *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、ターゲット表をロックできませんでした。ERRCODE は、*error_code*。SQLSTATE は *sqlstate*。SQLCODE は *sqlcode*。SQLERRM は *sqlerrm*。SQLERRP は *sqlerrp*。サーバー名は *server_name*。表名は *table_name*。

説明: アプライ・プログラムは、更新の矛盾をチェックする前に、ターゲット表をロックできませんでした。

ユーザーの処置: アプライを再始動する前に、すべてのターゲット表が使用可能であることを確認してください。

ASN1071E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、作業ファイル位置変更できませんでした。エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムは、一時作業ファイルの読み取り中にエラーを検出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN1072E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、**ASNDONE** プログラムを見つけられませんでした。

説明: アプライ・プログラムは、ユーザー出口プログラム、ASNDONE を検出できませんでした。

ユーザーの処置: ASNDONE プログラムが正しいディレクトリーにあることを確認してください。

ASN1073E **APPLY** *apply_qualifier*。ASNDONE プログラムの実行に失敗しました。戻りコードは、*return_code* です。

説明: ユーザー出口プログラム、ASNDONE の呼び出し中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN1074E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、**ASNDLCOPY** プログラムを検出できませんでした。

説明: アプライ・プログラムは、現在の検索パスでASNDLCOPY プログラムを検出できませんでした。

ユーザーの処置: ASNDLCOPY プログラムを検索パスに追加して、再度アプライ・プログラムを実行してください。

ASN1075E **APPLY** *apply_qualifier*。ASNDLCOPY プログラムが失敗しました。戻りコードは、*return_code*。追加情報については、**ASNDL** *file*を参照してください。

説明: ASNDLCOPY プログラムはエラーを検出し、そのエラー情報をアプライ・プログラムに渡しました。以下は、有効な戻りコードの値です。

98

予期しないエラーが発生しました。

99

ASNDLCOPY プログラムに渡された引き数が無効です。

100

メモリーを割り振れません。

101

ASNDLSRVMAP 構成ファイルをオープンできません。

102

ASNDLSRVMAP 構成ファイルの中の項目数が最大限度を超えています。

103

ASNDLSRVMAP 構成ファイルで無効な項目が検出されました。

104

ASNDLUSER 構成ファイルの中で、指定されたファイル・サーバーに対するユーザー・ログイン情報が見つかりません。

105

ASNDLPARM 構成ファイルで無効な項目が検出されました。

106

ASNDLUSER 構成ファイルをオープンできません。

107

ASNDLUSER 構成ファイルで無効な項目が検出されました。

108

入力ファイルからの読み取り中に、入出力エラーが発生しました。

109

入力ファイルで無効な項目が検出されました。

110

入力ファイルをオープンできません。

111

結果ファイルをオープンできません。

112

結果ファイルへの書き込み中に、入出力エラーが発生しました。

113

FTP プロトコルのコントロール・チャンネルの初期化中に、エラーが発生しました。

114

コントロール・チャンネルを介してデータを送信中に、エラーが発生しました。

115

指定されたユーザーとパスワードを使ってファイル・サーバーにログオンできません。

116

コピー・デーモンがまだ開始されていません。

117

FTP プロトコルのデータ・チャンネルの初期化中に、エラーが発生しました。

118

ソース・ファイル・サーバーからファイルを検索できません。

119

ターゲット・ファイル・サーバーにファイルを保管できません。

120

受動モードでファイルを転送中に、エラーが発生しました。

121

指定されたファイル参照に対するパス・マッピングが見つかりません。

122

FTP BINARY コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

123

FTP SIZE コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

124

FTP MODTIME コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

125

FTP SITE UMASK コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

126

FTP SITE TOUCH コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

127

FTP SITE CHMOD コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 戻りコードとそれに対応する意味をチ

ェックしてください (上記)。戻りコードは、製品と一緒に出荷されているサンプル ASNDLCOPY プログラムを基にしています。ログ・ファイルに追加情報があります。

ASN1076E アプライ・プログラムは、**ASNDLCOPY** プログラムによって生成された結果ファイルの形式を読み取れません。

説明: ASNDLCOPY プログラムによって生成された結果ファイルが、予期していた形式ではありません。

ユーザーの処置: ASNDLCOPY プログラムを変更した場合は、その変更が原因で形式が無効になったのかどうかチェックしてください。変更が問題の原因ではない場合、マシンに結果ファイル用のスペースが十分にあるかチェックしてください。

ASN1077E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、ターゲット表の更新中に無効な **DATALINK** 列を検出しました。エラー・コードは、*error_code* です。

説明: ソース表から取り出された行の **DATALINK** 列が無効です。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN1078E **APPLY** *apply_qualifier*。 **ASNDLCOPY** プログラムは、シグナル *signal_number* によって終了されました。追加情報については、*filename* ファイルを参照してください。

説明: ASNDLCOPY プログラムは、指定されたシグナルで異常終了しました。

ユーザーの処置: 指定されたログ・ファイルで、エラーの原因をチェックしてください。ASNDLCOPY プログラムを変更し、その変更されたモードによってシグナルが生成されている場合は、コードを修正して、再実行してください。問題が解決されない場合は、IBM ソフトウェア・サポートまでご連絡ください。

ASN1079E **APPLY** *apply_qualifier*.
MEMBER_STATE は、次では無効です：
WHOS_ON_FIRST *whos_on_first* に対する設定 *set_name*、ソース所有者 *source_owner*、ソース表 *source_table*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット所有者 *target_owner*、およびターゲット表 *target_table*

説明: IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表の MEMBER_STATE 列に無効な更新がされました。この列の有効な値は以下のとおりです: 'N'、'L'、'S'、または 'D'。

ユーザーの処置: 有効な値で MEMBER_STATE 列を更新し、アプライ・プログラムを再度起動します。MEMBER_STATE 列の値についての詳細は、IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表を参照してください。

ASN1097I **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムが停止されました。

説明: この前に報告されたエラーが原因で、アプライ・プログラムが停止されました。

ユーザーの処置: このメッセージの前に報告されたエラーを修正してください。

ASN1207E **APPLY** *apply_qualifier*. *subscription* のサブスクリプションが活動化されていません。

説明: 選択されたサブスクリプションは、非アクティブです。

ユーザーの処置: このサブスクリプションを活動化するか、別のサブスクリプションを選択してください。

ASN1210E **APPLY** *apply_qualifier*. キーワード **-q** の後に、アプライ修飾子を指定する必要があります。

説明: キーワード **-q** の後にアプライ修飾子を指定する必要があります。

ユーザーの処置: キーワード **-q** の後にアプライ修飾子を指定してください。

ASN1212E **APPLY** *apply_qualifier*. キーワード *keyword* の後に、読み取り専用セット名 *set_name* が検出されました。

説明: キーワード **U** または **D** の後に、読み取り専用セット名が指定されました。

ユーザーの処置: キーワード **U** および **D** のレプリカだけを指定してください。

ASN1221I **APPLY** *apply_qualifier*. セット *set_name* は、*number* 行で *time* に、正常にリフレッシュされました。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1242E **APPLY** *apply_qualifier*. **SQL** エラーが発生しました。 **ERRCODE** は *error_code*、**SQLSTATE** は *sqlstate*、**SQLCODE** は *sqlcode*、**SQLERRM** は *sqlerrm*、**SQLERRP** は *sqlerrp*、表名は *table_name*。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1243E **APPLY** *apply_qualifier*. **ASN.IBMSNAP_SUBS_SET** 表に、適切なサブスクリプションがありません。

説明: サブスクリプション・セットが選択されていないか、アプライ修飾子が無効です。

ユーザーの処置: サブスクリプション名とアプライ修飾子を確認してください。

ASN1304E **APPLY** *apply_qualifier*. キャプチャー・エラーのため、**ASNSAT** プログラムが終了しました。

説明: キャプチャー・プログラムが、エラーを戻しました。

ユーザーの処置: キャプチャー・ログ・ファイルから、エラーを判別してください。

ASN1305E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・エラーのため、**ASNSAT** プログラムが終了しました。

説明: アプライ・プログラムが、エラーを戻しました。

ユーザーの処置: アプライ・ログ・ファイルから、エラーを判別してください。

ASN1310E **APPLY** *apply_qualifier*. キャプチャー・プログラムの呼び出し試行中に、**ASNSAT** プログラムがシステム・エラーを検出しました。 戻りコードは *return_code*。

説明: ASNCAP の呼び出し中に、オペレーティング・システム・エラーを検出しました。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムが実行パスにあることを確認してください。

ASN1311E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムの呼び出し試行中に、**ASNSAT** プログラムがシステム・エラーを検出しました。 戻りコードは *return_code*。

説明: ASNAPPLY の呼び出し中に、オペレーティング・システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: アプライ・プログラムが実行パスにあることを確認してください。

ASN1312E **APPLY** *apply_qualifier*. デフォルト・ターゲット・サーバー、**DB2DBDFT** が設定されていません。

説明: ユーザーがターゲット・サーバー名を指定しておらず、**ASNSAT** プログラムが **DB2DBDFT** からデフォルトのデータベース名を判別できませんでした。

ユーザーの処置: `-t` キーワードの後に、ターゲット・サーバー名を指定してください。

ASN1314E **APPLY** *apply_qualifier*. **ASNSAT** がデフォルトのアプライ修飾子を取得中、**SQL** エラーが発生しました。 **SQLSTATE** は *sqlstate*、**SQLCODE** は *sqlcode*。

説明: ユーザーがアプライ修飾子を指定しませんでした。 **USER** 特殊レジスターを検索中、**ASNSAT** プログラムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: `-q` キーワードの後に、アプライ修飾子を指定してください。

ASN1315E **APPLY** *apply_qualifier*. データベース・サーバーに接続できません。 **SQLSTATE** は *sqlstate*、**SQLCODE** は *sqlcode*。

説明: ターゲット・データベースへの接続試行中に、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: ご使用のデータベース・メッセージ・リファレンスを参照してください。

ASN1316E **APPLY** *apply_qualifier*. バインドを試行中に、**ASNSAT** がエラーを検出しました。 **SQLSTATE** は *sqlstate*、**SQLCODE** は *sqlcode*。

説明: 自動バインドの試行中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: `sqllib\bnd` ディレクトリーにバインド・ファイルが存在することを確認してください。

ASN1317E **APPLY** *apply_qualifier*. **ASNSAT** が **ASN.IBMSNAP_REGISTER** 表から **CD_TABLE** を取得中、**SQL** エラーが発生しました。 **SQLSTATE** は *sqlstate*、**SQLCODE** は *sqlcode*。

説明: 登録表から選択中、**SQL** エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ご使用のデータベース・メッセージ・リファレンスを参照してください。

ASN1318E **APPLY** *apply_qualifier*. **ASNSAT** が **DB2** ノード・タイプの取得を試行中、**SQL** エラーが発生しました。 **SQLSTATE** は *sqlstate*、**SQLCODE** は *sqlcode*。

説明: ノード・タイプ構成パラメーターを検索中、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ご使用のデータベース・メッセージ・リファレンスを参照してください。

ASN1500I レプリケーション・アクション *action_name* が、*timestamp* に、アーキテクチャー・レベル *architecture_level* で開始されました。キャプチャー・サーバーは *capture_serveralias* で、キャプチャー・スキーマは *capture_schema* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Capture server control tables* と *Drop Capture server control tables* です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1501I レプリケーション・アクション
action_name が、*timestamp* に、アーキテクチャー・レベル *architecture_level* で開始されました。キャプチャー・サーバーは *capture_serveralias*、リモート・サーバーは *remote_servername*、およびキャプチャー・スキーマは *capture_schema* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Capture server control tables* と *Drop Capture server control tables* です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1502I レプリケーション・アクション
action_name が、*timestamp* に、アーキテクチャー・レベル *architecture_level* で開始されました。アプライ・コントロール・サーバーは *apply_serveralias* です。

説明: *action name* の有効値は *Create Apply server control tables* と *Drop Apply server control tables* です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1503I レプリケーション・アクション
action_name が、*timestamp* に開始されました。キャプチャー・サーバーは *capture_serveralias*、キャプチャー・スキーマは *capture_schema*、ソース所有者は *source_owner*、ソース表、ビュー、またはニックネームは *source_table* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Registration*、*Drop Registration*、*Alter Registration*、*Add Registration*、および *Promote Registration* です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1504I レプリケーション・アクション
action_name が、*timestamp* に開始されました。キャプチャー・サーバーは *capture_serveralias*、リモート・サーバーは *remote_server*、キャプチャー・スキーマは *capture_schema*、ソース所有者は *source_owner*、およびソース表、ビュー、またはニックネームは *source_table* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Registration* と *Drop Registration* です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1505I レプリケーション・アクション
action_name が開始されました。サブスクリプション・セット情報は次のとおりです。アプライ・コントロール・サーバーは *control_server*、アプライ修飾子は *apply_qualifier*、セット名は *set_name*、リモート・サーバー *remote_servername* のターゲット・サーバーは *target_server*、リモート・サーバー *remote_servername* のキャプチャー・サーバーは *capture_server*、キャプチャー・スキーマは *capture_schema* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Subscription Set*、*Drop Subscription Set*、*Alter Subscription Set*、および *Promote Subscription Set* です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1506I レプリケーション・アクション
action_name が、*timestamp* に開始されました。サブスクリプション・セット情報は次の通りです。アプライ・コントロール・サーバーは *control_server*、**the Apply qualifier is** *apply_qualifier*、セット名は *set_name*、ターゲット・サーバーは *target_server*、リモート・サーバー *remote_servername* のキャプチャー・サーバーは *capture_server*、およびキャプチャー・スキーマは *capture_schema* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Subscription Set*、*Drop Subscription Set*、*Alter Subscription Set*、および *Promote Subscription Set* です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1507I レプリケーション・アクション
action_name が、*timestamp* に開始されました。サブスクリプション・セット情報は次の通りです。アプライ・コントロール・サーバーは *control_server*、アプライ修飾子は *apply_qualifier*、セット名は *set_name*、リモート・サーバーの *remote_server* ターゲット・サーバー名は *target_server*、キャプチャー・サーバーは *capture_server*、およびキャプチャー・スキーマは *capture_schema* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Subscription Set*、*Drop Subscription Set*、*Alter Subscription Set*、および *Promote Subscription Set* です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1508I レプリケーション・アクション
action_name が、*timestamp* に開始されました。サブスクリプション・セット情報は次の通りです。アプライ・コントロール・サーバーは *control_server*、アプライ修飾子は *apply_qualifier*、セット名は *set_name*、ターゲット・サーバーは *target_server*、キャプチャー・サーバーは *capture_server*、およびキャプチャー・スキーマは *capture_schema* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Subscription Set*、*Drop Subscription Set*、*Alter Subscription Set*、および *Promote Subscription Set* です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1510I レプリケーション・アクション
action_name は、*timestamp* に、正常に終了しました。

説明: *action name* の有効値は、*Create Capture server control tables*、*Drop Capture server control tables*、*Create Apply control server control tables*、および *Drop Apply control server control tables* です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1511I レプリケーション・アクション
action_name は、ソース所有者 *source_owner*、およびソース表、ビュー、またはニックネーム *source_table* に対して、正常に終了しました。

説明: *action name* の有効値は、*Create Registration*、*Drop Registration*、*Alter Registration*、*Add Registration Column*、および *Promote Registration* です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1512I レプリケーション・アクション
action_name は、アプライ修飾子 *apply_qual*、セット名 *set_name* に対して、正常に終了しました。

説明: *action name* の有効値は、*Create Subscription Set*、*Drop Subscription Set*、*Alter Subscription Set*、*Add Statements to Subscription Set*、*Drop Statements from Subscription Set*、および *Promote Subscription Set* です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1513I レプリケーション・アクション
action_name は、アプライ修飾子 *apply_qual*、セット名 *set_name*、処理順序 *whos_on_first*、ソース所有者 *source_owner*、ソース表 *source_table*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット所有者 *target_owner*、およびターゲット表 *target_table* に対して、正常に終了しました。

説明: 以下は、*action name* に有効な値です。

- *Add Subscription Member*
- *Add Subscription Member Column*
- *Drop Subscription Member*

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1514I レプリケーション・アクションは、*timestamp* に、*successful* の成功、*errors* のエラー、および *warning* の警告で終了しました。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

ASN1550E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。入
力パラメーター *input_parameter* の値があ
りません。

説明: 入力パラメーターはこのアクションには必須です
が、指定されていません。

ユーザーの処置: 必須パラメーターを指定して、レプリ
ケーション・アクションを再実行してください。

ASN1551E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。入
力パラメーター *input_parameter* の値
value が誤りです。理由コードは、
reason_code です。

説明: 入力パラメーターとして指定された値は、有効な
値ではありません。理由コードとして有効な値は以下
のとおりです。

- 0** ブロッキング時間値 (分単位) は、0 から 999
の間でなければなりません。
- 1** コミット・カウント値は、0 から 999 の間で
なければなりません。
- 2** サーバー・タイプ値はキャプチャー・サーバー
でなければなりません。
- 3** 表のタイプは、以下のいずれかである必要があり
ます。
 - USERTABLE
 - CCD TABLE
 - POINT IN TIME
 - BASE AGGREGATE
 - CHANGE AGGREGATE
 - REPLICA
 - USERCOPY
- 4** リモート・サーバー名値は NULL でなければ
なりません。
- 5** サーバーのタイプは、以下のいずれかである必
要があります。
 - キャプチャー・サーバー
 - コントロール・サーバー
 - キャプチャーおよびコントロール・サーバー
 - キャプチャー、コントロールおよびターゲッ
ト・サーバー
- 6** 内部 CCD 表は、非完了でなければなりません。

- 7** アプライ修飾子が、18 文字の最大長を超えて
います。
- 8** セット名が、18 文字の最大長を超えていま
す。
- 9** イベント名の長さは、18 文字以下でなければ
なりません。
- 10** ソース・キャプチャー・スキーマ名が、30 文
字の最大長を超えています。
- 11** ターゲット・キャプチャー・スキーマ名が、30
文字の最大長を超えています。
- 12** BEFORE_OR_AFTER ステートメント値は、
'A'、'B'、または 'S' でなければなりません。
- 13** EI_OR_CALL 値は、'C' または 'E' でなければ
なりません。
- 14** SQLSTATES は、50 桁以下でなければならま
せん。
- 15** SQLSTATES は数値でなければなりません。
- 16** CONFLICT_LEVEL は、ゼロ (0) または
NONE でなければなりません。
- 17** CHGONLY 値は、'N' でなければなりません。
- 18** 外部 CCD 表は非コンデンスで、LOB 列が含
まれています。
- 19** CONFLICT_LEVEL は 0 から 2 の間でなければ
なりません。
- 20** CHGONLY 値は 'Y' か 'N' でなければならま
せん。
- 21** RECAPTURE 値は 'Y' か 'N' でなければなら
ません。
- 22** DISABLE_REFRESH 値は 0 か 1 でなければ
なりません。
- 23** CHG_UPD_TO_DEL_INS 値は 'Y' か 'N' でな
ければなりません。
- 24** STOP_ON_ERROR 値は 'Y' か 'N' でなければ
なりません。
- 25** BEFORE_IMG_PREFIX 値は 1 文字でなければ
なりません。
- 26** それ以前のシナリオではいずれも、対応する表
スペースの *New Tablespace* フラグが真に設定
されていません。
- 27** 表名が有効なコントロール表ではありません。
有効なコントロール表のリストについては、
「レプリケーション・ガイドおよびリファレン
ス」を参照してください。
- 28** フェデレーテッド・サーバーが検出されました

が、対応するフェデレーテッド・スキーマ名が見つかりませんでした。フェデレーテッド・システムで API を呼び出す場合には、フェデレーテッド・スキーマ名が指定されていることを確認してください。

- 29** OS/400 システム上の指定されたリモート・ソース・データベース名が、登録されているリモート・ソース・データベース名と一致しません。

ユーザーの処置: 入力パラメーターに有効な値を指定して、レプリケーション・アクションを再実行してください。詳しくは、オンライン・ヘルプを参照してください。

ASN1552E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。入力パラメーター *input_parameter1* の値 *value1* は、入力パラメーター *input_parameter2* の値 *value2* と非互換です。

説明: レプリケーション・パラメーターに指定された値が、別のパラメーターの指定と衝突します。

ユーザーの処置: 入力パラメーターに有効な値を指定して、レプリケーション・アクションを再実行してください。詳しくは、オンライン・ヘルプを参照してください。

ASN1553E 入力パラメーター *input_parameter1* の値 *value1* は、既存のサブスクリプション・セット *subscription_set*、アプライ修飾子 *apply_qual*、および処理順序 *whos_on_first* の値 *value2* と非互換です。

説明: レプリケーション・パラメーターに提供された値は、既存のサブスクリプション・セットのいずれかの値と衝突します。

ユーザーの処置: 入力パラメーターに有効な値を提供するか、またはサブスクリプション・セットの定義を変更してから、レプリケーション・アクションを再実行してください。詳しくは、オンライン・ヘルプを参照してください。

ASN1560E レプリケーション・アクションがエラー終了しました。SQL エラーを検出しました。SQL メッセージ: *sql_message*。

説明: SQL ステートメントの実行中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: SQL については、ご使用のデータベース・メッセージ・リファレンスを参照してください。

ASN1561E サーバー *server_alias* への接続を確立できません。SQL エラーを検出しました。SQL メッセージ: *sql_message*。

説明: 指定されたサーバーへの接続を確立できませんでした。

ユーザーの処置: SQL については、ご使用のデータベース・メッセージ・リファレンスを参照してください。ユーザー ID とパスワード情報が正しいことを確認してください。

ASN1562E レプリケーション・アクションがエラー終了しました。予期しないエラーが発生しました。参照コード *reference_code*。

説明: ランタイム・エラーのため、指定されたアクションを実行できません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN1563E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。レプリケーション・アーキテクチャー・レベル *arch_level* は、サーバー *server_alias* をサポートしていません。

説明: 指定されたレプリケーション・アーキテクチャー・レベルは、指定されたサーバーのオペレーティング・システム、バージョン、またはリリースでサポートされていません。

ユーザーの処置: 「DB2 Universal Database レプリケーションのガイドおよびリファレンス」資料の表構造の説明を参照し、登録表の ARCH_LEVEL 列に必要な値をチェックしてください。

ASN1564E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。キャプチャー・スキーマ *capture_schema* に対するキャプチャー・サーバー・レプリケーション・アーキテクチャー・レベルは、このレプリケーション・アクションをサポートしていません。

説明: *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* で見つかったレプリケーション・アーキテクチャー・レベルでは、指定されたレプリケーション・アクションは許可されません。

ユーザーの処置: キャプチャー・サーバーのコントロール表をバージョン 8 に移行してから、このアクションを実行してください。

ASN1565E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。アプライ・コントロール・サーバー・レプリケーション・アーキテクチャー・レベルは、このレプリケーション・アクションをサポートしていません。

説明: ASN.IBMSNAP_SUBS_SET で見つかったレプリケーション・アーキテクチャー・レベルでは、指定されたレプリケーション・アクションは許可されません。

ユーザーの処置: アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表をバージョン 8 に移行してから、このアクションを実行してください。

ASN1567W 表スペース *tablespace_name* の表スペース・コンテナ情報が、ライブラリー *library_name* 中の DB2 ストアド・プロシージャ *procedure_name* が見つからないために読み取れません。

説明: DB2 ストアド・プロシージャ READTSCINFOS が、キャプチャーまたはターゲット DB2 サーバーに見つかりません。このストアド・プロシージャは、そのサーバーの DB2 表スペース・コンテナ情報を検索するために必要です。

ユーザーの処置: ストアド・プロシージャがサーバー上に存在するかどうかを判別します。ファイル *db2rtsc* が *sqllib* ディレクトリーの *function* ディレクトリーに存在するかどうかをチェックします。ファイル *db2rtsc* は、サーバーが V8 より前のサーバーの場合には、存在しない可能性があります。ストアド・プロシージャが存在しない場合は、出力スクリプトで提供されている表スペース・コンテナ定義を編集してください。

ASN1568E データベース *object*、*objectname* の名前の長さ *length* が、許可された限界 *allowed_limit* を超えています。

説明: 2 番目のパラメーターで提供されているデータベース・オブジェクト・タイプでは、このパラメーターで提供されている実際のオブジェクトの長さよりも短い長さが許可されます。プロパティ・ファイルにあるように、次の値は、オブジェクトに有効です: *Table*、*Index*、*Tablespace*、*Table owner*、*Nickname*。

ユーザーの処置: 適切なデータベースについては、「SQL リファレンス」を参照して正しい名前の長さを指定してください。

ASN1569E 作成しようとしているデータベース・オブジェクトの名前は、タイプ *objecttype* の既存名 *objectowner.objectname* と同一です。

説明: このデータベース・オブジェクトは、同じタイプで同じ名前を持つデータベース・オブジェクトがすでに存在するため、作成できません。プロパティ・ファイルにあるように、次の値は、オブジェクトに有効です: *Table*、*Index*、*Nickname*、*Tablespace*、*Table owner*。

ユーザーの処置: DB2 にまだ存在していない名前をそのオブジェクトに指定して、レプリケーション・タスクを再実行してください。

ASN1570E データベース・オブジェクト *object*、*objectowner.objectname* は、存在しません。

説明: このデータベース・オブジェクトは DB2 カタログに存在しません。このオブジェクトは、サブスクリプション・セットのソースまたはターゲットとして定義するために、レプリケーション・アクションごとに存在している必要があります。このオブジェクトは既存の登録またはサブスクリプション・セット定義の一部として定義された可能性があります。DB2 カタログの中で見つかりません。プロパティ・ファイルにあるように、次の値は、オブジェクトに有効です: *Table*、*Index*、*Nickname*、*Tablespace*、*Table owner*、*View* です。

ユーザーの処置: DB2 にすでに存在している名前を指定して、レプリケーション・タスクを再実行してください。オブジェクトが既存の登録またはサブスクリプション・セットの一部として定義された場合は、そのオブジェクトが DB2 カタログの中に存在するか確認してください。

ASN1571E データベース表 *tableowner.tablename* を作成できません。このデータベース定義は、データ・タイプ *datatype* と列 *column_name* では無効です。理由コードは *reason_code*。

説明: 以下は、有効な *reason code* です。

- 0 データ・タイプがこのプラットフォームでサポートされていません。
- 1 列の長さがこのプラットフォームでサポートされていません。
- 2 列の精度またはスケールがこのプラットフォームでサポートされていません。

ユーザーの処置: 適切なデータベースについては、

「SQL リファレンス」を参照してください。

ASN1572E タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *objectowner.objectname* の行サイズ *row_size* が、そのデータベース・バッファ・プールの行サイズ *bufferpool_rowsize* を超えています。このデータベース・オブジェクトを作成できません。

説明: 表の行サイズは、その表の表スペースのページ・サイズを超えることはできません。表スペースのページ・サイズは、その表スペースが属しているバッファ・プールのページ・サイズから派生します。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 別の表スペースに表を作成する必要がある可能性があります。ご使用の DB2 プラットフォームの資料を参照してください。

ASN1573E タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *objectowner.objectname* の列数 *number_columns* が、データベースの限界 *db2_limit* を超えています。このデータベース・オブジェクトを作成できません。

説明: データベース・オブジェクト (表または索引) に含まれる列数は DB2 プラットフォームに依存しますが、事前定義の数を超えることはできません。スクリプトは生成されません。次の値がオブジェクト・タイプに有効です: *table*、*index*。

ユーザーの処置: DB2 オブジェクトを設計し直してください。

ASN1574E 表スペース *tablespace_name* の DB2 ページ・サイズ *page_size* が無効です。理由コードは *reason_code*。

説明: 表スペースを正常に作成するには、ページ・サイズが有効でなければなりません。以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 ページ・サイズが、指定されたバッファ・プールのページ・サイズと等しくない。
- 1 ページ・サイズが、次のいずれとも等しくない: 4K、8K、16K、32K。

ユーザーの処置: 適切なページ・サイズまたは値については、「DB2 SQL リファレンス」を参照してください。

ASN1575W DB2 表 *tableowner.tablename* は、DB2 デフォルト表スペースに作成されます。

説明: 指定された表の作成場所を示す表スペース名が指定されていないため、この表は DB2 のデフォルト表スペースに作成されます。指定された表に対してデフォルト表スペースが適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 デフォルトについては、「SQL リファレンス」を参照してください。表を独自の表スペースに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再実行してください。デフォルトがこの表に適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1576W DB2 索引 *index_name* は、DB2 デフォルト索引スペースまたは表スペースに作成されます。

説明: 指定された索引が作成される表スペース (ワークステーション・オペレーティング・システムの場合) または索引スペース (z/OS オペレーティング・システムの場合) が指定されていません。そのため、索引は DB2 デフォルトを使って作成されます。指定された索引に対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 デフォルトについては、「SQL リファレンス」を参照してください。索引を独自の表スペースまたは索引スペースに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再実行してください。デフォルトがこの索引に適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1577W DB2 表スペース *tablespace* は、DB2 デフォルト・データベースに作成されます。

説明: z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、指定された表スペースが作成されるデータベースが作成されていません。そのため、表スペースは DB2 デフォルトを使って作成されます。指定された表スペースに対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 デフォルトについては、「SQL リファレンス」を参照してください。表スペースを独自のデータベースに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再実行してください。デフォルトがこの表スペースに適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1578I DB2 表スペース *tablespace* は、DB2 デフォルト・ストレージ・グループに作成されます。

説明: ワークステーションと z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、指定された表スペースが作成されるストレージ・グループが指定されていません。そのため、表スペースは DB2 デフォルトを使って作成されます。指定された表スペースに対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 デフォルトについては、「SQL リファレンス」を参照してください。表スペースを独自のストレージ・グループに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再実行してください。デフォルトがこの表スペースに適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1579I DB2 索引 *index_name* は、DB2 デフォルト・ストレージ・グループに作成されます。

説明: ワークステーションと z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、DB2 索引が作成されるストレージ・グループが指定されていません。そのため、DB2 は、デフォルト指定を使って索引を作成しました。指定された索引に対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 デフォルトについては、「SQL リファレンス」を参照してください。索引を独自のストレージ・グループに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再実行してください。デフォルトがこの索引に適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1580I DB2 表スペース *tablespace* は、DB2 デフォルト・バッファース・プールに作成されます。

説明: ワークステーションと z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、指定された表スペースが作成されるバッファース・プールが指定されていません。そのため、表スペースは DB2 デフォルトを使って作成されます。指定された表スペースに対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 デフォルトについては、「SQL リファレンス」を参照してください。表スペースを独自のバッファース・プールに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再実行してください。デフォルトがこの表スペースに適切である場

合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1581I DB2 索引 *index_name* は、DB2 デフォルト・バッファース・プールに作成されます。

説明: ワークステーションと z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、指定された索引が作成されるバッファース・プールが指定されていません。そのため、索引は DB2 デフォルトを使って作成されます。指定された索引に対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 デフォルトについては、「SQL リファレンス」を参照してください。索引を独自のバッファース・プールに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再実行してください。デフォルトがこの索引に適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1582W 表スペース *tablespace* は、バッファース・プール *buffer_pool* に作成されますが、このバッファース・プールは存在しないか、アクティブになっていません。

説明:

- DB2 UDB データベースにあるアプリケーションに対して、指定された表スペースが作成されるバッファース・プールが存在していません。
- DB2 for z/OS データベースにあるアプリケーションに対して、指定された表スペースが作成されるバッファース・プールがアクティブになっていません。

ユーザーの処置:

- DB2 UDB データベースの場合、スクリプトの実行時に、バッファース・プールが存在していることを確認してください。
- DB2 for z/OS データベースの場合、スクリプトの実行時に、バッファース・プールがアクティブになっていることを確認してください。

ASN1583E 表スペース *tablespace* のページ・サイズ *page_size* が、デフォルトのバッファース・プール・ページ・サイズと一致しません。

説明: 指定されたページ・サイズは、デフォルトのバッファース・プールのページ・サイズと一致しません。表スペースを作成できません。

ユーザーの処置: ページ・サイズを変更するか、別のバッファース・プールを選択してください。

ASN1584E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 キャプチャー・スキーマ *capture_schema* のキャプチャー・サーバー・レプリケーション・アーキテクチャー・レベル *arch_level* は、有効なアーキテクチャー・レベルではありません。

説明: captureschema.IBMSNAP_REGISTER で見つかったレプリケーション・アーキテクチャー・レベルでは、指定されたレプリケーション・アクションは許可されません。

ユーザーの処置: このアーキテクチャー・レベルはサポートされていないため、キャプチャー・コントロール・サーバーにあるコントロール表を手動でドロップしてください。 有効なアーキテクチャー・レベルで、コントロール表を作成してください。

ASN1585E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 アプライ・コントロール・サーバーのレプリケーション・アーキテクチャー・レベル *arch_level* は、有効なアーキテクチャー・レベルではありません。

説明: ASN.IBMSNAP_SUBS_SET で見つかったレプリケーション・アーキテクチャー・レベルでは、指定されたレプリケーション・アクションは許可されません。

ユーザーの処置: このアーキテクチャー・レベルはサポートされていないため、アプライ・コントロール・サーバーにあるコントロール表を手動でドロップしてください。 有効なアーキテクチャー・レベルで、コントロール表を作成してください。

ASN1586W DB2 表 *tableowner.tablename* は、DB2 デフォルト・データベースに作成されます。

説明: z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、指定された表が作成されるデータベースが作成されていません。 そのため、表は DB2 デフォルトを使って作成されます。 指定された表に対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 デフォルトについては、「SQL リファレンス」を参照してください。 表スペースを独自のデータベースに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再実行してください。 デフォルトがこの表に適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1587E データベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parameter_name* の値 *value* (タイプ *type*) は無効です。

説明: 指定された値は無効であるか、別のパラメーター値と競合します。

ユーザーの処置: 有効な値については、「SQL リファレンス」を参照してください。

ASN1588E パラメーターのコード化スキームに指定された *encoding_scheme* は、DB2 サーバー *server_name* では無効です。

説明: コード化スキームに指定された値が、サーバーの DB2 バージョンでは無効です。 スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: DB2 バージョンのコード化スキームの有効値については、「SQL リファレンス」を参照してください。

ASN1589W 表スペース *tSPACE* の表スペース・コンテナ *container* のサイズ計算で、誤ったコンテナ・サイズが算出されました。 そのため、コンテナ・サイズがサイズ *size* MB に変更されました。

説明: 表スペース・コンテナのサイズを計算した結果、有効な表スペース・コンテナ定義で使用するには小さすぎる値が算出されました。 その定義が DB2 に確実に受け入れられるように、表スペース・コンテナ定義に対してレプリケーション特定の最小コンテナ・サイズが指定されています。

ユーザーの処置: 現在のソース表サイズのパーセンテージを基にした計算の場合は、ソース表にデータが含まれているかチェックし、RUNSTATS ユーティリティを使ってソース表の統計が最新かどうかをチェックしてください。 行数を基にした計算の場合は、行数が実際のものであるかチェックしてください。

ASN1590E DB2 表スペース *table_sp_name* がパーティション化され、DB2 *object_type* *group* の中にあります。 この表スペースはパーティション化してはならず、*object_type* **IBMCATGROUP** の中になければなりません。

説明: 示された表スペースはパーティション表スペースであり、DB2 カタログ・ノード上またはパーティション・グループ上には常駐しません。 パーティション表スペースの中でのレプリケーション・コントロール表の作成はサポートされていません。 スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: パーティション化されていない表スペースを指定してください。

ASN1600E リモート・サーバー *remote_servername* が
見つかりません。

説明: 指定されたりモート・サーバー名は、指定された REMOTE_SERVER 値のフェデレーテッド・カタログ表 SYSIBM.SYSSERVERS に見つかりません。DB2 以外のリレーショナル・サーバーには、アクセスできません。

ユーザーの処置: リモート・サーバー名に指定した入力を確認して、アクションを再試行してください。

ASN1601E リモート・サーバー *remote_servername* に対するリモート認証情報が見つかりません。

説明: 指定された SERVERNAME 値のリモート認証情報が、フェデレーテッド・カタログ表 SYSIBM.SYSSUSEROPTIONS に見つかりません。DB2 以外のリレーショナル・サーバーには、アクセスできません。

ユーザーの処置: リモート・サーバー名に指定した入力を確認して、アクションを再試行してください。

ASN1602E サーバー *server_alias* は、フェデレーテッド・サーバーへのアクセスをサポートしていません。

説明: フェデレーテッド・レプリケーション関数は、DB2 UDB ワークステーション V8 およびそれ以降でのみサポートされます。

ユーザーの処置: 指定したデータベース・サーバーが、上記リストのいずれかであることを確認するか、レプリケーション・タスクをサポートしないサーバーに対してそのタスクを発行しないでください。

ASN1603E レプリケーション・アプライ・コントロール・サーバーは、DB2 リレーショナル以外のサーバーには常駐できません。

説明: DB2 以外のリレーショナル・サーバーは、レプリケーション・キャプチャー・コントロール・サーバーまたはターゲット・サーバーとなることはできませんが、アプライ・コントロール・サーバーにはなれません。

ユーザーの処置: DB2 サーバーをレプリケーション・アプライ・コントロール・サーバーとして指定してください。

ASN1604E リモート表 *remoteowner.tablename* は、**DB2** リレーショナル・サーバー以外に存在しますが、指定されたニックネーム *nicknameowner.nickname* が、フェデレーテッド・サーバーに見つかりません。

説明: 指定されたりモート表は、リモート・データベースに存在しますが、それに対応するニックネームがフェデレーテッド・データベースに見つかりません。

ユーザーの処置:

1. ニックネームの作成方法について、DB2 フェデレーテッドの資料を参照します。
2. フェデレーテッド・データベースにニックネームを作成します。
3. 再度、レプリケーション・タスクを発行します。

ASN1605E ニックネーム *nicknameowner.nickname* は、フェデレーテッド・サーバーに存在しますが、リモート表 *remoteowner.remotetable* が、**DB2** リレーショナル・サーバー以外のサーバーに見つかりません。

説明: 指定されたりモート表のニックネームは存在しますが、それに対応するリモート表がリモート・データベースに存在しません。これは、レプリケーション定義を作成する際の、矛盾する定義の状態です。

ユーザーの処置:

1. ニックネームをドロップします。
2. 表タイプに応じて、以下のアクションを実行します。
 - 表がユーザー表の場合は、リモート・サーバーにそのリモート表を作成します。
 - 表がキャプチャー・コントロール・サーバー上のレプリケーション・コントロール表である場合は、以下のアクションを実行します。
 - a. キャプチャー・コントロール・サーバー上の既存のコントロール表からデータをコピーします。
 - b. キャプチャー・コントロール・サーバー上のコントロール表をドロップします。
 - c. キャプチャー・コントロール・サーバー上にコントロール表を作成します。
3. フェデレーテッド・サーバーにニックネームを作成します。
4. 再度、レプリケーション・タスクを発行します。

ASN1606W ニックネーム

nickname_owner.nickname_name はフェデレーテッド・サーバーに存在しますが、リモート表 *table_owner.table_name* が、IBM 以外のサーバーに見つかりません。

説明: 指定されたリモート表のニックネームは存在しますが、それに対応するリモート表がリモート・データベースに存在しません。これは孤立ニックネームですが、この不整合な状態は、レプリケーション定義をドロップする際には問題ありません。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: レプリケーション定義を作成する際に、ソース・ニックネームがドロップされていません。カタログの整合性を維持するために、ニックネームをドロップしてください。

ASN1607W レプリケーション・サブスクリプション・ターゲットに対して定義されたニックネーム *nickname_owner.nickname_name* を変更するよう強くお勧めします。 ソースからターゲット列データ・タイプへのマッピングが正しく行われることを保証するために、列 *column_name* のローカル・データ・タイプを、*existing_local_datatype* から *recommended_local_datatype* に変更するよう強くお勧めします。

説明: ソース列のデータ・タイプとそれに対応するニックネーム・ターゲット列データ・タイプとの間でミスマッチが見つかりました。これは DB2 互換性規則に反していませんが、ネイティブの、IBM 以外のエンド・ユーザー・アプリケーションに問題が発生する可能性があります。列データのレプリケーション中は、問題は発生しません。問題は、エンド・ユーザーがデータを検索するときに発生します。たとえば、DB2 以外のリレーショナル・データ・タイプから DB2 データ・タイプへのデフォルト・マッピングを使って、ニックネーム・データ・タイプが作成されている場合、その列にはデータ・タイプ値のプロードキャスト範囲が保留されます。これにより、エンド・ユーザー・アプリケーションの、より厳密な制限のあるデータ・タイプの要件との衝突が発生する可能性があります。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: ターゲットをチェックして、ターゲットに必要なニックネーム・データ・タイプが、まちがいになくソース列のデータ・タイプであることを確認してください。そうであることが確認できたら、'ALTER NICKNAME' ステートメントを発行して、ニックネーム列のローカル・データ・タイプを変更してください。ニックネームのローカル・データ・タイプをソース列の

データ・タイプと同じに変更すると、DB2 以外のリレーショナル・サーバー上のエンド・ユーザー・アプリケーションに対して、ソース列のデータ・タイプと同じデータ・タイプの表示が強制されます。

ASN1608I ソースのニックネーム *source_nickname* と、整合した変更データ (CCD) 表のニックネーム *ccd_nickname* は、変更された列データ・タイプを持っています。 リモート・データ・タイプが *remote_datatype* であるため、ローカル・データ・タイプ列 *local_datatype* は、*changed_datatype* に設定されています。理由コード *reason_code*。

説明: このメッセージは、CCD のニックネームの作成時に発行されます。正しいデータ・タイプ設定を行うために、ニックネームは、DB2 以外のリレーショナル・サーバーに作成された CCD のデータ・タイプに基づいて変更されます。そうしないと、レプリケーション動作が不適切となります。スクリプトは生成され、それによりユーザー提供の定義が更新されました。

ユーザーの処置: レプリケーション更新が受け入れ可能であれば、何のアクションも必要ありません。

ASN1609E ニックネーム *nicknameowner.nickname* はフェデレーテッド・サーバーに存在しますが、リモート表 *remoteowner.remotetable* に必要な列がすべて含まれていません。

説明: ターゲット表のニックネームは存在しますが、サブスクリプションで要求される列のサブセットしか含まれていません。

ユーザーの処置: ターゲット表に別のニックネームを使うか、既存のニックネームの列と一致するように、サブスクリプションを変更してください。

ASN1620E キャプチャー・サーバーのコントロール表と、アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表の両方が、すでに存在します。 キャプチャー・サーバーのコントロール表は、アーキテクチャー・レベル *capturearch_level* とキャプチャー・スキーマ *capture_schema* で存在します。アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表は、アーキテクチャー・レベル *applyarch_level* で存在します。

説明: 表 *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* と *captureschema.IBMSNAP_SUBS_SET* は、すでに指定されたサーバーに存在します。

ユーザーの処置:

- 既存の `captureschema.IBMSNAP_REGISTER` コントロール表のアーキテクチャー・レベルが `0201` の場合:
 - 既存の `captureschema.IBMSNAP_REGISTER` に、有効なレプリケーション定義がすでに設定されている場合は、キャプチャー・サーバーのコントロール表をバージョン 8 アーキテクチャーに移行します。
 - 表が空の場合は、V8 より前のキャプチャー・サーバーのコントロール表をドロップして、レプリケーション・タスクをもう一度実行します。
- 既存のコントロール表のアーキテクチャー・レベルが `0201` でない場合は、別のキャプチャー・スキーマ名を使ってキャプチャー・サーバーのコントロール表を作成してみてください。
- 既存の `IBMSNAP_SUBS_SET` コントロール表のアーキテクチャー・レベルが `0201` の場合:
 - 既存の `ASN.IBMSNAP_SUBS_SET` 表に、有効なレプリケーション定義がすでに設定されている場合は、アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表をバージョン 8 アーキテクチャーに移行してください。
 - 表が空の場合は、V8 より前のアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表をドロップして、レプリケーション・タスクをもう一度実行します。
- 既存のコントロール表のアーキテクチャー・レベルが `0201` でない場合は、別のサーバー名を使ってアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表を作成してみてください。

ASN1621W 少なくとも 1 行がコントロール表 `controlowner.controltable` に見つかりました。このコントロール表をドロップすると、その表に保管されているすべてのレプリケーション定義がドロップされます。

説明: ドロップされるコントロール表が空ではありません。生成されたスクリプトが実行されると、レプリケーション制御情報が削除されます。

ユーザーの処置: 以下の従属関係を保証できる場合のみ、生成されたスクリプトを実行してください。

- キャプチャー・コントロール・サーバーからコントロール表をドロップした場合の、従属するサブスクリプション・セットに対する影響を理解する。
- アプライ・コントロール・サーバーからコントロール表をドロップした場合の、(multi-tier シナリオに対する) 既存の従属するサブスクリプション・セットに対する影響を理解する。
- レプリケーションに、これらの定義に対するキャプチャーまたはアプライ・プロセスをこれ以上実行させたくない。

アーキテクチャー・レベルが `0201` の場合は、コントロール表をドロップする前に、キャプチャーまたはアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表をバージョン 8 アーキテクチャーに移行してください。

ASN1622E レプリケーション・アクション `action_name` はエラー終了しました。必要なコントロール表 `controlowner.controltable` が見つかりません。

説明: レプリケーション定義は、レプリケーション・コントロール表に保管されています。登録またはサブスクリプション定義の作成前に、これらの表が存在している必要があります。 `IBMSNAP_REGISTER` 表の存在は、特定のキャプチャー・スキーマに対して、キャプチャー・コントロール・サーバーのコントロール表がすでに存在するかどうかをチェックするために使用されません。 `IBMSNAP_SUBS_SET` 表の存在は、アプライ・コントロール・サーバー上のコントロール表がすでに存在するかどうかをチェックするために使用されます。 `IBMSNAP_SUBS_MEMBR` の存在は、サブスクリプション・メンバーの存在をチェックする際にチェックされません。

ユーザーの処置: コントロール表 `IBMSNAP_SUBS_MEMBR` 表が存在しない場合は、ご使用の環境が不整合の状態にあります。アプライ・コントロール・サーバーからすべてのコントロール表をドロップし、それをすべて作成した後でアクションを試行してください。

または、コントロール表 `IBMSNAP_REGISTER` または `IBMSNAP_SUBS_SET` が存在しない場合は、登録またはサブスクリプション定義をコントロール・サーバーに追加する前に作成してください。 そうしない場合は、以下のことを実行できます。

1. 登録に関連するアクションを実行する場合は、適切なキャプチャー・スキーマが指定されているかどうか、または適切なキャプチャー・コントロール・サーバーが入力データとして指定されているかどうかをチェックします。
2. サブスクリプションに関連するアクションを実行する場合は、適切なアプライ・コントロール・サーバーが入力データとして指定されているかどうかをチェックします。
3. ターゲット・サーバー (CCD またはレプリカ) での自動登録が必要なターゲット表の含まれたサブスクリプション・セットを作成する場合は、キャプチャー・コントロール・サーバーに対する適切なコントロール表が、サブスクリプション・ターゲット・サーバーに存在するかどうかをチェックします。

ASN1623W レプリケーション・コントロール表、*controlowner.controltable* が見つからず、ドロップされていません。

説明: *Drop Capture control tables* または *Drop Apply control server control tables* アクションが発行されましたが、コントロール表が欠落していました。スクリプトは、そのコントロール表に対して適切な DROP ステートメントを生成しません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1624I サーバー *server_alias* は、*capture_schema* に対する既知のレプリケーション・キャプチャー・サーバーではありません。

説明: *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* 表が見つかりません。サーバーは、適切なキャプチャー・サーバーのコントロール表 (*IBMSNAP_REGISTER* 表を含む) がサーバーに存在するときに、レプリケーション・キャプチャー・サーバーとして定義されます。

ユーザーの処置: 必要であれば、適切なキャプチャー・サーバー・コントロール表を作成してください。

ASN1625I サーバー *server_alias* は、既知のレプリケーション・アプライ・コントロール・サーバーではありません。

説明: *ASN.IBMSNAP_SUBS_SET* 表が見つかりませんでした。サーバーは、適切なアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表 (*IBMSNAP_SUBS_SET* 表を含む) がサーバーに存在するときに、レプリケーション・アプライ・コントロール・サーバーとして定義されます。

ユーザーの処置: 必要であれば、アプライ・コントロール・サーバーに適切なコントロール表を作成してください。

ASN1626E キャプチャー・サーバーのコントロール表は、同じキャプチャー・スキーマのアーキテクチャー・レベル *arch_level* に対してすでに存在しています。

説明: 表 *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* は、すでに指定されたサーバーに存在します。

ユーザーの処置:

- 既存の *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* 表のアーキテクチャー・レベルが *0801* または *0805* の場合は、以下のオプションを考慮してください。
 - 同じキャプチャー・スキーマに表がすでに存在するため、コマンドの実行は必要ありません。

- 別のキャプチャー・スキーマでコマンドを実行します。
- 既存の *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* コントロール表のアーキテクチャー・レベルが *0201* の場合:
 - 既存の *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* に、有効なレプリケーション定義がすでに設定されている場合は、キャプチャー・コントロール・サーバーのコントロール表をバージョン 8 アーキテクチャーに移行します。
 - コントロール表が空の場合は、単に V8 より前のキャプチャー・サーバーのコントロール表をドロップして、再度レプリケーション・タスクを発行します。

そうでない場合、アーキテクチャー・レベルは無効です。表の作成を試行する前に、表を手動でドロップする必要があります。

ASN1627E いくつかのキャプチャー・サーバーのコントロール表がすでに同じキャプチャー・スキーマに存在しますが、それに対するアーキテクチャー・レベルを判別できません。

説明: 指定されたサーバーで他のキャプチャー・サーバーのコントロール表が見つかりましたが、表 *captureschema.ASN.IBMSNAP_REGISTER* は存在しません。キャプチャー・サーバーのコントロール表は、これらの表がドロップされるまで作成できません。キャプチャー・サーバーのレプリケーション定義は、不整合状態です。

ユーザーの処置: 残りのキャプチャー・サーバーのコントロール表をドロップして、キャプチャー・コントロール・サーバー定義をクリーンアップし、コントロール表の作成タスクを再実行してください。データの逸失が発生するため、ドロップ・タスクの実行前に、残りのコントロール表の内容を確認してください。

ASN1628E キャプチャー・サーバーのコントロール表が、必要なアーキテクチャー・レベルがありません。

説明: 表 *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* は、指定されたアーキテクチャー・レベルで存在しません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 適切なキャプチャー・コントロール・サーバーとキャプチャー・スキーマに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度レプリケーション・タスクを発行してください。

ASN1629E 指定されたキャプチャー・スキーマに対するキャプチャー・サーバーのコントロール表が見つかりません。

説明: キャプチャー・コントロール表にコントロール表が存在しません。コントロール表はドロップされず、スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 適切なキャプチャー・コントロール・サーバーとキャプチャー・スキーマに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度レプリケーション・タスクを発行してください。

ASN1630W いくつかのキャプチャー・サーバーのコントロール表がすでにキャプチャー・スキーマ *capture_schema* に存在しますが、そのアーキテクチャー・レベルを判別できません。指定されたアーキテクチャー・レベル *arch_level* に対するレプリケーション・アクション *action_name* とキャプチャー・スキーマは、指定されたアーキテクチャー・レベルに属していない可能性のあるコントロール表をドロップします。

説明: 表 *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* は、キャプチャー・サーバーに存在しません。レプリケーション・アーキテクチャー・レベルは不明であり、誤ったアーキテクチャー・レベルを指定すると、重要なデータが失われる可能性があります。特定のキャプチャー・サーバーのコントロール表のアーキテクチャー・レベルを推論できるかどうかを判別するためのチェックは行われません。コントロール表が存在する場合は、ドロップされます。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: DB2 レプリケーションに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度タスクを発行してください。

ASN1631E アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表は、アーキテクチャー・レベル *arch_level* に対してすでに存在します。

説明: 表 *ASN.IBMSNAP_SUBS_SET* は、すでに指定されたサーバーに存在します。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 既存の *ASN.IBMSNAP_SUBS_SET* コントロール表のアーキテクチャー・レベルが *0201* の場合:

- 既存の *ASN.IBMSNAP_SUBS_SET* に、有効なレプリケーション定義がすでに設定されている場合は、アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表をバージョン 8 アーキテクチャーに移行してください。

- 表が空の場合は、単に V8 より前のアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表をドロップして、レプリケーション・タスクを再度実行します。

そうでない場合、アーキテクチャー・レベルは無効です。表の作成を試行する前に、表を手動でドロップする必要があります。

ASN1632E いくつかのアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表がすでに存在しますが、それに対するアーキテクチャー・レベルを判別できません。

説明: 指定されたサーバーで他のアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表が見つかりましたが、表 *ASN.IBMSNAP_SUBS_SET* は存在しません。アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表は、これらの表がドロップされるまで作成できません。アプライ・コントロール・サーバーのレプリケーション定義は、不整合状態です。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: アプライ・コントロール・サーバーにある残りのコントロール表をドロップして、アプライ・コントロール・サーバーのレプリケーション定義をクリーンアップしてください。 *Create control table* タスクを再実行してください。データの逸失が発生するため、*Drop* タスクの実行前に、残りのコントロール表の内容を確認してください。

ASN1633E アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表は、要求されたアーキテクチャー・レベルにありません。

説明: 表 *ASN.IBMSNAP_SUBS_SET* は、指定されたアーキテクチャー・レベルで存在しません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 適切なアプライ・コントロール・サーバーに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度レプリケーション・タスクを発行してください。

ASN1634E アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表が見つかりませんでした。

説明: アプライ・コントロール・サーバーからドロップするコントロール表がありません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 適切なアプライ・コントロール・サーバーに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度レプリケーション・タスクを発行してください。

ASN1635W いくつかのアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表がすでに存在しますが、そのアーキテクチャー・レベルを判別できません。指定されたアーキテクチャー・レベル *arch_level* に対するレプリケーション・アクション *action_name* は、指定されたアーキテクチャー・レベルに属していない可能性のあるコントロール表をドロップします。

説明: 表 *ASN.IBMSNAP_SUBS_SET* は、アプライ・コントロール・サーバーに存在しません。レプリケーション・アーキテクチャー・レベルは不明であり、誤ったアーキテクチャー・レベルを指定すると、重要なデータが失われる可能性があります。特定のアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表のアーキテクチャー・レベルを推論できるかどうかを判別するためのチェックは行われません。コントロール表が存在する場合は、ドロップされます。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: DB2 レプリケーションに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度タスクを実行してください。

ASN1636E アプライ修飾子 *apply_qual* とセット名 *set_name* に対する手動フル・リフレッシュのレプリケーション・アクションが、エラー終了しました。ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable* とターゲット・メンバー *targetowner.target_table* の *capschema.IBMSNAP_PRUNCNTL* 表の同期点が、キャプチャー・プログラムによって変換されていません。

説明: 同期点が 0 より小さいか、16 進のゼロと等しくなっています。

ユーザーの処置: ロード前のスクリプトを実行して 16 進のゼロを変換し、キャプチャーがサーバーで実行されていることを確認してください。

ASN1637E アプライ修飾子 *apply_qualifier* およびセット名 *set_name* に対するレプリケーション・アクション「手動フル・リフレッシュ」はエラー終了しました。指定されたサブスクリプション・セットの中のターゲット・サブスクリプション・セット・メンバーの少なくとも 1 つのターゲット構造が 8 より大です。いずれのサブスクリプション・セット・メンバーも、手動フル・リフレッシュの実行資格を持っていません。

説明: 指定されたサブスクリプション・セットの中のターゲット・サブスクリプション・セット・メンバーの少なくとも 1 つのターゲット構造が 8 より大です。手動フル・リフレッシュは、8 より大きいターゲット構造をサポートしていません。

ユーザーの処置: サブスクリプション・セット・メンバーのターゲット構造が 8 以下であることを確認して、レプリケーション・タスクを再実行してください。

ASN1638W ターゲット *targetowner.targetname* とソース *sourceowner.sourcename* を持つサブスクリプション・セット・メンバーが完全ではありません。このサブスクリプション・セット・メンバーは、手動フル・リフレッシュに含まれません。

説明: 手動フル・リフレッシュは、完全なターゲットのみをサポートします。指定されたサブスクリプション・セット・メンバーは完全でないため、含められません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

ASN1639E アプライ修飾子 *apply_qualifier* およびセット名 *set_name* に対するレプリケーション・アクション「手動フル・リフレッシュ」はエラー終了しました。指定されたサブスクリプション・セットのいずれのターゲット・サブスクリプション・セット・メンバーも、完全ではないか、手動フル・リフレッシュの実行資格を持っていません。

説明: 手動フル・リフレッシュは、完全なターゲットのみをサポートしますが、ターゲットのいずれも完全ではありません。

ユーザーの処置: サブスクリプション・セット・メンバーの少なくとも 1 つが完全であることを確認して、レプリケーション・タスクを再実行してください。

ASN1640E アプライ修飾子 *apply_qualifier* およびセット名 *set_name* に対するレプリケーション・アクションがエラー終了しました。サブスクリプション・セットにサブスクリプション・セット・メンバーが存在しません。

説明: このサブスクリプション・セットには、サブスクリプション・セット・メンバーがまったく含まれていません。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つのサブスクリプション・セット・メンバーをサブスクリプション・セットに追加して、レプリケーション・タスクを再実行してください。

ASN1641E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。
OS/400 システム上では、このアクションは **OS/400** コマンドを使用する場合のみサポートされます。

説明: レプリケーション・センターとコマンド行は、どちらも OS/400 システムでレプリケーション・アクションをサポートしません。可能なアクションは、キャプチャー・サーバーのコントロール表の作成、アプライ・サーバーのコントロール表の作成、キャプチャー・サーバーのコントロール表のドロップ、またはアプライ・サーバーのコントロール表のドロップです。

ユーザーの処置: レプリケーション・アクションを実行するための OS/400 コマンドを発行してください。

ASN1650I レプリケーション・アクション *action_name* が、*timestamp* に開始されました。モニター・サーバーは *server_name* で、*Group_or_Contact* の名前は *group_name_or_contact_name* です。

説明: レプリケーション・アクションが、示されたモニター・サーバーで開始されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1653I *group_contact_or_condition_name* に対するレプリケーション・アクション *action_name* は、*timestamp* に、正常に終了しました。モニター・サーバーは *server_name* です。

説明: レプリケーション・アクションが、示されたモニター・サーバーで正常に終了しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1654E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。入力パラメーター *parameter-name* の長さ *parameter_length* が、限界 *maximum-limit* を超えています。

説明: 示された入力パラメーターの長さが、許容最大長を超えています。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 入力パラメーター値を確認し、パラメーター値を再入してください。

ASN1655E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。入力パラメーター *input_parameter* の値 *input_value* が誤っています。

説明: 示された入力パラメーターの値が誤っています。

ユーザーの処置: 有効なパラメーター値については、ご使用の資料を参照してください。

ASN1656E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。入力パラメーター *input_parameter* の値がありません。

説明: このアクションでは、ここに示された入力パラメーターの値は必須ですが、その値がありません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: この必須入力パラメーターに値を入力し、レプリケーション・アクションを再実行してください。

ASN1657E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。少なくとも 1 つのオプション・パラメーターを指定する必要があります。

説明: 各パラメーター値がオプションのコマンドを発行するときは、少なくとも 1 つのオプション・パラメーターを指定しなければなりません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 正しいパラメーターを指定してコマンドを再発行してください。

ASN1658E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。 入力パラメーター *input_parameter1* の値 *value1* は、 入力パラメーター *input_parameter2* の値 *value2* と異なっている必要があります。

説明: 1 つの入力パラメーターの値が別の入力パラメーターの値と同じであるために、矛盾した定義が作成されました。 スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 有効なパラメーター値を指定してコマンドを再発行してください。

ASN1659E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。 連絡先 *contact-name* はすでに存在します。

説明: 示された連絡先名は、ASN.IBMSNAP_CONTACTS 表の行の 1 つにすでに存在しています。 連絡先名はユニークでなければなりません。 スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 異なる連絡先名を指定してコマンドを再発行してください。

ASN1660E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。 連絡先 *contact-name* が存在しません。

説明: 示された連絡先名は、ASN.IBMSNAP_CONTACTS 表のどの行にも存在していません。 ASN.IBMSNAP_CONTACTS 表に連絡先名が存在していないと、その名前の変更、置換、代行者指定、またはドロップはできません。 スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 異なる連絡先名を指定してコマンドを再発行してください。

ASN1661E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。 連絡先 *contact-name* は、この連絡先をドロップすると各関連グループが空になるためにドロップできません。

説明: 1 つのグループには、少なくとも 1 つの関連連絡先がなければなりません。 示された連絡先は各関連グループの最後の連絡先であるため、ドロップできません。 スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 各関連グループをドロップしてから、この連絡先をドロップしてください。

ASN1662E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。 連絡先 *contact-name* は、この連絡先が 1 つまたは複数の条件と関連しているためにドロップできません。

説明: ドロップしようとしている連絡先名は、キャプチャー・コンポーネントまたはアプライ・コンポーネントに関する条件に関連した、唯一の連絡先です。 スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: DROP CONTACT コマンドの SUBSTITUTE オプションを使用するか、SUBSTITUTE コマンドを使用して、条件の連絡先名を変更してください。 その条件が不要な場合は、条件をドロップしてから連絡先をドロップしてください。

ASN1663E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。 開始日に対して指定された値 *startdate_value* は、終了日に対して指定された値 *enddate_value* を超えています。

説明: 終了日を超える開始日は入力できません。 スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 有効な日付の組み合わせを指定して、コマンドを再発行してください。

ASN1664E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。 グループ *group-name* はすでに存在します。

説明: 示されたグループ名は、ASN.IBMSNAP_GROUPS 表の行の 1 つにすでに存在しています。 グループ名はユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: グループ名を変更して、コマンドを再発行してください。

ASN1665E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。 グループ *group_name* が存在しません。

説明: 示されたグループ名は、ASN.IBMSNAP_GROUPS 表のどの行にも存在していません。 ASN.IBMSNAP_GROUPS 表にグループ名が存在していないと、そのグループ名の変更またはドロップはできません。 スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: グループ名を確認して、コマンドを再発行してください。

ASN1666E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。グループ *group_name* は、このグループが 1 つまたは複数の条件と関連しているためにドロップできません。

説明: ドロップしようとしているグループは、キャプチャー・コンポーネントまたはアプライ・コンポーネントに関する条件に関連した、唯一のグループです。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: このグループをドロップするには、関連した条件の連絡先を変更してから、コマンドを再発行してください。

ASN1667E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。連絡先 *contact-name* は、指定されたグループ *group_name* と関連していません。

説明: ドロップしようとしている連絡先名は、示されたグループと関連していません。

ユーザーの処置: 示された連絡先名を確認して、コマンドを再発行してください。

ASN1668E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。連絡先 *contact-name* は、指定されたグループ *group_name* とすでに関連していません。

説明: 指定した連絡先名は、示されたグループとすでに関連しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

ASN1671E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。モニター修飾子 *mon-qual*、サーバー *server-name*、スキーマまたは修飾子 *schema-or-qualifier*、およびサブスクリプション・セット名 *set-name* に対して、アラート条件 *condition-name* がすでに存在します。

説明: 作成しようとしているアラート条件は、示されたパラメーターに対して、モニター・コントロール・サーバー上にすでに存在しています。

ユーザーの処置: このアラート条件を確認して、コマンドを再発行してください。

ASN1672E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。モニター修飾子 *mon-qual*、サーバー *server-name*、スキーマまたは修飾子 *schema-or-qualifier*、およびサブスクリプション・セット名 *set-name* に対して、アラート条件 *condition-name* が存在しません。

説明: ドロップまたは変更しようとしているアラート条件が、モニター・コントロール・サーバー上に存在していません。

ユーザーの処置: アラートの名前を確認して、コマンドを再発行してください。

ASN1673W 条件 *condition_name* は、アプライ修飾子レベルでのみ有効です。

説明: この条件名は、サブスクリプション・セット名の値では無効です。サブスクリプション・セットの名前は無視されます。

ユーザーの処置: サブスクリプション・セットの値を指定しないでください。

ASN1674W 条件 *condition_name* は、**Update-anywhere** サブスクリプション・セットでのみ有効です。

説明: この条件名は、Update-anywhere サブスクリプション・セットでのみ有効です。

ユーザーの処置: この条件を設定しないでください。この条件は無視されます。

ASN1675I これはレプリケーション・センターからのテスト・メッセージです。

説明: このメッセージは、連絡先に入力された E メール・アドレスを検証する、テスト用の E メールに使用されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1677E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。アプライ修飾子 *apply-qual* とサブスクリプション・セット名 *set-name* は、サーバー *server-name* に存在しません。

説明: このアプライ修飾子とサブスクリプション・セットが、示されたアプライ・コントロール・サーバー上の IBMSNAP_SUBS_SET 表の中に存在していません。

ユーザーの処置: 有効なアプライ修飾子と有効なサブスクリプション・セット名を指定してください。

ASN1678E レプリケーション・アクション

action_name はエラー終了しました。 キャプチャー・スキーマ *cap-schema* は、サーバー *server-name* に存在しません。

説明: このキャプチャー・スキーマは、示されたキャプチャー・コントロール・サーバー上の ASN.IBMSNAP_CAPSCHEMAS 表の中に存在していません。

ユーザーの処置: 有効なキャプチャー・スキーマを指定してください。

ASN1679E レプリケーション・アクション

action_name はエラー終了しました。 置換しようとした連絡先 *contact_name* は、条件と関連していません。

説明: この連絡先名は ASN.IBMSNAP_CONDITIONS 表の中に存在していません。 連絡先は、ASN.IBMSNAP_CONDITIONS 表の中に存在している場合にのみ置換できます。 スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 有効な連絡先名を指定してください。

ASN1680I レプリケーション・アクション

action_name が、*time* に開始されました。 モニター・サーバーは *server_name* です。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ASN1681E レプリケーション・アクションがエラー終了しました。 モニター・コントロール表は、アーキテクチャー・レベル *arch_level* に対してすでに存在します。

説明: モニター・コントロール表は、モニター・サーバーにすでに存在しています。

ユーザーの処置: 既存のモニター表のアーキテクチャー・レベルが 0801 の場合、その表はすでに存在しているため、コマンドを実行する必要はありません。

ASN1682E レプリケーション・アクションがエラー終了しました。 モニター・コントロール表が見つかりませんでした。

説明: ドロップするモニター・コントロール表がありません。 スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: モニター・コントロール表を含む適切なサーバーに対して、レプリケーション・タスクを再発行してください。

ASN1683E レプリケーション・アクション

action_name はエラー終了しました。 指定されたキャプチャー・スキーマによる行は、キャプチャー・コントロール表がそのキャプチャー・スキーマの下に存在しなくても、すでに **ASN.IBMSNAP_CAPSCHEMAS** 表で検出されています。

説明: IBMSNAP_CAPSCHEMAS 表には、「キャプチャー・サーバー・コントロール表の作成」アクションに対する入力として指定されたキャプチャー・スキーマ値がすでに含まれています。 キャプチャー・スキーマ値はユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: キャプチャー・スキーマ・フィールドに正しい値を指定していることを確認し、IBMSNAP_CAPSCHEMAS 表から指定されたキャプチャー・スキーマが含まれる行を削除してください。 タスクを再発行してください。

ASN1684W レプリケーション・コントロール表

controlowner.control_table に対するニックネーム *nicknameowner_nickname* が、フェデレーテッド・データベースで見つかりませんでした。

説明: すでにドロップまたは削除されたレプリケーション・コントロール表のニックネームをドロップしようとしたため、生成されたスクリプトには、このニックネームの DROP ステートメントが含まれていません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1685W タイプ *object_type* のオブジェクト

objectowner.object_name が、非 DB2 リレージョナル・サーバーで見つかりませんでした。

説明: すでにドロップまたは削除されたレプリケーション・オブジェクトをドロップしようとしたため、生成されたスクリプトには、このレプリケーション・オブジェクトの DROP ステートメントが含まれていません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1686E 非 DB2 リレーショナル・オブジェクト *object_name* に対する名前の長さ *length* が、許可されている限度 *allowed_limit* を超えています。

説明: 実際のオブジェクトに対して許可されている最大長より長い DB2 以外のオブジェクト名を指定しました。

ユーザーの処置: データベースに適切な SQL リファレンスを参照してください。

ASN1687E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。表スペース *tablespace_name* が、**IBMCATGROUP** ノード・グループに属していません。

説明: 指定された表スペースが、デフォルトの **IBMCATGROUP** ノード・グループに属していません。レプリケーション・アクションは現在このノード・グループをサポートしていません。

ユーザーの処置: 表スペース名を確認して、コマンドを再発行してください。

ASN1688E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。指定された表スペース・オプション *tableowner.tablename* が無効です。

説明: コントロール表を作成するときに、表スペースをカスタマイズすることができます。既存の表スペース、新規の表スペース、あるいは、同じセッションで、以前に別のコントロール表用に既に指定された表スペースを使用することができます。これらの表スペース・オプションで指定された値はあいまいです。これらの表スペース・オプションに対して指定された値がないか、複数の値が指定されています。

ユーザーの処置: 表スペースのオプションの値を確認して、タスクを再発行してください。

ASN1689E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。モニター修飾子 *monitor_qualifier_name*、サーバー *capture_or_apply_server* およびスキーマまたは修飾子 *schema_or_qualifier* に対してアラート条件が存在しません。

説明: 指定されたモニター修飾子、キャプチャーまたはアプライ・サーバーおよびスキーマまたはアプライ修飾子に対してアラート条件が定義されていません。

ユーザーの処置: モニター修飾子、キャプチャーまたは

アプライ・サーバーおよびスキーマまたはアプライ修飾子に対して、少なくとも 1 つのアラート条件を定義してください。

ASN1700E データ・タイプ *data_type* の列 *tableowner.tablename.columnname* は、登録に組み込めません。理由コード *reason_code*。

説明: この列は、定義されているように、レプリケーション・キャプチャー機構でサポートできません。指定された列の登録に対するスクリプトは、生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 データ・タイプがサポートされていません。
- 1 この列はすでに登録済みです。
- 2 z/OS fieldproc 列。
- 3 この列は、変更前イメージとして適格ではありません。
- 4 このデータ・タイプは、フェデレーテッドに対し、DB2 を介してサポートされていません。
- 5 この列は、ソース・オブジェクトに存在しません。
- 6 その表について、登録済み LOB 列の最大数を超えました。
- 7 列名が、変更前イメージの接頭部で開始されています。
- 8 この列は、変更前イメージ列または変更後イメージ列として適格ではありません。
- 9 ソース表が非 DB2 サーバーにある場合は、大文字小文字混合の列名はサポートされていません。
- 10 この列名は、このソースに提供されている列の一つと重複しています。

ユーザーの処置: 理由コードをチェックして、列を登録できない理由を判別してください。追加説明または制限については、「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

ASN1701E 指定された表スペース *tablespace_name* に対して指定されたロック・サイズ値 *lock_size* は無効です。

説明: z/OS オペレーティング・システムの場合、ロック・サイズは、P(PAGE)、R(ROW) または A(ANY) のいずれかに等しくなければなりません。

ユーザーの処置: 正しいロック・サイズを指定して、再度アクションを実行してください。

ASN1702W 登録された列

objectowner.objectname.columnname のレプリケーション定義が、NULL 値をサポートするように変更されました。

説明: 変更前イメージ列は、NULL 値をサポートする必要があります。変更前イメージ列の値が指定されていないと、INSERT ステートメントは失敗します。ユーザー提供の定義を更新するために、スクリプトが生成されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージであり、アクションは必要ありません。

ASN1703E 表 *tableowner.tablename* は、変更キャプチャー・レプリケーションのために登録できません。理由コード *reason_code*。

説明: この表は、定義されているように、キャプチャー機構でサポートできません。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 z/OS validproc を持つ表。
- 1 内部 CCD 表が存在します。
- 2 CD 表が存在します。
- 3 DB2 カタログ表 (Windows、UNIX、iSeries)
- 4 この表はすでに登録済みです。
- 5 内部 CCD 表のソースは登録済みソースではありません。
- 6 ソースは CD 表であり、登録できません。
- 7 このソース名はこのセッションで重複しています。
- 8 ソースがレプリケーション・コントロール表です。
- 9 ソース列のいずれも、登録資格がありません。
- 10 この表の登録済み LOB 列の最大数を超えました。
- 11 構造化データ・タイプは、サポートされません。
- 12 変更前イメージの接頭部には 1 文字しか使用できません。
- 13 内部エラーが発生しました。
- 14 ブランク文字は、変更前イメージ接頭部では無効です。
- 15 ソース表またはビューに、ブランクを含めてはいけません。 (OS/400 のみ)

- 16 ブランク・スペース文字は CD 表所有者/名前フィールドで無効です。 (OS/400 のみ)
- 17 指定されたソースに対して、変更前イメージ列および変更後イメージのみの列を登録することができません。列のすべてが変更前イメージであるか、変更前イメージの列がないかのいずれかである必要があります。 (OS/400 のみ)
- 18 このソースの CD 名が重複しています。このセッションにすでに存在する CD 名です。
- 19 ソース・オブジェクト・タイプがレプリケーションに有効なオブジェクト・タイプではありません。

ユーザーの処置: この表を変更キャプチャー・レプリケーションに対して登録できない理由について、理由コードをチェックし判別してください。追加説明および制限については、「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

ASN1704E ビュー *viewowner.viewname* を登録できません。理由コードは *reason_code*。

説明: このビューは、定義されているように、レプリケーション・キャプチャー機構でサポートできません。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 このビューの従属表が登録されていません。
- 1 ビューが従属するソース表の列は登録されません。
- 2 このビューは、内部 CCD にあります。
- 3 このビューはすでに登録済みです。
- 4 このビューは、'OUTER JOIN' 構文を持っています。
- 5 このビューには、関数を含む複数の表またはビュー列が組み込まれていますが、ビュー定義の中に、各表に対する相関が指定されていません。
- 6 このビューには、総計関数に対する参照が含まれています。
- 7 このビューには、副選択または副照会が含まれています。
- 8 このビューには、別のビューに対する参照が含まれています。
- 9 このビューは、UNION を持っています。
- 10 この列に対する相関が指定されていません。
- 11 基本表にスキーマ名がありません。
- 12 基本表が存在しません。

- 13 このビューには、表として表式が含まれていません。
- 14 従属表が存在しません。
- 15 ビュー上のビューは登録できません。
- 16 指定されたソース・オブジェクトはビューではありません。
- 17 このソース・ビューはこのセッションで重複しています。
- 18 このビュー定義はサポートできません。
- 19 このビューのビュー定義には、特定の列名の代わりにアスタリスク (*) が使用されています。
- 20 このビューには、CCD 表と CCD 以外の表の結合が含まれています。
- 21 CCD 表で定義されるビューはコンプリートおよびコンデンスである必要があります。
- 22 従属表がニックネームです。
- 23 フェデレーテッド登録は、ニックネームがソースとして登録されることを予期しています。

ユーザーの処置: 理由コードをチェックして、ビュー登録できない理由を判別してください。追加説明および制限については、「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

ASN1705E 変更データ *object*, *objectowner.objectname* は、すでにサーバーに存在します。

説明: 変更データ表またはビューは、キャプチャー・サーバーにすでに存在するため、現行ソースで登録に使用することはできません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 変更データ・オブジェクトに別の名前を指定してください。

ASN1706W 列 *column_name* は、登録済みソース *sourceowner.sourcename* に追加されました。この登録済みソースは、内部 CCD 表を保守しています。この新しい列は、既存の、またはまだ既存ではないサブスクリプション・メンバーに追加する前に、**CCD** 表のサブスクリプション・メンバーに最初に追加する必要があります。

説明: 新規列が従属サブスクリプション・セットに必要な場合は、その列を必要なサブスクリプション・メンバーに追加する前に、まず内部 CCD サブスクリプション・メンバーに追加する必要があります。

ユーザーの処置: 変更データ・オブジェクトに別の名前を指定してください。

ASN1707W *sourceowner.sourcename* に対するレプリケーション・アクション「登録の変更 (Alter Registration)」は、キャプチャーの **REINIT** コマンドがキャプチャー・サーバーで発行されるまでは無効です。

説明: 登録されているソースは正常に更新されました。ただし、REINIT コマンドが強制するまで、キャプチャー・プログラムは対応する

captureschema.IBMSNAP_REGISTER 表の更新を認識しません。スクリプトが生成されました。スクリプトにアクションを実行させるために、後でキャプチャー・コマンドを実行する必要があります。

ユーザーの処置: 変更を即時有効にするには、次のようにします。

1. 生成されたスクリプトを実行します。
2. 適切なキャプチャー・スキーマに対して、適切なキャプチャー・プログラムの **REINIT** を発行します。

ASN1708E 表、ビュー、またはニックネーム *objectowner.objectname* は、レプリケーションに登録されたソースではありません。

説明: 上記に指定されたレプリケーション・オブジェクトは、レプリケーション・コントロール表に定義されていません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: オブジェクトがコマンドに正しく指定されており、存在していることを確認してください。

ASN1709W 登録済みソース *sourceowner.sourcename* がドロップされると、関連したサブスクリプション・セットは無効になります。

説明: サブスクリプション・メンバーは、ソース・メンバーを定義する、その元のソース登録に依存しています。登録済みのソース表をドロップすると、サブスクリプション・セットの従属ソース・メンバーが無効になります。指定された登録ソースと関連するサブスクリプション・セットが、キャプチャー・コントロール・サーバーの *captureserver.IBMSNAP_PRUNCNTL* 表に見つかりません。この場合 **SOURCE_OWNER** と **SOURCE_TABLE** は、ドロップされる登録済みソースに対応しています。適切なアプライ・コントロール・サーバーとサブスクリプション・セット名は、*IBMSNAP_PRUNCNTL* 表の中の列です。アプライが実行されている場合、関連するサブスクリプション・セットは失敗します。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: 登録されたソースに従属サブスクリプ

ション・セットがある場合は、スクリプトを実行する前に、従属するサブスクリプション・セットを非活動化またはドロップしてください。

ASN1710W 登録済みのソース *sourceowner.sourcetable* がドロップされると、従属するビュー登録ソースは無効になります。

説明: ビュー登録は、ビュー定義を構成する、元となる表の登録に依存しています。登録されているソース表をドロップすると、その表を基にしているビュー登録は無効になります。影響を受ける可能性のあるビューは、キャプチャー・サーバーの *captureserver.IBMSNAP_REGISTER* 表にあります。この場合、*PHYS_CHANGE_OWNER* と *PHYS_CHANGE_TABLE* は、ドロップされる登録されたソースの *CD_OWNER* と *CD_TABLE* と同じです。アプライが実行されている場合、ビュー登録に依存する、関連するサブスクリプション・セットは失敗します。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: 登録されたソースに従属するビュー登録がある場合は、スクリプトを実行する前に、該当するサブスクリプション・セットまたはビュー登録を、非活動化あるいはドロップしてください。

ASN1711W ソース *sourceowner.sourcename* はまだアクティブなので、これをドロップするとキャプチャーが失敗します。

説明: アクティブ登録は、*captureschema.IBMSNAP_REGISTER* 表で *NULL* でない *SYNCHPOINT* 値を持っています。キャプチャー・プログラムは、開始されたとき、すべてのアクティブ登録が常に存在し、有効であると予期していました。そのため、登録済みソースがドロップされた場合は、ドロップ・アクションによって登録情報が無効になるため、キャプチャー・プログラムにそのことを伝えるシグナルを送信する必要があります。その情報をキャプチャー・プログラムに知らせなかった場合、キャプチャー・プログラムは失敗します。スクリプトは生成されますが、作動不能です。

ユーザーの処置:

1. 適切な登録を (レプリケーション・センター GUI を使うか、*STOP* シグナルと *CMD* のコマンド・タイプを発行することにより) 非活動化します。
2. *captureschema.IBMSNAP_SIGNAL* 表の中で、*SIGNAL_STATE* が完了になるのを待ちます。
3. 登録をドロップするスクリプトを実行します。

ASN1712E 表、ビュー、またはニックネーム *objectowner.objectname* は、有効なレプリケーション登録済みソースではありません。理由コードは *reason_code*。

説明: キャプチャー・サーバーのコントロール表で、この登録済みソースの矛盾が検出されました。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 登録済みソースをドロップし、再度登録を作成してください。

ASN1713E 登録済みソース *sourceowner.sourcename* は、非活動化できません。理由コードは *reason_code*。

説明: 以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 ソースはフル・リフレッシュとして登録されているため、非活動化できません。
- 1 ソースは *CCD* であり、*CCD* 登録は非活動化できません。
- 2 ソースはビューであり、ビュー登録は非活動化できません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1714E 登録済みソース *sourceowner.sourcename* は変更できません。理由コードは *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 このソースの *CD* 表には、*RRN* 列があります (*iSeries* のみ)。ソースが変更できないように、*RRN* 列は表の最後の列でなければなりません。
- 1 ソースはビューであり、ビュー登録は変更できません。
- 2 ソースはフル・リフレッシュに対して登録されており、変更できません。
- 3 ソース表の列が、変更されている列と一致しません。
- 4 列は、*LOB*、*DATALINK*、または *ROWID* データ・タイプのため、変更前イメージ値として適格ではありません。
- 5 変更前イメージ列値は *NULL* またはブランク文字にできません。
- 6 変更後イメージ値は、指定された列に対して登録されていません。

- 7 変更前イメージの接頭部は、既存の登録済みソースで使用されている場合、更新できません。
- 8 現在の変更前イメージの接頭部を使用すると、この登録済みソースの中の列の 1 つが未確定になります。
- 9 変更前イメージの接頭部には 1 文字しか使用できません。
- 10 内部エラーが発生しました。
- 11 指定された登録ソース名は、変更された登録によって組み込まれたソースの複写で、その登録に対するスクリプトはまだ実行されていません。
- 12 競合レベルを、レプリカ登録に対して更新できません。

ユーザーの処置: ソースを変更できない理由を判別し、これらのエラーの訂正方法の詳細については「レプリケーションのガイドおよびリファレンス」を参照してください。

ASN1715E レプリケーション・アクションがエラー終了しました。 ネイティブ OS/400 メッセージは、*as400native_message* です。

説明: OS/400 オペレーティング・システムまたは iSeries サーバーで適切なコマンドを発行中に、エラーを検出しました。 スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 詳しいエラー情報については、OS/400 コンソール・ログを参照してください。

ASN1716W レプリケーション・アクションが、警告で終了しました。 ネイティブ OS/400 メッセージは、*as400native_message* です。

説明: OS/400 オペレーティング・システムまたは iSeries サーバーで適切なコマンドを発行中に、警告を検出しました。 スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: 詳しい警告情報については、iSeries コンソール・ログを参照してください。

ASN1717I レプリケーション・アクションが、通知文節で修理用しました。 ネイティブ OS/400 メッセージは、*as400native_message* です。

説明: OS/400 オペレーティング・システムまたは iSeries サーバーで適切なコマンドを発行中に、通知メッセージを検出しました。 スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1718E ニックネーム *nicknameowner.nickname* は、登録できません。 理由コード *reasoncode*。

説明: ニックネームは、定義されているように、キャプチャー機構でサポートされていません。 スクリプトは生成されません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 内部 CCD 表 (ユーザーの CD 表) はすでに存在します。
- 1 ニックネームはネイティブ・カタログ表にあります。
- 2 ニックネームはすでに登録済みです。
- 3 フェデレーテッド登録は、登録するソースとしてのニックネームを予期しています
- 4 キャプチャー・プログラムに適格な列がありません
- 5 指定されたニックネームは、前に登録されたニックネームと重複していますが、対応するスクリプトが実行されていません。
- 6 フェデレーテッド登録は、ユーザー表しかサポートしません。
- 7 フェデレーテッド登録は、非コンデンスおよび不完全の CCD 表しかサポートしません。
- 8 指定されたニックネームは、前に登録された CCD ニックネームと重複していますが、その登録に対応するスクリプトがまだ実行されていません。
- 9 リモート・サーバー情報がニックネームの登録のために提供されていません。

ユーザーの処置: 理由コードをチェックして、ニックネームを登録できない理由を判別してください。追加解説または制限事項については、オンライン・ヘルプを参照してください。

ASN1719W 登録済みソース *nicknameowner.nickname* に定義された、IBM 以外のトリガーはドロップされます。 後にユーザーによって提供されるこれらのトリガーの追加ロジックは、すべて失われます。

説明: 登録済みソースのドロップは、後に更新されたかどうかに関係なく、そのソースの登録中に作成されたすべてのオブジェクトがドロップされることを暗黙指定します。 スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: 必要であれば、登録済みソースをドロップする前に、トリガー・ロジックをコピーしてください。

ASN1720E ソース・ニックネーム *nicknameowner.nickname* の変更データ表情報が、*capschema.IBMSNAP_REGISTER* 表に見つかりません。

説明: 指定されたソース・ニックネームの行は *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* 表に見つかりましたが、そのソースの CCD 表がありません。レプリケーション定義をドロップするためには、変更データ表情報が必要です。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 正しいソース名が指定されていることを確認して、再度アクションを呼び出してください。

ASN1722W ビュー *view_owner.viewname* はフル・リフレッシュとして登録されます。このビューの基本表がすべて、フル・リフレッシュとして登録されているためです。

説明: このビューの基本表がフル・リフレッシュ専用として登録されているか、または登録されたレプリケーション・ソースでないため、このビューはフル・リフレッシュとして登録する必要があります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

ASN1723W このビューの 1 つまたは複数の基本表が変更キャプチャー・レプリケーションとして登録されているため、このビュー *viewowner.viewname* は変更キャプチャー・レプリケーションとして登録されません。

説明: このビューは、このビューの基本表が変更キャプチャー・レプリケーションとして登録されているため、変更キャプチャー・レプリケーションとして登録する必要があります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

ASN1724E DB2 以外のリレーショナル・サーバーで作成中のオブジェクトの名前が、タイプ *objecttype* の *objectowner.objectname* と同一です。

説明: 指定したオブジェクトは、DB2 以外のリレーショナル・サーバー上に同じタイプ、同じ名前の既存オブジェクトがあるために作成できません。

ユーザーの処置: オブジェクトにユニークな名前を指定し、レプリケーション・タスクを再実行してください。

ASN1725W トリガー *triggerowner.trigger_name* は、リモート表 *remoteowner.remotetablename* にすでに存在します。既存のトリガーの内容を、生成されたトリガー定義とマージする方法を決定するまでは、生成されたスクリプトを実行しないでください。

説明: この名前のトリガーは、DB2 以外のリレーショナル・データベースのリモート表にすでに存在していません。生成されたスクリプトで CREATE TRIGGER ステートメントを実行すると、RDBMS は、競合があることを示さずに、後で既存のトリガーを上書きする可能性があります。場合によっては、RDBMS はオブジェクトがすでに存在することを示す SQL エラーを戻す可能性もあります。生成されたトリガー名はカスタマイズできません。カスタマイズされたトリガーは、登録をドロップするときにドロップできないためです。

ユーザーの処置: まず、既存のトリガーを生成されたトリガーとマージする方法を決定してください。次に、独自のスクリプトを作成して、既存のロジックをレプリケーション・ツールで作成したトリガー・ロジックとマージするか、レプリケーション・ツールで生成したスクリプトを更新して、既存のトリガー定義を組み込んでください。

ASN1726W トリガー *triggerowner.trigname* は、リモート・サーバー *rmtservername* 上のリモート表 *owner.tablename* に存在しません。

説明: このトリガーは、リモート・データベース上に存在していません。トリガーがドロップされた可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

ASN1727I 登録済みソース *registered_source* は非活動化されました。

説明: 示された登録済みソースは、すでに非活動化されています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1728W ソース表 *sourceowner.sourcetable* の変更データ (CD) 表 *cdowner.cdname* の CCSID *Unicode_ASCII_EBCDIC* は、キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の **IBMSNAP_UOW** 表の CCSID *Unicode_ASCII_EBCDIC* と一致しません。

説明: 示されたキャプチャー・スキーマで、ASN.IBMNSNAP_MEMBR 表の列 JOIN_UOW_CD が Y に設定されている場合、アプライ・プログラムは、所定

のソースの IBMSNAP_UOW 表と CD 表を結合します。関連したサブスクリプション・セット・メンバーのターゲット・タイプがユーザーのコピーでない場合、または IBMSNAP_UOW 表のいずれかの列がサブスクリプション・セット・メンバーの WHERE 文節の中で使用されている場合、この列には Y が含まれます。アプライ・プログラムが異なるコード化スキームの表を結合すると、エラーが発生します。コード化スキームについては、「レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」の付録 B を参照してください。

ユーザーの処置: この登録を使用するサブスクリプション・メンバーの場合は、タイプをユーザーのコピーに指定してターゲット表を定義し、WHERE 文節の中では IBMSNAP_UOW 列を使用しないでください。

ASN1729E ニックネーム *nicknameowner.nickname* の登録はドロップできません。理由コードは *reasoncode* です。

説明: このニックネームの登録はドロップできません。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 示されたニックネームは、以前にドロップされた登録に組み込まれていたニックネームと重複しています。ただし、その登録のドロップのスクリプトはまだ実行されていません。

ユーザーの処置: 追加説明および制限については、理由コードの説明を調べるとともに、「DB2 レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

ASN1730W プロシージャ *procedureowner.procedurename* は、リモート・サーバー *remote_server* にすでに存在します。既存のプロシージャの内容は、生成されたスクリプトが実行される前に、生成されたプロシージャの定義とマージされる必要があります。

説明: この名前プロシージャは、DB2 以外のリレーショナル・データベースにすでに存在しています。生成されたスクリプトで CREATE PROCEDURE ステートメントを実行すると、RDBMS は、競合があることを示さずに、後で既存のトリガーを上書きをすることができます。場合によっては、オブジェクトがすでに存在することを示す SQL エラーを戻す可能性もあります。生成されたプロシージャ名はカスタマイズできません。カスタマイズされたプロシージャは、登録をドロップするときにドロップできないためです。

ユーザーの処置: 既存のプロシージャを、生成されたプロシージャとマージする方法を決定してください。

次に、独自のスクリプトを作成して、既存のロジックをレプリケーション・ツールで作成したプロシージャ・ロジックとマージするか、レプリケーション・ツールで生成したスクリプトを更新して、既存のプロシージャ定義を組み込んでください。

ASN1731W DB2 以外のリレーショナル・データベースにあるデータ・タイプ *datatype* の列 *column_name* は、フェデレーテッド・ラッパーによるニックネームにあるデータ・タイプ *datatype* に変換されます。理由コードは *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 DB2 以外のリレーショナル・データベースは Oracle データベースで、その表にある番号列はフェデレーテッド・サーバーによるニックネームで、倍精度のデータ・タイプに変換されません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1732E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。ソース表 *srcowner.srctable* は、変更前および変更後イメージの両方でジャーナル化されなくてはなりません。

説明: 固有の OS/400 コマンドでは、登録の前に、変更前および変更後イメージ列の両方でジャーナルされるソース表が必要です。

ユーザーの処置: 表の登録のために生成されているスクリプトを実行する前に、変更前および変更後の両方のイメージで、ソース表をジャーナルしてください。

ASN1733E ソースの登録 *srcowner.srctable* をドロップできません。理由コードは *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 指定されたソースは、前の DROP 登録と重複していますが、対応するスクリプトが実行されていません。

ユーザーの処置: 提供されたソース名を検査し、再度タスクを発行してください。

ASN1734W 従属ビューによる登録済みソースの定義は、登録済みソース *srcowner.srctable* の列によって更新されません。

説明: 既存の登録済みソースに対して、列を追加しようとしました。ソースの登録には従属ビューの登録がありますが、変更された列は、ビューの登録定義に反映されません。

ユーザーの処置: 新規列の定義が、ビュー登録に反映されるように、ビュー登録の定義を更新してください。

1. 現行のビュー登録をドロップする。
2. ビュー登録を再作成する。

ビュー登録に新規列情報を反映したくない場合は、アクションは不要です。

ASN1735E 表、ビュー、またはニックネーム *owner.name* が登録できません。ドロップされた前の登録からのソース表に関連したサブスクリプション・セット・メンバーがあります。現在の登録に対して要求される定義が、既存のサブスクリプション・セット・メンバーに対するレプリケーション・コントロール表に保管されている定義と矛盾します。理由コードは *reason_code* です。

説明: 表、ビュー、またはニックネームは以前に登録され、ドロップされました。ただし、関連したサブスクリプション・セット・メンバーはドロップされておらず、これらのメンバーの情報もレプリケーション・コントロール表に存在します。キャプチャーおよびアプライ・プログラムによる問題を回避するために、表またはニックネームは再登録され、要求されている情報は、孤立しているメンバーのコントロール表に保管された情報と一致する必要があります。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 表またはニックネームを FULL REFRESH ONLY で登録を試みました。IBMSNAP_PRUNCNTL 表の行は、この表またはニックネームが変更-キャプチャー・メカニズムによって以前登録され、さらにこの登録がドロップされたことを示します。
- 1 表またはニックネームを変更-キャプチャー・メカニズムで登録を試みました。IBMSNAP_PRUNCNTL 表の行は、この表またはニックネームが FULL REFRESH ONLY として以前登録され、さらにこの登録がドロップされたことを示します。
- 2 表またはニックネームを変更-キャプチャー・メカニズムで登録を試みました。ソース表は以

前に定義されドロップされました。IBMSNAP_PRUNCNTL 表にある PHYS_CHANGE_OWNER と PHYS_CHANGE_TABLE 列の値が、CD/CCD 所有者または CD/CCD 表フィールドで指定された入力値と一致しません。

ユーザーの処置: 以下の理由コードに応じてそれぞれのアクションを実行してください。

- 0 表またはニックネームを変更-キャプチャー・メカニズムで登録してください。
- 1 表またはニックネームを FULL REFRESH ONLY で登録してください。
- 2 表またはニックネームを登録し、変更データまたは整合変更データの所有者および表の名前は、IBMSNAP_PRUNCNTL フィールドにあるものと一致するかどうか確認してください。レプリケーション・アクションがコントロール表に保管された値を受け取るために、これらの値をカスタマイズしないでください。

ASN1736W データ・タイプ *datatype* の列 *column_name* に対する変更前イメージ列の名前は、変更前イメージ接頭部付の列名の長さが切り捨てられます。変更前イメージ接頭部付の列名の長さが、DB2 以外のリレーショナル・データベースで可能な列名の制限値 *allowed_limit* を超過しているため、切り捨てられます。

説明: 指定された変更前イメージ接頭部が列名に追加される時、その列名が DB2 以外のリレーショナル・サーバーに対する列名の最大値より長くなっています。列名は、長さが最大値に等しくなるように、後ろから切り捨てられていきます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1737W レプリケーション・アクション *action_name* は、IBMSNAP_PRUNCNTL 表にあるプロシージャーまたはトリガー定義を再作成するための十分な情報を引き出すことができません。

説明: IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガー定義は登録済みニックネームのすべてに対して CCD 表を整理します。ニックネームが登録または登録からドロップされるたびに、IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガーはドロップされ、その特定のニックネームに対する新しい情報を使用して再作成されます。この登録に対して指定された情報には

IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガーを定義するために必要な情報が含まれていません。そのため、生成されたスクリプトには、プロシージャーまたはトリガーに対する DROP または CREATE ステートメントが含まれていません。

ユーザーの処置: 欠落しているニックネームまたは表の登録をドロップします。

ASN1738W IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガー *name* をリモート・サーバーで見つけることができませんでした。

説明: IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガー定義は登録済みニックネームのすべてに対する CCD 表を認識します。登録が作成されるたびに、IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガーがドロップされ、既存および新規の登録情報で再作成されます。コントロール表に保管された定義は、このサーバーに、前の登録が存在するけれども

IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーが見つからなかったことを示します。それでも、プロシージャーはコントロール表に保管された定義によって、IBMSNAP_PRUNCNTL 表に作成されます。

ユーザーの処置: IBMSNAP_PRUNCNTL 表に生成されたプロシージャーまたはトリガーのステートメントに登録済みソースのすべてがあることを確認してください。

ASN1739W ユーザー表にあるデータ・タイプ *datatype* の列名 *column_name* は、DB2 以外のリレーショナル・データベースにある CCD 表に、新規のデータ・タイプ *new_datatype* として作成されます。理由コードは *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 データ・タイプ **TIMESTAMP** の列を、Sybase または Microsoft SQL Server データベースでは挿入または更新ができません。CCD 表はデータ・タイプ **TIMESTAMP** を使用した列 (IBMSNAP_SYBTMSTMP 列または IBMSNAP_MSTMSTMP 列) で、DB2 以外のリレーショナル・システムのいずれかを作成しています。Sybase または Microsoft SQL Server データベースでは、データ・タイプ **TIMESTAMP** の列を複数持つことができません。そのため、ユーザー表の列のデータ・タイプはバイナリー(8) データ・タイプに変換されます。

ユーザーの処置: 新規データ・タイプが許可できるものである場合、アクションは不要です。新規データ・タ

イプを受け付けることができない場合は、生成されたスクリプトを実行しないでください。登録定義から指定した列の選択を除去し、タスクを再度発行してください。

ASN1740W CCD ニックネーム

nicknameowner.nickname はフェデレーテッド・サーバーに存在しますが、リモート CCD 表 *tableowner.tablename* が、DB2 以外のサーバーに存在しません。この表の情報は、PRUNCNTL プロシージャーまたはトリガーの再作成に組み込まれません。

説明: IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガー定義は登録済みニックネームのすべてに対する CCD 表を認識します。登録が作成されるたびに、IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガーがドロップされ、既存および新規の登録情報で再作成されます。ニックネームはフェデレーテッド・サーバーに存在しますが、リモート CCD 表が DB2 以外のサーバーに存在しません。この表は、PRUNCNTL プロシージャーまたはトリガーの再作成に組み込まれません。

ユーザーの処置: CCD 表がドロップされた理由を判別してください。誤ってドロップされた場合、そのソースの登録をドロップするか、元の定義で CCD 表を再作成してください。

ASN1741W CCD ニックネーム

nicknameowner.nickname が、フェデレーテッド・サーバーに存在しません。この表の情報は、PRUNCNTL プロシージャーまたはトリガーの再作成に組み込まれません。

説明: IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガー定義は登録済みニックネームのすべてに対する CCD 表を認識します。登録が作成されるたびに、IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガーがドロップされ、既存および新規の登録情報で再作成されます。CCD ニックネームは、フェデレーテッド・サーバーに存在しません。この表は、PRUNCNTL プロシージャーまたはトリガーの再作成に組み込まれません。

ユーザーの処置: CCD ニックネームがドロップされた理由を判別してください。誤ってニックネームをドロップした場合、そのソースの登録をドロップするか、CCD ニックネームを再作成してください。

ASN1742E プラットフォーム *platform* 上のソース・ニックネーム *nickname_owner.nickname* を登録する場合は、必ず最初に登録をアーキテクチャー・レベル *arch_level* に移行してください。

説明: `schema.IBMSNAP_REGISTER` 表には DB2 以外のリレーショナル・ソースの既存登録があり、以前のアーキテクチャー・レベルに関係しています。すべての登録を新しいアーキテクチャー・レベルに移行するまで、新しいソースは登録できません。

ユーザーの処置: DB2 以外のリレーショナル・ソースの既存登録を現行のアーキテクチャー・レベルに移行します。詳細については、「Replication Migration Guide: DB2 Replication Version 8」を参照してください。

ASN1800E サブスクリプション・セット *set_name* は、アプライ修飾子 *apply_qual*、処理順序 *whos_on_first* に対し、アプライ・コントロール・サーバー *server_alias* に、すでに存在しています。

説明: 1 つの指定されたアプライ修飾子とアプライ・コントロール・サーバーに対し、同じ名前のサブスクリプション・セットは 1 つしか存在できません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 新規セット名を作成するか、新規メンバーを既存のセットに追加してください。

ASN1801E ステートメント番号 *statement_number* はステートメント・ストリングの長さ *statement_stringlength* と関連付けられていますが、この長さは、アプライ・コントロール・サーバー *server_alias* での、アプライ修飾子 *apply_qual*、セット名 *set_name*、処理順序値 *whos_on_first* に対するステートメントの最大長を超えています。

説明: ステートメントの長さが、許可される限界 (V8 では 1024) を超えています。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: ストリングの長さが許可される限度より短くなるように、ステートメント・ストリングを変更してください。

ASN1802W レプリケーション・サブスクリプション・ソース・メンバーが、**RECAPTURE='N'** で定義されています。ターゲット・レプリカに対する変更は、すべて他のターゲット・レプリカに伝搬されません。

説明: Update-anywhere シナリオでは、1 つのターゲット・レプリカへの変更は、**RECAPTURE='N'** の場合にはソースで再取り込みされません。複数のターゲット・レプリカが同じソースをサブスクライブしている場合、1 つのターゲット・レプリカに行われた変更は他のターゲット・レプリカには反映されません。

ユーザーの処置: 変更を他のターゲット・レプリカに伝搬するには、**RECAPTURE='Y'** を設定してください。

ASN1803I 以前に定義され、後にドロップされたサブスクリプション・セットからの *orphan_statements* レプリケーション・サブスクリプション・セット・ステートメントが存在します。これらの孤立ステートメントは、指定されたアプライ・コントロール・サーバー上の、サブスクリプション・セット、指定されたアプライ修飾子に対してドロップされません。

説明: 前のサブスクリプション・セットが、その適切なステートメントをすべてドロップせずに、ドロップされました。ドロップされた前のサブスクリプション・セットと同じ名前を共有する、新規サブスクリプション・セットに対してスクリプトが生成されます。前のサブスクリプション・ステートメントは、ドロップされません。

ユーザーの処置: サブスクリプションのドロップ・ステートメントを発行して、孤立ステートメントを削除してください。

ASN1804I レプリケーション・サブスクリプション・セット **MAX_SYNCH_MINUTES** *maxsynch_minutes* は、指定されたアプライ・コントロール・サーバーにおいて、指定されたサブスクリプション・セットとアプライ修飾子に許可される範囲内にありません。代わりに、レプリケーション・デフォルト値が使用されます。

説明: この列の有効範囲は、0 から 999 です。

ユーザーの処置: 30 分のデフォルト値が受け入れ可能である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1805I レプリケーション・サブスクリプション **COMMIT_COUNT** *commitcount_value* は、指定されたアプライ・コントロール・サーバーにおいて、指定されたサブスクリプション・セットとアプライ修飾子の許可範囲内にありません。代わりに、レプリケーション・デフォルト値が使用されます。

説明: この列の有効範囲は、0 から 999 です。

ユーザーの処置: 0 分のデフォルト値が受け入れ可能な場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1806E レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、サブスクリプション・セット名 *set_name*、処理順序値 *whos_on_first*、ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット・メンバー *targetowner.targettable* に対して、エラー終了しました。指定されたサブスクリプション・セットにサブスクリプション・セット・メンバーを追加できません。理由コードは *reason_code*。

説明: メンバーが追加された場合、このサブスクリプション・セットは無効になります。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 サブスクリプション・セットは、メンバーの最大限度に達しました。
- 1 キャプチャー・スキーマのソース・メンバーが、キャプチャー・スキーマのサブスクリプション・セットと同じでない。
- 2 iSeries ソース・メンバーが、サブスクリプション・セット・ジャーナルと同じでない。
- 3 コンデンス表メンバー構造が、他のメンバー構造と非互換である。
- 4 ソース・メンバーが変更キャプチャー・レプリケーションをサポートしていないのに、ターゲット・メンバーが変更キャプチャーに依存している。ターゲット構造が CCD またはレプリカ表なのに、ソースに CD 表がない。
- 5 ソース・メンバーが、完全な表でない。
- 6 ターゲット・メンバー定義はターゲット表の存在を予期しているのに、ターゲット表が存在しない。
- 7 ターゲット・メンバー定義はターゲット表の作成を求めているが、ターゲット表がすでに存在する。

- 8 このセットにはフル・リフレッシュの、サポートされているターゲット表しか含まれていませんが、新規メンバーは変更キャプチャー・レプリケーションをサポートしています。
- 10 このセットには、変更キャプチャー・レプリケーションでサポートされるターゲット表しか含まれていないのに、新規メンバーがフル・リフレッシュのみをサポートしている。
- 11 レプリカ規則: ターゲット・メンバーがレプリカの場合、ソース・メンバーはレプリカまたはユーザー表にすることができる。
- 12 このオペレーティング・システムで、ターゲット構造がサポートされていない。
- 13 ターゲット構造が登録ソース (自動登録) として設定されている CCD なのに、構造が完全でない。
- 14 ソース・メンバーが登録されていない。
- 15 ソース・メンバー列に列定義があるのに、ターゲット・タイプが集合体でない。
- 16 サブスクリプション・セットから除外されたターゲット列の少なくとも 1 つが、NULL 可能でもなく、デフォルトを使用した NOT NULL でもありません。
- 17 ターゲット・メンバーが、更新できないビューである。
- 18 サブスクリプション・セット・メンバーがすでに存在する。
- 19 登録済みソースへの有効なマッピングを持つターゲット列または式が見付からない。
- 20 複数の有効ソースが見つかったが、定義に整合性がない。
- 21 外部 CCD 表は非コンデンスで、DATALINK 列または LOB 列を含んでいます。
- 22 ソース・メンバー・ジャーナル・ライブラリー名が一致しません。
- 23 リモート・ジャーナル名が無効です。
- 24 ジャーナル名またはライブラリーが無効です。
- 25 リモート・ジャーナル記録を持つレプリカ表は許可されません。
- 26 内部 CCD 表は、指定された登録済みソース表に対してすでに存在します。
- 27 ソース・サーバーとターゲット・サーバーは、内部 CCD 表に対して同じでなければなりません。

- 28 内部 CCD 表は、非完了でなければなりません。
- 29 ソース表はリモート側でジャーナルされ、LOB 列または DATALINK 列を含んでいます。
- 30 IBMSNAP_PRUNCNTL 表の中に関連情報が存在しません。
- 31 IBMSNAP_PRUNE_SET の中に関連情報が存在しません。
- 32 ビューを含む内部 CCD 表は、ソースとして使用できません。
- 33 ターゲット表が、すでに別の既存のメンバーと共有されており、IBMSNAP_SUBS_COLS 表に保管されている名前、IS_KEY、式、およびタイプ・フィールドの値に関するレプリケーション定義と、新規メンバーで要求される定義との間に競合を検出しました。
- 34 ソースが DB2 以外のサーバーにあり、要求されたターゲット・タイプはレプリカです。このシナリオはサポートされていません。
- 35 指定されたソース・メンバーは、ターゲット・サーバーで有効なニックネームを持っていません。このエラーは、以下の理由により発生したと思われます。
- ソース・メンバー作成時にニックネームを提供していなかった。
 - ターゲット・サーバーに存在せず、ユーザー用に作成されないニックネームを提供した。
 - ニックネームでないオブジェクトを提供した。
 - ターゲット・サーバーに存在しないが、指定されたソース・メンバーに関連していないニックネームを提供した。

ユーザーの処置: 理由コード 1 から 34 の場合、別のサブスクリプション・セットの中に新規メンバーを作成するか、新規メンバー用にサブスクリプション・セットを新しく作成してください。

理由コード 35 については、ターゲット・サーバーで既存の有効なニックネームを提供していて、ソース・メンバーと関連していること確認してください。

ASN18071 レプリケーション・サブスクリプション・メンバーは、指定されたアプライ・コントロール・サーバーで、指定されたサブスクリプション・セットとアプライ修飾子に通知文節を付けて追加されます。理由コード *reason_code*。

説明: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。スクリプトが生成されました。以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 新規のセットが作成された結果、レプリカと読み取り専用ターゲット・メンバーが混合されました。
- 1 サブスクリプション・セットはトランザクション・コミット・カウントをサポートしていますが、ターゲット・メンバーはトランザクション処理に適格ではありません。
- 2 少なくとも 1 つのメンバーは、CCD 表をターゲット・メンバーとして持っていますが、すべてのメンバーが CCD 表のターゲット・メンバーを持っているわけではありません。同じセットの中に、世代の異なる表が含まれていません。
- 3 ターゲット・メンバーは、非コンデンスおよび不完全の CCD 表で、IBMSNAP から列が追加されていません。このターゲット表は、基本的に CD 表と同じです。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、以下のオプションを指定して応答してください。

- 0 レプリカ表をすべて 1 つのセットの中に保持し、読み取り専用表は別のセットに保持することを検討してください。
 - 1 同じセットの中にトランザクション処理をサポートするすべてのターゲット・タイプを保持し、それ以外の表を別のセットに保持することを検討してください。
 - 2 セット間でデータの経過日数の整合性を確保するために、同じ世代に含まれるすべての CCD ターゲット表を同じセットの中に保持することを検討してください。さらに、CCD 以外のすべてのターゲット表は別のセットの中に保持することを検討してください。第 2 のセットは、たとえばミドルティア・ステージの場合のように、第 1 のセットに入っているデータによって決まります。
 - 3 CCD ターゲット表が必要かどうかを検討してください。
-

ASN1808E レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、セット名 *set_name*、処理順序 *whos_on_first*、ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット・メンバー *targetowner.targettable* に対して、エラー終了しました。サブスクリプション・ターゲット・メンバーは、その索引キー列が更新されることを予期していますが、少なくとも 1 つの索引キーが、その変更前イメージ列をサブスクリプション・ソース・メンバーに登録していません。

説明: ターゲット表では、その索引キーが更新できるように設定されています (PRIMARY_KEY_CHG = 'Y')。この要件をサポートするには、アプライ・プログラムが索引キーの変更前イメージ列にアクセスする必要があります。そのため、これらの変更前イメージ列が、ソース・メンバーの変更データ表に存在していなければなりません。存在していない場合、アプライ・プログラムは失敗します。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: サブスクリプション・ターゲット索引の列ごとに、以下のように応答してください。

- キャプチャー・サーバーで、その列の変更前イメージ列が、すでにソース・メンバーに登録されているかチェックします。
- まだ登録されていない場合は、適切な変更前イメージ列を登録してください。

ASN1809W レプリケーション・アクションは、サブスクリプション索引キー列が更新されることを予期していますが、サブスクリプション・メンバーは、ターゲット索引キー列への更新が許可されずにサブスクリプション・セットに追加されます。理由コード *reason_code*。

説明: 上記の場合、PRIMARY_KEY_CHG 設定は無意味になります。ユーザー提供の定義をオーバーライドする、レプリケーション定義を使用して更新されたスクリプトが生成されます。以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 ターゲット表のタイプ CCD:
PRIMARY_KEY_CHG は無効です。
- 1 IBMSNAP_REGISTER 表の
CHG_UPD_TO_DEL_INS 値は 'Y' に設定されます。
- 2 ターゲット表はコンデンスではありません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1810W ソース・サーバーで、DB2 参照保全制約が設定されたレプリケーション・サブスクリプション・ソース・メンバーが定義されていますが、サブスクリプション・ターゲット・メンバーは、これらの制約を保持していないレプリカです。

説明: ターゲット表の参照保全制約が、レプリカ・サイトで DB2 によって実施されていません。これは、レプリカ・サイトで意図した振る舞いでない場合があります。スクリプトは生成されていますが、作動不能の可能性もあります。

ユーザーの処置: 必要に応じて、生成されたスクリプトを更新して、ターゲットで適切な参照制約を組み込んでください。

ASN1811W ターゲット・サブスクリプション・メンバーの索引定義が、ターゲットにおいてユニークであることは保証できません。理由コードは *reason_code*。

説明: アプライ・プログラムが一部のターゲット・タイプのターゲット表の行を正しく更新および削除するには、索引定義がユニークであることが必要です。指定された索引がユニークであることが保証されない場合、アプライ・プログラムは一部の作業をやり直します。ご使用のアプリケーションにこの状況が該当していないことを確認してください。以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 SQL 関数によって少なくとも 1 つの列が生成されていますが、列が生成されたことによって索引がユニークであることは保証されません。
- 1 ユニークな索引では、SQL 関数によって NULL 可能列は生成されません。

ユーザーの処置: サブスクリプション・ターゲット索引の列ごとに、以下のように応答してください。

- アプライ・コントロール・サーバー
ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS, COL_TYPE の列タイプが 'F' かどうかチェックしてください。
- 'F' であれば、索引列の式を再定義して SQL 式を組み込まないようにするか、索引キーからその列を除去してください (ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS, IS_KEY 列は 'N' に設定されています)。

ASN1812E レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、セット名 *set_name*、処理順序値 *whos_on_first*、ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット・メンバー *targetowner.targettable* に対して、エラー終了しました。必須のターゲット・キーが無効であるため、サブスクリプション・ターゲット・メンバーを追加できません。理由コードは *reason_code*。

説明: ユニーク索引を必要とするターゲット・メンバーは、ポイント・イン・タイム、ユーザーのコピー、レプリカ表のターゲット・タイプであり、圧縮 CCD です。これらのターゲットにユニーク索引がない場合、アプライ・プログラムは失敗します。スクリプトは生成されません。以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 ターゲット表はまだ存在していませんが、ターゲット・キー情報をソース表から引き出せませんでした。
- 1 ターゲット・キー情報を見つけることも、引き出すこともできませんでした。また、CD 表の RRN が定義されていません (iSeries のみ)。
- 2 ターゲット表またはビューはすでに存在していますが、必須ターゲット・キー情報がありません。
- 3 ターゲット表またはビューはすでに存在していますが、ターゲット・キー情報が既存のパーティション・キー情報と非互換です。
- 4 ターゲット表タイプのレプリカはすでに存在します。指定された列はターゲット・キー情報の一部ですが、ソース・キー情報にはこの列が含まれていません。ソースおよびターゲット・メンバーの両方にあるキーは、ターゲット表のタイプがレプリカの場合には一致してはなりません。
- 5 指定されたターゲット・キー列が、ターゲット表定義で見つかりません。

ユーザーの処置: 有効なターゲット・キーを定義してください。以下の理由コードに応じてそれぞれのアクションを実行してください。

- 0 ソース表に適切なユニーク索引を作成して、レプリケーション推奨索引を引き出すために使用してください。
- 2 必須のターゲット・キー情報を指定してください。
- 3 索引のパーティションに関する DB2 規則につ

いては、「SQL リファレンス」を参照してください。たとえば、指定したキーに必須のパーティション・キーが組み込まれていない場合があります。

- 4 レプリケーションが正しい索引を引き出すことができるように、ターゲットまたはソース・キー情報を適切に変更してください。
- 5 列名を検証してください。

ASN1813I ソース・サーバーで、いくつかの DB2 制約が設定されたレプリケーション・サブスクリプション・ソース・メンバーが定義されていますが、サブスクリプション・ターゲット・メンバーはこれらの制約を保持していません。理由コードは *reason_code*。

説明: ソース表の制約は、ターゲット・メンバーの定義時に指定されていない場合、DB2 によって実施されません。これは、レプリカ表サーバーで意図した振る舞いでない場合があります。スクリプトは生成されていますが、作動可能でない可能性があります。制約については、以下の理由コードの有効値を参照してください。

- 0 ターゲット・メンバーの中に少なくとも 1 つの NOT NULL WITH DEFAULT 文節があります。
- 1 パーティション化された表スペース。

ユーザーの処置: 必要に応じて、生成されたスクリプトを更新して、ターゲットで適切な DB2 制約を組み込んでください。

ASN1814E データ・タイプ *datatype* のターゲット列 *column_name* は、サブスクリプション・ターゲット・メンバー *tableowner.tablename* に追加できません。理由コード *reason_code*。

説明: サブスクリプション・メンバーは、サブスクリプション列のチェックに失敗しました。スクリプトは生成されません。以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 この列のデータ・タイプは、レプリケーションによってサポートされていません。DB2 でサポートされていないデータ・タイプの場合は、メッセージ ASN1648E が発行されます。
- 1 ターゲット・データ・タイプは、対応するソース・データ・タイプと非互換です。
- 2 ソース表の登録でこの列が見つかりません。

- 3 この列タイプは、フェデレーテッド・ターゲットに対してサポートされていません。
- 4 ターゲット列は LOB です。ターゲット・メンバーの LOB 列の最大数を超過しています。
- 5 ソース列に SQL 列関数が含まれていますが、ターゲット・メンバー構造は基礎集約でも変更集約でもありません。
- 6 ターゲット表タイプはレプリカで、ソース列は LOB 列です。
- 7 ターゲット表タイプはレプリカで、ソース列は DATALINK 値です。ただし、CONFLICT_LEVEL は 0 より大です。
- 8 LOB 列を含む、非コンデンス CCD ターゲット表はサポートされていません。
- 9 この列は既存のターゲット表の中にありません。
- 10 ターゲット列は、サブスクリプション・メンバー定義ですすでに定義されています。
- 11 指定された列のデータ・タイプ定義によって、挿入または更新操作、またはこの両方の操作が列でできなくなります。
- 12 指定されたターゲット列名が、マップされたソース列名に一致しません。ターゲット表がレプリカの場合、ターゲット列名をソース列の名前と別にするにはできません。
- 13 ターゲット列はソースの変更前イメージ列からマップされ、ソース列には NULL 値が含まれます。ただし、ターゲット列は NULL 可能でもなく、デフォルトで NULL 以外の値です。
- 14 指定されたターゲット列名が、マップされた CD 列名に一致しません。ターゲット表が内部 CCD の場合、ターゲット列名を CD 列の名前と別にするにはできません。
- 5 ソース列の式かターゲット表の構造を変更してください。
- 6 サブスクリプション・メンバーからターゲット・レプリカの LOB 列を除去してください。
- 7 レプリカが 0 より大きい競合レベルを必要とする場合は、サブスクリプション・メンバーから DATALINK 列を除去してください。それ以外の場合、レプリカの競合レベルを変更してください。
- 8 LOB 列を除去してください。
- 9 列名を検証してください。
- 10 列名を検証してください。
- 11 サブスクリプション・ターゲット・メンバーから列を除去してください。
- 12 ターゲットの列名がソース列名のマップされた列名に一致することを確認してください。
- 13 ターゲット・メンバーの列定義を変更して、ヌル値またはデフォルト値を許容するようにしてください。
- 14 ターゲットの列名が CD 表のマップされた列名に一致することを確認してください。

ASN1815E レプリケーション・アクションがエラー終了しました。アプライ修飾子 *apply_qual*、処理順序 *whos_on_first* のサブスクリプション・セット *set_name* は、空の場合はドロップされますが、このセットには少なくとも 1 つのメンバーが存在します。このサブスクリプション・セットはドロップできません。

説明: 指定されたアプライ・コントロール・サーバーの ASN.IBMSNAP_SUBS_MEMBR の中に、特定のサブスクリプション・セットのアプライ修飾子 (示されたもの) に対し、少なくとも 1 つのメンバーが存在しているため、このサブスクリプション・セットはドロップされません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: まだ存在しているサブスクリプション・メンバーをドロップしてから、サブスクリプション・セットをドロップしてください。または、サブスクリプション・セットが空でなければならないという要件を付けずに、*Drop Subscription Set* タスクを発行してください。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べて、以下のように応答してください。

- 0 データ・タイプをサポートされているものに変更してください。
- 1 ターゲット・データ・タイプを確実にソース・データ・タイプと一致させてください。
- 2 ソース表の列を登録してください。
- 3 フェデレーテッド・ターゲットに対してサポートされている有効なデータ・タイプを選択してください。
- 4 ターゲット・メンバーの LOB 列の数が許容限度を超えていないことを確認してください。

ASN1816W レプリケーション・サブスクリプション・セットに、サブスクリプション・セットがドロップされるとドロップされるメンバーが少なくとも 1 つ含まれています。

説明: サブスクリプション・セットが正常にドロップされると、そのセットの該当するメンバーもすべて自動的にドロップされます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1818W レプリケーション・サブスクリプション・メンバーは、新規サブスクリプションの **WHERE** 文節の述部を使用して更新されます。そのサブスクリプション・メンバーには、以前の述部がすでに存在します。この述部は新規の述部情報によって上書きされます。

説明: 指定されたメンバーにはすでに述部が含まれています。新規の述部が古い述部を上書きします。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: レプリケーション・タスクのための完全な述部文節を指定してください。既存の述部文節全体が含まれているわけでない場合、その述部文節の更新が必要になる可能性があります。

ASN1819W レプリケーション・サブスクリプション・セットは正常に使用不可になっています。ただし、サブスクリプション・セットを使用不可にすると、そのサブスクリプション・セットのすべてのソース・メンバーのキャプチャーの枝取りロジックが直接影響を受けるということに注意してください。

説明: キャプチャーの枝取りロジックは、アプライ・プログラムによって従属サブスクリプション・メンバーが移植されるまで、どの CD 表の枝取りも行いません。スクリプトが生成されました。サブスクリプション・セットを使用不可にすることが最適な選択ではなく、むしろドロップすることが適切なオプションである場合、このロジックの更新が必要になる場合があります。以下を参照してください。

ユーザーの処置: CD 表の枝取り処理に影響するほど、長時間にわたってサブスクリプション・セットが使用不可にされる場合、または従属登録済みソースに関する CD 表への影響が、キャプチャー・プログラムとキャプチャー・サーバーの CD 表に大きな影響を与える場合は、単にサブスクリプション・セットを使用不可にするのではなく、いったんドロップして、後で再作成するこ

とを検討してください。または、該当する登録を非活動化してください。

ASN1820E サブスクリプション・セット *set_name*、アプライ修飾子 *apply_qual*、処理順序 *whos_on_first* のレプリケーション・ストリングに、無効な **DB2** 構文が含まれています。このストリングのタイプは *string_type*、ストリング・テキストは *string_text* および **SQL** メッセージは *sql_message* です。

説明: 指定されたストリングは無効です。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 該当するオブジェクト構文を訂正し、レプリケーション・タスクを再発行してください。

ASN1821W 従属サブスクリプション・セットは、その中にターゲット・サーバーでの登録済みソースであるターゲット・メンバーが含まれている場合、既存のサブスクリプション・セットがドロップされると無効になります。

説明: 従属サブスクリプションは、それらのソース・メンバー表の存在に依存しています。これらのソース・メンバーがレプリケーション・ターゲットとして維持され、これらのターゲットがドロップされると、アプライ・プログラムは、従属サブスクリプション・セットを処理するときに失敗します。ターゲット・サーバーの `captureserver.IBMSNAP_PRUNCNTL` 表に `SOURCE_OWNER` 行または `SOURCE_TABLE` 行が含まれ、それらの値が、ドロップされるターゲット表である場合、従属サブスクリプション・セットが影響される場合があります。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: スクリプトを実行する前に、必要に応じて従属サブスクリプション・セットを非活動化するか、ドロップしてください。

ASN1822E レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qual*、セット名 *set_name*、ソース・メンバー *sourceowner.sourceownername*、ターゲット・メンバー *targetowner.targetname* に対して、エラー終了しました。示されているサブスクリプション・メンバーは、示されているサブスクリプション・セットに対して存在しません。

説明: 示されているメンバーが、指定されたアプライ・コントロール・サーバーの指定されたアプライ修飾子に

対して、ASN.IBMSNAP_SUBS_MEMBR の中で見つかりません。

ユーザーの処置: 指定されたアプライ修飾子、セット名、メンバー名、およびコントロール・サーバーが正しいことを確認してください。

ASN1823E サブスクリプション・セット *set_name* は、アプライ修飾子 *apply_qual*、処理順序 *whos_on_first* に対し、アプライ・コントロール・サーバー *server_alias* に、すでに存在していません。

説明: 示されているサブスクリプション・セットが、指定されたアプライ・コントロール・サーバーの指定されたアプライ修飾子に対して、ASN.IBMSNAP_SUBS_SET の中で見つかりません。

ユーザーの処置: 指定されたアプライ修飾子、セット名、メンバー名、およびコントロール・サーバーが正しいことを確認してください。

ASN1824W レプリケーション・サブスクリプション・セットが、0 の COMMIT_COUNT を指定して更新されました。

説明: ソースは複数の表を含むビューで、そのセットのコミット・カウントは NULL です。コミット・カウント 0 がそのセットに適用されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1825W メンバーをドロップするためのレプリケーション・アクションは、ビューをドロップしませんでした。

説明: ビューをドロップすることを要求しましたが、要求どおりにアクションが完了しませんでした。

ユーザーの処置: ビューを手動でドロップする必要があります。

ASN1826W キャプチャー・スキーマ *capture_schema* が、指定されたソース・サーバーに存在しません。

説明: サブスクリプション・セットにメンバーを追加する前に、キャプチャー・スキーマが存在するか確認してください。

ユーザーの処置: キャプチャー・スキーマを指定して、ソース・サーバーでキャプチャー・サーバー・コントロール表を作成してください。

ASN1827W ターゲット・メンバー *target_member* の列 *target_columnname* は、ソース・メンバー *source_member* の対応する列 *source_columnname* の DB2 列属性を保持していません。理由コード *reason_code*。

説明: ソース列の DB2 列属性が、対応するターゲット列と異なっています。以下は、有効な理由コードの値です。

1

ソース列は NULL 可能で、ターゲット列は NULL 可能ではありません。

2

ソース列は NULL 可能でなく、ターゲット列は NULL 可能です。

3

ソース列にはデフォルト値があり、ターゲット列にはありません。

4

ターゲット列にはデフォルト値があり、ソース列にはありません。

ユーザーの処置: 理由コードが 1 の場合、ソース列の中にターゲット列に適用される NULL 値があるかどうかチェックしてください。必要に応じて、ターゲット列を NULLABLE に変更してください。または、必要に応じて、生成されたスクリプトを更新してターゲットで適切な DB2 属性を組み込んでください。

ASN1828E レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qual*、セット名 *set_name*、ソース・メンバー *sourceowner.source_name*、ターゲット・メンバー *targetowner.targetname* に対して、エラー終了しました。サブスクリプション・ターゲット・サーバーが IBM 以外のターゲット・サーバーの場合、このアクションがサポートされていないか、制限付きでサポートされています。理由コードは、*reason_code* です。

説明: これらは現行の制限です。スクリプトは生成されません。以下は、有効な理由コードの値です。

0 サポートされていません。

1 ターゲット表構造がポイント・イン・タイム、CCD、ユーザーのコピーの場合にサポートされます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1829I サブスクリプション・ターゲット表で、有効なニックネーム *nicknameowner.nickname* が見つかりました。列データ・タイプのマッピング規則が適用されます。このニックネームはそのまま使用されます。

説明: このサブスクリプションに対して有効なフェデレーテッド・データベースの中で、既存のターゲット・ニックネームが見つかりました (列データ・タイプのマッピング・チェックが有効です) が、DB2 以外のリレーショナル・データベース・サーバーでターゲット表の存在を確認するためのチェックがありません。

ユーザーの処置: 示されているニックネームに対応するリモート表が存在することを確認してください。存在しない場合、アプライ・プログラムは失敗します。

ASN1830E レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、サブスクリプション・セット *set_name*、処理順序値 *whos_on_first*、ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット・メンバー *targetowner.targettable*、および述部 *predicate* に対して、エラー終了しました。このサブスクリプション・セット・メンバーは、このサブスクリプション・セットに追加できません。理由コードは、*reason_code* です。

説明: このサブスクリプション・セット・メンバーは無効です。スクリプトは生成されません。有効な理由コードは以下のとおりです。

0 存在しない CD 表または UOW 表からの述部参照列があります。

ユーザーの処置: 示されている述部の正確性を検証し、詳細述部へ機能についての資料を参照してください。

ASN1831E レプリケーション・アクションがエラー終了しました。アプライ・コントロール・サーバー *control_server* で、処理順序値が *whos_on_first* である、アプライ修飾子 *apply_qual* を持ったサブスクリプション・セット *set_name* に対して、サブスクリプション・ステートメントが存在しません。

説明: このアプライ修飾子では、示されているサブスクリプション・セット名に対するサブスクリプション・ステートメントが存在しません。

ユーザーの処置: このアプライ修飾子で、示されているサブスクリプション・セットにサブスクリプション・セット・ステートメントが含まれているか確認してください。

ASN1832W 列 *column_name* は、**ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS** コントロール表の中にすでに存在します。

説明: 示されている列はすでに **ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS** 表の中に存在しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

ASN1833E ソース表 *sourceowner.sourcetable* の変更データ (CD) 表 *cdowner.cdname* の **CCSID** *Unicode_ASCII_EBCDIC* が、キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の **IBMSNAP_UOW** 表の **CCSID** *Unicode_ASCII_EBCDIC* と一致しません。指定されたサブスクリプション・メンバー定義によれば、これらの 2 つの表を結合する必要があります。

説明: 示されているキャプチャー・スキーマでは、関連したサブスクリプション・セット・メンバーがユーザーのコピーでない場合、または **IBMSNAP_UOW** 表のいずれかの列がサブスクリプション・セット・メンバーの **WHERE** 文節で使用されている場合、アプライ・プログラムは、**IBMSNAP_UOW** 表と示されているソースの CD 表を結合します。アプライ・プログラムが、ソース表の CD 表を **IBMSNAP_UOW** 表と結合することによって、示されたソース表とキャプチャー・スキーマで定義されたサブスクリプション・セット・メンバーを処理すると、これらの表のコード化スキームが異なるためにエラーが発生します。コード化スキームについては、「レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」の付録 B を参照してください。

ユーザーの処置: 次のいずれかの処置をとることができます。

- ターゲット・タイプとしてユーザーのコピーを選択して、サブスクリプション・メンバーの **WHERE** 文節の **IBMSNAP_UOW** 表の列は使用しないでください。
- 異なるキャプチャー・スキーマを使用してソースを登録し、その新しいキャプチャー・スキーマの **IBMSNAP_UOW** 表と同じコード化スキームを使用して、表スペースに CD 表を作成してください。

ASN1834W サブスクリプション・セットに、デフォルトのターゲット・キャプチャー・スキーマ 'ASN' が使用されます。

説明: サブスクリプション・セットにはターゲット・キャプチャー・スキーマを使用する必要があり、デフォルト値の 'ASN' が使用されます。

ユーザーの処置: デフォルトが、このサブスクリプション・セットの中のターゲット・キャプチャー・スキーマ列として適当であれば、アクションは必要ありません。

ASN1835W データ・タイプ *datatype* のターゲット列 *column_name* がサブスクリプション・セット・メンバーのターゲット *tableowner.tablename* およびソース *sourceowner.sourcename* に追加されましたが、データ・タイプが *datatype* である、対応するソース列 *column_name* に、ターゲット列に適用できないデータが含まれている可能性があります。理由コードは *reason_code*。

説明: ソース列の定義が、ターゲット列の定義と正確に一致していません。そのため、アプライ・プログラムがソースから選択したデータがターゲット列として適さない場合、アプライ・プログラムは失敗するか、ソース・データを切り捨てて変更する可能性があります。
注: ご使用のアプリケーションが、アプライ・プログラムの失敗の原因となるデータを生成していない場合、定義のミスマッチの問題があります。

理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

1

ターゲット列の長さが、解決されたソース列の式より小さくなっています。

2

ターゲット列のスケールが、解決されたソース列の式より小さくなっています。

3

ターゲット列の精度が、解決されたソース列の式より小さくなっています。

4

ターゲット列とソース列のデータ・タイプが、特定のソース値の場合にしか互換ではありません。

ユーザーの処置: 可能であれば、ターゲット・サイトで定義を変更して、ソースの定義と互換になるようにしてください (この操作は、通常、ターゲット・サイトで実行されているアプリケーションによって実行されます)。

定義のミスマッチを保持する必要がある場合 (ターゲット

トの定義がソースの定義と異なっていなければならない具体的な理由がある場合)、アプリケーションを調べて、定義のミスマッチがランタイムの問題の原因とならないことを確認してください。

ASN1836W ターゲット表 *owner.name* は、キャプチャー・スキーマ *schemaname* の下でソースとして登録されているため、ドロップされません。

説明: このターゲット表は、示されているキャプチャー・スキーマを使用してソースとして登録されています。この表がドロップされると、登録は無効になります。

ユーザーの処置: ターゲット表の登録をドロップしてから、表をドロップしてください。

ASN1837W DB2 ターゲット *tableowner.tablename* はドロップされません。

説明: このターゲット表は、レプリカ、または外部整合変更データ表 (CCD) であり、ターゲット・サーバーでも登録されています。そのため、従属ターゲットのソースである可能性があります。この表を自動的にドロップできません。

ユーザーの処置: そのレプリカまたは外部 CCD 表に対する登録済みソースをドロップしてください。その後、DB2 ターゲット表を手動でドロップするか、レプリカまたは外部 CCD サブスクリプション・メンバーを削除してください。メンバーを削除すると、DB2 ターゲット表がドロップされます。

ASN1838E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。

OS/400 表 *tableowner.tablename* を、レプリカのターゲット・サブスクリプション・メンバーとして使用することができません。理由コードは、*reason_code* です。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0

指定されたターゲット表名が存在しないか、そのスキーマが、「Create Collection」または「Create Schema」コマンドを使用して作成されていないかのいずれかです。そのため、指定された表はジャーナル記録されません。レプリカに対して 'F' 方向のサブスクリプション・セットでターゲット表を登録するときには、ターゲット表のジャーナル情報が必要です。この表は、OS/400 システム上で必ず作成してください。

1

指定したターゲット表は存在しますが、表のジ

ジャーナル記録がありません。 'F' 方向設定のターゲット表をレプリカとして登録するときには、ターゲット表のジャーナル情報が必要です。

ユーザーの処置: 取るべきアクションは理由コードに依存します:

- 0 ターゲット表が存在しない場合は、ターゲット表を作成し、これを変更前イメージおよび変更後イメージの両方を使用してジャーナル記録し、次にタスクを再発行してください。ターゲット表が存在する場合は、変更前イメージおよび変更後イメージの両方を使用してジャーナル記録し、次にタスクを再発行してください。
- 1 変更前イメージおよび変更後イメージの両方を使用して指定されたターゲット表をジャーナル記録し、次にタスクを再発行してください。

ASN1839I ソース・ビュー *viewowner.viewname* の基本表 *tableowner.tablename* が、レプリカ・ターゲットによる更新に選択されました。

説明: ソース・メンバーが、このレプリカ・シナリオのタイプ・ビューです。ビューを更新することができません。そのため列の最大数をもつビューの登録済み基本表は 'F' 方向のターゲット・メンバーとして使用されます。

ユーザーの処置: シナリオが有効であるか確かめてください。

ASN1840W ターゲット・データベースは、OS/400 システム上です。

説明: ターゲット・データベースは、OS/400 システム上です。ターゲット表スペース定義は無視されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1841E サブスクリプション・ターゲット・メンバー *targetowner.targetname* に対して、ターゲット列 *colname* で指定された式 *expression_name* が、失敗しました。個々のサブスクリプション・ソース・メンバー *sourceowner.sourcename* に対して実行されたチェックが、SQL エラー (**sqlcode** = *sqlcode*, **sqlstate** = *sqlstate*) を戻したために失敗しました。

説明: データ保全性規則を確認するために、ソース・メンバーに対するターゲット・メンバーに指定された式の値に、一連のチェックが実行されました。指定された

式には、このチェックのうちで失敗したものがあります。

ユーザーの処置: 追加情報については、SQL 戻りメッセージおよび SQL リファレンスを参照してください。

ASN1842W 内部 CCD 表 *ccdowner.ccdname* には、ソース・オブジェクト *sourceowner.sourcename* の CD 表 *ccdowner.cdtable* より少ない列がありません。このソースでは、内部 CCD の定義前に定義された既存のメンバーが無効になる可能性があります。

説明: 内部 CCD 表は、アプライが変更内容をターゲットに適用しようとする時に、CD 表より先に優先順位をとります。内部 CCD は、すでに CD 表がありサブスクリプション・メンバーが定義されている指定ソースに対して作成されます。CD 表の列の中には内部 CCD 表に存在しないものがあり、CCD 表の作成の前に定義されていたメンバーは無効になります。

ユーザーの処置: シナリオが有効であるか確かめてください。

ASN1843E レプリケーション・アクション *action_name* は、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、セット名 *set_name*、処理順序 *whos_on_first*、ソース・メンバー *source_owner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qualifier*、およびターゲット・メンバー *targetowner.targetname* に対して、エラー終了しました。

説明: OS/400 のみ。IBMSNAP_REG_EXT 表では、ソース所有者、ソース表、およびソース・ビュー修飾子の組み合わせについて、重複行は許可されません。

ユーザーの処置: 所属しない IBMSNAP_REG_EXT 表から行を削除し、タスクを再発行してください。

ASN1844E レプリケーション・アクション *action_name* は、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、セット名 *set_name*、処理順序 *whos_on_first*、ソース・メンバー *source_owner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qualifier*、およびターゲット・メンバー *targetowner.targetname* に対して、エラー終了しました。指定されたソース表とその登録は、別のサーバーにあります。

説明: ソース・データベースとキャプチャー・データベースの両方が、iSeries マシンにある場合、ソース表とその登録は、別のサーバーにのみ常駐することができます。

す。サーバーのうち少なくとも 1 つが、iSeries システムではありません。

ユーザーの処置: タスクを再発行する前に、指定されたソース表とそのソース表の登録は、同じマシンにあることを確認してください。

ASN1845E レプリケーション・アクションがエラー終了しました。ターゲット・メンバー *targetowner.targetname* の表名の長さ *length* が、サーバー *server* の z/OS レプリケーション・コントロール表からの制限 *max_limit* を超過しています。

説明: z/OS レプリケーション・コントロール表は、表の名前の最大長を 30 文字として作成されました。キャプチャー・コントロール・サーバーまたはアプライ・コントロール・サーバーのいずれか、またはこの両方が、z/OS システムにあり、指定したターゲット表名が 30 より長い場合、エラー・メッセージを受け取りました。このサブスクリプション・セット・メンバーは作成できません。

ユーザーの処置: ターゲット・メンバーの表の名前の長さが 30 文字以下であることを確認してください。ターゲット表の名前はキャプチャー・コントロール・サーバーおよびアプライ・コントロール・サーバーに保管される必要があるため、ソース・データベースの制限がターゲットの機能を制限する場合があります。この場合では、30 文字以下の名前で作成されたビューを作成し、ターゲット・ビュー名を使用してサブスクリプション・セット・メンバーを定義することができます。

ASN1846E セットには、無効なメンバーが含まれています。オリジナルのエラー・メッセージは *original_message*。

説明: 設定に無効なメンバーがあるため、指定された設定をプロモート中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 入力した情報が正しいか確認して、タスクを再発行してください。

ASN1847E ビュー *viewowner.viewname* は、サポートされていない定義を含んでいます。

説明: ビュー定義がサポートされないため、対応する基本表の列にビューの列をマップすることができません。

ユーザーの処置: ビュー定義が正しいか確認して、タスクを再発行してください。

ASN1848W 索引または制約 *index_constraint_name* を、タイプ *object_name* の *targetowner.targetname* に作成することができませんでした。ビュー定義はすべてのキー列に対する列のマッピングを提供しませんでした。

説明: ターゲット・オブジェクトはビューです。ターゲット・キーがそのビューに対して作成されます。ターゲット・キーで使用されるビュー列を基本表の列にマップすることができなかったため、このターゲット・キーをサポートしているユニーク索引をビューの基本表に作成することができませんでした。

ユーザーの処置: 索引を基本表に手動で作成してください。

ASN1849E レプリケーション・サブスクリプション・セット *set_name* を、指定されたアプライ・コントロール・サーバーのアプライ修飾子にプロモートできません。理由コードは *reason_code* です。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 キャプチャー・サーバーまたはターゲット・サーバーがフェデレーテッド・データベースです。プロモート・サブスクリプションは、2 つの DB2 システムのサブスクリプション・セットでのみ動作します。

ユーザーの処置: これは現時点での制約事項です。アクションは不要です。

ASN1850W データ・タイプが 10 進の列 *column_name* の値は、データ・タイプが整数の列にマップされる場合、切り捨てられます。

説明: 指定された列には、有理数を含めることができませんが、整数列にマップされます。元のデータの数字で、切り捨てられたものがある可能性があります。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN1851E タイプ *type* の DB2 オブジェクト *object_name* を、表 *tableowner.tablename* に追加することができません。新規プロパティと表のパーティション・キーに競合が見つかったためです。

説明: 新規の定義と既存の表プロパティは、マルチ・モード表の共存制約に関する DB2 の規則により共存す

ることができないため、表の定義に追加することができません。

ユーザーの処置: 表の制約の詳細については「SQL リファレンス」をご覧ください。

ASN1852E タイプ *type* の DB2 オブジェクト *object_name* を、表 *tableowner.tablename* に追加することができません。新規プロパティと既存のパーティション・キー *partitioning_key* に競合があるためです。

説明: 新規の定義とパーティション・キーの既存の表プロパティは、マルチ・モード表の共存制約に関する DB2 の規則により共存することができないため、表の定義に追加することができません。

ユーザーの処置: 表の制約の詳細については「SQL リファレンス」をご覧ください。

ASN1853E DB2 の表 *tableowner.tablename* 定義は、索引 *indexowner.indexname* と表のパーティション・キーとの間に競合があります。

説明: 指定された索引定義とパーティション・キーに競合する定義があり、索引プロパティとマルチ・モード表のパーティション・キーの共存に関する DB2 の規則により、共存できません。

ユーザーの処置: 表の制約の詳細については「SQL リファレンス」をご覧ください。

ASN1854E 表 *tableowner.tablename* の定義は z/OS プラットフォームで完了していません。理由コードは *reason_code* です。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 ROWID をサポートするユニーク索引、主キー、およびユニーク制約などの必須プロパティ、または ROWID、LOB 表スペース、補助表、補助索引などの LOB 列のプロパティが、表定義で抜けています。表定義を完了するには、上記のうち少なくとも 1 つの要素が存在する必要があります。

ユーザーの処置: 必要な表プロパティを含めるために表定義を再定義してください。

ASN1855E ターゲット・キーの変更に使用される変更後イメージ列 *column_name* が、レプリカ表 *tableowner.table_name* に見つかりませんでした。

説明: サブスクリプション中にキー列に対するターゲット・キーの変更オプションを選択しました。レプリカ

のソース表で変更後イメージ列に相当するものが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 元の変更後イメージ列がレプリカ・ソースのサブスクリプションで使用可能であるか確認してください。

ASN1856E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。OS/400 集合名 *collection_name* のチェックが失敗しました。ネイティブ OS/400 メッセージは *OS/400_message* です。

説明: 指定された OS/400 集合が無効です。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: エラー情報の詳細については、iSeries コンソール・ログを参照してください。

ASN1857E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。ソース表 *sourceowner.sourcename* には、コンデンスとして定義された内部 CCD 表があり、ターゲット *targetowner.targetname* は、非コンデンス・ターゲットとして要求されています。

説明: レプリケーション・コントロール表に保管された定義は、ソース・メンバーが、すでに内部 CCD をコンデンスとして定義した別のサブスクリプション・セットに存在することを示します。同じソース・メンバーが、ソースとして別のサブスクリプション・セットに追加されていますが、ターゲット・メンバーは非コンデンスです。ソース・サイドのデータがすでにコンデンスであり、非コンデンス・ターゲットにはコピーできません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: ターゲット・メンバー定義を変更して、タスクを再発行してください。

ASN1858E 表 *tableowner.tablename* に対する表タイプ *type* は、この DB2 プラットフォームでサポートされていません。

説明: 表またはビューで指定されているタイプは、DB2 プラットフォームでサポートされていません。レプリケーション・サポートにはサブスクリプション用の DB2 プラットフォームに特定のソースおよびターゲット・オブジェクトのタイプが含まれます。DB2 プラットフォームに応じて、サブスクリプションにソースまたはターゲットとして表のタイプのみ組み込むことができます。

ユーザーの処置: ターゲット表のタイプすべてのプロパティについて、詳しくは「DB2 レプリケーション・ガ

イドおよびリファレンス」の『ソースへの加入』の章を参照してください。

ASN1859E レプリケーション・アクション *action_name* は、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、セット名 *set_name*、処理順序 *whos_on_first*、ソース・メンバー *source_owner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qualifier*、およびターゲット・メンバー *targetowner.targetname* に対して、エラー終了しました。クロスローダー・オプションが、このメンバーに使用されていますが、ニックネーム所有者およびニックネーム表の値が抜けています。

説明: IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表の列 *LOADX_TYPE* の値が、指定されたメンバーの 3 です。この値は、クロスローダーがこのメンバーに使用されることを示します。ソース表のニックネームはターゲット・サーバーで作成され、*LOAD_SRC_N_OWNER* および *LOAD_SRC_N_TABLE* 列で指定される必要があります。これらの値のいずれかあるいは両方が欠落しています。

ユーザーの処置: *LOAD_SRC_N_OWNER* フィールドまたは *LOAD_SRC_N_TABLE* フィールドに値を指定し、タスクを再発行してください。

ASN1860W ターゲット・メンバー *targetowner.targetname* が存在せず、メンバーをドロップするスクリプトは生成されません。

説明: ターゲット・データベース上にターゲット表、ビューまたはニックネームが存在していません。そのためドロップできません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1861E サブスクリプション・セット・メンバーを、ターゲット *targetowner.targetname* に作成できません。これは、ターゲットがすでにセットのメンバーであり、既存のメンバー定義が要求された定義と競合するためです。

説明: IBMSNAP_SUBS_COLS コントロール表の列にはすでに *NAME*、*IS_KEY*、*EXPRESSION*、および *TYPE* に対する値が含まれ、これらの値は新規メンバーに要求された値と異なります。新規メンバーを作成するスクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 新規サブスクリプション・メンバーを作成するには、*IBMSNAP_SUBS_COLS* 表に保管され

ているターゲット・プロパティと同じプロパティを使用してください。

ASN1862E レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、サブスクリプション・セット名 *set_name*、処理順序 *whos_on_first*、ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット・メンバー *targetowner.targettable* に対して、エラー終了しました。指定されたセットに対するサブスクリプション・セット・メンバーを更新できません。

説明: 指定されたソース・メンバーは、ターゲット・サーバーで有効なニックネームを持っていません。このエラーは、以下の理由により発生したと思われます。

- ソース・メンバー作成時にニックネームを提供していなかった。
- ターゲット・サーバーに存在せず、ユーザー用に作成されないニックネームを提供した。
- ニックネームでないオブジェクトを提供した。
- ターゲット・サーバーに存在しないが、指定されたソース・メンバーに関連していないニックネームを提供した。

ユーザーの処置: ターゲット・サーバーにすでに存在し、ソース・メンバーと関連する有効なニックネームを提供しているかどうか確認してください。

ASN1863E レプリケーション・アクションがエラー終了しました。ソース・メンバー *sourceowner.sourcenam* の表所有者の長さ *length* が、サーバー *server* のレプリケーション・コントロール表からの制限 *max_limit* を超過しています。

説明: キャプチャー・サーバーは、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステム上にあり、アプライ・コントロール・サーバーは、ワークステーション上または DB2 for z/OS の以前のバージョンのいずれかにあります。バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムでスキーマ名に許可される最大長は、このサーバー上で許可される長さより、はるかに長くなります。

ユーザーの処置: バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムをアプライ・コントロール・サーバーとして使用するようにセットアップを再定義して、タスクを発行します。

ASN1864E レプリケーション・アクションがエラー終了しました。ターゲット・メンバー *targetowner.targetname* の所有者名の長さ *length* が、サーバー *server* のレプリケーション・コントロール表からの制限 *max_limit* を超過しています。

説明: ターゲット・サーバーは、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステム上にあり、アプライ・コントロール・サーバーまたはキャプチャー・コントロール・サーバーのいずれかが、ワークステーション上または DB2 for z/OS の以前のバージョンにあります。バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムでスキーマ名に許可される最大長は、コントロール・サーバー上で許可される長さより、はるかに長くなります。

ユーザーの処置: バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムを、アプライ・コントロール・サーバーまたはキャプチャー・コントロール・サーバーのいずれかとして使用するようセットアップを再定義します。

ASN1865E レプリケーション・アクションがエラー終了しました。キャプチャー・スキーマ *capture_schema* 用のキャプチャー・コントロール・サーバー上のアーキテクチャー・レベル *arch_level* は、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムではサポートされません。

説明: 指定されたキャプチャー・コントロール・サーバーは、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステム上にあり、*capture_schema*.IBMSNAP_REGISTER 表から取得するアーキテクチャー・レベル値は、0805 でなければなりません。その表から取得するアーキテクチャー・レベルは、0805 ではありません。現在、バージョン 8 新機能モードでレプリケーションを実行していますが、新しいアーキテクチャー・レベルをサポートするようにコントロール表を移行しませんでした。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 移行プログラム AASNSAMP member(ASN2V8) を実行し、レプリケーション・コントロール表の定義に、ALTER を実行します。この移行プログラムは、アーキテクチャー・レベルを 0805 に設定し、コントロール表の幾つかの列の長さを変更して長くします。

ASN1866E レプリケーション・アクションがエラー終了しました。アプライ・コントロール・サーバー上のアーキテクチャー・レベル *arch_level* は、それが定義されているバージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムとは互換性がありません。

説明: 指定されたアプライ・コントロール・サーバーは、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステム上にあり、ASN.IBMSNAP_SUBS_SET 表から取得するアーキテクチャー・レベル値は、0805 でなければなりません。その表から取得するアーキテクチャー・レベルは、0805 ではありません。現在、バージョン 8 新機能モードでレプリケーションを実行していますが、新しいアーキテクチャー・レベルをサポートするようにコントロール表を移行しませんでした。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 移行プログラム AASNSAMP member(ASN2V8) を実行し、レプリケーション・コントロール表の定義に、ALTER を実行します。この移行プログラムは、アーキテクチャー・レベルを 0805 に設定し、コントロール表の幾つかの列の長さを変更して長くします。

ASN1867E レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、サブスクリプション・セット名 *set_name*、WHOS_ON_FIRST 値 *whos_on_first*、ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット・メンバー *target_owner.target_table* に対して、エラー終了しました。最初にサブスクリプション・セットを現行のアーキテクチャー・レベルに移行しないと、指定されたサブスクリプション・セットにサブスクリプション・セット・メンバーを追加できません。理由コードは *reason_code*。

説明: メンバーが追加された場合、このサブスクリプション・セットは無効になります。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 schema.IBMSNAP_REGISTER 表には Oracle ソースの既存登録があり、以前のアーキテクチャー・レベルに関係しています。すべての登録を新しいアーキテクチャー・レベルに移行するまで、このセットに新しいメンバーは追加できません。

1 ASN.IBMSNAP_SUBS_SETS 表には Oracle ソースの既存サブスクリプション・セット・メン

バーがあり、以前のアーキテクチャー・レベルに関係しています。すべてのサブスクリプション・セット・メンバーを新しいアーキテクチャー・レベルに移行するまで、新しいソースをサブスクライブできません。

ユーザーの処置: DB2 以外のリレーショナル・ソースの既存登録を現行のアーキテクチャー・レベルに移行します。詳細については、「Replication Migration Guide: DB2 Replication Version 8」を参照してください。

ASN1900E 表またはビュー *objectowner.objectname* は、新しいサーバーにプロモートできません。理由コード *reason_code*。

説明: 以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 このオペレーティング・システムの表タイプが、プロモート要求に関してはサポートされていません。
- 1 ソース・サーバーのオペレーティング・システムが、ターゲット・サーバーのオペレーティング・システムと一致するために、プロモートを必要としました。
- 2 表またはビューが存在していません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べて、以下のように応答してください。

- 0 これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。
- 1 現行の制限。
- 2 ソース・サーバーのオペレーティング・システムに、この表またはビューが存在するか確認してください。

ASN1901E 登録済みソース *sourceowner.sourcename* は、キャプチャー・サーバー *capture_server* でキャプチャー・スキーマ *captureschema* に対してプロモートできません。理由コードは *reason_code* です。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 表またはビューが登録済みソースではありません。
- 1 登録済みソースがレプリカ表です。
- 2 登録済みソースは DB2 for iSeries 上にありますが、このソースのリモート・ジャーナルがありません。
- 3 表またはビューはすでにプロモートされています。

- 4 ビューの上にあるビューは、レプリケーション・プロモート登録関数によってサポートされていません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べて、以下のように応答してください。

- 0 IBMSNAP_REGISTER 表の中で指定した表またはビュー名に、示されたキャプチャー・スキーマに関する項目が含まれていません。表またはビューの登録は、この特定のキャプチャー・スキーマに対してはプロモートできません。
- 1 指定した表のタイプは、*captureschema.IBMSNAP_REGISTER* 表の中のレプリカ (*SOURCE_STRUCTURE* 列の値は 7) です。この表は登録済みソースとしてプロモートできません。レプリカは、ソースのユーザー表とターゲット・レプリカの間で適正な定義を維持するために、サブスクリプション・セットのコンテキストの中でのみプロモートできます。
- 2 この登録済みソースは、リモート・ジャーナルを持ち、DB2 for iSeries 上で維持されていますが、SQL スクリプトを使用する場合にのみプロモートできます。

ASN1902W スクリプトを実行する前に、プロモートされたキャプチャー・サーバー上にスキーマが存在することを確認してください。レプリケーション定義は、プロモートされたキャプチャー・サーバーにオブジェクトが存在しない場合、不完全になります。

説明: プロモート・タスクでは、新規のキャプチャー・サーバーと新規のキャプチャー・サーバー・スキーマを指定できます。ただし、プロモート・タスクでは、新規のキャプチャー・サーバーに接続して、キャプチャー・サーバーとスキーマの名前と存在の確認はしません。スクリプトを正常に実行するために、その実行前にこの情報を確認する必要があります。

ユーザーの処置: 必須オブジェクトを生成するには、スクリプトの実行前に適切な SQL を実行してください。

ASN1903W オブジェクト *objectowner.objectname* は、プロモートされたアプライ・コントロール・サーバー上に存在しませんが、プロモートされたオブジェクトの一部は、このオブジェクトの存在に依存しています。このオブジェクトを作成できない場合、プロモートされたアプライ・コントロール・サーバーでレプリケーション定義が不完全になります。理由コード *reason_code*。

説明: プロモート・タスクでは新規のアプライ・コントロール・サーバー名を指定できるため、生成されたスクリプトを正しく実行するための必須オブジェクトが存在するかどうかを、このタスクで検出します。スクリプトは生成されますが、作動不能です。以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表が存在しません。
- 1 プロモートされたセットのすべてのソース・メンバーに関する登録情報。

ユーザーの処置: 必須オブジェクトを生成するには、スクリプトの実行前に適切な SQL を実行してください。

ASN1904I レプリケーション・サブスクリプション・メンバーは、指定されたアプライ・コントロール・サーバーで、指定されたアプライ修飾子に対して正常にプロモートされました。理由コード *reason_code*。

説明: これは情報メッセージであり、アクションは必要ありません。スクリプトは生成されていますが、実行前に一部更新が必要になる可能性があります。以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 ソース・メンバー構造が、ターゲット・メンバー構造と非互換です。
- 1 ターゲット・メンバーは、別のレプリカ (replica2) のソース・メンバーでもあるレプリカ (replica1) です。replica2 の登録行に RECAPTURE 値を指定すると、ユーザー表の更新を replica2 で複製することは許可されません。
- 2 ソース・メンバーは、複数のレプリカ (replica1 と replica2) のソース・メンバーでもあるユーザー表です。ユーザー表の登録行に RECAPTURE 値が指定されている場合、replica1 の更新を replica2 で複製すること、およびその逆も許可されません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べて、以下のように応答してください。

0 ASN.IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表の TARGET_STRUCTURE 列をチェックしてください。この列の値は、対応するソース・メンバー、captureschema.IBMSNAP_REGISTER 表の SOURCE_STRUCTURE 列と互換でなければなりません。

- 1、2 必要に応じて、値を更新してください。

ASN1905W ホストと新規の両方のシステムで、キャプチャー・サーバー別名とキャプチャー・スキーマ名が同じです。生成されたレプリケーション定義が、ホスト・システム上で実行された場合に機能しません。

説明: プロモート・タスクで、キャプチャー・サーバー別名とキャプチャー・スキーマ名が、ホストと新規のどちらのシステムでも同じであることが検出されました。生成された SQL スクリプトを変更する必要があります。変更しない場合、実行時にスクリプトが失敗します。

ユーザーの処置: アクションとして、1) ホスト・システムと新規システムに、それぞれ異なるキャプチャー・サーバー別名とキャプチャー・スキーマ名の値を指定して、同じタスクを実行するか、2) 生成されたスクリプト内のキャプチャー・サーバー別名かキャプチャー・スキーマ名を変更してください。

ASN1950E ASNCLP : 予期しないトークン *token_name* が検出されました。有効なトークンには *list_of_tokens* が含まれます。

説明: 誤った構文を使用したコマンドが入力されました。

ユーザーの処置: 資料をチェックして、コマンドの構文を確認してください。

ASN1951E ASNCLP : 無効なプロファイル *profile_name* を使用したコマンドが入力されました。

説明: あらかじめプロファイルが存在していないと、コマンドで使用できません。

ユーザーの処置: 対応する SET PROFILE コマンドを発行してから、失敗したコマンドを再入力してください。

ASN1952E ASNCLP : プログラムは内部エラーを検出しました。

説明: レプリケーション・コマンド行プロセッサが、リカバリー不能エラー条件を検出しました。

ユーザーの処置: エラーが載っているログ・ファイルを手し、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN1953I ASNCLP : コマンドが完了しました。

説明: この ASNCLP セッションのすべてのコマンドが正常に完了しました。このセッション内のいくつかのコマンドによって、エラー、警告、または通知のメッセージが生成された可能性があることにも注意してください。

ユーザーの処置: ASNCLP ログ・ファイルをチェックして、このセッション内のコマンドによってエラー、警告、または通知のメッセージが生成されたか確認してください。

ASN1954E ASNCLP : コマンドが失敗しました。

説明: ASNCLP セッション内で少なくとも 1 つのコマンドが失敗し、処理が停止しました。

ユーザーの処置: ASNCLP ログ・ファイルを調べて、エラーについて診断してください。その後、エラーを修正し、コマンドを再実行してください。

ASN1955I ASNCLP : プログラムは次のファイルを使用します。キャプチャー SQL スクリプトとして *capture_script_file_name*、コントロール SQL スクリプトとして *control_script_file_name*、ターゲット SQL スクリプトとして *target_script_file_name*、およびログ・ファイルとして *log_file_name*。

説明: ASNCLP セッションにより、示されたファイルで情報が生成されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1956I ASNCLP : プログラムは、現在、アクション *action_name* を実行するためのスクリプトを生成しています。

説明: このコマンドに関する入力はすべて正常に解析され、スクリプトを生成するコマンドが現在呼び出されています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1957E ASNCLP : 入力パラメーター

input_parameter の値 *value* は誤りです。
理由コードは、*reason_code* です。

説明: 入力パラメーターの値は誤りです。以下は、有効な理由コードの値です。

- 1 この入力パラメーターは文字値ですが、数値でなければなりません。
- 2 この入力パラメーターは数値ですが、文字値でなければなりません。
- 3 コマンド行プロセッサが指定されたファイルにアクセスできません。
- 4 日付のフォーマットは必ず yyyy-mm-dd に、時間フォーマットは hh:mm:ss.fffffff にしてください。日時のコンポーネントは、fffffff で示される時刻の小数部以外はすべてが必須指定です。ハイフンとコロンの必須指定です。

ユーザーの処置: 理由コードをチェックし、有効な入力パラメーター値を指定してください。

ASN1976E *pgmname* : *program_qualifier*. 指定されたデータベース別名 *db_alias_name* は、パスワード・ファイル *password_file_name* にすでに存在します。

説明: 指定したキーは、パスワード・ファイルの中にすでに存在しています。

ユーザーの処置: ADD パラメーターの代わりに MODIFY パラメーターを使用して、このコマンドを再入力してください。

ASN1977E *pgmname* : *program_qualifier*. 入力パラメーター *parameter_name* の値がありません。

説明: 上記の入力パラメーターを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な入力パラメーターを使用して、ユーティリティを再呼び出ししてください。

ASN1978E *pgmname* : *program_qualifier*. 入力パラメーター *parameter_name* の値が長過ぎます。

説明: *asnpwd* コマンドはデータベース別名の長さとして最大 8 文字をサポートし、ユーザー ID とパスワードの長さはいずれも最大 128 文字までサポートします。ユーザー ID とパスワードの具体的な長さは、使用しているオペレーティング・システムによって異なります。

ユーザーの処置: 長さが有効な入力パラメーターを使用して API を呼び出してください。

ASN1979E *pgmname : program_qualifier.* プログラムは、予期しないトークン *token_name* を検出しました。予期していたトークンには *list_of_tokens* が含まれません。

説明: 誤った構文を使用したコマンドが入力されました。

ユーザーの処置: 資料をチェックして、コマンドの構文を確認してください。

ASN1980E *pgmname : program_qualifier.* プログラムは、*reason* のために正常に完了しませんでした。

説明: asnpwd コマンドは、メッセージに示したシステム上の問題を検出しました。

ユーザーの処置: メッセージの情報を基にして、アクションをとってください。エラーの修正後、コマンドを再入力してください。

ASN1981I *pgmname : program_qualifier.* プログラムは、パスワード・ファイル *password_file_name* を使用して正常に完了しました。

説明: asnpwd コマンドは正常に完了しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージなので、アクションは必要ありません。

ASN1982E *pgmname : program_qualifier.* 指定されたデータベース別名 *db_alias_name* が、パスワード・ファイル *password_file_name* ではありません。

説明: MODIFY または DELETE パラメーターを使用して指定したキーは、パスワード・ファイルの中に存在していません。

ユーザーの処置: ADD パラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

ASN1983E *pgmname : program_qualifier.* プログラムはパスワード・ファイル *password_file_name* を検出できません。

説明: パスワード・ファイルが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 指定したパス内にこのパスワード・ファイルが存在していることを確認してください。初めてパスワード管理ユーティリティーを使用している場

合、INIT パラメーターを使用してください。

ASN1984E *pgmname : program_qualifier.* プログラムは、パスワード・ファイル *password_file_name* がすでに存在しているため、初期化できません。

説明: 指定したパス内に、パスワード・ファイルがすでに存在しています。

ユーザーの処置: パスワード・ファイルが削除されたことを確認してください。その上で、コマンドを再試行してください。

ASN1985E *pgmname : program_qualifier.* プログラムは、パスワード・ファイル *password_file_name* を使用しているときに内部エラーを検出しました。

説明: オペレーティング・システムで、このパスワード・ファイルにアクセスしようとしたときに、予期しないエラーが発生しました。このエラーに関して使用可能な情報はありません。ただし、このエラーは、パスワード・ファイルを手動で編集したことが原因で、ファイルのフォーマットが変更されたために発生した可能性があります。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。問題が解決しない場合は、INIT パラメーターを使用して新規のパスワード・ファイルを作成してください。

ASN1986E *pgmname : program_qualifier.* パスワード・ファイル *file_name* には、リスト不可能な暗号化された情報が含まれます。

説明: Encrypt All を使用して作成されたパスワード・ファイルには暗号化されたデータ (別名、ユーザー ID、およびパスワード) のみが含まれます。暗号化されたデータはリストできません。Encrypt Password パラメーターを使用して作成されたパスワード・ファイルからのみデータをリストできます。

ユーザーの処置: List オプションを使用したい場合は、パスワードのみを暗号化した状態でパスワード・ファイルを保守してください。asnpwd delete コマンドで旧パスワード・ファイルを削除し、asnpwd init encrypt password コマンドでパスワード・ファイルを新規作成する必要があります。

ASN2000I アクション *action_name* が、*time_stamp* に開始されました。 **Q** キャプチャー・サーバーは *capture_server* で、 **Q** キャプチャー・スキーマは *capture_schema* です。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN2001I アクション *action_name* が、*time_stamp* に開始されました。 **Q Apply** サーバーは *apply_server*、 **Q Apply** スキーマは *apply_schema*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN2002I アクション *action_name* が、*time_stamp* に開始されました。 **XML** パブリケーション名は *pub_name*、 **Q Capture** サーバーは *capture_server*、 **Q Capture** スキーマは *capture_schema*、ソース表、ビュー、またはニッケネームは *table_name*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN2003I アクション *action_name* が、*time_stamp* に開始されました。 **Q** サブスクリプション名: *name*。 **Q Capture** サーバー: *capture_server*。 **Q Capture** スキーマ: *capture_schema*。 **Q Apply** サーバー: *apply_server*。 **Q Apply** スキーマ: *apply_schema*。ソース表は *table_name*。ターゲット表またはストアード・プロシージャは *table_name*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN2004I アクション *action_name* が、*time_stamp* に開始されました。パブリッシュ・キュー・マップ名は *queue_map_name*、 **Q Capture** サーバーは *capture_server*、 **Q Capture** スキーマは *capture_schema*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN2005I アクション *action_name* が、*time_stamp* に開始されました。レプリケーション・キュー・マップ名は *queue_map_name*、 **Q Capture** サーバーは *capture_server*、 **Q Capture** スキーマは *capture_schema*、 **Q Apply** サーバーは *apply_server*、 **Q Apply** スキーマは *apply_schema*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN2006I **Q Capture** サーバー *capture_server* および **Q Capture** スキーマ *capture_schema* に関するアクション *action_name* が *time_stamp* に正常に終了しました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN2007I **Q Apply** サーバー *apply_server* および **Q Apply** スキーマ *apply_schema* に関するアクション *action_name* が *time_stamp* に正常に終了しました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN2008I **XML** パブリケーション名 *pub_name*、 **Q Capture** サーバー *capture_server*、 **Q Capture** スキーマ *capture_schema*、およびソース表、ビュー、またはニッケネーム *table_name* に関するアクション *action_name* が *time_stamp* に正常に終了しました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN2009I Q サブスクリプション名 *name* に関するアクション *action_name* が *time_stamp* に正常に終了しました。 Q Capture サーバーは *capture_server*、Q Capture スキーマは *capture_schema*、Q Apply サーバーは *apply_server*、Q Apply スキーマは *apply_schema*、ソース表は *table_name*、ターゲット表またはストアード・プロシージャは *table_name*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN2010I パブリッシュ・キュー・マップ名 *queue_map_name*、Q Capture サーバー *capture_server*、および Q Capture スキーマ *capture_schema* に関するアクション *action_name* が *time_stamp* に正常に終了しました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN2011I レプリケーション・キュー・マップ名 *queue_map_name* に関するアクション *action_name* が *time_stamp* に正常に終了しました。 Q Capture サーバーは *capture_server* で、Q Capture スキーマは *capture_schema* です。 Q Apply サーバーは *apply_server* で、Q Apply スキーマは *apply_schema* です。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN2018E 入力パラメーター *input_parameter* の値がありません。

説明: 入力パラメーターの値が必須ですが、ありません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 必須パラメーターの値を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2019E 入力パラメーター *input_parameter* の値 *value* は誤りです。理由コード: *reason_code*。

説明: 入力パラメーターとして指定された値は、有効な値ではありません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 このコンテキストでは、SUBTYPE 列の値は 'U' か 'B' でなければなりません。
- 1 SLEEP_INTERVAL 列の値は 0 より大きく 2147483647 未満でなければなりません。
- 2 ALL_CHANGED_ROWS 列の値は 'Y' か 'N' でなければなりません。
- 3 BEFORE_VALUES 列の値は 'Y' か 'N' でなければなりません。
- 4 CHANGED_COLS_ONLY 列の値は 'Y' か 'N' でなければなりません。
- 5 XML パブリケーションの場合、HAS_LOADPHASE 列の値は 'N' か 'E' でなければなりません。
- 6 Q サブスクリプションの場合、HAS_LOADPHASE 列の値は 'N'、'I'、または 'E' でなければなりません。
- 7 SUPPRESS_DELETES 列の値は 'Y' か 'N' でなければなりません。
- 8 パブリッシュ・キュー・マップの場合、MESSAGE_FORMAT 列の値は 'X' でなければなりません。
- 9 レプリケーション・キュー・マップの場合、MESSAGE_FORMAT 列の値は 'C' でなければなりません。
- 10 パブリッシュ・キュー・マップの場合、MSG_CONTENT_TYPE 列の値は 'T' か 'R' でなければなりません。
- 11 レプリケーション・キュー・マップの場合、MSG_CONTENT_TYPE 列の値は 'T' でなければなりません。
- 12 IBMQREP_SENDQUEUES 表では、パブリッシュ・キュー・マップかレプリケーション・キュー・マップの場合、ERROR_ACTION 値は 'I' か 'S' でなければなりません。
- 13 Q サブスクリプションの場合、ERROR_ACTION 列の値は 'I'、'S'、'Q'、または 'D' でなければなりません。
- 14 Q サブスクリプションの場合、

- CONFLICT_ACTION 列の値は 'F'、'I'、'D'、'S'、または 'Q' でなければなりません。
- 15 LOADTYPE パラメーターは '0'、'1'、'2'、または '3' でなければなりません。
- 16 SOURCENODE パラメーターはゼロより大きくなければなりません。
- 17 TARGETNODE パラメーターはゼロより大きくなければなりません。
- 18 Number of Apply Agents パラメーターは 0 より大きく 100 未満でなければなりません。
- 19 Memory Limit パラメーターは 0 より大きく 100 未満でなければなりません。
- 20 Q サブスクリプションの場合、MSG_FORMAT 列の値は 'C' でなければなりません。
- 21 STATE パラメーターの有効な値は 'A' のみです。
- 22 ターゲット・タイプ・パラメーターは '1' (ユーザー表) か '5' (ストアード・プロシージャ) でなければなりません。
- 23 サブネーム・パラメーターにセミコロン文字 (;) を含めることはできません。
- 24 SENDQ または RECVQ 列の値に特殊文字かブランクを含めることはできません。
- 25 MONITOR_INTERVAL 列の値は 0 より大きく 2147483647 未満でなければなりません。
- 26 MONITOR_LIMIT 列の値は 0 より大きく 10080 以下でなければなりません。
- 27 TRACE_LIMIT 列の値は 0 より大きく 2147483647 未満でなければなりません。
- 28 PRUNE_INTERVAL 列の値は 0 より大きく 3600 未満でなければなりません。
- 29 AUTO_STOP 列の値は 'Y' か 'N' でなければなりません。
- 30 LOG_REUSE 列の値は 'Y' か 'N' でなければなりません。
- 31 LOGSTDOUT パラメーターは 'Y' か 'N' でなければなりません。
- 32 TERM パラメーターは 'Y' か 'N' でなければなりません。
- 33 STARTMODE 列の値は 'COLD'、'WARMSI'、'WARMNS'、または 'WARMSA' でなければなりません。
- 34 COMMIT_INTERVAL 列の値は 100 より大きく 600000 未満でなければなりません。
- 35 SIGNAL_LIMIT 列の値は 0 より大きく 2147483647 未満でなければなりません。
- 36 DBSPACE 名の長さが 18 文字より長くなっています。
- 37 指定されたロック・サイズのオプションが無効です。
- 38 0 未満のページ数は指定できません。
- 39 ヘッダー・ページの数を 1 未満または 8 より大きい値にすることはできません。
- 40 パーセント索引、データ・ページのパーセント・フリー・スペース、または索引ページのフリー・スペースに 0 未満または 99 より大きい値を指定できません。
- 41 DBSPACE 名の値が無効です。
- 42 デッドロック再試行の値を 3 未満または最大の int より大きい値にすることはできません。

ユーザーの処置: 入力パラメーターに有効な値を指定して、アクションを再実行してください。詳しくは、製品資料を参照してください。

ASN2020E 入力パラメーター *input_parameter* の値が長すぎます。値 *value* の長さが、許可された最大限度 *maximum_limit* を超えています。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 入力パラメーターに有効な値を指定してください。パラメーターごとの有効値についての詳細は、製品資料を参照してください。

ASN2021E アクションがエラー終了しました。内部エラーが発生しました。戻りコードは *return_code*。

説明: 内部エラーまたはランタイム・エラーのため、指定されたアクションを実行できません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。メッセージ中に戻された戻りコードを報告してください。アナライザーのレポートを提出してください。

ASN2022E アクションがエラー終了しました。SQL エラーを検出しました。SQL メッセージは *sql_message*。

説明: SQL ステートメントの実行中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: SQL については、ご使用のデータベース・メッセージ・リファレンスを参照してください。

ASN2023E サーバー *server_alias* 上のデータベース・プラットフォーム *platform*、バージョン *version* はサポートされていません。

説明: 指定されたプラットフォーム、バージョン、またはリリースでは、Q レプリケーションおよびイベントのパブリッシュはサポートされていません。

ユーザーの処置: サポートされているプラットフォーム、バージョン、およびリリースに関して、製品資料を参照してください。

ASN2050E レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* 用に指定されている受信キュー *queue_name* は、Q Apply サーバー *server_alias* および Q Apply スキーマ *apply_schema* の別のレプリケーション・キュー・マップにすでに使用されています。

説明: 受信キューは、1 つの Q Apply スキーマの下で、1 つのレプリケーション・キュー・マップ当たり 1 つのみ使用できます。

ユーザーの処置: この Q Apply スキーマの他のレプリケーション・キュー・マップで使用されていない別の受信キュー名を指定し、アクションを再実行してください。

ASN2051E コントロール表は、指定の Q Capture スキーマ *capture_schema* の Q Capture サーバーにすでに存在しています。

説明: 1 つ以上の Q Capture コントロール表が、指定のスキーマの下で、このサーバーにすでに存在しています。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 別の Q キャプチャー・スキーマの下で、「キャプチャー・コントロール表の作成」アクションを再実行してください。

ASN2052E コントロール表は、指定の Q Apply スキーマ *apply_schema* の Q Apply サーバーにすでに存在しています。

説明: 1 つ以上の Q Apply コントロール表が、指定のスキーマの下で、指定のサーバーにすでに存在しています。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 別の Q Apply スキーマの下で、「アプライ・コントロール表の作成」アクションを再実行してください。

ASN2053E Q Capture スキーマ *capture_schema* のコントロール表が見つかりませんでした。

説明: 指定された Q Capture スキーマの Q Capture サーバーにコントロール表が存在しません。アクション「キャプチャー・コントロール表のドロップ」を発行した場合、コントロール表をドロップするスクリプトは生成されません。「XML パブリケーションの作成」などの他のアクションを発行した場合、指定された Q Capture スキーマの下データベースからコントロール表を取り出せなかったため、そのアクションのスクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 適切な Q Capture サーバーおよび Q Capture スキーマのアクションを再発行してください。

ASN2054E Q Apply スキーマ *apply_schema* のコントロール表が見つかりませんでした。

説明: 指定された Q Apply スキーマの Q Apply サーバーにコントロール表が存在しません。アクション「アプライ・コントロール表のドロップ」を発行した場合、コントロール表をドロップするスクリプトは生成されません。「Q サブスクリプションの作成」などの他のアクションを発行した場合、指定された Q Apply スキーマの下データベースからコントロール表を取り出せなかったため、そのアクションのスクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 適切な Q Apply サーバーおよび Q Apply スキーマのアクションを再発行してください。

ASN2055I レプリケーション・コントロール表 *table_name* が見つからないので、ドロップされませんでした。

説明: 「Q Capture コントロール表のドロップ」または「Q Apply コントロール表のドロップ」アクションが発行されましたが、コントロール表が欠落していました。スクリプトは、そのコントロール表に対して適切な DROP ステートメントを生成しません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN2056W 少なくとも 1 行がコントロール表 *table_name* に見つかりました。このコントロール表のドロップを選択すると、この表に保管されているレプリケーション定義もドロップされます。

説明: 指定されたコントロール表をドロップするスクリプトが生成されましたが、この表は空ではありません。このスクリプトを実行すると、この表にあるレプリケーション制御情報が削除されるので、既存の XML パブリケーションや Q サブスクリプションに影響がありません。

ユーザーの処置: このコントロール表をドロップした場合、XML パブリケーションや Q サブスクリプションへの影響を判別してください。その結果が許容できる場合のみ、生成されたスクリプトを実行してください。

ASN2057W 表スペース *tablespace_name* は、すでに指定されたサーバーに存在します。この表スペースにコントロール表が作成されません。

説明: デフォルトをオーバーライドして他の表スペースを指定しない場合、デフォルトではコントロール表は推奨されている表スペースに作成されます。この状態では、推奨されている表スペースは既存なので、コントロール表は既存の表スペース中に作成されます。

ユーザーの処置: 表を既存の表スペース中に作成しない場合は、スクリプトに変更を加えて、別の表スペースを指定してください。コントロール表を既存の表スペース中に作成したい場合は、アクションは必要ありません。

ASN2058E ロック・サイズが *locksize* なので、Q Capture コントロール表 *table_name* はデータベース *logicaldb_name* 中の表スペース *tablespace_name* 中に作成されませんでした。このコントロール表は、ロック・サイズ *expected_locksize* の表スペース中に作成しなければなりません。

説明: z/OS プラットフォーム上では、行のロック・サイズの表スペースが必要なコントロール表もあれば、ページのロック・サイズの表スペースが必要なコントロール表もあります。コントロール表用に選択した表スペースのロック・サイズが適切ではありません。

ユーザーの処置: 適切なロック・サイズの表スペースを使用して、「Q Capture コントロール表の作成」を再実行してください。

ASN2059E ロック・サイズが *locksize* なので、Q Apply コントロール表 *table_name* はデータベース *logicaldb_name* 中の表スペース *tablespace_name* 中に作成されませんでした。このコントロール表は、ロック・サイズ *expected_locksize* の表スペース中に作成しなければなりません。

説明: z/OS プラットフォーム上では、行のロック・サイズの表スペースが必要なコントロール表もあれば、ページのロック・サイズの表スペースが必要なコントロール表もあります。コントロール表用に選択した表スペースのロック・サイズが適切ではありません。

ユーザーの処置: 適切なロック・サイズの表スペースを使用して、「Q Apply コントロール表の作成」を再実行してください。

ASN2075E タイプ *object_type* のオブジェクト *object_name* は、指定された Q Capture スキーマの下の、指定されたサーバーに存在しています。

説明: 指定されたタイプの重複値は、同一の Q Capture スキーマのコントロール表では使用できません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: Q Capture スキーマでユニークな、別のオブジェクト名を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2076E パブリッシュ・キュー・マップ *queue_map_name* 用に指定されている送信キュー・オブジェクト *sendqueue_name* は、Q Capture サーバー *server_alias* および Q Capture スキーマ *capture_schema* の別のパブリッシュ・キュー・マップにすでに使用されています。

説明: 送信キューは、1 つの Q Capture スキーマの下で、1 つのパブリッシュ・キュー・マップ当たり 1 つのみ使用できます。

ユーザーの処置: この Q Capture スキーマの他のパブリッシュ・キュー・マップで使用されていない別の送信キュー名を指定し、アクションを再実行してください。

ASN2077E タイプ *object_type* のオブジェクト *object_name* は、Q Capture スキーマ *capture_schema* のサーバー *capture_server* にはありません。

説明: アクション「XML パブリケーションのドロップ」または「パブリッシュ・キュー・マップのドロップ」が呼び出されましたが、指定されたサーバーおよび

Q Capture インスタンスのコントロール表のカatalog定義中に、指定された XML パブリケーションまたはパブリッシュ・キュー・マップの名前が見つかりませんでした。指定された XML パブリケーションまたはパブリッシュ・キュー・マップは、ドロップできません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 有効な XML パブリケーションまたはパブリッシュ・キュー・マップの名前を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2078E タイプ *object_type* のオブジェクト *object_name* は、Q Apply スキーマ *apply_schema* のサーバー *apply_server* にありません。

説明: アクション「サブスクリプションのドロップ」または「レプリケーション・キュー・マップのドロップ」が呼び出されましたが、指定されたサーバーおよび Q Apply インスタンスのコントロール表のカatalog定義中に、指定された Q サブスクリプションまたはレプリケーション・キュー・マップの名前が見つかりませんでした。指定された Q サブスクリプションまたはレプリケーション・キュー・マップは、ドロップできません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 有効な Q サブスクリプションまたはレプリケーション・キュー・マップの名前を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2081E 表 *table_name* をパブリッシュできません。理由コード: *reason_code*。

説明: この表は XML パブリケーション用にサポートされていません。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 指定されているソース表は DB2 カatalog表です。システム・カatalog表から変更をパブリッシュできるのは、Q キャプチャー・プログラムが z/OS 上で実行されている場合のみです。
- 1 Q Capture サーバーは z/OS プラットフォーム上にあり、ソース表は Edit proc オプションを指定して定義されています。
- 2 Q Capture サーバーは z/OS プラットフォーム上にあり、ソース表は Valid proc オプションを指定して定義されています。
- 3 ソース表にもう 1 つ LOB 列がありますが、固有にするための DB プロパティーが定義されていません。
- 4 ソース表の列がパブリケーション用に選択されませんでした。

- 5 ソース表のパブリッシュされる列用にキー欄を引き出せませんでした。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 0 DB2 カatalog表以外のソース表を指定して、アクションを再実行してください。
- 1 Edit proc オプションを指定して定義されていない、別のソース表を指定して、アクションを再実行してください。
- 2 Valid proc オプションを指定して定義されていない、別のソース表を指定して、アクションを再実行してください。
- 3 LOB 列以外のサブスクライブされるソース列の 1 つに、ユニークなデータベース・プロパティーを作成して、アクションを再実行してください。
- 4 ソース表の 1 つ以上の列を選択して、アクションを再実行してください。
- 5 キー欄を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2082E データ・タイプ *datatype* の列 *tablename.columnname* を XML パブリケーションに含められません。理由コード: *reason_code*。

説明: 指定された列は、XML パブリケーションではサポートされていません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 この列のデータ・タイプは XML パブリケーション用にサポートされていません。
- 1 この表について、パブリッシュされる LOB 列の最大数を超えました。
- 2 LOB データ・タイプの列を、表のキー定義の一部にすることはできません。

ユーザーの処置: 理由コードを調べ、XML パブリケーション中に別の列名を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2083E Q サブスクリプション *name* は、指定された Q Capture または Q Apply のスキーマの下にすでに存在しているので、作成できません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: サーバーにまだ存在していない別の Q サブスクリプション名を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2084E タイプ *object_type* のオブジェクト *objectowner.objectname* は、指定された **Q Apply** スキーマの下の、指定されたサーバーに存在しています。

説明: 指定されたオブジェクト名および **Q Apply** インスタンスのコントロール表に、カタログ定義がすでに存在しています。同一の **Q Apply** インスタンス中にこのタイプの値が重複することはできません。

ユーザーの処置: 別のオブジェクト名を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2086E ストアード・プロシージャ *storedproc_owner.storedproc_name* は、関連した **Q サブスクリプション** で使用できません。理由コード: *reason_code*。

説明: このストアード・プロシージャは無効です。スクリプトは生成されません。以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 ストアード・プロシージャにパラメーターがありません。
- 1 ストアード・プロシージャの最初のパラメーターは、「OPERATION」でなければなりません。
- 2 ストアード・プロシージャの 2 番目のパラメーターは、「SUPPRESSION_IND」であることが必要です。
- 3 ストアード・プロシージャの 3 番目のパラメーターは、「SRC_COMMIT_LSN」でなければなりません。
- 4 ストアード・プロシージャの 4 番目のパラメーターは、「SRC_TRANS_TIME」でなければなりません。
- 5 OPERATION パラメーターの「INOUT」属性値が、「INOUT」と等しくありません。
- 6 「SUPPRESSION_IND」、
「SRC_COMMIT_LSN」、または
「SRC_TRANS_TIME」パラメーターの
「INOUT」属性値が、「IN」と等しくありません。
- 7 ストアード・プロシージャには、少なくとも 5 つのパラメーターが含まれる必要があります。4 つ (「OPERATION」、
「SUPPRESSION_IND」、
「SRC_COMMIT_LSN」、
「SRC_TRANS_TIME」) は必要パラメーターで、少なくとも 1 つが追加パラメーターです。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、有効なストアード・プロシージャを指定し、アクションを再実行してください。

ASN2087E ストアード・プロシージャのパラメーター *owner.name.parameter* を **Q サブスクリプション** に含められません。理由コード: *reason_code*。

説明: このストアード・プロシージャのパラメーターは、**Q サブスクリプション** ではサポートされていません。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 パラメーターの 'INOUT' 属性値が、'IN' と等しくありません。
- 1 このパラメーターは、**Q Apply** プログラムに必要な特殊前提条件パラメーターで、この種のパラメーターを **Q サブスクリプション** の一部にすることはできません。
- 2 このパラメーターは *before-value* パラメーターで、この種のパラメーターは **Q サブスクリプション** 中のソース列にマップできません。
- 3 このパラメーターは、キーの一部ですが、対応する *before-value* パラメーターがストアード・プロシージャ定義中のこのパラメーターの前にありません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べてください。ストアード・プロシージャのパラメーター定義に変更を加えるか、サポートされているパラメーターをストアード・プロシージャに指定して、アクションを再実行してください。

ASN2088E 列またはストアード・プロシージャのパラメーター *targetowner.targetname.name* を **Q サブスクリプション** に追加できません。理由コード: *reason_code*。

説明: 列またはストアード・プロシージャのパラメーターは、サポートされていないか、または無効です。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 ターゲットはストアード・プロシージャで、このパラメーターは、**Q サブスクリプション** に追加する前に、プロシージャ定義中に存在している必要があります。
- 1 この列はすでに **Q サブスクリプション** に関係しています。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 0 ストアード・プロシージャの定義に変更を加えて、ストアード・プロシージャ中にこのパラメーターを組み込み、アクションを再実行してください。
- 1 列名を確認して、Q サブスクリプションにまだ関係していない別の列名を指定してください。

ASN2100E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* 中のパラメーター *parameter* のストリング *string* の長さ *length* が、最大限度 *max_limit* より長くなっています。

説明: このタイプのデータベース・オブジェクトには、パラメーターに指定されたストリングより短いストリングが必要です。

ユーザーの処置: 適切なデータベースについては、「SQL リファレンス」を参照して、有効なストリングの長さを調べ、正しい名前の長さを指定してください。

ASN2101E タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* は、サーバー *server_alias* にすでにあります。

説明: このデータベース・オブジェクトは、同じタイプで同じ名前を持つデータベース・オブジェクトがすでに存在するため、作成できません。

ユーザーの処置: データベースにまだ存在していない名前をそのオブジェクトに指定して、タスクを再発行してください。

ASN2102E タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* は、サーバー *server_alias* にはありません。

説明: このデータベース・オブジェクトはデータベース・カタログに存在しません。このオブジェクトに関する検索情報がないので、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションに関係することができません。

ユーザーの処置: 既存のデータベース・オブジェクトの名前を正しく指定していることを確認し、タスクを再実行してください。

ASN2104E サーバー *server* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* 中のすべての列の行サイズ *row_size* が、許可された最大限度 *max_limit* を超えています。

説明: 指定されたオブジェクト中のすべての列の行サイズを結合した値は、限度を超えることはできません。このオブジェクトを作成したり変更したりすることはできません。

ユーザーの処置: ページ・サイズを大きくしてこのオブジェクトの表スペースを割り当てるか、またはこのオブジェクトの列の指定値を少なくするか短くしてください。データベース・オブジェクトの行サイズの限度に関する詳細は、データベースごとに固有の「SQL リファレンス」を参照してください。

ASN2105E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* 中の列数 *num_columns* が、データベースの限度 *max_limit* を超えています。

説明: データベース・オブジェクト (表または索引) に含まれる列数はデータベースのプラットフォームに依存しますが、事前定義の最大数を超えることはできません。オブジェクトの作成または変更を行うスクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 適切な列数のデータベース・オブジェクトを再定義してください。適切なデータベースについては、「SQL リファレンス」を参照して、有効なデータベース・オブジェクトの列数を調べてください。

ASN2106E サーバー *server_alias* にある表スペース *tablespace_name* のページ・サイズ *page_size1* が、表スペースのバッファープール *buffer_pool* のページ・サイズ *page_size2* と一致していません。理由コード: *reason_code*。

説明: 表スペースのページ・サイズは、この表スペースに割り当てられているバッファープールのページ・サイズと一致していなければなりません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 指定されたバッファープールはこの表スペースに割り当てられていますが、このバッファープールから獲得されるページ・サイズは、指定されたこの表のページ・サイズと等しくありません。
- 1 この表スペースのバッファープール情報は指定されていないので、デフォルトのバッファ

ー・プールがこの表スペース用に選択されています。しかし、デフォルトのバッファー・プールのページ・サイズは、表スペースのページ・サイズと一致していません。

ユーザーの処置: 入力を確認して、次のアクションを行ってください。

- 表スペース中にバッファー・プール情報が指定されている場合は、表スペースのページ・サイズを変更して、バッファー・プールのページ・サイズと一致させ、アクションを再実行してください。
- 表スペース用にデフォルトのバッファー・プールを使用した場合は、表スペースのページ・サイズを変更して、バッファー・プールのページ・サイズと一致させ、アクションを再実行してください。

ASN2118E タイプ *object_type1* のデータベース・オブジェクト *object_name* は、タイプ *object_type2* の従属オブジェクトが依然としてサーバー *server_alias* にあるので、削除できません。

説明: このデータベース・オブジェクトは、指定されたサーバーにこのオブジェクトの存在に従属する 1 つ以上のオブジェクトがあるので、削除できません。

ユーザーの処置: 指定されたオブジェクト名を確認して、タスクを再発行してください。

ASN2119E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm_name* が、欠落しています。

説明: 指定されたオブジェクトのパラメーター値が必要です。

ユーザーの処置: 入力を確認して、必須パラメーターに有効な値を指定してください。

ASN2120E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm_name* が、サポートされていません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 入力を確認して、パラメーターの値が指定されていないことを確認してください。詳しくは、データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照してください。

ASN2121E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm_name* を、更新操作に使用できません。

説明: このパラメーターの値を更新できません。

ユーザーの処置: 入力を確認して、パラメーターの値が指定されていないことを確認してください。

ASN2122E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm_name* の値 *value* に、無効文字 *char* が含まれています。

説明: パラメーターの値には、特定の文字のみ含めることができます。

ユーザーの処置: 指定された値から無効文字を除去してください。データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照して、指定されたパラメーターにとって有効な文字を調べてください。

ASN2123E タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm1* の値 *value1* が、パラメーター *parm2* の値 *value2* と競合しています。

説明: 指定されたパラメーターの、指定された値は、サーバーで共存できません。

ユーザーの処置: 入力に変更を加えて、有効な値の組み合わせになるようにしてください。データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照して、有効な値の組み合わせを調べてください。

ASN2124E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm* の値 *value* が、許可される最大値 *max_value* を超えています。

説明: 指定された値が大きすぎます。指定された最大値以下の値のみサポートされています。

ユーザーの処置: 入力を確認して、指定する数値を小さくしてください。有効な値の範囲については、データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照してください。

ASN2125E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm* の値 *value* が、許可される最小値 *min_value* 未満です。

説明: 指定された値が小さすぎます。指定された最小値以上下の値のみサポートされています。

ユーザーの処置: 入力を確認して、指定する数値を大きくしてください。値の有効な範囲については、データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照してください。

ASN2126E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type1* のデータベース・オブジェクト *object_name1* に、タイプ *object_type2* および名前 *object_name2* の重複オブジェクトが含まれています。

説明: 重複オブジェクトは許可されません。

ユーザーの処置: 入力を確認して、個々のオブジェクトが 1 つのみ指定されていることを確認してください。

ASN2127E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type1* のデータベース・オブジェクト *object_name* に、タイプ *object_type2* のオブジェクトが *num_objects* 個含まれていますが、許可される最大数は *max_limit* です。

説明: 指定されたパラメーターに、指定されているオブジェクトが多すぎます。

ユーザーの処置: 入力を確認し、これらのデータベース・オブジェクトの数を減らして最大値にしてください。

ASN2128E タイプ *datatype* の列 *col_name* は、サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* 中では使用できません。
理由コード: *reason_code*。

説明: 指定されたデータベース・オブジェクトで、この列はサポートされていません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 この列のデータ・タイプが無効です。
- 1 この列は、データベース・オブジェクトで使用できません。
- 2 列の長さが長すぎます。

- 3 参照側の列のデータ・タイプが、外部キー制約のある参照元の列のデータ・タイプに一致しません。

ユーザーの処置: 説明中にリストされている理由コードを調べてください。別の列を選択するか、またはこの列のために別のデータベース・オブジェクトを選択してください。

ASN2129E タイプ *prop_type* のプロパティー *prop_name* と、サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のプロパティーとの間に競合が存在します。

説明: 競合しているプロパティーが見つかり、これらのプロパティーは共存できないので、オブジェクトの作成または更新は行われませんでした。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 オブジェクトを作成しようとして、同一セッション中に指定されている別のプロパティーと競合するプロパティーを指定しました。
- 1 オブジェクトを更新しようとして、同一セッション中に指定されている別のプロパティーと競合するプロパティーを指定しました。
- 2 オブジェクトを更新しようとして、オブジェクト中の既存のプロパティーと競合するプロパティーを指定しました。

ユーザーの処置: 両方のプロパティーとも新規に指定している場合は、一方のプロパティーのみ指定し、タスクを発行してください。一方のプロパティーがオブジェクト中に既存の場合は、そのオブジェクト中に新しいプロパティーを指定しないでください。

ASN2130E サーバー *server_alias* の表 *table_name* に列 *column_name* がないので、タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* の作成または更新を行えません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 入力を確認して、表の中にある別の列名を指定してください。

ASN2131E ターゲット表 *table_name* 中の列 *column_name* は、読み取り専用なので Q レプリケーションで使用できません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 別のターゲット列を選択してください。データベースごとに固有の SQL リファレンスを参

照して、更新できない列を判別してください。

ASN2132E ターゲット表 *table_name* 中の列 *column_name* は、NULL 可能でなくデフォルト値もないので、ソース列にマップされませんでした。

説明: Q サブスクリプションに関係していないターゲット表中の列は、NULL 可能か、または NULL でなくデフォルトが指定されていなければなりません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- ターゲット表中の指定された列をソース表の列にマップして、Q サブスクリプションに関係できるようにします。
- ターゲット列に対する NULL 可能プロパティを使用できるようにします。
- この列のデフォルト値を指定します。

ASN2135E ターゲット列 *target_colname* のデータ・タイプ *target_datatype* は、ソース列 *source_colname* のデータ・タイプ *source_datatype* と互換性がありません。

説明: ソース列のデータ・タイプに互換性がないので、この列の値をターゲット列に適用できません。

ユーザーの処置: ターゲット表が存在する場合は、互換データ・タイプのある別の列に列マッピングを変更してください。ターゲット表が存在しない場合は、ターゲット列の列プロパティに変更を加えて、ソース列の列プロパティと互換性があるようにしてください。

ASN2136W ターゲット列 *target_column* の属性とソース列 *source_column* の属性が一致しません。理由コード: *reason_code*。

説明: ソース列とターゲット列の同じ属性の値の間に違いが検出されました。Q サブスクリプションの作成または更新を行うスクリプトが生成されます。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 ソース列は NULL 可能ですが、ターゲット列は NULL 可能ではありません。
- 1 ソース列は NULL 可能ではありませんが、ターゲット列は NULL 可能です。
- 2 ソース列とターゲット列のコード化スキームが違います。
- 3 ソース列にはデフォルト値がありますが、ターゲット列にはデフォルト値がありません。

- 4 ソース列にはデフォルト値がありませんが、ターゲット列にはデフォルト値があります。

ユーザーの処置: この違いのために問題が起きる可能性がある場合は、列マッピングが列プロパティに変更を加えてください。この違いを許容できる場合は、アクションは不要です。

ASN2137W ソース列 *source_column* とターゲット列 *target_column* の間の互換性は、ソース列の特定の値のみ存在します。理由コード: *reason_code*。

説明: ソース列の値をターゲット列に適用できない場合があります。Q サブスクリプションの作成または更新を行うスクリプトは依然として生成されます。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 ソース列には NULL 値を含められますが、ターゲット列では NULL 値は許可されません。ソース列中の NULL 値はターゲット列に適用できません。
- 1 ソース列のデータ・タイプは CHAR か VARCHAR ですが、ターゲット列のデータ・タイプは DATE、TIME、または TIMESTAMP です。ソース列中の、時刻、日付、またはタイム・スタンプの表記が有効でないストリング値は、ターゲット列に適用できません。
- 2 ターゲット列がサポートしている値の範囲外の数値が、ソース列に含まれています。
- 3 ソース列の VARCHAR データ・タイプの長さが、ターゲット列の CHAR または VARCHAR データ・タイプの長さより長くなっています。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- ターゲット表が存在する場合は、列マッピングを変更してください。
- ターゲット表が存在しない場合は、列プロパティを変更してください。
- ソース列とターゲット列を確認してください。ターゲット列で許可されている値のみソース列に含まれている場合は、アクションは不要です。

ASN2138W データ・タイプ *source_datatype* ソース列 *source_column* の値を、データ・タイプ *target_datatype* のターゲット列 *target_column* に複製する際に、小数桁が失われる可能性があります。

説明: ターゲット列で許可されている精度がソース列の精度より低いことがターゲット列のデータ・タイプ定義

に示されているので、ソース列とターゲット列の間でデータが失われる可能性があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- ターゲット表が存在する場合は、列マッピングを変更してください。
- ターゲット表が存在しない場合は、列プロパティを変更してください。
- ソース列とターゲット列を確認してください。ソース列に値が全く存在しない場合や、ターゲット列で切り捨てが受け入れられる場合は、アクションは不要です。

ASN2139E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* 中のパラメーター *parm* の値 *value* は、次の値の 1 つと等しくないので無効です。 *valid_values*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 入力を確認して、指定された値のリストから値を指定してください。

ASN2140E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* 中のパラメーター *parm1* の値 *value* は、*factor* の倍数ではありません。

説明: データベース・オブジェクト中の指定されたパラメーターの値は、指定された因子の倍数でなければなりません。

ユーザーの処置: 入力を確認して、指定された因子の倍数である値を指定してください。

ASN2141E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm* の値 *value* が無効です。

説明: データベース・プラットフォーム上の、指定されたパラメーターの値は無効です。

ユーザーの処置: 入力を確認して、別の値を指定してください。このパラメーターの有効な値については、データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照してください。

ASN2142E サーバー *server_alias* 上の LOB 表スペース *tablespace_name* の属性 *parm* が無効です。

説明: 次の属性は、LOB 表スペースにとって無効です。PCTFREE、TRACKMOD、COMPRESS、SEGSIZE。

ユーザーの処置: LOB 表スペースにとって無効な属性 (PCTFREE、TRACKMOD、COMPRESS、SEGSIZE) を除去して、アクションを再実行してください。

ASN2144E 外部キー *foreign_key* の定義が無効なので、サーバー *server_alias* の表 *table_name* の作成または更新は行われませんでした。理由コード: *reason_code*。

説明: スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 参照側の列の数が参照元の列より少なくなっています。
- 1 参照側の列の数が参照元の列の数より多くなっています。

ユーザーの処置: 入力を確認して、参照元の列の数が参照側の列の数と一致することを確認してください。

ASN2145E サーバー *server_alias* にある表 *table_name* の列名 *column_name* が、同一セッション中で複数指定されました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 入力を確認して、重複名を除去してください。

ASN2146E 必要な情報が欠落しているので、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションの作成または更新を行えません。理由コード: *reason_code*。

説明: スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 ソース表の情報が欠落しています。
- 1 ターゲット表の情報が欠落しています。
- 2 ソース列が選択されませんでした。
- 3 ターゲット列が選択されませんでした。

ユーザーの処置: 入力を確認して、指定されたパラメーターの値を入力してください。

ASN2147E サーバー *server_alias* の表 *targetowner.targetname* に列 *column_name* がないので、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションの作成または更新を行えません。理由コード: *reason_code*。

説明: スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 この列は、ソース表に存在しません。
- 1 既存のターゲット表が指定されましたが、指定された列はターゲット表に存在しません。

ユーザーの処置: 入力を確認して、ソース表かターゲット表にある列を選択してください。

ASN2148E サーバー *server_alias* にある表 *table_name* 中の列 *column_name* はレプリケーション・キー欄にできないので、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションの作成または更新を行えません。理由コード: *reason_code*。

説明: スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 キー欄用に選択した列は、選択されているソース列のリストの一部ではありません。
- 1 キー欄用に選択した列は、選択されているターゲット列のリストの一部ではありません。

ユーザーの処置: 入力を確認して、ソース列かターゲット列として選択されているキー欄を選択してください。

ASN2149E タイプ *target_type* のターゲット *table_name* は読み取り専用です。

説明: 指定されたデータベース・オブジェクトは更新できないので、ターゲットにすることはできません。

ユーザーの処置: 別のデータベース・オブジェクトをレプリケーションのターゲットとして選択してください。更新できるデータベース・オブジェクトに関する情報は、データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照してください。

ASN2150E レプリケーション・ターゲット・キーが欠落しているため、Q サブスクリプションを作成できません。理由コード: *reason_code*。

説明: スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 ターゲット・キーのユーザー入力欠落しています。

1 ターゲット表がなく、選択されたソース列にユニークなデータベース・プロパティがソース表に含まれていません。

2 ソース表とターゲット表が両方ありますが、選択されたソース列とターゲット列にユニークなデータベース・プロパティが含まれていません。

ユーザーの処置: 入力を確認して、ターゲット・キーの一部として適切な列が選択されていることを確認してください。

ASN2151E ソース列 *source_column* に、マップされたターゲット列がありません。

説明: 指定されたソース列に、マップされたターゲット列がないので、Q サブスクリプションの作成または更新を行うアクションを完了できません。

ユーザーの処置: ソース列を確認して、有効なターゲット列にマップされているか調べ、アクションを再実行してください。

ASN2152E ターゲット列 *target_column* に、マップされたソース列がありません。

説明: 指定されたターゲット列に、マップされたソース列がないので、Q サブスクリプションの作成または更新を行うアクションを完了できません。

ユーザーの処置: ターゲット列を確認して、有効なソース列にマップされているか調べ、アクションを再実行してください。

ASN2153E 指定されたオプション *option* は、サーバー *server* 上のプラットフォーム *platform* ではサポートされていません。

説明: サーバー・プラットフォームでは ASNCLP オプションはサポートされていません。

ユーザーの処置: 構文を確認して、正しいオプションを指定してください。

ASN2154E 指定された環境値は、この特定のコンテキストに関係がありません。トークン *token* は無視されます。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 構文を確認して、正しい値を指定してください。

ASN2155E パブリケーションまたはレプリケーションのキュー・マップ *queue_map_name* は、1 つ以上の XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションで使用されているので、削除できません。理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 パブリッシュ・キュー・マップを削除しようとしたが、このキュー・マップに従属する XML パブリケーションが 1 つ以上あります。
- 1 レプリケーション・キュー・マップを削除しようとしたが、このキュー・マップに従属する Q サブスクリプションが 1 つ以上あります。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 0 パブリッシュ・キュー・マップを使用している XML パブリケーションを削除したい場合は、最初に XML パブリケーションを削除してからパブリッシュ・キュー・マップを削除してください。
- 1 レプリケーション・キュー・マップを使用している Q サブスクリプションを削除したい場合は、最初に Q サブスクリプションを削除してからレプリケーション・キュー・マップを削除してください。

ASN2156W ソース表、ターゲット表、またはその両方で、レプリケーション・キー値を固有にしています。理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 ターゲット表ではレプリケーション・キー値が固有になっていますが、ソース表ではなっていません。
- 1 ソース表ではレプリケーション・キー値が固有になっていますが、ターゲット表ではなっていません。
- 2 ソース表とターゲット表の両方で、レプリケーション・キー値が固有になっていません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 0 ソース表のアプリケーションが、レプリケーション・ターゲット・キー列にマップされたソース列のユニーク値のみ生成することを確認してください。
- 1 ターゲット表のアプリケーションが、レプリケ

ーション・ターゲット・キー列として選択されたターゲット列のユニーク値のみ生成することを確認してください。

- 2 理由コード 0 と 1 に記述されているアクションを行ってください。

ASN2157I アクションは不要なので、スクリプトは生成されませんでした。

説明: データベースのオブジェクトはすでに必要な状態になっているので、アクションは不要です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN2158E 指定された照会 *query* で、タイプ *object_type* のオブジェクトが見つかりませんでした。コマンドは、無視されません。

説明: コマンド行インターフェースで、アクション (XML パブリケーションの作成や Q サブスクリプションの作成など) に関係している複数のオブジェクトを検索する照会を指定しました。この照会はオブジェクトを戻しませんでした。作成、更新、または削除アクションに関するスクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 照会を再定義し、指定されたタイプのオブジェクトを 1 つ以上戻せるようにして、コマンドを再発行してください。

ASN2159E オプション *option* の指定値 *value* は、*token* と併用できません。

説明: コマンド行インターフェースでは、特定のシナリオでサポートされていないパラメーターがあります。例えば、NEW TARGET を作成するキーワードを指定すると、USERTYPE 値を 'Stored procedure' にすることはできません。なぜなら、ストアード・プロシージャの作成はサポートされていないからです。

スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: キーワードの有効な組み合わせのリストについては、ASNCLP の資料を参照してください。

ASN2160E 論理データベースが指定されていなかったため、タイプ *type* のオブジェクト *object* をサーバー *server* に作成できません。

説明: 指定されたオブジェクト・タイプを z/OS プラットフォーム上に作成するためには、論理データベースを指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 論理データベースの値を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2161E 列 *column_name* が無効なので、サーバー *server* の表 *table_name* の作成または更新を行えませんでした。理由コード:
reason_code。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 ASCII または EBCDIC 表スペースの場合、GRAPHIC データ・タイプはサポートされていません。
- 1 ASCII または EBCDIC 表スペースの場合、列のコード化スキーム "FOR MIXED DATA" はサポートされていません。
- 2 指定されたサーバーでは、GRAPHIC データ・タイプはサポートされていません。

ユーザーの処置: この表の UNICODE 表スペースを指定し、アクションを再実行してください。

ASN2162W サーバー *server* のターゲット表 *table_name* 中のユニーク制約または索引名 *name* の列が、サーバー *server* のソース表 *table_name* ではユニークにされていません。

説明: 1 つ以上の複製される列が、ターゲット表では固有になっていてもソース表では固有になっていない場合、この固有性に違反するソース列値の組み合わせをターゲットに複製できません。ソース表中のデータはターゲット表に適用できません。

ユーザーの処置: ソース表の列値の組み合わせが、ターゲット表のユニークなデータベース制約または索引すべてのユニーク性に違反することがない場合、アクションは必要ありません。違反することがある場合、生成されたスクリプトを実行しないでください。代わりに、ターゲット表のユニーク制約または索引をドロップすることを再考して、アクションを再実行してください。

ASN2163E Q サブスクリプションの作成または更新を行うスクリプトは生成されませんでした。ソース表は *table_name*。ターゲット表は *table_name*。理由コード:
reason_code。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 ターゲット表がなく、ソース表には新しいターゲット表で使用できるユニーク・キーがありません。
- 1 ターゲット表はありますが、ターゲット表にもソース表にもユニークなデータベース・プロパティがありません。

- 2 ターゲット表のための自動索引付けを派生できませんでした。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べてください。ソース表の定義、またはターゲット表の定義、あるいはその両方を変更します。アクションを再発行してください。

ASN2164E データ・タイプ *datatype* の列 *tablename.columnname* を Q サブスクリプションに含められません。理由コード:
reason_code。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 この列のデータ・タイプは Q サブスクリプション用にサポートされていません。
- 1 この表について、サブスクライブされる LOB 列の最大数を超えました。

ユーザーの処置: 理由コードを調べ、Q サブスクリプション中に別の列名を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2165E データベース *database_alias* は宣言されていません。

説明: まずデータベースを宣言しないと、データベースにアクセスできません。

ユーザーの処置: データベースにレプリケーション・アクションを試行する前に、データベースをアプリケーションに追加してください。

ASN2200E サーバー *server* の Q Apply スキーマ *apply_schema* または Q Capture スキーマ *capture_schema* をマルチディメンション・レプリケーションに使用できませんでした。

説明: マルチディメンション・レプリケーションに関係するサーバーごとに、Q Apply と Q Capture のコントロール表のスキーマは同じでなければなりません。

ユーザーの処置: Q Apply コントロール表と Q Capture コントロール表のスキーマ名が同じで、マルチディメンション・レプリケーションに使用している同一サーバー上にあることを確認してください。

ASN2201E Q Capture スキーマ *schema_name* の IBMQREP_SUBS 表で、SOURCE_NODE 列の値が相互に等しくありません。

説明: 指定されたスキーマの Q Capture 表に 1 つ以上の Q サブスクリプションがあり、SOURCE_NODE フ

ィールドに別個の値が含まれています。マルチディメンション・レプリケーションで、SOURCE_NODE 列中の行には同じ値が含まれていなければなりません。

ASNCLP によって生成されるレポート・ログには、失敗した Q サブスクリプションに関する詳細情報が含まれています。

ユーザーの処置: IBMQREP_SUBS 表中の Q サブスクリプションの SOURCE_NODE 値がすべて同じであることを確認してください。

ASN2202E 1 つ以上の報告されたエラーが訂正されなかったため、1 つ以上の Q サブスクリプション (SUBTYPE *subtype*) を作成できません。

説明: Q サブスクリプションが無効なので、マルチディメンション・レプリケーション用に作成できません。Q サブスクリプションごとに表示されるエラー・メッセージを参照してください。

ユーザーの処置: 無効な Q サブスクリプションを修正し、作成を再試行してください。

ASN2203E マルチディメンション・レプリケーション用のサーバー *server* 上の Q Capture スキーマ *capture_schema* の Q サブスクリプション名 *name* がユニークではありません。

説明: マルチディメンション・レプリケーション構成の設定時には、複数の Q サブスクリプションに同じ名前を指定しなければなりません。Q キャプチャー・プログラムのインスタンスごとに、Q サブスクリプション名はすべてユニークでなければなりません。Q サブスクリプションの名前はソースとターゲットの両方のサーバーに保管されるので、ソースとターゲットの両方のサーバーでこの名前がコード・ページと互換性があることを確認してください。

ユーザーの処置: 個々の Q サブスクリプション名がユニークであることを確認してください。

ASN2204E 表 *table_name* はサーバー *server* 上にはありますが、Q Apply および Q Capture スキーマ *schema* がこのサーバー上で見つかりませんでした。

説明: 指定されたスキーマを含む Q Capture と Q Apply のコントロール表が、複製しようとしている表と同じサーバー上にありませんでした。マルチディメンション・レプリケーションでは、Q Capture と Q Apply のコントロール表は、複製しようとしている表と同じサ

ーバー上になければならず、同じスキーマ名を使用していなければなりません。

ユーザーの処置: この表と、この表がマルチディメンション・レプリケーションに使用する Q Apply と Q Capture のコントロール表が、同じサーバー上にあることを確認してください。

ASN2205W Q Apply サーバー *server* 上の Q Apply スキーマ *apply_schema* の Q サブスクリプション *name* は無効で、一括操作の一部として作成されませんでした。

説明: 単一方向レプリケーション用に複数の Q サブスクリプションを同時に作成する際に、1 つ以上の Q サブスクリプションが無効な場合、それらの Q サブスクリプションは作成されません。しかし、それ以外の Q サブスクリプションは有効であれば作成されます。

ユーザーの処置: 無効な Q サブスクリプションを訂正してから作成してください。

ASN2206E サーバー *server* 上の Q Apply スキーマと Q Capture スキーマ *source_schema* からサーバー *server* 上の Q Apply スキーマと Q Capture スキーマ *target_schema* への、指定された接続情報が、それ自体を指しています。

説明: マルチディメンション・レプリケーションでは、Q Apply サーバー (ソース) の Q Apply スキーマと Q Capture スキーマを、Q Capture サーバー (ターゲット) としても使用することはできません。

ユーザーの処置: Q Apply サーバーの Q Apply と Q Capture の表のスキーマ名とサーバーが、Q Capture サーバーの Q Apply と Q Capture の表のスキーマ名とサーバーと違うことを確認してください。

ASN2207E レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* は、Q Capture サーバー *server* 上のソース Q Apply および Q Capture スキーマ *source_schema* から Q Apply サーバー *server* 上のターゲット Q Apply および Q Capture スキーマ *target_schema* への接続の設定が無効です。

説明: このレプリケーション・キュー・マップは、マルチディメンション・レプリケーションに使用する、指定されたスキーマと一致していません。

ユーザーの処置: レプリケーション・キュー・マップが、指定された Q Capture コントロール表から、指定

された Q Apply コントロール表にマップすることを確認してください。

ASN2208E SUBGROUP *subgroup* の接続情報が指定されませんでした。

説明: Q サブスクリプション・グループが CREATE、ALTER、または DELETE 操作を続行するには、その前に必要な情報がすべて定義されていなければなりません。

ユーザーの処置: ソースとターゲットの表の間のレプリケーション・キュー・マップがすべて指定されていることを確認してください。

ASN2209E SUBGROUP *subgroup* の接続情報が既存で、上書きできません。

説明: Q サブスクリプション・グループの接続情報を定義し終えると、その情報を変更できません。

ユーザーの処置: 複数回 Q サブスクリプション・グループの接続情報を定義しないでください。

ASN2210E SUBGROUP 名 *subgroup* の Q サブスクリプションが、Q Apply および Q Capture スキーマ *schema* を使用している Q Capture サーバー *server* 上にありません。

説明: Q サブスクリプション・グループ情報が見つかりません。

ユーザーの処置: Q Capture スキーマ上に SUBGROUP 名の Q サブスクリプションが少なくとも 1 つあることを確認してください。

ASN2211E SUBGROUP *subgroup* の、参照表 *table_name* の Q サブスクリプションが、Q Apply および Q Capture スキーマ *schema* を使用しているサーバー *server* 上にありません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: Q Capture スキーマ上に、指定された参照表をソースとして使用する SUBTYPE 'P' (対等) または 'B' (双方向) の Q サブスクリプションがあることを確認してください。

ASN2212E 内部の不整合が検出されました。理由コード: *reason_code*

説明: Q サブスクリプション・グループを使用する前に、このグループがデータベース上の永続情報と同期し

ていなければなりません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 Q サブスクリプション・グループは既存ですが、同期されなかったか、同期状態にありません。

1 ノード間の接続情報が欠落していました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

ASN2213E レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の指定でソースとターゲットの情報が重複しています。Q Apply サーバー *apply_server* 上の Q Apply スキーマ *apply_schema* および Q Capture サーバー *capture_server* 上の Q Capture スキーマ *capture_schema*。

説明: ソースとターゲットの情報が重複しているレプリケーション・キュー・マップが指定されました。レプリケーション・キュー・マップは、関係する接続の間でユニークでなければなりません。例えば、最初の接続は任意です。2 番目の接続は、一方の終端を最初の接続の一方の終端と共用しなければなりません。3 番目の接続は、一方の終端を前述の 2 つの接続に関係する 3 つのポイントのいずれかと共用しなければなりません。

ユーザーの処置: 指定されたレプリケーション・キュー・マップが、Q Apply サーバーと Q Capture サーバーでユニークであることを確認してください。

ASN2214E Q Apply サーバー *apply_server* 上の Q Apply スキーマ *apply_schema* と Q Capture サーバー *capture_server* 上の Q Capture スキーマ *capture_schema* の間のレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* が、接続情報中で以前に指定されたどのレプリケーション・キュー・マップとも接続していません。

説明: レプリケーション・キュー・マップは相互に接続していなければなりません。個々のレプリケーション・キュー・マップは、Q Capture または Q Apply スキーマを、以前に指定したいずれかのレプリケーション・キュー・マップと共用しなければなりません。

ユーザーの処置: 以前に指定したいずれかのレプリケーション・キュー・マップと Q Capture または Q Apply スキーマを共用しているレプリケーション・キュー・マップを指定してください。

ASN2215E 対等 Q サブスクリプションで許可された Q Apply スキーマと Q Capture スキーマのペアの最大数を超えました。許可されたペアの最大数は *max_limit* です。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: この構成中で使用されている、対等レプリケーション用の Q Apply スキーマと Q Capture スキーマのペアの数を減らしてください。

ASN2216E SUBTYPE *subtype* の Q サブスクリプションは、同じ SUBTYPE の他の Q サブスクリプションを含む Q サブスクリプション・グループにのみ割り当てることができます。

説明: SUBTYPE 'P' (対等) の Q サブスクリプションを双方向のレプリケーション構成に追加できず、SUBTYPE 'B' (双方向) の Q サブスクリプションを対等のレプリケーション構成に追加できません。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションを SUBGROUP に追加する際には、その Q サブスクリプションの SUBTYPE が SUBGROUP 中の他のサブスクリプションと同じであることを確認してください。

ASN2217E 個々の Q サブスクリプションの元となる Q Apply と Q Capture スキーマのペアが、指定されませんでした。2 つの Q サブスクリプションの属性を、双方向レプリケーション用に更新することはできません。

説明: 双方向レプリケーションの設定時に、2 つの Q サブスクリプションに別個の属性を指定できます。そのため、個々の Q サブスクリプションの元となる Q Apply と Q Capture スキーマを指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 双方向レプリケーションの設定時に属性を Q サブスクリプションに割り当てるには、Q サブスクリプションの元となる Q Apply スキーマと Q Capture スキーマのペアを指定してください。

ASN2218E 内部の不整合が検出されました。理由コード: *reason_code*。

説明: Q サブスクリプションが、UPDATE または DELETE 操作を実行するデータベース上の永続情報と同期していません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 SUBGROUP は既存ですが、同期されなかったか、同期状態にありません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

ASN2219E Q Apply および Q Capture スキーマのペア *schema* が、SUBTYPE *subtype* の Q サブスクリプションを含む SUBGROUP *subgroup* で許可された数を超えています。

説明: Q サブスクリプション・グループの構成では、Q Apply スキーマと Q Capture スキーマのペアの数が制限されます。双方向レプリケーションでは、SUBGROUP 当たり 2 つのみ Q Apply スキーマと Q Capture スキーマのペアが許可されます。

ユーザーの処置: Q Apply スキーマと Q Capture スキーマのペアの数が、この SUBTYPE で許可された最大値以下であることを確認してください。

ASN2220E Q Apply および Q Capture スキーマのペア *schema* が、SUBTYPE *subtype* の Q サブスクリプションを含む SUBGROUP *subgroup* にとっては足りません。必要なペアの最小数は *number* です。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: Q Apply スキーマと Q Capture スキーマのペアの数が、このタイプの Q サブスクリプションで許可された最小値と等しいことを確認してください。

ASN2221E 接続情報が、SUBTYPE *subtype* のこの SUBGROUP *subgroup* にとっては無効です。

説明: このタイプの Q サブスクリプションのトポロジーに関する制約があります。例えば、双方向および対等のレプリケーションには、完全に接続されたグラフ・トポロジーが必要です。このトポロジーではすべてのノードが相互に接続されます。

ユーザーの処置: この SUBGROUP および SUBTYPE に関する指定された構成情報を妥当性検査してください。欠落している接続を追加して、Q サブスクリプションを再作成してください。Q サブスクリプションのタイプごとの構成要件に関する詳細は、Q レプリケーションに関する製品資料を参照してください。

ASN2222E サーバー *server* 上の表 *table_name* 上の属性タイプ *object_type* の数 *number* が、サーバー *server* 上の表 *table_name* 上のオブジェクト・タイプ *object_type* の数 *number* と一致しません。

説明: 列、ユニーク索引、主キー、外部キー、ユニーク・キー、およびチェック制約は、マルチディメンション・レプリケーション構成に関係しているソース表とターゲット表で一致していなければなりません。

ユーザーの処置: ソース表かターゲット表の指定された属性の定義を変更を加えて属性の数を一致させるか、または別のソース表とターゲット表の組み合わせを選択してください。

ASN2223E サーバー *server* 上の表 *table_name* は、SUBTYPE *subtype* の Q サブスクリプションにすでに関係しています。

説明: 表は、SUBTYPE 'P' または 'B' の 1 つのサブスクリプションのみの一部でなければなりません。指定された表が、SUBTYPE 'P' または 'B' の既存の Q サブスクリプションにすでに関係しているため、Q サブスクリプションを作成できませんでした。したがって、マルチディメンション・レプリケーション構成中に Q サブスクリプションが作成されませんでした。

ユーザーの処置: 入力を確認して、SUBTYPE 'P' または 'B' の既存の Q サブスクリプションの一部でない別の表を選択してください。

ASN2224E サーバー *server* 上の表 *table_name* のタイプ *object_type* のオブジェクト *object* が、サーバー *server* 上の表 *table_name* 上のオブジェクトと一致していません。

説明: 属性は、マルチディメンション・レプリケーション構成に関係しているソース表とターゲット表で一致していなければなりません。

ユーザーの処置: ソース表かターゲット表の指定された属性の定義を変更を加えて他の表の属性と一致させるか、または別のソース表とターゲット表の組み合わせを選択してください。

ASN2225E ASNCLP: SUBGROUP の作成、更新、または削除を行うスクリプト中に複数の SET SUBGROUP ステートメントが見つかりました。

説明: スクリプト当たり 1 つの SUBGROUP のみ指定できます。ASNCLP プログラムは、1 つのセッション中で複数のサブグループを処理できません。

SUBGROUP の作成、更新、または削除は行われませんでした。

ユーザーの処置: スクリプト当たり 1 つの SET SUBGROUP のみ指定していることを確認し、スクリプトを再実行してください。

ASN2226E ASNCLP: Q サブスクリプションの SUBTYPE *subtype* は、Q サブスクリプション・グループ中の他の Q サブスクリプションの SUBTYPE と一致していません。

説明: サブスクリプション作成コマンド中で指定された情報が、このマルチディメンション・レプリケーション構成に属する他のサブスクリプション作成コマンドと矛盾しています。Q サブスクリプション・グループの Q サブスクリプション・タイプが複数検出されました。SUBGROUP は 1 つのみ指定でき、SUBGROUP 中の Q サブスクリプションの SUBTYPE は 1 つでなければなりません。Q サブスクリプションは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 特定の SUBGROUP の下で SUBTYPE 'P' または 'B' を指定していることを確認してください。1 つの Q サブスクリプション・グループ中で Q サブスクリプションのタイプを混用しないでください。サブスクリプション作成コマンドを再実行してください。

ASN2227E ASNCLP: スキーマ設定ステートメントの数と比較して、接続設定ステートメントの数が足りません。

説明: マルチディメンション・レプリケーション構成では、*n* ノードの場合は必ず $n*(n-1)$ の接続が必要です。例えば、3 つのノードがある場合は、 $3*(3-1) = 6$ の接続が必要です。

ユーザーの処置: 接続設定ステートメントとスキーマ設定ステートメントが規則に準拠していることを確認してください。

ASN2228E ASNCLP: SUBGROUP *subgroup* の Q サブスクリプションは、指定されたサーバー上にすでに存在しています。

説明: 追加の Q サブスクリプションを作成しようとして、SUBGROUP に対する参照情報を指定する代わりに、SUBGROUP 情報を指定しました。

ユーザーの処置: 再度 SUBGROUP を定義せずに、SUBGROUP に対する参照を指定してください。

ASN4003E *program_name* : *program_identifier* : ソース列 *source_col* のデータ・タイプまたは長さターゲット列 *target_col* のデータ・タイプまたは長さに互換性がありません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: コマンドを再実行して、タイプ、精度、および長さが等しい列を比較していることを確認してください。

ASN4004E *program_name* : *program_identifier* : プログラムが行 *line_number* に SQL エラーを検出しました。関数名は *function_name*。SQLCODE は *sqlcode*。SQLSTATE は *sqlstate*。

説明: プログラムが EXEC SQL ステートメントか CLI 呼び出しを実行した際に、負の SQLCODE が戻されました。このメッセージの後には、SQLCODE が検出されたときにプログラムによって実行されていたアクションに関する詳細情報を示す、第 2 のメッセージが発行される場合があります。

ユーザーの処置: この SQLCODE の説明と実行する必要がある修正アクションについては、ご使用のオペレーティング・システムの DB2 データベース・マネージャーのメッセージとコードの資料を参照してください。プログラムがこのメッセージの後には他のメッセージを発行した場合、そのメッセージの説明とユーザー応答を参照してください。行と関数の情報は、IBM ソフトウェア・サポート専用です。

ASN4005E *program_name* : *program_identifier* : プログラムが行 *line_number* に SQL 警告を検出しました。関数名は *function_name*。SQLCODE は *sqlcode*。SQLSTATE は *sqlstate*。

説明: プログラムが EXEC SQL ステートメントか CLI 呼び出しを実行した際に、警告 SQLCODE が戻されました。このメッセージの後には、SQLCODE が検出されたときにプログラムによって実行されていたアクションに関する詳細情報を示す、第 2 のメッセージが発行される場合があります。

ユーザーの処置: この SQLCODE の説明と実行する必要がある修正アクションについては、ご使用のオペレーティング・システムの DB2 データベース・マネージャーのメッセージとコードの資料を参照してください。プログラムがこのメッセージの後には他のメッセージを発行した場合、そのメッセージの説明とユーザー応答を参照

してください。行と関数の情報は、IBM ソフトウェア・サポート専用です。

ASN4006I *program_name* : *program_identifier* : ソース表とターゲット表の間に、*common_rows* 個の共通行、*source_rows* 個のソース表でユニークな行、および *target_rows* 個のターゲット表でユニークな行があります。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 相違表の詳細情報を確認してください。必要な場合、*asntrep* コマンドを実行して表を同期してください。

ASN4007E *program_name* : *program_identifier* : プログラムが誤ったサブスクリプション定義を見つけました。理由コード: *reason_code*。

説明: 可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

1. IBMSNAP_SUBS_COLS 表または IBMQREP_TRG_COLS 表の IS_KEY 列に指定されたキー欄が、ターゲット表にありません。
2. IBMSNAP_SUBS_COLS 表または IBMQREP_TRG_COLS 表に、ターゲット表の表列が見つかりません。

ユーザーの処置: 詳細については、アナライザーを実行して、サブスクリプション定義の修正に役立ててください。レプリケーション管理ツールを使用して、サブスクリプション定義を修正してください。 *asntdiff* または *asntrep* コマンドを再実行してください。

ASN4008E *program_name* : *program_identifier* : WHERE パラメーター *where_clause* が原因で DB2 PREPARE ステートメントが失敗したので、プログラムが停止しました。

説明: 指定された WHERE パラメーターが原因で SQL PREPARE ステートメントが失敗したので、プログラムが停止しました。このステートメントは、SQL レプリケーションに関する IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表または Q レプリケーションに関する IBMQREP_TARGETS 表から行を選択して、ターゲット表の名前を獲得するのに必要です。

ユーザーの処置: 対話式コマンド行プロセッサを使用して、適切なコントロール表 IBMSNAP_SUBS_MEMBR または IBMQREP_TARGETS に関する WHERE 文節をデバッグしてください。 WHERE パラメーター中に有効な WHERE 文節を使用して、コマンドを再実行してください。

ASN4009E *program_name* : *program_identifier* : ソース表から取り出された行が、動的照合の順序でありませんでした。プログラムが停止されました。

説明: ソース表カーソルによって取り出された行が順序どおりではありませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN4010I *program_name* : *program_identifier* : ソース表とターゲット表の間で見つかった違いの数: *number*。詳細は、データベース *source_DB*、相違表 *difference_table* を参照してください。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 相違表を確認して、必要な場合は `asntrep` コマンドを実行して違いを修正してください。

ASN4011I *program_name* : *program_identifier* : ソース表とターゲット表の間に違いが見つかりませんでした。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN4012I *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、このメッセージの後に示されるパラメーターのリストを使用して、表を比較しています。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN4013E *program_name* : *program_identifier* : **WHERE** 文節が無効なので、プログラムが停止されました。この文節は、*number_of_rows* 個のサブスクリプション・メンバーまたは **Q** サブスクリプションを戻しました。

説明: **WHERE** パラメーターに指定された文節が、`IBMSNAP_SUBS_MEMBR` または `IBMQREP_TARGETS` 表から行を戻さなかったか、複数の行を戻しました。

ユーザーの処置: 対話式コマンド行プロセッサを使用して、適切なコントロール表 `IBMSNAP_SUBS_MEMBR` または `IBMQREP_TARGETS` に関する **WHERE** 文節をデバッグしてください。 **WHERE** パラメーター中に有

効な **WHERE** 文節を使用して、コマンドを再実行してください。

ASN4014E *program_name* : *program_identifier* : ソース表の構造 *source_structure* はサポートされていません。

説明: 次のソース表の構造は、SQL レプリケーション用にサポートされていません。ユーザー、レプリカ、ユーザーのコピー、およびポイント・イン・タイム。ユーザー表のみ **Q** レプリケーション用にサポートされています。

ユーザーの処置: **WHERE** 文節に変更を加えて、サポートされているソース構造を選択し、`asntdiff` または `asntrep` コマンドを再実行してください。

ASN4015E *program_name* : *program_identifier* : ターゲット表の構造 *target_structure* はサポートされていません。

説明: 次のターゲット表の構造は、SQL レプリケーション用にサポートされていません。ユーザー、レプリカ、ユーザーのコピー、およびポイント・イン・タイム。ユーザー表のみ **Q** レプリケーション用にサポートされています。

ユーザーの処置: **WHERE** 文節に変更を加えて、サポートされているターゲット構造を選択し、`asntdiff` または `asntrep` コマンドを再実行してください。

ASN5101I **MONITOR** *monitor_qualifier*。レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは正常に開始されました。

説明: このメッセージは、レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが正常に開始された後に表示されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN5102I **MONITOR** *monitor_qualifier*。レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは、正常に初期化され、*number-of-alert-conditions* のアラート条件をモニター中です。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは正常に開始されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN5103I **MONITOR** *monitor_qualifier*。 レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは、正常に再初期化され、*number-of-alert-conditions* のアラート条件をモニター中です。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは正常に再初期化されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN5104W **MONITOR** *monitor_qualifier*。
number-of-alert-conditions のアラート条件は無視されました。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは、初期化または再初期化されました。一部の無効なアラート条件は、直前に発行されたメッセージで通知されたように、除外されている可能性があります。

ユーザーの処置: 除外されたアラート条件に関するメッセージについては、IBMSNAP_CAPTRACE 表をチェックしてください。

ASN5107I **MONITOR** *monitor_qualifier*。 レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは停止されました。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは終了されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN5108W **MONITOR** *monitor_qualifier*。
EMAIL_SERVER パラメーターが設定されていなかったため、**E-mail** 通知を送信できません。

説明: EMAIL_SERVER パラメーターの値を指定せずにレプリケーション・アラート・モニターを開始しました。IBMSNAP_MONPARMS 表の EMAIL_SERVER 列が空です。レプリケーション・アラート・モニターは IBMSNAP_ALERTS 表のアラートを保管します。

ユーザーの処置: アラートの E-mail 通知を受信したい場合には、EMAIL_SERVER の値を設定して、レプリケーション・アラート・モニターを再始動してください。

ASN5109W **MONITOR** *monitor_qualifier*。
EMAIL_SERVER パラメーターが設定されていなかったため、
MONITOR_ERRORS パラメーターが無視されました。

説明: レプリケーション・アラート・モニターを開始しましたが MONITOR_ERRORS パラメーターは EMAIL_SERVER パラメーターに値が指定されていないために無視されました。MONITOR_ERRORS パラメーターには EMAIL_SERVER パラメーターが必要です。レプリケーション・アラート・モニターは IBMSNAP_ALERTS 表のアラートを保管します。

ユーザーの処置: アラートが発生した時に E-mail による通知が必要な場合には、MONITOR_ERRORS パラメーターと EMAIL_SERVER パラメーターを設定してレプリケーション・アラート・モニターを再始動してください。

ASN5111I **MONITOR** *monitor_qualifier*。
number-of-rows 個の行が、表 *schema.table-name* から *timestamp* に枝取りされました。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが、IBMSNAP_ALERTS 表または IBMSNAP_MONTRACE 表から行を枝取りしました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN5117E **MONITOR** *monitor_qualifier*。 モニター・サーバー *monitor_server* で、モニター修飾子に対して有効なアラート条件がありません。

説明: レプリケーション・エラー・モニター・プログラムは、このモニター修飾子に対するアラート条件を検出できません。

ユーザーの処置: monitor_qual パラメーターで使用されているモニター修飾子が正しいことを確認し、アラート条件が使用可能になっているかチェックしてください。また、これ以前に発行されたメッセージをすべてチェックしてください。

ASN5118E **MONITOR** *monitor_qualifier*。 プログラムは、モニター・コントロール・サーバー *server_name* に接続できません。
SQLCODE は *sqlcode*、**SQLSTATE** は *sqlstate* です。

説明: モニター・プログラムは、モニター・コントロール・サーバーに接続しようとしたが失敗し、対応す

る SQLCODE が戻されました。

ユーザーの処置: この SQLCODE に関する対応アクションを読んで、エラーを訂正してください。

ASN5119E MONITOR *monitor_qualifier*。プログラムは、サーバー *server_name* に接続できません。SQLCODE は *sqlcode*、SQLSTATE は *sqlstate* です。

説明: SQL CONNECT ステートメントは、モニター・プログラムがモニター対象のキャプチャーまたはアプライ・コントロール・サーバーに接続しているときに失敗しました。

ユーザーの処置: この SQLCODE に関する対応アクションを読んで、エラーを訂正してください。

ASN5121E MONITOR *monitor_qualifier*。コンポーネント *component*、サーバー *server*、スキーマまたは修飾子 *schema_or_qualifier*、および条件名 *condition* のアラート条件に対して、連絡先が存在しません。

説明: 指定された連絡先は、このアラート条件では IBMSNAP_CONTACTS 表に存在していません。

ユーザーの処置: 連絡先情報を検証して、アラート条件を訂正してください。

ASN5122E MONITOR *monitor_qualifier*。連絡先グループ *group-name* は、存在しないか、空です。コンポーネントは *component*、サーバーは *server*、スキーマまたは修飾子は *schema_or_qualifier*、および条件名は *condition* です。

説明: アラート条件に指定された連絡先グループが、IBMSNAP_CONTACTGRP 表の中に対応する連絡先を持たないか、IBMSNAP_CONTACTGRP 表に存在していません。連絡先グループを空にすることはできません。

ユーザーの処置: このグループの連絡先を検証して、アラート条件を訂正してください。

ASN5123E MONITOR *monitor_qualifier*。プログラム *program_name* に関する表 *table_name* が見つかりませんでした。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。条件名は *condition_name*。

説明: モニター・プログラムが、プログラムで使用されているサーバーに関する条件のモニターの試行中に、表を見つけられませんでした。

ユーザーの処置: この表がサーバー上に存在することを

確認するか、アラート条件を訂正してください。

ASN5124E MONITOR *monitor_qualifier*。表 *table-name* を検出できません。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-control-server*。アプライ修飾子は *apply_qualifier*。サブスクリプション・セット名は *set-name*。条件名は *condition-name*。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが、アプライ・コントロール・サーバーで条件をモニターしているときに、表を検出できません。

ユーザーの処置: この表がアプライ・コントロール・サーバー上に存在することを確認するか、アラート条件を訂正してください。

ASN5125E MONITOR *monitor_qualifier*。アプライ修飾子 *apply_qualifier* またはサブスクリプション・セット *set-name* を検出できません。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが、アプライ・コントロール・サーバーで条件をモニターしているときに、アプライ修飾子またはサブスクリプション・セットを検出できません。

ユーザーの処置: このアプライ修飾子とサブスクリプション・セットがアプライ・コントロール・サーバー上に存在することを確認するか、アラート条件を訂正してください。

ASN5126E MONITOR *monitor_qualifier*。通知の送信中にエラーが発生しました。戻りコードは *rc* です。

説明: アラート通知の送信時に、ASNMAIL 出口がエラーを戻しました。このエラーの理由には、以下が含まれます。

- 1 SMPT プロトコルが失敗しました。E メール・サーバーのアドレスを管理者に確認してください。
- 2 SMPT ソケットが失敗しました。E メール・サーバーまたはクライアントの構成を検証してください。
- 3 E メール・アドレスが無効です。E メール・アドレスを検証してください。
- 4 ソフトウェア・エラー。
- 99 ASNMAIL 出口が見つかりません。

ユーザーの処置: 戻りコード 1 および 2 の場合は、ご使用の E メール・サーバーとクライアントの構成を検

証してください。戻りコード 3 の場合は、E メール・アドレスが正しいかチェックしてください。戻りコード 99 の場合は、ASNMAIL 出口が正しくインストールされているか確認してください。

ASN5127E MONITOR *monitor_qualifier*。無効な値 *value* が、表 *table-name* の列 *column-name* に存在します。

説明: このメッセージは、レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが、プログラムの初期化中に、無効な値を含む列を検出したことを示しています。

ユーザーの処置: 示された表の列定義の値を検証してください。

ASN5128W MONITOR *monitor_qualifier*。表 *table_name* から行が欠落しているの、アラート条件が処理されませんでした。条件名は *condition_name*。サーバーは *server_name*。スキーマまたは修飾子は *schema_or_qualifier*。

説明: アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは指定された表で必要な行を見つけられませんでした。アラート条件に関する行の要件は次のとおりです。

- CAPTURE_LASTCOMMIT アラート条件では、IBMSNAP_RESTART 表に 1 行以上必要です。
- CAPTURE_LATENCY アラート条件では、IBMSNAP_REGISTER 表中のグローバル行 (GLOBAL_RECORD = Y) を読み取る必要があります。
- APPLY_SUBSDELAY および APPLY_SUBSINACT アラート条件では、IBMSNAP_SUBS_SET 表にアプライ修飾子の行が 1 行以上指定されている必要があります。
- QCAPTURE_SUBSINACT アラート条件では、IBMQREP_SUBS 表にサブスクリプション名の行が 1 行必要です。
- QAPPLY_QDEPTH および QAPPLY_SPILLQDEPTH アラート条件では、IBMQREP_APPLYPARMS 表に 1 行必要です。

ユーザーの処置: レプリケーション・プログラム (キャプチャー、アプライ、Q Capture、または Q Apply) が適切な設定で実行していることを確認してください。アラート条件が正しく指定されていることも確認してください。スキーマ名かサーバー名が誤っている可能性があります。

ASN5129I MONITOR *monitor_qualifier*。サーバー *server-name* 上のレプリケーション・アラート・モニターは、E メール・アラートを報告しました。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが E メール・アラートを送信しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN5130I MONITOR *monitor_qualifier*。*capture_message*。キャプチャー・コントロール・サーバーは *capture-server*。スキーマは *schema*。モニター・コントロール・サーバーは *monitor-server*。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは、CAPTURE_ERRORS または CAPTURE_WARNINGS 条件の処理時に、IBMSNAP_CAPTRACE 表からキャプチャー・プログラム・メッセージを検索しました。

ユーザーの処置: そのキャプチャー・プログラム・メッセージを読んで、適切なアクションをとってください。また、キャプチャー・コントロール・サーバーからエラーまたは警告が出されているかチェックしてください。

ASN5131I MONITOR *monitor_qualifier*。*apply_message*。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-server*。アプライ修飾子は *apply-qualifier*。モニター・コントロール・サーバーは *monitor-server*。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは、APPLY_SUBSFAILING、APPLY_ERRORS、または APPLY_WARNINGS アラート条件の処理時に、IBMSNAP_APPLYTRAIL または IBMSNAP_APPLYTRACE 表からアプライ・プログラム・メッセージを検索しました。

ユーザーの処置: そのアプライ・プログラム・メッセージを読んで、適切なアクションをとってください。また、アプライ・コントロール・サーバーからエラーまたは警告が出されているかチェックしてください。

ASN5133I MONITOR *monitor_qualifier*。現在までの *number_of_minutes* 分の間に、以下のアラート *message_number* が *number_of_times* 回、発生しました。このアラートの通知は延期されます。

説明: このメッセージは、MAX_NOTIFICATIONS_MINUTES パラメーターに指定した分数 (デフォルトは 60 分) の間に、アラートが、

MAX_NOTIFICATIONS_PER_ALERT パラメーターに指定した回数 (デフォルトは 3 回) だけ発生した後に発行されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN5134I MONITOR *monitor_qualifier*。アラートが発行されました。

説明: このメッセージのテキストは、レプリケーション・アラート・モニター・プログラムによって送信された E メール・アラートのサブジェクト行に表示されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN5135W MONITOR *monitor_qualifier*。
lower_bound_time と *upper_bound_time* の間に、サーバー *server_name* で発生したアラート *number_of_alerts* が多過ぎます。スキーマまたは修飾子は *schema_qual_name*、条件名は *condition_name*。

説明: アラート・モニターが、モニター・サイクルで許可されているアラートの最大数 (1024) に達したか、それらのアラートにメモリーを割り振れません。アラート・モニターは通知を送信し、モニター・コントロール・サーバーを更新し、次の条件からサーバーに再接続します。指定されたアラート条件の一部のアラートが送信されず、モニター・コントロール・サーバーに挿入される可能性があります。

ユーザーの処置: サーバーでアラート条件を直接検証して、アラートが失われたかどうかをチェックしてください。

ASN5136W MONITOR *monitor_qualifier*。DAS コンポーネントの呼び出しでエラーが発生しました。戻りコードは、スキーマまたは修飾子 *schema_qual_name* および条件名 *condition_name* に関して、サーバー *server_name* の場合、*rc* です。

説明: 示されたサーバーで条件名を処理中に、DAS コンポーネントがエラーを戻しました。

ユーザーの処置: クライアントとリモート・サーバーの両方で DAS が正しく実行されていることを確認してください。

ASN5137E MONITOR *monitor_qualifier*。
WebSphere MQ API の呼び出し中に、エラーが発生しました。条件名は *condition_name*。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。キュー・マネージャーは *queue_manager*。キュー名は *queue_name*。MQI API は *mqi_api_name*。理由コード: *reason_code*。

説明: 失敗理由コードが WebSphere MQ API によって生成されました。次のような理由が考えられます。

- 指定されたサーバーで WebSphere MQ が停止しました。
- キュー・マネージャーが開始されていません。
- キュー名が存在しません。

モニター・プログラムがアクションを完了できませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたサーバーで WebSphere MQ が実行していることと、キュー・マネージャーやキュー名などの必要なオブジェクトが存在していることを確認してください。

ASN5150W MONITOR *monitor_qualifier*。プログラム *program_name* は実行されていません。サーバーは *server_name*、スキーマは *schema* です。

説明: アラート条件 STATUS は、このメッセージ中で指定されているプログラムが実行されていないことを示しています。

ユーザーの処置: 示されたサーバーで、プログラムの状況を確認してください。

ASN5151W MONITOR *monitor_qualifier*。キャプチャー・プログラムの最後のコミット以降の経過時間が、しきい値を超えています。キャプチャー・コントロール・サーバーは *capture-server*。スキーマは *schema*。最後のコミット時刻は *time*。しきい値は *seconds* 秒です。

説明: CAPTURE_LASTCOMMIT アラート条件で、現在のタイム・スタンプ値と IBMSNAP_RESTART 表の MAX_COMMIT_TIME 列の値の差が、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値によって指定された、このアラート条件のしきい値を超えていることが検出されました。

ユーザーの処置: キャプチャー・コントロール・サーバ

ーをチェックし、コミットの遅延の理由を判別してください。

ASN5152W MONITOR *monitor_qualifier*。現在のキャプチャー待ち時間がしきい値を超えています。キャプチャー・コントロール・サーバーは *capture_server*。スキーマは *schema*。キャプチャー待ち時間は *latency* 秒。しきい値は *threshold* 秒。

説明: CAPTURE_CLATENCY アラート条件で、IBMSNAP_RESTART 表の CURR_COMMIT_TIME 列値と MAX_COMMIT_TIME 列値の差が、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値によって指定された、このアラート条件のしきい値を超えていることが検出されました。

ユーザーの処置: キャプチャー・コントロール・サーバーをチェックし、キャプチャーの遅延の理由を判別してください。

ASN5153W MONITOR *monitor_qualifier*。待ち時間が、プログラム *program_name* のしきい値を超えました。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。待ち時間は *latency* 秒。しきい値は *threshold* 秒。

説明: 次のいずれかが発生していると考えられます。

- CAPTURE_HLATENCY アラート条件の処理中に、IBMSNAP_CAPMON 表の MONITOR_TIME 列値と SYNCTIME 列値の差が、しきい値を超えていることが検出されました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値で指定されています。
- QCAPTURE_LATENCY アラート条件の処理中に、IBMQREP_CAPMON 表の MONITOR_TIME 列値と CURRENT_LOG_TIME 列値の差が、しきい値を超えていることが検出されました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値で指定されています。

ユーザーの処置: サーバーをチェックし、待ち時間のしきい値を超えている理由を判別してください。

ASN5154W MONITOR *monitor_qualifier*。プログラム *program_name* によって使用されたメモリー量が、しきい値を超えています。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。使用されたメモリー量は *memory* バイト。しきい値は *threshold* MB。

説明: CAPTURE_MEMORY または QCAPTURE_MEMORY アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMSNAP_CAPMON 表か IBMQREP_CAPMON 表中の CURRENT_MEMORY 列の値が、しきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列で指定されています。

ユーザーの処置: サーバーをチェックし、メモリー使用量が増え過ぎた理由を判別してください。必要に応じて、プログラムのメモリー制限パラメーターを変更してください。

ASN5155W MONITOR *monitor_qualifier*。Q Apply プログラムによって使用されたメモリー量が、しきい値を超えています。Q Apply・サーバーは *qapply_server*。Q Apply・スキーマは *schema*。受信キューは *queue_name*。使用されたメモリー量は *memory* バイト。しきい値は *threshold* MB。

説明: QAPPLY_MEMORY アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMQREP_APPMON 表の CURRENT_MEMORY 列の値が、しきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列で指定されています。

ユーザーの処置: Q Apply サーバーをチェックし、メモリー使用量が増え過ぎた理由を判別してください。必要に応じて、Q Apply プログラムのメモリー制限パラメーターを変更してください。

ASN5156W MONITOR *monitor_qualifier*。トランザクションのサイズが、プログラム *program_name* のしきい値を超えました。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。トランザクションのサイズは *transaction_size* バイト。しきい値は *threshold* MB。

説明: CAPTURE_TRANSIZE または QCAPTURE_TRANSIZE アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMSNAP_CAPMON 表か IBMQREP_CAPMON 表中の列の値が、しきい値を超え

ていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列で指定されています。

ユーザーの処置: サーバーをチェックし、トランザクションのサイズが増え過ぎた理由を判別してください。

ASN5157W MONITOR *monitor_qualifier*。 **Q** サブスクリプション *subscription_name* は、非アクティブです。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。状態情報は *stateinfo*。

説明: QCAPTURE_SUBSINACT アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMQREP_SUBS 表中に非アクティブな Q サブスクリプションを検出しました。

ユーザーの処置: サーバー上の IBMQREP_SUBS 表をチェックし、Q サブスクリプションが INACTIVE 状態になった理由を判別してください。

ASN5160W MONITOR *monitor_qualifier*。アプライ・プログラムは実行されていません。アプライ・コントロール・サーバーは *apply_server*、アプライ修飾子は *apply_qualifier*。

説明: APPLY_STATUS アラート条件で、アプライ・プログラムが実行されていないことが検出されました。

ユーザーの処置: 示されたアプライ・コントロール・サーバーで、アプライ・プログラムの状況を確認してください。

ASN5161W MONITOR *monitor_qualifier*。サブスクリプション・セットが非アクティブで、エラー状態にあります。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-control-server*。アプライ修飾子は *apply_qualifier*。サブスクリプション・セットの名前は *set-name*。処理順序値は *wof*。

説明: APPLY_SUBSINACT アラート条件で、サブスクリプション・セットが非アクティブで、状況がゼロ (0) 以外であることが検出されました。

ユーザーの処置: サブスクリプション・セットがアクティブでなければならない場合、アプライ・コントロール・サーバーでこのサブスクリプション・セットをチェックしてください。

ASN5162W MONITOR *monitor_qualifier*。フル・リフレッシュが発生しました。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-control-server*。アプライ修飾子は *apply_qualifier*。サブスクリプション・セットの名前は *set-name*。処理順序値は *wof*。

説明: APPLY_FULLREFRESH アラート条件で、直前のモニター・サイクル中にターゲット表がリフレッシュされたことが検出されました。

ユーザーの処置: フル・リフレッシュがエラーの場合、ここに示したターゲット表がフル・リフレッシュされた原因を検証してください。

ASN5163W MONITOR *monitor_qualifier*。サブスクリプションが、しきい値を超えるまで遅延されました。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-control-server*。アプライ修飾子は *apply_qualifier*。サブスクリプション・セットの名前は *set-name*。処理順序値は *wof*。遅延時間は *time*、しきい値は *threshold* 秒です。

説明: APPLY_SUBSDELAYED アラート条件で、「CURRENT_TIMESTAMP から LASTRUN を引いた値がしきい値より大きい」という条件に適合するサブスクリプション・セットが検出されました。

ユーザーの処置: これ以前のメッセージをチェックして、このサブスクリプション・セットにエラーがあるか確かめて、アプライ・プログラムが実行されているか確認してください。

ASN5164W MONITOR *monitor_qualifier*。サブスクリプションの中で変更された行が、しきい値を超えています。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-control-server*。アプライ修飾子は *apply_qualifier*。サブスクリプション・セットの名前は *set-name*。処理順序値は *wof*。変更された行数は *rows*、しきい値は *threshold* 行です。

説明: APPLY_REWORKED アラート条件で、IBMSNAP_APPLYTRAIL 表の SET_REWORKED 列値が、示されたしきい値を超えているサブスクリプション・セットが検出されました。

ユーザーの処置: この行数が変更された理由を確認してください。

ASN5165W MONITOR *monitor_qualifier*。サブスクリプション・セットでトランザクションが拒否されました。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-control-server*。アプライ修飾子は *apply-qualifier*。サブスクリプション・セットの名前は *set-name*。処理順序値は *wof*。拒否されたトランザクションの数は *transactions*。

説明: APPLY_TRANSREJECT アラート条件で、このサブスクリプション・セットに関して拒否されたトランザクションが検出されました。

ユーザーの処置: これらのトランザクションが拒否された理由を確認してください。

ASN5166W MONITOR *monitor_qualifier*。手動フル・リフレッシュが必要です。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-control-server*。アプライ修飾子は *apply-qualifier*。サブスクリプション・セットの名前は *set-name*。

説明: 示されたサブスクリプション・セットに対してフル・リフレッシュを実行する必要があります。

ユーザーの処置: フル・リフレッシュが必要な理由を確認してください。

ASN5167W MONITOR *monitor_qualifier*。エンドツーエンドの待ち時間がしきい値を超えています。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-control-server*。アプライ修飾子は *apply-qualifier*。サブスクリプション・セットの名前は *set-name*、エンドツーエンドの待ち時間は *latency* 秒、しきい値は *threshold* 秒です。

説明: APPLY_LATENCY アラート条件で、このサブスクリプション・セットのエンドツーエンドの待ち時間が、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値によって指定された、このアラート条件のしきい値を超えていることが検出されました。

ユーザーの処置: アプライ・コントロール・サーバーをチェックして、エンドツーエンドの待ち時間の値が大きくなり過ぎた理由を判別してください。

ASN5168W MONITOR *apply_control_server*。サブスクリプション・セットの処理は、エラー終了しました。Apply コントロール・サーバーは *control_server_name*、Apply 修飾子は *apply_qualifier* です。

説明: レプリケーション・アラート・モニターは、IBMSNAP_APPLYTRAIL 表に以下の情報を持つ失敗したサブスクリプション・セットを検出しました。

- STATUS 列が 0 でも 2 でもない
- APPERRM 列が NULL

ユーザーの処置: アプライ・コントロール・サーバーにある IBMSNAP_APPLYTRAIL 表のデータを調べます。指定されたアプライ修飾子用の行に問題の原因を示す情報が含まれていない場合、IBM ソフトウェア・サポートと連絡を取ってください。

ASN5171W MONITOR *monitor_qualifier*。Q Apply 待ち時間がしきい値を超えています。サーバーは *server_name*。The Q Apply スキーマは *schema*。待ち時間は *latency* ミリ秒。しきい値は *threshold* 秒。

説明: QAPPLY_LATENCY アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMQREP_APPLYMON 表の APPLY_LATENCY 列の値が、しきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列で指定されています。

ユーザーの処置: Q Apply サーバーをチェックし、待ち時間のしきい値を超えている理由を判別してください。

ASN5172W MONITOR *monitor_qualifier*。エンドツーエンドの待ち時間が、Q Apply プログラムのしきい値を超えました。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。エンドツーエンドの待ち時間は *eelatency* ミリ秒。しきい値は *threshold* 秒。

説明: QAPPLY_EELATENCY アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMQREP_APPLYMON 表の END2END_LATENCY 列の値が、このアラート条件のしきい値を超えていることを検出しました。このしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値で指定されています。

ユーザーの処置: Q Apply サーバーをチェックし、エンドツーエンドの待ち時間がしきい値を超えている理由を判別してください。

ASN5173W MONITOR *monitor_qualifier*. **Q Apply** プログラムに関する例外が見つかりました。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。受信キューは *queue_name*。理由コードは *reason_code*。SQLCODE は *sqlcode*。SQLSTATE は *sqlstate*。SQLERRMC は *sql_tokens*。

説明: QAPPLY_EXCEPTIONS アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMQREP_EXCEPTIONS 表中に行を検出しました。SQLCODE か SQLSTATE に、例外の理由が説明されています。

ユーザーの処置: サーバー上の QAPPLY_EXCEPTIONS 表をチェックし、例外の理由を判別してください。

ASN5174W MONITOR *monitor_qualifier*. **Q サブスクリプション** *subscription_name* および受信キュー *receive_queue_name* の予備キュー *spill_queue_name* の項目数が、しきい値を超えています。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。現行キュー項目数は *current_depth%*。しきい値は *threshold%*。

説明: QAPPLY_SPILLQDEPTH アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、受信キューに関連した予備キューの項目数がしきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列にあります。

ユーザーの処置: 追加情報について、IBMQREP_APPLYTRACE 表をチェックしてください。さらに、使用可能な場合は IBMQREP_SPILLQS 表中のデータをチェックしてください。

ASN5175W MONITOR *monitor_qualifier*. キュー *queue_name* の項目数が、プログラム *program_name* のしきい値を超えました。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。現行キュー項目数は *current_depth%*。しきい値は *threshold%*。

説明: QAPPLY_QDEPTH アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、キューの項目数がしきい値を超えていることを検出しました。このパーセント単位で指定されたしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列にあります。現行の項目数をキューの最大項目数の属性で除算してから、100 を乗算すると、この値が求められます。

ユーザーの処置: プログラムが予期したとおりにこのキ

ューに関するトランザクションを処理していることを確認してください。また、処理中のトランザクションのボリュームと比較してキューの大きさが十分であることも確認してください。

ASN5190E MONITOR *monitor_qualifier*. ストアド・プロシージャ *stored_proc_name* の実行エラーが発生しました。条件名は *condition_name*。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。理由コードは *reason_code*。SQLCODE は *sqlcode*。SQLSTATE は *sqlstate*。SQLERRMC は *sql_tokens*。

説明: モニター・プログラムは、指定されたストアド・プロシージャを実行できませんでした。SQLCODE と SQLSTATE に理由が説明されています。

ユーザーの処置: SQLCODE と SQLSTATE をチェックしてください。サーバーで、ストアド・プロシージャの定義が正しく指定されていることを確認してください。

ASN5191W MONITOR *monitor_qualifier*. *message*

説明: このメッセージは、ユーザー定義のアラート条件によって警告メッセージが発行されたときに表示されません。

ユーザーの処置: 発行されたメッセージを読んで、適切なアクションをとってください。

ASN5192E MONITOR *monitor_qualifier*. *message*

説明: このメッセージは、ユーザー定義のアラート条件によってエラー・メッセージが発行されたときに表示されます。

ユーザーの処置: 発行されたメッセージを読んで、適切なアクションをとってください。

ASN5193E MONITOR *monitor_qualifier*. サーバー *server_name* でストアド・プロシージャ *stored_proc_name* が見つかりませんでした。条件名は *condition_name*。スキーマは *schema*。

説明: アラート条件の処理中に、モニター・プログラムで必要なストアド・プロシージャがサーバーにありませんでした。

ユーザーの処置: 正しいサーバーで、メッセージ中に指定されたストアド・プロシージャ名に関する CREATE PROCEDURE ステートメントが発行されたことを確認してください。

ASN5200E ASNSCRT: レプリケーション処理タイプは必須パラメーターなので、asnsCRT コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: asnsCRT コマンドが、指定されたレプリケーション処理タイプを指定せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: レプリケーション処理タイプとして -C、-A、または -M を指定してコマンドを再入力してください。

ASN5201E ASNSCRT: データベース・インスタンスは必須パラメーターなので、asnsCRT コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: asnsCRT コマンドが、指定されたデータベース・インスタンスを使用せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: データベース・インスタンス名を指定して、コマンドを再入力してください。

ASN5202E ASNSCRT: レプリケーション処理パスは必須パラメーターなので、asnsCRT コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: asnsCRT コマンドが、指定されたレプリケーション処理パスを指定せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: asncap、asnapply、または asnmon コマンドへのパスを指定して、コマンドを再入力してください。

ASN5203E ASNSCRT: キャプチャー・サーバーは必須パラメーターなので、asnsCRT コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: asnsCRT コマンドが、指定されたキャプチャー・コントロール・サーバーを指定せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: キャプチャー・コントロール・サーバー名を指定して、コマンドを再入力してください。

ASN5204E ASNSCRT: アプライ・コントロール・サーバーは必須パラメーターなので、この asnsCRT コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: asnsCRT コマンドが、指定されたアプライ・コントロール・サーバーを指定せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: アプライ・コントロール・サーバー名

を指定して、コマンドを再入力してください。

ASN5205E ASNSCRT: アプライ修飾子は必須パラメーターなので、この asnsCRT コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: asnsCRT コマンドが、指定されたアプライ修飾子を指定せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: アプライ修飾子を指定して、コマンドを再入力してください。

ASN5206E ASNSCRT: モニター・コントロール・サーバーは必須パラメーターなので、この asnsCRT コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: asnsCRT コマンドが、指定されたモニター・コントロール・サーバーを指定せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: モニター・コントロール・サーバー名を指定して、コマンドを再入力してください。

ASN5207E ASNSCRT: モニター修飾子は必須パラメーターなので、この asnsCRT コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: asnsCRT コマンドが、指定されたモニター修飾子を指定せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: モニター修飾子を指定して、コマンドを再入力してください。

ASN5208I ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、正常に作成されました。

説明: 示されたサービスが、asnsCRT コマンドによって正常に作成されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN5209I ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、正常に開始されました。

説明: 示されたサービスが、asnsCRT コマンドによって正常に開始されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN5210E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、表示名がサービス・コントロール・マネージャー・データベースの中にすでに存在している (サービス名、または他の表示名として) ため、作成されませんでした。

説明: 表示名が、他のサービス名または表示名としてサービス・コントロール・マネージャー・データベースにすでに存在しているため、asnsCRT コマンドによって、示されたサービスを作成できません。

ユーザーの処置: サービス・コントロール・マネージャー・データベースの中から、重複したサービス名または表示名を持つサービスを除去してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5211E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、指定されたサービス名が無効なために、作成されませんでした。

説明: システムの API が、サービス名が誤りであることを示すエラー・コードを戻したため、asnsCRT コマンドによって、示されたサービスを作成できません。示されたサービスのインスタンス名、データベース名、またはスキーマ名に特殊文字が含まれている可能性があります。サービス名に特殊文字は使用できません。

ユーザーの処置: 可能であれば、インスタンス名、データベース名、またはスキーマ名を変更してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5212E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、指定されたサービス名がすでに存在するために、作成されませんでした。

説明: 同じサービス名を持つ別のサービスが、サービス・コントロール・マネージャーの中にすでに存在するため、asnsCRT コマンドによって、示されたサービスを作成できません。

ユーザーの処置: 同じサービス名を持つ古いサービスを除去してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5213E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、サービスのバイナリー・ファイルを検出できなかったために、開始されませんでした。

説明: PATH 環境変数によって指定されたシステム・パスでは対応する asncap、asnapply、または asnmon コマンドを呼び出せなかったために、示されたサービスを asnsCRT コマンドによって開始できません。完全修飾

パスが指定されている場合、asnsCRT コマンドでは、そのパスで asncap、asnapply または asnmon コマンドを検出できません。

ユーザーの処置: 指定されたパスが正しいことを確認してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5214E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、そのサービスのインスタンスがすでに実行されているために開始されませんでした。

説明: 示されたサービスはすでに実行されているために、asnsCRT コマンドによってこのサービスを開始できません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN5215E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、そのサービスが、存在しない、または削除済みとしてマークされた DB2 インスタンス・サービスに依存しているため、開始されませんでした。

説明: 対応する DB2 インスタンス・サービスが存在しない、または削除されたために、asnsCRT コマンドによって、示されたサービスを開始できません。

ユーザーの処置: 対応する DB2 インスタンス・サービスがサービス・コントロール・マネージャーの中に存在することを確認してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5216E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、このサービスが、開始できなかった別のサービスに依存しているため、開始されませんでした。

説明: 対応する DB2 インスタンス・サービスが開始できなかったために、asnsCRT コマンドによって、示されたサービスを開始できません。

ユーザーの処置: 対応する DB2 インスタンス・サービスがサービス・コントロール・マネージャーで開始されたことを確認してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5217E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、そのサービスが使用不可のため、開始されませんでした。

説明: 示されたサービスはサービス・コントロール・マネージャーで使用不可になっていたため、asnsCRT コマン

ドによってこのサービスを開始できません。

ユーザーの処置: サービスの始動タイプがサービス・コントロール・マネージャーで自動または手動のどちらに設定されているか確認してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5218E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、そのサービスがログオンできないため、開始されませんでした。
このエラーは、正しい「サービスとしてログオン」アクセス権限を持たないアカウントからサービスが開始された場合に発生します。

説明: 対応する DB2 インスタンス・サービスがログオンできないために、asnsCRT コマンドによって、示されたサービスを開始できません。

ユーザーの処置: サービス・コントロール・マネージャーの中から、示されたサービスを見つけてください。指定されたアカウント名とパスワードが正しいことを確認してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5219E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は削除済みとしてマークされているため、作成されませんでした。

説明: 指定されたサービスは削除されているため、asnsCRT コマンドはそのサービスを作成できません。

ユーザーの処置: サービス・コントロール・マネージャーのウィンドウを閉じてください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5220E ASNSDROP: サービス名は必須パラメーターなので、asnsdrop コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: asnsdrop コマンドが、指定されたサービス名を使用せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: サービス名を指定してこのコマンドを再入力してください。

ASN5221I ASNSDROP: サービス *service_name* は、正常に除去されました。

説明: asnsdrop コマンドが、示されたサービス名を指定して呼び出されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN5222E ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、要求されたアクセスが拒否されたために、除去できません。

説明: ユーザーには、示されたサービス名を除去するための適切な許可がないため、asnsdrop コマンドによってこのサービス名を除去できません。

ユーザーの処置: 現行ユーザーが、対応する DB2 インスタンスにログオンするための許可を持っていることを確認してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5223E ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、指定されたサービス名が無効なために、除去できません。

説明: 示されたサービス名に正しくない特殊文字が含まれているため、asnsdrop コマンドによってこのサービス名を除去できません。

ユーザーの処置: サービス・コントロール・マネージャーの中から、示されたサービスを見つけてください。サービス名が有効であることを確認して、コマンドを再入力してください。

ASN5224E ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、指定されたサービスが存在しないために、除去できません。

説明: 指定されたサービス名がサービス・コントロール・マネージャーの中に存在しないため、asnsdrop コマンドによってこのサービス名を除去できません。

ユーザーの処置: サービス・コントロール・マネージャーの中から、示されたサービスを見つけてください。サービス名が正しいことを確認して、コマンドを再入力してください。

ASN5225E ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、他の実行中のサービスがこのサービスに從属しているため、停止できません。 *service_name* は除去されません。

説明: ここに示されたサービスに從属している他のサービスが、現在実行中であるため、asnsdrop コマンドによってこのサービスを除去できません。

ユーザーの処置: サービス・コントロール・マネージャーの中から、ここに示されたサービスに從属しているすべてのサービスを停止してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5226E ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、システムがシャットダウンしているために、除去できません。

説明: オペレーティング・システムがシャットダウンしているため、`asnsdrop` コマンドによって、示されたサービスを除去できません。

ユーザーの処置: システムの再始動後、コマンドを再入力してください。

ASN5227I ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、すでに削除済みとしてマークされているために、除去できません。

説明: 示されたサービスはすでに削除されているために、`asnsdrop` コマンドによってこのサービスを除去できません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN5228E pgmname : このコマンドは、レプリケーション・サービス *service_name* を *command_action* できません。これは、システム呼び出し *API_func_name* から、予期しないエラー・コード *error_code* が戻されたためです。

説明: `asnsrt` コマンドと `asndrop` コマンドが、サービスを処理するためにシステム呼び出しを行っています。示されたシステム呼び出しから予期しないエラー・コードが戻されました。このエラー・コードは、指定されたコマンドが要求されたアクションを完了できないことを示しています。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。このエラー・コードは、単に一時的なシステムの状態を示している可能性があります。このエラー・コードについては、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

ASN5229E ASNSCRT: アカウントは必須パラメーターなので、`asnsrt` コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: `asnsrt` コマンドが、対応する DB2 インスタンスの指定アカウント名を使用せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: 対応する DB2 インスタンスのアカウント名を指定して、コマンドを再入力してください。

ASN5230E ASNSCRT: パスワードは必須パラメーターなので、`asnsrt` コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: `asnsrt` コマンドが、対応する DB2 インスタンスの指定パスワードを使用せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: 対応する DB2 インスタンスのパスワードを指定して、コマンドを再入力してください。

ASN5231E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、アカウント・パラメーターに指定されたアカウント名が存在しないため、作成されませんでした。

説明: `asnsrt` コマンドが、対応する DB2 インスタンスに対して不明のアカウント名を指定して、呼び出されました。

ユーザーの処置: 指定されたアカウント名とパスワードが正しいことを確認してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5232E ASNSCRT: 必須パラメーター *path* が指定されませんでした。

説明: レプリケーション・コマンドをサービスとして開始するときは、そのコマンドに、コマンド・ユニークなパス・キーワードによって指定されたパスが含まれていなければなりません (`asncap` の場合は `capture_path`、`asnapply` の場合は `apply_path`、`asnmon` の場合は `monitor_path`)。パス・キーワードを指定すると、エラーが発生しなければそのサービスは登録されます。

パス・キーワードを指定しない場合、`asnsrt` コマンドによって、DB2 グローバル・レジストリー・プロファイル変数 `DB2PATH` が検索されます。この変数に非 NULL 値が含まれている場合、`asnsrt` コマンドで、`DB2PATH` の値を使用して、コマンドに適切なパス・キーワードが追加されます。この変数が設定されていない場合、`asnsrt` コマンドによってサービスを登録できません。

ユーザーの処置: 適切なパス・キーワードを指定した後、または DB2 グローバル・レジストリー・プロファイル変数 `DB2PATH` を定義した後に、コマンドを再入力してください。

ASN5233E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、指定されたデータベース・インスタンス *database_instance* が存在しないため、作成されませんでした。

説明: 指定されたデータベース・インスタンスがシステムに存在しないため、`asnsrt` コマンドは、指定された

サービスを作成できません。

ユーザーの処置: 指定したデータベース・インスタンスがシステムに存在することを確認してください。その後で、コマンドを再発行してください。

ASN5234E ASNSCRT: capture_server パラメーターが指定されていません。

説明: Q Capture サーバー名を指定せずに asnsrct コマンドが入力されました。capture_server パラメーターは必須です。

ユーザーの処置: capture_server パラメーターを Q Capture サーバー名に設定して、もう一度 asnsrct コマンドを入力してください。

ASN5235E ASNSCRT: apply_server パラメーターが指定されていません。

説明: Q Apply サーバー名を指定せずに asnsrct コマンドが入力されました。apply_server パラメーターは必須です。

ユーザーの処置: apply_server パラメーターを Q Apply サーバー名に設定して、もう一度 asnsrct コマンドを入力してください。

ASN7000I *program_name : program_identifier : number* サブスクリプションがアクティブです。number サブスクリプションは非アクティブです。新しい number サブスクリプションは、正常に活動化されました。新しい number サブスクリプションは、活動化できず非アクティブになります。

説明: このメッセージは、さまざまな状態の XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションの数を記述しています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7001I *program_name : program_identifier : command_name* コマンドを受け取りました。

説明: 受け取ったコマンドは非同期で処理された可能性があります。プログラムは、コマンドの処理時にメッセージを発行し、そのメッセージをトレース表 (IBMQREP_CAPTRACE) に保管します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7002E *program_name : program_identifier : 送信キュー queue_name* が満杯です。このエラーは、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプション *name* (公開またはレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の処理中に発生しました。

説明: メッセージ数が、送信キューの MAXDEPTH 属性に設定した数に達しました。ERROR_ACTION 値は、このエラーによるプログラムの動作を判別します。Q キャプチャー・プログラムの値は IBMQREP_SENDQUEUEUES 表に保管されます。

ユーザーの処置: キューをクリアしないでください。変更を含むすべてのメッセージが除去されてしまいます。

Q Apply またはサブスクライブ・アプリケーションが実行されていることを確認してください。

必要であれば、送信キューの MAXDEPTH 属性の値を増やしてください。値を増やしたら、必要な該当アクションすべてを実行してください。

- このエラーで Q キャプチャー・プログラムが終了した場合、Q キャプチャー・プログラムをウォーム・スタートしてください。
- XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションが非活動化された場合、それらを活動化してください。

ASN7004E *program_name : program_identifier : XML* パブリケーションまたは Q サブスクリプション *name* でサブスクライブされたソース列 *source_column* が、ソース表 *table_name* に存在しません。

説明: IBMQREP_SRC_COLS 表に示されている列が、ソース表に存在しません。このエラーは、以下のいずれかの問題により発生したと思われる:

- XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションで列名が間違っ指定された。
- XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションが作成されてから、ソース表が変更された。
- XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションで余分の列が指定された。

従って、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを活動化することはできません。

ユーザーの処置: XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションに列名が正しく指定されていることを確認してください。

XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションが正しくない場合 (たとえば、ソース表で使用できる列

よりも多くの列を含むなど)、レプリケーション管理ツールを使用して、以下のステップを実行してください。

1. XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションをドロップして再作成します。
2. XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを活性化します。

ASN7005E *program_name : program_identifier : XML* パブリケーションまたは Q サブスクリプション *name* は、送信キュー *queue_name*、公開またはレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* に指定した **MAX_MESSAGE_SIZE** が小さすぎるため非活性化されました。 *number* バイトが必要です。

説明: メッセージの最大サイズが小さすぎて、トランザクション内の 1 つの行を、この XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションに適応させることができません。

ユーザーの処置: この送信キューの IBMQREP_SENDQUEUES 表にある

MAX_MESSAGE_SIZE 値を増やしてください。必要に応じて **MAXMSGL** 属性を増やしてください。

- リモート送信キューの場合、伝送キューの **MAXMSGL** 属性を増やしてください。
- ローカル送信キューの場合、**MAXMSGL** 属性を増やしてください。

MAX_MESSAGE_SIZE 列の値も、WebSphere MQ キュー・マネージャーの **MAXMSGL** 属性を超過してはなりません。

XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを再始動してください。

ASN7006E *program_name : program_identifier : XML* パブリケーションまたは Q サブスクリプション *name* が、エラーのために非活性化されました。

説明: 指定した XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションは、以前のメッセージで示されたエラーのために非活性化されました。

ユーザーの処置: Q Capture 診断ログか

IBMQREP_CAPTRACE 表を調べ、このメッセージの前のメッセージを探してください。適切なアクションを実行して、問題を訂正してください (以前のメッセージのユーザー応答の指示に従ってください)。XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを活性化します。

ASN7007E *program_name : program_identifier : Q* キャプチャー・プログラムは、再始動情報のないデータベース・パーティションを検出したため、ウォーム・スタートできません。このデータベース・パーティションは *node_id,...,node_id* です。

説明: このエラー・メッセージは、以下の理由により発生したと思われます:

- 1 つ以上の新しいデータベース・パーティションがデータベースに追加された。Q キャプチャー・プログラムは、**add_partition** パラメーターを 'N' に設定した状態でウォーム・スタートしようとしたため、新しいパーティションのログ・レコードを処理できませんでした。このパラメーターは、Q キャプチャー・プログラムが、最後に始動されてから追加されたパーティションのログ・ファイルの読み取りを開始するかどうかを決定します。デフォルトでは、このパラメーターは 'N' に設定されています。 **add_partition** パラメーターは、Q キャプチャー・プログラムがログ・ファイルを読み取る前に、'Y' に設定しておく必要があります。
- 再始動 Q の再始動メッセージが破壊された。

ユーザーの処置: 新しいデータベース・パーティションが追加された場合、**add_partition='Y'** オプションを使用して Q キャプチャー・プログラムをウォーム・スタートしてください。

再始動キューの再始動メッセージが破壊されている場合、Q キャプチャー・プログラムをコールド・スタートしてください。

ASN7008I *program_name : program_identifier :* プログラムは、正常に再初期化されました。 *number* サブスクリプションはアクティブです。 *number* サブスクリプションは非アクティブです。新しい *number* サブスクリプションは、正常に活性化されました。新しい *number* サブスクリプションは、活性化できず非アクティブになります。

説明: REINIT コマンドは正常に処理されました。その結果、Q キャプチャー・プログラムは、XML パブリケーション、Q サブスクリプション、およびキュー・マップの変更された属性を認識します。新しい XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションはすべて、自動的に活性化されました。さまざまな状態の XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションの数については、メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7010I *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、ソース表 *table_name* の XML パブリケーションまたは Q サブスクリプション *name* (送信キュー *queue_name*、公開またはレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) を正常に活動化しました。

説明: Q キャプチャー・プログラムは、アクティブな XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションの変更を複製しています。

Q キャプチャー・プログラムが始動すると、新しい XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを活動化します。Q キャプチャー・プログラムを実行する間、以下のアクションが行われます。

- 再初期化時に新しい XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを活動化します。
- CAPSTART シグナルを受信すると、新しいまたは非アクティブな XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを活動化します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7011E *program_name* : *program_identifier* : XML パブリケーションまたは Q サブスクリプション *name* のソース表 *table_name* (送信キュー *queue_name*、公開またはレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) が見つかりませんでした。

説明: XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションに指定されたソース表が存在しません。ほとんどの場合、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを活動化しようとしたときに、間違っただけの名前が指定されたものと思われます。そうでない場合、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションが作成されてから、ソース表が意図的にドロップされた可能性があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- ソース表がコントロール表に正しく指定されていて、データベース内に存在することを確認してください。もう一度、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを活動化してください。
- ソース表を意図的にドロップした場合、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを削除してください。

ASN7012I *program_name* : *program_identifier* : XML パブリケーションまたは Q サブスクリプション *name* は、正常に再初期化されました。

説明: Q キャプチャー・プログラムは、XML パブリケーションを正常に再初期化したので、新しい属性に従ってトランザクションを処理します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7013I *program_name* : *program_identifier* : XML パブリケーションまたは Q サブスクリプション *name* は非活動化されました。

説明: XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションは、CAPSTOP シグナルを受信したために非活動化されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7015E *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、公開またはレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の送信キュー *send_queue_name* で、回復不能な **WebSphere MQ** エラーを検出しました。キュー・マップに指定されたエラー・アクションは、*error_action* です。

説明: この送信キューで回復不能な WebSphere MQ エラーが発生しました。キューを使用する XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションが非活動化されるか、Q キャプチャー・プログラムが停止します。ERROR_ACTION 値は、このエラーによるプログラムの動作を判別します。Q キャプチャー・プログラムの値は IBMQREP_SENDQUEUES 表に保管されます。

ユーザーの処置: IBMQREP_CAPTRACE 表を調べ、このメッセージの前のメッセージを探してください。適切なアクションを実行して、問題を訂正してください (以前のメッセージのユーザー応答の指示に従ってください)。XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを活動化します。

このエラーで Q キャプチャー・プログラムが終了した場合、Q キャプチャー・プログラムをウォーム・スタートしてください。

ASN7016E *program_name* : *program_identifier* :
LOADDONE シグナルは、**XML** パブリケーションまたは **Q** サブスクリプション *name* にロード・フェーズがないために失敗しました。

説明: XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションには、ロード・フェーズがありません (HAS_LOADPHASE=N)。このエラーは、LOADDONE シグナルまたはロード終了受信メッセージに、間違った XML パブリケーションまたは Q サブスクリプション名が指定されているためである可能性があります。

ユーザーの処置: XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションにロード・フェーズがあり、LOADDONE シグナルを挿入した場合、シグナルの XML パブリケーション名または Q サブスクリプション名が正しいことを確認してから、LOADDONE シグナルを再挿入してください。

XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションにロード・フェーズがあり、ロード終了受信メッセージを送信した場合、メッセージの XML パブリケーション名または Q サブスクリプション名が正しいことを確認してから、ロード終了受信メッセージを再送信してください。

ASN7017I *program_name* : *program_identifier* : ターゲット表 *table_name* は、すぐに **XML** パブリケーションまたは **Q** サブスクリプション *name* のソース表 *table_name* からロードできます。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7018E *program_name* : *program_identifier* : **XML** パブリケーションまたは **Q** サブスクリプション *name* のソース表 *table_name* には、**DATA CAPTURE CHANGES** 属性が設定されていません。

説明: ソース表が間違っで定義されています。この XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションには、データがキャプチャーされていません。

ユーザーの処置: ソース表を変更し、DATA CAPTURE CHANGES 属性が設定されるようにしてから、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを再始動してください。例:

```
alter srce_owner.srce_table data capture changes
```

ASN7019I *program_name* : *program_identifier* :
signal_name シグナルが受信されたので処理されます。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7020I *program_name* : *program_identifier* :
AUTOSTOP オプションが指定されているため、プログラムはアクティブ・ログの終了に達して終了しました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7021E *program_name* : *program_identifier* : 内部ロード・フェーズが指定されているため、**XML** パブリケーション *name* は開始しませんでした。

説明: XML パブリケーションの場合、2 つのオプションだけがサポートされています。IBMQREP_SUBS 表の HAS_LOADPHASE 値は、以下のいずれかの値に設定する必要があります。

N ターゲットはロードされません。

E Q Apply プログラム以外のアプリケーションがターゲット表をロードします。

内部ロード・オプション (HAS_LOADPHASE=I) は XML パブリケーションではサポートされていません。

ユーザーの処置: XML パブリケーションでサポートされているロード・オプションを指定し (正しい HAS_LOADPHASE 値が IBMQREP_SUBS 表にあることを確認してください)、XML パブリケーションを活性化してください。

ASN7022W *program_name* : *program_identifier* : **XML** パブリケーションまたは **Q** サブスクリプション *name* が、**IBMQREP_SUBS** コントロール表に存在しません。 *signal* シグナルは無視されました。

説明: プログラムは、IBMQREP_SUBS コントロール表で、この XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを見つけられません。

ユーザーの処置: XML パブリケーションまたは Q サブスクリプション名が、シグナル用に最新であることを確認してください。

ASN7023W *program_name : program_identifier* : ソース表 *table_name* には、主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引がありません。

説明: ソース表には、主キー、ユニーク制約、または少なくともユニーク索引が必要です。それがない場合、ソース・データは複製されないか、正確に公開されない可能性があります。関連した XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションは引き続き活動化されます。

ユーザーの処置: ソース表で、主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引を作成し、関連するすべての XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを再初期化してください。

ASN7024E *program_name : program_identifier* : プログラムは、再始動キュー *restart_queue* からの再始動メッセージを処理できません。

説明: プログラムが内部不整合を検出しました。

ユーザーの処置: 正しいバージョンの Q キャプチャー・プログラムを実行していることと、再始動キューが不適切に変更されていないことを確認してください。

正しいバージョンの Q キャプチャー・プログラムを判別するには、IBMQREP_CAPPARMS 表の ARCH_LEVEL 列を参照してください。

再始動キューが不適切に変更されている場合、そのキューをクリアしてから Q キャプチャー・プログラムをロード・スタートしてください。

ASN7025E *program_name : program_identifier* : プログラムは、再始動キュー *restart_queue* にアクセスできません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 再始動キューが正しく指定されていて、アプリケーション・プログラムで使用可能であることを確認してください (GET が使用可能になっている)。

ASN7026E *program_name : program_identifier* : シグナル・タイプ *signal_type* およびサブタイプ *subtype* が無効です。

説明: シグナル・タイプまたはシグナル・サブタイプがサポートされていません。

ユーザーの処置: IBMQREP_SIGNAL コントロール表に挿入された行の SIGNAL_TYPE および SIGNAL_SUBTYPE を検査してください。シグナル・タイプまたはシグナル・サブタイプが正しいことを確認してから、シグナルをもう一度挿入してみてください。

ASN7027E *program_name : program_identifier* : 再始動キュー *restart_queue* が空です。

説明: Q キャプチャー・プログラムはウォーム・スタートできませんでした。メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・プログラムをロード・スタートしてください。

ASN7028E *program_name : program_identifier* : IBMQREP_SENDQUEUES 表の公開またはレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の送信キュー *queue_name* に指定した **MAX_MESSAGE_SIZE** が、WebSphere MQ で定義された *number* バイトの **MAXMSGL** キュー属性値よりも大きいです。

説明: この送信キューの MAX_MESSAGE_SIZE 列値は、WebSphere MQ キュー・マネージャーの MAXMSGL 属性を超過しているため無効です。送信キューは無効になります。

ユーザーの処置: この送信キューの MAX_MESSAGE_SIZE 列値を減らしてください。必要に応じて MAXMSGL 属性を増やしてください。

- リモート送信キューの場合、伝送キューの MAXMSGL 属性を増やしてください。
- ローカル送信キューの場合、MAXMSGL 属性を増やしてください。

その送信キューで XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを再始動してください。

ASN7029E *program_name : program_identifier* : 再始動メッセージが、再始動キュー *restart_queue* の最大メッセージ・サイズを超過しました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 再始動キューの最大メッセージ・サイズを増やし、Q キャプチャー・プログラムをウォーム・スタートしてください。

ASN7030E *program_name : program_identifier* : 再始動キュー *queue_name* が満杯です。Q キャプチャー・プログラムは終了します。

説明: メッセージ数が、再始動キューの MAXDEPTH 属性に設定した数に達しました。

ユーザーの処置: 必要であれば、再始動キューの

MAXDEPTH 属性の値を増やしてください。値を増やしてから、Q キャプチャー・プログラムをコールド・スタートしてください。

ASN7033E *program_name : program_identifier : XML*
パブリケーションまたは Q サブスクリプション *name* で、無効な検索条件が検出されました。列名: *column_name*。理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 列名の通常 ID は、文字で開始しなければならず、その後に文字、数値、または下線が続きます。
- 1 列名の後に二重引用符がありません。
- 4 検索条件にキーワード 'WHERE' がありません。
- 5 検索条件に、ソース表にない列が含まれていません。
- 6 検索条件に、ソース表の列名が含まれていません。

ユーザーの処置: 検索条件が適切な書式であることを確認してから、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを再始動してください。検索条件を指定する正しい方法については、Q レプリケーションおよびイベント発行製品の資料を参照してください。

ASN7034W *program_name : program_identifier : プログラムは、管理キュー queue_name から*
のメッセージを処理できません。メッセージ・タイプ: *message_type*。メッセージ内容: *message_content*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 制御メッセージの書式と属性が正しいことを確認してから、メッセージをもう一度管理キューに置いてください。

ASN7035W *program_name : program_identifier : プログラムは、サポートされないメッセージを含む管理キュー queue_name で、*
WebSphere MQ 例外レポート・メッセージを受信しました。メッセージ・タイプ: *message_type*。**メッセージ内容:** *message_content*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: WebSphere MQ 構成が正しいことを確認してください。

ASN7036E *program_name : program_identifier : プログラムは、管理キュー queue_name から*
のメッセージを処理できません。メッセージ・タイプ: *message_type*。メッセージ内容: *message_content*。

説明: プログラムが内部不整合を検出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。受信した正確なメッセージを伝えてください。これにより、Q Capture スキーマを識別します。診断ログ・ファイルを用意してください。さらに、使用可能であれば、トレース・ダンプ (ASNTRC DMP) ファイルも用意してください。

ASN7037E *program_name : program_identifier : XML*
パーサーの初期化に失敗しました。予想される XML パーサーのバージョンは *version_number* です。このエラー・メッセージを受信しました: *error_message*。

説明: 内部の不整合が検出されました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。診断ログ・ファイルを用意してください。さらに、使用可能であれば、トレース・ダンプ (ASNTRC DMP) ファイルも用意してください。

ASN7038E *program_name : program_identifier : XML*
制御メッセージは、mqsub.xsd ファイルで指定した制御メッセージの XML スキーマの妥当性検査制約を満たしていません。このメッセージはキューから削除されて無視されます。XML 制御メッセージ: *xml_message*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: XML 制御メッセージを訂正し、mqsub.xsd ファイルで指定した制御メッセージの XML スキーマの妥当性検査制約を満たすようにして、もう一度管理キューに置いてください。

ASN7039W *program_name : program_identifier : XML*
制御メッセージの構文解析中にエラーが発生しました。メッセージは無視されましたが、プログラムは実行を続行します。エラー・メッセージ: *error_message*。XML 制御メッセージ: *xml_message*。

説明: XML 制御メッセージは無効であり無視されました。Q キャプチャー・プログラムは実行を続行します。

ユーザーの処置: XML 制御メッセージを修正して再送信してください。

ASN7040E *program_name : program_identifier : XML*
制御メッセージの構文解析中に **DOM** エラーが発生しました。 **DOM** 例外コード: *exception_code*。 **XML** 制御メッセージ: *xml_message*。

説明: XML 制御メッセージは無視されますが、Q キャプチャー・プログラムは実行を続行します。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。診断ログ・ファイルを用意してください。さらに、使用可能であれば、トレース・ダンプ (ASNTRC DMP) ファイルも用意してください。

ASN7043W *program_name : program_identifier : 存在しないまたは非アクティブな XML* パブリケーションまたは **Q** サブスクリプション *name* の管理キューで、*message_type* メッセージを受信しました。制御メッセージは無視されました。

説明: 管理キューで受信した要求は、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションが存在しないか非アクティブであるために実行できませんでした。

ユーザーの処置: XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションが正しいことと、アクティブ状態であることを確認してください。もう一度、制御メッセージを管理キューに置いてください。

ASN7045E *program_name : program_identifier : 公開またはレプリケーション・キュー・マップ queue_map_name の送信キュー queue_name がアクティブではありません*。 **REINITQ** コマンドは無視されました。

説明: **REINITQ** コマンドは、アクティブな送信キューに発行する必要があります。

ユーザーの処置: キュー名が正しいことを検査してから、**REINITQ** コマンドを再発行するか、レプリケーション・センターからキューを再初期化してください。

ASN7046I *program_name : program_identifier : 公開またはレプリケーション・キュー・マップ queue_map_name の送信キュー queue_name* は、正常に再初期化されました。以下の属性が更新されました: **ERROR_ACTION** は *error_action*、**HEARTBEAT_INTERVAL** は *heartbeat_interval*、**MAX_MESSAGE_SIZE** は *max_message_size* です。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7051W *program_name : program_identifier : IBMQREP_SRC_COLS* 表にキー列が指定されていないため、**XML** パブリケーションまたは **Q** サブスクリプション *name* は非活動化されました。

説明: ソース表およびターゲット表の少なくとも 1 つの列は、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションのキー列として指定する必要があります。この列の名前は、**IBMQREP_SRC_COLS** 表に指定されません。

ユーザーの処置: ソース表およびターゲット表の少なくとも 1 つの列が XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションのキー列として指定されていることを確認してから、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7052E *program_name : program_identifier : XML* パブリケーションまたは **Q** サブスクリプション *name* のソース表 *table_name* に、**LONG VARCHAR** または **LONGVARGRAPHIC** 列が含まれていますが、**DATA CAPTURE CHANGES** 属性が **INCLUDE LONGVAR COLUMNS** に設定されていません。

説明: ソース表が間違って定義されています。この XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションには、データがキャプチャーされていません。

ユーザーの処置: ソース表を変更し、**DATA CAPTURE CHANGES** 属性を **INCLUDE LONGVAR COLUMNS** に設定してから、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを再始動してください。例:

```
alter table owner.table data capture changes
include longvar columns
```

ASN7057I *program_name* : *program_identifier* : コントロール表 **IBMQREP_SUBS** の XML パブリケーションまたは **Q** サブスクリプション *name* の **SUB_ID** がユニークではありません。新しい **SUB_ID** が生成されます。

説明: XML パブリケーションまたは **Q** サブスクリプション *name* のコントロール表 **IBMQREP_SUBS** で、重複した **SUB_ID** が見つかりました。この列の値はユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7059E *program_name* : *program_identifier* : **Q** サブスクリプション *name* は、**IBMQREP_SUBS** 表の **GROUP_MEMBERS** 列がヌルでないために活動化されませんでした。

説明: 多方向レプリケーションでの非アクティブな **Q** サブスクリプションでは、**IBMQREP_SUBS** 表の **GROUP_MEMBERS** 列はヌルでなければなりません。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して **Q** サブスクリプションを再定義してから、**Q** サブスクリプションを活動化してください。

ASN7060E *program_name* : *program_identifier* : **Q** サブスクリプション *name* が活動化されていませんでした。多方向レプリケーション用の **Q** サブスクリプション *name* に対応する **Q** サブスクリプションは、無効な状態であるか、**IBMQREP_TARGETS** 表の同じ **Q** サブスクリプション・グループに存在しません。

説明: 多方向レプリケーション用の **Q** サブスクリプションをアクティブ化するには、**IBMQREP_TARGETS** 表の同じ **Q** サブスクリプション・グループにある対応するすべての **Q** サブスクリプションが、アクティブまたは非アクティブ状態になっている必要があります。このエラーは、同じ **Q** サブスクリプション・グループの **Q** サブスクリプションが、初期化または非活動化されているときに生じる可能性があります。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して **Q** サブスクリプションを再定義してから、**Q** サブスクリプションを活動化してください。

ASN7061E *program_name* : *program_identifier* : **IBMQREP_SUBS** 表で同じ **Q** サブスクリプション・グループ *group_name* および表 *table_name* を共有する他の **Q** サブスクリプション *name* に、別の **SOURCE_NODE** *source_node* があるため、**Q** サブスクリプション *name* は活動化されませんでした。

説明: 多方向レプリケーションでは、同じ **Q** サブスクリプション・グループおよび表を共有するすべての **Q** サブスクリプションでは、**IBMQREP_SUBS** 表に同じ **SOURCE_NODE** が必要です。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して **Q** サブスクリプションを再定義してから、**Q** サブスクリプションを活動化してください。

ASN7062E *program_name* : *program_identifier* : **Q** サブスクリプション *name* が無効な状態 *state* であるため、**Q** サブスクリプション *name* は活動化されませんでした。

説明: 対等レプリケーション用の **Q** サブスクリプションをアクティブ化するには、同じ **Q** サブスクリプション・グループの他のすべての **Q** サブスクリプションが、**IBMQREP_SUBS** 表でアクティブまたは非アクティブ状態になっている必要があります。このエラーは、同じ **Q** サブスクリプション・グループの **Q** サブスクリプションが、初期化または非活動化されているときに生じる可能性があります。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して **Q** サブスクリプションを再定義してから、**Q** サブスクリプションを活動化してください。

ASN7063E *program_name* : *program_identifier* : 同じ **Q** サブスクリプション・グループを共有する別の **Q** サブスクリプション *name* が活動化の途中であるため、**Q** サブスクリプション *name* は活動化されませんでした。

説明: 対等レプリケーションでは、**Q** サブスクリプション・グループの複数の **Q** サブスクリプションは、同時に開始することはできません。

ユーザーの処置: **IBMQREP_SUBS** 表を調べ、他の **Q** サブスクリプションがアクティブ ('A') 状態であることを確認してください。その後、非アクティブ状態であった **Q** サブスクリプションを活動化してください。

ASN7065E *program_name* : *program_identifier* : **Q** サブスクリプション *name* には、サポートされた範囲 (*low_limit* ~ *high_limit*) 外のソースまたはターゲット・ノード番号があります。

説明: 多方向レプリケーションでは、Q サブスクリプションのソース・ノードおよびターゲット・ノードは、サポートされた範囲内である必要があります。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7067E *program_name* : *program_identifier* : **SIGNAL_INPUT_IN** *signal_input_in* が無効であるため、シグナル *signal_name* を処理できません。望ましい形式は *signal_input_format* です。

説明: プログラムでは、シグナルのパラメーターを SIGNAL_INPUT_IN で指定する必要があります。このエラーは、パラメーターの一部が欠落しているか、望ましくない形式である場合に生じます。

ユーザーの処置: SIGNAL_INPUT_IN が正しく指定されていることを確認してから、シグナルを再挿入してください。

ASN7073E *program_name* : *program_identifier* : **XML** パブリケーションまたは **Q** サブスクリプション *name* がアクティブでないため、**REINIT_SUB** コマンドは失敗しました。

説明: REINIT_SUB コマンドでは、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションがアクティブである必要があります。

ユーザーの処置: コマンド・パラメーターで XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションが正しく指定されていることを確認し、コマンドを再発行してください。

ASN7074E *program_name* : *program_identifier* : **REINIT_SUB** コマンドまたは **REINIT_SUB** シグナルは、**Q** サブスクリプション *name* に有効ではありません。**Q** サブスクリプションは再初期化されませんでした。

説明: REINIT_SUB コマンドまたは REINIT_SUB シグナルは、サブスクリプション・タイプ 'U' (単一方向) の XML パブリケーションおよび Q サブスクリプションにのみ適用されます。サブスクリプション・タイプ 'B' (双方向) または 'P' (対等) の Q サブスクリプションは、再初期化できません。

ンは、再初期化できません。

ユーザーの処置: XML パブリケーションの場合、正しい名前を指定したことを確認してください。Q サブスクリプションの場合、正しい名前であることと、IBMQREP_SUBS 表の SUBTYPE が 'U' (単一方向) であることを確認してください。コマンドを再発行するか、シグナルを再挿入してください。

ASN7079W *program_name* : *program_identifier* : 行操作メッセージは、短縮メッセージ形式で、キュー・マップ *queue_map_name* の送信キュー *queue_name* に送信できません。代わりに、トランザクション・メッセージが送信されます。

説明: XML メッセージ形式では行操作メッセージとトランザクション・メッセージはどちらも有効ですが、短縮形式ではトランザクション・メッセージだけが有効です。

ユーザーの処置: 行操作を公開するのであれば、IBMQREP_SENDQUEUES コントロール表の MESSAGE_FORMAT を、'X' に設定する必要があります。

ASN7080E *program_name* : *program_identifier* : **WebSphere MQ** 理由コード *reason_code* 付きの **WebSphere MQ** 例外レポート・メッセージを、管理キューで受信しました。

説明: このエラーは、ターゲット WebSphere MQ キュー・マネージャーへのメッセージ配信問題に対して、受信側 MCA (メッセージ・チャネル・エージェント) によって MQ 例外レポート・メッセージが生成されるときに発行されます。

ユーザーの処置: 理由コードの説明と、ターゲット WebSphere MQ キュー・マネージャーに対して実行する必要があるアクションの詳細は、WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・リファレンスの理由コードの説明を参照してください。

ASN7081W *program_name* : *program_identifier* : **WebSphere MQ** 例外レポート・メッセージで指定された **XML** パブリケーションまたは **Q** サブスクリプション *name* の送信キューは、**IBMQREP_SUB** コントロール表に存在しなくなりました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7083E *program_name* : *program_identifier* : XML
パブリケーションまたは Q サブスクリプション *name* は、LOB データ・タイプの 1 つ以上の列が XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションのキー列として指定されたために活動化されませんでした。

説明: LOB データ・タイプの列は、XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションのキー列として指定してはなりません。

ユーザーの処置: キー列として指定される XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションのすべての列が、LOB データ・タイプ以外のデータ・タイプであることを確認してください。XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7084E *program_name* : *program_identifier* : Q サ
ブスクリプション *name* は、ソース表の
一部の列が組み込まれていないために活動
化されませんでした。

説明: 対等レプリケーションでは、Q サブスクリプションにすべてのソース列およびバージョン列を組み込む必要があります。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7085E *program_name* : *program_identifier* : Q サ
ブスクリプション *name* は、バージョン
列 *name* が論理表 *table_name* で定義され
ていないために活動化されませんでした。

説明: 対等レプリケーションでは、Q サブスクリプションの論理表にはバージョン列を含める必要があります。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7086E *program_name* : *program_identifier* : Q サ
ブスクリプション *name* は、論理表
table_name のバージョン列 *column_name*
が、データ・タイプ *datatype* で定義され
ていないか、バージョン列がソース表で定
義されていないために活動化されません
でした。

説明: バージョン列のデータ・タイプが正しく定義されていないか、対等レプリケーションで、バージョン列が

Q サブスクリプションの論理表で定義されていませんでした。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7087E *program_name* : *program_identifier* : Q サ
ブスクリプション *name* (レプリケーシ
ョン・キュー・マップ *queue_map_name* の
送信キュー *queue_name*) は、送信キュー
が短縮メッセージ形式を使用していないた
めに活動化されませんでした。

説明: 多方向レプリケーションでは、Q サブスクリプションの送信キューは、短縮メッセージ形式を使用する必要があります。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7088E *program_name* : *program_identifier* : Q サ
ブスクリプション *name* で、プログラム
は、IBMQREP_SUBS 表に
SUBGROUP、SOURCE_NODE、または
TARGET_NODE 列の情報を見つけられ
ません。

説明: 多方向レプリケーションでは、Q サブスクリプションには、Q サブスクリプション・グループ、ソース・ノード、およびターゲット・ノードが必要です。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7089E *program_name* : *program_identifier* : XML
パブリケーションまたは Q サブスクリ
プション *name* は、LOB 列が含まれて
いて、ソース表 *table_name* に主キー、ユニ
ーク制約、またはユニーク索引が存在しな
いために活動化されませんでした。

説明: LOB 列を含む XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションのソース表には、1 つ以上の列が必要です。キー列として指定される列はすべて、LOB データ・タイプ以外のデータ・タイプでなければなりません。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールを使用して、以下のステップを実行してください。

1. ソース表に、主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引があることを確認します。または、LOB デー

タ・タイプ列を XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションから除去します。

- XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを活動化します。

ASN7090E *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* は、検索条件が含まれているために活動化されませんでした。

説明: 対等レプリケーションの Q サブスクリプションには、検索条件を含めることはできません。

ユーザーの処置: この Q サブスクリプションが単一方向または双方向レプリケーションである場合、サブスクリプション・タイプをそれぞれ 'U' または 'B' に変更してください。この Q サブスクリプションが対等レプリケーションである場合、検索条件を除去してください。どの場合も、いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7091W *program_name : program_identifier :* プログラムは、**Q** サブスクリプション *name* の **IBMQREP_SUBS** 表で、対応する **Q** サブスクリプションを見つけられません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。

ASN7093E *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name_or_subid* は、**IBMQREP_SUBS** 表の中で、双方向レプリケーションの **Q** サブスクリプション・グループ *subgroup* の唯一の **Q** サブスクリプションではないために活動化されませんでした。

説明: 双方向レプリケーションの Q サブスクリプション・グループでは、1 つの Q サブスクリプションだけが許可されています。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7094E *program_name : program_identifier : XML* パブリケーションまたは **Q** サブスクリプション *name* には、無効なサブタイプ *subtype* または無効な状態 *state* があるため、*signal_name* シグナルは失敗しました。

説明: プログラムは、特定の XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションのサブタイプか状態に関して、予期しないシグナルか無効なシグナルを受信しました。

ユーザーの処置: XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションがこのシグナルを予期するようにしてください。たとえば、CAPSTART シグナルは、非アクティブなサブスクリプションだけをターゲットにしたものです。必要に応じて、シグナルを再挿入してください。

ASN7095E *program_name : program_identifier :* アクティブまたはロード中状態の **XML** パブリケーションまたは **Q** サブスクリプション *name* で、**IBMQREP_SUBS** コントロール表の列 **SUB_ID** がヌルです。

説明: 以前にアクティブであった XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションで、表 **IBMQREP_SUBS** の **SUB_ID** はヌルにすることはできません。

ユーザーの処置: XML パブリケーションまたは Q サブスクリプションを非アクティブ状態に設定してから活動化してください。

ASN7096E *program_name : program_identifier : XML* パブリケーションまたは **Q** サブスクリプション *name* に、セミコロンが含まれています。

説明: コントロール表 **IBMQREP_SUBS** の XML パブリケーションまたは Q サブスクリプション名には、セミコロンを含めることはできません。

ユーザーの処置: XML パブリケーションまたは Q サブスクリプション名にセミコロンが含まれないことを確認してから、活動化してください。

ASN7097E *program_name* : *program_identifier* : サブスクリプション *name* は開始しませんでした。双方向または対等レプリケーション用の別の Q サブスクリプション・グループ内に、同じ表のための Q サブスクリプションがあるためです。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 別の Q サブスクリプション・グループに同じ表のための別の Q サブスクリプションがないことを確認した上で、Q サブスクリプションを再開してください。

ASN7102E *program_name* : *program_identifier* : プログラムが、自分に関係ない再始動情報を検出しました。再始動情報は再始動キュー *queue_name* からのものであり、Q キャプチャー・サーバー *server* と Q キャプチャー・スキーマ *schema* に関するものです。

説明: 複数の Q キャプチャー・プログラムが 1 つの再始動キューを共有している場合、この問題が生じる恐れがあります。1 つの再始動キューは 1 つの Q キャプチャー・プログラム専用としなければなりません。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・プログラムが正しい Q キャプチャー・キャプチャー・サーバーおよび Q キャプチャー・キャプチャー・スキーマと一緒に実行されていることを確認してください。再始動キューが複数の Q キャプチャー・プログラムで使用されている場合は、次のようにします。

1. 既存の再始動キューをクリアするか、レプリケーション管理ツールを使用して、このメッセージを発行した現行の Q キャプチャー・プログラムのための新しい再始動キューを選択します。
2. Q キャプチャー・プログラムをコールド・スタートしてください。

ASN7103W *program_name* : *program_identifier* : Q キャプチャー・プログラムは、以前 DB2 に認識されていたパーティションを検出できません。このデータベース・パーティションは *node_id,...,node_id* です。

説明: これらのパーティションは、マルチパーティション・ソース・サーバーの一部でなくなりました。

ユーザーの処置: 欠落しているパーティションが意図的に除去したものであれば、これ以上のアクションは不要です。そうでない場合は、データベース管理者に連絡してください。

ASN7505E *program_name* : *program_identifier* : ターゲット列の属性が、Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) に対して正しくセットアップされていません。理由コード: *reason_code*。

説明: IBMQREP_TRG_COLS 表の列のセットアップにエラーがあります。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 IBMQREP_TRG_COLS 表で指定されている列の数が、ターゲット表の列の数と一致しません。ターゲットに存在する列よりも、IBMQREP_TRG_COLS 表で定義されている列の方が上回っています。
- 1 IBMQREP_TRG_COLS 表の MSG_COL_NUMBER 列の値がユニークではありません。
- 2 キー列は、IBMQREP_TRG_COLS 表の MSG_COL_NUMBER の先頭列でなければなりません。
- 3 MSG_COL_NUMBER 列の値が範囲外です。0 未満か、定義された最大列よりも大きくなっています。
- 4 行を一意的に識別できるよう定義された列がありません。Q レプリケーションでは、少なくとも 1 つの列がユニークであることが必要です。
- 5 IBMQREP_TRG_COLS 表の次の列の 1 つ以上が NULL です。すなわち、MSG_COL_NUMBER、MSG_COL_TYPE、MSG_COL_CODEPAGE、または MSG_COL_LENGTH。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 0 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションをアクティブにします。
- 1 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。
- 2 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してくだ

い。Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡して、その際にアナライザー・レポートを用意してください。

- 3 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。
- 4 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、Q サブスクリプションを再定義し、ユニーク列を識別してください。その後、Q サブスクリプションをアクティブにします。
- 5 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

ASN7506E *program_name : program_identifier : Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) のターゲット target_name が存在しません。Q サブスクリプションはロードされず、変更もこのターゲットには複製できません。*

説明: IBMQREP_TARGETS 表で定義されている Q サブスクリプションのターゲットが存在しません。ターゲットが適切に指定されなかったか、存在しないかのどちらかです。

ユーザーの処置: ターゲット・データベースにターゲットが存在することを確認してください。

IBMQREP_TARGETS 表の TARGET_OWNER、TARGET_NAME 列の値が、このターゲットに対して適切であることを確認してください。さらに、TARGET_TYPE 列の値がターゲットに適切であることも確かめます。たとえば、ターゲットがストアード・プロシージャである場合、IBMQREP_TARGETS 表のターゲット・タイプが「5」であることを確認します。Q サブスクリプションが有効でない場合、レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して再定義してください。

ASN7512E *program_name : program_identifier : Q Apply プログラムは Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) をアクティブにできませんでした。理由コード: reason_code。*

説明: Q サブスクリプション定義が正しくありません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 Q サブスクリプションが、IBMQREP_TARGETS コントロール表に存在しません。
- 1 IBMQREP_TARGETS コントロール表の STATE 列の値が「1」ではありません。
- 2 Q Capture および Q Apply サーバーの Q サブスクリプションのタイプが異なります。
- 3 ターゲットに対する DESCRIBE ステートメントが失敗しました。
- 4 IBMQREP_TRG_COLS 表の TARGET_COLNAME 列の値が、ターゲットの任意のターゲット列と一致しません。
- 5 IBMQREP_TARGETS 表の COL_TYPE または COL_LENGTH 列の値が、ターゲットの対応する列のタイプまたは長さとは一致しません。
- 6 IBMQREP_TRG_COLS 表の SOURCE_COLNAME 列が、IBMQREP_SRC_COLS 表の SRC_COLNAME の値と一致しません。
- 7 Q サブスクリプション ID が、受信キューでユニークではありません。
- 8 Q サブスクリプションが双方向に定義されていて、競合規則によれば Q Capture の送信オプションが正しくありません。IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_RULE 列が「A」または「C」に設定されていますが、IBMQREP_SUBS 表の BEFORE_VALUES 列の送信オプションが「Y」に設定されていません。
- 9 IBMQREP_TARGETS 表の SOURCE_OWNER、SOURCE_NAME 列が、IBMQREP_SUBS 表の値と一致しません。また、IBMQREP_TARGETS 表の SOURCE_SERVER 列の値が、Q キャプチャー・プログラムが実行されているサーバー上にありません。
- 10 IBMQREP_TRG_COLS 表の IS_KEY 列の値が、IBMQREP_SRC_COLS 表の IS_KEY 列の値と一致しません。

- 11 ソース列のコード・ページが、Q Apply プログラムのコード・ページに変換できません。
- 12 IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_ACTION 列が「F」に設定されていますが、Q Capture の送信オプションが正しくありません。CONFLICT_ACTION 「F」の場合、そのメッセージには変更した列だけでなくすべての列を含める必要があります。IBMQREP_SUBS 表では、CHANGED_COLS_ONLY は「N」に設定してください。
- 13 IBMQREP_TARGETS の CONFLICT_RULE は「K」に設定されていますが、Q Capture の送信オプションが正しくありません。IBMQREP_SUBS 表では、BEFORE_VALUES 列は「N」に設定してください。
- 14 Q Capture の送信オプションは IBMQREP_SUBS 表で CHANGED_COLS_ONLY が「N」に指定されていますが、IBMQREP_TARGETS 表内の次のいずれかまたはその両方の設定のため、値を「Y」に設定してください。
- CONFLICT_ACTION が「F」ではない
 - CONFLICT_RULE が「A」ではない
- 15 IBMQREP_TRG_COLS 表には存在せず、NOT NULL かつデフォルトには定義されていない余分の列がターゲットにあります。
- 16 IBMQREP_SUBS 表の SEARCH_CONDITION 列の値が、正しく指定されていません。
- 17 IBMQREP_SUBS 表および IBMQREP_TARGETS 表の SOURCE_NODE 列と TARGET_NODE 列の値が一致しません。
- 18 列を表すストアード・プロシージャ・パラメーターが、IBMQREP_SRC_COLS 表の SRC_COLNAME フィールドに一致していません。
- 19 Q サブスクリプションがタイプ「U」(単一方向)ですが、IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_RULE 列が「K」に設定されていません。
- ユーザーの処置:** 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。
- 0 Q サブスクリプション、IBMQREP_SUBS 表および IBMQREP_TARGETS 表の SUBNAME 列の定義を検査してください。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションをアクティブにします。
- 1 IBMQREP_TARGETS コントロール表の STATE 列の値を「I」に設定して、Q サブスクリプションを非アクティブにしてください。Q Capture サーバーで、Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。
- 2 IBMQREP_SUBS 表の SUBTYPE 列の値が、IBMQREP_TARGETS 表の SUBTYPE 列の値と一致するかチェックしてください。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。
- 3 SQL 戻りコード情報が含まれる、ASN0552E メッセージの Q Apply 診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_TRACE 表を参照してください。
- 4 Q サブスクリプションが正しくセットアップされていることを確認してください。ターゲット表上の記述に関して、およびターゲット表のために IBMQREP_TRG_COLS 表に保管されている値を確認し、違いがあるか確かめます。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。
- 5 Q サブスクリプションが正しくセットアップされていることを確認してください。ターゲット表上の記述に関して、およびターゲット表のために IBMQREP_TARGETS 表に保管されている値を確認し、違いがあるか確かめます。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。
- 6 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。
- 7 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。
- 8 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。
- 9 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。
- 10 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用し

- て Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。
- 11 変換されなかった CCSID を指定している、ASN0568E メッセージの Q Apply 診断ログ・ファイルを参照してください。推奨: Q Apply コード・ページをソース・データベース・コード・ページと同じに変更してください。
- 12 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。
- 13 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。
- 14 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。
- 15 ターゲット属性を変更するか、これらのエクストラ列にサブスクライブしてください。
- 16 IBMQREP_SUBS 表の SEARCH_CONDITION 列のテキストをチェックし、複製されている表の列名だけが括弧で囲まれているようにします。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。
- 17 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。
- 18 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。
- 19 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

ASN7513W *program_name* : *program_identifier* :
SUB_ID *subid* が変更された行を受け取りましたが、アクティブな Q サブスクリプション (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) がありません。 Q Apply プログラムは変更を適用できません。理由コード: *reason_code*。

説明: 次の理由により、トランザクション内の行がアクティブな Q サブスクリプションに属していません。

- 0 Q サブスクリプションは ERROR_ACTION または CONFLICT_ACTION のために非アクティブですが、Q キャプチャー・プログラムは変更の送信を依然として停止していませんでした。Q サブスクリプションが非アクティブになった理由に関しては、IBMQREP_EXCEPTIONS 表を参照してください。
- 1 Q サブスクリプションのセットアップが無効なため、Q Apply プログラムが Q サブスクリプションをアクティブにできませんでした。
- 2 Q サブスクリプションが、IBMQREP_TARGETS 表に存在しません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

1. IBMQREP_SUBS および IBMQREP_TARGETS コントロール表の SUB_ID に対応する Q サブスクリプションをチェックしてください。
 2. Q サブスクリプションが存在する場合、IBMQREP_TARGETS 表の STATE_INFO 列を調べ、CONFLICT_ACTION または ERROR_ACTION のために Q サブスクリプションが非アクティブにされたかどうかを判別します。
 - a. Q サブスクリプションが非アクティブにされた場合、Q キャプチャー・プログラムはこの Q サブスクリプションに対する変更の送信を最終的には停止します。ユーザー側でのアクションは不要です。
 - b. Q サブスクリプションが非アクティブにされなかった場合、これがアクティブになって開始されているということは決してありません。正確な理由コードおよび必要な応答に関しては、Q Apply 診断ログの ASN7512E メッセージを参照してください。
-

ASN7514W *program_name* : *program_identifier* : 管理キュー *queue_name* がいっぱいです。Q サブスクリプション: *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*)。

説明: メッセージの数が、管理キューの MAXDEPTH 属性で設定された数に達しました。管理キューがいっぱいで、Q Apply ブラウザーが書き込むことができません。おそらく、Q キャプチャー・プログラムはその管理キューからは読み取っていません。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・プログラムが実行中であることを確認してください。実行されていない場合には、再始動してください。

必要であれば、管理キューの MAXDEPTH 属性の値を増やします。

ASN7515E *program_name* : *program_identifier* : Q Apply プログラムが、バージョン *msgVersion* のメッセージ・タイプ *msgType* を処理できません。

説明: このメッセージ・バージョンは、Q Apply プログラムのこのバージョンではサポートされていません。Q キャプチャー・プログラムは、この Q Apply プログラムのバージョンとは互換性がありません。

ユーザーの処置: IBMQREP_CAPPARMS および IBMQREP_APPLYPARMS 表の ARCH_LEVEL に互換性があることを確認してください。

ASN7517E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の受信メッセージのロードが処理できません。理由コード: *reason_code*。

説明: Q Apply プログラムは Q Capture からの受信メッセージのロードを受け取りましたが、そのメッセージを処理できません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 メモリーにロードされる Q サブスクリプション情報が正しくありません。
- 1 IBMQREP_TARGETS 表の STATE 列の Q サブスクリプション状態が正しくありません。
- 2 この Q サブスクリプションに対して定義されたスパル・キューはありません。IBMQREP_TARGETS の SPILLQ 列の情報が間違っているか、物理キューが存在しません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切な

アクションを実行してください。

- 0 Q サブスクリプションが IBMQREP_TARGETS 表の STATE 列で非アクティブ (I) 状態であるかをチェックし、その理由について Q Apply 診断ログ・ファイルを参照します。問題を修正し、Q サブスクリプションをアクティブにします。
- 1 IBMQREP_TARGETS 表の STATE 列の Q サブスクリプション値が、予期したものと異なります。Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。
- 2 Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。

ASN7519E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) は、SUB_ID 列の値が NULL であるためロードできません。

説明: SUB_ID は、Q サブスクリプションの状態が「I」(非アクティブ)の場合にのみ NULL が可能です。Q サブスクリプション定義が変更されました。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションを非アクティブにし、再定義してからアクティブにしてください。

ASN7522E *program_name* : *program_identifier* : Q Apply プログラムは、Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) でエラーを検出したために停止しました。

説明: Q Apply プログラムが、このターゲットにトランザクションを適用しようとした際に、エラーまたは矛盾を検出しました。この Q サブスクリプションのエラーまたはアクションは、「S」(Q Apply プログラムの停止)です。エラーが発生した理由の詳細については、Q Apply 診断ログ・ファイルおよび IBMQREP_EXCEPTIONS 表を参照してください。

ユーザーの処置: 診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_EXCEPTIONS 表で確認した問題を処理し、Q Apply プログラムを再開します。変更が失われることはありません。問題がこの Q サブスクリプションのターゲットにのみ関連している場合、Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、Q Apply プログラムを再開します。Q Apply プログラムは、他のターゲットに変更を適用できます。

ASN7523E *program_name* : *program_identifier* : **Q Apply** プログラムは、**Q** サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) でエラーまたは矛盾を検出しました。**Q Apply** プログラムは、受信キューからの読み取りを停止します。

説明: Q Apply プログラムが、このターゲットにトランザクションを適用しようとした際に、エラーまたは矛盾を検出しました。この Q サブスクリプションのエラーまたはアクションは、「Q」(キューからの読み取りの停止)です。エラーが発生した理由の詳細については、Q Apply 診断ログ・ファイルおよび IBMQREP_EXCEPTIONS 表を参照してください。

ユーザーの処置: 診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_EXCEPTIONS 表で確認した問題を処理し、startq コマンドを使用してキューからの読み取りを再開します。変更が失われることはありません。問題がこの Q サブスクリプションのターゲットにのみ関連している場合、Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、キューからの読み取りを再開します。Q Apply プログラムは、他のターゲットに変更を適用できます。

ASN7524E *program_name* : *program_identifier* : **Q Apply** プログラムは、**Q** サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) でエラーまたは矛盾を検出しました。受信キューからの読み取りを停止しました。**LSN** *LSN* に対応するトランザクションからの行の適用中にエラーが発生しました。

説明: Q Apply プログラムが、このターゲットにトランザクションを適用しようとした際に、エラーまたは矛盾を検出しました。この Q サブスクリプションのエラーまたはアクションは、「Q」(キューからの読み取りの停止)です。

ユーザーの処置: 診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_EXCEPTIONS 表で確認した問題を処理し、startq コマンドを使用してキューからの読み取りを再開します。変更が失われることはありません。問題がこの Q サブスクリプションのターゲットにのみ関連している場合、Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、キューからの読み取りを再開します。Q Apply プログラムは、他のターゲットに変更を適用できます。

ASN7525I *program_name* : *program_identifier* : 受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) がアクティブ状態ではないので、**Q** アプライ・プログラムは処理しません。

説明: IBMQREP_RECVQUEUES 表の STATE 列は、この受信キューに関して非アクティブとしてマークされています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

Q アプライ・プログラムでキューを処理したい場合は、Q アプライを再始動せずに「asnqcmd startq」コマンドを発行するか、IBMQREP_RECVQUEUES 表の STATE 列を A に変更してから Q アプライ・プログラムを再始動します。

ASN7526I *program_name* : *program_identifier* : **Q Apply** プログラムが、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の受信キュー *queue_name* の処理を開始しました。

説明: Q Apply プログラムは、受信キューからの読み取りを開始しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7527I *program_name* : *program_identifier* : レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の受信キュー *queue_name* で使用する **Q Apply** ブラウザーが、startq コマンドを使用してアクティブにされます。

説明: startq コマンドが受信キューに対して発行され、Q Apply プログラムがこのキューで Q Apply ブラウザーを開始しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7528I *program_name* : *program_identifier* : **Q** サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) に対して、**Q Apply** プログラムが *utility_name* ユーティリティを使用して *table_name* 表をロードします。

説明: この Q サブスクリプションのロード・フェーズは、内部として指定されています。Q Apply は、ロー

ドを実行するためにこのユーティリティを選択しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7529I *program_name* : *program_identifier* :
target_name 表の *utility_type* ユーティ
リティーが、**Q** サブスクリプション *name*
(受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) に
対して正常に完了しました。このユーティ
リティーからのメッセージは次のとおりで
す。 *text*。

説明: 指定されたロード・ユーティリティが正常に終
了しました。統計に関しては、ユーティリティからの
詳細メッセージを確認してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7530E *program_name* : *program_identifier* : **Q** サ
ブスクリプション *name* (受信キュー
queue_name、レプリケーション・キュー
・マップ *queue_map_name*) に対する
target_name 表のロード・ユーティリ
ティー *utility_name* が失敗しました。このロー
ド・ユーティリティからの詳細メッセ
ージは次のとおりです。 *text*。

説明: ロード・ユーティリティが、**Q** サブスクリプ
ションでエラーを検出しました。**Q** サブスクリプ
ションをアクティブにできません。

ユーザーの処置: 戻りコードおよび SQL 戻りコードに
関しては、ロード・ユーティリティからの詳細メッ
セージを参照してください。問題を修正してから、**Q** サ
ブスクリプションをアクティブにします。問題が解決さ
れない場合には、別のロード・ユーティリティを選
択してください。

ASN7531I *program_name* : *program_identifier* : **Q** サ
ブスクリプション *name* (受信キュー
queue_name、レプリケーション・キュー
・マップ *queue_map_name*) に対して、
ロード・ユーティリティ *utility_name* が
Q Apply プログラムによって選択されま
した。理由コード: *reason_code*。

説明: この **Q** サブスクリプションのロード・フェーズ
は、内部です。レプリケーション環境で最善のユー
ティリティであるので、**Q Apply** プログラムはこのロー
ド・ユーティリティを選択しました。理由コードとし
て有効な値は以下のとおりです。

0 ターゲットは、DB2 UDB for Linux、DB2
UDB for UNIX、または DB2 UDB for
Windows のバージョン 8 以降で、ソース・ニ
ックネームが定義されているものか、ターゲッ
ト・システムまたはターゲット・データベース
に対してローカルであるソースです。

1 ターゲットは DB2 UDB for Linux、DB2 UDB
for UNIX、または DB2 UDB for Windows の
バージョン 8 以降で、ソースはニックネーム
を持たず、ターゲットに対してリモートです。

2 ターゲットは、DB2 UDB for z/OS バージョン
7 以降です。

3 ターゲットは、DB2 UDB for Linux、DB2
UDB for UNIX、または DB2 UDB for
Windows のバージョン 8 以降で、定義されて
いるソース・ニックネームか、ターゲットに対
してローカルであるソースです。またはターゲ
ットは、DB2 UDB for z/OS バージョン 7 以
降です。

4 ターゲットは、DB2 UDB for Linux、DB2
UDB for UNIX、または DB2 UDB for
Windows のバージョン 8 以降です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7532E *program_name* : *program_identifier* : **Q** サ
ブスクリプション *name* (受信キュー
queue_name、レプリケーション・キュー
・マップ *queue_map_name*) に対して、
Q Apply プログラムが *utility_type* ロー
ド・ユーティリティを選択できませんで
した。理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 ターゲットは分散されますが、DB2 UDB for
Linux、DB2 UDB for UNIX、または DB2
UDB for Windows のバージョン 8 以降ではあ
りません。

1 ターゲットは、DB2 UDB for z/OS バージョン
7 以降ではありません。

2 ターゲットは分散され、DB2 UDB for
Linux、DB2 UDB for UNIX、DB2 UDB for
Windows のバージョン 8 以降ですが、ソース
にはニックネームがなく、ターゲット・システ
ムまたはデータベースに対してローカルではあ
りません。

3 ターゲットが分散されません。

4 ロード・タイプが無効です。

ユーザーの処置: 戻りコードおよび SQL 戻りコードに関しては、ユーティリティからの詳細メッセージを参照してください。この Q サブスクリプションに対して別のロード・タイプを選択してください。Q サブスクリプションをアクティブにします。

ASN7533E *program_name* : *program_identifier* : ターゲット表の *column_name* 列は、Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*)の一部ではなく、なおかつ NULL 可能ではないかデフォルト値がありません。

説明: Q サブスクリプションの一部ではないターゲット表内の列は、NULL 可能であるか、デフォルト値がなければなりません。

ユーザーの処置: ターゲットの属性を変更するか、列を Q サブスクリプションに追加してください。Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。

ASN7534E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) に対するストアード・プロシージャの妥当性検査が失敗しました。ストアード・プロシージャのパラメータを検査する際に、この問題が検出されました。理由コード:
reason_code。

説明: Q サブスクリプションは、ストアード・プロシージャのターゲット・タイプで定義されます。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 ストアード・プロシージャには、少なくとも 5 つのパラメータが含まれる必要があります。4 つ (「OPERATION」、
「SUPPRESSION_IND」、
「SRC_COMMIT_LSN」、
「SRC_TRANS_TIME」) は必要パラメータで、少なくとも 1 つが追加パラメータです。
- 1 ストアード・プロシージャの最初のパラメータは、「OPERATION」でなければなりません。
- 2 ストアード・プロシージャの 2 番目のパラメータは、「SUPPRESSION_IND」であることが必要です。

- 3 ストアード・プロシージャの 3 番目のパラメータは、「SRC_COMMIT_LSN」でなければなりません。
- 4 ストアード・プロシージャの 4 番目のパラメータは、「SRC_TRANS_TIME」でなければなりません。
- 5 OPERATION パラメータの「INOUT」属性値が、「INOUT」と等しくありません。
- 6 「SUPPRESSION_IND」、
「SRC_COMMIT_LSN」、または
「SRC_TRANS_TIME」パラメータの
「INOUT」属性値が、「IN」と等しくありません。
- 7 最初のパラメータには、パラメータ・モード「INOUT」がなければなりません。その他すべてのパラメータには、パラメータ・モード「IN」がなければなりません。
- 8 「X」で始まるパラメータが見つかりませんでした。ソース表のキー列にマップされるパラメータには、以前の値を受け入れるように定義された別のパラメータがなければなりません。キー列の以前の値を受け入れるパラメータは、「X」で始まる必要があります。
- 9 ソース表のキー列にマップされるパラメータには、キー・パラメータの名前に「X」を加えた名前を付けた、以前の値のために定義されたパラメータがなければなりません。たとえば、キー・パラメータが「Col3」の場合、キー・パラメータの以前の値には「XC03」という名前が付けられる必要があります。
- 10 4 つの必須パラメータのうちの 1 つのデータ・タイプが間違っていました。必須パラメータと、それに関係するデータ・タイプは次のとおりです。
 - OPERATION : INTEGER
 - SUPPRESSION_IND : VARCHAR(x) (x は、最低でもパラメータ数。ただし必須パラメータの数は含めない。)
 - SRC_COMMIT_LSN : CHAR(10) FOR BIT DATA
 - SRC_TRANS_TIME : TIMESTAMP

ユーザーの処置: ストアード・プロシージャに、必要パラメータ・モードを使用して必要な順序で定義された必須パラメータがあることを検査してください。また、命名規則 *Xcolumnname* に従った BEFORE_VALUES のパラメータ (キー更新に必要) がキー列にあることも確かめてください。ストアード・プロシージャ宣言を変更する場合、CREATE

STORED PROCEDURE ステートメントを変更します。さらに Q サブスクリプションも変更する必要がある場合には、Q サブスクリプションを再定義してからアクティブにしてください。

ASN7535E *program_name* : *program_identifier* : 多方向レプリケーションで、Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) が **IBMQREP_TARGETS** 表で無効です。理由コード: *reason_code*。

説明: 以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 Q サブスクリプションが、**IBMQREP_TARGETS** 表に存在しません。
- 1 SUBTYPE 値が「P」(対等) に設定されていますが、CONFLICT_RULE 値が「V」(バージョンの検査) に設定されていないか、CONFLICT_ACTION 値が「F」(変更を強制) に設定されていません。
- 2 **IBMQREP_SUBS** 表には、この Q サブスクリプション・グループと同じメンバーの Q サブスクリプションがありません。
- 3 SUBGROUP 列が NULL です。
- 4 **IBMQREP_TARGETS** 表の SOURCE_NODE または TARGET_NODE、あるいはその両方が、**IBMQREP_SUBS** 表の値と一致しません。
- 5 特定の SUBGROUP 列に関して、**IBMQREP_SUBS** 表の Q サブスクリプション定義が、**IBMQREP_TARGETS** 表の Q サブスクリプション定義と一致しません。
- 6 **IBMQREP_SUBS** 表および **IBMQREP_TARGETS** 表には同じ数の Q サブスクリプションがありますが、Q サブスクリプションの SUBGROUP 値が一致しません。
- 7 **IBMQREP_TARGETS** 表には、この Q サブスクリプション・グループと同じメンバーの Q サブスクリプションがありません。
- 8 以下の 1 つ以上の条件が存在します。
 - ターゲット表が存在しません。
 - 次のバージョン列が存在しません。「ibmqrepVERTIME」、
「ibmqrepVERNODE」。
 - バージョン列は存在しますが、データ・タイプまたはデフォルトが間違っています。
- 9 **IBMQREP_TARGETS** 表で、SUBTYPE が「B」(双方向) の場合には CONFLICT_RULE

値「V」(バージョンの検査) が許可されません。この競合規則は、SUBTYPE「P」(対等) に対してのみ有効です。双方向レプリケーションの Q サブスクリプションの場合、有効な競合規則値は「K」、「C」、または「A」です。

- 10 指定された SUBGROUP および TARGET_NAME に関して、**IBMQREP_SUBS** 表で定義された Q サブスクリプションが複数あります。双方向レプリケーションの場合 (SUBTYPE='B')、指定された SUBGROUP に関して、**IBMQREP_SUBS** 表に Q サブスクリプションが 1 つのみ、および **IBMQREP_TARGETS** 表に 1 つでなければなりません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 理由コード 8 の場合: ターゲット表が存在し、適切な列があることを確認してください。適切な列がない場合には、レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して適切な列のある表を作成するか、手動で適切な列を作成します。ターゲット表が存在しない場合、レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、ノードに対して Q サブスクリプションを再定義し、ノードからも Q サブスクリプションを再定義します。
- その他すべての理由コードの場合: レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、このノードに対して Q サブスクリプションを再定義し、このノードからも Q サブスクリプションを再定義します。

ASN7536E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* (送信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) が、**IBMQREP_SUBS** 表で適切に定義されていません。Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) を **SUBGROUP** に追加しようとした際に、エラーが検出されました。理由コード: *reason_code*。

説明: 新規ノードを Q サブスクリプション・グループに追加しようとした際に、エラーが検出されました。新規ノードからアクティブなメンバーになった Q サブスクリプションが、**IBMQREP_SUBS** 表で正しく定義されていません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 Q サブスクリプション・グループ内の Q サブスクリプション同士に、同じ SUBTYPE 値がありません。サブスクリプション・グループの

すべての Q サブスクリプションには、同じ SUBTYPE 値がなければなりません。SUBTYPE 値は、「P」(対等) か「B」(双方向) であることが必要です。

- 1 IBMQREP_SUBS 表の SOURCE_NODE が、IBMQREP_TARGETS 表の TARGET_NODE と同じではありません。
- 2 IBMQREP_SUBS 表の GROUP_MEMBERS 列が NULL ではありません。
- 3 IBMQREP_SUBS 表の STATE 列は「I」(非アクティブ) でなければなりません。
- 4 IBMQREP_SUBS 表の TARGET_NODE 列が、複数の Q サブスクリプションで同じ値でなければなりません。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。

ASN7537E *program_name : program_identifier : 多方向レプリケーションで、Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) が IBMQREP_TARGETS 表で無効です。理由コード: reason_code。*

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 Q サブスクリプション同士に、同じ SUBTYPE がありません。グループの Q サブスクリプションには、同じ SUBTYPE がなければなりません。SUBTYPE は、「P」(対等) か「B」(双方向) であることが必要です。
- 1 IBMQREP_TARGETS 表の TARGET_NODE が、新規メンバー Q サブスクリプションのノードではありません。
- 2 この Q サブスクリプションの状態が「I」(非アクティブ) ではありません。STATE 列は、メンバーである Q サブスクリプションの IBMQREP_TARGETS 表では「I」にしてください。
- 4 SUBGROUP 内の複数の Q サブスクリプションで、IBMQREP_TARGETS 表の SOURCE_NODE の値が同じです。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、このノードに対して Q サブスクリプションを再定義し、このノードからも Q サブスクリプションを再定義します。

ASN7538E *program_name : program_identifier : 多方向レプリケーションの場合、Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) の IBMQREP_TARGETS 表内に行がないか、このサーバーの IBMQREP_SUBS 表でこの Q サブスクリプションと一致するものはありません。*

説明: Q サブスクリプションが、対等レプリケーションまたは双方向レプリケーションに関して正しく定義されていません。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、このサーバーの表に対して Q サブスクリプションを再定義して、このサーバーの表から Q サブスクリプションを再定義します。

ASN7539E *program_name : program_identifier : 同じ表のすべての Q サブスクリプションを非アクティブにした際、この Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) が非アクティブ状態ではなく、このサーバーにおいて IBMQREP_SUBS 表に対応する Q サブスクリプションがありません。*

説明: 一部の Q サブスクリプションが見つかりません。一部の Q サブスクリプションが削除されたか、最初から作成されていなかった可能性があります。このノードに追加される Q サブスクリプションおよびこのノードから追加される Q サブスクリプションすべては、非アクティブにはできません。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションがこの論理表からすべての物理表へと十分に接続されていないため、適切に定義されませんでした。このため、非アクティブ化プロトコルによって、すべての Q サブスクリプションを自動的に非アクティブにして、このノードから追加することはできません。

変更がこの表に複製されていないこと、またはこの表から複製されていないことを確認するには、以下のステップを実行してください。

1. このサーバーで、この論理表の IBMQREP_SUBS 表内にある Q サブスクリプションに CAPSTOP シグナルを挿入します。まだ非アクティブになっていない Q サブスクリプションに対してのみ、このステップを実行してください (たとえば、アクティブ状態からロード状態にあるかもしれません)。すべての Q サ

ブスクリプションが非アクティブになるまで、1 度に 1 つの Q サブスクリプションに対してシグナルを挿入します。

2. 他のすべてのサーバーにある Q サブスクリプションすべてに対して前述のステップを繰り返し、変更を最初のサーバーに複製します。

ASN7540I *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) で、ターゲット *target_name* 上の **RI** 制約 *constraint_name* がドロップされました。

説明: Q サブスクリプションは、内部または外部のいずれかのロード・フェーズで指定されます。ロードの際、参照制約がターゲット表からドロップされ、IBMQREP_SAVERI 表に保管されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7541I *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) で、**RI** 制約 *constraint_name* がターゲット *target_name* に追加されました。

説明: Q Apply プログラムは Q サブスクリプションのロードを終了し、参照制約を再びターゲットに追加しました。参照制約が、IBMQREP_SAVERI 表から除去されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7542E *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の初期化の際に、この **Q** サブスクリプションと一致する **Q** サブスクリプションが **IBMQREP_SUBS** 表にありませんでした。

説明: IBMQREP_SUBS 表の Q サブスクリプション定義が、新規メンバーの初期化の際にドロップされました。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、ノードに対して Q サブスクリプションを再定義し、ノードからも Q サブスクリプションを再定義します。

ASN7543W *program_name : program_identifier : 受信* キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* のメモリー限界を変更するため、**REINTIQ** コマンドが発行されました。しかし、メモリー限界 *memory_limit MB* は変更されませんでした。

説明: 受信キューのメモリー限界を変更するために **REINTIQ** コマンドが発行されましたが、指定されたメモリー限界値は既存の値と同じでした。

ユーザーの処置: メモリー限界を現行値から変更したい場合には、この受信キューに対して **REINITQ** コマンドを再発行して新規メモリー限界を MB 単位で指定します。

ASN7544W *program_name : program_identifier : 受信* キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue map* *queue_map_name* のエージェントの数を変更するために **REINITQ** コマンドが発行されました。しかし、エージェントの数 *number* は変更されませんでした。

説明: 受信キューのアプライ・エージェントの数を変更するために **REINITQ** コマンドが発行されましたが、指定されたエージェントの数は既存の数と同じでした。

ユーザーの処置: この受信キューのエージェントの数を変更したい場合には、受信キューに対して **REINITQ** コマンドを再発行して、エージェントの新しい数を指定してください。

ASN7545W *program_name : program_identifier : 受信* キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* に対する **REINITQ** コマンドが、エージェントの数がゼロに減らされてしまうので処理されませんでした。

説明: エージェントの数を変更するために **REINITQ** コマンドが発行されましたが、変更後に残るエージェントが 0 になります。そのため、**REINITQ** コマンドが処理されませんでした。

ユーザーの処置: この受信キューに対して、エージェントの正しい数が指定されたことを確認してください。

ASN7547I *program_name : program_identifier :*
REINITQ コマンドが正常に処理されました。受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* のエージェントの数が、*number* から *number* に減りました。

説明: 受信キューのエージェントの数を減らすために発行した REINITQ コマンドが、正常に処理されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7548I *program_name : program_identifier :*
REINITQ コマンドが正常に処理されました。受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* のエージェントの数が、*number* から *number* に増えました。

説明: エージェントの数を増やすために発行した REINITQ コマンドが、正常に処理されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7549I *program_name : program_identifier :*
REINITQ コマンドが正常に処理されました。受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* のメモリー限界が、*memory_limit MB* から *memory_limit MB* に設定されました。

説明: REINITQ コマンドが正常に発行され、この受信キューのメモリー限界が増加しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7550E *program_name : program_identifier : Q*
Apply プログラムは、トランザクション (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の最後のメッセージとして *msgA* タイプのメッセージを予期していましたが、*msgB* タイプのメッセージが検出されました。

説明: 内部の不整合が検出されました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

ASN7551E *program_name : program_identifier : Q*
Apply プログラムは受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* 上でメッセージ数のギャップを検出しました。メッセージ ID *message_ID* が見つかると思われていたが、メッセージ ID *message_ID* を読み取りました。**Q Apply** プログラムは、予想したメッセージが見つかるまではどのメッセージも処理できません。

説明: Q Apply プログラムは、予想したメッセージが見つかるまでは今後加えられる変更を複製することはできません。既に受信したメッセージに属する変更はすべて適用されます。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・プログラムおよび Q Apply プログラム間でメッセージを送信するのに使用される、すべての WebSphere MQ キュー・マネージャーの送達不能キューすべてにおいて、予想されるメッセージ ID を持つメッセージを探します。メッセージを回復したら、それを受信キューに書き込んで、WebSphere MQ メッセージ・ヘッダー情報 (特にメッセージ ID) を保持します。メッセージを回復できない場合には、次のステップを実行してください。

1. stopq コマンドを使用して、Q Apply プログラムの受信キューからの読み取りを停止します。
2. このレプリケーション・キュー・マップの Q サブスクリプションすべてを非アクティブにします。
3. 送信キューおよび受信キューを空にします。
4. startq コマンドを使用して、Q Apply プログラムが受信キューからの読み取りを再開できるようにします。
5. このレプリケーション・キュー・マップの Q サブスクリプションすべてをアクティブにします。

これらのコマンドについては、Q レプリケーションおよび公開の製品資料を参照してください。

ASN7552W *program_name : program_identifier : Q*
Apply プログラムが、メッセージ ID *message_ID* の受信キュー *queue_name*、レプリケーション・マップ *queue_map_name* をポーリングしています。

説明: Q Apply プログラムがメッセージ ID でギャップを検出し、そのメッセージ ID が見つかるまでは処理できません。予想されたメッセージ ID のメッセージが送信キューまたは受信キューに書き込まれるまでは、このメッセージは定期的に発行され続けます。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・プログラムおよび Q Apply プログラム間でメッセージを送信するのに使用

される、すべての WebSphere MQ キュー・マネージャーの送達不能キューすべてにおいて、予想されるメッセージ ID を持つメッセージを探します。メッセージを回復したら、それを受信キューに書き込んで、WebSphere MQ メッセージ・ヘッダー情報 (特にメッセージ ID) を保持します。メッセージを回復できない場合には、次のステップを実行してください。

1. stopq コマンドを使用して、Q Apply プログラムの受信キューからの読み取りを停止します。
2. このレプリケーション・キュー・マップの Q サブスクリプションすべてを非アクティブにします。
3. 送信キューおよび受信キューを空にします。
4. startq コマンドを使用して、Q Apply プログラムが受信キューからの読み取りを再開できるようにします。
5. このレプリケーション・キュー・マップの Q サブスクリプションすべてをアクティブにします。

ASN7553E *program_name* : *program_identifier* : **Q Apply** プログラムが受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* からの読み取りを停止しました。最後に読み取ったメッセージ (**timestamp** *message_seq*) よりも古いメッセージ (**timestamp** *message_seq*) が見つかったためです。

説明: メッセージ ID にはタイム・スタンプ (整数フォーマット) が含まれます。Q Apply プログラムは、読み取ったメッセージよりも古いメッセージを検出する場合、キューからの読み取りを続けることができません。このエラーは、おそらく次のいずれかの理由によって生じます。

- 同一の受信キューに対して、2 つの Q キャプチャー・プログラムの書き込みメッセージが存在する。このセットアップはサポートされていません。Q Apply プログラムは、任意の指定された受信キュー上にある、単一の Q キャプチャー・プログラムからのメッセージであると予想しています。
- Q キャプチャー・プログラムが実行しているシステム・クロックが正しい時刻に戻され、Q キャプチャー・プログラムがコールド・スタートした、あるいはウォーム・スタートしたものの、このレプリケーション・マップ・キューに対するアクティブな Q サブスクリプションがなかった。

ユーザーの処置: 同じ受信キューに対して複数の Q キャプチャー・プログラムが書き込んでいる場合、以下のステップを実行してください。

1. 受信キューをフィードするすべての Q サブスクリプションを非アクティブにします。

2. セットアップを再定義して、各 Q キャプチャー・プログラムからのメッセージが別個の受信キューに送られるようにします。
3. 無効なセットアップに含まれていた送信キューおよび受信キューすべてからの全メッセージを削除します。
4. startq コマンドを発行して、Q Apply プログラムが受信キューからの読み取りを再開できるようにします。
5. すべての Q サブスクリプションをアクティブにします。

ソースでシステム・クロックを正しい時間に戻す場合には、次のステップを実行します。

1. Q キャプチャー・プログラムを停止します。
2. クロックを本来の時間 (または遅い時間) にリセットするか、現行の時間が本来の時間になるまで待ちます。
3. 受信キューをフィードするすべての Q サブスクリプションを非アクティブにします。
4. 無効なセットアップに含まれていた送信キューおよび受信キューすべてからの全メッセージを削除します。
5. startq コマンドを発行して、Q Apply プログラムが受信キューからの読み取りを再開できるようにします。
6. すべての Q サブスクリプションをアクティブにします。

ASN7554W *program_name* : *program_identifier* : 従属 Q サブスクリプション *name* が非アクティブ (I) 状態にあるため、RI 制約 *constraint_name* を Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* のターゲット *target_name* に追加できませんでした。制約は IBMQREP_SAVERI 表に保管されました。引き続きプログラムは、RI 制約を使用しないで変更を Q サブスクリプションに適用します。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 従属 Q サブスクリプションが非アクティブ状態にあるかどうか判別します。アクティブにされていない場合には、アクティブにします。エラーのために非アクティブ状態にある場合は、Q Apply 診断ログ・ファイルを調べてエラーを修正してください。従属 Q サブスクリプションがアクティブになると、Q Apply プログラムは IBMQREP_SAVERI 表に保管され

ていた RI 制約を追加します。

ASN7555W *program_name* : *program_identifier* : **Q** サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name* レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) のターゲット *table_name* には、**Q Apply** プログラムが認識していない表を使用している RI 制約 *constraint_name* があるため、そのターゲットに RI 制約を追加できません。

説明: Q Apply プログラムが、Q サブスクリプションに RI 制約を追加しようとした際に SQLCODE 667 を検出しました。Q Apply プログラムが従属表を認識していない可能性があります。従属表で定義された Q サブスクリプションがないか、Q サブスクリプションは定義されているものの CAPSTART シグナルが全く発行されなかったためです。従属 Q サブスクリプションがアクティブになると、Q Apply プログラムは IBMQREP_SAVERI 表に保管されていた RI 制約を追加します。

ユーザーの処置: 従属表を見つけ、その表で Q サブスクリプションを定義します。Q サブスクリプションが定義されている場合には、CAPSTART シグナルを発行してください。

ASN7557W *program_name* : *program_identifier* : レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の受信キュー *queue_name* のメモリー限界が低すぎます。現在 *memory_limit* **MB** ですが、*memory_limit* **MB** 以上でなければなりません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 指定されたレプリケーション・キュー・マップの、IBMQREP_RECVQUEUES 表内の MEMORY_LIMIT 値を大きくしてください。

ASN7558E *program_name* : *program_identifier* : 予備キュー *queue_name* が満杯です。**Q** サブスクリプション *name*。レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*。

説明: 予備キューのメッセージ数が、この予備キューの MAXDEPTH 属性に設定された数に達しました。予備キューがいっぱいで、Q アプライ・プログラムが書き込むことができません。Q アプライ・プログラムは依然としてターゲット表のロードを行っていると考えられますが、対応するソース表には相当の更新が加えられていません。

ユーザーの処置: 可能なら、Q キャプチャー・プログ

ラムを停止します。必要であれば、予備キューの MAXDEPTH 属性の値を増やしてください。

ASN7559W *program_name* : *program_identifier* : レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の受信キュー *queue_name* のメモリー限界が高すぎます。現在 *memory_limit* **MB** ですが、*memory_limit* **MB** 未満でなければなりません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 指定されたレプリケーション・キュー・マップの、IBMQREP_RECVQUEUES 表内の MEMORY_LIMIT 値を下げてください。

ASN7583W *program_name* : *program_identifier* : **LOB** データを取り出す際にエラーが発生しました。**Q Apply** プログラムが、LOBid *lobid* の **LOB** メッセージを見つけられませんでした。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: キューからすべてのメッセージをドレーンし、Q サブスクリプションをアクティブにします。

ASN7584E *program_name* : *program_identifier* : **Q** サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) が、ストアード・プロシージャ・タイプとして定義されています。ストアード・プロシージャ *proc_name* が見つかりませんでした。

説明: IBMQREP_TARGETS で定義された名前のストアード・プロシージャが見つからないため、またはストアード・プロシージャが登録されていないため、Q サブスクリプションはアクティブにできません。

ユーザーの処置: IBMQREP_TARGETS 表の TARGET_OWNER、TARGET_NAME 列のストアード・プロシージャ・スキーマおよび名前をチェックしてください。「CREATE PROCEDURE」ステートメントを使用して、ストアード・プロシージャを登録します。

ASN7586E *program_name* : *program_identifier* : レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の受信キュー *queue_name* のメモリー限界 *memory_limit* **MB** が低すぎます。メモリー限界は、入力メッセージ・サイズ *message_size* の少なくとも **3** 倍でなければなりません。

説明: *memory_limit* は、Q Apply プログラムが適用されるトランザクションを保管するのに使用するメモリーの量です。少なくとも入力メッセージ 1つを含められる大きさであることが必要です。

ユーザーの処置: IBMQREP_SENDQUEUES 表内の入力送信キューの最大メッセージ・サイズをチェックしてください。メモリー限界は、多くのメッセージを含めることができるようにする必要があります。そうしないと、パフォーマンスが悪くなります。そのためには、IBMQREP_RECVQUEUES 表の *memory_limit* 値を増やし、その後 REINITQ コマンドを発行するか、Q Apply 処理を停止してから開始します。

ASN7587E *program_name* : *program_identifier* : レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の受信キュー *queue_name* のメモリー限界 *memory_limit* **MB** が高すぎます。メモリー限界は、*memory_limit* **MB** 未満でなければなりません。

説明: 受信キューのメモリー限界が高すぎます。

ユーザーの処置: 指定されたレプリケーション・キュー・マップの、IBMQREP_RECVQUEUES 表内の MEMORY_LIMIT 値を下げてください。

ASN7588E *program_name* : *program_identifier* : 受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* に対する **startq** コマンドを完了できません。理由コード: *reason_code*

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0** キューが既に処理されています。
- 1** IBMQREP_TARGETS 表には、このキューに関する情報がありません。
- 2** プログラムが、まだ初期化フェーズにあります。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 0** アクションは必要ありません。

- 1** このキューの情報に関して、IBMQREP_RECVQUEUES 表をチェックしてください。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。

- 2** 後で、コマンドを再発行してください。

ASN7589E *program_name* : *program_identifier* : レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の受信キュー *queue_name* が、**IBMQREP_RECVQUEUES** 表に見つかりません。

説明: この受信キューの状態を更新しようとする際に、Q Apply ブラウザーは受信キュー名に対応する項目を IBMQREP_RECVQUEUES 表で見つけることができません。

ユーザーの処置: IBMQREP_RECVQUEUES 表の RECVQ 列をチェックしてください。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを再びアクティブにします。

ASN7590I *program_name* : *program_identifier* : **Q Apply** プログラムが、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* のキュー *queue_name* からの読み取りを停止しました。理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0** Q Apply プログラムが AUTOSTOP パラメーター・オプションを使用して実行中に、空の受信キューを検出しました。
- 1** Q Apply ブラウザーが、STOPQ コマンドを受け取りました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7591I *program_name* : *program_identifier* : **Q Apply** プログラムが、受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* に対してアプライ・エージェント *agent_name* を開始しました。

説明: Q Apply エージェントがこの受信キューに対して開始されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7592E *program_name : program_identifier : Q* アプライ・プログラム (**Q** サブスクリプション *name*、キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) が、メッセージ *message_type* のフィールド *field_name* のコード・ページの変換中に、エラーを検出しました。オリジナル値は、*field_value* です。

説明: Q キャプチャー・プログラムによって送信され、Q アプライ・プログラムによって処理される内部メッセージ内の文字フィールドを、Q アプライ・プログラムのコード・ページ (コード・ページ・コードを CCSID と言います) に変換できません。不要な変換を行わないで済むよう、ソース・データベース、Q キャプチャー・プログラム、Q アプライ・プログラム、およびターゲット・データベースを同じコード・ページで稼動することを強くお勧めします。この場合、コード・ページを別のコード・ページに変換するのに使用される ICU ライブラリーは、Q キャプチャー・プログラムのコード・ページを Q アプライ・プログラムのコード・ページに変換することはできません。DB2 UDB の場合、コマンド `db2set DB2CODEPAGE=[CCSID]` を使って、アプリケーション・コード・ページを設定できます。

ユーザーの処置: コマンドを発行して、Q アプライ・プログラムのコード・ページを Q キャプチャー・プログラムのコード・ページに設定するか、ICU ライブラリーで変換可能なコード・ページに設定します。

ASN7593E *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の列 *column_name* にサポートされていないデータ・タイプが存在するので、複製できません。データ・タイプ・コードは、*data_type* です。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 列のデータ・タイプをチェックし、DB2 UDB が、ターゲットでこのデータ・タイプをサポートしていることを確認します。サポートされていないデータ・タイプについては、Q レプリケーション資料も調べてください。

ASN7594W *program_name : program_identifier :* メッセージ・フォーマットが正しくないため、**Q Apply** プログラムが受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* からメッセージを除去しました。理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0** Q キャプチャー・プログラムが送信したメッセージは、イベント・パブリッシュを意図した XML メッセージです。Q Apply プログラムではサポートされていません。
- 1** Q Apply プログラムは、メッセージが Q キャプチャー・プログラムから送信されたことを識別できませんでした。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 0** IBMQREP_SENDQUEUES 表で、このレプリケーション・キュー・マップの送信キューのメッセージ・フォーマットを「C」に変更してください。
- 1** Q キャプチャー・プログラム以外のプログラムが、指定されたキューにメッセージを書き込むと、プログラムが停止します。このキューは、1 つの Q キャプチャー・プログラム専用で使用される必要があります。他のプログラムがこのキューを使用する場合には、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

ASN7595W *program_name : program_identifier : Q* **Apply** プログラムが **Q** サブスクリプションの非アクティブなメッセージを受け取りましたが、**SUB_ID** *SUB_ID* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) を見つけることができないか、または **Q** サブスクリプションが非アクティブ状態です。

説明: Q Apply プログラムは、入力メッセージに対応する Q サブスクリプションを複製、またはロードしていません。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションが既に非アクティブ (IBMQREP_TARGETS 表で状態が「I」) の場合には、何も行う必要はありません。Q サブスクリプションの **SUB_ID** が IBMQREP_TARGETS 表で見つからない場合、Q サブスクリプションは Q キャプチャー・プログラムに対してのみ定義されます。ターゲット情報が Q サブスクリプションの一部となるように、Q

サブスクリプションを定義します。

ASN7597E *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) が、競合アクションまたはエラー・アクションのために使用不可にされようとしています。

説明: トランザクションから変更を適用中にエラーまたは競合が検出され、競合アクションまたはエラー・アクションのために Q サブスクリプションが使用不可にされます。

ユーザーの処置: 競合またはエラーに関しては、IBMQREP_EXCEPTIONS 表を調べてください。問題を修正してから、Q サブスクリプションを再びアクティブにします。

ASN7598E *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) のトランザクション・メッセージには、列の以前の値が入っていません。

説明: Q サブスクリプションは IBMQREP_SUBS 表では before_values に「N」をおそらく指定していますが、IBMQREP_TARGETS 表の conflict_rule は「C」または「A」を指定しています。このような構成は無効です。IBMQREP_SUBS 表を CAPSTOP コマンドおよび CAPSTART コマンドを発行しないで変更した場合に、この構成になることがあります。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションが正しく定義されていることを確認してください。Q サブスクリプションを正しく定義してから、CAPSTOP を発行して、その後 CAPSTART を発行します。

ASN7605I *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) はアクティブですが、ロード・フェーズの従属 Q サブスクリプションがあるため、RI 制約をターゲット *target_name* に再び追加できませんでした。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7606I *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) がアクティブです。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7607I *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) がターゲットのロードを終了しました。変更は、スピル・キュー *queue_name* から適用されません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

ASN7608I *program_name : program_identifier :* プログラムが **Q** サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) のロードを終了し、**Q** キャプチャー・プログラムに通知しました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは必要ありません。

第 5 章 CCA メッセージ

このセクションには、構成アシスタント・インターフェース (CCA) メッセージが含まれています。メッセージは番号順にリストされています。

CCA1001I 英数字だけを使用してください。先頭の文字を数字にすることはできません。

CCA1002I 10 進数 (0 ~ 9) だけを使用してください。

CCA1003I ネットワーク上で DB2 システムは見つかりませんでした。

CCA1004I 選択されたシステム上で DB2 インスタンスは見つかりませんでした。

CCA1005I 選択されたインスタンス上で DB2 データベースは見つかりませんでした。

CCA2001W 指定されたファイル・パターンに一致するファイルが見つかりませんでした。

説明: 指定されたファイル・パターンに一致するファイルから読み取るために、要求が作成されました。パターンに一致するファイルがありませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたファイル・パターンを訂正し、処理を再試行してください。

CCA2002W TCP/IP サービス・ファイルを更新中にエラーが発生しました。

説明: サービス名およびポート番号を TCP/IP サービス・ファイルに追加しようとしたが、失敗に終わったか、あるいはネットワーク情報サービスが使用されていて、ローカル・サービス・ファイルが更新されています。ポート番号は、サービス名の代わりにノードをカタログするのに使用されました。

ユーザーの処置: ユーザーがノード・ディレクトリー項目のポート番号ではなく、サービス名を使用したい場合、ノードを手動でアンカタログしてからこのサービス名を使用して再度カタログしてください。サービス・ファイルも手操作で更新してください。ネットワーク情報サービス (NIS) が使用されている場合、ローカル・サービス・ファイルを更新する可能性があります。NIS サーバーは手操作で更新してください。この場合、ノードもポート番号を使用してカタログされています。

CCA2003W 発見要求は、1 つまたは複数の DB2 システムに対してデータを戻しませんでした。

説明: 発見要求は、要求された DB2 システムの 1 つまたは複数に対してデータを戻しませんでした。以下のいずれかが起きた可能性があります。

- 発見要求が送信された Administration Server がまだ始動していない。
- 発見要求を実行しようとしてエラーが発生した。
- ディスカバー要求が送信された DB2 システムがディスクバリー用に構成されていない。

ユーザーの処置: ディスカバー要求が送信された DB2 システムがディスクバリーに使用できるか検証してください。ディスクバリーを使用できる場合、DB2 システム上の Administration Server が実行中であることを確認してください。

CCA2004W 指定された nname 値はユニークではありません。

説明: 指定された nname 値は、ネットワークの別の NetBIOS アプリケーションですでに使用されています。

ユーザーの処置: 「はい」を選択して指定した名前を使用するか、あるいは「いいえ」で要求を取り消します。「はい」を選択すると、既存の nname を使用しているアプリケーションに影響があります。

CCA2005W 指定されたソケット番号はユニークではありません。

説明: 示されているソケット番号は、ワークステーションの別の DB2 インスタンスによって使用されています。

ユーザーの処置: 「はい」を選択して指定したソケットを使用するか、あるいは「いいえ」で要求を取り消します。「はい」を選択すると、既存のソケットを使用しているアプリケーションに影響があります。

CCA2006W 示されているサービス名とポート番号の TCP/IP サービス・ファイルに、項目がすでに存在しています。

説明: 示されているサービス名とポート番号の TCP/IP サービス・ファイルに、項目がすでに存在しています。別のアプリケーションがこの項目を使用している可能性があります。

ユーザーの処置: 「はい」を選択して既存の項目を使用するか、「いいえ」を選択して要求をキャンセルしてください。「はい」を選択すると、既存の項目を使用しているアプリケーションに影響があります。

CCA2007W 指定されたポート番号は異なったサービス名で使用されています。

説明: TCP/IP サービス・ファイルには、指定されたポート番号を使用する項目が入っていますが、関連サービス名が指定されたサービス名に一致しません。

ユーザーの処置: 「はい」を選択して指定したサービスを使用するか、「いいえ」を選択して要求をキャンセルしてください。「はい」を選択すると、新規項目がサービス・ファイルに追加されます。既存ポート番号を伴う項目を使用するアプリケーションに影響がある可能性があります。

CCA2008W 指定されたサービス名は異なったポート番号で使用されています。

説明: TCP/IP サービス・ファイルには指定されたサービス名を使用する項目が入っていますが、関連ポート番号が指定されたポート番号に一致しません。

ユーザーの処置: 「はい」を選択して指定したサービスを使用するか、「いいえ」を選択して要求をキャンセルしてください。「はい」を選択すると、サービス名を使用するサービス・ファイルの既存の項目は、指定されたポート番号を使用するように更新されます。これは、既存項目を使用するアプリケーションに影響がある可能性があります。

CCA2009W 要求がユーザーによりキャンセルされました。

説明: 要求がユーザーによりキャンセルされました。

ユーザーの処置: ありません。

CCA2010W APPC スタックの更新の試行に失敗しました。

説明: トランザクション・プログラム名を APPC スタックへ追加しようとしたのですが、失敗しました。

ユーザーの処置: APPC スタックは手操作で更新してください。トランザクション・プログラム名がスタックに追加されていない場合、サーバーへのリモート接続は不可能です。

CCA2011W サービス名およびポート番号の TCP/IP サービス・ファイルへの追加の試行に失敗しました。

説明: サービス名およびポート番号の TCP/IP サービス・ファイルへの追加の試行に失敗しました。データベース・マネージャー構成ファイルは指定されたサービス名で更新されています。

ユーザーの処置: サービス名およびポート番号の TCP/IP サービス・ファイルへの追加は手操作で行ってください。項目がサービス・ファイルに追加されていない場合、このサーバーへのリモート接続は不可能です。

CCA2012W 発見要求は DB2 システムを検出ませんでした。

説明: DB2 システムのネットワークの検索の要求は正常終了しましたが、DB2 システムは見つかりませんでした。DB2 システムが見つからなかった理由として、以下のリストにあげるものが考えられます。

- ディスカバリーの検索が DB2 システムで使用できない (つまり、DB2 システムの Administration Server の DBM 構成ファイルで DISCOVER = SEARCH が指定されない)。
- DB2 システムが、検索するためにクライアントに対して適切なディスカバリー・プロトコルで設定されていない (つまり、Administration Server 上の DISCOVER_COMM にはクライアントの DISCOVER_COMM に対して指定されたプロトコルに一致するものが入っていない)。
- ルーターまたはブリッジの別のサイドに DB2 システムがあり、ネットワークのルーターおよびブリッジが、ディスカバリー・パケットがフィルターがかけられ渡されないように、構成されている。

ユーザーの処置: DB2 システムを検索するディスカバリーのための可能な処置のリストです。

- 検索したいすべての DB2 システムの Administration Server の DBM 構成ファイルで DISCOVER = SEARCH を設定する。
- クライアントが発見要求を発行するのに使用するプロトコルの入った Administration Server 用に、DISCOVER_COMM を設定する (つまり、クライアントの DISCOVER_COMM で指定されたプロトコルを少なくとも 1 つは含むように DISCOVER_COMM を設定する)。

- ネットワーク管理者が、(指定されたプロトコルに対して) ディスカバリー・パケットを渡すことができるように、ルーターあるいはブリッジの再構成を行う。

CCA2013W リモート・データベースが APPC の使用をカタログしましたがスタックは構成されませんでした。

説明: データベースをカタログする要求があると、APPC プロトコルを使用するノードをカタログすることになります。ノードは指定されたプロファイルから検索される記号宛先名を使用してカタログされました。

APPC スタックは、スタックを構成するプロファイルに十分な情報がないか、あるいは APPC が DB2 システムで検出されないために構成されませんでした。他に一致するプロトコルがクライアントで検出されないため別のプロトコルを使用することができませんでした。

ユーザーの処置: APPC がクライアントにインストールされていない場合、クライアントとサーバーの両方で使用可能なプロトコルを使って、手動でデータベースをアンカタログし、改めて再度カタログしてください。APPC がインストールされている場合、スタックがまだ構成されていない場合にはこれを構成してください。

CCA2014W 指定されたトランザクション・プログラム名はユニークなものでないか、あるいはすでに構成されています。

説明: 指定されたトランザクション・プログラム名はすでに別の DB2 インスタンスあるいはこのサーバー上の DB2 以外のアプリケーションで使用されています。

ユーザーの処置: 「はい」を選択して指定したトランザクション・プログラム名を使用するか、あるいは「いいえ」で要求を取り消します。「はい」を選択した場合、トランザクション・プログラム名を並行して使用しているすべてのアプリケーションに対して APPC は最初に始動したアプリケーションに対してのみ作動可能です。APPC パラメーター値が指定されている場合、APPC スタックはこの値で更新されます。

CCA2015W 指定されたサービス名およびポート番号は、サービス・ファイルの別の項目で使用中です。

説明: TCP/IP サービス・ファイルには、指定されたサービス名とポート番号を使用している項目が入っていますが、これらは同一の項目では使用されていません。

ユーザーの処置: 「はい」を選択して指定したサービスを使用するか、「いいえ」を選択して要求をキャンセルしてください。「はい」を選択すると、サービス名を使用するサービス・ファイルの既存の項目は、指定されたポート番号を使用するように更新されます。これは、既

存項目を使用するアプリケーションに影響がある可能性があります。

CCA2016W パスワードは、暗号化されないテキストとして保管されます。

説明: パスワードは、暗号化されないテキストとして db2cli.ini ファイルに保管されます。

ユーザーの処置: パスワード・セキュリティが心配な場合は、「パスワードの保管」チェック・ボックスの選択を解除してください。

CCA3000C 内部エラーが発生しました。理由コード *reason-code*。

説明: 予期しない内部エラーが起きました。

ユーザーの処置: トレース機能をオンにし、エラーの原因のステップを再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管して次の情報を IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- メッセージ番号
- 理由コード
- トレース・ファイル

CCA3001N 指定されたサービス名およびポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と対立します。

説明: ユーザーによって入力されたサービス名およびポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と対立します。サービス名は別のポート番号ですで使用されているか、またはポート番号が別のサービス名ですで使用されているか、あるいはその両方の可能性があります。

ユーザーの処置: サービス・ファイルにすでにある項目と競合しないサービス名およびポート番号を指定してください。

CCA3002N I/O エラーが発生しました。

説明: ファイル位置のオープン、読み取り、変更、またはファイルのクローズを試行中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイル名を指定した場合、ファイル名が有効で、ユーザーにこのファイルへのアクセス許可があるかどうか確認してください。また、ディスクおよびオペレーティング・システムのエラーも検査してください。

CCA3003N このファイルの形式は無効です。

説明: ファイルから読み取り中にエラーが発生しました。このファイルの形式は無効です。エラーとして考えられることは、以下のとおりです。

- ファイルに無効なデータが入っている。
- ファイルに予想されたデータが入っていない。
- ファイル内のデータの順序が誤っている。

ユーザーの処置: ファイル名を指定してユーザーによってファイルが更新されていた場合は、ファイルを再生成して処理を再試行してください。問題が解決せず、ファイルがユーザーによって修正されていなかった場合、または発見要求中に問題が発生した場合、トレース機能をオンにして問題の原因となったステップを再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管して次の情報を IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- メッセージ番号
- トレース・ファイル
- ファイル名が指定されている場合は、エラーを引き起こしたファイル

CCA3004N メモリーを割り振ろうとして失敗しました。

説明: メモリーを割り振ろうとして、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: システム上で実行中の他のアプリケーションで、メモリーを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。問題が解決しない場合、トレース機能をオンにして操作を再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管して次の情報を IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- メッセージ番号
- トレース・ファイル

CCA3005N ファイルに書き込み中にエラーが発生しました。

説明: プロファイルへ書き込み中にエラーを検出しました。このエラーはホスト・システムのパスワードを更新したときにも発生する可能性があり、エラーはファイル db2pem.log に記録されます。

ユーザーの処置: ファイルが常駐するファイル・システムがフルではなく、損傷を受けていないことを確認してください。また、オペレーティング・システムのエラーも検査してください。

CCA3006N 一致するコミュニケーション・プロトコルを検出できませんでした。

説明: クライアントで使用可能なプロトコルに、サーバーで使用可能なプロトコルに一致するものがないため、データベースをカタログできません。

ユーザーの処置: クライアントとサーバーが、その両方で検出できる、少なくとも 1 つの一致する通信プロトコルを持っていることを確認してください。一致するプロトコルがクライアントおよびサーバーの両方にインストールされている場合、そのプロトコルを検出できませんでした。この場合、データベースおよびノードを手操作でカタログしてください。

CCA3007N 指定されたデータベースの別名が無効です。

説明: 指定されたデータベース別名の長が無効か、無効な文字の入った別名があります。

ユーザーの処置: 別名を訂正し、要求を再サブミットしてください。

CCA3009N 指定されたアプリケーション・リクエスト一名が無効です。

説明: 指定されたアプリケーション・リクエスト名の長が無効か、無効な文字の入った名前があります。

ユーザーの処置: アプリケーション・リクエストを訂正し、要求を再サブミットしてください。

CCA3010N 指定されたパラメーター値の長が無効です。

説明: アプリケーション・リクエストに指定されたパラメーター値の長が無効です。

ユーザーの処置: パラメーター値を訂正し、要求を再サブミットしてください。

CCA3011N 指定されたターゲット・データベースが無効です。

説明: 指定されたターゲット・データベース名の長が無効か、または無効な文字が入っています。

ユーザーの処置: ターゲット・データベース名を訂正し、要求を再サブミットしてください。

CCA3012N ODBC データ・ソースの追加に失敗しました。

説明: ODBC データ・ソースを追加する要求に失敗しました。このエラーはメモリー不足エラー、ディスク・

フル条件、またはディスク障害によって起こる可能性があります。

ユーザーの処置: ODBC.INI および DB2CLI.INI ファイルが存在するディスクがフルでなく、そのディスクが損傷を受けていないことを確認してください。さらに、多くのメモリーを使用しているアプリケーションがあれば、そのアプリケーションを終了し、操作を再試行してください。

CCA3013N ODBC データ・ソースの除去に失敗しました。

説明: ODBC データ・ソースを除去する要求が失敗しました。このエラーはメモリー条件の範囲外またはディスク障害で起こる可能性があります。

ユーザーの処置: ほかのアプリケーションが多くのメモリーを使用している場合はアプリケーションを終了し、操作を再試行してください。ODBC.INI および DB2CLI.INI ファイルが常駐するディスクが損傷を受けていないことも確認してください。

CCA3014N バインド要求を処理できません。

説明: 他のバインド操作がすでに実行中のため、バインド要求を処理できません。

ユーザーの処置: 進行中のバインドを完了または終了し、バインド要求を再サブミットしてください。

CCA3015N 指定されたアダプターが無効です。

説明: 指定されたアダプターが DB2 システムで検出されませんでした。

ユーザーの処置: 使用可能なアダプターを指定して、要求を再サブミットしてください。

CCA3016N 指定された nname 値はユニークではありません。

説明: 指定された nname 値は、ネットワークの別の NetBIOS アプリケーションですすでに使用されています。

ユーザーの処置: ユニークな nname を指定し操作を再試行してください。

CCA3017N ファイル名に指定されたパスが無効です。

説明: 指定されたファイルをオープンしようと試みましたが、指定されたパスは無効か、存在しません。

ユーザーの処置: 指定されたパスが有効でありそのファイルに存在することを確認してください。

CCA3018N ユーザーは、このファイルにアクセスするために十分な権限を持っていません。

説明: 要求されたファイルにアクセスしようとしたましたが、ユーザーがこのファイルへのアクセスに必要な権限を持っていません。

ユーザーの処置: ファイルにアクセスするのに必要な権限があることを確認してください。

CCA3019N 指定されたファイル名はディレクトリーです。

説明: 指定された名前がディレクトリーであってファイルではないため、このファイルのアクセスの試行に失敗しました。

ユーザーの処置: 有効なファイル名を指定し、操作を再度試行してください。

CCA3020N 指定されたファイルへのアクセスの試行が共用違反のために失敗しました。

説明: 指定されたファイルへのアクセスの試行が共用違反のために失敗しました。排他モードで別のプロセスがファイルをオープンしている可能性があります。

ユーザーの処置: このファイルは排他モードで別のプロセスからアクセスされています。ほかのプロセスがこのファイルにアクセスしないようにし、操作を再度試行するか、別のファイル名を指定してください。

CCA3021N 変数 *variable-name* を DB2 プロファイル・レジストリーに追加、検索、または除去しようとして失敗しました。戻りコード *return-code*。

説明: 指示された変数を検索、追加、または DB2 プロファイル登録から削除しようとしたましたが、失敗しました。戻りコードは問題の原因を示しています。戻りコードには、以下のものがあります。

- -2 指定されたパラメーターが無効である
- -3 要求を処理するためのメモリーが不足
- -4 レジストリー内で変数が見つからない
- -7 この DB2 システムで DB2 プロファイル・レジストリーが見つからない
- -8 指定のインスタンスのプロファイルが見つからない
- -9 指定のノードのプロファイルが見つからない
- -10 UNIX レジストリーのファイル・ロックのタイムアウト

ユーザーの処置: これらの理由コードに対して、以下のことを実行してください。

- -2 パラメーターが正しく指定されていることを確認する。
- -3 多くのメモリーを使用している別のアプリケーションを終了して、操作を再試行する。
- -4 変数が DB2 プロファイル・レジストリーに設定されていることを確認する。
- -7 DB2 プロファイル・レジストリーが作成されていることを確認する。
- -8 このインスタンスのプロファイルが作成されていることを確認する。
- -9 このノードのプロファイルが作成されていることを確認する。
- -10 レジストリー・ファイルが別の処理によってロックされていないことを確認する。

CCA3022C 関数 *procedure-name* のアドレスをライブラリー *library-name* から検索しようとして失敗しました。戻りコード *return-code*。

説明: 指示されたライブラリーから関数のアドレスの検索の試行に失敗しました。

ユーザーの処置: ライブラリーの正しいバージョンが使用されているかを確認してください。正しくないバージョンが使用されている場合は、正しいバージョンをインストールしてください。問題が続く場合は、トレース機能をオンにしてエラーの原因のステップを再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管して次の情報を IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- メッセージ番号
- 戻りコード
- トレース・ファイル

CCA3023C ライブラリー *library-name* をロードしようとして失敗しました。戻りコード *return-code*。

説明: 指示されたライブラリーのロードの試行に失敗しました。

ユーザーの処置: ライブラリーが常駐するパスにライブラリーのパスが入っているかを確認してください。また、ライブラリーをロードするのに使用可能なメモリーが十分あるかどうかを確認してください。問題が続く場合は、トレース機能をオンにしてエラーの原因のステップを再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管して次の情報を IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- メッセージ番号
- 戻りコード
- トレース・ファイル

CCA3024C ライブラリー *library-name* をアンロードしようとして失敗しました。戻りコード *return-code*。

説明: 指示されたライブラリーのアンロードの試行に失敗しました。

ユーザーの処置: トレース機能をオンにし、内部エラーの原因となったステップを再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管して次の情報を IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- メッセージ番号
- 戻りコード
- トレース・ファイル

CCA3025N 指定された 1 つまたは複数の IPX/SPX パラメーターが無効です。

説明: 1 つまたは複数の入力パラメーターが無効です。エラーとして考えられるものは、以下のとおりです。

- *fileserv*、*objectname* および *ipx_socket* パラメーターの中で NULL となっているものがある。
- *fileserv* パラメーターあるいは *objectname* パラメーターのみが "*" に設定されている。
- *fileserv* または *objectname* パラメーター、あるいはその両方が Windows NT および Solaris に対して "*" に設定されていない。
- 指定された *objectname* 値はユニークではない。
- 指定された *ipx_socket* 値はユニークではない。
- 指定された *ipx_socket* 値が有効範囲内にない。
- 指定された *fileserv* へのアタッチに DB2 システムが失敗しました。

ユーザーの処置: 以下の項目について確認してください。

- *fileserv*、*objectname* および *ipx_socket* パラメーターが NULL となっていない。
- *fileserv* に指定された値が "*" の場合、*objectname* の値も "*" である。
- Windows NT および Solaris では *fileserv* および *objectname* は両方とも "*" になっている。

- objectname に指定された値が "*" でない場合、fileserver に登録されているすべての DB2 インスタンスおよび IPX/SPX アプリケーション登録に対してその値がユニークでない。
- ipx_socket に対して指定された値が、DB2 システムのすべての DB2 インスタンスについてユニークではない。
- ipx_socket に対して指定された値が有効範囲内である。
- 指定された fileserver が存在し、実行中である。

すべてのエラーを訂正し、操作を再試行してください。

CCA3026N 使用可能な NetBIOS アダプターを検出できませんでした。

説明: NetBIOS アダプターをこの DB2 システムで検出できませんでした。このデータベースはカタログされません。

ユーザーの処置: データベースおよびノードを、アダプターが DB2 システムで使用可能な場合は手操作でカタログしてください。

CCA3027N 指定されたポート番号は範囲外にあります。

説明: 指定された TCP/IP ポート番号は範囲外にあります。ポート番号に指定可能な最大値は 65534 です。

ユーザーの処置: 最大値を超えないポート番号を指定し、操作を再試行してください。

CCA3028N DB2INSTANCE 変数が無効です。

説明: DB2INSTANCE 環境変数が設定されていないか、Administration Server のインスタンスに設定されていません。構成アシスタントは、Administration Server インスタンス下では稼働できません。

ユーザーの処置: DB2INSTANCE 変数を Administration Server インスタンス以外のインスタンスに設定してください。

CCA3029N ODBC データ・ソース設定の更新が失敗しました。

説明: ODBC データ・ソースの設定を更新する要求が失敗しました。このエラーはメモリー不足エラー、ディスク・フル条件、またはディスク障害によって起こる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2CLI.INI ファイルが存在するディスクがフルでなく、そのディスクが損傷を受けていないことを確認してください。さらに、多くのメモリーを使

用しているアプリケーションがあれば、そのアプリケーションを終了し、操作を再試行してください。

CCA3030N APPC を構成する値に欠落があります。

説明: APPC を使用しているデータベースをカタログする、あるいは APPC のサーバー・インスタンスを構成する要求が行われました。この要求は 1 つまたは複数のパラメーターが指定されていないため完了できませんでした。

ユーザーの処置: 必須パラメーターがすべて指定されているかを確認してから操作を再試行してください。

CCA3031N APPC スタックは選択したデータベースに対して構成されません。

説明: 選択されたデータベースはデータベース接続で APPC を使用しています。ただし、APPC スタックは接続に対して構成されません。

ユーザーの処置: 選択されたデータベースに対して APPC スタックを構成してください。

CCA3051N protocol プロトコル・インターフェース障害が発生し、戻りコードは return-code です。

説明: プロトコル・インターフェースにアクセスしようとして障害が発生しました。

ユーザーの処置: プロトコルが操作可能になっていることを確認してください。

CCA3052N 指定された項目 item-name が見つかりませんでした。

説明: 指定した項目名が構成データの中に見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 項目名を正しく指定したことを確認してください。

CCA3053N 指定された ODBC DSN DSN-name が無効です。

説明: 指定された ODBC DSN は無効な名前です。

ユーザーの処置: ODBC DSN 名に有効な文字を使用していることを確認してください。

CCA3054N ODBC DSN は登録できませんでした。

説明: ODBC DSN は登録が失敗しました。

ユーザーの処置: ODBC が正しくインストールされており、機能していることを確認してください。

CCA3055N 指定された項目 *item-name* はすでに存在します。

説明: 指定した項目名が構成データの中にすでに存在しています。

ユーザーの処置: 項目名を正しく指定したことを確認してください。別の項目名を使用するか、古い項目を削除して要求を再サブミットしてください。

CCA3056N ホスト名 *host-name* が見つかりませんでした。

説明: 指定されたホスト名をネットワーク上で解決できませんでした。

ユーザーの処置: 指定したホスト名が正しく、ネットワーク上で有効なホスト名であることを確認してください。

CCA3057N サービス名 *service-name* が見つかりませんでした。

説明: 指定されたサービス名がローカル・サービス・ファイルにありませんでした。

ユーザーの処置: 指定したサービス名が正しく、ローカル・サービス・ファイルにそのサービス名の有効な項目があることを確認してください。

CCA3058N ローカル・システム・オブジェクトを除去することは許可されていません。

説明: ローカル・システム・オブジェクトはサーバー・インストールであり、クライアント・インストールではないと思われます。このオブジェクトはサーバー・インストール・タイプで要求される特別なプロパティを持つため、これを除去する直接のコントロールを持っていません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

CCA3059N ローカル・システム・オブジェクトを変更することは許可されていません。

説明: ローカル・システム・オブジェクトはサーバー・インストールであり、クライアント・インストールではないと思われます。このオブジェクトはサーバー・インストール・タイプで要求される特別なプロパティを持つため、これを変更する直接のコントロールを持っていません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

CCA3060N 選択したシステム・オブジェクトを変更することは許可されていません。

説明: 選択したシステムは、DB2 管理ツールでサポートされていない通信プロトコルを使用しています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

CCA3061N サーバーの構成が不完全です。

説明: サーバー・プロファイル内のサーバー構成情報には、要求された操作を完了するのに必要なデータがありません。詳細については、db2diag.log を参照してください。

ユーザーの処置: システム管理者に問い合わせ、サーバーの構成が正しいかどうかを確認してください。

CCA3062N "Common" は、予約済みのデータ・ソース名です。

説明: "Common" は、DB2 CLI により予約されているデータ・ソース名です。

ユーザーの処置: 別のデータ・ソース名を入力してください。

CCA3063N 指定されたサービス名およびポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と対立します。サービス・ファイルの既存値を上書きしますか?

説明: ユーザーによって入力されたサービス名およびポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と対立します。サービス名は別のポート番号ですすでに使用されているか、またはポート番号が別のサービス名ですすでに使用されているか、あるいはその両方の可能性があります。

ユーザーの処置: サービス・ファイルの既存値を新しい値で上書きするには「はい」をクリックしてください。

操作を取り消して、サービス・ファイルの既存値を維持するには「いいえ」をクリックしてください。

CCA3064N 指定された新しいデータ・ソース名はすでに存在します。

説明: 同じ名前のデータ・ソース項目がすでに存在しますが、その内容は新しい項目の指定内容とは一致しません。このため、再利用はできません。

ユーザーの処置: 別のデータ・ソース名を使用してください。

CCA3065N 要求された操作は、オフライン (OFFLINE) モードでは使用できません。

説明: モードがオフライン (OFFLINE) である間、無効または適応されない操作タスクが要求されました。操作を続行できません。

ユーザーの処置: この操作をやり直す前に、オフライン (OFFLINE) モードから、モードを変更してください。

CCA3066N 要求された操作は、リモート (REMOTE) モードでは使用できません。

説明: モードがリモート (REMOTE) である間、無効または適応されない操作タスクが要求されました。操作を続行できません。

ユーザーの処置: この操作をやり直す前に、リモート (REMOTE) モードから、モードを変更してください。

CCA5000N 指定されたユーザー ID が無効です。

説明: 指定されたユーザー ID が存在しません。

ユーザーの処置: 正当なユーザー ID を入力して要求を再度実行してください。

CCA5001N 指定されたパスワードが誤っています。

説明: ユーザー ID に対して指定されたパスワードが誤っています。

ユーザーの処置: ユーザー ID に対して正当なパスワードを入力して要求を再度実行してください。

CCA5002N ユーザー ID に対するパスワードが期限切れです。

説明: ユーザー ID に対するパスワードが期限切れで更新できません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してパスワードのリセットを行ってください。

CCA5003N 指定された新規パスワードが無効です。

説明: 指定された新規パスワードが無効です。

ユーザーの処置: 有効なパスワードを入力し、要求を再実行してください。

CCA5004N 予期しないエラーが起きました。

説明: 指定されたユーザー ID に対するパスワードを更新しようとして予期しないエラーが起きました。追加情報が、インスタンス・ディレクトリーのファイル db2pem.log に書き込まれている可能性があります。

ユーザーの処置: さらに援助が必要な場合には、システム管理者に連絡してファイル db2pem.log からの情報を提供してください。

CCA5005N 新規パスワードが確認パスワードと一致していません。

説明: 新規パスワードが確認パスワードと一致していません。

ユーザーの処置: 新規パスワードを両方のテキスト・ボックスに入力してください。

CCA5006N 指定されたポート番号が無効です。

説明: 指定されたポート番号は範囲外にあります。ゼロより大きく 65535 より小さい範囲である必要があります。

ユーザーの処置: 新規ポート番号を入力し、操作をやり直してください。

CCA5007N 指定されたパラメーター値が無効です。

説明: 指定されたパラメーター値は範囲外にあります。

ユーザーの処置: 新規パラメーター値を入力し、操作をやり直してください。

CCA5008N 指定されたアダプター番号が無効です。

説明: 指定されたアダプター番号は範囲外にあります。0 と 255 の間である必要があります。

ユーザーの処置: 新規アダプター番号を入力し、操作をやり直してください。

第 6 章 CLI メッセージ

この項では、コール・レベル・インターフェース (CLI) メッセージについて説明されています。メッセージは番号順にリストされています。

CLI0001W 切断エラーです。

説明: 切断中にエラーが起きました。ただし、切断は成功しました。

ユーザーの処置: クライアントとサーバー間の通信がまだアクティブであるかを調べてください。

CLI0002W データが切り捨てられました。

説明: 指定された出力バッファには、データを入れるために十分な大きさがありません。

ユーザーの処置: 出力バッファのサイズを増やしてください。

CLI0003W 権限が取り消されませんでした。

説明: ステートメントが REVOKE ステートメントで、ユーザーは指定された権限を持っていませんでした。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

CLI0004W 接続ストリング属性が無効です。

説明: 接続ストリングで指定された接続ストリング属性が無効、またはサポートされていません。ただし、ドライバーはデータ・ソースに接続可能でした。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

CLI0005W オプション値が変更されました。

説明: ドライバーは指定されたオプションの値をサポートしていないので、類似した値が代用されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

CLI0006W SQLCancel をクローズと同様に扱いました。

説明: SQLCancel 呼び出しが、SQL_CLOSE オプションによる SQLFreeStmt 呼び出しのように処理されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

CLI0100E パラメーターの数が正しくありません。

説明: SQLSetParam または SQLBindParameter に指定されたパラメーター数が、SQL ステートメントにあるパラメーター数よりも小さくなっています。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを再指定するか、SQLSetParam または SQLBindParameter を使用してパラメーター数を増やしてください。

CLI0101E ステートメントが結果セットを返しませんでした。

説明: 前のステートメントによって結果セットが返されていません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを再指定してください。

CLI0102E 無効な変換です。

説明: アプリケーションのデータ・タイプと SQL データ・タイプ間の変換は、ドライバーによってサポートされていません。

ユーザーの処置: ドライバーによってサポートされているデータ変換を再指定してください。

CLI0103E 列が多すぎます。

説明: SQLBindCol に指定された列数が、現在の結果セットの列数よりも多くなっています。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを再指定するか、または SQLBindCol にあるバインド済み列情報をリセットしてください。

CLI0104E データ・ソースに接続できませんでした。

説明: ドライバーが、データ・ソースとの接続を確立できませんでした。

ユーザーの処置: サーバーが始動しており、クライアントとサーバーの間の通信が正しいことを確認してください。

CLI0105E 接続が使用中です。

説明: 指定された接続ハンドルはすでに使用されており、接続はまだオープンされています。

ユーザーの処置: SQLAllocConnect を使用して新しい接続を割り振り、接続を再試行するか、または既存の接続を終了してください。

CLI0106E 接続がクローズされています。

説明: 接続ハンドルによって指定された接続が、アクティブではありません。

ユーザーの処置: 新しい接続を確立してください。

CLI0107E トランザクション中に、接続に障害が起きました。

説明: 機能の実行中に接続に障害が起き、障害の前に COMMIT または ROLLBACK が実行されたかどうか判別できません。

ユーザーの処置: 新しい接続を確立してください。

CLI0108E 通信リンクに障害が起きました。

説明: この機能の実行中に、ドライバーとデータ・ソース間の接続に障害が起きました。

ユーザーの処置: 新しい接続を確立してください。

CLI0109E スtring・データの右側が切り捨てられました。

説明: SQLSetParam または SQLBindParameter を使用して指定されたデータが、パラメーター・マーカの使用に対して許可された最大サイズを超えています。

ユーザーの処置: SQLSetParam または SQLBindParameter を使用して、パラメーターを再指定してください。

CLI0110E 無効な出力または標識バッファが指定されました。

説明: 返されたデータが NULL でしたが、指定された出力または標識バッファは NULL バッファでした。

ユーザーの処置: 非 NULL バッファを与えて出力または標識バッファを再指定し、操作をやり直してください。

CLI0111E 数値が範囲外です。

説明: 数値データが返されると、数値の整数部分が切り捨てられる可能性があります。

SQLPutData がパラメーターに対して複数回呼び出され、入力データは文字または バイナリー数のタイプではありませんでした。

ユーザーの処置: 数値データが切り捨てられないようにするために、SQLBindCol または SQLGetData のいずれかを使用して、出力バインドを再指定してください。

SQLSetParam または SQLBindParameter によってそのパラメーターに指定されたアプリケーションのデータ・タイプが SQL_C_CHAR または SQL_C_BINARY ではない場合は、パラメーターに対して SQLPutData を呼び出さないでください。

CLI0112E 割り当てにエラーがありました。

説明: パラメーターまたは列について送信されたデータが、関連する表の列のデータ・タイプと一致しません。

ユーザーの処置: SQLBindCol または SQLGetData を使用して出力バインドを、あるいは SQLSetParam または SQLBindParameter を使用して入力バインドを再指定してください。

CLI0113E 無効な日付/時刻形式です。

説明: 日付/時刻フィールドについて送信されたデータが無効です。無効な日時形式が検出されました。これは、無効なストリング表現または値が指定されたことが考えられます。

ユーザーの処置: 日付データを再指定してください。

CLI0114E 日時フィールドがオーバーフローしました。

説明: 日付、時刻、またはタイム・スタンプ・パラメーター、あるいは列について送信したデータが無効です。

ユーザーの処置: 日付、時刻、またはタイム・スタンプのデータを再指定してください。

CLI0115E カーソル状態が無効です。

説明: ステートメントが行に位置付けられていません。

ユーザーの処置: SQLFetch または SQLExtendedFetch を呼び出して、ステートメントを行に位置付け、操作をやり直してください。

CLI0116E トランザクション状態が無効です。

説明: SQLDisconnect が呼び出されたとき、実行中のトランザクションがありました。

ユーザーの処置: SQLDisconnect を呼び出す前に、SQLTransact を呼び出してください。

CLI0117E カーソル名が無効です。

説明: 無効な、または重複したカーソル名が SQLSetCursorName に指定されました。

ユーザーの処置: SQLSetCursorName を使用して、有効なカーソル名を再指定してください。

CLI0118E SQL 構文が無効です。

説明: 無効な、または誤った SQL ステートメントが指定されました。

ユーザーの処置: 有効な SQL ステートメントを再指定してください。

CLI0119E 予期しないシステム障害です。

説明: 機能の処理中に予期しないシステム障害が起きました。

ユーザーの処置: アプリケーションを再始動して、もう一度やり直してください。

CLI0120E メモリーの割り振りが失敗しました。

説明: ドライバーは、機能の実行または完了をサポートするために必要なメモリーを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: 要求された操作を完了するために十分なメモリーがシステムにあるかを確認してください。

CLI0121E 無効な列数です。

説明: iCol で指定された値が 0 より小さいか、結果セットにある列数より大きい、または結果セットで許可されている列の最大数を超過しています。

ユーザーの処置: iCol に有効な値を再指定してください。

CLI0122E プログラム・タイプが範囲外です。

説明: fCType に指定された値が無効です。

ユーザーの処置: fCType に有効な値を再指定してください。

CLI0123E SQL データ・タイプが範囲外です。

説明: fSQLType に指定された値が無効です。

ユーザーの処置: fSQLType に有効な値を再指定してください。

CLI0124E 引き数の値が無効です。

説明: 引き数に指定された値が無効です。 NULL ポインター、無効な長さ、無効なオプションなどが原因として考えられます。

ユーザーの処置: 関数に渡された引き数をもう一度調べて、無効な引き数を判別してください。

CLI0125E 関数のシーケンス・エラーです。

説明: この関数が誤った順序で呼び出されました。

ユーザーの処置: アプリケーションでの順序を訂正して、操作をやり直してください。

CLI0126E この時点で無効な操作です。

説明: システムが実行しようとした操作は、この時点では無効です。

ユーザーの処置: 操作の順序を訂正して、操作をやり直してください。

CLI0127E トランザクション・コードが無効です。

説明: SQLTransact に指定されたトランザクション・オプションが、SQL_COMMIT または SQL_ROLLBACK ではありませんでした。

ユーザーの処置: SQL_COMMIT または SQL_ROLLBACK のどちらかを指定して、操作をやり直してください。

CLI0128E 予期しないメモリー・ハンドリング・エラーです。

説明: メモリー・ハンドリング・エラーです。

ユーザーの処置: 内部メモリー・バッファーを処理中に、ドライバーで予期しないエラーが起きました。アプリケーションを再始動してください。

CLI0129E これ以上ハンドルがありません。

説明: SQLAllocEnv、SQLAllocConnect、または SQLAllocStmt を呼び出しましたが、ドライバーで使用できるハンドルはこれ以上ありません。

ユーザーの処置: SQLFreeEnv、SQLFreeConnect、または SQLFreeStmt を呼び出して、アプリケーションで使

用していないハンドルを解放してください。

CLI0130E 使用できるカーソル名がありません。

説明: ステートメント上にオープン・カーソルがなく、カーソルが `SQLSetCursorName` で設定されていません。

ユーザーの処置: `SQLSetCursorName` を使用して、カーソル名を指定してください。

CLI0131E スtringまたはバッファの長さが無効です。

説明: 指定されたバッファの長さが無効です。

ユーザーの処置: 有効なバッファ長を指定してください。

CLI0132E 記述子タイプが範囲外です。

説明: 指定された記述子タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な記述子タイプを指定してください。

CLI0133E オプション・タイプが範囲外です。

説明: 指定されたオプション・タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効なオプション・タイプを指定してください。

CLI0134E 無効なパラメータ数です。

説明: パラメータ番号に指定された番号が 0 より小さいか、またはデータ・ソースによってサポートされているパラメータの最大値を超えています。

ユーザーの処置: 有効なパラメータ番号を指定してください。

CLI0135E 位取りの値が無効です。

説明: 指定された位取りの値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な位取り値を指定してください。

CLI0136E 関数タイプが範囲外です。

説明: 関数タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な関数タイプの値を指定してください。

CLI0137E 情報タイプが範囲外です。

説明: 情報タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な情報タイプの値を指定してください。

CLI0138E 列タイプが範囲外です。

説明: 列タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な列タイプの値を指定してください。

CLI0139E 有効範囲のタイプが範囲外です。

説明: 有効範囲のタイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な有効範囲タイプの値を指定してください。

CLI0140E Uniqueness オプション・タイプが範囲外です。

説明: uniqueness オプション・タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な uniqueness オプション・タイプの値を指定してください。

CLI0141E Accuracy オプション・タイプが範囲外です。

説明: accuracy オプション・タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な accuracy オプション・タイプの値を指定してください。

CLI0142E Direction オプションが範囲外です。

説明: direction オプションが無効です。

ユーザーの処置: 有効な direction オプションの値を指定してください。

CLI0143E 精度の値が無効です。

説明: 精度の値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な精度の値を指定してください。

CLI0144E パラメータ・タイプが無効です。

説明: パラメータ・タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効なパラメータ・タイプの値を指定してください。

CLI0145E フェッチ・タイプが範囲外です。

説明: フェッチ・タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効なフェッチ・タイプの値を指定してください。

CLI0146E 行の値が範囲外です。

説明: 行の値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な行の値を指定してください。

CLI0147E Concurrency オプションが範囲外です。

説明: concurrency オプションは無効です。

ユーザーの処置: 有効な concurrency オプションの値を指定してください。

CLI0148E カーソルの位置が無効です。

説明: カーソルの位置が無効です。

ユーザーの処置: 有効なカーソルの位置の値を指定してください。

CLI0149E ドライバーの完了が無効です。

説明: ドライバーの完了が無効です。

ユーザーの処置: 有効なドライバー完了値を指定してください。

CLI0150E ドライバーが使用できません。

説明: この操作は有効ですが、ドライバーまたはデータ・ソースによってサポートされていません。

ユーザーの処置: 有効な操作を指定してください。

CLI0151E ペンディングのデータはありません。

説明: SQLParamData または SQLPutData が呼び出されましたが、このステートメントで実行をペンディングのデータがありません。

ユーザーの処置: SQLSetParam または SQLBindParameter を使用して、パラメーターを再指定してください。

CLI0152E ストリング値ではありません。

説明: 関数は、ストリング引き数が指定されることを予期しています。

ユーザーの処置: 関数に渡す引き数を再指定してください。

CLI0153E ファイル名の長さが無効です。

説明: ファイル名に指定された長さが無効です。

ユーザーの処置: 有効なファイル名の長さを指定してください。

CLI0154E 接続状態が無効です。

説明: 接続タイプを変更しようとしたが、接続または他の接続 (分散作業単位の場合) がすでにオープンされています。

ユーザーの処置: 接続がオープンされてから、接続タイプを変更しないでください。

CLI0155E ファイル名が長すぎます。

説明: ファイル名に与えられた長さが、サポートされている長さを超えています。

ユーザーの処置: 有効なファイル名の長さを指定してください。

CLI0156E ファイルのクローズ・エラーです。

説明: ファイルをクローズ中に予期しない状態が起きました。

ユーザーの処置: やり直してください。

CLI0157E ファイルのオープン・エラーです。

説明: ファイルをオープン中に予期しない状態が起きました。

ユーザーの処置: やり直してください。

CLI0158E ファイルの書き込みエラーです。

説明: ファイルの書き込み中に予期しない状態が起きました。

ユーザーの処置: やり直してください。

CLI0159E ファイルの削除エラーです。

説明: ファイルを削除中に予期しない状態が起きました。

ユーザーの処置: やり直してください。

CLI0164E NULL 可能タイプが範囲外です。

説明: 無効な NULL 可能値が指定されました。

ユーザーの処置: NULL 可能値を再指定してください。

CLI0165E 行にエラーがあります。

説明: 1 つ以上の行をフェッチ中にエラーが起きました。(関数は SQL_SUCCESS_WITH_INFO を返しました。)

ユーザーの処置: やり直してください。

CLI0166E PARMLIST 構文エラーです。

説明: ストアード・プロシージャのカタログ表の PARMLIST の値に、構文エラーがあります。

ユーザーの処置: このストアード・プロシージャの行を再指定してください。

CLI0167E 操作が取り消されました。

説明: SQLCancel がステートメントで呼び出されました。

ユーザーの処置: 操作を再サブミットしてください。

CLI0171E データベースが接続できませんでした。理由: *reason-text*

説明: データベース接続が失敗しました。「理由:」は、データベースが接続できなかった理由を説明します。

ユーザーの処置: 問題を修正し、もう一度接続を試みてください。

CLI0172E データベースが接続できませんでした。構成を続けますか? 理由: *reason-text*

説明: データベース接続が失敗しました。「理由:」は、データベースが接続できなかった理由を説明します。

ユーザーの処置: 問題を修正し、もう一度接続を試みるか、または構成を続けてください。

CLI0175E ODBC Driver Manager が見つかりません。ODBCINST.INI ファイルをオープンできません。

説明: Visigenic または Intersolv のいずれかの ODBC Driver Manager がインストールされていません。ODBC Driver Manager は、関連した ODBCINST.INI ファイルに DB2 ODBC ドライバーを登録する前に存在していなければなりません。

ユーザーの処置: ODBC Driver Manager をインストールして、このコマンドの実行をやり直してください。

CLI0176E ODBCINST.INI ファイルに書き込みできません。

説明: ODBC Driver Manager で使用される ODBCINST.INI ファイルへの書き込み中にエラーが起きました。これは、オリジナルの ODBCINST.INI ファイルの形式が正しくないために起こることがあります。

ユーザーの処置: 既存の ODBCINST.INI ファイルを他の名前に変更して、このコマンドの実行をやり直してください。このエラーが続く場合には、技術サービス担当者に連絡してください。

CLI0177E DB2 OS/2 クライアントがインストールされている場所を判別することができません。

説明: DB2 OS/2 クライアントのインストール場所を見つけようとしている時にエラーが起きました。

ユーザーの処置: DB2 OS/2 クライアントが正しくインストールされていることを確認してください。

CLI0178I DB2 ODBC ドライバーが正常に登録されました。

説明: DB2 ODBC ドライバーは、インストール済みの ODBC Driver Manager に登録されました。

ユーザーの処置: ユーザーはこの時点で、ODBC Driver Manager ベンダーによる適切な ODBC 管理者ツールを使用し、ODBC データ・ソースを構成することができます。

CLI0179E ダイアログ・ボックスを表示できません。

説明: DB2 ODBC ドライバーは、アプリケーションによって用意されたウィンドウ・ハンドルでダイアログ・ボックスをオープンすることができません。

ユーザーの処置: アプリケーションは正しいウィンドウ・ハンドルを渡さなければなりません。

CLI0180E ブックマークの値が無効です。

説明: 引き数 fFetchOrientation は SQL_FETCH_BOOKMARK であり、SQL_ATTR_FETCH_BOOKMARK_PTR ステートメント属性の値が指すブックマークは正しくありません。

ユーザーの処置: 正しいブックマークの値を再指定してください。

CLI0181E 記述子索引が無効です。

説明: 列番号の引き数として指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 正しい列番号を再指定してください。

CLI0182W 小数点以下切り捨てです。

説明: ある列のデータが切り捨てられました。

ユーザーの処置: 特になし。

CLI0183E 関連ステートメントが準備されていません。

説明: 記述子ハンドルは IRD と関連があり、関連ステートメント・ハンドルが準備状態にありません。

ユーザーの処置: 記述子と関連のあるステートメントを準備してください。

CLI0184E インプリメンテーション行の記述子を修正できません。

説明: 記述子ハンドルは IRD と関連があり、IRD レコード・フィールドを更新できません。

ユーザーの処置: 正しい記述子およびフィールドを指定してください。

CLI0185E 自動割り振りの記述子ハンドルについて無効な使用です。

説明: SQLAllocHandle 関数を使用して割り振られた明示記述子のみ、この方法で使用することができます。

ユーザーの処置: 明示的に割り振った記述子を使用してください。

CLI0186E サーバーは取り消し要求を拒否しました。

説明: 通信エラーのため、サーバーが取り消し要求を拒否しました。

ユーザーの処置: 特になし。

CLI0187E 文字またはバイナリー数のいずれでもないデータが別々に送信されました。

説明: SQLPutData が、文字またはバイナリー数ではない列に対して複数呼び出されました。

ユーザーの処置: 文字またはバイナリー数のいずれでもないデータに対して、SQLPutData を 1 回だけ呼び出してください。

CLI0188E null 値の連結を試行します。

説明: このパラメーターに対する SQLPutData の直前の呼び出しによって、長さが SQL_NULL_DATA の入力バッファーが指定されました。

ユーザーの処置: 正しい入力バッファーの長さで SQLPutData を呼び出すか、または SQLPutData を正確な回数で呼び出していることを確認してください。

CLI0189E 記述子情報が矛盾します。

説明: 関連する記述子が、整合性検査で失敗しました。

ユーザーの処置: 記述子フィールドが正しいか、また互いに依存しているフィールドがすべて正しく設定されているかを確認してください。

CLI0190E 間接的な参照では無効な記述子です。

説明: 記述子ハンドルが無効であるか、または ARD の TYPE、OCTECT_LENGTH、DATA_PTR、INDICATOR_PTR、OCTECT_LENGTH_PTR フィールドに無効な値が入っています。

ユーザーの処置: 間接記述子ハンドルが正しいか、また据え置きフィールドが正しく設定されているかどうか確認してください。

CLI0191E 属性の値が無効です。

説明: 与えられた値は、指定した属性について正しくありません。

ユーザーの処置: 指定した属性に正しい値を使用してください。

CLI0192E 無効なデータベース別名が指定されました。

説明: DB2CAP コマンドの -d パラメーターに無効な、または存在しないデータベース別名を指定しました。

ユーザーの処置: 存在するデータベース別名を指定してください。現在カタログされているデータベースを判別するには、LIST DATABASE DIRECTORY コマンドを使用してください。

CLI0193E 構成ファイル *capture-file-name* が見つからないか、または使用中です。

説明: DB2CAP は、BIND パラメーター値として指定されたファイル <capture-file-name> をオープンすることができません。ファイルが存在しないか、または別のプロセスが独占して使用しています。

ユーザーの処置: 存在するキャプチャー・ファイルの名前を指定するか、またはファイルが別のプロセスから解放されるまで待機してください。

CLI0194E コマンド構文エラーです。正しい構文:
**db2cap [-h | -?] bind capture-file -d
db-alias [-u userid [-p password]]**

説明: コマンド名と同様、DB2CAP コマンドのパラメーターは、上の構文図に示されているように正しく入力しなければなりません。UNIX プラットフォームでは大文字小文字が区別されますが、Intel プラットフォームでは区別されません。パラメーターとその値の間には、スペースを少なくとも 1 つ入れなければなりません。例: -u userid は正しい形式ですが、-userid は正しくありません。

構文図において、大括弧 ([]) はオプション・パラメーターを表しています。userid を指定しても password を省略した場合、パスワードを入力するよう要求されません。(パスワードを入力するとき、画面には表示されません。)

-h または -? パラメーターを指定すると、コマンドは構文ヘルプを表示し、その他のパラメーターは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドの構文がダイアグラムで説明されている形式になっているかどうか確認してください。

CLI0195E 無効なキャプチャー・ファイル: 有効なステートメント・グループを含んでいません。

説明: キャプチャー・ファイルには、有効なステートメント・グループが少なくとも 1 つ入っていない限りなりません。

ユーザーの処置: 同じキャプチャー・ファイルを使用してアプリケーションをキャプチャー直し、SQL ステートメントが少なくとも 1 つキャプチャーされたかどうか確認するか、あるいはキャプチャー・ファイルを編集して、ステートメント・グループを手操作で追加してください。ステートメント・グループを手操作で追加する場合、追加する SQL ステートメントのタイプに必須のキーワードをすべて指定してください。その後、要求をもう一度サブミットしてください。

CLI0600E 無効な接続ハンドルか、または接続がクローズされています。

説明: 操作よりも前に接続がクローズされました。

ユーザーの処置: 操作よりも前に接続クローズが呼び出されていないことを確認してください。

CLI0601E 無効なステートメント・ハンドルか、またはステートメントがクローズされています。

説明: 操作よりも前にステートメントがクローズされました。

ユーザーの処置: 操作の前にステートメント・クローズおよびステートメント接続クローズが呼び出されていないことを確認してください。

CLI0602E サーバー上のメモリー割り振りエラー。

説明: サーバー上でメモリーを割り振ることができません。

ユーザーの処置: 詳細については、データベース管理者に DB2 JDBC ログ・ファイルの確認を依頼してください。プログラムを再実行してください。

CLI0603E CallableStatement get*** メソッドは registerOutParameter なしで呼び出されました。

説明: Get*** メソッドは registerOutParameter を使用して登録されなかったパラメーター上で呼び出されました。

ユーザーの処置: パラメーターに registerOutParameter 呼び出しを追加してください。

CLI0604E CallableStatement get*** メソッドは呼び出しの実行をされずに呼び出されました。

説明: CallableStatement get*** メソッドは呼び出し中の CallableStatement の実行よりも前に呼び出されました。

ユーザーの処置: どの CallableStatement get*** メソッドよりも前に CallableStatement の実行が呼び出されるようにしてください。

CLI0605E CallableStatement get*** メソッドは registerOutParameter で使用されたタイプと一致しませんでした。

説明: CallableStatement get*** メソッドは、このパラメーターの registerOutParameter で使用されたタイプと一致するものではありません。

ユーザーの処置: このパラメーターの registerOutParameter で使用されるタイプに一致する get*** メソッドに変更してください。(JDBC 仕様を参照)

CLI0606E 列が返した値は、`get***` メソッドに対応するデータ・タイプと互換性がありません。

説明: CHAR/VARCHAR/LONGVARCHAR 列内の値は無効な数値です。

ユーザーの処置: 数値を返すメソッド以外の適切な `get` メソッドを使用してください。

CLI0607E 無効な日付時刻形式です。

説明: CHAR、VARCHAR、LONGVARCHAR、GRAPHIC、または VARGRAPHIC 列にある日付/時刻/タイム・スタンプの値は無効です。

ユーザーの処置: `getDate/getTime/getTimestamp` 以外の適切な `get***` メソッドを使用してください。

CLI0608E 変換が無効です。

説明: `get***` メソッドはこの列タイプでは無効です。

ユーザーの処置: この列からデータを検索する有効な `get***` メソッドを使用してください。(JDBC 仕様を参照)

CLI0609E 数値が範囲外です。

説明: この列の値は `short` または `int` 値として大きすぎるか、小さすぎ、変換によってデータが失われる原因となります。

ユーザーの処置: 値を調節できる `get` メソッドを使用してください。

CLI0610E 無効な列数です。

説明: 列数は 1 より小さいか `ResultSet` の総列数より大きい数です。

ユーザーの処置: 列数が 1 より小さくなく、総列数より大きくならないようにしてください。

CLI0611E 無効な列名です。

説明: 指定された列名は `ResultSet` に見つかりません。

ユーザーの処置: 列名が正しいか確認してください。

CLI0612E 無効なパラメーター数です。

説明: 指定されたパラメーター数が 1 より小さく、総パラメーター数より大きい数です。

ユーザーの処置: パラメーター数が 1 より小さくなく、総パラメーター数より大きくなるようにしてください。

CLI0613E プログラム・タイプが範囲外です。

説明: `PreparedStatement/CallableStatement` で指定されたオブジェクトは有効なオブジェクト・タイプではありません。

ユーザーの処置: 設定されるオブジェクトが `setObject` で許可されているオブジェクト・タイプの 1 つであることを確認してください。(JDBC 仕様を参照)

CLI0614E ソケットへの送信エラー、サーバーは応答しません。

説明: サーバーヘータを送信中に、エラーが発生し、サーバーがダウンしている可能性があります。

ユーザーの処置: サーバーの稼働を確認し、プログラムを再実行してください。

CLI0615E ソケットからの受信エラー、サーバーは応答しません。

説明: サーバーからデータを受信中に、エラーが発生し、サーバーがダウンしている可能性があります。

ユーザーの処置: JDBC サーバーの稼働を確認し、プログラムを再実行してください。

CLI0616E ソケットのオープン・エラー。

説明: サーバーへのソケットをオープンできません。サーバーがダウンしている可能性があります。

ユーザーの処置: JDBC サーバーの稼働を確認し、プログラムを再実行してください。

CLI0617E ソケットのクローズ・エラー。

説明: サーバーへのソケットをクローズできません。サーバーがダウンしている可能性があります。

ユーザーの処置: JDBC サーバーの稼働を確認し、プログラムを再実行してください。

CLI0618E ユーザー ID またはパスワード (あるいは両方) が無効です。

説明: 指定されたユーザー ID/パスワードが無効です。

ユーザーの処置: ユーザー ID/パスワードが正しいことを確認して、プログラムを再実行してください。

CLI0619E 無効な UTF8 データ形式です。

説明: `getUnicodeStream` が DBCS 列でない列で呼び出される場合、UTF8 形式からのデコードが行われますが、データは正しくデコードできません。

ユーザーの処置: getString、getBytes、getAsciiStream、または getBinaryStream を使用してください。

CLI0620E IOException、入力ストリームからの読み取りエラーです。

説明: 入力ストリームから入るデータを読み取り中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイルが存在し、ファイル長が正しく指定されているか確認してください。

CLI0621E サポートされていない JDBC サーバー構成です。

説明: ターゲット JDBC サーバー構成はサポートされていません。コントロール・センターを実行している場合、ターゲット JDBC サーバーはスタンドアロンの db2jd プロセス (db2jstrt によって開始されたもの) でなければならず、2 階層のネイティブ JDBC サーバーであってはなりません。

ユーザーの処置: コントロール・センターのターゲットとなるポートに対して db2jstrt を使うことによって、JDBC サーバーを再構成してください。

CLI0622E JDBC 管理サービス拡張機能へのアクセス・エラー。

説明: コントロール・センターは、JDBC サーバーとともに実行する管理サポート・サービスに依存しています。コントロール・センターは、それらの管理サービスを見つけないことができずアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: コントロール・センターの管理サービスが JDBC サーバーと共にインストールされていることを確認してください。

CLI0623E コード・ページ変換表がありません。

説明: コード・ページ変換表が見つかりません。

ユーザーの処置: 変換表 (ローカル・コード・ページから Unicode への変換と Unicode からローカル・コード・ページへの変換) がインストールされているかどうか、確認してください。

CLI0624E コード・ページ変換表がロードされていません。

説明: コード・ページ変換表をロードできません。

ユーザーの処置: JDBC アプリケーションに、コード・ページ表へのアクセスがあり、表が破壊されていないかどうか、確認してください。

CLI0625E JDBC 1.22 の振る舞いを指定しました。JDBC 2.0 関数は使用できません。

説明: 呼び出そうとしている関数は、JDBC 2.0 で定義された新規の関数ですが、JDBC 1.22 の振る舞いが必要であると指定しました。

ユーザーの処置: JDBC 2.0 関数を使用したい場合には、JDBCVERSION キーワードを "122" に設定しないでください。設定をしないか、または "200" に設定します。

CLI0626E function-name は、DB2 JDBC 2.0 ドライバーのこのバージョンではサポートされません。

説明: この機能は、DB2 UDB JDBC 2.0 ドライバーのこのバージョンではサポートされません。

ユーザーの処置: この機能を使用しないでください。

CLI0627E 結果セットはスクロールできません。

説明: 結果セットはスクロールできません。

ユーザーの処置: ステートメント/結果属性設定を SCROLLABLE に設定しているか、確認してください。

CLI0628E パラメーター・セット parameter-number 番の set-number 番パラメーター・マーカーが設定されていません。

説明: この入力パラメーターに対して、set<data-type> メソッドが呼び出されていません。

ユーザーの処置: set<data-type> メソッドを呼び出して、この入力パラメーターの入力値のデータ・タイプを指定してください。

CLI0629E function-name はこの列でサポートされません。

説明: この操作は、この列では呼び出されません。

ユーザーの処置: 別のメソッドに変更してください。

CLI0630E 識別されない結果セット・タイプ/並列処理 number です。

説明: 結果セット・タイプまたは並列処理に対して、無効な値が指定されました。

ユーザーの処置: 指定で提供された正しい値に変更してください。

CLI0631E 混合文字/clob 列のランダム・アクセスがありません。

説明: ランダム・アクセスは、この混合文字列ではサポートされていません。

ユーザーの処置: データを順番に検索してください。

CLI0632E 無効なフェッチ・サイズです。0 から maxRows の間の値である必要があります。

説明: フェッチ・サイズは、0 以上で、maxRows 以下である必要があります。

ユーザーの処置: 値を修正してください。

CLI0633E 現在行がないときには relative() を呼び出すことができません。

説明: カーソルが有効行にない時に、相対メソッドが呼び出されました。

ユーザーの処置: まず、カーソルを有効行に移動し、(absolute、next、など)、次に relative を呼び出します。

CLI0634E CLI 環境ハンドルの割り振りでエラーが起きました。

説明: 初期化中に SQLAllocEnv が失敗しました。

ユーザーの処置: DB2INSTANCE 環境変数が正しく設定されていることを確認してください。

CLI0635E function-name はアプレットでサポートされていません。

説明: <function-name> はアプレットでサポートされていません。

ユーザーの処置: アプレットで <function-name> を使用しないでください。

CLI0636E プロパティ property-name が Context オブジェクトに指定されていません。

説明: Java アプリケーション中で、Context オブジェクトのプロパティ property-name が指定されていません。

ユーザーの処置: Java アプリケーション中で、Context オブジェクトのプロパティ property-name が指定されているか確認してください。

CLI0637E object が見つかりません。

説明: <object> が存在しません。

ユーザーの処置: <object> が存在するかどうか確認してください。

CLI0638E object はすでに存在します。

説明: すでに存在するため、<object> を作成することができません。

ユーザーの処置: 操作が正しいかどうか確認してください。

CLI0639E スtringが空です。

説明: 空のStringは許可されていません。

ユーザーの処置: 指定されているStringを訂正してください。

CLI0640E object をリストできません。

説明: <object> をリストできません。

ユーザーの処置: <object> をリストできるかどうか確認してください。

CLI0641E バッチに SELECT ステートメントがあります。

説明: SELECT ステートメントはバッチでは許可されていません。

ユーザーの処置: バッチから SELECT ステートメントを除去してください。

CLI0642E フェッチ指示が無効です。

説明: 指定されたフェッチ指示はサポートされていません。

ユーザーの処置: フェッチ指示を訂正してください。

CLI0643E バッチにステートメントがありません。

説明: バッチの中にステートメントがありません。

ユーザーの処置: ステートメントをバッチに追加してください。

CLI0644E absolute() 呼び出しへの行の値が無効です。

説明: absolute() 呼び出しに指定されている行の値は無効です。

ユーザーの処置: 行の値を訂正してください。

CLI0645E ドライバー *class-name* の登録エラー。メッセージ: *message*。 **SQLSTATE:** *sqlstate*。 **SQLCODE:** *sqlcode*。

説明: DriverManager が DB2 JDBC ドライバーを登録できません。

ユーザーの処置: 返されたメッセージ、SQLSTATE、および SQLCODE に従って問題を訂正し、プログラムをもう一度実行してください。

CLI0646E ライブラリー *library-name* が見つかりません。

説明: *library-name* は、ライブラリー・パスにあります。ライブラリー・パスは以下のオペレーティング・システムで環境変数によって定義されます。

AIX (Java 1.1)
LD_LIBRARY_PATH

AIX (Java 1.2 以降)
LIBPATH

HP-UX SHLIB_PATH

Linux LD_LIBRARY_PATH

OS/2 LIBPATH

Silicon Graphics IRIX
LD_LIBRARY_PATH

Solaris オペレーティング環境
LD_LIBRARY_PATH

Windows オペレーティング・システム
PATH

ユーザーの処置: アプリケーション環境が DB2 を正しく使用するために構成されていることを確認してください。UNIX プラットフォームの場合、環境変数を設定するために `sqllib/db2profile` スクリプトが実行されていることを確かめてください。

CLI0647E DB2 環境ハンドルの割り振りエラー。戻りコード = *return-code*、

説明: DB2 CLI 環境を設定できませんでした。

ユーザーの処置: アプリケーション環境が DB2 を正しく使用するために構成されていることを確認してください。UNIX プラットフォームの場合、環境変数を設定するために `sqllib/db2profile` スクリプトが実行されていることを確かめてください。戻りコードの説明については、「コール・レベル・インターフェースの手引きおよび解説書」の `SQLAllocHandle()` の項を参照してください。

CLI0648N **ResultSet** はクローズされました。

説明: 操作よりも前に **ResultSet** がクローズされました。

ユーザーの処置: 操作よりも前に `ResultSet.close()` が呼ばれていないことを確認してください。

`getMoreResults()` を使って複数の **ResultSets** を処理する場合は、必ず新しい **ResultSet** にアクセスする前に `getResultSet()` を呼び出してください。

CLI0649N **executeQuery** は、**ResultSet** を戻すステートメントにのみ許可されます。

説明: `executeQuery` は、**ResultSet** を戻すステートメントにのみ許可されます。このような SQL ステートメントには、`SELECT`、`VALUES`、`WITH`、および `CALL` ステートメントなどがあります。

ユーザーの処置: `executeUpdate()` または `execute()` を使用します。

CLI0650N 照会は **executeUpdate()** では許可されません。

説明: `executeUpdate()` を使って照会を発行することはできません。

ユーザーの処置: `executeQuery()` または `execute()` を使用します。

CLI0651N ストリームに、指定されたより多いか少ないデータが含まれています。

説明: ストリームのバイト数または文字数が指定された長さと等しくありません。

ユーザーの処置: 正しい長さを指定してください。

第 7 章 DBA メッセージ

このセクションには、データベース管理 (DBA) ツールによって生成されるメッセージが含まれています。メッセージは番号順にリストされています。

DBA0000I 機能は正常に完了しました。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA0001E メモリーを割り振り中に内部エラーが発生しました。

説明: メモリーを割り振り中に内部エラーが発生しました。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: いくつかのアプリケーションをクローズしてメモリーを解放してください。問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA0002E 内部エラーが発生しました。予期しない入力力を要求から受け取りました。

説明: 予期しない入力値を要求から受け取りました。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0003E 表定義の不整合が変更要求を処理中に検出されました。

説明: 表の変更要求を処理しているときに、最新の既知の表定義とデータベースからフェッチされた表定義との間で不整合が検出されました。表定義は、管理ツールのコンテキストの外で変更する場合があります。表は変更できません。要求を終了します。

ユーザーの処置: 「表」のポップアップ・メニューで「リフレッシュ」を選択し、データベースから更新された表のリストを入手します。表の変更を再度行ってください。

DBA0004E データベースへの接続の妥当性検査中にエラーが発生しました。

説明: 無効な接続を検出しました。サーバーがダウンしていて現在保留中の接続が有効でなく、新規接続を獲得できない場合に問題が発生します。要求を終了します。

ユーザーの処置: サーバーが開始しているか確認してください。接続したいデータベースのポップアップ・メ

ニューで、「接続」アクションを選択してください。アクションを再試行してください。

再度アクションが失敗した場合、ネットワークがターゲット・システムで動作していることと、データベースがそのシステムで実行中であることを確認してください。

ネットワークが作動可能である場合、システムの内部エラーが発生する場合があります。IBM サービスに連絡してください。

DBA0005E インスタンスへのアタッチの妥当性検査中にエラーが発生しました。

説明: 無効な接続を検出しました。データベースが停止しているか接続が存在していない可能性があります。要求を終了します。

ユーザーの処置: サーバーが開始しているか確認してください。接続したいデータベースのポップアップ・メニューで、「接続」アクションを選択してください。アクションを再試行してください。

再度アクションが失敗した場合、ネットワークがターゲット・システムで動作していることと、データベースがそのシステムで実行中であることを確認してください。

ネットワークが作動可能である場合、システムの内部エラーが発生する場合があります。IBM サービスに連絡してください。

DBA0006E 持続データベース接続またはインスタンス・アタッチのハンドルを妥当性検査中にエラーが発生しました。

説明: 無効な接続を検出しました。データベースが停止しているか接続が存在していない可能性があります。要求を終了します。

ユーザーの処置: サーバーが開始しているか確認してください。接続したいデータベースのポップアップ・メニューで、「接続」アクションを選択してください。アクションを再試行してください。

再度アクションが失敗した場合、ネットワークがターゲット・システムで動作していることと、データベースがそのシステムで実行中であることを確認してください。

ネットワークが作動可能である場合、システムの内部エ

ラーが発生する場合があります。 IBM サービスに接続してください。

DBA0007E 接続のコンテキスト・タイプを設定中に内部エラーが発生しました。

説明: アプリケーションで確立された接続に対するコンテキスト・タイプを設定中にエラーが発生しました。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに接続してください。

DBA0008E 内部エラーが発生しました。予期しないリスト・タイプが要求されました。

説明: リストされるオブジェクトのタイプはアプリケーションにより有効なタイプとして認識されませんでした。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに接続してください。

DBA0009E 内部エラーが発生しました。予期しない要求タイプを受け取りました。

説明: 実行される要求のタイプはアプリケーションにより有効なタイプとして認識されませんでした。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに接続してください。

DBA0010E 内部エラーが発生しました。予期しないオブジェクト・タイプを検出しました。

説明: 処理されるオブジェクトのタイプはアプリケーションの有効なタイプとして認識されませんでした。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに接続してください。

DBA0011E オープン接続が多すぎます。

説明: オープンできるデータベース接続の最大数に達しました。要求を終了します。

ユーザーの処置: 次のいずれかを行ってください。

- 他のデータベースから接続を切断して必要なデータベースに接続してください。切断したいデータベースのポップアップ・メニューから「切断」を選択します。接続したいデータベースのポップアップ・メニューから「接続」を選択します。
- 構成パラメーターを更新して接続できる数を増やします。

DBA0012E 接続ハンドルを割り振ることができません。

説明: 接続ハンドルを割り振るときにエラーが起きました。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに接続してください。

DBA0013W リスト可能なオブジェクトの最大数に達しました。

説明: アプリケーションでリスト可能なオブジェクトの最大数に達しています。最大数は 20,000 です。

ユーザーの処置: なし

DBA0014E 内部エラーが発生しました。予期しないドロップ・タイプが要求されました。

説明: ドロップされるオブジェクトのタイプはアプリケーションにより有効なタイプとして認識されませんでした。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに接続してください。

DBA0015E 内部エラーが発生しました。ラッチ要求が失敗しました。

説明: ラッチ要求が失敗しました。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに接続してください。

DBA0016E 内部エラーが発生しました。アンラッチ要求が失敗しました。

説明: アンラッチ要求が失敗しました。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに接続してください。

DBA0017E 使用可能なエラー情報がありません。管理ツールのログを参照してください。

説明: 表示できるエラー情報がありません。

ユーザーの処置: エラー情報については管理ツールのログを参照してください。

DBA0018E Administration Server が開始されていません。Administration Server を開始し、このアクションを再度試行してください。

説明: Administration Server が開始されていません。

ユーザーの処置: ターゲット・システムで DB2ADMIN START コマンドを使用して Administration Server を開

始してアクションを再度行ってください。

DBA0019E オブジェクト *object-name* が使用中です。後でこのアクションを再度試行してください。

説明: アクションが要求されたオブジェクトあるいは関連オブジェクトは、すでに別のアクションで使用されています。オブジェクトあるいは関連オブジェクトに対する修正が進行中である可能性があります。

要求されたアクションが現行のアクションと同時に実行できません。

例:

- 表が変更されている場合、同じ表の名前変更要求は「変更」ウィンドウとの対話が完了するまで許可されません。ただし、その表の内容をサンプルする要求は許可されます。
- オブジェクト (表など) をドロップする要求は、他のアクションが関連オブジェクト (データベース、ビュー、トリガーなど) でペンディングの場合、許可されません。

アクションは実行されません。

ユーザーの処置: オブジェクトが使用可能なときに、後でアクションを再度試行してください。

DBA0020E 管理ツール・トレース・ファイルをオープン中にエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・トレース・ファイルをオープン中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0021E 管理ツール・トレース・ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・トレース・ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0022W 管理ツール・トレース・ファイルをクローズ中にエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・トレース・ファイルをクローズ中にエラーが発生しました。処理は続行されます。

ユーザーの処置: 管理ツール・ログ・ファイルが正しく指定されているか確認してください。

DBA0023W 管理ツール・ログ・ファイルをオープン中にエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・ログ・ファイルをオープン中にエラーが発生しました。処理は続行されます。

ユーザーの処置: 管理ツール・ログ・ファイルが正しく指定されているか確認してください。

DBA0024W 管理ツール・ログ・ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・ログ・ファイルへの書き込み試行中にエラーが発生しました。処理は続行されます。

ユーザーの処置: 管理ツール・ログ・ファイルが正しく指定されていて書き込みが可能であるか確認してください。

DBA0025W 管理ツール・ログ・ファイルをクローズ中にエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・ログ・ファイルのクローズを試行中にエラーが発生しました。処理は続行されます。

ユーザーの処置: 管理ツール・ログ・ファイルが正しく指定されているか確認してください。

DBA0026E 内部管理ツール・エラーが発生しました。

説明: リカバリー不能エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0027E 内部エラーが発生しました。管理ツールでロックの競合が発生しました。

説明: 管理ツールでロックの競合が発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0028I 現行管理ツール・セッションは、リカバリー不能エラーのために終了します。

説明: 重大な内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0029C アプリケーション・プログラミング・インターフェース *program* は理由コード *name* を伴うオブジェクト *name* のために正常終了しませんでした。再度やり直すか、または地域のサポート担当者に連絡してください。

説明: アプリケーション・プログラミング・インターフェースの呼び出しが完了しませんでした。

ユーザーの処置: 操作をもう一度やり直すか、またはシステム管理者に連絡してください。

DBA0030E データベース *name* に接続を試行中にエラーが発生しました。

説明: 要求された操作はデータベース *name* への接続を必要とするため、完了できませんでした。接続は成功しませんでした。

ユーザーの処置: データベースがアクセス可能なことを確認してください。データベース・ポップアップ・メニューの接続アクションを使用してデータベースへの接続を明示的に試行してください。接続の共通エラーは無効なユーザー ID およびパスワードです。適切なユーザー ID およびパスワードを指定しているか確認してください。操作をもう一度やり直すか、またはシステム管理者に連絡してください。

DBA0031E インスタンス *name* にアタッチを試行中にエラーが発生しました。

説明: 要求された操作はインスタンス *name* とアタッチメントを必要とするため、完了できませんでした。アタッチメントは正常に終了しませんでした。

ユーザーの処置: インスタンスがアクセス可能なことを確認してください。インスタンス・ポップアップ・メニューの接続アクションを使用して明示的にインスタンスへの接続を試行してください。接続の共通エラーは無効なユーザー ID およびパスワードです。適切なユーザー ID およびパスワードを指定しているか確認してください。操作をもう一度やり直すか、またはシステム管理者に連絡してください。

DBA0032C DLL *name* のロードを試行中にエラーが発生しました。

説明: 動的リンク・ライブラリー *name* が検出されなかったか、またはファイルの読み取り中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: DLL がインストールされており、壊れておらず、そのロケーションが CONFIG.SYS ファイルの LIBPATH パラメーターに指定されていることを確認してください。

DBA0033C *name* は、現在管理ツールによって使用されているためドロップできません。いくつかのウィンドウをクローズしてコマンドを再試行してください。

説明: ドロップするために選択したオブジェクト *name* またはドロップするために選択したオブジェクトが所有する項目が、まだ別の管理ツールによって使用されてい

ます。たとえば、ドロップしようとしているデータベースに対して「表の変更」ウィンドウをオープンしている可能性があります。この場合は、「表の変更」ウィンドウをクローズするまでデータベースをドロップできません。

ユーザーの処置: 選択したオブジェクトを使用しているすべてのウィンドウをクローズするか、またはそのオブジェクトが所有する項目を使用しているすべてのウィンドウをクローズしてからコマンドを再試行してください。

DBA0034C *name* は、現在管理ツールによって使用されているため除去できません。いくつかのウィンドウをクローズしてコマンドを再試行してください。

説明: 除去するために選択したオブジェクト *name* または除去するために選択したオブジェクトが所有する項目が、まだ別の管理ツールによって使用されています。たとえば、除去しようとしているデータベースに対して、「表の変更」ウィンドウをオープンしている可能性があります。この場合は、「表の変更」ウィンドウをクローズするまでデータベースを除去できません。

ユーザーの処置: 選択したオブジェクトを使用しているすべてのウィンドウをクローズするか、またはそのオブジェクトが所有する項目を使用しているすべてのウィンドウをクローズしてからコマンドを再試行してください。

DBA0035C *operation* 操作は、オブジェクト *name* が現在管理ツールによって使用されているため実行できません。いくつかのウィンドウをクローズしてコマンドを再試行してください。

説明: この操作 *operation* では、*name* が *name* 状態にあることが必要です。

ユーザーの処置: 選択されたオブジェクトでペンディングの他のすべての操作が完了したことを確認して、コマンドを再試行してください。

DBA0036I データベース構成は正常に更新されました。変更が反映される前にデータベース *name* からすべてのアプリケーションを切断してください。すでにバックアップが行われている場合には、新しい構成値を選択するために、データベースのバックアップをもう一度行うことをお勧めします。

説明: データベース構成の更新は成功しましたが、すべてのアプリケーションがデータベースから切断されるまで、アクティブなデータベース構成は変更できません。

すべてのアプリケーションが切断されると、データベースへの最初の接続時に、変更が反映されます。

ユーザーの処置: すべてのアプリケーションがデータベースから切断された後で、そのデータベースに再接続されたことを確認してください。

DBA0037I インスタンス構成は正常に更新されました。変更が反映される前に、インスタンス *name* を停止してください。

説明: インスタンス構成は正常に更新されました。

構成パラメーター "dftdbpath" に対する変更は、即時に反映されます。

残りの構成パラメーターについては、すべてのアプリケーションがデータベースから切断され、インスタンスの停止と始動が再度成功するまで、変更は反映されません。

ユーザーの処置: すべての変更を有効にするためには、すべてのアプリケーションをデータベースから切断し、インスタンスを停止して再始動してください。

コントロール・センターのインスタンス・ポップアップ・メニューの停止アクションを選択して、インスタンスを停止できます。その後、コントロール・センターのインスタンス・ポップアップ・メニューの開始アクションを選択して、インスタンスを開始できます。

DBA0039W 現在データベース・オブジェクトがロックされているか、あるいはデータベース接続が使用されています。シャットダウンを続行しますか？

説明: コントロール・センターのデータベース・オブジェクトは、表の変更などのアクションが行われたときにロックされます。他のアクションは、タスクを完了するために必要なデータベースへの接続を保守します。

ユーザーの処置: 「シャットダウンして続行」を選択すると、すべてのロックおよび接続が強制され、ツールがシャットダウンします。これを行うのは危険ですが、ただし、いくつかのアクション (データベース・リストアなど) を、タスクを介して不十分に実行すると、データベースが破壊された状態のままになります。

最も安全な方法は、まず DB2 ツールに戻り、未解決のデータベース操作がないか確認することです。

DBA0040W シャットダウンによってスナップショット・モニターが停止します。シャットダウンを続行しますか？

説明: スナップショット・モニターが 1 つまたは複数のデータベース・オブジェクトで開始しています。モニ

ターを続行するには、DB2 ツールが実行中である必要があります。

ユーザーの処置: スナップショット・モニターがこれ以上必要ない場合にのみ、シャットダウンを続行します。

DBA0041I 要求された操作は、DB2 管理ツールが未承認アプレットであるため、実行できませんでした。

説明: ネットワークを経由してロードされたアプレットは、通常、未承認とされます。別の Web ブラウザーおよびアプレット・ビューアーを使用すると、最もローカルなシステム操作 (たとえば、ファイルの読み取り、ファイルの書き込み、およびファイルの印刷) を含む、未承認のアプレットに関して、別の制限がつく可能性があります。

ユーザーの処置: システム管理者に問い合わせ、この制限が緩和あるいはカスタマイズできるかどうか調べてください。

DBA0042I このデータベースへの接続に使用されたユーザー ID およびパスワードの設定をクリアしますか。

説明: この設定のクリアを選択した場合、ご使用のワークステーションからの本データベースへの無許可アクセスを防ぐことができます。ただし、本データベースに次回接続するときには、正しいユーザー ID とパスワードを入力するよう要求されます。

ユーザーの処置: ユーザー ID およびパスワード設定をクリアするには、「はい」をクリックしてください。コントロール・センターを終了するまで、ユーザー ID とパスワードを保管するには、「いいえ」をクリックしてください。

DBA0043I コマンドが実行されていません。

説明: 操作は行われず、打ち切られました。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。

DBA0099N ユーザーの要求を処理できるほど Java VM ヒープ・サイズが大きくなりません。

説明: 大容量のデータにアクセスする要求の場合には、これは正常な応答です。しかし、大容量のデータにアクセスする要求以外の場合には、メモリーに問題がある可能性があります。

ユーザーの処置: プログラムを呼び出す時に、Java 仮想マシンのヒープ・サイズの最大値を `-Xmx<size>` オプションを使用して変更してください。最大サイズをバ

イトで指定してください。 キロバイトを示す場合には、文字 k または K を、またメガバイトを示す場合には m または M を付加してください。

たとえば、db2cc -Xmx128m です。

問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA0100I コントロール・センターは、インスタンス *instance* のノード・ディレクトリー情報を更新しています。正しくない情報は訂正されます。現行要求は実行できません。

説明: コントロール・センターがインスタンスで変更されたノード・タイプを検出し新規の情報に基づいてインスタンスを再カタログしました。インスタンスのノード・タイプ値に応じて、コントロール・センターからのアクションが異なります。

ユーザーの処置: 要求の実行可能であれば、要求を再試行してください。

DBA0101W 例外リストで指定された項目は使用されません。続行しますか?

説明: 「例外が含まれるノード」チェック・ボックスの選択を解除しますが例外コンテナは「例外リスト」ダイアログで指定されます。

ユーザーの処置: 例外コンテナ・リストをクリアするには「はい」を「例外が含まれるノード」チェック・ボックスを再度選択するには「いいえ」をクリックしてください。

DBA0102W インスタンス - *instance* に対するノード・タイプが検出できません。理由コード *reason-code*。

説明: Nodetype はインスタンスが単一パーティションまたはパーティション環境であるかどうか識別するデータベース・マネージャー構成パラメーターです。

ディスクバリーによって nodetype 値の解決を試行します。このインスタンス間の区別はコントロール・センターでのアクションが単一パーティションとパーティション環境との間で違うため、必要です。

理由コードが -1 の場合、ディスクバリーは有効な DB2 インスタンスに対してカタログ済みのインスタンスをマップできません。

他のすべての理由コードは有効な SQL メッセージにマップを行います。対応する SQL メッセージのヘルプを調べてください。

ユーザーの処置: ディスクバリーには次の要件がありません。

1. DB2 Administration Server が、カタログまたはアクセスするリモート・インスタンスでセットアップおよび実行されている必要があります。

2. インスタンスがレジストリーでリストされているかを確認してください。カタログしているホストから db2set -l を発行してください。

3. 次のグローバル DB2 レジストリー値が設定されている必要があります。

- DB2SYSTEM
- DB2ADMINSERVER

4. 次のインスタンス DB2 レジストリー値が設定されている必要があります。

- DB2COMM

5. 次の Administration Server 構成パラメーターが設定されている必要があります。

- DISCOVER = KNOWN and DISCOVER_COMM = null

または

- DISCOVER = SEARCH and DISCOVER_COMM = protocol (たとえば、TCPIP)

以上のレジストリー値の設定について db2set -all を入力して検証してください。

DBA0103W 構成パラメーター値に対して行った変更は使用されません。続行しますか?

説明: 別のデータベース・パーティションが選択されましたが、構成パラメーターに対する変更は直前に選択されたデータベース・パーティションに適用します。

ユーザーの処置: 「はい」をクリックして次のデータベース・パーティションに対する構成パラメーターの値を獲得し、直前に選択したデータベース・パーティションに対して指定された変更を廃棄してください。

DBA0113E 例外コンテナが指定されましたが、ノード・グループのすべてのノードが含まれているわけではありません。次のノードに対して指定されたコンテナがありません：*node-list*

説明: 指定の例外コンテナには共通コンテナがありません。共通コンテナが指定されていないため、例外コンテナがノード・グループのすべてのノードで定義される必要があります。

ユーザーの処置: 指定のノードにコンテナを追加するには「OK」をクリックしてください。

DBA0114W コントロール・センターは、インスタンス - *instance* に対する誤ったノード・ディレクトリー情報を検出しました。正しくない情報は訂正されます。コントロール・センターを終了して再始動してください。現行要求は実行できません。

説明: コントロール・センターがインスタンスで変更されたノード・タイプを検出しました。

ユーザーの処置: コントロール・センターを終了して再始動してください。

DBA0115I ノード・ディレクトリー情報がこのインスタンスに対して訂正されました。インスタンス *instance* をリフレッシュしてください。

説明: インスタンスに対してカタログされた情報が更新されているため、表示されたオブジェクトとアクションが正しくない可能性があります。

ユーザーの処置: インスタンス・ポップアップ・メニューから「リフレッシュ」を選択してコントロール・センターを更新して要求を再度試行してください。

DBA0116I JDBC サーバーで処理できる操作はありません。しばらくしてからやり直してください。

説明: JDBC サーバーは、現在、既存の操作で使用されていて、ユーザーの操作を実行することができません。

ユーザーの処置: JDBC サーバーが既存の操作を完了するまで待機し、操作をやり直してください。

DBA0117W パーティション情報を検索できませんでした。理由コード = *reason-code*、オブジェクト = *object*。

説明: パーティション情報の正常な検索に依存する機能は使用不可であるか除去されます。これには、実際のダイアログ機能と同様、メニュー項目も含まれる場合があります。

ユーザーの処置: オブジェクトが存在するサーバーで DAS が開始されていることを確認してください。DAS が開始されている場合は、戻りコードを DAS エラーとして扱い、トラブルシューティングを継続してください。

DBA0200E ファイル *filename* のオープンまたは読み取りが失敗しました。エラー・コード = *error-code*。

説明: Database Administration Server (DAS) を使って、ファイルのオープンまたは読み取りが試行されました。処理は失敗しました。

ユーザーの処置: DAS が実行されていることと、ファイルが存在しており、この DAS と関連したユーザー ID に対する読み取り許可を持っていることを確認してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービス技術員に連絡して、該当のファイル名とエラー・コードを伝えてください。

DBA0201E ファイル *filename* のオープンまたは書き込みが試行されましたが、失敗しました。エラー・コード = *error-code*。

説明: Database Administration Server (DAS) を使って、ファイルのオープンまたは書き込みが試行されました。処理は失敗しました。

ユーザーの処置: DAS が実行されていることと、ファイル・システムがいっぱいではなく、この DAS と関連したユーザー ID に対する書き込み許可を持っていることを確認してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービス技術員に連絡して、該当のファイル名とエラー・コードを伝えてください。

DBA0202E ファイル *filename* のオープンまたは読み取りが失敗しました。エラー・コード = *error-code*。

説明: ファイルのオープンまたは読み取りが試行されました。処理は失敗しました。

ユーザーの処置: このファイルが存在しており、適切な読み取り許可を持っていることを確認してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービス技術員に連絡して、該当のファイル名とエラー・コードを伝えてください。

DBA0203N ファイル *filename* のオープンまたは書き込みが試行されましたが、失敗しました。エラー・コード = *error-code*。

説明: ファイルのオープンまたは書き込みが試行されました。処理は失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル・システムがいっぱいにな

く、適切な書き込み許可を持っていることを確認してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービス技術員に連絡して、該当のファイル名とエラー・コードを伝えてください。

DBA0900N パス *path-name* はすでに存在します。

説明: 存在しないパスを指定するコンテキストでパス *path-name* が指定されましたが、このパスはすでに存在しています。

ユーザーの処置: 存在しないパスを指定してください。

DBA0901N パス *path-name* は存在しません。

説明: 存在しているパスを指定するコンテキストでパス *path-name* が指定されましたが、このパスは存在しないか、アクセス不能です。

ユーザーの処置: 既存のアクセス可能なパスを指定してください。

DBA0902E パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーは読み取り専用です。

説明: パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーを変更しようとしたましたが、これは現在読み取り専用です。

ユーザーの処置: 読み取り専用ではないファイルまたはディレクトリーを指定してください。

DBA0903E パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーは、現在別のアプリケーションが使用中です。

説明: パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーを変更または削除しようとしたますが、これは現在別のアプリケーションが使用中です。

ユーザーの処置: ファイルまたはディレクトリーにアクセス中のアプリケーションをすべてクローズしてから、操作をやり直してください。

DBA0904E パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーはアクセス不能です。

説明: パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーは、現行ユーザーからアクセス不能です。

ユーザーの処置: ファイルまたはディレクトリーの許可セットが現行ユーザーにアクセスを許可していることを検査してから、操作をやり直してください。

DBA0905E パスまたは装置 *name* は使用不可です。

説明: パスまたは装置 *name* は、現時点では使用不可です。

ユーザーの処置: パスまたは装置が依然として使用可能であることを検査してから、操作をやり直してください。

DBA0906E ディレクトリー *directory-name* は空ではありません。

説明: 空のディレクトリーを指定するコンテキストでディレクトリー *directory-name* が指定されましたが、このディレクトリーは空ではありません。

ユーザーの処置: ディレクトリーが空であることを検査してから、操作をやり直してください。

DBA0907E パス *path-name* はディレクトリーを指していません。

説明: ディレクトリーを指定するコンテキストでパス *path-name* が指定されましたが、このパスはディレクトリーを指していません。

ユーザーの処置: パスが有効なディレクトリーを指していることを検査してから、操作をやり直してください。

DBA0908E パス *path-name* は無効です。

説明: パス *path-name* は有効なパスを指していません。

ユーザーの処置: 有効なパスを指定してから、操作をやり直してください。

DBA0909E パス *path-name* は長すぎます。

説明: パス *path-name* の長さは、オペレーティング・システムで許可されている最大値を超えています。

ユーザーの処置: オペレーティング・システムで許可されている最大値に収まる長さのパスを指定してから、操作をやり直してください。

DBA0910E ファイル・システムにはこれ以上使用可能なスペースがありません。

説明: ファイル・システムにはこれ以上使用可能なスペースがないため、操作を正常に完了することができません。

ユーザーの処置: 操作を完了するのに必要なスペースがファイル・システムにあることを確認してから、操作をやり直してください。

DBA0911E オープンできるファイルの最大数に達しました。

説明: オペレーティング・システムで開くことが許可されているファイルの最大数に達しました。

ユーザーの処置: 1 つ以上のファイルをクローズしてから、操作をやり直してください。

DBA0912E ファイル *file-name* の終わりに達しました。

説明: ファイル *file-name* の終わりを超えて読み取りまたはシークをしようとしてしました。

ユーザーの処置: ファイルの終わりを超えて読み取りまたはシークをしようとしていないことを検査してから、操作をやり直してください。

DBA0913E 物理的入出力エラーが発生しました。

説明: ファイル・システムのアクセス中の、未解決の物理入出力エラー。

ユーザーの処置: 操作をやり直してください。問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA1005W このアクションによりローカル・データベースとゲートウェイ・アプリケーションの両方が強制終了されます。続行しますか?

説明: インスタンス上のすべてのアプリケーションの強制終了を要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA1006E 無効なプラグイン拡張子がコントロール・センターにより検出されました。

説明: ファイル "db2plug.zip" が壊れているか、または正しくセットアップされていません。

ユーザーの処置: "db2plug.zip" ファイルは、sqllib ディレクトリーの下に tool ディレクトリーに組み込まれている必要があります。

"db2plug.zip" ファイルの定義に関する説明について資料を参照し、"db2plug.zip" ファイルを再作成してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して支援を求めるか、コントロール・センターのトレース・コマンドを使用してプラグイン・クラスがロードされているかどうか判別してください。コマンド "db2cc -tf

<filename>" により、コントロール・センターのトレース情報を指定したファイル名に置くことができます。ファイル名を指定する場合、ファイルへの絶対パスを指定する必要があります。プラグイン・クラスがロードされているかどうか判別するには、テキスト

"PluginLoader" が含まれる行について、ファイルを検索してください。

DBA1007W 無効なオブジェクト名またはパラメーターが入力されました。コントロール・センターはシステム・フォルダーをナビゲーター・ツリーのルートとして開始します。

説明: オブジェクトが無効であるという場合は、入力されたシステム、インスタンス、サブシステム、またはデータベース名が存在しないか入力された名前の組み合わせが無効であるために検出できないことを示します。たとえば入力されたデータベース名が存在していても、指定されたシステム名内にはない場合もあります。パラメーターが無効であるという場合は、-h、-i、-sub、または -d 以外のパラメーターが入力されたことを示します。

ユーザーの処置: 有効なオブジェクト名およびパラメーターを使用していることを確認してから、再試行してください。

DBA1100W *number MB* より小さいメモリーがサーバーに占有されます。推奨はされません。結果ページの現行値は推奨値と一致しています。

説明: サーバー専用のメモリーの量が少ないため、構成アドバイザーはこの値を推奨できません。

「結果ページ」の推奨値は現行値と同じです。

ユーザーの処置: サーバー専用のメモリーが増加可能な場合、「サーバー・ページ」に移って、メモリーを増やしてから再試行してください。それ以外の場合は、「キャンセル」をクリックして構成アドバイザーをクローズしてください。

DBA1101I 表スペース・コンテナーストライプ・セット情報を取得できません。ストライプ・セットは表示されません。

説明: 接続ユーザーにストライプ・セット情報を取得するための十分な権限がない可能性があります。

ユーザーの処置: ストライプ・セット情報を取得するには SYSADM 権限が必要です。

DBA1102E 構成アドバイザーがシステム・ファイルに推奨値を保管しようとしたときに、エラーが発生しました。

説明: 構成アドバイザーが、インスタンス・ディレクトリーの下に CFG サブディレクトリーを作成できなかったか、または、推奨値を含むシステム・ファイルをインスタンス・ディレクトリーの CFG サブディレクトリーに保管できませんでした。

ユーザーの処置: インスタンス・ディレクトリーを含むディスクがいっぱいではなく、このディスクに対する書き込みアクセスがあることを確認してください。その後、「完了」をクリックして再試行してください。

DBA1103W 構成アドバイザーは、応答によって判別した他のメモリー要件のために、バッファーク・プールの最小メモリーを割り当てることができませんでした。

説明: 構成アドバイザーが、指定データベース要件に基づく推奨値に指定されたメモリー・リソースを割り当てることができません。

ユーザーの処置: 追加のメモリー・リソースが使用可能な場合、割り振られた物理メモリーの割合を増やします。使用可能でない場合は、サーバー上の物理メモリー容量を増やしてください。

DBA1104I インスタンスおよびデータベース構成パラメーターは正常に更新されました。変更が反映される前に、インスタンス *name* を停止してください。バインド中に新規値が使用されるため、新規構成パラメーターが反映された後、パッケージを再バインドする場合があります。

説明: 構成アドバイザーが、データベース・マネージャー構成パラメーター、データベース構成パラメーター、および SYSBUFFERPOOLS カタログのバッファーク・プール・サイズを更新しました。

サーバー上のインスタンスが停止するまで変更は反映されません。

パッケージが古い構成パラメーターでバインドされました。新規パラメーターを活用するためには、これらの新規パラメーターが反映されたあとで再バインドする必要があります。

ユーザーの処置: 新規構成パラメーターを使用する準備ができたなら、インスタンスを停止して始動してください。

必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

DBA1107E 構成アドバイザーがサーバーからシステム情報を取得しようとしたときに、エラーが発生しました。

説明: 予期しないエラーが発生しました。構成アドバイザーを続行できません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA1108W 構成アドバイザーは、応答によって判別した他のメモリー要件のために、バッファーク・プールのサイズを増やすことができませんでした。バッファーク・プール・サイズは未変更のままです。構成値の推奨設定の使用は、サーバーのページングを引き起こします。

説明: これは、指定されたワークロードを実行するのに十分なサーバー専用のメモリーがない可能性があることを知らせる警告です。

ユーザーの処置: 構成アドバイザーの前のページの選択項目を調べて、ワークロード記述が適切であることを確認するか、サーバーにメモリーを追加してください。

DBA1109W 入力したトランザクション・レートが、接続済みアプリケーションの平均数の 10 倍以上になっています。トランザクション・マネージャーを使用する場合、このメッセージを無視してください。使用していない場合は、レートの変更を検討してください。

説明: 構成アドバイザーはトランザクション・レートが妥当であるかどうかを検査します。トランザクション・マネージャーを使用していない場合、トランザクション・レートが必要以上に高くなる可能性があります。

ユーザーの処置: トランザクション・マネージャーを使用する場合、このメッセージを無視してください。そうでない場合は、1 分当たりの少ないトランザクション数を使用するか、または接続されたアプリケーションの平均数値を増やしてください。

DBA1110I システム・データベース・ディレクトリーに項目がありません。

説明: 現在、このデータベース・ディレクトリーで記入項目がありませんでした。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA1111E データベース別名 *name* は別のデータベースに存在しています。

説明: 新しいデータベースへのバックアップ・リカバリーを要求しましたが、指定されたデータベース名は、既存のデータベースの別名としてすでに使用されています。

データベースを作成すると、そのデータベースは、データベース名を別名として使用して、システム・データベース・ディレクトリーにカタログされますが、この別名はユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: 別名として使用されていないデータベース名を指定するか、またはバックアップを既存のデータベースにリカバリーすることを要求してください。

DBA1112E データベース別名 *name* がシステム・データベース・ディレクトリーで見つかりませんでした。

説明: バックアップの既存のデータベースへのリカバリーを要求しましたが、この別名を持つデータベースは存在しません。

ユーザーの処置: 既存のデータベースを選択するか、またはバックアップを新しいデータベースにリカバリーすることを要求してください。

DBA1113E データベースに対する未確定トランザクションが存在するため再始動は失敗し、データベースへの接続はドロップされました。

説明: 再始動操作で未確定トランザクションが見つかりました。これにより、データベースが不整合状態になりました。DBA ユーティリティーが、データベースへの接続をドロップしました。

ユーザーの処置: 未確定トランザクションを解決してください。解決できない場合は、データベースが必要になるたびに、アプリケーションがデータベースを再始動する必要があります。

XA/DTP 環境にある場合、およびデータベースを使用していたトランザクション・マネージャーが使用可能である場合はこれを使用して、未確定トランザクションを解決してください。

その他の場合は、コマンド行プロセッサを使用して、各未確定トランザクションを手動で完了してください。

DBA1114E データベース *name* はバックアップ・ペンディング状態にあります。データベースが使用される前に全バックアップを終了してください。

説明: この状態ではデータベースを更新できません。更新が行われる前に、データベースをバックアップする必要があります。

ユーザーの処置: データベースをバックアップしてください。

DBA1115E *name* の値を入力してください。

説明: 値が必要です。

ユーザーの処置: 値を指定して、要求を再試行してください。

DBA1116E *parameter* 値は *minimum* と *maximum* の間である必要があります。

説明: 値は指定された範囲内である必要があります。

ユーザーの処置: 指定された範囲に値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1117E *name* の値が無効です。

説明: 入力した値は無効です。

ユーザーの処置: 値を訂正して、要求を再試行してください。

DBA1118E *name* 値は *maximum* を超えてはいけません。

説明: 入力した値は無効です。

ユーザーの処置: 値を訂正して、要求を再試行してください。

DBA1119E *name* 値は *minimum* より小であってはなりません。

説明: 入力した値は無効です。

ユーザーの処置: 値を訂正して、要求を再試行してください。

DBA1121I システム *system* の要求 *description* のためにジョブが作成されました。ジョブ番号は *number* です。ジョブの状況および出力を表示するには、ジャーナルの「ジョブ」ページを使用してください。

説明: ジョブが正常に始動しました。

ユーザーの処置: ジョブの状況および出力を表示するには、ジャーナルの「ジョブ」ページを使用してください。

DBA1122I システム *system* の要求 *description* のためにジョブが完了しました。ジョブの状況および出力については、ジャーナルの「ジョブ」ページにあるジョブ *number* をご覧ください。

説明: ジョブが完了しました。

ユーザーの処置: ジョブの状況および出力を表示するには、ジャーナルの「ジョブ」ページを使用してください。

DBA1123I ジョブ *description* を終了します。

説明: ユーザーの要求でジョブが取り消されました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA1126I データベースに表スペースがありません。

説明: データベースに表スペースがありません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA1127I 表スペースにコンテナがありません。

説明: 表スペースにコンテナがありません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA1128E コンテナが指定されていません。コンテナを作成するには「追加」を選択してください。

説明: 現在のリストには、新しいコンテナが含まれていません。

ユーザーの処置: 「追加」を選択して必須フィールドに入力し、コンテナをリストに追加してください。

DBA1129E *name* の値を提供してください。

説明: 要求した操作は、*name* の値を入力した時のみ、実行されます。

ユーザーの処置: 値を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA1130E *name* 項目は *maximum* 文字を超えてはいけません。

説明: 入力された値は最大文字数を超過しています。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA1131E *device* は無効な磁気テープ装置です。

説明: オペレーティング・システムは、指定された磁気テープ装置を受け入れませんでした。ローカルの磁気テープ装置は "¥¥¥TAPEn" の形式で、n はドライブ番号 (0 が最初) を示します。

ユーザーの処置: 磁気テープ装置の有効な値を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA1132E 磁気テープ装置 *device* は *blocksize* のテープ・マーク・ブロック・サイズをサポートしません。

説明: コントロール・センターは、指定された磁気テープ装置がサポートしていないテープ・マーク・ブロック・サイズを使用します。

ユーザーの処置: コマンド行プロセッサを使用して、要求をサブミットしてください。サポートされているブロック・サイズを、DB2 INITIALIZE TAPE コマンドで指定してください。

DBA1133E 磁気テープ装置 *device* を処理中にエラーが発生しました。

説明: 指定された磁気テープ装置の操作中に、予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 要求を再サブミットしてください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA1134I 要求 *description* のためにジョブが作成されました。ただし、**Database Administration Server (DAS)** インスタンスにアクセスできなかったため、ジョブに関連していない項目をジャーナル内で作成できません。

説明: ジョブは正常に始動しましたが、ジョブの状況および出力はジャーナルに記録されません。これは DAS インスタンスを開始していない場合に起こります。

ユーザーの処置: ジャーナルでジョブの状況および出力

を記録するため、バックアップ操作を開始する前に、最初に DAS インスタンスを開始してください。

DBA1135I 要求 *description* に応じてジョブが終了しました。

説明: ジョブが完了しました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA1136E データベース *db* が順方向リカバリーで使用できないため、表スペース・レベルでのバックアップを実行できません。

説明: 最初にそのデータベースを順方向リカバリー用として使用可能にした場合のみ、表スペース・レベルのデータベースのバックアップができます。

ユーザーの処置: データベースを順方向リカバリー用として使用可能にするには、次のいずれかを行うことができます。

- データベース・ロギング・ウィザードを使用して、ロギング・タイプを ARCHIVE ロギングに変更する。
- LOGRETAIN または USEREXIT データベース構成パラメーターを ON に設定し、既存の全アプリケーションをデータベースから切断してデータベースのオフライン・バックアップを取る。

DBA1137E *name* 値は *minimum units* より小であってはなりません。

説明: 入力された値は、最小 *minimum units* より小さいです。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1138E *name* 値は *maximum units* を超えてはいけません。

説明: 入力された値は *unit* にある *maximum* の最大数を超えています。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1139E システム・カタログに少なくとも *pages* を割り振る必要があります。

説明: 各表スペース・コンテナでは *pages* を超えてはいけません。データの各ページには 4 KB 必要です。したがって、1 MB のストレージはこれら 4 KB ページの 256 ページ分に等しくなります。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1140E 単一コンテナに *pages* より多くのページを割り振ることはできません。

説明: データの各ページには 4 KB 必要です。したがって、1 MB のストレージはこれら 4 KB ページの 256 ページ分に等しくなります。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1141E コンテナごとに少なくとも *pages* ページを割り振る必要があります。

説明: 表スペース・コンテナの最小ページ数は表スペースのエクステント・サイズに関連します。エクステント・サイズの 5 倍 プラス 1 ページです。したがって、エクステント・サイズ 32 ページ (デフォルトの値) の表スペースに対して、単一コンテナの最小サイズは 161 ページです。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1142W LOGARCHIVE データベース構成パラメーターはデータベース *name* に対して現在 ON に設定されています。すべてのアプリケーションがデータベースから切断されるとすぐに、データベースはバックアップ・ペンディング状態になります。この状態ではデータベースを更新できません。データベースは追加の更新を行う前にバックアップする必要があります。

説明: データベース・マネージャーは、データベースで各トランザクションのロギングを開始する前に、開始点として使用するためのフル・オフライン・データベース・バックアップを持っている必要があります。

ユーザーの処置: すぐにフル・オフライン・データベースのバックアップを作成してください。不可能である場合は、LOGARCHIVE パラメーターを OFF に設定してください。

DBA1143E 少なくとも 1 つのアプリケーションがまだデータベースに接続されているため、現在はオフライン・バックアップを実行できません。あとで再試行するか、またはインスタンス・オブジェクトのポップアップ・メニューから強制を選択してデータベースに接続しているすべてのアプリケーションを即時に切断してください。

説明: オフライン・バックアップは選択されたデータベースに接続しているすべてのアプリケーションが停止するまで、実行されません。アプリケーション自体が切

断するのを待機するか、または選択したデータベースに接続されているアプリケーションを強制クローズしてください。

ユーザーの処置: このアクションをあとで再試行するか、または接続されている全アプリケーションを即時に強制クローズするには、インスタンス・オブジェクトのポップアップ・メニューから「強制」を選択してください。

DBA1144E コンテナ *container-name* はすでに存在します。

説明: 各表スペース・コンテナはユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: システムに現存していないファイル名あるいはディレクトリーを指定してください。

DBA1145E コンテナ *container-name* が複数回指定されています。

説明: 各表スペース・コンテナ・ユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: 新規コンテナ・リストに現存しないファイル名あるいはディレクトリーを指定してください。

DBA1146E コンテナ *container-name* がユーザーおよび一時ストレージ・スペースの両方に含まれます。

説明: 各表スペース・コンテナ・ユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: ユーザーまたは TEMPORARY 表スペースのいずれかで、コンテナのファイル名またはディレクトリーを変更してください。

DBA1147E コンテナ *container-name* はカタログおよび一時ストレージ・スペースの両方に含まれます。

説明: 各表スペース・コンテナ・ユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: カタログまたは TEMPORARY 表スペースのいずれかで、コンテナのファイル名またはディレクトリーを変更してください。

DBA1148E コンテナ *container-name* はユーザーおよびカタログ・ストレージ・スペースの両方に含まれます。

説明: 各表スペース・コンテナ・ユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: ユーザーまたはカタログ表スペースのいずれかで、コンテナのファイル名またはディレクトリーを変更してください。

DBA1149E *param-1* には指定したコンテナに対する十分なフリー・スペースがありません。

説明: DMS コンテナが作成されると、割り振ったスペースの全量を消費します。

ユーザーの処置: より多くのストレージがあるエリアにコンテナのロケーションを変更するか、またはコンテナの現在のロケーションで使用可能なストレージを増やしてください。

DBA1150E 同じ名前の列がすでに存在します。

説明: 同じ名前を持つ列がすでに指定されているか、あるいは作成または変更中の表にすでに存在しているため、追加できません。

ユーザーの処置: 別の列名を指定してください。

DBA1151W 要求された操作は、列または制約に対して実行されませんでした。理由コードは *reason-code* です。

説明: 表の作成または変更中に、列または制約の追加、変更、または除去を試みました。与えられた理由コードは、以下のような実規則違反を示します。

- 1 同じ名前を持つ列または制約がすでに存在しません。
- 2 列が主キーまたはパーティション・キーと関係しているため、除去できません。
- 3 列がユニーク・キーと関係しているため、除去できません。
- 4 列が外部キーと関係しているため、除去できません。
- 5 列が表ディメンションと関係しているため、除去できません。
- 6 列が表チェック制約と関係している可能性があります。操作は許可されました。
- 7 主キーおよびユニーク・キーをすべてのディメンション列のサブセットとして定義することはできません。

- 8 主キーまたはユニーク・キーがすべてのディメンション列のサブセットとなるようにディメンションを定義することはできません。
- 9 主キーおよびユニーク・キーをパーティション・キーのスーパーセットとして定義する必要があります。
- 10 パーティション・キーをすべての既存の主キーおよびユニーク・キーのサブセットとして定義する必要があります。
- 11 該当の列セットを持つオブジェクトがすでに存在します。

ユーザーの処置: 操作が失敗する原因となる状態を訂正して、操作を再試行してください。

DBA1152E 同じ名前を持つ制約がすでに存在します。

説明: 同じ名前を持つ制約がすでに指定されているか、あるいは作成または変更中の表にすでに存在しているため、追加できません。

ユーザーの処置: 別の制約名を指定してください。

DBA1153E このオブジェクトはリストにすでに存在します。

説明: 指定オブジェクトはリストにすでに存在します。アクションは実行されません。

ユーザーの処置: 別のオブジェクトを指定するか、またはウィンドウをクローズしてください。

DBA1154E 指定されたシステム、インスタンスおよびデータベースは、認識データベースを識別しません。

説明: システム、インスタンス、およびデータベース指定はアプリケーションで認められたデータベースを識別しません。アクションは実行されません。

ユーザーの処置: システム、インスタンス、およびデータベース名が正しいか確認してください。あるいは、アプリケーションにアクセスしたいシステム、インスタンス、およびデータベースを追加してください。

DBA1155E オブジェクト *object-name* はデータベースに存在しません。要求を実行できません。

説明: 指定オブジェクトはデータベースに存在せず、操作できません。要求を終了します。

ユーザーの処置: オブジェクトの更新リストを入手するために、オブジェクト・フォルダーのポップアップ・メニューから「リフレッシュ」を選択してください。

DBA1156W この要求は警告を伴い終了しました。詳細は管理ツールのログを参照してください。

説明: 要求されたアクションは完了しましたが、1 つ以上の警告メッセージが出されました。

ユーザーの処置: 詳しくは管理ツールのログを参照してください。

DBA1157E *user-name* の *object-name* で権限または特権は、付与、または取り消されています。詳細は管理ツールのログを参照してください。

説明: 要求されたアクションは完了しました。指定のオブジェクトでの指定のユーザーまたはグループの権限または特権に対するアクションは行われませんでした。

ユーザーの処置: なし

DBA1158I ロード中に読み取るレコード数は *count* です。ロードが始まる前にスキップされたレコード数は *count* です。ターゲット表にロードされた行の数は *count* です。ロードできなかったレコード数は *count* です。削除された重複行数は *count* です。正常にロードされ、データベースにコミットされたレコード数は *count* です。

説明: アクションは示された結果で完了しました。

ユーザーの処置: なし

DBA1159I エクスポートが完了しました。
item-description = *count*。

説明: エクスポート・アクションは示された結果で完了しました。

ユーザーの処置: なし

DBA1160I インポートが完了しました。インポート中に読み取るレコード数は *count* です。インポートが始まる前にスキップされたレコード数は *count* です。ターゲット表にインポートされた行数は *count* です。インポートされなかったレコード数は *count* です。削除された重複行数は *count* です。正常にインポートされ、データベースにコミットされたレコード数は *count* です。

説明: インポート・アクションは示された結果で完了しました。

ユーザーの処置: なし

DBA1161I *item-description = count.*

説明: インポートあるいはエクスポートは指定された結果で完了しました。

ユーザーの処置: なし

DBA1162I ロードが完了しました。ロード中に読み取るレコード数は *count* です。ロードが始まる前にスキップされたレコード数は *count* です。ターゲット表にロードされた行の数は *count* です。ロードできなかったレコード数は *count* です。削除された重複行数は *count* です。正常にロードされ、データベースにコミットされたレコード数は *count* です。

説明: ロード・アクションは示された結果で完了しました。

ユーザーの処置: なし

DBA1163E 表はコピーされませんでした。詳細は管理ツールのログを参照してください。

説明: 表のコピー中に 1 つまたは複数の警告あるいはエラーが起きました。表はコピーされませんでした。

ユーザーの処置: 詳しくは管理ツールのログを参照してください。

DBA1164E 指定したターゲット表はすでに存在します。ソース表はコピーされませんでした。

説明: 表のコピー・アクションはターゲット表がすでに存在しているため、失敗しました。

ユーザーの処置: 新規のターゲット表を指定するか、あるいはすでに存在するターゲット表を削除してアクションを再試行してください。

DBA1165E *user-name* の特権が付与または取り消されませんでした。

説明: 特権化が変更されていないため、指定されたユーザーまたはグループに対して特権が認可されなかったか、取り消されました。

ユーザーの処置: 現行の特権を変更後、コマンドを再サブミットしてください。

DBA1166E ID *identifier-name* の引用符が対になっていません。ID を訂正し、アクションを再試行してください。

説明: 示された ID に、対になっていない単一あるいは二重引用符があります。命名規則では、引用符が対になっていなければなりません。アクションは実行されません。

ユーザーの処置: ID を訂正し、アクションを再試行してください。

DBA1167E ID *identifier-name* には組み込みブランクが含まれています。ID を訂正し、アクションを再試行してください。

説明: 指定の ID にはブランク文字が含まれていません。これは通常 ID の命名規則に違反しています。アクションは実行されません。

ユーザーの処置: ブランクを除去するか、ID を二重引用符で区切って、アクションを再試行してください。

DBA1168E ID *identifier-name* の最初の文字が無効です。ID を訂正し、アクションを再試行してください。

説明: 指定の ID の先頭文字が無効です。通常 ID の命名規則に従ってください。アクションは実行されません。

ユーザーの処置: 先頭文字を有効な文字に置換するか、ID を二重引用符で区切って、アクションを再試行してください。

DBA1169I インスタンスおよびデータベース構成パラメーターの更新が可能なコマンド・スクリプトが正常に作成されました。スクリプト・センターを使用してスクリプトの実行あるいはスケジュールを行ってください。

説明: 新規スクリプトが正常にスクリプト・センターで保管されました。スクリプト・センターをオープンして新規コマンド・スクリプトを表示、実行あるいはスケジュールしてください。

スクリプトの実行後、変更はインスタンスがサーバー上で停止するまで反映されません。

パッケージが古い構成パラメーターでバインドされました。新規パラメーターを活用するためには、これらの新規パラメーターが反映されたあとで再バインドする必要があります。

ユーザーの処置: 新しく保管されたスクリプトの表示、実行またはスケジュールについては、アイコン・バーか

らスクリプト・センターのアイコンを選択して、スクリプト・センターをオープンしてください。

スクリプトの実行後、新規構成パラメーターを使用する準備ができたなら、インスタンスを停止して再始動してください。

必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

DBA1170E 表スペースのページ・サイズとバッファ
ー・プール *buffer-pool* のページ・サイズ
は、同じでなければなりません。

説明: 作成したい表スペースと一致するページ・サイズの、既存のバッファー・プールを選択してください。デフォルトのバッファー・プールのデフォルトのページ・サイズは 4K です。表スペースに他のページ・サイズが必要な場合、一致するページ・サイズのバッファー・プールがなければなりません。

ユーザーの処置: 「詳細表スペース」ウィンドウで表スペースのページ・サイズを変更してバッファー・プールのページ・サイズに合わせるか、表スペースのページ・サイズと同じページ・サイズのバッファー・プールに変更します。必要なページ・サイズのバッファー・プールがなければ、「バッファー・プールの作成」ウィンドウで作成できます。

DBA1171N 指定した **TEMPORARY** 表スペース
tablespace をこのユーティリティー操作で
使用することはできません。

説明: バックアップおよびリストア・コマンドを **TEMPORARY** 表スペースで実行することはできません。

ユーザーの処置: **TEMPORARY** 表スペースではない、有効な表スペースのみを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

DBA1172W データベースがバックアップ・ペンディング状態にあるため、オフライン・データベース・バックアップを実行する必要があります。これは事前選択されたものです。使用可能でない他のオプションは使用不可になりました。

説明: バックアップ・ペンディング状態にあるデータベースで有効な操作は、オフライン・データベース・バックアップを取るだけです。これらのオプションが選択されていることをウィザードが確認しました。使用可能でない他のオプションもウィザードで使用不可となりました。

ユーザーの処置: ウィザードを完了してコマンドを実行

してください。データベースのフル・バックアップを取ることをお勧めします。

DBA1173N データベース *database* が前方リカバリー
で使用できないため、表スペース・レベル
でのバックアップを実行できません。

説明: そのデータベースを順方向リカバリー用に使用可能にした場合と時のみ、表スペース・レベルのデータベースのリストアができます。

ユーザーの処置: データベースで順方向リカバリーが使用できるようにするためには、データベース構成パラメーターの **LOGRETAIN** または **USEREXIT** を **ON** に設定して、データベースから既存のアプリケーション接続を切断し、データベースのオフライン・バックアップを実行してください。

DBA1174I 同じパーティションに対して複数のイメ
ージを選択しました。ほとんどの場合、これ
を行うことを推奨しません。

説明: ほとんどの場合、リストアするのに複数のバックアップ・イメージを選択することは有益ではなく、実際、リストアを完了するための合計時間が多くなります。

ユーザーの処置: 各パーティションに 1 つだけイメージを選択するようにします。

DBA1175W この機能には、それぞれのパーティション
にイメージが必要です。

説明: ポイント・イン・タイムへのロールフォワードでは、それぞれのパーティションにイメージが必要です。「選択可能イメージ」ページですべてのパーティションを選択していないため、このオプションを使用することはできません。

ユーザーの処置: 「選択可能イメージ」ページに戻って、データベースのそれぞれのパーティションにイメージを 1 つ選択してください。

DBA1176N コントロール・センターで、システム
system-name のツール・カタログ・データ
ベース *database-name* を自動的にカタログ
するのに失敗しました。

説明: 説明は以下のとおりです。

- システム *system-name* の DB2 Administration Server で指定されたデータベースが正しくありません。
- データベースを含むデータベース・マネージャーが TCP/IP 通信用に構成されていません。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- DB2 Administration Server 構成パラメーターが正しく指定されていることを検査してください。
- データベース・マネージャーが TCP/IP 通信用に構成されていることを検査してください。

問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DBA1177N ツール・カタログ・データベース
database-name へのデータベース接続を行うことができません。SQLCODE は *sqlcode* です。

説明: ツール・カタログ・データベース *database-name* へのデータベース接続を行うことができません。SQLCODE は *sqlcode* です。

ユーザーの処置: 接続操作から戻された SQLCODE のユーザー応答を参照してください。

DBA1178W タスク *task-name* がより新しいバージョンのコントロール・センターで作成されました。

説明: 選択されたタスクは、より新しいバージョンのコントロール・センターを使用して作成されました。タスクの機能のいくつかはローカル・マシンのコントロール・センターではサポートされません。

ユーザーの処置: タスクを進めて編集するよう選択することができます。次のようにしてタスクを保管することができます。

- 変更を既存のタスクに保管する。これにより、より新しいバージョンのコントロール・センターに特有の機能が失われます。
- 新規タスクを作成して変更を保管する。これにより、オリジナル・タスクは変更されません。

DBA1179W より新しいバージョンのコントロール・センターで作成されたタスク *task-name* が上書きされます。

説明: 元々、より新しいバージョンのコントロール・センターで作成されていたタスクは上書きされます。この操作を進めると、より新しいバージョンのコントロール・センターに特有の機能が失われます。

ユーザーの処置: 以下を選択できます。

- 変更を既存のタスクに保管する。これにより、より新しいバージョンのコントロール・センターに特有の機能が失われます。

- 新規タスクを作成して変更を保管する。これにより、オリジナル・タスクは変更されません。

DBA1180W 表示できる SQL がありません。

説明: 「SQL を表示」では、現行の特権を変更する SQL ステートメントのみが表示されます。特権が変更されていない場合、SQL ステートメントは生成されません。

ユーザーの処置: 現行の特権を変更後、コマンドを再サブミットしてください。

DBA1181W 他のデータベース・パーティションがオフラインでバックアップされているときに、カタログ・パーティションを同時にバックアップすることはできません。

説明: オフライン・バックアップでは、他のデータベース・パーティションと同時に、カタログ・パーティションをバックアップすることはできません。継続すると、バックアップは失敗します。

ユーザーの処置: カatalog・パーティションが、このウィザードの「パーティション」ページで他のデータベース・パーティションと一緒にグループ化されていないことを確認してください。

DBA1183N タスク *task-name* を編集できません

説明: 選択されたタスクは、より新しいバージョンのコントロール・センターを使用して作成されました。このバージョンのコントロール・センターでは、このタイプのタスクと関連したエディターがありません。

ユーザーの処置: このタスクを編集するには、新しいバージョンのコントロール・センターを使用してください。

DBA1184W データベースが即時にオフラインになって、データベースの完全なバックアップが実行されます。

説明: これから、このウィザードの実行の一環として、オフラインでデータベースの完全なバックアップが実行されます。この操作に伴い、すべての現行ユーザーがシステムから除去され、バックアップ期間中、データベースは利用不可になります。この操作は長時間実行される可能性があります。

ユーザーの処置: 続行する場合は「OK」をクリックし、ウィザードに戻る場合は「キャンセル」をクリックします。

DBA1185W このデータベースは自動保守が使用可能です。

説明: このデータベースは自動保守を行うよう構成されており、自動のデータベースのバックアップを実行します。「バックアップ」ウィザードで手動のデータベースのバックアップを実行する代わりに、自動バックアップ設定を変更することができます。これは、「自動保守の構成」ウィザードを使って実行します。

ユーザーの処置: 「自動保守の構成」ウィザードを起動して自動データベース・バックアップ設定を構成するか、「バックアップ」ウィザードを使用して手動でバックアップを続行します。

DBA1186W 操作は正常に完了しましたが、必要なデータベースのバックアップだけが済んでいません。現在、データベースはバックアップ・ペンディング状態です。

説明: バックアップ・ペンディング状態にあるデータベースで有効な操作は、オフライン・データベース・バックアップを取るだけです。オフライン・バックアップは「バックアップ」ウィザードから実行できます。

ユーザーの処置: 「バックアップ」ウィザードを起動するか、「キャンセル」を押して戻ります。

DBA1187N 入力した日付は無効です。

説明: 保守ウィンドウの指定に際して、これを特定の日付にだけ適用するよう選択しました。入力した日付または日付の範囲に無効文字が含まれているか、日付の範囲が無効です (あるいはその両方)。

ユーザーの処置: 有効な日付のリストおよび日付の範囲を入力してから、「OK」を押してください。

DBA1188E 保守設定の更新または検索ができませんでした。

説明: 自動保守の設定は、データベースの表に保管されています。表にアクセスできなかったか、表に補完されている設定に無効なデータが含まれていたかのどちらかです。

ユーザーの処置: 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DBA1189I このデータベースの自動保守設定の構成の中に、認識されない設定があります。

説明: 認識されない設定は無視されます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA1350I 設計アドバイザーは、索引を推奨できませんでした。「計算」ページでより長い時間制限を設定し、推奨オブジェクトの計算を再試行してください。

説明: 最大検索時間が短過ぎるため、設計アドバイザーは索引を推奨できませんでした。

ユーザーの処置:

1. 設計アドバイザーの「計算」ページで、もっと長い時間制限を設定するか、制限をまったく設定しないでください。
2. 設計アドバイザーを再度実行してください。

DBA1351I 設計アドバイザーは、オブジェクトを推奨できませんでした。「制限」ページでより大きなサイズを設定して、推奨オブジェクトの計算を再試行してください。

説明: すべてのオブジェクトの最大論理サイズが小さ過ぎるため、設計アドバイザーはオブジェクトを推奨できませんでした。

ユーザーの処置:

1. 設計アドバイザーの「制限」ページで、もっと大きな最大論理サイズを設定するか、制限をまったく設定しないでください。
2. 設計アドバイザーを再度実行してください。

DBA1352I 設計アドバイザーは、ユーザーのワークロードのパフォーマンスを改善するオブジェクトを推奨できませんでした。

DBA1353W ワークロードに 1 つの SQL ステートメントのみを指定しました。データベースで他の活動が行われている可能性があります。ほかの理由によりそのオブジェクトが必要ではないことが確かでない限り、オブジェクトをドロップしないでください。

説明: ワークロードに 1 つの SQL ステートメントしか指定しなかったため、データベースに対する活動のすべてを表現していない可能性があります。

デザイン・アドバイザーの「ドロップ」ページには、この 1 つの SQL ステートメントに対して推奨されなかった、既存のオブジェクトがすべてリストされています。

ユーザーの処置: ほかの理由によりそのオブジェクトが必要ではないことが確かでない限り、オブジェクトをドロップしないでください。

DBA1354E 指定されたワークロード内の SQL ステートメントのコンパイル中に、エラーを検出しました。

説明: 設計アドバイザーは、指定されたワークロード内の SQL ステートメントのコンパイル中に問題を検出しました。1 つ以上のステートメントに SQL 構文エラーがある可能性があります。そのようなステートメントはアドバイザーの分析から除外されます。

ユーザーの処置: 「ワークロード詳細ダイアログ (Workload Details Dialog)」を開き、エラーがあるステートメントを表示します。「ワークロード (Workload)」ページから、ワークロード内のステートメントを編集して、必要な修正を加えてください。修正したら、「推奨 (Recommendation)」ページを選択して、分析を開始してください。

DBA1355E ADVISE 表と EXPLAIN 表が一致しません。

説明: ADVISE 表と EXPLAIN 表が、現行バージョンの DB2 UDB と一致しません。

ユーザーの処置: 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DBA1356E 推奨アドバイザーが alert に関する推奨事項を検索しようとして、重大でないエラーを検出しました。

説明: 推奨アドバイザーがヘルス・インディケーターのアラートを解決するための情報を検索しているときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DBA1357E GUI-tool の起動を試みている間にエラーが発生しました。

説明: 指定されたツールを起動しようとして、予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 代わりに方法でツールを起動してみてください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DBA1358E 設計アドバイザーが予期しないエラーを検出しました。戻りコード = *return-code*。

ユーザーの処置: 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DBA1500E ローカル・システム・オブジェクトは除去が許可されていません。

説明: これがサーバー・インストールの場合、ローカル・システム・オブジェクトがツリーで表示されますが、クライアント・インストールの場合は表示されません。このオブジェクトは、サーバー・インストール・タイプによって要求される特定のプロパティを持つため、ユーザーはオブジェクトを除去できません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA1501E ローカル・システム・オブジェクトは変更が許可されていません。

説明: これがサーバー・インストールの場合、ローカル・システム・オブジェクトがツリーで表示されますが、クライアント・インストールの場合は表示されません。このオブジェクトは、サーバー・インストール・タイプによって要求される特定のプロパティを持つため、ユーザーはオブジェクトを変更できません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA1502E 不明なシステム・オブジェクトは除去が許可されていません。

説明: 不明なシステム・オブジェクトは、既存のシステムに属するものとして認識されていない孤立インスタンスが検出された場合にのみ、ツリーに表示されます。このオブジェクトは、必要なときだけ自動的に表示されるため、ユーザーはオブジェクトを直接除去できません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。ただし、オブジェクトをツリーで表示するため必要性を除去したい時は、次のステップに従ってください。

- 不明なシステム・オブジェクトを展開して、すべての孤立インスタンスを表示してください。
- 必要に応じて、孤立インスタンスを含むコントロール・センターに新規システム・オブジェクトを追加してください。
- 必要に応じて、変更アクションを使用して、残りの任意の孤立インスタンス上でシステム名を更新してください。
- 不明なインスタンス・オブジェクトも表示される場合、既存のインスタンスに属するものとして認識されていない孤立データベースも存在します。孤立が表示されなくなるまでインスタンスを追加するか、またはデータベースを変更することでオブジェクト表示の要求を除去してください。

DBA1503E 不明なシステム・オブジェクトは変更が許可されていません。

説明: 不明なシステム・オブジェクトは、既存のシステムに属するものとして認識されていない孤立インスタンスが検出された場合にのみ、ツリーに表示されます。このオブジェクトは、必要なときだけ動的に表示されるため、また変更できない特定のプロパティを持つため、ユーザーはオブジェクトを変更できません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA1510E システム名を指定してください。

説明: 新規システム・オブジェクトを追加する前に、システム名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでシステム名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1511E 指定したシステム名はすでに使用されています。ユニークなシステム名を指定してください。

説明: 指定されたシステム名は、ツリーの別のシステム・オブジェクトに使用された名前と一致しています。システム名はコントロール・センター内でユニークでなければなりません。また、それらは大文字小文字の区別を必要とします。「ローカル」または「不明」をシステム名として使用することはできません。それは、この2つは、ローカルおよび不明のシステム・オブジェクトで使用するため、予約されているためです。混乱を避けるため、ツールでは使用することができますが、既存のインスタンス名またはデータベース名をシステム名として使用しないようにしてください。

ユーザーの処置: ユニークなシステム名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1520W このシステム・オブジェクトのオペレーティング・システムは *newos* であると検出されますが、ローカル情報では *oldos* であると表示されます。即時にローカル情報を更新し、正しいオペレーティング・システムのタイプを反映しますか?

説明: 新規システム・オブジェクトを追加するとき、リモート・システムに対してローカルに保管されるオペレーティング・システム・タイプを指定します。その後、実際の接続がリモート・システムに対して実行されたとき、真のオペレーティング・システム・タイプが報告し直されます。オリジナルのオペレーティング・システム・タイプが不正に設定されたため、リモート・システムの真の設定と一致しない可能性があります。この場合は、リモート・システムの真の設定と一致するため、ロ

ーカル情報を更新してください。

ユーザーの処置: ローカル情報を更新するには「はい」を、更新しない場合は「いいえ」を選択してください。

DBA1521W このシステム・オブジェクトのバージョン・タイプは *newtyp* であると検出されていますが、ローカル情報では *oldtyp* であると表示します。即時にローカル情報を更新し、正しいバージョン・タイプを反映しますか?

説明: 新規のシステム・オブジェクトを追加するとき、選択したオペレーティング・システム・タイプによって、サーバー・バージョン・タイプが自動的に DB2 V5 または DRDA に設定されます。その後、実際の接続がリモート・システムに対して行われたとき、(DB2 V2 のような前のリリースの可能性がある) 真のサーバー・バージョン・タイプが報告し直されます。この場合は、リモート・システムの真の設定と一致するため、ローカル情報を更新してください。

ユーザーの処置: ローカル情報を更新するには「はい」を、更新しない場合は「いいえ」を選択してください。

DBA1522W このシステム・オブジェクトのオペレーティング・システムとサーバー・バージョン・タイプは、それぞれ *newos* および *newtyp* であると検出されていますが、ローカル情報では *oldos* および *oldtyp* であると表示されています。即時にローカル情報を更新し、これらの正しい値の設定を反映しますか?

説明: 新規システム・オブジェクトを追加するとき、リモート・システムに対してローカルに保管されるオペレーティング・システム・タイプを指定します。また、選択したオペレーティング・システム・タイプによって、サーバー・バージョン・タイプが自動的に DB2 V5 または DRDA に設定されます。その後、実際接続がリモート・システムに対して行われたとき、真のオペレーティング・システム・タイプおよびサーバー・バージョン・タイプが報告し直されます。この情報のオリジナル設定が不正のため、リモート・システムの真の設定と一致しない可能性があります。この場合は、リモート・システムの真の設定と一致するため、ローカル情報を更新してください。

ユーザーの処置: ローカル情報を更新するには「はい」を、更新しない場合は「いいえ」を選択してください。

DBA1530E 指定したシステムは、ご使用のローカル・システムが使用するプロトコルをサポートするように構成されていません。

説明: 指定したシステムはネットワーク上にありますが、このリモート・システムの Administration Server は、ご使用のローカル・システムが使用するプロトコルをサポートするように構成されていません。

ユーザーの処置: DB2COMM パラメーターも含めて、リモート・システムの Administration Server で通信を構成しないと、正常にアクセスすることはできません。

DBA1533E サーバー・プロファイルをエクスポートできません。

説明: ターゲット・ファイル・システムに、エクスポート操作を完了するための十分なディスク・スペースがない可能性があります。

ユーザーの処置: ターゲット・ファイル・システムのディスク・スペースを解放して、操作をやり直してください。問題が解決しない場合、DB2 システム管理者に問い合わせてください。

DBA1534W 有効なメール・サーバーが構成されていません。

説明: SMTP_SERVER DB2 Administration Server 構成パラメーターの現行値が無効です。

ユーザーの処置: 「ヘルス・アラート通知のトラブルシューティング (Troubleshoot Health Alert Notification)」ウィザードを使って、有効なメール・サーバーを識別してください。

DBA1540E アクティブなローカル・インスタンスは除去が許可されていません。

説明: アクティブなローカル・インスタンス・オブジェクトはいつも、ローカル・システム・オブジェクト下の最初のインスタンスとしてツリーで表示されます。これは現行の DB2INSTANCE 環境変数設定を指示するのに使用される、特定のインスタンス・オブジェクトです。このオブジェクトは、ローカル・システムによって要求される特定のプロパティを持つため、ユーザーはオブジェクトを除去できません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA1541E アクティブなローカル・インスタンスは変更が許可されていません。

説明: アクティブなローカル・インスタンス・オブジェクトはいつも、ローカル・システム・オブジェクト下の最初のインスタンスとしてツリーで表示されます。これ

は現行の DB2INSTANCE 環境変数設定を指示するのに使用される、特定のインスタンス・オブジェクトです。このオブジェクトは、ローカル・システムによって要求される特定のプロパティを持つため、ユーザーはオブジェクトを変更できません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA1550E インスタンス名を指定してください。

説明: 新規システム・オブジェクトを追加する前に、インスタンス名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでインスタンス名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1551E 指定したインスタンス名はすでに使用されています。ユニークなインスタンス名を指定する必要があります。あるいは、インスタンス名を指定しないと、自動的に生成されます。

説明: 指定されたインスタンス名は、ツリーの別のインスタンス・オブジェクトに使用された名前と一致しているか、またはツリーのシステム・オブジェクトによって使用されています。インスタンス名はコントロール・センター内のユニークなもので、いつも大文字である必要があります。さらに、システム・オブジェクトは、(選択されたシステム名の短形のインスタンス名) 自動的に生成されたインスタンス名を使用してプロトコル情報を保管します。インスタンス名に対して、'LOCAL'の名前または現行の DB2INSTANCE 環境変数設定を使用できません。

ユーザーの処置: 別のインスタンス名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1552E リモート・インスタンスを指定してください。

説明: 新規インスタンス・オブジェクトを追加する前に、リモート・インスタンスを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでリモート・インスタンスを指定して、アクションを再試行してください。

DBA1560E 宛先名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルの宛先名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドで宛先名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1561E ファイル・サーバーを指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのファイル・サーバーを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでファイル・サーバーを指定して、アクションを再試行してください。

DBA1562E ワークステーション名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのワークステーション名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでワークステーション名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1563E ホスト名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのホスト名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでホスト名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1564E サービス名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのサービス名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでサービス名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1565E コンピューター名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのコンピューター名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでコンピューター名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1566E インスタンス名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのインスタンス名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでインスタンス名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1567E このアクションまたは機能は、このインスタンス・タイプまたは関連するシステムでは選択可能ではありません。

説明: 選択されたアクションまたは関連機能は現在、そのアクションまたは機能が開始されたインスタンスのタイプについてはサポートされていません。ただし、Satellite Edition など、インスタンス・タイプの全機能がサポートされないわけではありません。

ユーザーの処置: このインスタンス・タイプで使用できる機能について説明されている文書を参照してください。

DBA1568W データベース接続は確立されましたが、同期点 2 フェーズ接続を確立しませんでした。

説明: 同期点 2 フェーズ接続タイプを使用して、データベースへの接続が試みられました。接続は確立されましたが、同期点 2 フェーズ接続を作成できませんでした。このデータベース接続が関連するマルチサイト更新は成功しません。

ユーザーの処置: 複数サイトの更新のシナリオが、ご使用の環境用に正しく構成されているか、および調整インスタンスが、構成の完了後に再始動しているかどうか、チェックしてください。DB2 の同期点マネージャーが使用されている場合、これが正常に開始されているかどうか調べるには、db2diag.log をチェックしてください。

DBA1569E リモート・インスタンス名が認識されていないため、このインスタンスではアクションを完了できません。

説明: リモート・インスタンス名は任意指定のパラメーターで、指定されていませんでした。このアクションをリモート・インスタンスで実行するには、リモート・インスタンス名を認識させてください。

ユーザーの処置: 「インスタンス変更」ウィンドウを呼び出して、リモート・インスタンスの名前を指定します。

DBA1570E このシステムの DB2 Administration Server が定義されていません。

説明: 現行の操作ではシステムの Administration Server にアタッチする必要がありますが、そのインスタンス名が指定されていません。

ユーザーの処置: ターゲット・システムで変更アクションを呼び出して、インスタンス名、オペレーティング・システム、およびその他のプロトコル・パラメーターを指定します。

DBA1571W ローカル・システムの名前が
DB2SYSTEM 環境変数と一致しません。

説明: ローカル管理ノードのシステム名が
DB2SYSTEM 環境変数の値と異なります。

ユーザーの処置: 次の 3 つのオプションがあります。

- DB2SYSTEM 環境変数の値を、ローカル管理ノードのシステム名と一致するように変更する。
- ローカル管理ノードをアンカタログして、自動的に再カタログするコントロール・センターを呼び出す。
- ローカル管理ノードをアンカタログして、DB2SYSTEM 環境変数の値と一致するシステム名で再カタログする。

DBA1572E 指定されたインスタンス名 *instance-name*
が無効です。

説明: 指定されたインスタンス名が無効です。 インスタンス名は 1 から 8 文字で、すべての文字はデータベース・マネージャの基本文字セットから使用する必要があります。 また、インスタンス名はその他のカタログ・インスタンスの名前と一致しないものにしてください。

ユーザーの処置: インスタンス名に異なる値を指定します。

DBA1573E このアクションは選択されたシステムでは
使用できません。

説明: コントロール・センター・アクションの中には、ターゲット・システムで Administration Server が使用可能であることが前提となっているものもあります。 選択されたシステムには Administration Server がありません。 要求されたアクションは、このシステムでは使用できません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA1580E 新規データベース・オブジェクトは不明シ
ステムへの追加が許可されていません。

説明: 不明なインスタンス・オブジェクトは、既存のインスタンスに属すものとして認識されていない孤立データベースが検出される場合にのみツリーに表示されます。 ツールは、いつでも可能な場合に新規孤立の作成を妨げるため、不明なインスタンスに新規孤立を追加できません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA1581E データベース名を指定してください。

説明: 新規データベース・オブジェクトを追加する前に、データベース名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでデータベース名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1582E 別名を指定してください。

説明: 新規データベース・オブジェクトを追加する前に、別名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドで別名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1583E 指定された別名はすでに使用されていま
す。

説明: 指定した別名は、ツリーの別のデータベース・オブジェクトに使用された別名と一致しています。 データベース別名はコントロール・センター内のユニークなもので、いつも大文字である必要があります。

ユーザーの処置: ユニークな別名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1590W *dbase* データベースは **DB2 V5** よりも前
の **DB2** のバージョンを使用して作成され
ました。このデータベースが移行するまで
限られた機能のみが許可されます。

説明: DB2 V5 タイプ・システム・オブジェクトの下で見つかったすべてのデータベースは、最初 DB2 V5 データベースである想定されます。 このデータベースは実際に、まだ DB2 V5 に移行していないバックレベル・データベースだと分かりました。 このデータベースにアクセスはできますが、実際に移行するまでに、限られた機能のバックレベルだけが使用可能です。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA2000E ジョブ記述が指定されていません。

説明: ジョブの記述は必須情報です。

ユーザーの処置: 入力フィールドにジョブ記述を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA2001E 選択に対する時間数が指定されていま
せん。

説明: 選択に対する時間数は必須情報です。

ユーザーの処置: 時間入力フィールドで数値を入力してください。

DBA2002E 選択に対し、少なくとも 週の 1 日を選択してください。

説明: 繰り返し実行するジョブをスケジュールするには、ジョブに対して少なくとも 1 週間の 1 日を指定してください。

ユーザーの処置: 繰り返し実行するジョブをスケジュールするときは、少なくとも 1 週間の 1 日を指定してください。

DBA2003E 無効な日付を指定しました。

説明: 指定された日付が無効です。指定された日付が過ぎた可能性があります。

ユーザーの処置: 有効な日付を入力してください。

DBA2004E 指定された日付または時刻、または日付と時刻の組み合わせが無効です。

説明: 次の実行日時を計算できないため、ジョブがスケジュールされません。可能なエラーとしては、実行されるジョブに対して指定された時刻が過ぎた時刻だったことです。スケジュールされたジョブを実行する管理ホストでの日付と時刻の組み合わせが有効でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効な日付と時刻の組み合わせを入力してください。

DBA2005E スクリプト名が指定されていません。

説明: スクリプト名は必須情報です。

ユーザーの処置: スクリプト・ファイル名を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA2006E コメントが指定されていません。

説明: ジョブ完了後にコメントを記録する指示があったが、コメント入力フィールドが空です。

ユーザーの処置: コメントを入力するか、または「コメントを結果とともに表示」チェック・ボックスを消去してください。

DBA2007E 無効なスクリプト名を指定しました。

説明: コマンド・スクリプトはファイル・システムでファイルとして保管されています。スクリプト・パスは最大 255 バイトまでです。スクリプト名のファイル名部分は最長 8 バイトです。指定する拡張子は 3 バイトまでです。スクリプト名にはブランクを含んではなりません。たとえば、有効なスクリプト名は次の通りです。j:¥script¥new.cmd c:¥data¥test¥crtdb.bat

ユーザーの処置: 有効なスクリプト名を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA2008I ジョブ *job-id* は正常に作成されました。

説明: 新規ジョブが正常にスケジュールされました。新しく作成されたジョブの表示については、ジャーナル・ジョブ・サマリーを参照してください。

ユーザーの処置: 新しく作成されたジョブの表示については、アイコン・バーのジャーナル・アイコンを選択して、ジャーナル・ジョブ・サマリーを参照してください。

DBA2009E システム・エラーが発生しました。スケジューラー **InfoBase** 呼び出しが失敗しました。 **RC = return-code Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2010E スケジューラー・サービスが実行されていません。 **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: ジョブ・スケジューラーまたはスクリプト・センターに関連する任意のアクションを行うには、スケジューラー・サービスが実行中でなければなりません。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

DBA2011E システム・エラーが発生しました。スケジューリング・タイプ (**DBA** または **PGM**) が無効です。 **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2012E システム・エラーが発生しました。OS エラーを検出しました。RC = *return-code* **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2013E ジョブ ID が見つかりませんでした。**Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2014E システム・エラーが発生しました。ジョブの状況を変更できません。**Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2015E システム・エラーが発生しました。クライアントでのメモリー割り振りに異常がありました。**Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2016E システム・エラーが発生しました。スキャン・ハンドルが無効です。**Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2017I 本当に、選択されたジョブを除去しますか?

説明: 選択したジョブの除去を指定しました。選択したジョブを除去して継続するか、あるいは要求を取り消すかを今再確認できます。

ユーザーの処置: 選択したジョブを除去するには「はい」を選択してください。除去の要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

DBA2018I 本当に、選択された保管スクリプトを除去しますか?

説明: 現在保管済みの選択スクリプトの除去を指定しました。選択したスクリプトを除去して、そのあと要求を継続するか取り消すかを二重チェックすることができます。

ユーザーの処置: 選択したスクリプトを除去するには「はい」を選択してください。除去の要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

DBA2019E 選択に対する日数が指定されていません。

説明: 選択に対する日数は必須情報です。

ユーザーの処置: 日数入力フィールドで数値を入力してください。

DBA2020E システム・エラーが発生しました。スクリプト・タイプを判別できません。コマンド・スクリプトが実行されていません。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2021I 本当に、変更を廃棄してもいいですか?

説明: 変更がスクリプト・センターで保管されないように指定しました。変更の廃棄を継続するか、または要求を取り消して編集を再開することができます。

ユーザーの処置: 変更を廃棄するには「はい」を選択してください。コマンド・スクリプトの編集を再開するには「いいえ」を選択してください。

DBA2022I コマンド・スクリプト *script-id* が正常に作成されました。

説明: 新規スクリプトが正常にスクリプト・センターで保管されました。新規コマンド・スクリプトを表示するには、スクリプト・センターを参照してください。

ユーザーの処置: 新しく保管されたスクリプトの表示については、アイコン・バーのスクリプト・センターの

アイコンを選択して、スクリプト・センターを参照してください。

DBA2023E インスタンス *instance-name* が存在しません。 コマンド・スクリプトが実行されていません。

説明: スクリプト・ファイルに関連するインスタンス名が存在しません。

ユーザーの処置: スクリプト・センターから「編集」を選択して、インスタンス名を既存のインスタンスへ更新してください。

DBA2024E コマンド・スクリプト *script-id* が存在しません。

説明: ジョブに関連するスクリプト・ファイルが存在しないため、スケジュールされたジョブを実行できません。

ユーザーの処置:

DBA2025E システム・エラーが発生しました。この問題は、クライアントのメモリー割り振りに関連している可能性があります。
Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2026I 本当に、選択されたジョブを除去しますか？

説明: 選択したジョブの除去を指定しました。 選択したジョブを除去し、要求を継続するか取り消すかを二重チェックすることができます。

ユーザーの処置: 選択されたジョブを除去するには「はい」を選択してください。 除去の要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

DBA2027I 選択した保管スクリプトを除去しますか？

説明: 現在保管済みの選択スクリプトの除去を指定しました。 選択したスクリプトを除去、要求を継続するか取り消すかを二重チェックすることができます。

ユーザーの処置: 選択されたスクリプトを除去するには「はい」を選択してください。 除去の要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

DBA2028E 選択に対する週数が指定されていません。

説明: 選択に対する週数は必須情報です。

ユーザーの処置: 週入力フィールドに数値を入力してください。

DBA2029E システム・エラーが発生しました。スケジューラー・キーが見つかりません。
Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2030E システム名を指定していません。 リストより選択してください。

説明: アクションを処理するには、システム名が必須情報になります。

ユーザーの処置: ドロップダウン・リストからシステム名を選択してください。

DBA2031I ジョブ *job-id* は正常に再スケジュールされました。

説明: 要求されたジョブの再スケジュールが正常に再スケジュールされました。

ユーザーの処置:

DBA2032E スクリプト名が指定されていません。

説明: スクリプト名は必須情報です。

ユーザーの処置: 入力フィールドにスクリプト名を入力して「OK」をクリックしてください。

DBA2033E コマンド・スクリプトが入力されていません。

説明: コマンド・スクリプトが空です。

ユーザーの処置: コマンド・スクリプトの内容を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA2034I コマンド・スクリプト *script-id* が正常に更新されました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2035E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト *script-id* を検索できませんでした。 **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2036E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプトを作成できませんでした。 **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2037E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト *script-id* を置換できません。 **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2038E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト *script-id* をコピーできませんでした。 **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2039E 選択に対する月数が指定されていません。

説明: 選択に対する月数は必須情報です。

ユーザーの処置: 月入力フィールドに数値を入力してください。

DBA2040E 選択に対し、少なくとも月の 1 日を選択する必要があります。

説明: 繰り返し実行するジョブをスケジュールするには、ジョブに対して月ごとに少なくとも 1 日を指定してください。

ユーザーの処置: 繰り返し実行するジョブをスケジュールするときは、月ごとに少なくとも 1 日を指定してください。

DBA2041E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト *script-id* を移動できません。 **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2042E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト *script-id* を実行できません。 **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2043I ジョブ *job-id* はコマンド・スクリプト *script-id* の実行用に正常に作成されました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2044E スクリプト記述が指定されていません。

説明: スクリプト・ファイルの記述は必須情報です。

ユーザーの処置: スクリプト・ファイルの記述を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA2045E ジョブ *job-id* に関連するコマンド・スクリプトはシステム生成されません。内容を表示できません。

説明: バックアップまたは再編成表アクションに関連するスクリプトは、読み取り可能形式ではありません。

ユーザーの処置: 次の内容を表示するには、別のコマンド・スクリプト (ファイル?) を選択してください。

DBA2046E コマンド・スクリプト *script-id* はシステムにより生成されます。内容の編集はできません。

説明: バックアップまたは再編成表アクションに関連するスクリプトは、読み取り可能形式ではありません。

ユーザーの処置: 編集するには、別のコマンド・スクリプト・ファイルを選択してください。

DBA2047E システム・エラーが発生しました。スクリプト・タイプが不明です。

Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2048E 指定されたファイル名はすでに存在しません。別のスクリプト・ファイル名を指定してください。

説明: 各スクリプト・ファイル名がユニークである必要があります。指定されたファイル名はすでに存在しません。

ユーザーの処置: ユニークなスクリプト・ファイル名を指定してください。

DBA2049E システム・エラーが発生しました。ファイル・アクセスが拒否されました。

説明: アプリケーションはファイルをファイル・システムにアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2050E システム・エラーが発生しました。ディスクがいっぱいです。

説明: ディスクにスペースがありません。処理を継続できません。

ユーザーの処置: ファイル・システムから不要なファイルを削除してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2051E システム・エラーが発生しました。ハード・ディスク・エラーが発生しました。

説明: ハード・ディスクに関連する内部エラーが発生しました。アプリケーションはファイルにアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2052E ログオンの失敗によりジョブを実行できません。ユーザー ID = *user-id*。

説明: パスワードが与えられたユーザー ID に対して無効、またはユーザー ID が無効です。

ユーザーの処置: プロンプトが出されるときに有効なユーザー ID およびパスワードを入力します。

DBA2053E システム・エラーが発生しました。ジョブ履歴項目を除去できません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2054E システム・エラーが発生しました。ジョブ *job-id* を実行できません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2055E コマンド・スクリプト *script-id* がスクリプト・センターから除去されました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2056I コマンド・スクリプト *script-id* が変更されませんでした。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2057E システム・エラーが発生しました。パスが有効ではありませんでした。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してか

らコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2058E ファイルの行は *number* バイトより大きいです。

説明: 行の最大バイト数を超過しています。

ユーザーの処置: 制限を超えずに、長い行を分離して再書き込みしてください。

DBA2059E システム・エラーが発生しました。共用違反がありました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2060E システム・エラーが発生しました。スクリプト *script-id* をコピーできません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2061I スクリプト *script-name* が正常に作成されました。

説明: 名前 *script name* の新規スクリプト・ファイルが正常に作成されました。

ユーザーの処置: 新しく作成されたスクリプトを表示するには、アイコン・バーからスクリプト・センターのアイコンを選択してスクリプト・センターを参照してください。

DBA2062E システム・エラーが発生しました。新規スクリプトを作成できません。

Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2063E システム・エラーが発生しました。ジョブ *job-id* の結果を検索できません。

Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2064E このスクリプト・ファイル名に対して、スクリプト・センター・レコードがすでに存在します。別のスクリプト・ファイル名を指定してください。

説明: 各スクリプト・ファイル名がスクリプト・センター内でユニークである必要があります。指定されたファイル名はすでに存在します。

ユーザーの処置: ユニークなスクリプト・ファイル名を指定してください。

DBA2065E システム・エラーが発生しました。スクリプト・ファイルがファイル・システムに存在しません。

説明: スクリプト・ファイルがファイル・システムで見つかりませんでした。ファイルが消去された可能性があります。

ユーザーの処置: スクリプト項目を除去して再度作成してください。

DBA2067I REORG TABLE コマンドは正常に完了しました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2068E インスタンス名が入力されていません。

説明: インスタンス名は必須情報です。

ユーザーの処置: 入力フィールドにインスタンス名を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA2069W 最大数の *number* ジョブが作成されています。古くなったジョブを除去してください。

説明:

ユーザーの処置: 他の新規ジョブを作成する前に、不要になったジョブを除去してください。

DBA2070W 最大数の *number* スクリプトが作成されています。古くなったスクリプトを除去してください。

説明:

ユーザーの処置: 別の新規スクリプトを作成する前に、不要になったスクリプトを除去してください。

DBA2071W *number* バイトの最大数に達しました。表示されるデータは切り捨てられます。完全なファイル *file-name* がサーバーにあります。

説明: エディターは、現行のファイルが大き過ぎるためハンドルできません。表示されたデータが切り捨てられました。

ユーザーの処置: ファイル全体が、指示されたロケーションのサーバーで表示されます。

DBA2072E ジョブ *job-id* に関連するスクリプトはスクリプト・センターから除去されました。

説明: スクリプト・ファイルは存在しません。

ユーザーの処置:

DBA2073E ユーザー ID およびパスワードを指定していません。

説明: ジョブを実行するためのユーザー ID およびパスワードが必要です。

ユーザーの処置: ジョブを実行するためのユーザー ID およびパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

DBA2074E システム・エラーが発生しました。作業ディレクトリー・パスが無効でした。

説明: 指定の作業ディレクトリーは、スクリプトの実行に使用されないため、存在しません。

ユーザーの処置: 有効な作業ディレクトリー・パスを選択するには、「ブラウズ...」ボタンを使用してください。

DBA2075I ジョブ *job-id* がサブミットされました。結果を見るにはジャーナルの「ジョブ」ページを使用してください。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2076E ジョブが異常終了しました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2077E ファイル名 *file-name* はすでにファイル・システムにあります。

説明: ファイル名はユニークである必要があります。

ユーザーの処置: 別のファイル名を指定してください。

DBA2078E 予期しないエラーが発生しました。ジョブの出力がありません。

説明: ジョブの実行からのジョブ出力がありません。

ユーザーの処置: 無効なファイル拡張子がオペレーティング・システムで使用されている可能性があります。有効な拡張子でスクリプトを再作成してください。

DBA2081W ファイル *file-name* がスクリプト・センターの最大バイト数 (*maximum-bytes*) を超えています。ファイルを表示または編集するには、外部エディターを使用する必要があります。

説明: ファイルのサイズが、スクリプト・センターで表示できる最大サイズを上回っています。

ユーザーの処置: 外部エディターを使用して、ファイルを表示または編集してください。

DBA2082W スクリプトについてのファイル許可が、スクリプト・センターが現在のユーザー ID でスクリプトを読み取るには十分ではありません。

説明: スクリプトについてのファイル許可が、スクリプト・センターが現在のユーザー ID でスクリプトを読み取るには十分ではありません。

ユーザーの処置: スクリプトについてのファイル許可が適切に設定されていることを確認してください。

DBA2083I タスクに基づいたダイアログを編集しようとしています。編集すると、そのダイアログを使用して、タスクを編集する機能を除去することになります。続行しますか?

説明: 編集しようとしているタスクは、DBA ツール・ダイアログまたはウィザードによって作成されたものです。手動で編集せず、「ダイアログによる編集」アクションを使用することをお勧めします。このタスクを手動で編集する選択をすると、「ダイアログによる編

集」の機能を将来失うこととなります。「進行の表示」などの他の機能も失われます。

ユーザーの処置: ダイアログを基にしたタスク・フォーマットでタスクを保持するには「いいえ」を選択します。タスクを単純なタスクへ変換して、手動での編集を続行するには、「はい」を選択します。

DBA2151E スクリプトが保管されていないため、スケジュールできません。

説明: 保管アクションを取り消したため、スクリプトがスケジュールされません。そのため、スクリプトがスクリプト・センターに保管されませんでした。

ユーザーの処置: スクリプトを保管してスケジューリングを再試行してください。

DBA2152I スケジュールされる前に、スクリプトはスクリプト・センターに保管される必要があります。

説明: スクリプト・センターに保管されているスクリプトのみが、スケジュールおよび実行可能です。

ユーザーの処置: スクリプト・センターにスクリプトを保管する場合は「OK」を、スクリプトのスケジュールをしない場合は「取り消し」を選択してください。

DBA2153I ファイル *file-name* は正常にオープンしました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2154I スクリプト *script-name* は正常にオープンしました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2155I ファイル *file-name* に上書きしますか?

説明: ファイル *file name* は現在ファイル・システムに存在しており、保管操作により内容が上書きされます。

ユーザーの処置: ファイル内容を上書きする場合は「OK」を、内容を変更しない場合は「取り消し」を選択してください。

DBA2156I スクリプト *script-name* に上書きしますか?

説明: スクリプト *script name* は現在スクリプト・センターに存在しており、保管操作により内容が上書きされます。

ユーザーの処置: スクリプトの内容を上書きする場合は「OK」を、内容を変更しない場合は「取り消し」を選択してください。

DBA2157I ファイル *file-name* は正常に更新されました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2158I ファイル *file-name* は正常に作成されました。

説明: 名前 *file name* の新規ファイルはファイル・システムに正常に作成されました。

ユーザーの処置:

DBA2160I スケジュールされる前に、スクリプトはタスク・センターに保管される必要がありません。

説明: タスク・センターに保管されているスクリプトのみが、スケジュールおよび実行可能です。

ユーザーの処置: タスク・センターにスクリプトを保管する場合は「OK」を、スクリプトのスケジュールをしない場合は「キャンセル」を選択してください。

DBA2161I スクリプト *script-name* に上書きしますか?

説明: スクリプト *script name* は現在タスク・センターに存在しており、保管操作により内容が上書きされます。

ユーザーの処置: スクリプトの内容を上書きする場合は「OK」を、内容を変更しない場合は「取り消し」を選択してください。

DBA2171I スクリプトに対するすべての変更を廃棄してコマンド・センターを終了しますか?

説明: コマンド・センターの終了を選択しましたが、現行スクリプトに対する変更はまだ保管されていません。終了要求を取り消さないかぎり、変更内容は失われます。

ユーザーの処置: 変更を廃棄してコマンド・センターを

終了する場合は「はい」を、終了要求を取り消す場合は「いいえ」を選択してください。

DBA2172I 現行スクリプトに対するすべての変更を廃棄して新規のスクリプトを作成しますか？

ユーザーの処置: 変更を廃棄して新規スクリプトを作成する場合は「はい」を、要求を取り消す場合は「いいえ」を選択してください。

DBA2173I コマンド・センターがまだコマンドを処理しています。後で再試行してください。

説明: スクリプトの実行あるいはコマンド・セットの発行を試行しましたが、コマンド・センターは、現行コマンドの処理を完了しないかぎりコマンドを処理できません。

ユーザーの処置: 後ほど再試行してください。現行コマンドを停止するには、ツールバーのギア変更アイコンをクリックするか、または「結果」ページの結果メニューから「終了」を選択します。

DBA2174E コマンド行で指定されたファイル *file-name* をオープンできません。ファイルの存在とファイルへの読み取りアクセス権があることを確認して、再度試行してください。

説明: インポートするスクリプトを含むファイルの名前を指定しましたが、コマンド・センターが該当するファイルにアクセスできません。

ユーザーの処置: コマンド行でファイル名を正しく入力したこと、ファイルが存在すること、およびユーザー ID に該当ファイルへの読み取りアクセスがあることを確認してください。

DBA2175E 「コマンド・センター」ウィンドウを作成するためのメモリーが不足しています。アプリケーションを続行できません。

説明: 「コマンド・センター」ウィンドウの作成を試行する際に、メモリー割り振りの問題がシステムに発生しました。

ユーザーの処置: コマンド・センターを実行するための十分なメモリーがシステムにあることを確認して再試行してください。

DBA2176E システム環境が初期化されませんでした。アプリケーションを続行できません。データベース・マネージャーを再始動して再度試行するか、またはローカル・サポート担当者に連絡してください。

説明: コマンド・プロセッサ環境が正しく初期化されませんでした。

ユーザーの処置: ディスク・スペースが十分あることを確認し、再試行してください。

DBA2177E Visual Explain に関連した問題が起きたため、システムはアクセス・プランを作成できませんでした。

説明: コマンド・センターで、アクセス・プランを作成中に問題が発生しました。

ユーザーの処置: 直前のメッセージからヘルプを参照してください。

DBA2178E アクセス・プランを作成するにはデータベース接続が必要です。「接続」ステートメントを使用してデータベースに接続し、コマンドを再試行してください。

ユーザーの処置: まず「接続」を使用してデータベース接続を確立し、次にそのデータベースのアクセス・プランを作成します。使用可能なデータベースのリストを見るには、「データベース・ディレクトリーのリスト」コマンドを発行してください。

DBA2179E 使用したステートメントが正しい形式でないか、照会でないためアクセス・プランが作成されません。

説明: アクセス・プランを作成するために私用したステートメントは正しい照会の形式ではないか、または照会ではありません。

ユーザーの処置: 照会形式中にエラーがないかステートメントをチェックして、必要な変更を行い、ステートメントを再試行してください。有効な照会形式については、Visual Explain 文書を参照してください。

DBA2180I ステートメントの前のプログラム名 "db2" は必要ないため無視されます。

説明: コマンド・センターでは、ステートメントの前に "db2" を入力する必要はありません。入力が必要なのは、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトの場合です。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA2181I コマンド・センターは現在使用できません。しばらくしてからやり直してください。

説明: JDBC サーバーは、複数の WEBCC コマンド・センター・セッションをサポートしていません。JDBC サーバーは、既存のコマンド・センター・セッションですでに使用されています。

ユーザーの処置: 現在のコマンド・センター・セッションが完了するまで待機し、操作をやり直してください。

DBA2182N パターン *script-name-pattern* に従ったスクリプト名は、同じパターンに従った名前のスクリプトがスクリプト・センターにすでに多く含まれているために保管できません。スクリプト・センターからこのパターンに従う古いスクリプトを除去して、*tool-name* を再び呼び出してください。

説明: *script_name_pattern* のような名前を持つ、自動的に生成されたスクリプトが多すぎます。

ユーザーの処置: スクリプト・センターで、*script_name_pattern* のような名前を持つスクリプトを少なくとも 1 つ除去し、*tool_name* を再度呼び出してください。

DBA2192E データベース接続が失敗しました。

説明: データベースへの JDBC 接続が失敗しました。JDBC 接続が機能していないと、SQL Assist は使用できません。

説明: JDBC ドライバーが実行中であることを確認してください。データベースに再接続し、SQL Assist を再び起動してみてください。

JDBC ドライバーが実行中なのに問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DBA2193W *window-name* は *program-name* がなければ実行できません。データベース・ツールサブコンポーネントがインストールされていることを確認してください。

説明: *window-name* を呼び出すには、*program-name* のアプリケーションがサーバーにインストールされていなければなりません。デフォルトでは、管理および構成ツール・コンポーネントのデータベース・ツール・サブコンポーネントは、インストール時に選択されます。*program-name* のアプリケーションをインストールするには、インストール時にデータベース・ツール・サブコンポーネントを選択してください。

ユーザーの処置: データベース・ツール・サブコンポー

ネントがインストールされていることを確認してください。データベース・サーバーのインストール時にデータベース・ツールを選択しなかった場合は、DB2 セットアップをもう一度実行する必要があります。

- 1 すべての DB2 サービスを停止します。
- 2 DB2 セットアップを実行します。
- 3 「カスタム・インストール」を選択します。
- 4 「管理および構成ツール」を除くすべてのコンポーネントのチェックマークを外します。
- 5 「管理および構成ツール」の詳細で、「データベース・ツール」を選択します。
- 6 インストールを完了します。
- 7 すべての DB2 サービスを再始動します。
- 8 *window-name* を使用します。

DBA3007W EXPLAIN された ステートメントを削除してもいいですか?

説明: EXPLAIN されたステートメントを削除しようとしています。これにより、対応する EXPLAIN 表の行が削除されます。

ユーザーの処置: EXPLAIN されたステートメントを削除する必要があることを確認してください。

DBA3008W EXPLAIN されたステートメントを削除してもいいですか?

説明: EXPLAIN されたステートメントを削除しようとしています。これにより、対応する EXPLAIN 表の行が削除されます。

ユーザーの処置: EXPLAIN されたステートメントを削除する必要があることを確認してください。

DBA3009E システム・エラーが発生しました。
Visual Explain ツールが、処理を続行できませんでした。

説明: 操作の停止を引き起こす予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- システムに十分なメモリーがあることを確認してください。
- 該当する場合は、システムを使用している他のプログラムを停止してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA3010E Explain スナップショットが削除されています。 要求を完了できません。

説明: この要求に必要な Explain スナップショットが、Explain 表から削除されています。

ユーザーの処置: スナップショットを再生成してください。

DBA3011E この Explain スナップショットは Visual Explain Tool のデータベース・マネージャーの別のバージョンを使用して作成されました。 要求を完了できません。

説明: この Explain スナップショットは Visual Explain ツールのデータベース・マネージャーの新規バージョンまたは前のバージョンを使用して作成されました。 アクセス・プランのグラフは、このツールでは構成できません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーの同じバージョンを Visual Explain ツールとして使用して Explain スナップショットをグラフ表示します。

DBA3012I スtringがありません。

説明: 検索Stringが、表示されているテキストに見つかりません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3013E テキストがありません。 検索するテキスト・Stringを指定する必要があります。

説明: 検索文字列が指定されませんでした。

ユーザーの処置: 検索文字列を指定してください。

DBA3014E リスト内で選択が行われていません。 リストの項目を少なくとも 1 つは選択しなくてはなりません。

説明: リストで選択されませんでした。

ユーザーの処置: リストで少なくとも 1 つの項目を選択してください。

DBA3015I このアクセス・プランに関連して参照された列はありません。

説明: 参照表に対する照会で、参照された列はありませんでした。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3016I この索引に関連するページ・フェッチ・ペア統計がありません。

説明: この索引について、カタログ表に格納されているページ・フェッチ・ペア統計がありません。 詳細情報については、「管理ガイド」の『システム・カタログ統計』セクションを参照してください。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3017I このアクセス・プランに関連して参照された機能はありません。

説明: このアクセス・プランでは、機能を使用する必要がありません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3018I この列に関連する列分布統計がありません。

説明: この列について、カタログ表に格納されている列分布統計はありません。 詳細情報については、「管理ガイド」の『システム・カタログ統計』セクションを参照してください。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3019I この表に関連する索引はありません。

説明: EXPLAIN 時に参照された表に定義された索引および表に現在定義されている索引はありません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3020E データベースに対する COMMIT を試行中にエラーが発生し、SQLCODE が返りませんでした。

説明: 予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA3021E データベースに対する ROLLBACK を試行中にエラーが発生し、SQLCODE が返りませんでした。

説明: 予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA3022E Get Database Manager Configuration API が、ゼロ以外の戻りコードを返しました。

説明: 操作の停止を引き起こす予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA3023E Get Database Configuration API が、ゼロ以外の戻りコードを返しました。

説明: 操作の停止を引き起こす予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA3024E ファイル *file* への保管中に、エラーが発生しました。

説明: 考えられる問題は、以下のとおりです。

- ファイルが、書き込み用にオープンできませんでした。
- ファイル名が、ファイル・システム規則に準拠していません。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- ファイル属性を、読み書きに変更してください。
- 正しいファイル名を指定してください。

DBA3025E ファイル *file* からの取り出し中に、エラーが発生しました。

説明: 考えられる問題は、以下のとおりです。

- ファイルが読み取り可能ではありません。
- ファイルが存在しません。

ユーザーの処置: 正しいファイル名を指定してください。

DBA3026E プリンターがインストールされていません。

説明: マシンにインストールされているプリンターがありません。

ユーザーの処置: マシンにプリンターをインストールしてください。

DBA3033I 参照された表スペースの中で、このアクセス・プランと関連付けられたものはありません。

説明: このアクセス・プランは、表スペースに含まれているデータベース・オブジェクトを参照しませんでした。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3034W スナップショットはコード・ページ *codepage* を使用して作成されましたが、**Visual Explain** ツールを実行するウィンドウのコード・ページに変換されていません。

説明: グラフ表示されたアクセス・プランのスナップショットは、Visual Explain ツールを実行するウィンドウのコード・ページと異なったコード・ページで作成されました。スナップショットが大きすぎるため、コード・ページの変換に失敗しました。アクセス・プラン・グラフはコード・ページ変換なしで表示されます。統計ウィンドウをオープンする時、現行の統計を表示できない可能性があります。

ユーザーの処置: Visual Explain ツールを実行するウィンドウのコード・ページをスナップショットの作成に使用された同じコード・ページに変更して、アクセス・プラン・グラフを再表示してください。

DBA3035W スナップショットはコード・ページ *codepage* を使用して作成されましたが、**Visual Explain** ツールを実行するウィンドウのコード・ページに変換されていません。データベース・マネージャー構成パラメーター **ASLHEAPSZ** の値が小さすぎます。

説明: グラフ表示されたアクセス・プランのスナップショットは、Visual Explain ツールを実行するウィンドウのコード・ページと異なったコード・ページで作成されました。コード・ページ間変換に使用されるユーザー定義関数が実行するための十分なメモリーがないため、コード・ページ変換を正常に行えません。アクセス・プラン・グラフはコード・ページ変換なしで表示されます。統計ウィンドウをオープンする時、現行の統計を表示できない可能性があります。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- サーバーのデータベース・マネージャー構成パラメーター **ASLHEAPSZ** を 512 に変更して、再びアクセス・プラン・グラフを表示してください。構成パラメーターは、サーバーで次の **db2start** を行うまで反映されないことに注意してください。
- Visual Explain ツールを実行するウィンドウのコード・ページをスナップショットの作成に使用された同じコード・ページに変更して、アクセス・プラン・グラフを再表示してください。

DBA3036I ユーザーの動的 EXPLAIN 要求を処理するため、EXPLAIN 表が作成されました。

説明: 現行のユーザー ID 下で 1 つまたは複数の EXPLAIN 表が作成されました。これらの表は、ユーザーの動的 EXPLAIN 表が必要とする情報を保管するために使用されます。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3037E Explain スナップショットが破壊されています。要求を完了できません。

説明: この要求に必要な Explain スナップショットが、Explain 表から破壊されています。

ユーザーの処置: スナップショットを再生成してください。

DBA3038I このアクセス・プランに関連して参照されたバッファ・プールはありません。

説明: このアクセス・プランは、バッファ・プールに含まれているデータベース・オブジェクトを参照しませんでした。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3039E EXPLAIN 表が見つかりません。

説明: EXPLAIN 表が存在しません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、EXPLAIN 表を作成してください。

- EXPLAIN.DDL ファイルで提供されているサンプル・コマンド・ファイルを使用する。このファイルは、`sqllib¥misc` ディレクトリーにあります。コマンド・ファイルを実行するには、このディレクトリーに移って、`db2 -tf EXPLAIN.DDL` コマンドを発行してください。
 - コントロール・センター、または「EXPLAIN されたステートメント履歴の表示」ウィンドウで、**SQL の EXPLAIN** をメニュー選択から選ぶ。「SQL ステートメントの EXPLAIN」ウィンドウを使用して、動的に SQL ステートメントを EXPLAIN し、EXPLAIN 表を自動作成します。
-

DBA3040E コマンドが正しく指定されていません。

説明: コマンドに、無効な構文があります。

ユーザーの処置: コマンドを `-h` オプションとともに発行して、正しい構文を参照してください。

DBA3041E データベースの名前は、1 文字から *maximum* 文字の間である必要があります。

説明: 指定されたデータベース名が空か、または長すぎます。

ユーザーの処置: 有効なデータベース名を使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3042E EXPLAIN 可能ステートメント・テキストは、1 文字から *maximum* 文字の間である必要があります。

説明: 指定された EXPLAIN 可能ステートメント・テキストが空か、または長すぎます。

ユーザーの処置: 有効な EXPLAIN 可能ステートメント・テキストを使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3043E 照会タグには、*maximum* 文字以上は使用できません。

説明: 指定された照会タグは長すぎます。

ユーザーの処置: 有効な照会タグを使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3044E ユーザー ID には、*maximum* 文字以上は使用できません。

説明: 指定されたユーザー ID が長すぎます。

ユーザーの処置: 有効なユーザー ID を使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3045E 照会番号の有効な範囲は 0 から *maximum* までです。

説明: 指定された照会番号が小さすぎるか、または大きすぎます。

ユーザーの処置: 有効な照会番号を使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3046E 最適化クラスに有効な値は 0、1、2、3、5、7 および 9 です。

説明: 指定された最適化クラスが、有効な値のいずれでもありません。

ユーザーの処置: 有効な最適化クラスを使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3047E データベース *name* が見つかりません。

説明: コマンドに指定されたデータベース名が、システム・データベース・ディレクトリーに存在しません。

ユーザーの処置: 既存のデータベース名を使用して、コマンドを再発行するか、またはデータベースをシステム・データベース・ディレクトリーにカタログしてください。

DBA3059I 選択した演算子 *operator* に関連する詳細情報がありません。

説明: 選択した演算子の詳細情報は、DB2 管理ツールの現行リリースでは使用することができません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3060I 選択した演算子 *operator* に関連するヘルプ情報がありません。

説明: 選択した演算子のヘルプ情報は、DB2 管理ツールの現行リリースでは使用することができません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3061I この表に関連する列グループはありません。

説明: EXPLAIN 時に参照された表に定義された列グループがなく、表に現在定義されている列グループもありません。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DBA3062N DDL の生成 をシステム表で実行することはできません。

説明: スキーマ SYSIBM、SYSCAT、または SYSSTAT を持つ表は、システム表です。

ユーザーの処置: DDL の生成 をシステム表以外で実行してください。

DBA3063N 1 つ以上のシステム表が DDL の生成に選択されました。DDL は選択されたユーザー表にのみ生成されます。続行しますか?

ユーザーの処置: スキーマ SYSTEM、SYSCAT、および SYSSTAT を持つ表はシステム表です。

ユーザーの処置: システム表以外の表のみに DDL を生成するには「はい」をクリックしてください。DDL の生成操作を打ち切るには「いいえ」をクリックしてください。

DBA3064N 最初の *number* 表のみが db2look によって処理されます。

説明: db2look -t オプションは *number* 表のみを処理します。

ユーザーの処置: 選択済み表のリストを選択可能な表のリストに移動してください。

DBA3065E CLI エラーのため、スナップショットを処理できません。

説明: スナップショット処理中に CLI エラーが発生しました。アクセス・プランを表示できません。

ユーザーの処置: 次のコマンドを発行して、CLI 構成をチェックしてください。

```
db2 get cli cfg for section <db-name>
```

LONGDATACOMPAT を 1 に設定すると、異なる別名でデータベースをカタログします。

```
catalog db <db-name> as <db-alias-name>
```

データベース別名には LONGDATACOMPAT=0 を設定してください。

```
db2 update cli cfg for section <db-alias-name> using  
longdatacompat 0
```

別名データベースの EXPLAIN について照会をサブミットしてください。

LONGDATACOMPAT が 1 に設定されていない、またはパラメーターが CLI 構成に設定されていない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA3066E スナップショットのためのステートメント・テキストに空ストリングが含まれています。

説明: EXPLAIN レコードのステートメント・テキストに空ストリングが含まれています。EXPLAIN されたステートメント履歴は、正常に検索されません。

ユーザーの処置: 次のコマンドを発行して、CLI 構成をチェックしてください。

```
db2 get cli cfg  
for section <db-name>
```

LONGDATACOMPAT を 1 に設定すると、異なる別名でデータベースをカタログします。

```
catalog db <db-name>  
as <db-alias-name>
```

データベース別名には LONGDATACOMPAT=0 を設定してください。

```
db2 update cli cfg for section <db-alias-name> using  
longdatacompat 0
```

別名データベースの EXPLAIN について照会をサブミットしてください。

LONGDATACOMPAT が 1 に設定されていない、またはパラメーターが CLI 構成に設定されていない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA4000W 本当に、モニターを停止して、スナップショット・モニターを終了してもいいですか？

説明: 現在モニター中のすべてのデータベース・オブジェクトのモニターを停止し、パフォーマンス・モニターを終了することを要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4001I 選択した項目についてのモニター・サマリーが存在しません。

説明: 何もモニターされていないオブジェクトのレベルでのモニター活動を表示するよう要求しました。表示するサマリー活動が存在しません。

ユーザーの処置: 選択したレベルに対応するオブジェクトについてモニターを開始したときに、アクションを再試行してください。

DBA4002W *name* のモニターを停止しますか？

説明: 現在モニター中のオブジェクトのモニター停止を要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4003I IBM 提供のモニターでデフォルト・レベルのみが変更されました。

説明: IBM 提供のモニターの場合、変更可能な属性はこのモニターがデフォルトとして指定されているレベルのみです。

ユーザーの処置:

DBA4004E 「除去」アクションにのみ複数の選択が許可されています。

説明: モニターのリストから複数のモニターを選択しました。複数のオブジェクトに対して実行できるアクションは「除去」のみです。

ユーザーの処置: リストから 1 つのモニターを除くすべてのモニターを選択解除して、アクションをやり直してください。

DBA4005W 選択したモニターを除去しますか？

説明: 選択されたモニターをリストから除去するよう要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4006W カウンターをリセットしますか？

説明: データベース・カウンターのリセットを要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4007W このレベル内のすべてのオブジェクトのモニターを停止しますか？

説明: 現在モニター中の、このレベル内のすべてのオブジェクトのモニターを停止することを要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4008W このオブジェクト内のすべてのパーティションのモニターを停止しますか？

説明: 現在モニター中の、このオブジェクト内のすべてのパーティションのモニターを停止することを要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4009I IBM 提供のモニターを作成中です。

説明: IBM 提供のモニターを作成中です。しばらくお待ちください。

ユーザーの処置:

DBA4010E パフォーマンス・モニターが問題を検出したため、続行できません。アクションを再試行してください。問題が解決しない場合、クライアントおよびサーバーのトレースを用意して、サポート担当者に連絡してください。

説明: 予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: クライアントおよびサーバーのトレースを用意して、サポートに連絡してください。

DBA4011E プログラム *name* は有効な名前ではありません。プログラムを実行できません。名前を確認して、アクションをやり直してください。

説明: 無効なプログラム名を指定しました。

ユーザーの処置: 有効なプログラム名を指定して、アクションをやり直してください。

DBA4012E プログラム *name* を実行できません。現在実行中のスレッドは指定されたプログラムを実行することを許可されていません。

説明: 指定されたプログラムの実行時にセキュリティ例外が発生しました。実行コマンドはアプリケーション・モードでのみ有効です。

ユーザーの処置: コントロール・センターをアプリケーションとして実行するとき、アクションをやり直してください。

DBA4013I データベース・マネージャー・ノード *name* がダウンしています。

説明: ツール設定の「ノード状況」ページで、データベース・マネージャー・ノードのダウン時にその状況を通知するよう選択しました。

ユーザーの処置: 処理を続行するには、データベース・マネージャー・ノードを再始動してください。

DBA4014I データベース・マネージャー・ノード *name* の状態が不明です。

説明: ツール設定の「ノード状況」ページで、データベース・マネージャー・ノードの状態が不明のときにその状況を通知するよう選択しました。

ユーザーの処置:

DBA4015E *name* には無効入力が含まれています。項目を再入力してください。

説明: 項目に無効な文字が含まれています。

ユーザーの処置: 新しい項目でアクションをやり直してください。

DBA4016E 新しいモニターを作成できません。モニターの最大数は *number* です。

説明: 作成、別名保管、またはコピー要求が失敗しました。モニターの最大数に達しています。

ユーザーの処置: 未使用のモニターを除去して、アクションをやり直してください。

DBA4017E モニター接続を確立できません。モニター接続の最大数は *number* です。

説明: モニター接続の最大数に達しています。

ユーザーの処置: 後でアクションをやり直すか、またはマシンで実行されているモニター・セッションを停止してください。

DBA4018W *name* の入力が長すぎます。文字の最大数は *number* です。項目は切り捨てられます。

説明: 項目が制限を超えています。

ユーザーの処置:

DBA4019E *name* の入力が長すぎます。文字の最大数は *number* です。有効な入力でアクションを再試行してください。

説明: 項目が制限を超えています。

ユーザーの処置: 有効な入力でアクションを再試行してください。

DBA4020W パフォーマンス・モニター *name* を変更しました。変更を保管しますか?

説明: 保管しないままパフォーマンス・モニターに対して 1 つまたは複数の変更を行い、「モニターの表示」ウィンドウを終了、または実行モニターに別のモニターを設定するよう要求しました。「はい」をクリックしない場合は、変更が失われます。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4021W *name* のパフォーマンス変数設定に変更を加えました。変更を次のスナップショットに適用しますか？

説明: パフォーマンス変数設定に対して 1 つまたは複数の変更を行いました。まだ保管されておらず、別のパフォーマンス変数の操作を選択しました。「はい」をクリックしない場合は、変更が失われます。

ユーザーの処置: 次のスナップショットに変更を適用するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4023E パフォーマンス変数 *name* に、無効なアラームしきい値と警告しきい値の組み合わせが入力されました。1 つまたは複数のしきい値を変更して、再試行してください。

説明: 上限アラームしきい値は、上限警告しきい値よりも大きい必要があります。つまり、「上限アラームしきい値 > 上限警告しきい値 > 下限警告しきい値 > 下限アラームしきい値」である必要があります。しきい値は、9 桁を超えない浮動値です。

ユーザーの処置: しきい値を確認して、操作をやり直してください。

DBA4024W 「サマリー」ページは、*number* 列を超えて表示することはできません。「詳細」ページに戻って、すべてのパフォーマンス変数を確認してください。

説明: 「サマリー」ページには現在、収容可能な列数が表示されていますが、いくつかのパフォーマンス変数が示されていません。

ユーザーの処置: 「詳細」ページに戻って、すべてのパフォーマンス変数を確認してください。

DBA4025W *type* ビューは、*number* のパフォーマンス変数を超えて表示することはできません。

説明: パフォーマンス変数の最大数が表示されていません。

ユーザーの処置: パフォーマンス変数を追加する前に、1 つまたは複数のパフォーマンス変数を *type* ビューから除去してください。

DBA4026E 非適用可能モニターがこのレベルのデフォルトとして設定されました。

説明: モニターにはこのレベルのパフォーマンス変数が少なくとも 1 つは組み込まれていなければなりません。

ユーザーの処置: モニターを変更して、このレベルのパフォーマンス変数を少なくとも 1 つは組み込むようにします。

DBA4027I モニターするものがないので、モニターはまだ開始されていません。

説明: 現在このインスタンスでモニターされるデータベースまたはゲートウェイ接続はありません。

ユーザーの処置: モニターを開始するデータベースまたはゲートウェイ接続をカタログします。

DBA4060E パフォーマンス・モニターは現在、このインスタンスの別のモニターでアクティブです。

説明: インスタンスごとに一度にアクティブにできるモニターは 1 つだけです。たとえば、データベース用のデフォルト・モニターと接続用のデフォルト・モニターが異なる場合、データベースのモニターと接続のモニター（またはリスト）を同時に行うことはできません。

ユーザーの処置: 「モニターのリスト」ウィンドウでは、以下を行うことができます。

1. どのモニターが実行中かを調べ、別のモニターを指定できるようにそのモニターを停止します。
2. どのモニターが実行中かを調べ、次のモニター・アクションにそのモニターを指定します。
3. すべてのレベルについてパフォーマンス変数を持つモニターを作成し、そのモニターを各レベルのデフォルト・モニターとして選択します。

DBA4065E しきい値をブランクにしたり、9 文字より多くすることはできません。有効なしきい値を入力してください。

説明: 無効なしきい値が入力されたか、値が内部で変更されています。たとえば 123456789 は 123,456,789.0 と変更されますが、この場合しきい値に許容される文字数を超えてしまいます。

ユーザーの処置: しきい値を再入力して、アクションをやり直してください。

DBA4070E JDBC サーバーが問題を検出しました。パフォーマンス・モニターのリストを処理できませんでした。

説明: 予期しない問題が見つかりました。

ユーザーの処置: JDBC サーバーが稼働中であるかどうか確認してください。稼働中であれば、JDBC サーバーのトレースを用意してサポート担当者に連絡してください。

DBA4071W モニターのいくつかは現在ローカルで使用
中です。リフレッシュされたリストに
は、ローカル・モニターのみが表示されま
す。

説明: モニターのリストは、ローカル・モニターでのみ
リフレッシュされます。

ユーザーの処置: 全リストを表示するには、アクティ
ブ・モニターを停止して操作をやり直してください。

DBA4072E このモニター名はすでに存在しています。
ユニーク名を指定してください。

説明: JDBC サーバーのパフォーマンス・モニター名
は、モニターの作成者に関係なくユニークでなければな
りません。

ユーザーの処置: ユニークなモニター名を指定してくだ
さい。

DBA4074E JDBC サーバーが問題を検出しました。
操作を実行できませんでした。

説明: 予期しない問題が見つかりました。

ユーザーの処置: JDBC サーバーが稼働中であるかどう
か確認してください。稼働中であれば、JDBC サーバー
のトレースを用意してサポート担当者に連絡してくださ
い。

DBA4075E このパフォーマンス・モニターが空である
ため、保管できません。少なくとも 1 つ
のパフォーマンス変数をモニターに追加し
て、操作を再試行してください。

説明: モニターは、有効にするために少なくとも 1 つ
のパフォーマンス変数を持っている必要があります。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つのパフォーマンス変
数をモニターに追加して、操作を再試行してください。

DBA4076E モニターの作成者でないため、アクション
を実行できません。

説明: モニターの変更、名前変更、または除去を行うに
は、そのモニターを所有していなければなりません。

ユーザーの処置: モニターを変更したい場合、そのモニ
ターを別の名前の下にコピーしてから変更してくださ
い。

DBA4079E このモニターは現在、ローカルで使用
中です。モニターを停止してから、除去または
名前変更を行ってください。

説明: アクティブなモニターを除去または名前変更する
ことはできません。

ユーザーの処置: 除去または名前変更を行う前に、モニ
ターを停止してください。

DBA4080E このモニターは現在、リモートで使用
中です。モニターが停止されてから、除去また
は名前変更を行ってください。

説明: アクティブなモニターを除去または名前変更する
ことはできません。

ユーザーの処置: モニターが停止されてから、除去また
は名前変更を行ってください。

DBA4083E このモニターが見つかりませんでした。他
のユーザーがモニターを除去した可能性が
あります。すべてのモニターを停止してか
ら、モニターのリストをリフレッシュして
ください。

説明: あなたが使用しているモニターを他のユーザーが
除去した可能性があります。

ユーザーの処置: すべてのモニターを停止して、モニ
ターのリストをリフレッシュしてください。

DBA4090E JDBC サーバーへの接続が異常終了しま
した。コントロール・センターをクローズ
して、操作をやり直してください。問題が
解決しない場合、JDBC サーバーのトレ
ースを用意して、サポート担当者に連絡し
てください。

説明: 予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: コントロール・センターをクローズし
て、操作をやり直してください。問題が解決しない場
合、JDBC サーバーのトレースを用意して、サポート担
当者に連絡してください。

DBA4095I この機能はこのオブジェクトでは実装され
ていません。

説明: この機能は将来のリリース用のもので、現在この
オブジェクトでは実装されていません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA4220I 全データベース・リストアは表スペースのバックアップ・イメージからは実行することができません。

説明: 全データベース・リストアは表スペースのバックアップ・イメージからは実行することができません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA4221I 表スペースの選択はメディアのタイプではできません。

説明: 表スペースの選択はメディアのタイプではできません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA4222I データベースがバックアップ・ペンディング状態にあるため、表スペースを選択できません。

説明: データベースがバックアップ・ペンディング状態にあるため、表スペースを選択できません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA4223I バックアップ・イメージ情報が手動で入力されているときには、全データベースが必要です。

説明: バックアップ・イメージ情報が手動で入力されているときには、全データベースが必要です。

ユーザーの処置: ありません。

DBA4730E モニター・サーバーへのアクセス中にパフォーマンス・モニターが問題がありました。モニターを続行できません。
smcode: *Error-code*

説明: 詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: 技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4731E リソース問題がモニター・サーバーで発生しました。**smcode:** *Error-code*

説明: 詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: サーバー・リソースを解放して、操作を再試行してください。問題が解決しない場合、技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4732E データベース・インスタンスへの **ATTACH** を試みたときに問題が発生しました。**smcode:** *Error-code*

説明: 詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: 操作をやり直してください。問題が解決しない場合、技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4733W モニターしたデータベース・インスタンスが停止しました。インスタンスを再始動してください。**smcode:** *Error-code*

説明: 詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: インスタンスを再始動してください。問題が解決しない場合、技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4734E モニター・サーバーへのアクセス中にパフォーマンス・モニターが問題がありました。**smcode:** *Error-code*

説明: 詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: 操作をやり直してください。問題が解決しない場合、技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4735E データベース・インスタンスへの **ATTACH** を試みたときに問題が発生しました。**smcode:** *Error-code*

説明: 詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: 技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4736E クライアントで使用中の現行テリトリー・コードあるいは現行コード・ページを判別できません。**smcode:** *Error-code*

説明: クライアントのテリトリー・コードとコード・ページをデータが正しいコード・ページで戻されるようにサーバーに送信する必要があります。モニター・サーバーが、アクティブなテリトリー・コードまたはコード・ページを判別できませんでした。

ユーザーの処置: システムのテリトリー・コードおよびアクティブなコード・ページの設定方法を判別するためにオペレーティング・システムの文書を参照してください

い。 テリトリー・コードおよびコード・ページを設定してから操作を再試行してください。

DBA4737E サーバー上に現行クライアントのテリトリー・コードあるいは現行コード・ページを設定できません。 **smcode:** *Error-code*

説明: クライアントのテリトリー・コードとコード・ページをデータが正しいコード・ページで戻されるようにサーバーに送信する必要があります。 モニター・サーバーが、クライアントのアクティブなテリトリー・コードまたはコード・ページをサーバー上に設定できませんでした。

ユーザーの処置: サーバー・システムでクライアントのテリトリー・コードとコード・ページをアクティブ化する方法について判別するにはオペレーティング・システムの文書を参照してください。 テリトリー・コードおよびコード・ページを活動化してから操作を再試行してください。

DBA4738E システム *name* の **Administration Server** が始動していません。 **smcode:** *Error-code*

説明: システム *name* でリストされた **Administration Server** が始動していません。

ユーザーの処置: **Administration Server** を始動して、操作をやり直してください。

DBA4739E クライアント・システムのコード・ページを判別できませんでした。クライアント・システムが正しくセットアップされていない可能性があります。 **smcode:** *Error-code*

説明: これはクライアント・システム上のセットアップの問題です。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA4740E クライアント・コード・ページ *name* は、インスタンス *name* で使用できません。 **smcode:** *Error-code*

説明: リストされたコード・ページが、インスタンス *name* にインストールされていません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。管理者が、コード・ページ *name* をインスタンス *name* にインストールする必要があります。

DBA4741E クライアント・コード・ページ *name* がインスタンス *name*、ノード *name* で使用できません。 **smcode:** *Error-code*

説明: リストされたコード・ページが、インスタンス *name*、ノード *name* にインストールされていません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。管理者が、コード・ページ *name* をインスタンス *name*、ノード *name* にインストールする必要があります。

DBA4742E **Administration Server** *name* が見つかりません。 **smcode:** *Error-code*

説明: この問題が発生すると考えられる理由は 1) リモート・インスタンス名が無効である。 2) ホスト名が無効である。のいずれかです。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA4743E **Administration Server** *name* が問題を検出しました。 **sqlcode:** *Error-code*, **smcode:** *Error-code*

説明: **Administration Server** *name* に内部エラーがあります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA4744E コントロール・センターがノード *name* のインスタンス *name* で並列ツールと通信できませんでした。通信を開始してみてください。 **smcode:** *Error-code*

説明: 通信が始動していない可能性があります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA4745E コントロール・センターとノード *name* インスタンス *name* のリスナー (**db2ccclst**) との間で **TCP/IP** ポート構成が間違っています。 **smcode:** *Error-code*

説明: ノード *name* にある */etc/services* ファイルに誤った情報が含まれている可能性があります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。管理者は *db2ccmsrv* のポート名がノード *name* の */etc/services* ファイルに正しく入力されているか、チェックする必要があります。

DBA4746E インスタンス・ノード・ホスト名 *name* はインスタンス *name* では無効です。
smcode: *Error-code*

説明: インスタンス *name* に対する db2nodes.cfg ファイルに誤った情報が含まれている可能性があります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。管理者はインスタンス *name* に対する db2nodes.cfg ファイルで見つかるホスト名の妥当性検査をする必要があります。

DBA4747E パフォーマンス・モニターが、スナップショット・キャプチャー・インターバル内にノード *name* から応答を受け取りませんでした。
smcode: *Error-code*

説明: リストされたノードにあるパフォーマンスあるいは通信上の問題は、送信からの応答を防ぐか、あるいはスナップショット・キャプチャー・インターバルには、それぞれのノード時間が要求に応答できるだけの十分な長さがありません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。管理者は次のいずれかを行ってください。1) リストされたノードでのパフォーマンスの妥当性検査を行う。2) スナップショット・キャプチャー・インターバルを大きくして、スナップショット要求に対応するノードに対してさらに多くの時間を使用できるようにする。

DBA4748E インスタンス *name* の論理ノード *name* は無効です。
smcode: *Error-code*

説明: インスタンス *name* に対する db2nodes.cfg ファイルに誤った情報が含まれている可能性があります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA4749E インスタンス *name* のモニター・サーバーが、ノード *name* との通信を確立できません。
smcode: *Error-code*

説明: 通信サブシステムが始動していない可能性があります。

ユーザーの処置: 上で指定したノードで db2cclst 処理を開始します。それでも問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA4750E 切り替えられるインスタンスがありません。
smcode: *Error-code*

説明: 詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: 技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA5006E *evname* は名前つきパイプに書き込むイベント・モニターです。イベント・アナライザーは PIPE イベント・モニターをサポートしません。

説明: イベント・アナライザーだけが、FILE イベント・モニターが作成したトレースを処理できます。

ユーザーの処置: FILE イベント・モニターを使用してください。

DBA5007E イベント・モニター *event-monitor* が存在しません。

説明: -evm オプションで指定されたイベント・モニターが、-db オプションで指定されたデータベースのカタログに見つかりませんでした。イベント・モニターがドロップされているか、または間違ったデータベースに接続しようとしています。

ユーザーの処置: -db で指定されているデータベース別名が正しくカタログされており、イベント・モニターがドロップされていないことを確認してください。後者の場合は、イベント・モニターを再作成してください。

DBA5250I 検索したレコード数がウィンドウの限界を超えました。リストの一部が表示されません。

説明: 取り出されたオブジェクトの表示に必要なウィンドウの高さが、システム制限を超えています。

ユーザーの処置: 以下を行うことにより、ウィンドウに表示されるオブジェクトの数を減らすことができます。

- 「組み込み」項目が「表示」メニューで使用可能な場合は、ウィンドウに表示するオブジェクトのサブセットを指定できます。「組み込み」を選択すると、ウィンドウが表示され、基準のサブセットの入力を要求するプロンプトが表示されます。

DBA5300E イベント・アナライザーの呼び出しエラー。

使用法:

**db2eva [- db database-alias
-evm evmon-name]**

説明: db2eva のコマンド・パラメーターは以下のとおりです。

-db database-alias

トレースを解析したマシンでカタログするとき、イベント・モニターが定義されたデータベースを指定します。

-evm evmon-name

解析したいイベント・モニター・トレース表。イベント・モニターは、データベースで `-db` パラメーターを指定して定義する必要があります。

データベースおよびイベント・モニター名を指定すると、`db2eva` はデータベースに接続し、`'select target from sysibm.syseventmonitors'` を発行して、イベント・モニターがトレースを書き込んだ表を探索します。このモードを使用中は、イベント・モニターおよび関連する表をドロップしないでください。

パラメーターを指定しない場合はダイアログ・ボックスがオープンし、データベース別名と解析したいイベント・モニター名を促すプロンプトが出されます。

ユーザーの処置: 有効な引き数を使用して、コマンドを再発行してください。

DBA5311E イベント・モニターの呼び出しエラー。

使用法: `db2emcrt database-alias`

説明: `db2emcrt` コマンドのコマンド・パラメーターは次のとおりです。

database-alias

`db2emcrt` コマンドが呼び出されるマシンにカタログされているとおりに、イベント・モニターを作成または解析するデータベースを指定します。`database-alias` は、トレースで指定したデータベース名をオーバーライドします。

ユーザーの処置: 有効な引き数を使用して、コマンドを再発行してください。

DBA5350E ファイル *file-name* のオープン中にエラーが起きました。

説明: 不明な原因により、指定されたファイルが読み取り専用でオープンできませんでした。

ユーザーの処置: `-path` オプションで指定したディレクトリーのスペル、このディレクトリーのアクセス権限、およびこのディレクトリーが空ではなく、`00000000.evt` という名前の読み取り可能なトレース・ファイルを含んでいることを確認してください。

注: イベント・モニターの最初のトレース・ファイルは、常に `00000000.evt` という名前で、この名前は変更できません。

DBA5351E ファイル *file-name* が見つかりません。

説明: `-path` で指定されたディレクトリーに `00000000.evt` ファイルがありません。

ユーザーの処置: `-path` オプションで指定したディレクトリーのスペル、このディレクトリーのアクセス権限、およびトレース・ファイル `00000000.evt` を含んでいることを確認してください。

注: イベント・モニターの最初のトレース・ファイルは、常に `00000000.evt` という名前で、この名前は変更できません。

DBA5352E パス *path-name* が見つかりません。

説明: `-path` オプションが、存在しないディレクトリーを指定しています。

ユーザーの処置: `-path` オプションで指定したディレクトリーのスペル、このディレクトリーのアクセス権限、およびトレース・ファイル `00000000.evt` を含んでいることを確認してください。

注: イベント・モニターの最初のトレース・ファイルは、常に `00000000.evt` という名前で、この名前は変更できません。

DBA5353E *param-1* へのアクセスが拒否されました。

説明: 指定されたファイルが、読み取り専用でオープンできませんでした。`-path` オプションが、あなたが十分なアクセス権限を持っていないディレクトリーを指定している可能性があります。

ユーザーの処置:

- `-path` オプションで指定されているディレクトリーに対するアクセス権限をチェックしてください。
- 指定されたファイルが、排他モードでロックされていないことを確認してください。

DBA5354E *file-name* から、データが読み取れません。

説明: イベント・モニター・トレース・ファイルに予期しないデータが含まれているか、またはアクセスできません。

トレース・ファイルが伝送中に壊れた可能性があるか、または除去されています。

ユーザーの処置: もう一度、サーバーからトレース・ファイルを伝送してください。トレース・ファイルをリモート・サーバーから伝送する場合は、伝送がバイナリー・モードで実行されていることを確認してください。

DBA5355E イベント・モニター・ログ・ヘッダーが、
file-name に見つかりませんでした。

説明: イベント・モニターによって書き込まれる最初のファイル名は 00000000.evt で、このファイルには、トレースの特性を識別するデータ構造が含まれています。このデータ構造が読み取れませんでした。考えられる理由は、以下のとおりです。

- トレース・ファイルが破壊されました。
- トレース・ファイルが空です。これは、イベント・モニターがアクティブになっていてもバッファをフラッシュしていない場合に起こる可能性があります。

ユーザーの処置:

- トレースがリモート・サーバーから伝送された場合は、伝送がバイナリー・モードで実行されることを確認して、再伝送してください。
- トレース・ファイルが空の場合は、イベント・モニターをオフにして、強制的にバッファをフラッシュしてください。

DBA5356E *file-name* でバイト・オーダーが無効です。

説明: イベント・モニターのログ・ヘッダー (新しいトレースに最初に書き込まれるレコード) が、トレースに含まれているのが、little-endian (たとえば、OS/2) なのか、big-endian (たとえば、AIX) なのかを示します。指定されたトレース・ファイルに存在する値が、サポートされる 2 つのタイプのデータのいずれでもありません。

トレース・ファイルが、伝送中に壊れた可能性があります。

ユーザーの処置: もう一度、サーバーからトレース・ファイルを伝送してください。トレース・ファイルをリモート・サーバーから伝送する場合は、伝送がバイナリー・モードで実行されていることを確認してください。

DBA5357E ファイル *file-name* のオフセット *offset-value* で予期しないデータが検出されました。

説明: イベント・モニター・トレース・ファイルに予期しないデータが含まれています。

トレース・ファイルが、伝送中に壊れた可能性があります。

ユーザーの処置: 伝送がバイナリー・モードで実行されることを確認して、トレース・ファイルをサーバーから再伝送してください。

DBA5358I アクティブなローカル **Administration Server** がないと、ローカル・ファイル・システムをブラウズできません。

説明: ファイル・ブラウザーには、ファイル・システムをブラウズするために、Database Administration Server (DAS) インスタンスが必要です。これがクライアント・インストールの場合、DAS インスタンスは存在せず、ローカル・ファイルのブラウズもできません。

ユーザーの処置: サーバーのインストールの場合、DAS インスタンスが開始されていることを確認して操作を再試行してください。

DBA5500E システム・エラーが発生しました。 イベント・アナライザー・ツールが処理を続行できませんでした。

説明: アプリケーション環境の初期化を試行中に、不明な理由によりシステム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。

DBA5501W 除去するイベント・モニター *evname* に関連するイベント・ファイルを削除しますか?

説明:

ユーザーの処置: 選択されたイベント・モニターのイベント・ファイルを削除する場合は、「OK」をクリックしてください。 イベント・ファイルを削除しないで、イベント・モニターを除去したい時は「いいえ」をクリックしてください。

DBA5502E イベント・タイプ・リストからなにも選択されていません。 リストから 1 つまたは複数のタイプを選択する必要があります。

説明: イベント・モニターを作成するときは、少なくとも 1 つのイベント・タイプを選択する必要があります。

ユーザーの処置: 作成イベント・モニター・ウィンドウから 1 つまたは複数のイベント・タイプ・チェック・ボックスを選択してください。

DBA5503I イベント・モニター *evname* が正常に作成されました。

説明: イベント・モニターが正常に作成され、イベント・モニターのデータベース・リストに追加されました。

ユーザーの処置: OK をクリックしてメッセージを除去してください。

DBA5504W イベント・ファイルを削除できなかったため、いくつかのイベント・モニターが除去されませんでした。除去されていないイベント・モニターのリストは、ジャーナル・ノートブックのメッセージ・ページを参照してください。

説明: 選択されたいくつかのイベント・モニターが正常に除去されましたが、その他は、関連のイベント・トレース・ファイルを削除できなかったため、除去されませんでした。

これは、イベント・ファイルが読み取り専用のときまたは別のアクティブ処理によって使用される場合に発生します。

ユーザーの処置: 除去されていないイベント・モニターのリストは、ジャーナル・ノートブックのメッセージ・ページを参照してください。ファイルを削除するには、ファイルを使用中の処理を終了して、ファイルのアクセス権限をチェックしてください。その後、イベント・モニターのリストからイベント・モニターを選択してメニューから除去を選択してください。

DBA5505E 最大ファイル・サイズが指定されていません。

説明: 4K ページの最大ファイル・サイズが、イベント・モニター作成オプション・ウィンドウで選択された場合、イベント・ファイルの最大サイズを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 2,147,483,647 4K ページまでの最大ファイル・サイズを入力するか、最大オプションなしを選択できます。最大オプションなしを選択した場合は、イベント・ファイルの最大数が 1 です。

DBA5506E ファイルの最大数が指定されていません。

説明: 最大ファイル・サイズが、イベント・モニター作成オプション・ウィンドウで選択された場合、イベント・ファイルの最大数を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 2,147,483,647 までのイベント・ファイルの最大数を入力するか、最大オプションなしを選択できます。

DBA5507E バッファ・サイズが指定されていません。

説明: 4K ページのイベント・モニター・バッファ・サイズを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 2,147,483,647 4K ページまでのイベント・モニター・バッファ・サイズを入力する必要があります。

DBA5508W 除去するイベント・モニター関連のイベント・ファイルを削除しますか?

ユーザーの処置: 選択されたイベント・モニターのイベント・ファイルを削除する場合は、OK をクリックしてください。イベント・ファイルを削除せずにイベント・モニターを除去したい時は「いいえ」をクリックしてください。選択されたイベント・モニターを除去しない場合、またはイベント・ファイルを削除しない場合には、「キャンセル」をクリックしてください。

DBA5509E イベント・モニターに対して入力された名前は無効です。

説明: イベント・モニター・フィールドに入力された名前は、1 つまたは複数の許可されない文字を含んでいます。イベント・モニターは英数字を含めますが、文字で始める必要があります。

ユーザーの処置: 英数字以外のを名前から除去して、名前は文字で初めてください。

DBA5510E モニターを活動化するとき、データ・ファイルのディレクトリが見つかりませんでした。

説明: イベント・モニターを活動化するとき、イベント・モニター作成時に指定されたディレクトリが存在しなければなりません。バッファをフラッシュするには、イベント・モニターは既存のファイルおよびパスを必要とします。

ユーザーの処置: イベント・モニター作成時に指定されたディレクトリを作成してください。イベント・モニターを再び活動化してください。

DBA5511E 入力 *name* は許容範囲外の値であるため、無効です。

説明: イベント・モニター最大ファイル・サイズの値、ファイルの最大数、およびバッファ・サイズが 1 から 2,147,483,647 まででなければなりません。

ユーザーの処置: 入力フィールドに、与えられた範囲内の値を入力してください。

DBA5512E イベント・モニターに対して入力された *character* 文字は許可されません。

説明: イベント・モニター名入力フィールドで入力された文字はイベント・モニター名に対して無効な文字です。

ユーザーの処置: イベント・モニター名から英数字以外を除去して、名前は文字で始めてください。

DBA5513E 動的リンク・ライブラリー “DB2EVA.DLL” を正常にロードできませんでした。

説明: イベント・アナライザーの初期化中に、dll が削除または除去されたためロードされません。

ユーザーの処置: インストール処理中にパフォーマンス・モニターを選択してイベント・アナライザーを再インストールしてください。

DBA5514I イベント・モニター *evname* のイベント・ファイルを削除できませんでした。

説明: イベント・モニターのイベント・ファイルを、ファイルがアクティブ処理によって使用中か、または読み取り専用のため削除できませんでした。

ユーザーの処置: ファイルを削除するには、ファイルを使用中の処理を終了して、ファイルのアクセス権限をチェックしてください。 イベント・モニターを再選択してメニューから除去を選択してください。

DBA5515E データベース別名またはデータベース名 *dbname* が見つかりません。

説明: コマンド行で入力された別名はこのマシンではカタログされていません。

ユーザーの処置: このマシンの別名をカタログしてコマンドを再入するか、または有効な別名でコマンドを再発行してください。

DBA5516W このイベント・モニターのトレースの表示には時間がかかります。 処理を継続しますか？

説明: ユーザーはイベント・モニターの大きなトレースの表示を要求しました。読み取りファイルを完了するには時間がかかります。

ユーザーの処置: トレース処理を継続したいとき、「OK」をクリックしてください。トレース・ファイル処理を継続しない場合は「いいえ」をクリックしてください。

DBA5517E 理由コード *reason-code* のため、イベント・モニターを開始できません。

説明: *reason-code*: によって示されている以下の理由のため、イベント・モニターを開始できませんでした。

1. イベント・モニター・パスが無効です。
2. イベント・モニターが開始される装置が作動不能です。
3. Administration Server とのアタッチメントが失敗しました。

ユーザーの処置: イベント・モニターを開始するには、イベント・モニター・パスが有効であること、Administration Server が開始したこと、および装置の正確な権限が存在していることを確認してください。「OK」をクリックします。

問題が継続する場合、装置にイベント・モニターのディレクトリーを手動で作成して「OK」をクリックしてください。

イベント・モニターを開始せずに作成する場合、「今開始する」チェック・ボックスを選択解除して、「OK」をクリックしてください。

DBA5518E イベント・モニターの出力ディレクトリーが作成されないため開始できません。

説明: 以下のいずれかの理由で、ディレクトリーが作成できません。

1. 要求ファイル・システムにディレクトリーを作成するために適切な権限がない。
2. イベント・モニターの作成が Intel 以外のプラットフォーム上のディレクトリーの作成をサポートしていない。
3. FAT ファイル・システムで 8 文字より大きいディレクトリーを作成できない。

ユーザーの処置: ディレクトリー作成に適切な権限があるかを確認してください。

Intel 以外のプラットフォームでイベント・モニター出力・ディレクトリーを手操作で作成してください。

DBA5519I イベント・モニター表がイベント・ソース・データベースで見つかりませんでした。

説明: イベント・モニター・レコードを保留しているイベント・モニター表が指定されたソース・データベースで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: イベント・モニター表がソース・データベースに存在していて、表名が

SYSIBM.SYSEVENTTABLES にあることを確認してください。

DBA5520E イベント・モニター・コントロール表がイベント・ソース・データベースで見つかりませんでした。

説明: イベント・モニター・コントロール表をオープンできません。

ユーザーの処置: イベント・モニター・コントロール表がソース・データベースに存在していて、表名がSYSIBM.SYSEVENTTABLES にあることを確認してください。

DBA5521I データベースへの接続が確立されていません。 イベント・モニター・リストを検索できません。

説明: データベースへの接続が確立されていません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー・コマンドが発行されていることを確認してください。問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA6001I レプリケーション・サブスクリプション設定 *subscription-set* は使用されています。しばらくしてから再試行してください。

説明: アプライ・プログラムは現在レプリケーション・サブスクリプションを処理中のため、このアクションを非活動にできません。アプライ・プログラムが処理を完了するまで待機して、コマンドを再試行してください。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA6002I レプリケーション・ソース *source-name-1.source-name-2* は正常に定義されました。レプリケーション・ソースに変更を収集するには、コマンド行からキャプチャー・プログラムを開始してください。

説明: キャプチャー・プログラムは、実行するために、定義済みのレプリケーション・ソースが必要です。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムが実行中であることを確認してください。

DBA6003I レプリケーション・サブスクリプションは正常に定義されました。サブスクリプション設定の複写を始めるには、コマンド行からアプライ・プログラムが開始済みであるか確認してください。

説明: アプライ・プログラムは、実行するために、定義済みのレプリケーション・ソースが必要です。

ユーザーの処置: アプライ・プログラムが実行中であることを確認してください。

DBA6004I レプリケーション・サブスクリプションは正常に変更されました。

説明: これは通知だけです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA6005I レプリケーション・ソースは正常に除去されました。

説明: これは通知だけです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA6006I レプリケーション・ソース *source-name* を除去できませんでした。

説明: これは通知だけです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA6007I レプリケーション・サブスクリプション *subscription-name* を除去できませんでした。

説明: これは通知だけです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA6008I レプリケーション・サブスクリプションは正常に除去されました。

説明: これは通知だけです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA6009I *file-name* は別のアクションによりロックされています。

説明: 現在ファイルは別のアクションによって使用中です。

ユーザーの処置: アクションが完了するまで待機して、コマンドを再試行してください。

DBA6010I 結合は正常に定義されました。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA6012I レプリケーション・ソースは正常に定義されました。レプリケーション・ソースへの変更の収集を開始するにはコマンド行からキャプチャー・プログラムが開始済みであることを確認してください。

説明: キャプチャー・プログラムは、実行するために、定義済みのレプリケーション・ソースが必要です。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムが実行中であることを確認してください。

DBA6013I レプリケーション・サブスクリプションは正常に更新されました。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA6014I レプリケーション・サブスクリプションは正常にクローンされました。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA6015I このアクションの SQL ステートメントはこれからの編集および実行のためにファイルに保管されています。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA6016I SQL スクリプト・ファイルは正常に実行されています。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA6100I アプライ・プログラムはこの設定の全リフレッシュ・コピーのみを行います。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA6101E 表 *table-name-1.table-name-2* を検索できません。

説明: 指定されたコントロール表はデータベースで見つからないか、誤ってドロップされました。

ユーザーの処置: コントロール表を作成してください。詳細については「表」の章を参照してください。

DBA6102I このアクションは、終了までしばらく時間がかかります。お待ちください...

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA6103E SQL ファイル *file-name* を実行できません。

説明: ユーザーは、レプリケーション・ソースの定義のようなレプリケーション・アクションに対して SQL ステートメントを編集した可能性があるため、SQL ステートメント・ファイルでエラーが起きました。

ユーザーの処置: SQL ステートメント・ファイルのエラーを訂正して、ファイルを再実行してください。

DBA6104W ユニークな接頭部文字が見つかりませんでした。接頭部文字は NULL に設定されました。

説明: 接頭部文字は、ソース表で変更前イメージ列を識別するために使用される英字文字または数値文字です。接頭部文字は、すべての可能な接頭部文字がすでに使用中のため割り当てられない場合は、この警告が出されません。変更データ表は作成されません。

ユーザーの処置: 変更前イメージ列のチェックマークを外してアクションをやり直してください。

DBA6105E フィールド *field-name* には入力が必要です。

説明: ユーザーは必須フィールドを埋めていません。

ユーザーの処置: パラメーターを指定して、OK を選択してください。

DBA6106E レプリケーション・アクションは現在このデータベース・システムをサポートしていません。

説明: レプリケーション・アクションは、実行するためにデータベース・システムをサポートする必要があります。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBA6107E フィールド *field-name* に対して別の値を入力してください。

説明: レプリケーション・サブスクリプションをクローンするとき、ターゲット・サーバーおよびアプライ修飾子フィールドがオリジナルのターゲット・サーバーおよびアプライ修飾子フィールドと異なる必要があります。

ユーザーの処置: 別のターゲット・サーバー名を入力するか、修飾子を適用して「OK」を選択してください。

DBA6108E 構文エラーのためアクションを完了できません。

説明: SQL ステートメントには構文エラーが含まれます。

ユーザーの処置: 正しい構文については、「SQL リファレンス」をチェックしてください。サブスクリプション・アクションについては、WHERE 文節、行ページ、あるいは CREATE 列をチェックしてください。

define-join アクションについては、CREATE VIEW ステートメントをチェックしてください。

DBA6109E SHOW COLUMNS アクションを完了できません。

説明: SHOW COLUMNS アクションには選択された表が必要です。

ユーザーの処置: 「選択表」リスト・ボックスから表を選択して、SHOW COLUMNS キーを押してください。

DBA6110E SQL ファイル *file-name* をオープンできません。

説明: SQL ファイルが存在していない、間違ったサブディレクトリーにある、あるいは別の処理で使用されているかのいずれかです。

ユーザーの処置: 正しいファイル名を入力していて、そのファイルが正しいサブディレクトリーにあるか確認してください。ファイルが別の処理に使用されている場合、処理を終了してファイル名を再入力します。

DBA6111E ファイル *file-name* をオープンできません。

説明: ファイルが存在しないか、あるいは間違ったサブディレクトリーにあります。

ユーザーの処置: 「ツール設定」ノートブックの「レプ

リケーション」ページで正しいファイル名を入力しているか、確認してください。

DBA6112I 「ツール設定」ノートブックにレプリケーション・オブジェクトを定義するためにユーザー定義の値の置換を選択しました。ファイル *file-name* にこの値を提供してください。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: ファイルにすでにユーザー定義の値を提供している場合にはアクションは必要ありません。

DBA6113E *keyword* はファイル *file-name* で無効なキーワードです。

説明: 指定されたキーワードは無効で、タイプミスによるエラー可能性があります。

ユーザーの処置: デフォルト・ファイル "DPREPL.DFT" で与えられたようにキーワードを使用してください。

DBA6114E キーワード *keyword* に対する値がファイル *file-name* では見つかりません。

説明: このキーワードに対する値はこのアクションを完了するのに必要です。

ユーザーの処置: このキーワードに対する値をファイルに指定してください。

DBA6115E 列リストの項目で選択された項目はありません。このアクションを完了することができません。

説明: このアクションを完了するには、列リストの少なくとも 1 つの項目が選択される必要があります。

ユーザーの処置: 列リストから 1 つまたは複数の項目を選択して「OK」を押してください。

DBA6116E キーワード *keyword* に対する値がファイル *file-name* で無効です。

説明: このキーワードに対する値が長すぎて間違ったデータ・タイプか、あるいは形式が間違っているかのどちらかです。

ユーザーの処置: 値を訂正してアクションを再度呼び出してください。

DBA6117W 変更前イメージ列 *column-list* が *number* バイトに切り捨てられました。これは、オリジナル列の長さが変更前イメージ接頭部 *before-image-prefix* に付加される前にデータベース制限に達していたためです。

説明: 元のソース表からの列の長さがデータベースの制限に達しています。変更前イメージ接頭部に追加される前に、列名の終わりにある文字が、データベースの制限に適合するように、切り捨てられています。新しい変更前イメージ列名は、切り捨てられた文字にユニーク名を保証する必要があるため、ユニークとはなりません。

ユーザーの処置: 切り捨てられた名前がユニークでない場合には、変更前イメージ列のチェックマークを外して、アクションを再実行してください。

DBA6118W データ・タイプ *datatype-list* はデータベース *database* でサポートされません。データ・タイプは SQL スクリプトで *datatype-list* に変換されます。

説明: ソースからのデータ・タイプの中には、名前付きデータベースではサポートされないものもあります。ただし、同等のデータ・タイプが名前付きデータベースにあります。生成された SQL ステートメントは、サポートされないデータ・タイプの代わりに、変換されたデータ・タイプを使用します。

ユーザーの処置: 変換されたデータ・タイプが許可できるものである場合、アクションは必要ありません。許可できるものでない場合、ターゲット列のチェックマークを外して、アクションを再実行してください。

DBA6119W データ・タイプ *datatype-list* はデータベース *database* でサポートされません。これらのデータ・タイプが含まれる列は、SQL スクリプトから排除されます。

説明: ソースからのデータ・タイプの中には、名前付きデータベースではサポートされないものもあります。同等のデータ・タイプが名前付きデータベースにあります。生成された SQL ステートメントは、サポートされないデータ・タイプが含まれる列を排除します。

ユーザーの処置: 特定のデータ・タイプを、将来名前付きデータベースでサポートしてもらいたい場合には、IBM サービスに連絡してください。

DBA6120W ソース表 *table-name* は主キーで定義されていません。ターゲット表の主キーを「ターゲット列」ページで指定してください。

説明: サブスクリプション定義アクションは、ソース表に対する修飾主キーを検出できませんでした。そのため、サブスクリプション定義はターゲット表に対する該当主キーを判別できません。

ユーザーの処置: ターゲット表の主キーを「詳細」ノートブックの「ターゲット列」ページで指定してください。

DBA6121W 非互換 Java ランタイム環境が検出されました。必要なレベルの Java ランタイム環境がインストールされているかどうかを確認してください。

説明: インストールされた Java 実行時が、DB2 Java アプリケーションによってサポートされていません。

ユーザーの処置: 前提となる Java ランタイム環境レベルの情報については、コントロール・センターの *readme.htm* を参照してください。

DBA6123E オブジェクトのスキーマ名の長さが *number* バイトを超えているので、要求されたアクションを実行できません。

説明: データ・レプリケーション・コンポーネントは最長 18 バイトのスキーマ名をサポートします。それよりも長いスキーマ名のオブジェクトに対してレプリケーション・アクションを実行しようとした。アクションを実行できません。

ユーザーの処置: スキーマ名が 18 バイト以下のオブジェクトを選択して、アクションを再実行してください。

DBA6124W 一部のオブジェクトのスキーマ名の長さが *number* バイトを超えているため、選択されたそれらのオブジェクトでは要求されたアクションを実行できません。

説明: データ・レプリケーション・コンポーネントは最長 18 バイトのスキーマ名をサポートします。それよりも長いスキーマ名の一部のオブジェクトに対してレプリケーション・アクションを実行しようとした。アクションはスキーマ名が 18 バイト以下のオブジェクトに対してだけ実行されます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA6125W フィールド *field* に *number* バイトを超える長さのスキーマ名があります。スキーマ名は *number* バイトで切り捨てられます。

説明: データ・レプリケーション・コンポーネントは最長 18 バイトのスキーマ名をサポートします。フィールド内のスキーマ名は 18 バイトを超えるので、18 バイトに切り捨てられます。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。ただし既存のスキーマ名を切り捨てたくない場合は、フィールドにより短いスキーマ名を入力してください。

DBA7000E *product-name* のライセンスは除去できません。 **RC = return-code**

説明: ライセンスを除去できませんでした。ライセンスが *nodelock* ファイルに見つからないか、*nodelock* ファイルを更新できませんでした。

ユーザーの処置: *nodelock* ファイルの許可をチェックして、ライセンスがあることを確認してください。

ファイルのロケーションは、以下のようにプラットフォームによって特定されます。

- AIX - /var/ifor/nodelock
- Windows オペレーティング・システム - \$DB2PATH/license/nodelock
- それ以外のすべてのオペレーティング・システム - /var/lum/nodelock

DBA7001E ライセンスを *nodelock* ファイルに追加できませんでした。 **RC = return-code**

説明: ライセンス・ファイルの転送中またはライセンスのインストール中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: *nodelock* ファイルの許可をチェックしてください。ファイルのロケーションは、以下のようプラットフォームによって特定されます。

- AIX - /var/ifor/nodelock
- Windows オペレーティング・システム - \$DB2PATH/license/nodelock
- それ以外のすべてのオペレーティング・システム - /var/lum/nodelock

またコマンド行ユーティリティの *db2licm* を使用してライセンスを追加することもできます。

問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA7002E ライセンス証明書が無効です。有効なライセンス・ファイルでこのコマンドを再度試行してください。 **RC = return-code**

説明: 指定されたファイルに含まれるライセンス証明書に有効な *db2* ライセンスがないか、認識されていない形式になっています。

ユーザーの処置: 弊社の担当者または正規販売代理店から有効な *DB2* ライセンス証明書を入手してください。

DBA7003W 現在のユーザーのリストを検索できません。 **RC = return-code**

説明: ユーザーをトラックするデーモンまたはサービスが正しく機能していないか、まだ開始されていません。並行ユーザー・ポリシーまたは登録されているユーザー・ポリシーを活性化してください。

ユーザーの処置: 並行ユーザー・ポリシーまたは登録されているユーザー・ポリシーをオンにして、すべてのインスタンスを再始動してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA7004E 登録済みユーザーを登録済みユーザー・リストから除去できませんでした。 **RC = return-code**

説明: サーバーにある登録済みユーザー・リストを、要求された変更を行って更新することができませんでした。

ユーザーの処置: ユーザーが存在し、これがこの製品に対して有効なアクションであることを確認してください。問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA7005E 登録済みユーザーの追加ができませんでした。 **RC=return-code.**

説明: サーバーにある登録済みユーザー・リストを、要求された変更を行って更新することができませんでした。

ユーザーの処置: ユーザー名が有効で、登録済みユーザー・ポリシーがこの製品にとって有効であることを確認してください。問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA7006E ライセンス・ポリシーを更新できませんでした。 **RC = return-code**

説明: この製品のライセンス・ポリシーを更新しようとしたが、できませんでした。

ユーザーの処置: コマンド `db2licd -xxx` を使用する
か、Windows NT の場合は Services Control Manager を
使用して、インスタンスとライセンス・サーバーを再始
動してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡して
ください。

DBA7007E ライセンス使用法に関する統計を検索でき
ませんでした。 **RC = return-code**

説明: 統計が破壊されているか、通信エラーが発生した
か、または使用できるデータがありません。 データは
ポリシーが更新されてインスタンスが再始動された後
に、接続と切断をされると生成されます。

ユーザーの処置: 統計が破壊されている場合は、統計デ
ータベースを除去することができます。これにより、以
前に収集されたすべての統計が除去されます。 ロケー
ションはプラットフォームにより特定されており、また
製品がどこにインストールされているかにも影響されま
す。

- UNIX - DB2 インストール・ディレクトリ
-misc/db2licst
- Windows オペレーティング・システム - DB2 インス
トール・ディレクトリー¥license¥db2licst.dat

DBA7008I インスタンスが開始されるまで、ライセン
ス・ポリシーは完全には有効にはなりません。

説明: インスタンスが再始動されると、ライセンス構成
を再読み取りします。

ユーザーの処置: サーバーのインスタンスを再始動しま
す。

DBA7009E この製品 *product* は指定されたライセン
ス・ポリシーをサポートしません。 **RC**
= return-code

説明: 指定されたライセンス・ポリシーはこの製品で使
用することはできません。

ユーザーの処置: 有効なライセンス・ポリシーを指定し
てください。

DBA7010E ライセンス・センターは指定されたサーバ
ーから製品のリストを検索できませんでし
た。 **RC = return-code**

説明: このサーバーの製品のリストを獲得できませんでした。

ユーザーの処置: 管理インスタンスとコントロール・セ
ンターを再始動して、再試行してください。 問題が解

決されない場合は、IBM サービスに連絡してくださ
い。

DBA7011E 指定されたアクションを実行するための適
切な権限がありません。

説明: ユーザーはこの操作をするための許可を持ってい
ません。

ユーザーの処置: このコマンドを実行するだけの適切な
許可のあるユーザー ID でログインしてください。

DBA7012E 指定された期間は、統計が使用できませ
ん。

説明: 指定された期間は、統計が使用できません。

ユーザーの処置: 統計のある有効な日付範囲を入力して
ください。

DBA7013E ライセンス証明書 *filename* が見つかりま
せませんでした。 有効なライセンス・ファイ
ルでこのコマンドを再度試行してくださ
い。 **RC = return-code**

説明: 指定されたファイルがないか読み取れません。

ユーザーの処置: 弊社の担当者または正規販売代理店か
ら有効な DB2 ライセンス証明書を入手してください。

DBA7014E コントロール・センターおよび管理インス
タンスを再始動して、コマンドを再試行し
てください。

説明: コントロール・センターおよび管理インスタンス
を再始動して、コマンドを再試行してください。

ユーザーの処置: 問題が解決されない場合は、IBM サ
ービスに連絡してください。

DBA7015E DB2 OLAP Server のライセンスを更新
することはできません。 **DB2 OLAP** 処
理は現在アクティブにあります。

説明: DB2 は、DB2 OLAP Server の実行中は DB2
OLAP Server のライセンスを更新できません。

ユーザーの処置: OLAP ライセンスを更新するには、
OLAP 処理を停止してこの DB2 のライセンスを再イン
ストールしてください。

DBA7016E 選択したシステムに指定されたインスタ
ンスがありません。

説明: 選択したシステムで有効な DB2 インスタンスが
見つかりませんでした。 選択した DB2 システムに常駐
する、少なくとも 1 つの有効な DB2 インスタンスを

正しくカタログしたことを確認してください。

ユーザーの処置: 選択したシステムで有効な DB2 インスタンスをカタログし、コントロール・センターを再始動して、コマンドを再試行してください。

DBA7017E 選択したシステムで有効な DB2 インスタンスが見つかりませんでした。

説明: 選択したシステムで有効な DB2 インスタンスが見つかりませんでした。選択したシステムに、少なくとも 1 つの実行中の DB2 インスタンスがあることを確認してください。

ユーザーの処置: 選択したシステムに有効な DB2 インスタンスを作成し、コマンドを再試行してください。

DBA7100W ファイル *file-name* がオープンできませんでした。そのファイルに対応するインフォメーション・センター内のページ *page-name* は表示されません。

説明: インフォメーション・センターのデータは複数の NDX ファイルに保管されます。ファイル *file-name* が正しいディレクトリーからなくなっている可能性があります。

ユーザーの処置: NDX ファイルがファイル・システムにインストール済みであるか確認してください。

インフォメーション・センター内のページおよび対応する NDX ファイルは以下のとおりです:

- 概念 - db2booksuc.ndx
- タスク - db2tasksuc.ndx
- 参照 - db2refsuc.ndx
- トラブルシューティング - db2msgsuc.ndx
- サンプル・プログラム - db2sampsuc.ndx
- チュートリアル - db2webuc.ndx

DBA7101E インフォメーション・センターのどの NDX ファイルもオープンできないので、インフォメーション・センターを表示できません。

説明: DB2 情報のいずれかのリンクを表示するには、インフォメーション・センターは少なくとも 1 つの NDX ファイルを読み取る必要があります。

インフォメーション・センターのデータは複数の NDX ファイルに保管されます。ファイルがファイル・システムにありません。

ユーザーの処置: NDX ファイルが、ファイル・システムにあるかどうか確認してください。

インフォメーション・センター内のページおよび対応す

る NDX ファイルは以下のとおりです:

- 概念 - db2booksuc.ndx
- タスク - db2tasksuc.ndx
- 参照 - db2refsuc.ndx
- トラブルシューティング - db2msgsuc.ndx
- サンプル・プログラム - db2sampsuc.ndx
- チュートリアル - db2webuc.ndx

DBA7102W ファイル *file-name* が正しくフォーマットされていません。次の行は無視されます: *line-numbers*. これらの行を正しくフォーマットしてください。

説明: NDX ファイル内の各行はコンマで区切られたリストの形式になっていなければなりません。以下はその例です。

```
"IBM",1,"IBM Home Page",  
http://www.ibm.com
```

リストの形式は以下のとおりです。

- 1 ツリー形式で表示される項目の名前またはインフォメーション・センターの項目のリストの名前
- 2 この項目のカテゴリーを表す数
- 3 この項目が選択されたときに状況表示行に表示される記述
- 4 項目のロケーションを示す完全 Web アドレス

ユーザーの処置: このファイルを編集した場合、各行が以下のように正しくフォーマットされていることを確認してください。

- 名前および記述の最初と最後は二重引用符でなければなりません。
- 名前と記述には二重引用符を含めないでください。
- 区切り文字にはコンマを使用してください。
- ファイル内の最初項目はファイル内の項目数に対応する数です。項目を追加または除去する場合、この数を手操作で更新してください。

DBA7200E 最大 10 の列を geocoder への入力として選択できます。

説明: 10 列を超える列が geocoder への入力として選択されました。

ユーザーの処置: 選択列ボックスが 10 個以下の名前をリストするまでは、列名を選択列から使用可能列に移動します。

DBA7201E データベースを使用して **Spatial Extender** を実行することはできません。

説明: データベースを Spatial Extender で使用可能にしないと、Spatial Extender の操作を実行できません。

ユーザーの処置: データベースを右クリックして、メニューから **Spatial Extender -> 使用可能** を選択します。

DBA7300W カタログされた有効なノードがないため、データベース *database-name* を表示することができません。

説明: データベース・ディレクトリーの指定されたデータベースに提供されたノード名に対応するノード・ディレクトリーの項目がありません。

ユーザーの処置: データベースがカタログされたノードに対応するノード・カタログ項目があることを確認してください。

DBA7301W ヘルス・センターで表示するインスタンスがありません。

説明: ノード・カタログに項目がなく、DB2INSTANCE が設定されていません。

ユーザーの処置: ノードをカタログするか、またはクライアントでデフォルト DB2 インスタンスを指定してください。

DBA7302E インスタンス・カタログ・パーティションがダウンしているため、アラート情報をインスタンス *instance-name* またはそのオブジェクト用に検索することはできません。

説明: インスタンス・パーティションおよびモニターがダウンしているため、ヘルス・モニターでアラート情報を照会することはできません。

ユーザーの処置: パーティションを再始動して、アクションを再試行してください。

DBA7303E インスタンスがダウンしているため、アラート情報をインスタンス *instance-name* またはそのオブジェクト用に検索することはできません。

説明: インスタンスおよびモニターがダウンしているため、ヘルス・モニターでアラート情報を照会することはできません。

ユーザーの処置: インスタンスを再始動して、アクションを再試行してください。

DBA7304W 選択されたオブジェクト *object-name* は現行トグル・フィルターには存在しません。

説明: 選択されたオブジェクトは、データの最新のリフレッシュで状態が変更しました。その結果、オブジェクトは、現行トグル・フィルター選択のナビゲーション・ビューで表示できなくなりました。

ユーザーの処置: 現行トグル・フィルター選択から別のインスタンスまたはデータベースを選択するか、または別のトグル・ボタンを選択して他の状態を表示してください。

DBA7305E 選択されたアラートは存在しません。

説明: 選択されたアラートはヘルス・モニターで存在しません。

ユーザーの処置: NOTIFYLEVEL 設定がアラート・タイプを組み込むような設定になっている場合は、「ジャーナル通知ログ」ページに進み、アラートの詳細を参照してください。

DBA7306E アラートは存在しません。「詳細」ダイアログをクローズしますか?

説明: 現行の「詳細」ダイアログでは、存在しないアラートの情報が表示されています。

ユーザーの処置: ダイアログをクローズするには「はい」を、「詳細」ダイアログをオープンしたままにするには「いいえ」をクリックしてください。

DBA7307W ダイアログが最後にリフレッシュされた後に、データベース・マネージャー構成パラメーターの値が変更されました。続行しますか?

説明: この「詳細」ダイアログが最後にリフレッシュされた後に、構成パラメーターの値が変更されました。

ユーザーの処置: 変更を適用し現在の設定を上書きするには「はい」をクリックし、「詳細」ダイアログに戻るには「いいえ」をクリックしてください。「いいえ」をクリックすると、ダイアログの内容がリフレッシュされ、構成パラメーターの現在の設定が表示されます。

DBA7308W ダイアログが最後にリフレッシュされた後に、データベース構成パラメーターの値が変更されました。現行値を上書きしますか?

説明: この「詳細」ダイアログが最後にリフレッシュされた後に、構成パラメーターの値が変更されました。

ユーザーの処置: 変更を適用し現在の設定を上書きする

には「はい」をクリックし、「詳細」ダイアログに戻るには「いいえ」をクリックしてください。「いいえ」をクリックすると、ダイアログの内容がリフレッシュされ、構成パラメーターの現在の設定が表示されます。

DBA7309W ダイアログが最後にリフレッシュされた後に、1 つまたは両方のしきい値の設定が変更されました。現行値を上書きしますか？

説明: このダイアログが最後にリフレッシュされた後に、警告またはアラーム、あるいはその両方のしきい値が変更されました。

ユーザーの処置: 変更を適用し現在の設定を上書きするには「はい」をクリックし、「詳細」ダイアログに戻るには「いいえ」をクリックしてください。「いいえ」をクリックすると、ダイアログの内容がリフレッシュされ、しきい値の現在の設定が表示されます。

DBA7310I しきい値設定構成の更新が適用されました。

説明: しきい値設定構成の更新が適用されました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA7311I 構成パラメーターの更新が適用されました。

説明: 構成パラメーターの更新が適用されました。変更が有効になるまで、しばらく時間がかかる場合があります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA7312I 構成の設定が、インストール時のオリジナル・デフォルト設定にリセットされました。

説明: 構成の設定が、インストール時のオリジナル・デフォルト設定にリセットされました。これらのヘルス・インディケーターの設定は、ヘルス・モニターの初期化として製品のインストール時に使用されたものです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA7313I オブジェクト *object-name* の構成設定が、現行オブジェクトのデフォルト・ヘルス・インディケーターの設定にリセットされました。

説明: 指定されたオブジェクトの構成設定が、現行オブジェクトのデフォルト・ヘルス・インディケーターの設定にリセットされました。これらの設定は、指定され

たオブジェクトのオブジェクト・タイプのグローバル・ヘルス・インディケーターのデフォルト設定に基づいています。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA7314W 更新された構成設定を既存のオブジェクトに適用することができます。すべての変更を既存のオブジェクトに反映させ、これらのオブジェクトの現行設定を上書きしますか？「いいえ」を選択すると、デフォルト設定のみが更新されます。

説明: 新規グローバル・デフォルト・ヘルス・インディケーターの設定を、変更されたヘルス・インディケーターのオブジェクト・タイプに基づいて影響を受けるすべての既存のオブジェクトに反映させることができます。変更を既存のオブジェクトに反映させることなく、グローバル設定を更新することができます。

ユーザーの処置: グローバル・デフォルト・ヘルス・インディケーターの更新およびこれらの変更を既存のオブジェクトに適用するには「はい」をクリックし、グローバル・デフォルト・ヘルス・インディケーターの設定の更新のみを適用するには「いいえ」をクリックしてください。

DBA7315W すべてのパーティションで成功するアクションのために、すべてのパーティションでアクセス可能なスクリプト・ロケーションを提供する必要があります。スクリプトの作成を継続しますか？

説明: すべてのパーティションで成功させるには、アラート・アクションのために定義中のスクリプトをすべてのパーティションでアクセス可能にする必要があります。

ユーザーの処置: スクリプトの作成を継続するには「はい」をクリックし、「スクリプトの詳細」ダイアログに戻るには「いいえ」をクリックしてください。

DBA7316E 通知ログの最大レコード番号よりも大きい開始レコード値を選択しました。レコードを戻すことはできません。

説明: 開始レコードの引き数として指定した数よりも少ないレコードが通知ログにあります。レコードを表示することはできません。

ユーザーの処置: フィルター条件の開始レコード番号を減らしてください。

DBA7317W 通知ログの最大レコード番号よりも大きい終了レコード値を選択しました。続行しますか？

説明: 終了レコード・カウントとして指定した数よりも少ないレコードが通知ログにあります。ログ・レコードはファイルの終わりまで検索できます。

ユーザーの処置: すべてのログ・レコードをファイルの終わりまで検索するには「はい」をクリックし、フィルター条件を変更するには「いいえ」をクリックしてください。

DBA7318I ヘルス・センターに現在 *number* 個のアラートがあります。詳細については、ツールバーまたは状況表示行のピーコンからヘルス・センターを立ち上げてください。

説明: 現在ヘルス・センターで表示されるアラートがあります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA7319E 最後にリフレッシュされた後に、選択されたインスタンス *instance-name* がドロップされました。

説明: 選択したオブジェクトはもう存在しないため、アラート情報を検索することはできません。

ユーザーの処置: オブジェクトを再作成し、アクションを再試行してください。

DBA7320E 最後にリフレッシュされた後に、選択されたデータベース *database-name* がドロップされました。

説明: 選択したオブジェクトはもう存在しないため、アラート情報を検索することはできません。

ユーザーの処置: オブジェクトを再作成し、アクションを再試行してください。

DBA7321E このアラートが生成されたオブジェクト *object-name* がドロップされました。要求されたアクションを完了することができません。

説明: 選択したオブジェクトはもう存在しないため、アクションを完了することはできません。

ユーザーの処置: オブジェクトを再作成し、アクションを再試行してください。

DBA7323I 連絡先リストから連絡先を除去しても、タスク・センターまたはヘルス・モニターの構成通知設定は変更されません。

説明: 除去された連絡先を使用した通知アクションは更新されません。これらの通知アクションは失敗します。

ユーザーの処置: 除去された連絡先に関連する通知アクションを除去してください。

DBA7324I 通知用に選択した連絡先 *contact-name* はもう存在しません。連絡先は選択リストから除去されています。

説明: ヘルス通知に選択されたリストから無効な連絡先が除去されました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA7325W ダイアログに保管されていない変更があります。変更を廃棄して詳細をリフレッシュしますか？

説明: このダイアログでリフレッシュまたはリセット・オプションを選択しました。適用されていないすべての変更が廃棄されます。

ユーザーの処置: 変更を保存する場合は「いいえ」を選択してください。保存しない場合は、「はい」を選択して適用されていない変更を廃棄してください。

DBA7326E スケジューラー・システムは見つかりませんでした。タスク・アクションを指定できません。

説明: スケジューラー・システムは管理ノード・ディレクトリーにカタログされていません。よって、「タスクの選択」ダイアログにタスクは配置されません。

ユーザーの処置: スケジューラー・システム用の DB2 Administration Server が管理ノード・ディレクトリーでカタログされていることを確認してください。

DBA7327I 構成パラメーターの更新が適用されました。グローバル・オブジェクト・タイプのデフォルトへのこれらの変更は、特定のデータベース・オブジェクトの既存の設定には影響しません。

説明: 更新された構成設定はグローバル・デフォルト・ヘルス・インディケータ設定にのみ適用されます。特定のオブジェクトでヘルス・インディケータの設定をすでに指定している場合は、それらの設定がこれらの変更により影響を受けることはありません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA7328I 選択済みアラートについて、ヘルス・インディケーターで評価が使用不可になっています。ヘルス・インディケーターは、ヘルス・モニターのリフレッシュで評価されません。

説明: 選択済みアラートのヘルス・インディケーターについてアラート構成が更新されており、しきい値または状況の評価が使用不可になっています。ヘルス・モニターの次のリフレッシュまで、この変更は反映されません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBA7329W タスク *task-name* が、タスク・メタデータで見つかりません。タスク名は **task-id-number.task-suffix-number** のように表示されます。

説明: アクションの選択ダイアログは、タスク・メタデータからタスク・アクションに対するタスク名を検索します。タスク・メタデータのタスク ID 番号と接尾部番号に一致するタスクがないため、タスク名をダイアログに表示できません。

ユーザーの処置: メタデータにタスクが存在しているかどうか確認してください。タスクが削除されている場合には、正しいタスク ID 番号と接尾部番号で、ヘルス・インディケーターのアクションを更新してください。

DBA7330E リモート・インスタンス名が認識されていないため、このインスタンスではアクションを完了できません。

説明: リモート・インスタンス名は任意指定のパラメーターで、指定されていませんでした。このアクションをリモート・インスタンスで実行するには、リモート・インスタンス名を認識させてください。

ユーザーの処置: コントロール・センターを使用して、リモート・インスタンスを選択してください。インスタンスを右クリックし、「変更」オプションを選択してリモート・インスタンスの名前を変更してください。あるいは、`REMOTE_INSTANCE` パラメーターを指定して、インスタンスをドロップし、再カタログしてください。

DBA7331W インスタンス *instance-name* のヘルス通知連絡先リストに、1 つ以上の孤立した連絡先があります。

説明: 孤立した連絡先とは、ヘルス通知連絡先リストにはあるものの、DB2 Administration Server の `CONTACT_HOST` 構成パラメーターで指定されたシステムに保管された連絡先リストには定義されていない連絡先のことです。

現在のところ、インスタンス *instance-name* のヘルス通知連絡先リストには、最低 1 つの孤立した連絡先があります。

ユーザーの処置: これらの孤立した連絡先がこの先不要であるなら、削除します。それ以外の場合は、これらの連絡先がヘルス・アラート通知を受け取れるように再定義します。これらのアクションは、「ヘルス・アラート通知のトラブルシューティング (Troubleshoot Health Alert Notification)」ウィザードを使って実行できます。

DBA7332W モニター・タスク *monitoring-task-name* のフィルターは複雑すぎて表示できません。

説明: モニター・タスク *monitoring-task-name* のフィルターは複雑すぎて、「アクティビティ・モニターのセットアップ」ウィザードに表示できません。結果として、「アクティビティ・モニターのセットアップ」ウィザードではフィルターの表示または変更ができません。

ユーザーの処置: フィルターを表示するには、ビュー `SYSTOOLS.AM_TASKS` を照会してください。フィルターを変更するには、ストアード・プロシージャ `SYSPROC.AM_SAVE_TASK` を呼び出してください。

DBA7500N 指定されたしきい値がしきい値の範囲内にありません。

説明: 指定されたしきい値は無効です。直前の値にリセットされました。

ユーザーの処置: 有効範囲内の値を指定してください。

DBA7501N 指定された構成パラメーター値が有効範囲内にありません。

説明: 指定された構成パラメーター値が無効です。直前の値にリセットされました。

ユーザーの処置: 有効範囲内の値を指定してください。

DBA7502N 指定された構成パラメーター値が無効です。

説明: 指定された構成パラメーター値が無効です。直前の値にリセットされました。

ユーザーの処置: 有効な構成パラメーター値を指定してください。

DBA7503N 指定されたしきい値が無効です。

説明: 指定されたしきい値は無効です。直前の値にリセットされました。

ユーザーの処置: 有効な数値を指定してください。

DBA7504N メモリー・ビジュアライザーを呼び出すためのインスタンス・アタッチメントが必要です。

説明: メモリー使用率および割り振りを表示するには、メモリー・ビジュアライザーでインスタンス・アタッチメントが必要です。

ユーザーの処置: バージョン 8.1 またはそれ以降のインスタンスを選択または指定してください。

DBA7510W このアクションは現在、このバージョンの DB2 サーバーでは使用できません。このアクションでは、DB2 サーバーのレベルは *db2-version* でなければなりません。

説明: コントロール・センター・クライアントおよび DB2 サーバーのレベルが異なっています。要求されたアクションは現行レベルの DB2 サーバーでは使用できません。DB2 サーバーのレベルは *db2-version* でなければなりません。

ユーザーの処置: DB2 サーバーを要求されているレベルにアップグレードしてください。

DBA7511W このアクションは現在、このバージョンのデータベースでは使用できません。このアクションでは、データベースのレベルは *db-version* でなければなりません。

説明: 要求されたアクションは現行レベルのデータベースでは使用できません。データベースのレベルは *db-version* でなければなりません。

ユーザーの処置: データベースを要求されているレベルにアップグレードしてください。

DBA7512W 必要なライセンスが見つからないため、このアクションは現在、使用できません。

説明: DB2 Administration Server が開始されていないか、またはライセンスがインストールされていないため、要求されたアクションは使用できません。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server が開始済みで、必要なライセンスがインストールされていることを確認してください。

DBA7513W アクションは現在使用できません。

説明: アクションを使用できない原因として、以下の理由が考えられます。

1. 正しいライセンスがインストールされていない。
2. 正しい製品がインストールされていない。
3. コントロール・センター・クライアントおよび DB2 サーバーのレベルが異なっています。
4. DB2 Administration Server が開始されていない。

ユーザーの処置:

1. 適切なライセンスがインストールされていることを確認してください。
 2. 製品がインストールされていることを確認してください。
 3. クライアントとサーバーが同じレベルであることを確認してください。
 4. DB2 Administration Server が開始されていることを確認してください。
-

DBA7514W サテライト・コントロール・データベースがインスタンス *instance* で見つかりませんでした。

説明: サテライト・コントロール・データベースがインスタンス *instance* に存在しないか、またはデータベース・ディレクトリーにカタログされていません。

ユーザーの処置: インスタンス *instance* でサテライト・コントロール・データベースを処理するには、サテライト・コントロール・データベースが作成されており、データベース・ディレクトリーにカタログされていることを確認してください。あるいは、(もし存在すれば) 別のインスタンスでサテライト・コントロール・データベースを処理することも可能です。

DBA7515W データベースが下位レベルのサーバーであるため、前のバージョンで使用できない新規オプションは除去されたかまたは使用不可となりました。

説明: 下位レベルのサーバーに接続しているため、ご使用のサーバー・バージョンで使用できない新規オプションは使用不可となったか、または選択可能ではなくなりました。

ユーザーの処置: ダイアログを完了してコマンドを実行してください。

DBA7516N メモリー・ビジュアライザーは指定されたデータ・ファイルを検出できませんでした。

説明: 指定されたファイルが存在しないか、または無効なメモリー・ビジュアライザーのデータ・ファイルです。

ユーザーの処置: 指定されたファイル名が正しいことを確認してください。

DBA7517N メモリー・ビジュアライザーは指定されたデータ・ファイルに書き込むことができませんでした。

説明: メモリー・ビジュアライザーはデータ・ファイルを指定されたパスおよびファイル名に保管できませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたパスが存在し、ファイル許可が正しいことを確認してください。

DBA7604N 現行データベース・パーティション・グループのストレージ管理スナップショットが見つかりません。

説明: ストレージ管理スナップショットを取るには、コントロール・センターから、データベース・パーティション・グループ・オブジェクトが表示されるまでオブジェクト・ツリーを展開します。データベース・パーティション・グループ・オブジェクトを右クリックし、ポップアップ・メニューで「ストレージの管理」を選択してください。

ユーザーの処置: 「再分散ストラテジー」ページで別のオプションを選択して再分散ウィザードを続行するか、またはウィザードをクローズして、再分散操作を続ける前に、まずストレージ・スナップショットを取ってください。

DBA7608N *database-name.database-partition-group-name* の段階的な再分散設定のレジストリーを作成中にエラーが発生しました。

説明: レジストリー・レコードなしでは、段階的な再分散タスクは失敗します。

ユーザーの処置: ファイル許可を検査し、ウィザードを使用してレジストリー・レコードの再分散設定を再作成してください。

DBA7609W データベース・パーティション・グループはパーティション化されていません。

説明: 現行データベース・パーティション・グループにはパーティションが 1 つしかありません。

ユーザーの処置: これに対して再分散ユーティリティを実行する必要はありません。

DBA7610W 表はパーティション化されていません。

説明: パーティションが 1 つしかないデータベース・パーティション・グループに表が定義されます。

ユーザーの処置: データ分散ファイルは指定された表用に作成されません。

DBA7611N 段階的な再分散プロパティ・タイプが無効です。

説明: 要求された段階的な再分散プロパティ項目を検索または更新できません。

ユーザーの処置: 有効なプロパティ・タイプを入力してください。

DBA7612N ファイルのアクセスでエラーが起きました。

説明: 理由コードには、以下のものが含まれます。

- ファイル形式のエラー
- 通信エラー
- ファイルを読み込むときのメモリー割り振りのエラー

ユーザーの処置: ファイル内のフォーマット・エラーを修正してください。db2diag.log ファイルで、通信またはメモリー割り振りエラーを解決するのに役立つ詳細情報をチェックしてください。アプリケーションを再実行してください。

DBA7613W データベース・パーティション・グループ内の影響を受ける表が長い期間ロックされ、使用できなくなる可能性があります。

説明: 再分散はログ主体のアクティビティである可能性があります。

ユーザーの処置: 再分散を実動システムで実行する前にテスト・データベースで実行して、再分散でかかる時間を判別することをお勧めします。

再分散中にアクティブ・ログ・スペースが足りなくなるリスクを最小化するために、以下のいずれかまたはすべてを実行することをお勧めします。

- 他のログ主体のデータベース・アクティビティを削減または除去する
- 永久ロギングを使用する
- ウィザードで推奨される段階的な再分散を使用する

DBA7614W 複数データベース・パーティション・グループを再分散するとき、データベース・パーティション・グループ内の影響を受ける表が長い期間ロックされ、使用できなくなる可能性があります。

説明: 再分散はログ主体のアクティビティである可能性があります。

ユーザーの処置: 再分散を実動システムで実行する前にテスト・データベースで実行して、再分散でかかる時間を判別することをお勧めします。

再分散中にアクティブ・ログ・スペースが足りなくなるリスクを最小化するために、以下のいずれかまたはすべてを実行することをお勧めします。

- 他のログ主体のデータベース・アクティビティを削減または除去する
- 永久ロギングを使用する
- 各データベース・パーティション・グループの再分散を異なる時間に起きようスケジュールし、使用可能なログ・スペースの競合を最小化する
- ウィザードで推奨される段階的な再分散を使用する

DBA7615N アプリケーションで要求されている 1 つ以上の表が、期待されている定義どおりに定義されていません。

説明: アプリケーションがアクセスしようとしている表が期待されている定義と一致していません。これは、以下の 1 つまたはいくつかの問題が原因である可能性があります。

- 表が存在しない
- 表の列定義が期待されている定義と異なる

ユーザーの処置: 表をドロップして、適切な定義で再作成する必要がある場合があります。ドロップ中にこのエラーが発生した場合は、DROP コマンドの FORCE オプションを指定して表を強制的にドロップすることができます。

DBA7616N 段階的な再分散操作のパーティションの重みが無効です。

説明: パーティションの重みの値は 0 から 32767 の間でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効範囲内の整数を入力して、再試行してください。

DBA7617N 1 つ以上の入力パラメーターが、ルーチンで期待されている有効な値を含んでいません。

説明: これは、以下の 1 つまたはいくつかの問題が原因である可能性があります。

- 数値パラメーターが期待されている範囲内でない
- パラメーターで参照されているオブジェクトが存在しない

ユーザーの処置: 入力パラメーターをルーチン指定と比べて検査して、再試行してください。

DBA7618W インスタンス *instance-name* にあるすべてのデータベースがカタログされていることを確認してください。

説明: パーティションをインスタンスに追加する場合、すべてのデータベースのすべての TEMPORARY 表スペースが、新しいパーティション上の新しいコンテナを使って変更されている必要があります。データベースは、その TEMPORARY 表スペースを検出するために、「パーティションの追加」ウィザードのインスタンス上にカタログされている必要があります。

ユーザーの処置: 「パーティションの追加」ウィザードの 1 ページ目で、データベースのリストを検討してください。

欠落しているデータベースがある場合は、以下のことを実行してください。

1. ウィザードをクローズする。
2. 「パーティションの追加」ランチパッドをクローズする。
3. 欠落しているデータベースを、コントロール・センターの「データベース」フォルダーに追加する。

実際には存在していないデータベースがインスタンスにリストされている場合は、コントロール・センターの「データベース」フォルダーからそのデータベースを除去してください。

DBA7619W インスタンス *instance-name* にあるすべてのデータベースがカタログされていることを確認してください。

説明: インスタンスからパーティションをドロップする場合は、すべてのデータベースのすべてのデータを、影響のあるパーティションからドロップする必要があります。データベースは、そのデータベース・パーティション・グループを検出するために、「パーティションの追加」ウィザードのインスタンス上にカタログされている必要があります。

ユーザーの処置: 「データベース・パーティション・グループからデータベース・パーティションをドロップ」ウィンドウで、データベースのリストを検討してください。

欠落しているデータベースがある場合は、以下のことを実行してください。

1. ウィンドウをクローズする。
2. 「パーティションのドロップ」ランチパッドをクローズする。
3. 欠落しているデータベースを、コントロール・センターの「データベース」フォルダーに追加する。

実際には存在していないデータベースがインスタンスにリストされている場合は、コントロール・センターの「データベース」フォルダーからそのデータベースを除去してください。

DBA7620N 指定された表に対してパーティション・キーが定義されていません。

説明: パーティション・キーは、データの特定期行を保管するパーティションを決定するために使用される列 (または列のグループ) です。パーティション・キーを持たない表は、単一パーティションのデータベース・パーティション・グループでしか許可されません。パーティション・キーがないと、データ分散ファイルを生成できず、またデータ分散分析を実行できません。

ユーザーの処置: パーティション・キーは、ALTER TABLE ステートメントを使用してドロップすることができます。パーティション・キーの変更は、表スペースが単一パーティションのデータベース・パーティション・グループと関連した表にのみ実行できます。

DBA7621W 1 つのパーティションから多くのパーティションへパーティション・キーを再配分する前に、表にこれらのキーが必要です。1 つのパーティションから多くのパーティションへ移動する前に、データベースの設計を検討してください。

説明: パーティション・キーは、データベース・パーティションの集合にまたがる表のデータをパーティションで区切るために必要です。

パーティション・キーを持たない表は、単一パーティションのデータベース・パーティション・グループでしか許可されません。

ユーザーの処置: 「表の変更」ノートブックを使用して、パーティションに区切られるすべての表にパーティション・キーを追加してください。

別のデータベース・パーティション・グループを作成することを考慮に入れてください。通常は、小さい方の表が、小さい番号のパーティションに置かれます (1 つしかなくてもこの状態になります)。大きい方の表は、すべてのパーティションまたはパーティションの大半にまたがって分散される必要があります。

DBA7627N スナップショット・データをロードできません。

説明: 選択したスナップショットは、すでに存在しません。

ユーザーの処置: ストレージ管理ツールバーの現行スナップショット・リストから別のスナップショットを選択してください。

スナップショットが他に存在しない場合は、データベース、データベース・パーティション・グループ、または表スペースを右クリックし、「スナップショットのキャプチャー」メニュー・オプションを選択して、新規スナップショットをキャプチャーすることができます。

DBA7628N パーティションのドロップ・タスクは、最後のデータ再配分が完了した後に開始しなければなりません。最後の再配分タスクは *start-date start-time* に開始するようスケジュールされています。

説明: すべてのデータ再配分タスクは、パーティションのドロップ・タスクを実行する前に完了していなければなりません。再配分により、ドロップされるパーティションからデータが移動します。

ユーザーの処置: パーティションのドロップ・タスクの新規開始時刻を選択するか、または単にこれをタスク・センターに保管し、すべての再配分タスクが完了した後

に手動で実行してください。

DBA7630W 次のホストを見つけることができませんで
した: *host-names*

説明: これらのホスト名がネットワークで見つからないと、パーティションの追加は失敗します。このパーティションの追加タスクの実行がスケジュールされているときに、指定されたホスト名が既存のシステムを参照している必要があります。

ユーザーの処置: リストされているすべてのホスト名が正しいことをチェックしてください。タスクを実行するようスケジュールされているときに、指定されたホスト名が存在することを確認してください。

DBA7631W このタスクが実行されるときに、インスタンス *instance-name* は停止され、再始動されます。

説明: 実行されるスクリプトには、以下のコマンドが含まれています。

```
db2stop force  
db2start
```

これにより、データベース・インスタンスは停止され、すべての接続アプリケーションへのアクセスが拒否されます。インスタンスの再始動時に、このインスタンスのすべてのデータベースが使用可能ではなくなります。

ユーザーの処置: スケジュールされた時刻にインスタンスを再始動したり、異なる時刻にタスクを実行するようスケジュールしたり、あるいはタスクをタスク・センターに保管して後で実行したりする場合には、このタスクを実行します。

DBA7632N データベース・パーティション *database-partitions* を次のデータベース・パーティション・グループ *partition-groups* から除去することができません。

説明: すべてのデータベース・パーティション・グループに少なくとも 1 つのデータベース・パーティションがなければなりません。

ユーザーの処置: データベース・パーティション・グループを変更するときに、データベース・パーティション・グループに少なくとも 1 つのデータベース・パーティションを保持する必要があります。データベース・パーティション・グループにデータベース・パーティションを持たせたくない場合は、データベース・パーティション・グループをドロップする必要があります。既存のデータは失われてしまいます。

DBA7633N パーティションが 1 つまたは複数のデータベースのカタログ・パーティションであるため、パーティション *partition-names* をドロップできません。

説明: まず関連のデータベースをドロップしないと、カタログ・パーティションをドロップすることはできません。Windows システムでは、パーティション 0 をドロップできません。

ユーザーの処置: インスタンスからドロップする、またはパーティションのドロップの前にドロップしようとしているカタログ・パーティションについてデータベースをドロップするには、1 つまたは複数の他のパーティションを選択してください。

DBA7634N コンテナ名 *container-name* が無効です。

説明: コンテナ・タイプがディレクトリーかファイルである場合、コンテナ名は有効なパスである必要があります。コンテナ・タイプがロー・デバイスである場合、コンテナ名は有効なロー・デバイスである必要があります。

ユーザーの処置: コンテナ名を有効なパスまたはロー・デバイスに再定義して変更するか、または新規のコンテナを追加してから無効なコンテナを除去してください。

DBA7666W 直前に選択されたデータベース・パーティションに対して構成変更が行われました。
この変更を保管しますか?

説明: 別のデータベース・パーティションが選択されましたが、直前に選択されたデータベース・パーティションの変更が保管されていません。

ユーザーの処置: 「はい」をクリックすると、次のデータベース・パーティションの構成パラメーター値を取得して、直前に選択されたデータベース・パーティションに対して指定された変更を保管します。

「いいえ」をクリックすると、次のデータベース・パーティションの構成パラメーター値を取得して、直前に選択されたデータベース・パーティションに対して指定された変更を廃棄します。

「キャンセル」をクリックすると、直前に選択したデータベース・パーティションの構成パラメーター値に戻ります。

DBA7900N **SYSPROC.ALTOBJ** ストアド・プロシ
ャーの入力パラメーター *parameter*
が無効です。

説明: 無効なパラメーター値が指定されました。

ユーザーの処置: 以下の有効なパラメーター値を指定して、ストアド・プロシジャー呼び出しを再発行してください。

- パラメーター 1 (IN)、execModeName。以下の 6 つの値のうちの 1 つを選択します。
「GENERATE」、「VALIDATE」、
「APPLY_CONTINUE_ON_ERROR」、
「APPLY_STOP_ON_ERROR」、
「UNDO」、および「FINISH」。
- パラメーター 2 (IN)、sqlStmt。有効な CREATE TABLE DDL が予期されます。
- パラメーター 3 (IN/OUT)、alterId。先に変更プランと ID が生成されていない場合は -1 を使用し、既存のプランに従う場合は先に生成された整数 ID を使用します。
- パラメーター 4 (OUT)、msg。呼び出しステートメントの中で ? を使用します。

DBA7901W 列 *column name* をソース・タイプ *source type* からターゲット・タイプ *target type* にトランスフォームするよう要求が出されました。しかし、使用可能なデフォルトの **cast** 関数がありません。

説明: ストアド・プロシジャーは、システム定義のスカラ関数を使って、表の中の既存のデータを、ソース・タイプからターゲット・タイプにトランスフォームしようとします。要求されたデータ・タイプのトランスフォーメーションを実行できる、システム定義の列関数がありません。データをトランスフォームするための UDF を作成するようにします。さもないと、既存のデータを新しい表にトランスフォームすることはできません。

ユーザーの処置: データをターゲット・タイプにトランスフォームできる列関数がある場合は、次のステートメントで SYSTOOL.ALTOBJ_INFO 表を更新します。

```
UPDATE SYSTOOLS.ALTOBJ_INFO_V  
SET SQL_STMT='edited SELECT statement'  
WHERE ALTER_ID='<alterId>'  
AND SQL_OPERATION='SELECT'  
AND EXEC_MODE LIKE '_1____'
```

あるいは、3 番目のパラメーターを、データ・トランスフォーメーションに使用可能なシステム定義の列関数の

ある、ターゲット列タイプに変更します。それから、新しい入力を使ってストアド・プロシジャーを再度呼び出します。

DBA7902N 変更される表には、**SYSPROC.ALTOBJ** ストアド・プロシジャーのサポートしていない列データ・タイプが最低 1 つ含まれています。

説明: DATALINK タイプ、構造化タイプ UDT、および参照タイプ UDT はサポートされていません。SYSPROC.ALTOBJ ストアド・プロシジャーは、未サポートの列データ・タイプを含んだ表を変更するために使用することができません。

ユーザーの処置: 未サポートの列データ・タイプを含んだ表を変更しようとししないでください。

DBA7903N 表タイプが **SYSPROC.ALTOBJ** ストアド・プロシジャーでサポートされていません。

説明: 以下のタイプの表は SYSPROC.ALTOBJ を使って変更することができません。

- マテリアライズ照会表
- タイプ表 (何らかの既存の参照列の有効範囲となっている表)
- ニックネームで参照されるリモート表

ユーザーの処置: その表を SYSPROC.ALTOBJ ストアド・プロシジャーで変更しようとししないでください。

DBA7904N ユーザーには *authority name* 権限がありませんが、**SYSPROC.ALTOBJ** ストアド・プロシジャーを実行するにはこの権限が必要です。

説明: SYSPROC.ALTOBJ ストアド・プロシジャーを実行するには、DBADM 権限と LOAD 権限が両方必要です。

ユーザーの処置: 必要な権限を取得してから、ストアド・プロシジャーを実行してください。

DBA7905N 列のドロップのアクションを、列の追加または名前変更と同時に実行することはできません。

説明: 既存の列をドロップするときには、既存の列とその新しい定義を突き合わせるために列名が使用されません。列を追加または名前変更するときには、既存の列と新しい列を突き合わせるために列索引が使用されます。

ユーザーの処置: 列のドロップ操作は、列の追加または

名前変更操作と別個に試行しなければなりません、列の追加と名前変更を同時に実行することは可能です。変更を使用して、既存の列のシーケンスを変更することはできません。

複数のタイプの変更操作を実行することが必要な場合は、SYSPROC.ALTOBJ を複数回呼び出す必要があります。互換性のある変更操作グループごとに、異なる DDL を使用して 1 回ずつ呼び出します。

DBA7906N 変更プロセスのために生成された SQL ステートメントの数が、予想される限界を超過しています。

説明: これが生じる可能性があるのは、表に関係するオブジェクト (トリガー、別名、ビュー、SQL ストアード・プロシージャ、およびマテリアライズ照会表など) を多数変更する場合です。

ユーザーの処置: 指定の表を変更するために SYSPROC.ALTOBJ ストアード・プロシージャを使用することはできません。

DBA7907W 変更プロセスはエラーを出して完了しました。

説明: この警告が出される可能性があるのは、変更された列に依存する表の関連オブジェクトがある場合、既存のデータをターゲット・データ・タイプにトランスフォームできない場合、あるいは既存のデータが新しい制約に適合しない場合です。

ユーザーの処置: 関連オブジェクトを再作成できるよう、次のパラメーター入力を指定して SYSPROC.ALTOBJ ストアード・プロシージャを使用します。

```
CALL SYSPROC.ALTOBJ('UNDO', CAST
  (NULL AS VARCHAR(2)), alterID, ?)
```

あるいは、SYSTOOLS.ALTOBJ_INFO_V でエラーを調べ、実行時エラーの原因となった SQL ステートメントを更新し、APPLY モードでストアード・プロシージャを再度実行します。

DBA7908E *subsystem-name* のストアード・プロシージャのセットがインストールされていないため、一部の関数が使用不可です。以下のストアード・プロシージャが欠落している可能性があります:
stored-procedures。

説明: コントロール・センターは、以下のいずれかを実行できませんでした。

- SYSPROC.DSNUTILS を呼び出して、インストール済みのユーティリティを判別する。

- SYSPROC.DSNWZP を呼び出して、サブシステムのパラメーターを検索する。
- OS/390 Enablement ストアード・プロシージャのうち最低 1 つを見つける。

ユーザーの処置: OS/390 Enablement ストアード・プロシージャ、および DB2 ストアード・プロシージャ DSSNWZP と DSNUTILS をインストールし、活動化のステップが実行されたことを確認してください。詳しくは「DB2 management Clients Program Directory」を参照してください。

DBA8000E 許容される接尾部 ID の最大数に達したため、新しいポリシー ID を生成することができません。

説明: 各ポリシーには内部生成された ID があります。ID は接頭部と接尾部からなります。接頭部はサブシステムの ID で、接尾部は 000 から 999 までの数字です。許容される接尾部 ID の最大数に達したため、「オブジェクト保守 (Object Maintenance)」ウィザードは新しいポリシー ID の生成に失敗しました。

ユーザーの処置: 「ポリシーのリスト」ダイアログを開いて、不要になったポリシーを除去してから、新しいポリシーを再度作成してみてください。

DBA8001E ウィザードの初期化中にエラーが検出されました。

ユーザーの処置: データ・セットを読み取るようにとの DB2 Administration Server 要求の実行中にエラーが検出されたため、ウィザードの一部のページは初期化されませんでした。

ユーザーの処置: 追加情報については「DB2 Administration Server」の「First Failure Data Capture Log」を参照してください。

第 8 章 DBI メッセージ

このセクションでは、DB2 製品のインストールおよび構成時に生成される可能性のあるエラー・メッセージについて説明します。メッセージは番号順にリストされています。

DBI1001I 使用法 :

```
db2icrt [-a AuthType]
         [-p PortName]
         [-s InstType]
         [-w WordWidth]
         -u FencedID InstName
```

説明: db2icrt コマンドに無効な引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

-a AuthType

インスタンスの認証タイプ (SERVER、CLIENT、または SERVER_ENCRYPT)

-p PortName

このインスタンスで使用されるポート名あるいはポート番号

-s InstType

作成されるインスタンスのタイプ (wse、ese、あるいは client)

-u FencedID

fenced UDF および fenced ストアード・プロシージャが実行されるシステム下のユーザー名 DB2 クライアントのみがインストールされている場合はこのフラグは不要です。

-w WordWidth

作成されるインスタンスの幅 (ビット単位 :31、32、または 64)。これを機能させるためには、DB2 の前提条件バージョン (31 ビット、32 ビット、または 64 ビット) がインストールされていることが必要です。幅のデフォルト値は、現行バージョンの DB2、プラットフォーム、およびインスタンス・タイプでサポートされているビット幅の最小値です。

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: このコマンドの詳しい説明については、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

ださい。構文を訂正してからコマンドを再発行してください。

DBI1002I 使用法 :

```
db2uit [-d] [-Q] [-D]
        [-q <field>]
        [-i <id>]
        [-a <action>]
        [-r <runlevels>]
        [-p <process>]
```

説明: 無効な引き数が db2uit コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-d デバッグ・モードをオンにする

-q 検索パラメーターを指定してフィールドを照会する。-q が指定されていない場合 (-i ID がすでに指定されている場合には) 更新、または挿入になります。有効フィールド: i、r、a、p

-i 項目の ID

-r 実行レベル

-a 実行するアクション

-p 立ち上げる処理

-Q 静止: 出力なし

-D レコードの削除

FileName

変更するファイル

戻りコード:

-q 一致するフィールドがなければ非ゼロ、あればゼロ。

update/insert

ファイルを更新できなかった場合は非ゼロ。それ以外はゼロ。

ユーザーの処置: このコマンドに関する詳細については、「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。このコマンドをやり直してください。

DBI1003I 使用法 :

dlfmcrct [-b BackupDir]
-p PortName
-g DLFMGid
DLFMAdmin

説明: 無効な引き数が dlfmcrct コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用情報を表示する
- p** このインスタンスで使用されるポート名あるいはポート番号
- b** BackupDir は、dlfm データベースのバックアップを作成するために使用されるディレクトリーです。
- g DLFMGid**
DLFM 管理グループ (このグループは DLFMAdmin の 2 次グループでなければなりません)

DLFMAdmin

DB2 Data Links Manager 管理者の名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

dlfmcrct -p PortNum -g DLFMGid DLFMAdmin

DBI1005I 使用法 :

db2idrop InstName

説明: 間違った引き数が db2idrop コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用法情報を表示する
- d** デバッグ・モードをオンにする

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

db2idrop InstName

DBI1006I 使用法 :

db2idrop [-f] InstName

説明: 間違った引き数が db2idrop コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用情報を表示する
- d** デバッグ・モードをオンにする
- f** 強制アプリケーション・フラグこのフラグが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

db2idrop [-f] InstName

DBI1007I 使用法 :

dlfmdrop DLFMAdmin

説明: 無効な引き数が dlfmdrop コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用情報を表示する

DLFMAdmin

DB2 Data Links Manager 管理者の名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

dlfmdrop DLFMAdmin

DBI1008E インストールするメディアと AIX のバージョンが一致しません。

説明: AIX に DB2 64 ビットをインストールするには、AIX バージョン 4 および AIX バージョン 5 の CD が必要です。

db2setup は、ご使用のシステムが AIX バージョン 5 を実行していることを検出しましたが、AIX バージョン 4 用の DB2 CD からインストールしています。

ユーザーの処置: AIX バージョン 5 用の DB2 CD を挿入して、インストールをやり直してください。

DBI1009E インストールするメディアと AIX のバージョンが一致しません。

説明: AIX に DB2 64 ビットをインストールするには、AIX バージョン 4 および AIX バージョン 5 の CD が必要です。

db2setup は、ご使用のシステムが AIX バージョン 4 を実行していることを検出しましたが、AIX バージョン 5 用の DB2 CD からインストールしています。

ユーザーの処置: AIX バージョン 4 用の DB2 CD を挿入して、インストールをやり直してください。

DBI1011I 使用法 :

**db2iupdt [-hl-?] [-d] [-k] [-s] [-D]
[-a AuthType]
[-w WordWidth]
[-u FencedID]
[-eInstName]**

説明: 間違った引き数が db2iupdt コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用法情報を表示する
- d** デバッグ・モードをオンにする
- k** 更新中の現行インスタンス・タイプを保持する
- s** 既存の SPM ログ・ディレクトリーを無視する
- D** 現在のコード・レベルより低いコードにインスタンスを更新する。このオプションは、複数のフィックスバック環境でのみ有効です。

-a AuthType

インスタンスの認証タイプ (SERVER、CLIENT、DCS、SERVER_ENCRYPT、または DCS_ENCRYPT)。デフォルトは SERVER です。

-w WordWidth

作成されるインスタンスの幅 (ビット単位 :31、32、または 64)。-e が指定されている場合は無視されます。適切な幅を選択するには、DB2 の前提条件バージョン (31 ビット、32 ビット、または 64 ビット) がインストールされていなければなりません。幅のデフォルト値は、現行バージョンの DB2、プラットフォーム、およびインスタンス・タイプでサポートされているビット幅の最小値です。デフォルト値は、更新するインスタンスと同じです。

-u FencedID

fenced UDF および fenced ストアード・プロシージャが実行されるシステム下のユーザー名 DB2 クライアントのみがインストールされている場合はこのフラグは不要です。

- e** すべてのインスタンスが更新されるよう指定します。

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: 正しいオプションおよび引き数でコマンドを再入力してください。

DBI1012I 使用法 :

**db2iupdt [-f] -u FencedID
InstName**

説明: 間違った引き数が db2iupdt コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用法情報を表示する
- d** デバッグ・モードをオンにする
- f** 強制アプリケーション・フラグこのフラグが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

-u FencedID

fenced UDF および fenced ストアード・プロシージャが実行されるシステム下のユーザー名 DB2 クライアントのみがインストールされている場合はこのフラグは不要です。

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

db2iupdt [-f] -u FencedID InstName

DBI1013I 使用法 :

dlfmupdt [-hl-?] DLFMAdmin

説明: 無効な引き数が dlfmupdt コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用法情報を表示する

DLFMAdmin

DB2 Data Links Manager 管理者の名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

dlfmupdt [-hl-?] DLFMAdmin

DBI1014E 32 ビットへのインスタンス移行はサポートされていません。

説明: 64 ビットから 32 ビットへの移行は、このバージョンではサポートされていません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1015I **使用法 :**

**db2imigr [-a AuthType]
 -u FencedID
 -g DFLMGid
 InstName**

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用法情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

-a AuthType

インスタンスの認証タイプ (SERVER、CLIENT、または SERVER_ENCRYPT)

-u FencedID

fenced UDF および fenced ストアード・プロシージャが実行されるシステム下のユーザー名 DB2 クライアントのみがインストールされている場合はこのフラグは不要です。

-g DFLMGid

DLFM インスタンスのバージョン 7 またはそれ以前のバージョンを移行する場合、指定が必要

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: このコマンドに関する詳細については、「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。次のようにコマンドを入力し直してください。

db2imigr [-a AuthType]
 -u FencedID InstName

DBI1018I **使用法 :**

**db2istop [-hl-?] [-d]
 [-f] InstName**

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用法情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

-f 強制アプリケーション・フラグこのフラグが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

db2istop [-hl-?] [-d] [-f] InstName

DBI1020I **使用法 :**

**db2setup [-hl-?] [-d]
 [-r RespFile]**

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

-r RespFile

DB2 のインストールに使用される応答ファイルの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

db2setup [-hl-?] [-d] [-r RespFile]

DBI1021I **使用法 :**

**db2imigrev [-hl-?] [-m Version]
 InstName**

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

-m DB2 のバージョンを指定します。

バージョン

逆方向へ移行されるインスタンスのバージョンです。

InstName

DB2 のバージョン 8 から以前のバージョンに移行されるインスタンスの名前。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

db2imigrev [-hl-?] InstName

DBI1022I **使用法 :**

**db2imigrev [-hl-?]
 [-f] InstName**

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用法情報を表示する
- d** デバッグ・モードをオンにする
- f** 強制アプリケーション・フラグこのフラグが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

InstName

DB2 のバージョン 8 から以前のバージョンに移行されるインスタンスの名前。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2imigrev [-hl-?] [-f] InstName
```

DBI1023I 使用法 :

```
db2ginfo [-hl-?] [-y]
          [-c InstName]
          [-a AuthType]
          [-u FencedID]]
          OutputDir
```

説明: db2ginfo コマンドに無効な引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用法を表示する
- y** スクリプト表示 (警告を表示するのみ)。
- c InstName**
テストするインスタンスの指定。
- a AuthType**
認証タイプ (SERVER、CLIENT、または SERVER_ENCRYPT) を指定。
- u FencedID**
fenced ユーザー ID を指定する

OutputDir

出力ファイル dbginfo.txt が置かれるディレクトリ。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2ginfo [-hl-?] [-y]
          [-c InstName [-a AuthType]
          [-u FencedID]] OutputDir
```

DBI1024I 使用法 :

```
db2iauto [-hl-?] -onl-off
          InstName
```

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用法情報を表示する
- onl-off**
インスタンスの自動開始を使用可能/使用不可にする

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2iauto [-hl-?] -onl-off InstName
```

DBI1025I 使用法 :

```
dasrcrt [-d] -u ASUser
```

説明: dasrcrt コマンドに対して無効な引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- d** DB2 サービスで使用するために、デバッグ・モードに入る
- u ASUser**
DAS の実行に使用するユーザー

ユーザーの処置: このコマンドに関する詳細については、「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dasrcrt -u ASUser
```

DBI1026I 使用法 :

```
dlfmsmd [-hl-?] [-j] dlfsMntPt
```

説明: dlfmsmd コマンドに無効な引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用情報を表示する
- j** 名前付きファイル・システムを dlfs から jfs (AIX) または ufs (Solaris オペレーティング環境) に変更する

dlfsMntPt

Data Links Manager フィルター・ファイル・システムのマウント・ポイント (スラッシュ / も含む)

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dlfsmfsm dlfsmntpt
```

DBI1027I 使用法 :

dasdrop [-d]

説明: dasdrop コマンドに対して無効な引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-d DB2 サービスで使用するために、デバッグ・モードに入る

ユーザーの処置: このコマンドに関する詳細については、「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dasdrop
```

DBI1028I 使用法 :

dasupdt [-d]

説明: dasupdt コマンドに無効な引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-d DB2 サービスで使用するために、デバッグ・モードに入る

ユーザーの処置: このコマンドに関する詳細については、「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dasupdt
```

DBI1029I 使用法 :

db2nqadm [start|stop]

説明: 無効な引き数が db2nqadm コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

```
start      すべての NetQ サービスおよびデー  
           モンを開始する  
stop       すべての NetQ サービスおよびデー  
           モンを停止する
```

いずれかの引き数を指定してください。

ユーザーの処置: 正しい引き数で、コマンドを再入力してください。

DBI1030E カーネル・パラメーター *name* は *value* に設定してください。

説明: DB2 ではある特定のカーネル・パラメーターを更新する必要があります。

ユーザーの処置:

- 「概説およびインストール」マニュアルの記述どおりに、必要なすべてのカーネル・パラメーターを更新します。
- システムをリブートします。
- このコマンドを再度試行します。

DBI1031E 選択した製品をインストールするには、**まず DB2 UDB Workgroup Server Edition または DB2 UDB Enterprise Server Edition のいずれかをインストールしなければなりません。**

ユーザーの処置:

- DB2 UDB Workgroup Server Edition または DB2 UDB Enterprise Server Edition のいずれかをインストールしてください。
- 製品をもう一度インストールしてください。

DBI1032E 選択した製品は、バージョン 4.3 未満の **AIX** にはインストールできません。

説明: 選択した DB2 製品には、バージョン 4.3 以上の **AIX** が必要です。

DBI1033E 選択した製品には、**DB2 Enterprise Server Edition** を最初にインストールする必要があります。

ユーザーの処置:

- いずれかの DB2 UDB Enterprise Server Edition をインストールしてください。
- 製品をもう一度インストールしてください。

DBI1034W 前提条件パッケージが見つかりません。

説明: パッケージ “<pkg-name>” のいずれかをインストールしよう選択しましたが、インストールされている “<pkg-name>” ファイル・セットのレベルが “<name>” よりも低くなっているか、またはこれを削除できません。

ユーザーの処置: “<pkg-name>” ファイル・セットがバ

ージョン “<name>” またはそれ以上であることを確認してください。

“<pkg-name>” のレベルは DB2 のインストールに影響を与えません。

DBI1035E ファイル・システム *File-System* のマウントに失敗しました。

説明: 示されているファイル・システムをマウントしようとしたが、失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル・システムが定義されていることを確認してください。マウント・コマンドのエラーを訂正して、やり直してください。

DBI1036E ファイル・システム *File-System* のアンマウントに失敗しました。

説明: 示されているファイル・システムをアンマウントしようとしたが、失敗しました。

ユーザーの処置: アンマウント・コマンドのエラーを訂正して、やり直してください。

DBI1037E ファイル・システム *File-System* は存在しません。

説明: 示されているファイル・システムは、このワークステーションに定義されていません。

ユーザーの処置: ワークステーションにファイル・システムを定義して、やり直してください。

DBI1038E ファイル・システム *File-System* を変更できません。

ユーザーの処置: ファイル・システム定義を備えたシステム・ファイルへの書き込み許可があるかどうか確認して、やり直してください。

DBI1039W 前提条件パッケージが見つかりません。

説明: パッケージ: “<name>” のいずれかをインストールするよう選択しましたが、“<name>” ファイル・セットのレベルが “<name>” よりも低くなっています。

ユーザーの処置: CD で提供されている “<name>” ファイル・セット・バージョン “<name>” をインストールしてください。

DBI1040I 次のメッセージの翻訳バージョンはこのシステムでは使用できません。

ユーザーの処置: 次のメッセージの翻訳バージョンはこのシステムでは使用できません。

PRODDIR/Readme/LOCALE ディレクトリーの「インス

トール・ノート」ファイルを参照してください。
PRODDIR は製品のディレクトリーで LOCALE はロケール名です。たとえば、製品ディレクトリーは次のものがあります。

/usr/opt/db2_08_xx、ここで xx は 01 または FPn、ここで n はフィックスバック番号
または /opt/IBM/db2/V8.x、ここで x は 1 または FPn、ここで n はフィックスバック番号

DBI1041E ファイル・システム *inputMntPt* を *dlfs* に変換できません。

説明: ファイル・システム “/”、“/var”、“/usr”、および “/tmp” を *dlfs* ファイル・システムに変換できません。これは、*dlfs* ファイル・システムを作成すると起きるおそれのあるブート問題が起きないようにするための措置です。

ユーザーの処置: 別のファイル・システムを指定してコマンドをもう一度実行してください。

DBI1042E 基本ファイル・システム *BaseFS* を *dlfs* に変更できません。

説明: Aix では、*vfs* が *fsm* または *jfs* の場合のみ、ファイル・システムを *dlfs* に変更できます。他の *vfs* では *dlfs* はサポートされません。

ユーザーの処置: *jfs* または *fsm* ファイル・システムでコマンドをもう一度実行してください。

DBI1043E 選択した製品の場合、最初に **DB2 Administration Client** をインストールする必要があります。

ユーザーの処置:

- DB2 Administration Client をインストールしてください。
- 製品をもう一度インストールしてください。

DBI1050E サポートされていないオペレーティング・システム - *OS-name*、バージョン *OS-ver*。

説明: 現行のオペレーティング・システムがサポートされていないか、あるいはオペレーティング・システムのこのバージョンがサポートされていません。「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。

DBI1051E このプログラムを **root** で実行することはできません。

説明: このプログラムは **root** 以外のユーザー ID でのみ実行できます。

ユーザーの処置: **root** 以外のユーザー ID でログインしてから、コマンドを再発行してください。

DBI1052E このプログラムを実行するには **root** である必要があります。

説明: このプログラムは **root** ユーザー ID でのみ実行できます。このプログラムを実行するには特別な特権が必要です。

ユーザーの処置: **root** でログインしてから、コマンドを再発行してください。

DBI1053E *fsys-type* のファイル・システム・タイプはサポートされていません。

説明: このタイプのファイル・システム上にインスタンスのホーム・ディレクトリーを作成することはサポートされていません。インスタンスのホーム・ディレクトリーは、ローカル・ファイル・システムあるいは NFS が取り付けられたファイル・システムに存在する必要があります。

ユーザーの処置: サポートされているファイル・システムにホーム・ディレクトリーを変更してインスタンスの再作成をしてください。

DBI1055E メッセージ・ファイル *file-name* が見つかりません。

説明: インスタンス・コマンドが必要とするメッセージ・ファイルが、システムから失われていますが、これが削除されているか、またはデータベース製品が正しくインストールされていない可能性があります。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルを備えた製品オプションが正しくインストールされているかを調べてください。検証エラーがある場合は、製品オプションを再インストールしてください。

DBI1057E 必須ロケール *locale* が無効です。

説明: 必須ロケールのディレクトリー、*/usr/lib/locale/LANG/LC_MESSAGES* が存在しません。ここで *LANG* は現行ロケール名です。

ユーザーの処置: 指定されたロケールが正しくインストールされたかどうか確認してください。さらに、読み取りと実行の許可がそのディレクトリーに正しく設定されているかチェックしてください。

DBI1060E 無効なパッケージ名 *pkg-name*。

説明: 間違った名前が入力されました。そのパッケージは存在しないか、または名前が間違えて入力されました。

ユーザーの処置: 与えられたパッケージの名前が配布メディアに存在するかどうか確認してください。存在する場合、名前につづりの間違いがないか調べてください。すべてのパッケージ名は大文字でなければなりません。

DBI1061E ファイル・セットまたはパッケージ名 *pkg-name* がありません。

説明: ソフトウェアの前提条件を検証中にエラーが起きました。このコマンドを使用する前に上記のファイル・セットまたはパッケージをインストールする必要があります。

ユーザーの処置: 与えられたパッケージの名前がシステムにインストールされているかどうか確認してください。

DBI1062E ファイル・セットまたはパッケージ名 *pkg-name* がありません。

説明: このコマンドを使用する前に上記のファイル・セットまたはパッケージをインストールする必要があります。

ユーザーの処置: ファイル・セットまたはパッケージをインストールして、コマンドを再発行してください。

DBI1063E PTF またはパッチ *patch-name* がありません。

説明: このコマンドを使用する前に、上記の PTF またはパッチをインストールする必要があります。このコマンドを正常に実行するには、この PTF またはパッチが必要です。

ユーザーの処置: 必要な PTF またはパッチをインストールして、コマンドを再発行してください。

DBI1065E プログラム *program-name* が異常終了しました。

説明: 実行中にエラーが発生し、このプログラムが異常終了しました。

ユーザーの処置: 問題を訂正してコマンドを再試行してください。

DBI1066E プログラム *program-name* は要求によって終了されました。

説明: このプログラムはユーザーによって終了されました。

ユーザーの処置: 同じコマンドを発行しプログラムを再始動してください。

DBI1067E ロケール *locale-name* の DB2 製品ライブラリーはインストールされていません。

説明: DB2DIR/doc/“<locale-name>”/html ディレクトリに、tar 圧縮された HTML ファイルがありません。ここで、

```
DB2DIR = /usr/opt/db2_08_xx、  
ここで xx は 01 または FPn、  
ここで n はフィックスバック番号  
または /opt/IBM/db2/V8.x、  
ここで x は 1 または FPn、  
ここで n はフィックスバック番号
```

ユーザーの処置: 必要なロケールの DB2 製品ライブラリーをインストールして、このコマンドを再発行してください。

DBI1068E ディレクトリー *dir-name* に HTML ファイルのすべてを圧縮解除および **un-tar** するのに十分なスペースがありません。

説明: ファイルシステムがいっぱいなため、圧縮解除および **un-tar** を行った後で、HTML ファイルをすべて上記のディレクトリーに保管できません。

ユーザーの処置: ファイルシステムのサイズを増やすか、またはファイルシステムで十分なディスク・スペースを解放してください。コマンドをもう一度発行してください。

DBI1069E 予期しないエラーです。関数 = *fname*、
戻りコード = *return-code*。

説明: このプログラムの実行中、想定外のエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

- メッセージ番号
- 関数名
- 戻りコード
- 問題記述

DBI1070I プログラム *program-name* は正常に完了しました。

DBI1072I **db2licm** が **nodelock** ファイルを更新できませんでした。詳細情報については、ログ・ファイル *log-name* を参照してください。

説明: **db2licm** が **nodelock** ファイルにライセンスを追加できなかったため、DB2 は製品ライセンスがインストールされるまで試供版のライセンスで実行されます。

ユーザーの処置: コマンドを再実行し、改善しない場合には、**nodelock** ファイルにライセンス・キーを手動で追加してください。ライセンスの詳細情報については、「概説およびインストール」を参照してください。

DBI1079I 出力はログ・ファイル *log-name* に保存されています。

説明: 処理済みの、または失敗したすべての操作は、このログ・ファイルに保管されています。

ユーザーの処置: ログ・ファイルは修正しないでください。このファイルは IBM 技術サポートが参照するためのものです。

DBI1080E ディスクがいっぱいです。*dir-name* には少なくとも **KB KB** が必要ですが、使用可能なスペースは **KB KB** しかありません。

説明: ファイル・システムあるいはディレクトリーに十分なフリー・スペースがありません。

ユーザーの処置: ディスク・スペースを開放してコマンドを再実行してください。

DBI1081E ファイルまたはディレクトリー *file-name* がありません。

説明: このコマンドの処理に必要なファイルまたはディレクトリーがありません。

ユーザーの処置: ファイルがいずれかのデータベース製品に属するものである場合は、その製品が正しくインストールされているかどうかを調べて、必要であればその製品を再インストールしてください。ファイルがインスタンスに属するものである場合は、そのインスタンスがすでに除去されているか、または壊れている可能性があります。

与えられたディレクトリーの名前がシステムに存在しているかどうか確認してください。存在する場合、名前につづりの間違いがないか調べてください。UNIX のどのファイルおよびディレクトリーの名前でも、大文字小

文字が区別されることに注意してください。

DBI1082E ファイルまたはディレクトリー *file-name* がすでに存在しています。

説明: コマンドが作成すべきファイルまたはディレクトリーが、すでに存在しています。

ユーザーの処置: 示されたファイルまたはディレクトリーを調べてください。前にコマンドが正常に完了した結果としてファイルまたはディレクトリーが存在する場合は、処置は必要ありません。そうでない場合は、コマンドを再発行する前に、示されたファイルまたはディレクトリーを名前変更または除去する必要があります。

DBI1083E *file-name* を除去しようとしたことが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーの削除中にエラーが発生しました。これはこのファイルまたはディレクトリーの所有権が不適当である可能性があります。

ユーザーの処置: 示されたファイルまたはディレクトリーのファイル許可または所有権を調整して、コマンドを再発行してください。

DBI1084E *file-name* を作成しようとしたことが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーの作成中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイル・システムに十分なスペースがあること、また必要なディレクトリーに対して書き込み許可があることを確かめてください。推奨ディレクトリー許可は `u=rwx,go=rx` です。

DBI1085E ファイルまたはディレクトリー *file-name* を *file-name* へ移動しようとしたことが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーの再配置中にエラーが発生しました。コマンドは正常に処理できませんでした。

ユーザーの処置: 示されたファイルまたはディレクトリーが移動できなかった理由を判別して、コマンドを再発行してください。

DBI1086E ファイルまたはディレクトリー *file-name* を *file-name* へコピーしようとしたことが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーのコピー中にエラーが発生しました。コマンドは正常に処理できませんでした。

ユーザーの処置: 示されたファイルまたはディレクトリーがコピーできなかった理由を判別して、コマンドを再発行してください。

DBI1087E リンク *filename* を作成しようとしたことが、失敗しました。

説明: 与えられたリンクを作成できません。親ディレクトリーの書き込み許可がオフになっているか、あるいはこのファイルまたはディレクトリーと同一の名前がすでに存在していることが考えられます。

ユーザーの処置: 親ディレクトリーの許可をチェックし、インストール処理を再始動してください。推奨ディレクトリー許可は `u=rwx,go=rx` です。

DBI1088E ディレクトリー *directory* で無効なアクセス許可が検出されました。

説明: このエラーが発生する場合、複数の理由がある可能性があります。次の状態のいずれかが発生していると考えられます。

- 与えられた名前がディレクトリー名でない、あるいは読み取りおよび実行許可がない。
- 与えられたディレクトリーは作成できるがアクセスできない。このパスにある親ディレクトリーのいずれかの許可が、正しく設定されていないと考えられます。

ユーザーの処置: 与えられたディレクトリーの許可をチェックし、インストール処理を再始動してください。推奨ディレクトリー許可は `u=rwx,go=rx` です。

DBI1089E *backup-dir* ディレクトリーに現行インスタンス関連情報を保管中のエラーです。

説明: このエラーが発生する場合、複数の理由がある可能性があります。次の状態のいずれかが発生していると考えられます。

- 指定されたディレクトリーに十分な許可がないか、あるいは書き込み許可がありません。
- ファイルシステムに残っているスペースがありません。

ユーザーの処置: 適切な訂正処置を行って、コマンドを再発行してください。

DBI1090E *file-name* の *parameter* を更新しようとしたが、失敗しました。

説明: 提供されたファイルの更新でエラーが発生しました。

ユーザーの処置: “<parameter>” のすべてのオカレンスが “<file-name>” で “<value>” に設定されているか、確認してください。

DBI1091E *directory* に対する許可を変更しようとしたが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーのアクセス権の変更中にエラーが発生しました。これは、このファイルまたはディレクトリーの所有権が不適當である可能性があります。

ユーザーの処置: 与えられたディレクトリーの許可および所有権をチェックし、インストール処理を再始動してください。推奨ディレクトリー許可は `u=rwx,go=rx` です。

DBI1092E *directory* に対する所有権を変更しようとしたが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーの所有権の変更中にエラーが発生しました。これはこのファイルまたはディレクトリーの所有権が不適當である可能性があります。

ユーザーの処置: 与えられたディレクトリーの所有権をチェックし、インストール処理を再始動してください。

DBI1093E *directory* に対するグループ所有権を変更しようとしたが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーのグループ所有権の変更中にエラーが発生しました。これは、このファイルまたはディレクトリーの所有権が不適當である可能性があります。

ユーザーの処置: 与えられたディレクトリーの所有権をチェックし、インストール処理を再始動してください。

DBI1094E ディレクトリー・アクセス・エラーです。

説明: ツールが、ディレクトリー・サーバーでの入出力操作中にアクセス・エラーを見つけました。

ユーザーの処置: ディレクトリー・サーバーがオンラインで、LAN でアクセス可能であることを確認してください。

DBI1095W ファイルまたはディレクトリー *name* が見つかりません。

ユーザーの処置: ファイル/ディレクトリーを提供するファイル・セット/パッケージがインストールされていることを確認してください。

DBI1096E ファイルまたはディレクトリー *file-name* がすでに存在しています。

説明: コマンドが作成すべきファイルまたはディレクトリーが、すでに存在しています。

ユーザーの処置: 示されたファイルまたはディレクトリーを調べてください。このファイルまたはディレクトリーが必要でない場合、除去してコマンドを再実行してください。そうでない場合は、コマンドを再発行する前に、示されたファイルまたはディレクトリーを名前変更または除去する必要があります。

DBI1097E ファイルまたはディレクトリー *file-name* が存在しません。

説明: コマンドが必要なファイルまたはディレクトリーが存在しません。

ユーザーの処置: ファイルまたはディレクトリーが存在しない場合、ファイルまたはディレクトリーを提供するソフトウェアをインストールする必要がある場合があります。ファイルまたはディレクトリーが存在する場合、PATH 変数が正しく設定されているかどうか、チェックしてください。ファイルまたはディレクトリーが PATH に設定されたら、コマンドを再実行してください。

DBI1100E インスタンス・ロックが検出されました。別のインスタンス管理コマンドが実行中です。

説明: 別のインスタンス管理コマンド (たとえば、`db2icrt`、`db2idrop`、`db2iupdt`、または `db2imigr`) が実行中であるため、このコマンドが失敗しました。インスタンス管理コマンドは、排他ロックを獲得しているため、同一インスタンスに対して同時にコマンドを実行することができません。

ユーザーの処置: コマンドを再発行する前に、インスタンス・コマンドの他のすべてのオカレンスの実行が完了するのを待ってください。他のインスタンス・コマンドが実行されていない場合、次のいずれかのディレクトリーで、ファイル “instance.lock” を削除してください。

`/usr/opt/db2_08_xx`、ここで `xx` は 01 または `FPn`、ここで `n` はフィックスパック番号
または `/opt/IBM/db2/V8.x`、ここで `x` は 1 または `FPn`、ここで `n` はフィックスパック番号

DBI1101E インスタンス名が無効です。

説明: インスタンス名は、既存ユーザーのログイン名でなければならず、以下の名前は使用できません。

1. 8 文字より長い名前。
2. “sql”、“ibm” または “sys” で始まる名前。
3. 数字で始まる名前、または a から z、\$、#、@、_、0 から 9 以外の文字を使用した名前。

ユーザーの処置: 有効なインスタンス名を指定して、コマンドを再発行してください。

DBI1102E DAS 名が無効です。

説明: DAS 名は既存ユーザーのログイン名でなければならず、以下のようにはできません。

- 8 文字より長い名前。
- “SYS”、“sys”、“IBM”、“ibm”、“SQL”、または “sql” で始まっている。
- 数字で始まる名前、または a-z、\$、#、@、_、0-9 以外の文字を使用した名前。

ユーザーの処置: 有効な DAS 名を使用して、コマンドを発行してください。

DBI1103E Administration Server はすでに存在しています。

説明: Administration Server がすでにご使用のシステムに作成されていることを検出しました。1 つのシステムに Administration Server は 1 つしか作成できません。

ユーザーの処置: Administration Server を再作成する場合、先に Administration Server をドロップしないと再作成できません。

DBI1104E Administration Server はドロップできません。

説明: Administration Server をドロップしようとして、失敗しました。システムは、Administration Server が存在しないことを検出しました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1105E DB2 Data Links Manager 管理者はすでに存在します。

説明: システムが、DB2 Data Links Manager 管理者がシステムにすでに作成されていることを検出しました。DB2 Data Links Manager 管理者は、システムごとに 1 つしか作成できません。

ユーザーの処置: DB2 Data Links Manager 管理者を再作成したい場合、その前に DB2 Data Links Manager 管

理者をドロップしなければなりません。

DBI1106E DB2 Data Links Manager 管理者をドロップできません。

説明: DB2 Data Links Manager 管理者をドロップしようとしたが、失敗しました。システムが、DB2 Data Links Manager 管理者が存在しないか、または別のユーザー ID で作成されていることを検出しました。

ユーザーの処置: “dlfmlist” コマンドで報告されている DB2 Data Links Manager 管理者の名前が正しいことを確認して、やり直してください。

DBI1107E DB2 Data Links Manager 管理者を作成できません。

説明: DCE によって DB2 Data Links Manager 管理者を作成するには、システム上の DFS がバージョン 3.1 またはそれ以上でなければなりません。

DBI1108E DLFM ユーザー *user* に対して有効なグループ名または数値 *group-name* が指定されていません。

説明: dlfm インスタンスを作成している場合、または DB2 V7 以前から dlfm インスタンスを移行している場合、-g DLFMGid を指定する必要があります。

DLFMGid には、数値のグループ ID かグループ名を指定することができます。そのグループ *group-name* は DLFM ユーザー *user* の 2 次グループ・リストに含まれていなければなりません。

V8 またはそれ以降の dlfm インスタンスを移行するときに、そのインスタンスにすでにセットアップされている DLFMGid と同じでない -g DLFMGid が指定された場合は、指定されたパラメーターは無視されて、古い Gid が使用されます。

Solaris オペレーティング環境で Datalinks を使用している場合、このグループ名は Solaris のカーネルにもなければなりません。この要件については、「Quick Beginnings Guide for Datalinks」を参照してください。

ユーザーの処置: グループ *group-name* を DLFM ユーザー *user* の 2 次グループ・リストに設定し、コマンドを再発行してください。

DBI1109E カーネル・パラメーターはこのコマンドを使用する前に更新される必要があります。

説明: 正しく構成されていないカーネル・パラメーターがあります。

ユーザーの処置:

- 「概説およびインストール」マニュアルの記述どおりに、必要なすべてのカーネル・パラメーターを更新します。
- システムをリブートします。
- このコマンドを再度試行します。

DBI1111E fencedID パラメーターはこのコマンドでは **-u flag** を使用して指定する必要があります。

説明: fencedID パラメーターはこのコマンドを使用して指定する必要があります。fencedID パラメーターは fenced ユーザー定義関数 (UDF) および fenced ストアード・プロシージャが動作するユーザーの名前に設定されます。

ユーザーの処置: 引き数 “-u fencedID” を追加してコマンドを再入力してください。ここで fencedID は fenced UDF あるいは fenced ストアード・プロシージャが動作するユーザーの名前です。

セキュリティ上の理由から、fencedID としてインスタンス名を使用しないことをお勧めします。ただし、ユーザー定義関数 (UDF) あるいはストアード・プロシージャを使用する予定のない場合に、fencedID をインスタンス名に設定すると、fencedID に別のユーザーを作成する手間が省けます。

DBI1112E fencedID パラメーター *fenced-id* は無効です。

説明: fenced ユーザー定義関数およびストアード・プロシージャが実行されるユーザー名を指定する fencedID パラメーターは以下のいずれかにしてください。

- 既存ユーザーのログイン名。
- root または bin ユーザーの設定は不可。

ユーザーの処置: 有効な fencedID パラメーターでこのコマンドを再度試行してください。

DBI1113W fencedID パラメーターの前の値 *old-value* が異なっています。新規の値 *new-value* が無視されます。

説明: コマンド行で入力された fencedID パラメーターはこのユーザー ID の前に使用されたパラメーターと異なります。このパラメーターの新規の値は無視されます。

DBI1115E 無効な AuthType パラメーター *auth-type* が **-a** フラグを付けて指定されました。

説明: インスタンスに使用される認証タイプを指定する AuthType パラメーターが無効です。有効な認証タイプは、次のとおりです。

- SERVER
- CLIENT
- SERVER_ENCRYPT

ユーザーの処置: 有効な AuthType パラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。

DBI1120E インスタンス *inst-name* がドロップできません。

説明: まだアクティブである可能性のあるインスタンスをドロップしようとした。

DBI1121E “db2idrop” を使用して **Administration Server** をドロップできません。

説明: “db2idrop” を使用して Administration Server のドロップをしようとした。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

ユーザーの処置: “dasiidrop” コマンドを使用して Administration Server を除去してください。

DBI1122E インスタンス *inst-name* が更新できません。

説明: インスタンスを更新しようとした。このインスタンスは以下の理由で更新できません。

- この “db2iupdt” コマンドはこのインスタンスを更新するためには使用できない。
- インスタンスがまだアクティブである。

ユーザーの処置: 適切なバージョンの “db2iupdt” コマンドを使用していることを確認してください。また、インスタンスで実行中の db2 処理がないことも確認してください。コマンドを再発行してください。

DBI1123E “db2iupdt” を使用して **Administration Server** を更新できません。

説明: “db2iupdt” を使用して Administration Server の更新をしようとした。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

ユーザーの処置: “dasiupdt” コマンドを使用して Administration Server を更新してください。

DBI1124E インスタンス *inst-name* が移行できません。

説明: インスタンスを移行しようとした。このインスタンスは以下の理由で移行できません。

- インスタンスがまだアクティブである。
- このインスタンスの移行がサポートされていない。
- このバージョンの “db2imigr” がこのインスタンスを移行するためには使用できない。

ユーザーの処置: インスタンスが、移行に使用できて、適切なバージョンの “db2imigr” コマンドを使用しているかを確認してください。インスタンスの移行の詳細については、ご使用のプラットフォームの「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。

DBI1125E “db2idrop” では DB2 Data Links Manager 管理者をドロップできません。

説明: “db2idrop” を使用して DB2 Data Links Manager 管理者をドロップしようとした。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

ユーザーの処置: “dlfmdrop” コマンドを使用して、DB2 Data Links Manager 管理者を除去してください。

DBI1126W 1 つ以上のビューがデータベース移行に影響する可能性があります。

説明: DB2 が、変更されたデータベース・エンティティに從属するビューを見つけました。これは、データベース移行の失敗を引き起こす原因となります。ユーザーの処置については Release.Notes を参照してください。

DBI1128E “dlfmdrop” を使用して Administration Server をドロップできません。

説明: “dlfmdrop” を使用して Administration Server のドロップをしようとした。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

ユーザーの処置: “dasidrop” コマンドを使用して Administration Server を除去してください。

DBI1129E “dlfmupdt” を使用して Administration Server を更新できません。

説明: “dlfmupdt” を使用して Administration Server の更新をしようとした。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

ユーザーの処置: “dasiupdt” コマンドを使用して Administration Server を更新してください。

DBI1131E ユーザー ID *user-id* が無効です。

説明: 与えられたユーザー ID にアクセスしようとして失敗しました。次の状態のいずれかが発生しました。

- このユーザー ID がシステムにない。
- このユーザーのホーム・ディレクトリーが正しく設定されていない。
- DB2 で必要なユーザー属性のいずれかが設定されていない。
- このユーザーの UID が 0 である。

ユーザーの処置: 有効なホーム・ディレクトリーの有効なユーザー ID、シェル、1 次グループ、および 2 次グループが使用されているか、確認してください。必要なら、ユーザーを新規作成してください。

DBI1135E ユーザー ID *user-id* の 1 次グループ *group-name* が無効です。

説明: インスタンス・ユーザー ID の基本グループ名には、以下を使用することはできません。

1. “guest”、“admin”、“user” または “local” のいずれかの名前。
2. “sql” または “ibm” で始まる名前。
3. 数値で始まる名前、あるいは a ~ z、\$, #、@、または 0 ~ 9 以外の文字を使った名前。

ユーザーの処置: インスタンス・ユーザー ID の 1 次グループを有効な名前を持つグループに変更して、コマンドを再発行してください。

DBI1136W OLAP Start Kit がインストールされていません。

説明: 移行しているインスタンスは OLAP 機能を持っています。OLAP Starter Kit は DB2 V8 にはありません。このインスタンスは、-F パラメーターが指定された場合にのみ移行されます。

ユーザーの処置: プログラムが打ち切られた場合は、移行を強制するための -F パラメーターを指定して、同じ db2imigr コマンドを実行してください。OLAP 機能はなくなります。

DBI1137W サーバー製品がインストールされていません。

説明: 移行しているインスタンスはサーバー・インスタンスです。DB2 V8 サーバー製品が検出されていません。このインスタンスは、-F パラメーターが指定された場合にのみ移行されます。

ユーザーの処置: プログラムが打ち切られた場合は、移行を強制するための -F パラメーターを指定して、同じ

db2imigr コマンドを実行してください。DB2 サーバー関数はなくなります。DB2 サーバー製品をインストールし、移行しているインスタンスに対して手動で db2iupdt を実行し、サーバー機能を再度使用可能にする必要があります。

DBI1138W Query Patroller がインストールされていません。

説明: 移行しているインスタンスは Query Patroller 機能を持っています。インストールされている DB2 V8 で、Query Patroller が検出されません。このインスタンスは、-F パラメーターが指定された場合にのみ移行されます。

ユーザーの処置: プログラムが打ち切られた場合は、移行を強制するための -F パラメーターを指定して、同じ db2imigr コマンドを実行してください。Query Patroller は存在しません。Query Patroller for V8 をインストールし、移行しているインスタンスに対して手動で dqprt を実行して、Query Patroller 機能を再度使用可能にする必要があります。

DBI1139E データ・リンク・ファイル・マネージャーがインストールされていません。

説明: 移行しているインスタンスにはデータ・リンク機能があります。インストールされている DB2 V8 で、データ・リンク・ファイル・マネージャーが検出されません。インスタンスは移行されません。

ユーザーの処置: DB2 V8 用のデータ・リンク・ファイル・マネージャーをインストールして、再度コマンドを実行してください。

DBI1140W コマンドが強制されています。上記の警告で示された障害のポイントを超過して、発行されたコマンドを強制するための -F フラグが指定されています。

DBI1141E Visual Warehouse 3.1 のインスタンスが検出されました。Visual Warehouse 3.1 のインスタンスを V8 に移行することはサポートされていません。Visual Warehouse 5.2 またはそれ以上だけを V8 に移行できます。

DBI1142W Visual Warehouse 5.2 のインスタンスが検出されました。インスタンスは移行されますが、ウェアハウスのメタデータは移行されません。

DBI1143W Relational Connect がインストールされていません。

説明: 移行先のバージョンで Relational Connect が検出されませんでした。DB2 および非 DB2 データ・ソース、またはそのいずれかのデータ・ソースの設定ファイルが、移行しているインスタンスで検出されました。この構成は移行されますが、これらの構成パラメーターを使用するには、Relational Connect for DB2 V8 をインストールする必要があります。

ユーザーの処置: 構成パラメーターを使用するために、Relational Connect for DB2 V8 をインストールしてください。

DBI1144E Relational Connect がインストールされていません。

説明: 移行先のバージョンで Relational Connect が検出されませんでした。非 DB2 データ・ソースを持っていることを示す環境変数が検出されました。Relational Connect がインストールされていないと、このインスタンスは移行できません。

ユーザーの処置: Relational Connect をインストールして、コマンドをやり直してください。

DBI1145W 同期点マネージャー (SPM) ログ・ディレクトリがすでにあります。

説明: 同期点マネージャー (SPM) ログ・ディレクトリがすでにあります。SPM の新規バージョンはログの古いバージョンを処理できません。この SPM の新規バージョンを使用する前に、未確定のトランザクションがないかどうか、確認する必要があります。

ユーザーの処置:

- 未確定のトランザクションに関心がない場合、db2iupdt コマンドに -s フラグを付けて実行し、インスタンスを更新して処理を続行します。この結果、sqllib/spmlog50 の下に、sqllib/spmlog ディレクトリのコピーを作成します。
- 未確定のトランザクションの存在に関心がない場合には、DB2 製品を前のバージョンに戻す必要があり、また未確定のトランザクションに関する製品の readme にある指示に従う必要があります。

DBI1150W db2iupdt がこのインスタンスを 64 ビット非サーバー・インスタンスに更新しました。

説明: 64 ビット Express サーバー・インスタンスを作成またはこれに移行することはできません。64 ビットのサーバー・インスタンスを実行するには、Enterprise

Server Edition がインストール済みである必要があります。

ユーザーの処置: サーバー・インスタンスを必要としない場合は、作成された、あるいは移行されたインスタンスを継続して使用することができます。64 ビットのサーバー・インスタンスを使用するには、DB2 UDB V8.1 Enterprise Server Edition をインストールし、次のコマンドを実行してください。

```
db2iupdt -w 64 <instance-name>
```

DBI1151E db2icrt/db2imigr が 64 ビット非サーバー・インスタンスを作成しました。

説明: 64 ビット Express サーバー・インスタンスを作成またはこれに移行することはできません。64 ビットのサーバー・インスタンスを実行するには、Enterprise Server Edition がインストール済みである必要があります。

ユーザーの処置: サーバー・インスタンスを必要としない場合は、作成された、あるいは移行されたインスタンスを継続して使用することができます。64 ビットのサーバー・インスタンスを使用するには、DB2 UDB V8.1 Enterprise Server Edition をインストールし、次のコマンドを実行してください。

```
db2iupdt -w 64 <instance-name>
```

DBI1168W 64 ビット・インスタンスの作成または更新を試行中に、bos.rte.libc のインストール・レベルが 64 ビットのインスタンスの最小要件よりも低いことが検出されました。

説明: bos.rte.libc のインストール・レベルは、64 ビットのインスタンスのサポートに必要な最小レベルの 5.1.0.28 より低くなっています。

ユーザーの処置: 処理を進める前に、APAR IY32466 をダウンロードしてご使用のシステムを更新してください。

APAR のダウンロードに関する情報は <http://www.ibm.com/aix> から使用できます。

警告ポイントを超えて実行を強制するために、-F パラメーターを指定してコマンドを再発行することができます。

DBI1169E DB2 HTML 文書がインストールされていません。

説明: DB2 HTML 文書がインストールされていないか、または検出できません。

DB2 HTML 文書をこのフィックスパックに更新するには、DB2 HTML 文書をインストール済みである必要があります。

ユーザーの処置: DB2 HTML 文書をインストールして、コマンドを再試行してください。

DBI1170E -w フラグに対する入力として可能なのは 31、32、64 だけです。

説明: db2icrt または db2iupdt コマンドを使用している場合、オプション・フラグ -w に指定できるのは値 31、32、または 64 だけです。64 ビット・インスタンスを作成するには、db2icrt に -w 64 と指定します。31 または 32 ビット・インスタンスを 64 ビットに更新するには、db2iupdt に -w 64 と指定します。指定するビット幅は、現行バージョンの DB2、プラットフォーム、およびインスタンス・タイプでサポートされているものでなければなりません。

ユーザーの処置: このコマンドの詳しい説明については、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。構文を訂正してからコマンドを再発行してください。

DBI1171E DB2 64 ビット・サポートはインストールされていません。

説明: 64 はこのプラットフォームでサポートされていないか、暗黙指定になっています。

ユーザーの処置:

- Linux IA64 の場合、64 ビット・インスタンスを作成するために、-w オプションを指定せずにコマンドを再発行してください。
- その他のプラットフォームでは、32 ビット・インスタンスを作成するために、-w 64 オプションを指定せずにコマンドを再発行してください。

DBI1172W 64 ビットのインスタンスを作成または更新しようとしている時に、bos.rte.libc と bos.adt.prof のいずれかまたは両方のインストール済みレベルが、64 ビットのインスタンスに必要な最低要件より低いことがわかりました。

説明: bos.rte.libc と bos.adt.prof のいずれかまたは両方のインストール済みレベルが 4.3.3.50 より低くなっています。このレベルは 64 ビットのインスタンスをサポートするために必要な最低限の要件です。

ユーザーの処置: 処理を進める前に、次の PTF のいずれかまたは両方をダウンロードしてシステムを更新してください。

- bos.rte.libc の場合、PTF は U473728.bff です。
- bos.adt.prof の場合、PTF は U473581.bff です。

PTF のダウンロードに関する情報は
<http://www.ibm.com/aix> から使用できます。

警告ポイントを超えて実行を強制するために、-F パラメーターを指定してコマンドを再発行することができます。

DBI1173W db2iupdt がこのインスタンスを 64 ビット非サーバー・インスタンスに更新しました。

説明: Enterprise Server Edition がインストール済みの場合、32 ビット Workgroup サーバー・インスタンスを 64 ビットのサーバー・インスタンスにのみ更新することができます。

ユーザーの処置: サーバー・インスタンスに更新したくない場合は、更新されたインスタンスを継続して使用することができます。このインスタンスを 32 ビット Workgroup サーバー・インスタンスに戻したい場合は、次のコマンドを実行してください。

```
db2iupdt -w 32 <instance-name>
```

64 ビットのサーバー・インスタンスを使用するには、DB2 バージョン 8 Enterprise Server Edition をインストールし、次のコマンドを実行してください。

```
db2iupt -w 64 <instance-name>
```

DBI1174E db2icrt/db2imigr が 64 ビット非サーバー・インスタンスを作成しました。

説明: 64 ビット Workgroup または Express サーバー・インスタンスを作成またはこれに移行することはできません。64 ビットのサーバー・インスタンスを実行するには、Enterprise Server Edition がインストール済みである必要があります。

ユーザーの処置: サーバー・インスタンスを必要としない場合は、作成された、あるいは移行されたインスタンスを継続して使用することができます。64 ビットのサーバー・インスタンスを使用するには、DB2 V8 Enterprise Server Edition をインストールし、次のコマンドを実行してください。

```
db2iupdt -w 64 <instance-name>
```

DBI1175W 64 ビット・インスタンスの作成または更新を試行中に、Solaris オペレーティング環境のインストール・レベルが 64 ビットの最小要件よりも低いことが検出されました。

説明: Solaris オペレーティング環境のインストール・レベルは、64 ビットのインスタンスのサポートに必要な最小レベルの 5.7 より低くなっています。

ユーザーの処置: 先に進む前に、ご使用のシステムを Solaris オペレーティング環境のを最小必須レベルに更新してください。

警告ポイントを超えて実行を強制するために、-F パラメーターを指定してコマンドを再発行することができます。

DBI1176I 使用法 :

installAltFixPak [-h] [-s]

説明: 誤った引き数が指定されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-h 使用法情報を表示する

-s /usr/opt/db2_08_01 または /opt/IBM/db2/V8.1 にインストールされているのとまったく同じファイル・セット/パッケージを (サポートされている製品の) 代替パスにインストールする。

installAltFixPak が、/usr/opt/db2_08_01 または /opt/IBM/db2/V8.1 に DB2 がインストールされていないことを検出すると、-s オプションは使用されません。この場合は、db2_install ユーティリティを呼び出します。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
installAltFixPak [-h] [-s]
```

DBI1177W インスタンスが現在使用しているレベルより低いコード・レベルにインスタンスを更新します。

説明: 現在インスタンスが使用しているレベルより低いコード・レベルに、インスタンスを更新しようとした。

ユーザーの処置: 現在のレベルよりも低いコード・レベルにインスタンスを更新するには、次のように -D オプションを指定して db2iupdt コマンドを発行してください。

```
db2iupdt -D <instance-name>
```

DBI1178W インスタンスが現在使用しているレベルより低いコード・レベルにインスタンスを更新します。

説明: 現在インスタンスが使用しているレベルより低いコード・レベルに、インスタンスを更新しようとした。

ユーザーの処置: 現在のレベルよりも低いコード・レベルにインスタンスを更新するには、次のように **-D** オプションを指定して **dasupdt** コマンドを発行してください。

dasupdt -D

DBI1179E **Portname** パラメーターを指定した場合、**db2icrt** コマンドを使ってクライアント・インスタンスを作成することはできません。

説明: **PortName** パラメーターは、インバウンド TCP/IP 接続に使用するパラメーターであって、クライアント・インスタンスに用いることはできません。

ユーザーの処置: **PortName** パラメーターを指定しないで **db2icrt** コマンドを再発行してください。

DBI1180E 32 ビット・サーバー・インスタンスはサポートされていません。

説明: 現在のプラットフォームでは、32 ビット・サーバー・インスタンスがサポートされていません。

ユーザーの処置: このプラットフォームでサポートされているインスタンス・タイプについては、「概説およびインストール」のマニュアルを参照してください。

DBI1181E DB2 64 ビット・サポートはインストールされていません。

説明: 64 ビット・インスタンスはこのプラットフォームではサポートされていません。

ユーザーの処置: 先に進む前に、以下のいずれかを行ってください。

- ご使用のシステムを 64 ビット DB2 を実行するの最小必須レベルに更新し、コマンドを再発行します。
- 移行中または更新中のインスタンスをドロップし、32 ビット・インスタンスとして再作成します。

DBI1182W Warehouse Manager Connectors がインストールされていません。

説明: 移行しているインスタンスは Warehouse Manager Connectors 機能を持っています。インストール

されている DB2 V8 で、Warehouse Manager Connectors が検出されませんでした。このインスタンスは、**-F** パラメーターが指定された場合にのみ移行されます。

ユーザーの処置: 移行を強制するための **-F** パラメーターを指定して、**db2imigr** コマンドを再実行してください。Warehouse Manager Connectors はなくなります。Warehouse Manager Connectors 機能を再び使用可能にするには、Warehouse Manager Connectors for V8 をインストールし、移行しているインスタンスで **db2iupdt** を手動で実行する必要があります。

DBI1183W Spatial Extender がインストールされていません。

説明: 移行しているインスタンスは Spatial Extender 機能を持っています。インストールされている DB2 V8 で、Spatial Extender が検出されませんでした。このインスタンスは、**-F** パラメーターが指定された場合にのみ移行されます。

ユーザーの処置: 移行を強制するための **-F** パラメーターを指定して、**db2imigr** コマンドを再実行してください。Spatial Extender はなくなります。Spatial Extender 機能を再び使用可能にするには、Spatial Extender for V8 をインストールし、移行しているインスタンスで **db2iupdt** を手動で実行する必要があります。

DBI1184W Life Sciences Data Connect がインストールされていません。

説明: 移行しているインスタンスは Life Sciences Data Connect 機能を持っています。インストールされている DB2 V8 で、Life Sciences Data Connect が検出されませんでした。このインスタンスは、**-F** パラメーターが指定された場合にのみ移行されます。

ユーザーの処置: 移行を強制するための **-F** パラメーターを指定して、**db2imigr** コマンドを再実行してください。Life Sciences Data Connect はなくなります。Life Sciences Data Connect 機能を再び使用可能にするには、Life Sciences Data Connect for V8 をインストールし、移行しているインスタンスで **db2iupdt** を手動で実行する必要があります。

DBI1185I サーバー・プロトコル *protocol* は、すでにサポートされていません。DB2COMM から除去されました。

DBI1186I 使用法 :

db2cdbcr [-d] -n CDBName

説明: 間違った引き数が **db2cdbcr** コマンドに入力され

ました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用法情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

-n CDBName

CDBName は、作成するウェアハウス・コントロール・データベースの名前です。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2cdbcr -n CDBName
```

DBI1187E DB2 ウェアハウス・コントロール・データベースのセットアップを完了できません。

説明: DB2 ウェアハウス・コントロール・データベースを作成しようとしたのですが、失敗しました。

ユーザーの処置: ノード・グループ (ノード 0 に作成) と表スペース (どちらも FLG32K と呼ばれる) も同様に作成しなければなりません。詳細については DB2 DataWarehouse の資料を参照してください。

DBI1188E 移行は失敗しました。グループ *group-name* が DLFM ユーザー *user-name* の 2 次グループ・リストにありません。

ユーザーの処置: グループ *group-name* を DLFM ユーザー *user-name* の 2 次グループ・リストに設定し、コマンドを再発行してください。

DBI1189E DB2 のインストール先である現在のプラットフォーム *platform* とは異なるプラットフォームのための DB2 インストール・イメージをインストールしようとした。

説明: 可能性のある理由は、以下のとおりです。

- この DB2 インストール・イメージが現在のプラットフォームに対して有効なものではない。
- 現在のプラットフォームが DB2 でサポートされていない。

ユーザーの処置: 現在のプラットフォーム *platform* に対応する DB2 インストール・イメージを使用して、DB2 をインストールしてください。

DBI1190I db2setup が DB2 セットアップ・ウィザードを準備中です。このウィザードがプログラムのセットアップ操作を案内します。お待ちください。

DBI1191I 提供された応答ファイルに従って、db2setup が DB2 をインストールおよび構成しています。お待ちください。

DBI1192I DB2 のインストールが正常に完了しました。 *location* にインストール・ログ **db2setup.log および **db2setup.err** があります。**

DBI1193W DB2 のインストールが完了しましたが、警告が出されました。このコンピューターへのインストール中に小さいエラーが発生しました。一部の機能が正しく動作しない可能性があります。 *location* にインストール・ログ **db2setup.log および **db2setup.err** があります。**

DBI1194E このコンピューターへの DB2 インストール中にエラーが発生しました。インストール作業を続行できません。 *location* にインストール・ログ **db2setup.log および **db2setup.err** があります。**

DBI1200E ディレクトリー *directory-name* が、バージョン *version-number* インスタンスではありません。

説明: 示されたディレクトリーが、データベース製品の必要なバージョンを指していないために、コマンドが処理できません。

ユーザーの処置: 示されたインスタンスでは、コマンドを実行できません。

DBI1202E インスタンス *inst-name* の移行がサポートされていません。

説明: インスタンスは以下の理由で、移行できません。

1. このバージョンのインスタンスからの移行がサポートされていない。
2. インスタンスがすでに製品の現行バージョンを使用していて移行が必要ない。

ユーザーの処置: このインスタンスが移行に対して有効であるか確認して有効なインスタンス名を指定して、コマンドを再試行します。

DBI1205E 新しいバージョンに移行できない 1 つまたは複数のローカル・データベースが検出されました。エラー・リストのログファイル *logfile-name* を調べてください。

説明: 考えられるデータベース上のエラーは以下の通りです。

- バックアップ・ペンディング
- ロールフォワード・ペンディング
- データベースの不整合
- 1 つまたは複数の表スペースは正常な状態でない
- SYSCAT, SYSSTAT, または SYSFUN というスキーマ名を持つデータベース・オブジェクトがデータベースに入っている
- SYSFUN.DIFFERENCES 関数に依存しているデータベース・オブジェクトの入ったデータベース。違反していると考えられるオブジェクトは次のとおりです。
 - 制約
 - 関数
 - トリガー
 - ビュー

ユーザーの処置: ファイル “<logfile-name>” の各データベースに対して、以下の訂正処置を行ってください。

- バックアップ・ペンディング - データベースをバックアップしてください。
- ロールフォワード・ペンディング - ログの終わりでデータベースをロールフォワードし、停止してください。
- データベースの不整合 - 一致した状態に戻すようにデータベースを再始動してください。
- 表スペースが正常な状態でない - データベースをロールフォワードしてください。
- 無効なスキーマ - オブジェクトをドロップし、正しいスキーマ名 (修飾子) でオブジェクトを再作成してください。オブジェクトが表の場合、最初にそのデータをエクスポートし、表をドロップし、正しいスキーマ名で表を再作成してから、新しい表にデータをインポートまたはロードしてください。
- SYSFUN.DIFFERENCES に依存しているオブジェクト
 - 制約 - 制約をドロップするように表を更新してください。
 - 関数 - 関数をドロップしてください。
 - トリガー - トリガーをドロップしてください。
 - ビュー - ビューをドロップしてください。

DBI1211E *directory-name* の移行が失敗しました。

説明: ディスク・スペースまたはメモリーの不足などのシステム・エラーが、ディレクトリーの移行中に見つかりました。インスタンスの移行は失敗しました。

ユーザーの処置: コマンドを再発行する前に、十分なディスク・スペースとメモリーがあることを確認してください。

DBI1212W *path* にあるローカル・データベースの移行が失敗しました。

説明: 想定外のエラーが発生したため、ローカル・データベース・ディレクトリーの移行プロセスは完了しません。

ユーザーの処置: エラー・ファイル “db2mgdbd.err” およびローカル・データベース・ディレクトリーのバックアップ “sqlldir/sqllddir.bak” は上記のディレクトリー・パスに作成されます。

使用しているディレクトリーの修理をするには、2 つのファイルを保持し、可能な方法についての指示を IBM サービスにおたずねください。ローカル・データベースがない場合、ローカル・データベースにカタログされているデータベースはこれ以上のアクセスはできません。

DBI1220W *path* 上のノード・ディレクトリーの移行は失敗しました。

説明: 想定外のエラーが発生したため、ノード・ディレクトリーの移行プロセスは完了しません。

ユーザーの処置: リカバリーのオプションには以下の 2 通りがあります。

1. ノード・ディレクトリーを除去し、ノード項目を再カタログしてください。
2. エラー・ファイル “db2mgndd.err” およびノード・ディレクトリーのバックアップ “sqlnodir/sqlnddir.bak” は上記で言及しているディレクトリー・パスに作成されます。

使用しているディレクトリーの修理をするには、2 つのファイルを保持し、可能な方法についての指示を IBM サービスにおたずねください。ノード・ディレクトリーをリカバリーするには、IBM サービスに連絡してください。

DBI1221W ノード・ディレクトリーが壊れているので、移行できません。

説明: ノード・ディレクトリー・ファイルが同じでないか、またはノード・ディレクトリー・ファイルが壊れています。

ユーザーの処置: ノード・ディレクトリを除去し、ノード項目を再カタログしてください。

DBI1222W システム・データベース・ディレクトリが壊れているので、移行できません。

説明: 1 次およびバックアップ・システム・データベース・ディレクトリが同一でないか、あるいはシステム・データベース・ディレクトリが壊れています。

ユーザーの処置: システム・データベース・ディレクトリを除去し、すべてのデータベース項目を再カタログしてください。

DBI1223W ローカル・データベース・ディレクトリが壊れているので、移行できません。

説明: 1 次およびバックアップ・データベース・ディレクトリが同一でないか、あるいはローカル・データベース・ディレクトリが壊れています。

ユーザーの処置: エラー・ファイル “db2mgdbd.err” およびローカル・データベース・ディレクトリのバックアップ “sqldbdir/sqlddmdir.bak” は上記のディレクトリ・パスに作成されます。

使用しているディレクトリの修理をするには、2 つのファイルを保持し、可能な方法についての指示を IBM サービスにおたずねください。ローカル・データベースがない場合、ローカル・データベースにカタログされているデータベースはこれ以上のアクセスはできません。

DBI1225W カタログ済みローカル・データベースの認証タイプが変更されました。

説明: インスタンスに指定されている認証タイプと異なる認証タイプを持つ、1 つ以上のカタログ済みデータベース項目が見つかりました。何も処置を行なわないと、すべてのカタログ済みローカル・データベース項目が、それらが属しているインスタンスの認証タイプを想定します。

ユーザーの処置: インスタンスに指定されている認証と同じでないカタログ済みローカル・データベース項目のリストについては、インスタンスのホーム・ディレクトリのファイル migration.log をチェックしてください。データベースに前の認証タイプを維持させたい場合は、インスタンスの認証タイプを変更するか、またはデータベースを必要な認証タイプを持つ別のインスタンスに移動することができます。ただし、インスタンスの認証タイプを変更する前に、すべてのカタログ済みローカル・データベースに、新しい認証タイプを持たせることを確認する必要があります。

DBI1240E データベース・マネージャーが始動できませんでした。

説明: カタログ済みローカル・データベースが移行可能かどうかをチェックしようとしたときに、データベース・マネージャーが始動できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーが始動できなかった理由を解決して、コマンドを再発行してください。

DBI1250E アプリケーションは、インスタンス *instance-name* をまだ使用中です。

説明: 指定されたインスタンスを使用している実行中のアプリケーションが、まだ存在します。コマンドを正常に完了させるには、このインスタンスを使用しているすべてのアプリケーションを終了する必要があります。次のコマンドを実行すると、現在インスタンスを使用中のアプリケーションのリストを取得できます。

```
db2 list applications
```

ユーザーの処置: アプリケーションが終了するのを待つか、またはアプリケーションを明示的に強制終了させることができます。インスタンス所有者としてログオンし、次のコマンドを実行することもできます。

```
db2 force application all
```

上記のコマンドを使用して終了したときに、想定外の動作をするアプリケーションがある可能性があることに注意してください。すべてのアプリケーションが停止したあとで、“db2istop” コマンドを使用してデータベース・マネージャーをしてください。

DBI1260E 応答ファイルから読み取ることができません。

説明: 指定された応答ファイルからの読み取りに失敗しました。応答ファイルに読み取りアクセスがあり、応答ファイルへの指定パスが正しいことを確認してください。

ユーザーの処置: アクセス許可および応答ファイルの位置を訂正して、再試行してください。

DBI1261E 値は、キーワードでは無効です。

説明: 応答ファイルで指定された値は、応答キーワードとして無効です。有効な入力については、サンプル応答ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 応答ファイルの次の行にある問題を訂正して、再試行してください。

DBI1262E 応答ファイルに不明のキーワードがあります。

説明: 応答ファイルで指定されたキーワードは無効です。有効なキーワードについては、サンプル応答ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 応答ファイルの次の行にある問題を訂正して、再試行してください。

DBI1264E *program-name* 実行中にエラーが発生しました。詳細情報については、インストール・ログ・ファイル *log-name* を参照してください。

説明: 処理済みの、または失敗したすべての操作は、このログ・ファイルに保管されています。

ユーザーの処置: ログ・ファイルは修正しないでください。このファイルは IBM 技術サポートが参照するためのものです。

DBI1266I 詳細情報については、ログ・ファイル *log-name* を参照してください。

説明: 処理済みの、または失敗したすべての操作は、このログ・ファイルに保管されています。

ユーザーの処置: ログ・ファイルは修正しないでください。このファイルは IBM 技術サポートが参照するためのものです。

DBI1268E ファイル・セット *fileset* はインストール・メディアでは使用できません。

説明: インストールされるファイル・セットのいずれかが、インストール・メディアで見つかりません。ファイル・セットがインストール・メディアに見つからない場合には、インストールができません。

ユーザーの処置: ファイル・セットがインストール・メディアにあるかどうかを確認してください。ファイル・セットがインストール・メディアに見つからない場合には、このファイル・セットの選択を取り消し、再試行してください。

DBI1270E 応答ファイルにエラーがあります。

説明: 応答ファイルの処理中にエラーを検出しました。問題が訂正されない限り、インストールは続行できません。

ユーザーの処置: 応答ファイルの次の行にある問題を訂正して、再試行してください。

DBI1278W 応答ファイルから警告が出されました。

説明: 応答ファイルの処理中に警告を検出しました。DB2 インストーラーは停止せずに続行します。

ユーザーの処置: 必要であれば、応答ファイルの次の行にある問題を訂正して、再試行してください。

DBI1279I 応答ファイルから注意が出されました。

説明: 応答ファイルの処理中に注意を検出しました。DB2 インストーラーは停止せずに続行します。

ユーザーの処置: これは通知でしかありません。処置は必要ありません。

DBI1281E データベース・マネージャー構成ファイルが初期化できませんでした。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルの初期化中にエラーが起きました。DB2 インスタンスを作成または移行できませんでした。

ユーザーの処置: ログ・ファイルを参照して問題を説明してください。問題を解決してコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DBI1282W データベース・マネージャー構成ファイルがマージできませんでした。

説明: 2 つのデータベース・マネージャー構成ファイルのマージ中に、エラーが見つかりました。前のデータベース・マネージャー構成ファイルが、新しいデータベース・マネージャー構成ファイルとマージできませんでした。

ユーザーの処置: 新しいデータベース・マネージャー構成ファイル内の値を調べて、必要ならパラメーターを更新してください。

DBI1283E *instance* に対する通信情報が更新できません。

説明: SVCENAME パラメーターまたは DB2COMM レジストリー値、あるいはその両方が、インスタンス作成中に更新できませんでした。

ユーザーの処置: SVCENAME パラメーターがデータベース・マネージャー構成ファイルで “<profile-name>” に設定されていて、次の例を使用して更新されることを確認してください。

```
db2 update dbm cfg using
SVCENAME "<profile-name>"
```

また、DB2COMM 変数は、次のコマンドを実行して tcpip に更新されることを確認してください。

```
db2set DB2COMM=tcpip
```

DBI1290E プロファイル・レジストリー *profile-name* を作成しようとしたのですが、失敗しました。

説明: プロファイル・レジストリーの作成中にエラーが発生しました。次の状態のいずれかが発生しました:

- プロファイル・レジストリーを備えたファイルに誤ったアクセス許可がある。
- プロファイル・レジストリーが正しく設定されていない。
- ファイル・システムに十分な空きスペースがない。

ユーザーの処置: 次のディレクトリーのいずれかにあるインスタンス・リスト・プロファイルのファイル許可をチェックしてください。

/usr/opt/db2_08_xx、ここで *xx* は 01 または FPn、ここで *n* はフィックスバック番号
または */opt/IBM/db2/V8.x*、ここで *x* は 1 または FPn、ここで *n* はフィックスバック番号

DBI1291E インスタンス *instance-name* がインスタンス・リストに見つかりませんでした。

説明: 示されたインスタンスが、インスタンス・リストに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: “db2ilist” コマンドによって報告されたインスタンスのリストが正しいことを確認してください。有効なインスタンス名を指定して、コマンドを再試行してください。

DBI1292E インスタンス *instance-name* はすでにインスタンス・リストにあります。

説明: 作成または移行中のインスタンスが、すでにインスタンス・リストにあります。

ユーザーの処置: “db2iset -I” コマンドで報告されているインスタンス・リストの一部でない別のインスタンス名を使用してください。

DBI1293E このシステムには DB2 Query Patroller サーバーがセットアップされていません。

ユーザーの処置: DB2 インストーラーによって DB2 Query Patroller がインストールされていない場合、このインストーラーを使用して DB2 Query Patroller サーバーで使用するインスタンスを正しくセットアップします。インスタンスがセットアップされている場合は、そ

れが default.env ファイルに記録されていて、そのファイルが世界中で読み取り可能であることを確認してください。 default.env ファイルは以下のいずれかにありません。

/usr/opt/db2_08_xx、ここで *xx* は 01 または FPn、ここで *n* はフィックスバック番号
または */opt/IBM/db2/V8.x*、ここで *x* は 1 または FPn、ここで *n* はフィックスバック番号

DBI1295E インスタンス・リストを更新できませんでした。

説明: インスタンスをインスタンス・リストへ追加できなかったか、またはインスタンス・リストから除去できませんでした。インスタンス・リストからインスタンスを追加または削除しているときにエラーが発生しました。次の状態のいずれかが発生しました:

- レジストリー・プロファイルに誤ったアクセス許可がある。
- プロファイル・レジストリーが正しく設定されていない。
- ファイル・システムに十分な空きスペースがない。

ユーザーの処置: 次のディレクトリーのいずれかにあるインスタンス・リスト・プロファイルのファイル許可をチェックしてください。

/usr/opt/db2_08_xx、ここで *xx* は 01 または FPn、ここで *n* はフィックスバック番号
または */opt/IBM/db2/V8.x*、ここで *x* は 1 または FPn、ここで *n* はフィックスバック番号

DBI1297E インスタンス・プロファイル *profile-name* を更新できませんでした。

説明: インスタンス・プロファイル・レジストリーの更新中にエラーが発生しました。次の状態のいずれかが発生しました:

- インスタンス・プロファイル・レジストリーに誤ったアクセス許可がある。
- プロファイル・レジストリーが正しく設定されていない。
- ファイル・システムに十分な空きスペースがない。

ユーザーの処置: 次のディレクトリーのいずれかにあるインスタンス・リスト・プロファイルのファイル許可をチェックしてください。

/usr/opt/db2_08_xx、ここで *xx* は 01 または FPn、ここで *n* はフィックスバック番号
または */opt/IBM/db2/V8.x*、ここで *x* は 1 または FPn、ここで *n* はフィックスバック番号

DBI1300N db2set は DB2 プロファイル変数を表示、設定、あるいは取り除きます。

```
db2set [[[variable]=[value]]
         [-gl-i instance[
         node-number]]]
         [-all] [-null]
         [-r [instance[node-number]]]
         [-n DAS node[
         -u user[-p password]]]
         [-ll-lr] [-v] [-ull-ur]
         [-?l-h]
```

説明: コマンド・オプションは次のとおりです。

- g** グローバル・プロファイル変数にアクセスする
- i** 現行あるいはデフォルト値の代わりに使用するインスタンス・プロファイルを指定する
- n** リモート DB2 Administration Server ノード名を指定する
- u** Administration Server 付加機構で使用するユーザー ID を指定する
- ul** ユーザー・プロファイル変数にアクセスする
- ur** ユーザー・プロファイル変数を最新表示する
- p** Administration Server 付加機構で使用するパスワードを指定する
- r** 与えられたインスタンスに対するプロファイル・レジストリーをリセットする。何も指定されない場合、デフォルトまたは現行のインスタンスが使用されます
- l** すべてのインスタンス・プロファイルをリストする
- lr** サポートされたすべてのレジストリー変数をリストする
- v** Verbose モード
- ?** コマンド・ヘルプ・メッセージを表示する
- h** -? オプションと同じ
- all** 次のように定義されているローカル環境変数のすべてのオカレンスを表示する
 - 環境は、[e] で示されます。
 - ユーザー・レベル・レジストリーは、[u] で示されます。
 - ノード・レベル・レジストリーは、[n] で示されます。
 - インスタンス・レベル・レジストリーは、[i] で示されます。

- グローバル・レベル・レジストリーは、[g] で示されます。

-null 指定されたレジストリー・レベルで変数の値を null に設定し、変数値の検索順序で定義されている次のレジストリー・レベルの変数を参照できないようにする。

注:

- 変数名なしの db2set では 定義されている変数をすべて表示します。
- db2set <variable> では <variable> の値を表示します。
- db2set <variable>=(nothing) では <variable> を削除します。
- db2set <variable>=<value> では <variable> の値を修正します。
- db2set <variable> -null では <variable> の値を NULL に設定します。
- db2set <variable> -all では 定義されているすべての <variable> の値を表示します。
- db2set -ur では 現行ユーザー・プロファイルを最新表示します。
- db2set <variable> -ul では ユーザー・レベルで定義された <variables> を表示します。
- db2set -all では、すべてのレジストリー・レベルで定義されているすべての変数を表示します。

DBI1302E 無効なパラメーターを検出しました。

説明: 無効なパラメーターが使用されました。

ユーザーの処置: 使用法のヘルプ・メッセージを調べるには、-? を使ってください。

DBI1303W 変数が設定されていません。

説明: 変数がプロファイル・レジストリーに設定されていません。

ユーザーの処置: 必要な処置はありません。

DBI1304E 予期しないエラーです。

説明: ツールで想定外のシステム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: DB2 サービス担当者に連絡してください。

DBI1305E プロファイル・レジストリーが見つかりません。

説明: ターゲット・マシンにはプロファイル・レジストリー設定がありません。

ユーザーの処置: DB2 のインストールでターゲット・マシンにレジストリーを作成してください。

DBI1306N インスタンス・プロファイルが定義されていません。

説明: インスタンスがターゲット・マシン・レジストリーで定義されていません。

ユーザーの処置: 既存のインスタンス名を指定するか、あるいは必要なインスタンスを作成してください。

DBI1307N インスタンス・ノード・プロファイルが定義されていません。

説明: インスタンス・ノードがターゲット・マシン・レジストリーで定義されていません。

ユーザーの処置: 必要な DB2 製品パーツをインストールしてレジストリーを作成してください。

DBI1308E メモリー不足状態が発生しました。

説明: ツールで「メモリー・リソース不足」エラーが発生しました。

ユーザーの処置: システムのメモリー・リソースが少なくなっています。不要なアプリケーションを終了するか、またはあとで再試行してください。

DBI1309E システム・エラーです。

説明: ツールでオペレーティング・システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: システム・エラーがレジストリーにアクセス中に発生しました。レジストリーがある場所のファイル・システムにスペースが十分あるか、またレジストリーがリモートの場合、LAN 接続が有効であるか確認してください。

DBI1310E リモート・レジストリー・アクセスがサポートされていません。

説明: ツールではリモート・レジストリー・オプションをサポートしていません。

ユーザーの処置: レジストリーにリモート・アクセスする方法についてはコマンド・リファレンスを参照してください。

DBI1311I レジストリー・インスタンス・プロファイルをリスト中...

DBI1312I 定義済みグローバル変数をリスト中...

DBI1313I 定義済みインスタンス変数をリスト中...

DBI1314I サポートされているすべてのレジストリー変数をリスト中...

DBI1315W 不明なメッセージ！

DBI1316E インスタンスが MPP ではありません。

説明: ターゲット・インスタンスが DB2 MPP インスタンスではありません。

ユーザーの処置: MPP インスタンスを選択してください。

DBI1317E インスタンス・ノードがすでにあります。

説明: インスタンス・ノードが重複して存在しています。

ユーザーの処置: 別のインスタンス・ノードを選択してください。

DBI1318E レジストリー変数に指定した値は長すぎます。

説明: レジストリー変数に指定した値は、上限を超えています。レジストリー変数値の上限の長さは 255 バイトです。

ユーザーの処置: それより短い値をレジストリー変数に指定してください。

DBI1320W 警告:

説明: このスクリプトは、起こりうる問題のデバッグのために IBM サポートが有益な情報を収集するために使用されます。この情報は、機密情報の場合があります。出力ファイル db2ginfo.txt は IBM サポートに送信する前に編集することができます。

ユーザーの処置: 上記の警告を認識および受諾したことを通知するには、このスクリプトを -y フラグ付きで実行してください。

DBI1330W 処置が別のインスタンスに影響する可能性があります。

説明: ファイル IWH.environment には、すべてのインスタンスのグローバル情報が入っています。このファイルを更新すると、すべてのインスタンスに影響する可能性があります。続けますか?

DBI1332E IWH.environment のテンプレート・ファイルが見つかりません。

説明: IWH.environment のテンプレート・ファイルが必要です。

DBI1351E このコマンドを実行するには、インスタンス所有者でなければなりません。

説明: このコマンドを実行するには、DB2 Query Patroller サーバー・インスタンス所有者でなければなりません。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller サーバー・インスタンスがファイル default.env に正しく記録されていることを確認します。DB2 Query Patroller サーバー・インスタンス所有者としてログインし、このコマンドを再発行してください。 default.env ファイルは以下のいずれかにあります。

/usr/opt/db2_08_xx、ここで xx は 01 または FPn、ここで n はフィックスバック番号
または /opt/IBM/db2/V8.x、ここで x は 1 または FPn、ここで n はフィックスバック番号

DBI1352E インスタンス *instance-name* は ESE インスタンスではありません。

説明: DB2 Query Patroller サーバー/エージェントは、ESE インスタンスに作成する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な ESE インスタンス名を使ってこのコマンドを再実行するか、またはこのコマンドを再実行する前に、新しい ESE インスタンスを作成してセットアップしてください。

DBI1353E DB2 Query Patroller サーバーはすでにインスタンスにセットアップされています。

説明: DB2 Query Patroller サーバーは 1 つの DB2 UDB インスタンスにのみセットアップできます。

ユーザーの処置: コマンド dqplist を実行して、DB2 Query Patroller サーバーとして使用されているインスタンスの名前を見つけます。インスタンス名が正しい場合には、サーバーのセットアップに dqpcrt を実行する必

要はありません。エージェントをセットアップする場合は、正しいインスタンス名を使用する必要があります。このインスタンスがエージェントをセットアップする目的で使用されない場合、次のコマンドを実行して除去します。

```
dqpdrop inst_name
```

次に、dqpcrt コマンドを再実行してください。

DBI1354E インスタンス *instance-name* が DB2 Query Patroller サーバー・インスタンスではありません。

ユーザーの処置: dqplist で正しいサーバー・インスタンス名を探して、コマンドを再実行してください。

DBI1355I 使用法 :

```
dqpcrt [-hl-?] -sl-a  
-p PortName InstName
```

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

PortName

DB2 Query Patroller サーバー/エージェントで使用するポート名

InstaName

DB2 Query Patroller サーバー・インスタンスとして指定するインスタンスの名前

-s 指定のインスタンスに DB2 Query Patroller サーバーを作成する

-a 指定のインスタンスに DB2 Query Patroller エージェントを作成する

-hl-? 使用法情報を表示する

-a オプションは、複数パーティションのデータベース・インスタンスにのみ有効です。

ユーザーの処置: 正しい構文を使用してコマンドを再入力してください。

DBI1356I 使用法 :

```
dqplist [-hl-?]
```

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用法情報を表示する

ユーザーの処置: 正しい構文を使用してコマンドを再入力してください。

DBI1357I 使用法 :

dqpdrop [-hl-?] InstName

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

InstName

DB2 Query Patroller サーバーを除去したいインスタンスの名前

-hl-? 使用法情報を表示する

このコマンドは、DB2 Query Patroller サーバーが作成されたノードでのみ発行できます。

ユーザーの処置: 正しい構文を使用してコマンドを再入力してください。

DBI1358W DB2 Query Patroller プロファイル・ファイルを変更できませんでした。

説明: dqpprofile ファイルか dqpcshrc ファイルのいずれか、またはその両方を更新しようとしたが、失敗しました。考えられる原因は以下のとおりです。

- これらのファイルがインスタンス・ホーム・ディレクトリーの下 `sqllib` ディレクトリーに存在しない。
- これらのファイルへの書き込み許可がない。
- `/tmp` ディレクトリーに一時ファイルを作成できなかった。

ユーザーの処置: これらのファイルが存在しているか、またファイルの許可について調べます。`/tmp` への書き込みが可能であることを確認してください。コマンドをもう一度発行してください。

DBI1359E DB2 Query Patroller サーバーをインスタンス *instance-name* から除去できません。

説明: DB2 Query Patroller サーバーを指定のインスタンスから除去しようとしたが、失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル `sqllib/cfg/dqplevel` を手操作でインスタンス所有者のホーム・ディレクトリーから除去してください。また、ファイル `default.env` を編集して、`DQPSEVER` 行をこのファイルから除去します。`default.env` ファイルは以下のいずれかにあります。

`/usr/opt/db2_08_xx`、ここで `xx` は 01 または FPn、ここで `n` はフィックスバック番号
または `/opt/IBM/db2/V8.x`、ここで `x` は 1 または FPn、ここで `n` はフィックスバック番号

DBI1360E DB2 Query Patroller のセットアップを完了できません。

説明: DB2 Query Patroller サーバーをセットアップしようとしたが、失敗しました。考えられる原因は以下のとおりです。

- DB2 Query Patroller サーバーのデータベースを作成できなかった。
- 指定のノードにノード・グループを作成できなかった。
- ノード・グループに表スペースを作成できなかった。

ユーザーの処置: データベースまたはノード・グループの作成が失敗した場合、これらを手操作で作成してコマンドを再実行してください。

表スペースの作成が失敗した場合は、指定したパスへの書き込み許可を持っていることを確認します。表スペースを手操作で作成してみてください。

DBI1361E DB2 Query Patroller サーバー・コードがインストールされていません。

説明: DB2 Query Patroller サーバー・コードがインストールされていないため、現行操作の完了が要求されました。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller サーバー・コードをインストールして、コマンドを再実行してください。

DBI1362W IWM スキーマ・オブジェクトが検出されました。

説明: DB2 が IWM スキーマ・オブジェクトを検出しましたが、これは以前の IWM のインストールによって作成された可能性があります。

ユーザーの処置: 既存の IWM スキーマ・オブジェクトを保持したい場合、何もする必要はありません。既存のオブジェクトを除去して新しいオブジェクトを再作成したい場合は、`dqpsetup` コマンドを `-o` フラグ付きで再発行してください。

DBI1363E IWM スキーマ・オブジェクトを作成できませんでした。

説明: IWM スキーマ・オブジェクトを作成しようとしたが、失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル `db2_qp_schema` および `iwm_schema.sql` が両方ともディレクトリー `/usr/opt/db2_08_xx/bin` にあることを確認します。ここで `xx` は 01 または FPn、ここで `n` はフィックスバック番号です。

両方のファイルが存在する場合、IWM スキーマ作成プロセスの出力が /tmp/iwmschcr.log にあります。エラーを訂正して、dqpsetup コマンドを再実行してください。

DBI1364E 前の DB2 Query Patroller スキーマ・オブジェクトが存在しません。

説明: 移行の対象の旧 DB2 Query Patroller スキーマ・オブジェクトが存在しません。

ユーザーの処置: 正しい構文で dqpsetup を再実行してください。正しい構文を調べるには 'dqpsetup -h' を使用してください。

DBI1365E ノード番号が定義されていません。

説明: ノード番号が db2nodes.cfg に定義されていません。

ユーザーの処置: db2nodes.cfg ファイルを調べて、必要な項目が存在することを確認します。db2nodes.cfg ファイルに記録されているものとまったく同じコード番号を使用して、コマンドを再入力してください。

DBI1366E コンテナ *sms-path* はすでに使用中です。

説明: 表スペースのコンテナとして指定されたディレクトリはすでに存在します。

ユーザーの処置: 表スペースのコンテナに別のパスを使用して、コマンドを再実行してください。

DBI1367E *bind-list* にリストされているファイルをバインドできませんでした。

説明: 指定のファイルにリストされたバインド・ファイルのバインドで問題が起きました。

ユーザーの処置: バインドを手操作で行ってください。

DBI1368E DQP データベース *db2dbdft* に接続できませんでした。

説明: このデータベースは存在しないと思われます。

ユーザーの処置: dqpsetup に必要なパラメーターをすべて使用して、新しい DQP インスタンスをセットアップするよう指定してください。このインスタンスを移行することはできません。

DBI1370W ユーザー *inst-name* の *.profile* あるいは *.login* ファイルの修正はできません。

説明: DB2 は、このユーザーの *.profile* ファイルまたは *.login* ファイルを修正することができません。これらのファイルが存在しないか、または書き込み許可がない可能性があります。変更を行わないと、DB2 Query Patroller を使用するためにこのユーザーでログインするたびに、手操作で環境を設定しなければなりません。

ユーザーの処置: DB2 環境を自動的に設定する方法に関する詳細については、「概説およびインストール」をご覧ください。

DBI1371E Query Patroller サーバーをセットアップするための引き数が見つかりません。

説明: DB2 Query Patroller サーバーがインストールされている場合、Query Patroller インスタンスをサーバーとしてセットアップする必要があります。そのため、以下の引き数を与えなければなりません。

1. ノード・グループ
2. ノード番号
3. データベース名
4. 表スペース
5. 結果表スペース
6. 表スペース・パス

オプション:

DMS 表スペース・サイズ

ユーザーの処置: 応答ファイルに必須またはオプション引き数、あるいは両方の引き数を指定してください。

DBI1372E Query Patroller サーバー・インスタンスをセットアップできません。

説明: Query Patroller サーバー・インスタンスをセットアップするには、DB2 Query Patroller サーバーがインストールされていなければなりません。

ユーザーの処置:

- DB2 Query Patroller サーバーをインストールしてください。
- Query Patroller エージェントをセットアップしたい場合、ノード・グループ、ノード番号、データベース名、表スペース、結果表スペース、表スペース・パス、および DMS 表スペース・サイズの引き数を取り除いてください。

DBI1373E 新しい ESE インスタンスの作成中は、**Query Patroller** サーバー・インスタンスをセットアップできません。

ユーザーの処置: ESE インスタンスを作成し、別々のステップでインスタンスを Query Patroller サーバーとしてセットアップしてください。

DBI1375E ESE をインストールせずに、**Query Patroller** インスタンスをセットアップすることはできません。

ユーザーの処置: ESE と DB2 Query Patroller エージェント/サーバーをインストールしてください。

DBI1376E **Query Patroller** インスタンスをセットアップするには、**IWM** ユーザーのサービス名およびポート番号を与える必要があります。

ユーザーの処置:

- Query Patroller インスタンスをセットアップしたい場合、**IWM** ユーザーのサービス名およびポート番号を入力してください。
- Query Patroller インスタンスをセットアップしたくない場合、ノード・グループ、ノード番号、データベース名、表スペース、結果表スペース、表スペース・パス、および **DMS** 表スペース・サイズの指定を応答ファイルから取り除いてください。

DBI1377N **db2isetup** は、ご使用のコンピューターで適切な **Java** ランタイム環境を見つけれませんでした。 **Java** ランタイム環境 **v.13** が存在する場合は、**JAVA_HOME** 環境変数を設定して、再度コマンドの実行を試行してください。 それ以外の場合は、**DB2** のインストールの手引きで、ご使用のオペレーティング・システムに対して推奨されている **Java** 環境に関する情報を確認してください。

DBI1378N **db2setup** は、ご使用のコンピューターで適切な **Java** ランタイム環境を見つけれませんでした。 **Java** ランタイム環境 **v.13** が存在する場合は、**JAVA_HOME** 環境変数を設定して、再度コマンドの実行を試行してください。 それ以外の場合は、**DB2** のインストールの手引きで、ご使用のオペレーティング・システムに対して推奨されている **Java** 環境に関する情報を確認してください。 適切な **Java** ランタイム環境が得られない場合は、**doc_install** スクリプトを使用するコマンドからインストールすることができます。 このスクリプトの使用方法を表示するには、パラメーターを指定せずにこのスクリプトを実行してください。

DBI1400N **db2licm** コマンドの構文に誤りがあります。

説明: コントロール・センターがない場合には、**db2licm** ツールが基本ライセンス機能を実行します。 これで、ローカル・システムにインストールされたライセンスが追加、除去、リスト、および変更されます。 **-l** パラメーターを指定して **db2licm** ツールを実行することにより、ご使用の製品の製品 ID を調べてください。

```
db2licm [-a filename]
         [-e product-identifier HARD | SOFT]
         [-p product-identifier
REGISTERED | CONCURRENT | OFF]
         [-r product-identifier]
         [-u product-identifier num-users]
         [-c product-identifier num-connectors]
         [-n product-identifier num-processors]
         [-l]
         [-v]
         [-?]
```

コマンド・オプションは次のとおりです。

- a** 製品のライセンスを追加します。有効なライセンス情報の入ったファイル名を指定します。これはライセンス製品 CD に収められていますが、お持ちでない場合は、IBM 担当員または販売代理店に連絡してください。
- e** システムの制約方針を更新します。有効な値は **HARD** および **SOFT** です。**HARD** は非ライセンス要求が許可されないことを指定します。**SOFT** は非ライセンス要求が制限なしでログに記録されることを指定します。
- p** システムで使用するライセンス方針タイプを更

新します。キーワード

CONCURRENT、REGISTERED、または
CONCURRENT REGISTERED を指定できま
す。「オフ」を指定して、すべてのポリシー
をオフにします。

- r 製品のライセンスを除去します。ライセンスが除去されると、製品機能は「試供版」モードになります。特定の製品のパスワードを取得するには、-l オプション付きでコマンドを呼び出します。
- u 購入したユーザー・ライセンス数を更新します。ライセンスを購入した製品のパスワード、およびユーザーの数を指定してください。
- c 購入したコネクタ・ライセンス数を更新します。ライセンスを購入した製品のパスワードとコネクタの数を指定してください。
- n 権利のあるプロセッサの数を更新します。この製品で使用できるプロセッサの数を指定してください。
- l 製品 ID を含めた使用可能なライセンス情報と共に、すべての製品を一覧で示します。
- v バージョン情報を表示します。
- ? ヘルプ情報を表示します。このオプションが指定されると、その他のすべてのオプションが無視され、ヘルプ情報のみが表示されます。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1401I コマンド行 DB2 ライセンス・マネージャ

説明: コントロール・センターがない場合には、db2licm ツールが基本ライセンス機能を実行します。これで、ローカル・システムにインストールされたライセンスが追加、除去、リスト、および変更されます。

使用している製品の製品 ID を調べるには、db2licm -l コマンドを使用します。

```
db2licm [-a filename]
         [-e product-identifier HARD | SOFT]
         [-p product-identifier
         REGISTERED | CONCURRENT | OFF]
         [-r product-identifier]
         [-u product-identifier num-users]
         [-c product-identifier num-connectors]
         [-n product-identifier num-processors]
         [-l]
         [-v]
         [-?]
```

コマンド・オプションは次のとおりです。

- a 製品のライセンスを追加します。有効なライセンス情報の入ったファイル名を指定します。これはライセンス製品 CD に収められていますが、お持ちでない場合は、IBM 担当員または販売代理店に連絡してください。
- e システムの制約方針を更新します。有効な値は HARD および SOFT です。HARD は非ライセンス要求が許可されないことを指定します。SOFT は非ライセンス要求が制限なしでログに記録されることを指定します。
- p システムで使用するライセンス方針タイプを更新します。キーワード
CONCURRENT、REGISTERED、または
CONCURRENT REGISTERED を指定できま
す。「オフ」を指定して、すべてのポリシー
をオフにします。
- r 製品のライセンスを除去します。ライセンスが除去されると、製品機能は「試供版」モードになります。
- u 購入したユーザー・ライセンス数を更新します。ライセンスを購入した製品のパスワード、およびユーザーの数を指定してください。
- c 購入したコネクタ・ライセンス数を更新します。ライセンスを購入した製品のパスワードとコネクタの数を指定してください。
- n 権利のあるプロセッサの数を更新します。この製品で使用できるプロセッサの数を指定してください。
- l 製品 ID を含めた使用可能なライセンス情報と共に、すべての製品を一覧で示します。
- v バージョン情報を表示します。
- ? ヘルプ情報を表示します。このオプションが指定されると、その他のすべてのオプションが無視され、ヘルプ情報のみが表示されます。

DBI1402I ライセンスが正常に追加されました。

DBI1403I ライセンスが正常に除去されました。

DBI1404N 製品 ID が見つかりません。

説明: 指定された ID が無効であるか、またはこの製品のライセンスが nodelock ファイル中に見つかりませんでした。

ユーザーの処置: -l オプションを指定してこのコマンドを発行し、入力された ID がこのアクションの対象と

なる製品にとって正しい製品 ID であるかどうかを確認してください。 nodelock パスワードを使用している場合は、この製品のライセンス・キーが nodelock ファイルにインストールされているかチェックしてください。

DBI1405I **ライセンス方針タイプが正常に更新されました。**

DBI1406N **無効なライセンス方針タイプです。**

説明: 入力されたライセンス方針タイプが、指定された製品には無効でした。

ユーザーの処置: 有効なライセンス・ポリシーを入力してください。オプションは次のとおりです。

- CONCURRENT
- REGISTERED
- CONCURRENT REGISTERED
- OFF

DBI1407N **無効なライセンス証書ファイルです。**

説明: ライセンス証書ファイルが正しい形式ではありません。

ユーザーの処置: 正しいライセンス証書形式を持つファイルの名前を入力してください。

DBI1408N **ファイル *file-name* がオープンできませんでした。**

説明: ファイルが見つからないか、ファイルへのアクセスが拒否されました。

ユーザーの処置: 存在していて、オープン可能なファイルの名前を入力し、コマンドを再試行してください。

DBI1409N **無効な制約方針タイプです。**

説明: 指定された制約方針タイプはこの製品には無効です。

ユーザーの処置: 指定の製品がサポートする有効な制約ポリシー・タイプを入力してください。

DBI1410I **並行ライセンスが正常に更新されました。**

DBI1411I **制約方針タイプが正常に更新されました。**

DBI1412W **ハード・ストップ制約方針は、ライセンス違反が生じたときに非ライセンス・ユーザーによる製品の使用を停止します。**

DBI1413W **ソフト・ストップ制約方針は、ライセンス違反をログに記録しますが、非ライセンス・ユーザーによる製品の使用を許可しません。**

DBI1416N **ライセンスを自動的に nodelock ファイルに追加できませんでした。**

説明: 戻りコードは “<return-code>” です。

ユーザーの処置: ライセンス証明書が読み取り可能であることを確認してください。また、手操作でライセンスを nodelock ファイルに入力することもできます。指示については、ライセンス・ファイルを参照してください。

DBI1417N **指定されたライセンスを nodelock ファイルから除去できません。**

説明: 戻りコードは “<return-code>” です。

ユーザーの処置: この製品のライセンスが nodelock ファイルに存在することを確認してください。

DBI1418I **このマシンでライセンスされたプロセッサ一数が正しく更新されました。**

DBI1419N **ライセンスされたプロセッサ数を更新しているときにエラーが起きました。**

説明: 戻りコードは “<return-code>” です。

DBI1420N **この製品は、このライセンス・ポリシーのタイプをサポートしていません。**

説明: 指定されたライセンス・ポリシーはこの製品に適用されないか、またはサポートされていません。

ユーザーの処置: 有効なライセンス・ポリシーを入力してください。

DBI1421N **指定された製品は、このシステムにインストールされていません。**

説明: 製品がインストールされるまで、この製品のライセンス・ポリシーを構成することはできません。

ユーザーの処置: 製品をインストールしてからコマンドを実行するか、または正しい製品 ID を指定してください。システムにインストールされている製品をリストするには、db2licm -l コマンドを使用してください。

DBI1422N 並行ライセンス数は更新されませんでした。

説明: 戻りコードは “<return-code>” です。

ユーザーの処置: この製品で並行ポリシーが可能であることを確認してください。

DBI1423N このオプションには、インスタンスの作成が必要です。

説明: この処置を行うために必要な機能は、インスタンスの作成後にアクセス可能になります。

ユーザーの処置: インスタンスを作成し、このコマンドを出し直してください。

DBI1424N プロセッサ情報にアクセスしているときに、予期しないエラーが起きました。

説明: 戻りコードは “<return-code>” です。

ユーザーの処置: ありません。

DBI1425E **DB2 OLAP Server** のライセンスを更新することはできません。 **DB2 OLAP** 処理は、現在アクティブにあります。

説明: DB2 OLAP Server の実行時に、DB2 で DB2 OLAP Server のライセンスを更新することはできません。

ユーザーの処置: OLAP ライセンスを更新するには、OLAP プロセスをすべて停止してからこの DB2 ライセンスを再インストールしてください。

DBI1426I この製品は現在、この製品のライセンス・コピーに付属するご使用条件の指定に基づいてご使用いただくことができます。この製品をご使用いただくには、次のディレクトリーにある **IBM** ご使用条件への同意が必要です: *dir-name*

DBI1427I この製品は現在、この製品の評価版 (「お試し版」) に付属するご使用条件の指定に基づいてご使用いただくことができます。この製品をご使用いただくには、次のディレクトリーにある **IBM** ご使用条件への同意が必要です: *dir-name*

DBI1428N ライセンスされたプロセッサ数を更新しているときにエラーが起きました。

説明: 入力されたライセンス・プロセッサの数が、この製品で許可されているライセンス・プロセッサの最大数を超えています。

ユーザーの処置: 定義されている最大数を超えないライセンス・プロセッサの数を入力してください。ご使用のシステムのプロセッサの数がこの製品に対して許可されているプロセッサの最大数を超える場合は、**IBM** 担当員または許可されている販売業者にご連絡ください。

DBI1429N この製品は、このライセンス・ポリシーの組み合わせをサポートしていません。

ユーザーの処置: 有効なライセンス・ポリシーの組み合わせを入力してください。たとえば、有効な組み合わせとして “CONCURRENT REGISTERED” を指定できません。

DBI1430N ライセンス日付がオペレーティング・システムの日付よりも後であるため、ライセンスを **nodelock** ファイルに追加できませんでした。

ユーザーの処置: 証明書ファイルをチェックして、ライセンスの開始日が現在日付 (オペレーティング・システムに設定されている日付) よりも前であることを確認してください。

DBI1431N このユーザーは、指定されたアクションを実行するための適切な権限を持っていません。

説明: このプログラムは、root ユーザー ID または SYSADM 権限を持つユーザー ID でしか実行できません。

ユーザーの処置: このコマンドを実行するのに適切な許可を持つユーザー ID を使ってログインしてください。

DBI1432N ライセンスを **nodelock** ファイルに追加できませんでした。

説明: この製品は、最大数の評価ライセンスを使用しています。評価ライセンスの最大数は *lic-number* です。

ユーザーの処置: 永続ライセンス・キーを指定してこのコマンドをもう一度実行してください。

DBI1433N ライセンス数は更新されませんでした。

説明: 指定したライセンス数は有効範囲内にありません。

ユーザーの処置: 有効なライセンス数を使ってこのコマンドをもう一度実行してください。

DBI1434N DB2 によって **nodelock** ファイルにライセンス項目が追加されましたが、そのライセンス項目はアクティブではありません。

説明: DB2 はこのライセンス項目をアクティブにできなかったため、このライセンスがアクティブになるまでの間、DB2 は前のライセンス構成で実行されます。

ユーザーの処置: コマンドを再試行しても引き続き失敗する場合は、手動で **nodelock** ファイルを編集するか、または IBM サポートに連絡してください。

nodelock ファイルを手動で編集する場合は、新しいライセンス項目をライセンス項目リストの先頭に移動してください。

nodelock ファイルの場所は、プラットフォームごとに以下のとおりです。

AIX /var/ibm/nodelock

Windows

\$DB2PATH/license/nodelock

その他のすべてのオペレーティング・システム:

/var/lum/nodelock

ライセンスについては、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI1500I 使用法 :

db2inst [-f response-file]

説明: 間違った引き数が入力されました。コマンドが、「DB2 インストーラー」応答ファイルのパスの前にオプションのフラグ **-f** を指定しました。

ユーザーの処置: 有効な引き数を指定して、コマンドを再入力してください。

DBI1501E 内部エラーが発生しました。

説明: 内部処理を実行中にエラーを検出しました。

ユーザーの処置: ファイルが置かれているファイル・システムが損傷していないか調べてください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号

2. 内部エラー・メッセージ記述

3. 問題記述

DBI1502E ファイル *file-name* のオープンあるいは読み取り中にエラーが発生しました。

説明: ファイルのオープンあるいは読み取り中にエラーが発生しました。次のエラーのいずれかが発生していると考えられます。

- ファイルのオープンあるいは読み取りで入出力エラーが起きた。
- 予定の値がファイルに見つからない。
- ファイル内のデータの順序が誤っている。

ユーザーの処置: ファイルがユーザーによって修正されている場合、ファイル内のデータが有効かどうか調べてください。ファイルがユーザーによって修正されていない場合、次の情報を IBM サポート担当者に連絡してください。

1. メッセージ番号
2. メッセージ記述
3. 問題記述

DBI1503E ファイル *file-name* のオープンあるいは書き込み中にエラーが発生しました。

説明: ファイルヘータを書き込み中にエラーが発生しました。次のエラーのいずれかが発生していると考えられます。

- 与えられたディレクトリーに誤ったアクセス許可がある。
- ファイル・システムに十分な空きスペースがない。

ユーザーの処置: 親ディレクトリーの許可が正しく設定されているかチェックしてください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. メッセージ記述
3. 問題記述

DBI1504E メッセージ・ファイルのオープンでエラーが起きました。

説明: 「DB2 インストーラー」メッセージ・カタログ・ファイルのオープンおよび読み取りをしようとして失敗しました。DB2 Installer を開始する前に、次の 2 つのリソース・ファイル -- **db2inst.rcx** と **db2inst.cat** を次のロケーションで検索します。

- DB2 製品ディレクトリー、または
- 配布先メディア、または

- 環境変数 DB2IRCX および DB2ICAT

ユーザーの処置: 環境変数 DB2IRCX と DB2ICAT を db2inst.rcx と db2inst.cat の絶対ロケーションに設定してください。

DBI1505E メモリーを割り振ろうとして失敗しました。

説明: メモリーを割り振ろうとして、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: システム上で実行中の他のアプリケーションで、メモリーを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. メッセージ記述
3. 問題記述

DBI1507E DB2 インストーラーのインスタンスはすでに開始しています。

説明: DB2 インストーラーを開始しようとして、エラーを検出しました。DB2 インストーラーの別のインスタンスがまだ実行中です。

ユーザーの処置: DB2 インストーラーのすべてのインスタンスを終了して、インストール・プロセスを再始動してください。問題が解決しない場合、ロック・ファイル /tmp/.db2inst.lck を除去してから、DB2 インストーラーを再始動してください。

DBI1515E サブプロセスに対するリソースを割り振ろうとして失敗しました。

説明: サブプロセスを開始しようとして、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: システム上で実行中の他のアプリケーションで、リソースを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題記述

DBI1516E サブプロセスを終了しようとして失敗しました。

説明: サブプロセスを終了しようとして、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: システム上で実行中の他のアプリケーションで、リソースを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。問題が解決しない場合は、

IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題記述

DBI1517E サブプロセスでコマンドを実行しようとして失敗しました。

説明: サブプロセスでコマンドを実行しようとして、エラーを検出しました。次のいずれかの問題が発生しました。

- コマンドが存在しない。
- コマンド検索パスが不完全である。
- コマンドに誤ったアクセス許可がある。
- システム・リソースに問題がある。

ユーザーの処置: 問題を訂正して再度試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題記述

DBI1520E 端末表示の最小サイズは 24 x 80 です。

説明: 現在の端末またはウィンドウ・サイズが十分な大きさではありません。このプログラムでは最低 24 行 80 列の端末表示が必要です。

ユーザーの処置: 端末またはウィンドウ・サイズをチェックして再試行してください。

DBI1521E 端末機能情報の読み取りに失敗しました。

説明: 端末表示の初期化をしようとして、エラーを検出しました。このエラー・タイプが発生する場合は、次の 2 つが考えられます。

- この機能が、環境変数 TERM を検出できないか、あるいは端末についての正しい terminfo データベース項目を検出できないかのいずれかである。
- 端末表示を初期化中に使用可能なメモリー・スペースが十分でない。

ユーザーの処置: 環境変数 TERM を正しい端末タイプに設定してください。問題が解決しない場合には、システム上で実行中の他のアプリケーションで、メモリーを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。それでも問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
 2. 問題記述
-

DBI1522E 端末機能情報のリストアに失敗しました。

説明: 端末表示を元の状態にリストアしようとして、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: 環境変数 TERM を正しい端末タイプに設定してください。問題が解決しない場合には、システム上で実行中の他のアプリケーションで、メモリーを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。それでも問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題記述

DBI1530E イメージ・ファイルをアンパックできません。

説明: 配布されたメディアからの tar イメージをアンパック中にエラーが発生しました。次の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたパス名が存在していないディレクトリーである。
- ファイル・システムに十分なスペースがない。
- 与えられたパスのアクセス許可が誤っている。
- tar コマンドが現行検索パスで見つからない。

ユーザーの処置: インストール処理を再始動して、正しいパス名で再試行してください。

DBI1540E 無効な配布媒体メディア・パスが指定されました。

説明: インストール可能なイメージを配布メディアに位置指定しようとして、エラーを検出しました。次のエラーのいずれかが発生していると考えられます。

- 与えられたパスと関連したファイル・システムが、正しく取り付けられていない。
- 誤ったアクセス許可が、与えられたパスに割り当てられている。

ユーザーの処置: パスをチェックしてコマンドを再試行してください。UNIX のどのファイルおよびディレクトリーの名前でも、大文字小文字が区別されます。

DBI1541E 与えられた状況ファイルからのオープンまたは読み取りに失敗しました。

説明: 状況ファイルからのオープンまたは読み取りを行うおうとしてエラーを検出しました。状況ファイルを手動で修正していない場合、次のいずれかのエラーが発生しました。

- 誤ったファイル・パスが指定された。

- 誤ったアクセス許可が、状況ファイルに割り当てられている。
- 与えられたパスと関連したファイル・システムが、正しく取り付けられていない。

ユーザーの処置: パスをチェックしてコマンドを再試行してください。UNIX のどのファイルおよびディレクトリーの名前でも、大文字小文字が区別されます。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題記述
3. 状況ファイル

DBI1550E ファイル・システムに十分なディスク・スペースがありません。

説明: ファイル・システムにもっと多くのディスク・スペースを割り振ろうとしてエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 指定の処理に十分なスペースが解放されてから、コマンドを再試行してください。

DBI1570I 使用法 :**db2olset InstName**

説明: 間違った引き数が db2olset コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用法情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

InstName

OLAP スターター・キットで使用できるようセットアップしたいインスタンスの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

db2olset InstName

DBI1631E サンプル・データベースを作成中にエラーが発生しました。

説明: 次の状態のいずれかが発生しました。

- ファイル・システムに十分なディスク・スペースがありません。
- DB2 製品が正しくインストールされていないか、あるいはコンポーネント・ファイルに抜けがある。

ユーザーの処置: ディスク・スペースの問題ではない場合、製品の再インストールを行います。問題が解決しない場合、トレースをオンにして CLP を介してデータベ

ースを作成するステップを再試行してください。次に、ファイルにトレース情報を保管して、IBM サポート担当者に次の情報を伝えてください。

- メッセージ番号
- 問題記述
- トレース・ファイル

DBI1632E 「自動開始」インスタンスの構成中にエラーが発生しました。

説明: 次の状態のいずれかが発生しました。

- インスタンスを「自動開始」する機能がすでに使用可能である。
- “/etc/inittab” ファイルに入力を追加しようとして、エラーが発生した。これはファイル許可の問題である場合があります。
- db2uit ツールがない。

ユーザーの処置: 上記 3 つのいずれかの状態に当てはまる場合、問題を訂正してコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

- メッセージ番号
- 問題記述

DBI1633E インスタンスを「自動開始」する構成を削除中にエラーが発生しました。

説明: 次の状態のいずれかが発生しました。

- インスタンスを「自動開始」する機能が使用できない。
- “/etc/inittab” ファイルの入力を削除しようとして、エラーが発生した。これはファイル許可の問題である場合があります。
- db2uit ツールがない。

ユーザーの処置: 上記 3 つのいずれかの状態に当てはまる場合、問題を訂正してコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

- メッセージ番号
- 問題記述

DBI1634W /etc/rc.db2v08 を更新して、dlfs ファイル・システムを自動マウントすることができません。

説明: /etc/rc.db2v08 を更新して、システム・リブート時に dlfs ファイル・システムの自動マウントを可能にしようとしたが、失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル /etc/rc.db2v08 を手操作で編

集し、次の行を追加してください。

```
if [ -x /etc/rc.dlfs ]; then
    /etc/rc.dlfs
fi
```

DBI1635E Administration Server グループ・リストに追加中に、エラーが発生しました。

説明: DB2 インスタンスを Administration Server グループ・リストに追加しようとして、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: このコマンドを NIS クライアントで実行中の場合、DB2 インスタンスのグループ名をご使用の NIS サーバーの Administration Server の第 2 グループに追加してみてください。

DBI1637W 「了解」をクリックすると、前のインスタンス設定は失われます。

ユーザーの処置: 続行するには「了解」をクリックしてください。取り消すには「取消」をクリックしてください。

DBI1639E 新規インスタンスをセットアップできません。

説明: 与えられたインスタンス名は既存のインスタンスに属していません。

ユーザーの処置:

- 新しいインスタンスを作成してください。
 - 対話式インストーラーを使用している場合、インスタンス作成パネルで新しいインスタンスを作成するよう選択してください。
 - 応答ファイル・インストーラーを使用している場合、ユーザーについての追加情報を与えてください。
- 既存のインスタンスの名前を入力してください。

DBI1640W 指定されたインスタンスはサーバー・インスタンスではありません。

説明: DB2 サーバー・インスタンスとして構成できるのは、DB2 コンポーネントの一部だけです。

ユーザーの処置:

- 指定されたインスタンスがクライアント・インスタンスで、DB2 サーバー製品がインストールされている場合、db2iupdt を実行してクライアント・インスタンスをサーバー・インスタンスに更新してください。

- 指定されたインスタンスが Data Link Administration Server である場合、インストーラーを終了し、必要であれば、インスタンスをコマンド行でセットアップしてください。

DBI1651E 指定の UID は無効です。

説明: 無効な UID が入力されています。次の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられた UID はシステム上の既存のユーザーにすでに割り当てられている。
- 与えられた UID が大きすぎるか、あるいは無効文字が入っている。
- 与えられた UID が 100 より小さいか等しい。

ユーザーの処置: 別のユーザー ID で再試行してください。

DBI1652E 指定のユーザー名が無効です。

説明: 無効な名前が入力されました。次の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたユーザー名がシステムにすでに存在している。
- 与えられたユーザー名がシステムにすでに存在しているが別のグループ名に属している。
- 与えられたユーザー名が大きすぎるか、あるいは無効文字が入っている。

ユーザーの処置: 別のユーザー名で再試行してください。

DBI1653E 指定のグループが無効です。

説明: 無効なグループ ID あるいはグループ名が入力されています。次の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたグループ ID がすでに存在しているがシステムの別のグループ名に属しているか、あるいは与えられたグループ名がすでに存在しているが別のグループ ID に属している。
- 与えられたグループ ID あるいはグループ名が大きすぎるか、あるいは無効文字が入っている。
- 与えられたグループ ID が 100 より小さいか等しい。

ユーザーの処置: 別のグループ ID あるいはグループ名で、再試行してください。

DBI1654E 指定したディレクトリーが無効です。

説明: 無効なディレクトリーが入力されています。次の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたユーザーはすでに存在するがシステム上に別のホーム・ディレクトリーを指定している。
- 与えられたディレクトリーが大きすぎるか、あるいは無効文字が入っている。

ユーザーの処置: システム上で指定されたユーザーのホーム・ディレクトリーあるいは別のディレクトリーを指定して再試行してください。

DBI1655E 指定されたパスワードが無効です。

説明: 無効なパスワードが入力されています。次の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたパスワードの長さがゼロである。
- 与えられたパスワードが検証パスワードと一致しない。
- 与えられたパスワードに無効文字が入っている。

ユーザーの処置: 別のパスワードで再試行してください。

DBI1657E インスタンス名はすでに使用されています。

説明: 同じ名前を持つインスタンスがすでにシステムに存在します。

ユーザーの処置: “db2ilist” コマンドによって報告されたインスタンスのリストで確認してください。別のユーザー名で再試行してください。

DBI1701E 指定された 1 つまたは複数の TCP/IP パラメーターが無効です。

説明: 次の状態のいずれかが発生しました。

- サービス名の長さが 14 文字を超えています。
- 指定されたポート番号は範囲外にあります。この番号は 1024 から 65535 の間の数値にしてください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して再度試行してください。

DBI1702E 指定されたサービス名あるいはポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と対立します。

説明: ユーザーによって入力されたサービス名あるいはポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と対立します。サービス名は別のポート番号ですすでに使用されている可能性があるか、あるいはポート番号が別

のサービス名ですすでに使用されている可能性があります。

ユーザーの処置: サービス・ファイルにすでにある項目と競合しないサービス名およびポート番号を指定してください。

DBI1703E 有効なサービス名あるいはポート番号が見つかりません。

説明: このインスタンスの有効なサービス名あるいはポート番号が TCP/IP サービス・ファイルに見つかりません。この情報は存在しないか、無効かのいずれかです。

“DB2 Extended Server Edition” 製品をインストールした場合、このコマンドの使用前に、インスタンスのサービス名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: このインスタンスの有効なサービス名およびポート番号を指定して、このコマンドを再入力してください。

DBI1704W TCP/IP はシステムで実行されていません。

説明: TCP/IP はシステムで実行されていません。TCP/IP サービス・ファイルは更新されません。

DBI1709E TCP/IP サービス・ファイルを更新中にエラーが発生しました。

説明: サービス名およびポート番号の TCP/IP サービス・ファイルへの追加の試行に失敗しました。

ユーザーの処置: ユーザーがノード・ディレクトリー項目のポート番号ではなく、サービス名を使用したい場合、ノードを手動でアンカタログしてからこのサービス名を使用して再度カタログしてください。サービス・ファイルも手操作で更新してください。ネットワーク情報サービス (NIS) が使用されている場合、ローカル・サービス・ファイルを更新する可能性があります。NIS サーバーは手操作で更新してください。この場合、ノードもポート番号を使用してカタログされました。

DBI1711E 指定された 1 つまたは複数の IPX/SPX パラメーターが無効です。

説明: 次の状態のいずれかが発生しました。

- fileserver, objectname, あるいは ipx_socket パラメーターが null である。
- fileserver パラメーターが * に設定されているが objectname は * に設定されていない。
- 指定された objectname あるいは ipx_socket 値がユニークでない。
- 指定された ipx_socket 値が有効範囲にない。

ユーザーの処置: 問題を訂正して再度試行してください。

DBI1715E NetWare ユーザー ID または NetWare パスワードが無効です。

説明: 指定する NetWare ユーザー ID および NetWare パスワードは存在するもので NetWare ファイル・サーバーの DB2 オブジェクト名を登録するために使用され、監視あるいはそれと同等の権限が必要です。

ユーザーの処置: 問題を訂正して再度試行してください。

DBI1720E 指定されたユーザー ID あるいはグループ ID は NIS が実行中のため追加されません。

説明: NIS がシステムで実行中です。新規ユーザー ID あるいはグループ ID は NIS がシステムで実行中の間は作成されません。

ユーザーの処置: 以前作成されたユーザー ID およびグループ ID を使用してください。

DBI1722E 指定されたサービスは NIS が実行中のため /etc/services ファイルに追加されません。

説明: NIS がシステムで実行中です。新規サービスは NIS がシステムで実行中の間は /etc/services に作成されません。

ユーザーの処置: /etc/services ファイルの以前作成されたサービス名およびポート番号を使用して再試行してください。

DBI1725W データウェアハウス・エージェント用のエージェント・デーモンおよびロガー・サービスを作成できません。

説明: TCP/IP はシステムで実行されていません。インストールは続行されますが、エージェント・デーモンとロガー・サービスを手操作で作成する必要があります。

ユーザーの処置: システムで TCP/IP を活動化し、インストーラーを実行してください。

DBI1740W セキュリティー・リスクです。

説明: ここでデフォルト・インスタンスのユーザー ID を使用すると、このインスタンスにシステム上の他のインスタンスに対する全アクセス権限許可が与えられます。セキュリティ上の理由から別のユーザー ID を使用することをお勧めします。

ユーザーの処置: セキュリティー・リスクの可能性を回避するには、別のユーザー ID を使用してください。

DBI1741W プロトコルが検出されません。

説明: 選択したプロトコルが検出されません。DB2 インストーラーはプロトコルに必要な設定のすべてを更新することはできません。ただし、このプロトコルの設定に対する値は提供することができます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1744W DB2 Data Links Manager 管理者が作成されていません。

説明: DB2 Data Links Manager 管理者を作成していません。DB2 Data Links Manager 管理者を作成していないと、DB2 Data Links Manager を管理することができません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1745W Administration Server が作成されません。

説明: Administration Server を作成していません。Administration Server がなければ、DB2 データベースへの接続の構成を自動で行なうクライアント・ツールをサポートするサービスを提供できず、サーバー・システムまたはコントロール・センターを使用してリモート・クライアントから DB2 を管理することができません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1746W DB2 インスタンスは作成されません。

説明: DB2 インスタンスを作成していません。DB2 インスタンスはデータの保管およびアプリケーションの実行環境です。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1747W 指定されたディレクトリーはすでに存在します。

説明: ホーム・ディレクトリー・フィールドで指定されたディレクトリーはすでに存在します。このディレクトリーの使用を選択すると、許可上の問題が発生する可能性があります。

ユーザーの処置: これが問題となる場合には、別のディレクトリーを選択してください。

DBI1750W セキュリティー・リスクです。

説明: ここでデフォルト・インスタンスのユーザー ID を使用すると、このインスタンスにシステム上の他のインスタンスに対する全アクセス権限許可が与えられます。セキュリティ上の理由から別のユーザー ID を使用することをお勧めします。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「了解」を押してください。
- 「取消」を押して別のユーザー ID を入力してください。

DBI1751W プロトコルが検出されません。

説明: 選択したプロトコルが検出されません。DB2 インストーラーはプロトコルに必要な設定のすべてを更新することはできません。ただし、このプロトコルの設定に対する値は提供することができます。

ユーザーの処置:

- プロトコルの設定を提供するのであれば「了解」を押してください。
- 無視するのであれば「取消」を押してください。

DBI1753W Administration Server が作成されません。

説明: Administration Server を作成していません。DB2 Administration Server なしでは、データウェアハウス・エージェントは完全にセットアップされません。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「了解」を押してください。
- 戻るには、「取消」を押してください。

DBI1754W DB2 Data Links Manager 管理者が作成されていません。

説明: DB2 Data Links Manager 管理者を作成していません。DB2 Data Links Manager 管理者を作成していないと、DB2 Data Links Manager を管理することができません。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「了解」を押してください。
- 戻るには、「取消」を押してください。

DBI1755W Administration Server が作成されません。

説明: Administration Server を作成していません。Administration Server がなければ、DB2 データベースへの接続の構成を自動で行なうクライアント・ツールをサ

ポートするサービスを提供できず、サーバー・システムまたはコントロール・センターを使用してリモート・クライアントから DB2 を管理することができません。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「了解」を押してください。
- 戻るには、「取消」を押してください。

DBI1756W DB2 インスタンスは作成されません。

説明: DB2 インスタンスを作成していません。DB2 インスタンスはデータの保管およびアプリケーションの実行環境です。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「了解」を押してください。
- 戻るには、「取消」を押してください。

DBI1757W 指定されたディレクトリーはすでに存在します。

説明: ホーム・ディレクトリー・フィールドで指定されたディレクトリーはすでに存在します。このディレクトリーの使用を選択すると、許可上の問題が発生する可能性があります。

ユーザーの処置:

- このディレクトリーを使用するばあいは「了解」を押してください。
- 戻るには、「取消」を押してください。

DBI1758W DB2 インスタンスまたは Administration Server を検出しました。

説明: 全 DB2 製品の除去が選択されました。しかし、DB2 インスタンスまたは Administration Server がシステムで検出されました。最初にこれらのインスタンスをドロップせずに DB2 製品を除去すると、DB2 インスタンスが後で正しく機能できない場合があります。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「了解」を押してください。
- 戻るには、「取消」を押してください。

DBI1759W DB2 インスタンスまたは Administration Server 構成を検出しました。

説明: 選択した Administration Server がありません。これによって、Administration Server および DB2 インスタンス構成が廃棄されてしまいます。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「了解」を押してください。
- 戻るには、「取消」を押してください。

DBI1760E pkg-name をセットアップするには、パッケージをインストールする必要があります。

説明: インスタンスの DB2 コンポーネントを構成するよう選択しました。パッケージがインストールされていなければ、これを行うことはできません。

ユーザーの処置: パッケージをインストールして、もう一度やり直してください。

DBI1761W ソフトウェア前提条件が、ファイル・セットまたはパッケージ pkg-name で違反しています。

説明: ソフトウェアの前提条件を上記ファイル・セットまたはパッケージで検証中にエラーが起きました。処理を続行すると、製品が正しく機能しない可能性があります。前提条件をインストールしないまま処理を続行しますか？

ユーザーの処置:

- 前提条件をインストールしないまま処理を続行する場合には「了解」を押してください。
- インストールをやめるのであれば「取消」を押してください。

DBI1762W ソフトウェア依存関係が、ファイル・セットまたはパッケージ pkg-name で違反しています。

説明: ソフトウェアの依存関係を上記ファイル・セットまたはパッケージで検証中にエラーが起きました。処理を続行すると、ソフトウェア依存関係をすべて削除する可能性があります。ソフトウェア依存関係を除去しますか？

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「了解」を押してください。
- 戻るには、「取消」を押してください。

DBI1763I 英語の HTML ドキュメンテーション・ファイルもインストールされます。

説明: 英語の HTML ドキュメンテーション・ファイルは、英語以外の HTML ドキュメンテーション・ファイルをインストール対象として選択した場合に必要です。これは、ユーザーが DB2 ドキュメンテーション・ライブラリー全体を検索することができるかどうかを確認するためのものです。

DBI1765W 存在しないユーザー ID *InstName* がレジストリーから検出されました。

説明: レジストリーに存在しないユーザー ID が入っています。この状態は、最初にインスタンスをドロップせずにユーザー ID のみを除去したために発生します。DB2 の通常の操作には影響しませんが、レジストリーのインスタンス・リストからこのユーザー ID を除去することをお勧めします。

ユーザーの処置: 次のコマンドを指定してレジストリーからこのユーザー ID を除去してください。db2iset -d "<InstName>"

DBI1766W *userId* の第 2 グループ・リストを変更することができません。

説明: 与えられたユーザー ID の第 2 グループ・リストを変更しようとしてコード "<code>" が返されました。次の状態のいずれかが発生しました。

- NIS が実行中である。
- 与えられたユーザー ID で現在実行中の処理がある。

ユーザーの処置: Administration Server が正しく機能するように、グループ ID "<groupId>" をユーザー ID "<userId>" の第 2 グループ・リストに追加する必要があります。

- 与えられたユーザー ID で実行中の処理がある場合には、この処理をすべて終了して、上記の指示に従ってこのユーザー ID の 2 次グループ・リストをセットアップしてください。
- このコマンドを NIS クライアントで実行中の場合、上記の指示に従ってご使用の NIS サーバーにあるユーザー ID の第 2 グループをセットアップしてください。

DBI1767W DB2 レジストリーには破壊された情報が入っている可能性があります。

説明: レジストリーには無効なインスタンス情報が入っている可能性があります。これは、インスタンスあるいは Administration Server が、DB2 製品を除去する前に、正しく除去されていないことが原因となっている可能性があります。製品を再インストールして、レジストリー中の既存のインスタンス情報を保持したい場合には、「取消」を押してください。そうでない場合には、「了解」を押して、レジストリーを再作成します。レジストリーを再作成しますか。

ユーザーの処置:

- レジストリーを再作成するには、「了解」を押してください。

- 現在のレジストリー情報を保持するには、「取消」を押してください。

DBI1768W *db2profile* をユーザー *inst-name* の **.profile** ファイルに、あるいは *db2cshrc* をこのユーザーの **.login** ファイルに追加できません。

説明: DB2 は、このユーザーの **.profile** ファイルまたは **.login** ファイルを修正することができません。これらのファイルが存在しないか、または書き込み許可がない可能性があります。修正をしないと、DB2 を使用するために、このユーザーでログインするたびに、手動で環境を設定する必要があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの処理を行ってください。

.profile ファイルに *db2profile* を追加する
.login ファイルにソース *db2cshrc* を追加する

DB2 環境を自動的に設定する方法に関する詳細については、「概説およびインストール」をご覧ください。

DBI1769W DB2 プロファイル項目を *inst-name* の **.profile** あるいは **.login** ファイルから除去することができません。

説明: DB2 は、このユーザーの **.profile** ファイルまたは **.login** ファイルにある DB2 環境設定行を注釈にすることができません。次回このユーザーでログインするときに、ファイル *db2profile* (あるいは *db2cshrc*) が見つからないというメッセージを受け取る可能性があります。これは、次のいずれかが原因となっています。

- 2 ファイル (**.profile** と **.login**) が存在していない。
- 2 ファイルに対する書き込み許可がない。

ユーザーの処置: *db2profile* あるいは *db2cshrc* の脱着に関するメッセージを受け取った場合、ご使用の **.profile** あるいは **.login** ファイルを探索し、次の行を注釈にしてください。

```
. sqllib/db2profile      .profile ファイルから  
source sqllib/db2cshrc  .login ファイルから
```

DBI1770E ファイル */etc/vfs* を更新することができません。

説明: 次の DB2 Data Links Manager 特定項目が */etc/vfs* ファイルに必要です。

```
dlfs dlfs_num /sbin/helpers/dlfs_mnthelp none
```

dlfs_num は 12 に設定されるか、または 12 がすでに別の *fs* に割り当てられている場合は、8 から 15 までの

番号を設定します。この行を /etc/vfs ファイルに挿入しようとして、インストール処理が失敗しました。これは、次のいずれかが原因となっている可能性があります。

- このファイルに対する書き込み許可がない。
- 8 から 15 までの番号がすべて使用されており、dlfs に割り当てられる番号がない。

ユーザーの処置: 手動で /etc/vfs ファイルを編集して、dlfs 項目を追加してください。

DBI1771I ファイル /etc/vfs は /tmp/db2.etcvfs.backup にコピーされました。

説明: DB2 Data Links Manager を作動させるためには、次の行を /etc/vfs ファイルに挿入する必要があります。

```
dlfs dlfs_num /sbin/helpers/dlfs_mnthelp none
```

オリジナルの /etc/vfs ファイルのバックアップ・コピーは /tmp/db2.etcvfs.backup にあります。

DBI1775W 既存の /etc/rc.dlfs ファイルが変更されました。

説明: DB2 が、既存の /etc/rc.dlfs ファイルを新しい dlfs ファイル・システム・マウント項目で変更しました。

ユーザーの処置: ファイル /etc/rc.dlfs を調べて、すべての項目が正しいことを確認してください。

DBI1780W DB2 Data Links Manager は、現行オペレーティング・システムのバージョンではサポートされていません。

説明: 現行オペレーティング・システムのバージョンは、DB2 Data Links Manager の実行をサポートしていません。ただし、ご自分の責任において、製品をインストールして構成することはできます。DB2 Data Links Manager をサポートしているオペレーティング・システムを以下にリストします。

- “<OSlist>”

DBI1781E 使用法: -l <language> -t <topic> [-p <path>] [-d]

有効なトピックには、以下のものがあります。

core コア DB2 情報

admin 管理情報

ad アプリケーション開発情報

wareh ビジネス・インテリジェンス情報

conn DB2 Connect 情報

start 入門情報

tutr チュートリアル情報

opt オプションのコンポーネント情報

有効な言語には、以下のものがあります。

DBI1782E 言語が指定されていません。

説明: これらの使用可能言語の中から少なくとも 1 つの言語を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 完全リストを表示するには、パラメーターを指定せずにコマンドを発行してください。

DBI1783E トピックが指定されていません。

説明: これらの使用可能トピックの中から少なくとも 1 つのトピックを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 完全リストを表示するには、パラメーターを指定せずにコマンドを発行してください。

DBI1784E 言語は使用できません。

説明: インストールに使用できない言語を指定しました。

ユーザーの処置: 完全リストを表示するには、パラメーターを指定せずにコマンドを発行してください。

DBI1785E トピック・パッケージは使用できません。

説明: インストールに使用できない文書パッケージを指定しました。

ユーザーの処置: 完全リストを表示するには、パラメーターを指定せずにコマンドを発行してください。

DBI1790E ODSSI ユーティリティはまだインストールされていないため、**DB2** 検索索引を作成することはできません。

説明: ODSSI ユーティリティはまだインストールされていません。次のユーティリティ (config_search、config_view および config_help) は、DB2 オンライン文書の検索索引を作成するために必要です。

ユーザーの処置: ODSSI ユーティリティをインストールして、次のコマンドを実行してください。

```
/opt/IBM/db2/V8.x/doc/db2insthtml lang_locale、  
ここで x は 1 または FPn、  
ここで n はフィックスバック番号
```

このコマンドは、言語ロケールである lang_locale に、DB2 ドキュメンテーションの検索索引を作成します。どの言語でドキュメンテーションをインストールしても、英語のドキュメンテーションもインストールされることに注意してください。英語ファイルの索引を作成するには、次のコマンドを実行してください。

```
/opt/IBM/db2/V8.x/doc/db2insthtml en_US、  
ここで x は 1 または FPn、  
ここで n はフィックスバック番号
```

DBI1791W html ファイルで **DB2** 検索索引を作成/除去する時に発生する可能性があるエラーです。

説明: DB2 は、システム・ユーティリティ config_view と config_help を実行して、SCOHELP で使用される DB2 検索索引の作成あるいは除去を行います。ただし、システム上に、正しく作成/除去されていない DB2 以外の別の索引がある場合、エラー・メッセージが戻る可能性があります。

ユーザーの処置:

- DB2 索引を作成していた場合、SCOHELP を開始して、DB2 項目がトピック・パネルに追加されているかどうか、調べてください。“TCP/IP” のようなストリングをテスト検索して、その結果が得られるか調べます。検索が可能であれば、DB2 検索索引は正常に作成されています。
- DB2 索引を除去していた場合、SCOHELP を開始して、DB2 項目がトピック・パネルから除去されているかどうか、確認してください。項目がなくなっていると、DB2 索引は正常に除去されています。
- DB2 索引が正常に作成あるいは除去されているかどうか確認することができない場合、IBM サポートに連絡してください。

DBI1792I DB2 ドキュメンテーション・ファイルの検索索引を作成しています。お待ちください ...

説明: DB2 ドキュメンテーション・ファイルの検索索引を作成しています。選択した言語によって、時間がかかる場合があります。

DBI1793W ユーザー ID *userID* は不明です。

説明: 指定されたユーザーが不明か、または現行システム上で見つかりません。

ユーザーの処置: ユーザーがこのシステムに存在することを確認してから再試行してください。

DBI1794E 1 つのグループに入れようとしたアイコンの数が多すぎます。

説明: デスクトップ・マネージャーによって許可された数を超えるアイコンを必須フォルダーに入れようとした。

ユーザーの処置: デスクトップから不要なアイコンを除去して、コマンドを再試行してください。

DBI1795E すべての必須アイコンを作成するための空きメモリーが足りません。

説明: アイコンの生成中にアイコン作成ユーティリティがメモリーを使い果たしました。

ユーザーの処置: 不要なプログラムをクローズして、もう一度やり直してください。

DBI1796W 適切な許可なしでディレクトリーにアイコンを作成しようとした。

説明: このユーザー ID は、要求されたユーザーのアイコンを作成するために必要な許可を持っていません。

ユーザーの処置: ルート権限を持つユーザー、または、ユーザー・ディレクトリー内にファイルを作成するために必要な許可を持つユーザーとしてログオンして、コマンドを再試行してください。

DBI1797I アイコンが正常に作成されました。

DBI1900N Windows NT クラスタ・サポートはアクセスできません。

説明: DB2 は Windows NT クラスタにアクセスできません。

ユーザーの処置: Windows NT クラスタ・サポートが正しくインストールされていてクラスタ・サービス

が開始済みであることを確認してください。

DBI1901N DB2/NT クラスター・サービスに対するユーザーの権利を更新しようとしてエラーが発生しました。

説明: DB2 サービスで使用するよう指定されたアカウントに対して必要なユーザー権利を与えようとしたときに DB2 でエラーが起きました。

ユーザーの処置: 有効なアカウントが指定されていてユーザーの権利を与えるのに必要な特権があることを確認してください。

DBI1902N DB2/NT クラスター・サービス構成を更新しようとしてエラーが発生しました。

説明: DB2/NT クラスター・サービス構成を更新しようとして DB2 でエラーが起きました。

ユーザーの処置: サービス・データベースがロックされていないこととアクセス可能であることを確認してください。また、DB2/NT クラスター・サービスが作成されていることも確認してください。

DBI1903N クラスター・レジストリーのアクセス中にエラーが起きました。

説明: Windows NT クラスター・レジストリーを読み取りあるいは更新しようとして DB2 でエラーが起きました。

ユーザーの処置: Windows NT クラスター・サポートが正しくインストールされていてクラスター・サービスが開始済みであることを確認してください。現在のログオン・ユーザー・アカウントにクラスター・レジストリーに接続する権限があることを確認してください。

DBI1904N DB2 インスタンスがクラスターされていません。

説明: DB2 はクラスター操作を行うためにインスタンスにアクセスしようとしたがインスタンスは DB2 クラスター・インスタンスとして識別されませんでした。

ユーザーの処置: インスタンスがクラスター・オプションで作成されたか確認してください。インスタンスがドロップされてクラスター・オプションで再作成される可能性があります。ノード・ディレクトリー、データベース・ディレクトリー、およびデータベース・マネージャー構成ファイルは失われます。

DBI1905N DB2 クラスター操作中にシステム・エラーが発生しました。

説明: DB2 がクラスター操作を実行中にシステム・エラーを検出しました。

ユーザーの処置: Windows NT オペレーティング・システムが、クラスター・サポートに対して適切なレベルにあることを確認してください。

また、Windows NT クラスター・サポートが正しくインストールされていてクラスター・サービスが開始済みであることを確認してください。

DBI1906N DB2 クラスター・インスタンスにノードを追加しようとしてエラーが発生しました。

説明: DB2 クラスター・インスタンスをサポートするノードを更新しようとしてエラーが起きました。

ユーザーの処置: リモート・システムがオンラインで LAN でアクセス可能であることを確認してください。また、リモート・システムでレジストリーの更新を行うのに必要な特権があることも確認してください。

DBI1907N DB2 クラスター・インスタンスからノードを削除しようとしてエラーが発生しました。

説明: DB2 クラスター・インスタンスからノードを削除しようとしてエラーが発生しました。

ユーザーの処置: リモート・システムがオンラインで LAN でアクセス可能であることを確認してください。また、リモート・システムでレジストリーの更新を行うのに必要な特権があることも確認してください。

ワークステーション自体からクラスター・サポートをドロップできません。このタスクを実行するためにインスタンスをドロップしてください。

DBI1908N リモート・システム上にインスタンス・プロファイルを作成しようとしてエラーが発生しました。

説明: クラスター・サポートを使用可能にするために、リモート・システム上にインスタンス・プロファイルを作成しようとしてエラーを検出しました。

ユーザーの処置: リモート・システムがオンラインで LAN でアクセス可能であることを確認してください。また、リモート・システムでレジストリーの更新を行うのに必要な特権があることも確認してください。

DBI1909N リモート・システム上のインスタンス・プロファイルを削除しようとしてエラーが発生しました。

説明: クラスタ・サポートを使用不能にするために、リモート・システム上のインスタンス・プロファイルを削除しようとしてエラーを検出しました。

ユーザーの処置: リモート・システムがオンラインで LAN でアクセス可能であることを確認してください。また、リモート・システムでレジストリーの更新を行うのに必要な特権があることも確認してください。

DBI1910N 使用法 : **DB2NCRT -I:Instance-Name -C:cluster-node**

説明: ユーザーが DB2NCRT コマンドに対して誤った引き数を指定しました。

ユーザーの処置: クラスタされたインスタンスおよびクラスタ・ノードに対する有効なワークステーション名を指定してコマンドを再発行してください。

DBI1911N 使用法 : **DB2NLIST -I:Instance-Name**

説明: ユーザーが DB2NLIST コマンドに対して誤った引き数を指定しました。

ユーザーの処置: クラスタ化されたインスタンスを指定してコマンドを再発行してください。

DBI1912I **DB2** クラスタ・コマンドは成功しました。

説明: ユーザー要求は正常に処理されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1913N リモート・マシン・レジストリーへの接続ができません。

説明: リモート・マシンの Windows NT レジストリーに接続しようとして DB2 でエラーが起きました。

ユーザーの処置: ターゲット・マシンが実行中でコンピュータ名が正しいことを確認してください。また、現在のログオン・ユーザー・アカウントにリモート・マシン・レジストリーにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。

DBI1914N クラスタ・レジストリーへの接続ができません。

説明: Windows NT クラスタ・レジストリーに接続しようとして DB2 でエラーが起きました。

ユーザーの処置: Windows NT クラスタ・サポート

が正しくインストールされていてクラスタ・サービスが開始済みであることを確認してください。

DBI1915N ターゲット・マシンは Windows NT クラスタに所属しません。

説明: コマンドは次の理由のいずれかで失敗しました。

- (1) db2iclus ユーティリティが DB2 MSCS インスタンスからマシンを除去しようとしたがターゲット・マシンが DB2 MSCS インスタンスに追加されていない。
- (2) db2iclus ユーティリティがマシンを DB2 MSCS インスタンスに追加しようとしたがターゲット・マシンに、必要な Windows NT クラスタのサポート・ソフトウェアがインストールされていない。

ユーザーの処置: 問題の原因に対応する処置に従ってください。

- (1) "db2iclus list" コマンドを実行してマシンが DB2 MSCS インスタンスの一部であることを確認する。
- (2) ターゲット・マシンに Windows NT クラスタ・ソフトウェアをインストールしてコマンドをやり直す。

DBI1916N 指定されたインスタンス名が無効です。

説明: インスタンス名パラメーターで指定されたインスタンスがローカル・マシンに存在しません。

ユーザーの処置: 有効なインスタンスのリストを検出するには、db2ilist コマンドを実行してください。有効なインスタンス名を使用して、コマンドを再発行してください。

DBI1918N Windows NT レジストリーのアクセス中にエラーが起きました。

説明: ターゲット・マシンの Windows NT レジストリーを読み取りあるいは更新しようとして DB2 でエラーが起きました。

ユーザーの処置: 現在のログオン・ユーザー・アカウントにターゲット・マシンの Windows NT レジストリーにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。問題が解決しない場合は IBM サービス技術員に連絡して助言を受けてください。

DBI1919N TCP/IP サービス・ファイルのアクセス中にエラーが起きました。

説明: TCP/IP サービス・ファイルの読み取りあるいは更新中に DB2 でエラーが起きました。

ユーザーの処置: システムにサービス・ファイルが存在しておりそのファイルが読み取りおよび書き込み権限にアクセスすることができることを確認してください。また、ファイルの内容が有効で、サービス・ファイルに項目の重複がないことも確認してください。

DBI1920N DB2 インスタンス・プロファイル・パス・パラメーターが無効です。

説明: DB2 インスタンス・プロファイル・パスが存在しないか、書き込みアクセスが現在のログオン・ユーザー・アカウントに与えられていないため、指定した DB2 インスタンス・プロファイル・パスに DB2 はアクセスできません。

ユーザーの処置: DB2 インスタンス・プロファイル・ポイントのパス名が有効なディレクトリーとなっていて、現在のログオン・ユーザー・アカウントがそのディレクトリーに対して書き込みアクセスがあることを確認してください。

DBI1921N ユーザー・アカウントあるいはパスワードが無効です。

説明: ユーザー・アカウントあるいはパスワードが無効です。

ユーザーの処置: 正しいアカウントでコマンドを再発行してください。

DBI1922N ホスト名が無効です。

説明: TCP/IP ホスト名パラメーターが無効であるか存在しないかのいずれかです。

ユーザーの処置: TCP/IP がシステムで操作可能であることを確認してください。ドメイン・ネーム・サーバーを使用している場合、定義域名サーバーがアクティブであることを確認してください。正しい TCP/IP ホスト名を使用してコマンドを再発行してください。

DBI1923N TCP/IP ポート範囲パラメーターが指定されていません。

説明: パーティション・データベース・インスタンスに対する TCP/IP ポート範囲がサービス・ファイルに追加されていない場合にこのインスタンスを作成するには、db2icrt ユーティリティーには TCP/IP ポート範囲の指定が必要です。

ユーザーの処置: システムで使用可能な TCP/IP ポートの範囲を選択して db2icrt コマンドに -r オプションを付けて再発行してください。

DBI1924N コンピューター名が無効です。

説明: コンピューター名パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: ターゲット・マシンが実行中でコンピューター名が正しいことを確認してください。また、現在のログオン・ユーザー・アカウントにマシン・レジストリーに接続できるだけの権限があることを確認してください。

DBI1925N DB2 サービスの状況を照会できません。

説明: DB2 サービスの状況の照会が DB2 ではできません。

ユーザーの処置: DB2 サービスがターゲット・マシンに存在しているか確認してください。現在のログオン・ユーザー・アカウントにターゲット・マシンのサービス状況を照会できるだけの権限があることを確認してください。

DBI1926N パスワードが期限切れです。

説明: アカウント・パスワードの期限が切れています。

ユーザーの処置: パスワードを変更した後で、新しいパスワードを使用して要求を再試行してください。

DBI1927N 使用法 :

```
db2iclus { ADD /u:Username,Password
           [/m:Machine name] |
           DROP [/m:Machine name] |
           MIGRATE /p:Instance profile path |
           UNMIGRATE }
           [/i:instance name]
           [/DAS DASname]
           [/c:Cluster name]
```

説明: このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

ADD DB2 MSCS インスタンスに MSCS ノードを追加する

DROP DB2 MSCS インスタンスから MSCS ノードを除去する

MIGRATE
MSCS 以外のインスタンスを MSCS インスタンスに移行する

UNMIGRATE
MSCS 移行を取り消す

このコマンドの有効なオプションは以下のとおりです。

- /DAS** DAS インスタンス名を指定する。このオプションは、DB2 Administration Server に対してクラスタ操作を実行するときに必要です。
- /c** デフォルト/現行クラスタと異なる場合 MSCS クラスタ名を指定する
- /p** インスタンス・プロファイル・パスを指定する。このオプションは、MSCS 以外のインスタンスを MSCS インスタンスに移行するときに必要です。
- /u** DB2 サービスのアカウント名およびパスワードを指定する。このオプションは別の MSCS ノードを DB2 MSCS パーティション・データベース・インスタンスに追加するときに必要です。
- /m** MSCS ノードを追加または除去するためのリモート・コンピューター名を指定する
- /i** デフォルト/現行インスタンス名と異なる場合インスタンス名を指定する

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1928N ユーザー・アカウントが指定されています。

説明: パーティション・データベース・インスタンスの作成あるいはノードの追加を行う時には、ユーザー・アカウント・パラメーターを指定する必要があります。

Windows NT 環境では、インスタンス・ディレクトリーが置かれたネットワーク共有にアクセスするには、有効な Windows NT アカウントのもとでデータベース・マネージャー区分 (あるいは MPP ノード) を実行しなければなりません。

ユーザーの処置: コマンドに `-u` オプションを指定して、ユーザー・アカウント名とパスワードを指定して、再発行してください。

DBI1929N インスタンスは MSCS サポートですすでに構成されています。

説明: インスタンスは MSCS サポートですすでに構成されているため MSCS インスタンスへのインスタンスの移行が失敗しました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1930N ターゲット・マシンはすでに DB2 MSCS インスタンスの一部です。

説明: ターゲット・マシンがすでに DB2 MSCS インスタンスの一部であるため MSCS ノードの DB2 MSCS インスタンスへの追加が失敗しました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1931N データベース区分サーバー (ノード) がアクティブです。

説明: データベース区分サーバーがアクティブなためドロップあるいは修正はできません。

ユーザーの処置: データベース区分サーバーがドロップあるいは変更の前に停止していることを確認してください。データベース区分サーバーを停止するには、次のように `db2stop` コマンドを使用します。

```
db2stop nodenum <node-number>
```

DBI1932N リモート・マシン上に同一インスタンスが存在しているためリモート・マシン上にデータベース区分サーバーを追加できません。

説明: リモート・マシンにインスタンスが存在しているため `db2nrcr` コマンドはリモート・マシン上に新規のデータベース区分サーバーを追加できません。

ユーザーの処置: リモート・マシン上のインスタンスが使用できない場合リモート・マシン上で `db2idrop` コマンドを実行してインスタンスを除去してください。

DBI1933N システムにデータベースが存在しているためデータベース区分サーバーは新規のマシンに移動されません。

説明: `db2nchg` コマンドが `/m:machine` オプションを指定して発行されるとこのコマンドはデータベース・パーティション・サーバーを新規のマシンに移動します。システムにデータベースが存在している場合には `db2nchg` は失敗します。

ユーザーの処置: データベースが存在する時に新規マシンにデータベース区分サーバーを移動するには、`db2start restart` コマンドを使用してください。 `db2start` コマンドの詳細については、『DB2 コマンド・リファレンス』を参照してください。

DBI1934N 使用法 :**db2iupdt InstName**

/u:username,password
[/p:instance profile path]
[/r:baseport,endport]
[/h:hostname]

説明: 無効な引き数が db2iupdt コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

InstName

インスタンスの名前

/u DB2 サービスのアカウント名およびパスワードを指定する。このオプションはパーティション・データベース・インスタンスを作成する時に必要です。

/p 更新されたインスタンスに対して新規のインスタンス・プロファイル・パスを指定する

/r MPP モードで実行する時にパーティション・データベース・インスタンスで使用される TCP/IP ポートの範囲を指定する。ローカル・マシンのサービス・ファイルはこのオプションが指定された場合に、次の項目で更新されま

DB2_InstName baseport/tcp
DB2_InstName_END endport/tcp

/h 現行マシンに TCP/IP ホスト名が複数ある場合、デフォルトの TCP/IP ホスト名を上書きする。

ユーザーの処置: 有効な引き数を使用してコマンドを再入力してください。

DBI1935N db2iupdt コマンドがインスタンス・ディレクトリーの更新に失敗しました。

説明: 次の理由のいずれかで db2iupdt コマンドがインスタンス・ディレクトリーの更新に失敗しました。

- (1) db2audit.cfg ファイルが ¥SQLLIB¥CFG ディレクトリーから欠落している。
- (2) db2iupdt コマンドにインスタンス・ディレクトリー内にファイルあるいはサブディレクトリーを作成するのに必要な権限がない。

ユーザーの処置: db2audit.cfg ファイルが ¥SQLLIB¥CFG ディレクトリーに存在し現行のログオン・アカウントにインスタンス・ディレクトリーにファイルおよびディレクトリーを作成するだけの権限があることを確認してください。インスタンス・ディレクト

リーは ¥SQLLIB¥InstName にあります (ここで InstName はインスタンスの名前です)。

DBI1936N db2iupdt コマンドはデータベース・マネージャー構成ファイルの更新に失敗しました。

説明: 前のデータベース・マネージャー構成ファイルが、壊れているか欠落しているため、db2iupdt コマンドはデータベース・マネージャー構成ファイルの更新ができませんでした。現在のインスタンスは不整合状態で使用できません。

ユーザーの処置: デフォルトのデータベース・マネージャー構成ファイルをインスタンス・ディレクトリーにコピーしてコマンドを再実行してください。インスタンス・ディレクトリーは ¥SQLLIB¥InstName にあります。デフォルトのデータベース・マネージャー構成ファイルは db2system という名前で ¥sqllib¥cfg ディレクトリーにあります。

DBI1937W db2ncrt コマンドは正常にノードを追加しました。このノードは、すべてのノードを再び停止および開始するまでアクティブになりません。

説明: すべてのノードが STOP DATABASE MANAGER (db2stop) コマンドで同時に停止されない限り、db2nodes.cfg ファイルが更新されて新規ノードが組み込まれることはありません。ファイルが更新されない限り、既存のノードは新規ノードと通信できません。

ユーザーの処置: db2stop を発行してすべてのノードを停止してください。すべてのノードが正常に停止したら、db2start を発行して、新規のノードを含め、すべてのノードを開始してください。

DBI1940N DB2 Administration Server はアクティブです。

説明: DB2 Administration Server はアクティブのため変更できません。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server を変更する前に、これが停止されていることを確認してください。DB2 Administration Server を停止するには、次のように db2admin コマンドを使用してください。

db2admin stop

DBI1941W DB2 Administration Server が存在しません。

説明: DB2 Administration Server がこのマシンで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: マシン上に DB2 Administration Server を作成してください。

DBI1942N DB2 Administration Server がすでにターゲット・マシンに存在しています。

説明: DB2 Administration Server がすでにターゲット・マシンに存在しているため、操作を完了できませんでした。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server をターゲット・マシンから除去し、操作を再試行してください。

DBI1943N DB2 Administration Server はクラスタリングされていません。

説明: DB2 が DB2 Administration Server にアクセスしてクラスタ操作を実行しようとしたのですが、DB2 Administration server が MSCS サポートで構成されていません。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server が MSCS サポートで構成されていることを確認してください。

DBI1944N DB2 Administration Server は MSCS サポートですすでに構成されています。

説明: DB2 Administration Server を移行しようとしたのですが、DB2 Administration Server が MSCS サポートですすでに構成されているため失敗しました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1950W インスタンス *instance-name* はすでにインスタンス・リストにあります。

説明: 作成または移行中のインスタンスが、すでにインスタンス・リストにあります。

ユーザーの処置: db2ilist コマンドによって報告されたインスタンスのリストが正しいかを調べてください。

DBI1951W インスタンス *instance-name* がインスタンス・リストに見つかりませんでした。

説明: 示されたインスタンスが、インスタンス・リストに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: db2ilist コマンドによって報告されたインスタンスのリストが正しいかを調べてください。

DBI1952E インスタンス名 *instance-name* が無効です。

説明: インスタンス名が無効です。次のものは使えません。

1. 8 文字より長い名前。
2. “sql”、“ibm” または “sys” で始まる名前。
3. 数字で始まる名前、または a から z、\$、#、@、_、0 から 9 以外の文字を使用した名前。

ユーザーの処置: 有効なインスタンス名を指定して、コマンドを再発行してください。

DBI1953E インスタンスがアクティブです。

説明: アクティブなインスタンスをドロップしようとした。

ユーザーの処置: db2stop を発行 (そのインスタンスのユーザー ID から) して、インスタンスを停止する前に、インスタンスを使用しているアプリケーションがすべて終了しているかを確認してください。

DBI1954E インスタンス名は DB2 Administration Server で使用中です。

説明: インスタンスを DB2 Administration Server で使用中のため作成できません。

ユーザーの処置: 別のインスタンス名を指定して、コマンドを再試行してください。

DBI1955E 使用法 : db2idrop [-h] [-f] InstName

説明: 間違った引き数が db2idrop コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-h 使用法情報を表示する

-f 強制アプリケーション・フラグこのフラグが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2idrop [-h] [-f] InstName
```

DBI1956E 使用法: db2ilist [-w 31|32|64] [-p] [-a] [inst_name]

説明: 間違った引き数が db2ilist コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-h 使用法情報を表示する

-w 31|32|64

31、32、または 64 ビット・インスタンスのリストを表示する。-w オプションは -p オプションと共に使用でき、-a オプションに取り替えられます。

-p インスタンスが実行される DB2 インストール・パスをリストする。-p オプションは -a オプションと共に使用でき、-a オプションに取り替えられます。

-a インスタンスと関連した DB2 インストール・パス、およびそのビット幅情報 (32 か 64) 情報を含む、すべての関連情報を戻します。DB2 on Linux (S/390、zSeries) の場合、ビット幅 32 は 31 ビットを意味します。

inst_name

指定したインスタンスの情報を戻します。インスタンスが指定されていない場合、db2ilist は現在の DB2 リリースのすべてのインスタンスに関する情報を戻します。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2ilist [-w 31|32|64] [-p] [-a] [inst_name]
```

DBI1957E db2icrt コマンドの構文に誤りがあります。

説明: db2icrt ユーティリティーはデータベース・インスタンスを作成します。

```
db2icrt InstName [-s {es|wse|client|standalone}]
                [-p instance profile path]
                [-u username,password]
                [-h hostname]
                [-c Cluster name]
                [-r baseport,endport]
                [-?]
```

コマンド・オプションは次のとおりです。

-s 作成するインスタンスのタイプを指定する

ese Enterprise Server Edition

wse Workgroup Server Edition

client クライアント

standalone
ローカル・クライアントを持つデータベース・サーバー

-p インスタンス・プロファイル・パスを指定する。

-u DB2 サービスのアカウント名およびパスワード

ドを指定する。このオプションは ese インスタンスを作成する時に必要です。

-h 現行マシンに TCP/IP ホスト名が複数ある場合、デフォルトの TCP/IP ホスト名を上書きする。TCP/IP ホスト名はデフォルトのノード (ノード 0) を作成するときに使用されます。

-c MSCS クラスタ名を指定する。このオプションは MSCS をサポートする DB2 インスタンスを作成するために指定されます。

-r MPP モードで実行する時にパーティション・データベース・インスタンスで使用される TCP/IP ポートの範囲を指定する。ローカル・マシンのサービス・ファイルはこのオプションが指定された場合に、次の項目で更新されません。

DB2_InstName	baseport/tcp
DB2_InstName_1	baseport+1/tcp
DB2_InstName_2	baseport+2/tcp
DB2_InstName_END	endport/tcp

-? ヘルプを表示する

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1958N インスタンス・プロファイルがレジストリーに追加できません。

説明: レジストリーにインスタンス・プロファイルを追加しようとしてエラーが起きました。インスタンスは作成されませんでした。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1959N インスタンス・ディレクトリーが作成できません。

説明: 新規インスタンスに必要なファイルあるいはディレクトリーを作成しようとしてエラーが発生しました。インスタンスは作成されませんでした。

ユーザーの処置: インスタンス・ディレクトリーが作成されている位置に書き込みアクセスがあることを確認してください。インスタンス・ディレクトリーは製品がインストールされているパスの下に作成されます。DB2INSTPROF プロファイル変数を使用してインスタンス・ディレクトリーに対する別の位置を指定する場合があります。

DBI1960N DB2 サービスが作成できません。

説明: 以下の理由により、DB2 サービスを登録中にエラーが発生しました。

1. 同じ名前のサービスがすでに存在しているか、または削除としてマークされたけれども、次回システムがリポートされるまでクリーンアップされていません。
2. Windows サービスを作成するための十分なアクセス権がありません。

ユーザーの処置:

1. インスタンスの名前が、どの既存の Windows サービスとも一致していないことを確認してください。システムのサービスのリストは、Windows レジストリーの HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services の下にあります。このサービスが削除としてマークされている場合は、マシンをリポートして、システムからサービスを除去する必要があります。
2. ローカル管理者グループに属しているユーザー・アカウントにログオンして、操作を再試行してください。

DBI1961N 新規インスタンスに対するノード・キーがレジストリーに追加できません。

説明: インスタンス・プロファイル・レジストリーで新規のインスタンスに対するノード・キーを追加中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1962N 新規ノードがレジストリーに追加できません。

説明: インスタンス・プロファイル・レジストリーに新規のノード・キーを追加中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1963N インスタンスのアカウントに対するユーザーの権利を与えているときにエラーが発生しました。

説明: DB2 サービスのアカウントを構成しているときに、アカウントに次のユーザーの権利を与える必要があります。

1. オペレーティング・システムの一部として動作する
2. トークン・オブジェクトを作成する
3. 割り当てを増やす

4. サービスとしてログオンする
5. 処理レベル・トークンを置換する

インスタンスのアカウントに対するユーザーの権利を与えているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: マシンが NT ドメインに属している場合、1 次ドメイン・コントローラーがアクティブでネットワークからアクセス可能であることを確認してください。そうでない場合には IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1964N ログオン・アカウントが DB2 サービスに割り当てられません。

説明: DB2 サービスにログオン・アカウントを割り当て中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ログオン・アカウントのユーザー名およびパスワードが有効であることを確認してください。

DBI1965N ノード *node-number* がノード・リストに見つかりませんでした。

説明: 指定されたノードがノード・リストで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: DB2NLIST コマンドを使用してノードのリストを表示して、ノードが存在することを確認してください。

DBI1966N ノードがレジストリーから削除できません。

説明: インスタンス・プロファイル・レジストリーから指定のノードを削除中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1967N DB2 サービスが登録解除できません。

説明: DB2 サービスの登録解除中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: NT サービスを削除するのに十分な権限があることを確認してください。

DBI1968N プロファイル・レジストリーのノード構成を変更中にエラーが発生しました。

説明: プロファイル・レジストリーのノード構成を変更中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1969N インスタンス・ディレクトリーで新規ファイルを作成中にエラーが起きました。

説明: インスタンス・ディレクトリーで新規ファイルを作成中に内部エラーが起きました。

ユーザーの処置: インスタンス・ディレクトリーに書き込みアクセスがあることを確認してください。

DBI1970N インスタンス・ディレクトリーでファイルからの読み取りまたはファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

説明: インスタンス・ディレクトリーでファイルからの読み取りまたはファイルへの書き込み中に内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1971N インスタンス・プロファイルがレジストリーから除去できません。

説明: レジストリーから インスタンス・プロファイルを削除中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1972N インスタンス・ディレクトリーが除去できません。

説明: 指定されたインスタンスに属する必要なファイルあるいはディレクトリーを削除中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: インスタンス・ディレクトリーがある位置への書き込みアクセスがあることを確認してください。

DBI1973N DB2 サービスを開始するための構成が自動的に失敗しました。

説明: DB2 サービスを自動的に開始する設定中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: マシンをリブートしてコマンドを再度試行してください。問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

DBI1974N プロファイル変数 **DB2ADMINSERVER** がプロファイル・レジストリーに設定できません。

説明: プロファイル・レジストリーにプロファイル変数 **DB2ADMINSERVER** を設定中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1975N 環境変数 **DB2ADMINSERVER** がプロファイル・レジストリーから除去できません。

説明: プロファイル・レジストリーの環境変数 **DB2ADMINSERVER** を削除中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1980W UPM でユーザー ID *userID* を作成できません。

説明: 製品のインストール中に提供するユーザー ID が、ユーザー・プロファイル管理 (UPM) で作成されませんでした。このユーザー ID は DB2 Administration Server を開始するために必要です。

ユーザーの処置: UPM を使用するユーザー ID とパスワードを手動で作成し、次に DB2 Administration Server を手動で開始します。“db2admin” コマンドを使用するユーザー ID とパスワードの組み合わせを使用するために DB2 Administration Server を設定する必要がある可能性があります。

第 9 章 DBT メッセージ

DBT1000I ツールは正常に完了しました。

説明: ツールの処理はエラー無しで完了しました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBT1001N DB2INIDB ツールの構文が無効です。

説明: DB2INIDB ツールの構文は、次のとおりです。

```
db2inidb <database_alias>  
AS < SNAPSHOT | STANDBY | MIRROR >  
[ RELOCATE USING config_file ]
```

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを実行してください。

DBT1002N データベース名 *database-name* が無効です。

説明: コマンドに指定されたデータベース名が無効です。データベース名は 1 から 8 文字で、すべての文字はデータベース・マネージャの基本文字セットから使用する必要があります。

ユーザーの処置: 有効なデータベース名を指定して、コマンドを再度実行してください。

DBT1003N プログラム *program-name* が見つかりません。

説明: 指定されたプログラムを実行しようとしたのですが、プログラムが見つからなかったため、失敗しました。

ユーザーの処置: 指定されたプログラムが存在することを確認してください。また、プログラムのパスが PATH 環境変数にあるか調べてください。問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1004N プログラム *program-name* を実行できません。

説明: 指定されたプログラムを実行しようとして、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 指定されたプログラムが存在しており、適切なファイル許可が含まれていることを確認してください。問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1005N ファイル *file-name1* は *file-name2* にコピーできませんでした。

説明: 指定されたファイルを複製しようとして、エラーが発生しました。コマンドは正常に処理されませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたソース・ファイルが存在し、適切なファイル許可が含まれていることを確認してください。また、指定されたターゲット・ファイルがもう存在していないことを確認してください。問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1006N ファイル/デバイス *file-device-name* がオープンできませんでした。

説明: 指定されたファイル/装置をオープンしようとして、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイル/装置が存在しており、許可が正しいことを確認してください。問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1007N ファイル/装置 *file-device-name* に対して操作 *operation-name* を実行しようとして、エラーが発生しました。

説明: 指定されたファイル/装置において指定された操作の実行は失敗しました。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- 十分なディスク・スペースがあることを確認してください。
- ファイル許可が正しいことを確認してください。

問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。問題が解決されない場合は、技術サービス担当者に連絡してください。

DBT1008N データベース *database-name* は分割ミラー・イメージではありません。

説明: 分割ミラー・イメージではないデータベースで DB2INIDB ツールを使用しようとした。

分割ミラー・イメージは、I/O 書き込みが中断されている間にコピーされるデータベースのミラー・コピーです。データベースに接続中に、以下のコマンドを使用して、I/O 書き込みを中断することができます。

SET WRITE SUSPEND FOR DATABASE

分割ミラー・イメージが作成されたら、以下のコマンドを使用して、1 次データベースへの I/O 書き込みを再開することができます。

SET WRITE RESUME FOR DATABASE

分割ミラー・イメージを使用する前に、延期状態を解除して、クラッシュ・リカバリーを実行するかロールフォワード・ペンディング状態にして初期化するために、DB2INIDB ツールを実行する必要があります。

ユーザーの処置: 分割ミラー・イメージ・データベースを指定して、コマンドを再度実行してください。

DBT1009N データベース *database-name* は、リカバリー可能なデータベースではありません。

説明: リカバリー不能な分割ミラー・イメージ・データベースに DB2INIDB ツールの STANDBY または MIRROR オプションを使用しようとしてしました。STANDBY および MIRROR オプションでは、リカバリー可能な分割ミラー・イメージが必要です。

分割ミラー・イメージは、I/O 書き込みが中断されている間にコピーされるデータベースのミラー・コピーです。データベースに接続中に、以下のコマンドを使用して、I/O 書き込みを中断することができます。

SET WRITE SUSPEND FOR DATABASE

分割ミラー・イメージが作成されたら、以下のコマンドを使用して、1 次データベースへの I/O 書き込みを再開することができます。

SET WRITE RESUME FOR DATABASE

分割ミラー・イメージを使用する前に、延期状態を解除して、クラッシュ・リカバリーを実行するかロールフォワード・ペンディング状態にして初期化するために、DB2INIDB ツールを実行する必要があります。

STANDBY および MIRROR オプションの目的は、分割ミラー・イメージをロールフォワード・ペンディング状態にして、1 次データベースからのログの適用を許可することです。1 次データベースは、分割ミラー・イメージ・データベースに適用できるように、ログ・レコードを保存する必要があります。

ユーザーの処置: リカバリー可能なデータベースの分割ミラー・イメージを指定して、コマンドを再度実行してください。LOGRETAIN データベース構成変数をオンにすると、データベースをリカバリー可能にすることができます。

DBT1010N 分割ミラー・イメージ・データベース *database-name* は、以前にスナップショットとして初期化されています。

説明: 以前に SNAPSHOT オプションを指定して初期化された分割ミラー・イメージに DB2INIDB ツールの STANDBY または MIRROR オプションを使用しようとしてしました。SNAPSHOT オプションによってこの分割ミラー・イメージが新しいログ・チェーンを開始するので、STANDBY および MIRROR オプションを使用して、ログ・ファイルを 1 次データベースからロールフォワードすることは、もはやできません。

分割ミラー・イメージは、I/O 書き込みが中断されている間にコピーされるデータベースのミラー・コピーです。データベースに接続中に、以下のコマンドを使用して、I/O 書き込みを中断することができます。

SET WRITE SUSPEND FOR DATABASE

分割ミラー・イメージが作成されたら、以下のコマンドを使用して、1 次データベースへの I/O 書き込みを再開することができます。

SET WRITE RESUME FOR DATABASE

分割ミラー・イメージを使用する前に、延期状態を解除して、クラッシュ・リカバリーを実行するかロールフォワード・ペンディング状態にして初期化するために、DB2INIDB ツールを実行する必要があります。

ユーザーの処置: 新しい分割ミラー・イメージ・データベースを指定して、コマンドを再度実行してください。

DBT1011N データベース *database-name* を WRITE RESUME オプションで再始動できません。SQLCODE = *sqlcode*。

説明: 指定したデータベースを WRITE RESUME オプションで再始動しようとしてしましたが失敗しました。

ユーザーの処置: 指定した SQLCODE を調べて、問題を訂正してから、コマンドを再度実行してください。

DBT1012N データベース・ディレクトリーで操作 *operation-name* を実行できません。

説明: データベース・ディレクトリーにおいて指定された操作の実行は失敗しました。

次のような理由が考えられます。

- システムのメモリー量が不十分であるために、データベース・マネージャーが要求を処理できなかった。
- データベース項目がシステム・データベース・ディレクトリーに無かった。

- データベースがシステム・データベース・ディレクトリーに存在していない。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- 十分なシステム・リソースが使用できるようにしてください。
- データベースが正しくカタログされているようにしてください。

問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1013N データベース *database-name* が見つかりません。

説明: 指定したデータベースが既存のデータベースではないか、あるいは、データベースがローカルまたはシステム・データベース・ディレクトリーで見つかりません。

ユーザーの処置: 指定したデータベース名が、システム・データベース・ディレクトリーに存在することを確認してください。データベース名がシステム・データベース・ディレクトリーに無い場合には、データベースが存在しないか、あるいはデータベース名がカタログされていないかのいずれかです。

データベース名がシステム・データベース・ディレクトリーに存在し、項目タイプが `INDIRECT` である場合には、そのデータベースが指定したローカル・データベース・ディレクトリーに存在することを確認してください。

DBT1014N インスタンス名を判別できませんでした。

説明: 現行のインスタンス名を判別しようとしたことが、失敗しました。

ユーザーの処置: `DB2INSTANCE` 環境変数が、現行のインスタンス名に設定されているか確認してください。問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1015N メモリーを割り振れません。

説明: 処理時に、処理を継続するのに十分なメモリーがありませんでした。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- ご使用になっているシステムに、十分な実および仮想メモリーがあるか確認してください。
- バックグラウンド処理を除去してください。

DBT1016N 表スペース・ファイル *file-name1* と *file-name2* のサイズが異なっています。

説明: 指定した 2 つの表スペース・ファイルのサイズは、同じであるはずなのに、違っています。

ユーザーの処置: 技術サービス担当者に以下の情報を報告してください。

- 問題記述
- 表スペース・カタログ表の内容
- 表スペース・ファイル

DBT1017N `DB2RELOCATEDB` ツールの構文が無効です。

説明: `DB2RELOCATEDB` ツールの構文は、次のとおりです。

```
db2relocatedb -f <config_file>
```

<configFile>: 構成情報が含まれているファイルの名前。

ファイル形式は、次のとおりです:

```
DB_NAME=oldName,newName
DB_PATH=oldPath,newPath
INSTANCE=oldInst,newInst
NODENUM=nodeNumber
LOG_DIR=oldDirPath,newDirPath
CONT_PATH=oldContPath1,newContPath1
CONT_PATH=oldContPath2,newContPath2
...
```

注意:

- データベース名、データベース・パス、およびインスタンス名は、すべて必須フィールドです。これらのフィールドのいずれかが変更されていない場合は、フィールドの古い値と新しい値をリストする必要はなく、古い値/現行の値だけがリストされます。
- ブランク行またはコメント文字 (#) で始まる行は、無視されます。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを実行してください。

DBT1018N *field-name* は、構成ファイルの必須フィールドです。

説明: 指定されたフィールドは、構成ファイルの必須フィールドですが、指定されていません。

ユーザーの処置: 指定されたフィールド情報を構成ファイルに追加してから、コマンドを再度実行してください。

DBT1019N 構成ファイルに無効なデータベース・パスが指定されました。

説明: 構成ファイルに指定されているデータベース・パスが無効です。

Windows の場合、データベース・パスは、ドライブ文字の後にコロン文字を付けて指定しなければなりません。それ以外のプラットフォームの場合、データベース・パスは、絶対パスで、パス区切り記号で終了しなければなりません。

ユーザーの処置: 正しくないデータベース・パスを訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1020N 構成ファイルの *line-number* 行目に無効な項目があります。理由コードは *reason-code* です。

説明: 理由コードによって示されている以下の条件が解決されるまで、DB2RELOCATEDB ツールを使用して再配置することはできません。

- 1 指定された行が、最大文字数を超過しています。
- 2 フィールドが指定されましたが、値がありません。
- 3 フィールドが複数回指定されています。
- 4 古いデータベース名または新しいデータベース名のいずれかの文字数が多過ぎます。
- 5 古いデータベース・パス名または新しいデータベース・パス名のいずれかの文字数が多過ぎます。
- 6 古いインスタンス名または新しいインスタンス名のいずれかの文字数が多過ぎます。
- 7 NODENUM 項目に無効なノード番号が指定されています。
- 8 古いログ・ディレクトリー・パスまたは新しいログ・ディレクトリー・パスのいずれかの文字数が多過ぎます。
- 9 古いコンテナ名または新しいコンテナ名のいずれかの文字数が多過ぎます。
- 10 CONT_PATH 項目に重複したコンテナ名が見つかりました。
- 11 指定された行が無効です。
- 12 ワイルドカード文字 (*) の使用法が間違っています。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

- 1 指定された行が 1000 文字以内になるようにしてください。
- 2 問題となっているフィールドに必須の値を指定してください。
- 3 問題となっているフィールドを 1 度しか指定しないようにしてください。
- 4 古いデータベース名および新しいデータベース名を 8 文字以下にしてください。
- 5 古いデータベース・パス名および新しいデータベース・パス名を 215 文字以下にしてください。
- 6 古いインスタンス名および新しいインスタンス名を 8 文字以下にしてください。
- 7 ノード番号を 4 桁以下にしてください。
- 8 古いログ・ディレクトリー・パスおよび新しいログ・ディレクトリー・パスを 242 文字以下にしてください。
- 9 古いコンテナ名および新しいコンテナ名を 256 文字以下にしてください。
- 10 CONT_PATH 項目で、各コンテナ名を 1 度しか指定しないようにしてください。
- 11 問題となっている行の妥当性を検証してください。
- 12 ワイルドカード文字は、以前のパスと新しいパスの両方で最後の文字である必要があります。

問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1021N すべてのコンテナ名の合計サイズが大き過ぎます。

説明: コンテナのリストを保管するのに必要な合計スペースが、表スペース・ファイル内の指定された表スペースに割り振られているスペースを超過しています。

ユーザーの処置: 以下のいくつかを実行してみてください。

- シンボリック・リンク、マウント・ファイル・システムなどを使用して、新しいコンテナ名を短縮してください。
- 表スペースをバックアップしてから、データベース管理ユーティリティを使用して、コンテナの数を少なくするか名前の長さを短くする、あるいはその両方を行ってください。表スペースを新しいコンテナにリストアしてください。

問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1022N DB2RELOCATEDB ツールは、インスタンス *instance-name* の下で実行しなければなりません。

説明: 誤ったインスタンスから DB2RELOCATEDB ツールを実行しようとしてしました。インスタンスを変更している場合には、ツールを新しいインスタンスから実行してください。

ユーザーの処置: 正しいインスタンスでコマンドを再度実行してください。

DBT1023N データベース *release-number* が無効です。

説明: 使用されているツールは、データベースの現行リリースと異なるリリースのものであります。コマンドを処理できません。

ユーザーの処置: 正しいバージョンのツールを使用してください。問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1024N データベース名の変更により、ローカル・データベース・ディレクトリーに重複名が作成されました。

説明: データベースをリネームしようとしてしましたが、ローカル・データベース・ディレクトリーの項目がすでに同じ名前が存在しているため、失敗しました。

ユーザーの処置: データベース名をまだ存在していない名前に変更するか、または、そのデータベースがもう存在していない場合にはデータベースをアンカタログしてください。問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1025N データベース・ディレクトリーに、新規または旧データベース名のいずれも見つかりません。

説明: データベース・パスの検索に必要なデータベース・トークンを判別しようとしてしましたが、データベース・ディレクトリーに新規データベース名も旧データベース名も見つからなかったため、失敗しました。

ユーザーの処置: 旧データベース名のデータベースが存在しており、正しくカタログされているか確認してください。問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1026N コンテナ名 *container-name* の新規データベース・パス *database-path* の置換は、長さ制限を超えています。

説明: データベース・パスをリネームしようとしてしましたが、指定したコンテナ名の先頭に追加すると、コンテナ名の長さ制限を超えるため、失敗しました。

ユーザーの処置: データベース・パスまたはコンテナ名、あるいはその両方を追加したときに長さ制限を超えないように、リネームしてください。問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1027N ログ・ディレクトリー・パス *log-path* の新規データベース・パス *database-path* の置換は、長さ制限を超えています。

説明: データベース・パスをリネームしようとしてしましたが、指定したログ・ディレクトリー・パスの先頭に追加すると、ログ・ディレクトリー・パスの長さ制限を超えるため、失敗しました。

ユーザーの処置: データベース・パスまたはログ・ディレクトリー・パス、あるいはその両方を追加したときに長さ制限を超えないように、リネームしてください。問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1028N 表スペース・ファイルをコピーできません。

説明: 表スペース・ファイル SQLSPCS.1 を複製しようとしてしましたが、失敗しました。

ユーザーの処置: 表スペース・ファイルを複製するのに十分なディスク・スペースがあるか確認してください。問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1029N バッファー・プール・ファイルをコピーできません。

説明: バッファー・プール・ファイル SQLBP.1 を複製しようとしてしましたが、失敗しました。

ユーザーの処置: バッファー・プール・ファイルを複製するのに十分なディスク・スペースがあるか確認してください。問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1030N ローカル・データベース・ディレクトリー・ファイルをコピーできません。

説明: ローカル・データベース・ディレクトリー・ファイルを複製しようとしてしましたが、失敗しました。

ユーザーの処置: ローカル・データベース・ディレクトリー・ファイルを複製するのに十分なディスク・スペース

スがあるか確認してください。問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1031N ログ・ファイル・ヘッダー *log-file-header* の更新中に、エラーが発生しました。

説明: ログ・ファイル・ヘッダー `SQLLOGCTL.LFH` を更新しようとしたのですが、失敗しました。

ユーザーの処置: ログ・ファイル・ヘッダーがデータベース・ディレクトリーに存在しており、十分なディスク・スペースがあるか確認してください。問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1032N インスタンスは、現在アクティブではありません。

説明: ツールでは、処理を行う前に、インスタンスがアクティブになっている必要があります。

ユーザーの処置: `db2start` を発行してから、コマンドを発行してください。

DBT1033N インスタンス *instance-name* にアタッチできません。 **SQLCODE = *sqlcode***。

説明: 指定されたインスタンスにアタッチしようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 指定した **SQLCODE** を調べて、問題を訂正してから、コマンドを再度実行してください。

DBT1034N コンテナ *container-name* のストリング *string-one* を *string-two* と置き換えると、制限文字数を超えます。

説明: ワイルドカードを使用してコンテナ・パスの名前を変更しようとしたのですが、変更後のパスが長すぎるため、失敗しました。

ユーザーの処置: コンテナ・パスの最大長は 256 文字です。コンテナ・パスを制限文字数内に変更し、コマンドを再発行してください。

DBT1035N HADR データベース役割をデータベース *database-name* の標準に設定できません。 **SQLCODE = *sqlcode***。

説明: HADR データベース役割を標準に設定することに失敗しました。

ユーザーの処置: 指定した **SQLCODE** を調べて、問題を訂正してから、コマンドを再度実行してください。

DBT1036N データベース *database-name* の再配置が成功した後、ディレクトリー・キャッシュのリフレッシュができません。 **SQLCODE = *sqlcode***。

説明: 必要なディレクトリー・キャッシュのリフレッシュの試行が失敗しました。

ユーザーの処置: 現在のノードでインスタンスを再始動し、`RELOCATE USING` オプションを指定せずに `DB2INIDB` ツールを再実行してください。問題が解決されない場合は、技術サービス担当者に連絡してください。

DBT2002W テープ終了マーカに書き込みができません。理由: *reason*

説明: テープ終了マーカへの書き込みに失敗しました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBT2005I `db2tapemgr` ツールの構文が無効です。

説明: 構文は次のとおりです。

```
db2tapemgr [DATABASE database-alias]
           [ON DBPARTITIONNUM db-partition-number]
           {{{STORE | DOUBLE STORE}[Store-Option-Clause] |
RETRIEVE [Retrieve-Option-Clause] |
SHOW TAPE HEADER tape-device}
           [USING blocksize][EJECT]} |
EJECT TAPE tape-device |
DELETE TAPE LABEL tape-label |
QUERY [For-Rollforward-Clause]} [TRACE]
```

Store-Option-Clause:
ON tape-device [TAPE LABEL tape-label]
[ALL LOGS|n LOGS][FORCE]

Retrieve-Option-Clause:
{{For-Rollforward-Clause} |
FROM tape-device[T0 directory] |
{ALL LOGS|LOGS n T0 m}
FROM tape-device[T0 directory] |
HISTORY FILE
FROM tape-device T0 directory }

For-Rollforward-Clause:
FOR ROLLFORWARD
TO {END OF LOGS|isotime [USING LOCAL|GMT TIME]}
[USING HISTORY FILE history-file]";

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2006I `db2tapemgr` が正常に完了しました。

説明: エラーや警告なしで処理が完了しました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBT2007W db2tapemgr が警告を出して完了しました。

説明: db2tapemgr コマンドはエラーなしで完了しましたが、警告が出されました。

ユーザーの処置: 詳細情報については、出力を参照してください。

DBT2008N db2tapemgr がエラーを出して失敗しました。

説明: db2tapemgr がエラーを出して完了しました。

ユーザーの処置: 詳細情報については、出力を参照してください。

DBT2009N 内部エラー。理由: *error* が発生しました。

説明: 予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: さらに取るべき処置については、理由のテキストを参照してください。

DBT2015W ログ・ファイル *log-file-name* がディスク上にありません。

説明: ログ・ファイルが見つかりません。

ユーザーの処置: 誤ってログ・ファイルが削除された場合は、ログ・ファイルをリストアしてからコマンドを再発行するか、履歴ファイルの中にある、欠落したログ・ファイルの位置フィールドを更新します。

DBT2016I 処理するログ・ファイルが見つかりません。

説明: 履歴ファイルにはログ・ファイルに関する情報がありません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBT2017N ラベル *label-one* が磁気テープ・ドライブに挿入されていません。ドライブに挿入されているテープのラベルは *label-two* です。

説明: 2 つの異なるテープが同じ名前を持つことはありません。

ユーザーの処置: 正しいテープが磁気テープ・ドライブに入っていることを確認してください。テープが読めない場合は、DELETE TAPE LABEL オプションを使用して、履歴ファイルからこのテープの情報を除去してください。既存の磁気テープ・ラベルを指定した場合は、別のラベルを選択してコマンドを再発行してください。

DBT2018N 変数 *variable* の値 *value* が無効です。

説明: 指定した値は無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を指定してください。

DBT2019N テープの有効期限が切れていません。テープの有効期限が切れるのは、*expiration-date* です。

説明: テープの有効期限が切れていないので、書き込みはできません。データベースのリカバリーに必要なログ・ファイルがテープに入っている可能性があります。

ユーザーの処置: DB2_TAPEMGR_TAPE_EXPIRATION の値を削減するか、別のテープを挿入してください。

DBT2020N テープのログ・ファイルは別のデータベース *database-name* のものです。

説明: テープのログ・ファイルは別のデータベースのもので。

ユーザーの処置: 別のテープを挿入するか、FORCE オプションを指定してください。

DBT2021N テープのログ・ファイルは別のデータベース・インスタンス *instance-name* のものです。

説明: テープのログ・ファイルは別のデータベース・インスタンスのもので。

ユーザーの処置: 別のテープを挿入するか、FORCE オプションを指定してください。

DBT2022N テープのログ・ファイルは別のデータベース・パーティション *database-partition* のものです。

説明: テープのログ・ファイルは別のデータベース・パーティションのもので。

ユーザーの処置: 別のテープを挿入するか、FORCE オプションを指定してください。

DBT2027N テープは、これまでログ・ファイルを保管するために使用されたことのないものです。

説明: テープの内容が、db2tapemgr によって書き込まれたファイルとして認識されません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBT2032W *number-of-log-files* 個のログ・ファイルしかテープに収まりません。

説明: 選択した数のログ・ファイルはテープに収まりません。

ユーザーの処置: この警告を回避するには、n LOGS オプションを使用して、テープに書き込むログ・ファイルの最大数を指定してください。

DBT2036W 履歴ファイルをテープに保管することに失敗しました。理由: *reason*

説明: ログ・ファイルはすでにテープに正常に書き込まれています。

ユーザーの処置: テープがいっぱいの場合、n LOGS オプションを使用して、テープに書き込むログ・ファイルの数を制限してください。

DBT2039I 履歴の中で、現在テープ *tape-name* にあるログ・ファイルの位置をクリアすることに失敗しました。

説明: 履歴ファイルの中の、ログ・ファイル項目の位置フィールドがクリアされています。ログ・ファイル項目の位置フィールドが空である場合、それはログ・ファイルが削除または上書きされて、データベースのリカバリーに使用できなくなったことを意味します。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBT2047N テープには、データベース・パーティション番号 *db-partitionnum-1* 用のログ・ファイルが入っていますが、データベース・パーティション番号は *db-partitionnum-2* です。

説明: テープには、指定されたデータベース・パーティションに対応しないデータベース・パーティションのログが入っています。

ユーザーの処置: 正しいデータベース・パーティション番号を指定してください。値を指定しないと、DB2NODE の値が使用されます。

DBT2048I テープにはデータベース *database-name1* のログ・ファイルが入っていますが、データベース *database-name2* が指定されました。

説明: テープには、別のデータベースのログ・ファイルが入っています。

ユーザーの処置: リダイレクトしたりストア操作を実行するつむりの場合にだけ、先に進んでください。

DBT2049I テープにはインスタンス *instance1* のログ・ファイルが入っていますが、インスタンス *instance2* が指定されました。

説明: テープには、別のデータベース・インスタンスのログ・ファイルが入っています。

ユーザーの処置: リダイレクトしたりストア操作を実行するつむりの場合にだけ、先に進んでください。

DBT2050I ログ・ファイル *log-file* はディスクにあります。

説明: ログ・ファイルはすでにディスク上にあるので、テープから検索されません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルをテープから検索し直すには、ディスク上のログ・ファイルを削除して、RETRIEVE オプションを指定します。それ以外の場合、これ以上のアクションは不要です。

DBT2051N 履歴ファイルに、一致するバックアップが見つかりません。

説明: 履歴ファイルにバックアップが入っていません。

ユーザーの処置: 別のロールフォワード時間を指定して、コマンドを再発行してください。あるいは、ALL LOGS または LOGS n TO m オプションを使用して、手動でログ・ファイルをリストアしてください。

DBT2052I 必要なログ・ファイルがテープ上にありません。

説明: ロールフォワード操作にはログ・ファイルが必要です。

ユーザーの処置: 履歴ファイルが現行のものである場合、これ以上のアクションは不要です。それ以外の場合、履歴ファイルにはロールフォワード操作に必要な情報すべてが入っていない可能性があります。その場合は、RETRIEVE HISTORY FILE オプションを使用して最新のテープから履歴ファイルをリストアし、USING HISTORY FILE オプションを指定してコマンドを再発行してください。

DBT2054I バックアップに必要なログ・ファイルは *location* にあります。

説明: ロールフォワードにはログ・ファイルが必要です。

ユーザーの処置: 履歴ファイルが最新のものである場合、これ以上のアクションは不要です。それ以外の場合、履歴ファイルにはロールフォワード操作に必要な情報すべてが入っていない可能性があります。その場合

は、RETRIEVE HISTORY FILE オプションを使用して最新のテープから履歴ファイルをリストアし、 USING HISTORY FILE オプションを指定してコマンドを再発行してください。

DBT2055I ロールフォワード操作にテープは不要です。

ユーザーの処置: 履歴ファイルが最新のものである場合、これ以上のアクションは不要です。それ以外の場合、履歴ファイルにはロールフォワード操作に必要な情報すべてが入っていない可能性があります。その場合は、RETRIEVE HISTORY FILE オプションを使用して最新のテープから履歴ファイルをリストアし、 USING HISTORY FILE オプションを指定してコマンドを再発行してください。

DBT2062I データベース *database-name* に対して作業を実行します。

説明: DATABASE オプションが指定されていません。デフォルト値 (DB2DBDFT 変数によって制御される) が使用されます。

ユーザーの処置: 別のデータベースに操作を加えるには、DATABASE オプションを指定してください。

DBT2063N DATABASE オプションが指定されておらず、DB2DBDFT が設定されていません。

ユーザーの処置: DATABASE オプションを指定するか、DB2DBDFT 変数を設定してください。

DBT2065I データベース・パーティション *partition-number* を使用します。

説明: デフォルト値は 0 か、DB2NODE 変数の値です。

ユーザーの処置: データベース・パーティションを変更するには、DATABASE オプションを指定するか、DB2DBDFT 変数を設定してください。

DBT2067N ディレクトリーが指定されておらず、データベース構成パラメーター **OVERFLOWLOGPATH** が設定されていません。

説明: 検索操作では、宛先ディレクトリーを設定することが必要です。

ユーザーの処置: TO オプションを指定するか、OVERFLOWLOGPATH データベース構成パラメーターを設定します。

DBT2068N データベース構成パラメーター **OVERFLOWLOGPATH** の値 *value* が、ディレクトリーではありません。

ユーザーの処置: OVERFLOWLOGPATH ディレクトリーが存在していることを確認してください。

DBT2069N 同じテープに二重保管することはできません。

説明:

ユーザーの処置: 二重保管操作用に、別のテープを選択してください。

DBT2071I 自動生成された磁気テープ・ラベル *label* を使用します。

説明: ラベルのフォーマットは、現在時刻にデータベース別名が続くものとなります。

ユーザーの処置: 表ラベルを指定するには、TAPE LABEL オプションを使用してください。

DBT2102N ファイル名 *filename1* が *filename2* と一致しません。

説明: ファイル名が、予想されるファイル名に一致しません。別のプログラムがファイルをテープに書き込んだ場合、これが生じる可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBT2103N ディレクトリー *directory-name* が存在しません。

説明: 指定されたディレクトリーは存在しません。

ユーザーの処置: 指定されたディレクトリーを作成してください。

DBT2104N ファイル *file-name* が見つかりました。

説明: このテープには複数のファイルがあります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBT2106N データベース *database-name* はリモートです。

説明: 指定されたデータベースはリモート・データベースとしてカタログされています。db2tapemgr はローカル・データベースでしか使用できません。

ユーザーの処置: ローカルにログインし、ツールを再呼び出ししてください。

DBT2108N データベース・ディレクトリーにデータベース *database-name* が見つかりません。

説明: 指定されたデータベースがデータベース・ディレクトリーに見つかりません。

ユーザーの処置: 別のデータベース名を選択するか、データベースが存在しているなら、データベースがカタログされていることを確認します。

DBT2109N パラメーター *parameter* が期待されています。

説明: 指定されているパラメーターが期待されていません。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2110N パラメーター *parameter* の値 *value* は長過ぎます。

説明: このパラメーターの指定された値は長過ぎます。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2111N パラメーター *parameter* の値 *value* は短過ぎます。

説明: このパラメーターの指定された値は短過ぎます。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2112N 装置 *device-name* は磁気テープ装置ではありません。

説明: 指定された装置は、磁気テープ装置として認識されていません。

ユーザーの処置: 認識されている磁気テープ装置名を指定して、コマンドを再発行してください。

DBT2113N 装置 *device-name* は巻き戻し装置です。

説明: 指定された装置は、非巻き戻し磁気テープ装置として認識されていません。

ユーザーの処置: 認識されている磁気テープ装置名を指定して、コマンドを再発行してください。

DBT2114N 履歴ファイル *history-file* は存在しません。

説明: 指定された履歴ファイルは存在していません。

ユーザーの処置: 履歴ファイルへのパスを検査し、コマ

ンドを再発行してください。

DBT2115N 履歴ファイル *history-file* は、*value* で終了していません。

説明: 指定された履歴ファイルは、db2rhist.asc で終了していません。

ユーザーの処置: 履歴ファイルのファイル名を検査し、コマンドを再発行してください。

DBT2116N パラメーター *parameter* の値 *value* が英数字ではありません。

説明: パラメーターの値は英数字でなければなりません。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2117N パラメーター *parameter* の値 *value* は範囲外です。

説明: パラメーターの値が範囲外です。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2118N パラメーターのブロック・サイズは 512 の倍数でなければなりません。

ユーザーの処置: 512 の倍数のブロック・サイズを選択し、コマンドを再発行してください。

DBT2119N パラメーター *parameter* の値 *value* が数値ではありません。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2120N 操作が指定されていません。

説明: 操作を指定するパラメーターが指定されていません。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2121N 不明な操作 *operation* が指定されていません。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2122N 以下のコマンド・パラメーターに指定されているコマンド引き数が多過ぎます:
parameter。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2123N 時刻形式 *time-format* は無効です。

説明: 時刻形式は YYYY-MM-DD:HH:MM:SS という形式に準拠していなければなりません。

ユーザーの処置: 正しい時刻形式の構文でコマンドを再発行してください。

DBT2124N ログ・ファイルの数を削減することはできません。

ユーザーの処置: *n LOGS* オプションを使用してテープに書き込むログ・ファイルの量を制限し、コマンドを再発行してください。

DBT2125N ファイル *file-name1* はテープ・ヘッダー・ファイルではありません。ファイル *file-name2* が見つかりました。

説明: テープには別のタイプのファイルが入っています。別のプログラムがファイルをテープに書き込んだ場合、これが生じる可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBT2126N 無効なテープ・ヘッダー・フォーマット。

説明: テープ・ヘッダーの内容は認識されません。

ユーザーの処置: テープから手動でログ・ファイルを検索してみてください。

DBT2127N 更新中に履歴ファイルに変更が加えられました。

説明: 別のプロセスが履歴ファイルに更新を加えたため、履歴ファイルの更新は失敗しました。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。

DBT2128N オープン・スキャンの最大値が限界を超過しました。

説明: 履歴ファイルにアクセス中のプロセスが多過ぎるため、履歴ファイルの読み取りが失敗しました。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。

DBT2129W 損傷した履歴ファイルが修正されました。

説明: 損傷した履歴ファイルが自動的に修正されました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DBT2130N 履歴ファイルを修正できません。

説明: 損傷した履歴ファイルが検出されましたが、これを修正できません。

ユーザーの処置: 別のバージョンの履歴ファイルをリストアし、コマンドを再発行してください。

DBT2131N 履歴ファイル内の表スペースの数が変更されました。

説明: 履歴ファイルの内容が、別のプロセスによって変更されました。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。

DBT2132N 履歴ファイルの中に、重複したタイム・スタンプが存在しています。

説明: 履歴ファイルに、タイム・スタンプの同じ複数の項目が入っています。

ユーザーの処置: 別のバージョンの履歴ファイルをリストアし、コマンドを再発行してください。

第 10 章 DB2 メッセージ

このセクションには、コマンド行プロセッサが生成するメッセージが記載されています。コマンド行プロセッサは DB2 および SQL メッセージを返します。メッセージは番号順にリストされています。

DB20000I *command* コマンドが正常に完了しました。

説明: このコマンドの実行中にはエラーは発生していません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DB21001E 'DB2' コマンドの後ろ、または **DB2OPTIONS** 変数に指定された *option-letter* オプションが正しくありません。

説明: 示されたオプションはサポートされていません。サポートされているオプションは、次のとおりです。

オプション	説明
-a	SQLCA を表示
-c	自動コミット
-e	SQLCODE/SQLSTATE を表示
-f	入力ファイルから読み取り
-l	コマンドを履歴ファイルにログ
-n	改行文字を削除
-o	出力を表示
-p	対話式プロンプトを表示
-r	出力レポートをファイルに保管
-s	cmd エラーで実行を停止
-t	stmt 終了文字を設定
-v	現在のコマンドをエコー
-w	FETCH/SELECT 警告を表示
-x	列見出しの印刷を抑制
-z	すべての出力をファイルに保管

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なオプションを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21002E 'db2' コマンドの後ろ、または **DB2OPTIONS** 変数に指定された *option-letter* オプションのパラメーターがないか、または正しくありません。

説明: パラメーターを持つオプションのリストは、次のとおりです。

オプション	説明
-ec	SQLCODE を表示
-es	SQLSTATE を表示

-f<filename> 入力ファイル
<filename>
-l<filename> コマンドを履歴ファイル
<filename>
-r<filename> 出力レポートをファイル
<filename> に保管
-td<x> 終了文字を 'x' 設定
-z<filename> すべての出力をファイル
<filename> に保管

ユーザーの処置: 有効なオプションとパラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21003E *environment-variable* の値 *value* が無効です。

説明: DB2BQTRY の値は 0 から 4294967295 でなければなりません。DB2BQTIME、DB2RQTIME または DB2IQTIME の値は 1 から 4294967295 でなければなりません。

ユーザーの処置: 正しい値で環境変数を設定し、コマンドを再サブミットしてください。

DB21004E コマンド行プロセッサの呼び出しで、入力ファイルとコマンドの両方を指定することはできません。

説明: コマンド行プロセッサを呼び出す場合、-f オプションとコマンド行コマンドの両方は指定できません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

DB21005E ファイル *filename* にアクセス中に、エラーが発生しました。

説明: エラーの原因になった可能性があるのは、次のとおりです。

- ファイル許可がファイル・アクセスを許可しません
- ファイルが存在しません

ユーザーの処置: エラーを訂正して、もう一度やり直してください。

DB21006E 入力コマンドが長すぎます。最大長は *length* です。

説明: 入力コマンドが、示されている長さを超えることはできません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21007E コマンド読み取り中に、ファイルの終わりに達しました。

説明: ファイルの終わりに達したため、最後のコマンドが実行されませんでした。 `-t` オプションを使用している場合、最後のコマンドを `';` (または定義済みの終了文字) で終了させます。 `+t` オプションを使用している場合は、コマンドの最後の行から `'¥'` を取り除きます。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21008E コマンドは、コマンド行プロセッサの対話モードか、ファイル入力モードでのみ入力できます。

説明: コマンド行プロセッサ・コマンドを DOS プロンプトから入力しようとした。

ユーザーの処置: コマンド行プロセッサの対話型モード、またはファイル入力モードを使用してください。

DB21010I *help-command-phrase* のヘルプです。

説明: このメッセージは、`-I` オプションで指定された履歴ファイルにのみ書き込まれます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DB21011I 区分されたデータベース・サーバー環境において、現行ノード上の表スペースのみリストされます。

説明: 現行ノード上の表スペースのみが `LIST TABLESPACES` コマンドで見ることができます。

ユーザーの処置: 別のノード上にある表スペースをリストするには、そのノードで `LIST TABLESPACES` コマンドを出さなければなりません。

DB21015E コマンド行プロセッサのバックエンド処理の要求キューまたは入力キューが、タイムアウト時間内に作成されませんでした。

説明: `DB2BQTRY` および `DB2BQTIME` 環境変数の値を増やす必要があるか、またはコマンド行プロセッサのバックエンド・プログラム `"db2bp"` が始動できないか

のいずれかです。 `"db2bp"` プログラムは、正しいデータベース・マネージャー・インストール・パスに存在していなければならない、ユーザーはそのファイルの実行許可を持っている必要があります。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21016E バックエンド処理にコマンドを送信中に、コマンド行プロセッサでシステム・エラーが発生しました。

説明: 以下のいずれかが起きた可能性があります。

- バックエンド・プロセスが異常終了しました。
- バックエンド・プロセス・キューとの間の読み取りまたは書き込み中に、システム・エラーが起きました。
- フロントエンド・プロセスの出力キューからの読み取り中に、システム・エラーが起きました。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。このエラーが再び起こる場合、システム管理者に連絡して援助を受けてください。

DB21017E コマンド行プロセッサのフロントエンド処理の出力キューで、システム・エラーが発生しました。理由コード = *reason-code*

説明: フロントエンド・プロセスの出力キューの作成または読み取り中に、システム・エラーが起きました。

理由コードが `-2499` の場合、コマンド行プロセッサの出力キューが既存のキューと矛盾しています。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。このエラーが再び起こる場合、メッセージ番号と理由コードを記録して、システム管理者に報告してください。

DB21018E システム・エラーが発生しました。コマンド行プロセッサは処理を続行できませんでした。

説明: 以下のいずれかがシステム・エラーの原因です。

- スクリーンに出力されるデータが多すぎます。処理の完了時に表示できるファイルに、出力をパイプ接続してください。
- コマンド行プロセッサが、割り込みシグナル・ハンドラーのインストールに失敗しました。
- コマンド行プロセッサが、バックエンド・プロセス・キューのオープンに失敗しました。
- コマンド行プロセッサが、バックエンド・プロセスの始動に失敗しました。

- バックエンド・プロセスが異常終了しました。
- フロントエンド・プロセスが、メモリーの割り振りまたは解放に失敗しました。
- フロントエンドまたはバックエンド、あるいはその両方の処理が、動的にライブラリーをロードするのに失敗しました。
- コマンド行プロセッサが、次のいずれかのプログラム終了シグナルを受け取りました。

- SIGILL
- SIGTRAP
- SIGEMT
- SIGBUS
- SIGSEGV
- SIGSYS

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。問題が解決しない場合、DB2 メッセージ番号を記録しておいてください。トレースがアクティブの場合は、トレース情報を保管して、技術サポートに次の情報を渡してください。

- 問題記述
- DB2 メッセージ番号
- SQLCA (可能であれば)
- トレース・ファイル (可能であれば)

DB21019E ディレクトリー *directory* にアクセス中に、エラーが発生しました。

説明: エラーの原因になった可能性があるのは、次のとおりです。

- ディレクトリー許可がアクセスを許可しません
- ディレクトリーが存在しません

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21020E デフォルトのメッセージ・ファイル *file* を作成できません。

説明: このコマンドを適切に処理するため、メッセージをコンソールに表示する前に、処理の保管中にそのメッセージを発行したファイルが CLP に必要となります。このような目的で通常使用されているディレクトリー (UNIX プラットフォームの /tmp または ..OS/2 の ¥TMP) に、そのファイルを作成しようとしたが、ディレクトリーが存在しないため試みは失敗しました。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21021E Administration Server のインスタンスが定義されていません。コマンドは失敗しました。

説明: Administration Server のインスタンスを使用するために必要なコマンドを発行しましたが、そのインスタンスは定義されていません。

ユーザーの処置: Administration Server インスタンスを定義してコマンドを再度実行してください。

DB21022E Administration Server のインスタンス *instance-name* に切り替えられません。

説明: Administration Server のインスタンスを使用するために必要なコマンドを発行しました。コマンド行プロセッサが Administration Server のインスタンス *instance-name* に切り替えようとしたが、失敗しました。次の理由が考えられます。

- Administration Server のインスタンスが正しく設定されていない。
- コマンド行プロセッサがすでに DB2 インスタンスに付加されている。
- コマンド行プロセッサがデータベースに接続している。

ユーザーの処置: このコマンドを使用する前に、有効な Administration Server インスタンスが設定されているかどうか検査してください。また要求を試みる前に、DETACH、CONNECT RESET、あるいは TERMINATE コマンドを発行するようお勧めします。

DB21023E Administration Server から実行される場合、コマンドは無効です。

説明: GET DBM CONFIGURATION、RESET DBM CONFIGURATION、あるいは UPDATE DBM CONFIGURATION のいずれかのコマンドを出しましたが、これらのコマンドは Administration Server から実行できません。

ユーザーの処置: Administration Server で有効なコマンドのいずれかを発行してください。GET ADMIN CONFIGURATION、RESET ADMIN CONFIGURATION、あるいは UPDATE ADMIN CONFIGURATION。

DB21024I このコマンドは非同期であり、即時に有効にならない場合もあります。

説明: このメッセージは、ASYNC 文節を持つ FORCE コマンドか、INPLACE 文節を持つ REORG TABLE コマンドの後に表示されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DB21025I 即時に変更するようサブミットされた 1 つ以上のパラメーターが動的に変更されませんでした。アプリケーションの次の始動まで、あるいは **TERMINATE** コマンドが発行されるまで、クライアントの変更は有効になりません。次の **DB2START** コマンドまで、サーバーの変更は有効になりません。

説明: データベース・マネージャーへの変更のうちいくつかの変更を即時に適用することができませんでした。これらのパラメーターについては、DB2 の開始後に変更が適用されます。通常これは、サーバーでの **DB2START** の後、およびクライアントでのアプリケーションの再始動の後に起きます。

ユーザーの処置: どのパラメーターの変更が動的に有効になったか、あるいはどのパラメーターの変更が動的に有効にならなかったかを調べるには、以下のコマンドを使用して、データベース・マネージャー構成パラメーターを検索し、詳細を表示してください。

```
DB2 GET DBM CFG SHOW DETAIL
```

ユーザーがインスタンスにアタッチされている場合のみ、データベース・マネージャー構成パラメーターへの変更は動的に有効になります。すべての構成パラメーターが動的更新をサポートしている訳ではありません。どのパラメーターを動的に変更できるのかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

グループ内で複数のパラメーターがサブミットされた場合は、パラメーターを個々にサブミットしてください。このように構成パラメーターを動的に変更できない場合には、以下のいずれか、またはいくつかを行ってください。

- ユーザー・アプリケーション: アプリケーションの停止および開始
- CLP: **TERMINATE** および再接続
- サーバー: **DB2STOP** および **DB2START** の発行

DB21026I 即時に変更するようサブミットされた 1 つ以上のパラメーターが動的に変更されませんでした。これらのパラメーターでは、変更を有効にする前にすべてのアプリケーションをこのデータベースから切断する必要があります。

説明: データベース構成コマンドは正常に処理されました。しかし、いくつかの変更は即座に処理されませんでした。アプリケーションがデータベースから切断される後、データベースに最初に接続すると、変更が有効になります。

ユーザーの処置: どのパラメーターの変更が動的に有効になったか、あるいはどのパラメーターの変更が動的に有効にならなかったかを調べるには、以下のコマンドを使用して、データベース構成パラメーターを検索し、パラメーターの詳細を表示してください。

```
DB2 GET DB CFG FOR
<database-alias> SHOW DETAIL
```

データベースに接続している場合のみ、データベース構成パラメーターへの変更は動的に有効になります。すべての構成パラメーターが動的更新をサポートしている訳ではありません。どのパラメーターを動的に変更できるのかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

グループ内で複数のパラメーターがサブミットされた場合は、パラメーターを個々にサブミットしてください。このように構成パラメーターを動的に変更できない場合には、以下のいずれか、またはいくつかを行ってください。

- すべてのアプリケーションがデータベースから切断されていることを確認し、db2 接続コマンドを発行する。
- バインド中に新規値が使用されるため、新規構成パラメーターが反映された後、パッケージを再バインドする。
- **FLUSH PACKAGE CACHE** コマンドを使用して、SQL キャッシュ内の動的ステートメントを無効にする。

DB21027E データベースに接続中は、分離レベルは変更できません。

説明: データベースに接続されている間に、分離レベルを変更しようとしてしました。コマンドは無視されます。

ユーザーの処置: 分離レベルの変更が必要な場合、現在のデータベースから切断した後で分離レベルを設定し、そのデータベースに再接続してください。

DB21028E カーソル *cursor-name* が宣言されていません。

説明: **OPEN**、**FETCH**、または **CLOSE SQL** ステートメントを発行する前に、示されているカーソルを宣言する必要があります。

ユーザーの処置: カーソルを宣言して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21029E カーソル *cursor-name* は、すでに宣言されオープンされています。

説明: オープンされているカーソルを宣言しようとした。

ユーザーの処置: カーソルをクローズして、オープン・コマンドを再サブミットしてください。

DB21030E カーソル *cursor-name* がオープンされていません。

説明: 示されたカーソルをオープンする必要があります。

ユーザーの処置: カーソルをオープンして、コマンドを再サブミットしてください。

DB21031E カーソル *cursor-name (internal-cursor)* を使用している SQL ステートメントが戻されました:

説明: このメッセージは、ユーザー定義カーソルの内部カーソル名を表示します。いくつかの SQL エラー・メッセージが、内部カーソル名を示す場合があります。このメッセージは、SQL メッセージの前に表示されません。

ユーザーの処置: SQL エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21032E すでに、最大数のカーソルが宣言されています。

説明: コマンド行プロセッサは、WITH HOLD 属性で宣言された 100 のカーソル、および WITH HOLD 属性なしで宣言された 100 のカーソルをサポートしています。

ユーザーの処置: 既存のカーソルのいずれかを再宣言して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21033E DRDA ホストに常駐するデータベースについて無効なコマンドです。

説明: 以下のコマンドは、DRDA ホスト・サーバーに存在するデータベースに対してサポートされていません。

- LIST TABLES
- LIST PACKAGES
- REORGCHK

ユーザーの処置: このデータベースに対してコマンドを発行しないでください。

DB21034E コマンドが、有効なコマンド行プロセッサ・コマンドでないため、SQL ステートメントとして処理されました。SQL 処理中に、そのコマンドが返されました。

説明: このメッセージは、SQL エラー・メッセージの前に表示されます。非 SQL コマンドの構文エラーが原因でエラーが発生します。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21035E *list-name* リストの項目の最大数を超えました。最大数は *number* です。

説明: リストの項目数は、示されている最大数を超えることはできません。このエラーは、無効な範囲指定によって起きた可能性があります。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21036E *command* コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: コマンドをトレースをアクティブにして再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管し次の情報を技術サポートに連絡してください。

- 問題記述
- DB2 メッセージ番号
- トレース・ファイル

DB21037W データ・ソースが見つかりません。

ユーザーの処置: 指定したタイプ (USER あるいは SYSTEM) の ODBC データ・ソースが見つかりませんでした。他のタイプ (SYSTEM あるいは USER) を指定して、コマンドを再試行してください。

DB21040E *number* は、有効な未確定トランザクション番号ではありません。

説明: *number* が、リストされている未確定のトランザクション番号のいずれでもありません。

ユーザーの処置: リストされているトランザクション番号のいずれかを選択して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21041W *number* 個の未確定トランザクションが表示されていません。

説明: コマンド行プロセッサが、すべての未確定トランザクションを表示できませんでした。表示されなかったトランザクションの数は *number* です。

ユーザーの処置: システムの未確定トランザクションの合計数を減らすためには、未確定トランザクションの現在のリストの処理を完了してください。次に、未確定トランザクションのリスト・コマンドを再発行してください。

DB21042E トランザクション番号を指定しなければなりません。

説明: 未確定トランザクションの `commit (c)`、`rollback (r)`、または `forget (f)` サブコマンドには、トランザクション番号を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 適切なトランザクション番号を指定して、コマンドを再発行してください。

DB21043E *subcommand* は有効な要求ではありません。

説明: 示された未確定トランザクション・サブコマンドが無効です。有効なサブコマンドは、次のとおりです。

サブコマンド 説明

```
-----  
c <number> 未確定トランザクション  
             <number> をヒューリス  
             ティックにコミット。  
r <number> 未確定トランザクション  
             <number> をヒューリス  
             ティックにロールバック  
f <number> 未確定トランザクション  
             <number> をヒューリス  
             ティックにコミット。  
l <number> 未確定トランザクション  
             すべて、または未確定トランザ  
             クション <number> をすべてリスト  
q          LIST INDOUBT TRANSACTION  
             プロンプトを終了
```

注: *number* コマンドは、DB2 Extended Enterprise Edition では使用できません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21044E トランザクション番号 *number* の **COMMIT** を行うことができません。

説明: `commit (c)` サブコマンドを発行するときは、トランザクションが準備状態 (i) でなければなりません。

ユーザーの処置: 別のコマンドを発行してください。

DB21045E トランザクション番号 *number* の **ROLLBACK** を行うことができません。

説明: ロールバック (r) サブコマンドを発行する際に、トランザクションは準備済み (i) またはアイドル (e) 状態である必要があります。

ユーザーの処置: 別のコマンドを発行してください。

DB21046E トランザクション番号 *number* の **FORGET** を行うことができません。

説明: `forget (f)` コマンドを発行するときは、トランザクションがヒューリスティック・コミット済み (c) またはヒューリスティック・ロールバック済み (f) の状態であればなりません。

ユーザーの処置: 別のコマンドを発行してください。

DB21050E *state* は有効な **SQLSTATE** ではありません。

説明: 示されている `sqlstate` が有効でないか、または見つかりませんでした。有効な状態は、2 から 5 桁の数値です。

ユーザーの処置: 別の状態を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21051E この環境ではサポートされないコマンドです。

説明: 要求されたコマンドは、現在の環境ではコマンド行プロセッサによってサポートされていません。

ユーザーの処置: 別のプラットフォーム、または別の環境でコマンドを再サブミットしてください。

DB21052I *command* が実行のためにサブミットされました。

説明: コマンド行プロセッサが、示されているコマンドを実行しようとしています。コマンドが正常に完了したかどうかは判別できません。

ユーザーの処置: コマンドが明らかに失敗した場合、そのコマンドをコマンド行プロセッサ外からサブミットしてください。

DB21053W *isolation-level* をサポートしないデータベースに接続すると、自動エスカレーションが行われます。

説明: 分離レベルはデータベースによって異なります。NC などの一部だけが、特定のデータベースにサポートされています。接続しているデータベースによってサポートされていない分離レベルを選択すると、サポートされているレベルに自動的にエスカレートされます。

ユーザーの処置: 選択した分離レベルをサポートするデータベースに接続するか、または別の分離レベルを選択してください。

DB21054E コマンド行プロセッサが、*command* コマンドでシステム・エラーを検出しました。理由コード = *reason-code*

説明: コマンド行プロセッサが、示されているコマンドを処理するために十分なメモリーを確保できませんでした。処理中にシステム・エラーが起きました。

理由 コード	説明	構文
1	データ・ ファイル	LOAD FROM file/pipe/dev...
2	Lob データ	LOBS FROM lob-path...
3	ディレクトリー ソース	USING directory... FROM dir/dev...
4	ターゲット	TO dir/dev...
5	表スペース	TABLESPACE
6		tblspace-name...
7	表スペース定義	MANAGED BY...
8	コンテナ・ データ	USING (PATH..., PATH...) または USING ({FILE DEVICE}..., {FILE DEVICE}...)
9	ログ・パス	log-directory ..., log-directory ...
10	ノード・リスト	node-number ..., node-number ...

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21055W コマンドはタイプ 2 接続には無効です。

説明: タイプ 2 接続には適用されない GET CONNECTION STATE コマンドから情報が返されました。

ユーザーの処置: QUERY CLIENT を発行して、CONNECT = 1 を確認してください。

DB21056W ディレクトリーの変更は、ディレクトリー・キャッシュがリフレッシュされるまで有効にならない場合があります。

説明: ディレクトリー・キャッシュ (DBM CFG dir_cache) が使用可能であれば、データベース、ノード、および DCS ディレクトリー・ファイルがメモリーにキャッシュされます。ディレクトリーの変更は、ディレクトリー・キャッシュがリフレッシュされるまで有効にならない場合があります。ディレクトリー・キャッシュの説明については、「管理の手引き」で dir_cache 構成パラメーターを参照してください。

ユーザーの処置: CLP のディレクトリー・キャッシュをリフレッシュするには、db2 TERMINATE を発行してください。他のアプリケーションのディレクトリー情報

をリフレッシュするには、そのアプリケーションの停止と再始動を行ってください。データベースのディレクトリー情報をリフレッシュするには、データベースの停止 (db2stop) と再始動 (db2start) を行ってください。

DB21057E 無効なテープ装置が指定されました。

説明: オペレーティング・システムに渡されたテープ装置は受け入れられていません。Windows NT では、これは形式 "¥¥.¥TAPEx" でなければなりません。ここで x はドライブ番号 (0 が最初) を表します。

ユーザーの処置: 有効なテープ装置を指定して、コマンドを再発行してください。

DB21058E 無効なテープ位置が指定されました。

説明: 指定されたテープ・マーク位置が無効です。Windows NT では、バックアップが記録される最初のテープ位置は 1 です。後続のバックアップ・イメージはテープ・マーク 2 で開始されます。

ユーザーの処置: 有効なテープ位置を指定して、コマンドを再発行してください。

DB21059E 無効なテープ・ブロック・サイズが指定されました。

説明: 指定されたテープ・マーク・ブロック・サイズがテープ装置でサポートされる範囲内になっていません。さらに、作業のためのバックアップ/リストアでは、これは係数または 4096 の倍数でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効なテープ・サイズを指定して、コマンドを再発行してください。

DB21060E 一般的なテープの障害。

説明: テープ操作から予期しない戻りコードが戻されました。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。このエラーが再び起こる場合、システム管理者に連絡して援助を受けてください。

DB21061E コマンド行環境が初期化されていません。

説明: db2cmd.exe によって開始されていないコマンド・ウィンドウから、コマンド行プロセッサを呼び出そうとしました。

ユーザーの処置: DB2CMD を出して、コマンド行プロセッサ環境が初期化されているコマンド・ウィンドウを開始してください。

DB21070W 1 つ以上の構成パラメーターが、**AUTOMATIC** をサポートしていないのに **AUTOMATIC** に設定されました。

ユーザーの処置: パラメーターの変更がグループとしてサブミットされた場合は、どのパラメーターの変更が成功したか調べるために、変更を個々に再サブミットしてください。

1 つのパラメーターがサブミットされただけである場合は、このメッセージは、値 **AUTOMATIC** がこのパラメーターでサポートされていないことを示します。

どの構成パラメーターが **AUTOMATIC** 値をサポートするかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

DB21071W 構成パラメーター値がすべてのノードで変更されましたが、値の変更が動的に変更されなかったノードがあります。

ユーザーの処置: パラメーターの変更がグループとしてサブミットされた場合は、詳細情報を得るために、更新コマンドを個々に発行してください。

成功しなかったノードを次回再始動するときに、新しい値が有効になります。

ユーザーがインスタンスにアタッチされている場合のみ、データベース・マネージャー構成パラメーターへの変更は動的に有効になります。すべての構成パラメーターが動的更新をサポートしている訳ではありません。どのパラメーターを動的に変更できるのかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

動的アプリケーションで失敗したノードを識別するには、各ノードでインスタンスをアタッチし、次のコマンドを発行してください。

DB2 GET DBM CFG SHOW DETAIL

DB21080E このデータベース別名に対して事前に発行した、**REDIRECT** オプション付きの **RESTORE DATABASE** コマンドがないか、またはそのコマンドに関する情報が失われています。

説明: **CONTINUE** または **ABORT** オプションで、**RESTORE DATABASE** コマンドを実行しようとした。しかし、前に **REDIRECT** オプションで **RESTORE DATABASE** コマンドを発行していないか、または失敗コマンド上で指定されたのは別のデータベース別名以外に対してそのようなコマンドを発行しました。このメッセージが出された別の原因として、前に正しく発行された **RESTORE DATABASE ... REDIRECT** コマンドの情報が消失したことが考えられます。これは、CLP バ

ックエンド処理が異常終了した場合か、または **TERMINATE** コマンドを発行した場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: **RESTORE DATABASE ... REDIRECT** コマンドおよび **SET TABLESPACE CONTAINERS** コマンドを再発行して、フル・リダイレクトされたリストア処理を再開してください。次に、**RESTORE DATABASE ... CONTINUE** コマンドを発行してください。

DB21081E **db2cli.ini** ファイルにはセクションがありません。

説明: **GET CLI CONFIGURATION** コマンドを使用することによって、**db2cli.ini** ファイルの **CLI** パラメーターをリストしようとしたましたが、ファイルが空です。ファイルにはセクションがありません。

ユーザーの処置: **db2cli.ini** ファイルを更新するには、**UPDATE CLI CONFIGURATION** コマンドを使用してください。

DB21082E **UPDATE CLI CONFIGURATION** コマンドを実行する権限がありません。

説明: このコマンドを実行するには、**SYSADM** 権限が必要です。

ユーザーの処置: データベース管理者から必要な権限を与えてもらってから、コマンドを再発行してください。

DB21083E セクション *section* がありません。

説明: セクション *<section>* が **db2cli.ini** ファイルにありません。

ユーザーの処置: 既存のセクションを指定して、コマンドを再度発行してください。

DB21084E 新規パスワードと確認パスワードが一致しません。

説明: **ATTACH** または **CONNECT** コマンドを使用していて、パスワードの変更を指定しました。新規パスワードは、**NEW** および **CONFIRM** 文節を使用して、あるいはプロンプトに回答して 2 回指定する必要があります。新規パスワードとして指定した 2 つのパスワードは、別々のものです。

ユーザーの処置: 同じパスワードを 2 回指定してください。

DB21085I インスタンス *instance-name* は、32 または 64 ビットおよび DB2 コード・リリース *ver-rel-mod* をレベル ID *level-id* で使用します。情報トークンは、*build-id1*、*build-id2*、*build-id3*、および **FixPak** *FixPak-number* です。

説明: このメッセージは、db2level コマンドの出力で、指定の DB2 インスタンスのコード・レベルに関する詳細情報を提供します。この情報は、DB2 サービス担当者が問題を解決するために要求することがあります。

ユーザーの処置: DB2 サービス担当に提供するため、表示されている情報をすべて記録してください。

db2level 実行プログラムは、マシン間でコピーしないようにします。DB2 インストールおよびサービス保守プログラムのみが、このファイルを操作します。

顧客が DB2 サービス担当者からプライベート・テスト修正プログラムを受け取り、正式にサポートされているサービス・レベルの上にこれをインストールした場合、db2level 実行プログラムは、そのプライベート・テスト修正プログラムに関するすべての情報を表示するとは限りません。

DB21086I このバックアップ・イメージの増分 **RESTORE** 操作が正しく完了しましたが、増分 **RESTORE** 操作全体を完了するためにリストアが必要なバックアップ・イメージが他にもあります。

説明: 増分 **RESTORE** 操作を完了するには、そのリストア・チェーン内の増分バックアップ・イメージがそれぞれリストアされていなければなりません。現在の操作は正常に終了しますが、**RESTORE** 操作全体が完了するためにはリストアが必要なバックアップ・イメージが他にもあります。

ユーザーの処置: 次のバックアップ・イメージをリストアします。

DB21100E ストアド・プロシージャ *procedure-name* が複数のスキーマに存在します。

説明: 示されているプロシージャ名が複数のスキーマに見つかりました。

ユーザーの処置: 完全修飾プロシージャ名 (*schema.procedure-name*) を指定して、CALL コマンドを出し直してください。

DB21101E ストアド・プロシージャ *procedure-name* (予想数) 指定されたパラメーターが少なすぎます。

説明: このストアド・プロシージャの定義には、CALL コマンドに指定されたより多くのパラメーターが含まれています。

ユーザーの処置: ストアド・プロシージャのパラメーターの数を確認して、コマンドを再発行してください。

DB21102E ストアド・プロシージャ *procedure-name* (予想数) に指定されたパラメーターが多すぎます。

説明: このストアド・プロシージャの定義には、CALL コマンドに指定されたより少ないパラメーターが含まれています。

ユーザーの処置: ストアド・プロシージャのパラメーターの数を確認してください。

DB21103E パラメーター *parameter-number* のデータ・タイプは **CLP** の **CALL** コマンドにサポートされていません。

説明: CLP にいる場合、データ・タイプがパラメーター *parameter-number* のデータ・タイプであるパラメーターを使ってストアド・プロシージャを呼び出すことはできません。

ユーザーの処置: このストアド・プロシージャを CLP から呼び出さないでください。

DB21104E ストアド・プロシージャ *procedure-name* のパラメーター *parameter-number* は、**INPUT** パラメーターでなければなりません。

説明: パラメーター *parameter-number* は、INPUT または INPUT/OUTPUT パラメーターとして定義されています。ただし、このパラメーターには "?" が指定されています。

ユーザーの処置: パラメーター *parameter-number* の "?" を、このパラメーターの入力値で置換し、再度 CALL コマンドを発行してください。

DB21105E ストアド・プロシージャ *procedure-name* のパラメーター *parameter-number* は、**OUTPUT** パラメーターでなければなりません。

説明: パラメーター *parameter-number* は、OUTPUT パラメーターとして定義されています。ただし、このパ

ラメーターには入力値が指定されています。

ユーザーの処置: パラメーター *parameter-number* の入力値を "?" で置換して、再度 CALL コマンドを発行してください。

DB21106E ストアード・プロシージャ
procedure-name が未定義です。

説明: ストアード・プロシージャが定義されていないか、システム・カタログに入っていません。

ユーザーの処置: ストアード・プロシージャがシステム・カタログに存在することを確認してください。ストアード・プロシージャをドロップし、再作成を試みてください。次に、CALL コマンドを再発行してください。

DB21500I DB2MSCS コマンドが正常に終了しました。

説明: ユーザー要求は正常に処理されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DB21501E 無効なオプション *option-name* がコマンドに指定されました。

説明: 無効な引き数が DB2MSCS コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- -f:InputFileName DB2MSCS.CFG 入力ファイルが MSCS ユーティリティで использоваться ことを指定します。このパラメーターが指定されない場合、DB2MSCS ユーティリティは、現行ディレクトリーの DB2MSCS.CFG ファイルを読み取ります。
- -d:TraceFileName デバッグ・トレースをオンにし、トレース出力ファイルを指定します。
- -u:InstanceName インスタンスの DB2MSCS 操作を取り消します。

ユーザーの処置: このコマンドに関する詳細については、「管理ガイド」を参照してください。次のようにコマンドを入力し直してください。DB2MSCS -f InputFileName

DB21502E 構成ファイル *file-name* をオープンできません。

説明: 構成ファイルをオープンできませんでした。メッセージ・テキスト内のファイル名によって、このエラーは次のように説明できます。

- メッセージ・テキスト内のファイル名が DB2MSCS コマンドで指定された入力ファイルの名前である場合、入力ファイルを見つけることができなかった。

- ファイル名が "db2system" である場合、ターゲット・インスタンスのデータベース・マネージャー構成ファイルが欠落している。

- ファイル名が "db2mscs.bak" である場合、バックアップ構成ファイルをインスタンス・ディレクトリーに作成することができなかった。

- ファイル名が "db2mscs.bak" であり、取り消し操作が行われた場合、取り消し操作を行う際に、インスタンス・ディレクトリーからのバックアップ構成ファイルをオープンすることができなかった。

ユーザーの処置: エラーが起きたファイルによって、問題は次のように訂正できる場合があります。

- メッセージ・テキスト内のファイル名が DB2MSCS コマンドで指定された入力ファイルの名前である場合、ファイルが現行ディレクトリーに存在するか、あるいは完全修飾ファイル名がコマンドで指定されたかどうかを確認する。
- ターゲット・インスタンスのデータベース・マネージャー構成ファイルがない場合、インスタンスをドロップおよび再作成する。
- バックアップ構成ファイルがインスタンス・ディレクトリーで作成できなかった場合、インスタンス・プロファイル・ディレクトリーが存在し、現行ログオン・アカウントがそのディレクトリーに書き込みアクセスできることを確認する。
- 取り消し操作を行う際にインスタンス・ディレクトリーからのバックアップ構成ファイルをオープンできなかった場合、インスタンス・プロファイル・ディレクトリーを含む MSCS ディスクが現行マシンでオンラインになっていることを確認し、操作を再試行する。

DB21503E このコマンドを処理するのに十分なメモリーがありません。

説明: コマンドを処理するのに必要なメモリーが足りなくなりました。

ユーザーの処置: システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。使用中でないすべてのアプリケーションをクローズし、システムに追加のメモリーを解放してください。

DB21504E パラメーター *parameter-name* に指定された値 *parameter-value* が、そのパラメーターの最大長を超えました。パラメーターの最大長は *length* バイトです。

説明: キーワード *parameter-name* に指定された値 *parameter-value* が、そのパラメーターで許可されている最大限度を超えました。

ユーザーの処置: 以下の最大長の制限に準拠した値を指定してください。

- グループまたはリソース名の最大長は 64
- IP アドレスまたはサブネット・マスクの最大長は 15
- DB2 インスタンス名の最大長は 8
- ネットワーク名、クラスター名、またはコンピューター名の最大長は 64
- ユーザー名またはパスワードの最大長は 256

DB21505E パラメーター *parameter-name1* は、**DB2MSCS** 構成ファイル *file-name* で、パラメーター *parameter-name2* よりも前に指定される必要があります。

説明: DB2MSCS 構成ファイルで指定されたパラメーターの順序が無効です。グループ名は他のリソース・パラメーターの指定よりも前に指定する必要があります。それぞれのリソースごとに、リソース名パラメーターはリソース・パラメーターの指定よりも前に指定する必要があります。

ユーザーの処置: DB2MSCS 構成ファイルを変更して、パラメーターの順序を訂正してください。

DB21506E クラスター *cluster-name* にアクセスできません。クラスター名が正しいこと、またクラスター・サービスが現行マシンで開始されていることを確認してください。

説明: クラスター名が正しくないか、現行マシンでクラスター・サービスが開始されていないかのいずれかのため、DB2MSCS ユーティリティーはクラスター名をオープンできませんでした。

ユーザーの処置: クラスター・サービスが現行マシンで開始されていない場合は、"net start clussvc" コマンドを実行してクラスター・サービスを開始するか、「サービス」ダイアログから "Cluster" コマンドを開始させてください。クラスター名が DB2MSCS 構成ファイルで間違って指定された場合は、クラスター名を変更して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21507E インスタンス名 *instance-name* が無効です。

説明: DB2MSCS 構成ファイルで指定されたインスタンス名が無効であるか、あるいは DB2INSTANCE 環境変数が有効なインスタンス名に設定されていません。

ユーザーの処置: インスタンス名が DB2MSCS 構成ファイルで指定されている場合は、インスタンス名が有効であることを確認し、コマンドを再サブミットしてください。インスタンス名が構成ファイルで指定されてい

ない場合は、DB2INSTANCE 環境変数が有効な DB2 インスタンスの名前に設定されていることを確認してください。

DB21509E 構成ファイル *file-name* に指定されたキーワード *keyword* は、パーティション・データベース・インスタンスでのみ有効です。

説明: ターゲット・インスタンスがパーティション・データベース・インスタンスの場合にのみ、指定されたキーワードが有効です。たとえば、DB2_NODE キーワードはパーティション・データベース・インスタンスにのみ指定できます。

ユーザーの処置: 構成ファイルの無効なキーワードをコメント化し、コマンドを再サブミットしてください。

DB21510E 構成ファイル *file-name* で指定された IP アドレス *internet-address* が無効です。

説明: IP アドレスまたはサブネット・マスクのいずれかに指定された値が IP アドレスの形式に準拠していません。有効な IP アドレスは、次のような形式です: "nnn.nnn.nnn.nnn" ここで、nnn は 0 から 255 の数値です。

ユーザーの処置: 構成ファイルの無効なアドレスを訂正し、コマンドを再サブミットしてください。

DB21511E ノード *node-number* が存在しません。

説明: DB2_NODE キーワードに指定されたノード番号が、有効なデータベース・パーティション番号に対応していません。

ユーザーの処置: 既存のノード番号を指定するように DB2_NODE パラメーターを訂正してください。

DB21512E キーワード *keyword* は有効な DB2MSCS キーワードではありません。

説明: 指定されたキーワードは有効な DB2MSCS キーワードではありませんでした。

ユーザーの処置: 有効な DB2MSCS キーワードを使用してください。キーワードに関する詳細については、「管理ガイド」を参照してください。

DB21513E システム・エラー *error-msg* のために、DB2MSCS ユーティリティーが MSCS グループ *group-name* を作成するのに失敗しました。

ユーザーの処置: 追加の情報については、Windows のシステム・エラー・メッセージを参照してください。

DB21514E システム・エラー *error-msg* のために、
DB2MCS ユーティリティーを完了でき
ませんでした。

説明: Windows システム・エラーのために、DB2MCS
ユーティリティーを完了できませんでした。

ユーザーの処置: 追加の情報については、Windows の
システム・エラー・メッセージを参照してください。

DB21515E キーワード *keyword-name* で指定された必
須リソース・プロパティが、リソース
resource-name で欠落しています。

説明: 必須パラメーターの 1 つが指定されなかったた
め、リソースを作成することができませんでした。た
とえば、IP アドレス・リソース、IP アドレスおよびサ
ブネット・マスクを指定する必要があります。 ネット
ワーク名リソースの場合、ネットワーク名を指定する必
要があります。

ユーザーの処置: 必須パラメーターが指定されているこ
とを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21516E DB2MCS はリソース *resource-name* を
オンラインにすることができません。リソ
ースのプロパティが正しく設定されてい
ることを確認してください。

説明: リソースが作成されたら、DB2MCS ユーティ
リティーはリソースをオンラインにすることにより、リ
ソースの妥当性検査を行います。リソースをオンライ
ンにするのに失敗した場合、リソース・プロパティが
正しく指定されていないか、クラスター・ネットワーク
が正しく機能していないかのいずれかであることを示し
ます。

ユーザーの処置:

- ディスク・リソースがエラーの場合は、ディスク・サ
ブシステムおよびディスク装置ドライバーが正しく機
能していることを確認してください。ディスク装置
ドライバーの問題がイベント・ログに記録された場合
は、イベント・ビューアーを使用して調べる必要があ
ります。
- IP アドレス・リソースがエラーの場合、IP パラメー
ターが正しいこと、および IP アドレスが存在するネ
ットワークが正しく機能していることを確認します。
また、DB2 用に指定されている IP アドレスを、ネ
ットワーク上の他のマシンで使用することはできませ
ん。IP アドレス用に使用するパラメーターがよくわ
からない場合は、ネットワーク管理者に相談してくだ
さい。
- ネットワーク名リソースがエラーの場合、ネットワ
ークが正しく機能していること、および *Netname* パラ

メーターに指定された値がネットワーク上の任意のマ
シンで使用されていないことを確認してください。
ネットワーク名パラメーターは必要ないことに注意し
てください。回避策としては、ネットワーク名パラ
メーターをコメント化して続けることができます。

- DB2 リソースがエラーの場合は、*db2diag.log* で DB2
エラーを調べてください。

DB21517E MCS ネットワーク *network-name* がア
クティブではありません。

説明: IP アドレスに指定されたネットワーク・パラメ
ーターがアクティブではありません。

ユーザーの処置: クラスター管理ビューから、ターゲッ
ト・ネットワークを活動化あるいは使用可能にし、コマ
ンドを再サブミットしてください。

DB21518E アクティブな MCS ネットワークがあり
ません。

説明: ネットワーク・パラメーターが IP アドレスに指
定されず、使用できるネットワークがありませんでし
た。

ユーザーの処置: 有効な MCS ネットワークを構成す
る必要があります。MCS ネットワークを追加、構成
するには、クラスターの資料を参照してください。

DB21519E DB2MCS はリソース *resource-name* を
オフラインにすることができません。リソ
ースのプロパティが正しく設定されてい
ることを確認してください。

説明: DB2MCS はリソースをオフラインにすること
ができませんでした。リソースはクラスター・ソフト
ウェアで使用可能である可能性があります。

ユーザーの処置: 操作をやり直してください。問題が
解決しない場合は、トレース・オプションを指定して実
行し、IBM サービス技術員に連絡して助言を受けてく
ださい。

DB21520E DB2PATH プロファイル変数が定義され
ていません。

説明: DB2PATH レジストリー・プロファイル変数が現
行マシンで定義されていません。DB2 をインストール
しているパスに DB2PATH を設定する必要があります。

ユーザーの処置: *db2set* コマンドを使用して、DB2 が
インストールされているディレクトリーに DB2PATH
を設定してください。たとえば、*db2set -g*
DB2PATH=D:\SQLLIB とします。

DB21521E DB2MSCS はファイル *file-name* から読み取れません。

説明: DB2MSCS ユーティリティは指定されたファイルからデータを読み取ることができません。

ユーザーの処置: ファイルがロックされていないこと、および現行ログオン・ユーザーにファイルの読み取り権限を持っていることを確認してください。

DB21522E マシン・レジストリーをマシン *machine-name* でオープンできません。マシンがアクティブであり、現行ログオン・アカウントがローカル管理者権限を持っていることを確認してください。

説明: DB2MSCS は読み取りおよび書き込みアクセスのためにリモート・マシンのレジストリーをオープンすることができませんでした。デフォルトで、そのマシンのローカル管理者グループに属するユーザーのみが、マシン・レジストリーへの読み取り、書き込みアクセスを持っています。このエラーは、リモート・マシンがアクティブでない場合にも返されます。

ユーザーの処置: ターゲット・マシンがアクティブであることを確認し、ターゲット・マシンのローカル管理者グループに属するドメイン・アカウントにログオンしてから、コマンドを再サブミットしてください。

DB21523E マシン・レジストリーをマシン *machine-name* でクローズできません。マシンがアクティブであり、現行ログオン・アカウントがローカル管理者権限を持っていることを確認してください。

説明: リモート・レジストリーをオープンした後、DB2MSCS ユーティリティは内部エラーのために、リモート・レジストリーへのハンドルのクローズに失敗しました。

ユーザーの処置: トレース・オプションを指定して実行し、IBM サービス技術員に連絡して助言を受けてください。

DB21524E リソース *resource-name* の作成に失敗しました。システム・エラー: *error-msg*

説明: Windows システム・エラーのために、ターゲット・リソースの作成のコマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: 追加の情報については、Windows のシステム・エラー・メッセージを参照してください。

DB21525E 従属関係をリソース *resource-name* に追加するのに失敗しました。システム・エラー: *error-msg*

説明: Windows システム・エラーのために、ターゲット・リソースに従属関係を追加するコマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: 追加の情報については、Windows のシステム・エラー・メッセージを参照してください。

DB21526E リソース *resource-name* の移動に失敗しました。システム・エラー: *error-msg*

説明: Windows システム・エラーのために、リソースの移動を追加するコマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: 追加の情報については、Windows のシステム・エラー・メッセージを参照してください。

DB21527E ディスク・リソースがグループ *group-name* に指定されていません。

説明: グループごとに少なくとも 1 つのディスク・リソースを指定する必要があります。

ユーザーの処置: エラー・メッセージに示されたグループに、1 つ以上のディスク・リソースを割り当ててください。

DB21528E INSTPROF_DISK に指定された値 *keyword-value* が、同じグループ内のどのディスクとも一致していません。

説明: インスタンス・プロファイル・ディレクトリーの内容をコピーするロケーションを指定するのに INSTPROF_DISK キーワードが使用されました。INSTPROF_DISK キーワードの値が、同じグループ内のディスク・リソースの名前と一致しません。

ユーザーの処置: INSTPROF_DISK を、同じグループ内のディスク・リソースのいずれかの名前に設定してください。

DB21529E DB2MSCS ユーティリティはマシン *machine-name* のレジストリーにアクセスできません。マシンがアクティブであり、現行ログオン・アカウントがローカル管理者権限を持っていることを確認してください。

説明: DB2MSCS ユーティリティはターゲット・マシンのレジストリーにアクセスできません。

ユーザーの処置: ターゲット・マシンのローカル管理者グループに属するドメイン・アカウントにログオンして

から、コマンドを再サブミットしてください。

DB21530E DB2MSCS ユーティリティーはクラスタ
ー cluster-name のクラスタ・レジスト
リーにアクセスできません。クラスタ
ーがアクティブであり、現行ログオン・アカ
ウントがローカル管理者権限を持っている
ことを確認してください。

説明: クラスタを管理するには、両方のノードの管理許可か、あるいはクラスタを管理する特定の許可のいずれかを持つ必要があります。デフォルトで、両方のノードのローカル管理者グループは、クラスタを管理する許可を持っています。

ユーザーの処置: クラスタへのアクセスを行えるアカウントにログオンしてください。両方のノードでユーザー管理許可を与えることなくクラスタの管理許可をユーザーに与えるには、次のようにします。クラスタ管理 GUI を実行する。クラスタ名を右クリックし、プロパティをクリックする。セキュリティ（または許可）をクリックする。クラスタを管理するユーザーおよびグループを指定する。

DB21531E MSCS ディスクのプロパティを取得できません。システム・エラー: error-msg

説明: DB2MSCS ユーティリティーは MSCS ディスク・リソースからドライブ文字を取得することができません。この問題は通常、INSTPROF_DISK キーワードで指定されたディスク・リソースが IBM Netfinity ディスク・リソース "IPSHA Disk" である場合に起こります。

ユーザーの処置: INSTPROF_DISK キーワードを使用しないでください。代わりに INSTPROF_PATH キーワードを使用して、インスタンス・プロファイル・ディレクトリーをコピーするターゲット・ロケーションを明示的に指定してください。

DB21532E 内部エラーが発生しました。ファイル:
file-name、行 line-number。IBM サービス
技術員に連絡してください。

説明: 内部エラーのために DB2MSCS が失敗しました。

ユーザーの処置: トレース・オプションを指定して実行し、IBM サービス技術員に連絡して助言を受けてください。

DB21533E DB2 インスタンスの移行中にエラーが起
こりました。rc = error-code

説明: 必要なすべての MSCS リソースが作成された後に、DB2MSCS ユーティリティーが内部エラーのために、クラスタリングされた環境で実行する DB2 インスタンスの移行に失敗しました。インスタンス移行中に、ユーティリティーは以下のステップを実行します。

- インスタンス・ディレクトリーを INSTPROF_DISK または INSTPROF_PATH キーワードで指定されたロケーションにコピーする。
- DB2 レジストリー・プロファイル変数をマシン・レジストリーからクラスタ・レジストリーに移動する。
- DB2INSTPROF レジストリー変数を新規インスタンス・プロファイル・ロケーションへのポイントに設定する。
- DB2CLUSTERLIST を現行マシンの名前に設定する。

ユーザーの処置: DB2MSCS ユーティリティーを実行する前に、以下を確認してください。

- 現行マシンで、インスタンスをコマンド行から正常に開始および停止することができる。
- 別のクラスタ・ノードで、同じインスタンスを停止、および必要に応じてドロップさせることができる。
- すべてのディスク・リソースが現行マシンでアクティブであり、クラスタ・ノード間で相互に正常に移動させることができる。
- 現行ログオン・ユーザーでローカル・マシン・レジストリーおよびクラスタ・レジストリーへのアクセスができる。
- 問題が解決しない場合は、IBM サービス技術員に連絡し、DB2MSCS トレースおよび DB2 トレースの両方を提供してください。

DB21534E DB2 インスタンスに MSCS ノードを追
加する際にエラーが起きました。rc =
error-code

説明: ユーティリティーが、他の MSCS ノードを DB2 インスタンスに追加するのに失敗しました。この操作中に、ユーティリティーは以下を行います。

- ターゲット・マシンの名前を DB2CLUSTERLIST レジストリー変数に追加して、DB2 クラスタ・マシン・リストを更新する。
- DB2 サービスおよびレジストリー・インスタンス・プロファイルを、ターゲット・ノードの現行 DB2 インスタンス用に作成する。

ユーザーの処置: DB2MSCS ユーティリティーを実行

する前に、以下を確認してください。

- 現行マシンで、インスタンスをコマンド行から正常に開始および停止することができる。
- 別のクラスター・ノードで、同じインスタンスを停止、および必要に応じてドロップさせることができる。
- すべてのディスク・リソースが現行マシンでアクティブであり、クラスター・ノード間で相互に正常に移動させることができる。
- 現行ログオン・ユーザーでターゲット・マシン・レジストリーおよびクラスター・レジストリーへのアクセスができる。
- 問題が解決しない場合は、IBM サービス技術員に連絡し、DB2MSCS トレースおよび DB2 トレースの両方を提供してください。

DB21535E インスタンス所有のデータベース・パーティション・サーバーが現行マシンにありません。

説明: パーティション・データベース・インスタンスを移行する際、DB2MSCS ユーティリティをインスタンス所有マシンで実行する必要があります。

ユーザーの処置: DB2MSCS ユーティリティをインスタンス所有マシンから実行してください。

DB21536E ユーザー名 *userid* が無効です。

説明: 指定されたユーザー名が無効です。

ユーザーの処置: 有効なユーザー名を指定してください。

DB21537E パスワード *password* が無効です。

説明: 指定されたパスワードが無効です。

ユーザーの処置: 正しいパスワードを指定してください。

DB21538E アカウント *account-name* のパスワードの有効期限が切れています。

説明: ターゲット・アカウントのパスワードの有効期限が切れています。

ユーザーの処置: パスワードをリセットし、コマンドを再サブミットしてください。

DB21540E グループ *group-name* で、少なくとも 1 つのネットワーク名リソースが必要です。

説明: パーティション・データベース・インスタンスを移行する際、ネットワーク名リソースを、インスタンス所有ノードを含むグループで作成する必要があります。

ユーザーの処置: 指定されたグループにネットワーク名リソースを作成するよう指定してください。

DB21541E DB2 インスタンスから MSCS ノードを除去する際にエラーが起きました。 **rc** = *error-code*

説明: "undo" 操作中に、内部エラーのため、ユーティリティが MSCS ノードを DB2 インスタンスから除去するのに失敗しました。

ユーザーの処置: 手動によるクリーンアップが必要です。手動でインスタンスをクリーンアップするには、以下を行います。

- DB2 インスタンスを停止およびドロップする。
- すべての DB2 リソースおよびそれらの従属リソースをクラスター管理者ウィンドウから除去する。

DB21542E インスタンスのフェイルオーバー・サポートを除去中に、エラーが起きました。フェイルオーバー・サポートはこのインスタンスでまだアクティブです。 **rc** = *error-code*

説明: "undo" 操作中に、内部エラーのため、ユーティリティが DB2 インスタンスを非クラスタリングするのに失敗しました。

ユーザーの処置: 手動によるクリーンアップが必要です。手動でインスタンスをクリーンアップするには、以下を行います。インスタンスを停止およびドロップする。すべての DB2 リソースおよびそれらの従属リソースをクラスター管理者ウィンドウから除去する。

DB21543E リソース名 *resource-name* が同じグループ内のどの IP リソースにも一致しません。

説明: ネットワーク名・リソースを、同じリソース・グループ内の IP アドレス・リソースに基づいて構成する必要があります。

ユーザーの処置: 同じリソース内にある IP アドレス・リソースに、ネットワーク名リソースに従属する名前を指定してください。

DB21544E **MSCS** リソース *resource-name* はすでに存在します。

説明: 指定されたリソース名はすでにクラスター内に存在しています。

ユーザーの処置: 別のリソース名を指定してください。

DB21545E モジュール *file-name* がロードされましたが、関数 *function-name* が見つかりません。 **MSCS** をサポートしている **DB2** バージョンで実行していることを確認してください。

説明: DB2 のバージョンが DB2MSCS ユーティリティのバージョンと互換性がないため、ユーティリティが要求された関数のアドレスを取得するのに失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 製品と一緒に配布されたバージョンの DB2MSCS ユーティリティを使用してください。

DB21546E モジュール *file-name* をロードできませんでした。

説明: ユーティリティが要求された DLL をロードするのに失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 製品を再インストールしてください。

DB21547E グループ *group-name* をノード *node-number* に移動中にエラーが発生しました。システム・エラー: *error-msg*

説明: 1 つ以上のリソースを移動できないため、ユーティリティがグループをターゲット・ノードに移動するのに失敗しました。

ユーザーの処置: すべてのクラスター・ノードがアクティブであり、すべてのディスク・リソースをクラスター・ノード間で相互に移動できることを確認してください。問題が解決されない場合、IBM サービス技術員に連絡してください。

DB21548E **DB2** サービスのログオン・アカウントをパーティション・データベース・システムに指定する必要があります。
DB2_LOGON_USERNAME および
DB2_LOGON_PASSWORD キーワードを使用して、有効なログオン・アカウントを指定してください。

説明: パーティション・データベース・システムの下で **DB2** サービスを、有効なドメイン・アカウントの下で

実行するよう構成する必要があります。

ユーザーの処置: **DB2_LOGON_USERNAME** および **DB2_LOGON_PASSWORD** キーワードを使用して、有効なドメイン・アカウントを指定してください。

DB21549N ノード *node-number* に指定されたネットワーク名 *network-name* が無効です。

説明: 指定されたネットワーク名を解決できませんでした。

ユーザーの処置: ネットワーク名が DNS サーバーまたはローカル *etc/hosts* ファイルに登録されていることを確認してください。

DB21600N *command* コマンドが正常に完了しませんでした。

説明: このコマンドの実行中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: 技術サービス担当者に連絡してください。 *db2diag.log* ファイルの情報によって、サービス担当者が失敗の原因について、判別することができます。

DB29320W 出力が切り捨てられました。

説明: 全照会結果が提供されているようにフェッチされません。コマンド行プロセッサの出力は **MAX_STATEMENT_SIZE** 文字の最大が可能です。ただし、特殊な列の出力は **MAX_COLUMN_SIZE** 文字の長さを超過できません。

ユーザーの処置: CLP 照会はさらに短いストリングをフェッチするように再書き込みされます。DB2 に対して、別のインターフェースを使用しても、CLP の制限を克服することができます。

DB29501E **DB2** は不整合な環境を検出しました。次を調査してください: *error*

説明: オペレーティング環境内でエラーが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーは、不整合な **DB2** 環境またはオペレーティング・システム環境が原因で発生する場合があります。エラー・メッセージに示されている問題を訂正して、コマンドを再発行してください。

DB29502E 非互換 Java ランタイム環境が検出されました。必要なレベルの Java ランタイム環境がインストールされているかどうかを確認してください。Java アプリケーションが DB2 と一緒にインストールされた Java ランタイムを使用して起動されている可能性があります。

説明: インストールされた Java 実行時が、DB2 Java アプリケーションによってサポートされていません。

ユーザーの処置: インストールした DB2 Java ランタイムは、DB2 Java アプリケーションを立ち上げるために使用されます。インストールした Java ランタイムを使用する他の Java アプリケーションを先に終了してから、DB2 Java アプリケーションを実行し、正しく動作しているかを確認してください。

DB29503E 複数のデータベースへの接続はサポートされていません。

説明: 複数のデータベースには接続できません。

ユーザーの処置: 1 つのデータベースにのみ接続してください。

DB29504E 複数のユーザーへの接続はサポートされていません。

説明: 複数のユーザーに接続することはできません。

ユーザーの処置: 1 つのユーザーにのみ接続してください。

DB29523W 照会を取り消していいですか。

DB29524E `LogSQLException()` が失敗しました

DB29525E `LogSQLException()` *param-1 param-2*

DB29526E この表をドロップできません; 存在しません。結果のあるジョブを選択して、再試行するか、スケジュール済みの繰り返し実行するジョブを選択して再試行してください。

説明: 関連する結果表をもたないジョブに対して、結果表をドロップする要求が出ました。

ユーザーの処置: 結果が出ているジョブを選択するか、スケジュールする繰り返し実行するジョブを選択してから、再試行してください。

DB29527W ジョブ *#param-1* を取り消しますか。

DB29528W ジョブ *#param-1* を表示しなくていいですか。警告: このオプションを選択すると、このジョブは 2 度と表示されません。

DB29530W このオプションは、「取り消し」や「隠蔽」のようなアクションから、確認メッセージを除去します。本当に行いますか。

DB29537E 不明なタイプ: *param-1*

DB29542E 接続 SQL エラー: *param-1*
エラー番号: *param-2*
エラー・メッセージ: *param-3*

DB29543E リソース DLL `rqsres.dll` が見つかりません。

説明: リソース DLL `rqsres.dll` を正常にロードできませんでした。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller 回帰照会スケジューラーの初期化中にリソース DLL `rqsres.dll` が損傷を受けたか、または削除されたため、ロードできませんでした。DB2 Query Patroller QueryEnabler を再インストールしてください。

DB29544E リソース DLL `qeres.dll` が見つかりません。

説明: リソース DLL `qeres.dll` を正常にロードできませんでした。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller QueryEnabler の初期化中に、リソース DLL `qeres.dll` が損傷を受けたか、または削除されたため、ロードできませんでした。DB2 Query Patroller QueryEnabler を再インストールしてください。

DB29545E 無効な名前: 照会名は 20 文字以内にしてください。名前を変更して再試行してください。

説明: 20 文字を超える照会名が指定されました。

ユーザーの処置: 最大 20 文字で照会名を指定してください。

DB29546E 無効な名前: 照会名には英数字とスペース...(“a..z”、“A..Z”、“0..9”)が使用されます。名前を変更して再試行してください。

説明: 英数字以外の文字の入った照会名が指定されました。

ユーザーの処置: 照会名を英数字のみで指定してください。

DB29608E スクリプト・ロードが失敗しました。

説明: DB2 Query Patroller トラッカーに必要なスクリプト・ファイルが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller トラッカーを再インストールしてください。

DB29609I この場所です !:L:

DB29610E ODBC Driver Manager をロードできませんでした。

説明: ODBC ドライバー dll ODBC32.DLL をロードできませんでした。

ユーザーの処置: ODBC ドライバー dll ODBC32.DLL が損傷を受けたか、または破棄されたため、ロードできませんでした。ODBC を再インストールしてください。

DB29611E ログインが 3 回失敗しました！
トラッカーを終了します！

説明: DB2 Query Patroller トラッカーは、ログイン・ダイアログで指定された ODBC データ・ソースへの接続を必要とします。ログイン・ダイアログで指定されたユーザー ID とパスワードの組み合わせでは、指定されたデータベースへの接続を許可されませんでした。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller トラッカーをもう一度立ち上げて、ログイン・ダイアログで指定された ODBC データ・ソースに有効なユーザー ID とパスワードの組み合わせを指定してください。

DB29613E リソース DLL tkres.dll が見つかりません。

説明: DB2 Query Patroller トラッカーには、正常な操作を行うためにリソース dll tkres.dll が必要です。dll をロードできませんでした。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller トラッカーの初期化中に、リソース DLL tkres.dll が損傷を受けたか、または削除されたため、ロードできませんでした。

DB2 Query Patroller トラッカーを再インストールしてください。

DB29614E 指定された日付および時刻は無効です。

DB29615E 終了日付および時刻は、開始日付および時刻よりも後でなければなりません。

DB29616E 時間範囲が 2 年を超えることはできません。

DB29700E アプリケーション・プログラミング・インターフェース *program* は理由コード *name* を伴うオブジェクト *name* のために正常終了しませんでした。もう一度やり直すか、またはローカル・サポート担当者に連絡してください。

説明: アプリケーション・プログラミング・インターフェースの呼び出しが完了しませんでした。

ユーザーの処置: 操作をもう一度やり直すか、またはシステム管理者に連絡してください。

DB29701E クラス *class-name* が見つかりません。クラスパスをチェックしてください。

説明: *class_name* が、指定されたクラスパスに見つかりません。

ユーザーの処置: クラスパスが正しいことを確認してください。QueryAdmin.bat または QueryMonitor.bat を使用している場合は、バッチ・ファイルのクラスパス設定を調べてください。

DB29702E ユーザー *userID* には、**QueryAdministrator** を使用する管理権限がありません。

説明: ユーザー *userID* には、**DB2 Query Patroller** ユーザー・プロファイル表で定義された管理権限がありません。

ユーザーの処置: **DB2 Query Patroller** 管理者を使用して、*userID* が操作の実行に必要な許可を持っているかを確認してください。

DB29703E ユーザー *userID* はユーザー・プロファイルに定義されていません。

説明: ユーザー *userID* が、**DB2 Query Patroller** ユーザー・プロファイル表に定義されていません。

ユーザーの処置: **DB2 Query Patroller** 管理者を使用して、*userID* がユーザー・プロファイル表に定義され

ているかを確認してください。

DB29704E ユーザー *iwm* は除去できません。

説明: ユーザー *iwm* は、**DB2 Query Patroller** に必須のユーザー ID であるため、除去できません。

ユーザーの処置:

DB29705W *column-name* に無効値が入力されました。有効範囲は *minimum-value* から *maximum-value* です。

説明: *column-name* に入力された値は無効です。

ユーザーの処置: 範囲内の値で値を再入力してください。

DB29706E ジョブ・キュー *queue-id* は除去できません。このキューには、1 つまたは複数の未完了ジョブがあります。

説明: 実行されているジョブが入っているため、ジョブ・キュー *queue-id* は除去できません。

ユーザーの処置: 削除する前に、このキュー内のジョブがすべて完了するまで待機してください。

DB29707E 結果宛先 *destination-name* はすでに定義されています。

説明: 示されている *destination-name* はすでに定義されています。 *destination-name* はユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: ユニークな *destination-name* を指定してください。

DB29708E ユーザー *userID* はすでに定義されています。

説明: 示されている *userID* はすでに定義されています。 *userID* はユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: ユニークな *userID* を指定してください。

DB29709E グループ *group-id* はすでに定義されています。

説明: 示されている *group-id* はすでに定義されています。 *group-id* はユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: ユニークな *group-id* を指定してください。

DB29710E ジョブ・キュー *queue-id* はすでに定義されています。

説明: 示されている *queue-id* はすでに定義されています。 *queue-id* はユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: ユニークな *queue-id* を指定してください。

DB29720E ユーザー *userID* には、**QueryMonitor** を使用するために必要な権限がありません。

説明: ユーザー *userID* は **DB2 Query Patroller** ユーザー・プロファイル表に定義されていますが、権限を持っていません。

ユーザーの処置: **DB2 Query Patroller** 管理者を使用して、 *userID* が操作の実行に必要な許可を持っているかを確認してください。

DB29721E 新規ジョブのサブミットでエラーが発生しました。理由コード: *reason-code*

説明: 新しい照会のサブミット中にエラーが起きました。返された理由コードを調べてください。

理由コードは有効な SQL メッセージに対応していません。対応する SQL メッセージのヘルプを調べてください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、この操作を再試行してください。

DB29722E ジョブ・シーケンス番号の生成でエラーが発生しました。理由コード = *reason-code* ジョブはサブミットされません。

説明: ジョブ・シーケンス番号の生成中にエラーが起きました。返された理由コードを調べてください。

理由コードは有効な SQL メッセージに対応していません。対応する SQL メッセージのヘルプを調べてください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、この操作を再試行してください。

DB29723E ジョブ *job-id* の結果セットの除去中にエラーが発生しました。理由コード: *reason-code*

説明: 指定された結果セットの除去中にエラーが起きました。返された理由コードを調べてください。

理由コードは有効な SQL メッセージに対応していません。対応する SQL メッセージのヘルプを調べてください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、この操作を再試行してください。表がシステム環境外に手操作でドロップされた可能性があります。

DB29724E ジョブ *job-id* の状況を変更しようとしてエラーが発生しました。理由コード：
reason-code

説明: 指定されたジョブの状況を変更しているときに、エラーが起きました。返された理由コードを調べてください。

理由コードは有効な SQL メッセージに対応していません。対応する SQL メッセージのヘルプを調べてください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、この操作を再試行してください。

DB29725E ジョブ *job-id* を SQL ステートメント *SQL-stmt* で再サブミット中にエラーが発生しました。理由コード：*reason-code*

説明: 指定されたジョブの再サブミット中にエラーが起きました。返された理由コードを調べてください。

理由コードは有効な SQL メッセージに対応していません。対応する SQL メッセージのヘルプを調べてください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、この操作を再試行してください。

DB29726E 要求は正常に完了しました。

説明: 要求が正常に行われました。

ユーザーの処置:

DB29727E DB2 Query Patroller サーバーはインストールされていません。

説明: DB2 Query Patroller サーバーは DB2 サーバーにインストールされていません。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller サーバーをインストールしてください。

DB29800E 予期しないエラー *param-1* が読み取り中に起きました。

DB29801E 無効なコマンド行パラメーターです。

説明: 指定されたコマンド行のパラメーターが欠落しているか、または正しくありません。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、この操作を再試行してください。

DB29802E エラーで終了しました。

説明: プログラムはエラーのために終了しました。理由については、関連するエラー・メッセージを参照してください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、この操作を再試行してください。

DB29803E DB2 レジストリー変数 *registry-variable* が設定されていないか、無効です。

説明: 必須の DB2 レジストリー変数 *registry-variable* が設定されていないか、または無効な形式で設定されています。

ユーザーの処置: DB2 レジストリー変数が DQP_RUNTIME の場合は、DQP_RUNTIME を DB2 Query Patroller のインストール先である完全修飾パスに設定してください。

DB2 レジストリー変数が DQP_SERVER または DQP_NET の場合は、DQP_SERVER または DQP_NET を [host]:[port] に設定してください。[host] は DB2 Query Patroller サーバーをインストールするマシンの IP アドレス、[port] は DB2 Query Patroller サーバーで使用される TCP ポートです。

その他の DB2 レジストリー変数の場合は、DB2 Query Patroller の資料を参照してください。

DB29804E メモリーの割り振りエラーが発生しました。

説明: 処理を実行するために必要なメモリーが足りなくなりました。

ユーザーの処置: システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。

DB29805E ユーザー ID *userID* が未定義です。

説明: *userID* がオペレーティング・システムで定義されていません。

ユーザーの処置: オペレーティング・システム・ユーザー・アカウントを作成するか、または正しいユーザー ID を使用してください。

DB29806E 有効ユーザー ID を *userID* に変更できません。オペレーティング・システム・エラー : *OS-error*

説明:

ユーザーの処置:

DB29807E ファイル *file* の読み取り中に、入出力エラー (理由 = *code*) が発生しました。

説明: *file* の読み取り操作が失敗しました。

ユーザーの処置: 修正可能な入出力エラーかどうか判別して、コマンドを再サブミットしてください。

DB29808E ファイル *file* の書き込み中に、入出力エラー (理由 = *code*) が発生しました。

説明: *file* の書き込み操作が失敗しました。

ユーザーの処置: 修正可能な入出力エラーかどうか判別して、コマンドを再サブミットしてください。

DB29809E 読み取り操作中に、入出力エラー (理由 = *code*) が発生しました。

説明: 入出力操作中に、不完全なデータが読み取られました。

ユーザーの処置: 修正可能な入出力エラーかどうか判別して、コマンドを再サブミットしてください。

DB29810E 書き込み操作中に、入出力エラー (理由 = *code*) が発生しました。

説明: 書き込み処理中に入出力エラーが起きました。データが不完全な可能性があります。

ユーザーの処置: 修正可能な入出力エラーかどうか判別して、コマンドを再サブミットしてください。

DB29811E ファイル *file-name* オープンできませんでした (理由 = *code*)。

説明: ファイル *file-name* をオープンしようとしたときに、エラーが起きました。

ユーザーの処置: *file-name* が正しく、ファイル・システム内に存在していることと、ファイル許可が正しいことを確認してください。

DB29812E 処理 *process-ID* の終了中にエラーが発生しました。

説明: 処理 *process-ID* を強制終了しようとしたときに、エラーが起きました。

ユーザーの処置: 終了処理が十分な権限を持ち、処理が存在していることを確認してください。

DB29813E コマンドの処理に使用できる、十分なメモリーがありません。

説明: コマンドの処理に使用できるランダム・アクセス・メモリー (RAM) が不足しています。

ユーザーの処置: システムに十分なページ・スペースがあるかを確認してください。使用していないアプリケーションを停止して、メモリーを一部解放してください。

DB29814E オペレーティング・システムのプロセス、スレッド、またはスワップ・スペースの限界に達したために、要求は失敗しました。

説明: オペレーティング・システムのプロセス、スレッド、またはスワップ・スペースの限界に達しました。

ユーザーの処置: その制限を増やしてください (またはシステム管理者に、それを増やすように要求してください)。

DB29815E *program-name* を実行できません (理由 = *reason-code*)。

説明: *program-name* の実行中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: この問題が訂正可能かどうか判別して、操作を再試行してください。

DB29816I 正常に完了しました。

説明: 要求が正常に行われました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DB29820E ジョブ *job-id* に対して不明のジョブ・タイプ *type* です。

説明: *iwm_nodemgr* 処理が非認識タイプのジョブを検出しました。

ユーザーの処置: 照会を再サブミットしてください。問題が続く場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29821E 別のノード・マネージャーが動作中です。

説明: 各ノードで実行できる *iwm_nodemgr* 処理は 1 つだけです。

ユーザーの処置:

DB29822E ノード・マネージャーはジョブを回復できませんでした。

説明: **iwm_nodemgr** は、前回失敗したときに実行していたジョブをリカバリーできませんでした。

ユーザーの処置:

DB29823W **sysinfo** 統計は収集されていません。

説明: **sysinfo** 機能が使用できないため、このノードの CPU 使用率を収集することができません。

ユーザーの処置:

DB29824E ジョブ *job-id* が見つかりません。

説明: ジョブ *job-id* がジョブ表で見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

DB29825I ジョブ *job-id* の完了メッセージはファイル *file-name* に保管されました。

説明: エージェント・プロセスが、サーバー・コンポーネントとの連絡を失ったため、そのコンポーネントにジョブの完了を通知できませんでした。ノード・マネージャー処理が正常にこのノード上で再始動されると、サーバー・コンポーネントはジョブの完了通知を受け取ります。

ユーザーの処置:

DB29826N SQL ステートメント *SQL-statement* の実行中にエラーが発生しました。エラー : *sqlcode*。

説明: *SQL-statement* は失敗しました。

ユーザーの処置: *SQL-statement* を訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

DB29827I 列の選択が多すぎます。

説明: ジョブの SQL ステートメントが選択した列が多すぎます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

DB29828E 結果表 *result-table* を作成できません。

説明: *result-table* を作成できませんでした。

ユーザーの処置: システムに十分な空きディスク・スペースがあり、表がすでに存在していないことを確認してください。

DB29829E SQLDA タイプ *type* は、列 *column-name* にはサポートされません。

説明: **DB2 Query Patroller** はデータベース列タイプを認識していません。

ユーザーの処置:

DB29830E ジョブ *job-id* が更新できません。

説明: このジョブの更新要求は、要求の変更がジョブの現在の状態に有効でないため実行できません。

ユーザーの処置:

DB29831W ジョブ *job-id* (プロセス ID *process-ID*) はもう実行中ではありません。

説明: ジョブはサーバー・コンポーネントに通知せずに終了しました。

ユーザーの処置:

DB29832E ノード *node-name* が見つかりません。

説明: RequestHandler ノード・マネージャー処理は、要求されたノードでアクティブにありません。

ユーザーの処置:

DB29835W ノード *node-name* は、リカバリーしようとして、5 分間応答していません。

説明: **iwm_nodemgr** 処理は、5 分間ノード情報を更新していません。**iwm_sched** 処理はノードの損傷を想定し、そのノードにスケジュールされたジョブをリカバリーします。

ユーザーの処置:

DB29836E スケジューラーがノード *node-name* に対するジョブをリカバリーできません。

説明: ノード・リカバリー中にエラーが起きました。

ユーザーの処置:

DB29837W ジョブの割り当てに使用できるアクティブ・ノードはありません。

説明: アクティブなノード・マネージャー処理を持つノードがありません。

ユーザーの処置:

DB29838I *number* 日以上前の *number* 結果表は除去されます。

説明: 結果表の除去が、**DB2 Query Patroller** システム・パラメーターを通じて活動化されました。このメッセージは、除去された結果表の数を示します。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DB29839I *number* 日以上前の *number* ジョブ・レコードは除去されます。

説明: **DB2 Query Patroller** ジョブの除去が、**DB2 Query Patroller** システム・パラメーターを通じて活動化されました。このメッセージは、除去されたジョブ数を示します。

ユーザーの処置:

DB29840I **PREPARE SQL** ステートメント *SQL-statement* はユーザー *userID* で **SQLCODE** *sqlcode* のために失敗しました。

説明: SQL ステートメントを準備できませんでした。

ユーザーの処置:

DB29841E **SQL** ステートメント *SQL-statement* が失敗しました。終了コード *code*。

説明:

ユーザーの処置:

DB29842E 次の **SQL** ステートメント *SQL-statement* の実行中にエラー *sqlcode* が発生しました。

説明: SQL ステートメントが失敗しました。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、要求を再サブミットしてください。

DB29843E ユーザー ID *user-id* でデータベース *database-alias* に接続できません。エラー・コードは *sqlcode* です。

説明: SQL CONNECT ステートメントが失敗しました。

ユーザーの処置:

DB29844E ユーザー *userID* はユーザー・プロファイル表に定義されていません。

説明: ユーザーのユーザー・プロファイル表に行がありません。

ユーザーの処置: ユーザー ID を訂正するか、またはユーザーをユーザー・プロファイル表に追加するように管理者に依頼してください。

DB29845E ソケットのオープン・エラー。エラー : *error-code*

説明: 指定されたソケットをオープンできません。

ユーザーの処置: *error-code* を調べて、この問題を訂正できるかどうかを判別してください。

DB29846E ソケットのクローズ・エラー。エラー : *error-code*

説明: 指定されたソケットをクローズできません。

ユーザーの処置: *error-code* を調べて、この問題を訂正できるかどうかを判別してください。

DB29847E データの送信または受信中にエラーが発生しました。エラー : *error-code*

説明: データの送信中/受信中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: *error-code* を調べて、この問題を訂正できるかどうかを判別してください。

DB29848E **TCP/IP** プロトコル・サポートでエラーが発生しました。 **TCP/IP** 関数は *function* です。ソケットは *socket* です。エラー : *error-code*

説明: TCP/IP 関数が失敗しました。

ユーザーの処置: *error-code* を調べて、この問題を訂正できるかどうかを判別してください。

DB29849E 指定されたリスナー・ポート *listener-port* が有効ではありません。

説明: 指定されたリスナー・ポートが有効ではありません。

ユーザーの処置: **DB2 Query Patroller** 構成パラメーターが正しく設定されているかを確認してください。

DB29850E 指定された接続ポート *connector-port* が有効ではありません。

説明: 指定された接続ポートが有効ではありません。

ユーザーの処置: **DB2 Query Patroller** 構成パラメーターが正しく設定されているかを確認してください。

DB29851E 無効な IP アドレス *internet-addr* です。

説明: 指定された IP アドレスが有効ではありません。

ユーザーの処置: **DB2 Query Patroller** 構成パラメーターが正しく設定されているかを確認してください。

DB29852E TCP/IP がローカル・ホスト・ファイルでホスト名 *host-name* を検出できませんでした。

説明: 指定された *host_name* を解決できません。

ユーザーの処置: **DB2 Query Patroller** 構成パラメーターが正しく設定されているかを確認してください。

DB29853E サービス *service-name* は TCP/IP サービス・ファイルで定義されていません。

説明: 指定された *service_name* を TCP/IP サービス・ファイル内で解決できません。

ユーザーの処置: **DB2 Query Patroller** 構成パラメーターが正しく設定されているかを確認してください。

DB29854E 無効なネットワーク ID *network-string* です。

説明: ネットワーク ID の形式は **host-id:port-id** でなければなりません。 **host-id** は解決可能なホスト名またはドット形式の IP アドレス、 **port-id** は解決可能なサービス名またはポート番号です。

ユーザーの処置: **DB2 Query Patroller** 構成パラメーターが正しく設定されているかを確認してください。

DB29855E **DB2 Query Patroller** サーバーが使用できません。

説明: サーバー・コンポーネントに接続できません。

ユーザーの処置: **DB2 Query Patroller** 構成パラメーターが正しく設定されているかを確認してください。

DB29856E 重大な内部処理エラーが発生しました。エラー *error-code*

説明: 内部 **DB2 Query Patroller** 障害が起きました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29857E *name* 値が欠落しています。

説明: 内部 **DB2 Query Patroller** 障害が起きました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29858E *name* 値が無効です。

説明: 内部 **DB2 Query Patroller** 障害が起きました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29859E 宛先 *name* は無効です。

説明: 宛先名が現在アクティブではありません。

ユーザーの処置:

DB29860E 予定の応答メッセージを受け取っていません。

説明: 内部 **DB2 Query Patroller** 障害が起きました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29861E *iwm_net* への接続がなくなりました。

説明: *iwm_net* プログラムは現在アクティブではありません。

ユーザーの処置: このノードのサーバー・コンポーネントまたはエージェントを再始動してください。

DB29862E 接続されていません。

説明: 内部 **DB2 Query Patroller** 障害が起きました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29863E メッセージが解釈できません。

説明: 内部 **DB2 Query Patroller** 障害が起きました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29864E **iwm_local** データベース・アクセスは使用できません。

説明: **iwm_local** プログラムが失敗したか、または正常に開始されませんでした。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller とすべてのエージェントを再始動してください。

DB29865E **iwm_remote** データベース・アクセスは使用できません。

説明: **iwm_remote** プログラムが失敗したか、または正常に開始されませんでした。

ユーザーの処置: サーバー・コンポーネントを再始動してください。

DB29866E **iwm_local** データベース・アクセス機能が失敗しました。

説明: **iwm_local** プログラムが失敗したか、または正常に開始されませんでした。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29867E **iwm_remote** データベース・アクセス機能が失敗しました。

説明: **iwm_remote** プログラムが失敗したか、または正常に開始されませんでした。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29868E 無効なチケットです。

説明: 内部 **DB2 Query Patroller** 障害が起きました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29869E ログオンの有効期限切れです。

説明: **DB2 Query Patroller** へのログオンの期限が切れました。

ユーザーの処置: もう一度ログオンしなおしてください。

DB29870E 許可されません。

説明: 要求した機能の実行許可がありません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡して、必要な許可を取得してください。

DB29871N ジョブ *job-id* *job-status* のメールは *email-address* に送信されませんでした。
理由: *reason-code*

説明: ジョブ *job-id* に対するユーザー通知の送信中にエラーが起きました。

ユーザーの処置:

DB29986I *param-1* 処理を停止します ...

DB29987E *param-1* の開始に失敗しました。 - システム・ログ *param-2* をチェックしてください。

DB29989I *param-1* 処理を開始します ...

DB29991E **DB2 Query Patroller** サーバーが正しくインストールされていません。

説明: **DB2 Query Patroller** サーバーが正しくインストールされませんでした。

ユーザーの処置: **DB2 Query Patroller** サーバーを再インストールしてください。

DB29992E *param-1* にアクセスできません。 *param-2* を停止します。

DB29995I *param-1* 処理のリスト ...

DB29997I *param-1* は正常に開始しました

DB29998I *param-1* は正常に停止しました

DB29999E *param-1* は異常終了しました。 *param-2*

DB210016E **TCP/IP** を初期化できません (理由 = *reason-code*)。システム上の **WINSOCK.DLL** のバージョンが *winsock-level* 以下であることを確認してください。

説明: **TCP/IP** を初期化できません。 **TCP/IP** 戻りコードは無効です。

ユーザーの処置: **WINSOCK** のバージョンが **DB2 Query Patroller** によってサポートされていることを確認してください。 **DB2 Query Patroller** は、 *winsock-level* 以下のバージョンの **WINSOCK.DLL** をサポートしません。

DB210017E サポートされない **WINSOCK.DLL** レベルです。システム上の **WINSOCK.DLL** のバージョンが *winsock-level* 以下であることを確認してください。

説明: このバージョンのファイル **WINSOCK.DLL** は DB2 Query Patroller によってサポートされていません。

ユーザーの処置: **WINSOCK** のバージョンが DB2 Query Patroller によってサポートされていることを確認してください。DB2 Query Patroller は、*winsock-level* 以下のバージョンの **WINSOCK.DLL** をサポートしません。

DB210018E プロセス ID *process-ID* のシグナル・ハンドラーを登録できませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: イベント・オブジェクトのシグナル・ハンドラーを作成できませんでした。

ユーザーの処置:

DB210019E プロセス ID *process-ID* のシグナル・ハンドラー・セマフォを待機できませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: イベント・オブジェクトのシグナル・ハンドラーを待機できませんでした。

ユーザーの処置:

DB210020E プロセス ID *process-ID* のシグナル・ハンドラーのスレッドを作成できませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: 現在のプロセスで、シグナル・ハンドラーのスレッド・オブジェクトを作成できませんでした。

ユーザーの処置:

DB210021E プロセス ID *process-ID* のシグナル・セマフォを送信できませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: 現在のプロセスでシグナルが出されるイベントの状態を設定できませんでした。

ユーザーの処置:

DB210022E ログオンできませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: ユーザー ID およびパスワードが正しくないか、またはユーザーに必須特権が授与されていません。

ユーザーの処置: ユーザー ID とパスワードをチェッ

クするか、あるいはユーザー ID に該当する特権を授与するようシステム管理者に依頼してください。

DB210023E 別のユーザー ID に切り替えることができませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: ターゲットのユーザー ID はすでにログオンしているため、DB2 Query Patroller で別のユーザー ID に切り替えることができませんでした。

ユーザーの処置: ありません。

DB210024E ロードが理由コード = *reason-code* で失敗しました。

説明: ファイル、テープ、または名前付きパイプからデータを DB2 表にロードすることができませんでした。

ユーザーの処置: データ・ソースがあるか確認してください。

DB210025E *rows* 行を読み取った後にロードが失敗しました。理由コード = *reason-code*

説明: *rows* を読み取った後、データをロードすることができませんでした。理由コード = *reason-code*

ユーザーの処置:

DB210026E *line* をファイル *file-name* から実行しているとき、ロードが失敗しました。

説明: *line* を *file-name* から読み取っているとき、エラーが起きました。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル *file-name* が存在することを確認してください。

DB210027E *user-profile* または *userID* はすでに定義されています。

説明: ユーザー ID *userID* は DB2 Query Patroller 用にすでに存在しています。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller 用にユニークなユーザー ID を定義してください。

DB210028E 宛先 *destination-name* はすでに定義されています。

説明: 結果宛先は DB2 Query Patroller 用にすでに存在しています。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller 用にユニークな結果宛先名を定義してください。

DB210030E MAPI を初期化できませんでした。理由コード = *reason-code*

説明: メッセージ・アプリケーション・プログラミング・インターフェース (MAPI) の初期化が失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル MAPI32.dll があるか確認してください。

DB210031E このマシンでは MAPI を使用できません。

説明: メッセージ・アプリケーション・プログラミング・インターフェース (MAPI) はこのマシンにインストールされていません。

ユーザーの処置: MAPI のインストールと初期化が正しいか確認してください。ファイル MAPI32.dll があるか確認してください。

DB210032E iwmm_cmd プログラムを呼び出すことができませんでした。

説明: iwmm_cmd プロセスを呼び出すことができませんでした。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller サーバーが稼働中かどうかチェックしてください。

DB210033E メール *mail-subject* を *mail-address* に送信することができませんでした、理由コード = *reason-code*。

説明: メール *mail-subject* を *mail-address* に送信することができませんでした。

ユーザーの処置: メッセージ・アプリケーション・プログラミング・インターフェース (MAPI) のインストールと初期化が正しいか確認してください。ファイル MAPI32.dll があるか確認してください。

DB210034E スケジュールの開始日は、終了日より前にしておく必要があります。

DB210035E このスケジュールはすでに存在します。

DB210036E 結果表 *result-table* が存在しません。

説明: 結果表 *result-table* がデータベースに存在しません。

ユーザーの処置: 選択された結果表 *result-table* は存在しないため、別の結果表を選択してください。

DB210037I DQPSTART 処理が正常に終了しました。

説明: DB2 Query Patroller を開始するコマンドが正しく完了しました。

DB210038I DQPSTOP 処理が正常に終了しました。

説明: DB2 Query Patroller を停止するコマンドが正しく完了しました。

DB210039E DQPSTART または DQPSTOP はすでに進行中です。

説明: DB2 Query Patroller は現在、開始または停止コマンドを処理しています。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller 開始または停止コマンドの別のインスタンスが処理されています。

ユーザーの処置: 処理中のコマンドが完了するまで待機してください。DB2 Query Patroller を開始または停止する別のプロセスが存在しなければ、インスタンス・パスの 'ctrl' ディレクトリーから 'dqpstst.lck' ファイルを除去し、コマンドを出し直すことができます。

DB210040W DB2 Query Patroller サービスが正しく開始されませんでした。

説明: 1 つ以上のプロセスが正しく開始されていないと思われる。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210041E DB2 Query Patroller ライセンスについての要求が失敗しました。

説明: 有効なライセンス・ファイルなしで DB2 Query Patroller を開始することができませんでした。

DB210044E 予期しないコマンド・パラメーター *commnad-token* が見つかりました。

説明: 出されたコマンドは無効です。

ユーザーの処置: 資料で有効な構文についてチェックしてください。

DB210045E DB2 Query Patroller が、処理を終了させたシステム・エラーを見つけました。

説明: エラーが起り、処理が停止しました。

ユーザーの処置: 診断情報については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210046E *filename* でのファイル検索操作が失敗しました。(理由 = *reason-code*)

説明: 処理中に、ファイルが壊れていたか、あるいは操作不能であったと思われます。

ユーザーの処置: コマンドを出し直しても問題が解決しない場合、診断について 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210047E ファイル *filename* でのアクセス許可の変更が失敗しました。(理由 = *reason-code*)

説明: ファイル・アクセス許可を設定できませんでした。ファイルが使用不可であること、あるいはファイル許可の調整を禁止した、その他のシステム条件が原因だと考えられます。

ユーザーの処置: コマンドを出し直しても問題が解決しない場合、診断について 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210048E ファイル *filename* のファイル形式が無効です。行 *line-number*

説明: 予期しないトークン、または無効なファイル形式のために処理を続行できませんでした。

ユーザーの処置: 資料で正しいセットアップについてチェックしてください。

DB210049E インスタンス・パスを検索できませんでした。(理由 = *reason-code*)

説明: インスタンス・パスを検索できませんでした。

ユーザーの処置: DB2 が正しくセットアップされていることを確認してから、コマンドを出し直してください。問題が解決しない場合、診断について 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210050E インストール・パスを検索できませんでした。(理由 = *reason-code*)

説明: DB2 インストール・パスを検索できませんでした。

ユーザーの処置: DB2 が正しくセットアップされていることを確認してから、コマンドを出し直してください。問題が解決しない場合、診断について 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210051E インスタンス構成を検索できませんでした。(理由 = *reason-code*)

説明: インスタンス・データベース・マネージャー構成を検索できませんでした。

ユーザーの処置: DB2 が正しくセットアップされていることを確認してから、コマンドを出し直してください。問題が解決しない場合、診断について 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210052E ローカル・ホストまたはコンピューター名を獲得できませんでした。(理由 = *reason-code*)

説明: コンピューター名 (NT) またはホスト名 (UNIX) を検索できませんでした。

ユーザーの処置: 診断については、システム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210053E ホスト名 *hostname* を解決できませんでした。

ユーザーの処置: 診断については、システム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210054E DQPSTART 処理が失敗しました。

説明: DB2 Query Patroller を開始できませんでした。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210055E システム・エラー。サービス制御ハンドラーの登録に失敗しました。

説明: システム・エラーが起こり、処理が停止しました。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210056E システム・エラー。サービス開始ペンディング状況のチェックに失敗しました。

説明: システム・エラーが起こり、処理が停止しました。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210057E システム・エラー。サービス・セキュリティー記述子の初期化に失敗しました。

説明: システム・エラーが起こり、処理が停止しました。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210058E システム・エラー。イベントの作成に失敗しました。

説明: システム・エラーが起こり、処理が停止しました。診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210059E 構成ファイル *filename* の処理が失敗しました。(理由 = *reason-code*)

説明: 無効な形式であるか、想定外のトークンが入っているか、または壊れているため、構成ファイルを処理できませんでした。

ユーザーの処置: 資料でファイルの正しい形式についてチェックしてください。問題が解決しない場合、診断についてシステム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210060E サービス *service-name* の開始に失敗しました。(理由 = *reason-code*)

説明: サービスを開始できませんでした。理由コードは以下のとおりです。

- 1 サービスが存在しません。
- 3 サービスはすでに実行中です。
- 5 現行ユーザーがサービスを開始するための適切な権限を持っていません。
- 6 サービスが開始に失敗しました。

ユーザーの処置:

- 1 サービスが存在することを確認してください。サービスが存在しない場合は、手操作で除去されたか、または DB2 Query Patroller のインストールが正常に完了していません。どちらの場合も、DB2 Query Patroller の再インストールが必要です。
 - 3 サービスはすでに開始されています。サービスを再開するには、DQPSTOP コマンドを発行してから、DQPSTART コマンドをもう一度発行してください。
-

- 5 サービスのログオン情報が正しいかを確認して、コマンドをもう一度発行してください。

- 6 コマンドをもう一度発行してください。再度問題が起きる場合は、システム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' と 'db2diag.log' でより詳しい診断情報を調べてください。
-

DB210061E サービス *service-name* の停止に失敗しました。(理由 = *reason-code*)

説明:

- 1 サービスが存在しません。
- 3 サービスが開始されていないか、またはすでに停止されています。
- 5 現行ユーザーがサービスを開始するための適切な権限を持っていません。
- 6 サービスが停止に失敗しました。

ユーザーの処置:

- 1 サービスが存在することを確認してください。サービスが存在しない場合は、手操作で除去されたか、または DB2 Query Patroller のインストールが正常に完了していません。どちらの場合も、DB2 Query Patroller の再インストールが必要です。
 - 3 サービスはすでに停止されています。サービスを再開するには、DQPSTART コマンドを発行してください。
 - 5 サービスのログオン情報が正しいかを確認して、コマンドをもう一度発行してください。
 - 6 コマンドをもう一度発行してください。再度問題が起きる場合は、システム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' と 'db2diag.log' でより詳しい診断情報を調べてください。
-

DB210062E システム・エラー。共通初期化ルーチンが失敗しました。(SQLCODE = *sqlcode*)

説明: SQLCODE *sqlcode* のため、環境を初期化することができませんでした。

ユーザーの処置: SQLCODE を調べて、コマンドをもう一度発行してください。問題が解決しない場合、診断についてシステム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210064E システム・エラー。メッセージ・キュー化に失敗しました。(理由 = *reason-code*)

説明: システム・エラーが起こり、処理が停止しました。

ユーザーの処置: コマンドを出し直しても問題が解決しない場合、診断についてシステム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210065E DB2 Query Patroller ノードは活動化されていません。

説明: 選択されたノードは、処理できるようセットアップされていません。

ユーザーの処置: 示されているノードが 'dqpnodes.cfg' に定義されていることを確認してから、コマンドを出し直してください。

DB210066E ノード開始または停止処理の結果をファイル *filename* から検索することができませんでした。(理由 = *reason-code*)

説明: 通信ファイルの内容を検索できませんでした。ファイルが存在しないか、またはオープンできませんでした。

ユーザーの処置: 示されているファイルがアクセス可能であることを確認してから、コマンドを出し直してください。問題が解決しない場合、診断についてシステム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210067E ノード開始または停止処理がタイムアウト値に達しました。

説明: DB2 Query Patroller 開始または停止コマンドが、処理ノードから結果を待機している間にタイムアウト値に達しました。作成されていないか、またはアクセス可能でないため、結果ファイルの内容を獲得することができませんでした。

ユーザーの処置: 'dqpnodes.cfg' が正しくセットアップされているかどうか、またホスト名、IP アドレス、およびコンピューター名がすべて解決可能かどうか確認してください。正しいセットアップについては資料を参照してください。DQP_SERVER および DQP_NET 変数、また 'services' ファイル内の対応する項目が正しくセットアップされているかどうかチェックしてください。ESE では、'rah' ユーティリティが正しくセットアップされているかどうかチェックしてください。診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210068E ノードでの処理の完了を待機している間に、通信エラーが見つかりました。(理由 = *reason-code*)

説明: 処理ノードのいずれかによって生成された無効な結果ファイルのため、DB2 Query Patroller 開始または停止コマンドを続行できませんでした。結果ファイルを正しく解釈できませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを出し直しても問題が解決しない場合、診断についてシステム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210069E 処理 *process-name* が失敗しました。

説明: プロセスが失敗しました。

ユーザーの処置: コマンドを出し直しても問題が解決しない場合、診断についてシステム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210070E 処理 *process-name* の実行に失敗しました。(理由 = *reason-code*)

説明: プロセスを開始できませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを出し直しても問題が解決しない場合、診断についてシステム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210071E 処理 *process-name* の実行が割り込まれました。(理由 = *reason-code*)

説明: プロセスの実行が割り込まれました。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210072E 外部プログラム *program-name* を探索できませんでした。(理由 = *reason-code*)

説明: 示されている実行可能ファイルを見つけられませんでした。

ユーザーの処置: インストール環境をチェックするか、またはシステム管理者に連絡してからコマンドを出し直してください。診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210073E リソースが不十分なため、外部プログラム *program-name* を呼び出すことができませんでした。(理由 = *reason-code*)

説明: プロセスを開始するためのリソースを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを出し直しても問題が解決しない場合、診断についてシステム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210074E 権限が不十分なため、外部プログラム *program-name* を呼び出すことができませんでした。(理由 = *reason-code*)

説明: ユーザーには、プログラムを実行するために十分な権限がありません。

ユーザーの処置: 診断については、システム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210075E DQPSTART 処理が完了しました。
number-of ノードが正しく開始され、
number-of ノードはすでに開始されており、
number-of ノードが失敗しました。

説明: DB2 Query Patroller 開始マネージャーは処理を完了しましたが、ノード開始コマンドの処理中、少なくとも 1 つのノードが警告またはエラーを報告しました。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210076E DQPSTOP 処理が完了しました。
number-of ノードが正しく停止され、
number-of ノードはすでに停止されており、
number-of ノードが失敗しました。

説明: DB2 Query Patroller 停止マネージャーは処理を完了しましたが、ノード開始コマンドの処理中、少なくとも 1 つのノードが警告またはエラーを報告しました。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210085E 構成整合性の制約に違反したため、操作が打ち切られました。
SQLSTATE=*state-code*

説明: SQLSTATE=88000、88001:
IWM003_JOB_QUEUE 表での以下のいずれかの制約に違反したため、操作が失敗しました。

```
MAX(MAX_JOBS) <=
IWM003_DATA_SOURCE.MAX_JOBS
AND
MAX(MAX_COST) <=
IWM003_DATA_SOURCE.COST_THRESHOLD
```

SQLSTATE=88002、88003、88004:
IWM003_DATA_SOURCE 表での以下のいずれかの制約に違反したため、操作が失敗しました。

```
MAX_JOBS >=
MAX(IWM003_JOB_QUEUE.MAX_JOBS)
AND
MAX(MAX_JOBS) <=
IWM003_SYS_PARS.QRY_THRESHOLD
AND
COST_THRESHOLD >=
MAX(IWM003_JOB_QUEUE.MAX_COST)
AND
MAX(COST_THRESHOLD) <=
IWM003_SYS_PARS.COST_THRESHOLD
```

SQLSTATE=88005: IWM003_SYS_PARS 表での以下のいずれかの制約に違反したため、操作が失敗しました。

```
QRY_THRESHOLD >=
MAX(IWM003_DATA_SOURCE.MAX_JOBS)
AND
COST_THRESHOLD >=
MAX(IWM003_DATA_SOURCE.COST_THRESHOLD)
```

SQLSTATE=88006、88007: 表 IWM003_SYS_PARS は、1 つの行のみを持つことができます。表 IWM003_DATA_SOURCE が空であれば、この単一行は削除されることがあります。

SQLSTATE=88008: 名前が一致する (あるいは大文字小文字だけが異なる) ユーザーまたはグループ・プロファイルがすでに存在しています。

ユーザーの処置: 構成を見直して、フィールドに有効な値を指定してください。

DB210101E *process* からの応答を待機している間に、キュー読み取り操作が失敗しました。戻りコード = *return-code*、キュー・ハンドル = *queue-handle* タイムアウト = *timeout-value*

説明: *process*; からの応答を待機している間に、キュー読み取り操作が失敗しました。タイムアウト期間が短すぎる場合、またはキュー・ハンドルが無効な場合、このエラーが起こることがあります。

ユーザーの処置: DQP_CHILD_WAIT DB2 プロファイル変数を *timeout-value* よりも大きい値に設定し、再試行してください。問題が解決しない場合、システムから *queue-handle* を除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210102E DB2 インスタンスが見つかりませんでした。理由コード = *reason-code*

説明: DB2 インスタンスが見つかりませんでした。DB2INSTANCE 環境変数が有効な DB2 インスタンスに設定されていません。

ユーザーの処置: DB2INSTANCE 環境変数または DB2 プロファイル変数 DB2INSTDEF を有効な DB2 インスタンスに設定してください。

DB210103E メッセージ・キューを削除しているときにエラーが起きました。理由コード = *reason-code* キュー・ハンドル = *queue-handle*

説明: メッセージ・キュー *queue-handle* を削除しているときにエラーが起きました。

ユーザーの処置: システムから *queue-handle* を除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210104E メッセージ・キューを初期化しているときにエラーが起きました。理由コード = *reason-code* キュー名 = *queue-name*

説明: メッセージ・キュー *queue-name* を初期化しているときにエラーが起きました。この名前のキューがすでに存在する場合、このエラーが起ることがあります。

ユーザーの処置: システムから *queue-name* を除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210105E 1 次メッセージ・キューに書き込んでいるときにエラーが起きました。理由コード = *reason-code* キュー・ハンドル = *queue-handle* 要求タイプ = *request-type*、アクション・タイプ = *action-type*、セット・タイプ = *group-type*、トレース = *trace-flag*

説明: 1 次メッセージ・キュー *queue-handle* に書き込んでいるときにエラーが起きました。キュー・ハンドルが無効な場合、このエラーが起ることがあります。

ユーザーの処置: システムから *queue-handle* を除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210106E 1 次メッセージ・キューから読み取っているときにエラーが起きました。理由コード = *reason-code* キュー・ハンドル = *queue-handle* タイムアウト = *timeout-value* 秒

説明: 1 次メッセージ・キュー *queue-handle* から読み取っているときにエラーが起きました。キュー・ハンドルが無効な場合、このエラーが起ることがあります。

ユーザーの処置: システムから *queue-handle* を除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210107E メッセージ・キューをオープンしているときにエラーが起きました。理由コード = *reason-code* キュー名 = *queue-name*

説明: メッセージ・キュー *queue-name* をオープンしているときにエラーが起きました。名前 *queue-name* のキューがすでに存在していて、この処理にキューをオープンする権限がない場合、このエラーが起ることがあります。

ユーザーの処置: システムから *queue-name* を除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210108E ファイル *file-name* でのロックを獲得しているときにエラーが起きました。理由コード = *reason-code*

説明: ファイル *file-name* でのファイル・ロックを獲得しているときにエラーが起きました。/tmp ディレクトリーのファイル *file-name* をロックする権限がこの処理にない場合、このエラーが起ることがあります。

ユーザーの処置: ファイル *file-name* が /tmp ディレクトリーに存在する場合、このファイルをシステムから除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210109E キュー上のメッセージを送信しているときにエラーが起きました。理由コード = *reason-code* キュー・ハンドル = *queue-handle* メッセージ = *message*

説明: キュー *queue-handle* 上のメッセージ *message* を送信しているときにエラーが起きました。キューに書き込む権限がこのプロセスにない場合、このエラーが起ることがあります。

ユーザーの処置: システムから *queue-handle* を除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210110E メッセージ・キューをクローズしているときにエラーが起きました。理由コード = *reason-code* キュー・ハンドル = *queue-handle*

説明: メッセージ・キュー *queue-handle* をクローズしているときにエラーが起きました。キューをクローズする権限がこのプロセスにない場合、このエラーが起ることがあります。

ユーザーの処置: システムから *queue-handle* を除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210111E 選択されたインターバルおよび頻度では、選択された開始日時から終了日時までの間にジョブをスケジュールすることができません。

説明: 選択されたインターバルと頻度の値では、選択された開始日付および時刻と終了日付および時刻の間に、ジョブをスケジュールできません。

ユーザーの処置: ジョブ・スケジュールを使用できるようにするには、以下のいずれかのオプションを実行してください。

- 開始日付および時刻か、終了日付および時刻を調整して、時刻範囲を広げる。
- 現行の時刻範囲で別のインターバルと頻度の値を選択して、少なくとも一度はスケジュールできるようにする。

DB210112E DB2 Query Patroller サーバー処理 *server-process* が停止しました。残りの DB2 Query Patroller サーバー・プロセスも停止しました。

説明: 1 つまたは複数の DB2 Query Patroller プロセス (*iwm_logmon*、*iwm_net*、*iwm_server*、*iwm_remote*、*iwm_nodemgr*、*iwm_sched* など) が停止している場合、その他の DB2 Query Patroller プロセスも停止します。

ユーザーの処置: *syserr.log* ファイルを調べて、DB2 Query Patroller プロセスが停止した原因を診断してください。DB2 Query Patroller サーバーを再始動してください。

DB210113E ノード開始または停止処理が失敗しました。理由コード *reason-code*。

説明: DB2 Query Patroller を指定のノードで開始または終了できません。理由コードは以下のとおりです。

- 1 サーバー・ノードがすでに *dqpnodes.cfg* ファイルに存在します。サーバー・ノードは 1 つだけ存在可能です。

- 2 サーバー・ノードが *dqpnodes.cfg* ファイルに存在しません。
- 3 同じノード番号を持つ既存の項目が *dqpnodes.cfg* ファイルにあります。
- 4 ノード番号が *dqpnodes.cfg* ファイルに存在しません。
- 5 同じホスト名を持つ既存の項目が *dqpnodes.cfg* ファイルにあります。
- 6 ノード・タイプが無効です。
- 7 サーバー・ノード項目はエージェントで置き換えられません。サーバー・ノード項目は *dqpnodes.cfg* ファイルに存在していなければなりません。
- 8 サーバー・ノード項目はドロップできません。サーバー・ノード項目は *dqpnodes.cfg* ファイルに存在していなければなりません。
- 9 複数のサーバー・ノード項目が *dqpnodes.cfg* ファイルに見つかりました。サーバー・ノードは 1 つだけ存在可能です。
- 10 *dqpnodes.cfg* ファイル内に無効なノード番号があります。
- 11 *dqpnodes.cfg* ファイル内に重複したノード番号があります。
- 12 *dqpnodes.cfg* ファイル内に重複したホスト名があります。

ユーザーの処置:

- 1 2 番目のサーバー・ノードを追加または再始動せずに、コマンドをもう一度発行してください。
- 2 *dqpnodes.cfg* ファイルにサーバー・ノードを追加してください。
- 3 ノード番号を調べて、別のノード番号を使用してコマンドをもう一度発行してください。
- 4 ノード番号を調べて、既存のノード番号を使用してコマンドをもう一度発行してください。
- 5 ホスト名を調べて、別のホスト名を使用してコマンドをもう一度発行してください。
- 6 ノード・タイプ "server" または "agent" を使用してコマンドをもう一度発行してください。
- 7 サーバー・ノードをエージェントで置換せずに、コマンドをもう一度発行してください。
- 8 サーバー・ノードをドロップせずに、コマンドをもう一度発行してください。
- 9 どの項目がサーバー・ノードかを判別して、他

のサーバー・ノード項目を `dqpnodes.cfg` ファイルから除去してください。

- 10 `dqpnodes.cfg` ファイル内のノード番号を調べて、それらの番号が有効な非負数整数であることを確認してください。
- 11 `dqpnodes.cfg` ファイル内のノード番号を調べて、それらがユニーク番号であることを確認してください。
- 12 `dqpnodes.cfg` ファイル内のホスト名を調べて、それらがユニーク名であることを確認してください。

注: 別のホスト名を使用してサーバー・ノードを再始動することはできますが、唯一のサーバー・ノード項目をドロップまたは置換することはできません。

DB210114E DB2 登録変数 `DQP_SERVER` で設定されたマシン名が、`dqpnodes.cfg` ファイル内のサーバー・ノード項目と一致しません。

説明: DB2 登録変数 `DQP_SERVER` は `[host]:[port]` に設定されています。 `[host]` は DB2 Query Patroller サーバーがインストールされているマシンの IP アドレスです。この IP アドレスが、`dqpnodes.cfg` ファイルのサーバー・ノードの IP アドレスと一致しません。

ユーザーの処置: `dqpnodes.cfg` ファイルのサーバー・ノード項目の IP アドレスが DB2 登録変数 `DQP_SERVER` で設定された IP アドレスと一致しているかを確認してください。

DB210115E 現行ユーザーはコマンド `command-name` の実行を許可されていません。

説明: 現行ユーザーがコマンドを実行するための適切な権限を持っていません。コマンドが `DQPSTART`、`DQPSTOP`、または `IWM_TRACKER` である場合は、ユーザー “`iwm`” だけがその実行を許可されています。

ユーザーの処置: コマンドが `DQPSTART`、`DQPSTOP`、または `IWM_TRACKER` である場合は、ユーザー “`iwm`” としてログオンし、コマンドをもう一度発行してください。

DB210116E DB2 Query Patroller はすでにこのノードで開始されています。

説明: `DQPSTART` コマンドが発行されたとき、DB2 Query Patroller はすでに稼働していました。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller を再始動するには、`DQPSTOP` コマンドを発行してから、`DQPSTART` コマンドをもう一度発行してください。

DB210117E DB2 Query Patroller はすでにこのノードで停止されています。

説明: `DQPSTOP` コマンドが発行されたとき、DB2 Query Patroller サーバーは稼働していませんでした。

DB210118E ファイル `filename` を削除できませんでした (理由 = `reason-code`)。

説明: ファイル `filename` を削除しようとしたときに、エラーが起きました。

ユーザーの処置: ファイル `filename` が正しく、ファイル・システムに存在し、ファイル許可が正しいことを確認してください。

DB210120E SQLCODE `sqlcode` のリカバリー可能エラーのために、ユーザー ID `userid` でデータベース `database-name` に接続できませんでした。 `retry-interval` 分ごとに接続を再試行中です。

説明: DB2 Query Patroller サーバーが、SQLCODE `sqlcode` のリカバリー可能エラーのために、データベースに接続できませんでした。

ユーザーの処置: SQLCODE を調べて、リカバリー可能エラーを修正してください。DB2 Query Patroller サーバーは `retry-interval` 分ごとにデータベースへの接続を試行します。

DB210121E アクティブ・ノードに属しているジョブの状況を回復できません。

説明: 指定されたノードはまだアクティブになっていません。ジョブ状況をリカバリーできるのは、障害が起きたノードで実行されているジョブの場合のみです。

DB210123E スケジュール日付に過去の日付を指定することはできません。

説明: 指定された開始日または終了日、あるいはその両方が過去の日付です。

ユーザーの処置: スケジュール日付が過去の日付でないことを確認し、ご使用のオペレーティング・システムの日時が正しく設定されているかチェックしてください。

DB210200I 変更を有効にするためには、データベースからすべてのアプリケーションを切断する必要があります。

説明: `ADD` または `DROP DATALINKS MANAGER` コマンドが正常に処理されました。ただし、すべてのアプリケーションがデータベースから切断されるまで、変

更是有効になりません。アプリケーションがデータベースから切断される後、データベースに最初に接続すると、変更が有効になります。

ユーザーの処置: すべてのアプリケーションがデータベースから切断されていることを確認して、CONNECT ステートメントを発行してください。

DB210201I 調整ユーティリティーを、DB2 Data Links Manager のファイルへのリンクの入ったデータベース表で実行する必要があります。DB2 Data Links Manager はこれらのファイルのリンク解除処理を行いません。

説明: DROP DATALINKS MANAGER コマンドが正常に処理されました。DB2 Data Links Manager をドロップする前に、DB2 Data Links Manager 上のファイルへのリンクの入ったデータベース表がないことを確認してください。このようなリンクがある場合は、調整ユーティリティーを使用してデータベース表から除去する必要があります。ファイル自体はファイル・システムにリンク状態で残ることに注意してください。詳細については、「コマンド・リファレンス」の中の DROP DATALINKS MANAGER コマンドの使用上の注意を参照してください。

DB210202E *number MB* より小さいメモリーがサーバーに占有されます。推奨はされていません。現行値は推奨値に一致しました。

説明: サーバー専用のメモリー量が少ないため、パフォーマンス構成ウィザードは推奨の作成ができません。構成パラメーターは変更されません。

ユーザーの処置: サーバー専用のメモリーが増加可能な場合、MEM_PERCENT オプションからより大きな値でコマンドを再実行してください。

DB210203I AUTOCONFIGURE 正常に完了しました。データベース・マネージャーまたはデータベース構成値が変更されている可能性があります。変更を有効にするには、インスタンスを再始動する必要があります。また、新しい構成パラメーターを有効にした後は、新しい値が使用されるように、パッケージを再バインドすることができます。

説明: 構成アドバイザーは推奨値を生成し、ユーザーの要求に応じて構成パラメーターとバッファ・プール・サイズを更新しました。

サーバー上のインスタンスが再開するまで変更は反映されません。

パッケージが前の構成パラメーターでバインドされました。新規パラメーターを活用するためには、これらの新規パラメーターが反映されたあとで再バインドする必要があります。

ユーザーの処置: 新規構成パラメーターを使用する準備ができたなら、インスタンスを停止して再始動してください。必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

DB210204E 構成アドバイザーがサーバーからシステム情報を取得しようとしたときに、エラーが発生しました。

説明: 予期しないエラーが発生しました。構成アドバイザーを続行できません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DB210205W 構成アドバイザーは、応答により決定された他のメモリー要件のため、バッファ・プールのサイズを増やせません。バッファ・プール・サイズは未変更のままです。構成値の推奨設定の使用は、サーバーのページングを引き起こします。

説明: これは、指定されたワークロードを実行するのに十分なサーバー専用のメモリーがない可能性があることを知らせる警告です。

ユーザーの処置: このコマンドの入力を調べて、ワークロード記述が適切であることを確認するか、サーバーにメモリーを追加してください。

DB210206W 入力したトランザクション・レートが、継続済みアプリケーションの平均数の 10 倍以上になっています。トランザクション・マネージャーを使用している場合は、このメッセージを無視してください。使用していない場合は、レートの変更を検討してください。

説明: 構成アドバイザーは、トランザクション・レートが妥当かどうかをチェックします。トランザクション・マネージャーを使用していない場合、トランザクション・レートが高くなりすぎる可能性があります。

ユーザーの処置: トランザクション・マネージャーを使用している場合は、このメッセージを無視してください。そうでない場合は、1 分当たりの少ないトランザクション数を使用するか、または接続されたアプリケーションの平均数値を増やしてください。

DB210207E *database-name* を自動構成できません。データベース *database-name* の作成に失敗しました。

説明: 予期しないエラーが発生しました。構成アドバイザーを継続できません。また、作成中しようとしていたデータベースは失敗しました。

ユーザーの処置: AUTOCONFIGURE オプションを指定せずに CREATE DATABASE を実行し、次にデータベースを構成するために AUTOCONFIGURE を実行してみてください。

DB210208E データベースを **EEE** システムで自動構成できません。データベース *database-name* の作成に失敗しました。

説明: AUTOCONFIGURE オプションは EEE では使用不可です。データベースは作成できませんでした。

ユーザーの処置: AUTOCONFIGURE オプションを指定せずに CREATE DATABASE を実行し、次にデータベースを構成するために AUTOCONFIGURE を実行してみてください。

DB210209I データベースは正常に作成されました。インスタンスを再始動して、構成変更を有効にしてください。

説明: 構成アドバイザーは、データベース・マネージャー構成パラメーター、データベース構成パラメーター、および SYSBUFFERPOOLS カタログのバッファー・プール・サイズを更新しました。

サーバー上のインスタンスが停止するまで変更は反映されません。

パッケージが前の構成パラメーターでバインドされました。新規パラメーターを活用するためには、これらの新規パラメーターが反映されたあとで再バインドする必要があります。

ユーザーの処置: 新規構成パラメーターを使用する準備ができたら、インスタンスを停止して始動してください。必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

DB210210E APPLY のパラメーターは、このサーバー・リリースの構成アドバイザーでサポートされていません。

説明: このサーバー・リリースの構成アドバイザーでは、APPLY DB OR DBM か APPLY NONE だけが有効パラメーターです。

ユーザーの処置: APPLY DB OR DBM または APPLY

NONE を使ってコマンドを再発行してください。

DB210211W AUTOCONFIGURE が正常に完了しましたが、現在のデータベース・パーティションの推奨値を計算しただけです。すべてのデータベース・パーティションに対して **AUTOCONFIGURE** を実行したり、推奨値をシステム上のすべてのデータベース・パーティションに伝搬することができます。

説明: 構成アドバイザーは、推奨値を生成し、現在のデータベース・パーティションに対してのみ、ユーザーの要求に応じて構成パラメーターとバッファー・プール・サイズを更新しました。

変更は、サーバーでインスタンスを再始動するまで有効になりませんが、各データベース・パーティションに対して AUTOCONFIGURE を実行するか、別々のユーザー・アクションを実行して、このシステム上のほかのデータベース・パーティションにその変更を伝搬する必要があります。

パッケージが前の構成パラメーターでバインドされました。新規パラメーターを活用するためには、これらの新規パラメーターが反映されたあとで再バインドする必要があります。

ユーザーの処置: 新規構成パラメーターを使用する準備ができたら、インスタンスを停止して始動してください。必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

DB210212W 構成アドバイザーの推奨値には、指定されたよりも多くのパーセンテージのメモリーが必要です。推奨はされていません。現行値は推奨値に一致しました。

説明: 構成アドバイザーによる推奨値を割り当てるのに十分なメモリーがありません。

ユーザーの処置: より大きなパーセンテージのメモリーを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

DB210213W 指定された入力に対して推奨されているディスク数が、使用可能な数を超過しています。推奨はされていません。現行値は推奨値に一致しました。

説明: パフォーマンス構成ウィザードによる推奨値を満たすのに十分な数のディスクがありません。

ユーザーの処置: 使用可能なディスクの数が増えた時点でコマンドを再サブミットしてください。

DB210214W 指定された入力に対して推奨されているメモリー量が、使用可能なメモリー量を超えています。推奨はされていません。現行値は推奨値に一致しました。

説明: 構成アドバイザーによる推奨値を割り当てるのに十分なメモリーがありません。

ユーザーの処置: 別の入力値を指定するか、使用可能なメモリー量が増えた時点でコマンドを再サブミットしてください。

DB210215W 構成アドバイザーは、応答によって判別した他のメモリー要件のために、バッファークラッシュの最小メモリーを割り当てることができませんでした。

説明: 構成アドバイザーは、指定されたメモリー・リソースで指定されたデータベース要件に基づく一連の推奨値を提供できません。

ユーザーの処置: 利用できるメモリー・リソースがまだあるなら、割り振る物理メモリーのパーセンテージをもっと大きくしてください。そうでない場合は、サーバーの物理メモリーを増設してください。

DB210220E 指定されたコマンド番号が無効です。

説明: EDIT または RUNCMD コマンドに対して、無効なコマンド番号が指定されました。このコマンドは、現在の CLP 対話モード・コマンド履歴に存在しません。

ユーザーの処置: HISTORY コマンドを実行して、有効なコマンド番号のリストを確認し、有効なコマンド番号を指定して、EDIT または RUNCMD コマンドを再サブミットしてください。

DB210221E エディター *editor* を起動できませんでした。

説明: 無効なエディターが EDIT コマンドに対して指定されました。このエディターが存在しないか、または PATH に含まれていません。

ユーザーの処置: EDIT コマンドで使用されるエディターは、次の順に決定されます。

- EDIT コマンド の EDITOR パラメーターの値を使用して (パラメーターが指定されている場合)
- DB2_CLP_EDITOR レジストリー変数の値を使用して (レジストリー変数が設定されている場合)
- VISUAL 環境変数の値を使用して (環境変数が設定されている場合)

- EDITOR 環境変数の値を使用して (環境変数が設定されている場合)

EDIT コマンドの EDITOR パラメーターの PATH か、適切なレジストリー/環境変数に含まれている有効なエディターを指定してください。

DB210222E *parameter* で指定された値が、*number* と *number* の有効範囲内にありません。

説明: 無効な値が *parameter* で指定されました。この値は、*number* と *number* の有効範囲内に含まれていません。

ユーザーの処置: *parameter* の有効範囲について、該当する文書を参照し、有効な値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

DB210223E コマンド *command* は CLP の対話モードでのみ実行することができます。

説明: DB2 コマンドを CLP のコマンドまたはバッチ・モードで実行しようとしたましたが、このコマンドは CLP の対話モードでしか実行できません。

ユーザーの処置: 同じコマンドを CLP の対話モードで再実行してください。

第 11 章 DLFM メッセージ

DLFM001I DLFM サーバーが開始されました。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャーが正常に開始されました。

ユーザーの処置: 必要ありません。

DLFM002I DB2 Data Links Manager が開始中です

...

説明: DLFM サーバーが、初期化プロセスを開始中です。

ユーザーの処置: DLFM サーバーの開始が完了することを示すメッセージが表示されるまで、お待ちください。

DLFM003I DB2 Data Links Manager が停止中です

...

説明: DLFM サーバーが、終了プロセスを開始中です。

ユーザーの処置: DLFM サーバーの終了が完了することを示すメッセージが表示されるまで、お待ちください。

DLFM101E DLFM サーバーの開始でエラーが発生しました。理由コード = *reason-code*。

説明: 理由コード -3

データ・リンク・ファイル・マネージャーの初期化が失敗しました。

原因: 考えられる理由は、以下のとおりです。

1. トレースの初期化ではエラーは発生しませんでした。
2. 共通サブシステムの初期化ではエラーは発生しませんでした。
3. DB2 ログ・マネージャーの初期化ではエラーは発生しませんでした。
4. 共有リソースの作成ではエラーは発生しませんでした。
5. モニター・スレッドの作成ではエラーは発生しませんでした。

6. sqlwait コードまたは sqlpost コードにエラーはありませんでした。

7. DLFM が正常に開始される前に停止要求がありました。

8. Initdone 状態に移る際にエラーが発生しました。

ユーザーの処置:

アクション:

以下のステップを実行してください。

1. DB2 Data Links Manager 管理者としてシステムにログオンします。
2. dlfm stop コマンドを入力して、データ・リンク・ファイル・マネージャーを停止します。
3. dlfm shutdown コマンドを入力して、データ・リンク・サーバーをシャットダウンします。
4. dlfm start コマンドを入力して、Data Links Manager を開始します。
5. 問題が継続する場合は、db2diag.log のエラー情報を参照してください。
6. システム管理者に連絡してください。

DLFM102E DLFM サーバーのシャットダウンでエラーが発生しました。理由コード = *reason-code*。

説明: 理由コード -3

DLFM を正常に終了できませんでした。

ユーザーの処置: 追加の詳細および説明については、db2diag.log ファイルを参照してください。

DLFM103W DLFM サーバーはすでに開始されています。

説明: Data Links Manager 管理者が DLFM サーバーを開始しようとしたが、DLFM サーバーはすでに稼働中です。

ユーザーの処置:

1. DLFM プロセスの完全セットが実行中かどうかを確認してください。
 - UNIX では、dlfm see コマンドを使用します。

- Windows では、Windows タスク マネージャを使用します。
2. DLFM プロセスの完全セットがリストされていない場合は、dlfm restart コマンドで DLFM を再始動してください。
 3. 問題が続く場合は、追加の詳細および説明について db2diag.log ファイルを参照してください。

DLFM104W DLFM がまだ開始されていません。

説明: Data Links Manager 管理者が DLFM サーバーを停止しようとしたのですが、DLFM サーバーが実行されていません。

ユーザーの処置:

1. 1、2 分待ってから、DLFM サーバーが完全に初期化または終了されたことを確認してください。
2. DLFM プロセスの完全セットが実行中かどうかを確認してください。
 - UNIX では、dlfm see コマンドを使用します。
 - Windows では、Windows タスク マネージャを使用します。
3. DLFM プロセスがリストにない場合は、DLFM サーバーは終了しているので、アクションは不要です。
4. DLFM プロセスが実行中であることを確認した場合は、dlfm stop コマンドを使用して、もう一度 DLFM サーバーの停止を試行してください。
5. dlfm stop コマンドが失敗した場合は、dlfm shutdown コマンドを実行して、追加のクリーンアップ処理を行ってください。
6. 問題が続く場合は、追加の詳細および説明について db2diag.log ファイルを参照してください。

DLFM121E 接頭部名 *prefix-name* はすでに登録されています。

説明: 指定した *prefix-name* は、すでにこのデータ・リンク・ファイル・マネージャーで定義されています。

ユーザーの処置: *prefix-name* パラメーターの正しい値を指定してください。現在登録されている接頭部のリストを表示するには、dlfm list registered prefixes コマンドを使用します。

DLFM122E 接頭部名 *prefix-name* は登録できません。指定した共有ドライブは、すでに別の接頭部名で登録されています。

説明: このエラーは Windows 環境でのみ発生します。指定した *prefix-name* で指定された共有名は、すでに別の接頭部名で、このデータ・リンク・ファイル・マネージャーに登録されています。

ユーザーの処置: 異なる共有ドライブ用の共有名を、登録されている *prefix-name* で指定してください。現在登録されている接頭部のリストを表示するには、dlfm list registered prefixes コマンドを使用します。

DLFM123E 接頭部名 *prefix-name* (*directory-name*) が、DLFS マウント・ポイントまたはボリューム名に対応していません。

説明: 新規接頭部の追加の過程で、接頭部パスについての問題が検出されました。 *directory-name* は、問題のあるディレクトリーを示しています。

- UNIX では、基本マウント・ポイントまたはボリュームが、データ・リンク・ファイル・システム (DLFS) として定義されていません。
- Windows では、接頭部 (共有名) が DLFS として定義されたシステム・ドライブにマップしていません。

ユーザーの処置: DLFS ドライブまたはマウント・ポイントにマップする接頭部を指定してください。

DLFM124E 接頭部名 *prefix-name* は共有ドライブとして登録されていません。

説明: このエラーは Windows 環境でのみ発生します。指定した *prefix-name* で指定された共有名は、このシステムで定義された共有ドライブに対応していません。

ユーザーの処置: 異なる共有ドライブ用の共有名を、登録されている *prefix-name* で指定してください。接頭部を登録したい共有ドライブについて、Windows に定義されている共有名をチェックしてください。

DLFM126E 指定した接頭部名 *prefix-name* は、正しくないか、登録されていません。 戻りコード = *return-code*。

説明: 指定した *prefix-name* は、このデータ・リンク・ファイル・マネージャーに登録されていません。

ユーザーの処置: 正しい *prefix-name* パラメーター値を指定してください。現在登録されている接頭部のリストを表示するには、dlfm list registered prefixes コマンドを使用します。

DLFM128E 要求された管理機能を実行できません。 戻りコード = *return-code*。

説明: 要求された管理機能は失敗しました。 *return-code* は、失敗に関連した内部 SQL コードを表します。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。

- そこに説明されている修正アクションに従ってください。
- 問題が継続する場合は、IBM サービスに報告してください。

DLFM129I **DLFM_DB** *db-scope* の自動バックアップが起動されました。バックアップ完了までお待ちください。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャーは、そこに含まれる DLFM_DB のデータベースまたは表スペースのバックアップを開始しました。バックアップが行われるのは、最後に入力した dlfm コマンドによって記録された重要な情報を保存するためです。

ユーザーの処置: バックアップを中断することなく完了させてください。データ・リンク・ファイル・マネージャーが保守するファイルの情報量によって異なりますが、この処理が完了するには、数分、またはそれ以上かかる場合があります。

DLFM151I 以下のファイルが更新されています。
file-list

説明: WRITE PERMISSION ADMIN 属性をもった DATALINK 列にリンクした更新中のファイル・セットが、このメッセージに続いてリストされます。書き込みトークンを使用して更新のために開いているファイルのみが表示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。ただし、ファイル更新の継続や完了に必要な書き込みトークンの置き場所を誤った場合は、ファイル名と一緒にリストされるトークンをメモにとっておくことができます。

DLFM201E **DLFM** 登録サービスでエラーが発生しました。理由コード = *reason-code*。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

- 2 データベース登録でエラーが発生しました。
- 4 接頭部登録でエラーが発生しました。
- 6 レプリケーション権限登録でエラーが発生しました。
- 8 書き込み権限登録、リンク権限登録、または書き込みとリンクの両方の権限登録でエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

- db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
- 問題を IBM サービスに報告してください。

ファイル・システムの登録の詳細については、このトピックの終わりにある関連リンクを参照してください。

DLFM202E 指定したデータベース・サーバーの登録が無効です。

説明: コマンドに指定された *database_name* パラメーター、*instance_name* パラメーター、*node_name* パラメーター、または 3 つのパラメーターのすべてが無効です。

ユーザーの処置: *database_name*、*instance_name*、および *node_name* の各パラメーターの正しい値を指定してください。現在登録されているデータベース・サーバーのリストを表示するには、*dlfm list registered databases* コマンドを使用します。

DLFM203E 指定したディレクトリーが無効です。

説明: コマンドで指定した *directory* パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: 有効なディレクトリー名を指定してください。

DLFM204E 指定したディレクトリーは、登録済み接頭部にはありません。

説明: コマンドで指定した *directory* パラメーターは、登録済み接頭部にはありません。

ユーザーの処置: *directory* パラメーターの正しい値を指定してください。現在登録されているデータベース接頭部のリストを表示するには、*dlfm list registered prefixes* コマンドを使用します。

DLFM205E 指定したディレクトリー・アクセス・コントロールはすでに定義されています。

説明: 指定した *directory*、*db2_authorization_id*、および *database_server* の各パラメーターについてのアクセス・コントロールは、すでに定義されています。

ユーザーの処置: コマンドを再実行する前に、指定したこれらのパラメーターの既存のアクセス・コントロール項目を表示するために、*dlfm list registered directories* コマンドを使用してください。

DLFM206E 指定したディレクトリー・アクセス・コントロールが見付かりません。

説明: 指定した *directory*、*db2_authorization_id*、および *database_server* の各パラメーターについてのアクセス・コントロールが登録されていません。

ユーザーの処置: パラメーターの正しい値を指定してください。

DLFM207E 指定した接頭部が無効です。

説明: コマンドで指定した `prefix` パラメーターは、登録済み接頭部ではありません。

ユーザーの処置: 正しい `prefix` パラメーター値を指定してください。現在登録されている接頭部を表示するには、`dlfm list registered prefixes` コマンドを使用します。必要な場合は、`dlfm add prefix` コマンドを使用して、必要な接頭部を登録します。

DLFM208I `user-set` に属するすべての既存の DB2 サーバー接続が、データベース (データベース名 `db-name`、インスタンス `instance`、ノード `node`) から切断されるまでは、この変更内容は有効になりません。

説明: `user-set` には、個々のユーザー、ユーザー・グループ、またはすべてのユーザー (つまり、PUBLIC) など、このコマンドによって影響を受けるユーザー (DB2 authids) が記述されています。

指定した DB2 サーバーとデータ・リンク・ファイル・マネージャー間の切断を要求するコマンドが、既存の接続が切断されていない間に出された可能性があります。

ユーザーの処置: 指定したコマンドの変更点をすぐに有効にする必要がある場合は、指定したデータベースに属する指定したユーザーが開始した、このデータ・リンク・ファイル・マネージャーと DB2 サーバー間のすべての接続を終了してください。

DLFM209E 指定したユーザー ID またはグループ ID が無効です。

説明:

- 指定した ID がシステムの有効なユーザー ID またはグループ ID ではありません。
- ユーザーまたはグループが、Data Links Manager 管理者のユーザー ID を参照できません。
- グループ ID は 8 文字以下でなければなりません。

ユーザーの処置:

- システムで ID を作成するか、すでに存在する ID を指定してください。
- Data Links Manager 管理者のユーザー ID を参照しないユーザーまたはグループを指定してください。
- グループを指定する場合、名前が 8 文字以下であることを確認してください。

DLFM210E このユーザーまたはグループについて指定したアクセス・コントロールはすでに定義されています。

説明: 指定したユーザー ID またはグループ ID のアクセス・コントロールがすでに定義されています。

ユーザーの処置: 必要なアクセス・コントロールがすでに定義されていることを確認するためには、`dlfm list registered replication access control` コマンド、または `dlfm list registered users` コマンドのいずれかを使用してください。定義されていない場合は、ユーザー ID、グループ ID、その他の ID を必要なパラメーター値と置き換え、もう一度コマンドを出してください。

DLFM211E 指定したアクセス・コントロールが、このユーザーまたはグループに定義されていません。

説明: 指定したユーザー ID またはグループ ID についてのアクセス・コントロールが見付かりません。

ユーザーの処置: 正しいアクセス・コントロール値を指定してください。登録されているアクセス・コントロール値を表示するには、`dlfm list registered users` コマンド、`dlfm list registered directories` コマンド、または `dlfm list registered replication access control` コマンドを使用することができます。

DLFM212I この変更は、DLFM サーバーが再始動されるまで有効になりません。

説明: Data Links Manager 管理者が、`dlfm set link security` コマンドを発行しました。

ユーザーの処置: `dlfm restart` コマンドを発行して、DLFM ファイル・リンク・セキュリティー・フィーチャーを、即時に指定されたように変更します。そうしないと、指定された変更は、DLFM サーバーが次に開始された時にのみ有効になります。

DLFM215E 接頭部名 `prefix-name` は、有効な既存の完全修飾パスではありません。

説明: 指定されたパスが完全修飾パス (スラッシュで始まるパス) でないか、または入力されたパスが存在しません。

ユーザーの処置: DLFS 内の既存の、完全修飾パスにマップする接頭部名を指定してください。

DLFM217I この変更は、Data Links Manager レプリケーション・デーモンへの新規の接続用
にのみ有効になります。

説明: 指定されたコマンドで行われた変更 (たとえば許可など) は、Data Links Manager レプリケーション・デーモンへの既存の接続には影響しません。

ユーザーの処置: 指定されたコマンド内の変更要求が即時に有効になる必要がある場合、Data Links Manager レプリケーション・デーモンへの接続を終了し、新しい接続を開始してください。そうでない場合、アクションは不要です。

DLFM221E DROP_DLM の処理が失敗しました。詳細については、db2diag.log ファイルを参照してください。

説明: Data Links Manager が、指定したデータベースに対して、リンク解除やガーベッジ・コレクションの処理を開始できませんでした。考えられる理由は、以下のとおりです。

- Data Links Manager が実行されていない。
- database_name パラメーター、instance_name パラメーター、host_name パラメーター、または 3 つのパラメーターのすべてについて、値が誤って指定されている。
- Data Links Manager のいずれかのコンポーネント・サービスが失敗した。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. Data Links Manager が実行されていることを確認する。実行されていない場合は、dlfm start コマンドを入力して、DLFM を再始動します。
2. database_name、instance_name、および host_name の各パラメーターの正しい値を指定する。現在登録されているデータベース・サーバーのリストを表示するには、dlfm list registered databases コマンドを使用します。

問題が継続する場合は、失敗したコンポーネント・サービス (接続管理サービス、トランザクション管理サービスなど) があるかどうかを確認するために、db2diag.log の情報を参照してください。db2diag.log のエラー・コードを見て、そのエラー・コードの下に指示されている適切なアクションを実行してください。

DLFM222I request-type 要求が正常に行われました。

説明: 指定した要求 (またはコマンド) は正常に完了しました。

ユーザーの処置: 必要ありません。

DLFM223E request-type 要求が失敗しました。戻りコード = return-code。

説明: 指定した要求またはコマンドは正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: このメッセージに付いているその他のメッセージとコードを記録して、db2diag.log ファイルの追加エラー情報を参照してください。

DLFM224I request-type 要求が失敗しました。

説明: Data Links Manager 管理者が指定されたコマンドまたは要求の続行を確認しなかったため、要求は打ち切られました。

ユーザーの処置: まだ要求を続けたい場合は、コマンドを再入力してください。そうでない場合、アクションは不要です。

DLFM225I ホスト名 *host-name* 上のインスタンス *instance-name* 内のデータベース *database-name* のリンク解除およびガーベッジ・コレクション処理の開始中です。

説明: Data Links Manager 管理者が呼び出され、dlfm drop_dlm コマンドの処理を確認しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。指定されたデータベースへのすべての参照は、DLFM サーバーから除去されます。

DLFM252E DLFM レジストリー変数 DLFM_INSTALL_PATH (variable-value) が必要な "sqllib" ディレクトリーを指していません。

説明: DLFM_INSTALL_PATH レジストリー変数は variable-value によって示される値をもっていますが、必要な "sqllib" サブディレクトリーを指していません。

ユーザーの処置: db2set コマンドを使用して、DLFM_INSTALL_PATH レジストリー変数にデータ・リンク・ファイル・マネージャーがインストールされている "sqllib" ディレクトリーを含むパスを割り当てます。

DLFM254I DLFS 構成ファイル file-name はバックアップ・ファイル backup-file-name からリストアされます。

説明: DLFS 構成ファイル *file-name* は見つかりませんでしたが、バックアップ・コピー *backup-file-name* は見つかりました。このバックアップ・コピーが、*file-name* 構成ファイルを置き換えるために使用されています。

ユーザーの処置: 必要ありません。

DLFM255E *module-name: db2diag.log* ファイルを初期化できません。 戻りコード = *return-code*。 **DB2INSTANCE** および **DLFM_INSTANCE_NAME** 構成変数が正しく設定されていることを確認してください。

説明: ファイル db2diag.log を DB2 のキャプチャーおよび DLFM 診断用には開けませんでした。

module-name は、このエラーを検出したプログラム名です。

ユーザーの処置:

- データベース構成変数 DB2INSTANCE および DLFM_INSTANCE_NAME が正しく設定されていることを確認してください。
- DB2 データベース・マネージャー構成変数 DIAGPATH が正しく設定されていることを確認してください。
- DLFM データベース・インスタンスがあるファイル・システムまたは DIAGPATH が示すファイル・システムに、db2diag.log ファイル用の十分なフリー・スペースがあることを確認してください。

問題が継続する場合は、IBM サービスに報告してください。

DLFM256E **DLFM データベース "DLFM_DB" はインストール済みの現行バージョンの Data Links Manager に対応しません。**
version.

説明: DLFM データベース DLFM_DB の内容は、実行中の Data Links Manager のバージョンが、DLFM_DB のバージョンと共に使用できないことを示しています。指定されたコマンドは、この不整合のために実行できませんでした。

ユーザーの処置:

- 既存の DLFM_DB データベースを変換して、現在インストールされている Data Links Manager のバージョンと一致させる必要があります。この変換を行うには、DLFM データベース移行プログラムを実行してください。
- DLFM データベース移行プログラムを実行し、それが正常に終了しなかった場合は、元の DLFM_DB データベースをリストアし、移行プログラムを正常終了させる必要があります。
- DLFM データベース移行プログラムが正常終了しなかった場合は、以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log ファイル内で追加のエラー情報をチェックし、そこに説明されている修正アクションに従います。
2. Data Links Manager 操作 (たとえばファイルのリンク、dlfm コマンド、または DLFM サーバーが DLFM_DB データベースに保管される操作) を実行していない場合は、コマンド dlfm drop_db、および dlfm setup を実行して、DLFM_DB データベースを再作成できます。
重要: これらのコマンドは、以前の DLFM サーバー・アクティビティの記録を、完全に削除します。
3. 問題が継続する場合は、IBM サービスに報告してください。

注: DLFM データベース移行プログラムは、UNIX プラットフォームでは db2dlmmg、Windows では db2dlmmg.exe という名前です。

DLFM341E **Data Links Manager が前回異常終了しています。 "DLFM SHUTDOWN" コマンドが必要になる場合があります。アクティブなプロセス数は num-processes でした。戻りコード = return-code。**

説明: Data Links Manager が、前回の実行から残っているシステム・リソースを検出しました。これは、Data Links Manager が異常終了し、残っているシステム・リソースをクリーンアップするまでは、Data Links Manager を再始動できないことを意味します。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. そこに説明されている修正アクションに従ってください。
3. 残っているリソースをクリーンアップするために、dlfm shutdown コマンドを入力します。
4. 問題が継続する場合は、IBM サービスに報告してください。

DLFM402E **DLFM は現在保守モードで動作していません。再始動リカバリー処理しか許可されていません。この時の DLFM に対しては、その他の処理を実行することはできません。**

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャーに重大エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. 修正アクションを実行します。

3. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します。
4. 問題を解決できない場合は、その問題を IBM サービスに報告してください。

DLFM501E *manager-type* 管理サービス *service-type* が失敗しました。戻りコード = *return-code*。

説明: 接続、ファイル、グループ、接頭部、トランザクションの *manager-type* 値については、下記の対応する *service-type* を参照してください。

AbortTxn

考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。
2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。
3. オペレーティング・システムにエラーが発生しました。
4. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・ファイルは破壊されています。

BeginTxn

考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。
2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。
3. オペレーティング・システムにエラーが発生しました。
4. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・ファイルは破壊されています。

CommitTxn

考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。
2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。
3. オペレーティング・システムにエラーが発生しました。
4. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・ファイルは破壊されています。

Connect

データベースがデータ・リンク・ファイル・マ

ネージャーに接続するのに失敗しました。考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データベースがデータ・リンク・ファイル・マネージャーに登録されていません。
2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。
3. オペレーティング・システム・エラーが発生しました。

DefineGroup

考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。
2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。
3. オペレーティング・システムにエラーが発生しました。
4. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・ファイルは破壊されています。

DeleteDatabase

考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。
2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。
3. オペレーティング・システムにエラーが発生しました。
4. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・ファイルは破壊されています。

DeleteGroup

考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。
2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。
3. オペレーティング・システムにエラーが発生しました。
4. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・ファイルは破壊されています。

Disconnect

考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。

2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。
3. オペレーティング・システム・エラーが発生しました。
4. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・ファイルは破壊されています。

LinkFiles

考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。
2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。
3. オペレーティング・システムにエラーが発生しました。
4. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・ファイルは破壊されています。

PrepareTxn

考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。
2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。
3. オペレーティング・システムにエラーが発生しました。
4. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・ファイルは破壊されています。

QueryARTxns

考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。
2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。
3. オペレーティング・システムにエラーが発生しました。
4. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・ファイルは破壊されています。

QueryGroups

考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。
2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。

3. オペレーティング・システムにエラーが発生しました。
4. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・ファイルは破壊されています。

QueryGroupsExt

考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。
2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。
3. オペレーティング・システムにエラーが発生しました。
4. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・ファイルは破壊されています。

QueryGroupsExt2

考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。
2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。
3. オペレーティング・システムにエラーが発生しました。
4. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・ファイルは破壊されています。

QueryPreparedTxns

考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。
2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。
3. オペレーティング・システムにエラーが発生しました。
4. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・ファイルは破壊されています。

ReleaseDelete

データ・リンク・ファイル・マネージャーは、現在の状態のファイルを削除することができません。ファイルは、データ・リンク・ファイル・マネージャーによって管理されていたときに、管理ユーザーによって削除または変更されました。

ReleaseRestore

データ・リンク・ファイル・マネージャーは、このファイルの元の所有者および許可をリスト

アできませんでした。ファイルは、データ・リンク・ファイル・マネージャーによって管理されていたときに、管理ユーザーによって削除または変更されました。

ResolvePrefixId

考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。
2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。
3. オペレーティング・システムにエラーが発生しました。
4. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・ファイルは破壊されています。

ResolvePrefixName

所定のファイルの接頭部がデータ・リンク・ファイル・マネージャーに登録されていません。

TakeOver

データ・リンク・ファイル・マネージャーはファイルの管理を始めることができません。データ・リンク・ファイル・マネージャーがこのファイルを制御する前にファイルが削除または変更されました。

UnlinkFile

考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・マネージャーでエラーが発生しました。
2. システム共有リソースにアクセスするときにエラーが発生しました。
3. オペレーティング・システムにエラーが発生しました。
4. データ・リンク・ファイル・マネージャーのログ・ファイルは破壊されています。

ユーザーの処置:

AbortTxn

以下を実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します (必要な場合)。
3. 問題を IBM サービスに報告してください。

BeginTxn

以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します (必要な場合)。
3. 問題を IBM サービスに報告してください。

CommitTxn

以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します (必要な場合)。
3. 問題を IBM サービスに報告してください。

Connect

以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. DB2 Data Links Manager 管理者は、データベースをデータ・リンク・ファイル・マネージャーに登録する必要があります。
3. 問題が継続する場合は、IBM サービスに報告してください。

DefineGroup

以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します (必要な場合)。
3. 問題を IBM サービスに報告してください。

DeleteDatabase

以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します (必要な場合)。
3. 問題を IBM サービスに報告してください。

DeleteGroup

以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します (必要な場合)。

3. 問題を IBM サービスに報告してください。

Disconnect

以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します (必要な場合)。
3. 問題を IBM サービスに報告してください。

LinkFiles

以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します (必要な場合)。
3. 問題を IBM サービスに報告してください。

PrepareTxn

以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します (必要な場合)。
3. 問題を IBM サービスに報告してください。

QueryARTxns

以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します (必要な場合)。
3. 問題を IBM サービスに報告してください。

QueryGroups

以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します (必要な場合)。
3. 問題を IBM サービスに報告してください。

QueryGroupsExt

以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。

2. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します (必要な場合)。
3. 問題を IBM サービスに報告してください。

QueryGroupsExt2

以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します (必要な場合)。
3. 問題を IBM サービスに報告してください。

QueryPreparedTxns

以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します (必要な場合)。
3. 問題を IBM サービスに報告してください。

ReleaseDelete

このファイルの状況をチェックしてから、必要に応じて削除してください。

ReleaseRestore

このファイルの状況をチェックして、必要に応じて、所有権や許可の属性を変更するか、ファイルを削除してください。

ResolvePrefixId

以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します (必要な場合)。
3. 問題を IBM サービスに報告してください。

ResolvePrefixName

DB2 Data Links Manager 管理者は、指定したファイルの接頭部を、データ・リンク・サーバーに登録する必要があります。

TakeOver

データ・リンク・ファイル・マネージャーはファイルの管理を始めることができません。データ・リンク・ファイル・マネージャーがこのファイルを制御する前にファイルが削除または変更されました。

UnlinkFile

以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. データ・リンク・ファイル・マネージャーを再始動します (必要な場合)。
3. 問題を IBM サービスに報告してください。

DLFM701E *command* に無効な数の引き数 (*num-args*) が指定されました。理由コード = *reason-code*。

説明: 指定した *command* で指定した引き数が多すぎるか、あるいは少なすぎます。 *num-args* は、実際に指定された引き数の数です。

ユーザーの処置: 指定したコマンドで指定する引き数の数を修正してください。 *command* の正しい構文の詳細については、`dlfm help` を使用してください。

DLFM703E 指定したサーバー名 *server-name* を使用して、ネットワーク・ホスト項目を入力できませんでした。戻りコード = *return-code*。

説明: "gethostbyname" システム機能は指定した *server-name* を解決することができず、特定の *return-code* で失敗しました。

ユーザーの処置: 指定した *server-name* が正しく指定されており、ローカル・ドメイン・ネーム・サーバーまたはシステム `hosts` ファイルで定義されていることを確認してください。

DLFM704E 指定したコントロール・ファイル名はこの DLFM サーバーに関連していません。

説明: "dlfm_export" ユーティリティでは、最初のパラメーターとしてそれに渡された "control file name" は、現行 DLFM サーバーのホスト名と一致している必要があります。

ユーザーの処置: 指定した "control file name" は正しく指定されており、DLFM サーバーのホスト名 (または IP アドレス) に一致することを確認してください。

DLFM706W この DLFM サーバーからアーカイブされるファイルはありません。

説明: "dlfm_export" ユーティリティは、"control file" の入力の内容を読み取りましたが、その URL 項目を 1 つも処理できませんでした。この理由は、通常、ファイルに現行 DLFM サーバーを参照する URL が 1 つも

存在していないためです。この結果、出力アーカイブ・ファイルに書き込まれるファイルはありません。

ユーザーの処置: コントロール・ファイルの少なくとも 1 つの URL が、現行 DLFM サーバーのホスト名と一致するホスト名を持つことを確認してください。このような URL がない場合は、この DLFM サーバーのアーカイブに書き込む必要のあるファイルは実際に存在しません。また、このサーバーにこれ以上のアクションは不要です。

DLFM707I *command* が正常に完了しました。

説明: 指定した *command* はその処理を正常に完了しました。

ユーザーの処置: 必要ありません。

DLFM721E コマンド *command* に指定された無効な引き数 (*arg*) です。

説明: 指定した *arg* 値は、指定した *command* の有効な引き数ではありません。

ユーザーの処置: 指定した *command* の正しい構文を確認し、それに従って入力した引き数を修正してください。

DLFM741E DLFM_BACKUP_DIR_NAME レジストリー変数に無効なバックアップ・ディレクトリー名 *dir-name* が指定されています。

説明: DLFM_BACKUP_DIR_NAME レジストリー変数の値 *dir-name* が無効です。この変数で指定するディレクトリーは、絶対パス (つまり、ディレクトリーが UNIX プラットフォームではスラッシュ、Windows ではドライブ名で始まる) でなければなりません。

ユーザーの処置: *dir-name* 値が、現行システム上に存在する、正しいフォーマットの絶対パスであることを確認してください。(このディレクトリーは、ファイル・バックアップのためにデータ・リンク・ファイル・マネージャーによって使用されます。) `db2set` コマンドを使用して、DLFM_BACKUP_DIR_NAME レジストリー変数の値が正しいものになるように修正してください。

DLFM742E DLFM_BACKUP_DIR_NAME レジストリー変数に指定されたバックアップ・ディレクトリー名 *dir-name* にアクセスすることができません。

説明: DLFM_BACKUP_DIR_NAME レジストリー変数の値 *dir-name* が無効です。この変数で指定するディレクトリーは、既存のディレクトリーの絶対パスでなければ

ばなりません。指定した *dir-name* が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: *dir-name* 値が、現行システム上に存在する絶対パスであることを確認してください。(このディレクトリーは、ファイル・バックアップのためにデータ・リンク・ファイル・マネージャーによって使用されます。) db2set コマンドを使用して、DLFM_BACKUP_DIR_NAME レジストリー変数の値が正しいものになるように修正してください。

DLFM743E ローカル・ディスク・バックアップに保管されているファイル *file-name* が見つかりませんでした。

説明: 指定した *file-name* はローカル・ディスク・バックアップにあるはずですが、実際にはありませんでした。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. そこに説明されている修正アクションに従ってください。
3. db2set DLFM_BACKUP_DIR_NAME コマンドを使用して、DLFM_BACKUP_DIR_NAME レジストリー変数が、ファイル・バックアップのためにこのデータ・リンク・ファイル・マネージャーが使用するディレクトリーを指していることを確認してください。
4. 正しく設定されていない場合は、db2set コマンドを使用して、DLFM_BACKUP_DIR_NAME レジストリー変数の値が正しいものになるように修正してください。
5. 指定した *file-name* がバックアップ・ディレクトリーに存在することを確認してください。

DLFM744E ローカル・ディスク・バックアップのファイル *file-name* にアクセスできませんでした。

説明: 指定した *file-name* はローカル・ディスク・バックアップにありましたが、アクセスできませんでした。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. そこに説明されている修正アクションに従ってください。
3. db2set DLFM_BACKUP_DIR_NAME コマンドを使用して、DLFM_BACKUP_DIR_NAME レジストリー変数が、ファイル・バックアップのためにこのデー

タ・リンク・ファイル・マネージャーが使用するディレクトリーを指していることを確認してください。

4. 正しく設定されていない場合は、db2set コマンドを使用して、DLFM_BACKUP_DIR_NAME レジストリー変数の値が正しいものになるように修正してください。
5. 指定した *file-name* がバックアップ・ディレクトリーに存在し、少なくとも、ファイル所有者が READ 許可をもっていることを確認してください。

DLFM746E 要求した *item-type* リストに対応するレコードはありませんでした。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャー・データベースに、すでに指定済みの基準に一致する *item-type* のタイプ項目がありません。

ユーザーの処置: 探し出したいバックアップ・ファイル情報を探索できるかどうかを確認するために、別の引き数を指定するか、別の選択項目セットを指定することによって、このコマンドを再実行することをお勧めします。

DLFM747E *item-type* リストを取り出しているときに SQL エラーが発生しました。戻りコード = *return-code*。

説明: すでに指定された基準に従ってタイプ項目 *item-type* のリストを検索しているときに、予期しないデータベース・エラーが発生しました。 *return-code* 値は、データベース処理に関連した SQL エラー・コードを示しています。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. そこに説明されている修正アクションに従ってください。
3. 問題が継続する場合は、IBM サービスに報告してください。

DLFM748I 選択したい *item-type* に対応する番号を入力してください。

説明: このメッセージに続いて、有効な *item-type* 選択のリストがあります。コマンドの処理を継続するには、このリストのいずれかの項目を選択する必要があります。

ユーザーの処置: 選択したい項目に対応する番号を入力してください。

DLFM749E *item-type* リストを処理しているときに
SQL エラーが発生しました。戻りコード
= return-code。

説明: すでに指定された基準に従ってタイプ項目 *item-type* のリストを検索しているときに、予期しないデータベース・エラーが発生しました。 *return-code* 値は、データベース処理に関連した SQL エラー・コードを示しています。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. そこに説明されている修正アクションに従ってください。
3. 問題が継続する場合は、IBM サービスに報告してください。

DLFM750I **DLFM** データベース *dbname* を使用しています。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャー環境は、*dbname* がそのプライベート DB2 データベースの名前であることを示しています。このデータベースは、DLFM バックアップ・ファイルの情報を検索するために使用されるデータベースです。

ユーザーの処置: 必要ありません。

DLFM751E データベース *dbname* に接続できません
でした。戻りコード = *return-code*。

説明: *dbname* データベースに接続しようとしているときに、予期しないデータベース・エラーが発生しました。 *return-code* 値は、DB2 CONNECT ステートメントに関連する SQL エラー・コードを示しています。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. そこに説明されている修正アクションに従ってください。
3. *dbname* が、DLFM データベースの正しい名前であることを確認してください。(このデータベースのデフォルト名は "DLFM_DB" です。)
4. 問題が継続する場合は、IBM サービスに報告してください。

DLFM801I **DLFM** 移行を開始しています。処理が完了するのをお待ちください。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャーの移行プログラムが開始されました。このプログラムは、前のバージョンの DLFM 環境を現在インストールされているバージョンの DLFM 環境に変換します。

ユーザーの処置: 移行を中断することなく完了させてください。データ・リンク・ファイル・マネージャーが保守するファイルの情報量によって異なりますが、移行処理が完了するには、数分またはそれ以上かかる場合があります。

DLFM802I **移行パッケージをバインドしています。**

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャー移行プログラムは、現在インストールされているバージョンの DLFM への移行を進めるために、それ自身を既存の DLFM_DB データベースにバインドしています。

ユーザーの処置: 移行を中断することなく完了させてください。データ・リンク・ファイル・マネージャーが保守するファイルの情報量によって異なりますが、移行処理が完了するには、数分またはそれ以上かかる場合があります。

DLFM803I **DLFM** データベースをバックアップしています。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャー移行プログラムは、現在インストールされているバージョンの DLFM への移行を進めるために、既存の DLFM_DB データベースをバックアップしています。

ユーザーの処置: 移行を中断することなく完了させてください。データ・リンク・ファイル・マネージャーが保守するファイルの情報量によって異なりますが、移行処理が完了するには、数分またはそれ以上かかる場合があります。

DLFM804I 以下のデータベース処理が実行されていません。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャー移行プログラムは、現在インストールされているバージョンの DLFM への移行を進めるために、既存の DLFM_DB データベースに対して数多くのデータベース処理を実行しています。このメッセージの次に、データベースの処理とその結果のリストが続いています。

ユーザーの処置: 移行を中断することなく完了させてください。データ・リンク・ファイル・マネージャーが保守するファイルの情報量によって異なりますが、移行処理が完了するには、数分またはそれ以上かかる場合があります。

DLFM805I *database-action:* **SQL** コード = *sql-code*、
戻りコード = *return-code*。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャー移行プログラムは、現在インストールされているバージョンの DLFM に移行するために、既存の DLFM_DB データベ

ースに対して、指示された *database-action* を実行しました。 *sql-code* および *return-code* は、指定した *database-action* の結果を示します。

ユーザーの処置: 指定したデータベース処理と移行プログラム全体を、中断することなく完了させてください。データ・リンク・ファイル・マネージャーが保守するファイルの情報量によって異なりますが、処理が完了するには、数分またはそれ以上かかる場合があります。

DLFM806I *database-action*: SQL コード = *sql-code*、
戻りコード = *return-code*、理由コード =
reason-code。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャー移行プログラムは、現在インストールされているバージョンの DLFM に移行するために、既存の DLFM_DB データベースに対して、指示された *database-action* を実行しました。 *sql-code*、*return-code*、*reason-code* は、指定した *database-action* の結果を示しています。

ユーザーの処置: 指定したデータベース処理と移行プログラム全体を、中断することなく完了させてください。データ・リンク・ファイル・マネージャーが保守するファイルの情報量によって異なりますが、処理が完了するには、数分またはそれ以上かかる場合があります。

DLFM807I *data-name* データをファイル *file-name* に
エクスポートしています。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャー移行プログラムは、指示された *data-name* を作業ファイル *file-name* にエクスポートしています。このエクスポートは、現在インストールされているバージョンの DLFM に移行するために、既存の DLFM_DB データベースを使用して実行されています。

ユーザーの処置: エクスポート処理と移行プログラム全体を、中断することなく完了させてください。データ・リンク・ファイル・マネージャーが保守するファイルの情報量によって異なりますが、処理が完了するには、数分またはそれ以上かかる場合があります。

DLFM808I エクスポートされたデータ *data-name* の
行数 = *num-rows*。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャー移行プログラムは、指示された *data-name* の *num-rows* を作業ファイルにエクスポートしました。このエクスポートは、現在インストールされているバージョンの DLFM に移行するために、既存の DLFM_DB データベースを使用して実行されています。

ユーザーの処置: エクスポート処理と移行プログラム全体を、中断することなく完了させてください。デー

タ・リンク・ファイル・マネージャーが保守するファイルの情報量によって異なりますが、この処理が完了するには、数分またはそれ以上かかる場合があります。

DLFM809I *data-name* データをファイル *file-name* からロードしています。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャー移行プログラムは、作業ファイル *file-name* から指示された *data-name* をロードしています。現在インストールされているバージョンの DLFM に移行するために、既存の DLFM_DB データベースにロードされています。

ユーザーの処置: ロード処理と移行プログラム全体を、中断することなく完了させてください。データ・リンク・ファイル・マネージャーが保守するファイルの情報量によって異なりますが、これらの処理が完了するには、数分またはそれ以上かかる場合があります。

DLFM810I ロードされたデータ *data-name* の行数 =
num-rows1、コミットされた行数 =
num-rows2。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャー移行プログラムは、作業ファイルから、指示された *data-name* の *num-rows1* をロードし、これらの行の *num-rows2* をコミットしました。現在インストールされているバージョンの DLFM に移行するために、既存の DLFM_DB データベースにロードされています。

ユーザーの処置: ロード処理と移行プログラム全体を、中断することなく完了させてください。データ・リンク・ファイル・マネージャーが保守するファイルの情報量によって異なりますが、これらの処理が完了するには、数分またはそれ以上かかる場合があります。

DLFM811E 現行 DLFM データベースをバックアップ
することができませんでした。戻りコード =
return-code。DLFM 移行は停止し
ています。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャー移行プログラムは、既存の DLFM_DB データベースのバックアップに失敗しました。*return-code* は、DB2 バックアップ・ユーティリティー・プログラムからの戻りコードです。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. db2diag.log にあるエラー情報を参照してください。
2. そこに説明されている修正アクションに従ってください。
3. 問題が継続する場合は、IBM サービスに報告してください。

DLFM812I 主要な DLFM パッケージをバインドしています。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャー移行プログラムは、現在インストールされているバージョンの DLFM を、移行された DLFM_DB データベースにバインドしています。

ユーザーの処置: バインド処理と移行プログラム全体を、中断することなく完了させてください。データ・リンク・ファイル・マネージャーが保守するファイルの情報量によって異なりますが、これらの処理が完了するには、数分またはそれ以上かかる場合があります。

DLFM813I DLFM 移行のすべてのステップが正常に完了しました。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャー移行プログラムは、現在インストールされているバージョンの DLFM に一致させるために、既存の DLFM_DB データベースの変換を完了しました。すべてのステップが正常に完了しました。

ユーザーの処置: 必要ありません。

DLFM814I DLFM 移行が終了しました。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャーの移行プログラムが終了しました。

ユーザーの処置: DLFM 移行プログラムの成功や失敗を示す先行するメッセージを記録しておいてください。成功した場合は、追加アクションは不要です。失敗した場合は、移行プログラムを再実行する前に、エラー・メッセージに関連した指示に従ってください。

DLFM815E DLFM データベース "DLFM_DB" は不明な状態です。元の DLFM データベースをリストアして、*dlfm-migration-program* 移行プログラムを再試行してください。

説明: DLFM データベース DLFM_DB の内容は、このバージョンのデータベースのフォーマットに対応していません。指定された Data Links Manager 移行プログラム *dlfm-migration-program* は、この不整合のために実行できませんでした。この問題は、このプログラムを以前に実行した時に正常に完了しなかったことが原因の可能性にあります。

ユーザーの処置:

1. 移行する元の DLFM_DB データベースをリストアしてください。移行中にバックアップされる DLFM_DB は、DLFM_BACKUP_DIR_NAME 構成変数で指定されたディレクトリーに保管されます。

2. Data Links Manager 移行プログラムを再実行してください。プログラムを中断することなく完了させてください。
3. 問題が継続する場合は、IBM サービスに報告してください。

注: Data Links Manager 移行プログラムは、UNIX プラットフォームでは *db2dlmmg* で、Windows では *db2dlmmg.exe* です。

DLFM816W 既存の DLFM データベースは、すでに現行の Data Links Manager リリース用の正しいフォーマットになっており、移行の必要はありません。

説明: DLFM データベース DLFM_DB の内容は、すでに Data Links Manager の現在インストールされているバージョン用のフォーマットになっています。内容は、以下のいずれか理由でこのフォーマットになっている可能性があります。

- データベースが、Data Links Manager の現行リリースを使用して作成された (たとえば *dlfm create* または *dlfm setup* コマンドを使用)。
- データベースは、前のリリースの Data Links Manager を使用して作成され、すでに移行済みである。

ユーザーの処置:

- DLFM_DB データベースが現在インストールされている Data Links Manager を使用して作成された場合、追加のアクションは不要です。DLFM データベース移行プログラムは、新規に作成された DLFM_DB データベースで実行する必要はありません。
- DLFM_DB データベースが以前のリリースの Data Links Manager で作成され、DLFM データベース移行プログラムが正常に実行された場合、追加のアクションは不要です。DLFM データベース移行プログラムは再実行しないでください。
- DLFM_DB データベースが以前のリリースの Data Links Manager で作成され、DLFM データベース移行プログラムが正常に実行されなかった場合は、以下のステップを実行してください。

1. 移行する元の DLFM_DB データベースをリストアしてください。移行中にバックアップされる DLFM_DB は、DLFM_BACKUP_DIR_NAME 構成変数で指定されたディレクトリーに保管されません。
2. DLFM データベース移行プログラムを再実行してください。重要: プログラムを中断することなく完了させてください。
3. DLFM データベース移行プログラムが正常に完了した場合は、追加アクションはありません。

4. 移行プログラムが正常に完了しなかった場合は、報告されたエラーを記録して、示された説明に従ってください。
5. 問題が継続する場合は、IBM サービスに報告してください。

DLFM817E 表 *table-name* は空ではありません。

説明: DLFM データベース移行プログラムは、*table-name* という名前の表を作成しようとしたが、この名前の空でない表が、DLFM データベース DLFM_DB にすでに存在します。

注: Data Links Manager 移行プログラムは、UNIX プラットフォームでは db2dlmmg で、Windows では db2dlmmg.exe です。

ユーザーの処置:

- 以前に表を作成していて、その中にデータを挿入済みの場合、必要がない場合は表をドロップ、または 'dfm' が表名の最初の 3 文字にならないように、表を名前変更する必要があります。
 - 指定した表が DLFM_DB データベースから実際に除去された後で、以下のステップを実行してください。
1. DLFM データベース移行プログラムを再実行してください。重要: プログラムを中断することなく完了させてください。
 2. 移行プログラムが正常に完了した場合は、追加アクションはありません。
 3. 移行プログラムが正常に完了しなかった場合は、報告されたエラーを記録して、示された説明に従ってください。
 4. 問題が継続する場合は、IBM サービスに報告してください。

DLFM818E 表 *table-name* にはすでに列 *column-name* があります。

説明: DLFM データベース移行プログラムは、*column-name* という名前の列を *table-name* という名前の表に追加しようとしたが、この名前の列は、指定した表にすでに存在します。注: DLFM データベース移行プログラムは、UNIX プラットフォームでは db2dlmmg、Windows では db2dlmmg.exe という名前です。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. 移行する元の DLFM_DB データベースをリストアしてください。移行中にバックアップされる DLFM_DB は、DLFM_BACKUP_DIR_NAME 構成変数で指定されたディレクトリーに保管されます。

2. 以前にこの列をこの表に追加している場合は、表から列をドロップしてください。Data Links Manager のみが DLFM_DB データベースの表を変更するようにします。
3. 以前にこの列をこの表に追加していない場合には、以前に DLFM データベース移行プログラムが不完全に実行された時に追加された可能性があります。この列は、上の最初のステップで元の DLFM_DB をリストアしたときに、DLFM_DB データベースで指定した表から実際に除去されます。
4. DLFM データベース移行プログラムを再実行してください。重要: プログラムを中断することなく完了させてください。
5. 移行プログラムが正常に完了した場合は、追加アクションはありません。
6. 移行プログラムが正常に完了しなかった場合は、報告されたエラーを記録して、示された説明に従ってください。
7. 問題が継続する場合は、IBM サービスに報告してください。

DLFM819I バッファース・プール *bufferpool-name* はすでに存在します。

説明: DLFM データベース移行プログラムは、*bufferpool-name* という名前のバッファース・プールを作成しようとしたが、正しい必要な特性 (pagesize など) を持つこの名前のバッファース・プールは、DLFM データベース DLFM_DB にすでに存在します。注: DLFM データベース移行プログラムは、UNIX プラットフォームでは db2dlmmg、Windows では db2dlmmg.exe という名前です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。既存のバッファース・プールには必要な特性があるため、それは DLFM_DB の内容に使用されます。

DLFM820E バッファース・プール *bufferpool-name* はすでに定義済みですが、ページ・サイズが誤っています。

説明: DLFM データベース移行プログラムは、*bufferpool-name* という名前のバッファース・プールを作成しようとしたが、正しくない特性 (the pagesize) を持つこの名前のバッファース・プールは、DLFM データベース DLFM_DB にすでに存在します。注: DLFM データベース移行プログラムは、UNIX プラットフォームでは db2dlmmg、Windows では db2dlmmg.exe という名前です。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. 以前にこのバッファ・プールを作成していた場合は、ドロップしてください。Data Links Manager プログラムのみが DLFM_DB データベースの内容を変更するようにします。
2. DLFM データベース移行プログラムを再実行してください。重要: プログラムを中断することなく完了させてください。
3. 移行プログラムが正常に完了した場合は、追加アクションはありません。
4. 移行プログラムが正常に完了しなかった場合は、報告されたエラーを記録して、示された説明に従ってください。
5. 問題が継続する場合は、IBM サービスに報告してください。

DLFM821I 表スペース *table-space-name* はすでに存在します。

説明: DLFM データベース移行プログラムは、*table-space-name* という名前の表スペースを作成しようとしたが、正しい必要な特性 (pagesize など) を持つこの名前の表スペースは、DLFM データベース DLFM_DB にすでに存在します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。既存の表スペースには必要な特性があるため、それは DLFM_DB データベースの内容に使用されます。

DLFM822E 表スペース *table space name* はすでに定義されていますが、ページ・サイズが間違っています。

説明: DLFM データベース移行プログラムは、*table space name* という名前の表スペースを作成しようとしたが、正しくないページ・サイズを持つこの名前の表スペースは、DLFM データベース DLFM_DB にすでに存在します。注: DLFM データベース移行プログラムは、UNIX プラットフォームでは db2dlmmg、Windows では db2dlmmg.exe という名前です。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. 以前にこの表スペースを作成していた場合は、ドロップしてください。Data Links Manager プログラムのみが DLFM_DB データベースの内容を変更するようにします。
2. DLFM データベース移行プログラムを再実行してください。重要: プログラムを中断することなく完了させてください。
3. 移行プログラムが正常に完了した場合は、追加アクションはありません。

4. 移行プログラムが正常に完了しなかった場合は、報告されたエラーを記録して、示された説明に従ってください。
5. 問題が継続する場合は、IBM サービスに報告してください。

DLFM823I DLFM データベースの移行に要した時間は、*minutes:seconds* (分:秒) でした。

説明: DLFM データベース DLFM_DB の内容は、正常に移行されました。移行の経過時間は、分および秒で表示されます。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。DLFM データベース移行プログラムは、中断されることなく最終処理を完了する必要があります。

注: DLFM データベース移行プログラムは、UNIX プラットフォームでは db2dlmmg、Windows では db2dlmmg.exe という名前です。

DLFM841E プログラム *program-name* は、UNIX 環境でのみ実行できます。

説明: 指定されたプログラムが、Windows などの、AIX または Solaris オペレーティング環境以外の環境で実行されました。

ユーザーの処置: AIX または Solaris オペレーティング環境で必要とされるプログラムを実行します。

DLFM842I *migration-type* 移行を開始しています。処理が完了するのを待ちください。

説明: 移行タイプは、file system (プログラム dlfm_migrate_fsid の場合)、または prefix (プログラム dlfm_migrate_prefix の場合) のいずれかになります。

データ・リンク・ファイル・マネージャーの *migration-type* 移行プログラムは、処理を開始しました。このプログラムは、論理的にファイル・システムまたは接頭部を、既存のロケーションから新規ロケーションに、プログラムの引き数に指定されたとおりに移行します。

ユーザーの処置: 移行を中断することなく完了させてください。データ・リンク・ファイル・マネージャーが保守するファイルの情報量によって異なりますが、移行処理が完了するには、数分またはそれ以上かかる場合があります。データ・リンク・ファイル・システムの別のハード・ディスクへの移行については、以下のトピックを参照してください。

- 『異なるハード・ディスクへのデータ・リンク・ファイル・システムの移行 (AIX)』

- 『データ・リンク・ファイル・システムの異なるハード・ディスクへの移行 (Solaris オペレーティング環境)』
- 『データ・リンク・ファイル・システムの異なるハード・ディスクへの移行 (Windows)』
- 異なるハード・ディスクへの DLFF 使用可能ファイル・システムの移行

DLFM843E *file-system* はマウントされていません。

説明: 指定されたファイル・システムがマウントされていません。

ユーザーの処置: 指定されたファイル・システムをマウントしてください。ファイル・システムのマウントについては、『ファイル・システムの使用可能化と DLFM への登録 (AIX, Solaris オペレーティング環境)』を参照してください。

DLFM844I *prefix-name* をファイル・システム ID *fsid* で処理しています...

説明: 対応するファイル・システム ID を持つ、指定した DLFM 接頭部のファイル・システム移行が処理中です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。プログラムを中断することなく継続させてください。データ・リンク・ファイル・システムの別のハード・ディスクへの移行については、以下の説明を参照してください。

- 『異なるハード・ディスクへのデータ・リンク・ファイル・システムの移行 (AIX)』
- 『データ・リンク・ファイル・システムの異なるハード・ディスクへの移行 (Solaris オペレーティング環境)』
- 『データ・リンク・ファイル・システムの異なるハード・ディスクへの移行 (Windows)』
- 異なるハード・ディスクへの DLFF 使用可能ファイル・システムの移行

DLFM845I *file-count* ファイル・レコードは DLFM データベース内で更新されました...

説明: DLFM データベース DLFM_DB の *file-count* リンク・ファイル情報レコードは、ファイル・システムの移行の実行中に処理されてきました。この状況メッセージは定期的に表示され、データベース処理の進行を示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。ファイル・システム移行プログラムを中断することなく継続してください。

DLFM846I DLFM データベース内で更新する必要があるファイル・レコードの総数は *file-count* でした。

説明: ファイル・システムの移行のファイル情報更新段階の間に、DLFM データベース DLFM_DB 内のすべての *file-count* リンク・ファイル情報レコードは、処理されました。表示されたファイルの数が 0 の場合、更新が必要な移行済みファイル・システムのファイルに、システムの情報がありません (たとえば、元のファイル・システムと新規のファイル・システム間で、ファイル・システム ID が変更されなかった場合)。

ユーザーの処置: アクションは不要です。ファイル・システム移行プログラムが、中断されることなく、残りの移行フェーズの処理を完了するようにしてください。

DLFM847I ファイル・システム移行のすべてのステップが正常に完了しました。

説明: DLFM ファイル・システム移行プログラムは、指定されたファイル・システム内での変更点と一致させるために、DLFM データベース DLFM_DB 内での必要な更新を正常に完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DLFM848I 接頭部移行のすべてのステップが正常に完了しました。接頭部パスが *prefix1* から *prefix2* に変更されました。

説明: DLFM 接頭部移行プログラムは、指定する接頭部の *prefix1* から *prefix 2* への変更点を一致させるために、DLFM データベース DLFM_DB 内での必要な更新を正常に完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DLFM853E DLFM データベース・トランザクション・ログがフルです。ログのスペース割り振りを増加して、このプログラムを再実行してください。

説明: DLFM データベース DLFM_DB のトランザクション・ログがいっぱいです。DLFM データベースでのトランザクション処理のロギングに必要な記憶域が、これ以上ありません。

ユーザーの処置: DLFM サーバー上の DLFM_DB データベースのためのトランザクション・ログ・データベース構成パラメーターを増やしてください。ログ・スペース割り振りを増やした後、このプログラムを再実行することができます。ログのためのスペース割り振りを増やすことについては、『DLFM_DB に対する十分な DB2 ログ・スペースの確保』を参照してください。

DLFM900I DLFM サーバーが停止しました。

説明: データ・リンク・ファイル・マネージャーが正常または異常に停止されました。

ユーザーの処置: DLFM が異常終了した場合は、`dlfm shutdown` コマンドを出してから、`dlfm start` コマンドを出して、DLFM を再始動してください。

DLFM901E システム・エラーが発生しました。戻りコード = *return-code*。現在のコマンドは処理できませんでした。追加情報については、`db2diag.log` ファイルを参照してください。

説明: 予期しないシステム環境エラーまたは処理エラーが発生しました。可能性のある原因は、以下のとおりです。

1. DLFM_DB データベースの自動バックアップを実行できない。
2. ファイル・システムからファイル情報を取得できない。
3. 子プロセスを作成できない。
4. システム・コマンドを実行できない。
5. データベース・インスタンス情報を取得できない。
6. 予期しない SQL エラーが発生した。
7. ファイル・システム操作 (ディレクトリの変更など) を実行できない。
8. システム時刻を取得できない。
9. 内部処理エラーが発生した。
10. `db2diag.log` ファイルを初期化できない。
11. ユニークな内部接頭部 ID を生成できない。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. `db2diag.log` にあるエラー情報を参照してください。
2. そこに説明されている修正アクションに従ってください。
3. 問題が継続する場合は、IBM サービスに報告してください。

DLFM908E ファイル *file-name* で *file-action* アクションを実行中に障害が繰り返し発生しました。DLFM は停止します。

説明: Data Links Manager は、ファイル・システムからのファイルの引き継ぎ、またはファイル・システムへのファイルのリリースに失敗しました。アーカイブにバックアップ中に、引き継がれているファイルが 1 つ以上失敗した可能性があります。これらは、DATALINK 列に挿入されたファイルか、DATALINK 列から削除さ

れたファイルです。コミット処理が完了する前に、以下のいずれかの状況が発生した可能性があります。

- ファイルを含んでいるファイル・システムがオフラインにされた。
- 管理ユーザーによってファイルが削除された。
- アーカイブ・サーバーまたはアーカイブ領域ストレージが一時的に使用できなくなっている。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. ファイル・システムが使用可能であることを確認し、そのファイルがあるかどうかをチェックします。
2. ファイルは引き継がれているが、バックアップができなかった場合は、アーカイブ・サーバーおよびアーカイブ・ストレージが使用可能であることを確認します。
3. ファイルが削除されておらず、現在使用可能である場合は、Data Links Manager を再始動してください。これにより、ファイルが解放されて Data Links Manager は使用可能になります。

ファイルが削除された場合、あるいは問題が継続する場合は、その問題を IBM サービスに報告してください。

DLFM909E ファイル *existing-file* をファイル *replacement-file* と置き換え中に障害が繰り返し発生しました。DLFM は停止します。

説明: Data Links Manager は、既存ファイルを置き換えファイルと置き換えるのに失敗しました。コミット処理が完了する前に、以下のいずれかの状況が発生した可能性があります。

- ファイルを含んでいるファイル・システムがオフラインにされた。
- 置き換えファイルが管理ユーザーによって削除された。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. ファイル・システムが使用可能であることを確認し、置換ファイルがあるかどうかをチェックします。
2. 置き換えファイルが削除されておらず、現在使用可能である場合は、Data Links Manager を再始動してください。再始動すると、ファイルがリリースされ、Data Links Manager が使用可能になります。

ファイルが削除された場合、あるいは問題が継続する場合は、その問題を IBM サービスに報告してください。

第 12 章 DQP メッセージ

DQP0001E コマンドにデータベース名を指定してください。

説明: コマンド構文により、データベース名の指定が必要です。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

データベース名を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP0002E Query Patroller は、データベース *dbname* に接続できません。

説明: Query Patroller は、*dbname* データベースへの接続を確立できませんでした。

ユーザーの処置: データベース名が正しく、データベース・マネージャーが実行中であることを確認してください。

このメッセージが表示された原因については、*qpdiag.log* ファイルを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP0003E Query Patroller サーバーを始動できません。

説明: Query Patroller を始動できませんでした。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、*qpdiag.log* ファイルを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP0004E Query Patroller サーバーを停止できません。

説明: Query Patroller サーバーを停止できません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを停止しようとした時に、実際に Query Patroller サーバーが実行中であったか確認してください。このメッセージが表示された原因については、*qpdiag.log* ファイルを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP0005E データベース *dbname* に対する Query Patroller 構成が見つかりません。

説明: データベース *dbname* に対する構成が見つかりません。

ユーザーの処置: *qpstop* コマンドを発行して、Query Patroller を停止してください。

DQP0006E Java プロパティー・ファイル *filename* が見つかりません。

説明: 必要なプロパティー・ファイル *filename* が見つかりません。

ユーザーの処置: *sqllib/msg/<locale>/qp/* ディレクトリをチェックして、プロパティー・ファイルが存在するかどうか判別してください。

問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP0007E 内部エラー *error* が発生しました。

説明: 処理中に内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、*qpdiag.log* ファイルを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP0008E ユーザー *username* はサブミッター・プロファイルを持っていません。

説明: ユーザーは、それぞれサブミッター・プロファイルを持っている必要があります。

ユーザーの処置: 管理者が、ユーザー用にサブミッター・プロファイルを定義するよう要求してください。

DQP0009E ファイル *filename* をオープンできません。

説明: 指定されたファイルをオープンしようとしてエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイルが存在し、その許可が正しいかどうか、確認してください。

このメッセージが表示された原因については、*qpdiag.log* ファイルを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP0010E ユーザー *user-ID* は有効なサブミッター・プロファイルを持っていません。

説明: ユーザー *user-ID* には、Query Patroller の有効なサブミッター・プロファイルがありません。これは、次の理由から発生する可能性があります。

- ユーザーにサブミッター・プロファイルがない。
- ユーザーに所属しているユーザーまたはグループ、あるいはその両方のサブミッター・プロファイルが一時停止となる可能性がある。

ユーザーの処置: データベース管理者がサブミッター・プロファイルを作成し、サブミッター・プロファイルを再活動化するように要求してください。

DQP0011E *property-file1* および *property-file2* のいずれも見つからなかったため、サブミット設定ダイアログを表示できません。

説明: プロパティ・ファイルが見つかりません。この結果、サブミット設定ダイアログを表示できません。

ユーザーの処置: ファイルが存在するかどうか確認してください。

DQP0012E データベース *dbname* は、Query Patroller で使用するためにセットアップされていません。

説明: Query Patroller をデータベース上で使用するには、そのデータベースが含まれるサーバーに、Query Patroller をインストールする必要があります。Query Patroller のインストール中に、管理対象となるデータベースの照会を選択し、Query Patroller コントロール表およびストアド・プロシージャが、このデータベースで作成されます。Query Patroller を使用して、追加データベースの照会を管理する必要がある場合、データベースごとに、`qpsetup` コマンドを実行しなければなりません。

ユーザーの処置: データベースが含まれるサーバーに Query Patroller をインストールするよう、管理者に要求するか、すでにサーバーにインストールされている場合には、そのデータベースに対して `qpsetup` コマンドを実行し、Query Patroller をセットアップするよう要求してください。

`qpsetup` コマンドがデータベースに対して実行されていても問題が解決しない場合は、UNIX では `INSTPATH/function` に、ファイル `db2qp` があるかどうか、Windows では `INSTPATH\function` にファイル `db2qp.dll` があるかどうかをチェックしてください。(INSTPATH は、DB2 インスタンス・ディレクトリーを意味します。)

DQP0019E *command-name* コマンドを発行するには、SYSADM 権限が必要です。

説明: このコマンドには SYSADM 権限が必要です。

ユーザーの処置: システム管理者に、このコマンドを実行するよう要求してください。

DQP0020E この機能はサポートされていません。理由コード = *reason-code*。

説明: 次の理由コードで示されるように、ステートメントが制約事項に違反しているため、処理することができません。

- 1 機能が使用できないため、接続コード・ページを設定できません。
- 2 制約事項が不明です。

ユーザーの処置: 理由コードに応じたアクションは次のとおりです。

- 1 Query Patroller クライアントを新しいバージョンに更新してください。
- 2 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP0021E DB2 サーバーと Query Patroller サーバーの製品レベルが異なります。

説明: DB2 サーバーと Query Patroller サーバーの製品レベルは、同じでなければなりません。

ユーザーの処置: DB2 サーバーと Query Patroller サーバーが、同じ製品レベルであるかどうか確認してください。Query Patroller サーバーをインストールする前に、DB2 サーバーにフィックスパックを適用している場合は、そのフィックスパックを再適用してください。

製品の前提条件の記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

DQP0024E 予期しないエラー *error* が発生しました。

説明: 予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラーが表示された原因については、`qpdiag.log` ファイルを参照してください。

DQP0025E タイム・スタンプ・フォーマット *format* が無効です。

説明: ユーザーが指定したタイム・スタンプ・フォーマットが無効です。正しいタイム・スタンプ・フォーマットは `YYYY-MM-DD HH24:MI:SS` です。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

正しいタイム・スタンプ・フォーマットを指定し、コマンドを再実行してください。

DQP0406E 最大数 *maxnumber* のクエリー・コントローラーがすでに実行中のため、クエリー・コントローラーを開始できません。

説明: 許可されているクエリー・コントローラーの最大数よりも多くのクエリー・コントローラーを開始しようとしていました。

ユーザーの処置: 現在実行中のクエリー・コントローラーの 1 つを使用してください。

DQP0408E コマンド *commandname* を実行するには、DBADM 権限が必要です。

説明: コマンド *command-name* には、DBADM 権限が必要です。

ユーザーの処置: データベース管理者に DBADM 権限を付与するよう要求し、コマンドを再発行してください。

DQP0409E Query Patroller のシステム設定が存在しません。

説明: システム設定が存在しない場合には、Query Patroller を実行することはできません。

ユーザーの処置: *qpsetup* コマンドを発行して、Query Patroller システム設定を作成してください。

qpsetup コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

DQP0410E PUBLIC グループのサブミット設定が存在しません。

説明: PUBLIC グループに対するサブミット設定が存在しない場合には、Query Patroller を実行することはできません。

ユーザーの処置: PUBLIC グループに対するサブミット設定を再作成し、*qpstart* コマンドを発行して Query Patroller を開始してください。

DQP0412I データベース接続が再確立されました。

説明: データベース接続が再確立されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP0413E データベース接続が失われました。
Query Patroller が終了しました。

説明: データベース接続が失われました。この結果、Query Patroller が終了しました。

ユーザーの処置: データベース接続を再確立してから *qpstart* コマンドを発行して Query Patroller を再始動してください。

DQP0414E アクティブな照会があるため、Query Patroller を停止しませんでした。

説明: キューに入っている照会またはアクティブな照会があるため、Query Patroller を停止しませんでした。

ユーザーの処置: FORCE オプションを使用して、コマンドを再実行してください。アクティブな照会が強制されると、Query Patroller を再始動し、照会のリカバリが完了するまでは、これらの照会は不整合状態になります。

DQP0415I 照会の見積コストが、ユーザーのサブミッター・プロファイルに許可された最大数を超えています。

説明: 照会は保留となります。

ユーザーの処置: データベース管理者に、照会を実行または取り消すように要求してください。

DQP0416E 照会の見積コストが、システムの最大照会コストを超えています。

説明: 照会は保留となります。

ユーザーの処置: データベース管理者に、照会を実行または取り消すように要求してください。

DQP0417E 実行中の照会数がシステムで許可されている最大数に到達しました。

説明: 照会はキューに入れられます。

ユーザーの処置: 実行中の照会数が、システムで許可されている最大数まで減ると、照会が自動的に実行されません。

DQP0418E ユーザー *username* に対して実行されている照会の数が、サブミッター・プロファイルに許可された最大数を超えています。

説明: 照会はキューに入れられます。

ユーザーの処置: 実行中の照会数が、システムで許可されている最大数まで減ると、照会が自動的に実行されません。

DQP0419E 照会クラス *queryclassnumber* の下で実行中の照会の数は、この照会クラスに許可されている最大数です。

説明: 照会はキューに入れられます。

ユーザーの処置: 実行中の照会数が、照会クラスで許可されている最大数まで減ると、照会が自動的に実行されます。

DQP0420I 見積コストと現行システム・ワークロードの合計が、許可されている最大システム・ワークロードを超えています。

説明: サブミットされている照会の見積コストと現行システム・ワークロードの合計が、許可されている最大システム・ワークロードを超えています。

ユーザーの処置: 必要に応じて、システム・ワークロードの最大許可数を増やしてください。

DQP0421I 照会の見積コストが、許可されている最大システム・ワークロードを超えました。

説明: 照会の見積コストが、許可されている最大システム・ワークロードを超えているために、照会は保留となります。

ユーザーの処置: 照会を実行できるように、管理者に照会を解放するよう要求するか、または許可される最大システム・ワークロードを増やしてください。

DQP0422E DB2 Query Patroller ライセンスが見つかりません。

説明: DB2 Query Patroller が見つからないか、期限が切れています。

ユーザーの処置: 製品の完全なバージョンに対するライセンス・キーをインストールしてください。IBM 担当者または認定販売業者に連絡して、製品のライセンス・キーを取得してください。

DQP0423E Query Patroller はすでに開始済みです。

説明: Query Patroller はすでに実行中のため、開始できません。

ユーザーの処置: Query Patroller を再始動するには、`qpstop` コマンドを発行してから `qpstart` を発行してください。

DQP0424E Query Patroller の開始コマンドが出されていません。

説明: Query Patroller の開始コマンドは処理されていません。Query Patroller の停止コマンドを発行する前に、処理されている必要があります。

ユーザーの処置: Query Patroller の開始コマンド `qpstart` を発行してから、現行コマンドを再発行してください。

DQP0431E DB2 Query Patroller サービスを始動できませんでした。理由コードは *reason-code* です。

説明: 理由コードに応じた説明は次のとおりです。

1. サービスが存在しません。
2. 現行ユーザーは、サービスを開始または停止するための適切な権限を持っていません。
3. サービスは開始に失敗します。
4. サービスのログオン情報は正しくありません。

ユーザーの処置: 理由コードに応じたアクションは次のとおりです。

1. サービスが存在するかどうか確認してください。サービスが存在しない場合、手で除去されたか、DB2 Query Patroller のインストールが正常に完了しなかった可能性があります。いずれの場合でも、DB2 Query Patroller を再インストールする必要があります。
2. サービスのログオン情報が正しいことを確認し、コマンドを再発行してください。
3. コマンドを再発行してください。問題が解決しない場合は、システムシステム管理者に連絡するか、このメッセージが表示された原因について、`qpdiag.log` ファイルを参照してください。
4. サービスのログオン情報が正しいことを確認し、コマンドを再発行してください。

DQP0432E DB2 Query Patroller Java プロセスと通信できません。

説明: コマンドは、DB2 Query Patroller の Java プロセスを正常に作成しましたが、出力を入手しようとするときに通信エラーがありました。ネットワーク・エラーが存在するか、Java プロセスが異常終了した場合に、通信エラーが発生する可能性があります。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、`qpdiag.log` ファイルを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP1001E 指定された日付および時刻は無効です。

説明: 指定された日付または時間が、誤ったフォーマットになっています。

ユーザーの処置: 正しいフォーマットの日時を入力してください。

DQP1002E 指定される開始日時は、終了日時よりも前でなければなりません。

説明: 指定される開始日時は、終了日時よりも前でなければなりません。

ユーザーの処置: 終了日時よりも前に発生する開始日時を指定してください。

DQP1003E 日付の整合性に違反するため、操作が打ち切られました。 **SQLSTATE** = *sqlstate*。

説明: Query Patroller のコントロール表には、そこに含まれているデータの整合性を保護するためのトリガーがあります。そのようなトリガーは、試行されたアクションを介して活動化されています。構成の整合性の制約違反により、操作が打ち切られました。

ユーザーの処置: qpschema.sql ファイルを調べて、**SQLSTATE** のシグナルを出したトリガーを見つけてください。この調査を基に、再びトリガーがアクションを打ち切らないように、必要な調整を行ってください。

DQP1004E メモリーの割り振りエラーが発生しました。

説明: 処理を続行することのできる十分なメモリーがありません。

ユーザーの処置: システムに十分なメモリーがあるか確認してください。

システム・メモリー要件については、Query Patroller の資料を参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP1005E 時刻範囲を 2 年より大にすることはできません。

説明: 指定された時刻範囲が 2 年を超えています。

ユーザーの処置: 次の 2 年以内の時刻範囲を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP1006E SQL ステートメント *sqlstmt* が失敗しました。 **SQLCODE** *SQLCODE*。

説明: SQL ステートメントが失敗しました。

ユーザーの処置: このメッセージの原因については、

qpdiaq.log ファイルをチェックしてください。問題が解決されない場合は、IBM サポートまで連絡してください。

DQP1008E SQL データ・タイプ *datatype* はサポートされていません。

説明: SQL データ・タイプはサポートされていません。

ユーザーの処置: サポートされる SQL データ・タイプに関する情報については、Query Patroller の資料を参照してください。

DQP1009E 結果宛先が大き過ぎて表示できません。

説明: 結果がコントロール表の最大サイズ限度を超えているため、クエリー・パトローラー・センターおよび Query Patroller コマンド行プロセッサは、結果を戻すことができません。

ユーザーの処置: 照会を再サブミットして、結果が結果表に保管されるのではなく、アプリケーションに戻されることを確認してください。

照会がバックグラウンドで実行されたために結果表を生成した場合は、結果が戻されるまで待機するようサブミット設定を設定して、照会を再サブミットしてください。

照会が保留後に実行されたために、結果表が生成された場合は、照会を保留せずに再サブミットできるように、サブミッター・プロファイルの照会コストを上げるよう管理者に要求してください。

別の方法として、結果表から直接選択するよう選択することもできますが、結果表の列の名前はユーザーの照会の名前と一致せず、結果表には追加の列である A0000 が含まれます。

DQP1010E ファイル *filename* にアクセスできません。

説明: 指定されたファイルにアクセスできません。

ユーザーの処置: ファイルが存在し、ファイル許可が正しいかどうか、確認してください。

DQP1011E ユーザー *username* はこのコマンドの発行を許可されていません。

説明: ユーザーが必要な許可レベルを所有していないため、コマンドを実行できません。

ユーザーの処置: 必要な許可については、Query Patroller の資料をチェックしてください。ユーザーに必要な権限を付与するようデータベース管理者に要求し

て、コマンドを再発行してください。

DQP1012E ファイル *filename* は存在しません。

説明: 指定されたファイルが存在しません。

ユーザーの処置: ファイルが存在するかどうか確認してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP1023E ファイル *filename* へ保管中に、エラーが発生しました。

説明: このメッセージが表示される原因として、次のものがあります。

- ファイルに、正しいファイル許可がない。
- ファイル名が、ファイル・システム規則に準拠していない。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- ファイル許可を確認してください。
- 正しいファイル名を指定してください。

DQP1024W 照会クラスの作成、変更、除去は、**Query Patroller** サーバーが再始動されるまで反映されません。

説明: 照会クラスの作成、変更、または削除を行ったところでは、これは、Query Patroller サーバーによる詳細の処理方法の動作を変更します。この動作の変更は、Query Patroller が次回開始されるまで発生しません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーが実行中のコンピューターで、qptest、qpstart の順でコマンドを実行し、Query Patroller を再始動するよう管理者に要求してください。

DQP1025W 更新は、**Query Patroller** サーバーの再始動まで反映されません。

説明: 設定は、Query Patroller サーバーの再始動まで反映されません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、変更を反映させてください。

DQP1026W 更新が正常に行われました。ただし、**Query Patroller** サーバーとの通信は失敗しました。

説明: 更新が正常に行われました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP1028E ネットワークの操作が妥当な時間内に完了しませんでした。コマンドを完了することができません。

説明: ネットワークの操作が妥当な時間内に完了しませんでした。コマンドを完了することができません。

ユーザーの処置: ネットワークが混んでいない時に、コマンドを再実行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、ネットワーク・エラーがないかどうか分析してください。

DQP2020E パス *path* が無効です。

説明: 指定されたパスが無効です。

ユーザーの処置: パスを確認し、コマンドを再実行してください。

DQP2101I ユーザー *username* の演算子プロファイルは正常に追加されました。

説明: このユーザーの演算子プロファイルが作成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2102I グループ *groupname* の演算子プロファイルが正常に追加されました。

説明: このグループの演算子プロファイルが作成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2103I ユーザー *username* の演算子プロファイルが正常に更新されました。

説明: 既存のユーザー演算子プロファイルが更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2104I グループ *groupname* の演算子プロファイルが正常に更新されました。

説明: 既存のグループ演算子プロファイルが更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2105I ユーザー *username* の演算子プロファイルが正常に除去されました。

説明: ユーザーの演算子プロファイルが除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2106I グループ *groupname* の演算子プロファイルが正常に除去されました。

説明: グループの演算子プロファイルが除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2107E ユーザー *username* の演算子プロファイルが存在しません。

説明: ユーザーの演算子プロファイルが定義されていません。

ユーザーの処置: 指定されたユーザー名が正しいことを確認して、コマンドを再発行してください。

DQP2108E グループ *groupname* の演算子プロファイルが存在しません。

説明: グループの演算子プロファイルが定義されていません。

ユーザーの処置: 指定されたグループ名が正しいことを確認して、コマンドを再発行してください。

DQP2109E ユーザー *username* の演算子プロファイルはすでに存在しています。

説明: ユーザーの演算子プロファイルはすでに存在しています。

ユーザーの処置: 指定されたユーザー名がユニークであることを確認して、コマンドを再発行してください。

DQP2110E グループ *groupname* の演算子プロファイルはすでに存在しています。

説明: グループの演算子プロファイルはすでに存在しています。

ユーザーの処置: 指定されたグループ名がユニークであることを確認して、コマンドを再発行してください。

DQP2111I 演算子プロファイルが定義されていません。

説明: 表示する演算子プロファイルが定義されていません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2112I 照会クラス *queryclassID* は正常に追加されました。

説明: 新規照会クラスが定義されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2113I 照会クラス *queryclassID* は正常に更新されました。

説明: 既存の照会クラスが更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2114I 照会クラス *queryclassID* は正常に除去されました。

説明: 照会クラスが除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2115E 照会クラス *queryclassID* は存在しません。

説明: 照会クラスが存在しません。

ユーザーの処置: 指定された照会クラス ID が正しいことを確認して、コマンドを再発行してください。

DQP2116E 同じ最大照会コスト値を持つ照会クラスがすでに存在します。

説明: 照会クラスがすでに存在します。

ユーザーの処置: まだ存在しない照会クラスを指定して、コマンドを再実行してください。

DQP2117I 照会クラスが定義されていません。

説明: 既存の照会クラスはありません。リストにも情報がありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2118I ユーザー *username* のサブミッター・プロファイルが正常に追加されました。

説明: このユーザーに対する新規ユーザー・サブミッター・プロファイルが作成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2119I グループ *groupname* のサブミッター・プロフィールが正常に追加されました。

説明: このグループの新規グループ・サブミッター・プロフィールが作成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2120I ユーザー *username* のサブミッター・プロフィールが正常に更新されました。

説明: 既存のユーザー・サブミッター・プロフィールが更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2121I グループ *groupname* のサブミッター・プロフィールが正常に更新されました。

説明: 既存のグループ・サブミッター・プロフィールが更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2122I ユーザー *username* のサブミッター・プロフィールが正常に除去されました。

説明: ユーザー・サブミッター・プロフィールが除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2123I グループ *groupname* のサブミッター・プロフィールが正常に除去されました。

説明: グループ・サブミッター・プロフィールが除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2124E ユーザー *username* のサブミッター・プロフィールが存在しません。

説明: このユーザーのサブミッター・プロフィールは存在しません。

ユーザーの処置: 既存のユーザー名を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2125E グループ *groupname* のサブミッター・プロフィールが存在しません。

説明: このグループのサブミッター・プロフィールが存在しません。

ユーザーの処置: 既存のグループ名を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2126E ユーザー *username* のサブミッター・プロフィールはすでに存在します。

説明: このユーザーのサブミッター・プロフィールは存在しています。

ユーザーの処置: ユニークなユーザー名を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2127E グループ *groupname* のサブミッター・プロフィールはすでに存在します。

説明: このグループのサブミッター・プロフィールは存在しています。

ユーザーの処置: ユニークなグループ名を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2128I サブミッター・プロフィールが存在しません。

説明: サブミッター・プロフィールがありません。リストにも情報がありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2129I Query Patroller システムの設定が正常に更新されました。

説明: Query Patroller システムの設定が正常に更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2130E 照会 *queryID* は存在しません。

説明: 指定された照会 ID は存在しません。

ユーザーの処置: 存在する照会 ID を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2131I 入力基準に一致する照会がありません。

説明: 入力基準に一致する照会がないため、リストする情報がありません。

ユーザーの処置: 必要な場合には入力基準を変更してください。

DQP2132I ユーザー *username* の新規サブミット設定が追加されました。

説明: ユーザーに対して新規ユーザー・サブミット設定が作成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2133I ユーザー *username* のサブミット設定が正常に更新されました。

説明: 既存のサブミット設定が更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2134I ユーザー *username* のサブミット設定が除去されました。このユーザーは、デフォルトのサブミット設定を使用します。

説明: 個人のサブミット設定が除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2135E ユーザー *username* のサブミット設定はすでに存在します。

説明: このユーザーのサブミット設定はすでに存在しています。

ユーザーの処置: ユニークなユーザー名を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2136I すべての結果表が正常に除去されました。

説明: すべての結果表がドロップされました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2137I ドロップする既存の結果表がありません。

説明: ドロップする結果表がありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2138I ユーザー *username* に所属する結果表が正常に除去されました。

説明: 結果表がドロップされました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2139I ユーザー *username* に属す結果表がありません。何も除去されませんでした。

説明: ドロップする結果表がありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2140I 照会 *queryID* の結果表が正常に除去されました。

説明: 結果表がドロップされました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2141I 照会 *queryID* の結果表が存在しません。何も除去されませんでした。

説明: 指定された照会の結果表が存在しません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2142E 照会 *queryID* が正しい状態ではありません。

説明: 照会は、コマンドを実行する正しい状態ではありません。

ユーザーの処置: 照会の状態を確認し、コマンドを再実行してください。

DQP2143E 無効な時間単位 *timeunit* がパラメーター *parametername* に対して指定されました。

説明: パラメーターに指定された時間単位は無効です。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

正しい訂正単位を指定し、コマンドを再実行してください。

DQP2144E 指定されたパラメーター *parametername* は正しくありません。

説明: 指定されたパラメーターは正しくありません。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。構文を訂正して、再度コマンドを発行してください。

DQP2145E パラメーター *parametername* を指定する必要があります。

説明: 指定されたコマンド構文は正しくありません。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。構文を訂正して、再度コマンドを発行してください。

DQP2146E 誤った値 *value* がパラメーター *parametername* に対して指定されました。

説明: パラメーターに対して誤った値が指定されました。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。パラメーター値を訂正して、再度コマンドを発行してください。

DQP2147E パラメーター *parametername* の値が欠落しています。

説明: 必要なパラメーター値がコマンドから欠落しています。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。必要なパラメーター値を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2148E 予期しないキーワード *keyword*、予期されているキーワードは *keyword* である可能性があります。

説明: コマンドに適用されないキーワードを検出しました。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。構文を訂正して、再度コマンドを発行してください。

DQP2149E 予期しないコマンドの終わり。予期される値には、*value* が含まれている可能性があります。

説明: コマンドで構文エラーが検出されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

構文を訂正して、再度コマンドを発行してください。

DQP2150E パラメーター *parametername* を複数回指定することはできません。

説明: パラメーター *parametername* が複数回指定されました。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。構文を訂正して、再度コマンドを発行してください。

DQP2151E パラメーター *parametername* のデフォルト値はありません。

説明: このパラメーターには、デフォルト値はありません。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。有効なパラメーター値を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2152E パラメーター *parametername* の値を NULL にすることはできません。

説明: パラメーター *parametername* の値を指定してください。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。このパラメーターの値を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2153E パラメーター *parametername* の値は、単一引用符で囲む必要があります。

説明: このパラメーターは、単一引用符で囲む必要があります。

ユーザーの処置: コマンドの実行方法の記述については、Query Patroller の資料を参照してください。パラメーター値を単一引用符で囲んで、再度コマンドを発行してください。 the command.

DQP2154E この照会は現在実行中ではなく、照会の状況は不明です。

説明: 照会は実行中ではありませんが、その最終状況を判別できません。正常に完了しているか、または失敗している可能性があります。これは、次のシナリオによって起きることのある異常な状態です。

- この照会の実行中に、Query Patroller サーバーの破損、または FORCE オプションによるシャットダウン、停電による終了、またはDB2 への接続の強制切断が起きた。
- この照会が待機または実行中に、DB2 サーバーの破損、または FORCE オプションによるシャットダウン、停電による終了が起きた。
- DB2 が照会完了状況をレポートしようとする予想時間枠以内で、Query Patroller サーバーが応答しない。

ユーザーの処置: 照会状況および結果のために、照会をサブミットしたクライアント・アプリケーションを調査してください。必要であれば、照会を再サブミットしてください。

DQP2155E ユーザー *username* は一時停止されています。

説明: このユーザーは照会をサブミットしたり、Query Patroller のコマンドを実行する許可を持っていません。

ユーザーの処置: データベース管理者にこのユーザーのサブミッター・プロファイルを再活動化するよう要求してください。

DQP2156E Query Patroller サーバーとの通信がタイムアウトになりました。

説明: DB2 サーバーは、予想時間枠内に Query Patroller サーバーへの接続または通信ができません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーが一時的に多重定義となっているため、通常の応答時間より時間がかかりました。システムのワークロードをチェックして、Query Patroller システムが、最適なパフォーマンスのために正しく調整されていることを確認してください。必要であれば、照会を再サブミットしてください。

問題が続く場合、IBM サービス技術員に連絡してください。

DQP2157E ユーザー *username* のサブミット設定が存在しません。

説明: このユーザーに対する既存のサブミット設定がありません。

ユーザーの処置: ユーザーのサブミット設定を作成するか、既存のサブミット設定を持つユーザー名を指定してください。

DQP2158E ユーザー *username* に属するサブミット設定を自分自身にコピーすることはできません。

説明: サブミット設定を自身にコピーすることはできません。

ユーザーの処置: 別のユーザー名を指定して、コマンドを再実行してください。

DQP2159I 照会 *queryID* の照会情報が除去されました。

説明: *queryID* 照会に関連した既存の情報はありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2160I 照会 *queryID* の履歴情報が除去されました。

説明: *queryID* 照会に関連した既存の履歴情報はありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2161I すべての照会情報が除去されました。

説明: 照会情報が除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2162I すべての履歴照会情報が除去されました。

説明: 履歴照会情報が除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2163I 照会 *queryID* が取り消されました。

説明: 照会が取り消されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2164I *number* の照会の照会情報のうち、*timeunit* よりも古いものが除去されました。

説明: *timeunit* より古い照会に関連する情報が除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2165I *number* の照会の履歴照会情報のうち、*timeunit* よりも古いものが除去されました。

説明: *timeunit* より古い照会に関連する履歴情報が除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2166E 照会 *queryID* を取り消すことはできません。照会がすでに完了、取り消し、または打ち切りしています。

説明: 照会がすでに完了、取り消し、または打ち切りしているため、照会 *queryID* を取り消すことはできません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2167E 予期しないキーワード *keyword* です。コマンドの終わりを予想しました。

説明: コマンドに適用されないキーワードを検出しました。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。構文を訂正して、再度コマンドを発行してください。

DQP2168I 指定されたすべての照会の情報が除去されました。

説明: 照会情報が除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2169I 指定されたすべての照会の履歴情報が除去されました。

説明: 照会の履歴情報が除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2170I *Number* の結果表のうち、*timeunit* よりも古いものがドロップされました。

説明: *timeunit* より古いため、結果表は除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2171I **Query Patroller** は *number* の照会を処理し、履歴データが *number* の照会に対して正常に生成されました。

説明: 履歴データが識別された照会数に対して生成されました。

ユーザーの処置: 処理済みの照会の数と履歴データ用に生成された照会の数と同じであれば、アクションは必要ありません。

そうではない場合、このメッセージが表示された原因について `qpdiaq.log` を参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP2172I 照会クラスの更新には、かなり時間がかかる場合があります。現在待機中の照会および新たにサブミットされる照会は、このプロセスが完了するまで待機中になります。

説明: 照会クラスの更新には、完了までかなり時間がかかる場合があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2173E 照会クラスの更新が進行中です。この時には、別の更新を実行することはできません。

説明: 別の照会クラスの更新が進行中の場合には、照会クラスの更新を実行することができません。

ユーザーの処置: 現行の更新が完了してから、コマンドを再実行してください。

DQP2174I 照会クラスの最大数を超過しました。

説明: 照会クラスの最大数に到達しました。新規照会クラスを作成できません。

ユーザーの処置: 既存の照会クラス数を減らしてください。

DQP2175I 同じ最大照会コスト値を持つ照会クラスがすでに存在するか、照会クラスの最大数を超過しました。

説明: 照会クラスの最大数に到達しました。新規照会クラスを作成できません。

照会クラスにはユニークな照会コスト値が必要です。

ユーザーの処置: 既存の照会クラス数を減らし、すべての照会クラスにユニークな照会コスト値があることを確認してください。

DQP2176E キーワード *keyword* の長さが最大許可長を超えています。

説明: 指定されたキーワードの長さが、最大許可長を超えています。

ユーザーの処置: キーワードが有効であることを確認し、コマンドを再実行してください。

DQP2177E **PUBLIC** サブミッター・プロファイルを指定することはできません。

説明: デフォルトでは、ユーザー自身のサブミッター・プロファイルが存在する場合は、自動的に作成されます。サブミッター・プロファイルが存在しない場合は、ユーザーの所属するグループのサブミッター・プロファイルを指定することができます。

ユーザーの処置: コマンドを再実行して、グループ・サブミッター・プロファイルを指定するか、またはこの指定を行わないでください。

DQP2178E 無効なユーザー名またはパスワードが入力されました。

説明: 無効なユーザー名またはパスワードが入力されました。

ユーザーの処置: 正しいユーザー名とパスワードを指定して、コマンドを再実行してください。

DQP2179I 履歴照会情報が存在しません。

説明: 情報が存在しないため、照会の中には履歴情報を除去できないものがあります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2180W 照会 *queryid* は現在バックグラウンドで実行中です。

説明: 指定された照会はバックグラウンドで実行中です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2181E 結果セットの行数が結果表に入れることのできる行数を超えているため、照会が打ち切られました。

説明: この照会がバックグラウンドで実行されていたか、またはいったん保留されてから開放されたため Query Patroller は、この照会に対する結果表を作成しようとしていました。このサブミッターのサブミット設定は、イベントで結果セットが許可されている最大セットより大きい場合、結果が戻らないことを示しました。

照会から戻った行数が、この照会をサブミットしたサブミッター・プロファイルの指定した結果表の最大サイズを超過した場合、Query Patroller は照会を打ち切ります。

ユーザーの処置: 照会から戻る行数を減らすか、あるいは管理者または演算子に結果表で許可される行数を増やすよう要求してください。照会がバックグラウンドで実行されている場合は、照会を開放せず結果を待機するようにしてください。

DQP2182I 保留照会 *queryid* が実行されています。

説明: 指定された照会はバックグラウンドで実行中です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2183E 照会 *queryid* は、バックグラウンドで実行できません。

説明: 指定された照会はバックグラウンドで実行できません。

ユーザーの処置: バックグラウンドで実行できる照会クラスに関しては、Query Patroller の資料を参照してください。

DQP2184E *time-unit* より古い結果表は存在しません。

説明: 結果表が存在しません。何も除去されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2185I *time-value* より古い照会情報は存在しません。

説明: 照会情報が存在しないため、除去することができません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2186I *time-value* より古い履歴照会情報は存在しません。

説明: 履歴照会情報が存在しないため、除去することができません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2187W ユーザー *username* のサブミット設定が正常に追加されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: ユーザーに対する新規サブミット設定が正常に追加されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2188W ユーザー *username* のサブミット設定が正常に更新されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: ユーザーに対するサブミット設定が正常に更新されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2189W ユーザー *username* のサブミッター・プロファイルが正常に追加されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: ユーザーに対するサブミッター・プロファイルが正常に追加されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2190W ユーザー *username* のサブミッター・プロファイルが正常に更新されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: ユーザーに対するサブミッター・プロファイルが正常に更新されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2191W グループ *groupname* のサブミッター・プロフィールが正常に追加されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: グループに対するサブミッター・プロフィールが正常に追加されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2192W グループ *groupname* のサブミッター・プロフィールが正常に更新されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: グループに対する新規サブミッター・プロフィールが正常に更新されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2193W Query Patroller システムの設定が正常に更新されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: Query Patroller システムの設定が正常に更新されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2194W ユーザー *username* のサブミット設定が正常に除去されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: ユーザーに対するサブミット設定が正常に除去されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2195W ユーザー *username* のサブミッター・プロフィールが正常に除去されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: ユーザーに対するサブミッター・プロフィールが正常に除去されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2196W グループ *groupname* のサブミッター・プロフィールが正常に除去されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: グループに対するサブミッター・プロフィールが正常に除去されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2197I 照会 *queryID* は除去できません。

説明: 照会情報を除去することはできません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2198E 照会 *queryID* の結果セットを表示またはファイルできません。結果セットが存在しません。

説明: 照会の結果セットが存在しません。このエラーは、照会が SELECT ステートメントではない場合、結果セットが手動でドロップされた場合、またはクライアント・アプリケーションが結果宛先として指定される場合に生じる可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2199W 管理対象照会に対して指定されたページ期間が、結果表に対して指定されたページ期間より短くなっています。管理対象照会が削除されると、関連した結果表も削除されます。

説明: 管理対象照会に対して指定されたページ期間が、結果表に対して指定されたページ期間より短くなってい

ます。管理対象照会が削除されると、関連した結果表も削除されます。そのため、結果表のパージ期間は無視されます。

ユーザーの処置: 管理対象照会に対するパージ期間を、結果表に対するパージ期間以上になるよう設定してください。

DQP2200W 履歴照会に対して指定されたパージ期間が、管理対象照会に対して指定されたパージ期間より短くなっています。履歴照会が削除されると、関連した管理対象照会も削除されます。

説明: 履歴が削除されると、関連した管理対象照会も削除されます。そのため、管理対象照会の管理対象パージ期間は無視されます。

ユーザーの処置: 履歴照会に対するパージ期間を、管理対象照会に対するパージ期間以上になるよう設定してください。

DQP2202I 履歴分析データ生成プログラムがユーザーによって停止しました。停止の前に、**Query Patroller** は *number* の照会を処理し、履歴データが *number* の照会に対して正常に生成されました。

説明: 独立したプロセスで `GENERATE HISTORICAL_DATA STOP` コマンドが発行されました。履歴データが識別された照会数に対して生成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2203I 履歴データの生成の停止を試行中です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2204I 現時点で **Query Patroller** は履歴データを生成していません。

説明: 現時点で履歴データがデータを生成していないため、**Query Patroller** は `GENERATE HISTORICAL_DATA STOP` コマンドを発行できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2205E 照会サブミッターだけがバックグラウンドで照会を実行できます。

説明: 照会をバックグラウンドで実行するには、照会を元々実行したサブミッターでなければなりません。

ユーザーの処置: 照会をバックグラウンドで実行するこ

との詳細な記述については、**Query Patroller** の資料を参照してください。

DQP2206E パラメーター *parameter1* の値は、パラメーター *parameter2* が *parameter2-value* に設定されたときのように設定する必要があります。

説明: *parameter1* の値を設定する必要があります。

ユーザーの処置: パラメーター *parameter1* の値を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2207E コマンドが正常に完了しました。

説明: このコマンドの実行時にエラーは発生しませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2208E 指定されたコマンドの長さが、最大許可長を超えています。

説明: コマンドの長さが長すぎます。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、**Query Patroller** の資料を参照してください。コマンドを再発行してください。

DQP2209W この照会を解放すると、システムは最大システム・ワークロード・コストを超過するワークロードを実行します。

説明: 解放される照会には、システム・ワークロード・コストを超えるコストがかかります。照会が保留状態から解放されると、**Query Patroller** はキューに入れられた他の照会がなくなるまで、その照会をキューに入れていきます。

これは、この照会と同時に実行される他の照会が存在しないことを保証するものではありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2210E キュー照会は存在しなくなりました。照会の状況は打ち切られています。

説明: 照会はキューに入れられて、実行を開始しませんでした。これは、以下のいずれかのシナリオによって起きることのある異常な状態です。

- 照会が待機中に、DB2 サーバーの破損、または `FORCE` オプションによるシャットダウン、停電による終了が起きた。
- DB2 が照会状況をレポートしようとする予想時間枠以内で、**Query Patroller** サーバーが応答しない。

ユーザーの処置: 照会状況および結果のために、照会をサブミットしたクライアント・アプリケーションを調査してください。必要であれば、照会を再サブミットしてください。

DQP2211E 履歴分析データ生成プログラムが現在実行中であるため、実行することができません。

説明: 1つのデータベースで一度に実行できる履歴分析データ生成プログラムは1つだけです。

ユーザーの処置: 現在実行中の履歴分析データ生成プログラムが完了するのを待ってから、もう一度実行してみてください。または、GENERATE HISTORICAL_DATA STOP Query Patroller コマンドを発行して、現在実行中の履歴分析データ生成プログラムを停止してください。

DQP2212W 指定した照会の結果は、ファイル *filename* へ正常に保管されましたが、ユーティリティーに警告が出されました。詳しくは、メッセージ・ファイル *message-file* を参照してください。

説明: DB2 Query Patroller は、DB2 エクスポート・ユーティリティーを使用して、照会結果を保管またはファイルします。結果は正常にファイルへエクスポートされましたが、DB2 エクスポートは、警告を含むメッセージ・ファイル *message-file* を生成しました。

ユーザーの処置: 警告を見るには、メッセージ・ファイルを参照してください。DB2 エクスポート・ユーティリティーの詳細は、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DQP2213W 1つ以上の結果表を除去できませんでした。

説明: 1つ以上の結果表を除去できませんでした。このエラーは、ユーザーが不十分な権限を持っているときに発生する可能性があります。

ユーザーの処置: qpuser.log ファイルを参照して、除去できなかった結果表を探し出し、このメッセージの考えられる原因を判別してください。

DQP2214E ユーザー *username* には、照会 *queryID* の結果表を除去する権限がありません。

説明: ユーザーが十分な権限を持っていないため、結果表を除去できません。

ユーザーの処置: 結果表をドロップするときの許可要件

については、Query Patroller の資料を参照してください。

DQP2217E Query Patroller は、エラーのために履歴データを生成できませんでした。
SQLCODE = *sqlcode*。

説明: 履歴データを生成しようとしてエラーが発生しました。履歴データは生成されませんでした。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、qpdiag.log ファイルを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP2218I ユーザー *user-id* のサブミット設定が正常に追加されました。ユーザーが、サブミッター・プロファイルの選択されているグループに属していない場合、Query Patroller は、ユーザーによってサブミットされた照会を処理するときに、別のサブミッター・プロファイルを自動的に選択します。

説明: 指定したユーザーの照会サブミット設定は正常に作成され、グループ・サブミッター・プロファイルが選択されました。指定したユーザーがグループに属していないか、グループに属さなくなった場合、照会をサブミットするときに、Query Patroller は、ユーザーが属するグループからもっとも制限的なサブミッター・プロファイルを選択します。

ユーザーの処置: 照会がサブミットされるときに、ユーザーがサブミッター・プロファイルの指定されたグループに属していることを確認してください。そうではない場合、Query Patroller がもっとも制限的なサブミッター・プロファイルを選択するようにしてください。

DQP2505I データベース・パーティション・グループ *dbpartitiongroupname* は存在しません。
qpsetup コマンドが新規データベース・パーティション・グループの作成を試行します。

説明: 指定されたデータベース・パーティション・グループが存在しません。

ユーザーの処置: qpsetup コマンドが新規データベース・パーティション・グループの作成を試行します。

DQP2506E 1 つ以上の Query Patroller のコントロール表がすでに存在します。

説明: 1 つ以上の Query Patroller のコントロール表が見つかりました。 `qpsetup` コマンドを実行できません。

ユーザーの処置: コントロール表が有効で完全であるか、確認してください。 このコントロール表を、新規のコントロール表と置き換えたい場合、 `REPLACE` オプションを指定して、 `qpsetup` コマンドを再実行してください。

DQP2507E 表スペース `tablespacename` は存在しません。 `qpsetup` コマンドを実行できません。

説明: 指定された表スペース名が存在しません。

ユーザーの処置: 表スペース名が正しいことを確認して、コマンドを再発行してください。

DQP2508E スキーマ `schemaname` はすでに存在しません。 コマンド `commandname` を実行できません。

説明: 指定されたスキーマ名がすでに存在します。

ユーザーの処置: ユニークなスキーマ名を指定して、コマンドを再実行してください。

DQP2516E パッケージ `package-name` をバインドできません。理由 `reason`。

説明: パッケージをバインドしようとして失敗しました。

ユーザーの処置: この失敗が `SQLCODE` によって発生した場合、詳細についてはメッセージ・リファレンスを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP2518E Query Patroller のコントロール表が存在しません。

説明: Query Patroller のコントロール表が、指定されたデータベースでは見つかりません。

ユーザーの処置: `qpsetup` コマンドを発行して、Query Patroller のコントロール表を作成してください。

DQP2519E 結果表スペース情報を指定した `DB2QP.QP_SYSTEM` 表の更新ができませんでした。理由 = `reason`。

説明: `qpsetup` コマンドは、結果表スペースを指定した `QP_SYSTEM` 表を更新しようとしたのですが、この更新は失敗しました。

ユーザーの処置: 理由を分析して問題を生成し、コマンドを再実行してください。

問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP2520W スキーマ `schema-name` はすでに存在しません。 `qpsetup` コマンドが、このスキーマを使用して Query Patroller のコントロール表の作成を試行します。

説明: スキーマが指定されたデータベースにすでに存在します。 `qpsetup` コマンドが、このスキーマに Query Patroller のコントロール表の作成を試行します。このスキーマに存在する DB2 の表は、 `REPLACE` オプションが `qpsetup` コマンドで指定されない限り、置き換えられません。

ユーザーの処置: 既存の表に Query Patroller のコントロール表と同じ名前の表がある場合は、別のスキーマに移動してください。

DQP2521E 表スペース・コンテナ `container-path` はすでに使用中です。

説明: 指定された表スペース・コンテナのパスは、別のアプリケーションで使用されています。

ユーザーの処置: パスを確認し、コマンドを再実行してください。

DQP2522E `qpsetup` コマンドは失敗しました。このコマンドで作成されたすべてのデータベース・オブジェクトをクリーンアップしません。

説明: `qpsetup` コマンドは失敗しました。表スペース、表、関数、プロシージャなどのすべてのデータベース・オブジェクトをクリーンアップします。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、`qpsetup.log` ファイルを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP2523I **qpsetup** コマンドが正常に終了しました。

説明: qpsetup コマンドが正常に終了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2526I パッケージ *package-name* が正常にバインドされました。

説明: Query Patroller はパッケージを正常にバインドしました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2604I **Query Patroller** バージョン 7 のコントロール表のクリーンアップが正常に完了しました。

説明: Query Patroller の移行クリーンアップは正常に完了し、バージョン 7 の Query Patroller の表、ビュー、およびトリガーはすべてドロップされました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2605E **Query Patroller** バージョン 7 のコントロール表のクリーンアップが失敗しました。

説明: Query Patroller 移行ツールは、バージョン 7 の Query Patroller のデータベース・オブジェクトを移行中に、致命的エラーを検出しました。クリーンアップは正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、qpmigrate.log ファイルを参照してください。

DQP2606W **Query Patroller** バージョン 7 のコントロール表のクリーンアップが警告を出して完了しました。

説明: Query Patroller の移行クリーンアップは、バージョン 7 の Query Patroller 表を削除している間に警告を検出しました。ただし、処理は正常に完了している可能性があります。ユーザーまたはシステム構成の一部、あるいはこの両方を移行する場合にエラーが発生した可能性があります。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、qpmigrate.log ファイルを参照してください。

DQP2607I **Query Patroller** のコントロール表のバージョン 7 からバージョン 8 への移行は正常に完了しました。

説明: Query Patroller 移行ツールは正常に完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2608E **Query Patroller** のコントロール表のバージョン 7 からバージョン 8 への移行が失敗しました。

説明: Query Patroller 移行ツールは、データベースの移行中に致命的エラーを検出しました。移行は正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、qpmigrate.log ファイルを参照してください。

DQP2609W **Query Patroller** のコントロール表のバージョン 7 からバージョン 8 への移行が警告を出して完了しました。

説明: Query Patroller 移行ツールは、データベースの移行中に警告を検出しましたが、移行は正常に完了した可能性があります。ユーザーまたはシステム構成の一部、あるいはこの両方を移行する場合にエラーが発生した可能性があります。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、qpmigrate.log ファイルを参照してください。

DQP2610E 先に進む前に、**Query Patroller** を停止してください。

説明: Query Patroller 移行ツールを実行する前に、Query Patroller サーバーを停止しておく必要があります。

ユーザーの処置: qpstop コマンドを発行して、Query Patroller サーバーを停止してください。

DQP2611W ユーザー *username* のユーザー・プロファイルが移行されていません。 **SQLCODE = SQLCODE**。

説明: ユーザーは移行されていません。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、SQLCODE を参照してください。

DQP2612I Query Patroller のユーザー・プロフィールとグループ・プロファイルの移行が正常に完了しました。

説明: バージョン 7 の Query Patroller 表である IWM003_USER_PROF からのデータが、バージョン 8 の Query Patroller 表である SUBMITTER_PROFILE、OPERATOR_PROFILE、および SUBMISSION_PREFERENCES に移行されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2613W Query Patroller のユーザー・プロフィールとグループ・プロファイルの移行が完了しましたが、警告が出されました。

説明: Query Patroller 移行ツールは、バージョン 7 の Query Patroller 表である IWM003_USER_PROF から、バージョン 8 の Query Patroller 表である SUBMITTER_PROFILE、OPERATOR_PROFILE、および SUBMISSION_PREFERENCES へ移行する間に警告を検出しました。

ユーザーの処置: 移行されていないユーザーのリストについては、qpmigrate.log を参照してください。ユーザー名の競合が予想された場合には、アクションは不要です。その他の場合は、データを手動で表にコピーしてください。

DQP2614W Query Patroller のユーザー・プロフィールとグループ・プロファイルの移行が失敗しました。

説明: バージョン 7 の Query Patroller 表からデータを読み取ろうとしてエラーが発生し、ユーザーおよびグループ・プロファイル情報の移行を続行できませんでした。バージョン 7 の Query Patroller 表が壊れているか、あるいはバージョン 7 の Query Patroller 表からの読み取り中に入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: バージョン 7 の Query Patroller 表のすべてが、有効なデータで存在しているかどうか確認してください。

DQP2615I Query Patroller のシステム構成の移行が正常に完了しました。

説明: バージョン 7 の Query Patroller 表である IWM003_JOB_QUEUE および IWM003_SYS_PARMS からのデータが、バージョン 8 の Query Patroller 表である QUERY_CLASS および QP_SYSTEM に正常に移行されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2616W Query Patroller のシステム構成の移行が完了しましたが、警告が出されました。

説明: Query Patroller 移行ツールは、バージョン 7 の Query Patroller 表である IWM003_JOB_QUEUE および IWM003_SYS_PARMS からバージョン 8 の Query Patroller 表である QUERY_CLASS および QP_SYSTEM へ移行している間に警告を検出しました。さまざまなジョブ・キューがすでに表に存在している可能性があります。

ユーザーの処置: 移行されていないジョブ・キューのリストについては、qpmigrate.log ファイルを参照してください。ジョブ・キューの競合が予想された場合には、アクションは不要です。その他の場合は、データを手動で表にコピーしてください。

DQP2617E Query Patroller のシステム構成の移行が失敗しました。

説明: バージョン 7 の Query Patroller 表からデータを読み取ろうとしてエラーが発生し、システム構成情報の移行を続行できませんでした。バージョン 7 の Query Patroller 表が壊れているか、あるいはバージョン 7 の Query Patroller 表からの読み取り中に入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: バージョン 7 の Query Patroller 表のすべてが、有効なデータで存在しているかどうか確認してください。

DQP2625W バージョン 7 Query Patroller ジョブ・キュー ID *queryid* の移行が失敗しました。これは同一の最大照会コスト *querycost* を持つ項目がすでに存在するためです。

説明: Query Patroller の移行は、移行されようとしている照会クラスと同一の最大コストを指定した QUERY_CLASS コントロール表で、項目を検出しました。同一の最大コストを指定した項目は許可されません。

ユーザーの処置: 最大コストの競合が予想された場合には、アクションは不要です。その他の場合、移行する照会クラスの最大コストを変更して QUERY_CLASS コントロール表へ手動で挿入してください。

DQP2627W バージョン 7 Query Patroller ジョブ・キュー ID *queueID* の移行が失敗しました。これは、0 の最大照会コストを持つためです。

説明: バージョン 7 ジョブ・キューには、0 の最大照会コストがあります。0 の最大照会コストを持つ照会

クラスに属する照会はありません。そのため、ジョブ・キューは移行されません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP3000E この照会クラスの最大照会数は、**Query Patroller** システムの照会数より小さくしなければなりません。

説明: 照会の最大数が、照会クラスおよび Query Patroller システム自体に対して設定されている可能性があります。Query Patroller システムの最大照会数より大きい数の照会クラスが存在しません。

ユーザーの処置: 照会クラスに対する最大照会数を低くするか、この照会数を増やすより先に Query Patroller システムに対する最大照会数を増やしてください。

DQP3001E この照会クラスの最大照会コストは、**Query Patroller** システムの最大ワークロード・コストよりも小さくしなければなりません。

説明: Query Patroller システムの最大ワークロード・コストより大きい数の照会クラスが存在しません。

ユーザーの処置: 照会クラスに対する最大照会コストを低くするか、この照会コストを増やすより先に Query Patroller システムに対する最大ワークロード・コストを増やしてください。

DQP3002E **Query Patroller** システムに指定された値よりも大きい最大照会数を持つ、1 つ以上の照会クラスが存在します。

説明: 照会の最大数が、照会クラスおよび Query Patroller システム自体に対して設定されている可能性があります。Query Patroller システムの最大照会数より大きい数の照会クラスが存在しません。

ユーザーの処置: Query Patroller システムの最大照会数を増やすか、システムの最大数を低くできないようにしている照会クラスの最大数を減らしてください。

DQP3003E **Query Patroller** システムの最大ワークロード・コストに指定された値よりも大きな最大照会コストを持つ、1 つ以上の照会クラスが存在します。

説明: Query Patroller システムの最大ワークロード・コストより大きい数の照会クラスが存在しません。

ユーザーの処置: Query Patroller システムの最大ワークロード・コストを増やすか、システムの最大数を低くできないようにしている照会クラスの最大コストを減らしてください。

DQP3010E **PUBLIC** サブミッター・プロファイルを除去することはできません。

説明: PUBLIC サブミッター・プロファイルを除去することはできません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP3011E **USER** サブミッター・プロファイル名を指定することができません。

説明: コマンドは、USER サブミッター・プロファイル名の指定を受け入れません。デフォルトでは、ユーザー自身のサブミッター・プロファイルが存在する場合は、自動的に作成されます。サブミッター・プロファイルが存在しない場合は、ユーザーの所属するグループのサブミッター・プロファイルを指定することができます。

ユーザーの処置: コマンドを再実行して、グループ・サブミッター・プロファイルを指定するか、またはこの指定を行わないでください。

DQP3012E **PUBLIC** サブミット設定を除去することはできません。

説明: PUBLIC サブミット設定を除去することはできません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

第 13 章 DWC メッセージ

このセクションには、データウェアハウス・センター (DWC) によって発行されるメッセージが含まれています。メッセージは番号順にリストされています。

DWC0771I メタデータが正常に発行されました。詳細はログ・ファイル *logfile* をチェックしてください。

説明: データウェアハウス・センターがインフォメーション・カタログへの公開を、ゼロの戻りコードで完了しました。公開された各項目に関する詳細は、ログ・ファイルにあります。

ユーザーの処置: 詳細はログ・ファイル *logfile* をチェックしてください。

DWC0772N メタデータの公開で、エラーまたは警告が検出されました。詳細はログ・ファイル *logfile* をチェックしてください。

説明: データウェアハウス・センターがインフォメーション・カタログへの公開を、ゼロ以外の戻りコードで完了しました。公開された各項目に関する詳細は、ログ・ファイルにあります。

ユーザーの処置: 詳細はログ・ファイル *logfile* をチェックしてください。

DWC0773N オブジェクト・リスト・ファイル *filename* が見つかりません。

説明: オブジェクト・リスト・ファイルが見つかりません。エージェントがファイルの作成に失敗した可能性があるためです。このファイルは、エージェントがプログラム・パラメーターからリストを読み取った後で生成するものです。

ユーザーの処置: エージェント・トレースを実行して、なぜオブジェクト・リスト・ファイルが作成されなかったのかを調べる、または IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC0774N オブジェクト・リスト・ファイル *filename* を読み取ることができません。

説明: ファイルが破損しているためオブジェクト・リスト・ファイルを読み取ることができません。

ユーザーの処置: ファイルが破損していないか確認する、または IBM サービス技術員にご連絡ください。

DWC0775N オブジェクト・リスト・ファイル *filename* を解析することができません。

説明: ファイルが破損しているか、あるいは正しくないフォーマットのため、オブジェクト・リスト・ファイルを解析することができません。

ユーザーの処置: ファイルの形式をチェックする、または IBM サービス担当者に連絡してください。

DWC01000I ユーザー定義プログラムは正常に実行されました。

DWC01001I ユーザーがユーザー ID *userid* でログオンしました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: ありません。

DWC01002E ログオンできませんでした。修飾子 *qualifier-name* のデータベース *database-name* にログオンするためのユーザー ID *userid* とパスワードが一致しませんでした。

説明: 指定したパスワードがご使用のユーザー ID で設定されていないので、コントロール・データベースにログオンできませんでした。

ユーザーの処置: パスワード、ユーザー ID、データベース名、および表修飾子が正しいことを検査してください。

DWC01003E ログオンできませんでした。ユーザーは修飾子 *qualifier-name* のデータベース *database-name* に、ユーザー ID *userid* ですでにログオンしています。

説明: すでにデータウェアハウス・センターにログオンしている場合は、異なるユーザー ID でデータウェアハウス・センターにログオンしてみてください。

ユーザーの処置: データウェアハウス・センターをクローズします。次に他のユーザー ID でデータウェアハウス・センターにログオンします。

DWC01004E 現在の場合パスワードが無効なため、ユーザー ID *userID* のパスワードを変更できません。

説明: 入力した旧パスワードが正しくないため、旧パスワードを新規パスワードに変更できません。

ユーザーの処置: 正しい旧パスワードを入力してください。それから、新規パスワードを入力してください。

DWC01005E 無効な関数呼び出しです。この関数は **dddApp.LogonAsUser** が呼び出されるまでは呼び出せません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC01006E ユーザー ID *userID* の データウェアハウス・センター アクセス権は取り消されました。

説明: アクセス権のないユーザー ID でデータウェアハウス・センターにログオンしようとしてしました。

ユーザーの処置: 別のユーザー ID でログオンするか、データウェアハウス・センター管理者に連絡してください。

DWC01007E ログオンできませんでした。ユーザーの指定したデータベースはウェアハウス・サーバーの使用するデータベースと一致しません。

説明: ログオンできませんでした。ユーザーの指定したデータベースはウェアハウス・サーバーの使用するデータベースと一致しません。

ユーザーの処置: 指定されたコントロール・データベースがウェアハウス・サーバーの使用するデータベースと同じであることを確認してください。

DWC02001E ODBC カーソルの操作は、カーソルが準備されていないときは使用できません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02002E データウェアハウス・センター・コントロール・データベースとの ODBC 接続が確立されていません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02003E ODBC 環境の割り振りに失敗しました (**SQLAllocEnv** が失敗しました)。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02004E ODBC 環境の解放に失敗しました (**SQLEnvFree** が失敗しました)。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02005E ODBC 接続ステートメントの割り振りに失敗しました (**SQLAllocConnect** が失敗しました)。データベース: *database-name*, ユーザー ID: *user-ID*。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02006E ODBC 接続ステートメントの解放に失敗しました (**SQLFreeConnect** が失敗しました)。

説明: 内部メッセージが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02007E ODBC ステートメントの割り振りに失敗しました (**SQLAllocStmt** が失敗しました)。ステートメントまたはデータベース: *database-name*。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02008E ODBC ステートメントの解放に失敗しました (**SQLFreeStmt** が失敗しました)。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02009E ODBC データベースへの接続に失敗しました (**SQLConnect** が失敗しました)。データベース名: *database-name*。ユーザー ID: *user-ID*。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02010E ODBC データベースからの切断に失敗しました (**SQLDisconnect** が失敗しました)。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02011E 準備済み ODBC ステートメントの実行に失敗しました (**SQLExecute** が失敗しました)。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02012E ODBC ステートメントの直接実行に失敗しました (**SQLExecDirect** が失敗しました)。ステートメント: *statement-name*。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02013E 接続済み ODBC データベースのトランザクションに失敗しました (**SQLTransact** が失敗しました)。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02014E ODBC ステートメントの準備に失敗しました (**SQLPrepare** が失敗しました)。ステートメント: *statement-type*。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02015E ODBC データの取り出しに失敗しました (**SQLFetch** が失敗しました)。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02016E ODBC データの拡張取り出しに失敗しました (**SQLExtendedFetch** が失敗しました)。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02017E ODBC パラメーターのバインドに失敗しました (**SQLBindParameter** が失敗しました)。パラメーター #: *parameter-number*。パラメーター・タイプ: *parameter-type*。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02018E ODBC 列のバインドに失敗しました (**SQLBindCol** が失敗しました)。列 #: *column-number*。データ・タイプ: *data-type*。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02019E ODBC ステートメントの設定に失敗しました (**SQLSetStmtOption** が失敗しました)。ステートメント: *Statement-name*。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC03101E 新規ターゲット表名はソース・ステップ・ターゲット表名と同じです。

説明: コピーされるステップの指定された新規ターゲット表名は、コピーされる旧ステップのターゲット表名と同じです。

ユーザーの処置: コピー・ステップ・パネルの**新規表名**フィールドで、作成される新規表名の名前をコピーされるソース・ステップとは異なる名前に変更してください。

DWC03102E RelationCollection 項目はすでに次の関係名にあります: *relation-name*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03103E ID が 'XXXXXXXXXX' の無効なターゲット・エレメントが、次の関連名の *addLocal* に渡されました: *relation-name*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03104E *object-type* オブジェクト名: *object-name* が無効です。正しく検索または作成されていない可能性があります。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03105E *object-type* オブジェクト名: *object-name* はすでにデータウェアハウス・センター・データベースにあります。

説明: データウェアハウス・センター・ユーザー・エラーまたはデータウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。ステップ、処理、セキュリティー・グループ、ユーザー、またはデータベースなどのデータウェアハウス・センター・エンティティーを作成しようとしていたときにエラーが発生した場合、その名前のエンティティーがすでに存在していた可能性があります。

新規エンティティーを作成していないときにエラーが発生した場合、データウェアハウス・センター内部エラーの可能性あります。

ユーザーの処置: 新規データウェアハウス・センター・エンティティーに名前を指定した場合、指定した名前をチェックしてその名前のエンティティーが存在していないことを確認してください。

データウェアハウス・センター内部エラーが考えられる場合は、このエラー・メッセージのすべての詳細を記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03106E *object-type* オブジェクトが **NULL ポインターを *method* 方式で渡されました。**

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03109E 無効値が **TimeStamp またはステップ・オブジェクトに見つかりました。**

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03110E *object* オブジェクト内の属性 *attribute-name* のセット演算の入力データの長さが無効です。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03112E 検索で渡されたオブジェクト・タイプが無効なデータウェアハウス・センター・オブジェクト・タイプです。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ありません。

DWC03113E AttributeLink オブジェクトの 'linkType' 演算子が正しく設定されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03114E 属性オブジェクトは 'nativeDataType'、'Database'、または 'Table/File' 属性を正しく設定していません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03115E 指定されたネイティブ・データ・タイプ: *type-name* は、データウェアハウス・センターでは ODBC に変換しません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03116E listNext() 操作の ODBC カーソルは初期化されていません。

説明: 内部エラー・メッセージです。

ユーザーの処置: IBM カスタマー・サービスに連絡してください。

DWC03117E マップ・オブジェクトの 'typeOfMap' 属性は初期化されていません。作成または更新が実行されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03118E 特殊文字 *character* はオブジェクト名には使用できません。これはデータウェアハウス・センター・トークンの区切り文字に予約されています。

説明: 指定された特殊文字で表または列を作成しようとしたが、これは SQL SELECT ステートメントに組み込めるデータウェアハウス・センター・トークン用に予約されています。この特殊文字は表または列の名前に使用できません。

ユーザーの処置: 作成している表または列名から指定された特殊文字を除去してください。

DWC03119E オブジェクト名 *object-name* の *object-type* オブジェクトは、すでに更新中です。同時にオブジェクトを更新できません。

説明: データウェアハウス・センター・エンティティー *object-name* を他のユーザーと同時に更新しようとした。

ユーザーの処置: 初期更新の完了までお待ちください。

DWC03120W 精度 *precision* とスケール *scale* を持つ列 *column-name* は、精度 *precision* とスケール *scale* を持つ *data-type* としてターゲット表に作成されます。これにより、エラーまたはデータの消失が起こる可能性があります。列 *column-name* の定義を検査してください。

ユーザーの処置: 列 *step-name* の定義を検査してください。

DWC03121E 移行レベルが無効です。データウェアハウス・センターの移行プロセスは、このレベルの製品からの移行をサポートしていません。

説明: データウェアハウス・センターのコントロール・データベースは、バージョン 7 以降からの移行をサポートしています。

ユーザーの処置: コントロール・データベースをこのリリースに移行する前に、コントロール・データベースをバージョン 7 に移行してください。

DWC03127E 使用中のオブジェクトのエラーが発生しました。

説明: 指定されたデータベースを使用するステップで使用されているセキュリティー・グループを除去しようとした。

ユーザーの処置: このデータベースの選択セキュリティー

ー・グループからこのセキュリティー・グループを除去する前に、データベースを使用するステップでのデータベースまたはセキュリティー・グループに対するリファレンスを削除または変更してください。

DWC03142E *object-type* オブジェクト: *object-name* が、データウェアハウス・センター・コントロール・データベースにありませんでした。

説明: リストからデータウェアハウス・センターをオープンしようとしていた場合、オープンしようとしていたエンティティーを削除した可能性があります。そうでなければ、内部データウェアハウス・センター・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: リストをリフレッシュし、再度エンティティーを開いてください。同じエラーが発生する場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03148E 無効なサイト・ホスト名がエージェント・サイト・オブジェクトへ渡されました。

説明: 200 文字を超える長さのエージェント・サイトのホスト名を指定しました。

ユーザーの処置: エージェント・サイト・ノートブックのホスト名フィールドで、エージェント・サイト名を 200 文字未満に短縮してください。

DWC03149E 無効な OS タイプがエージェント・サイト・オブジェクトへ渡されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03150E 無効なユーザー ID がエージェント・サイト・オブジェクトへ渡されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03151E 無効なパスワードがエージェント・サイト・オブジェクトへ渡されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03153E 表 *table-name* はターゲット表としてステップで使用されています。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03154E ターゲット表 *table-name* は入力表としてステップで使用されています。

説明: ステップでソース表として使用されているデータウェアハウス・センター表定義を削除しようとした。

ユーザーの処置: 表を削除する前に、ステップでのソース表に対するリファレンスを削除するか、他のソース表に変更してください。

DWC03156E 列オブジェクト *object-name* は、マップ・オブジェクトが入力属性として使用していません。

説明: ステップでソース列として使用されている表の列を削除しようとした。

ユーザーの処置: 列を削除する前に、列をソースとして使用するステップのソース表に対するリファレンスを削除するか、他のソース表に変更してください。

DWC03157E 列オブジェクト *object-name* は、AttributeLink オブジェクトを属性列として使用していません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03158E 列オブジェクト *object* は、
AttributeLink オブジェクトを **Attribute2**
列として使用しています。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03159E エージェント・サイトは **1** つ以上のステップで使用されているので、削除できません。

説明: 1 つ以上のステップがエージェント・サイトとして指定しているエージェント・サイトを削除しようとした。

ユーザーの処置: エージェント・サイトを削除する前に、ステップでのエージェント・サイトに対するリファレンスを削除するか、他のエージェント・サイトに変更してください。

DWC03160E ステップ *step-name* のターゲット表は他のステップへのソースとしてリンクされています。

説明: ターゲット表が他のステップへのソースとしてリンクされているステップを削除しようとした。

ユーザーの処置: ターゲット表からリンク解除すれば、このステップを削除できます。 その後もターゲット表は他のステップへのソースとして使用されます。 このためターゲット表を移植するための新しい方法を定義する必要があります。 ステップまたはステップに関連した表示を実行すれば、このターゲット表に依存するすべてのステップを表示できます。

ステップを削除する前に、ステップでのソース・ステップに対するリファレンスを削除するか、他のソース表に変更してください。 どのステップがこのステップをソースとして使用しているかを判別するには、削除したいステップを右マウス・ボタンでクリックしてから「関連表示」をクリックします。 このアクションは、このステップのデータが移植されるすべてのステップを表示するものです。

DWC03163E データウェアハウス・センター・ステップは **SecurityGroup** オブジェクトを更新セキュリティ・グループとして使用しています。

説明: 1 つ以上のステップが更新セキュリティ・グループとして使用しているセキュリティ・グループを削除しようとした。

ユーザーの処置: セキュリティ・グループを削除する前に、更新セキュリティ・グループを異なるセキュリティ・グループに変更してください。

DWC03164E **SecurityGroup** オブジェクトは データウェアハウス・センター ユーザーによって使用されています。

説明: データウェアハウス・センター・ユーザーは 1 つ以上のデータウェアハウス・センター・ユーザーを含むセキュリティ・グループを削除しようとした。

ユーザーの処置: セキュリティ・グループを削除する前に、ユーザーをセキュリティ・グループから除去してください。

DWC03165E *object-type* オブジェクトには **copy()** 方式で渡された **NULL** ポインタがあります。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03168E エージェント・サイトは **1** つ以上のデータベースで使用されているので、削除できません。

説明: 1 つ以上のターゲットまたはソース、あるいはその両方が使用しているエージェント・サイトを削除しようとした。

ユーザーの処置: このエージェント・サイトを削除する前に、このエージェント・サイトを使用するデータベースを、他のエージェント・サイトを使用するように変更してください。 エージェント・サイト・ノートブックでリソース・タブを選択し、**選択データベース**・リストからすべてのデータベースを除去してください。

DWC03169E 属性は、1 つまたは複数の主キーにより使用されているため、削除できません。

説明: 表の主キー定義の一部である列を削除しようとしています。

ユーザーの処置: この列を削除する前に、表の主キー定義からその列を除去してください。表ノートブックで、「1 次」タブを選択し、定義から列を除去してください。

DWC03170E 属性は、1 つまたは複数の外部キーにより使用されているため、削除できません。

説明: 1 つまたは複数の外部キー定義の一部である列を削除しようとしています。

ユーザーの処置: この列を削除する前に、外部キー定義からその列を除去してください。外部キー定義で表のノートブックを開きます。外部タブを選択し、定義から列を除去します。

DWC03171E 表/ファイルは 1 つ以上のステップで使用されているので、削除または名前変更できません。

説明: ステップで使用中的数据ウェアハウス・センター・プログラムに指定された表またはファイルを削除しようしました。

ユーザーの処置: 表またはファイルを削除する前に、ステップから除去してください。表ノートブックの **Usage** タブを選択して、表を使用するステップのリストを表示できます。

DWC03301E ターゲット・リソースとしてステップ - *step-name* - にアタッチされているリソースが、ウェアハウス・フラグを設定しませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03302E ソース・リソースとしてステップにアタッチされているリソースに、これがウェアハウス・リソースであることを示すウェアハウス・フラグ・セットがあります。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて

記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03303E リソースは、ソースとターゲットの両方としてセキュリティー・グループと関連しています。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03304E リソース - *resource-name* - はソースとしてセキュリティー・グループに関連付けられていますが、これがウェアハウスであることを示す **iswarehouse** フラグが設定されています。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03305E リソース - *resource-name* - はターゲットとしてターゲット・グループに関連付けられていますが、これがウェアハウスではないことを示す **iswarehouse** フラグが設定されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03306E リソース - *resource-name* - は、DB2 ストアード・プロシージャではないデータウェアハウス・センター・プログラムに関連付けられています。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03307E データ・リソースの (表) ファイル・タイプは、情報リソースが関連するデータベースのタイプに基づいて、正しく設定されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03308E エージェント・サイトがブランク名で作成または更新されます。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03309E エージェント・サイトが無効なタイプで作成または更新されます。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03310E AIX エージェント・サイトがユーザー ID を指定されずに作成または更新されます。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03311E リソース - *resource-name* - の **subDbType** セットは、指定された **dbType** には無効です。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03312E 除去されるターゲット列が、テスト・モードのステップに関連付けられており、この列を参照しています。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03466E **listNext()** 方式の選択パラメーターは初期化されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03470E 無効な **DB2** 列バッファー・リストがデータベース・オブジェクトに渡されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03471E 無効なパラメーター・ポインター・リストがデータベース・オブジェクトに渡されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03477E 初期化されていないデータベースの 'name' フィールドに、**create** または **update** が発行されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03479E 初期化されていないデータベース - *database-name* - の 'dbType' フィールドに、**create** または **update** が発行されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03480E 初期化されていないデータベース - *database* - の 'subdbType' フィールドに、**create** または **update** が発行されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03483E 更新される表に、それと関連する 1 つ以上の実動モードのステップがあります。更新は正常に終了しましたが、ステップを変更する必要があるかもしれません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03484E **passed-in** ターゲット・データベース・オブジェクトは無効です。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03485E 作成される表の 'IRName' または 'name' 属性が初期化されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03486E **passed-in** 表が無効です。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03487E データベース・タイプはこの方式を使用するローカル・ファイル、またはリモート・ファイル・タイプでなければなりません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03488E 接続ストリングのパスワードはキー入力する必要があります。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03489E データベース *database-name* は 1 つ以上のステップで使用されているので、エージェント・サイト *agent-site-name* から除去できません。

説明: エージェント・サイト選択リストからソースまたはターゲットを除去し、データベースおよびエージェント・サイトを使用する 1 つ以上のステップを除去しようとした。

ユーザーの処置: エージェント・サイトからデータベースを除去する前に、データベースに対するリファレンスを除去し、ステップからサイトを除去してください。

DWC03490E ターゲット *target* 名 *name* が、ターゲット・データベースの表名の最大文字数を超えています。表名は最長で *name-length* です。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03491E データベース **subType** が内部ターゲット表に定義されていません。 内部エラー。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03492E 新しい **KeyMap** オブジェクトを作成するためのパラメーター・リストが空です。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03493E ウェアハウス主キーは 1 つ以上のウェアハウス外部キーにより使用されているため、削除や変更ができません。

説明: 1 つまたは複数のウェアハウス外部キー定義で使用されている、ウェアハウス主キー定義を削除しようとしています。

ユーザーの処置: ウェアハウス主キー定義を削除する前に、ウェアハウス外部キー定義内にあるこのウェアハウス主キーへのリファレンスを除去してください。

DWC03501E 管理権限とユーザー *name* を持つセキュリティ・グループが他にないため、このユーザーをセキュリティ・グループ *group-name* から除去できません。

説明: 管理特権を持っているログオン・ユーザー *name* をセキュリティ・グループから除去しようとしていますが、そのユーザーは他の管理特権を持ったセキュリティ・グループに属していません。 現在管理特権を持つ (セキュリティ・グループ内で) ログオン中のユーザーは、データウェアハウス・センター・デスクトップにログオンしている間はその権限を失うことはできません。

ユーザーの処置: セキュリティ・グループからログオン・ユーザーを除去する前に、そのユーザーを管理特権を持った他のセキュリティ・グループに追加してください。

DWC03502E 現在のログオン・データウェアハウス・センター・ユーザーは削除できません。

説明: 削除できないログオン・ユーザーを削除しようとしています。

DWC03503E このユーザーを持つ管理権限のあるセキュリティ・グループが他にないため、管理権限をセキュリティ・グループ *security-group-name* から除去できません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03504E すでに既存のユーザーに割り当てられているユーザー ID を含んでいるので、ユーザー ID *user-ID* は作成できません。

説明: データウェアハウス・センターの各ユーザーは、ユニークなユーザー ID を持っている必要があります。ユニークなユーザー ID を選択してください。

ユーザーの処置: 既存のユーザー ID と競合しないユーザー ID を選択してください。

DWC03700E 無効なスケジュール・タイプが、次の **stepSchedule** を計算するために渡されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03701E 無効な曜日が **stepSchedule** の曜日設定に渡されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03702E 無効な日付が **stepSchedule** の日付設定に渡されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03703E 無効な月が **stepSchedule** の月設定に渡されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03704E 無効なスケジュール頻度が **stepSchedule** に渡されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03705E この特定の操作のステップの状況が無効です。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03706E データウェアハウス・センターの内部エラーが発生しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03707E ステップ *step-name* は子、親、または現在定義されているカスケードに再帰的です。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03708E ステップ別名に対するステップ・リレーションシップが初期化されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03709E このステップ別名のステップに関連したターゲット・データベースが初期化されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03710E **AttributeLink** へのステップ・リレーションシップが初期化されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03711E **listNext()** 方式のストレージ・バッファは初期化されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03712E **listNext()** 方式の選択パラメーターは初期化されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03713E ステップ内のターゲット・データベースが初期化されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03714E ステップ内の入力データベース・リストが初期化されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03716E `deepCopy()` 方式の入力パラメーターが設定されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03717E `deepCopy()` 方式のソース・ステップ入力パラメーターが検索されていないか、まだ作成されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03719E 渡されたオブジェクトはトークンではありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03726E ステップ `step-name` は一時ターゲットを持ち、かつスケジュールまたはカスケードのいずれかを持つため、プロモートできません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03729E ステップ - `step-name` - には関連した出力データベースがありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03730E ステップ - `step-name` - にエージェント・サイトが割り当てられていません。

説明: データウェアハウス・センター・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エージェント・サイトを割り当てて、再プロモートしてください。

DWC03735E ステップ `step-name` には、ソース表またはリテラルから抽出された列が少なくとも 1 つは必要ですが、これがありません。

説明: ステップを作成しようとしています。

ユーザーの処置: ステップ・ノートブックの列マッピング・タブに戻って、少なくとも 1 つの列を追加してください。

DWC03737E ステップ `name` には、ソース表またはリテラルからプルされた列が少なくとも 1 つは必要ですが、これがありません。

説明: データウェアハウス・センターがターゲット表を作成するように指定するステップをテスト状況にプロモートしようとしています。ターゲット表には、ソース列から抽出された列、またはリテラルである列が定義されていません。

ユーザーの処置: ソース列から引き出されるか、またはリテラルである列を少なくとも 1 つターゲット表に追加する必要があります。

DWC03743E 表 `table-name` に、関連した列がありません。

説明: このエラーは、「テスト」にプロモートしようとした場合にターゲット表にターゲット表定義に定義済みの列がないときに起きる可能性があります。

ユーザーの処置: 「ターゲット表」ノートブックの「プロパティ」に進んで、ターゲット表に適切な列数を定義していることを確認してください。ターゲット表定義が「ステップ」ノートブックによってデフォルト・ターゲット表として作成された場合は、ソースから列を選択したことを確認します。

DWC03744E ステップ - データベースに入力属性がありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03745E ステップ - データベースに出力属性がありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03746E ステップ - プログラム関数にプログラム名がありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03747E ステップ *-step-name* - プログラム関数に関数名がありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03751E ステップ *step-name* の「最大エディション数」値が 0 に設定されています。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03754E 無効なマップ・タイプが検出されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて

て記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03755E ステップ: *step-name* には次の名前の子ステップがあります: *step-name* これは開発中です。

説明: 開発状況のソース (子) ステップを 1 つ以上持つステップを、テスト状況にプロモートしようとしています。

ユーザーの処置: 親ステップのすべてのソース (子) ステップをテスト状態にプロモートさせないと、親ステップをテスト状態にプロモートできません。

DWC03756E ステップ: *step-name* には次の名前の子ステップがあります: *step-name* これは実動状態ではありません。

説明: まだ開発またはテスト状況のソース (子) ステップを 1 つ以上持つステップを、実動状況にプロモートしようとしています。

ユーザーの処置: 親ステップのすべてのソース (子) ステップを実動状態にプロモートさせないと、親ステップを実動状態にプロモートできません。

DWC03757E ステップ: *step-name* には次の名前の子ステップがあります: *step-name* これは開発状態ではありません。

説明: テストまたは実動状況のターゲット親ステップを 1 つ以上持つステップを、開発状況にデモートしようとしています。

ユーザーの処置: このステップをソースとして使用するステップを開発状況にデモートしないと、ステップを開発状況にデモートできません。

DWC03758E ステップに開発またはテスト状況があるときにのみ、「最大エディション数」フィールドを変更できます。

説明: ステップのエディション数を変更しようとしています。このステップに実動状況があるため、これはできません。

ユーザーの処置: ステップをテストまたは開発状況にデモートします。次にステップのエディションを変更します。

DWC03759E ステップが開発状態の場合、アトミック・フラグ・フィールドだけを変更できます。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03765E ステップ: *step-name* には次の名前の親ステップがあります: *parent-step-name* これは実動状態ではありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03766E ステップ: *step-name* を活動化できません。スケジュールも、カスケードも、要求機能もありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03767E ステップ: *name* の **SELECT** ステートメントは、データウェアハウス・センター・トークン '&cur_edtn.ddd.ttt' を参照しますが、'ddd' または 'ttt' が無効です。

説明: データウェアハウス・センター・トークン &cur_edtn.ddd.ttt (ddd の値はターゲット・データベース名で、ttt の値はターゲット表名) が指定されましたが、これは無効です。データウェアハウス・センターは ddd のデータベース名のウェアハウスで、ttt のターゲット表名を持つステップを見つけられませんでした。&cur_edtn.ddd.ttt トークンは指定されたターゲット表のある指定されたデータベース内で、ステップの現在のステップ・エディション番号を獲得します。

ユーザーの処置: ddd または ttt、あるいはその両方の値を、ステップに関連したデータウェアハウス・センター・ウェアハウス内のターゲット表と一致するように変更してください。

DWC03768E ステップ: *step-name* の **SELECT** ステートメントは、データウェアハウス・センター・トークン '&cur_edtn.ddd.ttt' を参照しますが、'ddd.ttt' に関連するステップのエディションがありません。

説明: データウェアハウス・センター・トークン &cur_edtn.ddd.ttt (ddd の値はターゲット・データベース名で、ttt の値はターゲット表名) が指定されました。このターゲット・データベース内のターゲット表と関連したステップに、ターゲット表に保管されたエディションがありません。&cur_edtn.ddd.ttt トークンは指定されたターゲット表のある指定されたデータベース内で、ステップの現在のステップ・エディション番号を獲得します。

ユーザーの処置: ddd または ttt、あるいはその両方の値を、1 つ以上のエディションを指定するステップに関連したデータウェアハウス・センター・ウェアハウス内のターゲット表と一致するように変更してください。また、「進行中の作業」ウィンドウで、ステップが実行されていることを検査してください。

DWC03774E ターゲット・リソースが **AS/400 V3.1** で **SQL ALTER** コマンドをサポートしていないため、ステップ *step-name* に新規列を追加できません。

説明: データウェアハウス・センター・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 表が作成された後に列を追加しないでください。新規列を使用して、もう一度表を作成してください。

DWC03775E 作成するための新しいプログラム・パラメータのリストが空です。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03776E データウェアハウス・センター・プログラムはステップで使用されているため、削除できません。

説明: 1 つ以上のステップで使用されているデータウェアハウス・センター・プログラムを削除しようとした。

ユーザーの処置: プログラム・ノートブックの使用法タブを使用して、どのステップがこのデータウェアハウ

ス・センター・プログラムを使用しているかを判別します。このデータウェアハウス・センター・プログラムを削除する前に、ステップ内のデータウェアハウス・センター・プログラムに対するリファレンスを変更してください。

DWC03777E データウェアハウス・センター・プログラムは 1 つ以上のステップでカスケード・データウェアハウス・センター・プログラムとして使用されているため、削除できません。

説明: 1 つ以上のステップで条件付きカスケード・プログラムとして使用されているデータウェアハウス・センター・プログラムを削除しようとした。

ユーザーの処置: プログラム・ノートブックの使用法タブを使用して、どのステップがこのデータウェアハウス・センター・プログラムを使用しているかを判別します。この**ユーザー定義**プログラムを削除する前に、ステップ・ノートブックの「スケジュール」ページにあるプログラムをクリックして、ステップ内のデータウェアハウス・センター・プログラムに対するリファレンスを削除または変更してください。

DWC03778E データウェアハウス・センター・デフォルト・データウェアハウス・センター・プログラム・グループを削除できません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03779E データウェアハウス・センター・プログラム・グループは 1 つ以上のデータウェアハウス・センター・プログラムを含んでいるために削除できません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03780E データウェアハウス・センター・プログラム・パラメーター・コマンド・ストリングで選択されたデータウェアハウス・センター・トークンが無効です。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03783E プログラム関数 - *progfunc-name* - 関連オブジェクトがセットアップされていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03784E この データウェアハウス・センター プログラム - *prog-name* - に関連したプログラム・タイプがセットアップされていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03786E ステップ *step-name-1* には、テストまたは実動状態になっていないステップ *step-name-2* と関連した、ウェアハウス主キーを参照するウェアハウス外部キーがあります。

説明: 開発状況のあるステップに関連したウェアハウス主キーを参照するステップをプロモートしようとした。ウェアハウス主キーに関連したステップを最初にプロモートしなければなりません。

ユーザーの処置: ウェアハウス主キーに関連したステップを、テストまたは実動状況にプロモートしてください。次にウェアハウス主キーを参照するウェアハウス外部キーを持つステップをプロモートしてください。

DWC03787E ステップ *step-name-1* には、開発状態になっていないステップ *step-name-2* と関連した、1 つ以上のウェアハウス外部キーを参照するウェアハウス主キーがあります。

説明: 親ステップをデモートする前に、子ステップをデモートしようとした。

ユーザーの処置: ウェアハウス外部キーのあるステップを開発にデモートします。次にウェアハウス主キーを持つステップをデモートしてください。

DWC03788E ステップ *step-name* に定義されているウェアハウス主キーは 1 つ以上のウェアハウス外部キーにより使用されているため、削除や変更ができません。

説明: 1 つまたは複数のウェアハウス外部キーにより参照されているウェアハウス主キーは、削除または変更することができません。

ユーザーの処置: ウェアハウス主キーを参照するウェアハウス外部キーのあるステップを、開発状態にデモットします。またはこれらのステップから、ウェアハウス外部キーを除去します。これによりウェアハウス主キーを削除したり変更することができます。

DWC03791E ステップ *step-name* は、パラメーター・テキスト・フィールドにブランク・データのあるパラメーターを持つデータウェアハウス・センタープログラムを使用しています。これはプロモートの前に提供されている必要があります。

説明: 未定義のパラメーターを含むプログラム定義を参照するステップをプロモートすることはできません。

ユーザーの処置: 未定義パラメーターの定義を行ってください。これを行うには、プログラムのパラメーター・リストを開いて、ブランク・フィールドのパラメーターを定義します。特定のステップでプログラムを実行するようにパラメーターを定義するには、ステップのステップ・ノートブックを使用してパラメーター・リストにアクセスしてください。プログラムの定義のパラメーターを定義するには、パラメーター・リストにアクセスします。

DWC03792E **IN** および **NOT IN** の各比較値は単一引用符で囲む必要があります。つまり、**abc and def** は **'abc'**、**'def'** のようになっている必要があります。正しい値を再入力してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、**in** または **not in** 演算子には無効です。以下の比較演算子に入力されるすべての文字列値は、単一引用符で囲まなければならない。

- **in**
- **not in**
- **like**
- **not like**
- **between**
- **not between**

有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウス・センター・オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドに有効な文字列を再入力してください。

DWC03793E **IN** および **NOT IN** の比較値は、値の終了の単一引用符とコンマの区切り文字との間に、非ブランク文字を含むことはできません。つまり、**abc and def** は **'abc'**、**'def'** のようになっている必要があります。正しい値を再入力してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、**in** または **not in** 演算子には無効です。値の終了の引用符とコンマの間に非ブランク文字を含むことはできません。このメッセージは以下の比較演算子に適用されます。

- **in**
- **not in**
- **between**
- **not between**

有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウス・センター・オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドに有効な文字列を再入力してください。

DWC03794E **IN** および **NOT IN** の比較値は、コンマの区切り文字と次の値の開始の単一引用符との間に、非ブランク文字を含むことはできません。つまり、**abc and def** は **'abc'**、**'def'** のようになっている必要があります。正しい値を再入力してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、**in** または **not in** 演算子には無効です。値の開始の引用符とコンマの間に非ブランク文字を含むことはできません。有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウス・センター・オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドに有効な文字列を再入力してください。

DWC03795E 比較値 **IN** および **NOT IN** は、**'abc'**、**'def'** のようなパラメーターが必要です。正しい値を再入力してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、**in** または **not in** 演算子には無効です。値が引用符で囲まれていない

か、または終了の単一引用符が欠落している可能性があります。以下の比較演算子に入力されるすべてのストリング値は、単一引用符で囲まなければなりません。

- **in**
- **not in**
- **like**
- **not like**
- **between**
- **not between**

有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウス・センター・オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドの値を引用符で囲むか、あるいは値の終了の単一引用符を追加する必要があるかもしれません。IN および NOT IN 比較演算子を使用する値の正しい形式については、データウェアハウス・センター・オンライン・ヘルプを参照してください。

DWC03796E 値フィールドの値に開始単一引用符がありません。 **BETWEEN** および **NOT BETWEEN** の各比較値は単一引用符で囲む必要があります。たとえば、**abc and def** は **'abc', and 'def'** のように入力します。正しい値を再入力してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、開始単一引用符が欠落しています。以下の演算子に入力されるすべてのストリング値は、単一引用符で囲まなければなりません。

- **in**
- **not in**
- **like**
- **not like**
- **between**
- **not between**

有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウス・センター・オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドの値に開始単一引用符を追加してください。

DWC03797E 値フィールドの値に終了単一引用符がありません。 **BETWEEN** および **NOT BETWEEN** の各比較値は単一引用符で囲む必要があります。たとえば、**abc and def** は **'abc', and 'def'** のように入力します。正しい値を再入力してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、終了単一引用符が欠落しています。以下の演算子に入力されるすべてのストリング値は、単一引用符で囲まなければなりません。

- **in**
- **not in**
- **like**
- **not like**
- **between**
- **not between**

有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウス・センター・オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: **Values** フィールドの値に終了単一引用符を追加してください。

DWC03798E **BETWEEN** および **NOT BETWEEN** の比較値は、値の終了の単一引用符と **AND** 区切り文字との間に、非ブランク文字を含むことはできません。たとえば、**abc and def** は **'abc' and 'def'** のように入力します。正しい値を再入力してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、**between** または **not between** 演算子には無効です。値の終了の引用符と **and** 区切り文字の間に非ブランク文字を含むことはできません。有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウス・センター・オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドに有効なストリングを再入力してください。

DWC03799E **BETWEEN** および **NOT BETWEEN** の比較値は、**AND** 区切り文字と次の値の開始の単一引用符との間に、非ブランク文字を含むことはできません。たとえば、**abc and def** は **'abc' and 'def'** のように入力します。正しい値を再入力してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、**between** または **not between** 演算子には無効です。**and** 区切り文字と次の値の開始の引用符の間に非ブランクを含むことはできません。有効な値の詳細については、「ロケール」

についてのデータウェアハウス・センター・オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドに有効なストリングを再入力してください。

DWC03800E 比較値 BETWEEN および NOT

BETWEEN は、最後の値の後に非空白文字を持つことはできません。値フィールドの最後の値の終了の引用符に続くエクストラ非空白文字を削除してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、**between** または **not between** 演算子には無効です。値フィールドの最後の値の後に非空白文字を含むことはできません。有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウス・センター・オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドの最後の値の終了引用符に続く非空白文字をすべて削除してください。

DWC03801E ステップを作成中であるか、'name' を指定せずに更新しています。ステップにはユニークな名前を指定する必要があります。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03802E ステップ *step-name* を作成中であるか、無効な値の **stepType** で更新中です。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03803E ステップを作成中であるか、不正に設定された **atomicFlag** で更新しています。ステップに同じターゲット・データベースとソース・データベースがあるか、または **atomicFlag** が **FALSE** になっていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて

て記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03804E 作成中または更新中のステップ *step-name* は、ウェアハウスにもサブジェクトにも関連していません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03805E 作成中または更新中のステップ *step-name* は、ステップのウェアハウスにないターゲット表と関連しています。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03806E 作成中または更新中のステップ *step-name* は、ステップのウェアハウスにないターゲット表と関連しています。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03807E 作成中または更新中のステップ *step-name* はソース・リソースと関連していますが、ソース表がステップのソース・データベースと関連していません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03808E 作成中または更新中のステップ *step-name* はソース・リソースと関連していますが、関連するソース表がありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて

て記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03809E 作成中または更新中のステップ *step-name* は、他のステップのターゲット表であるソース表と関連していますが、その子ステップが子ステップ・リレーションシップになっていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03810E 作成中または更新中のステップ *step-name* に、関連する更新セキュリティー・グループがありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03811E データウェアハウス・センター・プログラム・グループに、作成または更新用の名前がありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03812E データウェアハウス・センター・プログラム定義に、作成または更新用の名前がありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03813E データウェアハウス・センター・プログラム定義に、作成または更新用に指定されたプログラム名がありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03814E データウェアハウス・センター・プログラム定義 *definition-name* は、プログラム・グループと関連していません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03815E データウェアハウス・センター・インスタンス *instance-name* は、ステップと関連していません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03816E データウェアハウス・センター・インスタンス *instance-name* は、プログラム定義と関連していません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03817E データウェアハウス・センター・プログラム・パラメーターを、名前を指定せずに作成または更新しています。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03818E データウェアハウス・センター・プログラム・パラメーター *parameter-name* は、プログラム関数、三角関数、または集約関数と関連しています。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03819E *function-name* と呼ばれる、プログラム関数、三角関数、または集約関数と関連したデータウェアハウス・センター・プログラム・パラメーターは、ユニークな配列がありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03820E 指定の名前なしでサブジェクトを作成または更新しています。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03821E 開発状態にデモート中のステップに、テストまたは実行状態の他のステップが使用されているターゲット表があります。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03826E **stepSchedule** - 2 つのスケジュールを等化中に属性ミスマッチが発生しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03827E **stepSchedule** - 自身への無効なコピーが試行されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて

て記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03828E **stepSchedule** - 自身からの無効なコピーが試行されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03829E **stepSchedule** - 無効な値が分設定で指定されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03830E **stepSchedule** - 無効な値が秒設定で指定されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03831E **stepSchedule** - 無効な値が時間設定で指定されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03832E **stepSchedule** - 無効な値が年設定で指定されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03834E ログオン・ユーザーがデータウェアハウス・センター内で初期化されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03835E サブジェクトは 1 つ以上の処理を含んでいるために削除できません。

説明: 1 つ以上の処理を含んでいるサブジェクトを除去しようとしています。サブジェクトを除去するには、サブジェクトから処理を除去する必要があります。

ユーザーの処置: サブジェクトを除去するには、サブジェクトから処理を除去してください。

DWC03836E オブジェクトは関連するステップがあるために除去できません。

説明: 関連するステップを持つ特定のオブジェクトを除去しようとしています。オブジェクトを除去するには、関連するステップを除去する必要があります。

ユーザーの処置: オブジェクトを除去するには、オブジェクトからステップを除去してください。

DWC03837E このステップをソースとして使用する、実動状態の既存のステップがあります。ターゲットの除去が完了していません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC03838E この表をソースとして使用する既存のステップがこの処理内に存在します。ソース表は除去されませんでした。

説明: 処理から表を除去しようとしたが、この表をソース表として使用しているステップが処理内に存在します。処理から表を除去する前に、まず表とステップ間のデータ・リンクを除去する必要があります。

ユーザーの処置: 処理から表を除去するには、表とステップ間のデータ・リンクを除去してください。

DWC03839E この表をターゲットとして使用する既存のステップがこの処理内に存在します。ターゲット表は除去されませんでした。

説明: 処理から表を除去しようとしたが、処理内の 1 つ以上のステップがこの表をターゲット表として使用しています。

ユーザーの処置: 処理から表を除去する前に、この表とステップ間のデータ・リンクを除去してください。

DWC03840E このステップにアタッチされているソースまたはターゲット表が、この処理に関連する表ではありません。表はアタッチされませんでした。

説明: ステップにアタッチしようとしているソースまたはターゲット表が、この処理に関連していません。

ユーザーの処置: ステップにアタッチしようとしているソースまたはターゲット表が、この処理に関連していません。

DWC03846E ステップが現在実行中であるため、ステップの名前を変更できません。

説明: テストまたは実動モードのステップの名前を変更しようとしたが、そのステップは現在実行中です。

ユーザーの処置: ステップが実行されていないときにステップの名前を変更してください。WIP を使用して、ステップが現在実行されているかどうかを判断することができます。

DWC05001E 新規への呼び出しが失敗しました。メモリー名: *memory-name*。試行されたサイズ: *attempted-size*。

説明: 内部エラーが発生しました。メモリー不足です。

ユーザーの処置: オープンしているウィンドウまたはアプリケーションをクローズして、メモリーを解放してください。

DWC05002E 無効なコマンド行引き数を受信しました。

説明: 無効なコマンド行引き数を持つデータウェアハウス・センター・プログラムを実行しようとした。

ユーザーの処置: データウェアハウス・センター・プログラムに正しくない数のコマンド行引き数を入力しました。コマンドを再入力してください。

DWC05003E 無効なログ・メッセージ・タイプを受信しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC05004E ログ・サーバーがデータウェアハウス・センター・ライセンス・ファイル *file-name* をオープンできませんでした。ウェアハウス・サーバーを開始できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター・ライセンス・ファイルは損傷しているか破壊されています。

ユーザーの処置: データウェアハウス・センターを再インストールしてください。

DWC05005E ログ・サーバーが データウェアハウス・センター ライセンス・ファイル *file-name* を読み取れませんでした。データウェアハウス・センター サーバーを開始できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター・ライセンス・ファイルは損傷しているか破壊されています。

ユーザーの処置: データウェアハウス・センターを再インストールしてください。

DWC05006E データウェアハウス・センター・ライセンス・ファイルの有効期限が切れています。ウェアハウス・サーバーを開始できませんでした。お客様の IBM 販売担当者に連絡してください。

説明: データウェアハウス・センター・ライセンス・ファイルの有効期限が切れています。

ユーザーの処置: お客様の IBM 販売担当者に連絡してください。

DWC05007E 重要: ご使用の データウェアハウス・センター ライセンス・ファイルは *number-of* 日後に有効期限が切れます (ウェアハウス・サーバーが開始されます)。お早めに、お客様の IBM 販売担当者に連絡してください!

説明: ご使用のデータウェアハウス・センター・ライセンスの有効期限が切れます。

ユーザーの処置: お客様の IBM 販売担当者に連絡してください。

DWC05008E プログラムが *db2licm.dll* ファイルをロードできませんでした。

説明: *db2licm.dll* ファイルが見つかりません。

ユーザーの処置: *db2licm.dll* が正しい DB2 パス (SQLLIB¥BIN) にあることを確認してください。

DWC05009E *LicRequestAccess* のエントリー・ポイントが *db2licm.dll* ファイルに見つかりません。

説明: *db2licm.dll* ファイルが破壊されている可能性があります。

ユーザーの処置: *db2licm.dll* ファイルに問題がないことを確認してください。

DWC05010E サーバー、ロガー、またはエージェント・プログラムを開始できません。

説明: ライセンスの有効期限が切れたか、コマンド (エージェント) を実行する権限がないか、プログラムにライセンスがありません。

ユーザーの処置: 適切なライセンスがあることを確認してください。

DWC06001E *Receive()* または *HaltReceive()* が *InitializeReceive()* を呼び出す前に試行されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC06002E 新規への呼び出しが失敗しました。メモリー名: *name*。試行されたサイズ: *size*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて

て記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC06003E InitializeSend() を呼び出す前に、Send() が試行されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示しません。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC06004E ソケット・メッセージに指定されたバイト数が無効です。 予期された受信カウント (バイト単位): *count*。 実際の受信カウント (バイト単位): *count*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示しません。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC06005E 送信されるデータ・バッファーが長すぎます。 許可される長さ (バイト単位): *length*。 要求された長さ (バイト単位): *length*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示しません。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC06100E TCP/IP 環境を初期化できません。

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェア自体が初期化できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示しません。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06101E ソケット・クリーンアップ・ルーチンが失敗しました。

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェア自体が終了できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示しません。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06102E ソケット関数 `socket()` の呼び出しに失敗しました。

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェア自体が終了できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示しません。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06103E ソケット関数 `bind()` の呼び出しに失敗しました。 ポート番号: *port-number*。

説明: 次のエラーのいずれかが発生していると考えられます。

- ネットワーク・サブシステムが失敗した。
- データウェアハウス・センターが使用しようとしたポート番号がすでに他で使用されているか、使用可能な空きポートがもうないありません。
- 多すぎる TCP/IP 接続がすでに存在する。バッファーが不足している。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示しません。

ユーザーの処置: ローカル・ポートのすべてが使用されているわけではないことを確認してください。TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確

認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再実行してください。

DWC06104E ソケット関数 **listen()** の呼び出しに失敗しました。インスタンス・カウント:
count.

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェア自体が終了できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再実行してください。

DWC06105E ソケット関数 **connect()** の呼び出しに失敗しました。宛先ホスト: *hostname*。宛先ポート: *port-ID*。再試行カウント: *count*。再試行インターバル: *interval*。

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアが、ECONNREFUSED 以外のエラーで失敗し、パートナー処理に接続できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再実行してください。

DWC06106E ソケット関数 **connect()** の繰り返し呼び出しに失敗しました。このメッセージを送信できませんでした。宛先ホスト: *hostname*。宛先ポート: *port-ID*。接続試行数: *amount*。これは、パートナー処理がロードされていないか、または前提ポートの **listen** がないことを意味します。

説明: データウェアハウス・センターがパートナー処理に TCP/IP 接続を確立できなかったか、エージェント処理が異常終了したか、データウェアハウス・センターのライセンスの有効期限が切れています。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバー、ロガー、およびリモート・エージェント・デーモン (適用できる場

合) が、サービスで実行されていることを確認してください。またご使用のデータウェアハウス・センター・ライセンスの有効期限が切れている場合、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC06107E ソケット関数 **accept()** の呼び出しに失敗しました。

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアが、パートナー処理からデータを受け入れることができません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再実行してください。

DWC06108E メッセージ長バイトの受信を試みているときに、ソケット関数 **recv()** の呼び出しに失敗しました。予期された長さ (バイト単位): *length*。

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアがパートナー処理から、最初の 4 バイトのデータを受け取っている間に打ち切りされました。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再実行してください。

DWC06109E メッセージ・データの受信を試みているときに、ソケット関数 **recv()** の呼び出しに失敗しました。予期された長さ (バイト単位): *length*。

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアが、パートナー処理からメッセージ・データを受け取っている間に打ち切りされました。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再実行してください。

DWC06110E ソケット関数 `send()` の呼び出しに失敗しました。宛先ホスト: *hostname*, 宛先ポート: *port-ID*, メッセージ長 (バイト単位): *length*.

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアがパートナー処理から、最初の 4 バイトのデータを受け取っている間に打ち切りされました。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06111E ソケット関数 `closesocket()` の呼び出しに失敗しました。

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアはパートナー処理へ接続したソケットを閉じることができません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06112E ソケット関数 `getsockname()` の呼び出しに失敗しました。ポート番号: *port-number*.

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアは現行ソケットのアドレスを入手できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06113E ソケット関数 `gethostbyname()` の呼び出しに失敗しました。ホスト名: *hostname*.

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアは記号ホスト名を検索できません。 `etc/hosts` ファイルが存在していることを確認してください。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

ドメイン名 (使用可能な場合) のあるターゲット・ホスト名を、 `etc/hosts` ファイルに追加することを考慮したほうがよいかもしれません。

DWC06114E ソケット関数 `gethostname()` の呼び出しに失敗しました。

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアは記号ホスト名を検索できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06115E ソケット関数 `getservbyname()` の呼び出しに失敗しました。サービス名: *service-name*.

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアは `etc/services` ファイルから記号ホスト名を検索できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: `etc/services` ファイルが存在していることを確認してください。TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06116E ソケット関数 `inet_ntoa` の呼び出しに失敗しました。ホスト名: *hostname*.

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアは、32 ビット IP アドレスをドット 10 進表記に変換できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワーク

が操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再実行してください。

DWC06117E ウェアハウス・サーバー *hostname* (ポート番号 *port-ID*) が、現在応答していません。

説明: ウェアハウス・サーバー *hostname* (ポート番号 *port-id*) が、現在応答していません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: コントロール パネルの「サービス」アプレットに移動して、データウェアハウス・センター・サーバーとデータウェアハウス・センター・ロガー・サービスの状態をチェックしてください。必要に応じてどちらか一方、または両方を再始動してください。

DWC06118E ウェアハウス・サーバーへのログオン試行が失敗しました。

説明: データウェアハウス・センターのクライアントが、使用可能なすべてのローカル・クライアント IP アドレスを使用して、ウェアハウス・サーバーと通信しようとしていました。しかしどのローカル・クライアント IP アドレスも、ウェアハウス・サーバーからの応答を受信できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがアクティブであり、ローカル・クライアントとウェアハウス・サーバーとの間の TCP/IP 通信がアクティブであることを確認してください。

DWC06119E ウェアハウス・クライアントが、ウェアハウス・サーバーからの応答を受信できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがアクティブであり、ローカル・クライアントとウェアハウス・サーバーとの間の TCP/IP 通信がアクティブであることを確認してください。次にデータウェアハウス・センターをクローズして、もう一度ログオンしてください。

DWC06200E 予期しない通信エラーが起きました。

説明: TCP/IP が正しく構成されていないか、ログオン時に間違ったサーバーが指定されました。

ユーザーの処置: TCP/IP が正しく構成されているかどうかを確認してください。TCP/IP が正しく構成されていれば、ログオン時に指定したサーバーが正しいことを確認してください。

DWC07000E ウェアハウス・サーバーがステップ

step-name を検索できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからステップのメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: ステップ定義がまだ存在し、コントロール・データベースがまだウェアハウス・サーバー・マシンからアクセスできることを検査します。問題が解決されない場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07001E ウェアハウス・サーバーがステップ

step-name を更新できませんでした。このエラーは、タイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはステップ定義の変更点をコントロール・データベースに保管できませんでした。

ユーザーの処置: ステップ定義がまだ存在し、コントロール・データベースがまだウェアハウス・サーバー・マシンからアクセスできることを検査します。問題が解決されない場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07003E ウェアハウス・サーバーがステップ

step-name の状況を変更できませんでした。このエラーは、タイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07005E ウェアハウス・サーバーがステップ

step-name の **SELECT** ステートメントを構成できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからステップの定義済み SQL を検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07006E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の **INSERT** ステートメントを構成できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはターゲット表に行を挿入する SQL を作成するために必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07007E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の **DELETE** ステートメントを構成できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターは SQL DELETE ステートメントを作成するために必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07008E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の **CREATE** ステートメントを構成できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターは CREATE TABLE ステートメントを作成するために必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07009E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の **DROP** ステートメントを構成できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターは DROP TABLE ステートメントを作成するために必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07010E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の再試行カウントを検索できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからステップの再試行の最大数を検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07011E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の再試行インターバルを検索できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからステップの再試行インターバルを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07012E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の子ステップをリストできませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからステップの子ステップのリストを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07013E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の並列カスケード・ステップをリストできませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースから、与えられたステップでカスケードされたステップのリストを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07014E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のカスケード・ステップをリストできませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースから、与えられたステップでカスケードされたステップのリストを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07015E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のスケジュールをリストできませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからステップのスケジュールを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07016E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の次にスケジュールされた移植を計算できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターは循環スケジュールの次の日付を計算できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07017E ウェアハウス・サーバーがデータベース *database-name* を検索できませんでした。このエラーは、タイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからデータベースのメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07018E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のソース・データベースを検索できませんでした。このエラーはエディション *edition-number* の *operation-type* 処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからソース・データベースのメタデータを検索できませんでした。指定されたタイプの操作を実行中に、データウェアハウス・センターがデータを検索しようとした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07019E ウェアハウス・サーバーがステップ *step* のターゲット・データベースを検索できませんでした。このエラーはエディション *edition-number* の *operation-type* 処理中に発生しました。

説明: ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のターゲット・データベースを検索できませんでした。このエラーはエディション *edition-number* の *operation-type* 処理中に発生しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07020E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の属性マッピング情報を検索できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはソース表の SELECT ステートメントの選択された列を、ターゲット表の INSERT ステートメントの列にマップするために必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェック

し、推奨アクションを取ってください。

DWC07021E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の出力属性を検索できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからターゲット表の INSERT ステートメントの列のメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07022E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の入力属性を検索できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからソース表の SELECT ステートメントの列のメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07023E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエージェント・サイトを検索できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* を処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはエージェント・サイトへの接続に必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07024E ウェアハウス・サーバーがデータベース *database-name* のエージェント・サイトを検索できませんでした。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからデータベースのエージェント・サイト・メタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07025E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の統計関数を検索できませんでした。このエラーはエディション *edition-number* の *operation-type* 処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからデータウェアハウス・センター・プログラムのメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07026E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のターゲット・データベースを検索できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからターゲット・データベースのメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07027E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のソース・データベースをリストできませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからターゲット・データベースのメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07028E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の条件付きカスケード関数を検索できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* の *job-type* 処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースから条件付きカスケード・プログラムまたは事後処理プログラム用のメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07029E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の条件によってカスケードされるステップをリストできませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースから、与えられたステップで条件によってカスケードされるステップのリストを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07030E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の **GRANT** ステートメントを検索できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: ウェアハウス・サーバーはコントロール・データベースからステップの SQL **GRANT** ステートメントを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07031E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の別名をリストできませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースから、ステップ用のデータウェアハウス・センター定義別名のリストを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07032E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の別名 *alias-name* に使用する **CREATE** ステートメントを獲得できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはステップの別名を作成するための SQL の作成に必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェック

し、推奨アクションを取ってください。

DWC07033E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の別名 *alias-name* に使用する **DROP** ステートメントを獲得できませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはステップの別名をドロップするための SQL の生成に必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07034E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のソース列をリストできませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからステップの属性のメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07035E ウェアハウス・サーバーがユーザー *user-name* を検索できませんでした。このエラーはクライアント *client-name* からの認証要求への応答内で発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースから指定されたユーザー ID を検索できませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたユーザー ID が正しく、データウェアハウス・センター・サーバーに定義されていることを検査してください。

DWC07036E ウェアハウス・サーバーがターゲット・データベース *database-name* からステップを検索できませんでした。このエラーは、タイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからターゲット・データベースに関連したステップを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07037E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* の接続ストリングを検索できませんでした。このエラーは、タイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースから、ターゲット・データベースへの接続に使用される ODBC 接続ストリングを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07038E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の **ALTER** ステートメントを構成できませんでした。このエラーは、タイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはステップの SQL ALTER TABLE ステートメントの生成に必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07039E ウェアハウス。サーバーはコントロール・データベースから、ステップ *step-name* の無効な **stepType** *identifier* を受信しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生したか、コントロール・データベースに無効なメタデータがあります。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07040E ウェアハウス・サーバーはコントロール・データベースから、ステップ *step-name* の無効なプログラム・タイプ *program-type-identifier* を受信しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生したか、コントロール・データベースに無効なメタデータがあります。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07041E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のデータウェアハウス・センター・プログラム・コマンド行を生成できませんでした。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからデータウェアハウス・センター・プログラムのコマンド行パラメーターを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07042E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* の **SQL CALL** ステートメントを生成できませんでした。

説明: データウェアハウス・センターはストアード・プロシージャの SQL CALL ステートメントの生成に必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07043E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のストアード・プロシージャ用データベース・データを検索できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーがステップからターゲット・データベースを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07044E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* の障害カスケード・ステップをリストできませんでした。このエラーは、エディション *edition-number* のタイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: ウェアハウス・サーバーが障害カスケード・ステップをリストできませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07045E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* から起動障害ステップをリストできませんでした。このエラーは、エディション *edition-name* のタイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* から起動障害ステップをリストできませんでした。このエラーは、エディション *edition-name* のタイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07046E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のストアード・プロシージャのデータウェアハウス・センター・プログラム・パラメーター・データを検索できませんでした。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからストアード・プロシージャのパラメーターのデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07047E ウェアハウス・サーバーはコンポーネント名 *component-name* および値 *value* の構成パラメーターを更新できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07048E ウェアハウス・サーバーがコントロール・データベースからデータ・リソース ID を検索できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーがコントロール・データベースからデータ・リソース ID を検索できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーとコントロール・データベースの間に接続が確立されていることをチェックしてください。接続がまだ確立されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07049E ウェアハウス・サーバーがコントロール・データベースからユーザーの権限を検索できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーがコントロール・データベースからユーザーの権限を検索できませんでした。

ユーザーの処置: ユーザー ID とパスワードが正しいことをチェックしてください。(ユーザー ID とパスワードは大文字小文字が区別されます。)問題が解決されない場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07050E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* を作成できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生したか、コントロール・データベースに無効なメタデータがあります。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07051E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* をスケジュールできませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーがコントロール表を更新できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだコントロール・データベースに接続できることをチェックしてください。接続がまだ確立されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07052E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* の移植を開始できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーがコントロール表を更新できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだコントロール・データベースに接続できることをチェックしてください。接続がまだ確立されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07053E ウェアハウス・サーバーがステップ
step-name のエディション *edition-number*
の移植を完了できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーがコントロール表を更新できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだコントロール・データベースに接続できることを検査してください。接続がまだ確立されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07054E ウェアハウス・サーバーがステップ
step-name のエディション *edition-number*
のページを開始できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーがコントロール表を更新できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだコントロール・データベースに接続できることを検査してください。接続がまだ確立されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07055E ウェアハウス・サーバーがステップ
step-name のエディション *edition-name* の
ページ障害を処理できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07056E ウェアハウス・サーバーがステップ
step-name のエディション *edition-number*
を削除できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーがコントロール表を更新できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだコントロール・データベースに接続できることを検査してください。接続がまだ確立されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07057E ウェアハウス・サーバーがステップ
step-name のスケジュールされたエディシ
ョンを削除できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーがコントロール表を更新できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだコントロール・データベースに接続できることを検査してください。接続がまだ確立されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07058E ウェアハウス・サーバーがステップ
step-name のエディションを削除できませ
んでした。

説明: ウェアハウス・サーバーがコントロール表を更新できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだコントロール・データベースに接続できることを検査してください。接続がまだ確立されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07059E ウェアハウス・サーバーがステップ
step-name のエディション *edition-number*
を検索できませんでした。このエラーは
タイプ *job-type* のジョブを処理中に発生
しました。

説明: ウェアハウス・サーバーがコントロール表を照会できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだコントロール・データベースに接続できることを検査してください。接続がまだ確立されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07060E ウェアハウス・サーバーがステップ
step-name の最古のエディションを検索で
きませんでした。このエラーはタイプ
job-type のジョブを処理中に発生しまし
た。

説明: ウェアハウス・サーバーがコントロール表を照会できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだコントロール・データベースに接続できることを検査してください。接続がまだ確立されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07061E ウェアハウス・サーバーが、サーバーが最
後に停止したときに進行中だったエディシ
ョンを検索できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーがコントロール表を照会できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだコントロール・データベースに接続できることを検査してください。接続がまだ確立されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07062E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* の状態が無効であるために再始動できないことを検出しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生したか、コントロール・データベースに無効なメタデータがあります。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07063E ウェアハウス・サーバーが、移植用にスケジュールされたエディションを検索できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーがコントロール表を照会できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだコントロール・データベースに接続できることを検査してください。接続がまだ確立されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07064E ウェアハウス・サーバーがエディションをその親のエディション番号で更新できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーがコントロール表を更新できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだコントロール・データベースに接続できることを検査してください。接続がまだ確立されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07066E ウェアハウス・サーバーが、このエディションの移植が完了する前にシャットダウンされました。

説明: 通知メッセージ。ステップ・エディションが、ウェアハウス・サーバーがシャットダウンされるまでの間に移植を完了しませんでした。ターゲット表へのすべての変更はロールバックされます。ステップは 1 作業単位で移植されます。ステップの実行中にウェアハウス・サーバーがシャットダウンされた場合、ターゲット

表へのすべての変更はロールバックされます。

ユーザーの処置: 失敗したステップを再実行してください。

DWC07067E ウェアハウス・サーバーが、このエディションのパージが完了する前にシャットダウンされました。

説明: 通知メッセージ。ステップ・エディションは、データウェアハウス・センター・サーバーがシャットダウンされるまでの間にパージを完了しませんでした。ターゲット表に行ったすべての変更点はロールバックされます。ステップのパージ中にウェアハウス・サーバーがシャットダウンされた場合、削除されたすべての行はターゲット表でリストアされます。

ユーザーの処置: ステップ・エディションをもう一度パージしてください。

DWC07068E ウェアハウス・サーバーが、このエディションの実行がスケジュールされた期間に実行されていませんでした。

説明: このメッセージは、ウェアハウス・サーバーが手動で再始動するように構成されている場合のみ適用されます。このステップはデータウェアハウス・センター・サーバーがシャットダウンされている間にだけ実行されるようにスケジュールされています。ウェアハウス・サーバーを自動再始動するように構成すれば、このエラーは回避できます。この場合失敗したステップは、サーバーが再始動されると自動的に再始動されます。ただし自動再始動をするとステップが必ずしも望ましい時に開始するとは限らないので、これはお勧めできません。また失敗したすべてのステップが並行して開始されるので、システム・リソースを使い果たしてしまう可能性もあります。

ユーザーの処置: 次のスケジュールの前にこのステップをリフレッシュしたい場合は、手動で再始動または再スケジュールしてください。

このステップ・エディションを実行するようにスケジュールされた時にサーバーがシャットダウンされた理由を判別してください。

DWC07069E ウェアハウス・サーバーが、このエディションの取り消しが完了する前にシャットダウンされました。

説明: ステップ・エディションが、ウェアハウス・サーバーがシャットダウンされるまでの間に取り消しを完了しませんでした。

ユーザーの処置: 「進行中の作業」ウェアハウスからステップ・エディションをパージしてください。

DWC07070N データウェアハウス・センター サーバーが、処理 *process* のエディション *edition* の移植を完了できませんでした。

説明: データベースが見付からなかったため、データウェアハウス・センター サーバーは移植を完了できませんでした。

ユーザーの処置: データウェアハウス・センター サーバーがデータベースと接続されていることを確認します。接続されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC07081N データウェアハウス・センター サーバーが、処理 *process* のカスケードされた処理をリストできませんでした。このエラーは、エディション *edition* のタイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センター サーバーは、カスケードされた処理をリストできませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード RC2 をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07082N データウェアハウス・センター サーバーが、処理 *process* のカスケードに失敗した処理をリストできませんでした。このエラーは、エディション *edition* のタイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センター サーバーが、カスケードに失敗した処理をリストできませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード RC2 をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07083N データウェアハウス・センター サーバーが、ステップ *step* のルート・ステップをリストできませんでした。このエラーは、エディション *edition* のタイプ *job-type* のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センター サーバーが、ルート・ステップをリストできませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード RC2 をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07100E ウェアハウス・サーバーがユーザー ID *user-ID* を使用してコントロール・データベース *control-database-name* に接続できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーが、無効なユーザー ID を使用してコントロール・データベースに接続しようとしてしました。そのユーザー ID はコントロール・データベースのアクセスが許可されなくなったか、または無効またはスペルの違うユーザー ID が初期化中に提供されました。

ユーザーの処置: ユーザー ID がまだコントロール・データベースの許可ユーザーであることを確認してください。ユーザー ID のスペルと大文字小文字が正しいことを確認してください。

DWC07101E ウェアハウス・サーバーがコントロール・データベースからパラメーター *parameter-name* を検索できませんでした。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースから構成パラメーターの 1 つを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07102E ウェアハウス・サーバーは、無効な値 *timeout-value* のタイムアウト・パラメーター *parameter-name* を検索しました。

説明: 指定されたパラメーターの構成ノートブックに指定されているタイムアウト値は有効範囲に入っていません。

ユーザーの処置: データウェアハウス・センター構成アプレットを開始してください。構成ノートブックに指定されたパラメーターのタイムアウト値を有効な値に変更してください。

DWC07103E ウェアハウス・サーバーは、データベース・エージェント用のコマンド行引き数を検索できませんでした。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースからデータウェアハウス・センター・エージェントの開始に使用されるコマンド行引き数を検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07104E ウェアハウス・サーバーは構成パラメータ *parameter-name* を値 *parameter-value* で更新できませんでした。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベース内の指示された構成パラメータを更新できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07105E ウェアハウス・サーバーは、値 *parameter-value* を構成パラメータ *parameter-name* に保管できませんでした。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベース内の指示された構成パラメータを保管できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07106E ウェアハウス・サーバーは構成されたホスト名 (*install-host-name*) が、サーバーが稼働しているノードのホスト名 (*tcpip-host-name*) と一致しないことを検出しました。

説明: このエラーの最も一般的な原因として、ウェアハウス・サーバー・マシンが物理的に他のロケーションに移動され、新しい TCP/IP ホスト名が指定されたことが考えられます。

ユーザーの処置: データウェアハウス・センター構成ノートブックをオープンし、サーバー・タブを選択して、マシンに対して構成された TCP/IP DNS ホスト名と一致するようにサーバー・ホスト名フィールドの値を変更してください。

DWC07107E ログオンが失敗しました。コントロール・データベースを移行してからでないと、ログオンできません。

説明: コントロール・データベースをユニコード・コントロール・データベースに移行してからでないと、ログオンできません。

ユーザーの処置: コントロール・データベースをユニコード・コントロール・データベースに移行してから、再度ログオンしてみてください。

DWC07150E ウェアハウス・サーバーは TCP/IP ホスト名を検索できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07151E ウェアハウス・サーバーは、エージェント・デーモンの TCP/IP ポート番号を検索できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07152E ウェアハウス・サーバーは TCP/IP ポート番号を検索できませんでした。ウェアハウス・サーバーのサービス名は *tcpip-service-name* です。

説明: データウェアハウス・センターに与えられたサーバー・サービス名を使用すると、サーバーは TCP/IP SERVICES ファイルからポート番号を検索できません。

ユーザーの処置: データウェアハウス・センター・プロパティ・ノートブックをオープンし、サーバー・タブを選択して、サーバー・サービス名フィールドの値を記録してください。この名前が TCP/IP SERVICES ファイルに単一記入項目があることを検査してください。この名前に複数の項目がある場合は、余分の記入項目を削除します。名前が SERVICES ファイルにない場合、手操作で追加するか、データウェアハウス・センター初期化プログラムを再実行してください。デフォルトのサーバー・サービス名とポート番号を使用すれば、データウェアハウス・センターは初期化時に自動的に追加するので、これを使用することをお勧めします。

DWC07153E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のジョブ・タイプ *job-type* を処理するためのメッセージ・キューを作成できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07154E ウェアハウス・サーバーは 1 次メッセージ・キューを作成できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07155E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のジョブ・タイプ *job-type* を処理するためのメッセージ・キューを破棄できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07156E ウェアハウス・サーバーは 1 次メッセージ・キューを破棄できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07157E ウェアハウス・サーバーがいずれかのエージェント処理をモニターできませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

DWC07158E ウェアハウス・サーバーがいずれかのエージェント処理のモニターを正常に停止できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07159E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のコマンド・タイプ *command-type* を処理するためのエージェント・メッセージを形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07160E ウェアハウス・サーバーがデータベース *database-name* のコマンド・タイプ *command-type* を処理するためのエージェント・メッセージを形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07161E ウェアハウス・サーバーは、ホスト *host-name* でエージェント処理を作成する要求を形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07162E ウェアハウス・サーバーは、エージェント処理をシャットダウンする要求を形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07163E ウェアハウス・サーバーは、ホスト *host-name* でエージェント処理をシャットダウンする要求を形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07164E ウェアハウス・サーバーは、ホスト *host-name* でエージェント処理を強制終了する要求を形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07165E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* の移植の要求を形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07166E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のページの要求を形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07167E ウェアハウス・サーバーは、カスケードされたステップ *step-name* を移植する要求を形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07168E ウェアハウス・サーバーは、ジョブ終了通知を形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07169E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のエージェント・コマンド・タイプ *command-type* を送信できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07170E ウェアハウス・サーバーは、エージェント処理をシャットダウンするメッセージを送信できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07171E ウェアハウス・サーバーはジョブ完了の通知を、ホスト *host-name* のポート *port-number* のリクエスターに送信できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07172E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* の移植要求をメインキューに送信できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07173E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のページ要求をメインキューに送信できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07174E ウェアハウス・サーバーは、ホスト *host-name* でエージェント処理を作成する要求を送信できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーは、与えられたエージェント・サイトでデータウェアハウス・センター・エージェント・デーモンと通信できませんでした。この問題はエージェント・デーモンが開始または応答されていないか、または通信問題がある場合に発生します。2 次戻りコード (RC2) 値が原因を識別します。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバー・マシンにエージェント・サイトへの TCP/IP コネクティビティーがあり、データウェアハウス・センター・エージェント・デーモンが実行中であることを検査してください。それでも問題が解決されなければ、データウェアハウス・センター・エージェント・デーモンを停止させて再始動してください。それでも問題が解決されなければ、RC2 コードを調べ、推奨アクションを取ってください。

DWC07175E ウェアハウス・サーバーは、ホスト *host-name* でエージェント処理をシャットダウンする要求を送信できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーは、与えられたエージェント・サイトでデータウェアハウス・センター・エージェント・デーモンと通信できませんでした。この問題はエージェント・デーモンが開始または応答されていないか、または通信問題がある場合に発生します。2 次戻りコード (RC2) 値が原因を識別します。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバー・マシンにエージェント・サイトへの TCP/IP コネクティビティーがあり、データウェアハウス・センター・エージェント・デーモンが実行中であることを検査してください。それでも問題が解決されなければ、データウェアハウス・センター・エージェント・デーモンを停止させて再始動してください。それでも問題が解決されなければ、RC2 コードを調べ、推奨アクションを取ってください。

DWC07176E ウェアハウス・サーバーがステップをカスケードするためのメッセージを、ステップ *step-name* からメインキューに送信できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07177E ウェアハウス・サーバーはジョブ完了の通知をメインキューに送信できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07178E ウェアハウス・サーバーは、ホスト *host-name* でエージェント処理を強制終了する要求を送信できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07179E エージェント処理からシャットダウンの応答を受信しているときに、ウェアハウス・サーバーに予期しないエラーが発生しました。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07180E エージェント処理から開始の応答を受信しているときに、ウェアハウス・サーバーに予期しないエラーが発生しました。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07181E メッセージを受信しているときに、ウェアハウス・サーバーに予期しないエラーが発生しました。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07182E ステップ従属ツリーの処理でメッセージを受信しているときに、ウェアハウス・サーバーに予期しないエラーが発生しました。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07183E ウェアハウス・サーバーがエージェントを作成しようとしたが、エージェントまたはデーモンから有効な始動の肯定応答を受信しませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: データウェアハウス・センター・エージェントをシャットダウンして再始動してください。問題が解決されない場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07184E ウェアハウス・サーバーはタイプ *message-type* および、サブタイプ *message-sub-type* の予期しないメッセージを受信しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラーはデータウェアハウス・センターコンポーネントの送信をデータウェアハウス・センターコンポーネントの受信時と異なるコード・レベルで行う場合に発生することがあります。たとえばあるメンテナンス・レベルのデータウェアハウス・センター・エージェントのメッセージ・コードは、異なるメンテナンス・レベルのデータウェアハウス・センター・サーバーと互換性がない場合があります。このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07185E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のコマンド・タイプ *command-type* の処理中に、予期しないメッセージを受信しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラーはデータウェアハウス・センターコンポーネントの送信をデータウェアハウス・センターコンポーネントの受信時と異なるコード・レベル

で行う場合に発生することがあります。たとえばあるメンテナンス・レベルのデータウェアハウス・センター・エージェントのメッセージ・コードは、異なるメンテナンス・レベルのデータウェアハウス・センター・サーバーと互換性がない場合があります。このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07186E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のジョブ・タイプ *job-type* の従属ツリーの処理中に、予期しないメッセージを受信しました。受信したメッセージはタイプ *message-type* および要求タイプ *request-type* のメッセージでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07187E ウェアハウス・サーバーは予期しないメッセージ・タイプ *message-type* を受信しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラーはデータウェアハウス・センターコンポーネントの送信をデータウェアハウス・センターコンポーネントの受信時と異なるコード・レベルで行う場合に発生することがあります。たとえばあるメンテナンス・レベルのデータウェアハウス・センター・エージェントのメッセージ・コードは、異なるメンテナンス・レベルのデータウェアハウス・センター・サーバーと互換性がない場合があります。このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07188E ウェアハウス・サーバーはサポートされていないメッセージ・タイプ *message-type* を受信しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07189E エージェント処理からのシャットダウンの応答を待機しているときに、ウェアハウス・サーバーがタイムアウトになりました。

説明: エージェント処理はすでにシャットダウンされているか、またはハングしています。

ユーザーの処置: エージェント処理がエージェント・サイト・マシンでシャットダウンしたことを確認してください。その場合は、これ以後のアクションは不要です。それ以外の場合は、エージェント処理がハングしています。処理を終了するか、またはエージェント・サイト・マシンを再起動してください。問題が頻繁に発生する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC07190E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のコマンド・タイプ *command-type* の処理中でメッセージの受信をしているときに、予期しないエラーが発生しました。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07191E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* の状況変更通知メッセージを形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07192E ウェアハウス・サーバーは、ステップ *step-name* のエディション *edition-number* の状況変更通知メッセージを、ホスト *host-name* のポート *port-number* で **listen** しているクライアントに送信できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07193E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* の取り消しメッセージを形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07194E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* の取り消しメッセージを送信できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07195E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のコマンド・タイプ *command-type* の処理中に受信されたメッセージのメッセージ・タイプを判別できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07196E エージェント処理が開始されるのを待機しているときに、ウェアハウス・サーバーは予期しないコマンド・タイプ *command-type* でのメッセージを受信しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07197E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* の行カウント・メッセージを形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07198E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* の行カウント・メッセージを送信できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07199E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* の行カウント照会の応答を受信できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07200E ウェアハウス・サーバーは、ステップ *step-name* のエディション *edition-number* の行カウント照会に対する無効な応答を受信しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07201E ウェアハウス・サーバーはシャットダウン時に使用するメッセージ・キューを作成できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07202E ウェアハウス・サーバーはシャットダウン時に使用するメッセージ・キューを破棄できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07203E ウェアハウス・サーバーは、メイン・メッセージ・キューに送信するシャットダウン・メッセージを形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07204E ウェアハウス・サーバーは、メイン・メッセージ・キューにシャットダウン・メッセージを送信できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07205E ウェアハウス・サーバーはメイン・メッセージ・キューに送信されたシャットダウン・メッセージに対する応答を受信できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07206E ウェアハウス・サーバーは、インターネット・アドレスを検索できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーは、インターネット・アドレスを検索できませんでした。

ユーザーの処置: ネットワーク管理者に連絡して、データウェアハウス・センターのホスト名とホスト名の IP アドレスが有効であることを確認してください。

DWC07207E ユーザーに適切な権限がないため、ウェアハウス・サーバーは、このジョブを処理できませんでした。

説明: ユーザーに適切な権限がないため、ウェアハウス・サーバーは、このジョブを処理できませんでした。

ユーザーの処置: ユーザーにタスクを実行する有効な権限があるかどうか検査してください。問題が解決されない場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07220E ウェアハウス・サーバーがローカル・エージェント処理 *agent-executable-name* を開始できませんでした。

説明: エージェント処理の実行にはストレージ不足であるか、またはエージェントの実行可能コードがないか、破壊されているか、実行不可能かです。

ユーザーの処置: *agent-executable-name* ファイルが IWH インストール・ディレクトリーの BIN サブディレクトリーにまだあることを確認してください。ファイルがあれば、仮想記憶域を増やし、同時実行エージェントを少なくしてください。問題が解決されない場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07221E データウェアハウス・センター・エージェント処理が初期化できませんでした。

説明: エージェント処理が開始しましたが、初期化中に失敗しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07222E データウェアハウス・センター・エージェント・デーモンがリモート・エージェント処理を作成できませんでした。

説明: エージェント処理の実行にはストレージ不足であるか、またはエージェントの実行可能コードがないか、破壊されているか、実行不可能かです。

ユーザーの処置: エージェント実行可能ファイルが IWH インストール・ディレクトリーの BIN サブディレクトリーにまだあることを確認してください。ファイルがあれば、仮想記憶域を増やし、同時実行エージェントを少なくしてください。問題が解決されない場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07223E ウェアハウス・サーバーが、認識されていないエージェント処理をシャットダウンしようとした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07224E データウェアハウス・センター・エージェント・デーモンがリモート・エージェント処理をシャットダウンできませんでした。

説明: データウェアハウス・センターがエージェントをシャットダウンしようとして失敗しました。次にデータウェアハウス・センターは VW デーモンにエージェントをシャットダウンさせようとした。デーモンはエージェントをシャットダウンできませんでした。

ユーザーの処置: エージェントがユーザー処理として実行していた場合には、エージェント・サイトのオペレーティング・システムに対して適切なコマンドを使用して、手動でエージェント処理を終了してください。エージェントがシステム処理として実行していた場合は、稼働していないエージェント処理を終結処理してシステムを再始動するまで、待つ必要があります。ともかく、他のエージェントを実行できるようにしてください。

DWC07225E データウェアハウス・センター・エージェント・デーモンがリモート・エージェント処理を終了できませんでした。

説明: データウェアハウス・センターは、ウェアハウス・サーバーが通信できなくなっているエージェントをエージェント・デーモンが強制的に終了することを要求しました。処理は失敗しました。エージェント処理はもはやシステム・コマンドに応答しないか、またはすでに終了しています。

ユーザーの処置: エージェントがユーザー処理として実行していた場合には、エージェント・サイトのオペレーティング・システムに対して適切なコマンドを使用して、手動でエージェント処理の終了を試みてください。エージェントがシステム処理として実行していた場合は、稼働していないエージェント処理を終結処理してシステムを再始動するまで、待つ必要があります。ともかく、他のエージェントを実行できるようにしてください。

DWC07226E ウェアハウス・サーバーは、ローカル・エージェント処理を終了できませんでした。

説明: エージェント処理はすでにシャットダウンされているか、またはハングしています。

ユーザーの処置: エージェント処理が終了したことを確認してください。その場合は、これ以後のアクションは不要です。それ以外の場合は、エージェント処理がハングしています。処理を終了するか、またはエージェント・サイト・マシンを再起動してください。

DWC07227E ウェアハウス・サーバーがエージェント・ディスパッチャーを初期化しているときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07228E ウェアハウス・サーバーがエージェント・ディスパッチャーを終了しているときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07229E システム・ページ・ファイルがいっぱいになりそうです。実行しているエージェント数をハンドルするには、サイズを増やす必要があります。

説明: さらにエージェント処理を開始するには、システムに定義された仮想記憶域量が不足しています。

ユーザーの処置: 仮想記憶域量を増やすか、または同時実行エージェントを減少してください。

DWC07250E ウェアハウス・サーバーはメッセージ・タイプ *message-type* に応答して、ステップ *step-name* のエディション *edition-number* のジョブを作成できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07251E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のジョブ・タイプ *job-type* を処理していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07252E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のジョブ・タイプ *job-type* を実行するためのスレッドを開始できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07253E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のジョブ・タイプ *job-type* のコマンド・リストを作成していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07254E ウェアハウス・サーバーがデータベース *database-name* のジョブ・タイプ *job-type* のコマンド・リストを作成していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07255E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のジョブ・タイプ *job-type* のコマンド・リストを実行していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07256E ウェアハウス・サーバーがデータベース *database-name* のジョブ・タイプ *job-type* のコマンド・リストを実行していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07257E ウェアハウス・サーバーがジョブ・タイプ *job-type* を処理するためのステップ *step-name* のエディション *edition-number* の並列処理を検査していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07258E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のジョブ・タイプ *job-type* の従属ツリーを移植していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07259E ウェアハウス・サーバーは同じ実行ツリー内で、ステップ依存性 *step-name* を何度も移植しようとしていました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07260E ウェアハウス・サーバーは同じ実行ツリー内で、ステップ依存性 *step-name* を何度もクリーンアップしようとしていました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07261E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* の実行ツリーの処理中に、完了メッセージを処理できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07262E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* の実行ツリーの処理中に、ページ・メッセージを処理できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07263E ステップ・タイプが行制限をサポートしないので、ウェアハウス・サーバーは、ステップ *step-name* のエディション *edition-number* の移植用の行制限を設定できませんでした。

説明: 通知メッセージ。行制限を現行コンテキストに設定できません。

DWC07264N データウェアハウス・センターサーバーが、処理 *process* のエディション *edition* のジョブ・タイプ *job-type* を実行するためのスレッドを開始できませんでした。

説明: データウェアハウス・センターの内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC07300E ウェアハウス・サーバーはジョブ・タイプ *job-type* の取り消しをサポートしません。

説明: 取り消しはこの時点では不可能です。

DWC07301E ステップが実動状態ではなかったため、ステップ *step-name* のエディション *edition-number* のジョブ・タイプ *job-type* は処理されませんでした。

説明: このタイプの操作はステップが実動状況でなければ実行することはできません。このステップは実動状況ではありません。

DWC07302E ステップが永続状態ではなかったため、ステップ *step-name* のエディション *edition-number* のジョブ・タイプ *job-type* は処理されませんでした。

説明: このタイプの操作はステップが一時的な状況だと実行することはできません。このステップは一時的な状況です。

DWC07303E ステップが開発状況ではないため、ステップ *step-name* はプロモートされませんでした。

説明: ステップが開発状況の場合にだけテスト状況にプロモートできます。このステップは開発状況ではありません。

ユーザーの処置: インターフェース・ウィンドウでステップの状況が開発になっていたら、ビューをリフレッシュしてください。状況が開発以外の状況に更新されなければ、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07304E ステップが実動状況ではないため、ステップ *step-name* は中断されませんでした。

説明: ステップが実動状況の場合にだけテスト状況にデモートできます。このステップは実動状況ではありません。

ユーザーの処置: インターフェース・ウィンドウでステップの状況が実動になっていたら、ビューをリフレッシュしてください。状況が実動以外の状況に更新されなければ、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07305E ステップが中断状況ではないため、ステップ *step-name* はページされませんでした。

説明: ステップを開発にデモートすると、ステップのターゲット表がドロップします。ステップがテスト状況の場合にだけテスト開発にデモートできます。このステップはテスト状況ではありません。

ユーザーの処置: インターフェース・ウィンドウでステップの状況がテストになっていたら、ビューをリフレッシュしてください。状況がテスト以外の状況に更新されなければ、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07307E 移植されていないか移植に失敗したため、ステップ *step-name* のエディション *edition-number* はページされませんでした。

説明: この状況のエディションをページできません。

ユーザーの処置: このエディションが処理を完了するまで待ってから、ページしてください。処理を完了したエディションでこのエラーが発生したのであれば、これ

は内部エラーです。このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07308E 移植されていないか移植に失敗したため、ステップ *step-name* のエディション *edition-number* は置換されませんでした。

説明: この状況のエディションを置換できません。

ユーザーの処置: このエディションが処理を完了するまで待ってから、置換してください。処理を完了したエディションでこのエラーが発生したのであれば、これは内部エラーです。このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07309E 移植がすでに開始されているか、または完了しているため、ステップ *step-name* のエディション *edition-number* は移植されませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07310E 移植されていないか移植に失敗したため、ステップ *step-name* のエディション *edition-number* は置換されませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07311E ウェアハウス・サーバーは、データベース *database-name* の列データをインポートしませんでした。表名が指定されていないため、コマンドは処理されませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07312E すでに同一の要求を処理しているため、ウェアハウス・サーバーはステップ *step-name* のエディション *edition-number* のジョブ・タイプ *job-type* を処理するための要求を処理しませんでした。

説明: 要求された操作はすでに実行されているので、データウェアハウス・センターはその要求を処理できませんでした。このエラーは Administration Client が新しい状況で更新される前に別のデータウェアハウス・センター Administration Client のユーザーが要求を出すと発生することがあります。

ユーザーの処置: しばらく待ってから再度試みてください。

DWC07313E ステップ *step-name* のエディション *edition-number* のジョブ・タイプ *job-type* が実行中のため、ウェアハウス・サーバーはステップ *step-name* の現在のエディションのジョブ・タイプ *job-type* を開始できませんでした。2 つのジョブを同時に実行することはできません。

説明: すでに進行中の他の操作を妨害してしまうので、データウェアハウス・センターはその要求を処理できませんでした。

ユーザーの処置: しばらく待ってから再度試みてください。

DWC07314E ウェアハウス・サーバーはすでに終了処理を行っています。現在処理中のすべてのジョブを完了後、シャットダウンします。

説明: ウェアハウス・サーバーはすでにシャットダウン要求を受信しています。

DWC07315E エディションはこれ以上移植されていないので、ステップ *step-name* のエディション *edition-number* の現在の行カウントを判別できません。

説明: 通知メッセージ。エージェントはすでに与えられたエージェントの移植を完了して、終了しています。最終行数は「統計」ウィンドウからのみ入手できます。

DWC07316E データベース・タイプはその種の照会をサポートしていないので、データベース *database-name* からカタログ情報をインポートできません。

説明: メタデータをインポートしようとしたデータベース・タイプには、メタデータを照会する機能がありません。

ユーザーの処置: 詳しくはソース・ベンダーの資料を調べてください。データベース記述は手操作で入力してください。

DWC07317E ステップはテスト状態ではないため、ステップ *step-name* のスケジュールを活動化できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07318E ウェアハウス・サーバーはステップ *step-name* の統計表に行を追加できませんでした。

説明: 統計表を更新できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07319E ステップがテスト状態ではなかったため、ウェアハウス・サーバーはステップ *step-name* に権限を再付与できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07320E ステップは開発状態ではなかったため、ウェアハウス・サーバーはステップ *step-name* に別名を追加できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07321E ステップは開発モードではなかったため、ウェアハウス・サーバーはステップ *step-name* の別名を除去できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07322E ウェアハウス・サーバーはユーザー *user-name* のパスワードを認証できませんでした。このエラーはクライアント *client-name* からの認証要求への応答内で発生しました。

説明: 提供されたパスワードが正しくありませんでした。このエラーの多くは、文字の大文字小文字の違いです。パスワードでは大文字小文字を区別します。

ユーザーの処置: パスワードを再入力してください。

DWC07323E ステップ *step-name* がテスト状況ではなかったため、ステップ *step-name* の表を変更されませんでした。

説明: ステップがテスト状況の場合にだけ、既存のステップ表に新しい列を追加することができます。

ユーザーの処置: ステップ状況をテストに変更して、操作をやり直してください。

DWC07324E ID スtringが見つからなかったため、ウェアハウス・サーバーはデータベースまたは表 *table-name* のデータをサンプル取りできません。

説明: データウェアハウス・センター・コントロール・データベースで見つからないデータウェアハウス・センター表からデータをサンプル取りしようとしていました。

ユーザーの処置: データウェアハウス・センター・サポートに連絡してください。

DWC07325E 作成タイプがサポートされていないため、ウェアハウス・サーバーはデータベースからトランスフォーマーをインストールできませんでした。

説明:

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07329E プロセスが使用できなかったため、データウェアハウス・センター・サーバーが、プロセス *processname* のエディション *edition* に対するタイプ *typename* のジョブを開始できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター・サーバーは、このタイプの操作が使用可能なモードである場合だけ、プロセスで実行可能です。このプロセスは、「使用可能」モードではありません。

ユーザーの処置: プロセスを使用可能にし、再度実行してください。

DWC07350E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のコマンド・リスト・タイプ *command-list-type* を処理するためのエージェントを獲得していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: ウェアハウス・サーバーは、エージェント処理を開始できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07351E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のタイプ *job-type* のコマンド・リストを処理するために使用するエージェントをリリースしていたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: データウェアハウス・センターがエージェント処理をシャットダウンしているときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07352E ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* のタイプ *job-type* のコマンド・リストを作成していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 詳細な情報は直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07353E ウェアハウス・サーバーがデータベース *database-name* のタイプ *command-list-type* のコマンド・リストを作成していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 詳細な情報は直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07354E ステップ *step-name* にはステップが処理されるように定義されたエージェント・サイトがありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07355E データベース *database-name* への接続性のあるエージェント・サイトが定義されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07356E エージェントはステップ *step-name* のエディション *edition-number* に対してコマンド・タイプ *command-type* を処理していましたが、失敗しました。

説明: エージェントは処理中にエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07357E ステップ *step-name* のエディション *edition-number* の行カウント照会が失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントは行カウント照会を処理しているときにエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07358E ステップ *step-name* の別名 *alias-name* が見つかりませんでした。このエラーは、タイプ *command-type* のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウス・センターはコントロール・データベースから、与えられた別名のメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07400E ウェアハウス・サーバーがセマフォ *semaphore-name* を獲得できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07401E ウェアハウス・サーバーがセマフォ *semaphore-name* を解放できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07450E ウェアハウス・サーバーがスケジューラーを初期化しているときに、直前のエラーが発生しました。

説明: エラーが発生したため、ウェアハウス・サーバーはスケジューラーを開始できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07451E ウェアハウス・サーバーがスケジューラーを終了しているときに、直前のエラーが発生しました。

説明: エラーが発生したため、ウェアハウス・サーバーはスケジューラーを停止できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC07454E ウェアハウス・サーバーは、スケジューラーのスレッドを開始できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07500I ウェアハウス・サーバーがステップ *step-name* のエディション *edition-number* を取り消しました。

説明: 通知メッセージ。

DWC07501E ステップ *step-name* のエディション *edition-number* が移植されていなかったために、ウェアハウス・サーバーはそのエディションを取り消すことができませんでした。

説明: 取り消し要求を受信したときはエディションはすでに実行されていなかったため、ステップ・エディションを取り消せませんでした。

DWC07502I ステップ *step-name* のエディション *edition-number* がすでに取り消されているときに、ウェアハウス・サーバーはそのエディションを取り消す重複要求を受信しました。

説明: 通知メッセージ。ステップのエディションを取り消す要求を処理していたときに、さらにそのエディションを取り消す要求を受信しました。エディションは取り消されます。

DWC07550E ウェアハウス・サーバーのメモリーがなくなりました。

説明: ウェアハウス・サーバーの操作に必要な量の仮想記憶域がありません。このメッセージを発行した後に、ウェアハウス・サーバー・サービスはシャットダウンされます。

ユーザーの処置: データウェアハウス・センター・サーバーのあるマシンの仮想記憶域の量を増やして、データウェアハウス・センター・サービスを再始動してください。

DWC07551E 例外が発生したために、ウェアハウス・サーバーは終了します。

説明: 解決できないプログラムが例外が発生したために、オペレーティング・システムはウェアハウス・サーバーを終了します。

ユーザーの処置: 例外およびこのエラーの前のイベントについてできるだけ多くの情報を集めて、問題を弊社のソフトウェア・サポートに報告してください。ウェアハウス・サーバーの再始動を試行してください。

DWC07552E ウェアハウス・サーバーが予期せずに終了しました。

説明: ウェアハウス・サーバーに重大な内部エラーが発生したのでシャットダウンされます。

ユーザーの処置: 例外およびこのエラーの前のイベントについてできるだけ多くの情報を集めて、問題を弊社のソフトウェア・サポートに報告してください。ウェアハウス・サーバーの再始動を試行してください。

DWC07700I ウェアハウス・サーバーがエージェントから警告を受信しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: ありません。

DWC07900E エディション *edition-number* が見つかりませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07901E 指定された状況 *edition-status* が無効であったため、ステップ *step-name* のエディション *edition-number* を完了済みとしてマークできませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07902E エディション *edition-number* は *timestamp* に移植されるようにスケジュールされましたが、まだ移植が開始されていなかったために、ステップ *step-name* が最新の状態になっていませんでした。

説明: 失敗したステップは他のステップのデータに依存していました。他のステップは失敗したステップが開始されたときにはスケジュールよりも遅れて実行されていたため、移植できませんでした。

ユーザーの処置: 「進行中の作業」ウィンドウの「すぐに実行」関数を使用して、他のステップを強制的に移植し、その後従属ステップを再度実行してみてください。

DWC07903E エディション *edition-number* が現在移植されていなかったために、ステップ *step-name* が最新の状態になっていません。

説明: 失敗したステップは他のステップのデータに依存していました。他のステップは失敗したステップが開始されたときには処理が完了していなかったため、移植できませんでした。

ユーザーの処置: 他のステップが処理を完了するのを待って、失敗した従属ステップをもう一度やり直してください。

DWC07904E エディション *edition-number* は再試行されるのを待機していたので、ステップ *step-name* が最新の状態になっていません。

説明: 失敗したステップは他のステップのデータに依存していました。他のステップは失敗したステップを実行しようとしたときに、他のステップは再試行中だったため、移植できませんでした。

ユーザーの処置: 他のステップが処理を完了するのを待って、失敗した従属ステップをもう一度やり直してください。

DWC07905E エディション *edition-number* が現在ページ中だったので、ステップ *step-name* が最新の状態になっていませんでした。

説明: 失敗したステップは他のステップのデータに依存していました。他のステップは失敗したステップを実行しようとしたときに、他のステップはページ中だったため、移植できませんでした。

ユーザーの処置: 他のステップがページを完了するのを待って、失敗した従属ステップをもう一度やり直してください。

DWC07906E エディション *edition-number* は、移植される最後のエディションで正常に移植されなかったために、ステップ *step-name* が最新の状態になっていませんでした。

説明: 失敗したステップは他のステップのデータに依存していました。他のステップが最後の移植の試みに失敗したため、移植できませんでした。

ユーザーの処置: 他のステップを再実行し、失敗した従属ステップをもう一度やり直してください。

DWC07907E どのエディションも正常に移植されなかったため、ステップ *step-name* が最新の状態になっていませんでした。

説明: 失敗したステップは他のステップのデータに依存していました。他のステップに処理を正常に完了したエディションがなかったため、移植できませんでした。

ユーザーの処置: 他のステップを実行し、失敗した従属ステップをもう一度やり直してください。

DWC08000E 試行された操作は、現在このエージェントではサポートされていません。

説明: 使用を試みたデータウェアハウス・センター機能は、このエージェント・サイト・プラットフォームでは現在サポートされていません。

ユーザーの処置: 現在のエージェント・サイトではこのデータウェアハウス・センター機能を使用しないでください。データウェアハウス・センター・サービスでこの機能の可用性と代替機能の有無をチェックしてください。

DWC08005I データウェアハウス・センター・エージェントはシャットダウンされます。

説明: 通知メッセージ。エージェントはサーバーが発行したシャットダウン・コマンドを実行しました。

DWC08010E エージェント・メッセージがオーバーフローし、戻されたカタログ・リスト内で *initial-count* 項目から *final-count* 項目で切り捨てられました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。原因として、返された表のリストが大きすぎることを考えられます。

ユーザーの処置: 表修飾子を使用して返される表の数を減らしてください。問題が解決されない場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08015W サンプルとなるファイルが 1 MB より大きいサイズでした。1 MB を超えるデータは切り捨てられます。

説明: ファイル属性を定義しやすくするため、ウェアハウス・エージェントは定義されるウェアハウス・ファイル・ソースからのサンプル・データの取り出しを試行しました。しかし、このファイルが 1 MB を超えるサイズであるため、データの最初の MB 分のみブラウザ用に戻されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DWC08205E エージェントが受け取った入力パラメーターが少なすぎます。サーバー・ポートおよびホスト名を提供する必要があります。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08206E エージェントが受け取った入力パラメーターが多すぎます。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08207E エージェントが無効なエディション・タイプを受け取りました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC08210E エージェントが次の無効な入力パラメーターを受信しました: *parameter-name*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08215E エージェント・コマンドは順不同です。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08220E エージェント・デーモンが無効なコマンドを受け取りました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08221E エージェント・デーモンが割り当てられたポートを介して通信できません。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: サーバー、ロガー、エージェントによって要求されたポート番号が他のツールで使用でないことを検査してください。

DWC08225E システムのメモリーが不足しています。ページ・ファイルの限界に到達しました。これ以上のエージェントは作成できません。

説明: システムの仮想記憶域が不足しているため、データウェアハウス・センター・エージェント・デーモンはエージェント処理を開始できませんでした。

ユーザーの処置: エージェント・サイト・マシンの仮想記憶域量を増やすか、そのマシンのいくつかのアプリケーションをシャットダウンするか、または同時実行エージェントを減らしてください。

DWC08405E 入力コマンド行が長すぎます。次のコマンドです: *command*。

説明: エージェントへ渡されたファイル処理コマンドが長すぎました。

ユーザーの処置: 可能ならコマンドを短くしてください。それでも問題が解決されなければ、弊社ソフトウェア・サポートにこの情報をお知らせください。

DWC08410E エージェントはデータウェアハウス・センター・プログラムを実行できませんでした。

説明: 2 次戻りコード (RC2) が戻された場合は、エージェントは実行したが、実行中に失敗しました。RC2 の値はデータウェアハウス・センター・プログラムの返す戻りコードです。

Windows エージェントで RC2 = 1 の場合、これはプログラム・ノートブックのプログラム・ページにある完全修飾のプログラム名が正しくないか、そのプログラムがインストールされていないことを示している場合があります。

AIX エージェントで RC2 = 127 の場合、これはプログラム・ノートブックのプログラム・ページにある完全修飾のプログラム名が正しくないか、そのプログラムがインストールされていないか、またはこのエージェント・サイトに指定されたユーザー ID に実行権限と読み取り権限がないことを示している場合があります。両方の権限タイプが必要です。

RC2 が返されなかった場合、データウェアハウス・センター・プログラムのファイルが見つからなかったか、実行可能な形式ではありませんでした。

ユーザーの処置: RC2 値を調べてください。データウェアハウス・センター・プログラムがゼロ以外の戻りコードを返した場合、データウェアハウス・センター・プログラムの資料に記述されている、その戻りコードに対する推奨アクションを取ってください。プログラムがデータウェアハウス・センターとともに出荷された弊社のプログラムである場合、資料は CD-ROM のデータウェアハウス・センター・プログラムのディレクトリーにあります。

RC2 の値が NULL またはゼロである場合、データウェアハウス・センター・プログラムに指定されたパスとファイル名が有効であることを検査してください。有効であればデータウェアハウス・センター・プログラムが実行可能な形式であることを検査してください。

戻りコードの詳しい説明については、Visual Warehouse マニュアルの Managing ETI*Extract Conversion Programs の付録 B を参照してください。

DWC08411E エージェントが FTP コマンドを発行できませんでした。

説明: エージェントはホストへの FTP 接続を確立できませんでした。

ユーザーの処置: FTP に提供されたホスト名、ユーザー ID、パスワードが正しいことを確認してください。ホスト名、ユーザー ID、およびパスワードが正しければ、

以下を行ってください。

- 現在のサイトで、ftp が FTP セッションを開始するために使用されるコマンドであることを検査してください。
- FTP デーモン処理がホストで実行中であることを確認してください。
- エージェント・サイトからホストへ ping コマンドを発行して、TCP/IP 接続が存在することを確認してください。

DWC08412E エージェントは FTP コマンドを削除できませんでした。

説明: FTP 操作が失敗しました。FTP が検索したファイルは、もうエージェント・サイトにないか、またはそのファイルが別の処理で使用されています。

ユーザーの処置: ファイルがデータベース定義で指定されたパスに対して検索され、ファイルが存在していることを検査してください。存在する場合は、別の処理で使用されているかどうかを判別してください。

DWC08413E ファイルが実行可能でないか、無効な実行可能ファイル形式です。

説明: データウェアハウス・センター・プログラムの形式が無効なため、実行できません。参照されたファイルは本当に実行可能でないか、または損傷されて実行できません。

ユーザーの処置: データウェアハウス・センター・プログラム・ファイルが存在し、実行可能であることを検査してください。

DWC08414E コマンド・インタープリターが損傷しているか、存在しません。

説明: オペレーティング・システムのコマンド・インタープリターまたはシェルが損傷しているか、またはありません。

ユーザーの処置: オペレーティング・システムのコマンド・インタープリターまたはシェル・プログラムがエージェント・サイトで機能していることを確認してください。

DWC08420E 十分なメモリーがないか、使用可能メモリーが破壊されているか、または無効なブロックが存在しています。

説明: エージェントが処理を作成、またはデータ・バッファーを割り振るには、エージェント・サイト・マシンの仮想記憶域が不十分でした。

ユーザーの処置: エージェント・サイト・マシンの仮想

記憶域量を増やすか、そのマシンのいくつかのアプリケーションをシャットダウンするか、または同時実行エージェントを減らしてください。エージェント・サイト・マシンを再起動すると、空きメモリーが増える場合もあります。

DWC08425E 処理されるファイルが読み取り専用でした。 次のファイル名です: *filename*。

説明: エージェントはそのファイルに対して読み取り専用権限しかないため、データウェアハウス・センターは FTP で転送されたファイルの削除も書き込みもできませんでした。

ユーザーの処置: FTP で転送されるファイルが、エージェント・ユーザー ID に読み取りおよび書き込み権限を確実に付与されてエージェント・サイト・マシンに作成されるように、システム設定を変更してください。

DWC08430E ファイルまたはパスが見つかりませんでした。 次のファイル名です: *filename*。

説明: ファイルが見つからないため、データウェアハウス・センターは FTP で転送されたファイルの削除も書き込みもできませんでした。 別の処理またはユーザーがファイルを移動または削除した可能性があります。

ユーザーの処置: ステップをもう一度実行して、ターゲット・ファイルの作成後に他の処理またはユーザーが削除または移動しないようにしてください。 データウェアハウス・センターは処理が完了するとファイルを削除します。

DWC08440E Intersolv ODBC ドライバー・プロファイルの更新に失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントが ODBC ドライバーの使用する QETXT.INI ファイルを更新または作成できなかったか、データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: QETXT.INI ファイルが作成されるディレクトリー (システム・ディレクトリー内のディレクトリーまたはソース・テキスト・ファイルのあるディレクトリー) に対する読み取りおよび書き込み権限がエージェントにあることを検査してください。 エージェントに、このディレクトリーに対する読み取りおよび書き込み権限があれば、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08445E テキスト・ファイルにフィールド

field-name に対する無効なデータ・タイプがあります。 **SQL データ・タイプ** *data-type* はサポートされていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08450E ユーザー DLL *dll-name* をロードできませんでした。

説明: データウェアハウス・センターはダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) データウェアハウス・センター・プログラムをメモリーにロードできなかったか、DLL を検出できませんでした。

ユーザーの処置: DLL が見つからないか、損傷しているか、またはパスが正しくありません。 DLL ファイルが存在していてまだ有効で、エージェント・サイトのライブラリー・パスがデータウェアハウス・センター・プログラム定義に指定されたパスを含んでいるか、DLL へのパスがエージェント・サイトのライブラリー・パスに組み込まれていることを検査してください。

DWC08455E ユーザー関数 *function-name* のアドレスを見つけれませんでした。

説明: データウェアハウス・センターは指定された DLL 内で指定された関数を検出できませんでした。

ユーザーの処置: 有効な DLL エントリー・ポイントがデータウェアハウス・センター・プログラムの定義に指定されて指定されていることを検査してください。 データウェアハウス・センター デスクトップで「設定」> 「データウェアハウス・センター・プログラム」を選択してください。

DWC08457E ユーザー関数 *function-name* を実行できませんでした。

説明: OS/2 エージェントが呼び出された DLL の実行に失敗しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨アクションを取ってください。

DWC08460E FTP が失敗しました。ユーザー ID、パスワード、およびファイル名を確認してください。ホストによって、大文字小文字を区別する場合があります。

説明: FTP コマンドはソース・ファイルをエージェント・サイト・マシンへ転送するのに失敗しました。

ユーザーの処置: 転送を試みているファイルが FTP サーバー・マシンに存在すること、および FTP コマンドに提供したユーザー ID とパスワードが正しいことを確認してください。

DWC08461E コード・ページ変換表をオープンしているときか、Unicode とローカル・ロケールとの間でデータを変換しているときに、エラーが発生しました。

説明: 要求を実行するためにリモート・データウェアハウス・センター・エージェントに送信しましたが、リモート・エージェントはコード・ページ変換表をオープンして要求メッセージをローカル・ロケールに変換することができませんでした。

ユーザーの処置: エージェントのあるオペレーティング・システムに、Unicode からローカル・ロケールへの正しい変換表があることを確認してください。UNIX のエージェントで使用されているローカル・ロケールを検出するには、IWH. 環境ファイルを参照してください。ローカル・ロケールが誤っていた場合は、IWH. 環境ファイルを編集して、エージェント・デーモンを再始動してください。

Sun Solaris プラットフォームで実行中にこのエラーを受信した場合、環境変数 `VWA_LOCALE_TABLE` を使用してローカルの Solaris コード・セット・ストリングを定義してください。エージェント・デーモンを再始動して再試行してください。

DWC08462E ワイド文字からマルチバイト文字へエージェント・メッセージを変換中にエラーが起きました。

説明: リモート・エージェントがウェアハウス・サーバーに応答を送信しようとしたのですが、応答メッセージをワイド文字形式からマルチバイト文字形式に変換しているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エージェントが UNIX プラットフォームで実行中だった場合は、IWH. 環境ファイルが正しいロケールに設定されていることを確認してください。正しくない場合は、IWH. 環境ファイルを編集して、デーモンを再始動してください。そうでない場合は、オペレーティング・システムの技術サポート担当者に連絡して、オペレーティング・システムに適切なメインテナ

ンスが適用されていることを確認してください。

DWC08463E マルチバイト文字からワイド文字へエージェント・メッセージを変換中にエラーが起きました。

説明: リモート・エージェントが要求メッセージを処理しようとして、メッセージをマルチバイト文字形式からワイド文字形式へ変換中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エージェントが UNIX プラットフォームで実行中だった場合は、IWH. 環境ファイルが正しいロケールに設定されていることを確認してください。正しくない場合は、IWH. 環境ファイルを編集して、デーモンを再始動してください。そうでない場合は、オペレーティング・システムの技術サポート担当者に連絡して、オペレーティング・システムに適切なメインテナンスが適用されていることを確認してください。

DWC8470N ファイル *filename* をオープンできません。

説明: ファイルのオープン中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: そのファイルが存在すること、使用したユーザー ID が、そのファイルにアクセスするための権限を持っていることを確認してください。

DWC08472E データウェアハウス・センター・トランスフォーマーをターゲット・データベースに登録できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター・トランスフォーマーをターゲット・データベースに登録できませんでした。

ユーザーの処置: 詳細についてはデータウェアハウス・センターの 2 次戻りコード、およびシステム・メッセージを参照してください。

DWC08474E データウェアハウス・センター・トランスフォーマーをターゲット・データベースからドロップできませんでした。

説明: データウェアハウス・センター・トランスフォーマーをターゲット・データベースからドロップできませんでした。

ユーザーの処置: 詳細についてはデータウェアハウス・センターの 2 次戻りコード、およびシステム・メッセージを参照してください。

DWC08505E エージェントは ODBC 環境ハンドルの割り振りに失敗しました。

説明: ODBC Driver Manager は環境ハンドルのストレージを割り振れませんでした。システムのメモリーが不足しているか、ODBC Driver Manager に重大なエラーが発生しています。

ユーザーの処置: マシンの仮想記憶域量を確認してください。仮想記憶域不足でない場合は、ODBC Driver Manager の再インストールを試みてください。

DWC08476C Web Connector ユーザー定義プログラムが実行しませんでした。Web 用 IBM Warehouse Manager Connector がインストールされていないか、インストールに失敗しています。

説明:

ユーザーの処置: この Warehouse Manager の機能を使用したい場合は、Web 用 IBM Warehouse Manager Connector をインストールしなければなりません。製品がインストール済みの場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC08478C SAP Connector のロード中にエラーが発生しました。

説明: SAP Connector がインストールされていないか、またはインストール後に設定が変更されました。

ユーザーの処置: SAP Connector がインストールされていること、および設定が正しいことを確認してください。

DWC08480N 通知プログラムの実行が失敗しました。

説明: 通知ステップが失敗し、RC2 に戻りコードが含まれています。戻りコードを、以下にリストします。

- 1 - 1 つまたは複数の受信側が無効です
- 2 - 通知プログラムに対するパラメーターを含んでいない入力ファイルをオープンできません
- 4 - WSASStartup() の呼び出しでエラーが発生しました
- 6 - socket() の呼び出しでエラーが発生しました
- 8 - SMTP サーバーを取得できません
- 10 - ホスト名が無効です
- 12 - SMTP サービスが使用不可です
- 14 - SMTP コマンド呼び出しが失敗しました
- 16 - 内部エラー
- 18 - SMTP コマンドの受信でエラーが発生しました
- 20 - トレース・ファイルをオープンできません

- 22 - SMTP コマンドの送信でエラーが発生しました
- 24 - connect() の呼び出しでエラーが発生しました
- 26 - 指定された受信側がすべて無効です
- 28 - VWS_LOGGING 変数が設定されていないなどの環境のエラー

ユーザーの処置: エラーに関する詳細な記述については、VWS_LOGGING ディレクトリー内のトレース・ファイル `trc-smtp*.log` をチェックしてください。ソケット関連のエラーの場合は、マシン上で TCP/IP がフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。SMTP エラーの場合は、「通知」パネルで「メール・サーバー」に指定した名前が SMTP サーバーであることを確認してください。SMTP サーバーを停止し、再始動することで解決する場合があります。

DWC08510E エージェントは ODBC 接続ハンドルの割り振りに失敗しました。

説明: エージェントは ODBC 接続ハンドルを入手できませんでした。これはストレージの割り振り中のエラー、データベース・エラー、またはオペレーティング・システム・エラーが原因である可能性があります。

ユーザーの処置: マシンの仮想記憶域量を確認してください。仮想記憶域不足でない場合は、このエラー・メッセージに伴う SQLSTATE を確認してください。

DWC08515E エージェントは次の ODBC データ・ソースに接続できませんでした: *source-name*。

説明: 示されたデータベースへの接続が失敗しました。失敗の理由は数多くあります。以下が最も一般的な失敗の理由です: データベースが ODBC システム DSN としてカタログされていない、エージェント・サイトのマシンから示されたデータベースへの接続性に問題があるか、または指定されたユーザー ID かパスワードが正しくありません。

ユーザーの処置: 提供されたユーザー ID とパスワードが必ず有効であるようにしてください。

指定のデータベースが ODBC Driver Manager でシステム DSN としてカタログされていることを確認してください。AS/400 データベースにアクセスするのに CA/400 を使用している場合は、最新の CA/400 サービス・パックがインストールされており、`cwbcfg.exe` を実行して CA/400 がシステム・タスクとして実行可能になっていることを確認してください。サービス・パックおよび `cwbcfg.exe` の詳細については、<http://www.as400.ibm.com/clientaccess/service.htm> を参照してください。またはデータベース・ベンダーの資料で

接続障害の原因として考えられるものを調べてください。

DWC08516E エージェントは ODBC ソース:

source-name に接続オプションを設定できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントは SQLExecute() 呼び出しをデータベースに発行しようとしたが、ゼロ以外の戻りコードを受信しました。 イベント・ログをチェックして、追加の SQL エラー・メッセージがないか調べてください。

ユーザーの処置: 追加の SQL エラー・メッセージ・イベント・ログがない場合は、DB2 トレースまたは ODBC トレースのいずれか適用できる方をオンにしてください。

DWC08520E エージェントは ODBC ステートメント・ハンドルの割り振りに失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントは ODBC ステートメント・ハンドルを獲得できませんでした。 このエラーはソースへの接続が確立されないか、または ODBC Driver Manager がステートメント・ハンドルにメモリーを割り振れない場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: マシンの仮想記憶域量を確認してください。 仮想記憶域不足でない場合は、データベース接続がドロップされていたか判別してください。 この問題を必ず再現できる場合は、データベース・ベンダーのトレース機能を調べてデータベース接続がドロップしているかどうかを判別してください。

バイナリー・パスやライブラリー・パスなどの環境設定が正しく設定されているか確認してください。

DWC08525E エージェントは SQL ステートメント *statement* の実行に失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントが実行しようとした SQL ステートメントが失敗しました。

ユーザーの処置: ステップのステップ・ノートブックで SQL エラー処理の設定を参照してください。 エラーのハンドル方法が希望通りに設定されていることを確認してください。 この設定に満足したら、データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

DWC08530E エージェントがソース・データベースからフェッチできませんでした。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントがソース結果セットから行をフェッチしている間に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

DWC08535E エージェントはターゲット・データベースに挿入できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントがターゲット表にデータを挿入している間に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

SQL コードが 30081 で SQLSTATE が 40003 であれば、DB2 のログをチェックしてターゲット表にデータを挿入するだけの十分なログ・スペースがあることを確認してください。

DWC08540E エージェントは ODBC ソース:

database-name から切断できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントは示されたデータベースから切断できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

DWC08541E ODBC ソースに対する接続が存在しません。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントはデータベースから切断するコマンドを受信しましたが、接続はすでに終了しています。

DWC08545E エージェントは結果セット内の列の合計数を検索できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントは結果セット内の列の数を獲得できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

DWC08546E エージェントは列属性の検索に失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントは、データベース管理システムから列のメタデータを獲得できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

DWC08547E エージェントはターゲット・データベースに挿入された行の合計数を検索できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントはターゲット・データベースからターゲット表に挿入された行数を獲得できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

DWC08550E エージェントは ODBC SQLDescribeCol API 呼び出しで失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントは列からメタデータを獲得できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

DWC08555E エージェントは列属性をソース・データベースから選択された列に列属性をバインドできませんでした。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントはバッファーをバインドして、結果セットの列からフェッチしたデータを保留することができませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

DWC08560E エージェントは列属性をターゲット・データベースの挿入列にバインドできませんでした。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントはバッファーをバインドして、ターゲット表の列に挿入されたデータを保留することができませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQLCODE の値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

ステップがトランスフォーマーを参照する場合は、データウェアハウス・センター・ストアード・プロシージャがターゲット・データベースに挿入されていることを確認してください。

ステップがユーザー定義のストアード・プロシージャを参照する場合は、ストアード・プロシージャ名が定義どおりに正しく入力されているかチェックしてください。このフィールドには大文字小文字の区別があるからです。また、ストアード・プロシージャのパスがウェアハウス・エージェント・システムの DB2 からアクセス可能であることを確認してください。

DWC08565E エージェントは実行のための SQL ストリングの準備に失敗しました。ステートメントは次のとおりです: *statement*。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントは動的 SQL ステートメントを準備できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

DWC08570E エージェントは内部エラーで失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08575E エージェントは ODBC SQLExecute API 呼び出しで失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントがデータベースに SQLExecute() 呼び出しを発行しようとしたときに、ゼロ以外の戻りコードを受信しました。

ユーザーの処置: イベント・ログをチェックして、追加の SQL エラー・メッセージがないか調べてください。なければ DB2 トレースまたは ODBC トレース (適用できる方) をオンにして、ステップをもう一度実行してください。

DWC08580E エージェントは次の ODBC ソースにコミットできませんでした:
data-source-name。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントは示された ODBC ソースに加えられた変更点をコミットできませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメン

テーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

DWC08585E エージェントは次の ODBC ソースにロールバックできませんでした:
data-source-name.

説明: データウェアハウス・センター・エージェントは示された ODBC ソースに加えられたアクションをロールバックできませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

DWC08590E エージェントはステートメント・ハンドルの解放に失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントは ODBC ステートメント・ハンドルを解放できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

DWC08600E エージェントはカタログ表情報の検索に失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントは要求された表のメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

DWC08605E エージェントはカタログ列情報の検索に失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントは要求された列のメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

DWC08610E 更新または挿入されたデータはありません。

説明: ステップを実行したときに返された行はありません。このエラー・メッセージは空の結果セットがエラーであることを指定した場合だけに戻されます。

DWC08615E インポート表名は大文字小文字を区別しません。指定された名前は、正しくないか存在していないかのいずれかです。次の名前です: *table-name*。

説明: 表またはインポートを試みた表 (1 つまたは複数) は検出されませんでした。このエラーは通常無効な表名または修飾子 (作成者) が原因です。

ユーザーの処置: 提供した表名および修飾子 (作成者) のスベルおよび大文字小文字の区別を確認してください。プラットフォームによっては、大文字小文字を区別します。

DWC08620E INSERT に *insert-list-count* 列があったときに、SELECT ステートメントに *select-list-count* 列がありました。

説明: ターゲット表に挿入される値の数が、ソース表から選択される列の数と異なります。

ユーザーの処置: ターゲット表の列の数が、ステップ・ノートブックの列マッピング・ページに定義されている選択リストと同じ数だけあることを検査してください。

DWC08625E 列 *type* が無効またはサポートされない SQL データ・タイプ: *unknown-data-type* を使用しました。ご使用のリソースおよびステップ定義をチェックしてください。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08630E ストアード・プロシージャを実行中にエラーが起きました。詳細については 2 次戻りコードとターゲット・ウェアハウス・データベースにある *<your-control-database-qualifier>.logTable* を参照してください。

説明: トランスフォーマーの実行に失敗しました。

ユーザーの処置: トランスフォーマー用のターゲット・データベースの指定ログ表の詳細メッセージを調べて、問題を訂正してください。ターゲット・データベースの指定ログ表を調べても問題が判別できない場合は、DB2 CLI トレースをオンにして、DB2 診断メッセージを調べてください。

DWC08635E ストアード・プロシージャーを実行中に
「データが見つかりません」というエラー
が起きました。

説明: ストアード・プロシージャーまたはトランスフォーマーを実行するよう要求しましたが、データベース・マネージャーは実行するストアード・プロシージャーまたはトランスフォーマーを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: この問題を診断するには、DB2 CLI トレースまたは ODBC トレース (適用できる方) をオンにして、診断メッセージを調べてください。

DWC08640E ウェアハウス・トランスフォーマーがウェアハウス・エージェント・システムにインストールされていませんでした。

説明: ウェアハウス・トランスフォーマーにアクセスしようとしたのですが、DB2 は、エージェントが常駐するシステムでクラス・ファイルを検出しませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・トランスフォーマーをエージェント・システムにインストールしてから再度アクセスしてください。

DWC08700E エージェントは ODBC の実行の取り消しに失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター・エージェントは SQL ステートメントの処理に割り込めませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切なアクション過程を決定してください。

DWC08710E このジョブを取り消すには遅すぎます。
取り消しは行われません。実行されている
現行コマンドは *command-name* です。

説明: 通知メッセージ。変更点をコミットし、変更点をロールバックして、ソースまたはターゲットから切断してしまうと、ステップ・エディションを取り消せません。ターゲット表への変更はすでに行われていました。

DWC08715E データウェアハウス・センター・エージェントはソースから主キー情報を検索できませんでした。

説明: このエラーは多くの異なる問題によって起こされます。問題の多くは、通信リンク障害、メモリー割り振り問題、有効期限切れタイムアウト、無効なカーソル状態、または無効なストリングまたは無効なバッファ長のような内部問題です。

ユーザーの処置: エラーの発生源を判別してください。

通信リンクが接続されていること、十分なメモリーがあること、タイムアウトが発生していないことを確認してください。

通信リンクが接続されていて、十分なメモリーがあり、タイムアウトが発生していない場合は、内部エラーが発生しています。エージェント・トレースを実行して、技術サポートへ連絡してください。

DWC08720E データウェアハウス・センター・エージェントはソースから外部キー情報を検索できませんでした。

説明: このエラーは多くの異なる問題によって起こされます。問題の多くは、通信リンク障害、メモリー割り振り問題、有効期限切れタイムアウト、無効なカーソル状態、または無効なストリングまたは無効なバッファ長のような内部問題です。

ユーザーの処置: エラーの発生源を判別してください。通信リンクが接続されていること、十分なメモリーがあること、タイムアウトが発生していないことを確認してください。

通信リンクが接続されていて、十分なメモリーがあり、タイムアウトが発生していない場合は、内部エラーが発生しています。エージェント・トレースを実行して、技術サポートへ連絡してください。

DWC08730E データウェアハウス・センター・エージェントは始動時に無効なステップ・タイプ・パラメーターを受信しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エージェント・トレースを実行して、技術サポートへ連絡してください。

DWC08770N サブスクリプションの処理中に、レプリケーション・アプライ・プログラムがエラーで終了しました。 *Apply-Error*

説明: レプリケーション・サブスクリプションの処理中に、アプライ・プログラムが状況コード = -1 (エラー) で終了しました。

ユーザーの処置: サブスクリプション・エラーについて詳しくは、IBMSNAP_APPLYTRAIL 表の Apply 状況列にあるサブスクリプションをチェックしてください。サブスクリプションが正しくセットアップされていることを確認してください。アプライ・トレースを実行するには、データウェアハウス・エージェント・トレース = 4 に設定して、レプリケーション・ステップを再始動します。アプライ・トレースが、サブスクリプショ

ン・アプライ修飾子のファイル applyqual.trc に書き込まれます。

DWC08771N レプリケーション・アプライ・プログラムを開始しようとしたとき、エラーが発生しました。 *Error-Type*

説明: エージェントがレプリケーション・アプライ・プログラムを開始しようとした。サブスクリプションの処理および IBMSNAP_APPLYTRAIL 表への書き込みを開始する前に、アプライが失敗しました。

ユーザーの処置: ターゲット・システムのためにアプライ・プログラムをデータウェアハウス・センターの外部から開始できるかチェックするために、コマンド行からアプライを起動してください。V8 のレプリケーション・システムの場合、パスワード・ユーティリティ・プログラムを使用してアプライ・パスワード・ファイルが作成されていることを確認してください。

DWC08772N レプリケーション・アプライ・プログラムのパスワード・ファイルの作成中に、エラーが発生しました。

説明: エージェントは、アプライ・プログラム・パスワード・ファイルを作成できませんでした。

ユーザーの処置: アプライのターゲット・システムに、新しいファイルを作成できることを確認します。

DWC08773N レプリケーション・サブスクリプションの作成中に、SQL エラーが発生しました。

説明: エージェントは、レプリケーション・サブスクリプションをレプリケーション・コントロール表に挿入しようとしたときに、SQL エラーを受信しました。

ユーザーの処置: ターゲット・システムにレプリケーション・コントロール表がインストールされていることを確認します。ソース・レプリケーション表用のコントロール表に、アプライ修飾子用のサブスクリプションがまだ存在していないことを確認します。

DWC08774N レプリケーション・サブスクリプションの削除中に、SQL エラーが発生しました。

説明: エージェントは、レプリケーション・サブスクリプションをレプリケーション・コントロール表から削除しようとしたときに、SQL エラーを受信しました。

ユーザーの処置: ターゲット・システムにレプリケーション・コントロール表がインストールされていることを確認します。

DWC08775N レプリケーション・サブスクリプションの更新中に、SQL エラーが発生しました。

説明: エージェントは、レプリケーション・サブスクリプションをレプリケーション・コントロール表で更新しようとしたときに、SQL エラーを受信しました。

ユーザーの処置: サブスクリプションがレプリケーション・コントロール表から削除されていないことを確認します。

DWC08776N レプリケーション・ソース表のインポート中に、SQL エラーが発生しました。

説明: エージェントは、定義済みのレプリケーション・ソースについて IBMSNAP_REGISTER 表を読み取る際に、SQL エラーを受信しました。

ユーザーの処置: ターゲット・システムにレプリケーション・コントロール表がインストールされていることを確認します。

DWC08777N レプリケーション・キャプチャー・スキーマのインポート中に、SQL エラーが発生しました。

説明: エージェントは、レプリケーション・キャプチャー・スキーマについて IBMSNAP_CAPSCHEMAS 表を読み取る際に、SQL エラーを受信しました。

ユーザーの処置: ターゲット・システムにレプリケーション・コントロール表がインストールされていることを確認します。

DWC08800E 試行された操作は、現在このエージェントではサポートされていません。

説明: 使用しようとした機能は、選択したこのリリースのエージェント・サイトのデータウェアハウス・センター・エージェントにはサポートされていません。

ユーザーの処置: この関数を使用しないようにするか、この関数をサポートする別のプラットフォームで実行しているエージェントを使用してください。

DWC08900N 接続パラメーターが無効なため、WebSphere Site Analyzer への接続が失敗しました。

説明: 誤ったパラメーター設定値のために、ユーザー定義プログラムは WebSphere Site Analyzer サーバーに接続できませんでした。

ユーザーの処置: ソースが作成されたときに指定された接続パラメーター (WebSphere Site Analyzer のサーバー

名およびポート番号) が正しいことを確認してください。

DWC08901N WebSphere Site Analyzer の認証が失敗しました。

説明: ユーザー ID またはパスワード、あるいはその両方が誤っているため、Connector プログラムは Site Analyzer サーバーの認証に失敗しました。

ユーザーの処置: WebSphere Site Analyzer の正しいユーザー ID とパスワードを入力したことを確認してください。

DWC08902N WebSphere Site Analyzer HTTP サーバーに接続できませんでした。

説明: コネクター・プログラムは、WebSphere Application Server HTTP サーバーへの接続を確立できませんでした。

ユーザーの処置: WebSphere Administration Server が稼働中であるかどうか確認してください。 ネットワーク接続状況を確認してください。

DWC08903N WebSphere Site Analyzer HTTP サーバーが、エラー・コード *errorcode* を戻しました。

説明: Connector プログラムは、WebSphere Site Analyzer HTTP サーバーに接続している間に、有効な HTTP 戻りコードを取得できませんでした。

ユーザーの処置: すべての WebSphere Site Analyzer アプリケーション・サーバーが稼働していることを確認してください。 戻りコードの説明については、HTTP の戻りコードの資料 (RFC 2068) を参照してください。

DWC08904I ポーリング・ステップ・プログラムは、正常に実行されました。 Web Tracker データを処理するための最後のタイム・スタンプは *timestamp* です。

説明:

ユーザーの処置:

DWC08906I Web Connector ユーザー定義プログラムは正常に実行されました。 ステップへの入力として選択されたデータ・インポートはありませんでした。

説明:

ユーザーの処置: Web トラフィック・ポーリング・ステップの入力として、ポーリング用のデータ・インポ

ートの選択が必要な場合もあります。

DWC08907W WebSphere Site Analyzer データ・インポート *data-import* が警告コード *SACode* を戻しました。

説明: WebSphere Site Analyzer 警告コード *SACode* が、データ・インポート *data-import* のポーリング状況として戻されました。

ユーザーの処置: 詳しくは、WebSphere Site Analyzer の資料を参照してください。

DWC08908N WebSphere Site Analyzer クリック・ストリーム・データ同化処理は完了していません。

説明: WebSphere Site Analyzer は、ポーリング・ステップへの入力として選択されたデータ・インポートから WebSphere Site Analyzer Webmart へ Web トラフィック・データを抽出する処理を依然として実行中です。

ユーザーの処置: Web トラフィック・ポーリング・ステップ・プロパティの処理オプションのタブで指定されている回数だけ再試行した後で、Web トラフィック・ポーリング・ステップが失敗しました。 WebSphere Site Analyzer Webmart のデータは、Warehouse Manager による抽出準備がまだ整っていません。

DWC08909N WebSphere Site Analyzer データ・インポート *data-import* が、エラー・コード *SACode* を戻しました。

説明: WebSphere Site Analyzer エラー・コード *SACode* が、データ・インポート *data-import* のポーリング状況で戻されました。

ユーザーの処置: 詳しくは、WebSphere Site Analyzer の資料を参照してください。

DWC08910N WebSphere Site Analyzer が、情報コード *SACode* を戻しました。 Web Connector プログラムの実行は正常に行われませんでした。

説明:

ユーザーの処置: 詳しくは、WebSphere Site Analyzer の資料を参照してください。

DWC08911N WebSphere Site Analyzer が、警告コード *SACode* を戻しました。 Web Connector プログラムの実行は正常に行われませんでした。

説明:

ユーザーの処置: 詳しくは、WebSphere Site Analyzer の資料を参照してください。

DWC08912N WebSphere Site Analyzer が、エラー・コード *SACode* を戻しました。

説明: Web Connector プログラムの実行中に、*SACode* で示されるグローバル Site Analyzer のエラー・メッセージが戻されました。

ユーザーの処置: 詳しくは、WebSphere Site Analyzer の資料を参照してください。

DWC08913N WebSphere Site Analyzer から有効なデータを検索できませんでした。

説明: WebSphere Site Analyzer から戻されたデータが、壊れているか、または WebSphere Application Server がプログラム例外を示しているかのいずれかです。

ユーザーの処置: すべての WebSphere Site Analyzer アプリケーション・サーバーが稼働していることを確認してください。 IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC08914N WebSphere Site Analyzer にプロジェクト名が存在しません。

説明: データウェアハウス・センターで指定されたプロジェクト名が、WebSphere Site Analyzer に存在しません。

ユーザーの処置: データウェアハウス・センターで入力したプロジェクト名が、WebSphere Site Analyzer で指定した名前と一致していることを確認してください。

WebSphere Site Analyzer ソースを再定義するか、データウェアハウス・センターのソース・プロパティを変更してください。 Site Analyzer のプロジェクト名は、大文字小文字の区別があります。

DWC08915N 選択したデータ・インポートのうちの 1 つまたは複数、WebSphere Site Analyzer サーバーに存在しません。

説明: データウェアハウス・センターに保管されているデータ・インポート定義と、WebSphere Site Analyzer のデータ・インポート定義の間に不一致があります。

ユーザーの処置: ポーリングしたいデータ・インポートが WebSphere Site Analyzer に存在することを確認してください。 Site Analyzer でデータ・インポートを再作成したい場合は、データウェアハウス・センターでもデータ・インポートを再定義する必要があります。

DWC08916C 内部エラー: エージェントから Web Connector プログラムに無効な接続ストリングが渡されました。

説明:

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DWC08917C 内部エラー: 入力ファイルへのアクセスに失敗しました。

説明:

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DWC08918C 内部エラー: 入力ファイルの内容が壊れています。

説明:

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DWC08919C 内部エラー: WebSphere Site Analyzer がデータを戻しませんでした。

説明: WebSphere Site Analyzer の要求がデータを戻しませんでした。 内部サーバー・エラーが発生した可能性があります。

ユーザーの処置: すべての WebSphere Site Analyzer アプリケーション・サーバーが稼働していることを確認してください。 詳しくは、IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC08920C 内部エラー: WebSphere Site Analyzer プロジェクト名がありません。

説明:

ユーザーの処置: IBM 担当員に連絡してください。

DWC08921C 内部エラー : **Web Connector** プログラムの実行時に予期しないエラーが起こりました。

説明:

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DWC08922C 内部エラー : 実行スレッドが異常終了しました。

説明: Web トラフィック・ポーリング・ステップ・プログラムを実行するスレッドが、予期せずに割り込まれました。

ユーザーの処置: IBM 担当員に連絡してください。

DWC08923C IBM JSSE プロバイダーが見つかりません。 **Web Connector** プログラムが **ibmjsse.jar** ファイルにアクセスできません。

説明: **ibmjsse.jar** ファイルが CLASSPATH にないか、またはインストール・ディレクトリーから移動されました。

ユーザーの処置: エージェント環境ファイルの **Web Connector** 設定がアクティブになっていることを確認してください。

DWC08928C 内部エラー: ユーザー定義プログラムのメッセージを検索できません。

説明:

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DWC08929C 内部エラー: 出力ファイルへのアクセスに失敗しました。

説明:

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DWC08930E 内部 **SAP** 抽出エラーが発生しました。メッセージ・カテゴリ = *category-name*。メッセージ・コード = *code-id* (関数 *function-name* 内)。

ユーザーの処置: メッセージ・カテゴリ、メッセージ・コード、および **SAP** メッセージを参照してください。

DWC08931E **SAP** サーバーに接続できません。メッセージ・カテゴリ = *category-name*。メッセージ・コード = *code-id*。 **SAP** メッセージ = *message-id*。

説明: **SAP** サーバーが停止しているか、または認証問題があります。

ユーザーの処置: 詳しくは、メッセージ・カテゴリ、メッセージ・コード、および **SAP** メッセージを参照してください。

DWC08932E ビジネス・オブジェクト・リストの検索中に、エラーが発生しました。メッセージ・カテゴリ = *category-name*。メッセージ・コード = *code-id*。 **SAP** メッセージ = *message-id*。

ユーザーの処置: 詳しくは、メッセージ・カテゴリ、メッセージ・コード、および **SAP** メッセージを参照してください。

DWC08933E ビジネス・オブジェクト詳細の検索中に、エラーが発生しました。メッセージ・カテゴリ = *category-name*。メッセージ・コード = *code-id*。 **SAP** メッセージ = *message-id*。

ユーザーの処置: 詳しくは、メッセージ・カテゴリ、メッセージ・コード、および **SAP** メッセージを参照してください。

DWC08934E **SAP** データの検索中に、エラーが発生しました。メッセージ・カテゴリ = *category-name*。メッセージ・コード = *code-id*。 **SAP** メッセージ = *message-id*。

ユーザーの処置: 詳しくは、メッセージ・カテゴリ、メッセージ・コード、および **SAP** メッセージを参照してください。

DWC08935E ターゲット表の移植中に、エラーが発生しました。メッセージ・カテゴリ = *category-name*。メッセージ・コード = *code-id*。 **SAP** メッセージ = *message-id*。

ユーザーの処置: 詳しくは、メッセージ・カテゴリ、メッセージ・コード、および関連メッセージを参照してください。

DWC08936W ビジネス・オブジェクトの詳細で矛盾するメタデータが検出されたため、*function-name* をスキップしました。メッセージ・カテゴリ = *category-name*。メッセージ・コード = *code-id*。SAP メッセージ = *message-id*。

説明: 矛盾するメタデータのため、このビジネス・オブジェクトは検索されません。

ユーザーの処置: 詳しくは、メッセージ・カテゴリ、メッセージ・コード、および SAP メッセージを参照してください。

DWC08937I SAP サーバーに接続中。メッセージ・カテゴリ = *category-name*。メッセージ・コード = *code-id*。SAP メッセージ = *message-id*。

DWC08938I ビジネス・オブジェクト・リストを検索中。メッセージ・カテゴリ = *category-name*。メッセージ・コード = *code-id*。SAP メッセージ = *message-id*。

DWC08939I ビジネス・オブジェクト詳細の検索中。メッセージ・カテゴリ = *category-name*。メッセージ・コード = *code-id*。SAP メッセージ = *message-id*。

DWC08940I SAP データの検索中。メッセージ・カテゴリ = *category-name*。メッセージ・コード = *code-id*。SAP メッセージ = *message-id*。

DWC08941I ターゲット表の移植中。メッセージ・カテゴリ = *category-name*。メッセージ・コード = *code-id*。SAP メッセージ = *message-id*。

DWC08951I WebSphere Site Analyzer データ・インポート *data-import* が、情報コード *SACode* を戻しました。

説明: WebSphere Site Analyzer エラー・コード *SACode* が、データ・インポート *data-import* のポーリング状況で戻されました。

ユーザーの処置: 詳しくは、WebSphere Site Analyzer の資料を参照してください。

DWC08980E パラメーター数が無効なため、Red Brick 外部ユーザー定義プログラムを開始できませんでした。

説明: Red Brick 外部ユーザー定義プログラムは、必要なパラメーター数を受け取りませんでした。

ユーザーの処置: Red Brick プログラムのパラメーター・ページに入力したパラメーターが正しいことを確認してください。

DWC08985E コントロール・ファイルにアクセスできません。

説明: コントロール・ファイルがウェアハウス・エージェント・サイトに存在しないか、ファイルを読み取ることができません。

ユーザーの処置: コントロール・ファイルが Warehouse Manager のエージェント・システムにあることを確認してください。コントロール・ファイルは、完全修飾名で指定する必要があり、エージェント・システムのオペレーティング・システムで使用されます。ステップを実行するユーザー ID には、コントロール・ファイルへの読み取り許可が必要です。

DWC08986E TMU ロード・プログラムを使用して Red Brick にデータをロードすることができませんでした。

説明: TMU ロード・プログラムの実行に失敗しました。

ユーザーの処置: TMU ロード・ウィンドウに有効な値が入力されているか確認してください。ユーザー定義プログラムのユーザー定義プログラム・トレース・ファイルから、Red Brick TMU ユーティリティに関連していると考えられるエラー・メッセージを識別し、問題を訂正してください。Red Brick TMU ユーティリティに関する詳細情報については、「IBM Red Brick Warehouse Table Management Utility Reference Guide」を参照してください。

DWC08987E TMU ロード・プログラムに対して外部コマンドが実行できませんでした。

説明: 外部ユーザー定義プログラムが、サブプロセスで TMU ロード・プログラムを実行できませんでした。

ユーザーの処置: ユーザー定義プログラムのトレース・ファイルから、この失敗に関連しているエラー・メッセージを識別し、問題を訂正してください。

DWC08988E TMU ロード・プログラムに対するコマンド・オプションが無効です。

説明: TMU ロード・プログラムに対する有効なコマンド・オプションを指定してください。

ユーザーの処置: TMU ロード・ウィンドウのパラメーター・ページで、詳細パラメーター・フィールドに正しい値が入力されているか確認してください。値は、ロード・タイプ・フィールドで指定した値に対する有効なコマンド・オプションでなければなりません。Red Brick TMU コマンド・オプションに関する詳細情報については、「IBM Red Brick Warehouse Table Management Utility Reference Guide」を参照してください。

DWC08990E Red Brick SQL エクスポート・コマンドの実行用に環境ハンドルを割り振ることができません。

説明: ユーザー定義プログラムの実行中にシステム・エラーが発生しました。ユーザー定義プログラムは Red Brick ODBC データ・ソースに接続するための環境を割り振ることができません。

ユーザーの処置: ODBC 環境が Red Brick データ・ソースようにセットアップされていることを確認してください。

DWC08991E データベースへの接続をオープンできません。

説明: ユーザー定義プログラムをデータベースに接続することができません。接続に使用されるデータベース名、ユーザー ID、またはパスワードが正しく指定されていない可能性があります。

ユーザーの処置: データベース名が正しく入力されていることを確認してください。データベース名は、データのエクスポート元であるデータベースの ODBC データ・ソース名 (DSN) です。ユーザー ID とパスワードが正しく入力されていることを確認してください。

DWC08992E SQL エラーのため、Red Brick の表からデータをエクスポートできませんでした。

説明: SQL エクスポート・ユーザー定義プログラムが、SQL エラーのために実行できませんでした。

ユーザーの処置: ユーザー定義プログラム・トレース・ファイルまたは DWC エラー・メッセージ・ウィンドウから、同一の SQL エラー・メッセージを確認してください。このエラーの原因となっている問題を訂正してください。この SQL エラー・メッセージに関する詳細情報については、「IBM Red Brick Warehouse Messages

and Codes Reference Guide」を参照してください。

DWC09001E オペレーティング・システム・イベントが発生するのを待機している間に、データウェアハウス・センター処理がタイムアウトになりました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09002E 新規処理を作成中にエラーが発生しました。

説明: このメッセージがメッセージ 7220 の 2 次戻りコードの場合は、エージェント・サイト定義で提供された無効なユーザー ID またはパスワードが原因か、またはエージェントの実行中に IWH2AGNT が欠落あるいは損傷していることが原因である可能性があります。

ユーザーの処置: エージェント・サイト定義で提供されたユーザー ID とパスワードをチェックしてください。この情報が正しい場合は、サポートのために IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC09003E 既存処理を終了中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09004E すでに実行している処理の開始が要求されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09005E もはやアクティブではない処理の終了が要求されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて

て記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09006E 新規スレッドを作成中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09007E 既存スレッドを終了中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09008E すでに存在しているスレッドを作成しようとしてしました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09009E もはや存在しないスレッドを終了しようとしてしました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09010E 相互排他セマフォアを獲得中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09011E すでに獲得されている相互排他セマフォアを獲得しようとしてしました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09012E 相互排他セマフォアを解放中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09013E すでに解放されている相互排他セマフォアを解放しようとしてしました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09014E 相互排他セマフォアを作成中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09015E 開かれていない相互排他セマフォアを獲得または解放しようとしてしました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09016E イベント・セマフォアの信号送出中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて

て記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09017E イベント・セマフォアの待機中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09018E イベント・セマフォアを作成中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09019E データウェアハウス・センター .INI ファイル (レジストリー内) のオープン中にエラーが発生しました。

説明: Windows レジストリーの データウェアハウス・センター部分にアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: 初期化中に指定したユーザー ID とパスワードに管理権限があり、その項目が HKEY_LOCAL_MACHINE/SOFTWARE/IBM/データウェアハウス・センター の Windows レジストリーにあることを確認してください。

DWC09020E エージェント・サイト・ユーザー ID で指定されたユーザー ID のセキュリティー会計情報を獲得できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09021E イベント・セマフォアのセット・シグナルで失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09022E イベント・セマフォアのリセット・シグナルで失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09102E メッセージ・キューはすでに存在していません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09103E メッセージ・キューの作成に失敗しました。これは、他の処理が同じポート番号を使用していることを示している可能性があります。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09104E メッセージ・キューの破棄に失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09105E VWERR_Q_LISTEN_TERMINATED メッセージ・キュー・カウントが無効です。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09106E VWERR_Q_LISTEN_TERMINATED メッセージ・キューの `listen` が異常終了しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09107E VWERR_Q_MSG_INVALID キューが無効なメッセージを受信しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09108E VWERR_Q_MSGTYPE_INVALID 無効なメッセージ・タイプを受信しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09109E VWERR_Q_MSGSIZE_INVALID 無効なメッセージ・キュー・サイズが指定されています。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09110E VWERR_Q_MSGNUM_INVALID 無効なメッセージ番号がメッセージ・キューに渡されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09111E VWERR_Q_NAME_INVALID 無効なメッセージ・キュー名を受信しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09112E メッセージ・キューが作成されていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09113E VWERR_Q_PURGE_FAILED メッセージ・キューのパージに失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09114E VWERR_Q_RECEIVE_FAILED メッセージの受信に失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09115E VWERR_Q_ACCEPT_FAILED メッセージ・キューの受信に失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09116E VWERR_Q_SEND_FAILED メッセージ・キューの送信に失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて

て記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09117E VWERR_Q_TIMEOUT メッセージを受信する前に、メッセージ・キューがタイムアウトになりました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

1. 表名をインポートしている場合は、表を少なくするためにリストを制限します。これを行うためのいくつかの方法は次のとおりです。
 - ビューではなく表を要求します。
 - 表修飾子を使用します。
 - 表修飾子および表名を要求します。
2. 構成内のエージェント・スタート/ストップ・タイムアウトの値を増やします。
3. 問題が解決されない場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09118E VWERR_Q_MSG_NUMBER_INVALID 無効なメッセージ番号が指定されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09119E VWERR_Q_UNSUPPORTED_CHARTYPE 無効なメッセージ・キュー文字タイプ (non-Unicode) が指定されました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09120E VWERR_Q_NO_MESSAGE_ON_Q メッセージ・キューで受信されたメッセージはありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて

て記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09121E クライアントの最大数がすでにポーリングされています。 クライアント最大数: *count*

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09122E クライアント名が無効です。 クライアント名: *name*

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09123E ポーリング・クライアント表には、ほかのクライアント用の余地がありません。 現在のクライアント・カウント: *count*

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09124E パートナー処理のポーリングが失敗しました。 パートナーが接続を失ったか、または停止していることを示します。 Ping メッセージ: *message*、ループ・カウント: *count*

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09125E 戻される非活動クライアント名はありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて

て記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09141E VERR_M_SET_FAILED メッセージ属性の設定方式が失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09142E VERR_M_GET_FAILED メッセージ属性の獲得方式が失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09143E VERR_M_SET_DATA_INVALID メッセージ属性の設定方式に無効なデータがあります。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09144E VERR_M_NOT_READY_FOR_SEND メッセージの送信準備ができていません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09145E VERR_M_CORRUPTED メッセージの内容が破壊されています。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09146E VERR_M_UNSUPPORTED_

CHAR_TYPE メッセージの内容に、サポートされていない (**non-Unicode**) 文字タイプがあります。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09147E VERR_M_PACK_FAILED メッセージのバック方式が失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09148E VERR_M_BUFFER_TOO_LARGE メッセージのバック・バッファが大きすぎます。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09149E データウェアハウス・センター・クライアント・メッセージ・コードが下位レベルのバージョンで、インストールされたウェアハウス・サーバーと通信できません。

説明: データウェアハウス・センター・クライアント・メッセージ・コードが下位レベルのバージョンで、インストールされたウェアハウス・サーバーと通信できません。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバー・レベルと一致するように、クライアント・コードを更新してください。

DWC09152E Win32 関数 FormatMessage() が失敗しました。 試行された戻りコードの検索:
return-code。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて

て記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09153E Win32 関数 LoadLibrary() が失敗しました。 ロードしようとしたファイル:
file-name。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09154E Win32 関数 RegCreateKeyEx() が失敗しました。 サブキー: *subkey*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09155E Win32 関数 RegSetValueEx() が失敗しました。 値: *value*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09156E Win32 関数 RegisterEventSource() が失敗しました。 イベント・ソース名:
source-name。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09157E Win32 関数 ReportEvent() が失敗しました。 イベント・コード: *code*。 イベント・タイプ: *type*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09158E データウェアハウス・センター は Windows レジストリーからキーを削除できませんでした。 キー: *key-name*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09159E Win32 関数 RegOpenKeyEx() が失敗しました。 キー: *key*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09160E Win32 関数 RegQueryValueEx() が失敗しました。 値: *value*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09161E Win32 関数 GetEnvironmentVariable() が失敗しました。 変数名: *name*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09162E 構成変数 *variable-name* が構成表にありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09163E 構成変数 *variable-name* が数値変数ではありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09164E 構成変数 *variable-name* が文字ストリング変数ではありません。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09165E 接続エラー。データウェアハウス・センターのコントロール・データベースがユニコード・データベースではありません。

説明: データウェアハウス・センターのコントロール・データベースはユニコード・データベースでなければなりません。

ユーザーの処置: 指定されたコントロール・データベースがユニコード・コントロール・データベースであることを確認してください。

DWC09171E サービス *service-name* を開始できませんでした。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09172E Win32 関数 `OpenSCManager()` が失敗しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09173E Win32 関数 `CreateService()` が失敗しました。 サービス名: *service-name*。 サービス・ラベル: *service-label*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09181E 新規への呼び出しが失敗しました。 メモリー名: *name*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09191E `_wfopen()` への呼び出しが失敗しました。 ファイル名: *file-name*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09192E `fwprintf()` への呼び出しが失敗しました。 ファイル名: *file-name*。 ストリング: *string*。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09203E 無効な数の引き数を受信しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09204E 無効な引き数を受信しました。

説明: データウェアハウス・センター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09205E コントロール・データベースへのデータベース作成 `DB2` コマンドが失敗しました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC09206E 環境変数 `VWS_LOCALE` で指定された ICU コンバーター名 `ICU_converter_name` の初期化が失敗し、戻りコード `symbolic_return_code` が戻されました。

説明: Warehouse Manager は、Unicode UTF-16 と、コンバーターの名前に示されているコード・ページとの間でテキストを変換するために使用する ICU コンバーターを作成できませんでした。

ユーザーの処置: アクションがなぜ失敗したかは、戻りコードの情報をチェックしてください。`VWS_LOCALE` 環境変数に指定する値は、サポートされている ICU コンバーターの名前でなければなりません。サポートされている ICU コンバーターの名前は、ICU Converter Explorer Web ページ (<http://oss.software.ibm.com/cgi-bin/icu/convexp>) で確認できます。

DWC09207E ICU コンバーター名 `ICU_converter_name` の初期化が失敗し、戻りコード `symbolic_return_code` が戻されました。

説明: Warehouse Manager は、Unicode UTF-16 と、コンバーターの名前に示されているコード・ページとの間でテキストを変換するために使用する ICU コンバーターを作成できませんでした。

ユーザーの処置: アクションがなぜ失敗したかは、戻りコードの情報をチェックしてください。戻りコードが失敗の原因にシステム・リソースの不足を挙げている場合は、システム管理者と連絡を取ってください。そうでない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC09208E Warehouse Manager プロセスの ICU システム初期化が失敗し、戻りコード `symbolic_return_code` が戻されました。

説明: Warehouse Manager は ICU システムを初期化できませんでした。ICU システム・サービスは、システム・デフォルトのエンコードと、Warehouse Manager のユニコード UTF-16 エンコードとの間でテキストを変換するために使用されます。

ユーザーの処置: アクションがなぜ失敗したかは、戻りコードの情報をチェックしてください。戻りコードが失敗の原因にシステム・リソースの不足を挙げている場合は、システム管理者と連絡を取ってください。そうでない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC09209E Warehouse Manager の ICU バッファーマン・ヒープ要求で `work_buffer_size` バイトを要求しましたが、失敗しました。

説明: ICU テキスト変換で使用するバッファーマン・ヒープ・メモリー要求を行いました。プロセスのメモリー・ヒープには、要求したバイト数の利用可能なストレージがありませんでした。

ユーザーの処置: 失敗したヒープ・ストレージ要求のサイズを調べます。プログラムで利用可能なヒープ・ストレージの量を増やすため、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC09210E Warehouse Manager は、ICU の操作 `ICU_function` への応答として、ICU エラー `symbolic_return_code` を受け取りました。

説明: Warehouse Manager は、ICU の操作への応答として、予期しない戻りコードを受け取りました。ICU システム・サービスは、システム・デフォルトのエンコードと、Warehouse Manager のユニコード UTF-16 エンコードとの間でテキストを変換するために使用されます。Warehouse Manager プロセスを続行できません。

ユーザーの処置: 戻りコードについては、エラー・メッセージをチェックしてください。戻りコードが失敗の原因にシステム・リソースの不足を挙げている場合は、システム管理者と連絡を取ってください。そうでない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC10004E `WSAEINTR` (ブロッキング) 呼び出しが、`WSACancelBlockingCall()` で取り消されました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10009E `WSAEBADF`

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10013E WSAEACCES 要求されたアドレスはブロードキャスト・アドレスですが、適切なフラグが設定されていません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10014E WSAEFAULT 引き数は、ユーザー・アドレス・スペースの有効な部分にありません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10022E WSAEINVAL ソケットがバインドでアドレスにバインドされていないか、あるいは **listen** 関数が受け入れの前に呼び出されませんでした。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10024E WSAEMFILE 受け入れる項目でキューが空になっていて、記述子を使用できません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10035E WSAEMFILE 使用可能なファイル記述子がありません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10036E WSAEINPROGRESS ブロッキング・ウィンドウ・ソケット操作が進行中です。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10037E WSAEALREADY 取り消されている非同期ルーチンは、すでに完了しています。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10038E WSAENOTSOCK 記述子がソケットではありません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10039E WSAEDESTADDRREQ 宛先アドレスが必要です。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10040E WSAEMSGSIZE データグラムは指定されたバッファーには大きすぎるため、切り捨てられました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10041E WSAEPROTOTYPE 指定されたプロトコルは、このソケットには不正なタイプです。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10042E WSAENOPROTOOPT 使用中のオペレーティング・システムでは、このオプションは不明またはソケットによってサポートされていません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10043E WSAEPROTONOSUPPORT 指定された
プロトコルはサポートされていません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10044E WSAESOCKTNOSUPPORT このアドレ
ス・ファミリーでは、指定されたソケッ
ト・タイプはサポートされていません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10045E WSAEOPNOTSUPP 参照されているソケ
ットは、接続型サービスをサポートするタ
イプではありません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10046E WSAEPFNOSUPPORT

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10047E WSAEAFNOSUPPORT 指定されたアド
レス・ファミリーは、このプロトコルによ
ってサポートされていません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10048E WSAEADDRINUSE 指定されたアドレス
はすでに使用されています。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10049E WSAEADDRNOTAVAIL 指定されたアド
レスは、ローカル・コンピューターから使
用できません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10050E WSAENETDOWN Windows ソケット・
インプリメンテーションが、ネットワー
ク・サブシステムに障害があることを見つ
けました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10051E WSAENETUNREACH 現在、このホスト
からネットワークに到達することはできま
せん。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10052E WSAENETRESET Windows ソケット・
インプリメンテーションが接続をドロップ
したため、その接続をリセットしなければ
なりません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10053E WSAECONNABORTED タイムアウトま
たはその他の障害のため、バーチャル・サ
ーキットが打ち切りされました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10054E WSAECONNRESET バーチャル・サーキ
ットがリモート・サイドによってリセット
されました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10055E WSAENOBUFS 使用可能なバッファー・
スペースがありません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10056E WSAEISCONN ソケットはすでに接続されています。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10057E WSAENOTCONN ソケットは接続されていません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10058E WSAESHUTDOWN ソケットはシャットダウンされています。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10059E WSAETOOMANYREFS

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10060E WSAETIMEDOUT 接続を試みましたが、確立されずにタイムアウトになりました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10061E WSAECONNREFUSED 接続の試みが強制的に拒否されました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10062E WSAELOOP

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10063E WSAENAMETOOLONG

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10064E WSAEHOSTDOWN

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10065E WSAEHOSTUNREACH

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10066E WSAENOTEMPTY

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10067E WSAEPROCLIM

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10068E WSAEUSERS

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10069E WSAEDQUOT

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10070E WSAESTALE

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10071E WSAEMFILE

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10091E WSASYSNOTREADY 基礎ネットワーク・サブシステムには、ネットワーク通信のための準備ができていません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10092E WSAVERNOTSUPPORTED 必要な Windows ソケット・サポートのバージョンは、この特定の Windows ソケット・インプリメンテーションによって与えられていません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10093E WSANOTINITIALISED この関数を使用するには、WSA スタートアップが正しく行われていなければなりません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC11001E WSAHOST_NOT_FOUND 権限のある応答ホストが見つかりません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC11002E WSATRY_AGAIN 権限のないホストが見つからないか、または SERVERFAIL です。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC11003E WSANO_RECOVERY リカバリー不能エラー: FORMERR、REFUSED、NOTIMP

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC11004E WSANO_DATA 名前は有効ですが、要求されたタイプのデータ・レコードがありません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC12001I ウェアハウス・サーバーは正常に開始されました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: ありません。

DWC12002I ウェアハウス・サーバーは正常に停止されました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: ありません。

DWC12003I データウェアハウス・センター・ロガーは正常に開始されました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: ありません。

DWC12004I データウェアハウス・センター・ロガーは正常に停止されました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: ありません。

DWC13001E インポート/エクスポートは、タグ言語ファイル *filename* のオープンに失敗しました。

説明: 以下のいずれかの理由により、タグ言語ファイルをオープンして入力 (インポート) または出力 (エクスポート) することができませんでした:

- タグ言語ファイルが使用中である。
- ファイル名が無効である。
- インポートのみ: ファイル名が既存ファイル名でない。「検索」を使用して既存のタグ言語ファイルを選択してください。

- インポートのみ: 関連付けられたファイルの 1 つが、タグ・ファイルと同じディレクトリーにない。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルがエクスポートで置き換えられようとしている場合は、読み取り専用の属性設定でないことを確認してください。インポートの場合、数字の拡張子と関連付けられたすべてのファイルが、タグ・ファイルと同じディレクトリーにあることを確認してください。

DWC13002E タグ言語ファイルにはインポートする有効なタグが含まれていません。

説明: 「インポート」で空のタグ言語ファイルが検出されたか、指定されたタグ言語ファイルにインポートして使用できるタグが含まれていません。

ユーザーの処置: 有効なタグ言語を含むファイルの名前をデータウェアハウス・センター・オブジェクトに指定したことを検査してください。

DWC13003E インポートはタグ言語ファイルを読み取ることができません。

説明: インポートがタグ言語ファイルを読み取り中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: インポート中にタグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。それから、システムに使用可能なメモリーが十分であることを確認してください。

DWC13004E タグ言語ファイルに不完全なオブジェクト定義あるいはリレーションシップ定義があります。

説明: インポートで、タグ言語ファイルの終了に不完全なオブジェクトまたはリレーションシップ定義が検出されました。

ユーザーの処置: エクスポートまたはインポートしようとしてタグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。それでもこのエラーを受け取る場合は、ファイルを生成するプログラムに問題がある可能性があります。外部プログラムを使用している場合は、そのプログラムまたはタグ言語ファイルを提供しているベンダーに連絡してください。

DWC13101E エクスポートは、入力ファイルを開くことができませんでした。

説明: エクスポートでは入力ファイルをオープンできませんでした。ファイルが使用中かファイル名が無効です。

ユーザーの処置: ファイルをエクスポートするインター

フェースを使用している場合は、そのファイルが使用中ではなく、ファイル名が正しいことを確認してください。それでも問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13102E 入力ファイルに、エクスポートで使用できないデータが含まれています。

説明: エクスポート中に空の入力ファイルが検出されました。

ユーザーの処置: 再度エクスポートしてみてください。メッセージが何度も表示される場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13103E エクスポートでは入力ファイルを読み取れません。

説明: エクスポートで入力ファイルを読み取っていたときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エクスポート中に入力ファイルが破壊されていないことを確認してください。それから、システムに使用可能なメモリーが十分であることを確認してください。

DWC13105E リレーションシップで指定されたオブジェクト・タイプは存在しません。

説明: リレーションシップを不明なオブジェクト・タイプに、または不明なオブジェクト・タイプからエクスポートしようとしてしました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC13106E インストール・エラーが発生しています。エクスポートは、オブジェクト定義の含まれたファイルをオープンできません。

説明: エクスポートを実行するには、データウェアハウス・センターは以下のファイルにアクセスしなければなりません:

- Flgnyvw0.ty1
- Flgnyvw1.ty1

ファイルが欠落しています。

ユーザーの処置: データウェアハウス・センターを再インストールしてください。

DWC13201E インポートは、ログ・ファイルを開くことができません。

説明: 以下のいずれかに理由により、インポート時にログ・ファイルをオープンできませんでした:

- ファイル名が無効である。
- パス名が無効である。
- ログ・パスに対する書き込みアクセスがない。

ユーザーの処置: 指定したログ・パスへの書き込みアクセスがあること、システムに使用可能なメモリーおよびストレージが十分であることを確認してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13202E 構文エラー -- 1 つ以上のタグの順序が連続していません。 **OBJECT** タグは、**ACTION.OBJINST** タグに続いている必要があります。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全なオブジェクト定義を含んでいます。 **OBJECT** タグが **ACTION.OBJINST** タグの後ではありません。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。確認を行うには、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再実行してください)。

タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13203E 構文エラー -- **OBJECT** タグ。 **TYPE** キーワードが見つかりません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全なオブジェクト定義を含んでいます。 **OBJECT** タグの **TYPE** キーワードが見つからないか、あるいはタグの構文が正しくありません。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。確認を行うには、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再実行してください)。

タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13204W **OBJECT** タグ -- **TYPE** キーワードの値が無効です。

説明: インポートは **OBJECT** タグの **TYPE** キーワードの値を判別しませんでした。 **TYPE** キーワードは、タグ言語ファイルの先頭に定義されている **OBJECT TYPE** 値のいずれかと同じである必要があります。

ユーザーの処置: 構文エラーを訂正し、インポートを再実行してください。その後、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。確認を行うには、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再実行してください)。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13205E インポートにはさらにメモリーが必要なため、インポートを終了する必要があります。ウィンドウまたはアプリケーションを閉じる必要がある場合があります。

説明: インポートではデータウェアハウス・センター・オブジェクトを表すために必要なメモリーを割り振れませんでした。

ユーザーの処置: システム (ページング・ファイル・サイズ) で使用できる仮想メモリーを増やすか、あるいは実行中の他のウィンドウやアプリケーションを閉じてください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13206E 構文エラー -- 1 つ以上のタグが順不同です。 **INSTANCE** タグが **ACTION.OBJINST** タグの後ではありません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全なオブジェクト定義を含んでいます。更新するオブジェクト・インスタンスを識別するために、**INSTANCE** は **ACTION.OBJINST** タグの後に続く必要があります。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。確認を行うには、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再実行してください)。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

**DWC13207E 構文エラー -- タグが順不同です。
RELTYPE タグが ACTION.RELATION
タグの後にありません。**

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全なリレーションシップ定義を含んでいます。
RELTYPE タグがオブジェクト定義にありませんでした。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。確認を行うには、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再実行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ・ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

**DWC13208E 構文エラー -- RELTYPE タグ。TYPE
キーワードが見つかりません。**

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全なリレーションシップ定義を含んでいます。
RELTYPE タグの TYPE キーワードが見つからないか、あるいは構文が正しくありません。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。確認を行うには、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再実行してください)。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

**DWC13209E 構文エラー -- RELTYPE タグ。
SOURCETYPE キーワードが見つかりません。**

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全なリレーションシップ定義を含んでいます。
RELTYPE タグの SOURCETYPE キーワードがありませんでした。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。確認を行うには、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再実行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

**DWC13210W RELTYPE タグ -- SOURCETYPE キー
ワードの値が無効です。**

説明: RELTYPE タグの SOURCETYPE キーワードの値が無効です。RELTYPE タグの SOURCETYPE キーワードは、タグ言語ファイルの先頭に定義されている OBJECT TYPE 値のいずれかである必要があります。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。エラーが続く場合は、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。これを行うには、再度ファイルをエクスポートおよびインポートしてください。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

**DWC13211E 構文エラー -- RELTYPE タグ。
TARGETYPE キーワードが見つかりません。**

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全なリレーションシップ定義を含んでいます。
RELTYPE タグの TARGETYPE キーワードがありませんでした。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。エラーが続く場合は、エクスポートとインポートを試行して、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

**DWC13212W RELTYPE タグ -- TARGETYPE キー
ワードの値のタイプが無効です。**

説明: RELTYPE タグの TARGETYPE キーワードは、タグ言語ファイルの先頭に定義されている OBJECT TYPE 値のいずれかである必要があります。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。これを行うには、再度エクスポートおよびインポートしてください。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13213E 構文エラー -- タグが順不同です。

INSTANCE タグが **ACTION.RELATION**
タグの後にありません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全なリレーションシップ定義を含んでいます。

INSTANCE タグがリレーションシップ定義がありませんでした。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。これを行うには、再度エクスポートおよびインポートしてください。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート（またはタグ言語ファイルを提供したベンダー）に連絡してください。

DWC13214E 構文エラー -- **RELTYPE** タグ。

SOURCEKEY キーワードが見つかりません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全なリレーションシップ定義を含んでいます。

RELTYPE タグの **SOURCETYPE** キーワードの値がありませんでした。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。これを行うには、再度エクスポートおよびインポートしてください。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート（またはタグ言語ファイルを提供したベンダー）に連絡してください。

DWC13215E 構文エラー -- **RELTYPE** タグ。

TARGETKEY キーワードが見つかりません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全なリレーションシップ定義を含んでいます。

RELTYPE タグの **TARGETTYPE** キーワードの値がありませんでした。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。これを行うには、再度エクスポートおよびインポートしてください。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート（またはタグ言語ファイルを提供したベンダー）に連絡してください。

DWC13216E 構文エラー -- **ACTION** タグが見つかりません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全なオブジェクト定義またはリレーションシップ定義を含んでいます。オブジェクトまたはリレーションシップ定義の **ACTION** タグがありませんでした。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。これを行うには、再度エクスポートおよびインポートしてください。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート（またはタグ言語ファイルを提供したベンダー）に連絡してください。

DWC13217E 無効なタグ名 *tag-name* が見つかりました。

説明: タグ言語ファイルに無効なタグがありました。

ユーザーの処置: 有効なタグのリストについては、インフォメーション・カタログ・マネージャー 管理ガイドを調べてください。その後、正しいタグをタグ言語ファイルに挿入します。次に、再度エクスポートとインポートを試行して、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート（またはタグ言語ファイルを提供したベンダー）に連絡してください。

DWC13218E 構文エラー -- **ACTION** タグ。:**ACTION** は **OBJTYPE**、**OBJINST** または **RELATION** キーワードのあとにすぐ置かれていなければなりません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、無効なタグ言語を含んでいます。**OBJTYPE**、**OBJINST**、**RELATION** のいずれのキーワードも含まない **:ACTION** タグを含んでいます。

ユーザーの処置: 適切な構文をタグ言語ファイルに追加してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください（あるいはエクスポートとインポートを再実行してください）。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート（またはタグ言語ファイルを提供したベンダー）に連絡してください。

DWC13219E 内部エラーが発生しました。

説明: インポートで内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC13220E 内部エラーが発生しました。

説明: インポートで内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC13221E 構文エラー -- タグに無効な括弧のネストがあります。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、無効なタグ言語を含んでいます。 :INSTANCE タグに無効な括弧のネストがあります。

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルの構文エラーを訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。
 2. タグ言語ファイルがメタデータ内に () を含んでいないことを確認してください。ファイルに () があれば、単一引用符で囲んでください。
-

DWC13222E 構文エラー -- キーワード値の右小括弧がありません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、無効なタグ言語を含んでいます。 tag キーワードの右小括弧が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルの構文エラーを訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13223E 内部エラーが発生しました。

説明: 内部エラーがインポート・プログラムに導入されました。

ユーザーの処置: 他に報告されたエラーを調べてください。他に報告されたエラーがなければ、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13224E リレーションシップ定義の SOURCEKEY または TARGETKEY キーワードで参照されるデータウェアハウス・センター・オブジェクトが存在しません。

説明: インポートでリレーションシップの処理をしている時に、リレーションシップ定義の SOURCEKEY または TARGETKEY 値で参照されるデータウェアハウス・センター・オブジェクトが、ターゲット・コントロール・データベースに定義されていませんでした。リレーションシップ定義で参照されるオブジェクトは、リレーションシップ定義がタグ言語ファイルに定義される前に定義されているか、あるいはオブジェクトがターゲット・データベースにすでに存在している必要があります。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルの構文を訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13226E 内部エラーが発生しました。

説明: インポートではタグ・オブジェクト定義に対応するデータウェアハウス・センター・オブジェクトを割り振れませんでした。

ユーザーの処置: システム (ページング・ファイル・サイズ) で使用できる仮想メモリーを増やしてください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13227E データウェアハウス・センターでは、SOURCETYPE source-type-name と TARGETTYPE target-type-name の間のリレーションシップは許可されません。

説明: データウェアハウス・センターでは指定された SOURCETYPE のオブジェクトと指定された TARGETTYPE のオブジェクトとの間でリレーションシップを持たせることはできません。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルのエラーを訂正して

ください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください(あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13229E 内部エラーが発生しました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC13230E リレーションシップ定義の SOURCEKEY または TARGETKEY キーワードで参照されるデータウェアハウス・センター・オブジェクトが存在しません。

説明: インポートでリレーションシップを処理する前に、リレーションシップ定義の SOURCEKEY または TARGETKEY 値で参照されるデータウェアハウス・センター・オブジェクトがタグ言語ファイルに定義されていませんでした。オブジェクト・タイプは、それらを参照しているリレーションシップがタグ言語ファイルに現れるよりも前にタグ言語ファイルに現れる必要があります。あるいは、オブジェクト・タイプはすでにターゲット・データベースに存在している必要があります。これらのオブジェクト・タイプは、通常はステップと関連しています。たとえばこれらのオブジェクト・タイプはステップ・マップまたはステップ別名である可能性があります。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルを訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください(あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13231E 内部エラーが発生しました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC13232E 表オブジェクト *table-object-name* に対するデータベース・オブジェクトが存在しません。

説明: 表オブジェクトが、対応するデータベース・オブジェクトがタグ言語ファイルで見つかるよりも前にタグ言語ファイルで見つかりました。データベースはター

ゲット・コントロール・データベースに定義されていません。表オブジェクトが処理される時、表が定義される前にそのデータベースがタグ言語ファイルに定義されているか、あるいはすでにターゲット・データベースに存在している必要があります。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。その後、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。確認を行うには、インポートを再実行してください(あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13233E オブジェクトに必要な INSTANCE 短縮名が見つかりません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、無効なタグ言語を含んでいます。オブジェクトに必要ないずれかの INSTANCE キーワードが見つかりません。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルを訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください(あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13234E タグ言語ファイルの 5 行のうち 1 行は、バージョン情報を持つ COMMENT タグでなければなりません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルが無効です。タグ言語ファイルの最初の 5 行のうちのいずれかは、次のようにしなければなりません

:COMMENT.SYSTEM または
:COMMENT.SYSTEM(OS/2)。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルを訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください(あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13235E IWHPROGF、IWHAGGRF、または IWHTRIGF オブジェクトの PGMTYPE キーワードの値が無効です。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルが無効です。IWHPROGF、IWHAGGRF、または IWHTRIGF オブジェクトの PGMTYPE キーワードの値が有効なプ

ログラム・タイプではありません。以下のいずれかの数、または同等のキーワードでなければなりません: 0 = 動的ロード・ライブラリー、1 = コマンド・プログラム、2 = 実行可能、4 = DB2 ストアード・プロシージャ

ユーザーの処置: タグ言語ファイルを訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13236E 関連するオブジェクトがないため、オブジェクト *object-name* を作成できません。

説明: オブジェクトは、その関連するオブジェクトが見つからないので作成できません。現在、関連するオブジェクトは以下に相当します:

- IWHPROGF オブジェクトを必要とする IWHAGGRF および IWHTRIGF オブジェクト
- IWHKEY オブジェクトを必要とする IWHFKEY オブジェクト
- COLUMN オブジェクトを必要とする IWHKMAP オブジェクト

ユーザーの処置: タグ言語ファイルを訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13237E 開発状況ではないため、ステップ *step-name* を更新できません。

説明: データウェアハウス・センターはすでにターゲット・コントロール・データベースに定義されてはいても開発状況になっていないステップをインポートできませんでした。

ユーザーの処置: ステップを開発状況にデモートして、もう一度インポートしてください。ステップをデモートできない場合、ステップ・ノートブックを使用して、(インポートするよりは) 更新してください。

DWC13238W *object-key* で識別されるタイプ *object-type* のオブジェクトが、タグ言語ファイルに 2 度定義されています。

説明: 1 つのオブジェクトが複数、同じタグ言語ファイルに定義されています。2 番目のインスタンスが保管されました。

ユーザーの処置: 重複するインスタンスがエラーまたは問題の原因となっている場合、オブジェクトの OBJINST タグのセットのいずれかをタグ言語ファイルから除去し、もう一度ファイルのインポートを試みてください。タグ言語ファイルがメタデータ・エクスポート・ユーティリティから作成されている場合、IBM ソフトウェア・サポート、またはそのタグ言語ファイルの提供元である販売店に連絡してください。

追加情報については、ログ・ファイルを調べてください。

DWC13239E タグ言語ファイルから処理されたオブジェクト定義またはリレーションシップ定義はありません。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルに、少なくとも 1 つのオブジェクト定義かリレーションシップ定義が含まれていることを確認してください。開始チェックポイント ID を指定した場合、そのチェックポイント ID、またはそのチェックポイント ID よりも大きなチェックポイント ID の後に、少なくとも 1 つのオブジェクト定義またはリレーションシップ定義があることを確認してください。

DWC13300E ファイル *filename* をオープン、または読み取りできません。

説明: ファイル *filename* のオープンまたは読み取りを試行中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイル名とパス名が正しいことを確認してください。

DWC13301E ファイル *filename* を作成、または書き込みできません。

説明: ファイル *filename* の作成または書き込み試行中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイル名とパス名が正しいことを確認してください。

DWC13302E トークン *token-name* の DB2 エクステンダー DAD ファイル *filename* で、構文解析エラーが発生しました。理由コード:
reason-code。

説明: 表定義について DAD ファイル *filename* を構文解析中に、トークン *token-name* でエラーが発生しました。以下の理由コードを参照してください。

1. DAD ファイルでの XML 構文エラー。
2. 表タグに名前属性がない。
3. 列またはノードに、名前とタイプに必要な値が含まれていない。
4. DAD ファイルに、<DAD> エレメントが見つからない。
5. DAD ファイルに Xcollection エレメントが見つからない。
6. 列タグの数に誤りがある: *RDB-node* では、1 つの列タグしか許可されません。
7. 表タグの数に誤りがある: 列タグがこの *RDB-node* に存在する場合、*RDB-node* には 1 つの表が存在している必要があります。

ユーザーの処置: DAD ファイルの構文エラーを訂正してください。

DWC13304E トークン *token-name* 近くの Trillium DDL ファイル *filename* で、構文解析エラーが発生しました。理由コード:
reason-code。

説明: 表定義について Trillium DDL ファイル *filename* を構文解析中に、トークン *token-name* 近くでエラーが発生しました。以下の理由コードを参照してください。

1. フィールドの属性がすでに定義済みであるか、フィールドが定義されていない。
2. レコードには、タイプと長さに関する情報が必要である。
3. フィールドには、タイプ、長さ、および開始に関する情報が必要である。
4. 長さや開始には、数値が必要である。
5. 予期しないファイル終わり。レコードにフィールドが定義されていない。
6. 1 ファイル当たり 1 つのレコードしか許可されない。

ユーザーの処置: DDL ファイルの構文エラーを訂正してください。

DWC13600I エクスポート処理が完了しました。詳細はログ・ファイル *log-file* を参照してください。

説明: データウェアハウス・センターは、エクスポートが成功した場合も、エラーが起きた場合でも、エクスポート処理からのすべての詳細をキャプチャーするために常にログ・ファイルを作成します。

ユーザーの処置: エクスポート処理の結果を調べるには、ログ・ファイルを表示してください。

DWC13601I コントロール・データベース *control-database* からメタデータが正常にエクスポートされました。

説明: これは、メタデータが、エラーなしでエクスポートされたことを確認する通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

DWC13602E データウェアハウス・センターは、メタデータ *metadata* のエクスポート中にエラーを検出しました。

説明: データウェアハウス・センターは、エラーのために、選択したメタデータをエクスポートすることができませんでした。

ユーザーの処置: このエラーに関する情報を調べるには、ログ・ファイルをご覧ください。データウェアハウス・センターは、エクスポートが成功した場合も、エラーが起きた場合でも、エクスポート処理からの詳細をキャプチャーするために常にログ・ファイルを作成します。エラーを訂正することができない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13603E エクスポート・ユーティリティーは、ログ・ファイル *logfile-name* をオープンできませんでした。

説明: データウェアハウス・センターは、エクスポート処理のすべての詳細をキャプチャーするために、常にログ・ファイルを作成しようとします。このエラーは、データウェアハウス・センターが、このログ・ファイルにアクセスできないか、または開くことができないことを示します。データウェアハウス・センターがログ・ファイルを作成できないと、エクスポート処理を続行できません。ログ・ファイルを開くことができない理由としては、次のものがあります。

- ファイル名が無効である。
- パス名が無効である。
- ログ・パスに対する書き込みアクセスがない。

ユーザーの処置: 指定したログ・パスへの書き込みアクセス

セスがあること、システムに使用可能なメモリーおよびストレージが十分であることを確認してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13604E エクスポート・ユーティリティーが、フィードバック・ファイル *feedback-file* を開くことができません。

説明: データウェアハウス・センターは、エクスポートしている XML ファイルと同じディレクトリーに、フィードバック・ファイルを作成しようとします。このエラーは、データウェアハウス・センターがフィードバック・ファイルにアクセスできないか、または開くことができないことを示します。データウェアハウス・センターが、このフィードバック・ファイルを作成できない場合、エクスポート処理の結果は表示されず、エクスポート結果は続行できません。

ユーザーの処置: 指定したパスへの書き込みアクセスがあること、システムに使用可能なメモリーおよびストレージが十分であることを確認してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13700E *object2-name* という名前のデータウェアハウス・センター・オブジェクト *object2-type* のインポートに必要な、*object1-name* という名前のデータウェアハウス・センター・オブジェクト *object1-type* が見つかりません。

説明: これは、インポート・ユーティリティーが、すでにデータウェアハウス・センターに存在している必要のあるオブジェクトを検出できない時に発生する内部エラーです。必要なオブジェクトがインポート処理中に作成されなかった場合、インポート・ユーティリティーを続行することができません。

ユーザーの処置: インポートしている XML ファイルが、損傷していないかどうか確認してください。これを行うには、XML ファイルをオリジナル・ソースから再生成し、再度インポートを行います。それでもこのエラー・メッセージを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポートか、ファイルを提供したベンダーに連絡してください。

DWC13701E *object1-name* という名前のデータウェアハウス・センターのオブジェクト *object1-type* をインポートできません。これは、*object2-type* タイプのウェアハウス共通のメタモデル・オブジェクトが見つからなかったためです。

説明: このタイプのオブジェクト作成は、データウェアハウス・センターが、必要なウェアハウス共通のメタモデル・オブジェクトを検出できるかどうかにかかっています。この共通のメタモデル・オブジェクトがないと、データウェアハウス・センターのオブジェクトは無効です。このエラー・メッセージを受け取った場合、インポートしている XML ファイルに、必要なウェアハウス共通のメタモデル・オブジェクトが含まれていない可能性があります。

ユーザーの処置: インポートしている XML ファイルが、損傷していないかどうか確認してください。これを行うには、XML ファイルをオリジナル・ソースから再生成し、再度インポートを行います。それでもこのエラー・メッセージを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポートか、ファイルを提供したベンダーに連絡してください。

DWC13702E 主キーがすでに存在し、更新されません。インポート処理を続行できません。

説明: ウェアハウス・コントロール・データベースには主キーがあり、インポートしようとしているデータには、同じ表に別の主キーが含まれています。インポート処理を完了するには、主キーが 1 個だけか、あるいは一致する 2 つの主キーのいずれかが必要です。異なる 2 つの主キーを持つことはできません。

ユーザーの処置: 一致しない主キーを解決するには、次のアクションのいずれかを行ってください。

- ウェアハウス・コントロール・データベースの主キーを変更して、インポートしたいデータにある主キーに一致させてください。
- インポートしたいデータから、主キーを削除して、ウェアハウス・コントロール・データベースにある主キーを使用してください。
- インポートしたいデータの主キーを変更して、ウェアハウス・コントロール・データベースにある主キーに一致させてください。

DWC13703E 外部キーがすでに存在し、更新されません。インポート処理を続行できません。

説明: ウェアハウス・コントロール・データベースには外部キーがあり、インポートしようとしているデータには、同じ表に別の外部キーが含まれています。インポ

ート処理を完了するには、1 外部キーが 1 個だけか、あるいは一致する 2 つの主キーのいずれかが必要です。異なる 2 つの外部キーを持つことはできません。

ユーザーの処置: 一致しない外部キーを解決するには、次のアクションのいずれかを行ってください。

- ウェアハウス・コントロール・データベースの外部キーを変更して、インポートしたいデータにある外部キーに一致させてください。
- インポートしたいデータから、外部キーを削除して、ウェアハウス・コントロール・データベースにある外部キーを使用してください。
- インポートしたいデータの外部キーを変更して、ウェアハウス・コントロール・データベースにある外部キーに一致させてください。

DWC13704E インポート・ユーティリティは、*object1-name* という名前のデータウェアハウス・センターのオブジェクト *object1-type* をインポートできませんでした。これは、タイプ *object3-type* の UML オブジェクトに指定された **TaggedValue** オブジェクト *object2-type* の値が無効なことが原因です。

説明: これは、データウェアハウス・センターが、予想範囲外の **TaggedValue** オブジェクトで、値を検出できない時に発生する内部エラーです。たとえば、ファイルには、数値ではなくテキスト値が含まれているか、あるいは数値が誤っている可能性があります。

ユーザーの処置: 弊社のソフトウェア・サポートか、ファイルを提供したベンダーに連絡してください。

DWC13705E インポート・ユーティリティは、**EXCHANGE** ディレクトリーに、一時 XML ファイルを作成できませんでした。
例外 = exception-code

説明: データウェアハウス・センターは、CWM.DTD ファイルと同じディレクトリーに、XML ファイルのコピーを作成しようとしています。このエラー・メッセージは、データウェアハウスが XML ファイルを作成できないことを示します。データウェアハウス・センターがこのファイルを作成できないと、インポート処理を続行できません。

ユーザーの処置: 指定した EXCHANGE パスへの書き込みアクセスがあること、システムに使用可能なメモリーおよびストレージが十分にあることを確認してください。問題が解決されない場合、このエラー・メッセージからの例外コードをすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC13706E XML ファイル *XML-file* をロードできません。**例外 = exception-code**

説明: これは、データウェアハウス・センターが、インポート処理中に、XML ファイルを読み取ることができない時に発生する内部エラーです。原因の典型的なものには、損傷を受けているか、XML データが含まれないファイルがあります。データウェアハウス・センターが XML ファイルを読み取ることができない場合、インポート処理を続行することができません。

ユーザーの処置: インポートしている XML ファイルが、損傷していないかどうか確認してください。これを行うには、XML ファイルをオリジナル・ソースから再生成し、再度インポートを行います。それでもこのエラー・メッセージを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポートか、ファイルを提供したベンダーに連絡してください。

DWC13707E インポート・ユーティリティは、ログ・ファイル *logfile-name* をオープンできませんでした。

説明: データウェアハウス・センターは、インポート処理のすべての詳細をキャプチャーするために、常にログ・ファイルを作成しようとします。このエラーは、データウェアハウス・センターがログ・ファイルにアクセスできないか、または開くことができないことを示します。データウェアハウス・センターがログ・ファイルを作成できないと、インポート処理を続行できません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルを開くことができない、またはインポートできない理由としては、次のものがあります。

- ファイル名が無効である。
- パス名が無効である。
- ログ・パスに対する書き込みアクセスがない。

これらの問題が存在するかどうかチェックし、存在する場合には、必要な変更を行うか、または弊社ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13708E インポート・ユーティリティが、フィードバック・ファイル *feedback-file* を開くことができません。

説明: データウェアハウス・センターは、インポートしている XML ファイルと同じディレクトリーに、フィードバック・ファイルを作成しようとします。このエラーは、データウェアハウス・センターがフィードバック・ファイルにアクセスできないか、または開くことができないことを示します。データウェアハウス・セン

ターが、フィードバック・ファイルを作成できない場合、インポート処理の結果は表示されません。

ユーザーの処置: 指定したパスへの書き込みアクセスがあること、システムに使用可能なメモリーおよびストレージが十分であることを確認してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13709N インポート・ユーティリティーが、
cwm.dtd ファイルを **EXCHANGE** ディレク
トリーから現行ディレクトリーにコピー
できませんでした。例外 =
exception-id。

説明: データウェアハウス・センターは、インポート・ユーティリティーが起動されたのと同じディレクトリーに **cwm.dtd** ファイルのコピーを作成できなくてはなりません。データウェアハウスが **DTD** ファイルをコピーできません。データウェアハウス・センターがこのファイルを作成できないと、インポート処理を続行できません。

ユーザーの処置: 指定した **EXCHANGE** パスへの読み取りアクセスがあること、および実行中の現行ディレクトリーへの書き込みアクセスがあることを確認してください。システムに使用可能なメモリーおよびストレージが十分であることを確認してください。問題が解決されない場合、このエラー・メッセージからの例外コードを確認して、**IBM** ソフトウェア・サポートに連絡してください。 **cwm.dtd** ファイルを手作業で、**EXCHANGE** ディレク
トリーから実行中の現行ディレ
クトリーにコピーしてみてもよいでしょう。

DWC14001E *database-name*: データベースが見つかりません。

説明: トランスフォーマーで内部エラーが発生しました。変換可能データベースがリソース・プロパティ
ー・ファイルに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: データベースが正常に実行していることを確認してください。トランスフォーマーを実行中の処理に表を作成する権限があることを確認してください。それから、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14002E ログ表アクセス・エラーです。

説明: トランスフォーマーがトランスフォーマー・エラー・ログ表にアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: データベースが正常に実行していることを確認してください。トランスフォーマーを実行中の処理に表を作成する権限があることを確認してくだ

い。それから、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14003E ログ表定義エラーです。

説明: トランスフォーマー・エラー・ログ表の構造が、エラー・ログ関数に必要な構造と一致していません。トランスフォーマー・コードが更新されている場合は、必要なエラー・ロギング表構造が変更されている可能性があります。

ユーザーの処置: トランスフォーマー・エラー・ログ表をドロップしてください。次にトランスフォーマーを実行するときにトランスフォーマーによって再作成されます。

DWC14005E 実行 **ID value** が無効です。整数である必要があります。

説明: 指定された実行 **ID** 値が無効です。整数である必要があります。実行 **ID** はトランスフォーマーによってログ表で使用され、トランスフォーマーが呼び出されるたびにプロセスを一意的に識別します。

ユーザーの処置: 実行 **ID** を整数に変更してください。

DWC14006E 必須パラメーターが指定されていません:
parameter-name

説明: 必須パラメーターをトランスフォーマーに提供しませんでした。

ユーザーの処置: 欠落しているパラメーターを入力し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14007E 指定された列タイプとして、列
column-name のデータ・タイプは無効です。

説明: 列のデータ・タイプが、指定した期間の必須データ・タイプに一致しません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- 指定した期間のデータ・タイプに一致するデータ・タイプの列を選択してください。
- 期間を、選択した列に一致するデータ・タイプを持つ期間に変更してください。

DWC14008E 指定された実行ログにアクセスできません
:
table-name

説明: トランスフォーマーがトランスフォーマー・エラー・ログ表にアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: データベースが正常に実行していることを確認してください。トランスフォーマーを実行中の処理に表を作成する権限があることを確認してください。それから、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14009E *column-name* 列のデータ・タイプが無効です。 *data-type* でなければなりません。

説明: 選択された列のデータ・タイプが誤っています。

ユーザーの処置: 列のデータ・タイプを訂正し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14010E パラメーター *name* および *name* を同時に指定することはできません。

説明: 一緒に使用できない 2 つのフィールドに対して情報を指定しました。

ユーザーの処置: いずれかのフィールドをクリアしてください。

DWC14011E パラメーター *name* および *name* のうち 1 つだけを指定しなければなりません。

説明: 一緒に使用できない 2 つのフィールドに対して情報を指定しました。

ユーザーの処置: フィールドの 1 つ (1 つのみ) に情報を指定していることを確認してください。

DWC14012E 指定された列 *column-name* が表 *table-name* に見つかりません。

説明: 指定された列が選択した表で見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 指定された列が選択した表に定義されていること、あるいは適切な表が使用されていることを確認してください。

DWC14013E 方式 *class-name.method-name* の統計値を計算できません。エラー・タイプ: *error*

説明: 統計方式は統計値の計算を完了することができませんでした。以下のいずれかが原因だと思われます。

- 統計ルーチンに渡された入力値が小さ過ぎるかまたは大き過ぎました。
- 計算を実行中にルーチンが NaN (非数値) または無限大を検出しました。

ユーザーの処置: 入力データを訂正し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14016E 入力表の列タイプは、共通プロモート可能データ・タイプでなければなりません。

説明: 指定された入力表の列は、同種であるか、あるいは自動プロモーションによって相互関連するタイプでなければなりません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- データ・ピボット・トランスフォーマーを使用するステップを定義している場合、ピボット・グループが自動プロモーションによって相互関連していることを確認してください。
- データ逆転トランスフォーマーを使用するステップを定義している場合、ソース表の列がデータ・タイプ・プロモーションによって相互関連していることを (最初の列が出力列名として使用される場合を除く) 確認してください。

関連データ・タイプのグループを理解するには、「SQL リファレンス」の中の、「データ・タイプのプロモーション」の項を参照してください。

DWC14017E 無効なパラメーター: *parameter-name*

説明: トランスフォーマーに渡されたパラメーターが無効です。

ユーザーの処置: トランスフォーマーのドキュメンテーションで、パラメーターで許可されているデータ形式を見つけてください。それからパラメーターを修正してください。

DWC14018E 表 *table-name* 用の主キーが見つかりません。

説明: 指定された表に定義された主キーがありません。主キーが表の更新には必要です。

ユーザーの処置: 指定された表に主キーを定義してください。

DWC14019E *parameter-name* パラメーターの値 *value* が無効です。

説明: フィールドに指定された値が無効です。

ユーザーの処置: トランスフォーマーのドキュメンテーションをチェックして、フィールドで許可されているデータ形式を調べてください。

DWC14025E 表 *table-name* には、更新のために使用するキー列がありません。

説明: トランスフォーマーで表を更新するには、表に主キー列が定義されている必要があります。

ユーザーの処置: 表で主キーを定義し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14026E 表 *table-name* にアクセスできませんでした。

説明: トランスフォーマーが指定された表にアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: 指定された表が存在していることを検査してください。

DWC14027E 表 *table-name* に行がありません。

説明: 指定された表が空です。表に行が定義されていません。

ユーザーの処置: 正しい表が指定されていることを検査してください。

DWC14028E 統計関数から NaN または無限大が返されました。

説明: 統計方式は統計値の計算を完了することができませんでした。非数値 (NaN) あるいは無限大が計算から返されました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC14029E いずれかが指定されている場合、パラメーター *name* および *name* の両方を指定しなければなりません。

説明: 片方のフィールドを使用せずにもう片方のフィールドを使用することはできません。

ユーザーの処置: これらのフィールドの両方に情報を提供してください。

DWC14030N 表 *table-name* に実行 ID フィールドがありません。

説明: ターゲット表の最初の列は、整数である必要があります。ターゲット・エラー表には実行 ID の整数列がなければなりません。そうでないと、トランスフォーマーがターゲット表に行を挿入できません。ターゲット・エラー表は、最初にトランスフォーマーが実行されるときか、またはトランスフォーマーがターゲット・デ

ータベース内でターゲット・エラー表を見つけられなかったときに作成されます。

ユーザーの処置: ターゲット・エラー表には実行 ID 列がなければなりません。ターゲット・エラー表に実行 ID の整数列を追加するか、またはターゲット・エラー表をドロップして、ランタイムにトランスフォーマーに表を再作成させてください。実行 ID 列を追加するには、ターゲット・エラー表を変更する必要があります。

DWC14031N 表 *table-name* を作成できませんでした。

説明: データベース・エラーのために、トランスフォーマーが表を作成できませんでした。DB2 JDBC ドライバーが SQLException を戻しました。

ユーザーの処置: ターゲット・データベースに表を作成するための特権をチェックしてください。詳しくは、トランスフォーマー・ログ表の内容を調べてください。

DWC14100E *value* サブパラメーターが、*parameter-name* パラメーターに指定されていません。

説明: 必須の 2 次情報を指定せずにフィールドに情報を提供しました。

ユーザーの処置: 正しい 2 次情報を指定し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14101E *column-name* 列のデータ・タイプは **DATE**、**TIMESTAMP**、または **TIME** でなければなりません。

説明: 誤ったデータ・タイプを持つ列を指定しました。データ・タイプは DATE、TIMESTAMP、または TIME でなければなりません。

ユーザーの処置: データ・タイプを DATE、TIMESTAMP、または TIME に訂正して、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14102E *parameter-name* パラメーターの値が、*parameter-name* パラメーターよりも前にあります。

説明: メッセージ内の最初のパラメーターに指定された値は、メッセージ内の 2 つ目に指定された値よりも後にする必要があります。

ユーザーの処置: 最初のパラメーターの値を (あるいは必要であれば 2 つ目のパラメーターを) 訂正し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14103E 無効な *value* サブパラメーターが、列 *column-name* に指定されました。

説明: 列に無効なサブパラメーターを指定しました。

ユーザーの処置: サブパラメーターに有効な値を指定し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14104E 指定された **Date** または **Time** 値 *value* は **ISO** 形式ではないか、または無効な値です。

説明: 互換性のない Date または Time 値を指定しました。

ユーザーの処置: データ・タイプを Date、TimeStamp、または Time に訂正し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14200E 分散分析は、**1** ~ **3** グループ化列をサポートします。

説明: 分散分析は、3 つまでのグループ化列をサポートしています。グループ化列の数値は実行される分散分析計算のタイプを決定します。1 つ、2 つ、3 つのグループ化列はそれぞれ単一方向、双方向、3 方向 ANOVA となります。

ユーザーの処置: グループ化列の数値を適切に変更してください。

DWC14201E 分散分析グループ化列はデータ列と同じです。

説明: 分散分析グループ化列はデータ列と同じです。

ユーザーの処置: データ列として使用したい列をグループ化列から除去してください。

DWC14202E 分散分析セル・カウントが **2** より小さくなっています。

説明: 双方向または 3 方向 ANOVA では、複数ディメンション・セル・カウント (サブグループ内のデータ項目の数) は 2 以上です。

ユーザーの処置: 入力データ表をチェックして、入力データがこの要件に従っていることを確認してください。

DWC14203E 分散分析セル・カウントが、すべてのセルと同じではありません。

説明: 両方向または 3 方向 ANOVA では、複数ディメンション・セル・カウント (サブグループ内のデータ項目の数) はすべてのセルと同等である必要があります。

ユーザーの処置: 入力データ表をチェックして、入力データがこの要件に従っていることを確認してください。

DWC14204E 照会が、*grouping-column-name* について無効な行数を返しました。

説明: 照会中に、指定されたグループ化列に対して無効な行数が返されました。期待されていた行数は、もっと前の照会から判別されました。

ユーザーの処置: 関数を再実行してください。入力表が別の処理で同時に更新されていないことを確認してください。

DWC14255E 表をクロス集計表に変換できません。

説明: カイ二乗トランスフォーマーの入力表をクロス集計表に変換できません。2 つのグループ化列が入力されました。概して、カイ二乗はこれらの 2 つの列のデータを使用して、観測度数列データによるクロス集計表の行と列を形成します。

ユーザーの処置: 入力表のグループ化列がクロス集計表を作成するのに使用できるデータを含んでいることを確認してください。

DWC14256E 2 つのグループ化列なしで期待値を計算できません。

説明: 期待値を計算するのに 2 つのグループ化列が必要です。

ユーザーの処置: グループ化列に追加の列を選択するか、あるいは期待度数列として使用する列を指定してください。

DWC14257E 期待度数列が指定されている場合、期待値を計算することはできません。

説明: 期待度数列名と期待値出力表名を入力しました。どちらか片方のみ指定できます。

ユーザーの処置: 期待度数列名または期待値出力表名のいずれかをステップから除去してください。

DWC14300E 規則定義 *rule-name* に入力データ列が指定されていません。

説明: 定義した規則にソース・データ列を提供しませんでした。

ユーザーの処置: ソース表がデータウェアハウス・センターにインポートされていること、および規則定義で使用されている列がすべて、インポートされた表に存在することを確認してください。

DWC14301E 同じ出力列 *column-name* を指定している複数の行が、異なる入力列を持っています。

説明: 同じターゲット列に書き込む複数の規則を定義しました。

ユーザーの処置: データ整理トランスフォーマー規則定義を変更して、ターゲット表の各列がソース表の 1 つの列とのみ関連するようにしてください。

DWC14302E 入力列 *column-name* および出力列 *column-name* のデータ・タイプが一致しません。

説明: 規則に定義したソースおよびターゲット表の名前列に異なるデータ・タイプを持つ列があります。

ユーザーの処置: ソースおよびターゲット表の名前列が同じタイプであることを確認してください。

DWC14303E 規則定義 *rule-definition* に、表 *table-name* の規則タイプが指定されていません。

説明: 整理トランスフォーマーに整理タイプを指定しませんでした。

ユーザーの処置: データウェアハウス・センター整理データ・トランスフォーマー・ウィンドウの項目ごとに整理タイプが選択されていることを確認してください。

DWC14304E 規則定義 *rule-name* に、規則タイプ *rule-type* の表が指定されていません。

説明: 規則表が規則定義に指定されていません。

ユーザーの処置: 「検出および置換」、「クリップ」、「離散化」規則すべてが、存在し、データウェアハウス・センターに認識されている規則表を持っていることを確認してください。

DWC14305E 規則定義 *rule-name* に、表 *table-name* の列が指定されていません。

説明: 列が規則定義に指定されていません。

ユーザーの処置: 「検出および置換」、「クリップ」、「離散化」規則それぞれに、選択された規則に該当する列を持つ表があることを検査してください。

DWC14306E 規則定義 *rule-name* において、指定された列 *column-names* に表が指定されていません。

説明: 規則表が規則定義に指定されていません。

ユーザーの処置: 「検出および置換」、「クリップ」、

「離散化」規則それぞれに、選択された規則に該当する列を持つ表があることを検査してください。

DWC14307E 規則定義 *rule-name* において、規則タイプ *rule-type* には *count* の列名が必要です。

説明: 定義している規則に対して選択された正しい列数を持たない規則表を選択しました。

ユーザーの処置: 規則定義に対して正しい列数を選択してください。

検出および置換規則には 2 または 3 列、ORDER BY 列となるエクストラ列が必要です。(セクション「トランスフォーマーの使用法」にある「データウェアハウス・センターの管理」を参照してください。)

離散化規則では、3 または 4 列と、規則が規則表から取り出される順序を指定するエクストラ列が必要です。クリップ規則では、前述の 2 つの規則と同様の理由で余分なオプション列が指定されている 4 または 5 列を必要とします。

DWC14308E 規則定義 *rule-name* において、入力および出力列のデータ・タイプが規則表のデータ・タイプに一致しません。

説明: 規則定義で、指定したソースおよび列データ・タイプとは異なるデータ・タイプを持つ規則表を指定しました。

ユーザーの処置: (順序列以外の) 規則表の名前付き列が、ソースとターゲット表の名前付き列と同じデータ・タイプであることを検査してください。

DWC14309E 規則定義 *rule-name* において、行整理パラメーター *name* が無効です。これは、「0」あるいは「1」のどちらかである必要があります。

説明: 規則定義の行整理パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: SQL スtringがこのパラメーターに「0」または「1」を含んでいることを確認してください。デフォルトは「0」です。

DWC14310E 規則定義 *rule-name* において、空白標識パラメーター *name* が無効です。これは、「0」あるいは「1」のどちらかである必要があります。

説明: 整理トランスフォーマー - 数値パラメーター・ウィンドウの空白フィールドに、無効な数値を入力しました。

ユーザーの処置: SQL スtringがこのパラメーター

に "0" または "1" を含んでいることを確認してください。何も入力しないと、デフォルトは "0" です。

DWC14311E 規則定義 *rule-name* において、大文字小文字区別パラメーター *name* が無効です。これは、"0" あるいは "1" のどちらかである必要があります。

説明: 整理トランスフォーマー - 数値パラメーター・ウィンドウの大文字小文字区別フィールドに、無効な数値を入力しました。

ユーザーの処置: SQL スtringがこのパラメーターに "0" または "1" を含んでいることを確認してください。何も入力しないと、デフォルトは "1" です。

DWC14312E 規則定義 *rule-name* において、圧縮空白パラメーター *name* が無効です。これは、"0" あるいは "1" のどちらかである必要があります。

説明: 整理トランスフォーマー - 数値パラメーター・ウィンドウの圧縮空白フィールドに、無効な数値を入力しました。

ユーザーの処置: SQL スtringがこのパラメーターに "0" または "1" を含んでいることを確認してください。何も入力しないと、デフォルトは "0" です。

DWC14313E 規則定期 *rule-name* において、数値許容度は正の整数または 10 進数でなければなりません。

説明: 整理トランスフォーマー - 数値パラメーター・ウィンドウの数値許容度フィールドに、無効な数値を入力しました。

ユーザーの処置: このパラメーターに入力された値が基底 10 数値で、ゼロ以上であることを検査してください。

DWC14314N エラー表 *table-name* は、ソース表の構造に従う必要があります。

説明: ターゲット・エラー表の構造は、トランスフォーマー・ソース表と似ていません。ターゲット・エラー表の最初の列は実行 ID 用の整数で、表の残りの部分はトランスフォーマー・ソース表と同じ構造でなければなりません。

ユーザーの処置: ターゲット・データベース内のターゲット・エラー表をドロップして、トランスフォーマーに表を再作成させてください。

DWC14315N 規則定義 *rule-number* に対して出力データ列が指定されていません。

説明: 特定の規則定義の出力データ列が指定されていません。

ユーザーの処置: トランスフォーマー列マッピングをチェックして、各規則に出力データ列がマップされていることを確認してください。

DWC14316N 規則 *rule-number* のデータ・タイプを整理できません。

説明: 整理トランスフォーマーが、規則のデータ・タイプを整理できません。

ユーザーの処置: 整理トランスフォーマーがデータ・タイプを整理できないので、整理ステップから規則を除去してください。

DWC14350E 出力表 *table-name* は入力表と同じです。

説明: 入出力用に同じ表を使用して、統計または関連トランスフォーマーを実行しました。これらのトランスフォーマーでは、入力表は出力表と同一でない必要があります。トランスフォーマーは入力表からデータを読み取り、結果を出力表に書き込みます。

ユーザーの処置: 入力データを含む表の名前と、結果が書き込まれる別の表の名前を指定して、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14351E 予期しない *parameter-name* パラメーターの終わりに達しました。

説明: トランスフォーマー・ストアード・プロシージャのパラメーターの構文解析が完了しませんでした。パラメーターの終わりが予期したよりも早く検出されました。このエラーは、いくつかの理由のために発生した可能性があります。たとえば、

- 左括弧に合う右括弧がないか、あるいはパラメーター・Stringに無関係なコンマが含まれている
- 統計 ID が欠落している

ユーザーの処置: エラーのあるパラメーターの正しい構文を検討し、パラメーターを訂正し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14352E 入力列 *column-name* のデータ・タイプ *data-type* は、統計 *statistic-name* には無効です。

説明: 統計計算は特定のデータ・タイプでのみ実行できます。サポートされないデータ・タイプの列が統計計算の入力列として指定されました。

ユーザーの処置: エラーのある統計の有効な入力データ・タイプを検討し、有効なデータ・タイプを持つ入力列の名前を指定し、計算を再実行してください。

DWC14353E 出力列 *column-name* のデータ・タイプ *data-type* は、統計 *statistic-name* および入力列 *column-name* には無効です。

説明: 統計計算に指定された出力列のデータ・タイプが無効です。統計計算からの出力は特定のデータ・タイプのみです。有効なデータ・タイプは統計によって異なります。統計の中には、有効なデータ・タイプが入力列のデータ・タイプによって異なるものもあります。無効なデータ・タイプの列が統計計算の出力列として指定されたので、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーのある統計の有効な出力データ・タイプを検討し、有効なデータ・タイプを持つ出力列の名前を指定し、計算を再実行してください。

DWC14354E 出力列 *column-name* が、統計 *name* および統計 *name* に指定されています。

説明: 2 つの統計計算で、同じ出力列を指定しました。出力列は 1 つの統計計算にのみ使用できます。

ユーザーの処置: 1 つの統計計算の結果に使用できる列の名前と、もう 1 つの統計計算の結果に使用できる別の列の名前を指定して、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14355E 統計 ID *number* はサポートされていません。

説明: 統計計算および関連トランスフォーマーのデータウェアハウス・センター・ステップには、統計ごとの名前だけを指定できます。統計計算または関連トランスフォーマーによって計算される各統計には、ユニークな数値 ID が割り当てられます。

ユーザーの処置: IBM お客様サポートへ連絡してください。

DWC14356E グループ化列 *column-name* は入力列と同じです。

説明: グループ化列フィールドの列を、統計計算または関連トランスフォーマーの統計定義の入力データ列として指定しました。

ユーザーの処置: 入力データを含む列の名前と、別の列の名前、または計算統計の結果をグループ化するのに使用できる列を指定してください。それから、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14357E グループ化列 *column-name* が 2 つ指定されています。

説明: グループ化列パラメーターから重複している列名を除去し、トランスフォーマーを再実行してください。

ユーザーの処置: グループ化列パラメーターから重複している列名を除去し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14358E グループ化列 *column-name* は出力列と同じです。

説明: 列がグループ化列パラメーターでグループ化列として、また統計計算または関連トランスフォーマーの統計定義パラメーターで出力データ列として指定されました。

ユーザーの処置: 統計計算または関連トランスフォーマーの出力データ列統計定義フィールドとして指定したグループ化列フィールドに、同じ列を指定しました。

DWC14400E 1 つ以上の関連計算の結果が NULL 値になりました。

説明: 関連統計計算の結果を数値で表すことができず、結果が出力表で NULL として表されました。この NULL 結果は、以下のいずれかの条件によって発生した可能性があります。

- 関連統計計算の入力値を 1 つのみ指定しました。たとえば、入力表が 1 行のデータのみを含んでいるか、あるいは 1 つまたは複数のグループ化列が指定されて、1 つまたは複数のグループが 1 行のデータのみを含んでいる可能性があります。
- 継続する小数部の計算中に反復の最大数に達したため、P 値を計算できませんでした。
- 関連統計計算の結果は負か正の無限大です。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- 入力表に少なくとも 2 行のデータがあることを確認してください。変更を行った後、関連トランスフォーマーを再実行してください。
- 関連トランスフォーマー・パラメーター・リストに 1 つまたは複数のグループ化列が指定されている場合、各グループに少なくとも 2 行の入力データがあることを確認して、NULL 結果を避けられる可能性があります。

DWC14401E 出力列 *column-name* のデータ・タイプは *type* ですが、この列では *type* でなければなりません。

説明: 関連トランスフォーマーは、入力データを含む 2 つの列の名前を出力表の最初の 2 つの列に書き込みます。出力表の最初の 2 つの列の 1 つが無効なデータ・タイプです。

ユーザーの処置: 出力表の列のデータ・タイプを訂正し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14402E 出力列 *column-name* のデータ・タイプは *type* で、出力列 *column-name* のデータ・タイプは *type* ですが、これらの列では *type* でなければなりません。

説明: 関連トランスフォーマーは、入力データを含む 2 つの列の名前を出力表の最初の 2 つの列に書き込みます。出力表の最初の 2 つの列の両方が無効なデータ・タイプです。

ユーザーの処置: 出力表の 2 つの列のそれぞれのデータ・タイプを訂正し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14500E 逆転する行 (*count*) が多すぎます。最大数は *count* です。

説明: データベースでサポートしている列の最大数よりも多くの行を持つ表を逆転しようとした。

ユーザーの処置: ソース表に、このトランスフォーマーを実行中の DB2 のバージョンでサポートされている表列の最大数以下の行数があることを検査してください。

DWC14600E 移動平均タイプが無効です。

説明: 要求された移動平均タイプが無効です。以下の関数タイプがサポートされています。

- 標準移動平均
- 指数平滑化移動平均
- 縦視野移動合計

ユーザーの処置: 移動平均タイプをサポートされている 3 つのタイプの 1 つに変更してください。

DWC14601E 移動平均期間は 1 より大きくなければなりません。

説明: 移動平均または縦視野移動合計の計算に指定された期間が無効です。期間は 1 より大きい整数にしてください。

ユーザーの処置: 移動平均期間を 1 より大きい整数に変更してください。

DWC14602E 移動平均データ列が ORDER BY 列と同じです。

説明: 選択された移動平均データ列の 1 つが ORDER BY 列と同じです。

ユーザーの処置: ORDER BY 列と異なる移動平均用のデータ列を選択してください。

DWC14650E キャリーオーバー列はペアで指定しなければなりません。

説明: ソース列名とターゲット列名の両方がキャリーオーバー・パラメーターには必要です。

ユーザーの処置: ソース列名が存在し、指定されたターゲット列名がデータウェアハウス・センターの制限において有効であることを確認してください。

DWC14651E ピボット列数が無効です。

説明: ピボット・グループに異なる列数が含まれていません。各ピボット・グループには、同じ数の列が含まれている必要があります。

ユーザーの処置: 列名が 1 つしか指定されているのであれば、列名の数がピボットされる各グループの列数に一致することを検査してください。

DWC14652E 集約列数が無効です。

説明: ピボット列フィールドに列を指定しませんでした。

ユーザーの処置: ピボット列フィールドに列を指定してください。列名の数が、提供されている各グループの列数と一致することを確認してください。

DWC14653E 集約グループの列数がピボット列数に一致しません。

説明: ピボット列フィールドに指定したデータ列数が、ユーザーのピボット・グループの列の合計数と等しくありません。

ユーザーの処置: ピボット列パラメーター (SQL) が、各グループがセミコロン ";" で区切られるという規則に従っていることを確認してください。グループ内の最初のパラメーターは出力列名です。グループ内の 2 番目から n 番目のパラメーターは入力表列の名前です。グループに 1 つの名前しかない特別な場合は、名前は集約入力列の出力列名で、入力列の数と名前は前もって分かりません。

DWC14654E キャリーオーバー列が表 *table-name* に見つかりません。

説明: キャリーオーバー列ペアで選択した列が存在しません。

ユーザーの処置: キャリーオーバー列ペアがゼロまたはそれ以上あり、名前付き列がソース表とターゲット表に存在することを検査してください。

DWC14700E 独立データ列が従属データ列と同じです。

説明: 回帰トランスフォームの予測子列に選択した列と同じ列を基準列の列に選択しました。基準列として選択した列を予測子列に選択した列と同じにすることはできません。

ユーザーの処置: 予測子選択から基準列を除去し、回帰トランスフォームを再実行してください。

DWC14701E 独立データ列が重複しています。

説明: 列が予測子列として 2 度選択されています。

ユーザーの処置: 予測子列フィールドから選択を 1 つ除去してください。回帰トランスフォームを再実行してください。

DWC14702E 結果セットからのカウントと前の行数が同じではありません。

説明: 照会中に、無効な行数が返されました。期待されていた行数は、もっと前の照会から判別されました。

ユーザーの処置: トランスフォーマーを再実行してください。入力表が別の処理で同時に更新されていないことを確認してください。

DWC14750E 小計グループ化列が日付列と同じです。

説明: 選択された小計グループ化列の 1 つが日付列と同じです。

ユーザーの処置: グループ化列を変更し、日付列が含まれないようにしてください。

DWC14751E 小計データ列が日付列と同じです。

説明: 小計データ列が日付列と同じです。

ユーザーの処置: データ列を変更し、日付列が含まれないようにしてください。

DWC14752E 小計データ列がグループ化列と同じです。

説明: 小計データ列がグループ化列と同じです。

ユーザーの処置: データ列を変更し、グループ化列が含まれないようにしてください。

DWC14753E 小計期間が無効です。

説明: 要求された小計期間が無効です。5 つの期間タイプがサポートされています。

- 週
- 半月
- 月
- 四半期
- 年

ユーザーの処置: 小計期間タイプをサポートされているタイプの 1 つに変更してください。

DWC15000N VWS_LOGGING 環境をオープンできません。

説明: インストール時に VWS_LOGGING 環境変数を設定します。

ユーザーの処置: VWS_LOGGING 環境変数が設定されていません。

DWC15001N 一時トレース・ファイルを作成できません。

説明: 十分なディスク・スペースがない可能性があります。

ユーザーの処置: VWS_LOGGING ディレクトリーに、トレース・ファイルのために十分なディスク・スペースがあることを確認してください。ディスク・スペースが十分でない場合は、使用していないファイルを除去して、プログラムを再始動してください。

DWC15002N トレース・ファイル *filename* をオープンできません。

説明: ディスク・スペースが十分でない、またはトレース・ファイルが存在しません。

ユーザーの処置: ファイルのオープンを試みて、ファイルが存在することを確認してください。

VWS_LOGGING ディレクトリーに十分なディスク・スペースがあることを確認してください。ディスク・スペースが十分でない場合は、使用していないファイルを除去して、プログラムを再始動してください。

DWC15003N 7 番目のパラメーターにパスワード・タイプを入力してください。

説明: パスワード・タイプの値が誤っていたために、エラーが発生しました。正しいパスワード・タイプは、EnterPassword、 PasswordNotRequired、 GetPassword です。

ユーザーの処置: パスワード・タイプに正しい値を入力して、プログラムを再始動してください。

DWC15004N パスワード取得プログラムが失敗しました。

説明: パスワードの検索中に、パスワード取得プログラムがエラーを戻しました。パスワード取得プログラムがゼロ以外の戻りコードを戻したので、エラーが発生しました。パスワードを含むファイルが存在しなかったか、オープンできなかったか、あるいはパスワードを検索した後でファイルを削除できなかったかのいずれかです。

ユーザーの処置: パスワード取得プログラムが正しく動作すること、およびパスワード・ファイルのために十分なディスク・スペースがあることを確認してください。

DWC15005N 「成功と見なす JES 戻りコードの最高値 (Highest JES return code to Consider Sccess)」の値は数値でなければなりません。

説明: パラメーター「成功と見なす JES 戻りコードの最高値」の値が無効なため、エラーが戻されました。

ユーザーの処置: ユーザー定義関数のパラメーター値を訂正して、プログラムを再始動してください。

DWC15007N FTP ログ用の一時ファイルを作成できませんでした。

説明: オペレーティング・システムで、ユニークなファイル名を作成できませんでした。 VWS_LOGGING ディレクトリー内の一時ファイル名が多すぎる可能性があります。

ユーザーの処置: VWS_LOGGING ディレクトリーに十分なディスク・スペースがあることを確認してください。 ディスク・スペースが十分でない場合は、不要なファイルを除去して、プログラムを再始動してください。

DWC15008N FTP コマンド用の一時ファイルを作成できませんでした。

説明: オペレーティング・システムで、ユニークなファイル名を作成できません。 VWS_LOGGING ディレクトリー内の一時ファイル名が多すぎる可能性があります。

ユーザーの処置: VWS_LOGGING ディレクトリーに十分なディスク・スペースがあることを確認してください。 ディスク・スペースが十分でない場合は、不要なファイルを除去して、プログラムを再始動してください。

DWC15009N ユーザー定義プログラムが、FTP 呼び出しのためのファイル *filename* をオープンできません。

説明: ユーザー定義プログラムが、ファイルを更新モードでオープンできません。

ユーザーの処置: プログラムにファイル *filename* への書き込みアクセスがあることを確認して、プログラムを再始動してください。

DWC15010N FTP 接続コマンドを実行できません。

説明: ユーザー定義プログラムが、FTP を介してリモート・ホストに接続しようとした。 FTP プログラム戻りがゼロ以外の戻りコードを戻しました。 VWS_LOGGING ディレクトリーの FTP トレース・ファイルまたは FTP ログ・ファイルをチェックしてください。

ユーザーの処置: システムのネットワーク接続が作動していることを確認してください。 必要であれば、ネットワーク接続をセットアップして、プログラムを再始動してください。

DWC15011N ログ・ファイル *filename* をオープンできません。

説明: FTP が成功したかどうかを判断するために FTP ログ・ファイルをオープンしようとして、ユーザー定義プログラムが失敗しました。

ユーザーの処置: ログ・ファイルのオープンを試みて、ファイルが存在することを確認してください。 VWS_LOGGING ディレクトリーに十分なディスク・スペースがあることを確認してください。 ディスク・スペースが十分でない場合は、使用していないファイルを除去して、プログラムを再始動してください。 問題が解決されない場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15012N OS/390 上のエラー・ファイル *filename* を削除できません。

説明: OS/390 ホスト上の VWS_LOGGING ディレクトリーの ETI エラー・ファイルを削除しようとして、ユーザー定義プログラムが失敗しました。このファイルは、ETI プログラムを実行する前に削除しなければなりません。

ユーザーの処置: エラー・ファイルが使用中でないことを確認してください。もしこのファイルが存在している場合は、削除して、プログラムを再始動してください。

DWC15013N JES ログ用の一時ファイルを作成できません。

説明: オペレーティング・システムで、ユニークなファイル名を作成できませんでした。VWS_LOGGING ディレクトリー内の一時ファイル名が多すぎる可能性があります。

ユーザーの処置: VWS_LOGGING ディレクトリーに十分なディスク・スペースがあることを確認してください。ディスク・スペースが十分でない場合は、不要なファイルを除去して、プログラムを再始動してください。

DWC15014N 指定された MVS システムに JCL ファイルが存在しません。

説明: 実行のためにサブミットする JCL ファイルが、指定された MVS システムで見付かりません。ファイルが、正しい MVS フォーマットでない場合もあります。ファイル名は完全修飾され、かつ二重引用符で囲まれていなければなりません。

ユーザーの処置: 指定された JCL ファイルが MVS システム上に存在することを確認してください。ファイル名は完全修飾され、かつ二重引用符で囲まれていなければなりません。ファイル名が正しく指定されている場合は、このエラーに関するすべての詳細情報を集め、IBM サービス技術員に連絡してください。情報には、ロギング・ディレクトリーにあるすべてのトレース・ファイルとログ・ファイルも含めてください。

DWC15015N JCL ファイルが空です。

説明: ジョブのサブミットのために指定された JCL ファイルに、何も情報が含まれていません。

ユーザーの処置: 正しい JCL ファイル名が指定されたことを確認する、またはファイル内に必要なジョブ制御ステートメントを作成して、そのステップを再サブミットして実行します。JCL ファイルにジョブ情報が含ま

れている場合は、このエラーに関するすべての詳細情報を集め、IBM サービス技術員に連絡してください。情報には、ロギング・ディレクトリーにあるすべてのトレース・ファイルとログ・ファイルも含めてください。

DWC15016N JCL ファイルを FTP でファイル転送しようとして、エラーが発生しました。

説明: ステップを実行しているデータウェアハウス・センター エージェントに、ターゲット MVS システムに FTP でファイル転送するための権限があることを確認します。ファイルを FTP でファイル転送するための権限がエージェントにない場合は、このエラーに関するすべての詳細情報を集め、IBM サービス技術員に連絡してください。情報には、ロギング・ディレクトリーにあるすべてのトレース・ファイルとログ・ファイルも含めてください。

ユーザーの処置: JCL ファイルをターゲット MVS システムから FTP でファイル転送しようとして、エラーが発生しました。FTP がエージェント・システム上で有効なコマンドであることを確認します。ユーザー定義プログラムを再度実行します。

DWC15017N ローカル・ディレクトリーに JCL ファイルを作成することができません。

説明: データウェアハウス・エージェント・サイトでのファイルの処理中に、JCL ファイルをローカル・ディレクトリーに書き込もうとして、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エージェントが一時ファイルおよびログ・ファイルを書き込んでいるファイル・システムがいったいでないことを確認してください。このディレクトリーは、エージェントが実行しているシステムのシステム環境変数 VWS_LOGGING を調べることで、識別できます。ファイルがいったいではない場合は、このエラーに関するすべての詳細情報を集め、IBM サービス技術員に連絡してください。情報には、ロギング・ディレクトリーにあるすべてのトレース・ファイルとログ・ファイルも含めてください。

DWC15018N JCL ファイル *filename* 内の JOBID のチェック中に、内部エラーが発生しました。

説明: ユーザー定義プログラムが、JOBID のチェックのための、JCL ファイル *filename*S のオープンに失敗しました。

ユーザーの処置: ファイルが VWS_LOGGING ディレクトリーに存在し、オープンできることを確認してください。このエラーに関するすべての詳細情報を集め、IBM サービス技術員に連絡してください。情報には、ロギング・ディレクトリーにあるすべてのトレース・ファイルとログ・ファイルも含めてください。

DWC15019N ジョブ名が、リモート ID と異なります。

説明: JCL に指定されたジョブ名が、サブミットされたジョブに関連したユーザー ID (プラス 1 文字) と同じではありません。これらのユーザー ID は一致していなければなりません。

ユーザーの処置: JCL のジョブ名を変更して、その JCL をサブミットして実行するのに使用するリモート ID と一致させるか、または、その JCL をサブミットして実行するのに使用するリモート ID を変更して、JCL ジョブ名に指定されているユーザー ID にしてください。ジョブをサブミットするのに使用したリモート ID (プラス 1 文字) とジョブ名が一致している場合は、このエラーに関するすべての詳細情報を集め、IBM サービス技術員に連絡してください。情報には、ロギング・ディレクトリーにあるすべてのトレース・ファイルとログ・ファイルも含めてください。

DWC15020N ユニークなエラー・ファイル名を取得できません。

説明: オペレーティング・システムに対する、ユニークなファイル名を生成する要求が失敗しました。このエラーは、VWS_LOGGING ディレクトリー内の一時ファイル名が多すぎるために起こった可能性があります。

ユーザーの処置: VWS_LOGGING ディレクトリーから不要なファイルを除去して、ステップを再サブミットして実行し、アクションを再試行してください。依然として失敗する場合、エラーに関するすべての詳細情報を集め、IBM サービス技術員に連絡してください。情報には、ロギング・ディレクトリーにあるトレース・ファイルとログ・ファイルも含めてください。

DWC15021N ローカル・エラー・ファイルを作成できません。

説明: データウェアハウス・エージェントが、戻されたエラーの内容を保留するための一時ファイルを作成できませんでした。

ユーザーの処置: エージェントに VWS_LOGGING ディレクトリーで示される一時ディレクトリーへの書き込みアクセスがあること、およびディレクトリーが存在しているファイル・システムがいっぱいでないことを確認してください。ファイルがいっぱいではない場合は、このエラーに関するすべての詳細情報を集め、IBM サービス技術員に連絡してください。情報には、ロギング・ディレクトリーにあるすべてのトレース・ファイルとログ・ファイルも含めてください。

DWC15022N ローカル・エラー・ファイル *filename* をオープンできません。

説明: データウェアハウス・センター エージェントが、ステップの実行中に発生したエラーを含む一時ファイル *filename* をオープンできませんでした。

ユーザーの処置: VWS_LOGGING 環境変数によって示されるディレクトリーに対する読み取り/書き込みアクセスが、エージェントにあることを確認します。エージェントにディレクトリーへのアクセスがある場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。情報には、ロギング・ディレクトリーにあるすべてのトレース・ファイルとログ・ファイルも含めてください。

DWC15023N ローカル・エラー・ファイル *filename* が空です。

説明: データウェアハウス・センター エージェントが、一時ファイル *filename* 内で、ステップの実行で発生したエラーに関する情報を何も見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: VWS_LOGGING 環境変数で指定されている、一時ファイルが書き込まれたファイル・システムがいっぱいでないことを確認してください。ファイルがいっぱいではない場合は、このエラーに関するすべての詳細情報を集め、IBM サービス技術員に連絡してください。情報には、ロギング・ディレクトリーにあるすべてのトレース・ファイルとログ・ファイルも含めてください。

DWC15024N ローカル・エラー・ファイルを除去できません。

説明: エージェントが、ステップの実行で発生したエラーを含む一時ファイルを除去できませんでした。

ユーザーの処置: 内部エラーが発生しました。このエラーに関するすべての詳細情報を集め、IBM サービス技術員に連絡してください。情報には、ロギング・ディレクトリーにあるすべてのトレース・ファイルとログ・ファイルも含めてください。

DWC15025N エラー・ファイルを FTP でファイル転送できません。

説明: データウェアハウス・エージェントは、ステップの実行の結果として作成されたエラー・ファイルを検索できませんでした。

ユーザーの処置: ステップを実行するために使用されたリモート ID に、エラー・ファイルへのアクセスがあることを確認してください。ファイルが存在していて、かつエージェントにそのファイルへのアクセスがある場

合は、このエラーに関するすべての詳細情報を集め、IBM サービス技術員に連絡してください。情報には、ロギング・ディレクトリーにあるすべてのトレース・ファイルとログ・ファイルも含めてください。

DWC15026N JCL の実行でエラーが発生しました。
JES 出力ファイル *filename* をチェックしてください。

説明: JCL の実行中にエラーが発生したため、ユーザー定義プログラムはジョブ・ステップ条件コードを検証できませんでした。

ユーザーの処置: このジョブの JES 出力 *filename* を検討してください。JCL がすべて出力先に影響しないことを確認してください。たとえば、OUTPUT JES JCL カードの場合、ジョブ・ステップ条件コードの出力の一部が戻されない可能性があります。エラーを解決するために必要な修正を行ってください。

DWC15027N 処理中に ETI エラーが発生しました。
エラーが、ETI エラー・ファイル *filename* に書き込まれました。

説明: ジョブ要求の処理中に、ETI がエラーを戻しました。

ユーザーの処置: エラー・ファイル *filename* でエラーを検討し、必要な修正を行ってください。

DWC15028W ETI 警告が発生しました。

説明: ETI プログラムが警告を出して完了しました。

ユーザーの処置: 詳細情報については、ログ・ファイルを参照してください。

DWC15029N ETI プログラムが失敗しました。

説明: ETI プログラムが失敗しました。

ユーザーの処置: ETI プログラムが失敗しました。詳細情報については、ログ・ファイルを参照してください。

DWC15030N ETI プログラムが完了しませんでした。

説明: ETI プログラムが開始しましたが、完了しませんでした。ステップが失敗しました。

ユーザーの処置: ETI プログラムが完了しませんでした。詳細情報については、ログ・ファイルを参照してください。

DWC15031W ETI プログラムが完了しました。成功/失敗を判別できません。

説明: ETI プログラムが完了しました。ユーザー定義プログラムが、成功または失敗を判別するための、EXTRACT\$ERROR または ET1007S を ETI エラー・ファイル内で見つけられませんでした。ステップ完了状況 = 警告。

ユーザーの処置: ETI プログラムが完了しました。ユーザー定義プログラムが、ETI プログラムの成功または失敗を判別できませんでした。詳細情報については、ログ・ファイルを参照してください。

DWC15032N API の呼び出しでエラーが発生しました。戻りコード = *ReturnCode*。

説明: Essbase API の呼び出しが成功しませんでした。

ユーザーの処置: Essbase の資料を参照して、API からの戻りコードを調べてください。

DWC15033N メンバー *member name: record name* の構文の誤りです。

説明: メンバーの構文が正しくありません。

ユーザーの処置: メンバーの構文を訂正してください。

DWC15034N メンバー *member: record* にアクセスできません。

説明: メンバーにアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: Essbase データベースにメンバーが存在していることを確認してください。

DWC15035N メンバー *member: record* がデータベース内で見付かりません。

説明: メンバーが、Essbase データベース内で見付かりませんでした。

ユーザーの処置: Essbase データベースがメンバーを含んでいることを確認してください。

DWC15036N メンバー *member: record* で、エラー・タイプ *errortype* の不明のエラーが発生しました。

説明: メンバーに、不明のエラーがあります。

ユーザーの処置: Essbase の資料を参照してください。

DWC15037N メンバー *member: record* のディメンションが誤りです。

説明: メンバー *member* のディメンションが誤りです。

ユーザーの処置: 詳しくは、Essbase の資料を参照してください。

DWC15038N メンバー *member: record* の世代が誤りです。

説明: メンバー *member* の世代が誤りです。

ユーザーの処置: 詳しくは、Essbase の資料を参照してください。

DWC15039N パラメーター *parameter* は、0 または 1 でなければなりません。

説明: パラメーター *parameter* は 0 または 1 でなければなりません。

ユーザーの処置: すべてのトレース・ファイルとログ・ファイルを集め、IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15040N 出力ファイル *outputfilename* をオープンできません。

説明: データウェアハウス・エージェントは、エクスポートされたデータを含める出力ファイルをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: エージェントにディレクトリーへの読み取り/書き込みアクセスがあることを確認します。エージェントにそのディレクトリーへのアクセスがある場合は、すべてのトレース・ファイルとログ・ファイルを集め、IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15041N netrc ファイル *netrcfilename* を作成できません。

説明: データウェアハウス・エージェントは、VWS_LOGGING ディレクトリーに netrc ファイルを作成できませんでした。

ユーザーの処置: VWS_LOGGING 環境変数によってポイントされるディレクトリーに対する読み取り/書き込みアクセスが、エージェントにあることを確認します。エージェントにそのディレクトリーへのアクセスがある場合は、すべてのトレース・ファイルとログ・ファイルを集め、IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15042N FTP コマンド・ファイル

commandfilename を作成できません。

説明: ユーザー定義プログラムは、「UDPFTPCMD」というストリングで始まる一時 FTP コマンド・ファイルを作成します。このファイルには FTP コマンドが含まれますが、オリジナル・コマンド・ファイルにあるユーザー ID とパスワードは含まれません。通常は、このファイルは VWS_LOGGING 環境変数でポイントされるディレクトリーに作成され、処理の終わりに削除されます。プログラムが、一時 FTP コマンド・ファイルを作成できませんでした。

ユーザーの処置: 以下のことを確認してください。

- VWS_LOGGING 環境変数が設定されていて、かつそのディレクトリーに書き込むための許可がユーザーにあること。
- ユーザー ID にディレクトリーへのアクセスがあること。
- ディレクトリーに十分なスペースがあること。

DWC15043N FTP コマンドの発行でエラーが発生しました。

説明: ユーザー定義プログラムが FTP コマンドを出し、FTP がエラーを戻しました。

ユーザーの処置: FTP ログ・ファイルで、FTP コマンドと FTP からの応答が示されています。FTP ログ・ファイルは、VWS_LOGGING 環境変数でポイントされるディレクトリーにあります。ファイル名は「ftp」で始まり、「.log」で終わります。

DWC15044N FTP コマンド・ファイル *ftpcommandfile* をオープンできません。

説明: ユーザー定義プログラムは、「UDPFTPCMD」というストリングで始まる一時 FTP コマンド・ファイルを作成します。このファイルには FTP コマンドが含まれますが、オリジナル・コマンド・ファイルにあるユーザー ID とパスワードは含まれません。通常は、このファイルは VWS_LOGGING 環境変数でポイントされるディレクトリーに作成され、処理の終わりに削除されます。プログラムは一時 FTP コマンド・ファイルを作成しましたが、そのファイルをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: FTP コマンドを実行するユーザー ID に、FTP コマンド・ファイルへのアクセスがあることを確認してください。

**DWC15045N 入力ファイル *inputfile* 内でユーザー ID/
パスワードが見つかりません。**

説明: 入力 FTP コマンド・ファイルに、ファイル内の最初の値として、ユーザー ID とパスワードが含まれていませんでした。

ユーザーの処置: 入力 FTP コマンド・ファイルにユーザー ID とパスワードがあることを確認して、再試行してください。

DWC15046N ローカル・ファイル *localfile* を除去できません。

説明: ローカル・スプール・ファイルは、ウェアハウスがジョブ出力を入れるファイルです。ウェアハウスは、ジョブを実行する前にローカル・スプール・ファイルを削除します。ウェアハウスは、ローカル・スプール・ファイル *localfile* を除去しようとして、失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル *localfile* が存在している場合は、それを削除してから再試行してください。

DWC15047N メッセージ・ファイル *messagefile* をオープンできません。

説明: メッセージ・ファイル (FTP ログ・ファイルとも呼ぶ) は、VWS_LOGGING 環境変数でポイントされるディレクトリーにあります。ファイルの名前は「ftmp」で始まり、「.log」で終わります。メッセージ・ファイルのオープンに失敗しました。

ユーザーの処置: VWS_LOGGING ディレクトリー内のファイルをオープンするための許可がそのユーザー ID にあること、そのファイルが存在していること、およびそのファイルへの読み取りアクセスがユーザーにあることを確認してください。

DWC15048N FTP コマンドは GET または PUT でなければなりません。

説明: パラメーターとして渡される FTP コマンドは、GET または PUT でなければなりません。

ユーザーの処置: FTP コマンドが GET または PUT のいずれかであることを確認してください。

DWC15049N FTP のユーザー ID/パスワードが無効です。

説明: 入力されたユーザー ID とパスワードが、リモート・サイトによってリジェクトされました。

ユーザーの処置: ユーザー ID またはパスワード、あるいはその両方を訂正して、再試行してください。

DWC15050N FTP 接続が失敗しました。

説明: プログラムは、FTP 接続を確立できませんでした。

ユーザーの処置: FTP に提供されたホスト名、ユーザー ID、およびパスワードが正しいことを確認してください。ホスト名、ユーザー ID、およびパスワードが正しい場合は、以下のことを行ってください。

- 現在のサイトで、FTP セッションを開始するために使用されるコマンドが ftp であることを確認してください。
- FTP デーモン処理がホストで実行中であることを確認してください。
- エージェント・サイトからホストへ ping コマンドを発行して、TCP/IP 接続が存在することを確認してください。

DWC15051N FTP 転送タイプは、0 (バイナリー) または 1 (ASCII) でなければなりません。

説明: FTP 転送タイプとしてプログラムに渡される値は、0 または 1 でなければなりません。

ユーザーの処置: FTP 転送タイプとしてプログラムに渡された値が 0 または 1 であることを確認してください。

DWC15052N API の呼び出しでエラーが発生しました。戻りコード = *returncode*。

説明: DB2 API の呼び出しが成功しませんでした。

ユーザーの処置: DB2 の資料を参照して、API からの戻りコードを調べてください。

DWC15053N パラメーターが足りません。パラメーターには、server**、**application**、**database**、**userid**、および **password** を含めなければなりません。**

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- server - Essbase サーバー名
- application - Essbase アプリケーション名
- database - Essbase データベース名
- userid - Essbase サーバーにログオンするユーザー ID
- password - Essbase サーバーにログオンするパスワード

ユーザーの処置: ロギング・ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス

技術員に連絡してください。

DWC15054N パラメーターが足りません。パラメーターには、**server**、**application**、**database**、**userid**、**password**、**calcFile**、**0/1** を含めなければなりません。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- server - Essbase サーバー名
- application - Essbase アプリケーション名
- database - Essbase データベース名
- userid - Essbase サーバーにログオンするユーザー ID
- password - Essbase サーバーにログオンするパスワード
- calcFile - このプログラムが必要としている calc ファイル
- 0/1 - 0 = サーバー上の calc ファイル。1 = ローカルの calc ファイル。

ユーザーの処置: ログイング・ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15055N パラメーターが足りません。パラメーターには、**sourceFile**、**server**、**application**、**database**、**userid**、および **password** を含めなければなりません。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- sourceFile - このプログラムが必要としているソース・ファイル
- server - Essbase サーバー名
- application - Essbase アプリケーション名
- database - Essbase データベース名
- userid - Essbase サーバーにログオンするユーザー ID
- password - Essbase サーバーにログオンするパスワード

ユーザーの処置: ログイング・ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15056N パラメーターが足りません。パラメーターには、**server**、**application**、**database**、**userid**、**password**、**sourceFile**、**0/1**、**loadRuleFile**、**0/1**、**0/1** を含めなければなりません。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- server - Essbase サーバー名
- application - Essbase アプリケーション名
- database - Essbase データベース名
- userid - Essbase サーバーにログオンするユーザー ID
- password - Essbase サーバーにログオンするパスワード
- sourceFile - このプログラムが必要としているソース・ファイル
- 0/1 - 0=ソース・ファイルはサーバー上。1=ソース・ファイル、ローカル上。
- loadRuleFile - このプログラムに必要な規則ファイル
- 0/1 - 0=規則ファイルはサーバー上。1=規則ファイルは、ローカル上。
- 0/1 - 0=エラーでも中止しない。1=エラーなら中止する。

ユーザーの処置: ログイング・ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15057N パラメーターが足りません。パラメーターには、**server**、**application**、**database**、**userid**、**password**、**DB2Userid**、**DB2Password**、**loadRuleFile**、**0/1**、**0/1** を含めなければなりません。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- server - Essbase サーバー名
- application - Essbase アプリケーション名
- database - Essbase データベース名
- userid - Essbase サーバーにログオンするユーザー ID
- password - Essbase サーバーにログオンするパスワード
- DB2Userid - ソース表の DB2 ユーザー ID
- DB2Password - ソース表の DB2 パスワード
- loadRuleFile - このプログラムに必要な規則ファイル

- 0/1 - 0=規則ファイルはサーバー上。 1=規則ファイルは、ローカル上。
- 0/1 - 0=エラーでも中止しない。 1=エラーなら中止する。

ユーザーの処置: ログギング・ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15058N パラメーターが足りません。パラメーターには、**server、application、database、userid、password、sourceFile、0/1、0/1** を含めなければなりません。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- server - Essbase サーバー名
- application - Essbase アプリケーション名
- database - Essbase データベース名
- userid - Essbase サーバーにログオンするユーザー ID
- password - Essbase サーバーにログオンするパスワード
- sourceFile - このプログラムが必要としているソース・ファイル
- 0/1 - 0=ソース・ファイルはサーバー上。 1=ソース・ファイル、ローカル上。
- 0/1 - 0=エラーでも中止しない。 1=エラーなら中止する。

ユーザーの処置: ログギング・ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15059N パラメーターが足りません; パラメーターは次のすべてを含みます。 **server、application、database、userid、password、sourceFile、0/1、loadRuleFile、0/1**。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- server - Essbase サーバー名
- application - Essbase アプリケーション名
- database - Essbase データベース名
- userid - Essbase サーバーにログオンするユーザー ID
- password - Essbase サーバーにログオンするパスワード

- sourceFile - このプログラムが必要としているソース・ファイル
- 0/1 - 0=ソース・ファイルはサーバー上。 1=ソース・ファイル、ローカル上。
- loadRuleFile - このプログラムに必要な規則ファイル
- 0/1 - 0=規則ファイルはサーバー上。 1=規則ファイルは、ローカル上。

ユーザーの処置: ログギング・ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15060N パラメーターが足りません。パラメーターには、**server、application、database、userid、password、Db2Userid、DB2Password、loadRuleFile、0/1** を含めなければなりません。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- server - Essbase サーバー名
- application - Essbase アプリケーション名
- database - Essbase データベース名
- userid - Essbase サーバーにログオンするユーザー ID
- password - Essbase サーバーにログオンするパスワード
- DB2Userid - ソース表の DB2 ユーザー ID
- DB2Password - ソース表の DB2 パスワード
- loadRuleFile - このプログラムに必要な規則ファイル
- 0/1 - 0=規則ファイルはサーバー上。 1=規則ファイルは、ローカル上。

ユーザーの処置: ログギング・ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15061N パラメーターが足りません。パラメーターには、**sourceDB、userid、password、targetFileName、selectStatement、[fileTypeModifier]** を含めなければなりません。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- sourceDB - ソース・データベース名
- userid - ユーザー ID
- password - パスワード

- targetFileName - エクスポートされたデータを含む出力ファイル
- selectStatement - 二重引用符で囲まれるべき select 文
- fileTypeModifier - ファイル・タイプ修飾ストリング (オプション)。たとえば、「coldel,」は、列をコンマで区切らなければならないことを示します。

ユーザーの処置: ログイング・ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15062N パラメーターが足りません。パラメーターには、**sourceConnectString**、**targetFileName**、**selectStatement**、**[colDelimiter]** を含めなければなりません。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- sourceConnectString - ソース接続ストリング。形式: DSN=database;UID=userid;PWD=password
- targetFileName - エクスポートされたデータを含む出力ファイル
- selectStatement - 二重引用符で囲まれるべき select 文
- colDelimiter - 列を分離する文字 (オプション)

ユーザーの処置: ログイング・ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15063N パラメーターが足りません。パラメーターには、**remoteSite** および **FTPCommandFile** を含めなければなりません。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- remoteSite - FTP でファイル転送する先のリモート・ホスト
- FTPCommandFile - FTP コマンド・ファイルの絶対パスおよびファイル名

ユーザーの処置: ログイング・ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15064N パラメーターが足りません。パラメーターには、**MVSHostName**、**MVSUserid**、**MVSPassword**、**JCLFile**、**localFile** を含めなければなりません。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- MVSHostName - MVS システムのホスト名
- MVSUserid - MVS システムのユーザー ID
- MVSUserid - MVS システムのユーザー ID
- JCLFile - MVS システムでサブミットする JCL
- localFile - 出力ファイルの絶対パスおよびファイル名

ユーザーの処置: ログイング・ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15065N パラメーターが足りません。パラメーターには、**remoteSite**、**GETorPUT**、**remoteUserid**、**remotePassword**、**remoteFile**、**localFile** を含めなければなりません。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- remoteSite - リモート・ホスト名
- GETorPUT - FTP の get または put コマンド
- remoteUserid - リモート・システムのユーザー ID
- remotePassword - リモート・システムのパスワード
- remoteFile - リモート・ファイルの絶対パスおよびおよびファイル名
- localFile - ローカル・ファイルの絶対パスおよびファイル名

ユーザーの処置: ログイング・ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15066N パラメーターが足りません。パラメーターには、**sourceFile**、**targetDB**、**targetUserid**、**targetPassword**、**targetTable**、**backupFileName**、**[fileTypeModifier]** を含めなければなりません。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- sourceFile - ソース・ファイル

- targetDB - データをロードする先のターゲット・データベース
- targetuserid - ターゲット・データベースのユーザー ID
- targetPassword - ターゲット・データベースのパスワード
- targetTable - ターゲット・データベースの表
- backupFileName - リカバリーを目的としたバックアップ・ファイルの絶対パスおよびファイル名
- fileTypeModifier - ファイル・タイプ修飾ストリング (オプション)。たとえば、「coldel,」は、列をコンマで区切らなければならないことを示します。

ユーザーの処置: ログイン・ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15067N パラメーターが足りません。パラメーターには、**sourceFile**、**targetDB**、**targetuserid**、**targetPassword**、**targetTable**、**[fileTypeModifier]** を含めなければなりません。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- sourceFile - ソース・ファイル
- targetDB - データをロードする先のターゲット・データベース
- targetuserid - ターゲット・データベースのユーザー ID
- targetPassword - ターゲット・データベースのパスワード
- targetTable - ターゲット・データベースの表
- fileTypeModifier - ファイル・タイプ修飾ストリング (オプション)。たとえば、「coldel,」は、列をコンマで区切らなければならないことを示します。

ユーザーの処置: ログイン・ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15068N パラメーターが足りません。パラメーターには、**database**、**userid**、**password**、**table** を含めなければなりません。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- database - データベース
- userid - ユーザー ID

- password - パスワード
- table - データベースの表

ユーザーの処置: ログイン・ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15069N パラメーターの数が無効です。

説明: パラメーターは、以下のものでなければなりません。

1. MVS ホスト名
2. MVS ユーザー ID
3. MVS の JCL ファイル名 (絶対パス名)
4. ETI エラー・ファイル名
5. ETI メッセージ・ファイル名
6. ETI 警告ファイル名
7. パスワード・タイプ (EnterPassword または PasswordNotRequired)
8. パスワード

または

1. MVS ホスト名
2. MVS ユーザー ID
3. MVS の JCL ファイル名 (絶対パス名)
4. ETI エラー・ファイル名
5. ETI メッセージ・ファイル名
6. ETI 警告ファイル名
7. パスワード・タイプ (EnterPassword または PasswordNotRequired)
8. パスワード
9. ` `
10. 成功と見なす JES 戻りコードの最高値 (オプション)

ユーザーの処置: パラメーターを訂正して、プログラムを再始動してください。

DWC15070N パラメーターが無効です。

説明: パラメーターには、以下を含める必要があります。

1. MVS ホスト名
2. MVS ユーザー ID
3. MVS の JCL ファイル名 (絶対パス名)
4. ETI エラー・ファイル名
5. ETI メッセージ・ファイル名
6. ETI 警告ファイル名

7. パスワード・タイプ (GetPassword)
8. パスワード・プログラム
9. パスワード・プログラム・パラメーター
10. 成功と見なす JES 戻りコードの最高値 (オプション)

ユーザーの処置: パラメーターを訂正して、プログラムを再始動してください。

DWC15071N FTP プログラムを使用するコピー・ファイルで、「転送完了」のメッセージを見つけれませんでした。

説明: FTP プログラムを使用するコピー・ファイルが、ファイルの転送が成功したかどうかを判断するための、「転送完了」のメッセージを見つけれませんでした。

ユーザーの処置: 詳しくは、ログ・ファイルを参照してください。

DWC15073N バッチ・ファイル名が提供されませんでした。

説明: HISEXNT は、Integration Server メタアウトラインから OLAP キューブを作成するために、OLAP Integration Server のスクリプト・ファイルを実行するバッチ・ファイルを実行します。そのバッチ・ファイル名をパラメーターとして渡す必要がありますが、提供されませんでした。

ユーザーの処置: コマンド行からプログラムを呼び出すには、コマンド hisexnt “<filename>” を使用してください。この filename は、スクリプトを実行するバッチ・ファイルの名前です。データウェアハウス・センターからプログラムを呼び出すには、プログラムに対するパラメーターとしてファイル名を提供してください。

DWC15074N バッチ・ファイルを実行できません。

説明: バッチ・スクリプト・ファイルの名前はプログラム hisexnt に渡されましたが、hisexnt がそのスクリプトを実行できませんでした。

ユーザーの処置: そのスクリプト・ファイルをコマンド行から実行してみて、スクリプト・ファイル内のエラーを判断してください。エラーを訂正して、再試行してください。

DWC15075I OLAP キューブの作成は、正常に完了しました。

説明: OLAP キューブが正常に作成されました。

ユーザーの処置:

DWC15076W OLAP キューブの作成は、警告を伴って完了しました。詳しくは、OLAP Integration Server の OLAPISVR.LOG ファイルをチェックしてください。

説明: OLAP キューブは作成されましたが、OLAPICMD が警告を戻しました。

ユーザーの処置: 詳しくは、OLAP Integration Server の OLAPISVR.LOG ファイルをチェックしてください。

DWC15077N OLAP キューブの作成は、エラーを伴って完了しました。詳しくは、OLAP Integration Server の OLAPISVR.LOG ファイルをチェックしてください。

説明: キューブを作成するための OLAPICMD コマンドがエラーを戻しました。

ユーザーの処置: 詳しくは、OLAP Integration Server の OLAPISVR.LOG ファイルをチェックしてください。

DWC15078N OLAP キューブを作成できません。詳しくは、OLAP Integration Server の OLAPISVR.LOG ファイルをチェックしてください。

説明: キューブを作成するための OLAPICMD コマンドがエラーを戻しました。キューブは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 詳しくは、OLAP Integration Server の OLAPISVR.LOG ファイルをチェックしてください。

DWC15079N システム・コマンドの実行に失敗しました。次のコマンドです: *command*。

説明: プログラムは system() 関数の発行に失敗しました。

ユーザーの処置: 詳しくはトレース・ファイルである VWS_LOGGING を参照してください。

DWC15080N FTP コマンド・ファイルのパス (*pathname*) の形式が無効です。

説明: FTP コマンド・ファイルのパスの形式が無効です。

ユーザーの処置: パスの形式を修正してください。正しい形式は次の通りです。¥n library/file.member.

DWC15081N パラメーターが足りません。パラメーターには、**sourceFile**、**targetTable**、**backupFileName**、**[fileTypeModifier]**を含めなければなりません。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- sourceFile - ソース・ファイル
- targetTable - ターゲット・データベースの表
- backupFileName - リカバリーを目的としたバックアップ・ファイルの絶対パスおよびファイル名
- fileTypeModifier - ファイル・タイプ修飾ストリング (オプション)。たとえば、「coldel,」は、列をコンマで区切らなければならないことを示します。

ユーザーの処置: VWS_LOGGING ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15082N パラメーターが足りません。パラメーターには、**sourceFile**、**targetTable**、**[fileTypeModifier]**を含めなければなりません。

説明: このメッセージは、プログラム/ステップが呼び出されたときに、パラメーターが足りない場合に受信されます。パラメーターの説明です。

- sourceFile - ソース・ファイル
- targetTable - ターゲット・データベースの表
- fileTypeModifier - ファイル・タイプ修飾ストリング (オプション)。たとえば、「coldel,」は、列をコンマで区切らなければならないことを示します。

ユーザーの処置: VWS_LOGGING ディレクトリーにあるすべてのトレースとログ・ファイルを集めて IBM サービス技術員に連絡してください。

DWC15101N パラメーターの数が無効です。

説明: パラメーターは、以下のものでなければなりません。

1. リモート・ホスト名
2. リモート・ユーザー ID
3. リモート・シェル・スクリプト名
4. リモート・エラー・ファイル
5. リモート警告ファイル
6. リモート・ログ・ファイル
7. リモート OS タイプ (UNIX または WinNT)

8. パスワード・タイプ (EnterPassword または GetPassword)

9. パスワード値 (EnterPassword の場合)

または

1. リモート・ホスト名
2. リモート・ユーザー ID
3. リモート・シェル・スクリプト名
4. リモート・エラー・ファイル
5. リモート警告ファイル
6. リモート・ログ・ファイル
7. リモート OS タイプ (UNIX または WinNT)
8. パスワード・プログラム (GetPassword の場合)
9. パスワード・プログラムのパラメーター

ユーザーの処置: パラメーターを修正して、プログラムを再始動してください。

DWC15102N パラメーターの数が無効です。

説明: パラメーターは、以下のものでなければなりません。

1. リモート・ホスト名
2. リモート・ユーザー ID
3. リモート・シェル・スクリプト名
4. リモート・エラー・ファイル
5. 警告ファイル
6. リモート・ログ・ファイル
7. リモート OS タイプ (UNIX または WinNT)
8. パスワード・タイプ (GetPassword)
9. パスワード・プログラム (GetPassword の場合)
10. パスワード・プログラムのパラメーター

ユーザーの処置: パラメーターを訂正して、プログラムを再始動してください。

DWC15103N 8 番目のパラメーターで、パスワード・タイプを示さなければなりません。

説明: パスワード・タイプの値が正しくありません。パスワード・タイプは、EnterPassword、PasswordNotRequired、GetPassword です。

ユーザーの処置: パスワード・タイプの正しい値を入力して、プログラムを再実行してください。

DWC15104N ローカル警告ファイル *filename* を生成できませんでした。

説明: VWS_LOGGING 変数が設定されていなかったため、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: VWS_LOGGING 環境変数が設定されていることを確認してください。

DWC15105N ローカル・ログ・ファイル *filename* の作成に失敗しました。

説明: VWS_LOGGING 環境変数が設定されていません。

ユーザーの処置: 環境変数 VWS_LOGGING を設定してください。

DWC15106N FTP コマンド・ファイルをセットアップできません。

説明: プログラムが FTP コマンド・ファイルを作成またはオープンできなかったために、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ディレクトリーがファイルの作成を許していること、およびディスク・スペースが十分であることを確認してください。ディスク・スペースが十分でない場合は、不要なファイルを除去して、プログラムを再始動してください。

DWC15107N エラー・ファイルをコピーするための一時ファイルを作成できません。戻りコード = *ReturnCode*。

説明: オペレーティング・システムが、ユニークなファイル名の作成に失敗しました。このエラーは、ディレクトリー内の一時ファイル名が多すぎるために起こった可能性があります。

ユーザーの処置: ディレクトリーに十分なディスク・スペースがあることを確認してください。ディスク・スペースが十分でない場合は、不要なファイルを除去して、プログラムを再始動してください。

DWC15108I ETI プログラムは、正常に実行しました。

説明:

ユーザーの処置:

DWC15109E SQL ステートメントが含まれるファイル *file* をオープンできません。

説明: データウェアハウス・エージェントは、ODBC エクスポート・プログラムに対する SQL ステートメントが含まれるファイルをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: ファイル名が正しく、エージェント・プロセスがファイルをオープンできるように許可されているかどうか確認してください。

DWC15110E SQL ステートメントの長さがデータベース制限を超えています。

説明: ODBC エクスポート・プログラムが、データベース制限を超えた長さの SQL ステートメントを受け取りました。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを短くしてから実行し直してください。

DWC15400N パラメーター・カウントが誤りです。詳しくは、ログ・ファイル *log-file* をチェックしてください。

説明: OLAP Publish to Information コントロール・センター・プログラムが呼び出されましたが、必要なパラメーターが全部そろっていません。

ユーザーの処置: OLAP Publish to Information コントロール・センター・プログラムを呼び出すために使用されたパラメーターの記述、および必須パラメーターの記述については、ログ・ファイルを参照してください。データウェアハウス・センターの公開ダイアログまたはコマンド行から、必須パラメーターをすべて提供してください。

DWC15401N 入力パラメーターの構文解析中に例外が発生しました。exception-string。詳しくは、ログ・ファイル *log-file* をチェックしてください。

説明: OLAP Publish to Information コントロール・センター・プログラムが呼び出されましたが、パラメーターが誤りです。

ユーザーの処置: OLAP Publish to Information コントロール・センター・プログラムを呼び出すために使用されたパラメーターの記述、および必須パラメーターの記述については、ログ・ファイルを参照してください。データウェアハウス・センターの公開ダイアログまたはコマンド行から呼び出しパラメーターを変更して、エラーを訂正してください。

DWC15402N 入力パラメーターの構文解析中に、不明な例外が発生しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file* をチェックしてください。

説明: OLAP Publish to Information コントロール・センター・プログラムが呼び出されましたが、パラメーターが誤りです。

ユーザーの処置: OLAP Publish to Information コントロール・センター・プログラムを呼び出すために使用されたパラメーターの記述、および必須パラメーターの記述については、ログ・ファイルを参照してください。データウェアハウス・センターの公開ダイアログまたはコマンド行から呼び出しパラメーターを変更して、エラーを訂正してください。

DWC15403N インフォメーション・カタログ管理者が現在ログオンしています。詳しくは、ログ・ファイル *log-file* をチェックしてください。

説明: 管理者が現在、システムを使用しているのに、OLAP Publish to Information コントロール・センター・プログラムは、オブジェクト定義を作成または変更できませんでした。

ユーザーの処置: インフォメーション・コントロール・センターのすべての管理者がインフォメーション・コントロール・センター・システムからログオフした後で、OLAP 公開アクションを再始動してください。

DWC15404N タグ・ファイル *tag-file* をオープンするときに、エラーが発生しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file* をチェックしてください。

説明: OLAP Publish to Information コントロール・センター・プログラムは、インフォメーション・コントロール・センターにインポートするために、オブジェクト定義のタグ・ファイルを作成します。プログラムが、タグ・ファイルを作成またはオープンできませんでした。

ユーザーの処置: OLAP Publish to Information コントロール・センター・プログラムが、メッセージ内で示されているタグ・ファイルを作成または変更するための許可を持っていることを確認してください。追加情報について、ログ・ファイルをチェックしてください。

DWC15405N 予期しないエラー *error-code* を、**Essbase API** *API-function* から受け取りました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file* をチェックしてください。

説明: インフォメーション・コントロール・センターに公開するために、OLAP Publish to Information コントロール・センター・プログラムが Essbase API を使用して OLAP 一括表示に関する情報を入手しているときに、予期しないエラー条件が発生しました。

ユーザーの処置: エラー情報について、ログ・ファイルをチェックしてください。追加のエラー情報については、OLAP Server および OLAP アプリケーションのログをチェックしてください。エラーを訂正して、アクションを再始動してください。

DWC15406N Essbase アプリケーションおよびデータベースを活動化しているときに、エラー *error-code* が発生しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file* をチェックしてください。

説明: OLAP Publish to Information コントロール・センター・プログラムが Essbase API 環境を初期化しているときに、予期しないエラー条件が発生しました。

OLAP Publish to Information コントロール・センター・プログラムは、インフォメーション・コントロール・センターに公開するために、Essbase API を使用して OLAP アウトラインに関する情報を入手します。

ユーザーの処置: エラー情報について、ログ・ファイルをチェックしてください。追加のエラー情報については、OLAP Server および OLAP アプリケーションのログをチェックしてください。エラーを訂正して、アクションを再始動してください。

DWC15407N OLAP 一括表示 *outline-name* に接続している間に、予期しないエラー・コード *error-code* を受け取りました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file* をチェックしてください。

説明: OLAP Publish to Information コントロール・センター・プログラムが Essbase API を使用して OLAP 一括表示に接続している間に、予期しないエラー条件が発生しました。Essbase API を使用して、インフォメーション・コントロール・センターに公開する情報を入手するために、OLAP Publish to Information コントロール・センター・プログラムは OLAP 一括表示に接続しなければなりません。

ユーザーの処置: エラー情報について、ログ・ファイルをチェックしてください。追加のエラー情報について

は、OLAP Server および OLAP アプリケーションのログをチェックしてください。エラーを訂正して、アクションを再始動してください。

DWC15408N 公開する OLAP アウトラインのファイル *file-name* をオープンしている間に、予期しないエラーが発生しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file* をチェックしてください。

説明: Publish OLAP to Information コントロール・センター・プログラムは、公開する OLAP アウトラインのコントロール・ファイルを示すパラメーターを指定して呼び出します。プログラムはこのコントロール・ファイルを開くことができず、公開する一括表示の名前を入手できませんでした。

ユーザーの処置: エラー情報について、ログ・ファイルをチェックしてください。Publish OLAP to Information コントロール・センター・プログラムが、コントロール・ファイルを開く許可を持っていることを確認してください。

DWC15409N タグ・ファイル *tag-file* をインフォメーション・コントロール・センターにインポートしているときに、予期しないエラーが発生しました。詳しくは、VWP ログ・ファイル *dwc-log* およびインフォメーション・コントロール・センターのログ・ファイル *icc-log* をチェックしてください。

説明: Publish OLAP to Information コントロール・センター・プログラムは、インフォメーション・コントロール・センターにインポートするために、オブジェクト定義のタグ・ファイルを生成します。このタグ・ファイルを開くときに、予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラー情報について、ログ・ファイルをチェックしてください。エラーを訂正して、アクションを再始動してください。

DWC15410I OLAP 定義がインフォメーション・コントロール・センターに正常にインポートされました。詳しくは、ログ・ファイル *dwc-log* およびインフォメーション・コントロール・センターのログ・ファイル *icc-log* をチェックしてください。

説明: Publish OLAP to Information コントロール・センター・プログラムは、インフォメーション・コントロール・センターにインポートするために、オブジェクト定義のタグ・ファイルを生成します。タグ・ファイル

がインフォメーション・コントロール・センターに正常にインポートされました。

ユーザーの処置: OLAP アウトラインがインフォメーション・コントロール・センターに正常にインポートされました。インフォメーション・コントロール・センターにインポートされた情報については、インフォメーション・コントロール・センターおよびデータウェアハウス・センターの公開ログをチェックしてください。

DWC15411N 現行ディレクトリーを、VWS_LOGGING 環境変数で指定されているとおり *vws-logging* にセットできません。システム・エラー・コードは *error-code* です。

説明: Publish OLAP to Information コントロール・センター・プログラムは、VWS_LOGGING 環境変数で指定されているディレクトリーにファイルを作成します。Publish OLAP to Information コントロール・センター・プログラムは、現行ディレクトリーを、システム環境変数 VWS_LOGGING で指定された値に設定できませんでした。

ユーザーの処置: Publish OLAP to Information コントロール・センター・プログラムが書き込みアクセスを持っているディレクトリーをポイントする VWS_LOGGING 環境変数が、システム・レベルで定義されていることを確認してください。

DWC15412I OLAP タグ・ファイルの Information Catalog Import アクションが正常に開始されました。詳しくは、ログ・ファイル *dwc-log* およびインフォメーション・コントロール・センターのログ・ファイル *icc-log* をチェックしてください。

説明: OLAP Publish to Information コントロール・センター・プログラムが、OLAP 定義を含んでいるタグ・ファイルの Information Catalog Import アクションを開始しました。アクションが成功したか失敗したかは、ログ・ファイルの情報をチェックしてください。

ユーザーの処置: インポート・アクションに関する情報は、ログ・ファイルをチェックしてください。

DWC15413N OLAP タグ・ファイルのインフォメーション・カタログのインポート・アクションが、正常に開始されませんでした。アクションがなぜ失敗したかについては、ログ・ファイル *dwc-log* およびインフォメーション・コントロール・センターのログ・ファイル *icc-log* をチェックしてください。

説明: OLAP Publish to Information コントロール・センター・プログラムが、OLAP 定義の生成済みタグ・ファイルをインポートするためにインフォメーション・コントロール・センターのインポート・アクションを開始しようとしたときにエラーを検出しました。

ユーザーの処置: アクションがなぜ失敗したかは、ログ・ファイルの情報をチェックしてください。システムの PATH および CLASSPATH 環境変数が、インフォメーション・コントロール・センターのインポート・プログラムを実行するために、正しく設定されていることを確認してください。

DWC15414N 指定されたインフォメーション・カタログのユーザー ID *userid* またはパスワード *password* が無効です。詳しくは、ログ・ファイル *log-file* をチェックしてください。

説明: Publish OLAP to Information コントロール・センター・プログラムが、無効なユーザー ID またはパスワードで、インフォメーション・コントロール・センターのデータベースに接続しようとした。インフォメーション・コントロール・センターで更新するためにマルチディメンション・データベース・オブジェクトのリストを管理するには、公開プログラムで、インフォメーション・コントロール・センターのデータベースの EXCHANGE 表内の項目を読み取ったり、更新したりしなければなりません。

ユーザーの処置: インフォメーション・コントロール・センターのデータベースに接続するための有効なユーザー ID とパスワードを指定して、アクションを再度開始してください。

DWC15415W OLAP データベース・オブジェクトが、スキーマ *schema* を使用したデータベース *database* 内のインフォメーション・コントロール・センター EXCHANGE 表で見つかりませんでした。インフォメーション・コントロール・センターでは OLAP オブジェクトは何も更新されませんでした。詳しくは、ログ・ファイル *log-file* をチェックしてください。

説明: Publish OLAP to Information コントロール・センター・プログラムは、更新すべきマルチディメンション・データベース・オブジェクトを識別するために、インフォメーション・コントロール・センターのデータベース内の EXCHANGE 表から行を読み取ります。EXCHANGE 表は、項目が何もありませんでした。インフォメーション・コントロール・センターで、オブジェクトは何も更新されませんでした。

ユーザーの処置: 正しいデータベースおよびスキーマの名前が指定されたことを確認します。データウェアハウス・センターの OLAP Publish to Information コントロール・センター ダイアログを使用して、公開すべきマルチディメンション・データベース・オブジェクトを指定してください。

DWC15416N インフォメーション・コントロール・センターの不明のデータベース *database* またはスキーマ *schema* が指定されました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file* をチェックしてください。

説明: Publish OLAP to Information コントロール・センター・プログラムが、インフォメーション・コントロール・センターの不明のデータベースに接続しようとした。インフォメーション・コントロール・センターで更新するためにマルチディメンション・データベース・オブジェクトのリストを管理するには、公開プログラムで、インフォメーション・コントロール・センターのデータベースの EXCHANGE 表内の項目を読み取ったり、更新したりしなければなりません。

ユーザーの処置: インフォメーション・コントロール・センターの有効なデータベースおよびスキーマの名前を指定して、アクションを再度開始します。

DWC15417N インフォメーション・コントロール・センターのデータベースに接続している間に、不明なエラー *error-code* を受け取りました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file* をチェックしてください。

説明: Publish OLAP to Information コントロール・センター・プログラムは、インフォメーション・コントロ

ール・センターのデータベースに接続できませんでした。インフォメーション・コントロール・センターで更新するためにマルチディメンション・データベース・オブジェクトのリストを管理するには、公開プログラムで、インフォメーション・コントロール・センターのデータベースの EXCHANGE 表内の項目を読み取ったり、更新したりしなければなりません。

ユーザーの処置: エラー・コードの説明を参照するには、IBM DB2 Universal Database のオンライン・ヘルプまたはメッセージ・リファレンスを使用してください。エラー・コードに対応する問題を訂正して、再度試行してください。

DWC15418N スキーマ *schema* を使用したデータベース *database* 内の EXCHANGE 表をオープンしている間に、エラー・コード *error-code* を受け取りました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file* をチェックしてください。

説明: Publish OLAP to Information コントロール・センター・プログラムは、インフォメーション・コントロール・センターのデータベースに接続できませんでした。インフォメーション・コントロール・センターで更新するためにマルチディメンション・データベース・オブジェクトのリストを管理するには、公開プログラムで、インフォメーション・コントロール・センターのデータベースの EXCHANGE 表内の項目を読み取ったり、更新したりしなければなりません。

ユーザーの処置: エラー・コードの説明を参照するには、IBM DB2 Universal Database のオンライン・ヘルプまたはメッセージ・リファレンスを使用してください。エラー・コードに対応する問題を訂正して、再度試行してください。

DWC15419N スキーマ *schema* を使用したデータベース *database* 内の EXCHANGE 表を読み取り中に、エラー・コード *error-code* を受け取りました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file* をチェックしてください。

説明: インフォメーション・コントロール・センターで更新するためにマルチディメンション・データベース・オブジェクトのリストを管理するには、公開プログラムで、インフォメーション・コントロール・センターのデータベースの EXCHANGE 表内の項目を読み取ったり、更新したりしなければなりません。プログラムが EXCHANGE 表から読み取っている間に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラー・コードの説明を参照するには、IBM DB2 Universal Database のオンライン・ヘルプまたはメッセージ・リファレンスを使用してください。

エラー・コードに対応する問題を訂正して、再度試行してください。

DWC15420N スキーマ *schema* を使用したデータベース *database* 内の EXCHANGE 表を更新している間に、エラー・コード *error-code* を受け取りました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file* をチェックしてください。

説明: インフォメーション・コントロール・センターで更新するためにマルチディメンション・データベース・オブジェクトのリストを管理するには、公開プログラムで、インフォメーション・コントロール・センターのデータベースの EXCHANGE 表内の項目を読み取ったり、更新したりしなければなりません。プログラムが EXCHANGE 表から読み取っている間に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラー・コードの説明を参照するには、IBM DB2 Universal Database のオンライン・ヘルプまたはメッセージ・リファレンスを使用してください。エラー・コードに対応する問題を訂正して、再度試行してください。

DWC15501W ログ・ファイルをオープンできなかったため、トレースを取ることができませんでした。

説明: このプログラムの実行のトレース用に、ログ・ファイルをオープンできません。

ユーザーの処置: QSQLLIB の DB2 サンプル・ディレクトリーで *dwcsmp.log* ファイルがオープンできることを確認してください。

DWC15502N データベース・マネージャーを始動できません。rc=returncode、sqlcode=sqlcode。

説明: 始動しようとしたときに、データベース・マネージャーによってエラーが戻されました。

ユーザーの処置: DB2 データベース・マネージャーが戻したコードをチェックしてください。

DWC15503N データベース *databasename* を作成できません。rc=returncode。

説明: リストされたデータベースを作成しようとしたときに、エラーが戻されました。

ユーザーの処置: DB2 データベース・マネージャーが戻したコードをチェックしてください。

DWC15504W データベース *databasename* は、ODBC に登録されていません。

説明: データベースを ODBC に自動的に登録しようとして、失敗しました。

ユーザーの処置: データベースを ODBC に登録してください。

DWC15505E データベース *dbname* に接続できません。 **rc=returncode。**

説明: データベースに接続できない、またはデータベース内に表を作成できません。

ユーザーの処置: ユーザー ID とパスワードが正しいことを確認してください。

DWC15506N サンプル・データをデータベース *databasename* にインポートできません。 **rc=returncode。**

説明: データウェアハウス・センターのインポート・ファンクションを使用して、サンプル・データをインポートできません。

ユーザーの処置: ユーザー ID とパスワードが正しいことを確認してください。

DWC15507N データベース *databasename* に SQL ハンドルを割り振れません。 **rc=returncode。**

説明: データベース用の ODBC 環境をセットアップしている間に、障害が発生しました。

ユーザーの処置: DB2 データベース・マネージャーが戻したコードをチェックしてください。

DWC15508N サンプル表 *tablename* を、データベース *databasename* に作成できません。 **rc=returncode。**

説明: サンプル・データ用の表を作成できません。

ユーザーの処置: ユーザー ID とパスワードが正しいことを確認してください。

DWC15509N データベース *databasename* の表 *tablename* にデータをロードできません。 **rc=returncode。**

説明: サンプル・データ用の表にデータをロードできません。

ユーザーの処置: ユーザー ID とパスワードが正しいことを確認してください。

DWC15510N サンプル・データの作成中に、内部エラーが発生しました。 トレース・ファイルをチェックしてください。

説明: サンプル・データの作成中に、内部エラーが発生しました。 トレースがアクティブになっている場合、詳しくは、トレース・ファイルをチェックしてください。

ユーザーの処置: トレース・オプションを指定して、閾数を再始動してください。

第 14 章 GSE メッセージ

このセクションでは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender メッセージが記述されています。メッセージは番号順にリストされています。

GSE0000I 操作が正しく完了しました。

説明: この操作の実行中にエラーは検出されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

msgcode: 0

sqlstate: 00000

GSE0001C 内部エラーが発生しました。

説明: Spatial Extender が予期しない内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -1

sqlstate: 38S01

GSE0002C Spatial Extender は、メモリー・プールにアクセスできませんでした。理由コードは *reason-code* です。

説明: Spatial Extender は、メモリー・プールにアクセスしようとしたが、失敗しました。

ユーザーの処置: 理由コード *reason-code* を記録して、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

msgcode: -2

sqlstate: 38S02

GSE0003N Spatial Extender は、*number* バイトのメモリーを割り振ることができませんでした。

説明: 使用可能なメモリーが十分ではありません。提供されているメモリーが少ないか、他のアプリケーションにメモリーが使用されていることが原因として考えられます。

ユーザーの処置: メモリー不足を解決してコマンドを再実行してください。

msgcode: -3

sqlstate: 38S03

GSE0004C 内部パラメーター・エラーが発生しました。

説明: Spatial Extender が、内部関数にパラメーターを渡すときに予期しないエラーが発生しました。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4

sqlstate: 38S04

GSE0005N Spatial Extender はインスタンスのパスを検索できませんでした。

説明: Spatial Extender はインスタンスのパスを検索できませんでした。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: DB2 環境を検査してください。必要に応じて、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

msgcode: -5

sqlstate: 38S05

GSE0006N 内部ストリング・エラーが発生しました。

説明: Spatial Extender が、内部ストリング操作で予期しないエラーを検出しました。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -6

sqlstate: 38S06

GSE0007N ストリング *string* には、対になる引用符または二重引用符がありません。

説明: このストリングは、クローズする区切り文字がないので、正しく終了していません。

ユーザーの処置: スtringを正しく終了させてください。Stringが引用符で始まっている場合には、引用符で終了させてください。Stringが二重引用符で始まっている場合には、二重引用符で終了させてください。

msgcode: -7

sqlstate: 38S07

GSE0008N 無効なエラー・コード *error-code* がエラーを起こすのに使用されました。

説明: 無効な *error-code* によって示されているエラーを起こそうとしました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

msgcode: -8

sqlstate: 38S08

GSE0009N DB2 アプリケーション・ヒープに十分なスペースがありません。

説明: Spatial Extender によって、DB2 のアプリケーション・ヒープに使用可能なメモリーが超過しました。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取ったら、アプリケーションを終了させてください。より多くのアプリケーション・ヒープが使用できるように、データベース構成パラメーター (APPLHEAPSZ) の値を増やしてください。

詳しくは、「IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -9

sqlstate: 38S09

GSE0010N DB2 に十分なログ・スペースがありません。

説明: DB2 のトランザクション・ログで使用可能なすべてのスペースが使用されています。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: データベースが他のアプリケーションによって並行して使用されている場合は、操作を再試行してください。別のアプリケーションがトランザクションを完了したら、ログ・スペースは解放されます。

ログ・スペースを大きくするように、データベース構成パラメーターを増やしてください。たとえば、データベース構成パラメーター LOGPRIMARY、LOGSECOND

および LOGFILSIZ を変更して、使用可能なログのサイズを大きくしてください。

msgcode: -10

sqlstate: 38S0A

GSE0100N Spatial Extender は、ファイル *file-name* をオープンできませんでした。理由コードは *reason-code* です。

説明: ファイルをオープンできない理由は、理由コードによって、次のようになります。

- 1 ファイルへのアクセスが拒否されました。
- 3 ディスク・エラーが発生しました。
- 8 その名前のファイルを含むディレクトリーが既に存在します。
- 10 Spatial Extender が、既存のファイルを作成しようとしたか、あるいは、既存のファイルを開こうとしてそのファイルが見つかりませんでした。
- 12 ディスクがいっぱいです。
- 17 指定されたファイルへのパスが存在しません。
- 22 共有違反が発生しました。

その他の理由コードは、内部エラーを示します。

ユーザーの処置: ファイルおよびディレクトリーに対する許可を検証してから、コマンドを再入力してください。

理由コードが内部エラーを示している場合には、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -100

sqlstate: 38S10

GSE0101N ファイル *file-name* の処理中に、入出力エラーが発生しました。理由コードは *reason-code* です。

説明: ファイルの処理中に入出力エラーが発生する理由は、理由コードによって、次のようになります。

- 1 ファイルへのアクセスが拒否されました。
- 3 ディスク・エラーが発生しました。
- 9 Spatial Extender が、ファイルの終わりを越えて読み取りを行おうとしました。
- 12 ディスクがいっぱいです。
- 22 共有違反が発生しました。

その他の理由コードは、内部エラーを示します。

ユーザーの処置: ファイルが存在し、ファイルへの適切なアクセス権があり、ファイルが別の処理によって使用されていないことを確認してください。

理由コードが内部エラーを示している場合には、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -101

sqlstate: 38S11

GSE0102N Spatial Extender は、ファイル *file-name* をクローズできませんでした。理由コードは *reason-code* です。

説明: ファイルのクローズ時にエラーが発生する理由は、理由コードによって、次のようになります。

- 3 ディスク・エラーが発生しました。
- 12 ディスクがいっぱいです。

その他の理由コードは、内部エラーを示します。

ユーザーの処置: ファイル・システムが完全に作動状態であり、十分なディスク・スペースが使用可能であるか確認してください。

理由コードが内部エラーを示している場合には、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -102

sqlstate: 38S12

GSE0103N Spatial Extender は、ファイル *file-name* を削除できませんでした。理由コードは *reason-code* です。

説明: ファイルの削除時にエラーが発生する理由は、理由コードによって、次のようになります。

- 1 ファイルへのアクセスが拒否されました。
- 3 ディスク・エラーが発生しました。
- 17 指定されたファイルへのパスが存在しません。
- 22 共有違反が発生しました。

その他の理由コードは、内部エラーを示します。

ユーザーの処置: 各理由コードごとに、次のようになります。

- 1 ファイルおよびファイルのパスに指定しているすべてのディレクトリーに対して十分な特権を持っているか調べてください。
- 3 ディスクおよびファイル・システムが適切な作業オーダーになっているか調べてください。

17 ファイルへのパスが存在しているか調べてください。

22 ファイルが別の処理によってアクセスされていないか調べてください。

理由コードが内部エラーを示している場合には、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -103

sqlstate: 38S13

GSE0200N データベースへの接続が失敗しました。
SQLERROR = *sql-error*.

説明: Spatial Extender をデータベースに接続できませんでした。DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -200

sqlstate: 38S20

GSE0201W データベースからの切断が失敗しました。
SQLERROR = *sql-error*.

説明: Spatial Extender をデータベースから切断できませんでした。DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: +201

sqlstate: 38S21

GSE0202N データベースへの接続は存在しません。

説明: Spatial Extender をデータベースに接続できません。コマンドを正常に実行できません。

ユーザーの処置: Spatial Extender およびデータベースのセットアップを調べてください。データベースへの接続が確立できるようにしてください。

msgcode: -202

sqlstate: 38S22

GSE0203W Spatial Extender は、すでにデータベース *database-name* に接続されています。

説明: Spatial Extender はデータベース *database-name* に接続しようとしたますが、すでに接続されています。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

msgcode: +203

sqlstate: 38S23

GSE0204N トランザクションのコミットが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は、現行のトランザクションを正常にコミットできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -204

sqlstate: 38S24

GSE0205W トランザクションのロールバックが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は、現行のトランザクションをロールバックできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: +205

sqlstate: 38S25

GSE0206N **SELECT** ステートメントが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は **SELECT** ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -206

sqlstate: 38S26

GSE0207N **VALUES** ステートメントが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は、**VALUES** ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -207

sqlstate: 38S27

GSE0208N **PREPARE** ステートメントが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は、SQL ステートメントを正常に準備できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -208

sqlstate: 38S28

GSE0209N **SQL** カーソルのオープンが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は、結果セット上でカーソルを正常にオープンできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -209

sqlstate: 38S29

GSE0210W **SQL** カーソルのクローズが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は、結果セット上でカーソルを正常にクローズできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: +210

sqlstate: 38S2A

GSE0211N **SQL** カーソルのフェッチが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は、カーソルから結果を正常にフェッチできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -211

sqlstate: 38S2B

GSE0212N オブジェクトのドロップが失敗しました。**SQLERROR = *sql-error*.**

説明: Spatial Extender は、指定されたデータベース・オブジェクトをドロップできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -212**sqlstate:** 38S2C

GSE0213N バインド操作が失敗しました。**SQLERROR = *sql-error*.**

説明: Spatial Extender は、指定されたファイルを現行データベースにバインドできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

このエラーは、DB2 のアプリケーション・ヒープのサイズが小さ過ぎる場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: このデータベースを地理情報操作に使用することができるか調べてください。

データベースが使用できるのにエラーが発生する場合は、Spatial Extender のインストールを調べてください。

問題が解決されない場合は、アプリケーション・ヒープのサイズを指定するデータベース構成パラメーター (APPLHEAPSZ) の値を増やしてください。

msgcode: -213**sqlstate:** 38S2D

GSE0214N INSERT ステートメントが失敗しました。 **SQLERROR = *sql-error*.**

説明: Spatial Extender は、INSERT ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -214**sqlstate:** 38S2E

GSE0215N UPDATE ステートメントが失敗しました。 **SQLERROR = *sql-error*.**

説明: Spatial Extender は、UPDATE ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -215**sqlstate:** 38S2F

GSE0216N DELETE ステートメントが失敗しました。 **SQLERROR = *sql-error*.**

説明: Spatial Extender は DELETE ステートメントを正常に実行出来ませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -216**sqlstate:** 38S2G

GSE0217N LOCK TABLE ステートメントが失敗しました。 **SQLERROR = *sql-error*.**

説明: Spatial Extender は LOCK TABLE ステートメントを正常に実行出来ませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -217**sqlstate:** 38S2H

GSE0218N DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントが失敗しました。 **SQLERROR = *sql-error*.**

説明: Spatial Extender は DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントを正常に実行出来ませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -218**sqlstate:** 38S2I

GSE0219N EXECUTE IMMEDIATE ステートメントが失敗しました。 **SQLERROR = *sql-error*.**

説明: Spatial Extender は EXECUTE IMMEDIATE ステートメントを正常に実行出来ませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -219

sqlstate: 38S2J

GSE0220N savepoint の設定が失敗しました。

SQLERROR = *sql-error*.

説明: Spatial Extender は savepoint を正常に設定出来ませんでした。DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -220

sqlstate: 38S2K

GSE0221N データベース名が指定されていません。

説明: Spatial Extender は、データベースの名前が指定されていないために、データベースに接続できませんでした。

ユーザーの処置: データベース名を指定してください。

msgcode: -221

sqlstate: 38S2L

GSE0222N DB2 からの許可リストの検索が失敗しました。**SQLERROR =** *sql-error*.

説明: Spatial Extender は、現行ユーザーの許可リストを検索できませんでした。DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -222

sqlstate: 38S2M

GSE0223N 表スペースの静止が失敗しました。

SQLERROR = *sql-error*.

説明: Spatial Extender は、表スペースを正常に静止できませんでした。DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -223

sqlstate: 38S2N

GSE0224N 表へのデータのインポートが失敗しました。**SQLERROR =** *sql-error*.

説明: Spatial Extender は、データを表に正常にインポートできませんでした。DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -224

sqlstate: 38S2O

GSE0225N データベース構成またはデータベース・マネージャー構成の検索が失敗しました。

SQLERROR = *sql-error*.

説明: Spatial Extender は、現行データベースの構成またはデータベース・マネージャーの構成を正常に検索できませんでした。DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -225

sqlstate: 38S2P

GSE0226N トリガーの作成が失敗しました。

SQLERROR = *sql-error*.

説明: Spatial Extender は、トリガーを正常に作成できませんでした。DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -226

sqlstate: 38S2Q

GSE0227N ALTER TABLE ステートメントが失敗しました。**SQLERROR =** *sql-error*.

説明: Spatial Extender は、ALTER TABLE ステートメントを正常に実行できませんでした。DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -227

sqlstate: 38S2R

GSE0228N Spatial Extender メッセージ・カタログ
からのエラー *gse-error* および
SQLCODE = *sqlcode* の検索が失敗しま
した。

説明: Spatial Extender は、エラー *gse-error* および
SQLCODE = *sqlcode* のメッセージを正常に検索できま
せんでした。

ユーザーの処置: Spatial Extender のインストールを調
べてください。また、使用したい言語のメッセージ・
カタログがインストールされているか調べてください。

msgcode: -228

sqlstate: 38S2S

GSE0229N ファイル *bind-file* のバインドが失敗しま
した。理由コードは *reason-code* です。

説明: Spatial Extender は、*sqlabndx* 関数を使用してフ
ァイル *bind-file* をデータベースにバインドしようとし
ましたが、失敗しました。*sqlabndx* は、理由コード
reason-code を戻しました。

ユーザーの処置: このデータベースを地理情報操作に使用
することができるか調べてください。

関数 *sqlabndx* の *reason-code* の記述を参照してくださ
い。

msgcode: -229

sqlstate: 38S2T

GSE0230N システム・カタログを更新できませんでし
た。

説明: Spatial Extender は、DB2 サービスを使用してシ
ステム・カタログを変更しようとした時に、エラーを検
出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者
に連絡してください。

msgcode: -230

sqlstate: 38S2U

GSE0231N PREPARE ステートメントで警告状態が
検出されました。 **SQLWARNING =**
sql-warning。

説明: Spatial Extender は、SQL ステートメントの準備
で警告状態を検出しました。DB2 は、*sql-warning* を戻
しました。PREPARE ステートメントは正常に完了し
ました。

ユーザーの処置: *sql-warning* の記述を参照してくださ
い。

msgcode: -231

sqlstate: 38S2V

GSE0300N 指定されたパスワードが長すぎます。

説明: データベースへの接続に使用されるパスワードが
長すぎます。

ユーザーの処置: 指定したパスワードが正しいか検証し
てください。パスワードが正しい場合は、パスワード
を短くして、再度操作を実行してください。

msgcode: -300

sqlstate: 38S40

GSE0301N 指定されたスキーマ名 *schema-name* が長
すぎます。

説明: スキーマ名の長さが DB2 のスキーマ名の制限を
超えているため、要求された操作を正常に完了できませ
ん。

ユーザーの処置: 有効な、より短いスキーマ名を指定し
てください。スキーマ名の長さ制限についての詳細を
IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の
「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べて、
操作を再度実行してください。

msgcode: -301

sqlstate: 38S41

GSE0302N 指定された表名 *table-name* が長すぎま
す。

説明: 表名の長さが DB2 の表名の制限を超えているた
め、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 有効な、より短い表名を指定してくだ
さい。

表名の長さ制限についての詳細を IBM DB2 Spatial
Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガ
イドおよびリファレンス」で調べて、操作を再度実行し
てください。

msgcode: -302

sqlstate: 38S42

GSE0303N 指定された列名 *column-name* が長すぎま
す。

説明: 列名の長さが DB2 の列名の制限を超えているた
め、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 有効な、より短い列名を指定してくだ
さい。

列名の長さ制限についての詳細を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べて、操作を再度実行してください。

msgcode: -303

sqlstate: 38S43

GSE0304N 指定された索引名 *index-name* が長すぎます。

説明: 索引名の長さが DB2 の索引名の制限を超えているため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 有効な、より短い索引名を指定してください。索引名の長さ制限についての詳細を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べて、操作を再度実行してください。

msgcode: -304

sqlstate: 38S44

GSE0305N 指定されたデータ・タイプ名 *type-name* が長過ぎます。

説明: データ・タイプ名の長さが DB2 のデータ・タイプ名の制限を超えているため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 有効な、より短いタイプ名を指定してください。データ・タイプ名の長さ制限についての詳細を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べて、操作を再度実行してください。

msgcode: -305

sqlstate: 38S45

GSE0306N *path* で始まる完全なパスが、許容される制限の *limit* バイトを超えてしまいます。

説明: 完全なパスの長さが *limit* バイトの制限を超えるため、*path* で始まるパスのファイルにアクセスできません。そのため、サブミットされたステートメントを正常に実行できません。

ユーザーの処置: アクセスするファイルのロケーションを、より短いパスを使って検索できるように変更して、指定したステートメントを再度実行してください。UNIX システムでは、シンボリック・リンクを使用して、より短いパス名を設定することができます。

msgcode: -306

sqlstate: 38S46

GSE0307N 動的 SQL ステートメントの長さ *statement-length* が、許容される制限の *limit* バイトを超えてしまいます。

説明: ステートメントが長過ぎるため、構成できません。

ユーザーの処置: ステートメントがストアード・プロシージャのコンテキストで構成されている場合には、WHERE 文節が長過ぎないか調べてください。必要に応じて、WHERE 文節を短くして、操作を再度実行してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -307

sqlstate: 38S47

GSE0308N ストリング *string* が、*limit* バイトの制限を超えています。

説明: ストリング *string* が長過ぎるため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: より短いストリングを指定してください。必要に応じて、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

msgcode: -308

sqlstate: 38S48

GSE1000N Spatial Extender は、ユーザー ID *user-id* によって要求された操作 *operation-name* を実行できませんでした。

説明: この操作を実行するための特権または権限のないユーザー ID から操作を要求しました。

ユーザーの処置: 実行する操作に必要な許可を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べてください。

msgcode: -1000

sqlstate: 38S50

GSE1001N 指定された値 *value* は、*argument-name* 引き数では無効です。

説明: 引き数 *argument-name* に入力した値 *value* は、正しくないか、またはつづりが誤っています。

ユーザーの処置: 指定する必要がある値またはその値の範囲を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べてください。

msgcode: -1001

sqlstate: 38S51

GSE1002N 必須の引き数 *argument-name* が指定されていません。

説明: 必須の引き数が指定されていなかったため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 目的の値とともに引き数 *argument-name* を指定して、操作を要求し直してください。

msgcode: -1002

sqlstate: 38S52

GSE1003N 地理情報列

schema-name.table-name.column-name は、すでに別の地理情報参照システムに登録されているため、地理情報参照システム *srs-name* に登録できませんでした。

説明: 地理情報参照システムは、すでに地理情報列に登録されています。最初に登録を抹消しなければ、再登録できません。

ユーザーの処置: 地理情報列の登録を抹消してから、登録したい地理情報参照システムに登録するか、または、再登録をしないようにしてください。

msgcode: -1003

sqlstate: 38S53

GSE1004N 指定されたジオコーダー *geocoder-name* は、すでに登録されています。

説明: このジオコーダーは、すでに登録されています。最初に登録を抹消しなければ、再登録できません。

ユーザーの処置: ユニークな名前のジオコーダーを登録するか、または、既存のジオコーディングの登録を抹消してから操作を再度実行してください。

msgcode: -1004

sqlstate: 38S54

GSE1005N 地理情報列

schema-name.table-name.column-name には、すでにジオコーディングが設定されています。

説明: この列には、すでにジオコーディングが設定されています。最初に現行の設定を除去しないと、ジオコーディングを再度設定することはできません。

ユーザーの処置: 既存のジオコーディング設定を除去す

るか、またはジオコーディングがすでに設定されている列を選択してください。

msgcode: -1005

sqlstate: 38S55

GSE1006N 地理情報列

schema-name.table-name.column-name は、登録されていません。

説明: この地理情報列は、地理情報参照システムに登録されていませんでした。したがって、登録を抹消できません。

ユーザーの処置: すでに登録されている地理情報列を指定するか、または、列の登録抹消を行わないでください。

msgcode: -1006

sqlstate: 38S56

GSE1007N 指定されたジオコーダー *geocoder-name* は、登録されていません。

説明: ジオコーダー *geocoder-name* は、登録されていません。したがって、登録を抹消できません。

ユーザーの処置: すでに登録されているジオコーダーを指定するか、または、ジオコーダーの登録抹消を行わないでください。

msgcode: -1007

sqlstate: 38S57

GSE1008N 数値 ID *geocoder-id* のジオコーダーは、登録されていません。

説明: 数値 ID *geocoder-id* のジオコーダーは、登録されていません。登録を抹消できません。

ユーザーの処置: すでに登録されているジオコーダーを指定するか、または、ジオコーダーの登録抹消を行わないでください。

msgcode: -1008

sqlstate: 38S58

GSE1009N 表 *schema-name.table-name* が存在しません。

説明: 表 *schema-name.table-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 有効な表名を指定して、操作を再試行してください。

msgcode: -1009

sqlstate: 38S59

GSE1010N 地理情報列

schema-name.table-name.column-name が存在しません。

説明: *schema-name.table-name.column-name* が既存の列を識別していないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 有効な地理情報列名を指定して、操作を再試行してください。

msgcode: -1010

sqlstate: 38S5A

GSE1011N データ・タイプ *schema-name.type-name* が存在しません。

説明: データ・タイプ *schema-name.type-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 有効なデータ・タイプ名を指定して、操作を再試行してください。

msgcode: -1011

sqlstate: 38S5B

GSE1012N このデータベースは、地理情報操作に使用できません。

説明: データベースが地理情報操作に使用可能になっていないため、要求された操作を正常に完了できません。したがって、Spatial Extender カタログは作成されていません。

ユーザーの処置: データベースを地理情報操作で使用できるようにしてください。

msgcode: -1012

sqlstate: 38S5C

GSE1013N データベースはすでに地理情報操作で使用できます。

説明: データベースはすでに地理情報操作で使用できます。再度使用可能にすることはできません。

ユーザーの処置: データベースが予期どおりに使用可能になっていることを確認してください。必要に応じてデータベースを使用不可にしてください。

msgcode: -1013

sqlstate: 38S5D

GSE1014N 列 *schema-name.table-name.column-name* が地理情報列でないため、Spatial Extender はこの列を登録できませんでした。

説明: この列が空間データ・タイプではないか、またはこの列がローカル表に属していません。

ユーザーの処置: 列

schema-name.table-name.column-name に空間データ・タイプを定義するか、または宣言されたタイプとして空間データ・タイプをもつ列を指定してください。

msgcode: -1014

sqlstate: 38S5E

GSE1015N 地理情報参照システム *srs-name* が存在しません。

説明: 地理情報参照システム *srs-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 既存の地理情報参照システムを指定して、操作を再試行してください。

msgcode: -1015

sqlstate: 38S5F

GSE1016N 数値 ID *srs-id* の地理情報参照システムが存在しません。

説明: 指定された数値 ID *srs-id* の地理情報参照システムが存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 既存の地理情報参照システム ID を指定して、操作を再試行してください。

msgcode: -1016

sqlstate: 38S5G

GSE1017N 座標システム *coordsys-name* は、すでに存在しています。

説明: 座標システム *coordsys-name* はすでに存在しています。同じ名前の座標システムを別に作成することはできません。

ユーザーの処置: 新しい座標システムにユニークな名前を指定してください。

msgcode: -1017

sqlstate: 38S5H

GSE1018N 座標システム *coordsys-name* が存在しません。

説明: 座標系 *coordsys-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 既存の座標システムを指定してください。

msgcode: -1018

sqlstate: 38S5I

GSE1019N 地理情報座標システム *coordsys-name* の値が何も指定されていません。

説明: 座標システム *coordsys-name* を変更しようとしたが、新しい値を指定しませんでした。

ユーザーの処置: 座標システムに、少なくとも 1 つは新しい値を指定してください。

msgcode: -1019

sqlstate: 38S5J

GSE1020N 地理情報参照システム *srs-name* は、すでに存在しています。

説明: 地理情報参照システム *srs-name* は、すでに存在しています。同じ名前の地理情報参照システムを別に作成することはできません。

ユーザーの処置: 作成する地理情報参照システムにユニークな名前を指定して、操作を再試行してください。

msgcode: -1020

sqlstate: 38S5K

GSE1021N 地理情報参照システム *srs-name* が存在しません。

説明: 地理情報参照システム *srs-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 既存の地理情報参照システム名を指定して、操作を再試行してください。

msgcode: -1021

sqlstate: 38S5L

GSE1022N 数値 ID *srs-id* の地理情報参照システムが存在しません。

説明: 数値 ID が *srs-id* の地理情報参照システムが存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 既存の地理情報参照システムの数値 ID を指定してください。

msgcode: -1022

sqlstate: 38S5M

GSE1023N 数値 ID *coordsys-id* の座標システムが存在しません。

説明: 数値 ID が *coordsys-id* の座標システムが存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 既存の座標システムの数値 ID を指定して、操作を再試行してください。

msgcode: -1023

sqlstate: 38S5N

GSE1024N 地理情報参照システム *srs-name* の値が何も指定されていません。

説明: 地理情報参照システム *srs-name* を変更しようとしたが、新しい値を指定しませんでした。

ユーザーの処置: 地理情報参照システムに少なくとも 1 つは新しい値を指定してから、操作を再試行してください。

msgcode: -1024

sqlstate: 38S5O

GSE1025N 関数名 *schema-name.function-name* のジオコーダーがデータベースにありません。

説明: Spatial Extender がジオコーダーの関数 *schema-name.function-name* を検出できなかったため、要求された操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: 既存の関数名を持つジオコーダーを指定するか、または関数を作成してから、操作を再試行してください。

msgcode: -1025

sqlstate: 38S5P

GSE1026N 指定されたデフォルト・パラメーター値の数値 (*number1 values*) が、指定されたジオコーダーに必要なデフォルト・パラメーター値の数値 (*number2 values*) と一致しません。

説明: ジオコーダーに必要なすべてのパラメーター値に完全なリストが指定されていなかったため、指定されたジオコーダーを登録できませんでした。

ユーザーの処置: デフォルトのパラメーター値の数値を

訂正してください。ジオコーダーの各パラメーターごとにデフォルト値を指定するか、またはデフォルト・パラメーター値に NULL 値を指定してください。

msgcode: -1026

sqlstate: 38S5Q

GSE1027N 指定されたパラメーター記述値の数値 (*number1 values*) が、指定されたジオコーダーに必要なパラメーター記述値の数値 (*number2 values*) と一致しません。

説明: ジオコーダーに必要なすべてのパラメーター記述値の完全なリストが指定されていなかったため、指定されたジオコーダーを登録できませんでした。

ユーザーの処置: ジオコーダーの各パラメーターごとに記述を指定するか、またはパラメーター記述に NULL 値を指定してください。

msgcode: -1027

sqlstate: 38S5R

GSE1028N ジオコーダー *geocoder-name* が存在しません。

説明: ジオコーダー *geocoder-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 既存のジオコーダー名を指定するか、または指定した名前のジオコーダーを登録してから、操作を再試行してください。

msgcode: -1028

sqlstate: 38S5S

GSE1029N 列 *schema-name.table-name.column-name* には、ジオコーディングが設定されていません。

説明: 列 *schema-name.table-name.column-name* にジオコーディングが設定されていないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 指定された列にジオコーディングを設定するか、または表スキーマ、表名、および列名を訂正してください。

msgcode: -1029

sqlstate: 38S5T

GSE1030N 自動ジオコーディングが列

schema-name.table-name.column-name に対して使用可能になっているので、ジオコーディングのセットアップを除去できません。

説明: 自動ジオコーディングが列

schema-name.table-name.column-name に対して使用可能になっています。そのため、この列のジオコーディングのセットアップを除去することはできません。

ユーザーの処置: 列に対する自動ジオコーディングを使用不可にしてください。

msgcode: -1030

sqlstate: 38S5U

GSE1031N 列 *schema-name.table-name.column-name* には自動ジオコーディングを使用できません。

説明: 自動ジオコーディングは、列

schema-name.table-name.column-name に対して使用可能になっていません。そのため、この列に対して自動ジオコーディングを使用不可にすることはできません。

ユーザーの処置: 自動ジオコーディングが使用可能になっている正しい列名を指定してください。

msgcode: -1031

sqlstate: 38S5V

GSE1032N 列 *schema-name.table-name.column-name* に対する自動ジオコーディングは、すでに使用可能になっています。

説明: 自動ジオコーディングは、列

schema-name.table-name.column-name に対してすでに使用可能になっています。すでに使用可能になっている自動ジオコーディングを使用不可にしない限り、この列に対して自動ジオコーディングを再度使用可能にすることはできません。

ユーザーの処置: (1) 自動ジオコーディングが使用可能になっていない列、(2) ジオコーディングがセットアップされている列、に対して正しい名前を指定してください。

msgcode: -1032

sqlstate: 38S5W

GSE1033N 数値 ID *geocoder-id* のジオコーダーが存在しません。

説明: 数値 ID が *geocoder-id* のジオコーダーが存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: ジョコーダーに既存の数値 ID を指定するか、数値 ID が *geocoder-id* のジオコーダーを登録してください。

msgcode: -1033

sqlstate: 38S5X

GSE1034N ストアド・プロシージャに渡されたパラメーターには、パラメーター *parameter-name* が組み込まれていません。

説明: ストアド・プロシージャに渡された SQLDA が小さ過ぎます。SQLDA には、パラメーター *parameter_name* の項目が含まれていません。

ユーザーの処置: ストアド・プロシージャに渡されるパラメーターを訂正してください。

msgcode: -1034

sqlstate: 38S5Y

GSE1035N ストアド・プロシージャに渡されるパラメーター *parameter-name* パラメーターのデータ・タイプが誤っています。

説明: ストアド・プロシージャに渡されるパラメーター *parameter-name* のデータ・タイプが正しくありません。

ユーザーの処置: ストアド・プロシージャに渡されるパラメーターを訂正してください。

msgcode: -1035

sqlstate: 38S5Z

GSE1036W 操作は正常に終了しました。しかし、特定のデータベース・マネージャーの値およびデータベース構成パラメーターの値を増やす必要があります。

説明: 操作は正常に完了しましたが、Spatial Extender は、より多くのデータベースおよびデータベース・マネージャー・リソースを必要としています。特定のデータベース・マネージャーおよびデータベース構成パラメーターの値を増やすことによって、これらのリソースを獲得することができます。

ユーザーの処置: いくつかの構成パラメーターの値を大きくしてください。たとえば、データベース構成の場

合は APPLHEAPSZ パラメーターを調べてください。詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: +1036

sqlstate: 38S60

GSE1037N 指定された座標システム *coordsys-name* の定義が無効です。

説明: 座標システム *coordsys-name* に関する定義が無効であるため、作成できません。

ユーザーの処置: 座標システムに正しい定義を指定してください。

ST_EqualCoordsys 関数を使用すると、座標システムと定義を比較することによって座標システム定義を検査することができます。

msgcode: -1037

sqlstate: 38S61

GSE1038N ジョコーダー *geocoder-name* に指定されている WHERE 文節が無効です。
Spatial Extender は、文節の検査時に、**SQL エラー *sql-error*** を検出しました。

説明: ジョコードする行を判別する where 文節が無効であるため、要求されたジオコーディングを正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: 構文的に正しい WHERE 文節を指定してください。

msgcode: -1038

sqlstate: 38S62

GSE1039N 指定された編成 *organization* と組み合わせて指定されている ID *organization-coordsys-id* によって示される座標システムは、すでに存在しています。

説明: 座標システムに指定した ID の組み合わせ (システムを定義する編成の名前とその編成に割り当てられている番号) がユニークでなかったため、座標システムを作成する要求を実行できませんでした。これら 2 つの値は、組み合わせがユニークであるか、または NULL でなければなりません。

ユーザーの処置: *organization* および *organization-coordsys-id* の値のユニーク・セットを指定するか、または両方を NULL 値にしてください。

msgcode: -1039

sqlstate: 38S63

GSE1040N 数値 ID *srs-id* の地理情報参照システムは、すでに存在しています。

説明: 地理情報参照システムに割り当てられた数値 ID *srs-id* は、すでに別の地理情報参照システムを識別しているため、地理情報参照システムを作成する要求を実行できませんでした。地理情報参照システムの ID はユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: 地理情報参照システムにユニークな数値 ID を指定してください。

msgcode: -1040

sqlstate: 38S64

GSE1041N 数値 ID *coordsys-id* の座標システムは、すでに存在しています。

説明: 座標システムに割り当てられた数値 ID *coordsys-id* は、すでに別の地理情報座標システムを識別しているため、座標システムを作成する要求を実行できませんでした。地理情報座標システムの ID はユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: 座標システムにユニークな値の *coordsys-id* を指定してください。

msgcode: -1041

sqlstate: 38S65

GSE1042N 数値 ID *geocoder-id* のジオコーダーは、すでに存在しています。

説明: ジオコーダー *geocoder-id* の数値 ID は、すでに別のジオコーダーを識別しているため、ジオコーダーを登録する要求を実行できませんでした。ジオコーダーの ID はユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: ジオコーダーの数値 ID にユニークな値を指定してください。

msgcode: -1042

sqlstate: 38S66

GSE1043N 指定されたグリッド索引 *schema-name.index-name* は、すでに存在しています。

説明: この索引は、すでに存在しています。同じ名前の索引を作成するには、既存の索引をドロップする必要があります。

ユーザーの処置: まだ存在していない索引の名前を指定

するか、既存の索引をドロップしてから、操作を再試行してください。

msgcode: -1043

sqlstate: 38S67

GSE1044N 既存の地理情報参照システムが、この座標システムを基にしたものであるため、指定された座標システム *coordsys-name* をドロップできません。

説明: 指定された座標システム *coordsys-name* を基にした地理情報参照システムが少なくとも 1 つあります。座標システムをドロップできません。

ユーザーの処置: 指定された座標システムを基にしたすべての地理情報参照システムをドロップしてください。その後で、座標システムのドロップを再試行してください。

msgcode: -1044

sqlstate: 38S68

GSE1045N 地理情報列がこの地理情報参照システムに登録済みであるため、指定された地理情報参照システム *srs-name* をドロップできません。

説明: 指定された地理情報参照システム *srs-name* と関連のある地理情報列が少なくとも 1 つ存在します。地理情報参照システムをドロップできません。

ユーザーの処置: 指定された地理情報参照システムと関連のあるすべての空間列を登録抹消してください。その後で、地理情報参照システムのドロップを再試行してください。

msgcode: -1045

sqlstate: 38S69

GSE1046N ジオコーディングのセットアップで使用しているため、指定されたジオコーダー *geocoder-name* を登録抹消できません。

説明: 指定されたジオコーダー *geocoder-name* を使用するジオコーディングのセットアップが少なくとも 1 つあります。ジオコーダーを登録抹消できません。

ユーザーの処置: 指定されたジオコーダーを使用するすべてのジオコーディングのセットアップを除去してください。その後で、ジオコーダーの登録抹消を再試行してください。

msgcode: -1046

sqlstate: 38S6A

GSE1047N ジオコーダー・パラメーター妥当性検査が失敗しました。 **SQLERROR** = *sql-error*.

説明: ジオコーダーのパラメーターの妥当性検査に失敗しました。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。ジオコーダーの登録時、またはジオコーディングのセットアップ中、あるいはその両方を行っているときに、ジオコーダー・パラメーターが指定されている可能性があります。

ユーザーの処置: *sql-error* 内の情報を使用してどのパラメーターが無効が判別してください。値を訂正して、要求を再サブミットしてください。

msgcode: -1047

sqlstate: 38S6B

GSE1048N 数値 ID *srs-id* の空間参照系は、事前定義された測地参照系であり、変更することはできません。

説明: 地理情報参照システムは変更されませんでした。数値 ID が 2000000000 から 2000000317 の範囲の空間参照系は、事前定義された地理情報参照システムであり、変更することはできません。

ユーザーの処置: この空間参照系を変更しようとししないでください。異なる定義を使用した地理情報参照システムが必要な場合、2000000318 から 2000001000 の範囲の数値 ID を指定した新しい地理情報参照システムを作成できます。

msgcode: -1048

sqlstate: 38SP3

GSE1049N 数値 ID *srs-id* の空間参照系は、事前定義された測地参照系であり、ドロップすることはできません。

説明: 地理情報参照システムは変更されませんでした。数値 ID が 2000000000 から 2000000317 の範囲の空間参照系は、事前定義された地理情報参照システムであり、ドロップすることはできません。

ユーザーの処置: この空間参照系をドロップしようとししないでください。異なる定義を使用した地理情報参照システムが必要な場合、2000000318 から 2000001000 の範囲の数値 ID を指定した新しい地理情報参照システムを作成できます。

msgcode: -1049

sqlstate: 38SP4

GSE2100N インポートされる属性列の数 (*input-columns columns*) が、ターゲット表の属性列の数 (*table-columns columns*) と一致しません。

説明: 属性データが含まれている列をインポートしている場合には、インポートされる属性列とターゲット表の列を指定するか、あるいは指定しないかを選択することができます。これらの値を指定している場合は、インポートされる属性列の数の指定がターゲット表の列の数の指定と違っている場合に、このエラーが発生します。これらの値を指定していない場合は、インポートされる列の実際の数とターゲット表の属性列の実際の数と違っている場合に、このエラーが発生します。

ユーザーの処置: インポートされる属性列の指定した数または実際の数、ターゲット表の列の指定した数または実際の数と一致するようにしてください。

msgcode: -2100

sqlstate: 38S70

GSE2101N インポート中に使用されるデータ・タイプ *schema-name.type-name* が、DB2 に認識されません。

説明: 空間データ・タイプ *schema-name.type-name* がデータベースに存在しないため、地理情報データのインポート時に使用できません。

ユーザーの処置: データベースにデータ・タイプを作成するか、現在あるデータ・タイプを使用してください。

msgcode: -2101

sqlstate: 38S71

GSE2102N インポートに指定された表 *schema-name.table-name* が、存在しません。

説明: 表 *schema-name.table-name* がデータベースに存在しません。また、Spatial Extender は、インポートされるデータを保留するための表の作成を要求されませんでした。データは、インポートされませんでした。

ユーザーの処置: 表が Spatial Extender により作成される場合は、適切なフラグを指定してください。それ以外の場合は、表を作成して、操作を再試行してください。

msgcode: -2102

sqlstate: 38S72

GSE2103N インポートに指定された表 *schema-name.table-name* は、すでに存在しています。

説明: Spatial Extender は、インポートされるデータ用に表 *schema-name.table-name* を作成するよう要求されましたが、その名前の表はデータベースにすでに存在しています。データはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: 表が Spatial Extender により作成されない場合は、表の作成を指示しないでください。それ以外の場合は、データベースにまだ存在しない表の名前を指定してください。

msgcode: -2103

sqlstate: 38S73

GSE2104N データのインポート先の列 *schema-name.table-name.column-name* は、存在しません。

説明: データのインポート先の列 *column-name* が、表 *schema-name.table-name* に存在しません。データを表にインポートできません。

ユーザーの処置: 列名を訂正するか、インポート先の表に列を作成するか、または、表名を訂正してください。

msgcode: -2104

sqlstate: 38S74

GSE2105W インポート操作は正常に完了しましたが、ファイルからすべてのレコードがインポートされたわけではありません。

説明: インポート操作は正常に完了しましたが、ファイルからすべてのレコードがインポートされたわけではありません。例外ファイルにはインポートできないレコードがあり、その理由がメッセージ・ファイルの情報に含まれています。

ユーザーの処置: すべてのレコードがインポートされなかった理由についてメッセージ・ファイルを調査して問題を解決し、元のファイルまたは例外ファイルについて操作を繰り返してください。

msgcode: +2105

sqlstate: 38S75

GSE2106N 列 *schema-name.table-name.column-name* のデータ・タイプは、*column-type* です。これは、ファイルからインポートされるデータに予測されるタイプ *expected-type* と一致しません。

説明: データのインポート先の表 *schema-name.table-name* の列 *column-name* は、タイプ *column-type* として宣言されています。 *column-type* は、ファイルからインポートされるデータのタイプ名 *expected-type* と一致しません。データをインポートできません。

ユーザーの処置: インポートされるファイルの構造を持つ表の定義を調べてください。

msgcode: -2106

sqlstate: 38S76

GSE2107N データのインポート先の表は、エラー *sql-error* のために作成できませんでした。

説明: Spatial Extender は、データをインポートする表の作成を要求されましたが、表を正常に作成できませんでした。DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: この *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -2107

sqlstate: 38S77

GSE2108N ファイルからインポートされる属性列を示す方式指定 *method* が正しくありません。

説明: 方式指定が行われなかったか、または *method* が有効な方式指定ではありません。ファイルからの地理情報データのインポートでサポートされる方式指定は、'N' および 'P' だけです。

ユーザーの処置: 方式指定を訂正して、方式を再試行してください。

msgcode: -2108

sqlstate: 38S78

GSE2109N 文字 *expected-char* が検出されるはずでしたが、文字 *found-char* が検出されました。

説明: ファイルからインポートされる属性列を示すストリングで、予期していた *expected-char* ではなく、予期しない文字 *found-char* が検出されました。ステートメントを正常に処理できません。

ユーザーの処置: ファイルからインポートされる属性列を示す文字列を訂正してください。

msgcode: -2109

sqlstate: 38S79

GSE2110N 文字列 *string* の列位置 ID *position* が無効です。

説明: *string* で始まる文字列で指定されている列位置 ID *position* は、有効な範囲内ではありません。0 (ゼロ) より大きく、インポートされるファイルの列数より小さいか等しい値だけが指定できます。ステートメントを正常に処理できません。

ユーザーの処置: 列位置 ID を訂正してください。

msgcode: -2110

sqlstate: 38S7A

GSE2111N dBASE ファイルの列 *dbf-column-name* が長過ぎます。

説明: dBASE ファイル (.dbf) の列の名前 *dbf-column-name* が、DB2 の列名の制限を超えています。

ユーザーの処置: DB2 の長さ制限を超えない *dbf-column-name* を指定してください。

msgcode: -2111

sqlstate: 38S7B

GSE2112N 列 *dbf-column-name* が dBASE ファイルにありません。

説明: 名前 *dbf-column-name* は、dBASE ファイル (.dbf) の既存の属性列を表していません。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: dBASE ファイルに存在する列名を指定してください。

msgcode: -2112

sqlstate: 38S7C

GSE2113N dBASE ファイルの列 *dbf-column-name* の dBASE ファイル・データ・タイプ *dbf-data-type* は、サポートされていません。

説明: dBASE ファイル (.dbf) の属性列 *dbf-column-name* の dBASE ファイル・データ・タイプ *dbf-data-type* を DB2 データベースのデータ・タイプにマップできません。形状ファイルをインポートできません。

ユーザーの処置: 列リストからその列を除外してください。

msgcode: -2113

sqlstate: 38S7D

GSE2114N 列位置 *position* は範囲外です。dBASE ファイルには、*dbf-column-number* 個の列があります。

説明: 指定された列位置 *position* は、有効範囲内の値でなければなりません。有効な値は、0 (ゼロ) より大きく、*dbf-column-number* より小さいか等しい値です。

ユーザーの処置: 有効な位置を指定してください。

msgcode: -2114

sqlstate: 38S7E

GSE2115N 数値 ID *srs-id* の地理情報参照システムが存在しません。

説明: 数値 ID が *srs-id* の地理情報参照システムが存在しません。データをインポートできません。

ユーザーの処置: 既存の地理情報参照システムを指定するか、または、インポート操作を行う前に地理情報参照システムを作成してください。

msgcode: -2115

sqlstate: 38S7F

GSE2116N 座標システム定義 *coordsys-def* が長過ぎます。

説明: インポートする地理情報データに使用されている座標システム定義 *coordsys-def* が長過ぎます。これは、インポートされたデータに使用される地理情報参照システムが基づいている座標システムでは検査できません。

ユーザーの処置: 展開ファイル (.prj) に定義されている座標システムが正しいか調べてください。検査のステップをスキップする場合は、展開ファイルを指定しないでください。

msgcode: -2116

sqlstate: 38S7G

GSE2117N 座標システム定義 *coordsys-def* は、地理情報参照システム *srs-id* が基づいている座標システム定義と一致しません。

説明: 座標システム *coordsys-def* は、地理情報参照システム *srs-id* が基づいている座標システムと一致しません。

ん。両方の座標システムは、意味体系上、同一でなければなりません。

ユーザーの処置: 展開ファイル (.prj) に定義されている座標システムが空間参照系の座標システムに一致するか調べてください。 検査のステップをスキップする場合は、展開ファイルを指定しないでください。

msgcode: -2117

sqlstate: 38S7H

GSE2118N 地理情報データは、数値 ID *srs-id* の地理情報参照システムに適合しません。

説明: 地理情報データは、数値 ID が *srs-id* の地理情報参照システムの最小および最大座標値を超えるエリアをカバーしています。

ユーザーの処置: インポートされる地理情報データが完全に含まれる地理情報参照システムを指定してください。 地理情報参照システムに適合する最小および最大座標値については、DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS カタログ・ビューを参照してください。

msgcode: -2118

sqlstate: 38S7I

GSE2119N 数値 ID *srs-id1* のインポートされるデータの地理情報参照システムは、数値 ID *srs-id2* のターゲット列の地理情報参照システムと一致しません。 ターゲット列の名前は、*schema-name.table-name.column-name* です。

説明: 地理情報列 *schema-name.table-name.column-name* は、その列に割り当てられている地理情報参照システム *srs-id2* を使用して登録されました。 この地理情報参照システムは、その列にインポートされる地理情報データに使用されている地理情報参照システム *srs-id1* と一致しません。 データをインポートできません。

ユーザーの処置: その地理情報列の登録を抹消するか、または、インポートされるデータに、その列が使用しているものと同じ地理情報参照システムを指定してください。

msgcode: -2119

sqlstate: 38S7J

GSE2120N データはインポートされませんでした。

説明: 形状データをインポートできませんでした。 すべての行が拒否され、例外ファイルに書き込まれました。

ユーザーの処置: すべての地理情報データが拒否された理由については、メッセージ・ファイルを参照してください。

msgcode: -2120

sqlstate: 38S7K

GSE2121N 操作を再始動するレコードを指定している値 *restart-count* が範囲外です。 形状ファイルには、*record-count* 個のレコードがあります。

説明: 指定される *restartCount restart-count* は、0 (ゼロ) 以上、*record-count* 以下でなければなりません。

ユーザーの処置: *restartCount* に、有効な数を指定するか、または、NULL 値を指定してください。

msgcode: -2121

sqlstate: 38S7L

GSE2122N 形状データのインポートに使用される SQL ステートメントが、内部バッファに適合しません。

説明: 形状データを表にインポートすることに使用される SQL ステートメントが、内部バッファに適合しません。 ファイルの列が多過ぎることが原因である可能性があります。

ユーザーの処置: 形状ファイルの属性列を少なくしてインポートしてください。

msgcode: -2122

sqlstate: 38S7M

GSE2123N *row-count* 行のデータを保留するためのバッファを割り振れません。

説明: Spatial Extender は、少なくとも *row-count* 行を単一の INSERT ステートメントでインポートしようとしたが、その行のデータを保留するためのバッファを割り振ることができませんでした。 必要なメモリー量が多過ぎます。

ユーザーの処置: *row-count* より小さいインポートのコミット・カウントを指定してください。 または、インポートされる列を少なくしてください。 それによって、必要なメモリー量が削減されます。

msgcode: -2123

sqlstate: 38S7N

GSE2124N 無効なタイプ ID *type-id* が、インポートされる形状ファイルのヘッダーで検出されました。

説明: 形状ファイルのデータは、有効な空間データ・タイプではありません。この形状ファイルは、破壊されている可能性があります。データは、インポートされませんでした。

ユーザーの処置: 形状ファイルが有効であるか確かめてください。

msgcode: -2124

sqlstate: 38S7O

GSE2125N 形状ファイルの列にサポートされないタイプ *type* があります。

説明: 形状ファイルに、Spatial Extender がサポートしていないデータ・タイプの列が含まれています。形状ファイルをインポートできませんでした。

ユーザーの処置: 形状ファイルのより少ない列だけをインポートして、サポートされないデータ・タイプの列は省略してください。

msgcode: -2125

sqlstate: 38S7P

GSE2126N 形状ファイル *shape-file* のヘッダーが無効です。

説明: 形状ファイル *shape-file* のヘッダーが無効です。形状ファイルをインポートできません。

ファイル名 *shape-file* の拡張子は、形状ファイルのどの部分でエラーが検出されたかを示します。ファイル拡張子には、次のものがあります。

.shp メインファイル
.shx 索引ファイル
.dbf dBASE ファイル
.pri 展開ファイル

ユーザーの処置: 形状ファイルのヘッダーを調べて訂正してください。

msgcode: -2126

sqlstate: 38S7Q

GSE2127N 形状索引ファイル *shx-file* のレコード *record-number* のオフセット *offset* が無効です。

説明: 索引ファイル (.shx) *shx-file* のレコード *record-number* のオフセット *offset* が無効です。オフセットは、50 以上で形状ファイルのメインファイル (.shp) の全長より小さくなくてはなりません。オフセットは、16 ビット・ワード単位で測定されます。

ユーザーの処置: 形状ファイルを検査して、訂正してください。

msgcode: -2127

sqlstate: 38S7R

GSE2128N 形状索引ファイル *shx-file* のレコード *record-number* の形状の長さが短過ぎます。

説明: 形状索引ファイル *shx-file* にあるレコード *record-number* の形状の長さが短過ぎます。各形状は、少なくとも 4 バイト (16 ビット・ワードが 2 つ) で構成されていなければなりません。

ユーザーの処置: 形状ファイルを検査して、訂正してください。

msgcode: -2128

sqlstate: 38S7S

GSE2129N Spatial Extender は、形状ファイル *shp-file* で、レコード番号 *expected-number* を検出するはずでしたが、誤ったレコード番号 *record-number* を検出しました。

説明: Spatial Extender は、形状ファイル *shp-file* で、予期していたレコード番号 *expected-number* ではなく、誤ったレコード番号 *record-number* を検出しました。

ユーザーの処置: 形状ファイルを検査して、訂正してください。

msgcode: -2129

sqlstate: 38S7T

GSE2130N 形状ファイル *shp-file* に示されている形状データのサイズ *record-size* は、形状索引ファイル *index-size* に示されているサイズと一致しません。

説明: 形状ファイル *shp-file* に示されている形状データのサイズ *record-size* は、形状索引ファイル *index-size* に示されているサイズと一致しません。

形状ファイル (.shp) のメインファイルは、索引ファイル

(.shx) と整合性が無いため、これ以上処理できません。

ユーザーの処置: 形状ファイルを検査して、訂正してください。

msgcode: -2130

sqlstate: 38S7U

GSE2131N dBASE ファイル *dbf-file* のレコード *record-number* のデータが無効です。

説明: 形状ファイルの形状に関連した属性情報が含まれている dBASE ファイル *dbf-file* のレコード *record-number* のデータが無効です。

説明は以下のとおりです。

- レコードの最初のバイトは、アスタリスク ('*') またはスペース (' ') であってはなりません。
- dBASE ファイル (.dbf) の全列の長さの合計は、ファイルのヘッダーに示されているレコード・サイズと同じでなければなりません。

ユーザーの処置: dBASE ファイルを検査して、訂正してください。

msgcode: -2131

sqlstate: 38S7V

GSE2132N 形状ファイル *shape-file* のデータが無効です。

説明: 形状ファイル *shape-file* のデータが壊れています。この形状ファイルをインポートできません。

ファイル名 *shape-file* は、この形状ファイルのどの部分でエラーが検出されたかを示します。

ユーザーの処置: 形状ファイルを検査して、訂正してください。

msgcode: -2132

sqlstate: 38S7W

GSE2133N 列 *schema-name.table-name.column-name* は、NULL 可能でないため、インポート操作は失敗しました。

説明: 既存の表 *schema-name.table-name* の列 *column-name* の定義により、列には NULL を含ませることができません。その列は、インポート対象である列のリストに含まれておらず、デフォルト値、生成された列定義やトリガーなど他の手段によって DB2 がその列について値を提供することはありません。

インポート操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: インポート対象である列のリストにそ

の列を含ませて ID 列として識別させるか、または代替手段を定義して、インポート操作中に DB2 がその列について値を生成するようにしてください。

msgcode: -2133

sqlstate: 38S7X

GSE2134N インポートされるデータに関連する地理情報参照システムが、数値 ID が *srs-id* の地理情報参照システムに一致しません。

説明: インポートされるファイルにある空間データは、数値 ID が *srs-id* の空間参照系とは別のオフセットおよびスケール因子で、空間参照系を使用します。データを正常にインポートできません。

ユーザーの処置: インポートされるファイルのデータに必要な地理情報参照システムと同じ定義を持つ地理情報参照システムを指定してください。地理情報参照システムに適合する最小および最大座標値、オフセット、スケール因数については、

DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS カタログ・ビューを参照してください。

msgcode: -2134

sqlstate: 38S7Y

GSE2200N SELECT ステートメントの結果に、地理情報列が組み込まれていませんでした。

説明: エクスポート操作に指定する SELECT ステートメントでは、1 つの地理情報列を正確に参照しなければなりません。データをエクスポートできません。

ユーザーの処置: 1 つの地理情報列を正確に参照するように、SELECT ステートメントを訂正してください。

msgcode: -2200

sqlstate: 38S90

GSE2201N SELECT ステートメントの結果に、複数の地理情報列が組み込まれていました。

説明: エクスポート操作に指定する SELECT ステートメントでは、1 つの地理情報列を正確に指定しなければなりません。データをエクスポートできません。

ユーザーの処置: 1 つの地理情報列を正確に参照するように、SELECT ステートメントを訂正してください。

msgcode: -2201

sqlstate: 38S91

GSE2202N エクスポートするデータを記述する全選択の列 *column-number* の SQL データ・タイプ *data-type* は、形状ファイルではサポートされません。

説明: エクスポートするデータを記述する全選択の列 *column-number* の SQL データ・タイプ *data-type* は、形状ファイルではサポートされません。データをエクスポートできません。

ユーザーの処置: 形状のエクスポート操作の SELECT ステートメントに、サポートされていないタイプの列を指定しないでください。DESCRIBE コマンドを使用すると、SELECT ステートメントの結果のすべての列のデータ・タイプを検査することができます。

msgcode: -2202

sqlstate: 38S92

GSE2203N 列 *column-number* のデータの長さは、*length* です。これは、形状ファイルにエクスポートするには長過ぎます。

説明: 列 *column-number* のデータの長さは、*length* です。これは、形状ファイルにエクスポートするには長過ぎます。

ユーザーの処置: 列の長さを 256 バイト未満に変更してください。DB2 の cast 関数を使用すると、列の長さを短縮することができます。

msgcode: -2203

sqlstate: 38S93

GSE2204N 列名 *column-name* は、dBASE ファイルの 11 文字の制限を超えています。

説明: 列名 *column-name* は、dBASE ファイルの 11 バイトの制限を超えています。データはエクスポートされません。

ユーザーの処置: dBASE ファイル (.dbf) にエクスポートする属性データには、11 バイト以下の列名を指定してください。

msgcode: -2204

sqlstate: 38S94

GSE2205W DB2 は、Spatial Extender がエクスポートするデータをフェッチした時に、SQL 警告 *sql-warning* を戻しました。

説明: DB2 は、Spatial Extender がエクスポートするデータをフェッチした時に、SQL 警告 *sql-warning* を戻

しました。警告は無視され、データはエクスポートされました。

ユーザーの処置: *sql-warning* の記述を参照してください。警告を許容できない場合には、警告の原因となったものを訂正して、データを再度エクスポートしてください。

msgcode: +2205

sqlstate: 38S95

GSE2206W データはエクスポートされませんでした。

説明: エクスポートに指定された SELECT ステートメントは、どの行も検索しませんでした。データはエクスポートされませんでした。

ユーザーの処置: エクスポートする行を少なくとも 1 行は戻す、SELECT ステートメントを指定してください。

msgcode: +2206

sqlstate: 38S96

GSE2207W SELECT ステートメントで参照された行の一部しかエクスポートされませんでした。

説明: SELECT ステートメントには、エクスポートされた行よりも多くの行が示されていました。このエラーは、エクスポート中にエラーが検出されて操作が終了した場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルを調べてください。

msgcode: +2207

sqlstate: 38S97

GSE2208N 行 *row-number* において、エクスポートされる形状は、数値 ID *srs-id1* の地理情報参照システムに関連しています。この ID は、前の行の形状に使用された地理情報参照システムの数値 ID *srs-id2* と一致しません。

説明: 行 *row-number* において、エクスポートされる形状は、数値 ID *srs-id1* の地理情報参照システムに関連しています。この ID は、前の行の形状に使用された地理情報参照システムの数値 ID *srs-id2* と一致しません。行 *row-number* は、エクスポートされませんでした。

ユーザーの処置: エクスポートされるすべての形状が、同じ地理情報参照システム ID を持っていることを確認してください。同じでない場合は、SELECT ステートメントで ST_Transform() メソッドを使用して、すべて

の形状を同じ地理情報参照システムに変換してください。

msgcode: -2208

sqlstate: 38S98

GSE2209N エクスポートされる行 *row-number* の形状が **NULL** 値です。

説明: NULL 値の概念は、形状のエクスポート先のファイルのデータではサポートされていません。行 *row-number* にエクスポートされる形状が NULL 値であるため、エクスポートできません。

ユーザーの処置: SELECT ステートメントを変更して、NULL 値の形状を持つ行をエクスポートから除外してください。

msgcode: -2209

sqlstate: 38S99

GSE2210N 行 *row-number* の形状の地理情報参照システムが無効です。この地理情報参照システムの数値 ID は、*srs-id* です。

説明: 行 *row-number* で、エクスポートされる形状が、無効な地理情報参照システムを使用しています。形状をエクスポートできません。

ユーザーの処置: 示された形状を訂正するか、SELECT ステートメントを変更して、その行をエクスポート操作から除外してください。

msgcode: -2210

sqlstate: 38S9A

GSE2211N エクスポートされる地理情報データは、数値 ID *srs-id* の地理情報参照システムに関連しています。この地理情報参照システムが基づいている座標システムは、エクスポートされるデータが追加されるファイルの座標システム定義 *coordsys-def* と一致しません。

説明: エクスポートされる地理情報データは、数値 ID *srs-id* の地理情報参照システムに関連しています。この地理情報参照システムが基づいている座標システムは、エクスポートされるデータが追加されるファイルの座標システム定義 *coordsys-def* と一致しません。データはエクスポートされませんでした。

ユーザーの処置: 一致する座標システムを持つファイルにデータを追加するか、座標システムに合わせて地理情報データをトランスフォームするか、またはデータを別のファイルにエクスポートしてください。

msgcode: -2211

sqlstate: 38S9B

GSE2212N 属性データが **dBASE** ファイルと一致しません。

説明: エクスポート操作に指定された SELECT ステートメントは、dBASE ファイル (.dbf) に一致しない属性データを生成します。

エクスポート操作の SELECT ステートメントからの属性データを dBASE ファイルに追加できません。考えられる理由は、以下のとおりです。

- 列の数が一致しない。
- 列のデータ・タイプが一致しない。
- 属性列名が一致しない。

ユーザーの処置: SELECT ステートメントを訂正するか、または、指定した dBASE ファイルに追加しないでください。

msgcode: -2212

sqlstate: 38S9C

GSE2213W 行 *row-number* の、ファイルにエクスポートされる形状が **NULL** 値です。

説明: 行 *row-number* の、ファイルにエクスポートされる形状が NULL 値です。行はエクスポートされませんでした。

ユーザーの処置: SELECT ステートメントを変更して、NULL 値を持つ形状を除外してください。

msgcode: +2213

sqlstate: 38S9D

GSE2214W 行 *row-number* の形状をエクスポートするのに十分なメモリーがありません。

説明: 行 *row-number* の形状をエクスポートするのに十分なメモリーがありません。行はエクスポートされませんでしたでしたが、エクスポート操作は続行されました。

ユーザーの処置: メモリーを増やすか、その行から形状を除外するように、SELECT ステートメントを変更してください。

msgcode: +2214

sqlstate: 38S9E

GSE2215W *record-number* として形状ファイルに追加される形状は、形状タイプが *geometry-shape-type* ですが、これは形状ファイルのタイプ *file-shape-type* と一致しません。

説明: *record-number* として形状ファイルに追加される形状は、形状タイプが *geometry-shape-type* ですが、これは形状ファイルのタイプ *file-shape-type* と一致しません。この形状は、そのファイルにエクスポートできません。

有効な形状タイプは、以下のとおりです。

- 0 空の形状。
- 1 Z 座標および目盛りが無い点。
- 3 Z 座標および目盛りが無い行ストリングまたは複数行ストリング。
- 5 Z 座標および目盛りが無いポリゴンまたはマルチポリゴン。
- 8 Z 座標および目盛りが無いマルチポイント。
- 9 Z 座標があって目盛りが無い点。
- 10 Z 座標があって目盛りが無い行ストリングまたは複数行ストリング。
- 11 Z 座標および目盛りがある点。
- 13 Z 座標がおよび目盛りがある行ストリングまたは複数行ストリング。
- 15 Z 座標および目盛りがあるポリゴンまたはマルチポリゴン。
- 18 Z 座標および目盛りがあるマルチポイント。
- 19 Z 座標があって目盛りが無いポリゴンまたはマルチポリゴン。
- 20 Z 座標があって目盛りが無いマルチポイント。
- 21 目盛りがあって Z 座標が無い点。
- 23 目盛りがあって Z 座標が無い行ストリングまたは複数行ストリング。
- 25 目盛りがあって Z 座標が無いポリゴンまたはマルチポリゴン。
- 28 目盛りがあって Z 座標が無いマルチポイント。

ユーザーの処置: 形状を正しいタイプに変換するか、または別の形状ファイルにエクスポートしてください。

msgcode: +2215

sqlstate: 38S9F

GSE2216N エクスポートしようとしている形状データが無効です。

説明: Spatial Extender は、形状を形状ファイルにエクスポートする前に、形状データに変換します。このエラーは、形状が変換された形状データが無効であったために戻されました。形状はエクスポートされませんでした。

説明は以下のとおりです。

- 形状データが奇数バイトです。
- 形状データが短過ぎて、すべての情報が入りません。
- 不明な形状指示が戻されました。
- 最小結合長方形に関する情報が、タイプ指定と整合性がありません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

msgcode: -2216

sqlstate: 38S9G

GSE2299N 形状ファイル *file-name* が、無効なファイル・サイズです。

説明: 形状ファイル *file-name* が、無効なファイル・サイズです。形状ファイルは、16 ビット・ワードの倍数のファイル・サイズです。したがって、形状ファイルのサイズは常に偶数になります。形状ファイルが壊れている可能性があります。このファイルを使用できません。

ユーザーの処置: 形状ファイルを検査して、訂正してください。

msgcode: -2299

sqlstate: 38S9H

GSE2500N SDEX ファイル *file-name* のヘッダーが無効です。

説明: SDEX ファイル *file-name* のヘッダーが無効です。SDEX ファイルが正常にオープンできません。

ユーザーの処置: SDEX ファイルのヘッダーを調べて訂正してください。

msgcode: -2500

sqlstate: 38SA0

GSE2501N 座標システム・パラメーターが **SDEX** ファイル *file-name* から読み込めませんでした。

説明: SDEX ファイル *file-name* は、座標システム定義の無効なデータを含んでいます。SDEX ファイルが正常にオープンできません。

ユーザーの処置: SDEX ファイルに保管されている座標システム定義を検証し修正してください。

msgcode: -2501

sqlstate: 38SA1

GSE2502N 列定義が **SDEX** ファイル *file-name* から読み込めませんでした。

説明: SDEX ファイル *file-name* は、列定義の無効なデータを含んでいます。SDEX ファイルが正常にオープンできません。

ユーザーの処置: SDEX ファイルに保管されている列定義を検証し修正してください。

msgcode: -2502

sqlstate: 38SA2

GSE2503N **SDEX** ファイルの列にサポートされない **タイプ** *type* があります。

説明: SDEX ファイルに、Spatial Extender がサポートしていないデータ・タイプの列が含まれています。SDEX ファイルをインポートできませんでした。

ユーザーの処置: SDEX ファイルのより少ない列だけをインポートして、サポートされないデータ・タイプの列は省略してください。

msgcode: -2503

sqlstate: 38SA3

GSE2504N 列位置 *position* は範囲外です。SDEX ファイルには、*column-number* 個の列があります。

説明: 指定された列位置 *position* は、有効範囲内の値でなければなりません。有効な値は、0 (ゼロ) より大きく、*column-number* より小さいか等しい値です。

ユーザーの処置: 有効な位置を指定してください。

msgcode: -2504

sqlstate: 38SA4

GSE2505N **SDEX** ファイルの列 *column-name* が長過ぎます。

説明: SDEX ファイルの列の名前 *column-name* が、DB2 の列名の制限を超えています。

ユーザーの処置: DB2 の長さ制限を超えない *column-name* を指定してください。

msgcode: -2505

sqlstate: 38SA5

GSE2506N 列 *column-name* が **SDEX** ファイルにありません。

説明: 名前 *column-name* は、SDEX ファイルの既存の属性列を表していません。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: SDEX ファイルに存在する列名を指定してください。

msgcode: -2506

sqlstate: 38SA6

GSE2507N **SDEX** ファイル内の列 *column-name* の **SDEX** ファイル・データ・タイプ *data-type* はサポートされていません。

説明: SDEX ファイルの属性列 *column-name* の SDEX ファイル・データ・タイプ *data-type* を DB2 データベースのデータ・タイプにマップできません。SDEX ファイルをインポートできません。

ユーザーの処置: 列リストからその列を除外してください。

msgcode: -2507

sqlstate: 38SA7

GSE2508N 複数の空間列が **SDEX** ファイル *file-name* に存在します。

説明: Spatial Extender は、SDEX ファイル *file-name* に複数の列を検出しました。空間列は 1 つしか許可されません。ファイルを正常にインポートできません。

ユーザーの処置: SDEX ファイルを、空間列を 1 つにするよう訂正してください。

msgcode: -2508

sqlstate: 38SA8

GSE2509N SDEX ファイル *file-name* から、レコード *record-number* を読み取ることができません。理由コードは *reason-code* です。

説明: レコード *record-number* が SDEX ファイル *file-name* から読み込めません。

レコードを読み取ることができない理由は、理由コードによって、次のようになります。

- 1 内部エラーが発生しました。
- 13 使用可能なメモリーが十分ではありません。

ユーザーの処置: 理由コードに従って SDEX ファイルを検証し修正し、またはメモリー不足を解決してください。

msgcode: -2509

sqlstate: 38SA9

GSE2600N SDEX ファイル *file-name* のヘッダーを書き込むことができません。

説明: SDEX ファイル *file-name* のヘッダーを正常に書き込むことができません。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -2600

sqlstate: 38SF0

GSE2601N SDEX ファイル *file-name* に座標システム・パラメーターを書き込むことができません。

説明: 座標システム・パラメーターを SDEX ファイル *file-name* に正常に書き込むことができません。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -2601

sqlstate: 38SF1

GSE2602N SDEX ファイル *file-name* に列定義を書き込むことができません。

説明: 列定義を SDEX ファイル *file-name* に正常に書き込むことができません。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -2602

sqlstate: 38SF2

GSE2603N 列名 *column-name* は、SDEX ファイルの 32 文字の制限を超えています。

説明: 列名 *column-name* は、SDEX ファイルの 32 バイトの制限を超えています。データはエクスポートされません。

ユーザーの処置: SDEX ファイルにエクスポートするデータには、32 バイト以下の列名を指定してください。

msgcode: -2603

sqlstate: 38SF3

GSE2604N エクスポートするデータを記述する全選択の列 *column-number* の SQL データ・タイプ *data-type* は、SDEX ファイルではサポートされません。

説明: エクスポートするデータを記述する全選択の列 *column-number* の SQL データ・タイプ *data-type* は、SDEX ファイルではサポートされません。データをエクスポートできません。

ユーザーの処置: SDE のエクスポート操作の SELECT ステートメントに、サポートされていないタイプの列を指定しないでください。DESCRIBE コマンドを使用すると、SELECT ステートメントの結果のすべての列のデータ・タイプを検査することができます。

msgcode: -2604

sqlstate: 38SF4

GSE2605N レコード *record-number* を SDEX ファイル *file-name* に書き込むことができません。

説明: レコード *record-number* を SDEX ファイル *file-name* に正常に書き込むことができません。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -2605

sqlstate: 38SF5

GSE3000N SRS ID が NULL です。

説明: 数値による地理情報参照システム ID ではなく、NULL 値が関数または方式に渡されました。

ユーザーの処置: 既存の地理情報参照システムの数値に

よる地理情報参照システム ID を指定してください。
定義されている地理情報参照システムについては、
Spatial Extender のカタログ・ビュー
DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照
してください。

msgcode: -3000

sqlstate: 38SU0

GSE3001N SRS ID *srs-id* が無効です。

説明: 空間処理関数に指定された地理情報参照システム ID *srs-id* は、既存の地理情報参照システムを識別していません。

ユーザーの処置: Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS に定義されている既存の数値による地理情報参照システム ID を指定するか、または、*srs-id* によって識別される地理情報参照システムを作成してください。

msgcode: -3001

sqlstate: 38SU1

GSE3002N 単位名が NULL です。

説明: メジャー単位として NULL が指定されました。メジャー単位の指定は、単位そのもの (たとえば、“meter” など) でなければなりません。NULL は指定できません。

ユーザーの処置: 空間処理関数または方式の呼び出し時にメジャー単位を省略するか、または、既存のメジャー単位を指定してください。サポートされる単位については、Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_UNITS_OF_MEASURE を参照してください。

msgcode: -3002

sqlstate: 38SU2

GSE3003N 不明な単位 *unit-name* が指定されました。

説明: 空間処理関数または方式に指定された単位 *unit-name* は、既存のメジャー単位を示していません。

ユーザーの処置: 空間処理関数または方式の呼び出し時にメジャー単位を省略するか、または、既存のメジャー単位を指定してください。サポートされる単位については、Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_UNITS_OF_MEASURE を参照してください。

msgcode: -3003

sqlstate: 38SU3

GSE3004N 単位 *unit-name* への変換はサポートされていません。

説明: 単位 *unit-name* への変換は、サポートされていません。

指定された形状が展開された座標システムにない場合、関数 ST_Area、ST_Buffer、ST_Length、および ST_Perimeter は、線形メジャー単位を受け入れられません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方式を使用してください。

- 空間処理関数または方式の呼び出し時にメジャー単位を省略してください。
- 角度を指定してください。
- ST_Transform 関数を使用して、形状を展開された座標システムに展開してください。適切な地理情報参照システムについては、Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照してください。

msgcode: -3004

sqlstate: 38SU4

GSE3005N SRS に単位がありません。

説明: 形状に対する地理情報参照システムに、関連した線形または角度の単位がありません。要求されたメジャー単位で操作を実行することはできません。

ユーザーの処置: 関連した線形または角度のメジャー単位がある正しい地理情報参照システムの形状を指定するか、または、操作の要求時に単位パラメーターを省略してください。

msgcode: -3005

sqlstate: 38SU5

GSE3006N 内部タイプ ID が無効です。

説明: この形状の内部データ・タイプ ID は、NULL 値なので、無効です。

このエラーは、形状の内部表記が破壊されている場合、または形状がサポートされているコンストラクター関数または方式のいずれかで構成されていない場合に起きます。

ユーザーの処置: サポートされているコンストラクター関数または方式を使用して、形状を再構成してください。

msgcode: -3006

sqlstate: 38SU6

GSE3007N 内部タイプ ID *type-id* が不明です。

説明: 形状の内部タイプ ID *type-id* の値が無効です。

このエラーは、形状の内部表記が破壊されている場合、または形状がサポートされているコンストラクター関数または方式のいずれかで構成されていない場合に起きます。

ユーザーの処置: サポートされているコンストラクター関数または方式を使用して、形状を再構成してください。

msgcode: -3007

sqlstate: 38SU7

GSE3008N 内部タイプ ID のミスマッチ (*type-id1*, *type-id2*)。

説明: 内部データ・タイプ ID のミスマッチが検出されました。Spatial Extender は、内部データ・タイプ ID が *type-id2* の形状を検索するはずでしたが、内部データ・タイプ ID が *type-id1* の形状を検索しました。

このエラーは、形状の内部表記が破壊されている場合、または形状がサポートされているコンストラクター関数または方式のいずれかで構成されていない場合に起きます。

ユーザーの処置: サポートされているコンストラクター関数または方式を使用して、形状を再構成してください。

msgcode: -3008

sqlstate: 38SU8

GSE3009W パーツ数 *part-number* が無効です。

説明: 指定されたパーツ数 *part-number* が無効です。NULL 値が戻されました。

ユーザーの処置: 形状が空でない場合は、形状集合において 0 (ゼロ) より大きく最大パーツ数より小さいか等しい有効なパーツ数を指定してください。

ST_NumGeometries 関数を使用すると、形状集合のパーツ数を判別することができます。

形状が空の場合は、方式は適用されません。

msgcode: +3009

sqlstate: 01HS0

GSE3010W リング数 *ring-number* が無効です。

説明: 内部リング数に指定された数 *ring-number* が無効です。NULL 値が戻されました。

ユーザーの処置: ポリゴン値が空でない場合は、ポリゴンにおいて、1 以上で内部リングの最大数以下の有効なリング数を指定してください。

ポリゴンが空の場合は、関数または方式は適用されません。ST_NumInteriorRings 関数を使用すると、ポリゴンの内部リングの数を判別することができます。

msgcode: +3010

sqlstate: 01HS1

GSE3011W 点数 *point-number* が無効です。

説明: 指定された点数 *point-number* は無効です。NULL 値が戻されました。

ユーザーの処置: 曲線値が空でない場合は、曲線で 0 (ゼロ) より大きく、点の最大数より小さいか等しい有効な点数を指定してください。曲線が空の場合は、関数または方式は適用されません。

ST_NumPoints 関数を使用すると、曲線の定義に使用する点数を判別することができます。

msgcode: +3011

sqlstate: 01HS2

GSE3012N DE9-IM *matrix* が無効です。

説明: ST_Relate 関数に指定された交差マトリックス *matrix* は無効です。マトリックスは 9 文字でなければなりません。また、マトリックスの各文字は、'T'、'F'、'0'、'1'、'2'、'*' のいずれかでなければなりません。

ユーザーの処置: 有効な交差マトリックスを指定してください。

msgcode: -3012

sqlstate: 38SU9

GSE3013N 外部リングがリングではありません。

説明: ポリゴンの新規外部リングとなる行ストリングが、リングではありません。リングにするには、単一かつ閉じた行ストリングにする必要があります。この両方の条件あるいはいずれかの条件が満たされていません。

ユーザーの処置: ポリゴンの新規外部リングに、単一の閉じた行ストリングを指定してください。

msgcode: -3013

sqlstate: 38SUA

GSE3014N 内部リングがリングではありません。

説明: ポリゴンの新規内部リングとなる行ストリングが、リングではありません。リングにするには、単一かつ閉じた行ストリングにする必要があります。これらの条件の少なくとも 1 つが満たされていません。

ユーザーの処置: ポリゴンの新規内部リングに、単一の閉じた行ストリングを指定してください。

msgcode: -3014

sqlstate: 38SUB

GSE3015N 理由コードは *reason-code* です。SRS *srs-id* へのトランスフォーメーションが失敗しました。

説明: 形状が表されている空間参照系から、数値 ID *srs-id* の空間参照系に、形状をトランスフォームできませんでした。トランスフォームは、理由コード *reason-code* で失敗しました。

理由コードの意味は、以下のとおりです。

- 2008 形状が無効です。
- 2018 トランスフォーメーションを正常に完了するために十分なメモリーがありません。
- 2020 地理情報参照システムに互換性がありません。両方の地理情報参照システムは、直接または間接的に同じ形状座標システムに基づいていなければなりません。
- 2021 結果の形状の点 (1 つまたは複数) が、新しい地理情報参照システムで可能な最大範囲の外側になります。結果の形状を、新しい地理情報参照システムで表すことができません。
- 2025 新しい地理情報参照システムの定義が無効です。
- 2026 形状の展開中に、内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 地理情報参照システム *srs-id* にトランスフォームできる地理情報参照システムで形状を表すか、または、形状をトランスフォームする宛先としての別の地理情報参照システム ID を指定してください。

msgcode: -3015

sqlstate: 38SUC

GSE3016N キャスト *type-id1*、*type-id2* はサポートされていません。

説明: 内部タイプ ID *type-id1* のデータ・タイプから、内部タイプ ID *type-id2* のデータ・タイプへ試行されたキャスト操作はサポートされていません。形状をこれ以上処理できません。

ユーザーの処置: サポートされているキャスト操作を指定してください。サポートされている cast 関数について詳しくは、「IBM DB2 Universal Database ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3016

sqlstate: 38SUD

GSE3020N Z 座標と目盛りの組み合わせが無効です。

説明: 関数またはメソッドが処理しようとした形状は、Z 座標と目盛りに関して同じ大きさを使用して表されていません。

すべての形状は、Z 座標が含まれているか、または Z 座標が含まれていないかのいずれかでなければなりません。すべての形状は、目盛りが含まれているか、または目盛りが含まれていないかのいずれかでなければなりません。

ユーザーの処置: 関数またはメソッドに、Z 座標と目盛りに関して同じ大きさを使用して表されている形状を指定してください。

msgcode: -3020

sqlstate: 38SUH

GSE3021N 理由コードは *reason-code* です。ロケータ一障害。

説明: LOB ロケーターでの空間処理関数または方式の操作時に、内部エラーが発生しました。ロケーター関数によって理由コード *reason-code* が戻されました。

ユーザーの処置: 「IBM DB2 アプリケーション開発ガイド」を参照して、LOB ロケーターから戻された *reason-code* の意味を判別して、問題を訂正してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3021

sqlstate: 38SUI

GSE3022N 表記が長過ぎます (*append-length* 対 *written-length* バイト)。

説明: Geographic Markup Language (GML) での形状の表記、既知のテキスト (WKT)、既知のバイナリー (WKB)、または形状表記が長過ぎます。 *append-length* バイトから、 *written-length* バイトだけしかエンコードに追加できません。形状の表記を作成できません。

ユーザーの処置: 形状に重要でない点を省略して、形状を単純化してください。この手順には `ST_Generalize` 関数を使用できます。または、形状をより小さい形状にブレークダウンしてください。

msgcode: -3022

sqlstate: 38SUJ

GSE3023N 表記が短過ぎます (*length* バイト)。

説明: 既知のバイナリー (WKB) 表記または形状表記での形状の表記が *length* バイトの長さしかありません。形状表記に最低でも 4 バイト、空の形状の既知のバイナリー表記にちょうど 5 バイト、空でない形状の既知のバイナリー表記に最低でも 9 バイト必要です。バイナリー表記は、すべての形状点を含むのに十分な長さでなければなりません。

ユーザーの処置: 関数またはメソッドに、有効な既知のバイナリー表記または形状表記を提供してください。

msgcode: -3023

sqlstate: 38SUK

GSE3024N 内部形状が短過ぎます。

説明: 形状の内部表記が短過ぎます。これ以上、処理できませんでした。

このエラーは、形状の内部表記が破壊されている場合、または形状がサポートされているコンストラクター関数またはメソッドのいずれかで構成されていない場合に起きます。

ユーザーの処置: サポートされているコンストラクター関数またはメソッドを使用して、形状を再構成してください。

msgcode: -3024

sqlstate: 38SUL

GSE3025N 形状が不整合です。

説明: 形状値が不整合で、これ以上処理できません。

ユーザーの処置: 有効なバイナリーまたはテキスト表記で、形状を再作成してください。

msgcode: -3025

sqlstate: 38SUM

GSE3026N 点の数が不整合です (*indicated-number* 対 *data-number*)。

説明: 形状の内部パラメーターは、形状データに *indicated-number* 点が含まれていることを示しています。しかし、実際の形状データには *data-number* 点が含まれています。この不整合により、形状は、処理においてこれ以上使用されません。

このエラーは、形状の内部表記が破壊されている場合、または形状がサポートされているコンストラクター関数またはメソッドのいずれかで構成されていない場合に起きます。

ユーザーの処置: `Spatial Extender` によってサポートされている関数またはメソッドを使用して、形状を再作成してください。

msgcode: -3026

sqlstate: 38SUN

GSE3027N 点が空です。

説明: これは、X 座標、Y 座標、Z 座標、または空の点に対する目盛りの指定において無効です。

点がコンストラクター関数 `ST_Point` によって構成されている場合、点の X および Y 座標は、両方とも NULL でなければなりません。さらに、点が NULL 値でない限り、Z 座標または目盛りを指定してはなりません。

空の点の変更に mutator `ST_X`、`ST_Y`、`ST_Z`、または `ST_M` が使用される場合には、点の X および Y 座標は両方とも NULL でなければなりません。NULL で無い限り、Z 座標または目盛りを指定してはなりません。

ユーザーの処置: mutator `ST_X`、`ST_Y`、`ST_Z`、または `ST_M` を使用して、空でない点を変更するか、または、NULL でない値の X および Y 座標の両方を指定して点を構成してください。

msgcode: -3027

sqlstate: 38SUO

GSE3028N 座標が不整合です。

説明: 新しい点を構成している場合には、X および Y 座標を両方とも指定しなければなりません。両方の座標とも NULL であるか、または NULL でないかのいずれかでなければなりません。

両方の座標値が NULL の場合には、結果点は空になり

ます。その場合、結果点が NULL でない限り、Z 座標または目盛りを指定しないでください。

ユーザーの処置: X および Y の両方の座標に NULL を指定するか、または、両方の座標に NULL でない値を指定してください。

msgcode: -3028

sqlstate: 38SUP

GSE3029N バイト・オーダー *byte-order* が無効です。

説明: 形状のバイナリー表記におけるバイト・オーダーは、0 または 1 のいずれかでなければなりません、*byte-order* になっています。

既知のバイナリー表記では、0 のバイト・オーダーはビッグ・エンディアン・フォーマットを、1 のバイト・オーダーはリトル・エンディアン・フォーマットを示します。

ユーザーの処置: バイナリー表記におけるバイト・オーダーが 0 または 1 のいずれかになるように訂正してください。

msgcode: -3029

sqlstate: 38SUQ

GSE3030N 形状での点数 *num-points* が無効です。

説明: 形状値に無効な点数 *num-points* があります。この値は、0 (ゼロ) 以上でなければなりません。

形状が空でない場合には、以下の条件を満たしていなければなりません。

点 形状には、点が 1 つだけなければなりません。

行ストリング

形状には、形状を定義する点が 2 つ以上なければなりません。

ポリゴン

形状には、形状を定義する点が 3 つ以上なければなりません。

ユーザーの処置: Spatial Extender によってサポートされている関数またはメソッドを使用して、形状を構成してください。

msgcode: -3030

sqlstate: 38SUR

GSE3031N 形状のエクステント (*min-coord* 対 *max-coord*) が無効です。

説明: いずれかのディメンションにおける形状のエクステントが無効です。形状のすべてのディメンションにおいて、最小座標 *min-coord* は、最大座標 *max-coord* 以下でなければなりません。

ユーザーの処置: Spatial Extender によってサポートされている関数またはメソッドを使用して、形状を構成してください。

msgcode: -3031

sqlstate: 38SUS

GSE3032N 集約が失敗しました。

説明: 地理情報集約の計算で、内部 ID 間のミスマッチが検出されました。

集約関数は、以下のいずれかの状態において使用される場合、サポートされません。

- パーティション環境。
- 地理情報集約が含まれている照会で A GROUP BY 文節が使用されている場合。
- DB2 集約関数 MAX 以外の関数を使用されている場合。
- 集約関数が正しいコンテキストで使用されていない場合。

ユーザーの処置: Spatial Extender によってサポートされている方法で、集約関数を使用するようにしてください。

msgcode: -3032

sqlstate: 38SUT

GSE3033N バイナリー・データが無効です (タイプ ID *type-id1*、*type-id2*)。

説明: この空間処理関数または方式に入力として渡されるバイナリー表記は、データ・タイプ ID が *type-id2* の形状を表すものでなければなりません。しかし、実際に関数または方式に渡された表記は、データ・タイプ ID が *type-id1* の形状を表しています。形状を構成できませんでした。

ユーザーの処置: タイプ *type-id2* の形状を構成する正しい関数または方式を呼び出すか、または、バイナリー表記が *type-id1* の形状を表すように訂正してください。

msgcode: -3033

sqlstate: 38SUU

GSE3034N テキスト・データが無効です (タイプ ID *type-id1*、*type-id2*)。

説明: この空間処理関数または方式に入力として渡されるテキスト表記は、データ・タイプ ID が *type-id2* の形状を表すものでなければなりません。しかし、実際に関数に渡された表記は、データ・タイプ ID が *type-id1* の形状を表しています。形状を構成できませんでした。

ユーザーの処置: タイプ *type-id1* の形状を構成する正しい関数を呼び出すか、または、テキスト表記が *type-id2* の形状を表すように訂正してください。

msgcode: -3034

sqlstate: 38SUW

GSE3035W 曲線が変更されませんでした。

説明: 曲線に追加するために指定された点が空であったため、曲線は変更されませんでした。

ユーザーの処置: 空でない点を曲線に追加してください。

msgcode: +3035

sqlstate: 01HS3

GSE3036W 形状が正確ではありません。

説明: 地理情報参照システムで、結果の形状を正確に表せませんでした。スケール因数のいずれかが小さすぎて、結果の形状を定義する各点を表すのに十分な精度ではありません。

たとえば、X 座標にスケール因数 1、Y 座標にスケール因数 1 が組み込まれている地理情報参照システムにおいて 'linestring m (10 10 8, 10 11 12)' のように表される既知のテキスト表記の行ストリングがあるとします。関数 `ST_MeasureBetween` がその行ストリングに適用され、目盛りの上限および下限がそれぞれ 9 および 10 であるすると、既知のテキスト表記で表される結果の行ストリングは 'linestring m (10 10.25 9, 10 10.50 10)' となるはずですが、Y 座標のスケール因数が 1 なので、小数部を表記できません。座標 10.25 と 10.50 は、丸めを行わないと表すことができないため、誤った結果になります。これらの座標は、形状から除去されます。

ユーザーの処置: より大きいスケール因数の地理情報参照システムで形状を表してください。または、結果の形状が変わるように別のパラメーターを選択してください。

msgcode: +3036

sqlstate: 01HS4

GSE3037N 無効な GML です。 *position* の位置で *string* ではなく *char* を予想しました。

説明: 形状のジオグラフィー・マークアップ言語で、文字 *char* が予想されましたが、代わりにテキスト *string* が、位置 *position* で見つかりました。GML 表記は無効です。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: GML 表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3037

sqlstate: 38SUW

GSE3038N 無効な GML です。 *position* の位置で *given-tag* ではなく *expected-tag* を予想しました。

説明: タグ *given-tag* が、位置 *position* の形状のジオグラフィー・マークアップ言語で見つかりましたが、*expected-tag* が予想されていました。GML 表記は無効です。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: GML 表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3038

sqlstate: 38SUX

GSE3039N 無効な GML です。 *position* の位置で *text* ではなく番号を予想しました。

説明: 予期しないテキスト *text* が、位置 *position* にある形状のジオグラフィー・マークアップ言語で見つかりました。代わりに座標を示す数値が使用されました。GML 表記は無効です。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: GML 表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3039

sqlstate: 38SUW

GSE3040N 無効な GML タイプ *type*。

説明: 予期しないタイプ *type* が、形状のジオグラフィー・マークアップ言語で見つかりました。GML は、点、行ストリング、ポリゴン、マルチポイント、複数行ストリング、および複数ポリゴンをサポートします。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: GML 表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3040

sqlstate: 38SUZ

GSE3041N GML 点が 1 セット以上の座標を持っています。

説明: ジオグラフィック・マークアップ言語を使用して表記される点は、座標の設定を 1 つしか持つことができません。指定された点には 1 セット以上の座標がありました。GML 表記は無効です。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: GML 表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3041

sqlstate: 38SV0

GSE3042N オフセット *offset* にあるロケータークラ、*number-bytes* バイトを読み取ることができませんでした。データの合計長は、*length* です。

説明: オフセット *offset* で始まるロケーターから、*number-bytes* バイトを読み取ろうとしました。これは、ロケーターで参照されるデータの *length* の合計長を超過しています。データは切り捨てられる可能性があります。

形状のバイナリー表記に関して、バイナリー表記が無効なバイナリー・エンコードを示す場合があります。エンコードされた形状にはヘッダーが示すより小さい点があります。

ユーザーの処置: 形状の表記を確認して訂正してください。バイナリー表記またはテキスト表記が、Spatial Extender 機能に渡されるまでは切り捨てられていないことを確認してください。

msgcode: -3042

sqlstate: 38SV1

GSE3043N 無効なパーツ数 *number-parts*。

説明: 形状のバイナリー表記で示されるパーツ数 *number-parts* が無効です。パーツ数はゼロより大きく、エンコードで提供された実際のパーツ数と一致しなければなりません。

ユーザーの処置: 正しいパーツの数を指定するか、または、その形状のすべてのパーツを提供してください。

msgcode: -3043

sqlstate: 38SV2

GSE3044N 無効なリング数 *number-rings*。

説明: ポリゴンまたは複数ポリゴンのバイナリー表記で示されるパーツ数 *number-rings* が無効です。リング数はゼロより大きく、エンコーディングで提供された実際のパーツ数と一致しなければなりません。

ユーザーの処置: 正しいリングの数を指定するか、または、その形状のすべてのリングを提供してください。

msgcode: -3044

sqlstate: 38SV3

GSE3045N パーツ・オフセット *part-offset* が形状で無効です。

説明: 形状表記のパーツに対して、無効なオフセット *part-offset* が検出されました。パーツ・オフセットは、0 (ゼロ) 以上であり、各パーツ・オフセットは先行するオフセットより大きくなければなりません。形状表記は無効です。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: 形状表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3045

sqlstate: 38SV4

GSE3046N タイプ ID *type-id* が形状で無効です。

説明: 形状表記には、無効なタイプ ID *type-id* が含まれています。形状データが破壊されている可能性があります。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: 形状の表記を確認して訂正してください。

msgcode: -3046

sqlstate: 38SV5

GSE3047N タイプ *type* に対する形状エンコードの長さ *shape-length* が無効です。予想されるのは *expected-length* バイトのみです。

説明: 形状エンコードには、*shape-length* バイトが含まれます。これは長すぎます。指定されたタイプ *type* の形状をエンコードするには、*expected-length* バイトのみが必要です。形状データが破壊されている可能性があります。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: 形状の表記を確認して訂正してください。

msgcode: -3047

sqlstate: 38SV6

GSE3048N 無効な WKT フォーマットです。 *string* ではなく *char* を予想しました。

説明: 既知の形状のテキスト表記で、文字 *char* が予想されましたが、代わりにテキスト *string* が検出されました。既知のテキスト表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: 既知のテキスト表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3048

sqlstate: 38SV7

GSE3049N 無効な WKT フォーマットです。 *text* ではなく番号を予想しました。

説明: 予期しないテキスト *text* が、形状の既知のテキストで見つかりました。代わりに座標を示す数値が使用されました。既知のテキスト表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: 既知のテキスト表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3049

sqlstate: 38SV8

GSE3050N 予期しない括弧が WKT フォーマットの *text* で検出されました。

説明: 予期しない左括弧または右括弧が、形状の既知のテキスト表記の *text* で検出されました。既知のテキスト表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: 既知のテキスト表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3050

sqlstate: 38SV9

GSE3051N 括弧が WKT フォーマットで一致しません。 *parenthesis* が予想されました。

説明: 既知のテキスト表記の終わりに予期せずに達しました。括弧 *parenthesis* が予想されました。既知のテキスト表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: 既知のテキスト表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3051

sqlstate: 38SVA

GSE3052N WKT で不明のタイプ *type* です。

説明: 形状の既知のテキスト表記には、 *type* の不明タイプ名が含まれています。既知のテキスト表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: 既知のテキスト表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3052

sqlstate: 38SVB

GSE3053N タイプ ID *type-id* が WKB で無効です。

説明: 形状の既知のバイナリー表記には、無効なタイプ ID *type-id* が含まれています。データが破壊されている可能性があります。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

形状の集合 (マルチポイント、複数行ストリング、または複数ポリゴン) にある分離パーツのタイプ ID には、 Z と M 座標について形状集合自体と同じ標識がある必要があります。

ユーザーの処置: 既知の形状のバイナリー表記を確認して訂正してください。

msgcode: -3053

sqlstate: 38SVC

GSE3300N グリッド・サイズ *grid-size-number* が無効です。

説明: 位置 *grid-size-number* によって識別されるグリッド・サイズが無効です。 CREATE INDEX ステートメントでグリッド索引が作成された時に、以下のいずれかの無効な指定が行われました。

- 1 番目、2 番目、または 3 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズとして、0 (ゼロ) より小さい数が指定されました。
- 最初のグリッド・レベルのグリッド・サイズとして、0 (ゼロ) が指定されました。
- 2 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズが、1 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズより小さくなっていますが、0 (ゼロ) ではありません。
- 3 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズが、2 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズより小さくなっていますが、0 (ゼロ) ではありません。

- 3 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズは 0 (ゼロ) より大きい値ですが、2 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズは 0 (ゼロ) です。

関数 `ST_GetIndexParms` を使用すると、索引の作成時に指定されたパラメーターに使用された値を検索することができます。

ユーザーの処置: グリッド索引をドロップして、有効なグリッド・サイズだけを使用して新しいグリッド索引を作成してください。

msgcode: -3300

sqlstate: 38SI0

GSE3301N Z-オーダー・パラメーター *parameter-number* が無効です。

説明: Z-オーダー・インデックスの位置 *parameter-number* によって示されているパラメーターに、無効な値が含まれています。形状を追加する索引を作成する際に使用された `CREATE INDEX` ステートメントで、以下のいずれかの無効な指定が行われました。

- パラメーターに `NULL` 値が指定されました。
- スケール因数に負の数が指定されました (この規則は、パラメーター番号 2 と 4 だけに適用されません)。

関数 `ST_GetIndexParms` を使用すると、索引の作成時に指定されたパラメーターに使用された値を検索することができます。

ユーザーの処置: 地理情報 Z-オーダー・インデックスをドロップして、有効なパラメーターだけを使用して新しい索引を作成してください。

msgcode: -3301

sqlstate: 38SI1

GSE3302N 点を索引化できません。

説明: Z-オーダー・インデックスを使用して索引化しようとしている形状が点ではありません。Z-オーダー・インデックスは点だけしかサポートしていないので、索引項目を生成できません。

ユーザーの処置: Z-オーダー・インデックスが定義されている列に、点ではない形状を挿入しないでください。索引をドロップするか、形状を挿入しないでください。

msgcode: -3302

sqlstate: 38SI2

GSE3303N 4 次元ツリー・パラメーター *parameter-number* が無効です。

説明: 4 次元ツリー構造インデックスの作成時に無効なパラメーターが指定されました。パラメーターは、位置 *grid-size-number* によって示されています。

以下のいずれかの無効な指定が行われました。

- パラメーターに `NULL` 値が指定されました。
- スケール因数に負の数が指定されました (この規則は、パラメーター番号 3 と 5 だけに適用されません)。
- 最初のパラメーターに 1 より小さい値が指定されました。

関数 `ST_GetIndexParms` を使用すると、索引の作成時に指定されたパラメーターに使用された値を検索することができます。

ユーザーの処置: 地理情報 4 次元ツリー構造インデックスをドロップして、有効なパラメーターだけを使用して新しい索引を作成してください。

msgcode: -3303

sqlstate: 38SI3

GSE3400C 不明なエラー *error-code*。

説明: 形状の処理時に、コード *error-code* の内部エラーが検出されました。

ユーザーの処置: エラーをメモし、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3400

sqlstate: 38SS0

GSE3402C メモリー不足です。

説明: 呼び出した空間処理関数またはメソッドに十分なメモリーが使用できませんでした。

ユーザーの処置: 関数またはメソッドを実行する DB2 処理で利用できるメモリーの量を増やしてください。

msgcode: -3402

sqlstate: 38SS2

GSE3403N 形状タイプが無効です。

説明: 呼び出した関数またはメソッドに、無効なタイプの形状が渡されました。

ユーザーの処置: 有効な形状を指定してください。詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic

Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3403

sqlstate: 38SS3

GSE3405N パーツの指定が多過ぎます。

説明: 形状のバイナリーまたはテキスト表記で示されたパーツの数が、実際に提供されているパーツの数より多くなっています。示されているパーツの数が多過ぎるか、または、一部のパーツしか提供されていません。

ユーザーの処置: 正しいパーツの数を指定するか、または、その形状のすべてのパーツを提供してください。

msgcode: -3405

sqlstate: 38SS5

GSE3406N 形状タイプが誤っています。

説明: 呼び出した関数または方式に、間違ったタイプの形状が渡されました。たとえば、入力としてポリゴンしか必要としない関数または方式に、行ストリングが渡された場合などが考えられます。

ユーザーの処置: 関数または方式が処理できるタイプの形状を渡すか、あるいは、渡したいタイプの形状が受け入れられる関数または方式を使用してください。

msgcode: -3406

sqlstate: 38SS6

GSE3407N テキストが長過ぎます。

説明: 形状に含まれている詳細が多すぎて、既知のテキスト表記に変換できません。既知のテキスト表記が、許容される最大長 (2 ギガバイト) を超えています。

ユーザーの処置: 形状を単純化してください。たとえば、ST_Generalize 関数を使用するか、形状を既知のバイナリー表記に変換してください。

msgcode: -3407

sqlstate: 38SS7

GSE3408N 無効なパラメーター値。

説明: 無効なパラメーターが検出されました。

ユーザーの処置: 関数の正しい構文について IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照して、操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3408

sqlstate: 38SS8

GSE3409N 無効な形状が生成されています。

説明: 関数または方式に指定されたパラメーターが無効な形状 (たとえば、無効な形状表記など) を生成しました。無効な形状は、形状のプロパティに違反するものです。

ユーザーの処置: 有効な表記で形状を再構成してください。

msgcode: -3409

sqlstate: 38SS9

GSE3410N 形状に互換性がありません。

説明: 関数または方式は、特定のタイプの 2 つの形状を受け取るはずでしたが、これらを受け取りませんでした。たとえば、ST_AddPoint 関数では、表記と点の 2 つの形状が必要です。

ユーザーの処置: 関数または方式が有効な入力として受け入れる形状を指定してください。この関数に有効な形状タイプを判別するには、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3410

sqlstate: 38SSA

GSE3411N 形状が無効です。

説明: 形状の 1 つまたは複数のプロパティが形状の健全性に違反しているため、関数または方式は渡された形状を処理できませんでした。

ユーザーの処置: ST_IsValid 関数を使用して、形状の妥当性を検査してください。形状が無効である場合には、正しい表記で形状を再構成してください。

msgcode: -3411

sqlstate: 38SSB

GSE3412N 点が多過ぎます。

説明: 形状の構造が 1 メガバイトのストレージ制限を超えています。形状に点が多過ぎます。

ユーザーの処置: 点を少なくして形状を再構成してください。または、可能であれば、いくつかの点を除去してください。パフォーマンスおよびストレージを考慮して、形状を表すのに必要な点だけが含まれるようにしてください。

msgcode: -3412

sqlstate: 38SSC

GSE3413N 形状が小さ過ぎます。

説明: ST_Difference、ST_Intersection、ST_SymDifference、または ST_Union 関数から戻された形状が小さ過ぎて、現行の地理情報参照システムで正確に表すことができません。

たとえば、内部計算によって非常に小さいポリゴンが構成されるのに、地理情報参照システムのスケール因数が、形状をこの地理情報参照システムで表すと行ストリングに縮小表示されてしまうほど低い値である場合などが考えられます。このような場合、ポリゴンとしてのプロパティが失われてしまいます。

ユーザーの処置: 解像度がより高い計算ができる地理情報参照システムを使用してください。ST_Transform 関数を使用すると、ある地理情報参照システムから別の地理情報参照システムに形状を変換することができます。

msgcode: -3413

sqlstate: 38SSD

GSE3414N バッファが境界外です。

説明: ST_Buffer 関数は、地理情報参照システムが適用する座標の範囲外である、指定された形状の周囲にバッファを作成しました。

Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照して、それぞれのディメンションの最大絶対値および最小絶対値を判別してください。計算されたバッファが、これらの値を超えてはなりません。

ユーザーの処置: バッファ計算に使用する距離を小さくするか、または、計算が行われる地理情報参照システムを変更してください。ST_Transform 関数を使用すると、ある地理情報参照システムから別の地理情報参照システムに形状を変換することができます。

msgcode: -3414

sqlstate: 38SSE

GSE3415N 無効なスケール因数。

説明: 4 つのディメンション (X、Y、Z、および M) のいずれかのスケール因数が 1 以上です。

ユーザーの処置: 正しく定義された地理情報参照システムを使用して、形状を表してください。

msgcode: -3415

sqlstate: 38SSF

GSE3416N 座標が境界外です。

説明: 少なくとも 1 つのディメンションに関して、座標がシステムの範囲値内の有効な最大絶対値または最小絶対値を超えているため、地理情報参照システムで座標を表すことができません。

Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照して、それぞれのディメンションの最大絶対値および最小絶対値を判別してください。

ユーザーの処置: 座標が正しいかどうか判別してください。正しい場合には、座標が、使用している地理情報参照システムの範囲内に収まるかどうか判別してください。この地理情報参照システムについては、DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS カタログ・ビューを参照してください。

msgcode: -3416

sqlstate: 38SSG

GSE3417N 座標定義が無効です。

説明: 形状の地理情報参照システムに基づいている座標システムの定義のテキスト表記に 1 つまたは複数のエラーがあります。表記を有効な展開に変換できません。

ユーザーの処置: 地理情報参照システムの座標システム定義を検査してください。または、有効な座標システムに関連付けられている地理情報参照システムで形状を構成してください。ST_EqualCoordsys 関数を使用すると、座標システムと定義を比較することによって座標システム定義を検査することができます。

msgcode: -3417

sqlstate: 38SSH

GSE3418N 展開エラー。

説明: 形状を別の地理情報参照システムに展開しようとして、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 形状が射影の正当なドメイン内にあるか、確認してください。

msgcode: -3418

sqlstate: 38SSI

GSE3419N ポリゴン・リングがオーバーラップしています。

説明: ポリゴンのリングがオーバーラップしています。定義により、ポリゴンの内部および外部のリングがオーバーラップしてはなりません。これらは、正接でのみ

交差することができます。つまり、リングは互いに接することしかできず、交差することはできません。

ユーザーの処置: オーバーラップするリングが作成されないポリゴンの座標を指定してください。形状の地理情報参照システムのスケール因数が精度に影響を与えることに注意してください。

msgcode: -3419

sqlstate: 38SSJ

GSE3420N 点が少な過ぎます。

説明: 以下のいずれかが、エラーの原因と思われます。

- 行ストリングは、少なくとも 2 つの点から構成され、ポリゴンは少なくとも 4 つの点から構成されている必要があります。
- 指定した点で、形状を構成できません。

構成しようとしている形状が空である場合、これらの規則は適用されないことに注意してください。

ユーザーの処置: 有効な点で形状を再構成してください。

msgcode: -3420

sqlstate: 38SSK

GSE3421N ポリゴンが閉じていません。

説明: ポリゴンを定義する内部および外部のリングは、閉じていなければなりません。X および Y ディメンションで開始点と終了点が同じであれば、リングは閉じています。ポリゴンに Z 座標がある場合には、開始点と終了点は Z 座標とも同じでなければなりません。この規則は目盛りには適用されないことに注意してください。目盛りでは、開始点と終了点が異なってもかまいません。

ユーザーの処置: X および Y ディメンションの開始点と終了点が同じ点であるポリゴンには、内部リングおよび外部リングを指定してください。ポリゴンに Z 座標がある場合には、Z 座標点の開始点と終了点も同じでなければなりません。ポリゴンに目盛りがある場合には、開始点と終了点が異なってもかまいません。

msgcode: -3421

sqlstate: 38SSL

GSE3422N 外部リングが無効です。

説明: ポリゴンの外部リングが無効です。

ポリゴンの外部リングは、ポリゴンのすべての内部リングを囲んでいなければなりません。すべての内部リングは、外部リングによって定義されているエリアの完全

に内側でなければなりません。また、外部リングと交差してはなりません。

ユーザーの処置: 形状を表す際に、内部リングが、外部リングによって囲まれているエリア内に完全に入るような、内部リングおよび外部リングの有効なセットからなる形状を指定してください。

形状に複数のポリゴンがある場合には、マルチポリゴンを使用してください。

msgcode: -3422

sqlstate: 38SSM

GSE3423N ポリゴンにエリアがありません。

説明: 指定されたポリゴンには、X および Y ディメンションが空のセットではないエリアをカバーする内部がありません。

形状の座標が、X および Y 座標により定義される 2 ディメンション・スペースで 2 ディメンションにまたがっている場合のみ、形状はポリゴンとなります。

ユーザーの処置: 空でないエリアを囲むポリゴンを指定してください。ポリゴンが空の場合は、空のポリゴンを構成してください。

msgcode: -3423

sqlstate: 38SSN

GSE3424N 外部リングがオーバーラップしています。

説明: マルチポリゴン内の個別のポリゴンの外部リングが、オーバーラップしています。マルチポリゴンの個別のポリゴンはオーバーラップしてはなりません。また、境界は、限られた数の点でしか接してはなりません。つまり、ポリゴンは行セグメントを共有してはなりません。

形状を表すのに使用する地理情報参照システムのスケール因数は、座標に適用する精度に影響を与えます。地理情報参照システムで形状が表記に変換される際に行われる丸め操作によって、精度に障害が生じ、その後、このエラーが発生します。

ユーザーの処置: オーバーラップするリングが作成されないポリゴンの座標を指定してください。

地理情報参照システムのスケール因数が精度に影響を与えることに注意してください。

形状が表される地理情報参照システムに使用されるスケール因数については、Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照してください。

msgcode: -3424

sqlstate: 38SSO

GSE3425N ポリゴン自体が交差しています。

説明: ポリゴンのリング自体は交差できません。ポリゴンの各リングの開始点および終了点は、リングを横切る際に 2 回接しなければなりません。その他すべての点は、1 回しか接してはなりません。このことは、ポリゴンのリングを定義する行セグメントについてもあてはまります。

形状を表すのに使用する地理情報参照システムのスケール因数は、座標に適用する精度に影響を与えます。地理情報参照システムで形状が表記に変換される際に行われる丸め操作によって、精度に障害が生じ、その後、このエラーが発生します。

ユーザーの処置: リングがそれ自体に交差しない有効なポリゴンを構成してください。

形状が表される地理情報参照システムに使用されるスケール因数については、Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照してください。

msgcode: -3425

sqlstate: 38SSP

GSE3426N 無効なパーツ数。

説明: 形状のバイナリーまたはテキスト表記で示されたパーツの数が、実際に提供されているパーツの数と同じではありません。関数または方式に指定されたパーツの数が、少な過ぎるか、または多過ぎます。

ユーザーの処置: 正しいパーツの数を指定するか、または、その形状のすべてのパーツを提供してください。

msgcode: -3426

sqlstate: 38SSQ

GSE3427N SRS に互換性がありません。

説明: 2 つの地理情報参照システムに互換性がありません。この 2 つのシステムをトランスフォームまたは比較することができません。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: 2 つの互換性のある地理情報参照システムを指定してください。

msgcode: -3427

sqlstate: 38SSR

GSE3428N BLOB が小さ過ぎます。

説明: 形状の指定されたバイナリー表記のバイト数が、小さ過ぎます。

ユーザーの処置: 形状の有効なバイナリー表記を指定してください。

msgcode: -3428

sqlstate: 38SSS

GSE3429N 形状タイプが無効です。

説明: 無効な内部形状タイプが検出されました。形状は無効で、これ以上処理されません。

ユーザーの処置: 有効なバイナリーまたはテキスト表記で、形状を再構成してください。

msgcode: -3429

sqlstate: 38SST

GSE3430N 無効なバイト・オーダー。

説明: 形状のバイナリー表記におけるバイト・オーダーに無効な値があります。バイト・オーダーは 0 (ゼロ) または 1 でなければなりません。

既知のバイナリー表記では、0 のバイト・オーダーはビッグ・エンディアンを、1 のバイト・オーダーはリトル・エンディアンを示します。

ユーザーの処置: 形状のバイナリー表記に有効なバイト・オーダーを指定してください。

msgcode: -3430

sqlstate: 38SSU

GSE3431N 空の形状。

説明: 空の形状が ST_AsBinary 関数に入力として渡されましたが、この関数では空の形状は使用できません。

ユーザーの処置: サブミットした SQL ステートメントを編集して、空でない形状だけが ST_AsBinary 関数に渡されるようにしてください。たとえば、ST_IsEmpty 関数を使用して、WHERE 文節で、空の形状を除外することができます。

msgcode: -3431

sqlstate: 38SSV

GSE3432N 終了点が無効です。

説明: 指定された終了点は、曲線に追加するよう指定されましたが、無効です。

ユーザーの処置: 追加する有効な点を指定してください。

msgcode: -3432

sqlstate: 38SSW

GSE3433N 点が見つかりません。

説明: 指定された点は、変更されるか除去されるよう指定されましたが、曲線に存在しません。

ユーザーの処置: 曲線に存在する点を指定してください。

msgcode: -3433

sqlstate: 38SSX

GSE3500N インスタンス・パスが見つかりません。

説明: ジオコーダーをインプリメントする関数が、DB2 インスタンス・パスを検出できませんでした。

ユーザーの処置: DB2 および IBM DB2 Spatial Extender が正しくインストールされているか検査してください。DB2INSTANCE 環境変数が、関数を実行する処理を実行しているユーザーに対して設定されているか調べてください。

問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3500

sqlstate: 38SG0

GSE3501N SRS ID が変わっています (*new-srs-id*, *previous-srs-id*)。

説明: ジオコーダーは、アドレスをジオコードし、単一の SQL ステートメントで結果の点をすべて同じ地理情報参照システムに作成するように最適化されます。しかし、ジオコーダーは、同じ SQL ステートメントで、違う地理情報参照システムを検出しました。新しい地理情報参照システムは、*new-srs-id* で示されています。前の行に使用されていた地理情報参照システムは、*previous-srs-id* で示されていました。

ユーザーの処置: ジオコーダーが実行されている列にデフォルト・パラメーターおよび上書きするパラメーターを指定してください。これは、複数のアドレスを一度にジオコードするために使用される SQL ステートメント内で数値地理情報参照システム ID を定数のままにして行ってください。

msgcode: -3501

sqlstate: 38SG1

GSE3502N パスが長過ぎます。

説明: ロケーター・ファイル・パラメーターまたは基本マップ・パラメーターに指定されたパス名が 256 バイトを超えており、長過ぎます。

ユーザーの処置: ロケーター・ファイル・パラメーターまたは基本マップ・パラメーターに、より短いパス名を使用してください。UNIX システムでは、シンボリック・リンクを使用して、パス名を短くすることができます。

msgcode: -3502

sqlstate: 38SG2

GSE3503N ロケーター・ファイルの行 *line-number* が無効です。

説明: ロケーター・ファイルの行 *line-number* に無効な項目が含まれています。ファイル内の各項目は、"property name = property value" のフォームでなければなりません。

ユーザーの処置: ロケーター・ファイルを訂正してください。

msgcode: -3503

sqlstate: 38SG3

GSE3504N ロケーター・ファイルの行 *line-number* で引用符の不一致がありました。

説明: ロケーター・ファイルの行 *line-number* に、引用符文字の平衡が取れていない項目が含まれています。引用される場合は、プロパティ名にもプロパティ値と同様に、開始引用符文字および終了引用符文字がなければなりません。

ユーザーの処置: ロケーター・ファイルを訂正してください。

msgcode: -3504

sqlstate: 38SG4

GSE3505N 理由コードは *reason-code* です。プロパティ障害。

説明: ロケーター・ファイル (.loc) に定義されているプロパティの処理中に障害が発生しました。

理由コードの意味は、以下のとおりです。

-502 プロパティが他のプロパティと矛盾しています。

-503 要求されたプロパティが見つかりませんでした。

- 504 プロパティの値が無効です。
- 505 予期しないプロパティが検出されました。
- 506 スカラー値が予測されるプロパティに値の配列が指定されました。
- 507 プロパティの値が予期されたデータ・タイプではありません。
- 513 プロパティの値が長過ぎます。
- 533 プロパティの値に指定された式が無効です。

ユーザーの処置: 理由コードによって示されている問題を訂正してから、操作を再試行してください。

msgcode: -3505

sqlstate: 38SG5

GSE3506N プロパティのコピーが失敗しました。

説明: 内部バッファーへのプロパティのコピーが失敗しました。使用可能なメモリーが十分ではありません。

ユーザーの処置: ロケーター・ファイルから内部バッファーへプロパティをコピーするのに十分な使用可能メモリーをジオコーダー用に確保してください。

msgcode: -3506

sqlstate: 38SG6

GSE3507N プロパティが多過ぎます。

説明: ロケーター・ファイルに含まれるプロパティが多過ぎます。ロケーター・ファイルで指定できるのは、最大で 2048 プロパティです。

ユーザーの処置: ロケーター・ファイルに指定されているプロパティ数を減らしてください。

msgcode: -3507

sqlstate: 38SG7

GSE3508N 点が作成されませんでした。

説明: ジオコーダーは、ST_Point 形状ではない形状を作成しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

msgcode: -3508

sqlstate: 38SG8

GSE3509N 理由コードは *reason-code* です。ジオコーダーの初期化に失敗しました。

説明: ジオコーダーの初期化に失敗しました。

理由コードの意味は、以下のとおりです。

- 522 ジオコーダーの初期化中に一般的な障害が発生しました。
- 527 突き合わせキーの初期化に失敗しました。
- 529 アドレス正規化の初期化に失敗しました。

ユーザーの処置: Spatial Extender のインストールを調べてください。

msgcode: -3509

sqlstate: 38SG9

GSE3510N アドレスが正規化されませんでした。

説明: ジオコーダーは、アドレスを正規化できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

msgcode: -3510

sqlstate: 38SGA

GSE3511N 理由コードは *reason-code* です。ジオコーダー・ファイル操作が失敗しました。

説明: ファイル操作中に、理由コード *reason-code* の内部エラーが発生しました。

ファイル操作が失敗する理由は、理由コードによって、次のようになります。

- 543 一致規則ファイル (.mat) をオープンできませんでした。
- 544 一致規則ファイル (.mat) が無効です。
- 547 参照データ・ファイル (.edg) をオープンできませんでした。
- 548 参照データ・ファイル (.edg) の表が無いか、またはアクセスできません。
- 549 要求された列が参照データ・ファイル (.edg) にありませんでした。
- 550 索引ファイルにアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: 理由コードによって示されている問題を訂正してから、操作を再試行してください。

msgcode: -3511

sqlstate: 38SGB

GSE3512N 理由コードは *reason-code* です。ジオコーダーが失敗しました。

説明: ジオコーダーが理由コード *reason-code* の内部エラーで失敗しました。

ユーザーの処置: 内部エラーをメモし、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3512

sqlstate: 38SGC

GSE3600N 索引が指定されていません。

説明: 有効な索引が指定されませんでした。索引スキーマ・パラメーター、索引名パラメーター、またはその両方が NULL です。索引パラメーター値を入力できません。

ユーザーの処置: パラメーター情報を検索するのに有効な地理情報索引を指定してください。

msgcode: -3600

sqlstate: 38SQ0

GSE3601N 無効な地理情報索引名
schema-name.index-name.

説明: パラメーター情報を検索したい索引に指定した名前が存在しないか、または地理情報索引を識別しません。この名前は *schema-name.index-name* です。

ユーザーの処置: 既存の地理情報索引を指定して、パラメーター情報を検索してください。

msgcode: -3601

sqlstate: 38SQ1

GSE3602N 無効なパラメーター番号 *number* が指定されました。

説明: 指定された地理情報索引では、パラメーター数 *number* は無効です。

地理情報索引のタイプによって、以下の制限が適用されます。

グリッド索引

パラメーター数は 1 から 3 までです。

Z-オーダー・インデックス

パラメーター数は 1 から 4 までです。

4 次元ツリー構造インデックス

パラメーター数は 1 から 5 までです。

ユーザーの処置: 地理情報索引に有効なパラメーター数を指定してください。地理情報索引のタイプについて

は、DB2 システム・カタログを調べてください。

msgcode: -3602

sqlstate: 38SQ2

GSE3603N 無効な列名

説明: 指定された列は、表に存在しません。表スキーマ、表名、または列名の少なくとも 1 つが NULL 値です。列の索引の索引パラメーターを獲得できません。

ユーザーの処置: 地理情報索引が定義されている既存の列を指定してください。

msgcode: -3603

sqlstate: 38SQ3

GSE3701N 距離 *distance-value* は範囲外です。有効な範囲は、*min* メートル以上、*max* メートル以下です。

説明: 呼び出した関数またはメソッドに、無効な距離が渡されました。

ユーザーの処置: 有効な距離を指定して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3701

sqlstate: 38SO9

GSE3702N 内部形状エンジンでワークスペースが不足しています。

説明: 測地ワークスペースが操作を実行するのに十分な大きさではありませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3702

sqlstate: 38SOT

GSE3703N 内部形状エンジンでヒープ・メモリーが不足しています。

説明: 使用可能なメモリーが十分ではありません。提供されているメモリーが少ないか、他のアプリケーションにメモリーが使用されていることが原因として考えられます。

ユーザーの処置: メモリー不足を解決してコマンドを再実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3703

sqlstate: 38SOU

GSE3704C 内部形状エンジンのデータが壊れているか、入力が無効の可能性があります。

説明: Spatial Extender が形状値で予期しない内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3704

sqlstate: 38SOV

GSE3706C 内部形状エンジンでエラー番号 *hipparchus-error* が生じました。

説明: Spatial Extender が予期しない内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3706

sqlstate: 38SOX

GSE3708C 内部エラー: ディスパッチ表項目が空です。

説明: Spatial Extender が形状値で予期しない内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3708

sqlstate: 38SOR

GSE3709C 内部エラー。

説明: Spatial Extender が形状値で予期しない内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問

題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3709

sqlstate: 38SOY

GSE3712N 緯度 *latitude-value* は範囲外です。

説明: 緯度の値は有効な範囲内でなければなりません。度数で測定した場合、有効な緯度の範囲は -90 度以上、90 度以下です。

グラードで測定した場合、有効な緯度の範囲は -100 グラード以上、100 グラード以下です。

ラジアンで測定した場合、有効な緯度の範囲は $-\pi/2$ ラジアン以上、 $\pi/2$ ラジアン以下です。ここで π は約 3.14159265358979323846 です。

ユーザーの処置: 有効な緯度の値を指定して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3712

sqlstate: 38SO7

GSE3713N 経度 *longitude-value* は範囲外です。

説明: 経度の値は有効な範囲内でなければなりません。度数で測定した場合、有効な経度の範囲は -180 度以上、180 度以下です。

グラードで測定した場合、有効な経度の範囲は -200 グラード以上、200 グラード以下です。

ラジアンで測定した場合、有効な経度の範囲は $-\pi$ ラジアン以上、 π ラジアン以下です。ここで π は約 3.14159265358979323846 です。

ユーザーの処置: 有効な経度の値を指定して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3713

sqlstate: 38SO8

GSE3714N 指定したリング (*n rings*) が少な過ぎます。少なくとも 1 リングが必要です。

説明: 空ではない ST_Polygon には少なくとも 1 つのリングが必要です。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つのリングを指定し、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3714

sqlstate: 38SOD

GSE3716N 指定した点 (*npoints*) が少な過ぎます。少なくとも *min* の点が必要です。

説明: 空ではない ST_LineString の点が少な過ぎます。ST_LineString 値は少なくとも 2 つの点が必要で、ST_Polygon でリングとして指定された ST_LineString 値は少なくとも 4 つの点が必要です。

ユーザーの処置: 形状値に正しい点数を指定して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3716

sqlstate: 38SOL

GSE3721N 形状集合はサポートされていません。

説明: ST_GeomCollection 値は、DB2 Geodetic Extender ではサポートされていません。

ユーザーの処置: ST_GeomCollection の代わりに、Use ST_MultiPoint、ST_MultiLineString、または ST_MultiPolygon タイプを使用して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3721

sqlstate: 38SP6

GSE3722N WKB タイプ・タグが不明であるかサポートされていません: *wkb-type*。

説明: 事前割り当てバイナリー値は、不明であるかサポートされていないタイプです。

ユーザーの処置: 既知の事前割り当てバイナリー・タイプ (ST_Point、ST_LineString、ST_Polygon、ST_MultiPoint、ST_MultiLineString、または ST_MultiPolygon) を使用して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic

Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3722

sqlstate: 38SP7

GSE3724N タイプが一致していません: 受信タイプ=*given-type*、予想タイプ=*expected-type*。

説明: 呼び出した関数またはメソッドに、無効なタイプの形状が渡されました。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3724

sqlstate: 38SON

GSE3726N *type* データ・タイプのバージョン *version-number* は、現在使用中の DB2 Geodetic Extender ではサポートされていません。

説明: サポートされていないバージョンが形状値に含まれています。

ユーザーの処置: サポートされているバージョンを使用して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3726

sqlstate: 38SOZ

GSE3733W ポリゴンが地球の半分以上を網羅していません。頂点の反時計方向を確認してください。

説明: ポリゴンが地球の半分以上を網羅しています。

ユーザーの処置: 頂点の反時計方向を確認してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: +3733

sqlstate: 01HS5

GSE3734N リング形状が無効です。一致した連続点が *point-value* で検出されました。

説明: リング形状が無効です。一致した連続点が検出されました。

ユーザーの処置: 一致した連続点を除去して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3734

sqlstate: 38SQ4

GSE3735N リング形状が無効です。一連の座標が *point-value* で交差しているか接しています。

説明: リング形状が無効です。一連の座標が交差しているか接しています。

ユーザーの処置: 交差したり接したりしないリングを指定してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3735

sqlstate: 38SQ5

GSE3736N 構成要素ポリゴン・リングで有効な領域が定義されていません。各リングの回転方向を調べてください。

説明: 構成要素ポリゴン・リングで有効な領域が定義されていません。

ユーザーの処置: 各リングの回転方向を調べてください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3736

sqlstate: 38SQ6

GSE3737N ポリゴンが無効です。領域に境界がありません。

説明: ポリゴンが無効です。領域に境界がありません。

ユーザーの処置: 境界のあるポリゴンを指定してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3737

sqlstate: 38SQ7

GSE3739N リング形状が無効です。同一線上のセグメントが *point-value* 付近で検出されました。

説明: リング形状が無効です。同一線上のセグメントが検出されました。

ユーザーの処置: 同一線上のセグメントを除去してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3739

sqlstate: 38SQ9

GSE3740N 理由コード *reason-code*。サポートされていない測地系 (緯度経度) にもとづく操作です。

説明: DB2 Geodetic Extender では、以下に示された理由コードのために該当操作がサポートされていません。

「1」 Geodetic Extender のライセンスが使用可能ではありません。

「2」 関数が、SRID がヌルの ST_Geometry 値で呼び出されました。

「3」 関数が、SRID 値が等しくない ST_Geometry 値で呼び出されました。

「4」 関数が、ヌル定義を持つ空間参照系で呼び出されました。

「5」 関数が 測地 でサポートされていません。

「6」 1 つ以上の ST_Geometry 値のタイプが 測地 でサポートされていません。

「7」 関数が、測地座標値および測地座標値でない値での実行をサポートしていません。

「8」 測地ポロノイ索引 は測地座標値でない値をサポートしていません。

「9」 空間グリッド・インデックスは測地座標値をサポートしていません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

「1」 Geodetic Extender のライセンスを使用可能にします。

「2」 すべての ST_Geometry 値に有効な SRID 属性値を指定します。

「3」 測地系 (緯度経度) にもとづく操作のため、すべての ST_Geometry 値に同じ SRID 値が入るようにします。

「4」 問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

「5」 測地範囲内の SRID を指定した ST_Geometry 値でこの関数またはメソッドを呼び出さないでください。

「6」 測地範囲内の SRID を指定したこの ST_Geometry タイプを使用しないでください。

「7」 測地範囲内または測地範囲外の SRID を指定したすべての ST_Geometry 値でこの関数を実行してください。

「8」 測地座標値でない値を含む列では空間グリッド・インデックス仕様を使用してください。

「9」 測地座標値を含む列では 測地ボロノイ索引仕様を使用してください。

問題を訂正したら、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3740

sqlstate: 38SOP

GSE3743N ボロノイ細分 Id *viid* が見つかりません。

説明: 指定したボロノイ細分 Id が定義されていません。

ユーザーの処置: 定義されたボロノイ細分 Id を使用して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3743

sqlstate: 38SOC

GSE3744N 形状値が大きすぎます。

説明: 形状値が最大値を超えてはなりません。

ユーザーの処置: 形状値の点を少なく指定して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic

Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3744

sqlstate: 38SOK

GSE3745N 空間参照系定義に、正しく定義された SPHEROID 定義がありません。

説明: この ST_Geometry 値の空間参照系定義は、地理座標システムではないか、SPHEROID 定義を含む DATUM 定義を含んでいません。

ユーザーの処置: 空間参照系定義を訂正し、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3745

sqlstate: 38SOF

GSE3746N 楕円 ID が定義されていません。

説明: DB2 Geodetic Extender で楕円 ID が定義されていません。

ユーザーの処置: 定義された楕円を使用して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3746

sqlstate: 38SOG

GSE3748N ポリゴンのリングが閉じられていません。

説明: ポリゴンのリングの始点と終点はまったく同じでなければなりません。

ユーザーの処置: 始点と終点をまったく同じにすることでリング定義を訂正し、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3748

sqlstate: 38SOI

GSE3749N ポリゴンの折れ線またはリングで正反対の線分 *linesegment* が検出されました。

説明: これは、楕円の中央から見ると、2つの点がお互いにまったく正反対である線分です。たとえば、線定義 (0 0, 180 0) は北極を移動することも南極を移動することもあり得ます。

ユーザーの処置: この線分にある2つの点のいずれかを移動して正反対の線分をなくして、折れ線またはリング定義を訂正し、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3749

sqlstate: 38SP0

GSE3750N 空間参照系定義に、適切に定義された UNIT 定義がありません。

説明: この ST_Geometry 値の空間参照系定義は、地理座標システムではないか、UNIT 定義を含んでいません。

ユーザーの処置: 空間参照系定義を訂正し、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Extender の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3750

sqlstate: 38SP5

GSE4000N 必須パラメーター *parameter-name* がありません。

説明: 必須パラメーターが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 必須パラメーターを指定して、コマンドの実行を再試行してください。

msgcode: -4000

sqlstate: 38SB0

GSE4001N Spatial Extender が環境ハンドルを割り振っている時に、エラーが発生しました。

説明: コール・レベル・インターフェース (CLI) を使用して、環境ハンドルを割り振ることができませんでした。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: CLI 構成を検査してください。問題の原因を見つけられず、訂正できない場合には、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4001

sqlstate: 38SB1

GSE4002N Spatial Extender が接続ハンドルを割り振っている時に、エラーが発生しました。

CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。

説明: Spatial Extender が接続ハンドルを割り振っている時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

ユーザーの処置: 詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4002

sqlstate: 38SB2

GSE4003N Spatial Extender がデータベースに接続している時に、エラーが発生しました。

CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。

説明: Spatial Extender がデータベースに接続している時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

ユーザーの処置: 詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4003

sqlstate: 38SB3

GSE4004N Spatial Extender がステートメント・ハンドルを割り振っている時に、エラーが発生しました。

CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。

説明: Spatial Extender がステートメント・ハンドルを割り振っている時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

ユーザーの処置: 詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4004

sqlstate: 38SB4

GSE4005N SQL ステートメントが準備されている時に、エラーが発生しました。CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。

説明: Spatial Extender が SQL ステートメントを準備している時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

ユーザーの処置: 詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4005

sqlstate: 38SB5

GSE4006N Spatial Extender が SQL ステートメントにパラメーターを結合している時に、エラーが発生しました。CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。

説明: Spatial Extender が SQL ステートメントにパラメーターを結合している時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

ユーザーの処置: 詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4006

sqlstate: 38SB6

GSE4007N Spatial Extender が SQL ステートメントを実行している時に、エラーが発生しました。CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。

説明: Spatial Extender が SQL ステートメントを実行している時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

ユーザーの処置: 詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4007

sqlstate: 38SB7

GSE4008N Spatial Extender がトランザクションを終了している時に、エラーが発生しました。CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。

説明: Spatial Extender がトランザクションを終了している時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

ユーザーの処置: 詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4008

sqlstate: 38SB8

GSE4009N オプション *option* が無効です。

説明: 指定されたオプション *option* が無効です。

ユーザーの処置: 有効なオプションを指定して、コマンドを再度実行してください。

msgcode: -4009

sqlstate: 38SB9

GSE4100N 列 *schema-name.table-name.column-name* が存在しません。

説明: 指定された列 *schema-name.table-name.column-name* は存在しません。

ユーザーの処置: 既存の表の既存の列を選択し、コマンドを再度実行してください。

msgcode: -4100

sqlstate: 38SC0

GSE4101N 列 *schema-name.table-name.column-name* は空間データ・タイプではありません。

説明: 指定された列 *schema-name.table-name.column-name* は、空間データ・タイプではありません。空間データ・タイプは ST_Geometry か、または ST_Geometry 固有のサブタイプのいずれかです。

ユーザーの処置: 空間データ・タイプで列を選択し、コマンドを再度実行してください。

msgcode: -4101

sqlstate: 38SC1

GSE4102N 地理情報グリッド索引

schema-name.index-name は存在しません。

説明: 指定された地理情報グリッド索引 *schema-name.index-name* は存在しません。

ユーザーの処置: 存在する地理情報グリッド索引を指定し、コマンドを再度実行してください。

msgcode: -4102

sqlstate: 38SC2

GSE4103N Spatial Extender が列

schema-name.table-name.column-name の索引情報を検索している時に、内部エラーが発生しました。

説明: Spatial Extender は、列 *schema-name.table-name.table-name* の地理情報索引に関する情報を検索している時に、予期しない内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

msgcode: -4103

sqlstate: 38SC3

GSE4104N Spatial Extender は、地理情報グリッド索引 *schema-name.index-name* のグリッド・サイズを検索できませんでした。

説明: Spatial Extender は、グリッド索引 *schema-name.index-name* のグリッド・サイズ定義を検索している時に、予期しない内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

msgcode: -4104

sqlstate: 38SC4

GSE4105W 列 *schema-name.table-name.column-name* に分析する行がありません。

説明: 列 *schema-name.table-name.table-name* には、Spatial Extender が分析できる値が含まれていません。

サンプリングが使用されている場合は、サンプル・レートが低過ぎる可能性があります。

ユーザーの処置: 形状が含まれている列でコマンドを実行してください。サンプリングが使用されている場合は、より高いサンプリング・レートを使用してください。

msgcode: +4105

sqlstate: 38SC5

GSE4106W Spatial Extender は、*number* 項目の MBR ヒストグラムを検索するのに十分なメモリーを獲得できませんでした。

説明: 地理情報列のすべての形状の最小境界長方形のヒストグラム・サイズが大き過ぎます。保管するのに十分なメモリーを割り振ることができませんでした。コマンドを正常に実行できません。

ユーザーの処置: コマンドに SHOW DETAIL オプションを指定しないでください。または、サンプル・レートを低くして形状をサンプリングし、形状の数を減らしてください。

msgcode: +4106

sqlstate: 38SC6

GSE4107N グリッド・サイズ値 *grid-size* は、使用されている箇所では無効です。

説明: 指定されたグリッド・サイズ *grid-size* が無効です。

CREATE INDEX ステートメントでグリッド索引が作成された時に、以下のいずれかの無効な指定が行われました。

- 1 番目、2 番目、または 3 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズとして、0 (ゼロ) より小さい数が指定されました。
- 最初のグリッド・レベルのグリッド・サイズとして、0 (ゼロ) が指定されました。
- 2 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズが、1 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズより小さくなっていますが、0 (ゼロ) ではありません。
- 3 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズが、2 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズより小さくなっていますが、0 (ゼロ) ではありません。
- 3 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズは 0 (ゼロ) より大きい値ですが、2 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズは 0 (ゼロ) です。

ユーザーの処置: グリッド・サイズに有効な値を指定してください。

msgcode: -4107

sqlstate: 38SC7

GSE4108W 列 *schema-name.table-name.column-name* の形状は、エクステントをカバーしていません。

説明: 列 *schema-name.table-name.column-name* のすべての形状が、0 (ゼロ) より大きいエクステントにまたがっていません。つまり、列に同一の点だけしか存在しません。索引情報を収集できません。

ユーザーの処置: 地理情報列に追加の行を挿入してください。

msgcode: +4108

sqlstate: 38SC8

GSE4109N 無効な照会ボックス・サイズ *query-box-size* が指定されました。

説明: 指定された照会ボックス・サイズ *query-box-size* が無効です。照会ボックスは、0 (ゼロ) より大きく 1 以下でなければなりません。照会ボックス・サイズは、通常検索される列のデータに対するエクステントのパーセンテージを示します。

ユーザーの処置: 0 (ゼロ) より大きく 1 以下の値を選択して、照会ボックス・サイズを訂正してください。

msgcode: -4109

sqlstate: 38SC9

GSE4110N 無効な分析行数 *num-rows* が指定されました。

説明: 指定された分析行数 (*num-rows*) が無効です。行数は、0 (ゼロ) より大きくなければなりません。

ユーザーの処置: 0 (ゼロ) より大きい有効な行数を指定して、コマンドを再度実行してください。

msgcode: -4110

sqlstate: 38SCA

GSE4111N 無効なパーセンテージ *percentage* が指定されました。

説明: 指定された、分析行のパーセンテージ *percentage* が無効です。パーセンテージは、0 (ゼロ) より大きく 100 以下の整数でなければなりません。

ユーザーの処置: 0 (ゼロ) より大きく 100 以下の有効なパーセンテージを指定して、コマンドを再試行してください。

msgcode: -4111

sqlstate: 38SCB

GSE4112W 表 *schema-name.table-name.column-name* の *percent* パーセントのサンプルを作成できませんでした。

説明: Spatial Extender は、表 *schema-name.table-name.column-name* の *percent* パーセントをサンプリングしようとしたのですが、分析可能なサンプル行をそれ以上作成できませんでした。

ユーザーの処置: 表が空でない場合は、より高いサンプリング・レートを選択して、コマンドを再試行してください。

msgcode: +4112

sqlstate: 38SCC

GSE4113N サンプリングされたデータに対して宣言されているグローバル一時表の表スペースがありません。

説明: Spatial Extender により分析されるデータをサンプリングする必要があるグローバル一時表を宣言するためには、少なくとも 4096 バイトのページ・サイズをもつ USER TEMPORARY 表スペースが存在していなければなりません。Spatial Extender が分析しようとしているデータをサンプリングできるようなグローバル一時表が必要です。この表を宣言するには、少なくとも 4096 バイトのページ・サイズをもつ USER TEMPORARY 表スペースが必要です。

ユーザーの処置: 適切な USER TEMPORARY 表スペースを作成し、コマンドを再試行するか、または、地理情報データをサンプリングしないように ANALYZE 文節を使用しないでください。

msgcode: -4113

sqlstate: 38SCD

GSE4200N データ・タイプ *type* のパラメーター *value* は、そのコンテキストで予期されていません。

説明: タイプ *type* のパラメーター値 *value* は、コマンドのコンテキストで予期されていません。

ユーザーの処置: 実行するコマンドを訂正してから、操作を再試行してください。

msgcode: -4200

sqlstate: 38SD0

GSE4201N コマンドが指定されていません。

説明: 実行するコマンドが指定されていません。

ユーザーの処置: コマンドを指定してください。

msgcode: -4201

sqlstate: 38SD1

GSE4202N コマンドの構文解析が失敗しました。

説明: 指定されたコマンド構文を正常に解析できませんでした。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、コマンドを再試行してください。

msgcode: -4202

sqlstate: 38SD2

GSE4203N トークン *token* の後で予期しないステートメントの終了が検出されました。

説明: トークン *token* の解析後に、予期しないステートメントの終了が検出されました。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、コマンドを再試行してください。

msgcode: -4203

sqlstate: 38SD3

GSE4204N トークン *token* の周辺で構文解析が失敗しました。

説明: トークン *token* の周辺で予期しない構文解析エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、コマンドを再試行してください。

msgcode: -4204

sqlstate: 38SD4

GSE4205N **Spatial Extender** が、複数の *type* 文節を検出しました。

説明: **Spatial Extender** は、コマンドの解析中に、データ・タイプ *type* の文節を複数検出しました。

ユーザーの処置: *type* の文節を 1 つだけ指定して、コマンドを再度実行してください。

msgcode: -4205

sqlstate: 38SD5

GSE9000N このデータベースは **Spatial Extender** バージョン 7 レベルではありません。

説明: このデータベースは **Spatial Extender** バージョン 7 レベルではないのに、バージョン 8 への移行などの操作を実行しようとしています。

ユーザーの処置: データベースのバージョンと、実行しようとしている操作を確認してください。

msgcode: -9000

sqlstate: 38SZ0

GSE9001N このデータベースは、すでに **Spatial Extender** バージョン 8 レベルです。

説明: このデータベースは、すでに **Spatial Extender** バージョン 8 レベルなのに、バージョン 8 への移行などの操作を実行しようとしています。

ユーザーの処置: データベースのバージョンと、実行しようとしている操作を確認してください。

msgcode: -9001

sqlstate: 38SZ1

GSE9002N **Spatial Extender** データベースの移行を実行しようとして、エラーが発生しました。

説明: **Spatial Extender** カタログと空間処理関数を移行しようとして、エラーが検出されました。

ユーザーの処置: データベースのバージョンと、実行しようとしている操作を確認してください。また、**Spatial Extender** が、移行しようとしているデータベースに対して使用可能であるか調べてください。

詳しくは、移行メッセージ・ファイルを参照してください。

msgcode: -9002

sqlstate: 38SZ2

GSE9003N ユーザー定義オブジェクトと **Spatial Extender** オブジェクトの間に従属関係があります。

説明: いくつかのユーザー定義オブジェクトが **Spatial Extender** オブジェクトに従属しているため、**Spatial Extender** オブジェクトを移行できません。

ユーザーの処置: どのような従属関係があるのか、移行メッセージ・ファイルを調べてください。移行コマンドに強制オプションを指定して、**Spatial Extender** オブジェクトに従属しているユーザー定義オブジェクトを保管およびリストアしてください。

msgcode: -9003

sqlstate: 38SZ3

GSE9990C 内部エラーが発生しました: *error-text*.

説明: Spatial Extender は、テキスト *error-text* の予期しない内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: 示されている *error-text* を読んでください。問題が解決されない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -9990

sqlstate: 38SZY

GSE9999C 内部でメッセージ障害

説明: Spatial Extender がエラー・メッセージを検索している時に、内部障害が発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

msgcode: -9999

sqlstate: 38SZZ

第 15 章 ICC メッセージ

このセクションには、インフォメーション・カタログ・センターによって発行されるメッセージのリストが含まれています。メッセージは番号順にリストされています。

ICM0001N データベースへの接続中に SQL エラーが発生しました。データベース = *dbname*、カタログ = *catalogname*。

説明: API がデータベースへの接続をオープンしようとして SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0002N アプリケーション *applicationname* の登録中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したアプリケーションを登録中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0003N オブジェクトの検索中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログの検索を実行中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0004N アプリケーション *applicationname* のインフォメーション・カタログ・マネージャー API 設定にアクセス中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API がアプリケーションの設定を検索中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0005N データベースからユーザーおよびグループ情報を検索中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API がデータベースからユーザーおよびグループ情報を検索中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0006N 登録済みアプリケーションのリストをロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API がアプリケーションのリストを検索中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0007N アプリケーション *applicationname* のアプリケーション ID を検索中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したアプリケーションのアプリケーション ID を検索中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0008N オブジェクト・タイプのロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログからオブジェクト・タイプ定義を検索中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0009N オブジェクト・タイプ *objecttype* の作成中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したオブジェクト・タイプを作成中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0010N オブジェクト・タイプ *objecttype* の更新中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したオブジェクト・タイプを更新中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0011N オブジェクト・タイプ *objecttype* の削除中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したオブジェクト・タイプを削除中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0012N オブジェクト・タイプ *objecttype* の参照 ID の検索中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したオブジェクト・タイプの次に使用可能な参照 ID を検索中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0013N IBM DB2 Universal Database ツール・カタログからオブジェクト・インスタンスをロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が DB2 Universal Database ツール・カタログからオブジェクト・インスタンスのデータをロード中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、

「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0014N オブジェクト・タイプ *objecttype* のインスタンス *instancename* の作成中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログにオブジェクト・インスタンスを作成中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0015N オブジェクト・タイプ *objecttype* のインスタンスの更新中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログのオブジェクト・インスタンスを更新中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0016N オブジェクト・タイプ *objecttype* のインスタンスの削除中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログからオブジェクト・インスタンスを削除中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0017N プロパティ *propertyname* のロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したオブジェクト・インスタンスのプロパティの値をロード中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0018N リレーションシップ・カテゴリのロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログからリレーションシップ・カテゴリをロード中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0019N リレーションシップ・カテゴリ *categoryname* の作成中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログにリレーションシップ・カテゴリを作成中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0020N リレーションシップ・カテゴリ *categoryname* の更新中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログのリレーションシップ・カテゴリを更新中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0021N リレーションシップ・カテゴリ *categoryname* の削除中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログからリレーションシップ・カテゴリを削除中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0022N リレーションシップ・タイプのロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログからリレーションシップ・タイプをロード中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0023N リレーションシップ・タイプ *typename* の作成中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログにリレーションシップ・タイプを作成中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0024N リレーションシップ・タイプ *typename* の更新中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログのリレーションシップ・タイプを更新中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0025N リレーションシップ・タイプ *typename* の削除中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログからリレーションシップ・タイプを削除中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0026N リレーションシップ・インスタンスのロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログからリレーションシップ・インスタンスをロード中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0027N リレーションシップ・タイプ *typename* のインスタンスの作成中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログにリレーションシップ・タイプのインスタンスを作成中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0028N リレーションシップ・タイプ *typename* のインスタンスの更新中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログのリレーションシップ・タイプのインスタンスを更新中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0029N リレーションシップ・タイプ *typename* のインスタンスの削除中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログからリレーションシップ・タイプのインスタンスを削除中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0030N コンテキストの変更をコミット中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API がコンテキストをデータベースにコミットしようとして SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0031N コンテキストの変更のロールバック中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API がコンテキストをデータベースにロールバック中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0032N コンテキストの解放中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API がコンテキストの解放中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0033N コンテキストの接続プロパティにアクセス中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API がコンテキストのデータベース接続詳細にアクセス中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0034N 検索操作の取り消し中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が検索操作を取り消すユーザー要求を処理中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0035N アクセス・コントロール・リストのロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログからアクセス・コントロール・リストの情報をロード中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0036N アクセス・コントロール・リスト
accesslistname の更新中に **SQL エラー**が
発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー
API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログ
のアクセス・コントロール・リストを更新中に SQL エ
ラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、
「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してくださ
い。

ICM0037N BLOB プロパティ *propertyname* のデー
タにアクセス中に **SQL エラー**が発生し
ました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー
API が指定した BLOB プロパティのデータをロード
中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、
「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してくださ
い。

ICM0038N IBM DB2 Universal Database ツール・
カタログのバージョン情報の検索中に
SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー
API がデータベース・エンジンおよび DB2 Universal
Database ツール・カタログのバージョン情報のデータベ
ースを照会中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、
「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してくださ
い。

ICM0039N オブジェクトのアクセス・コントロール項
目の検索中に **SQL エラー**が発生しまし
た。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー
API がオブジェクトのアクセス・コントロール・データ
をロード中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、
「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してくださ
い。

ICM0040N アクセス・コントロール・リスト
accesslistname の作成中に **SQL エラー**が
発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー
API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログ

にアクセス・コントロール・リストを作成中に SQL エ
ラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、
「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してくださ
い。

ICM0041N アクセス・コントロール・リスト
accesslistname の削除中に **SQL エラー**が
発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー
API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログ
からアクセス・コントロール・リストを削除中に SQL
エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、
「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してくださ
い。

ICM0042N オブジェクト・タイプ *typename* のロック
中に **SQL エラー**が発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー
API が他のアプリケーションによるアクセスを回避す
るためにオブジェクト・タイプをロック中に SQL エラ
ーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、
「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してくださ
い。

ICM0043N オブジェクト ID のロード中に **SQL エ**
ラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー
API が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログ
からオブジェクト・インスタンスの ID をロード中に
SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、
「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してくださ
い。

ICM0100N IBM DB2 Universal Database ツール・
カタログに接続できません。 データベ
ース = *dbname*、カタログ =
catalogname。

説明: 誤った値がデータベース名またはカタログ名に提
供されました。

ユーザーの処置: データベースおよびカタログに有効な
値を提供してください。 データベース名は、インフォ
メーション・カタログ・マネージャー API を実行中の
システムでカタログされたデータベースを参照している

必要があります。カタログ名は、DB2 Universal Database ツール・カタログを保留するのに使用されるデータベース内のスキーマを参照している必要があります。

ICM0101N このカタログ・オブジェクトは、すでに **IBM DB2 Universal Database ツール・カタログ**に接続されています。

説明: すでに接続がオープンされているカタログ・オブジェクトを使用して DB2 Universal Database ツール・カタログへの接続をオープンするのに失敗しました。

ユーザーの処置: カatalog・オブジェクトがまだオープンしていないことを確認してください。

ICM0102N データベース *databasename* のスキーマ *schemaname* に、有効な **IBM DB2 Universal Database ツール・カタログ**が含まれていません。表 *tablename* が見つかりませんでした。

説明: カatalogが DB2 Universal Database ツール・カタログへの接続をオープンしたときに、要求された表 *tablename* を見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: スキーマ名とデータベース名が正しいこと、および DB2 Universal Database ツール・カタログがスキーマ *schemaname* で作成されていることを確認してください。

ICM0103N 誤った引き数がオーファン・リレーションシップ検索で提供されました。

説明: カatalog・オブジェクトの orphanRelationships (Context, Object, Collection, Collection, boolean, bJboolean, SearchRules) 方式への emptySource および emptyTarget パラメーターが両方とも false でした。これは誤りです。

ユーザーの処置: パラメーター emptySource および emptyTarget のいずれか、または両方が true でなければなりません。

ICM0104N *applicationname* は予約済みアプリケーション名です。

説明: アプリケーション名 *applicationname* はインフォメーション・カタログ・マネージャー API で使用するよう予約されています。

ユーザーの処置: アプリケーション名に別の名前を使用してください。

ICM0105N アプリケーション *applicationname* はすでに登録済みです。

説明: *applicationname* という名前のアプリケーションは、インフォメーション・カタログ・マネージャー API ですでに登録されています。

ユーザーの処置: 別の名前を使用してアプリケーションを登録するか、または既存の登録済みアプリケーション ID を使用してください。

ICM0106N アプリケーション *applicationname* は登録されていません。

説明: 登録されていないアプリケーション名でアプリケーションを使用する試みがなされました。

ユーザーの処置: アプリケーションを使用する前にアプリケーション名を登録するか、またはすでに登録済みのアプリケーション名を使用してください。

ICM0107N **IBM DB2 Universal Database ツール・カタログ**にアクセスする前に、アプリケーションを **カタログ・オブジェクト**と関連付ける必要があります。

説明: アプリケーションを **カタログ・オブジェクト**と関連付ける前に、DB2 Universal Database ツール・カタログにアクセスする試みがなされました。

ユーザーの処置: カatalog・オブジェクトを使用して DB2 Universal Database ツール・カタログにアクセスする前に、**カタログ・クラス**の `setApplicationName(String)` 方式を使用して、アプリケーションと **カタログ・オブジェクト**を関連付けてください。

ICM0108N コンテキストが解放されない間は、**カタログ**をクローズできません。

説明: **カタログ・オブジェクト**のクローズ方式が呼び出されたときに、1 つ以上のコンテキストが解放されていない状態でした。

ユーザーの処置: **カタログ**をクローズする前に、**カタログ**に対してオープンされているすべてのコンテキストを解放してください。

ICM0109N 制約の保管中に誤った制約オブジェクトが見つかりました。

説明: データベースに保管する制約を準備中に入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 制約オブジェクトが直列化可能であることを確認してください。

ICM0110N 制約のロード中に誤った制約オブジェクトが見つかりました。

説明: IBM DB2 Universal Database ツール・カタログに保管されているデータから制約を再作成中に入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

ICM0111N アプリケーション *applicationname* を登録できません。使用可能な ID がありません。

説明: 使用可能なアプリケーション ID は 63 個です。64 個目のアプリケーションを登録しようとした。

ユーザーの処置: この IBM DB2 Universal Database ツール・カタログでもはや使用されていない登録済みアプリケーションを除去して、IBM サービス担当者に連絡してください。

ICM0112N 誤った引き数が **getACEsForPrincipal(Context, String, boolean, Collection)** 方式に提供されました。

説明: アクセス・コントロール項目を検索するためのオブジェクト・タイプのプリンシパルまたは集合の値が NULL でした。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプのプリンシパルまたは集合に NULL 以外の値を指定してください。

ICM0113N 誤った引き数が **getObjectsOwnedByUser(Context, String, Collection)** 方式に提供されました。

説明: 所有オブジェクトを検索するためのオブジェクト・タイプのユーザーまたは集合の値が NULL でした。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプのユーザーおよび集合の両方に NULL 以外の値を指定してください。

ICM0200N オブジェクト・タイプが作成された後にオブジェクト・タイプの **setProperties(Collection)** 方式を使用することはできません。

説明: IBM DB2 Universal Database ツール・カタログですでに作成されているオブジェクト・タイプで、**setProperties(Collection)** 方式を使用しようとした。

ユーザーの処置: **addProperty** (**MetadataPropertyDefinition**) 方式を使用して、個々に新規プロパティを追加するか、または新規オブジェクト・タイプを作成してください。

ICM0201N このオブジェクト・タイプのプロパティを設定するときは、システム・プロパティ *propertyname* を指定しなければなりません。

説明: システム・プロパティ *propertyname* が、**setProperties(Collection)** 方式に提供されたプロパティのリストにありませんでした。

ユーザーの処置: **setProperties(Collection)** 方式に提供されるプロパティのリストに、すべてのシステム・プロパティが含まれていなければなりません。

ICM0202N プロパティ *propertyname* が、オブジェクト・タイプ *typename* の索引 *indexname* により使用中です。オブジェクト・タイプのプロパティのリストを設定するときは、プロパティを指定しなければなりません。

説明: プロパティが索引によって使用されているため、プロパティ *propertyname* をオブジェクト・タイプのプロパティのセット内にしなければなりません。

ユーザーの処置: プロパティを指定された索引から除去するか、索引を除去するか、またはプロパティをオブジェクト・タイプのプロパティのセットに追加してください。

ICM0203N オブジェクト *object* がメタデータ・プロパティ・オブジェクトではありません。

説明: 誤ったオブジェクトがオブジェクト・タイプに割り当てられているプロパティのセットで見つかりました。

ユーザーの処置: **setProperties(Collection)** に提供されるプロパティのセットには、**MetadataPropertyDefinition** オブジェクトのみが含まれます。異なるタイプのオブジェクトを除去してください。

ICM0204N *propertyname* という名前の重複プロパティがリストで見つかりました。

説明: **setProperties(Collection)** への呼び出しで、同じ名前のプロパティ・オブジェクトが複数ありました。

ユーザーの処置: 重複名を持つプロパティを除去またはリネームしてください。

ICM0205N *propertyname* という名前のプロパティ定義は、このオブジェクト・タイプに存在しません。

説明: オブジェクト・タイプで定義されていないプロパティを使用して、`getProperty(String)` への呼び出しが行われました。

ユーザーの処置: 特定のプロパティの名前が不明な場合は、すべてのプロパティを検索する `getProperties()` 方式を使用してください。

ICM0206N *typename* という名前のオブジェクト・タイプはデータ・ストアにすでに存在しています。

説明: 既存の名前のオブジェクト・タイプを作成またはリネームしようとした。

ユーザーの処置: 新規オブジェクト・タイプにはユニークな名前を選択してください。

ICM0207N オブジェクト・インスタンスが定義されている場合は、オブジェクト・タイプ *typename* を削除することはできません。

説明: インスタンス削除オプションを選択せずに定義されたインスタンスを持つオブジェクト・タイプを削除しようとした。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプを削除する前にすべてのインスタンスを削除するか、またはオブジェクト・タイプの `delete(boolean)` 方式のインスタンス削除オプションを使用してください。

ICM0208N オブジェクト・タイプが作成された後にオブジェクト・タイプの `setTableOptions(String)` 方式を使用することはできません。

説明: オブジェクト・タイプが作成された後に表オプション文節を変更しようとした。表オプション文節は表を作成するときのみ使用できます。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプを作成する前に使用する表オプションを設定してください。

ICM0209N オブジェクト・タイプが作成された後にオブジェクト・タイプの `setSchemaName(String)` 方式を使用することはできません。

説明: オブジェクト・タイプが作成された後にオブジェクト・インスタンス表のスキーマを変更しようとした。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプを作成する前に使用するスキーマを設定してください。

ICM0210N 索引 *indexname* に指定されたプロパティ *propertyname* は、オブジェクト・タイプ *typename* のプロパティではありません。

説明: オブジェクト・タイプに提供された索引に、そのオブジェクト・タイプに属さないプロパティが 1 つ以上含まれていました。

ユーザーの処置: 索引内のすべてのプロパティが、オブジェクト・タイプで定義されている正しいプロパティ定義オブジェクトであることを確認してください。正しいプロパティ定義オブジェクトを検索するには、`getProperties()` および `getProperty(String)` 方式を使用してください。

ICM0211N オブジェクト・インスタンス *instancename* のタイプがオブジェクト・タイプ (*typename*) と一致しません。

説明: 提供されたオブジェクト・インスタンスのいずれかが、`createObjects(Context, Collection)` 方式オブジェクト・タイプと一致しませんでした。

ユーザーの処置: `createObjects(Context, Collection)` 方式は、同じオブジェクト・タイプのオブジェクト・インスタンスのみを扱うことができます。

ICM0212N ストリング *searchcriteria* は名前プロパティで無効な検索基準です。

説明: 提供された名前パラメーターが値でないため、オブジェクト・インスタンスを名前で検索するのに失敗しました。

ユーザーの処置: 名前パラメーターは NULL にすることはできません。

ICM0213N 誤った照会フィルター・オブジェクトがオブジェクト・タイプの `getObjectInstances(Context, Object, QueryFilterObject, SearchRules, boolean)` 方式に提供されました。

説明: 照会フィルター・オブジェクトが NULL であったか、または渡された先のオブジェクト・タイプと異なっていました。

ユーザーの処置: 検索されているオブジェクト・タイプの照会フィルター・オブジェクトを定義してください。

ICM0214N オブジェクト・タイプのリストが無効です。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 方式のいずれかに提供されたオブジェクト・タイプのリストが無効でした。オブジェクト・タイプのリストが NULL または空でした。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプのリストに少なくとも 1 つのオブジェクト・タイプが含まれていることを確認してください。

ICM0215N プロパティー定義オブジェクトの作成中に指定されたデータ・タイプが無効でした。

説明: 指定された値は許可されているデータ・タイプの 1 つではありませんでした。

ユーザーの処置: データ・タイプの値が `MetadataPropertyDefinition` クラスで定義されているデータ・タイプ定数であることを確認してください。

ICM0216N オブジェクト・タイプ *typename* の索引 *indexname* が無効です。

説明: オブジェクト・タイプ *typename* に提供された索引に、定義されているプロパティーがありませんでした。

ユーザーの処置: 索引に少なくとも 1 つの指定されたプロパティーがなければなりません。

ICM0217N プロパティー *propertyname* が、オブジェクト・タイプ *typename* の索引 *indexname* で複数回定義されています。

説明: オブジェクト・タイプ *typename* に提供された索引に、複数回定義されている同じプロパティーがあります。

ユーザーの処置: すべての重複プロパティーを索引から除去してください。

ICM0218N 索引 *indexname* がオブジェクト・タイプ *typename* に存在しません。

説明: オブジェクト・タイプ *typename* は索引 *indexname* を除去する要求を付与できませんでした。その名前の索引が存在しないためです。

ユーザーの処置: 索引を除去する前に、その索引がオブジェクト・タイプで定義されていることを確認してください。

ICM0219N 名前 *indexname* の索引がすでにオブジェクト・タイプ *typename* で定義されています。

説明: 指定された名前の索引はすでに存在しています。索引名はユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: 新規索引にユニーク名を選択するか、または新規索引に置き換えるために既存の索引を除去してください。

ICM0220N 索引 *duplicate* で、オブジェクト・タイプ *typename* の索引 *indexname* の定義が重複しています。

説明: 要求したオブジェクト・タイプの定義で、すでに索引が存在しています。

ユーザーの処置: 既存のすべての索引と異なる新規索引に変更するか、または既存の索引がオブジェクト・タイプの索引付けを十分に満たしている場合は、その索引を使用してください。

ICM0300N 要求したオブジェクト・インスタンスがデータ・ストアに見つかりませんでした。

説明: データ・ストアに作成されていないオブジェクト・インスタンスのプロパティーの値をロードしようとした。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

ICM0301N プロパティー更新要求がプロパティー制約 *constraintname* に違反しています。

説明: 制約 *constraintname* で許可されていないため、操作を実行することができません。

ユーザーの処置: 制約で許可されている値を選択するか、またはプロパティー定義から制約を除去してください。

ICM0302N オブジェクト・タイプがこのインスタンスですすでに設定されています。

説明: すでにタイプが定義されているインスタンスのオブジェクト・タイプを設定しようとした。

ユーザーの処置: タイプがすでに定義されているインスタンスのタイプを変更することはできません。

ICM0303N 指定されたオブジェクト・タイプが無効です。

説明: オブジェクト・インスタンス setType (ObjectType) 方式に提供されたオブジェクト・タイプが無効です。オブジェクト・タイプが NULL であるか、または作成されていません。

ユーザーの処置: setType(ObjectType) 方式に渡されたオブジェクト・タイプが作成されていることを確認してください。

ICM0304N *propertyname* という名前のプロパティはこのオブジェクト・インスタンスには存在しません。

説明: 存在しないプロパティを検索しようとした。

ユーザーの処置: プロパティ名のスペルと大文字小文字が一致していることを確認してください。すべての定義済みプロパティのリストを取得するには、getProperties() 方式を使用してください。

ICM0305N オブジェクト・インスタンスが有効な状態ではありません。

説明: オブジェクト・インスタンスが無効であるため、オブジェクト・インスタンスはデータの要求または更新をハンドルできません。

ユーザーの処置: オブジェクト・インスタンスを IBM DB2 Universal Database ツール・カタログから再ロードしてください。新規インスタンスの場合は、オブジェクト・タイプが設定されていることを確認してください。

ICM0306N オブジェクト・インスタンスの名前が必要です。

説明: オブジェクト・インスタンスは名前が設定されていないため無効です。

ユーザーの処置: オブジェクト・インスタンスの名前プロパティに NULL 以外の値を提供してください。

ICM0307N プロパティ *propertyname* が無効です。

説明: プロパティが必要であるのにプロパティ値が NULL であるか、またはプロパティ値がプロパティ制約のいずれかに違反しているため、オブジェクト・インスタンスが無効です。

ユーザーの処置: 指定されたプロパティに有効な値を提供してください。

ICM0308N 現行アプリケーションにはこのオブジェクトを更新する許可がありません。

説明: 現行アプリケーションは所有アプリケーションではなく、指定されたオブジェクトでアプリケーション更新権限がありません。

ユーザーの処置: 所有アプリケーションを使用して現行アプリケーションに権限を付与してください。

ICM0309N プロパティ *propertyname* はこのオブジェクト・インスタンスに属していません。

説明: プロパティ値を誤ったオブジェクト・インスタンスにロードしようとした。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

ICM0310N プロパティ *propertyname* の値がプロパティ定義の最大長を超えています。

説明: プロパティ値がオブジェクト・タイプのプロパティ定義で許可されている最大サイズより大きいです。

ユーザーの処置: もっと小さいプロパティ値を使用してください。

ICM0311N プロパティ *propertyname* には値が必要です。

説明: プロパティ *propertyname* が要求されていますが、NULL 値で設定されています。

ユーザーの処置: プロパティに NULL 以外の値を設定してください。

ICM0312N プロパティ *propertyname* が制約 *constraintname* に違反しています。

説明: プロパティ *propertyname* に割り当てられた値が制約 *constraintname* で許可されていません。

ユーザーの処置: 制約で許可されている値を使用するか、またはプロパティ定義から制約を除去してください。

ICM0400N リレーションシップ・オブジェクトのリストが無効です。

説明: リレーションシップ・オブジェクトのリストが NULL または空です。

ユーザーの処置: リレーションシップ・オブジェクトのリストに少なくとも 1 つのリレーションシップが含まれていることを確認してください。

ICM0401N 指定されたリレーションシップを追加すると、リレーションシップ・カテゴリ・ツリーでループとなってしまう可能性があります。

説明: 要求された変更により、リレーションシップ・カテゴリがそれ自身を含む可能性があります。

ユーザーの処置: リレーションシップの階層でループがないことを確認してください。

ICM0402N リレーションシップ・カテゴリ *categoryname* はすでに存在しています。

説明: カテゴリに既存のカテゴリと同じ名前があるため、新規リレーションシップ・カテゴリを作成するのに失敗しました。

ユーザーの処置: 新規リレーションシップ・カテゴリにユニークな名前を使用してください。

ICM0403N リレーションシップ・タイプ *typename* はすでに存在しています。

説明: タイプに既存のタイプと同じ名前があるため、新規リレーションシップ・タイプを作成するのに失敗しました。タイプに既存のタイプと同じ名前があるため、新規リレーションシップ・タイプを作成するのに失敗しました。

ユーザーの処置: 新規リレーションシップ・タイプにユニークな名前を使用してください。

ICM0404N リレーションシップ・タイプ *typename* に定義されているリレーションシップ・インスタンスがあるため、これを削除できません。

説明: リレーションシップ・タイプのリレーションシップ・インスタンスが存在する場合は、そのリレーションシップ・タイプを削除することはできません。

ユーザーの処置: タイプを削除する前にリレーションシップ・タイプのすべてのインスタンスを削除するか、またはリレーションシップ・タイプ削除方式のインスタンス削除オプションを使用してください。

ICM0405N **ObjectTypeRelationshipConstraint** に追加される **ObjectType** は作成されていません。

説明: リレーションシップ制約がデータベースに作成されていないオブジェクト・タイプを使用しようとした。

ユーザーの処置: リレーションシップ制約で使用する前

に、オブジェクト・タイプの `create()` 方式を呼び出してください。

ICM0500N リレーションシップ・インスタンスに渡されたオブジェクトが無効です。すべてのオブジェクトが **ObjectInstance** または **ObjectID** オブジェクトでなければなりません。

説明: リレーションシップ・インスタンスにソースまたはターゲットとして提供されたオブジェクトのタイプが、許可されているタイプの 1 つではありませんでした。

ユーザーの処置: リレーションシップ・インスタンスのソースまたはターゲットとして **ObjectInstance** または **ObjectID** オブジェクトのみを使用してください。

ICM0501N オブジェクト・インスタンスをリレーションシップに追加する前に、オブジェクト・インスタンスをデータベースに作成しなければなりません。

説明: データベースに作成されていないオブジェクト・インスタンスをリレーションシップに割り当てることはできません。

ユーザーの処置: オブジェクト・インスタンスをリレーションシップに追加する前に、新規オブジェクト・インスタンスで `create()` 方式を呼び出してください。

ICM0502N **NULL ObjectID** をリレーションシップに追加することはできません。

説明: リレーションシップ・オブジェクトに提供された **ObjectID** を表す Java オブジェクトが **NULL** でした。

ユーザーの処置: **ObjectID** に **NULL** 以外の値を使用してください。

ICM0503N リレーションシップ・インスタンスが 1 つ以上の制約に違反しています。

説明: インスタンスで定義されているソースおよびターゲット・オブジェクトの現在の設定で、1 つ以上のリレーションシップ・インスタンス制約に違反しています。

ユーザーの処置: 定義された制約をチェックし、必要に応じてソースまたはターゲットを追加または除去してください。

ICM0504N リレーションシップ・インスタンスが有効な状態ではありません。

説明: リレーションシップ・インスタンスが使用できない状態にあります。

ユーザーの処置: インスタンスのリレーションシップ・タイプが存在し、どの制約にも違反していないことを確認してください。その後、リレーションシップ・インスタンスをデータベースから再ロードしてください。

ICM0600N 現行ユーザーにはこのオブジェクトを更新する許可がありません。

説明: ユーザーに十分な権限がないため、オブジェクトの更新に失敗しました。

ユーザーの処置: オブジェクトを更新する前に、オブジェクトの所有者によりユーザーに許可が付与される必要があります。

ICM0601N 現行ユーザーにはこのオブジェクトを削除する許可がありません。

説明: ユーザーに十分な権限がないため、オブジェクトの削除に失敗しました。

ユーザーの処置: オブジェクト所有者はユーザーにオブジェクトを削除する許可を付与する必要があります。

ICM0602N 現行ユーザーにはこのリレーションシップ・タイプのインスタンスの 1 つを削除する許可がありません。

説明: 現行ユーザーにはインスタンスの 1 つを削除する権限がないため、リレーションシップ・タイプおよびそのインスタンスを削除することができません。

ユーザーの処置: リレーションシップ・タイプを削除するには、ユーザーにリレーションシップ・タイプのインスタンスをすべて削除する権限が必要です。

ICM0603N アクセス・コントロール・リストを保管する前に、アクセス・コントロール・リストの名前を指定しなければなりません。

説明: 名前が NULL に設定されているため、アクセス・コントロール・リストの更新に失敗しました。

ユーザーの処置: アクセス・コントロール・リストに有効な名前があることを確認してください。

ICM0604N *accesslistname* という名前のアクセス・コントロール・リストはデータ・ストアにすでに存在しています。

説明: 新規アクセス・コントロール・リストに既存のアクセス・コントロール・リストと同じ名前があるため、これを作成することができません。

ユーザーの処置: 新規アクセス・コントロール・リストにユニークな名前を指定してください。

ICM0605N *accesslistname* という名前のアクセス・コントロール・リストが無効です。

説明: アクセス・コントロール・リストはもはや有効でないため、保管できません。

ユーザーの処置: アクセス・コントロール・リストを IBM DB2 Universal Database ツール・カタログから再ロードしてください。

ICM0700N このオブジェクトのデータが別の処理により IBM DB2 Universal Database ツール・カタログで変更されました。

説明: オブジェクトが現行処理で使用されているときに、ツール・カタログに保管されているオブジェクト・データが別の処理により変更されたため、オブジェクトを更新するのに失敗しました。

ユーザーの処置: オブジェクトをツール・カタログから再ロードするか、または更新方式で上書き設定を使用してください。

ICM0701N オブジェクトが存在しません。

説明: IBM DB2 Universal Database ツール・カタログに作成されていないオブジェクトを使用しようとしたため、インフォメーション・カタログ・マネージャー API 要求が失敗しました。

ユーザーの処置: 方式を使用する前にオブジェクトの作成方式を呼び出してください。

ICM0702N オブジェクトはすでに存在しています。

説明: すでに作成されているオブジェクトで作成方式が呼び出されました。

ユーザーの処置: すでに存在するオブジェクトを更新するには、作成方式ではなく更新方式を使用してください。

ICM0703N オブジェクトが有効な状態ではありません。

説明: オブジェクトが有効な状態ではないため、オブジェクトを作成または更新することができません。

ユーザーの処置: オブジェクトを IBM DB2 Universal Database ツール・カタログから再ロードしてください。

ICM0704N 重複要求 ID *idname* が検索方式に渡されました。

説明: 検索方式に渡された要求 ID は別の検索ですすでに使用中です。

ユーザーの処置: 別の要求 ID を使用するか、または実行中の検索が完了するのを待機してください。

ICM0705N NULL コンテキストに切り替えることができません。

説明: インフォメーション・コントロール・センター・オブジェクトのコンテキストを NULL に設定することはできません。

ユーザーの処置: インフォメーション・コントロール・センター・オブジェクトの `setContext` (Context) 方式に NULL 以外の値を指定してください。

ICM00706N 既存のコンテキストでトランザクションがペンディングの場合は、新規コンテキストに切り替えることはできません。

説明: オブジェクトに関連しているアクティブ・トランザクションがあるときに、オブジェクトのコンテキストを切り替えようとしてしました。

ユーザーの処置: 別のコンテキストに切り替える前に、オブジェクトへの現行コンテキストの変更をコミットしてください。

ICM0707N 別のカタログのコンテキストに切り替えることができません。

説明: オブジェクトのコンテキストを別のカタログに対してオープンしているコンテキストに切り替えようとしてしました。

ユーザーの処置: 同じカタログのコンテキストおよびオブジェクトのみを使用してください。

ICM0708N アクセス・コントロール項目が指定されたプリンシパル (*principalname*) にすでに存在しています。

説明: アクセス・コントロール項目がすでに存在するため、指定されたプリンシパルで新規に作成することができません。

ユーザーの処置: 現行アクセス・コントロール項目を検索し、変更してください。新規アクセス・コントロール項目を作成しないでください。

ICM0709N データ・ストアにアクセスするために提供されたコンテキストが無効です。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API に提供されたコンテキストが無効です。要求された操作を実行できません。

ユーザーの処置: コンテキストが NULL でないこと、および解放されていないことを確認してください。

ICM0710N 誤ったパラメーター・タイプがパラメーター化された SQL ステートメント *sqlstatement* で見つかりました。

説明: 提供されたオブジェクト・パラメーターのタイプが無効です。

ユーザーの処置: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 方式の文書で指定されているタイプのオブジェクトのみを使用してください。

ICM0711N `PermissionElement` の許可値が無効です。

説明: `setPermission(int, Jboolean)` の現行値では許可が無効です。

ユーザーの処置: `PermissionElement` クラスで定義されている許可エレメント定数を使用して許可を設定してください。

ICM00712N 照会フィルター条件に提供されている値の数が正しくありません。パラメーターは期待されていません。

説明: 照会フィルター条件に提供されたパラメーター数が条件の演算子に期待された数と一致しません。

ユーザーの処置: 正しいパラメーター数を提供してください。 `OP_IS_NULL` および `OP_IS_NOT_NULL` ではパラメーターは許可されていません。 `OP_BETWEEN` および `OP_NOT_BETWEEN` では 2 つのパラメーターが必要です。 `OP_IN` および `OP_NOT_IN` ではゼロより大きい数のパラメーターが許可されています。他のすべ

ての演算子では、パラメーターが 1 つ必要です。

ICM0713N 照会フィルター条件に提供されている値の数が無効でした。パラメーターは 1 つ期待されています。

説明: 照会フィルター条件に提供されたパラメーター数が条件の演算子に期待された数と一致しません。

ユーザーの処置: 正しいパラメーター数を提供してください。OP_IS_NULL および OP_IS_NOT_NULL ではパラメーターは許可されていません。OP_BETWEEN および OP_NOT_BETWEEN では 2 つのパラメーターが必要です。OP_IN および OP_NOT_IN ではゼロより大きい数のパラメーターが許可されています。他のすべての演算子では、パラメーターが 1 つ必要です。

ICM0714N 照会フィルター条件に提供されているパラメーターの数が無効でした。パラメーターは 2 つ期待されています。

説明: 照会フィルター条件に提供されたパラメーター数が条件の演算子に期待された数と一致しません。

ユーザーの処置: 正しいパラメーター数を提供してください。OP_IS_NULL および OP_IS_NOT_NULL ではパラメーターは許可されていません。OP_BETWEEN および OP_NOT_BETWEEN では 2 つのパラメーターが必要です。OP_IN および OP_NOT_IN ではゼロより大きい数のパラメーターが許可されています。他のすべての演算子では、パラメーターが 1 つ必要です。

ICM0715N リレーションシップ検索に指定されたタイプが無効です。

説明: リレーションシップ検索の setType(int) 方式に指定されたタイプの値が無効です。

ユーザーの処置: setType(int) 方式には RelationshipSearch クラスで定義されている TYPE_SOURCE および TYPE_TARGET 定数を使用してください。

ICM0716N リレーションシップ検索に指定されたリレーションシップが無効です。

説明: リレーションシップ検索オブジェクトに指定されたリレーションシップが NULL でした。

ユーザーの処置: リレーションシップ検索のリレーションシップに NULL 以外の値を使用してください。

ICM0717N このオブジェクトのアクセス・コントロール・リストは作成されていません。

説明: オブジェクトを IBM DB2 Universal Database ツール・カタログに保管する前に、オブジェクトに割り当てられるアクセス・コントロール・リストを作成する必要があります。

ユーザーの処置: アクセス・コントロール・リストで作成方式を呼び出してください。

ICM0718N コンテキストは解放されており、使用することができません。

説明: 解放されたコンテキストを使用して IBM DB2 Universal Database ツール・カタログにアクセスしようとしてしました。

ユーザーの処置: カatalog・オブジェクトで newContext() 方式を使用して新規コンテキストを検索し、解放されたコンテキストの代わりに使用してください。

ICM0800N 無効な移行操作タイプを指定しました。

説明: ICMMigration migrate(int) 方式に指定した操作タイプの値が有効な移行操作タイプではありませんでした。

ユーザーの処置: ICMDatstoreInit クラス (MIG_REPLACE、MIG_SKIP または MIG_ERROR) で定義されている移行操作タイプの 1 つを使用してください。

ICM0801N 移行中の IBM DB2 Universal Database バージョン 7 のオブジェクト・タイプ *typename* のプロパティ *propertyname* の定義が、DB2 Universal Database バージョン 8 のオブジェクト・タイプの既存のプロパティ定義と異なります。

説明: 移行中のオブジェクト・タイプが DB2 Universal Database バージョン 8 ツール・カタログにすでに存在しています。オブジェクト・タイプのプロパティのいずれかが、データ・タイプまたはサイズにおいて DB2 Universal Database バージョン 7 とバージョン 8 のオブジェクト・タイプ定義間で異なっています。

ユーザーの処置: 置換移行操作タイプを使用するか、または DB2 Universal Database バージョン 7 カタログを移行する前に、DB2 Universal Database バージョン 8 の既存のオブジェクト・タイプを削除してください。

ICM0802N IBM DB2 Universal Database バージョン 8 のオブジェクト・タイプ *typename* のプロパティ *propertyname* が、移行中の DB2 Universal Database バージョン 7 の同じ名前のオブジェクト・タイプに存在しません。

説明: 移行中のオブジェクト・タイプがすでに DB2 Universal Database バージョン 8 ツール・カタログに存在しますが、DB2 Universal Database バージョン 8 の既存のオブジェクト・タイプのプロパティのいずれかが DB2 Universal Database バージョン 7 のオブジェクト・タイプ定義に存在しません。

ユーザーの処置: MIG_ERROR とは異なる操作タイプを使用して移行を実行するか、または移行を実行する前に DB2 Universal Database バージョン 8 の既存のオブジェクト・タイプを削除してください。

ICM0803N IBM DB2 Universal Database バージョン 7 のオブジェクト・タイプ *typename* のプロパティ *propertyname* が、DB2 Universal Database バージョン 8 の同じ名前のオブジェクト・タイプに存在しません。

説明: 移行中のオブジェクト・タイプが DB2 Universal Database バージョン 8 ツール・カタログに存在しますが、DB2 Universal Database バージョン 7 から移行中のオブジェクト・タイプのプロパティのいずれかが、DB2 Universal Database バージョン 8 のオブジェクト・タイプ定義に存在しません。

ユーザーの処置: 欠落しているプロパティがオブジェクトの場合は、インフォメーション・カタログ・センターの初期化ツールを使用して、移行する前に欠落しているプロパティを DB2 Universal Database バージョン 8 のオブジェクト・タイプに追加してください。欠落しているプロパティが必須の場合は、移行する前に DB2 Universal Database バージョン 8 のオブジェクト・タイプをツール・カタログから除去してください。

ICM0804N オブジェクト・タイプ *typename* のインスタンス *instancename* のプロパティ *propertyname* の値が、無効な日付/時刻形式です。

説明: DB2 Universal Database バージョン 7 カタログの日付/時刻プロパティの値が、認識できる日付/時刻形式ではありません。

ユーザーの処置: IBM DB2 Universal Database バージョン 7 のデータを手動で現行ロケーションの有効な日付/時刻形式に変更してください。

ICM0805N オブジェクト・タイプ *objecttype* のインスタンス *instancename* の *propertyname* プロパティのデータ・タイプは移行ツールでサポートされていません。

説明: 移行ツールは、文字または日付/時刻ストリング以外のデータ・タイプを持つプロパティのオブジェクト・タイプを移行することはできません。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプを移行することはできません。カタログが破壊されていないことを確認してください。

ICM0806N 移行中の IBM DB2 バージョン 7 カタログのリレーションシップ・タイプ・フラグ *typename* を認識できません。

説明: リレーションシップ・タイプ・フラグの値は認識できる値ではありません。

ユーザーの処置: IBM DB2 バージョン 7 カタログは無効です。このタイプ・フラグを持つリレーションシップ・インスタンスは移行されません。

ICM0807N リレーションシップ・タイプ *typename* が見つかりませんでした。

説明: 定義済みリレーションシップ・タイプ *typename* が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

ICM0808N オブジェクト・インスタンス *instancename* がオブジェクト・タイプ *typename* のユニーク索引に違反しており、作成することができません。

説明: インスタンスがオブジェクト・タイプに定義されているユニーク索引の 1 つに違反しているため、インスタンスを作成することができませんでした。

ユーザーの処置: 移行ツールを実行する前に、索引を除去するか、または移行違反の原因である IBM DB2 Universal Database バージョン 7 のオブジェクト・インスタンスを削除してください。

ICM0900N ログ・ファイル *filename* のオープン中に入出力エラーが発生しました。

説明: 入出力例外のため初期化ツールはログ・ファイルをオープンすることができませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたファイル・パスが存在し、ファイルが読み取り専用ではないこと、あるいはファイ

ルが別のアプリケーションにより使用されていないことを確認してください。

ICM0901N インフォメーション・カタログ・マネージャー API 表を作成中に SQL エラーが発生しました。

説明: 初期化ツールがインフォメーション・カタログ・マネージャー API により要求された表を作成中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0902N 移行中に SQL エラーが発生しました。

説明: 移行ツールが移行中の IBM DB2 Universal Database バージョン 7 データを検索中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0903N DB2 Universal Database バージョン 7 インフォメーション・カタログ・エミュレーション・ビューの作成中に、SQL エラーが発生しました。

説明: 初期化ツールが DB2 Universal Database バージョン 7 インフォメーション・カタログ・マネージャー表のエミュレーションを提供するビューを作成中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0904N 表 *tablename* が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログから欠落しています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化のチェック・オプションで、表 *tablename* が定義されていないことが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化を実行してください。

ICM0905N 表 *tablename* に、無効な定義を持つ列が少なくとも 1 つ含まれています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化のチェック・オプションで、表 *tablename* に要求されているタイプと異なる列が少なくとも 1 つ含まれていることが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化を実行してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM0906N 表 *tablename* に、データ・ストア定義の一部ではない列が少なくとも 1 つ含まれています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化のチェック・オプションで、表 *tablename* に表定義に存在しない列が少なくとも 1 つ含まれていることが検出されました。

ユーザーの処置: この列で NULL が許可されていない場合は、インフォメーション・カタログ・マネージャー API に影響はありません。これを除去するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化を実行してこのエラーを訂正してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM0907N 表 *tablename* の列 *columnname* がデータ・ストアから欠落しています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化のチェック・オプションで、表 *tablename* からインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている列が少なくとも 1 つ欠落していることが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化を実行してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM0908N 表 *tablename* の主キー定義が欠落しています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化のチェック・オプションで、表 *tablename* から要求されている主キー定義が欠落していることが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、修正オプ

ションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化を実行してください。

ICM0909N 表 *tablename* の主キー定義が欠落しています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化のチェック・オプションで、表 *tablename* の主キーがインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている主キーと一致しないことが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化を実行してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM0910N 表 *tablename* の索引定義が欠落しています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化のチェック・オプションで、表 *tablename* から要求されている索引が欠落していることが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化を実行してください。

ICM0911N 表 *tablename* に無効な索引定義があります。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化のチェック・オプションで、表 *tablename* にインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている索引と一致しない索引定義があることが検出されました。

ユーザーの処置: 索引がユニーク索引の場合は、インフォメーション・カタログ・マネージャー API の正常な関数に支障がある可能性があります。このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化を実行してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM0912N 表 *tablename* の索引 *indexname* がデータ・ストア定義の一部ではありません。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化のチェック・オプションで、表 *tablename* にインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている索引と一致しない索引定義があることが検出されました。

ユーザーの処置: 索引がユニーク索引の場合は、インフォメーション・カタログ・マネージャー API のプロパティ関数に支障がある可能性があります。このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化を実行してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM0913N 関数 *functionname* が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログから欠落しています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化のチェック・オプションで、関数 *functionname* が DB2 Universal Database ツール・カタログから欠落していることが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化を実行してください。

ICM0914N 関数 *functionname* の定義が無効です。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化のチェック・オプションで、関数 *functionname* の定義がインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている定義と一致しないことが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化を実行してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM0915N トリガー *triggername* が IBM DB2 Universal Database ツール・カタログから欠落しています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化のチェック・オプションで、トリガー *triggername* が DB2 Universal Database ツール・カタログから欠落していることが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化を実行してください。

ICM0916N トリガー *triggername* の定義が無効です。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化のチェック・オプションで、トリガー *triggername* の定義がインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている定義と一致しないことが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化を実行してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM00917N トリガー *triggername* がデータ・ストア定義の一部ではありません。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化のチェック・オプションで、*triggername* という名前のトリガーが DB2 ツール・カタログ表の 1 つで定義され、初期化ツールで要求されているトリガーのいずれにも一致しないことが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化を実行してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM00918N ビュー *viewname* が DB2 ツール・カタログから欠落しています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化のチェック・オプションで、*viewname* という名前のビューが定義されていないことが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期化を実行してください。

ICM0919N オブジェクト・タイプ *typename* のプロパティ *propertyname* にデフォルト・オブジェクト・タイプのプロパティと異なるデータ・タイプがあります。

説明: 既存のオブジェクト・タイプはデフォルト・オブジェクト・タイプのいずれかの名前と一致していますが、そのプロパティの 1 つにオブジェクト・タイプのデフォルト定義と異なるデータ・タイプがあります。

ユーザーの処置: 現在の定義を保持するために変更を行う必要はありません。オブジェクト・タイプをデフォルト定義に置き換えるには、APP_REPLACE オプションを指定してアプリケーション初期化を実行してください。

ICM00920N オブジェクト・タイプ *typename* のプロパティ *propertyname* がオブジェクト・タイプのデフォルト定義に存在しません。

説明: 既存のオブジェクト・タイプはデフォルト・オブジェクト・タイプのいずれかの名前と一致しています

が、そのプロパティの 1 つにオブジェクト・タイプのデフォルト定義と異なるデータ・タイプがあります。

ユーザーの処置: 現在の定義を保持するために変更を行う必要はありません。オブジェクト・タイプをデフォルト定義に置き換えるには、APP_REPLACE オプションを指定してアプリケーション初期化を実行してください。

ICM00921N オブジェクト・タイプ *typename* のプロパティ *propertyname* はデフォルト定義に存在しますが、既存のオブジェクト・タイプから欠落しています。

説明: 既存のオブジェクト・タイプはデフォルト・オブジェクト・タイプのいずれかの名前と一致していますが、そのプロパティの 1 つにオブジェクト・タイプのデフォルト定義と異なるデータ・タイプがあります。

ユーザーの処置: 現在の定義を保持するために変更を行う必要はありません。オブジェクト・タイプをデフォルト定義に置き換えるには、APP_REPLACE または APP_MERGE オプションを指定してアプリケーション初期化を実行してください。

ICM00922N DB2 Warehouse Manager の有効なライセンスが見つからないため、インフォメーション・カタログの管理ウィザードにアクセスすることができませんでした。最寄りのソフトウェア販売店または IBM 営業担当員に連絡してください。

説明: 有効なライセンスなしでインフォメーション・カタログを初期化または移行しようとしてしました。

ユーザーの処置: DB2 Warehouse Manager パッケージを購入して、インフォメーション・カタログの管理ウィザードを含む Information Catalog Manager Tools コンポーネントをインストールしてください。

ICM0923N DB2 Universal Database バージョン 7 インフォメーション・カタログ・エミュレーション・ビューのドロップ中に、SQL エラーが発生しました。

説明: DB2 Universal Database バージョン 7 インフォメーション・カタログ・マネージャー表のエミュレーションを提供するビューを、初期化ツールがドロップしていたときに、SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM10001N インフォメーション・カタログはすでにオープンしています。

説明: インフォメーション・カタログがすでにオープンしているときに、ICMCatalog クラスのオープン方式が呼び出されました。

ユーザーの処置: カタログをオープンするには重複呼び出しを削除してください。

ICM10002N アクティブ・バッチがないときにバッチ・チェックポイントをコミットすることはできません。

説明: チェックポイント操作はカタログへの変更をペンディングになっているトランザクションのセットをコミットします。トランザクションはインフォメーション・カタログにコミットされます。アクティブ・バッチがないときはペンディングの操作はありません。

ユーザーの処置: アクティブ・バッチがある場合にのみバッチ・チェックポイントをコミットしてください。バッチをアクティブにするには startBatch を、終了するには endBatch を使用してください。変更のバッチで中間ポイントをコミットするにはチェックポイントを使用してください。

ICM10003N インフォメーション・カタログがオープンしていません。

説明: この操作を実行する前にカタログをオープンしなければなりません。

ユーザーの処置: この操作を試みる前にカタログをオープンしてください。

ICM10004N *accesslistname* という名前のアクセス・コントロール・リストがユニークではありません。

説明: 名前によるアクセス・コントロール・リストの検索により、複数のインスタンスが戻されました。アクセス・コントロール・リストはユニークな名前を持つ必要があるため、これは訂正しなければならない内部カタログ・エラーです。

ユーザーの処置: インフォメーション・カタログを訂正してください。

ICM10005N バッチ・モードがアクティブではありません。

説明: バッチがアクティブではないときに endBatch 方式が呼び出されました。

ユーザーの処置: バッチを終了する前にバッチが開始さ

れていなければなりません。有効なバッチ操作を行うには、startBatch、カタログの変更、チェックポイントの指定、カタログの変更、チェックポイントの指定、カタログの変更、endBatch を順に使用してください。

ICM10006N バッチ・モードは、すでにアクティブです。

説明: バッチがアクティブではないときに startBatch 方式が呼び出されました。

ユーザーの処置: 直前のバッチが終了するまではバッチを開始することはできません。有効なバッチ操作を行うには、startBatch、カタログの変更、チェックポイントの指定、カタログの変更、チェックポイントの指定、カタログの変更、endBatch を順に使用してください。

ICM10007N 最後に記録されたチェックポイントの除去に失敗しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API はバッチの処理中にチェックポイントがコミットされるたびにチェックポイントを記録します。こうすることにより、失敗したときに最後に成功したチェックポイントからバッチを再開することができます。バッチが正常終了すると、チェックポイント記録は除去されません。チェックポイント記録の除去で失敗しました。

ユーザーの処置: ネストされた例外をチェックし、失敗の原因を判別してください。

ICM10008N エクスポート一時ファイル *filename* の作成中に入出力エラーが発生しました。

説明: エクスポート処理中に情報を保留する一時ファイルを作成中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ネストされた例外をチェックし、問題を訂正してください。

ICM10009N ファイル *filename* へのエクスポート操作が失敗しました。

説明: エクスポート操作中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エクスポート・ログ・ファイルをチェックし、問題を訂正してください。

ICM10010N インポートが失敗しました。最後に完了したチェックポイントは *checkpoint* でした。

説明: インポート操作は一部成功しましたが、完了する前に失敗しました。

ユーザーの処置: インポート・ログ・ファイルをチェッ

くし、問題を訂正してください。

ICM10011N インポートが失敗しました。チェックポイントは完了しませんでした。

説明: インポート操作はチェックポイントが完了する前に失敗しました。

ユーザーの処置: インポート・ログ・ファイルをチェックし、問題を訂正してください。

ICM10012N アクセス・コントロール・リストがデフォルト・アクセス・コントロール・リストではありません。

説明: setDefaultACL に提供されたアクセス・コントロール・リストは getDefaultACL から獲得されるアクセス・コントロール・リストでなければなりません。

ユーザーの処置: ICMCatalog.setDefaultACL の文書をチェックしてください。

ICM10013N 内部オブジェクト・タイプ *typename* のチェックポイント・オブジェクト・インスタンス、ユーザー=*username*、ホスト=*hostname*、バッチ=*batchname* がユニークではありません。

説明: チェックポイントは内部オブジェクト・タイプ内で、ユーザー、ホスト、バッチ・プロパティに設定されるユニーク ID で保持されます。あいまいなチェックポイント・オブジェクト・インスタンスが存在することはできません。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してカタログを修理してもらってください。

ICM10014N チェックポイント識別のためのホスト名を検索することができません。

説明: ホスト名を検索中に不明なホスト例外が出されました。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

ICM10015N 内部オブジェクト・タイプ *objecttype* のオブジェクト・インスタンス、ユーザー=*username*、ホスト=*hostname*、バッチ=*batchname* で作業中に予期しないプロパティ制約インスタンス外が発生しました。

説明: 内部チェックポイント・オブジェクト・タイプのインスタンスで作業中にプロパティ制約インスタンス外が出されました。このオブジェクト・タイプのプロ

パティではプロパティ制約が設定されていないため、内部カタログ問題が発生しました。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してカタログを修理してもらってください。

ICM10016N 内部オブジェクト・内部オブジェクト *typename* のオブジェクト・インスタンス、ユーザー=*username*、ホスト=*hostname*、バッチ=*batchname* で作業中に予期しないセキュリティ・インスタンス外が発生しました。

説明: バッチでチェックポイントが完了したときに現行ユーザーによってチェックポイント・オブジェクトが所有されています。セキュリティ違反が起きてはなりません。

ユーザーの処置: セキュリティ違反を判別し、訂正してください。

ICM10017N 内部オブジェクト・タイプ *objecttype* の削除履歴を記録中に予期しないプロパティ制約例外が発生しました。

説明: 削除履歴を記録するのに使用する内部オブジェクトのインスタンスで作業中にプロパティ制約インスタンス外が出されました。このオブジェクト・タイプのプロパティではプロパティ制約が設定されていないため、内部カタログ問題が発生しました。

ユーザーの処置: 削除履歴機能をオフにして、データベース管理者に連絡してカタログを修理してもらってください。

ICM10100N 内部オブジェクト・タイプ *objecttype* が見つかりませんでした。このカタログは使用できません。

説明: インフォメーション・カタログ・センター・アプリケーションをサポートするのに使用される内部オブジェクトが IBM DB2 Universal Database ツール・カタログで見つかりませんでした。カタログはインフォメーション・カタログ・センターの使用で正しく初期化されていないか、または破壊されています。

ユーザーの処置: カatalogを含むメタデータ・ストアがインフォメーション・カタログ・センター・アプリケーションで正しく初期化されていることを確認してください。

ICM10101N 内部リレーションシップ・タイプ *relationshiptype* が見つかりませんでした。
このカタログは使用できません。

説明: インフォメーション・カタログ・センター・アプリケーションをサポートするのに使用されるリレーションシップ・タイプが IBM DB2 Universal Database ツール・カタログで見つかりませんでした。カタログはインフォメーション・カタログ・センターの使用で正しく初期化されていないか、または破壊されています。

ユーザーの処置: カatalogを含むメタデータ・ストアがインフォメーション・カタログ・センター・アプリケーションで正しく初期化されていることを確認してください。

ICM10200N *name* という名前の集合はすでに存在しています。

説明: 提供された集合名は現行ユーザーで所有された既存の集合名と同一でした。

ユーザーの処置: 新規集合に別の名前を指定してください。

ICM10201N 新規集合をデフォルト名で作成することができません。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API は 1000 個までの異なる集合名を作成できます。すべての 1000 個のデフォルト名がすでに存在するため、新規集合を作成するのに失敗しました。

ユーザーの処置: いくつかの集合をデフォルトではない名前にリネームしてください。

ICM10202N 集合 *name* が削除のために指定されていますが、現行ユーザーで所有されたどの集合にも一致しません。

説明: 削除操作のターゲットとして指定された集合名が現行ユーザーの集合で見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 既存の集合を指定してください。

ICM10203N 集合 *name* のメンバーを識別するリレーションシップ・インスタンスが見つかりませんでした。

説明: 集合のメンバーを識別するのに使用される内部リレーションシップ・タイプ・インスタンスが集合とリレーションシップしていませんでした。内部エラーが発生し、集合は使用できません。

ユーザーの処置: インフォメーション・カタログ・マネージャー API を使用して集合を削除してください。

ICM10204N 集合 *name* に存在するリレーションシップ・インスタンスが多すぎます。

説明: 複数のリレーションシップ・インスタンスが集合を保管するのに使用する内部オブジェクトのインスタンスにアタッチされたのが検出されました。インフォメーション・カタログで内部エラーが発生し、この集合は使用できません。

ユーザーの処置: インフォメーション・カタログ・マネージャー API を使用して集合を削除してください。

ICM10205N 集合 *name* のリレーションシップ・インスタンスが無効です。

説明: 誤ったタイプのリレーションシップ・インスタンスが集合を保管するのに使用する内部オブジェクトのインスタンスにアタッチされたのが検出されました。これはインフォメーション・カタログの内部エラーであり、集合は使用できません。

ユーザーの処置: インフォメーション・カタログ・マネージャー API を使用して集合を削除してください。

ICM10300N 指定されたプロパティ検索タイプを認識できませんでした。

説明: DateSearchCriteria または TextSearchCriteria に提供されたプロパティ検索タイプが定義されているタイプの 1 つではありません。

ユーザーの処置: 定義されているプロパティ検索タイプの 1 つを指定してください。

ICM10301N 検索日付が指定されていません。

説明: 日付を指定せずに日付検索を実行しようとした。

ユーザーの処置: 開始日、終了日、あるいはその両方を指定してください。

ICM10302N 検索に関連した基準がありません。

説明: 関連した基準なしでカタログに書き込むための作成方式を呼び出そうとしました。

ユーザーの処置: 作成する前に、基準を検索と関連付けてください。

ICM10303N 検索 *name* の検索基準をロード中にエラーが発生しました。

説明: 検索のための検索基準をカタログから読み取り中に例外が発生しました。

ユーザーの処置: ネストされた例外をチェックして問題を判別してください。

ICM10304N 検索 *name* の検索基準を保管中にエラーが発生しました。

説明: 検索のための検索基準をカタログに書き込み中に例外が発生しました。

ユーザーの処置: ネストされた例外をチェックして問題を判別してください。

ICM10305N 最大戻りオブジェクト・カウントは負にすることはできません。 カウントは *error-code* でした。

説明: SearchCriteria オブジェクトに、最大戻りオブジェクトの負の値が提供されました。 SearchCriteria が実行されるとエラーが発生します。

ユーザーの処置: 負ではない最大オブジェクト・カウントを指定してください。

ICM10306N オブジェクト・タイプ検索集合に外部オブジェクトが含まれています。

説明: 検索する ICMObjectInstances のタイプを識別するのに指定できるのは ICMObjectTypes だけです。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプの集合にタイプ ICMObjectType のオブジェクトのみが含まれることを確認してください。

ICM10307N 検索名 *name* が使用中です。

説明: ユーザーは同じ名前前の 2 つの検索を持つことはできません。

ユーザーの処置: 使用中でない検索名を指定してください。

ICM10308N 新規デフォルト検索名が見つかりません。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API は新規検索を作成するときに 1000 個までの異なるデフォルト検索名を作成できます。すべてのデフォルト名が使用中のため、新規デフォルト検索名を作成するのに失敗しました。

ユーザーの処置: デフォルト名であるいくつかの検索をリネームしてください。

ICM10309N 検索ストリングが指定されていません。

説明: テキスト・ストリングを指定せずにテキスト検索を実行しようとしてしました。

ユーザーの処置: 突き合わせる検索ストリングを指定してください。

ICM10310N 削除に指定した検索 *name* が現行ユーザーによって所有されている既存の検索と一致しません。

説明: 削除のターゲットとして指定された検索名が現行ユーザーの検索で見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 既存の検索を指定してください。

ICM10311N 検索値はテキスト・ストリングでなければなりません。

説明: テキスト・ストリングではない検索値を TextSearchCriteria に設定しようとしてしました。

ユーザーの処置: 突き合わせる検索テキスト・ストリングを指定してください。

ICM10400N メッセージ・テキスト : *user/group* のプロパティ・データを内部オブジェクト・タイプ *objecttype* から検索中にエラーが発生しました。

説明: 保管されているプロパティ情報を内部オブジェクト・タイプのオブジェクト・インスタンスから検索中にインスタンス外が発生しました。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

ICM10401N *user/group* のプロパティ・データを内部オブジェクト・タイプ *objecttype* に保管中にエラーが発生しました。

説明: プロパティ情報を内部オブジェクト・タイプのオブジェクト・インスタンスに保管中にインスタンス外が発生しました。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

ICM10402N ホスト名を検索できません。

説明: ホスト名を検索中に不明なホスト例外が出されました。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

ICM10500N コマンド・ストリング *command* でプログラムを開始中にエラーが発生しました。

説明: オブジェクト・インスタンスでプログラムを呼び出し中にインスタンス外が発生しました。

ユーザーの処置: ネストされた例外をチェックし、問題またはパス・オブジェクトを訂正してください。

ICM10501N **BlobProperty** をファイルに書き込み中に内部エラーが発生しました。

説明: BlobProperty がデータベースに作成されましたが、関連オブジェクト・インスタンスは作成されていません。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

ICM10502N プロパティ *propertyname* は誤ったタイプです。

説明: writeBlobToStream または writeClobToWriter に渡されたプロパティ名は正しい Blob または Clob プロパティではありません。

ユーザーの処置: プロパティが、呼び出されている方式に必要な Blob または Clob であることを確認してください。

ICM10503N オブジェクト・タイプ *objecttype* のインスタンスの *propertyname* プロパティから値を検索できません。

説明: オブジェクト・タイプのプロパティから値を検索中に例外が発生しました。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

ICM10504N パラメーター化ストリングにアンマッチのパラメーター・マーカがあります。ストリング = *paramstring*。

説明: パラメーター化ストリングのフォーマット設定中にパラメーター・マーカ開始文字が対応するパラメーター・マーカ終了文字なしに見つかりました。

ユーザーの処置: パラメーター化ストリングが有効な形式であることを確認してください。

ICM10505N **BlobProperty** または **ClobProperty** *propertyname* からのデータをファイル *filename* に書き込み中にエラーが発生しました。

説明: パラメーター化ストリングのフォーマット設定中にタイプ BlobProperty または ClobProperty のパラメーターがパラメーターの 1 つとして検出されました。プロパティの内容をファイルに書き込み中に例外が発生しました。

ユーザーの処置: ネストされた例外をチェックしてください。

ICM10506N プロパティ *propertyname* をファイルに書き込み中に内部エラーが発生しました。

説明: パラメーター化ストリングのフォーマット設定中にプロパティをファイルに書き込もうとしました。プロパティは BlobProperty または ClobProperty ではありませんでした。これらのプロパティ・タイプのみがファイルに書き込むことが許可されています。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

ICM10600N アイコン・データ・サイズ *datasize* が *maxsize* バイトより大きいです。

説明: オブジェクト・タイプに関連するアイコンを指定された最大サイズより大きくすることはできません。

ユーザーの処置: もっと小さいアイコン・ファイルを指定してください。カタログ内のアイコン・データが破壊されている場合はデータベース管理者に連絡してください。

ICM10601N アイコン・データをカタログから検索中にエラーが発生しました。

説明: アイコン・データをオブジェクト・タイプから読み取り中に SQLException が発生しました。

ユーザーの処置: ネストされた例外をチェックしてください。

ICM10700N 指定された名前 (*typename*) が複数のオブジェクト・タイプと一致します。

説明: オブジェクト・タイプを検索するのに使用される名前が複数のオブジェクト・タイプと一致しました。名前にワイルドカード文字を使用するとこのエラーが起きる場合があります。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプをユニークに識別する名前を提供してください。

ICM10701N オブジェクト・タイプ *typename* は存在しません。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 方式で使用されたオブジェクト・タイプ名が既存のオブジェクト・タイプと一致しませんでした。

ユーザーの処置: 既存のオブジェクト・タイプの名前を使用してください。

ICM10702N 要求されたリレーションシップ・カテゴリ *categoryname* が見つかりません。このカタログは使用できません。

説明: 要求されたインフォメーション・カタログ内のリレーションシップ・カテゴリの 1 つが見つかりませんでした。これは致命的エラーです。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

ICM10703N オブジェクト・タイプ *typename* がインフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプではありません。

説明: IBM DB2 Universal Database ツール・カタログは複数アプリケーション・プログラムをサポートします。インフォメーション・カタログ・ユーザーからのオブジェクト・タイプはツール・カタログのすべてのオブジェクト・タイプのサブセットです。オブジェクト・タイプをインフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプの 1 つではないインフォメーション・カタログ・マネージャー API に渡そうとしたときに例外が発生しました。

ユーザーの処置: インフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプのインフォメーション・カタログ・マネージャー API のみを使用してください。

ICM10704N オブジェクト・タイプ *typename* のデフォルト・プロパティ可視性フラグを保管する操作が失敗しました。

説明: このオブジェクト・タイプのデフォルト・プロパティ可視性を定義する情報を保管中に例外が発生しました。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

ICM10705N オブジェクト・タイプ *typename* のデフォルト・プロパティ可視性フラグをロードする操作が失敗しました。

説明: このオブジェクト・タイプのデフォルト・プロパティ可視性を定義する情報をロード中に例外が発生しました。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

ICM10706N オブジェクト・タイプ *typename* がインフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプではありません。

説明: IBM DB2 Universal Database ツール・カタログは複数アプリケーション・プログラムをサポートします。インフォメーション・カタログ・ユーザーからのオブジェクト・タイプはツール・カタログのすべてのオブジェクト・タイプのサブセットです。インフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプ・セットにないタイプのオブジェクト・インスタンスがリレーションシップによりインフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプ・セットのオブジェクト・タイプにリンクされたため、インスタンス外が発生しました。

ユーザーの処置: インフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプのインフォメーション・カタログ・マネージャー API を使用してください。

ICM10800N 要求されたリレーションシップ制約 *constraintname* は除去されない可能性があります。

説明: リレーションシップ・タイプに設定されたリレーションシップ制約は要求された振る舞いをインフォメーション・カタログ内で実施します。制約は除去されない可能性があります。

ユーザーの処置: 要求されたリレーションシップ制約を除去しないようにしてください。

ICM10801N リレーションシップ・タイプ *relationshiptype* の要求された制約 *constraintname* を実施中にエラーが発生しました。

説明: 要求された制約オブジェクトをリレーションシップ・タイプに適用するためにインスタンスを生成しようとして例外が発生しました。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

第 16 章 MQL メッセージ

MQL0001E MQListener を呼び出す際、コマンド行に主要機能が指定されていませんでした。

説明: MQListener コマンド行に、help、run、add、remove、または show などの主要機能が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照し、必要な機能を指定して MQListener を再実行してください。詳しくは、次のコマンドを実行してください。

db2mqdsn help

MQL0002E MQListener を呼び出す際に、無効なコマンド行パラメーター *parameter name* が指定されました。

説明: MQListener コマンド行に、不明なパラメーター *parameter name* があります。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照し、必要なパラメーターを指定して MQListener を再実行してください。詳しくは、次のコマンドを実行してください。

db2mqdsn help

MQL0003E MQListener を呼び出す際に、必要なコマンド行パラメーター *parameter name* が指定されていませんでした。

説明: MQListener コマンド行に、必要パラメーター *parameter name* がありませんでした。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照し、必要パラメーターを指定して MQListener を再実行してください。詳しくは、次のコマンドを実行してください。

db2mqdsn help

MQL0004E MQListener を呼び出す際、*parameter name* コマンド行パラメーターに正しくない値 *parameter value* が指定されました。

説明: MQListener コマンド行の *parameter name* パラメーターの値が正しくありませんでした。正しくない値は *parameter value* です。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照し、必要なパラメーターを指定して MQListener を再実行してください。詳しくは、次のコマンドを実行してください。

db2mqdsn help

MQL0010E MQListener は、操作 *operation name* の実行中にデータベース *database name* にアクセスしているとき、エラーを検出しました。sqlstate = *sqlstate value* (sqlcode = *sqlcode value*)。

説明: MQListener は、*operation name* 操作を実行中に、*database name* データベース・アクセス・エラーを検出しました。結果の sqlstate は *sqlstate value* (sqlcode *sqlcode value*) です。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照して、指定されたデータベースに MQListener が正しくインストールされていることと、-configUser で指定されたユーザー、または MQListener を実行しているユーザーに、MQListener パッケージと構成表へのアクセスが認可されていることを確認してください。

MQL0011E MQListener は、ユーザー *user name* としてデータベース *database name* に接続することに失敗しました。sqlstate = *sqlstate value* (sqlcode = *sqlcode value*)。

説明: MQListener は、ユーザー *user name* としてデータベース *database name* に接続しようとしているときに、DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の sqlstate は *sqlstate value* (sqlcode *sqlcode value*) です。

ユーザーの処置: *database name* が稼働中であることと、MQListener に構成されているパスワードを使って *user name* からアクセスが可能であることを確認してください。必要であれば、MQListener の「remove」および「add」機能を使って MQListener を再構成します。

MQL0020E MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* のオブジェクト *object name* に対して操作 *operation name* を実行している間に、MQ エラーを検出しました。理由コード = *reason code*。

説明: MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* のオブジェクト *object* に対して操作 *operation name* を実行している間に、MQ エラーを検出しました。結果の理由コードは *reason code value* でした。

ユーザーの処置: MQ が正しくインストールおよび構成されていることと、MQListener を実行しているユーザーからアクセス可能であることを確認してください。

詳細については MQ の資料を参照してください。特に理由コードについての詳細は「WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・リファレンス」(SC88-9225-00) を参照してください。

MQL0021E MQListener は MQ キュー・マネージャ — *queue manager* への接続に失敗しました。理由コード = *reason code*。

説明: MQListener は、MQ キュー・マネージャ *queue manager* に接続しようとしている間に、MQ エラーを検出しました。結果の理由コードは *reason code* でした。

ユーザーの処置: MQ が正しくインストールおよび構成されていることと、MQListener を実行しているユーザーからアクセス可能であることを確認してください。詳細については MQ の資料を参照してください。特に理由コードについての詳細は「WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・リファレンス」(SC88-9225-00) を参照してください。

MQL0022W MQListener は MQ キュー・マネージャ — *queue manager* からの切断に失敗しました。理由コード = *reason code*。

説明: MQListener は、MQ キュー・マネージャ *queue manager* から切断しようとしている間に、MQ エラーを検出しました。結果の理由コードは *reason code* でした。

ユーザーの処置: MQ のインストールと実行が正しく行われていることを確認してください。詳細については MQ の資料を参照してください。特に理由コードの正確な意味について調べてください。

MQL0030E MQListener が、データベース *configuration database name* の *configuration name* MQListener 構成に新規タスクを追加している間に、DB2 データベース・エラーを検出しました。タスクに指定された入力キューは *input queue* で、指定されたキュー・マネージャは *queue manager* でした。結果の **sqlstate** は *sqlstate value* でした (**sqlcode** = *sqlcode value*)。

説明: MQListener が、データベース *configuration database name* の *configuration name* MQListener 構成に新規タスクを追加している間に、DB2 データベース・エラーを検出しました。タスクに指定された入力キューは *input queue* で、指定されたキュー・マネージャは *queue manager* でした。結果の **sqlstate** は *sqlstate value* でした (**sqlcode** *sqlcode value*)。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照して、指定された構成データベースに MQListener が正しくインストールされていることと、`-configUser` で指定されたユーザー、または MQListener を実行しているユーザーに、MQListener パッケージと構成表へのアクセスが認可されていることを確認してください。構成名、入力キュー、およびキュー・マネージャの組み合わせが、データベースの MQListener 構成タスクの中でユニークであることを確認してください。構成を検査するには、MQListener の「show」コマンドを使用します。

MQL0040E MQListener が、操作 *operation name* の実行中にデータベース *configuration database name* から構成 *configuration name* を検索しているとき、DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の **sqlstate** は *sqlstate value* でした (**sqlcode** = *sqlcode value*)。

説明: MQListener が、操作 *operation name* の実行中にデータベース *configuration database name* から構成 *configuration name* を検索しているとき、DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の **sqlstate** は *sqlstate value* でした (**sqlcode** = *sqlcode value*)。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照して、指定された構成データベースに MQListener が正しくインストールされていることと、`-configUser` で指定されたユーザー、または MQListener を実行しているユーザーに、MQListener パッケージと構成表へのアクセスが認可されていることを確認してください。

MQL0060E MQListener が、データベース *configuration database name* の *configuration name* MQListener 構成からタスクを除去している間に、DB2 データベース・エラーを検出しました。指定された入力キューは *input queue* で、指定されたキュー・マネージャは *queue manager* でした。結果の **sqlstate** は *sqlstate value* でした (**sqlcode** = *sqlcode value*)。

説明: MQListener が、データベース *configuration database name* の *configuration name* MQListener 構成からタスクを除去している間に、DB2 データベース・エラーを検出しました。指定された入力キューは *input queue* で、指定されたキュー・マネージャは *queue manager* でした。結果の **sqlstate** は *sqlstate value* でした (**sqlcode** = *sqlcode value*)。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照して、指定された構成データベースに MQListener が正しくインストールされていることと、`-configUser` で指定されたユーザー、または MQListener を実行しているユーザー

に、MQListener パッケージと構成表へのアクセスが認可されていることを確認してください。

MQL0061I MQListener が、データベース *configuration database name* の *configuration name* MQListener 構成から不明なタスクを除去しようとしていました。指定された入力キューは *input queue* で、指定されたキュー・マネージャーは *queue manager* でした。

説明: MQListener が、データベース *configuration database name* の *configuration name* MQListener 構成から不明なタスクを除去しようとしていました。指定された入力キューは *input queue* で、指定されたキュー・マネージャーは *queue manager* でした。

ユーザーの処置: 指定したパラメーターが正しいことを確認して、MQListener を再実行してください。構成を検査するには、MQListener の「show」コマンドを使用します。

MQL0070E MQListener が、ユーザー *user name* として、データベース *database name* でストアード・プロシージャー *schema name.procedure name* を実行するための準備をしているときに、DB2 データベース・エラーを検出しました。 **sqlstate = *sqlstate value* (sqlcode = *sqlcode value*)**。

説明: MQListener が、ユーザー *user name* として、データベース *database name* でストアード・プロシージャー *schema name.procedure name* を実行するための準備をしているときに、DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の *sqlstate* は *sqlstate value* でした (*sqlcode sqlcode value*)。

ユーザーの処置: MQListener 構成が正しく指定されていること、正しいシグニチャーを持つ、指定されたスキーマと名前ストアード・プロシージャーが存在していること、および指定されたユーザーからこれがアクセス可能であることを確認してください。

MQL0071E MQListener が、ユーザー *user name* として、データベース *database name* のストアード・プロシージャー *schema name.procedure name* のシグニチャーに、サポートされないデータ・タイプを検出しました。 **datatype = *datatype value***。

説明: MQListener が、ユーザー *user name* として、データベース *database name* のストアード・プロシージャー *schema name.procedure name* のシグニチャーに、サポートされないデータ・タイプを検出しました。デー

タ・タイプは *datatype value* でした。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照し、ストアード・プロシージャーのデータ・タイプが正しいことを確認してください。

MQL0072E MQListener は、入力キュー *input queue* とキュー・マネージャー *queue manager* によって構成 *configuration name* の中に指定されているタスクを実行するスレッドを開始できませんでした。 **ECF エラー・コードは *error code* でした**。

説明: MQListener は、入力キュー *input queue* とキュー・マネージャー *queue manager* によって構成 *configuration name* の中に指定されているタスクを実行するスレッドを開始できませんでした。 ECF エラー・コードは *error code* でした。

ユーザーの処置: MQListener 構成が正しいこと (特に *-numInstances* パラメーター)、および必要な数のタスクを同時に実行するのに十分なシステム・リソースが MQListener プロセスにあることを確認してください。

MQL0073I MQListener は、入力キュー *input queue* とキュー・マネージャー *queue manager* によって構成 *configuration name* の中に指定されているタスクを実行するスレッドを開始しました。

説明: MQListener は、入力キュー *input queue* とキュー・マネージャー *queue manager* によって構成 *configuration name* の中に指定されているタスクを実行するスレッドを開始しました。

ユーザーの処置: ありません。これはスレッドの開始に関する通常の通知であり、開始または再始動中に出るはずのものです。

MQL0074I MQListener の、入力キュー *input queue* とキュー・マネージャー *queue manager* によって構成 *configuration name* の中に指定されているタスクを実行するスレッドが終了しました。

説明: MQListener の、構成 *configuration name*、入力キュー *input queue*、およびキュー・マネージャー *queue manager* に指定されているタスクを実行するスレッドが終了しました。

ユーザーの処置: ありません。これはスレッドの終了に関する通常の通知であり、シャットダウンまたは再始動中に出るはずのものです。

MQL0075E MQListener が、ユーザー *user name* として操作 *operation name* を実行している間、データベース *database name* でストアード・プロシージャ *schema name.procedure name* の実行中に DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の *sqlstate* は *sqlstate value* でした (*sqlcode = sqlcode value*)。

説明: MQListener が、ユーザー *user name* として操作 *operation name* を実行している間、データベース *database name* でストアード・プロシージャ *schema name.procedure name* の実行中に DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の *sqlstate* は *sqlstate value* でした (*sqlcode sqlcode value*)。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照して、指定されたデータベースに MQListener が正しくインストールされていることと、指定されたユーザーに MQListener パッケージと構成表へのアクセスが認可されていることを確認してください。ストアード・プロシージャが正しく実行されていることを確認してください。

MQL0080W MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* の管理キュー *admin queue* で不明なメッセージ *message* を受信しました。

説明: MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* の管理キュー *queue* で不明なメッセージ *message* を受信しました。

ユーザーの処置: MQListener のインストールと構成が正しく行われていること、MQListener が適切な `-adminQMGr` および `-adminQueue` パラメーター値を指定して実行されていること、および MQListener の「`admin`」コマンドも適切な `-adminQMGr` および `-adminQueue`、または `-adminQueueList` パラメーター値を使用していることを確認してください。`-adminQueueList` を使用している場合は、これが適切なキュー名を指定していることを検査します。管理キューを別のアプリケーションが使用していないことを検査します。

MQL0081I MQListener は、管理キュー *admin queue*、キュー・マネージャー *queue manager* でシャットダウン・メッセージを受信しました。

説明: MQListener は、管理キュー *admin queue*、キュー・マネージャー *queue manager* でシャットダウン・メッセージを受信しました。

ユーザーの処置: ありません。これは、シャットダウン・メッセージの受信に関する通常の通知です。

MQL0082I MQListener は、管理キュー *admin queue*、キュー・マネージャー *queue manager* で再始動メッセージを受信しました。

説明: MQListener は、管理キュー *admin queue*、キュー・マネージャー *queue manager* で再始動メッセージを受信しました。

ユーザーの処置: ありません。これは、再始動メッセージの受信に関する通常の通知です。

第 17 章 SAT メッセージ

このセクションには、サテライト (SAT) メッセージが含まれています。メッセージは番号順にリストされています。

SAT1000I グループの最初のアプリケーション・バージョンは、代表的なサテライト・インストールで使用される値に一致するようにデフォルト設定されています。

説明: 一般的な方法でサテライトをインストールする場合、サテライトのアプリケーション・バージョンは事前定義値に設定されます。この事前定義アプリケーション・バージョンは、グループで作成される最初のアプリケーション・バージョンのデフォルト値と同じです。

ユーザーの処置: 一般的な方法でこのグループのサテライトをインストールしなかった場合、またはインストール後に 1 つ以上のサテライトのアプリケーション・バージョンを変更した場合は、新しいアプリケーション・バージョンを作成するために指定した ID とサテライトのアプリケーション・バージョンの整合性がとれているかどうかを確認してください。

SAT1001I いずれかのノートブック・ページで必須情報が欠落しています。ノートブックは、情報が欠落しているページに戻ります。

説明: アクションを完了するには、すべての必須フィールドが埋められていなければなりません。

ユーザーの処置: 必須情報を入力して、アクションを再試行してください。

SAT1002I 選択したターゲットへのテスト接続またはアタッチメントが、指定された認証クリデンシャルを使用して正常に終了しました。

説明: ターゲットへの接続が試みられました。指定の認証クリデンシャルを使用して、接続またはアタッチメントが正常に確立されました。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

SAT2000W 変更は保管されませんでした。今保管しますか？

説明: 変更を保管せずにウィンドウまたはノートブックを終了しようとしています。

ユーザーの処置: 変更を保管するには、「はい」をクリック

します。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2001W ATTACH または CONNECT ステートメントがスクリプト内で検出されました。

説明: スクリプト内容に CONNECT または ATTACH ステートメントが含まれていると思われます。サテライトでは、DB2 インスタンスまたは DB2 データベース・スクリプトが実行される前に、必要なインスタンス・レベル接続またはデータベース・レベル接続が自動的に確立されます。したがって、スクリプトが複数の実行ターゲットを指定しない場合は、DB2 インスタンスまたはデータベース・スクリプトに ATTACH または CONNECT ステートメントを組み込む必要はありません。

ユーザーの処置: スクリプトが複数のターゲットを指定していない場合は、そのスクリプトから CONNECT または ATTACH ステートメントを除去してください。

SAT2002W スクリプト内容がスクリプト・タイプと矛盾している可能性があります。

説明: スクリプト内容がスクリプト・タイプと矛盾するように変更されたか、またはスクリプト・タイプがスクリプト内容と矛盾するように変更されました。

ユーザーの処置: スクリプト・タイプとスクリプト内容に互換性があることを確認してください。

SAT2003W 暗黙表スペースが作成されました。

説明: プロモーションが少なくとも 1 つの暗黙表スペースを作成しました。

ユーザーの処置: 作成された暗黙表スペースがあなたのビジネス要件に合っていない場合は、スクリプトの表スペースを変更してください。

SAT2014W サテライト *satellite* を本当にプロモートしますか？

説明: サテライトをプロモートすると、サテライトがグループのバッチの実行を開始します。サテライトが修正バッチを正常に実行して、いつでもグループ・バッチを

実行できる状態になったときにのみサテライトをプロモートしてください。

ユーザーの処置: サテライトをグループ・バッチの実行にプロモートするには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2015W サテライト *satellite* を本当に修正しますか?

説明: サテライトを修正モードに設定すると、サテライトでグループ・バッチを実行できなくなります。サテライトは、グループ・バッチの実行にプロモートされるまで修正バッチしか実行できません。サテライトがサービスを要求したときにのみサテライトを修正モードに設定してください。

ユーザーの処置: サテライトを修正モードに設定して修正バッチを実行できるようにするには、「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2016W 名前 *object* のオブジェクトはすでにデータベース *database* に存在しています。オブジェクトを本当に上書きしますか?

説明: オブジェクトを上書きすると、オブジェクトを参照するその他すべてのオブジェクトが影響を受けます。

ユーザーの処置: オブジェクトを上書きするには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2017W 名前 *object* のオブジェクトはすでにデータベース *database* に存在しており、他のオブジェクトによって使用中です。オブジェクトの定義を本当に変更しますか?

説明: オブジェクトの定義を変更すると、そのオブジェクトを参照するその他すべてのオブジェクトが影響を受けます。

ユーザーの処置: オブジェクトの定義を変更するには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2018W オブジェクト *object* の定義を本当に変更しますか?

説明: オブジェクトの定義を変更すると、そのオブジェクトを参照するその他すべてのオブジェクトが影響を受けます。

ユーザーの処置: オブジェクトの定義を変更するには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2019W 名前 *object* のオブジェクトはすでにデータベース *database* に存在しています。*database* に作成する前に *object* を名前変更しますか?

説明: *database* に *object* を作成中に、同じ名前を持つ別のオブジェクトがすでに存在することが見つかりました。オブジェクトはユニークな名前を持っている必要があります。

ユーザーの処置: 別の名前でオブジェクトを保管するには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。オブジェクトは作成されません。

SAT2020W 選択したサテライトの少なくとも 1 つが現在オンラインになっています。オンラインのサテライトで行うアクションはありません。

説明: サテライトがオンラインで同期しているとき、そのサテライトは変更できません。

ユーザーの処置: どのサテライトが現在オンラインかを判別します。これらのサテライトがオフラインになってから、要求を再試行してください。

SAT2021W 指定された認証クリデンシャルを使用した、選択したターゲットへのテスト接続またはアタッチメントに失敗しました。

説明: ターゲットへの接続が試みられました。認証エラーのため、接続を確立できませんでした。

ユーザーの処置: ターゲットに対する認証クリデンシャルが正しいことを確認してから、要求を再試行してください。

SAT2022W サテライトがテスト・サテライトの場合は、このサテライトへの変更を行うことができます。サテライトが整合状態のままであるように注意してください。

説明: サテライトをテスト・サテライトとして設定することは、サテライトがテスト・バッチを実行することを意味します。テスト・バッチには、不確かな結果をもたらすバッチ・ステップが含まれている可能性があり、サテライトが不整合状態になるかもしれません。サテライトをテスト・サテライトとして設定するときは、こうしたリスクを含んでいることを十分認識した上で行ってください。

ユーザーの処置: サテライトをテスト・サテライトとして設定するには「OK」をクリックします。そうでない場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

SAT2023W このテスト・サテライトを本当に実動サテライトに変更しますか？ このサテライトで利用できる管理関数は厳しく制限されず。

説明: テスト・サテライトは、構成変更を実動サテライトでできるようにする前にテストするために使用されます。したがって、構成変更が成功しなかったときにテスト・サテライトが不整合状態になる可能性があります。テスト・サテライトを修復するには、構成変更を繰り返しテストできるようにサテライトを整合状態に戻します。テスト・サテライトには、その他の管理アクションを実行することもできます。サテライトが実動サテライトに変更された場合には、テスト目的で使用できなくなります。このサテライトに利用できる管理関数は、必然的に厳しく制限されます。

ユーザーの処置: サテライトを実動サテライトとして設定するには「OK」をクリックします。そうでない場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

SAT2024W 同期セッションが進行中です。同期セッションを本当に終了しますか？

説明: 同期セッションの処理中に終了アクションが要求されました。

ユーザーの処置: 終了を続行した場合、同期セッションが完了する前に停止されます。終了を取り消して、同期セッションを完了してください。

SAT2025W 統合シナリオに不完全な“整合した変更データ表”以外の表を使用した場合、ターゲット表は、サテライトが同期化する時にリフレッシュされます。

説明: 統合レプリケーション・シナリオにおいて、不完全な“整合した変更データ表”の場合は、サテライトが同期化する時に、ターゲット表の全リフレッシュを行いません。別の表のタイプ(たとえば、ユーザーのコピーまたはポイント・イン・タイム指定のターゲット表)の場合は、サテライトが同期化する時に、ターゲット表の全リフレッシュを行います。レプリケーション・シナリオを定義する時に、データのキャプチャーを全リフレッシュとして指定した場合、ターゲット表は、サテライトが同期化するたびに完全にリフレッシュされます。データのキャプチャーを全リフレッシュとして指定しない場合、ターゲット表は、アプライ・プログラムがサテライトで最初に呼び出された時のみ、完全にリフレッシュされます。

ユーザーの処置: サテライトが同期化する時に、ターゲット表をリフレッシュしたい場合は、アクションは必要ありません。ターゲット表のタイプを変更したい場合

は、DB2 コントロール・サーバーから、レプリケーション・サブスクリプションの一般化による影響を除去し、コントロール・センターへ戻ってレプリケーション・シナリオを変更する必要があります。それから、レプリケーション・サブスクリプションを再度一般化してください。

SAT2026W サテライトは、ユーザーがユーザー・データを変更する前に同期化される必要があります。サテライトの最初の同期化の前に変更されたユーザー・データは複製されません。

説明: サテライトが同期化する時、適用およびアプライ・プログラムがサテライトに呼び出されます。レプリケーション・シナリオの定義の仕方によって、最初の同期セッションの前のサテライト・データベースにあるユーザー・データに対して行われる変更は、統合されたソースに複製されないか、またはサテライトで上書きされるかのいずれかとなります。

- レプリケーション・シナリオが、サテライトから統合されたソースへ定義されたレプリケーションの方向による任意の場所での統合か更新である場合、最初の同期化セッションの前に、ユーザー・データに対して行われる変更は、サテライトから統合されたソースへ複製されません。キャプチャー・プログラムが呼び出されると、この変更を収集することができません。
- レプリケーション・シナリオが、統合されたソースからサテライトへ定義されたレプリケーションの方向による任意の場所での分散か更新である場合、最初の同期化セッションの前に、ユーザー・データに対して行われる変更は、サテライトで全リフレッシュが起こった場合に上書きが行われます。

ユーザーの処置: すべてのサテライト・ユーザーに、サテライトでデータを変更する前に、同期化を行うように指示してください。

SAT3000N 名前 *name* はすでに存在します。

説明: 作成しようとしているオブジェクトの名前 *name* がすでに存在します。

ユーザーの処置: ユニーク名を指定してください。

SAT3001N コピーのターゲット名 *targetname* はデータベース *cdb* にすでに存在します。

説明: コピーに指定した名前 *targetname* が、ターゲット・サテライト・コントロール・データベース *cdb* でユニークではありません。

ユーザーの処置: ユニーク名を指定してください。

SAT3002N アプリケーション・バージョン *application-version-name* はグループ *group-name* にすでに存在します。

説明: このアプリケーション・バージョンに指定した名前は、すでにこのグループで使用されています。

ユーザーの処置: グループ *group name* で使用されていないアプリケーション・バージョンの名前を指定してください。

SAT3003N このグループにはアプリケーション・バージョンが存在しません。

説明: グループに対して要求されたアクションには少なくとも 1 つのアプリケーション・バージョンが必要です。

ユーザーの処置: グループのアプリケーション・バージョンを作成してください。

SAT3004N オブジェクト *name* は存在しません。

説明: 示されているオブジェクト *name* が存在しません。オブジェクトを含む表示が埋められた後で、オブジェクトが除去された可能性があります。

ユーザーの処置: オブジェクトが表示される表示をリフレッシュしてください。

SAT3005N オブジェクト *name* は、現在他のオブジェクトによって参照されているため削除できません。

説明: 別のオブジェクトが参照しているため、オブジェクト *name* を削除できません。 *name* が削除された場合は、整合性を維持できません。

ユーザーの処置: このオブジェクトを削除する前に、オブジェクトに從属するすべてのオブジェクトを削除してください。

SAT3006N 少なくとも 1 つの使用可能なサテライトを持っているため、グループ *group-name* を削除できません。

説明: グループを削除する前に、グループとともに削除できるようにそのすべてのサテライトを使用不可にしてください。グループ内に少なくとも 1 つの使用可能なサテライトが見つかりました。

ユーザーの処置: このグループ内のすべてのサテライトを使用不可にしてください。

SAT3007N 少なくとも 1 つのテスト・レベルか実動レベルのバッチを持つアプリケーション・バージョンがあるため、グループ *group-name* を削除できません。

説明: 実動レベルおよびテスト・レベルのバッチは、サテライトが使用するアクティブ・レベルと見なされません。したがって、これらのバッチを削除することはできません。つまりアプリケーション・バージョン、アプリケーション・バージョンが属するグループを削除することはできません。

ユーザーの処置: このグループのすべての実動レベル・バッチを廃止し、すべてのテスト・レベル・バッチを除去します。その後で、要求を再試行してください。

SAT3008N テスト・レベルか実動レベルのバッチを持っているため、アプリケーション・バージョン *application-version-name* を削除できません。

説明: 実動レベルおよびテスト・レベルのバッチは、サテライトが使用するアクティブ・レベルと見なされません。したがって、これらのバッチを削除することはできません。つまり、これらのバッチが属するアプリケーション・バージョンを削除することはできません。

ユーザーの処置: このアプリケーション・バージョンの実動レベル・バッチを廃止し、テスト・レベル・バッチを除去します。その後で、要求を再試行してください。

SAT3009N 汎用レプリケーション・サブスクリプション・セットがグループ *group-name* にありません。

説明: 汎用レプリケーション・サブスクリプション・セットがグループ *group-name* にありません。指定されたアクションには、少なくとも 1 つの汎用レプリケーション・サブスクリプションが存在していなければなりません。

ユーザーの処置: このグループに 1 つ以上の汎用レプリケーション・サブスクリプション・セットを定義してください。

SAT3010N グループ *group-name* のアプリケーション・バージョンが存在しません。

説明: グループ *group-name* のアプリケーション・バージョンが存在しません。指定されたアクションには、少なくとも 1 つのアプリケーション・バージョンが存在していなければなりません。

ユーザーの処置: このグループのアプリケーション・バ

ージョンを定義してください。

SAT3011N デフォルトのレプリケーション・サブスクリプション・セットがグループ

group-name のアプリケーション・バージョン *application-version-name* がありません。

説明: グループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* のデフォルト・レプリケーション・サブスクリプション・セットが、汎用化アクションにより生成されます。汎用レプリケーション・サブスクリプションをカスタマイズするには、このようなサブスクリプション・セットが必要です。

ユーザーの処置: 汎用化アクションが正常に完了したことを確認して、要求を再試行してください。

SAT3012N グループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* のデフォルトのレプリケーション・コントロール・サーバーが汎用レプリケーション・サブスクリプション・アクションによって制せられました。このようなコントロール・サーバーは、汎用レプリケーション・サブスクリプションがカスタマイズされる前に必要です。

説明: グループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* のデフォルトのレプリケーション・コントロール・サーバーは存在しません。

ユーザーの処置: レプリケーション・サブスクリプションの汎用化が正常に完了したことを確認します。その後で、要求を再試行してください。

SAT3013N 確認パスワードが指定されたパスワードと一致しません。

説明: 確認パスワードは、指定されたパスワードと一致していなければなりません。パスワードでは大文字小文字が区別されます。

ユーザーの処置: 確認パスワードをもう一度入力します。入力されたすべての文字が、オリジナルのパスワードとまったく同じであることを確認してください。

SAT3014N 少なくとも 1 つの指定されたバッチ・ステップがターゲット別名、成功コード・セット、またはその両方を持っていません。

説明: 新しいバッチ・ステップとしてスクリプトがインポートまたは追加されたときに、新しいバッチ・ステップ用に追加する必要があるターゲット別名および成功コード・セットが提供されませんでした。

ユーザーの処置: どのバッチ・ステップにターゲット別名または成功コード・セットが欠落しているかを識別して、欠落情報を追加してください。

SAT3015N ターゲット別名が選択されていません。認証クリデンシャルを指定するには、ターゲット別名を選択する必要があります。

説明: 認証をターゲット別名と関連付けるには、まずターゲット別名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: ターゲット別名を指定します。その後で、要求を再試行してください。

SAT3016N アプリケーション・バージョンがこのサテライトに設定されていません。このページは、サテライトがアプリケーション・バージョンを報告するまで使用できません。

説明: サテライトはアプリケーション・バージョンのバッチを実行します。このサテライトが、そのアプリケーション・バージョンを報告しませんでした。したがって、アプリケーション・バージョンのバッチ・ステップを指定できません。

ユーザーの処置: サテライト自体にアプリケーション・バージョンを割り当ててください。サテライト管理センターからこのアクションを実行することはできません。

SAT3017N アクションを実行できません。アプリケーション・バージョンが設定されていません。

説明: サテライトはアプリケーション・バージョンのバッチを実行します。このサテライトが、そのアプリケーション・バージョンを報告しませんでした。したがって、指定されたアクションを実行できません。

ユーザーの処置: サテライト自体にアプリケーション・バージョンを割り当ててください。サテライト管理センターからこのアクションを実行することはできません。

SAT3018N 実行ターゲットのタイプがスクリプトのタイプに対して正しくありません。

説明: 正しくないターゲット別名が選択されました。スクリプトは、別のタイプのターゲットに対して実行されるように設計されています。

ユーザーの処置: 選択されたスクリプトと同じタイプのターゲット別名を選択します。その後で、要求を再試行してください。

SAT3019N 指定された成功コード範囲が競合していません。

説明: 成功コード・セットには、「より小さい」(<) 関係で指定された数の範囲とオーバーラップする数の範囲を指定する「より大きい」(>) 関係を入れることはできません。たとえば、> 10、< 11 の 2 つの関係を同じ成功コード・セットで使用することはできません。

ユーザーの処置: 範囲内でオーバーラップするこのような関係を成功コード・セットから除去するか、または訂正してください。2 つの数の間に限られた範囲の数を指定するには、範囲内のそれぞれの数に a、b、等号 (=) 関係を指定する必要があります。たとえば、5 と 10 の間に成功コードとして限られた範囲の数を指定するには、=5、=6、=7、=8、=9 および =10 の等号関係が必要です。

SAT3022N プロモーションが以下のエラーによって失敗しました: **SQLCODE=sqlcode**、**SQLSTATE=sqlstate**、トークン: *token1*、*token2*、*token3*。ロケーション *location* でエラーが検出されました。

説明: プロモーションが、予期しない状況で失敗しました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3023N システム・エラーまたは内部エラーが発生しました。

説明: 考えられるエラーには、オペレーティング・システムによって返されるシステム・エラー、リソース不足、不正な構成などがあります。

ユーザーの処置: レプリケーション構成を確認するか、またはシステム管理者か IBM サービスに連絡してください。

SAT3024N レプリケーション・サーバーがサポートされていないレベルにあります。

説明: レプリケーション・サーバーの製品レベルがサポートされていません。

ユーザーの処置: サポートされているレベルにアップグレードしてください。

SAT3025N レプリケーション・サーバーに接続したときに認証障害が発生しました。

説明: このアクションには、レプリケーション・サーバーの認証が必要です。いずれかのサーバーの認証に失敗しました。

ユーザーの処置: 正しいユーザー ID およびパスワードを指定したかどうか確認します。要求を再試行するか、またはシステム管理者に連絡してください。

SAT3026N 生成されたスクリプトのサイズが使用可能なストレージを超えました。

説明: このアクションによってスクリプトが生成されました。生成されたスクリプトの少なくとも 1 つが、使用可能な最大ストレージを超えています。

ユーザーの処置: システム管理者か IBM サービスに連絡してください。

SAT3027N レプリケーション・ソース・サーバー、コントロール・サーバー、ターゲット・サーバーのデータベース・ディレクトリー項目がインスタンス *instance-name* に存在しません。

説明: このアクションを行うには、インスタンス *instance-name* に、レプリケーション・ソース・サーバー、コントロール・サーバー、およびターゲット・サーバーのデータベース・ディレクトリー項目が存在している必要があります。ディレクトリー項目の少なくとも 1 つが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: *instance-name* でレプリケーション・ソース・サーバー、コントロール・サーバー、およびターゲット・サーバーをカタログします。またはシステム管理者か IBM サービスに連絡してください。

SAT3028N 修正バッチ *batch* は、少なくとも 1 つのサテライトによって使用されているため削除できません。

説明: 現在使用されているバッチを削除することはできません。

ユーザーの処置: バッチがサテライトで使用されなくなるまでお待ちください。その後で、要求を再試行してください。

SAT3029N スクリプト *script* は、少なくとも 1 つの実動または廃止バッチ・ステップによって使用されているため変更できません。

説明: スクリプトは、実動または廃止バッチ・ステップで使用されていない場合のみ変更できます。

ユーザーの処置: スクリプトが実動または廃止バッチ・ステップで現在使用されていないことを確認します。その後で、要求を再試行してください。

SAT3030N 廃止されていないバッチによって使用されているため、指定された廃止バッチ・ステップを削除できません。

説明: 廃止バッチ・ステップは、廃止レベルではないバッチによって使用されていない場合のみ削除できます。

ユーザーの処置: このバッチ・ステップを使用するバッチがサテライトで使用されていない場合は、廃止レベルに移動します。その後で、要求を再試行してください。

SAT3031N バッチ・ステップのセットの最後のステップではないため、このバッチ・ステップは削除できません。

説明: バッチ・ステップのセットの中にあるバッチ・ステップを削除することはできません。まず、その後のすべてのバッチ・ステップを削除する必要があります。

ユーザーの処置: 削除するバッチ・ステップの後のすべてのバッチ・ステップを削除します。その後で、要求を再試行してください。

SAT3032N 実動バッチ・ステップを削除できません。

説明: 実動バッチ・ステップは同期のために実動サテライトで使用されているため、削除できません。削除できるのは、テスト、未割り当て、および廃止バッチ・ステップだけです。

ユーザーの処置: バッチ・ステップを実動から取り出します。その後で、要求を再試行してください。

SAT3033N サテライト・コントロール・データベース **SATCTLDB** がデータベース・ディレクトリー内で検出されないため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: サテライト・コントロール・データベースがデータベース・ディレクトリーに正しくカタログされていません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3034N サテライト・コントロール・サーバーでの認証エラーのため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: コントロール・サーバーに送信されたユーザー ID またはパスワードが正しくありません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3035N サテライト ID がローカルで検出されないため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: このエラーは、オペレーティング・システム・ログオンを省略したために起きた可能性があります。

ユーザーの処置: すでにオペレーティング・システムにログオンしている場合、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3036N サテライト・コントロール・サーバーがこのサテライトを認識しないため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: サテライト ID がサテライトで正しく定義されていないか、またはこのサテライトがサテライト・コントロール・サーバーで正しく定義されていません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3037N 不明エラーのため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: 不明です。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3038N シンクロナイザーが重大な **DB2** エラーを検出しました。同期を継続できません。

説明: この重大エラーの原因は不明です。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3039N サテライトの同期に失敗しました。サテライトがサテライト・コントロール・サーバーで失敗状態にあります。

説明: このサテライトが障害状態になっているため、修正する必要があります。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3040N サテライト・コントロール・サーバーに接触できないため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: サテライトとそのコントロール・サーバーの間の通信を確立できませんでした。コントロール・サーバーが操作可能でないか、または通信構成が正しくない(たとえば、サテライト・コントロール・サーバーのホスト名またはポート番号が正しくない)と考えられます。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3041N サテライト・コントロール・サーバーとの通信が失われたため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: 通信リンク障害が起きました。サテライト・コントロール・サーバーが非活動状態になっているか、またはネットワーク障害が起きました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3042N サテライトの同期セッションで、一部のタスクが正常に完了しませんでした。

説明: サテライト同期セッション中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3043N サテライトの同期セッションが正常に開始しませんでした。

説明: サテライト同期セッションの始動フェーズでエラーが起きました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3044N サテライトの同期セッションのクリーンアップ・フェーズが正常に完了しませんでした。

説明: サテライト同期セッションのクリーンアップ・フェーズでエラーが起きました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3045N *control-server* は有効なレプリケーション・コントロール・サーバーではありません。

説明: 選択されたサーバーは有効なレプリケーション・コントロール・サーバーではありません。要求は完了できません。

ユーザーの処置: 有効なレプリケーション・コントロール・サーバーを選択してから要求を再試行してください。

SAT3046N 汎用レプリケーション・サブスクリプション・セットがグループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* にありません。

説明: グループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* には、汎用レプリケーション・サブスクリプション・セットがありません。一般化されたレプリケーション・サブスクリプション・セットは、カスタマイズの前に存在している必要があります。

ユーザーの処置: アプリケーション・バージョン用に 1 つ以上のレプリケーション・サブスクリプション・セットを一般化して、要求を再度試行してください。

SAT3047N フィールド *field-name* の入力が制限を超えています。このフィールドに対して許可される最大長は *maximum-length* です。

説明: フィールド *field-name* の入力の長さが、*maximum-length* の制限を超えています。

ユーザーの処置: 入力が最大限度内であることを確認して、要求を再試行してください。

SAT3048N 複数のターゲット・サーバーが、コントロール・サーバー *control-server* のアプライ修飾子 *apply-qualifier* に関連しています。

説明: レプリケーション・サブスクリプションのターゲット・サーバーは、指定したアプリケーション・バージョンを実行しているグループのサテライトを表していません。その結果、提供されたアプライ修飾子にはターゲット・サーバーが 1 つだけ認められます。レプリケーション構成が単一ターゲット・サーバーを指定すると、関連したアプライ修飾子が正しく指定されていない可能性があります。そうでない場合、レプリケーション構成はサテライト環境では一般化のために受け入れられない可能性があります。

ユーザーの処置: まず、レプリケーション構成が複数のターゲット・サーバーを指定していないか、確認します。指定している場合、レプリケーション構成を訂正し、レプリケーション・サブスクリプションの一般化要求を再試行してください。レプリケーション構成が複数のターゲット・サーバーを指定していない場合、正しいアプライ修飾子がレプリケーション・サブスクリプションの一般化要求に指定されているか確認してください。その後で、要求を再試行してください。

SAT3049N ファイル名が無効です。

説明: 文字 ¥ / : * ? " < > | のいずれかが含まれているため、ファイル名は無効です。

ユーザーの処置: ファイル名には、上の文字を使用しないようにしてください。その後で、要求を再試行してください。

SAT3050N 選択されたサテライトの 1 つまたは複数に、アプリケーション・バージョンがありません。

説明: アプリケーション・バージョンのないサテライトのレプリケーション・パラメーターを変更することはできません。

ユーザーの処置: 選択されたサテライトがすべて、アプリケーション・バージョンを持つようにしてください。その後で、要求を再試行してください。

SAT3051N レプリケーション・サブスクリプションの汎用化に失敗しました。生成されたスクリプトの少なくとも 1 つが空です。

説明: 生成されたスクリプトの少なくとも 1 つが空です。

ユーザーの処置: 汎用化を再試行してください。問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

SAT3052N データベース別名またはデータベース名 *name* が見つかりません。

説明: コマンドに指定されているデータベース名または別名が見つかりません。データベースがデータベース・ディレクトリー内でカタログされていないか、あるいは存在しません。

ユーザーの処置: 示されているデータベース名がシステム・データベース・ディレクトリーに存在し、そのデータベースが存在することを確認してください。その後で、要求を再試行してください。

SAT4000C *cdb* は無効なサテライト・コントロール・データベースです。

説明: データベース *cdb* は、有効なサテライト・コントロール・データベースではありません。まず、データベース *SATCTLDB* がサテライト・コントロール・データベースと想定されます。このようなデータベースに対して実行される、サテライト管理に関するアクションは、まずそのデータベースが有効かどうかを確認します。データベースが正しく構成されていない場合、アクションは成功しません。 *cdb* がサテライト・コント

ロール・データベースの場合、そのデータベースが使用できなくなるように構成が変更されました。そうでない場合は、非コントロール・データベースに *SATCTLDB* という名前が付けられました。

ユーザーの処置: データベースをサテライト・コントロール・データベースと誤って表すことを避けるには、データベースを *SATCTLDB* 以外の名前に変更します。 *cdb* がサテライト・コントロール・データベースの場合は、その構成をオリジナルの定義とともに確認してください。

第 18 章 SPM メッセージ

このセクションには、同期点マネージャー (SPM) のメッセージが記載されています。メッセージは番号順にリストされています。

SPM0400 DBALIAS=dbalias による未確定トランザクションの解決でヒューリスティック・ダメージが示されている - データベースが **LUNAME=luname** をコミットして **UOW** と調整プログラムをロールバックしました。トランザクションは **LUWID=luwid** によって識別されます。

説明: DB2 は、*luwid* によって識別されるトランザクションの DRDA2 AS でした。DB2 データベースの解決によって、ヒューリスティック・ダメージが示されています。*dbalias* で識別されるデータベースは、未確定のトランザクションを手操作で解決しました。*luname* の DB2 データベースはトランザクションをロールバックしました。これは、*luname* の DRDA2 調整プログラムのコミットの決定に反しています。

- アプリケーションには、トランザクションのコミットが伝えられました。
- 参加者側で更新されたリソースがロールバックされました。

dbalias

DB2 データベースの別名。

luname

調整プログラムの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者による未確定の解決は完了します。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: COORDINATOR *luname* および DATABASE *dbalias* の両方のデータベース管理者に、*luwid* のトランザクションにヒューリスティック・ダメージが起こったことを知らせてください。DB2 はこのトランザクションの DRDA2 AS でした。COORDINATOR *luname* の DRDA2 AR は、*luwid* が行ったデータベースの更新を COMMIT する決定を行いました。*dbalias* PARTICIPANT は、*luwid* が行った更新を ROLL BACK するヒューリスティック判定を行いました。

SPM0401 DBALIAS=dbalias による未確定トランザクションの解決でヒューリスティック・ダメージが示されている - データベースがコミットされ、**LUNAME=luname** の調整プログラムをロールバックしました。トランザクションは **LUWID=luwid** によって識別されます。

説明: DB2 は、*luwid* によって識別されるトランザクションの DRDA2 AS でした。DB2 DATABASE の解決によって、ヒューリスティック・ダメージが起こっているのが示されています。*dbalias* で識別されるデータベースは、未確定のトランザクションを手操作で解決しました。*dbalias* がトランザクションをコミットしました。これは *luname* の DRDA2 COORDINATOR のロールバックの決定に反しています。

- アプリケーションには、トランザクションのロールバックが伝えられました。
- 参加者側で更新されたリソースがコミットされました。

dbalias

DB2 データベースの別名。

luname

調整プログラムの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者による未確定の解決は完了します。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: COORDINATOR *luname* および DATABASE *dbalias* の両方のデータベース管理者に、*luwid* のトランザクションにヒューリスティック・ダメージが起こったことを知らせてください。DB2 はこのトランザクションの DRDA2 AS でした。COORDINATOR *luname* の DRDA2 AR は、*luwid* が行ったデータベースの更新をロールバックする決定を行いました。PARTICIPANT *dbalias* で、*luwid* が行った更新を COMMIT するヒューリスティック判定が行われました。

SPM0402 **LUNAME=luname** および
DBALIAS=dbalias の参加者による未確定
トランザクションの解決でヒューリスティ
ック・ダメージが示されている - 参加者
はコミットされ、**DB2** はロールバックし
ました。トランザクションは
LUWID=luwid によって識別されます。

説明: **DB2** は、*luwid* によって識別されるトランザク
ションを担当する調整プログラムを持っています。参加
者による解決で、ヒューリスティック・ダメージが起こ
っているのが示されています。*luname* と *dbalias* によ
って識別される参加者は、手操作で未確定のトランザク
ションを解決しました。行われた処置は、このトランザ
クションをコミットするものでした。これは調整プログラ
ムのロールバックの決定に反しています。

- アプリケーションには、この作業単位のロールバック
が伝えられました。
- 参加者側で更新されたリソースがコミットされまし
た。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luname

参加者の LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した **XID** はこのメッセージにしたがっ
て印刷されます。

参加者による未確定の解決は完了します。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してくださ
い。

データベース管理者のアクション: ローカル・データベ
ース管理者と *luname* のデータベース管理者に、*luwid*
でトランザクションにヒューリスティック・ダメージが
起こったことを知らせてください。 **DB2** はトランザク
ションの調整プログラム側で、*luwid* が行ったデータベ
ースの更新をロールバックする決定を行いました。

luname で、*luwid* が行った更新を **COMMIT** するヒュー
リスティック判定が行われました。

SPM0403 **LUNAME=luname** および
DBALIAS=dbalias の参加者による未確定
トランザクションの解決でヒューリスティ
ック・ダメージが示されている - 参加者
はロールバックし **DB2** はコミットされま
した。トランザクションは **LUWID=luwid**
によって識別されます。

説明: **DB2** は、*luwid* によって識別されるトランザク
ションを担当する調整プログラムを持っています。参加
者による解決で、ヒューリスティック・ダメージが起こ
っているのが示されています。*luname* と *dbalias* によ
って識別される参加者は、手操作で未確定のトランザク
ションを解決しました。行われた処置は、**UOW** をロー
ルバックするものでした。これは調整プログラムのコミ
ットの決定に反しています。

- アプリケーションには、トランザクションのコミット
が伝えられました。
- 参加者側で更新されたリソースがロールバックされま
した。

luname

参加者の LU 名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した **XID** はこのメッセージにしたがっ
て印刷されます。

参加者による未確定の解決は完了します。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してくださ
い。

データベース管理者のアクション: ローカル・データベ
ース管理者と *luname* のデータベース管理者に、*luwid*
でトランザクションにヒューリスティック・ダメージが
起こったことを知らせてください。 **DB2** はトランザク
ションの調整プログラム側で、*luwid* が行なったデータ
ベースの更新を **COMMIT** する決定を行ないました。

luname で、*luwid* が行なった更新を **ROLL BACK** する
ヒューリスティック判定が行なわれました。

SPM0404 **LUNAME=luname1** の調整プログラムによ
る未確定トランザクションの解決中にプロ
トコル・エラー - **LUNAME=luname2** の
DB2 データベースには、**LUWID=luwid**
で識別される未確定トランザクションがあ
ります。

説明: **DB2** は、*luwid* によって識別されるトランザク
ションの **DRDA2 AS** でした。 **LUNAME=luname2** の

データベースと関連づけられた DB2 トランザクションは未確定です。 *luname1* によって識別される調整プログラムによる未確定の解決中にプロトコル・エラーが起きました。

luname1

調整プログラムとして活動しているパートナーの LU 名。

luname2

トランザクションが未確定のデータベースの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

未確定のトランザクションは未確定のまま残されます。再同期プロトコル違反トレース・レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者の処置: DB2 は未確定のトランザクションを自動的に解決しません。トランザクションを手操作で解決する必要があります。調整プログラム側で行われるコミットまたは打ち切りの決定は、この参加者の DB2 で同じ決定を行うことができるように決定されなければなりません。

luname と *dbalias* の調整プログラム側のデータベース管理者に連絡して、トランザクションがコミットされたか打ち切られたかを調べてください。

未確定トランザクションを解決するためには、この (参加者) *dbalias* で LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用してください。

SPM0405 **LUNAME=*luname1* の DB2 データベースの LUWID=*luwid* トランザクションは、LUNAME=*luname2* の調整プログラムとの通信障害のために、未確定です。**

説明: *luname2* で調整プログラムとの 2 フェーズ・コミット・プロトコルの実行中に、通信障害が起きました。プロトコルのフェーズ 1 は完了して、*luname1* のデータベースでトランザクションが未確定です。

このトランザクションは未確定状態に置かれて、LIST DRDA INDOUBTS TRANSACTIONS レポートに表示されます。自動的に解決するために調整プログラムとの通信を再確立する定期的な試みが行われます。

luname1

トランザクションが未確定のデータベースの LU 名。

luname2

調整プログラムの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

未確定の作業単位と関連した XID がこのメッセージにしたがって印刷されます。

未確定のトランザクションを自動的に解決する定期的な試みが行われます。

ユーザーの処置: 通信障害の原因を調べて、問題を訂正してください。DB2 は、自動的に解決するために通信の確立を試みます。妥当な時間内に自動的な解決が行われない場合には、データベース管理者に連絡してください。ロックされたリソースを解除するために、未確定のトランザクションを手操作で解決しなければならない場合があります。

データベース管理者の処置: 手操作による解決が必要な場合には、次のようにしてください。

- 調整プログラム側で行ったコミットまたは打ち切りの決定を調べて、DB2 データベースで同じ決定を行うことができるようにしてください。 *luname* の調整プログラム側のデータベース管理者に連絡して、トランザクションがコミットされたか打ち切られたかを調べてください。
- この (参加者の) *dbalias* で LIST INDOUBTS TRANSACTION コマンドを使用して、未確定のトランザクションを解決してください。

SPM0406 **LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者での LUWID=*luwid* のトランザクションは、通信障害のため未確定になる可能性があります。DB2 はコミットしました。**

説明: *luname* で参加者との 2 フェーズ・コミット・プロトコルの実行中に、通信障害が起きました。プロトコルのフェーズ 1 は完了して、コミットまたは打ち切りのためにトランザクションが準備されています。トランザクションをコミットする決定が行われましたが、この時点では参加者と通信することができません。参加者は未確定です。

DB2 は、参加者による未確定の解決を担当することになります。この担当は LIST DRDA INDOUBTS TRANSACTION レポートに表示されます。自動的に解決するために、参加者との通信を再確立する定期的な試みが行われます。

luname

参加者の LU 装置名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者の未確定のトランザクションを自動的に解決する定期的な試みが行われます。

ユーザーの処置: 通信障害の原因を調べて、問題を訂正してください。DB2 は、自動的に解決するために通信の再確立を試みます。妥当な時間内に自動的な解決が行われない場合には、データベース管理者に連絡してください。ロックされたリソースを解除するために、参加者側でトランザクションを手操作で解決しなければならない場合があります。

データベース管理者の処置: 手操作による解決が必要な場合には、参加者のデータベース管理者に、決定がコミットされることを知らせてください。

SPM0407 **LUNAME=luname** の参加者による **LUWID=luwid** トランザクションの自動的な解決によってコミットが行われました。**DB2 Universal Database** は **dbname** です。

説明: *dbname* で識別されるデータベースの未確定のトランザクションは、*luname* で識別される調整プログラムとの通信によって自動的に解決されました。トランザクションはコミットされました。

luname1
調整プログラムの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

luname2
変更が行われたデータベースの LU 名。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

処理は正常に続行されます。

SPM0408 **LUNAME=luname** を使ったパートナーとの自動解決中に、通信エラーが発生しました。使用された通信プロトコル=*protocol*。使用している通信 API=*api*。エラーを検出した通信関数=*function*。プロトコル固有エラー・コード: *rc1*、*rc2*、*rc3*

説明: 1 つ以上の未確定トランザクションが *luname* に存在します。DB2 が未確定のトランザクションを自動的に解決しようとしたのですが、通信エラーが起きました。

protocol

使用中の通信プロトコル。サポートされるのは "APPC" のみです。

api 使用中の通信 api。"CM2 APPC" または "SNA/6000 OS subroutine" のいずれかを指定することができます。

codes "CM2 APPC" api の場合には、*rc1*、*rc2*、および *rc3* に 1 次戻りコード、2 次戻りコード、および SNA センス・コードが入っています。"SNA/6000 OS Subroutines" api の場合には、*rc1* に *errno* グローバル変数が入っています。

ユーザーの処置: 通信障害の原因を調べて、問題を訂正してください。DB2 は、自動的に解決するために通信の再確立を試みます。妥当な時間内に自動的な解決が行われない場合には、データベース管理者に連絡してください。ロックされたリソースを解除するために、参加者側でトランザクションを手操作で解決しなければならない場合があります。

データベース管理者の処置: 手操作による解決が必要な場合には、参加者のデータベース管理者に、決定がコミットされることを知らせてください。

SPM0409 **LUWID=luwid** を持つトランザクションは、**LUNAME=luname** のコールド・スタートのため、解決できませんでした。**DB2** トランザクション状況=*status*。DB2 応答可能性=*responsibility*。

説明: *luname* のパートナーに未確定トランザクションが存在します。パートナーが前にコールド・スタートされていて、未確定トランザクションについてのすべての情報を失っているため、DB2 は未確定トランザクションを解決することができません。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

status DB2 に認識されるトランザクションのコミット状況。コミット状況は、未確定、コミット、またはロールバックのいずれかです。

responsibility
DB2 トランザクションの担当。DB2 は、調整プログラムまたは参加者のいずれかになります。

ユーザーの処置: 調整プログラムおよび参加者に矛盾するデータがあると考えられます。データベース管理者にトランザクションの状況を知らせてください。

データベース管理者の処置: 手操作による解決が必要です。ヒューリスティックな決定 (すなわち、トランザクションをコミットするか、打ち切るか) は、他の参加者あるいは調整プログラムと調整する必要があります。他

の参加者の存在を判別するのは容易ではありません。この情報は、調整プログラムがコールド・スタートしていても、調整プログラムのリカバリー・ログに入っていることがあります。

LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用して行われたコミットまたは打ち切りの決定は、ダウンストリームのすべての参加者 (存在すれば) に伝搬されます。

SPM0410 **LUNAME=luname** のパートナーによるウォーム・スタート接続が拒否されました。パートナーは、少なくとも次のうち 1 つを変更しました。当方側ログ名 *oldourname(newourname)*、相手側ログ名 *oldtheirname(newtheirname)*、同期点プロトコル *oldpa(newpa)*、送信されたフラグ・バイト *oldfb(newfb)*、送信された **ccluname** *oldcccls(newcccls)*。そして未確定トランザクションには解決が必要です。

説明: パートナーが通信の失われた時点で使用していたものとは違う同期点パラメーターを指定しているので、パートナーとのウォーム・スタート接続を行おうとする試みが拒否されました。DB2 は、パートナーに関係した (調整プログラムまたは参加者としての) 未確定のトランザクションについての情報を保存しています。このエラーは、パートナーが元の同期点パラメーターを指定して再始動できれば、リカバリー可能となります。それができない場合には、パートナーは DB2 とのコールド・スタート接続を実行しなければなりません。

luname

パートナーの LU 名。

oldourname

この DB2 サブシステムのログ名。この値は、パートナーがログ名の交換を開始していない場合には、ヌルです。

newourname

パートナーが記憶していて、ウォーム・スタート接続を行おうとして送信してきたこの DB2 サブシステムのログ名。この値は、パートナーがログ名の交換を開始していない場合には、ヌルです。

oldtheirname

最後の接続時にパートナーが使用して、DB2 が記憶しているログ名。

newtheirname

ウォーム・スタート接続を行おうとしてパートナーが使用したログ名。

oldpa 最後の接続時に使用された、DB2 が記憶して

いる同期点プロトコル (PA - 中止と見なされた、PN - 何もないと見なされた)。

newpa 最後の接続時に使用された、パートナーが記憶している同期点プロトコル (PA - 中止と見なされた、PN - 何もないと見なされた)。

oldfb 最後の接続時の、DB2 が記憶している PS ヘッダー・バイト 2 の使用法 (F - フラグ・バイトとして使用された、N - フラグ・バイトとして使用されなかった)。

newfb 最後の接続時の、パートナーが記憶している PS ヘッダー・バイト 2 の使用法 (F - フラグ・バイトとして使用された、N - フラグ・バイトとして使用されなかった)。

oldcccls

会話相関関係子が最後の接続中に、DB2 が記憶している同期点プロトコルの一部として交換されたかどうか (E - 交換された、N - 交換されなかった)。

newcccls

最後の接続時の、パートナーが記憶している、対話相互関係子の *luname* が同期点プロトコルの一部として交換されたかどうか (E - 交換された、N - 交換されなかった)。

パートナーとの接続は拒否されます。DB2 は未確定の情報を保存します。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: パートナー *luname* のデータベース管理者に連絡し、パートナーが同じ同期点パラメーター ('oldourname'、'oldtheirname'、'oldpa'、'oldfb'、'oldcccls') を、当方側のものとして使ってウォーム・スタートを実行できるかどうかを判別してください。これが可能であれば、次の接続は正常に行われます。

可能でない場合に考えられる解決法は次の 2 つです。

- パートナー *luname* に、この DB2 サブシステムとのコールド・スタート接続を実行させる。
- パートナーに次回はコールド・スタート接続で接続させる。

SPM0411 **LUNAME=luname** の調整プログラムによるコールド・スタート接続が受け入れられました。未確定のトランザクションは手操作で解決する必要があります。

説明: DB2 は DRDA2 AS で、未確定トランザクションを担当する参加者を持っています。調整プログラムは、コールド・スタート操作を実行していて、未確定ト

ランザクションについてのすべての情報を失ったことを DB2 に伝えています。この DB2 の未確定トランザクションは、LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用して手操作で解決されなければなりません。

dbalias

調整プログラムのデータベースの別名。

パートナーとの接続は受け入れられます。トレース・レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: DB2 は参加者で、調整プログラムが *luname* の 1 つまたは複数の未確定のトランザクションを持っています。 *luname* の DBMS がコールド・スタートを実行しました。 DB2 参加者は、調整プログラムのリカバリー・ログが失われたかまたは損傷があって、未確定のトランザクションを解決できないと見なしています。調整プログラム側に矛盾するデータがあると考えられます。

ヒューリスティックな決定 (すなわち、トランザクションをコミットするか、打ち切るか) は、他の参加者と調整する必要があります。他の参加者の存在を判別するのは容易ではありません。この情報は、調整プログラムがコールド・スタートしていても、調整プログラムのリカバリー・ログに入っていることがあります。

LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用して行われたコミットまたは打ち切りの決定は、ダウンストリームのすべての参加者 (存在すれば) に伝搬されません。

SPM0412 **LUNAME=*luname1* の調整プログラムの同期点通信でプロトコル・エラーが検出されました。 LUNAME=*luname2* の DB2 データベースにある LUWID=*luwid* を持つトランザクションが未確定の可能性があり**

説明: DB2 はこのトランザクションの参加者です。

luname で識別される調整プログラムとの SNA 同期点の交換中にプロトコル・エラーが起きました。このプロトコル・エラーは次のカテゴリーの 1 つに該当します。

- 不明の SNA PS ヘッダーが受信された。
- SNA PS ヘッダーが間違った順序で受信された。
- SNA PS ヘッダーの送達に、正しくない LU6.2 verb 順序列が使用された。
- 調整プログラムから DB2 が送信した PS ヘッダーにプロトコル違反を検出したことを示す DEALLOCATE TYPE(ABEND_SVC) が受信された。

luname1

調整プログラムの LU 名。

luname2

トランザクションが未確定のデータベースの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

コミット決定前にプロトコル・エラーが検出された場合は、LU 名=*luname2* のデータベースでトランザクションが未確定の可能性があり。プロトコル・エラーのために、DB2 はこのような未確定のトランザクションを自動的に解決しません。

コミットの決定後にプロトコル・エラーが検出された場合には、そのトランザクションはコミットまたは打ち切り処理を完了しています。

同期点プロトコル違反トレースが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者は、手操作で未確定のトランザクションを解決する必要があります。

データベース管理者の処置: トランザクションが未確定かどうかを調べてください。未確定の場合には、LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用して手操作で解決しなければなりません。調整プログラム側で行われるコミットまたは打ち切りの決定は、DB2 で同じ決定を行うことができるように決定されなければなりません。

調整プログラム *dbalias* のデータベース管理者に連絡して、LUWID=*luwid* のトランザクションがコミットされたか、または打ち切られたかを判別してください。

調整プログラムのシステムが別の DB2 である場合には、DB2 の調整プログラム側で次のステップに従ってコミットまたは打ち切りの決定を調べることができます。

SPM0413 **LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者との同期点通信でプロトコル・エラーが検出されました。 LUWID=*luwid* のトランザクションが、この参加者のところで未確定になっている可能性があります。 DB2 はコミットしました。**

説明: DB2 はトランザクションの調整プログラムです。 *luname* および *dbalias* で識別される参加者との SNA 同期点の交換中に、プロトコル・エラーが発生しました。このプロトコル・エラーは次のカテゴリーの 1 つに該当します。

- 不明の SNA PS ヘッダーが受信された。
- SNA PS ヘッダーが間違った順序で受信された。
- SNA PS ヘッダーの送達に、正しくない LU6.2 verb 順序列が使用された。
- 参加者から、DB2 が送信した PS ヘッダーにプロトコル違反を検出したことを示す DEALLOCATE TYPE(ABEND_SVC) が受信された。

luname

参加者の LU 名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid

トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

アプリケーションにトランザクションのコミットが伝えられた場合。

参加者側に未確定のトランザクションがある場合があり、その場合には未確定のトランザクションを手操作で解決しなければなりません。プロトコル・エラーのために、DB2 は未確定のトランザクションを自動的に解決しません。

同期点プロトコル違反のトレース・レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。参加者は未確定トランザクションを手操作で解決する必要があります。

SPM0414 **LUNAME=luname** および **DBALIAS=dbalias** を持つ参加者との未確定トランザクションの解決中に、プロトコル・エラーが発生しました。
LUWID=luwid のトランザクションが、この参加者のところで未確定になっている可能性があります。**DB2** はロールバックしました。

説明: DB2 は、ロールバックされたトランザクションを担当する調整プログラムを持っています。*luname* および *dbalias* で識別される参加者との未確定解決中に、プロトコル・エラーが発生しました。

参加者側のトランザクションは未確定のまま残されません。プロトコル違反のために、DB2 は未確定のトランザクションを自動的に解決しません。

luname

参加者の LU 名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid

トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

再同期プロトコル違反トレース・レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。参加者は未確定トランザクションを手操作で解決する必要があります。

データベース管理者の処置: 参加者側でトランザクションが未確定の場合には、手操作で (ヒューリスティックに) 解決しなければなりません。

SPM0415 **LUNAME=luname** の調整プログラムによる **LUWID=luwid** トランザクションの自動的な解決によってロールバックが行われました。**DB2 Universal Database** は *dbname* です。

説明: *dbname* で識別されるデータベースの未確定のトランザクションは、*luname* で識別される調整プログラムとの通信によって自動的に解決されました。トランザクションはロールバックされました。

luname1

調整プログラムの LU 名。

luwid

トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

luname2

変更が行われたデータベースの LU 名。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

処理は正常に続行されます。

SPM0416 **LUNAME luname** のパートナーによるコールド・スタート接続が拒否されました。

説明: DB2 は、パートナー *dbalias* とのコールド・スタート接続を試みました。パートナーがこの接続の試みを拒否しました。

luname

調整プログラムの LU 名。

接続は行われませんでした。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: DB2 は、パートナー

luname が DB2 とコールド・スタート接続できるまでパートナー *luname* に接続することはできません。パートナー *luname* のデータベース管理者に連絡してください。

さらに援助が必要な場合には、IBM サポート担当者に連絡してください。

SPM0417 **LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者との同期点通信でプロトコル・エラーが検出されました。LUWID=*luwid* のトランザクションが、この参加者のところで未確定になっている可能性があります。DB2 はロールバックしました。**

説明: DB2 はトランザクションの調整プログラムです。*luname* および *dbalias* で識別される参加者との SNA 同期点の交換中に、プロトコル・エラーが発生しました。このプロトコル・エラーは次のカテゴリの 1 つに該当します。

- 不明の SNA PS ヘッダーが受信された。
- SNA PS ヘッダーが間違った順序で受信された。
- SNA PS ヘッダーの送達に、正しくない LU6.2 verb 順序列が使用された。
- 参加者から、DB2 が送信した PS ヘッダーにプロトコル違反を検出したことを示す DEALLOCATE TYPE(ABEND_SVC) が受信された。

luname

参加者の LU 名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

アプリケーションにトランザクションのロールバックが伝えられた場合。

参加者側に未確定のトランザクションがある場合があり、その場合には未確定のトランザクションを手操作で解決しなければなりません。プロトコル・エラーのために、DB2 は未確定のトランザクションを自動的に解決しません。

同期点プロトコル違反のトレース・レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。参加者は未確定トランザクションを手操作で解決する必要があります。

SPM0420 **LUNAME=*luname* の参加者によるコールド・スタート接続が受け入れられました。損傷の可能性があります。**

説明: DB2 は、参加者側の未確定のトランザクションを担当する調整プログラムを持っていて、前にコールド・スタートしたために、未確定トランザクションについてのすべての情報を失った参加者と接続したところでは、参加者側に損傷のあることが考えられます。

luname

損傷があると考えられる参加者の LU 名。

パートナーとの接続は受け入れられます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: DB2 は調整プログラムで、*luname* の 1 つまたは複数の未確定の作業単位に対する未確定のトランザクションの解決を担当します。*luname* の DBMS がコールド・スタート接続を実行しました。DB2 は、参加者のリカバリー・ログが失われたかまたは損傷して、未確定のトランザクションの解決を行うことができないと見なしています。参加者側に矛盾するデータがあると考えられます。少なくとも、参加者は障害が起こった時点で未確定であったトランザクションの最終結果を完全には反映していません。

SPM0421 **LUNAME=*luname* のパートナーによる SNA XLN プロトコル違反。**

説明: DB2 が、指定された *luname* のパートナーとの SNA 交換ログ名 (XLN) の交換中にプロトコル違反を検出しました。

luname

正しくない XLN メッセージを送信したパートナーの LU 名。

リモート側との接続の試みが正常に実行されていません。XLN プロトコル違反のトレース・レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: リモート側のシステム・プログラマーに連絡してください。正しくない XLN メッセージはトレース・レコードに記録されています。リモート側で正しくない XLN メッセージの原因となったシステムの論理エラーを訂正する必要があります。

SPM0422 LUNAME=*luname* のパートナーによりウォーム・スタート接続は、このパートナーが当方側のログ名を誤って記憶していたため、拒否されました。当方側のログ名は *name1* で、パートナーはそれを *name2* と記憶していました。

説明: パートナーがログ名を *name2* として指定したので、パートナーとのウォーム・スタート接続の試みが拒否されました。このログ名は *name1* で、これはローカル DB2 の *luname* です。このエラーは、パートナーがログ名を *name1* と指定して再始動できれば、リカバリ可能となります。それができない場合には、パートナーは DB2 とのコールド・スタート接続を実行しなければなりません。

luname

接続が行われなかったパートナーの LU 名。

name1 こちら側に記憶されているログ名。

name2 パートナーが記憶していて、ウォーム・スタート接続を行おうとして送信したログ名。

パートナーとの接続は拒否されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: パートナー *luname* のデータベース管理者に連絡し、この DB2 の *luname* として指定されている当方側のログ名を使って、パートナーがウォーム・スタートを実行できるかどうかを判断してください。これが可能であれば、次の接続は正常に行われます。または、パートナー *luname* に DB2 とのコールド・スタート接続を実行させてください。

SPM0423 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* のパートナーとの LUWID=*luwid* のトランザクションの自動解決によりコミットが行われました。

説明: 未確定の作業単位は、参加者との通信によって自動的に解決されました。参加者にはコミットの決定が通知されました。

luname

参加者の LU 名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

処理は正常に続行されます。

SPM0424 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者との LUWID=*luwid* のトランザクションの自動解決により、ロールバックが行われました。

説明: 未確定の作業単位は、参加者との通信によって自動的に解決されました。参加者にはロールバックの決定が通知されました。

luname

参加者の LU 名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

処理は正常に続行されます。

SPM0425 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者での LUWID=*luwid* のトランザクションは、通信障害のため未確定になる可能性があります。DB2 はロールバックしました。

説明: *luname* で参加者との 2 フェーズ・コミット・プロトコルの実行中に、通信障害が起きました。プロトコルのフェーズ 1 は完了して、コミットまたは打ち切りのためにトランザクションが準備されています。トランザクションをロールバックする決定が行われましたが、この時点では参加者に通信することができません。参加者は未確定です。

DB2 は、参加者による未確定の解決を担当することになります。この担当は LIST DRDA INDOUBTS TRANSACTION レポートに表示されます。自動的に解決するために、参加者との通信を再確立する定期的な試みが行われます。

luname

参加者の LU 装置名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者の未確定のトランザクションを自動的に解決する定期的な試みが行われます。

ユーザーの処置: 通信障害の原因を調べて、問題を訂正

してください。DB2 は、自動的に解決するために通信の再確立を試みます。妥当な時間内に自動的な解決が行われない場合には、データベース管理者に連絡してください。ロックされたリソースを解除するために、参加者側でトランザクションを手操作で解決しなければならない場合があります。

データベース管理者の処置: 手操作による解決が必要な場合には、参加者のデータベース管理者に、決定がロールバックされることを知らせてください。

SPM0426 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者の未確定トランザクション解決中に、プロトコル・エラーが発生しました。 LUWID=*luwid* のトランザクションが、この参加者のところで未確定になっている可能性があります。 DB2 はコミットしました。

説明: DB2 は、コミットされたトランザクションを担当する調整プログラムを持っています。*luname* および *dbalias* で識別される参加者との未確定解決中に、プロトコル・エラーが発生しました。

参加者側のトランザクションは未確定のまま残されません。プロトコル違反のために、DB2 は未確定のトランザクションを自動的に解決しません。

luname 参加者の LU 名。

dbalias 参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

再同期プロトコル違反トレース・レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。参加者は未確定トランザクションを手操作で解決する必要があります。

データベース管理者の処置: 参加者側でトランザクションが未確定の場合には、手操作で (ヒューリスティックに) 解決しなければなりません。

SPM0434 同期点マネージャーを使用することができない - 通信レベルが正しくない。

説明: ローカル通信のリリース・レベルが最小のリリース・レベルより古いか、あるいはコミュニケーション・マネージャーが APPC SYNCLEVEL(SYNC) 対話をサポートするように正しく構成されていません。

保護対話を作成する試みは正常に実行されていません。

ユーザーの処置: SYNCLEVEL(SYNC) 対話をサポートするために必要な、正しい通信レベルをインストールして構成してください。

SPM0438 同期点マネージャー・リカバリー・ログが正しくありません。

説明: 同期点マネージャーのリカバリー・ログに矛盾があり、DB2 の始動処理中にリカバリーの実行に使用することができません。

ユーザーの処置: DRDA2 アプリケーション・サーバーに未確定のトランザクションが存在する場合があります。これらの未確定のトランザクションは手操作でリカバリーする必要があります。

データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者の処置: 同期点マネージャーを始動するために、*splmlog* ディレクトリーを消去して DB2 を始動してください。これで、DB2 が新しい同期点ログ・ファイルを作成して、すべての DRDA2 アプリケーション・サーバーとのコールド・スタート接続を確立することができます。

SPM0439 同期点マネージャー・リカバリー・ログに書き込もうとしているときに、同期点マネージャーにリカバリー不能なエラーが起きました。

説明: 同期点マネージャーのログに矛盾があり、使用することができません。DB2 の処理中に SPM ログに書き出そうとしているときに、リカバリー不能なエラーが検出されました。

ユーザーの処置: 同期点マネージャーは、新しい同期レベル (2 フェーズ) 接続を行うことができません。LIST DRDA INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを出して、未確定のトランザクションの状況を調べてください。

データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者の処置: 同期点マネージャーを始動するために、*splmlog* ディレクトリーを消去して DB2 を始動してください。これで、DB2 が新しい同期点ログ・ファイルを作成して、すべての DRDA2 アプリケーション・サーバーとのコールド・スタート接続を確立することができます。

SPM0440E *protocol* プロトコル・サポートの開始試行中に、エラーを検出しました。*function* からの戻りコードは *rc*。このエラーの原因として最も考えられるものは **SNA** が開始されていないことです。**DB2** を停止して **SNA** を開始し、**DB2** を再始動してください。

SPM0441 同期点マネージャーは、同期点マネージャー **LU** に使用可能ではありません。同期点マネージャー **LU** は *lu-name* で、**LU** プロファイルは *lu-profile* です。

説明: 同期点サポートは **DB2** では使用できません。原因として最も考えられるものは以下のとおりです。

1. **AIX SNA** 通信レベルが無効である。同期点サポートには **AIX SNA V2** またはそれ以上が必要です。
2. **AIX SNA V2** では、リカバリー・リソース・マネージャー (**RRM**) を使用できません。このパラメーターは **SNA** システム・デフォルトで検出されます。このパラメーターを使用可能にして、**SNA** プロファイルを検証し、次に **AIX SNA** および **DB2** の両方を停止して再始動してください。
3. **AIX SNA V3** では、リカバリー・リソース・マネージャー (**RRM**) は同期点マネージャー **LU** *lu-name* を使用できません。このパラメーターは **LU** *lu-name* に対する **LU** 定義で見つかります。このパラメーターを使用可能にして、**SNA** プロファイルを検証し、次に **AIX SNA** および **DB2** の両方を停止して再始動してください。

ユーザーの処置: 記述されている可能性に基づいて、原因を判別してください。訂正して再試行してください。

SPM0442 同期点マネージャーを使用できません。この失敗の原因として最も考えられるのは、*name* の名前では **CPIC** サイド情報プロファイルが存在しないことです。

説明: 同期点マネージャーは、名前 *name* の **CPIC** サイド情報プロファイルを必要としています。このプロファイルが見つからないか、あるいは誤った情報が入っています。

ユーザーの処置: このプロファイルを訂正、**SNA** プロファイルを検証、および **DB2** と **SNA** の両方を停止して再始動してください。同期点マネージャー・サポートを構成する方法については、「**DB2 Connect 概説**および**インストール**」を参照してください。

SPM0443 同期点マネージャーを使用できません。この失敗の原因として最も考えられるのは、同期点マネージャーを開始しているインスタンスが **AIX SNA** のトラステッド・グループ名のいずれにも属していないことです。

説明: 同期点マネージャー自体の初期化を行うためには、**DB2** を開始しているインスタンスが、**SNA** サポートで対話するための特定の権限を必要とします。**AIX SNA** では、これらのコマンドを出すユーザー ID がトラステッド・グループ名に入っていない必要があります。

ユーザーの処置: 「**SNA** システム・デフォルト」ダイアログで、トラステッド・グループ名として定義されているグループのいずれかに、同期点マネージャーを開始するインスタンスを追加してください。**AIX SNA** を停止し、再始動してください。**AIX Term** からログオフし、インスタンス ID にログオンし直し、さらに **DB2** を再始動してください。

それでも同期点マネージャーを開始できない場合、**AIX SNA** 用の最新 **PTF** を適用し、上の手順を再試行してください。

SPM0444 同期点マネージャーを使用できません。この失敗の原因として最も考えられるのは、*name* の名前ではトランザクション・プログラム・プロファイルが存在しないことです。

説明: 同期点マネージャーは、名前 *name* のトランザクション・プログラム・プロファイルが必要としています。このプロファイルが見つからないか、あるいは誤った情報が入っています。

ユーザーの処置: このプロファイルを訂正、**SNA** プロファイルを検証、および **DB2** と **SNA** の両方を停止して再始動してください。同期点マネージャー・サポートを構成する方法については、「**DB2 Connect 概説**および**インストール**」を参照してください。

SPM0445 トランザクション・プログラム *tp-name* が **DB2** で **listen** されません。これは重大エラーではありませんが、このトランザクション・プログラムが必要な場合には、**AIX SNA** 構成のトランザクション・プロファイルで定義されていないことを確認してください。

説明: 同期点マネージャー自体を初期化すると、同期点マネージャーが **listen** するトランザクション・プログラムを登録します。同期点マネージャーが示されている

TP の listen を行うためには、同期点マネージャーと AIX SNA の間に不整合がある TP を他で定義するトランザクション・プログラム・プロファイルがないことが必要です。このような不整合が存在する場合、AIX SNA が listen し、同期点マネージャーは listen しません。

ユーザーの処置: 示されている TP の listen を行うために同期点マネージャーが必要な場合、このトランザクション・プログラムを参照している TP プロファイルが他にないことを確認してください。同期点マネージャーはこのエラーに関係なく正常に開始します。

SPM0446E トランザクション・プログラム *tp-name* が DB2 で listen されません。これは重大エラーです。同期点マネージャーを開始できませんでした。原因として最も考えられるのは、データベース・マネージャー構成で同じ **SPM_NAME** を使用している同期点マネージャーを別のインスタンスが開始しているか、あるいは **Encina** ピアツーピア・ゲートウェイが同一マシンに存在し、指定のトランザクション・プログラムが **AIX SNA** トランザクション・プロファイルに定義されていることです。

説明: 同期点マネージャーがこの TP を登録しようと試みましたが、できませんでした。

ユーザーの処置: TP プロファイルを AIX SNA から除去してください。DB2 と AIX SNA の両方を停止して再始動します。

SPM0447E *protocol* プロトコル・サポートの開始試行中に、エラーを検出しました。*function* からの戻りコードは *rc*。このエラーの原因として最も可能性が高いのは、**LU lu-name** がすでに同期点管理で使用されているということです。**Encina** ピアツーピア・ゲートウェイまたは別の同期点マネージャーがこの **LU** を使用していないことを確認してください。

説明: LU は 1 つのアプリケーションによる同期点をサポートするものとして AIX SNA で登録されます。この場合、要求された同期点マネージャー LU はすでに登録済みです。原因として最も考えられるものは、ピア・ゲートウェイに対する **Encina** ピアがこの LU を同期点マネージャーとして使用しているか、あるいは別の DB2 インスタンスがこれを同期点マネージャーとして使用していることです。

ユーザーの処置: ユニークな LU が使用されるようなデータベース・マネージャー構成で **SPM_NAME** を変更してください。DB2 を停止して再始動します。

SPM0448E 同期点マネージャー・プロトコル・サポートを開始しようとした時にエラーが起きました。同期点マネージャーは、同期点サポート **LUNAME luname** の登録ができません。これは、この **LU** が **SNA API** クライアント使用のために構成されているためです。同期点マネージャーに対して別の **LU** を選択するか、あるいはこの **LU** に対するローカル **LU 6.2** 定義での **SNA API** クライアント使用を禁止してください。

説明: このエラーは、カスタマーが CS/NT 5.01 を使用して同期点マネージャーを開始しようとして、SNA API クライアント使用フラグが設定されているローカル LU 6.2 定義を使用している時に発生します。

ユーザーの処置: 別のローカル LU 6.2 (SNA API クライアント使用構成なし) を選択するか、ローカル LU 6.2 定義に対する SNA API クライアント使用フラグを使用不能にしてください。

SPM0449E 接続に失敗しました。この失敗の原因として考えられるのは、**CPIC** サイド情報プロファイル *profile1* で指定された **LU** が **CPIC** サイド情報プロファイル *profile2* で指定された同期点マネージャー **LU** と一致しないことです。

説明: ホスト・システムとの正しい通信を行うには、通信用に定義された **CPIC** サイド情報プロファイルが、構成済みの同期点マネージャーに対して定義されている LU と同じ名前を指定する必要があります。

ユーザーの処置: SNA **CPIC** サイド情報プロファイル *profile1* を正しい LU を指定して更新し、SNA プロファイルを検査して、SNA と DB2 の両方をいったん停止してから再始動して接続をやり直してください。

SPM0450E ライブラリーがロードできませんでした。アクセス許可が拒否されました。

説明: この問題の原因として最も考えられるのは、Windows NT のバグです。

ユーザーの処置: システムのすべてのネットワーク・ドライブとローカル **PATH** ステートメントが **PATH** ステートメントの終わりにあることを確認してください。「スタート/設定/コントロール パネル/システム/環境/システム/パス」を選択して、すべてのネットワーク・ドライブをパス・ステートメントの終わりに移動します。システムをシャットダウンして再始動してください。

SPM0451E MS SNA サーバーが始動されていません。

説明: SNA サーバーが始動していません。

ユーザーの処置: SNA サーバーを始動して DB2 を再始動してください。

SPM0452I データベース・マネージャー構成に指定されている SPM_NAME が、コントロール・ポイント名 name と同じではないことを確認してください。 SPM_NAME は一時的に temp-name で置き換えられています。

説明: SPM_NAME を制御点と同一名にすることはできません。SPM_NAME は一時的に代替名で置き換えられています。データベース・マネージャー構成ファイルは変更されていません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー構成ファイルの SPM_NAME を更新してください。制御点名ではない名前を指定してください。

SPM0453C Microsoft SNA サーバーが開始していないため、同期点マネージャーは開始されませんでした。

説明: この DB2 インスタンスは、同期点マネージャーを開始するよう構成されています。しかし、基礎 SNA スタック Microsoft SNA サーバーは開始されていません。そのため、同期点マネージャー・サポートを開始できません。

ユーザーの処置: Microsoft SNA サーバーを開始しなければなりません。コマンド DB2STOP FORCE を使用して、DB2 を停止してください。その後、以下のステップに従ってください。

1. スタート
2. 設定
3. コントロール パネル
4. 「サービス」をダブルクリック
5. SnaServer をクリック
6. 「開始」をクリック

Microsoft SNA サーバーが開始したら、コマンド DB2START を使用して DB2 を再始動してください。

SPM0454C LU 別名 lualias によって表される LU (LU) の排他的使用を必要としているため、同期点マネージャーは開始されませんでした。

説明: 同期点マネージャーは、論理装置 (LU) の排他的使用を必要としています。同期点マネージャーによって使用されている LU は、デフォルト発信ローカル APPC LU プールの一部として識別されています。そのため、この LU は、どのアプリケーションからも使用可能です。また LU は、SPM_NAME データベース・マネージャー構成パラメーターによって、同期点マネージャーに使用される LU としても識別されています。同期点マネージャーがこの LU の排他的使用を必要としているため、LU をデフォルト発信ローカル APPC LU プールのメンバーにすることはできません。

ユーザーの処置: LU がデフォルト発信ローカル APPC LU プールのメンバーになるよう LU 定義を変更するか、またはこのデフォルト・プールのメンバーではない LU に SPM_NAME 値を変更してください。SNA サーバーを停止および再始動してください。さらに DB2 を停止して再始動します。

同期点マネージャーが使用できるよう Microsoft SNA サーバー内の LU を定義する方法については、「DB2 Connect 概説およびインストール」または「DB2 Universal Database 概説およびインストール」を参照してください。

SPM0455C 同期点マネージャーは開始されませんでした。LU 別名 lualias によって表される LU (LU) が、同期点マネージャーによって使用されるよう正しく構成されていません。

説明: 同期点マネージャーを使用するには、同期点操作が可能になるよう LU を構成しなければなりません。

ユーザーの処置: 同期点操作が可能になるよう、また「クライアント」フィールドに SNA サーバーの名前が入るよう LU 定義を変更してください。SNA サーバーを再始動し、さらに DB2 を再始動してください。

同期点マネージャーが使用できるよう Microsoft SNA サーバー内の LU を定義する方法については、「DB2 Connect 概説およびインストール」または「DB2 Universal Database 概説およびインストール」を参照してください。

SPM0456C 同期点マネージャーは開始されませんでした。LU 別名 *lualias* によって表される LU (LU) の「クライアント」フィールドに、この SNA サーバーの名前が含まれていることを確認してください。

説明: 同期点マネージャーを開始するには、LU で同期点操作が可能でなければなりません。LU で同期点操作を可能にするには、「同期点サポートを可能にする」チェック・ボックスがチェックされ、この SNA サーバーの名前が「クライアント」フィールドに入っていることを確認してください。

この状況では、「同期点サポートを可能にする」チェック・ボックスはチェックされていますが、「クライアント」フィールドには何も入っていません。

ユーザーの処置: 同期点操作が可能になるよう、また「クライアント」フィールドに SNA サーバーの名前が入るよう LU 定義を変更してください。SNA サーバーを停止および再始動し、さらに DB2 を停止および再始動してください。

同期点マネージャーが使用できるよう Microsoft SNA サーバー内の LU を定義する方法については、「DB2 Connect 概説およびインストール」または「DB2 Universal Database 概説およびインストール」を参照してください。

SPM0457W すでに別の DB2 インスタンスが、トランザクション・プログラム DB2DRDA を listen しています。これは致命的エラーではありません。ただし、このインスタンスはトランザクション・プログラム DB2DRDA を listen しません。

説明: 同期点マネージャーが使用可能になっていないかぎり、トランザクション・プログラム DB2DRDA を listen できる DB2 インスタンスは 1 つだけです。

ユーザーの処置: DB2 レジストリー値 DB2SERVICETPINSTANCE をグローバル・レベルで定義して、トランザクション・プログラム DB2DRDA を listen するインスタンスを定義してください。その後、影響を受けたインスタンスをすべて再始動してください。

DB2 レジストリー値 DB2SERVICETPINSTANCE をグローバル・レベルで定義するには、以下のコマンドを使用してください。

```
db2set -g DB2SERVICETPINSTANCE=<instance-name>
```

ここで <instance-name> はインスタンスの名前です。

SPM0458W すでに別の DB2 インスタンスが、トランザクション・プログラム x'07'6DB (16 進 07F6C4C2) を listen しています。これは致命的エラーではありません。ただし、このインスタンスはトランザクション・プログラム x'07'6DB (16 進数 07F6C4C2) を listen しません。

説明: 同期点マネージャーが使用可能になっていないかぎり、トランザクション・プログラム x'07'6DB (16 進 07F6C4C2) を listen できる DB2 インスタンスは 1 つだけです。

ユーザーの処置: DB2 レジストリー値 DB2SERVICETPINSTANCE をグローバル・レベルで定義して、トランザクション・プログラム x'07'6DB (16 進 07F6C4C2) を listen するインスタンスを定義してください。その後、影響を受けたインスタンスをすべて再始動してください。

DB2 レジストリー値 DB2SERVICETPINSTANCE をグローバル・レベルで定義するには、以下のコマンドを使用してください。

```
db2set -g DB2SERVICETPINSTANCE=<instance-name>
```

ここで <instance-name> はインスタンスの名前です。

SPM0459W インストールされている SNA のバージョンには、この DB2 のバージョンとの互換性がありません。

説明: DB2 Connect (AIX 版) および DB2 Universal Database (AIX 版) V6.1 またはそれ以上には、SNA 接続のために IBM eNetwork Communication Server for AIX V5.0.3 またはそれ以上が必要です。

IBM Communication Server の必須バージョンは、このマシンにはインストールされていません。

ユーザーの処置: IBM eNetwork Communications Server for AIX V5.0.3 にアップグレードしなければなりません。PTF は、以下の URL でダウンロードすることができます。

<http://service.software.ibm.com/cgi-bin/support/rs6000.support/downloads>

「AIX General Software Fixes」、 「AIX Fix Distribution Service」、 「AIX Version 4」、 さらに「Search By PTF Number」を選択してください。検索ストリングとして `sna.rte` を入力します。「Find Fix」を選択してください。PTF がリストされるので、目的の PTF を選択して「Get Fix Package」をクリックし、指示に従ってください。

SPM0460W このマシンにインストールされている
Microsoft SNA サーバーのバージョン
は、同期点マネージャーをサポートして
いません。

説明: このインスタンスは、Microsoft SNA サーバーで
DB2 SNA 同期点マネージャーを使用するよう構成され
ています。このマシンにインストールされている
Microsoft SNA サーバーのバージョンは、同期点マネ
ージャーをサポートしていません。

ユーザーの処置: 同期点マネージャーを使用するには、
DB2 に Microsoft SNA サーバー V4 サービス・パック
3 またはそれ以上が必要です。

DB2 Universal Database (OS/390 版)、(OS/400 版)、ま
たは (VM/VSE 版)でマルチサイト更新を行うには、
Microsoft SNA サーバー V4 サービス・パック 3 また
はそれ以上をインストールしなければなりません。適切
なバージョンの Microsoft SNA サーバーをインストー
ルした後、DB2 Connect または DB2 Universal Database
を停止して再始動してください。

第 19 章 XML Extender のメッセージ

DXXA000I 列 <column_name> の使用可能化中。お待ちください。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DXXA001S ビルド <build_ID>、ファイル <file_name>、および行 <line_number> で予期しないエラーが発生しました。

説明: 予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラーが続く場合、IBM ソフトウェア・サービス提供者に連絡してください。エラーを報告する場合は、すべてのメッセージ・テキスト、トレース・ファイル、および問題の再現方法についての説明を必ず含めてください。

DXXA002I データベース <database> に接続中。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DXXA003E データベース <database> に接続できません。

説明: 指定されたデータベースが存在しないか、または破損しています。

ユーザーの処置:

1. データベースが正しく指定されていることを確認してください。
2. データベースが存在し、アクセス可能であることを確認してください。
3. データベースが破損しているかどうかを判別します。データベースが破損している場合は、バックアップからリカバリーするようデータベース管理者に依頼します。

DXXA004E データベース <database> を使用可能にできません。

説明: データベースはすでに使用可能であるか、または破損しています。

ユーザーの処置:

1. データベースが使用可能であるかどうかを確認します。

2. データベースが破損しているかどうかを判別します。データベースが破損している場合は、バックアップからリカバリーするようデータベース管理者に依頼します。

DXXA005I データベース <database> の使用可能化中。お待ちください。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DXXA006I データベース <database> は、正常に使用可能化されました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DXXA007E データベース <database> を使用不可にできません。

説明: データベースが XML 列またはコレクションを含んでいる場合、XML Extender はこれを使用不可にできません。

ユーザーの処置: 重要なデータのバックアップを取り、XML 列またはコレクションをすべて使用不可にし、表の更新またはドロップを行ってデータベースから XML データ・タイプをなくします。

DXXA008I 列 <column_name> を使用不可にしています。お待ちください。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DXXA009E Xcolumn タグが DAD ファイル内に指定されていません。

説明: このストアード・プロシージャは XML 列専用です。

ユーザーの処置: Xcolumn タグが DAD ファイル内に正しく指定されていることを確認してください。

DXXA010E DTD ID <dtid> の検索が失敗しました。

説明: XML Extender が列を使用可能にしようとした時、DTD ID を検出できませんでした (DTD ID は、文

書アクセス定義 (DAD) ファイルの中で DTD 用に指定された ID)。

ユーザーの処置: DTD ID の正しい値が DAD ファイルで指定されていることを確認してください。

DXXA011E DB2XML.XML_USAGE 表へのレコードの挿入が失敗しました。

説明: XML Extender が列を使用可能にしようとした時、DB2XML.XML_USAGE 表の中にレコードを挿入できませんでした。

ユーザーの処置: DB2XML.XML_USAGE 表が存在すること、および同じ名前のレコードが表にまだ存在しないことを確認します。

DXXA012E DB2XML.DTD_REF 表の更新が失敗しました。

説明: XML Extender が列を使用可能にしようとした時、DB2XML.DTD_REF 表を更新できませんでした。

ユーザーの処置: DB2XML.DTD_REF 表が存在することを確認してください。表が破壊されていないかどうか、また管理ユーザー ID が表を更新するために正しい権限を持っているかどうかを判別してください。

DXXA013E 表 <table_name> の変更が失敗しました。

説明: XML Extender が列を使用可能にしようとした時、指定された表を変更できませんでした。

ユーザーの処置: 表の変更に必要な特権を確認してください。

DXXA014E 指定された root ID 列: <root_id> は、表 <table_name> の単一の主キーではありません。

説明: 指定されたルート ID がキーではないか、または表 *table_name* のただ 1 つのキーではありません。

ユーザーの処置: 指定されたルート ID が、表のただ 1 つの主キーであることを確認してください。

DXXA015E 列 DXXROOT_ID は表 <table_name> に既に存在しています。

説明: 列 DXXROOT_ID は存在しますが、XML Extender が作成したものではありません。

ユーザーの処置: 列を使用可能にする時、異なった列名を使用することによって、ルート ID オプションに基本列を指定します。

DXXA016E 入力表 <table_name> が存在しません。

説明: XML Extender は、システム・カタログ内に指定された表を検出できませんでした。

ユーザーの処置: データベースに表が存在し、正しく指定されていることを確認してください。

DXXA017E 入力列 <column_name> が、指定した表 <table_name> に存在しません。

説明: XML Extender は、システム・カタログ内に列を検出できませんでした。

ユーザーの処置: ユーザー表内に列が存在することを確認してください。

DXXA018E 指定した列は XML データに対して使用可能化されていません。

説明: XML Extender が列を使用不可にしようとした時、DB2XML.XML_USAGE 表内に列を検出できませんでした。これは、この列が使用可能でないことを示します。列が XML 使用可能でなければ、これを使用不可にする必要はありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DXXA019E 列を使用可能化するのに必要な入力パラメーターが NULL です。

説明: `enable_column()` ストアド・プロシージャの必須入力パラメーターが NULL です。

ユーザーの処置: `enable_column()` ストアド・プロシージャのすべての入力パラメーターをチェックしてください。

DXXA020E 列が表 <table_name> に見つかりません。

説明: XML Extender がデフォルト・ビューを作成しようとした時、指定された表の中に列を検出できませんでした。

ユーザーの処置: 列および表名が正しく指定されていることを確認してください。

DXXA021E デフォルト・ビュー <default_view> を作成できません。

説明: XML Extender が列を使用可能化しようとした時、指定されたビューを作成できませんでした。

ユーザーの処置: デフォルト・ビュー名がユニークなものであることを確認してください。その名前のビューがすでに存在する場合は、ユニークな名前をデフォルト・

ビューに指定してください。

DXXA022I 列 <column_name> が使用可能化されました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DXXA023E DAD ファイルが見つかりません。

説明: XML Extender が列を使用不可にしようとした時、文書アクセス定義 (DAD) ファイルを検出できませんでした。

ユーザーの処置: 正しいデータベース名、表名、または列名を指定したことを確認してください。

DXXA024E システム・カタログ表にアクセス中に XML Extender で内部エラーが発生しました。

説明: XML Extender は、システム・カタログ表にアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: データベースが安定状態であることを確認してください。

DXXA025E デフォルト・ビュー <default_view> をドロップできません。

説明: XML Extender が列を使用不可にしようとした時、デフォルト・ビューをドロップできませんでした。

ユーザーの処置: XML Extender の管理ユーザー ID に、デフォルト・ビューのドロップに必要な特権があることを確認してください。

DXXA026E サイド表 <side_table> をドロップできません。

説明: XML Extender が列を使用不可にしようとした時、指定された表をドロップできませんでした。

ユーザーの処置: XML Extender の管理者ユーザー ID に、表のドロップに必要な特権があることを確認してください。

DXXA027E 列を使用不可にできませんでした。

説明: XML Extender は、内部トリガー障害のため、列を使用不可にできませんでした。

- システムのメモリーが不足している
- この名前のトリガーがない

ユーザーの処置: トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が

解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

DXXA028E 列を使用不可にできませんでした。

説明: XML Extender は、内部トリガー障害のため、列を使用不可にできませんでした。

- システムのメモリーが不足している
- この名前のトリガーがない

ユーザーの処置: トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

DXXA029E 列を使用不可にできませんでした。

説明: XML Extender は、内部トリガー障害のため、列を使用不可にできませんでした。

- システムのメモリーが不足している
- この名前のトリガーがない

ユーザーの処置: トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

DXXA030E 列を使用不可にできませんでした。

説明: XML Extender は、内部トリガー障害のため、列を使用不可にできませんでした。

- システムのメモリーが不足している
- この名前のトリガーがない

ユーザーの処置: トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

DXXA031E アプリケーション表の DXXROOT_ID 列値を NULL にリセットすることができませんでした。

説明: XML Extender が列を使用不可にしようとした時、アプリケーション表の DXXROOT_ID の値を NULL に設定できませんでした。

ユーザーの処置: XML Extender の管理者ユーザー ID に、アプリケーション表の変更に必要な特権があることを確認してください。

DXXA032E DB2XML.XML_USAGE 表内の
USAGE_COUNT の減分に失敗しまし
た。

説明: XML Extender が列を使用不可にしようとした
時、USAGE_COUNT 列の値を 1 つ減らすことができ
ませんでした。

ユーザーの処置: DB2XML.XML_USAGE 表が存在する
ことと、XML Extender 管理者ユーザー ID に、表の
更新に必要な特権があることを確認してください。

DXXA033E DB2XML.XML_USAGE 表から行を削除
しようとして失敗しました。

説明: XML Extender が列を使用不可にしようとした
時、DB2XML.XML_USAGE 表内のこの列に関連する
行を削除できませんでした。

ユーザーの処置: DB2XML.XML_USAGE 表が存在する
ことと、XML Extender 管理者ユーザー ID に、この
表の更新に必要な特権があることを確認してください。

DXXA034I XML Extender は列 <column_name> を
正常に使用不可にしました。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DXXA035I XML Extender はデータベース
<database> を使用不可にしています。お
待ちください。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DXXA036I XML Extender は、データベース
<database> を正常に使用不可にしまし
た。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DXXA037E 指定された表スペース名は 18 文字を超
えています。

説明: 表スペース名を英数字で 18 文字よりも長くする
ことはできません。

ユーザーの処置: 18 文字未満の名前を指定してくださ
い。

DXXA038E 指定されたデフォルト・ビュー名は 18
文字を超えています。

説明: デフォルト・ビュー名を英数字で 18 文字よりも
長くすることはできません。

ユーザーの処置: 18 文字未満の名前を指定してくださ
い。

DXXA039E 指定された ROOT_ID 名は 18 文字を超
えています。

説明: ROOT_ID 名を英数字で 18 文字よりも長くする
ことはできません。

ユーザーの処置: 18 文字以下の名前を指定してくださ
い。

DXXA046E サイド表 <side_table> を作成できませ
ん。

説明: XML Extender が列を使用可能化しようとした
時、指定されたサイド表を作成できませんでした。

ユーザーの処置: XML Extender の管理者ユーザー ID
に、サイド表の作成に必要な特権があることを確認して
ください。

DXXA047E 列を使用可能にできませんでした。

説明: XML Extender は、内部トリガー障害のため、列
を使用可能にできませんでした。

- DAD ファイルの構文に誤りがある
- システムのメモリーが不足している
- 同じ名前のトリガーが別にある

ユーザーの処置: トレース機能を使用してトレース・フ
ァイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が
解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に
連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

DXXA048E 列を使用可能にできませんでした。

説明: XML Extender は、内部トリガー障害のため、列
を使用可能にできませんでした。

- DAD ファイルの構文に誤りがある
- システムのメモリーが不足している
- 同じ名前のトリガーが別にある

ユーザーの処置: トレース機能を使用してトレース・フ
ァイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が
解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に
連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

DXXA049E 列を使用可能にできませんでした。

説明: XML Extender は、内部トリガー障害のため、列を使用可能にできませんでした。

- DAD ファイルの構文に誤りがある
- システムのメモリーが不足している
- 同じ名前のトリガーが別にある

ユーザーの処置: トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

DXXA050E 列を使用可能にできませんでした。

説明: XML Extender は、内部トリガー障害のため、列を使用可能にできませんでした。

- DAD ファイルの構文に誤りがある
- システムのメモリーが不足している
- 同じ名前のトリガーが別にある

ユーザーの処置: トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

DXXA051E 列を使用不可にできませんでした。

説明: XML Extender は、内部トリガー障害のため、列を使用不可にできませんでした。

- システムのメモリーが不足している
- この名前のトリガーがない

ユーザーの処置: トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

DXXA052E 列を使用不可にできませんでした。

説明: XML Extender は、内部トリガー障害のため、列を使用不可にできませんでした。

- DAD ファイルの構文に誤りがある
- システムのメモリーが不足している
- 同じ名前のトリガーが別にある

ユーザーの処置: トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

DXXA053E 列を使用可能にできませんでした。

説明: XML Extender は、内部トリガー障害のため、列を使用可能にできませんでした。

- DAD ファイルの構文に誤りがある
- システムのメモリーが不足している
- 同じ名前のトリガーが別にある

ユーザーの処置: トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

DXXA054E 列を使用可能にできませんでした。

説明: XML Extender は、内部トリガー障害のため、列を使用可能にできませんでした。

- DAD ファイルの構文に誤りがある
- システムのメモリーが不足している
- 同じ名前のトリガーが別にある

ユーザーの処置: トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

DXXA056E DAD ファイル内の妥当性検査値 `<validation_value>` は無効です。

説明: 文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の妥当性検査エレメントが正しくないか、またはエレメントがありません。

ユーザーの処置: 妥当性検査エレメントが DAD ファイル内に正しく指定されていることを確認してください。

DXXA057E DAD 内のサイド表名 `<side_table_name>` は無効です。

説明: 文書アクセス定義 (DAD) ファイル内のサイド表の名前属性が正しくないか、または属性がありません。

ユーザーの処置: サイド表の名前属性が DAD ファイル内に正しく指定されていることを確認してください。

DXXA058E DAD ファイル内の列名 `<column_name>` は無効です。

説明: 文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の列の名前属性が正しくないか、または属性がありません。

ユーザーの処置: 列の名前属性が DAD ファイル内に正しく指定されていることを確認してください。

DXXA059E DAD ファイル内のタイプ *<column_type>*
(列 *<column_name>*) が無効です。

説明: 文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の列のタイプ属性が正しくないか、または属性がありません。

ユーザーの処置: 列のタイプ属性が DAD ファイル内に正しく指定されていることを確認してください。

DXXA060E DAD ファイル内の *<column_name>* のパス属性 *<location_path>* が無効です。

説明: 文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の列のパス属性が正しくないか、または属性がありません。

ユーザーの処置: 列のパス属性が DAD ファイル内に正しく指定されていることを確認してください。

DXXA061E DAD ファイル内の *multi_occurrence* 属性 *<multi_occurrence>* (*<column_name>*) が無効です。

説明: 文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の列の *multi_occurrence* 属性が正しくないか、または属性がありません。

ユーザーの処置: 列の *multi_occurrence* 属性が DAD ファイル内に正しく指定されていることを確認してください。

DXXA062E *<column_name>* の列番号 (表 *<table_name>*) を検索することができません。

説明: XML Extender は、*table_name* 表の *column_name* の列番号をシステム・カタログから検索できませんでした。

ユーザーの処置: アプリケーション表が適正に定義されていることを確認してください。

DXXA063I コレクション *<collection_name>* を使用可能にしています。お待ちください。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DXXA064I コレクション *<collection_name>* を使用不可にしています。お待ちください。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DXXA065E ストアド・プロシージャ *<procedure_name>* の呼び出しに失敗しました。

説明: 共有ライブラリー *db2xml* をチェックして、許可が正しいかどうかを確認してください。

ユーザーの処置: クライアントにストアド・プロシージャを実行する許可があることを確認してください。

DXXA066I XML Extender は、コレクション *<collection_name>* を正常に使用不可にしました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DXXA067I XML Extender は、コレクション *<collection_name>* を正常に使用可能にしました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DXXA068I XML Extender は、トレースを正常にオンにしました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DXXA069I XML Extender は、トレースを正常にオフにしました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DXXA070W データベースはすでに使用可能になっています。

説明: データベースの使用可能化コマンドが、使用可能になっているデータベースに対して実行されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DXXA071W データベースはすでに使用不可になっています。

説明: データベースを使用不可にするコマンドが、すでに使用不可になっているデータベースに対して実行されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DXXA072E XML Extender はバインド・ファイルを見つけられませんでした。使用可能にする前にデータベースをバインドしてください。

説明: XML Extender は、データベースを使用可能にする前に自動的にバインドを試みましたが、バインド・ファイルを検出できませんでした。

ユーザーの処置: 使用可能にする前にデータベースをバインドしてください。

DXXA073E データベースがバインドされていません。 使用可能にする前にデータベースをバインドしてください。

説明: データベースがバインドされていません。使用可能にする前にデータベースをバインドしてください。

ユーザーの処置: 使用可能にする前にデータベースをバインドしてください。

DXXA074E パラメーター・タイプが間違っています。 ストアード・プロシージャーには **STRING** パラメーターを使用してください。

説明: ストアード・プロシージャーには **STRING** パラメーターを使用してください。

ユーザーの処置: 入力パラメーターが **STRING** タイプになるように宣言してください。

DXXA075E パラメーター・タイプが間違っています。 入力パラメーターには、**long** 型を使用してください。

説明: ストアード・プロシージャーは、入力パラメーターが **LONG** タイプになることを予期しています。

ユーザーの処置: 入力パラメーターが **LONG** タイプになるように宣言してください。

DXXA076E XML Extender のトレース・インスタンス ID が無効です。

説明: 提供されたインスタンス ID のトレースを開始できません。

ユーザーの処置: インスタンス ID が正しい iSeries ユーザー ID であるかどうか確認してください。

DXXA077E ライセンス・キーが無効です。 詳しくはサーバーのエラー・ログを参照してください。

説明: ソフトウェア・ライセンスの有効期限が切れているか、ライセンスを入手していません。

ユーザーの処置: サービス提供者に連絡して、新しいソフトウェア・ライセンスを入手してください。

DXXC000E 指定されたファイルをオープンできませんでした。

説明: XML Extender は、指定されたファイルを開くことができません。

ユーザーの処置: アプリケーション・ユーザー ID に、ファイルの読み取りおよび書き込み許可が与えられていることを確認してください。

DXXC001E 指定されたファイルが見つかりませんでした。

説明: XML Extender は、指定されたファイルを検出できませんでした。

ユーザーの処置: ファイルが存在し、パスが正しく指定されていることを確認してください。

DXXC002E ファイルを読み取れませんでした。

説明: XML Extender は、指定されたファイルからデータを読み取ることができません。

ユーザーの処置: アプリケーション・ユーザー ID に、ファイルの読み取り許可が与えられていることを確認してください。

DXXC003E 指定されたファイルに書き込めませんでした。

説明: XML Extender は、データをファイルに書き込むことができません。

ユーザーの処置: アプリケーション・ユーザー ID にファイルの書き込み許可が与えられていて、ファイル・システムに十分なスペースがあることを確認してください。

DXXC004E LOB ロケーターを操作することができませんでした: rc=<locator_rc>

説明: XML Extender は、指定されたロケーターを操作できませんでした。

ユーザーの処置: LOB ロケーターが正しく設定されていることを確認してください。

DXXC005E 入力ファイル・サイズが XMLVarchar サイズより大きいです。

説明: ファイル・サイズが XMLVarchar サイズより大きいいため、XML Extender がファイルからインポートできなかったデータがあります。

ユーザーの処置: XMLCLOB 列タイプを使用してください。

DXXC006E 入力ファイルが DB2 UDB LOB 制限を超えています。

説明: ファイル・サイズが XMLCLOB のサイズより大きいいため、XML Extender がファイルからインポートできなかったデータがあります。

ユーザーの処置: ファイルをより小さいオブジェクトに分解するか、または XML コレクションを使用してください。

DXXC007E ファイルから LOB ロケーターにデータを検索できませんでした。

説明: LOB ロケーターのバイト数がファイル・サイズと等しくありません。

ユーザーの処置: LOB ロケーターが正しく設定されていることを確認してください。

DXXC008E ファイル <file_name> を除去できませんでした。

説明: ファイルに共有アクセス違反があるか、またはファイルがまだ開いています。

ユーザーの処置: ファイルをクローズするか、またはファイルを保留にしているプロセスを停止してください。DB2 を停止してから、再始動する必要があります。

DXXC009E <directory> ディレクトリーにファイルを作成できませんでした。

説明: XML Extender は、ディレクトリー *directory* 内にファイルを作成することができません。

ユーザーの処置: ディレクトリーが存在し、アプリケーション・ユーザー ID にディレクトリーに対する書き込み許可が与えられており、ファイル・システムに十分なスペースがあることを確認してください。

DXXC010E ファイル <file_name> に書き込み中にエラーが発生しました。

説明: ファイル *file_name* に書き込み中にエラーがありました。

ユーザーの処置: ファイル・システムに十分なスペースがあることを確認してください。

DXXC011E トレース制御ファイルに書き込めませんでした。

説明: XML Extender は、データをトレース制御ファイルに書き込むことができません。

ユーザーの処置: アプリケーション・ユーザー ID にファイルの書き込み許可が与えられていて、ファイル・システムに十分なスペースがあることを確認してください。

DXXC012E 一時ファイルを作成できません。

説明: システム temp ディレクトリー内にファイルを作成できません。

ユーザーの処置: アプリケーション・ユーザー ID にディレクトリーに対する書き込み許可が与えられていて、ファイル・システムに十分なスペースがあることを確認してください。

DXXC013E 抽出 UDF の結果が UDF 戻りタイプのサイズ制限を超えています。

説明: 抽出 UDF が戻すデータは、その UDF の戻りタイプのサイズ制限内である必要があります。サイズ制限については、「DB2 UDB XML Extender 管理およびプログラミングのガイド」に定義が記載されています。たとえば、extractVarchar の結果は 4000 バイト (終了 NULL を含めて) 未満でなければなりません。

ユーザーの処置: 戻りタイプのサイズ制限がもっと大きい抽出 UDF を使用してください。制限は、extractChar() では 254 バイト、extractVarchar() では 4 KB、extractClob() では 2 GB です。

DXXD000E 無効な XML 文書がリジェクトされました。

説明: 無効な文書を表の中に保管しようとしていました。妥当性検査に失敗しました。

ユーザーの処置: 不可視の無効文字を表示できるエディターを使用して、この文書を DTD によってチェックしてください。このエラーを抑制するには、DAD ファイルの妥当性検査をオフにしてください。

DXXD001E 複数のパス <location_path> が存在しません。

説明: スカラー抽出関数が、複数回出現するロケーション・パスを使用しました。スカラー関数は、複数回出

現がないロケーション・パスのみを使用することができません。

ユーザーの処置: 表関数を使用してください (スカラー関数名の終わりに 's' を追加してください)。

DXXD002E サーチ・パスの位置 *<position>* 付近で構文エラーが発生しました。

説明: パス式の構文が正しくありません。

ユーザーの処置: 照会のサーチ・パス引き数を訂正してください。パス式の構文についての資料を参照してください。

DXXD003W パスが見つかりませんでした。 NULL が戻されました。

説明: パス式で指定されたエレメントまたは属性が XML 文書にありません。

ユーザーの処置: 指定したパスが正しいかどうか検査してください。

DXXG000E ファイル名 *<file_name>* が無効です。

説明: 無効なファイル名が指定されました。

ユーザーの処置: 正しいファイル名を指定して、再試行してください。

DXXG001E ビルド *<build_ID>*、ファイル *<file_name>*、および行 *<line_number>* で内部エラーが発生しました。

説明: XML Extender は内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サービス提供者に連絡してください。エラーを報告する場合、すべてのメッセージ、トレース・ファイル、およびエラーの再現方法についての説明を必ず知らせてください。

DXXG002E システムのメモリーが不足している

説明: XML Extender は、オペレーティング・システムからメモリーを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: いくつかのアプリケーションをクローズして再試行してください。問題が続く場合、ご使用のオペレーティング・システムの資料を参照してください。オペレーティング・システムによっては、問題を訂正するためにシステムをリブートする必要があります。

DXXG004E 無効な NULL パラメーター。

説明: 必要パラメーターの NULL 値が XML ストアード・プロシージャに渡されました。

ユーザーの処置: ストアード・プロシージャ呼び出しの引き数リストの中で、必要パラメーターをすべてチェックしてください。

DXXG005E パラメーターはサポートされていません。

説明: このパラメーターはこのリリースではサポートされません。将来のリリースでサポートされます。

ユーザーの処置: このパラメーターを NULL に設定してください。

DXXG006E 内部エラー CLISTATE=*<clistate>*, RC=*<cli_rc>*、ビルド *<build_ID>*、ファイル *<file_name>*、行 *<line_number>* CLIMSG=*<CLI_msg>*。

説明: CLI を使用中に XML Extender で内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サービス提供者に連絡してください。このエラーの原因は正しくないユーザー入力にあるものと考えられます。エラーを報告する場合、すべての出力メッセージ、トレース・ログ、および問題の再現方法についての説明を必ず知らせてください。可能であれば、DAD、XML 文書、および適用する表定義をすべて送付してください。

DXXG007E ロケール *<locale>* が DB2 UDB コード・ページ *<code_page>* と矛盾していません。

説明: サーバーのオペレーティング・システムのロケールが、DB2 UDB コード・ページと矛盾します。

ユーザーの処置: サーバーのオペレーティング・システムのロケール設定を修正して、DB2 を再起動してください。

DXXG008E ロケール *<locale>* はサポートされていません。

説明: サーバーのオペレーティング・システムのロケール設定が、コード・ページ表にありません。

ユーザーの処置: サーバーのオペレーティング・システムのロケール設定を修正して、DB2 を再起動してください。

DXXG017E *XML_Extender_constant* の制限が、ビルド *build_ID*、ファイル *file_name*、および行 *line_number* で超過しました。

説明: アプリケーションで制限表の値を超えているかどうかを、「XML Extender 管理とプログラミングのガイド」を参照して調べてください。制限を超えていない場合は、ソフトウェア・サービス提供者に連絡してください。エラーを報告する場合は、すべての出力メッセージ、トレース・ファイル、および問題の再現方法 (入力 DAD、XML 文書、表定義など) についての説明を必ず含めてください。

ユーザーの処置: サーバーのオペレーティング・システムのロケール設定を修正して、DB2 を再起動してください。

DXXM001W DB2 UDB エラーが発生しました。

説明: DB2 が指定されたエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 付随するメッセージでさらに詳細な説明が提供されていないか調べ、DB2 UDB メッセージおよび使用しているオペレーティング・システムの「メッセージおよびコード」の資料を参照してください。

DXXQ000E *<Element>* が DAD ファイルから欠落しています。

説明: 文書アクセス定義 (DAD) ファイル内に必須エレメントがありません。

ユーザーの処置: 欠落しているエレメントを DAD ファイルに追加してください。

DXXQ001E XML 生成のための SQL ステートメントが無効です。

説明: 文書アクセス定義 (DAD)、またはこれをオーバーライドするファイルの中の SQL ステートメントが無効です。XML 文書を生成するには SELECT ステートメントが必要です。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

DXXQ002E XML 文書を保持するためのストレージ・スペースを生成できません。

説明: システムのメモリーまたはディスク・スペースが不足しています。生成される XML 文書を保管するスペースがありません。

ユーザーの処置: 生成される文書の数制限を制限します。文書アクセス定義 (DAD) ファイルからいずれかの不要なエレメントや属性ノードを取り除くことによって、それ

ぞれの文書サイズを削減してください。

DXXQ003W 結果が最大を超えます。

説明: ユーザー定義の SQL 照会によって、指定した最大数以上の XML 文書が生成されます。指定された数の文書のみが戻されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。すべての文書が必要であれば、文書の最大数としてゼロを指定してください。

DXXQ004E 列 *<column_name>* は照会の結果にありません。

説明: 指定された列は、SQL 照会の結果には含まれません。

ユーザーの処置: 文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の指定された列名を変更して、SQL 照会の結果に含まれる列にしてください。または、SQL 照会を変更して、指定された列が結果に含まれるようにします。

DXXQ005E リレーショナル・マッピングが間違っています。エレメント *<element_name>* が、その子列 *<column_name>* より低いレベルになっています。

説明: SQL 照会の XML へのマッピングが正しくありません。

ユーザーの処置: SQL 照会の結果に含まれる列が、トップダウン順のリレーショナル階層になっていることを確認してください。また、それぞれのレベルが単一列候補キーで始まることを確認してください。そのようなキーが表にない場合、照会では表式および DB2 UDB 組み込み関数 *generate_unique()* を使用して、このキーを生成しなければなりません。

DXXQ006E *attribute_node* エレメントに名前がありません。

説明: 文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の *attribute_node* エレメントに名前属性がありません。

ユーザーの処置: すべての *attribute_node* の名前が DAD ファイル内に指定されていることを確認してください。

DXXQ007E *attribute_node* *<attribute_name>* に、列エレメントおよび *RDB_node* がありません。

説明: 文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の *attribute_node* エレメントに、列エレメントまたは *RDB_node* がありません。

ユーザーの処置: どの `attribute_node` にも、列エレメントまたは `RDB_node` が DAD ファイル内に指定されていることを確認してください。

DXXQ008E `text_node` エレメントは列エレメントがありません。

説明: 文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の `text_node` エレメントに、列エレメントがありません。

ユーザーの処置: どの `text_node` にも、列エレメントが DAD ファイル内に指定されていることを確認してください。

DXXQ009E 結果表 `<table_name>` が存在しません。

説明: 指定された結果表が、システム・カタログ内にありません。

ユーザーの処置: ストアード・プロシージャを呼び出す前に、結果表を作成してください。

DXXQ010E `<node_name>` の `RDB_node` が DAD ファイル内に表を持ちません。

説明: `attribute_node` または `text_node` の `RDB_node` には表が必要です。

ユーザーの処置: 文書アクセス定義 (DAD) ファイル内で、`attribute_node` または `text_node` の `RDB_node` の表を指定してください。

DXXQ011E `<node_name>` の `RDB_node` エレメントが DAD ファイル内に列を持ちません。

説明: `attribute_node` または `text_node` の `RDB_node` には列が必要です。

ユーザーの処置: 文書アクセス定義 (DAD) ファイル内で、`attribute_node` または `text_node` の `RDB_node` の列を指定してください。

DXXQ012E DAD でエラーが発生しました。

説明: DAD の処理中に XML Extender は予期したエレメントを検出できませんでした。

ユーザーの処置: DAD が有効な XML 文書であり、DAD DTD が必要とするすべてのエレメントを含んでいるかチェックしてください。DAD DTD に関する XML Extender 資料を参照してください。

DXXQ013E 表または列エレメントは、DAD ファイルに名前を持ちません。

説明: エレメントの表または列の名前が、文書アクセス定義 (DAD) ファイル内で指定されていなければなりません。

ユーザーの処置: 表または列エレメントの名前を DAD 内に指定してください。

DXXQ014E `element_node` エレメントに名前がありません。

説明: 文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の `element_node` エレメントに名前属性がありません。

ユーザーの処置: どの `element_node` エレメントにも、名前が DAD ファイル内に指定されていることを確認してください。

DXXQ015E 条件形式が無効です。

説明: 文書アクセス定義 (DAD) の条件エレメントの条件が、無効な形式です。

ユーザーの処置: 条件形式を有効なものにしてください。

DXXQ016E この `RDB_node` の表名は、DAD ファイルの先頭エレメントに定義されていません。

説明: すべての表は、文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の先頭エレメントの `RDB_node` で定義しなければなりません。サブエレメントの表は、先頭エレメントで定義された表と一致しなければなりません。この `RDB_node` 内の表名は、先頭エレメントの中にはありません。

ユーザーの処置: RDB ノードの表が、DAD ファイルの先頭エレメントの中で定義されることを確認してください。

DXXQ017E 結果表 `<table_name>` 内の列は小さすぎます。

説明: XML Extender の生成した XML 文書が大きすぎて、結果表の列の中に入りません。

ユーザーの処置: 結果表をドロップします。より大きな列を使用して別の結果表を作成します。ストアード・プロシージャを再実行します。

DXXQ018E ORDER BY 文節が SQL ステートメントから欠落しています。

説明: SQL を XML にマップする文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の SQL ステートメントに、ORDER BY 文節がありません。

ユーザーの処置: DAD ファイルを編集します。エンティティを識別する列を含む ORDER BY 文節を追加します。

DXXQ019E エlement objids は DAD ファイル内に列Elementを持ちません。

説明: Element objids は、SQL を XML にマップする文書アクセス定義 (DAD) ファイルに列Elementを持ちません。

ユーザーの処置: DAD ファイルを編集します。Element objids のサブElementとしてキー列を追加してください。

DXXQ020I XML が正常に生成されました。

説明: 要求された XML 文書が、正常にデータベースから生成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DXXQ021E 表 <table_name> に列 <column_name> がありません。

説明: 表には、指定された列がデータベース内にありません。

ユーザーの処置: DAD で別の列名を指定するか、または指定された列を表データベースの中に追加します。

DXXQ022E <table_name> の列 <column_name> はタイプ <type_name> ではありません。

説明: 列のタイプが正しくありません。

ユーザーの処置: 文書アクセス定義 (DAD) 内の列タイプを訂正してください。

DXXQ023E 列 <column_name> (<table_name>) は <length> より長くすることはできません。

説明: DAD 内の列の定義が長すぎます。

ユーザーの処置: 文書アクセス定義 (DAD) 内の列の長さを訂正してください。

DXXQ024E 表 <table_name> を作成できません。

説明: 指定された表を作成できません。

ユーザーの処置: 表を作成しているユーザー ID に、データベース内で表を作成するために必要な権限があることを確認してください。

DXXQ025I XML が正常に分解されました。

説明: XML 文書が正常に分解され、コレクション内に保管されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DXXQ026E XML データ <xml_name> は列 <column_name> には大きすぎます。

説明: XML 文書からの指定されたデータが大きすぎて、指定された列の中に入りません。

ユーザーの処置: ALTER TABLE ステートメントによって列の長さを長くするか、または XML 文書を編集してデータのサイズを小さくします。

**DXXQ028E コレクションを見つけられません:
XML_USAGE 表からの
<collection_name>。**

説明: コレクション用のレコードが XML_USAGE 表内で検出できません。

ユーザーの処置: コレクションを使用可能にしたかどうか確認してください。

**DXXQ029E 表 XML_USAGE 内に DAD を見つけられませんでした。コレクション:
<collection_name>。**

説明: コレクション用の DAD レコードが XML_USAGE 表内で検出できません。

ユーザーの処置: コレクションを正しく使用可能にしたかどうか確認してください。

DXXQ030E 不正な XML 変更の構文です。

説明: ストアード・プロシージャ内に正しくない XML_override 値が指定されています。

ユーザーの処置: XML_override の構文が正しいか確認してください。

DXXQ031E 表名は DB2 で許可されている最大長より長くすることはできません。

説明: DAD 内の条件エレメントによって指定されている表名が長すぎます。

ユーザーの処置: 文書アクセス定義 (DAD) 内の表名の長さを訂正してください。

DXXQ032E 列名は DB2 で許可されている最大長より長くすることはできません。

説明: DAD 内の条件エレメントによって指定されている列名が長すぎます。

ユーザーの処置: 文書アクセス定義 (DAD) 内の列名の長さを訂正してください。

DXXQ033E <identifier> で開始する ID が無効です。

説明: スtringが有効な DB2 UDB SQL ID ではありません。

ユーザーの処置: DB2 UDB SQL ID の規則に準拠するように DAD 内のStringを訂正してください。

DXXQ034E DAD のトップ RDB_node の状態エレメントが無効です : <condition>

説明: 条件エレメントは、論理積 AND によって接続された結合条件から成る有効な WHERE 文節でなければなりません。

ユーザーの処置: DAD 内の結合条件の正しい構文については、XML Extender 資料を参照してください。

DXXQ035E DAD のトップ RDB_node の結合状態が無効です : <condition>

説明: 最上位の RDB_node の条件エレメント内の列名は、DAD が複数の表を指定する場合には表名で修飾されなければなりません。

ユーザーの処置: DAD 内の結合条件の正しい構文については、XML Extender 資料を参照してください。

DXXQ036E DAD 状態タグの下に指定されているスキーマ名が長過ぎます。

説明: DAD 状態タグの下にあるテキストを解析しているときにエラーが検出されました。状態テキストの ID を修飾しているスキーマ名が長すぎます。

ユーザーの処置: 文書アクセス定義 (DAD) 内の状態タグのテキストを修正してください。

DXXQ037E 複数回出現のある <element> を生成できません。

説明: エレメント・ノードとその子にはデータベースへのマップがありませんが、その multi_occurrence が YES となっています。

ユーザーの処置: multi_occurrence を NO に設定するか、そのノードの子のいずれかに RDB_node を作成することによって DAD を修正してください。

DXXQ038E SQL ステートメントが長すぎます: SQL_statement

説明: DAD の <SQL_stmt> エレメントに指定されている SQL ステートメントが、許可されているバイト数を超えています。

ユーザーの処置: SQL ステートメントの長さを、Windows および UNIX では 32765 バイト以下、OS/390 および iSeries では 16380 バイト以下にしてください。

DXXQ039E DAD ファイル内の表に指定された列が多すぎます。

説明: 分解または RDB 合成のために使用される DAD ファイルには、同じ表内のユニークな列を指定する text_node エレメントと attribute_node エレメントを 100 個までしか入れられません。

ユーザーの処置: 同じ表内のユニークな列を参照する text_node と attribute_node のエレメント合計数を 100 以下に減らしてください。

DXXQ040E DAD ファイル内のエレメント名 <element_name> が無効です。

説明: 文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の指定されたエレメント名が正しくありません。

ユーザーの処置: エレメント名が DAD ファイルに正確に入力されているか、確認してください。DAD ファイルのための DTD を調べてください。

DXXQ041W XML 文書が正常に生成されました。指定されている 1 つ以上のオーバーライド・パスは無効であり、無視されます。

説明: オーバーライド・パスはただ 1 つだけ指定してください。

ユーザーの処置: エレメント名が DAD ファイルに正確に入力されているか、確認してください。DAD ファイルのための DTD を調べてください。

DXXQ043E 属性 `<attr_name>` がエレメント `<elem_name>` の下で見つかりません。

説明: 属性 `<attr_name>` が、エレメント `<elem_name>` またはその子エレメントの 1 つにありません。

ユーザーの処置: XML 文書で DAD が必要とするところには、属性が入っているようにしてください。

DXXQ044E エレメント `<elem_name>` に上位エレメント `<ancestor>` がありません。

説明: DAD によれば、`<ancestor` は `<elem_name>` の上位エレメントです。この XML 文書には、1 つまたは複数の `<elem_name>` で、このような上位エレメントがありません。

ユーザーの処置: XML 文書内のエレメントのネストが、対応する DAD における指定に準拠しているか、確認してください。

DXXQ045E エレメント `<elem_name>` の下のサブツリーは、`<attrib_name>` と命名された複数の属性を持っています。

説明: XML 文書内の `<elem_name>` 下のサブツリーには、属性 `<attrib_name>` の複数のインスタンスが入っています。この属性は、DAD に従って、同じ行に分解されることとなります。分解されるエレメントまたは属性は、ユニークな名前をもっている必要があります。

ユーザーの処置: サブツリー内のエレメントまたは属性にユニークな名前が付いているか、確認してください。

DXXQ046W DAD 内に DTD ID が見つかりません。

説明: DAD において VALIDATION が YES ですが、DTDID エレメントが指定されていません。妥当性検査は行われません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。妥当性検査が必要であれば、DAD ファイル内で DTDID エレメントを指定してください。

DXXQ047E 行 `<mv>linenumber</mv>` 列 `colnumber: msg` でパーサー・エラーが発生しました

説明: パーサーは、報告されたエラーのために、文書を解析できませんでした。

ユーザーの処置: 必要ならば、XML の指定を調べて、文書内のエラーを訂正してください。

DXXQ048E 内部エラー - トレース・ファイルを参照してください。

説明: スタイルシートのプロセッサが内部エラーを戻しました。XML 文書またはスタイルシートが有効ではない可能性があります。

ユーザーの処置: XML 文書とスタイルシートが有効であるか、確認してください。

DXXQ049E 出力ファイルはすでに存在します。

説明: 指定された出力ファイルは、このディレクトリーにすでに存在しています。

ユーザーの処置: 出力文書の出力パスまたはファイル名をユニークな名前に変更するか、または既存のファイルを削除してください。

DXXQ050E ユニーク・ファイル名を作成できません。

説明: UDF にアクセス権がないか、生成可能なすべてのファイル名が使用されているか、またはディレクトリーが存在しないため、UDF は指定のディレクトリーに出力文書のためのユニークなファイル名を作成できませんでした。

ユーザーの処置: UDF に指定のディレクトリーに対するアクセス権があることを確認し、使用できるファイル名をもったディレクトリーに変更してください。

DXXQ051E 入力データまたは出力データがありません。

説明: 入力または出力パラメーターの中に有効な値を持っていないものがあります。

ユーザーの処置: 必要パラメーターが欠落していないか、ステートメントをチェックしてください。

DXXQ052E DB2XML.XML_USAGE 表にアクセス中にエラーが発生しました。

説明: データベースが使用可能になっていないか、または、表 DB2XML.XML_USAGE がドロップされていません。

ユーザーの処置: データベースが使用可能になっていて、表 DB2XML.XML_USAGE がアクセス可能であるか、確認してください。

DXXQ053E SQL ステートメントが失敗しました :
msg

説明: XML Extender 処理時に生成された SQL ステートメントは、実行に失敗しました。

ユーザーの処置: 詳細をトレースで調べてください。エラー状態を訂正できない場合は、ソフトウェア・サービス提供者に連絡してください。エラーを報告する場合、すべてのメッセージ、トレース・ファイル、およびエラーの再現方法についての説明を必ず知らせてください。

DXXQ054E 無効な入力パラメーター: *param*

説明: ストアード・プロシージャまたは UDF に対して指定された入力パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: 関係のあるストアード・プロシージャまたは UDF の署名をチェックし、実際の入力パラメーターが正しいか、確認してください。

DXXQ055E ICU エラー: *uerror*

説明: 変換操作中に ICU エラーが見つかりました。

ユーザーの処置: エラーをソフトウェア・サービス・プロバイダーに報告してください。トレース・ファイル、エラー・メッセージ、エラーを再現するための説明を含めてください。

DXXQ056E エlementまたは属性の *xmlname* は外部キー (テーブル *table* 内の列 *column*) の一部として指定された列にマップすることはできません。

説明: 指定されたElementまたは属性は外部キーの一部として指定された列にマップすることはできません。外部キーのためのデータ値は主キーのデータ値により決定されます。xml 文書内の指定されたElementまたは属性を表および列にマッピングする必要はありません。

ユーザーの処置: DAD 内の指定された列および表にマップされた RDB_node を除去してください。

DXXQ057E schemabindings と DTDID タグが DAD ファイルに共に存在することはできません。

説明: schemabindings と DTDID タグが DAD ファイルに共に存在することはできません。

ユーザーの処置: schemabindings タグまたは DTDID タグの両方ではなく、どちらかが DAD ファイルに存在していることを確認してください。

DXXQ058E schemabindings タグ内の nonamespacelocation タグが DAD ファイル内で欠落しています。

説明: schemabindings タグ内の nonamespacelocation タグが DAD ファイル内で欠落しています。

ユーザーの処置: nonamespacelocation タグを schemabindings タグに追加してください。

DXXQ059E doctype タグは、スキーマの妥当性検査に使用する DAD ファイルの XCollection タグ内に配置できません。

説明: doctype タグは、スキーマの妥当性検査に使用する DAD ファイルの XCollection タグ内に配置できません。

ユーザーの処置: Xcollection タグ内の doctype タグをスキーマ妥当性検査のために除去します。

DXXQ060E スキーマ ID *schemaid* の検索が失敗しました。

説明: XML Extender は、列を使用可能にする試みている間にスキーマ ID を検出できませんでした。スキーマ ID は DAD ファイルの schemabindings タグ内にある、nonamespacelocation タグのロケーション属性の値に相当します。

ユーザーの処置: スキーマ ID の正しい値が DAD ファイルで指定されていることを確認してください。

DXXQ061E スtringの形式が無効です。

説明: String表記の形式が無効です。Stringが、日付、時間、またはタイム・スタンプ値の場合、構文はそのデータ・タイプに準拠しません。

ユーザーの処置: 日付、時間、またはタイム・スタンプ値の形式がそのデータ・タイプの形式に準拠するか確認してください。

DXXQ062E table 用の結果セットの行は、element 用の XML 値を生成するために残されていません。

説明: このエラー状態は指定されたElementまたは属性の親 element_node 上の multi_occurrence = YES 指定が欠落していることが原因で通常発生します。

ユーザーの処置: 親 element_nodes 上の multi_occurrence 値が、子 element_nodes の数指定を正確に反映しているかどうか DAD を確認してください。

DXXQ063E DAD ファイル内の elementname 上の multi_occurrence 属性値は無効です。

説明: 文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の指定された element_node の multi_occurrence 属性の値が正しくないか、または属性がありません。値は、大文字小文字を区別しない、'yes' または 'no' である必要があります。

ユーザーの処置: multi_occurrence 属性が DAD ファイル内に正しく指定されていることを確認してください。

DXXQ064E 外部テーブル *table* 内の列 *column* が見つかりません。

説明: 結合条件で指定されたキー列はどのエレメントまたは属性ノードにもマップされませんでした。

ユーザーの処置: DAD ファイル内で指定された結合条件が適切か、またすべてのキー列がエレメントまたは属性ノードにマップされているかを確認してください。

DXXQ065I XML を使用可能な列に関するすべてのトリガーが正常に再生成されました。

説明: これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DXXQ066E 表 *tablename* の主キーがありません。

説明: 列が XML 用に使用可能になった後で、表の主キーがドロップされていないことを確認してください。テーブル用の主キーが XML 用に列を使用可能にした後にドロップしていないか確認してください。

ユーザーの処置: XML 用に列を使用可能にした場合、ルート ID として指定された主キーを追加するために表を変更します。

DXXQ067E *action* の実行が失敗しました。

説明: *action* の実行中に、SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サービス提供者に連絡してください。エラーを報告する場合、XML Extender トレース・ファイルを必ず含めてください。

DXXQ068E 現行の SQLID を [userid] に設定できません。SQLCODE = [sqlcode]。

説明: 現行の SQLID を 2 次許可 ID に設定する間に、SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 有効な 2 次許可 ID を指定しているかどうか、ID に対する権限を持っているかどうかを確認してください。

付録 A. SPM プロトコル違反レコード

このセクションは、同期点マネージャーによって生成されるプロトコル違反レコードを示します。これらのレコードは基本障害保守ログ (db2diag.log) に送られ、対応するメッセージの後に記録されます。

Resync プロトコル違反レコード

```
/*
 * SQLCSPM_RESYNC_PROTOCOL_VIOLATION_206 - Resync Protocol error.
 *
 * This trace is produced when a protocol error occurs during a Resync Compare
 * States (CS) exchange with a remote LU. The following are examples of SNA
 * Compare States protocol errors:
 *   * an unknown STATE was found in the SNA CS message
 *   * an invalid data message was received from the remote site
 *   * an invalid LU6.2 verb sequence was detected
 *
 *****/
#define SQLCSPM_RPV_206_T "SQLCSPM_RESYNC_PROTOCOL_VIOLATION_206" /* Title */
typedef struct sqlcspm_resync_protocol_violation_206
{
    SQLCSPM_LUNAME luname; /* Site involved in violation. */
    SQLCSPM_LUWID luwid; /* LUWID for the unit of work. */
    SQLXA_XID xid; /* XID of the thread. */
    char role; /* Role of DB2 in LUW -- C or P.
                /* C for coordinator.
                /* P for participant.
    char status; /* Local thread status -- C, A or I
                /* C for COMMIT.
                /* A for ABORT.
                /* I for INDOUBT.
    SQLCSPM_TRACE comm_trace; /* Communication trace of violation.
} SQLCSPM_RESYNC_PROTOCOL_VIOLATION_206;
```

Syncpoint プロトコル違反レコード

```
/*
 * SQLCSPM_2PHASE_PROTOCOL_VIOLATION_208 - SNA syncpoint protocol error.
 *
 * This trace is produced when a protocol error occurs during the SNA
 * syncpoint process with a remote LU. The following are examples of SNA
 * syncpoint protocol errors:
 *   * an unknown SNA PS header was received.
 *   * an SNA PS header was received in the wrong sequence.
 *   * an invalid LU6.2 verb sequence was detected.
 *   * the remote site issued DEALLOCATE TYPE (ABEND_SVC).
 *
 *****/
#define SQLCSPM_2PPV_208_T "SQLCSPM_2PHASE_PROTOCOL_VIOLATION_208" /* Title */
typedef struct sqlcspm_2phase_protocol_violation_208
{
    SQLCSPM_LUNAME luname; /* Site involved in violation. */
    SQLCSPM_LUWID luwid; /* LUWID for the unit of work. */
    SQLXA_XID xid; /* XID of the thread. */
    char role; /* Role of DB2 in LUW -- C or P.
                /* C for coordinator.
                /* P for participant.
    char local_status; /* Local thread status -- C, A or I
                /* C for COMMIT.
}
```

```

char partner_status; /* A for ABORT. */
/* I for INDOUBT. */
/* Partner thread status -- C, A or I */
/* C for COMMIT. */
/* A for ABORT. */
/* I for INDOUBT. */
SQLCSPS_TRACE comm_trace; /* Communication trace of violation. */
} SQLCSPM_2PHASE_PROTOCOL_VIOLATION_208;

```

XLN プロトコル違反レコード

```

/*****
* SQLCSPM_XLN_PROTOCOL_VIOLATION_236 - SNA XLN protocol error.
*
* This trace is produced when a protocol error occurs during the SNA
* syncpoint process with a remote LU. The following are examples of SNA
* syncpoint protocol errors:
* * an unknown SNA PS header was received.
* * an SNA PS header was received in the wrong sequence.
* * an invalid LU6.2 verb sequence was detected.
* * the remote site issued DEALLOCATE TYPE(ABEND_SVC).
*****/
#define SQLCSPM_XPV_236_T "SQLCSPM_XLN_PROTOCOL_VIOLATION_236" /* Title */
typedef struct sqlcspm_xln_protocol_violation_236
{
    SQLCSPM_LUNAME luname; /* Site involved in violation. */
    SQLCSPX_XLN_INF xln_inf; /* Current XLN information
                             in LUB. */
    SQLCSPX_XLN_INF txln_inf; /* Temporary XLN information
                              in LUB. */
    SQLCSPM_GDSAREA xln; /* Current XLN GDS being
                        processed. */
    SQLCSPS_TRACE comm_trace; /* Communication trace of violation. */
} SQLCSPM_XLN_PROTOCOL_VIOLATION_236;

```

付録 B. DB2 Universal Database 技術情報

DB2 資料とヘルプ

DB2[®] 技術情報は、以下のツールと方法を介して利用できます。

- DB2 インフォメーション・センター
 - トピック
 - DB2 ツールのヘルプ
 - サンプル・プログラム
 - チュートリアル
- ダウンロード可能な PDF ファイル、CD 上の PDF ファイル、および印刷された資料
 - ガイド
 - リファレンス・マニュアル
- コマンド行ヘルプ
 - コマンド・ヘルプ
 - メッセージ・ヘルプ
 - SQL 状態ヘルプ
- インストール済みソース・コード
 - サンプル・プログラム

ibm.com[®] にある技術資料、白書、Redbooks[™] その他の DB2 Universal Database[™] 技術情報にオンラインでアクセスできます。DB2 Information Management ソフトウェア・ライブラリー・サイト (www.ibm.com/software/data/pubs/) にアクセスしてください。

DB2 資料の更新

IBM[®] は、DB2 インフォメーション・センターの資料のフィックスパックやその他の資料更新を定期的に発行しています。DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/>) にアクセスすれば、常に最新の情報が掲載されます。DB2 インフォメーション・センターをローカル・インストールしている場合、更新記事を表示するには、まず手動で更新をインストールしてください。新しい情報が発表されたときに資料を更新することにより、DB2 インフォメーション・センター CD からインストールした情報を更新することができます。

インフォメーション・センターの方が、PDF 資料やハードコピー資料よりも頻繁に更新されます。DB2 の最新の技術情報を入手するには、資料更新が発行されたときにそれをインストールするか、または www.ibm.com サイトの DB2 インフォメーション・センターにアクセスしてください。

関連概念:

- 「コール・レベル・インターフェース ガイドおよびリファレンス 第 1 巻」の『CLI サンプル・プログラム』

- 「アプリケーション開発ガイド アプリケーションの構築および実行」の『Java サンプル・プログラム』
- 656 ページの『DB2 インフォメーション・センター』

関連タスク:

- 677 ページの『DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す』
- 667 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール』
- 678 ページの『コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを呼び出す』
- 678 ページの『コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼び出す』
- 679 ページの『コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを呼び出す』

関連資料:

- 669 ページの『DB2 PDF 資料および印刷された資料』

DB2 インフォメーション・センター

DB2[®] インフォメーション・センターを使用すると、DB2 Universal Database[™]、DB2 Connect[™]、DB2 Information Integrator および DB2 Query Patroller[™] などの DB2 ファミリー製品を最大限に活用するのに必要なすべての情報にアクセスできます。また、DB2 インフォメーション・センターは、DB2 の主な機能とコンポーネントに関する情報を提供します (レプリケーション、データウェアハウジング、および DB2 の種々の Extender など)。

Mozilla 1.0 以上または Microsoft[®] Internet Explorer 5.5 以上で表示する場合、DB2 インフォメーション・センターには以下の機能があります。以下のいくつかの機能では、JavaScript[™] のサポートを使用可能にする必要があります:

柔軟なインストール・オプション

以下の中から、ご使用の環境に最も適したオプションを使って DB2 資料を表示できます。

- 最新の資料を常に自動的に利用できるようにするには、IBM[®] の Web サイト (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/>) にある DB2 インフォメーション・センターからすべての資料に直接アクセスします。
- 更新処理を最小化し、イントラネット内のネットワーク・トラフィックだけに制限するには、イントラネット上の 1 つのサーバーに DB2 資料をインストールします。
- 柔軟性を改善し、ネットワーク接続への依存を軽減するには、個々のコンピューターに DB2 資料をインストールします。

検索 「検索」テキスト・フィールドに検索語を入力することにより、DB2 インフォメーション・センターのすべてのトピックを検索できます。複数の語句を引用符で囲めば、完全一致を検索できます。また、ワイルドカード演算子 (*、?) とブール演算子 (AND、NOT、OR) を使用して検索を絞り込むことができます。

タスク指向の目次

単一の目次の中から、DB2 資料のトピックを見付けることができます。目

次は、主に実行するタスクの種類に従って編成されていますが、そのほかに製品概要、特定のゴール (目的) の情報、参照情報、索引、および用語集も含まれます。

- 製品概要では、DB2 ファミリーで使用可能な製品間の関係、そうした各製品で提供される機能、および各製品の最新リリース情報について説明されています。
- インストール、管理および開発などのゴール・カテゴリには、タスクを迅速に完了し、そのための背景情報をよく理解できるようにするトピックが含まれています。
- 「参照」トピックでは、その対象に関する詳細な情報 (ステートメントとコマンドの構文、メッセージ・ヘルプ、構成パラメーターなど) が説明されています。

現在のトピックを目次に表示する

現在のトピックが目次のどの部分に該当するかを表示するには、目次フレーム内の「リフレッシュ/現在のトピックの表示 (Refresh/Show Current Topic)」ボタンをクリックするか、コンテンツ・フレーム内の「目次に表示 (Show in Table of Contents)」ボタンをクリックします。幾つかのファイルで関連トピックへの複数のリンクをたどった場合、または検索結果からトピックにアクセスした場合には、この機能が役立ちます。

索引 索引から、すべての資料にアクセスすることができます。索引では、用語が 50 音順に編成されています。

用語集 用語集を見れば、DB2 資料で使われているさまざまな用語の定義を調べることができます。用語集では、用語が 50 音順に編成されています。

組み込まれているローカライズ情報

DB2 インフォメーション・センターは、ブラウザで設定された言語でトピックを表示します。設定された言語のトピックが利用できない場合、DB2 インフォメーション・センターにはそのトピックの英語版が表示されます。

iSeries™ 技術情報については、IBM eServer™ iSeries Information Center (www.ibm.com/eserver/series/infocenter/) を参照してください。

関連概念:

- 658 ページの『DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ』

関連タスク:

- 667 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール』
- 668 ページの『DB2 インフォメーション・センターにおける特定の言語でのトピックの表示』
- 666 ページの『DB2 インフォメーション・センターの呼び出し』
- 660 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)』
- 663 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (Windows)』

DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ

さまざまに異なる業務環境のもとでは、DB2[®] 情報にどのようにアクセスするかの要件もそれぞれ異なります。DB2 インフォメーション・センターにアクセスするには、IBM[®] の Web サイト、サーバーまたは組織のネットワーク、あるいはコンピューターへのインストールという 3 つの方法が可能です。この 3 つのケースのいずれも、資料は DB2 インフォメーション・センター内に置かれます。インフォメーション・センターは、ブラウザを使って表示できるように設計されたトピック・ベースの情報の Web サイトです。デフォルトでは、DB2 製品から、IBM Web サイト上の DB2 インフォメーション・センターにアクセスします。これに対して、イントラネット・サーバーまたはご自分のコンピューターから DB2 インフォメーション・センターにアクセスしたい場合、製品メディア・パック内にある DB2 インフォメーション・センター CD から DB2 インフォメーション・センターをインストールする必要があります。以下では、DB2 資料へのアクセス・オプションの要約、および 3 つのインストール・シナリオを示します。これを参考にして、お客様の業務環境で DB2 インフォメーション・センターにアクセスするにはどの方法が最適か、どのようなインストール上の問題に配慮する必要があるかを判別してください。

DB2 資料にアクセスするオプションの要約:

以下の表は、お客様の実際の業務環境で、DB2 インフォメーション・センターの DB2 製品情報にアクセスする方法としてどんなオプションが推奨されるかを示します。

インターネット・アクセス	イントラネット・アクセス	推奨されるアクション
はい	はい	IBM Web サイト上の DB2 インフォメーション・センターへのアクセス、またはイントラネット・サーバーにインストール済みの DB2 インフォメーション・センターへのアクセス
はい	いいえ	IBM Web サイト上の DB2 インフォメーション・センターへのアクセス
いいえ	はい	イントラネット・サーバーにインストール済みの DB2 インフォメーション・センターへのアクセス
いいえ	いいえ	ローカル・コンピューター上の DB2 インフォメーション・センターへのアクセス

シナリオ: コンピューター上の DB2 インフォメーション・センターへのアクセス:

Tsu-Chen 氏は小さな町で工場を経営していますが、その町には、インターネット・アクセスを提供する地元のインターネット・サービス・プロバイダーがありません。彼は、在庫、製品オーダー、銀行口座情報、および営業経費を管理するために DB2 Universal Database™ を購入しました。Tsu-Chen 氏は以前に DB2 製品を利用したことがないので、DB2 の使用方法を習得するために、DB2 製品資料を参照する必要があります。

Tsu-Chen 氏は 標準インストール・オプションを使って DB2 Universal Database を自分のコンピューターにインストールした後、DB2 資料にアクセスしようとしてみます。しかし、開こうとしているページが見つからないというエラー・メッセージがブラウザから通知されました。Tsu-Chen 氏は DB2 製品のインストール・マニュアルを調べた結果、DB2 資料を自分のコンピューター上で利用するには、DB2 インフォメーション・センターをインストールしなければならないことに気がきます。そしてメディア・パックの中にあった DB2 インフォメーション・センター CD を見つけ出して、インストールしました。

これで、Tsu-Chen 氏はオペレーティング・システムのアプリケーション・ランチャーから DB2 インフォメーション・センターにアクセスできるようになり、より良い業務成果をあげるために DB2 製品を利用する方法を習得できます。

シナリオ: IBM Web サイト上の DB2 インフォメーション・センターへのアクセス:

Colin は、あるセミナー企業に所属する情報技術コンサルタントです。彼の専門はデータベース・テクノロジーおよび SQL で、DB2 Universal Database を使って北米一帯の企業を対象にこれらの科目のセミナーを開催しています。Colin のセミナーでは、教材として DB2 資料も使用されます。たとえば、SQL の講習コースでは、データベース照会の基本構文と拡張構文を教えるために SQL に関する DB2 資料が使用されます。

Colin が教えている企業の大半はインターネット・アクセスを配備しています。このような状況から判断して、Colin は、最新バージョンの DB2 Universal Database を自分のモバイル・コンピューターにインストールしたとき、IBM Web サイト上の DB2 インフォメーション・センターにアクセスするよう構成しました。この構成によって、Colin はセミナーで教えるときに最新の DB2 資料にオンライン・アクセスすることができます。

しかし、時折、Colin は移動中にインターネット・アクセスを利用できないことがあります。これは問題となります。担任するセミナーの準備のために DB2 資料にアクセスする必要がある場合には、とくにそうです。このような事態が起きないようにするために、Colin は自分のモバイル・コンピューターに DB2 インフォメーション・センターのコピーをインストールしました。

こうして、Colin は常に DB2 資料のコピーを自在に活用できるようになりました。**db2set** コマンドを使って自分のモバイル・コンピューターのレジストリー変数を簡単に構成し、どこにいるかに応じて、IBM Web サイトまたは自分のモバイル・コンピューターから DB2 インフォメーション・センターにアクセスできます。

シナリオ: イン트라ネット・サーバー上の DB2 インフォメーション・センターへのアクセス:

Eva は、生命保険会社のデータベース上級管理者です。彼女は管理業務の一環として、会社の UNIX[®] データベース・サーバーに最新バージョンの DB2 Universal Database をインストールおよび構成します。彼女の会社は最近、セキュリティ上の理由から、インターネット・アクセスをもはや業務で利用できないようにすると社員に通知しました。同社はネットワーク環境を装備しているため、Eva は DB2 インフォメーション・センターのコピーをイントラネット・サーバー上にインストール

ールして、社内のデータウェアハウスを定期的に利用するすべての社員（営業担当者、営業部長、および業務分析担当者）から DB2 資料へのアクセスを可能にすることにしました。

Eva は、応答ファイルを使って全社員のコンピューター上に最新バージョンの DB2 Universal Database をインストールするようデータベース・チームに指示します。その際、イントラネット・サーバーのホスト名とポート番号を使って DB2 インフォメーション・センターにアクセスできるよう、確実に各コンピューターを構成します。

しかし、Eva のチームの下級データベース管理者である Migual の誤解によって、数人の社員のコンピューター上で、イントラネット・サーバーの DB2 インフォメーション・センターにアクセスするよう DB2 Universal Database を構成する代わりに、DB2 インフォメーション・センターのコピーをそれらのコンピューターにインストールしてしまいました。これを訂正するために、Eva は、**db2set** コマンドを使ってこれらのコンピューター上の DB2 インフォメーション・センターのレジストリー変数（ホスト名は DB2_DOCHOST、ポート番号は DB2_DOCPORT）を変更するよう Migual に指示しました。これで、ネットワーク上の適切なすべてのコンピューターが DB2 インフォメーション・センターにアクセスできるようになり、社員は DB2 に関する質問の答えを DB2 資料から見つけることができます。

関連概念:

- 656 ページの『DB2 インフォメーション・センター』

関連タスク:

- 667 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール』
- 660 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)』
- 663 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (Windows)』
- 『DB2 インフォメーション・センターへのアクセスのロケーションの設定: Common GUI help』

関連資料:

- 「コマンド・リファレンス」の『db2set - DB2 プロファイル・レジストリー・コマンド』

DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)

DB2 製品資料にアクセスする方法として、IBM Web サイト、イントラネット・サーバー、またはコンピューターにインストールしたバージョンの 3 つがあります。デフォルトでは、DB2 製品は IBM Web サイト上の DB2 資料にアクセスします。イントラネット・サーバーまたはコンピューター上の DB2 資料にアクセスしたい場合には、DB2 インフォメーション・センター CD から資料をインストールする必要があります。DB2 セットアップ・ウィザードを使用すれば、インストール設

定を定義し、UNIX オペレーティング・システムを使用するコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをインストールできます。

前提条件:

このセクションでは、UNIX コンピューターに DB2 インフォメーション・センターをインストールするためのハードウェア、オペレーティング・システム、ソフトウェア、および通信の諸要件を一覧で示します。

• ハードウェア要件

以下のいずれかのプロセッサが必要です。

- PowerPC (AIX)
- HP 9000 (HP-UX)
- Intel 32 ビット (Linux)
- Solaris UltraSPARC コンピューター (Solaris オペレーティング環境)

• オペレーティング・システム要件

以下のいずれかのオペレーティング・システムが必要です。

- IBM AIX 5.1 (PowerPC 上)
- HP-UX 11i (HP 9000 上)
- Red Hat Linux 8.0 (Intel 32 ビット上)
- SuSE Linux 8.1 (Intel 32 ビット上)
- Sun Solaris バージョン 8 (Solaris オペレーティング環境の UltraSPARC コンピューター上)

注: DB2 インフォメーション・センターは、DB2 クライアントをサポートする UNIX オペレーティング・システム上で稼動します。このため、IBM Web サイトから DB2 インフォメーション・センターにアクセスするか、イントラネット・サーバーに DB2 インフォメーション・センターをインストールしてそれにアクセスすることをお勧めします。

• ソフトウェア要件

- 以下のブラウザがサポートされています。

- Mozilla バージョン 1.0 以上

• DB2 セットアップ・ウィザードは、グラフィック・インストーラーです。ご使用のマシンの DB2 セットアップ・ウィザードのグラフィカル・ユーザー・インターフェイスを表示可能にする X Window システム・ソフトウェアをインプリメントする必要があります。DB2 セットアップ・ウィザードを実行する前に、ディスプレイを正しくエクスポートしたことを確認してください。たとえば、コマンド・プロンプトで

```
export DISPLAY=9.26.163.144:0.
```

というコマンドを入力します。

• 通信要件

- TCP/IP

手順:

DB2 セットアップ・ウィザードを使用して DB2 インフォメーション・センターをインストールするには、以下のようにします。

1. システムにログオンします。
2. DB2 インフォメーション・センター製品 CD を挿入してシステムにマウントします。
3. 次のコマンドを入力して、CD がマウントされているディレクトリーに移動します。

```
cd /cd
```

/cd は、CD のマウント・ポイントを表します。

4. **/db2setup** コマンドを入力して、DB2 セットアップ・ウィザードを開始します。
5. IBM DB2 セットアップ・ランチパッドが開きます。DB2 インフォメーション・センターのインストールに直接進むには、「製品のインストール」をクリックします。残りのステップについて説明しているオンライン・ヘルプを利用できます。オンライン・ヘルプを呼び出すには、「ヘルプ」をクリックします。「キャンセル」をクリックすれば、いつでもインストールを終了できます。
6. 「インストールしたい製品を選択します」ページでは、「次へ」をクリックします。
7. 「DB2 セットアップ・ウィザードによるこそ (Welcome to the DB2 Setup wizard)」ページで、「次へ」をクリックします。DB2 セットアップ・ウィザードは、プログラムのセットアップ操作を案内します。
8. インストールを続行するには、使用許諾条件に同意する必要があります。「ご使用条件」ページで、「ご使用条件に同意します (I accept the terms in the license agreement)」をクリックして、「次へ」をクリックします。
9. 「インストール・アクションの選択」で、「このコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをインストールする (Install DB2 Information Center on this computer)」を選択します。応答ファイルを使用して、このコンピューターまたは他のコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをあとでインストールしたい場合には、「設定を応答ファイルに保管する」を選択します。「次へ」をクリックします。
10. 「インストールする言語の選択」ページでは、DB2 インフォメーション・センターをインストールする言語を選択します。「次へ」をクリックします。
11. 「DB2 インフォメーション・センター・ポートの指定」ページでは、DB2 インフォメーション・センターへの着信通信を構成します。「次へ」をクリックしてインストールを続けます。
12. 「ファイルのコピーの開始」ページでは、インストールの選択項目を確認します。設定を変更するには、「戻る」をクリックします。「インストール」をクリックすると、DB2 インフォメーション・センターのファイルがコンピューターにコピーされます。

このほか、応答ファイルを使って DB2 インフォメーション・センターをインストールすることもできます。

インストール・ログ db2setup.his、 db2setup.log、 および db2setup.err は、デフォルトでは /tmp ディレクトリーに置かれます。

db2setup.log ファイルは、エラーも含めた DB2 製品のインストール情報をすべてキャプチャーします。 db2setup.his ファイルは、コンピューター上の DB2 製品インストール内容をすべて記録します。 DB2 は、db2setup.log ファイルを db2setup.his に付加します。 db2setup.err ファイルは、 Java から戻されるすべてのエラー出力 (例外やトラップの情報など) をキャプチャーします。

インストールが完了したら、ご使用の UNIX オペレーティング・システムに応じて、 DB2 は以下のいずれかのディレクトリーにインストールされます。

- AIX: /usr/opt/db2_08_01
- HP-UX: /opt/IBM/db2/V8.1
- Linux: /opt/IBM/db2/V8.1
- Solaris オペレーティング環境: /opt/IBM/db2/V8.1

関連概念:

- 656 ページの『DB2 インフォメーション・センター』
- 658 ページの『DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ』

関連タスク:

- 「インストールおよび構成 補足」の『応答ファイルによる DB2 のインストール (UNIX)』
- 667 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール』
- 668 ページの『DB2 インフォメーション・センターにおける特定の言語でのトピックの表示』
- 666 ページの『DB2 インフォメーション・センターの呼び出し』
- 663 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (Windows)』

DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (Windows)

DB2 製品資料にアクセスする方法として、 IBM Web サイト、イントラネット・サーバー、またはコンピューターにインストールしたバージョンの 3 つがあります。デフォルトでは、DB2 製品は IBM Web サイト上の DB2 資料にアクセスします。イントラネット・サーバーまたはコンピューター上の DB2 資料にアクセスしたい場合には、 DB2 インフォメーション・センター CD から DB2 資料をインストールする必要があります。 DB2 セットアップ・ウィザードを使用すれば、インストール設定を定義し、 Windows オペレーティング・システムを使用するコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをインストールできます。

前提条件:

このセクションでは、Windows に DB2 インフォメーション・センターをインストールするためのハードウェア、オペレーティング・システム、ソフトウェア、および通信の諸要件を一覧で示します。

• ハードウェア要件

以下のいずれかのプロセッサが必要です。

- 32 ビット・コンピューター: Pentium または Pentium 互換の CPU

• オペレーティング・システム要件

以下のいずれかのオペレーティング・システムが必要です。

- Windows 2000
- Windows XP

注: DB2 インフォメーション・センターは、DB2 クライアントをサポートする Windows オペレーティング・システム上で稼動します。このため、IBM Web サイトの DB2 インフォメーション・センターにアクセスするか、イントラネット・サーバーに DB2 インフォメーション・センターをインストールしてそれにアクセスすることをお勧めします。

• ソフトウェア要件

- 以下のブラウザがサポートされています。

- Mozilla 1.0 以上
- Internet Explorer バージョン 5.5 または 6.0 (Windows XP の場合はバージョン 6.0)

• 通信要件

- TCP/IP

制約事項:

- DB2 インフォメーション・センターをインストールするには、管理権限をもつアカウントが必要です。

手順:

DB2 セットアップ・ウィザードを使用して DB2 インフォメーション・センターをインストールするには、以下のようになります。

1. DB2 インフォメーション・センターのインストールで定義したアカウントで、システムにログオンします。
2. CD をドライブに挿入します。自動実行機能が使用可能になっていれば、IBM DB2 セットアップ・ランチパッドが起動します。
3. DB2 セットアップ・ウィザードは、システム言語を判別して、その言語用のセットアップ・プログラムを立ち上げます。英語以外の言語でセットアップ・プログラムを実行したい場合、またはセットアップ・プログラムの自動始動が失敗した場合には、DB2 セットアップ・ウィザードを手動で開始できます。

次のようにして、DB2 セットアップ・ウィザードを手動で開始します。

- a. 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」を選択します。
- b. 「開く」フィールドで、以下のコマンドを入力します。

```
x:%setup.exe /i 2-letter language identifier
```

ここで、x: は CD ドライブ、2-letter language identifier (2 文字の言語識別子) はセットアップ・プログラムを実行する言語を表します。

- c. 「OK」をクリックします。
4. IBM DB2 セットアップ・ランチパッドが開きます。DB2 インフォメーション・センターのインストールに直接進むには、「製品のインストール」をクリックします。残りのステップについて説明しているオンライン・ヘルプを利用できます。オンライン・ヘルプを呼び出すには、「ヘルプ」をクリックします。「キャンセル」をクリックすれば、いつでもインストールを終了できます。
5. 「インストールしたい製品を選択します」ページでは、「次へ」をクリックします。
6. 「DB2 セットアップ・ウィザードによるこそ (Welcome to the DB2 Setup wizard)」ページで、「次へ」をクリックします。DB2 セットアップ・ウィザードは、プログラムのセットアップ操作を案内します。
7. インストールを続行するには、使用許諾条件に同意する必要があります。「ご使用条件」ページで、「ご使用条件に同意します (I accept the terms in the license agreement)」をクリックして、「次へ」をクリックします。
8. 「インストール・アクションの選択」で、「このコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをインストールする (Install DB2 Information Center on this computer)」を選択します。応答ファイルを使用して、このコンピューターまたは他のコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをあとでインストールしたい場合には、「設定を応答ファイルに保管する」を選択します。「次へ」をクリックします。
9. 「インストールする言語の選択」ページでは、DB2 インフォメーション・センターをインストールする言語を選択します。「次へ」をクリックします。
10. 「DB2 インフォメーション・センター・ポートの指定」ページでは、DB2 インフォメーション・センターへの着信通信を構成します。「次へ」をクリックしてインストールを続けます。
11. 「ファイルのコピーの開始」ページでは、インストールの選択項目を確認します。設定を変更するには、「戻る」をクリックします。「インストール」をクリックすると、DB2 インフォメーション・センターのファイルがコンピューターにコピーされます。

応答ファイルを使って DB2 インフォメーション・センターをインストールすることができます。また、**db2rspgn** コマンドを使って、既存のインストール内容に基づく応答ファイルを生成することもできます。

インストール時に検出されるエラーの詳細については、「マイ ドキュメント」¥DB2LOG¥ ディレクトリー内の db2.log ファイルと db2wi.log ファイルを参照してください。「マイ ドキュメント」ディレクトリーの場所は、ご使用のコンピューターの設定によって異なります。

db2wi.log ファイルは、DB2 の最新のインストール情報をキャプチャーします。db2.log は、DB2 製品のインストールの履歴をキャプチャーします。

関連概念:

- 656 ページの『DB2 インフォメーション・センター』

- 658 ページの『DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ』

関連タスク:

- 「インストールおよび構成 補足」の『応答ファイルによる DB2 製品のインストール (Windows)』
- 667 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール』
- 668 ページの『DB2 インフォメーション・センターにおける特定の言語でのトピックの表示』
- 666 ページの『DB2 インフォメーション・センターの呼び出し』
- 660 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)』

関連資料:

- 「コマンド・リファレンス」の『db2rspgn - 応答ファイル生成プログラム・コマンド』

DB2 インフォメーション・センターの呼び出し

DB2 インフォメーション・センターは、Linux、UNIX、および Windows オペレーティング・システム用の DB2 製品 (DB2 Universal Database、 DB2 Connect、DB2 Information Integrator、 DB2 Query Patroller など) を使用するために必要なすべての情報を提供します。

DB2 インフォメーション・センターは、以下の場所から呼び出すことができます。

- DB2 UDB クライアントまたはサーバーがインストールされているコンピューター
- DB2 インフォメーション・センターがインストールされているイントラネット・サーバーまたはローカル・コンピューター
- IBM の Web サイト

前提条件:

DB2 インフォメーション・センターを呼び出すための要件は、以下のとおりです。

- オプション: 希望する言語でトピックを表示するようブラウザを構成する
- オプション: コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストール済みの DB2 インフォメーション・センターを使用するよう DB2 クライアントを構成する

手順:

DB2 UDB クライアントまたはサーバーがインストールされているコンピューターから DB2 インフォメーション・センターを呼び出すには、以下のようになります。

- (Windows オペレーティング・システムの)「スタート」メニューから: 「スタート」→「プログラム」→「IBM DB2」→「情報」→「インフォメーション・センター」をクリックします。
- コマンド行プロンプトから:
 - Linux および UNIX オペレーティング・システムの場合、 **db2icdocs** コマンドを発行します。

- Windows オペレーティング・システムの場合、 **db2icdocs.exe** コマンドを発行します。

イントラネット・サーバーまたはローカル・コンピューターにインストール済みの DB2 インフォメーション・センターを Web ブラウザーで開くには、以下のようにします。

- Web ページ <http://<host-name>:<port-number>/> を開きます (<host-name> はホスト名、 <port-number> は DB2 インフォメーション・センターを利用可能なポート番号)。

IBM Web サイトにある DB2 インフォメーション・センターを Web ブラウザーで開くには、以下のようにします。

- Web ページ publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/ を開きます。

関連概念:

- 656 ページの『DB2 インフォメーション・センター』
- 658 ページの『DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ』

関連タスク:

- 677 ページの『DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す』
- 667 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール』
- 678 ページの『コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼び出す』
- 『DB2 インフォメーション・センターへのアクセスのロケーションの設定: Common GUI help』

関連資料:

- 「コマンド・リファレンス」の『HELP コマンド』

コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール

<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/> から利用できる DB2 インフォメーション・センターは、資料の新規追加または変更によって定期的に更新されます。さらに、更新された DB2 インフォメーション・センターをコンピューターまたはイントラネット・サーバーにダウンロードしてインストールできる場合もあります。DB2 インフォメーション・センターを更新しても、DB2 クライアント製品またはサーバー製品は更新されません。

前提条件:

インターネットに接続されたコンピューターへのアクセスが必要です。

手順:

DB2 インフォメーション・センターの更新をコンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールするには、以下のようにします。

1. IBM の Web サイト (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/>) にある DB2 インフォメーション・センターを開きます。

2. 「DB2 インフォメーション・センターによるこそ」ページの見出し「サービスおよびサポート」の「ダウンロード」セクションで、「DB2 資料」リンクをクリックします。
3. 最新のドキュメンテーション・イメージのレベルと、インストール済みのドキュメンテーション・レベルを比較して、DB2 インフォメーション・センターを更新する必要があるかどうかを確認します。「DB2 インフォメーション・センターによるこそ」ページに、インストール済みのドキュメンテーションのレベルがリストされます。
4. より新しいバージョンの DB2 インフォメーション・センターが存在する場合、ご使用のオペレーティング・システムに対応する最新の DB2 インフォメーション・センター・イメージをダウンロードします。
5. 最新の DB2 インフォメーション・センター・イメージをインストールするには、Web ページの指示に従ってください。

関連概念:

- 658 ページの『DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ』

関連タスク:

- 666 ページの『DB2 インフォメーション・センターの呼び出し』
- 660 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)』
- 663 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (Windows)』

DB2 インフォメーション・センターにおける特定の言語でのトピックの表示

DB2 インフォメーション・センターでは、ブラウザの設定で指定した言語でのトピックの表示が試みられます。トピックがその指定言語に翻訳されていない場合は、DB2 インフォメーション・センターでは英語でトピックが表示されます。

手順:

Internet Explorer Web ブラウザーで、指定どおりの言語でトピックを表示するには、以下のようにします。

1. Internet Explorer の「ツール」→「インターネット オプション」→「言語...」ボタンをクリックします。「言語の優先順位」ウィンドウがオープンします。
2. 該当する言語が、言語リストの先頭の項目に指定されていることを確認します。
 - リストに新しい言語を追加するには、「追加...」ボタンをクリックします。

注: 言語を追加しても、特定の言語でトピックを表示するのに必要なフォントがコンピューターに備えられているとはかぎりません。

- リストの先頭に新しい言語を移動するには、その言語を選択してから、その言語が言語リストに先頭に行くまで「上へ」ボタンをクリックします。
3. 使いたい言語で DB2 インフォメーション・センターを表示するには、ページをリフレッシュします。

Mozilla Web ブラウザーの場合に、使いたい言語でトピックを表示するには、以下のようになります。

1. Mozilla の「編集」→「設定」→「言語」ボタンをクリックします。「設定」ウィンドウに「言語」パネルが表示されます。
2. 該当する言語が、言語リストの先頭の項目に指定されていることを確認します。
 - リストに新しい言語を追加するには、「追加...」ボタンをクリックしてから、「言語を追加」ウィンドウで言語を選択します。
 - リストの先頭に新しい言語を移動するには、その言語を選択してから、その言語が言語リストに先頭に行くまで「上に移動」ボタンをクリックします。
3. 使いたい言語で DB2 インフォメーション・センターを表示するには、ページをリフレッシュします。

関連概念:

- 656 ページの『DB2 インフォメーション・センター』

DB2 PDF 資料および印刷された資料

以下の表は、正式な資料名、資料番号、および PDF ファイル名を示しています。ハードコピー版の資料を注文するには、正式な資料名を知っておく必要があります。PDF ファイルを印刷するには、PDF ファイル名を知っておく必要があります。

DB2 資料は、以下のカテゴリーに分類されています。

- DB2 中核情報
- 管理情報
- アプリケーション開発情報
- ビジネス・インテリジェンス情報
- DB2 Connect 情報
- 入門情報
- チュートリアル情報
- オプション・コンポーネント情報
- リリース・ノート

以下の表は、DB2 ライブラリー内の各資料について、その資料のハードコピー版を注文したり、PDF 版を印刷または表示したりするのに必要な情報を示しています。DB2 ライブラリー内の各資料に関する詳細な説明については、www.ibm.com/shop/publications/order にある IBM Publications Center にアクセスしてください。

DB2 の基本情報

こうした資料の情報は、すべての DB2 ユーザーに基本的なもので、プログラマーおよびデータベース管理者にとって役立つ情報であるとともに、DB2 Connect、DB2 Warehouse Manager、または他の DB2 製品を使用するユーザーにとっても役立つ内容です。

表1. DB2 の基本情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Universal Database コマンド・リファレンス」	SC88-9140	db2n0j81
「IBM DB2 Universal Database 用語集」	資料番号なし	db2t0j81
「IBM DB2 Universal Database メッセージ・リファレンス 第 1 巻」	GC88-9152 (ハードコピーな し)	db2m1j81
「IBM DB2 Universal Database メッセージ・リファレンス 第 2 巻」	GC88-9153 (ハードコピーな し)	db2m2j81
「IBM DB2 Universal Database 新機能」	SC88-9158	db2q0j81

管理情報

これらの資料の情報は、DB2 データベース、データウェアハウス、およびフェデレーテッド・システムを効果的に設計し、インプリメントし、保守するために必要なトピックを扱っています。

表2. 管理情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Universal Database 管理ガイド: プランニング」	SC88-9135	db2d1j81
「IBM DB2 Universal Database 管理ガイド: インプリメンテー ション」	SC88-9133	db2d2j81
「IBM DB2 Universal Database 管理ガイド: パフォーマンス」	SC88-9134	db2d3j81
「IBM DB2 Universal Database 管理 API リファレンス」	SC88-9136	db2b0j81
「IBM DB2 Universal Database データ移動ユーティリティー ガイドおよびリファレンス」	SC88-9142	db2dmj81
「IBM DB2 Universal Database データ・リカバリーと高可用性 ガイドおよびリファレンス」	SC88-9143	db2haj81
「IBM DB2 Universal Database データウェアハウス・センター 管理ガイド」	SC88-9165	db2ddj81
「IBM DB2 Universal Database SQL リファレンス 第 1 巻」	SC88-9155	db2s1j81
「IBM DB2 Universal Database SQL リファレンス 第 2 巻」	SC88-9156	db2s2j81

表 2. 管理情報 (続き)

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Universal Database システム・モニター ガイドおよびリファレンス」	SC88-9157	db2f0j81

アプリケーション開発情報

これらの資料の情報は、DB2 Universal Database (DB2 UDB) のアプリケーション開発者またはプログラマーが特に興味を持つ内容です。サポートされるさまざまなプログラミング・インターフェース (組み込み SQL、ODBC、JDBC、SQLJ、CLI など) を使用して DB2 UDB にアクセスするのに必要な資料とともに、サポートされる言語およびコンパイラーについても紹介されています。また、DB2 インフォメーション・センターをご使用の場合には、サンプル・プログラムのソース・コードの HTML バージョンにアクセスすることもできます。

表 3. アプリケーション開発情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Universal Database アプリケーション開発ガイド アプリケーションの構築および実行」	SC88-9137	db2axj81
「IBM DB2 Universal Database アプリケーション開発ガイド クライアント・アプリケーションのプログラミング」	SC88-9138	db2a1j81
「IBM DB2 Universal Database アプリケーション開発ガイド サーバー・アプリケーションのプログラミング」	SC88-9139	db2a2j81
「IBM DB2 Universal Database コール・レベル・インターフェース ガイドおよびリファレンス 第 1 巻」	SC88-9159	db211j81
「IBM DB2 Universal Database コール・レベル・インターフェース ガイドおよびリファレンス 第 2 巻」	SC88-9160	db212j81
「IBM DB2 Universal Database データウェアハウス・センター アプリケーション統合ガイド」	SC88-9166	db2adj81
「IBM DB2 Universal Database XML Extender 管理およびプログラミングのガイド」	SC88-9172	db2sxj81

ビジネス・インテリジェンス情報

これらの資料の情報は、さまざまなコンポーネントを使用して、DB2 Universal Database のデータウェアハウジング機能および分析機能を拡張する方法を説明しています。

表 4. ビジネス・インテリジェンス情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Warehouse Manager Standard Edition インフォメーション・カタログ・センター 管理ガイド」	SC88-9167	db2dij81
「IBM DB2 Warehouse Manager Standard Edition インストール・ガイド」	GC88-9164	db2idj81
「IBM DB2 Warehouse Manager Standard Edition DB2 Warehouse Manager を使用時の ETI ソリューション・コンバージョン・プログラムの管理」	SC88-9894	iwhe1mstx80

DB2 Connect 情報

このカテゴリの情報は、DB2 Connect Enterprise Edition または DB2 Connect Personal Edition を使用して、メインフレーム・サーバーおよびミッドレンジ・サーバー上のデータにアクセスする方法を説明しています。

表 5. DB2 Connect 情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM コネクティビティ 補足」	資料番号なし	db2h1j81
「IBM DB2 Connect Enterprise Edition 概説およびインストール」	GC88-9145	db2c6j81
「IBM DB2 Connect Personal Edition 概説およびインストール」	GC88-9146	db2c1j81
「IBM DB2 Connect ユーザーズ・ガイド」	SC88-9147	db2c0j81

入門情報

このカテゴリの情報は、サーバー、クライアント、および他の DB2 製品をインストールして構成する場合に役立ちます。

表 6. 入門情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Universal Database DB2 クライアント機能 概説およびインストール」	GC88-9144 (ハードコピーなし)	db2itj81
「IBM DB2 Universal Database DB2 サーバー機能 概説およびインストール」	GC88-9148	db2isj81
「IBM DB2 Universal Database DB2 Personal Edition 概説およびインストール」	GC88-9150	db2i1j81
「IBM DB2 Universal Database インストールおよび構成 補足」	GC88-9149 (ハードコピーなし)	db2iyj81
「IBM DB2 Universal Database DB2 Data Links Manager 概説およびインストール」	GC88-9141	db2z6j81

チュートリアル情報

チュートリアル情報は、DB2 機能を紹介し、さまざまなタスクを実行する方法を示します。

表 7. チュートリアル情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「ビジネス・インテリジェンス・チュートリアル: データウェアハウス・センターの紹介」	資料番号なし	db2tuj81
「ビジネス・インテリジェンス・チュートリアル: データウェアハウジングの上級者向けガイド」	資料番号なし	db2taj81
「インフォメーション・カタログ・センター チュートリアル」	資料番号なし	db2aij81
「Video Central for e-business チュートリアル」	資料番号なし	db2twj81
「Visual Explain チュートリアル」	資料番号なし	db2tvj81

オプション・コンポーネント情報

このカテゴリーの情報は、DB2 のオプション・コンポーネントを使用する方法について説明しています。

表8. オプション・コンポーネント情報

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Cube Views Guide and Reference」	SC18-7298	db2aax81
「IBM DB2 Query Patroller インストール、管理、使用法のガイド」	GC88-9154	db2dwj81
「IBM DB2 Spatial Extender and Geodetic Extender ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」	SC88-9171	db2sbj81
「IBM DB2 Universal Database Data Links Manager 管理ガイドおよびリファレンス」	SC88-9169	db2z0x82
「DB2 Net Search Extender 管理およびユーザーズ・ガイド」	SH88-8546	N/A

注: この資料の HTML 版は、HTML ドキュメンテーション CD からインストールされません。

リリース・ノート

リリース・ノートは、ご使用の製品のリリースおよびフィックスパック・レベルに特有の追加情報を紹介します。また、リリース・ノートには、各リリース、アップデート、およびフィックスパックで組み込まれた資料上の更新の要約も含まれています。

表9. リリース・ノート

資料名	資料番号	PDF ファイル名
「DB2 リリース・ノート」	「注」を参照。	「注」を参照。
「DB2 インストール情報」	製品 CD-ROM でのみ参照可能。	使用できません。

注: リリース・ノートは以下の形式で入手できます。

- XHTML およびテキスト形式 (製品 CD 内)
- PDF 形式 (PDF ドキュメンテーション CD 内)

さらに、リリース・ノートの中で、『既知の問題と予備手段』および『リリース間の非互換性』に関する部分は DB2 インフォメーション・センターにも表示されます。

UNIX ベースのプラットフォームでテキスト形式でリリース・ノートを確認するには、Release.Notes ファイルを参照してください。このファイルは、DB2DIR/Readme/%L ディレクトリーに収録されています。%L はロケール名を表しています。DB2DIR は以下になります。

- AIX オペレーティング・システムの場合: /usr/opt/db2_08_01
- その他のすべての UNIX ベースのオペレーティング・システムの場合: /opt/IBM/db2/V8.1

関連概念:

- 655 ページの『DB2 資料とヘルプ』

関連タスク:

- 675 ページの『PDF ファイルからの DB2 資料の印刷方法』
- 676 ページの『DB2 の印刷資料の注文方法』
- 677 ページの『DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す』

PDF ファイルからの DB2 資料の印刷方法

DB2 PDF ドキュメンテーション CD に収録されている DB2 資料を印刷することができます。Adobe Acrobat Reader を使用すれば、資料全体または特定のページを印刷できます。

前提条件:

Adobe Acrobat Reader がインストールされていることを確認してください。Adobe Acrobat Reader をインストールする必要がある場合、Adobe Web サイト (www.adobe.com) から入手できます。

手順:

PDF ファイルから DB2 資料を印刷するには以下のようにします。

1. *DB2 PDF* ドキュメンテーション CD をドライブに挿入します。UNIX オペレーティング・システムの場合、*DB2 PDF* ドキュメンテーション CD をマウントします。UNIX オペレーティング・システムで CD をマウントする方法については、「概説およびインストール」を参照してください。
2. `index.htm` を開きます。ブラウザ・ウィンドウにファイルが開きます。
3. 参照したい PDF のタイトルをクリックします。Acrobat Reader で PDF が開きます。
4. 「ファイル」→「印刷」を選択して、所要の資料の任意の部分を印刷します。

関連概念:

- 656 ページの『DB2 インフォメーション・センター』

関連タスク:

- 「*DB2 Universal Database* サーバー機能 概説およびインストール」の『CD-ROM のマウント (AIX)』
- 「*DB2 Universal Database* サーバー機能 概説およびインストール」の『HP-UX 上での CD-ROM のマウント』
- 「*DB2 Universal Database* サーバー機能 概説およびインストール」の『CD-ROM のマウント (Linux)』
- 676 ページの『DB2 の印刷資料の注文方法』

- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『CD-ROM のマウント (Solaris)』

関連資料:

- 669 ページの『DB2 PDF 資料および印刷された資料』

DB2 の印刷資料の注文方法

ハードコピー版の資料を望む場合には、以下のいずれかの方法で注文できます。

印刷資料の注文方法:

一部の国または地域では、印刷された資料を注文することもできます。お客様がお住まいの国または地域でこのサービスが利用可能かどうかを確認するには、お住まいの国または地域の IBM Publications Web サイトをご覧ください。資料のご注文が可能な場合、以下のようにすることができます。

- 正規の IBM 製品販売業者または営業担当員に連絡してください。お客様がお住まいの地域の IBM 担当員の情報については、お手数ですが IBM の Web サイト (www.ibm.com/planetwide) の IBM Worldwide Directory of Contacts で確認してください。
- IBM Publications Center (<http://www.ibm.com/shop/publications/order>) にアクセスしてください。なお、IBM Publications Center から資料を注文できない国もあります。

DB2 製品がご利用可能になった時点で、印刷された資料は DB2 PDF ドキュメンテーション CD にある PDF 形式の資料と同じものです。さらに、DB2 インフォメーション・センター CD に収録されている印刷された資料の内容もまた、これらと同じです。ただし、DB2 インフォメーション・センター CD には、PDF 資料にない追加情報も含まれます (たとえば、SQL 管理作業や HTML サンプル)。DB2 PDF ドキュメンテーション CD に収録されている資料の中には、ハードコピーとしてご注文できない資料もあります。

注: DB2 インフォメーション・センターは、PDF またはハードコピー の資料よりも頻繁に更新されます。ドキュメンテーションの更新が入手可能になった時点でインストールするか、DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/>) を参照して最新の情報を入手してください。

関連タスク:

- 675 ページの『PDF ファイルからの DB2 資料の印刷方法』

関連資料:

- 669 ページの『DB2 PDF 資料および印刷された資料』

DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す

コンテキスト・ヘルプは、特定のウィンドウ、ノートブック、ウィザード、またはアドバイザに関連したタスクまたはコントロールの情報を提供します。コンテキスト・ヘルプは、グラフィカル・ユーザー・インターフェースのある DB2 管理ツールおよび開発ツールから利用できます。コンテキスト・ヘルプには、以下の 2 種類があります。

- それぞれのウィンドウまたはノートブックにある「ヘルプ」ボタンからアクセス可能なヘルプ
- infopop (ポップアップ情報ウィンドウ)。これは、マウス・カーソルを特定のフィールドまたはコントロール上に置いたとき、またはウィンドウ、ノートブック、ウィザード、アドバイザ内でフィールドまたはコントロールを選択して F1 を押すと表示されます。

「ヘルプ」ボタンを押すと、概説、前提条件、およびタスク情報が表示されます。infopop は、それぞれのフィールドおよびコントロールについて説明します。

手順:

コンテキスト・ヘルプを呼び出すには、以下のようになります。

- ウィンドウおよびノートブックのヘルプを表示するには、いずれかの DB2 ツールを開始して、任意のウィンドウまたはノートブックを開きます。ウィンドウまたはノートブックの右下隅にある「ヘルプ」ボタンをクリックして、コンテキスト・ヘルプを呼び出します。

また、それぞれの DB2 ツール・センターの上部にある「ヘルプ」メニュー項目からコンテキスト・ヘルプにアクセスすることもできます。

ウィザードおよびアドバイザでは、最初のページの「タスクの概要」リンクをクリックすると、コンテキスト・ヘルプを表示できます。

- ウィンドウまたはノートブック上の各コントロールの infopop ヘルプを表示するには、コントロールをクリックしてから、**F1** を押します。コントロールの詳細情報を示すポップアップ情報が、黄色いウィンドウに表示されます。

注: フィールドまたはコントロールにマウス・カーソルを置いておくだけで infopops が表示されるようにするには、「ツール設定」ノートブックの「**文書 (Documentation)**」ページの「**infopops の自動表示**」チェック・ボックスを選択します。

infopop に似た別のコンテキスト・ヘルプに、診断ポップアップ情報があります。これにはデータ入力規則が示されます。診断ポップアップ情報は、無効または不十分なデータが入力されたとき、紫色のウィンドウに表示されます。診断ポップアップ情報は、以下に関して表示されます。

- 必須フィールド。
- 日付フィールドのように、正確なフォーマットを必要とするデータのフィールド。

関連タスク:

- 666 ページの『DB2 インフォメーション・センターの呼び出し』
- 678 ページの『コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを呼び出す』

- 678 ページの『コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼び出す』
- 679 ページの『コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを呼び出す』
- 『DB2 インフォメーション・センターへのアクセス: Concepts help』
- 『DB2 UDB ヘルプの使用方法: Common GUI help』
- 『DB2 インフォメーション・センターへのアクセスのロケーションの設定: Common GUI help』
- 『DB2 コンテキスト・ヘルプと資料へのアクセスを設定する: Common GUI help』

コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを呼び出す

メッセージ・ヘルプは、メッセージが出された原因と、エラーへの応答として実行すべきアクションを説明します。

手順:

メッセージ・ヘルプを呼び出すには、コマンド行プロセッサを開いて以下のように入力します。

```
? XXXnnnnn
```

ここで、*XXXnnnnn* は有効なメッセージ ID を表します。

たとえば、? SQL30081 と入力すると、メッセージ SQL30081 に関するヘルプを表示します。

関連概念:

- 1 ページの『第 1 章 メッセージの概要』

関連資料:

- 「コマンド・リファレンス」の『db2 - コマンド行プロセッサの呼び出しコマンド』

コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼び出す

コマンド・ヘルプは、コマンド行プロセッサでのコマンドの構文を説明します。

手順:

コマンド・ヘルプを呼び出すには、コマンド行プロセッサを開いて以下のように入力します。

```
? command
```

ここで *command* はキーワードまたはコマンド全体を表します。

たとえば、? catalog と入力すると、すべての CATALOG コマンドに関するヘルプが表示され、? catalog database と入力すると、CATALOG DATABASE コマンドのヘルプだけが表示されます。

関連タスク:

- 677 ページの『DB2 ツールからコンテキスト・ヘルプを呼び出す』
- 666 ページの『DB2 インフォメーション・センターの呼び出し』
- 678 ページの『コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを呼び出す』
- 679 ページの『コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを呼び出す』

関連資料:

- 「コマンド・リファレンス」の『db2 - コマンド行プロセッサの呼び出しコマンド』

コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを呼び出す

DB2 Universal Database は、SQL ステートメントの結果の原因となったと考えられる条件の SQLSTATE 値を戻します。SQLSTATE ヘルプは、SQL 状態および SQL 状態クラス・コードの意味を説明します。

手順:

SQL 状態ヘルプを呼び出すには、コマンド行プロセッサを開いて以下のように入力します。

```
? sqlstate または ? class code
```

ここで、*sqlstate* は有効な 5 桁の SQL 状態を、*class code* は SQL 状態の最初の 2 桁を表します。

たとえば、? 08003 を指定すると SQL 状態 08003 のヘルプが表示され、? 08 を指定するとクラス・コード 08 のヘルプが表示されます。

関連タスク:

- 666 ページの『DB2 インフォメーション・センターの呼び出し』
- 678 ページの『コマンド行プロセッサからメッセージ・ヘルプを呼び出す』
- 678 ページの『コマンド行プロセッサからコマンド・ヘルプを呼び出す』

DB2 チュートリアル

DB2[®] チュートリアルは、DB2 Universal Database のさまざまな機能について学習するのを支援します。このチュートリアルでは、アプリケーションの開発、SQL 照会のパフォーマンス調整、データウェアハウスの処理、メタデータの管理、および DB2 を使用した Web サービスの開発の各分野で、段階的なレッスンが用意されています。

はじめに:

インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/>) から、このチュートリアルの XHTML 版を表示できます。

チュートリアルの中で、サンプル・データまたはサンプル・コードを使用する場合があります。個々のタスクの前提条件については、それぞれのチュートリアルを参照してください。

DB2 Universal Database チュートリアル:

以下に示すチュートリアルのタイトルをクリックすると、そのチュートリアルを表示できます。

ビジネス・インテリジェンス・チュートリアル: データウェアハウス・センターの紹介
データウェアハウス・センターを使用して簡単なデータウェアハウジング・タスクを実行します。

ビジネス・インテリジェンス・チュートリアル: データウェアハウジングの上級者向けガイド
データウェアハウス・センターを使用して高度なデータウェアハウジング・タスクを実行します。

インフォメーション・カタログ・センター・チュートリアル
インフォメーション・カタログを作成および管理して、インフォメーション・カタログ・センターを使用してメタデータを配置し使用します。

Visual Explain チュートリアル
Visual Explain を使用して、パフォーマンスを向上させるために SQL ステートメントを分析し、最適化し、調整します。

DB2 トラブルシューティング情報

DB2[®] 製品を使用する際に役立つ、トラブルシューティングおよび問題判別に関する広範囲な情報を利用できます。

DB2 ドキュメンテーション

トラブルシューティング情報は、DB2 インフォメーション・センター、および DB2 ライブラリーに含まれる PDF 資料の中にご利用いただけます。DB2 インフォメーション・センターで、(ブラウザ・ウィンドウの左側の) ナビゲーション・ツリーの「サポートおよびトラブルシューティング (Support and troubleshooting)」ブランチを参照すると、DB2 トラブルシューティング・ドキュメンテーションの詳細なリストが見つかります。

DB2 Technical Support の Web サイト

現在問題が発生していて、考えられる原因とソリューションを検索したい場合は、DB2 Technical Support の Web サイトを参照してください。Technical Support サイトには、最新の DB2 出版物、TechNotes、プログラム診断依頼書 (APAR)、フィックスパック、DB2 内部エラー・コードの最新リスト、その他のリソースが用意されています。この知識ベースを活用して、問題に対する有効なソリューションを探し出すことができます。

DB2 Technical Support の Web サイト

(<http://www.ibm.com/software/data/db2/udb/winos2unix/support>) にアクセスしてください。

DB2 Problem Determination Tutorial Series

DB2 製品で作業中に直面するかもしれない問題を素早く識別し、解決する方法に関する情報を見つけるには、DB2 Problem Determination Tutorial Series の Web サイトを参照してください。あるチュートリアルでは、使用可能な DB2 問題判別機能およびツールを紹介し、それらをいつ使用すべきかを判断する助けを与えます。別のチュートリアルは、『データベース・エ

ンジン問題判別 (Database Engine Problem Determination)』、『パフォーマンス問題判別 (Performance Problem Determination)』、『アプリケーション問題判別 (Application Problem Determination)』などの関連トピックを扱っています。

DB2 Technical Support

(<http://www.ibm.com/software/data/support/pdm/db2tutorials.html>) には、DB2 問題判別チュートリアルがすべて揃っています。

関連概念:

- 656 ページの『DB2 インフォメーション・センター』
- 「問題判別の手引き」の『Introduction to Problem Determination - DB2 テクニカル・サポートのチュートリアル』

アクセス支援

アクセス支援機能は、身体に障害のある (身体動作が制限されている、視力が弱いなど) ユーザーがソフトウェア製品を十分活用できるように支援します。DB2[®] バージョン 8 製品に備わっている主なアクセス支援機能は、以下のとおりです。

- すべての DB2 機能は、マウスの代わりにキーボードを使ってナビゲーションできます。詳細については、『キーボードによる入力およびナビゲーション』を参照してください。
- DB2 ユーザー・インターフェースのフォント・サイズおよび色をカスタマイズすることができます。詳細については、682 ページの『アクセスしやすい表示』を参照してください。
- DB2 製品は、Java[™] Accessibility API を使用するアクセス支援アプリケーションをサポートします。詳細については、682 ページの『支援テクノロジーとの互換性』を参照してください。
- DB2 資料は、アクセスしやすい形式で提供されています。詳細については、682 ページの『アクセスしやすい資料』を参照してください。

キーボードによる入力およびナビゲーション

キーボード入力

キーボードだけを使用して DB2 ツールを操作できます。マウスを使って実行できる操作は、キーまたはキーの組み合わせによっても実行できます。標準のオペレーティング・システム・キー・ストロークを使用して、標準のオペレーティング・システム操作を実行できます。

キーまたはキーの組み合わせによって操作を実行する方法について、詳しくは キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help を参照してください。

キーボード・ナビゲーション

キーまたはキーの組み合わせを使用して、DB2 ツールのユーザー・インターフェースをナビゲートできます。

キーまたはキーの組み合わせによって DB2 ツールをナビゲートする方法の詳細については、キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help を参照してください。

キーボード・フォーカス

UNIX® オペレーティング・システムでは、アクティブ・ウィンドウの中で、キー・ストロークによって操作できる領域が強調表示されます。

アクセスしやすい表示

DB2 ツールには、視力の弱いユーザー、その他の視力障害をもつユーザーのためにアクセシビリティを向上させる機能が備わっています。これらのアクセシビリティ拡張機能には、フォント・プロパティのカスタマイズを可能にする機能も含まれています。

フォントの設定

「ツール設定」ノートブックを使用して、メニューおよびダイアログ・ウィンドウに使用されるテキストの色、サイズ、およびフォントを選択できます。

フォント設定に関する詳細情報は、メニューおよびテキストのフォントを変更する: Common GUI help を参照してください。

色に依存しない

本製品のすべての機能を使用するために、ユーザーは必ずしも色を識別する必要はありません。

支援テクノロジーとの互換性

DB2 ツールのインターフェースは、Java Accessibility API をサポートします。これによって、スクリーン・リーダーその他の支援テクノロジーを DB2 製品で利用できるようになります。

アクセスしやすい資料

DB2 形式は、ほとんどの Web ブラウザーで表示可能な XHTML 1.0 形式で提供されています。XHTML により、ご使用のブラウザーに設定されている表示設定に従って資料を表示できます。さらに、スクリーン・リーダーや他の支援テクノロジーを使用することもできます。

シンタックス・ダイアグラムはドット 10 進形式で提供されます。この形式は、スクリーン・リーダーを使用してオンライン・ドキュメンテーションにアクセスする場合にのみ使用できます。

関連概念:

- 683 ページの『ドット 10 進シンタックス・ダイアグラム』

関連タスク:

- 『キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help』
- 『メニューおよびテキストのフォントを変更する: Common GUI help』

ドット 10 進シンタックス・ダイアグラム

スクリーン・リーダーを使用してインフォメーション・センターを利用するユーザーのために、シンタックス・ダイアグラムがドット 10 進形式で提供されます。

ドット 10 進形式では、各シンタックス・エレメントは別々の行に書き込まれます。複数のシンタックス・エレメントが常に同時に存在する (または常に同時に不在の) 場合、単一のコンパウンド・シンタックス・エレメントとみなせるので同一行に表示できます。

各行は、ドット 10 進数で開始します。たとえば、3 または 3.1 ないしは 3.1.1 です。こうした数を適切に聞き取るには、スクリーン・リーダーが句読点を読み取るように設定されていることを確認してください。同じドット 10 進数を持つすべてのシンタックス・エレメント (たとえば、3.1 という数値を持つすべてのシンタックス・エレメント) は、相互に排他的な代替エレメントです。3.1 USERID および 3.1 SYSTEMID という行を聞き取る場合、シンタックスには両方ではなく USERID または SYSTEMID のどちらかが含まれることが分かります。

ドット 10 進レベルは、ネストのレベルを表示します。たとえば、ドット 10 進数 3 のシンタックス・エレメントの後に、一連のドット 10 進数 3.1 のシンタックス・エレメントが続きます。3.1 の番号が付されたシンタックス・エレメントすべては、番号 3 の付されたシンタックス・エレメントに従属します。

シンタックス・エレメントに関する情報を追加するため、ドット 10 進数の次に特定のワードおよびシンボルが使用されます。時折、こうしたワードおよびシンボルはエレメントの最初に表示される場合もあります。簡単に識別するため、ワードやシンボルがシンタックス・エレメントの一部である場合には、円記号 (¥) 文字が先頭に付きます。* シンボルはドット 10 進数の次に使用でき、シンタックス・エレメントが反復することを示します。たとえば、ドット 10 進数 3 のシンタックス・エレメント *FILE は、3 ¥* FILE という形式になります。3* FILE という形式は、シンタックス・エレメント FILE が反復されることを示します。3* ¥* FILE という形式は、シンタックス・エレメント * FILE が反復されることを示します。

シンタックス・エレメントのストリングを分離するのに使用されるコンマなどの文字は、シンタックス内の分離する項目の直前に表示されます。こうした文字は、それぞれの項目と同一行に表示するか、同じドット 10 進数を持つ関連する項目のある別の行に表示できます。またその行には、シンタックス・エレメントに関する情報を提供する別のシンボルを表示することも可能です。たとえば、複数の LASTRUN および DELETE シンタックス・エレメントを使用している場合には、5.1*、5.1 LASTRUN、および 5.1 DELETE という行は、エレメントをコンマで区切る必要があります。区切り文字が指定されないと、各シンタックス・エレメントを区切るのにブランクが使用されると想定されます。

シンタックス・エレメントの前に % シンボルが付く場合、他の箇所で定義されている参照であることを示します。% シンボルの後のストリングは、リテラルではなくシンタックス・フラグメントの名前です。たとえば、2.1 %OP1 という行は別のシンタックス・フラグメント OP1 を参照すべきことを意味します。

以下のワードおよびシンボルが、ドット 10 進数の次に使用されます。

- ? は、オプションのシンタックス・エレメントであることを表します。? シンボルが後に続くドット 10 進数は、対応するドット 10 進数のシンタックス・エレメント、および任意の従属のシンタックス・エレメントがオプションであることを示します。ドット 10 進数の付いたシンタックス・エレメントが 1 つしかない場合、? シンボルはそのシンタックス・エレメントと同じ行に表示されます (たとえば、5? NOTIFY)。ドット 10 進数の付いたシンタックス・エレメントが複数ある場合、? シンボルだけで行に表示され、その後にオプションのシンタックス・エレメントが続きます。たとえば、「5 ?, 5 NOTIFY、および 5 UPDATE」という行を聞き取る場合、シンタックス・エレメント NOTIFY および UPDATE がオプションである、つまりそのいずれかを選択でき、どちらも選択しないこともできることが分かります。? シンボルは、線路型ダイアグラムのバイパス線に相当します。
- ! は、デフォルトのシンタックス・エレメントであることを表します。! シンボルおよびシンタックス・エレメントが後に続くドット 10 進数は、そのシンタックス・エレメントが、同じドット 10 進数を共有するシンタックス・エレメントすべてのデフォルト・オプションであることを示します。同じドット 10 進数を共有するシンタックス・エレメントのうち 1 つだけに、! シンボルを指定できます。たとえば、「2? FILE、2.1! (KEEP)、および 2.1 (DELETE)」という行を聞き取る場合、FILE キーワードのデフォルト・オプションは (KEEP) になります。この例では、FILE キーワードを含めてもオプションを指定しない場合には、デフォルト・オプション KEEP が適用されます。デフォルト・オプションは、次に高位のドット 10 進数にも適用されます。この例の場合、FILE キーワードが省略されると、デフォルトの FILE(KEEP) が使用されます。しかし、「2? FILE、2.1、2.1.1! (KEEP)、および 2.1.1 (DELETE)」という行を聞き取る場合、デフォルト・オプション KEEP は次に高位のドット 10 進数 2.1 (関連キーワードを持っていない) にのみ適用され、2? FILE には適用されません。キーワード FILE が省略されると、どれも使用されません。
- * は、0 回以上反復できるシンタックス・エレメントを示します。* シンボルが後に続くドット 10 進数は、このシンタックス・エレメントが 0 回以上使用できること、つまりオプションであり、なおかつ反復できることを表します。たとえば、5.1* データ域という行を聞き取る場合、1 つまたは複数のデータ域を含めるか、またはデータ域を全く含めないことが可能です。「3*, 3 HOST、および 3 STATE」という行を聞き取る場合、HOST、STATE をどちらか一方または両方同時に含めるか、どちらも含めないことができます。

注:

1. ドット 10 進数の後にアスタリスク (*) が付き、ドット 10 進数の付いた項目が 1 つしかない場合には、同じ項目を複数回反復できます。
 2. ドット 10 進数の後にアスタリスクが付き、ドット 10 進数の付いた項目が複数ある場合、リストから複数の項目を使用できますが、各項目を複数回使用することはできません。前述の例では、HOST STATE と書くことはできますが、HOST HOST とは書けません。
 3. * シンボルは、線路型シンタックス・ダイアグラムのループバック線に相当します。
- + は、1 回以上含める必要のあるシンタックス・エレメントであることを示します。+ シンボルが後に続くドット 10 進数は、このシンタックス・エレメントを 1 回以上含める必要があること、つまり少なくとも 1 回は含める必要があり、反

復できることを表します。たとえば、「6.1+ データ域」という行を聞き取る場合、データ域を少なくとも 1 回は含めなければなりません。「2+, 2 HOST、および 2 STATE」という行を聞き取る場合には、HOST、STATE、またはその両方を含める必要があります。* シンボルと同様に、+ シンボルは、ドット 10 進数の付いた項目が 1 つしかない場合に限り、その特定の項目のみを反復できます。* シンボルと同様に、+ シンボルは線路型シンタックス・ダイアグラムのループバック線に相当します。

関連概念:

- 681 ページの『アクセス支援』

関連タスク:

- 『キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help』

関連資料:

- 「SQL リファレンス 第 2 巻」の『構文図の見方』

DB2 Universal Database 製品の共通基準認証

DB2 Universal Database は、Common Criteria の評価検定レベル 4 (EAL4) で認証の評価を受けています。Common Criteria の詳細については、以下の Common Criteria の Web サイトを参照してください。 <http://niap.nist.gov/cc-scheme/>

付録 C. 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム(本プログラムを含む)との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Limited
Office of the Lab Director
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
CANADA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

ACF/VTAM	iSeries
AISPO	LAN Distance
AIX	MVS
AIXwindows	MVS/ESA
AnyNet	MVS/XA
APPN	Net.Data
AS/400	NetView
BookManager	OS/390
C Set++	OS/400
C/370	PowerPC
CICS	pSeries
Database 2	QBIC
DataHub	QMF
DataJoiner	RACF
DataPropagator	RISC System/6000
DataRefresher	RS/6000
DB2	S/370
DB2 Connect	SP
DB2 Extenders	SQL/400
DB2 OLAP Server	SQL/DS
DB2 Information Integrator	System/370
DB2 Query Patroller	System/390
DB2 Universal Database	SystemView
Distributed Relational Database Architecture	Tivoli
DRDA	VisualAge
eServer	VM/ESA
Extended Services	VSE/ESA
FFST	VTAM
First Failure Support Technology	WebExplorer
IBM	WebSphere
IMS	WIN-OS/2
IMS/ESA	z/OS
	zSeries

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。
他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセシビリティ
機能 681
ドット 10 進シンタックス・ダイアグラム 683
アクセス、ヘルプへの 1
印刷
PDF ファイル 675
印刷資料、注文 676
インストール
インフォメーション・センター 658, 660, 663
インフォメーション・センター
インストール 658, 660, 663
オンライン
ヘルプへのアクセス 677

[カ行]

概要、メッセージの 1
キーボード・ショートカット
サポート 681
検索
DB2 資料 656
更新
DB2 インフォメーション・センター 667
コマンド・ヘルプ
呼び出し 678

[サ行]

身体障害 681
その他のメッセージ・ソース 3

[タ行]

チュートリアル 679
トラブルシューティングと問題判別 680
ドット 10 進シンタックス・ダイアグラム 683

トラブルシューティング
オンライン情報 680
チュートリアル 680

[ハ行]

文書
表示 666
ヘルプ
コマンドの 678
表示 666, 668
メッセージの 678
SQL ステートメントの 679

[マ行]

メッセージ 1, 37
ADM 3, 5
AMI 35
AUD 3
CCA 183
CLI 193
DB2 337
DBA 205
DBI 273
DBT 325
DIA 3
DLFM 375
DQP 395
DWC 415
GOV 3
GSE 531
ICC 583
MQL 607
Query Patroller 395
SAT 611
SPM 621

メッセージ、概要 1
メッセージ構造 1
メッセージ接頭部 1
メッセージ接尾部 1
メッセージ・ヘルプ 1
呼び出し 678

問題判別
オンライン情報 680
チュートリアル 680

[ヤ行]

呼び出し
コマンド・ヘルプ 678
メッセージ・ヘルプ 678
SQL ステートメント・ヘルプ 679

[ラ行]

レプリケーション・メッセージ 37

A

ADM メッセージ 3
ASN メッセージ 37
AUD メッセージ 3

D

DB2 インフォメーション・センター 656
更新 667
異なる言語で表示 668
呼び出し 666
DB2 資料
PDF ファイルの印刷 675
DB2 資料の注文 676
DB2 チュートリアル 679
DIA メッセージ 3

G

GOV メッセージ 3

S

SQL ステートメント・ヘルプ
呼び出し 679

IBM と連絡をとる

技術上の問題がある場合は、お客様サポートにご連絡ください。

製品情報

DB2 Universal Database 製品に関する情報は、
<http://www.ibm.com/software/data/db2/udb> から入手できます。

このサイトには、技術ライブラリー、資料の注文方法、製品のダウンロード、ニュースグループ、フィックスパック、ニュース、および Web リソースへのリンクに関する最新情報が掲載されています。

米国以外の国で IBM に連絡する方法については、IBM Worldwide ページ (www.ibm.com/planetwide) にアクセスしてください。



Printed in Japan

GC88-9152-01



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12